User's Manual

32

V850ES/JJ3

ユーザーズマニュアル　ハードウエア編

ルネサスマイクロコンピュータ
V850ES/JJ3 マイクロコントローラ

μPD70F3743
μPD70F3744
μPD70F3745
μPD70F3746

本資料に記載の全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス エレクトロニクスは、
予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。
ルネサス エレクトロニクスのホームページなどにより公開される最新情報をご確認ください。

ルネサス エレクトロニクス
www.renesas.com

Rev.4.00　2010.07

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したものですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。

   標準水準：　コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット

   高品質水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）

   特定水準：　航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

CMOSデバイスの一般的注意事項

(1) 入力端子の印加波形：入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOSデバイスの入力がノイズなどに起因して，V_{IL}（MAX.）からV_{IH}（MIN.）までの領域にとどまるような場合は，誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定な場合はもちろん，V_{IL}（MAX.）からV_{IH}（MIN.）までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズ等が入らないようご使用ください。

(2) 未使用入力の処理：CMOSデバイスの未使用端子の入力レベルは固定してください。未使用端子入力については，CMOSデバイスの入力に何も接続しない状態で動作させるのではなく，プルアップかプルダウンによって入力レベルを固定してください。また，未使用の入出力端子が出力となる可能性（タイミングは規定しません）を考慮すると，個別に抵抗を介してV_{DD}またはGNDに接続することが有効です。資料中に「未使用端子の処理」について記載のある製品については，その内容を守ってください。

(3) 静電気対策：MOSデバイス取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。MOSデバイスは強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には，当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジン・ケース，または導電性の緩衝材，金属ケースなどを利用し，組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり，端子を触ったりしないでください。また，MOSデバイスを実装したボードについても同様の扱いをしてください。

(4) 初期化以前の状態　電源投入時，MOSデバイスの初期状態は不定です。電源投入時の端子の出力状態や入出力設定，レジスタ内容などは保証しておりません。ただし，リセット動作やモード設定で定義している項目については，これらの動作ののちに保証の対象となります。リセット機能を持つデバイスの電源投入後は，まずリセット動作を実行してください。

(5) 電源投入切断順序　内部動作および外部インタフェースで異なる電源を使用するデバイスの場合，原則として内部電源を投入した後に外部電源を投入してください。切断の際には，原則として外部電源を切断した後に内部電源を切断してください。逆の電源投入切断順により，内部素子に過電圧が印加され，誤動作を引き起こしたり，異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源投入切断シーケンス」についての記載のある製品については，その内容を守ってください。

(6) 電源OFF時における入力信号　当該デバイスの電源がOFF状態の時に，入力信号や入出力プルアップ電源を入れないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により，誤動作を引き起こしたり，異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源OFF時における入力信号」についての記載のある製品については，その内容を守ってください。

このマニュアルの使い方

対 象 者　このマニュアルは，V850ES/JJ3の機能を理解し，それを用いた応用システムを設計するユーザを対象とします。

目　　的　このマニュアルは，次の構成に示すハードウエア機能をユーザに理解していただくことを目的としています。

構　　成　V850ES/JJ3のユーザーズ・マニュアルは，ハードウエア編（このマニュアル）と，アーキテクチャ編（V850ES　ユーザーズ・マニュアル　アーキテクチャ編）の2冊に分かれています。

ハードウエア編	アーキテクチャ編
・端子機能	・データ・タイプ
・CPU機能	・レジスタ・セット
・内蔵周辺機能	・命令形式と命令セット
・フラッシュ・メモリ・プログラミング	・割り込みと例外
・電気的特性	・パイプラインの動作

読 み 方　このマニュアルの読者には，電気，論理回路，およびマイクロコンピュータに関する一般知識を必要とします。

一通りV850ES/JJ3の機能を理解しようとするとき
　→目次に従ってお読みください。

レジスタ名がわかっていて，レジスタの詳細を確認するとき
　→付録C　レジスタ索引を利用してください。

レジスタ・フォーマットの見方
　→ビット番号を○で囲んでいるものは，そのビット名称がデバイス・ファイルで予約語に定義されているものです。

命令機能の詳細を理解しようとするとき
　→別冊のV850ES　ユーザーズ・マニュアル　アーキテクチャ編を参照してください。

V850ES/JJ3の電気的特性を知りたいとき
　→第29章　電気的特性を参照してください。

このマニュアルでは，「xxxレジスタのyyyビット」を「xxx.yyyビット」と表記しています。ただし，プログラムにそのまま「xxx.yyy」と記述しても，コンパイラ／アセンブラは正しく認識できませんので，注意してください。

本文欄外の★印は，本版で改訂された主な箇所を示しています。
この“★”をPDF上でコピーして「検索する文字列」に指定することによって，改版箇所を容易に検索できます。

凡　例　データ表記の重み：左が上位桁，右が下位桁
アクティブ・ロウの表記：$\overline{\text{xxx}}$（端子，信号名称に上線）
メモリ・マップのアドレス：上部－上位，下部－下位
注　：本文中に付けた注の説明
注意：気を付けて読んでいただきたい内容
備考：本文の補足説明
数の表記：2進数　…　xxxxまたはxxxxB
10進数　…　xxxx
16進数　…　xxxxH
2のべき数を示す接頭語（アドレス空間，メモリ容量）：
K（キロ）：$2^{10} = 1024$
M（メガ）：$2^{20} = 1024^2$
G（ギガ）：$2^{30} = 1024^3$

関連資料　関連資料は暫定版の場合がありますが，この資料では「暫定」の表示をしておりません。あらかじめご了承ください。

V850ES/JJ3に関する資料

資　料　名	資料番号
V850ES　ユーザーズ・マニュアル　アーキテクチャ編	U15943J
V850ES/JJ3　ユーザーズ・マニュアル　ハードウエア編	このマニュアル

開発ツールに関する資料（ユーザーズ・マニュアル）　（1/2）

資　料　名		資料番号
QB-V850ESSX2　インサーキット・エミュレータ		U17091J
QB-V850MINI　オンチップ・デバッグ・エミュレータ		U17638J
QB-MINI2　プログラミング機能付きオンチップ・デバッグ・エミュレータ		U18371J
CA850　Ver.3.00　Cコンパイラ・パッケージ	操作編	U17293J
	C言語編	U17291J
	アセンブリー言語編	U17292J
	リンク・ディレクティブ編	U17294J
PM+　Ver.6.20　プロジェクト・マネージャ		U17990J
ID850QB　Ver.3.20　統合デバッガ	操作編	U17964J
SM850　Ver.2.50　システム・シミュレータ	操作編	U16218J
SM850　Ver.2.00以上　システム・シミュレータ	外部部品ユーザ・オープン・インタフェース仕様編	U14873J
SM+　システム・シミュレータ	操作編	U17246J
	ユーザ・オープン・インタフェース編	U17247J

開発ツールに関する資料（ユーザーズ・マニュアル） （2/2）

資　料　名		資料番号
RX850　Ver.3.20　リアルタイムOS	基礎編	U13430J
	インストレーション編	U17419J
	テクニカル編	U13431J
	タスク・デバッガ編	U17420J
RX850 Pro　Ver.3.20　リアルタイムOS	基礎編	U13773J
	インストレーション編	U17421J
	テクニカル編	U13772J
	タスク・デバッガ編	U17422J
AZ850　Ver.3.30　システム・パフォーマンス・アナライザ		U17423J
PG-FP4　フラッシュ・メモリ・プログラマ		U15260J

注意：本製品は，Silicon Storage Technology, Inc.**からライセンスを受けた**SuperFlash®**を使用しています。**

EEPROM, IECUBE, MINICUBE**はルネサス エレクトロニクス株式会社の登録商標です。**

Windows, Windows XP**および**Windows NT**は，米国**Microsoft Corporation**の米国およびその他の国における登録商標または商標です。**

SuperFlash**は，米国**Silicon Storage Technology, Inc.**の米国，日本などの国における登録商標です。**

PC/AT**は，米国**IBM**社の商標です。**

SPARCstation**は，米国**SPARC International, Inc.**の商標です。**

Solaris, SunOS**は，米国サン・マイクロシステムズ社の商標です。**

TRON**は**The Realtime Operating System Nucleus**の略称です。**

ITRON**は**Industrial TRON**の略称です。**

目　　次

第1章　イントロダクション 1
1. 1　概　　説 1
1. 2　特　　徴 3
1. 3　応用分野 4
1. 4　オーダ情報 4
1. 5　端子接続図（Top View） 5
1. 6　機能ブロック構成 7
1. 6. 1　内部ブロック図 7
1. 6. 2　内部ユニット 8

第2章　端子機能 11

2. 1　端子機能一覧 11
2. 2　端子状態 22
2. 3　端子の入出力回路タイプ，入出力バッファ電源と未使用時の処理 23
2. 4　注意事項 27

第3章　CPU機能 28

3. 1　特　　徴 28
3. 2　CPUレジスタ・セット 29
3. 2. 1　プログラム・レジスタ・セット 30
3. 2. 2　システム・レジスタ・セット 31
3. 3　動作モード 37
3. 3. 1　動作モード指定 37
3. 4　アドレス空間 38
3. 4. 1　CPUアドレス空間 38
3. 4. 2　CPUアドレス空間のラップ・アラウンド 39
3. 4. 3　メモリ・マップ 40
3. 4. 4　領　　域 42
3. 4. 5　アドレス空間の推奨使用方法 47
3. 4. 6　周辺I/Oレジスタ 50
3. 4. 7　特定レジスタ 62
3. 4. 8　注意事項 66

第4章　ポート機能 69

4. 1　特　　徴 71
4. 2　ポートの基本構成 71
4. 3　ポートの構成 72
4. 3. 1　ポート0 77
4. 3. 2　ポート1 80
4. 3. 3　ポート3 81
4. 3. 4　ポート4 87
4. 3. 5　ポート5 90

4. 3. 6　ポート6 95
4. 3. 7　ポート7 99
4. 3. 8　ポート8 101
4. 3. 9　ポート9 103
4. 3. 10　ポートCD 111
4. 3. 11　ポートCM 112
4. 3. 12　ポートCS 114
4. 3. 13　ポートCT 116
4. 3. 14　ポートDH 118
4. 3. 15　ポートDL 120
4. 4　ブロック図 122
4. 5　兼用機能使用時のポートのレジスタ設定 153
4. 6　注意事項 162
4. 6. 1　ポート端子設定上の注意事項 162
4. 6. 2　ポートnレジスタ（Pn）に対するビット操作命令に関する注意事項 165
4. 6. 3　オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項 166
4. 6. 4　P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子に関する注意事項 166
4. 6. 5　P53端子に関する電源投入時の注意事項 166
4. 6. 6　ヒステリシス特性について 166

第5章　バス制御機能 167

5. 1　特　　徴 167
5. 2　バス制御端子 168
5. 2. 1　内蔵ROM，内蔵RAM，内蔵周辺I/Oアクセス時の端子状態 168
5. 2. 2　各動作モードの端子状態 168
5. 3　メモリ・ブロック機能 169
5. 4　外部バス・インタフェース・モード制御機能 170
5. 5　バス・アクセス 171
5. 5. 1　アクセス・クロック数 171
5. 5. 2　バス・サイズ設定機能 171
5. 5. 3　バス・サイズによるアクセス 172
5. 6　ウエイト機能 179
5. 6. 1　プログラマブル・ウエイト機能 179
5. 6. 2　外部ウエイト機能 180
5. 6. 3　プログラマブル・ウエイトと外部ウエイトの関係 181
5. 6. 4　プログラマブル・アドレス・ウエイト機能 182
5. 7　アイドル・ステート挿入機能 183
5. 8　バス・ホールド機能 184
5. 8. 1　機能概要 184
5. 8. 2　バス・ホールド手順 185
5. 8. 3　パワー・セーブ・モード時の動作 185
5. 9　バスの優先順位 186
5. 10　バス・タイミング 187

第6章　クロック発生機能 193

6. 1　概　　要 193
6. 2　構　　成 194
6. 3　レジスタ 196
6. 4　動　　作 201

6. 4. 1　各クロックの動作 201
6. 4. 2　クロック出力機能 201
6. 5　PLL機能 202
6. 5. 1　概　　要 202
6. 5. 2　レジスタ 202
6. 5. 3　使用方法 206

第7章　16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP） 207

7. 1　概　　要 207
7. 2　機　　能 207
7. 3　構　　成 208
7. 4　レジスタ 210
7. 5　動　　作 222
7. 5. 1　インターバル・タイマ・モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 000） 223
7. 5. 2　外部イベント・カウント・モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 001） 233
7. 5. 3　外部トリガ・パルス出力モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 010） 241
7. 5. 4　ワンショット・パルス出力モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 011） 253
7. 5. 5　PWM出力モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 100） 260
7. 5. 6　フリー・ランニング・タイマ・モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 101） 269
7. 5. 7　パルス幅測定モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 110） 286
7. 5. 8　タイマ出力動作説明 292
7. 6　セレクタ機能 293
7. 7　注意事項 295

第8章　16ビット・タイマ／イベント・カウンタQ（TMQ） 296

8. 1　概　　要 296
8. 2　機　　能 296
8. 3　構　　成 297
8. 4　レジスタ 300
8. 5　動　　作 316
8. 5. 1　インターバル・タイマ・モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 000） 317
8. 5. 2　外部イベント・カウント・モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 001） 326
8. 5. 3　外部トリガ・パルス出力モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 010） 335
8. 5. 4　ワンショット・パルス出力モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 011） 348
8. 5. 5　PWM出力モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 100） 357
8. 5. 6　フリー・ランニング・タイマ・モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 101） 368
8. 5. 7　パルス幅測定モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 110） 388
8. 5. 8　タイマ出力動作説明 394
8. 6　注意事項 395

第9章　16ビット・インターバル・タイマM（TMM） 396

9. 1　概　　要 396
9. 2　構　　成 397
9. 3　レジスタ 399
9. 4　動　　作 400
9. 4. 1　インターバル・タイマ・モード 400
9. 4. 2　注意事項 404

第10章　時計タイマ機能 405

10. 1　機　　能 405
10. 2　構　　成 406
10. 3　レジスタ 408
10. 4　動　　作 412
10. 4. 1　時計タイマとしての動作 412
10. 4. 2　インターバル・タイマとしての動作 413
10. 4. 3　注意事項 414

第11章　ウォッチドッグ・タイマ2機能 415

11. 1　機　　能 415
11. 2　構　　成 416
11. 3　レジスタ 417
11. 4　動　　作 419

第12章　リアルタイム出力機能（RTO） 420

12. 1　機　　能 420
12. 2　構　　成 421
12. 3　レジスタ 423
12. 4　動　　作 425
12. 5　使用方法 426
12. 6　注意事項 426

第13章　A/Dコンバータ 427

13. 1　概　　要 427
13. 2　機　　能 427
13. 3　構　　成 428
13. 4　レジスタ 431
13. 5　動　　作 442
13. 5. 1　基本動作 442
13. 5. 2　変換動作タイミング 443
13. 5. 3　トリガ・モード 444
13. 5. 4　動作モード 446
13. 5. 5　パワー・フェイル比較モード 450
13. 6　注意事項 455
13. 7　A/Dコンバータ特性表の読み方 459

第14章　D/Aコンバータ 463

14. 1　機　　能 463
14. 2　構　　成 463
14. 3　レジスタ 464
14. 4　動　　作 466
14. 4. 1　通常モード時の動作 466
14. 4. 2　リアルタイム出力モード時の動作 466
14. 4. 3　使用上の注意点 467

第15章　アシンクロナス・シリアル・インタフェースA（UARTA） 468

15. 1　UARTAとほかのシリアル・インタフェースのモード切り替え 468
15. 1. 1　CSIB4とUARTA0のモード切り替え 468
15. 1. 2　UARTA2とI^{2}C00のモード切り替え 469
15. 1. 3　UARTA1とI^{2}C02のモード切り替え 470
15. 2　特　　徴 471
15. 3　構　　成 472
15. 4　レジスタ 474
15. 5　割り込み要求信号 480
15. 6　動　　作 481
15. 6. 1　データ・フォーマット 481
15. 6. 2　SBF送信／受信フォーマット 483
15. 6. 3　SBF送信 485
15. 6. 4　SBF受信 486
15. 6. 5　UART送信 487
15. 6. 6　連続送信の手順説明 488
15. 6. 7　UART受信 490
15. 6. 8　受信エラー 492
15. 6. 9　パリティの種類と動作 494
15. 6. 10　受信データのノイズ・フィルタ 495
15. 7　専用ボー・レート・ジェネレータ 496
15. 8　注意事項 504

第16章　3線式可変長シリアルI/O（CSIB） 505

16. 1　CSIBとほかのシリアル・インタフェースのモード切り替え 505
16. 1. 1　CSIB4とUARTA0のモード切り替え 505
16. 1. 2　CSIB0とI^{2}C01のモード切り替え 506
16. 2　特　　徴 507
16. 3　構　　成 508
16. 4　レジスタ 510
16. 5　割り込み要求信号 517
16. 6　動　　作 518
16. 6. 1　シングル転送モード（マスタ・モード，送信モード） 518
16. 6. 2　シングル転送モード（マスタ・モード，受信モード） 520
16. 6. 3　シングル転送モード（マスタ・モード，送受信モード） 522
16. 6. 4　シングル転送モード（スレーブ・モード，送信モード） 524
16. 6. 5　シングル転送モード（スレーブ・モード，受信モード） 526
16. 6. 6　シングル転送モード（スレーブ・モード，送受信モード） 528
16. 6. 7　連続転送モード（マスタ・モード，送信モード） 530
16. 6. 8　連続転送モード（マスタ・モード，受信モード） 532
16. 6. 9　連続転送モード（マスタ・モード，送受信モード） 535
16. 6. 10　連続転送モード（スレーブ・モード，送信モード） 539
16. 6. 11　連続転送モード（スレーブ・モード，受信モード） 541
16. 6. 12　連続転送モード（スレーブ・モード，送受信モード） 544
16. 6. 13　受信エラー 548
16. 6. 14　クロック・タイミング 549
16. 7　出力端子 551
16. 8　ボー・レート・ジェネレータ 552

16. 8. 1　ボー・レートの生成 553
16. 9　注意事項 554

第17章　I²Cバス 555

17. 1　I²Cバスとほかのシリアル・インタフェースのモード切り替え 555
17. 1. 1　UARTA2とI²C00のモード切り替え 555
17. 1. 2　CSIB0とI²C01のモード切り替え 556
17. 1. 3　UARTA1とI²C02のモード切り替え 557
17. 2　特　　徴 558
17. 3　構　　成 559
17. 4　レジスタ 563
17. 5　I²Cバス・モードの機能 579
17. 5. 1　端子構成 579
17. 6　I²Cバスの定義および制御方法 580
17. 6. 1　スタート・コンディション 581
17. 6. 2　アドレス 582
17. 6. 3　転送方向指定 583
17. 6. 4　アクノリッジ（$\overline{\text{ACK}}$） 584
17. 6. 5　ストップ・コンディション 585
17. 6. 6　ウエイト 586
17. 6. 7　ウエイト解除方法 588
17. 7　I²C割り込み要求信号（INTIICn） 589
17. 7. 1　マスタ動作 589
17. 7. 2　スレーブ動作（スレーブ・アドレス・データ受信時（アドレス一致）） 592
17. 7. 3　スレーブ動作（拡張コード受信時） 596
17. 7. 4　通信不参加の動作 600
17. 7. 5　アービトレーション負けの動作（アービトレーション負けのあと，スレーブとして動作） 601
17. 7. 6　アービトレーション負けの動作（アービトレーション負けのあと，不参加） 603
17. 8　割り込み要求信号（INTIICn）発生タイミングおよびウエイト制御 610
17. 9　アドレスの一致検出方法 612
17. 10　エラーの検出 612
17. 11　拡張コード 612
17. 12　アービトレーション 613
17. 13　ウエイク・アップ機能 614
17. 14　通信予約 615
17. 14. 1　通信予約機能許可の場合（IICFn.IICRSVnビット = 0） 615
17. 14. 2　通信予約機能禁止の場合（IICFn.IICRSVnビット = 1） 619
17. 15　注意事項 620
17. 16　通信動作 621
17. 16. 1　シングルマスタ・システムでのマスタ動作 622
17. 16. 2　マルチマスタ・システムでのマスタ動作 623
17. 16. 3　スレーブ動作 626
17. 17　データ通信のタイミング 630

第18章　DMA機能（DMAコントローラ） 637

18. 1　特　　徴 637
18. 2　構　　成 638
18. 3　レジスタ 639

18. 4　転送対象 647
18. 5　転送モード 647
18. 6　転送タイプ 648
18. 7　DMAチャネルの優先順位 649
18. 8　DMA転送に関する各種時間 649
18. 9　DMA転送起動要因 650
18. 10　DMAの中断要因 651
18. 11　DMA転送の終了 651
18. 12　動作タイミング 651
18. 13　注意事項 656

第19章　割り込み／例外処理機能 661

19. 1　特　　徴 661
19. 2　ノンマスカブル割り込み 666
19. 2. 1　動　　作 669
19. 2. 2　復　　帰 670
19. 2. 3　NPフラグ 671
19. 3　マスカブル割り込み 672
19. 3. 1　動　　作 672
19. 3. 2　復　　帰 674
19. 3. 3　マスカブル割り込みの優先順位 675
19. 3. 4　割り込み制御レジスタ（xxICn） 679
19. 3. 5　割り込みマスク・レジスタ0-4（IMR0-IMR4） 682
19. 3. 6　インサービス・プライオリティ・レジスタ（ISPR） 684
19. 3. 7　IDフラグ 685
19. 3. 8　ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2（WDTM2） 685
19. 4　ソフトウエア例外 686
19. 4. 1　動　　作 686
19. 4. 2　復　　帰 687
19. 4. 3　EPフラグ 688
19. 5　例外トラップ 689
19. 5. 1　不正命令コード 689
19. 5. 2　デバッグ・トラップ 691
19. 6　外部割り込み要求入力端子（NMI, INTP0-INTP8） 693
19. 6. 1　ノイズ除去 693
19. 6. 2　エッジ検出 693
19. 7　CPUの割り込み応答時間 699
19. 8　CPUが割り込みを受け付けない期間 700
19. 9　注意事項 700

第20章　キー割り込み機能 701

20. 1　機　　能 701
20. 2　レジスタ 702
20. 3　注意事項 702

第21章　スタンバイ機能 703

21. 1　概　　要 703
21. 2　レジスタ 705

21. 3　HALTモード 708
21. 3. 1　設定および動作状態 708
21. 3. 2　HALTモードの解除 708
21. 4　IDLE1モード 710
21. 4. 1　設定および動作状態 710
21. 4. 2　IDLE1モードの解除 710
21. 5　IDLE2モード 712
21. 5. 1　設定および動作状態 712
21. 5. 2　IDLE2モードの解除 712
21. 5. 3　IDLE2モード解除時のセットアップ時間の確保 714
21. 6　STOPモード 715
21. 6. 1　設定および動作状態 715
21. 6. 2　STOPモードの解除 715
21. 6. 3　STOPモード解除時の発振安定時間の確保 718
21. 7　サブクロック動作モード 719
21. 7. 1　設定および動作状態 719
21. 7. 2　サブクロック動作モードの解除 719
21. 8　サブIDLEモード 721
21. 8. 1　設定および動作状態 721
21. 8. 2　サブIDLEモードの解除 721

第22章　リセット機能 723

22. 1　概　　要 723
22. 2　リセット要因を確認するレジスタ 724
22. 3　動　　作 725
22. 3. 1　$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット動作 725
22. 3. 2　ウォッチドッグ・タイマ2によるリセット動作 727
22. 3. 3　低電圧検出回路によるリセット動作 729
22. 3. 4　リセット解除後の動作 730
22. 3. 5　リセット機能の動作フロー 731

第23章　クロック・モニタ 732

23. 1　機　　能 732
23. 2　構　　成 733
23. 3　レジスタ 734
23. 4　動　　作 735

第24章　低電圧検出回路（LVI） 738

24. 1　機　　能 738
24. 2　構　　成 738
24. 3　レジスタ 739
24. 4　動　　作 741
24. 4. 1　内部リセット信号として使用する場合 741
24. 4. 2　割り込みとして使用する場合 742
24. 5　RAM保持電圧検出動作 743
24. 6　エミュレーション機能 744

第25章　CRC機能 745

25. 1　機　　能 745
25. 2　構　　成 745
25. 3　レジスタ 746
25. 4　動　　作 747
25. 5　使用方法 748

第26章　レギュレータ 750

26. 1　概　　要 750
26. 2　動　　作 751

第27章　フラッシュ・メモリ 752

27. 1　特　　徴 752
27. 2　メモリ構成 753
27. 3　機能概要 755
27. 4　専用フラッシュ・ライタでの書き換え 759
27. 4. 1　プログラミング環境 759
27. 4. 2　通信方式 760
27. 4. 3　フラッシュ・メモリ制御 766
27. 4. 4　通信方式の選択 767
27. 4. 5　通信コマンド 768
27. 4. 6　端子処理 769
27. 5　セルフ・プログラミングによる書き換え 773
27. 5. 1　概　　要 773
27. 5. 2　特　　徴 774
27. 5. 3　標準セルフ・プログラミング・フロー 775
27. 5. 4　フラッシュ関数一覧 776
27. 5. 5　端子処理 776
27. 5. 6　使用する内部資源 777

第28章　オンチップ・デバッグ機能 778

28. 1　DCUを使用する方法 779
28. 1. 1　接続回路例 779
28. 1. 2　インタフェース信号 780
28. 1. 3　マスク機能 781
28. 1. 4　レジスタ 782
28. 1. 5　動　　作 784
28. 1. 6　注意事項 785
28. 2　DCUを使用しない方法 786
28. 2. 1　接続回路例 786
28. 2. 2　マスク機能 787
28. 2. 3　ユーザ資源の確保 788
28. 2. 4　注意事項 795
28. 3　ROMセキュリティ機能 796
28. 3. 1　セキュリティID 796
28. 3. 2　設定方法 797

第29章　電気的特性 799

第30章　外　形　図 834

第31章　半田付け推奨条件 835

付録A　開発ツール 836

A. 1　ソフトウエア・パッケージ 838
A. 2　言語処理用ソフトウエア 838
A. 3　制御ソフトウエア 838
A. 4　デバッグ用ツール（ハードウエア） 839
A. 4. 1　IECUBE　QB-V850ESSX2を使用する場合 839
A. 4. 2　MINICUBE　QB-V850MINIを使用する場合 841
A. 4. 3　MINICUBE2　QB-MINI2を使用する場合 842
A. 5　デバッグ用ツール（ソフトウエア） 843
A. 6　組み込み用ソフトウエア 844
A. 7　フラッシュ・メモリ書き込み用ツール 844

付録B　V850ES/JJ3とV850ES/JJ2との主な違い 845

付録C　レジスタ索引 847

付録D　命令セット一覧 859

D. 1　凡　　例 859
D. 2　インストラクション・セット（アルファベット順） 862

付録E　注意事項一覧 868

第1章　イントロダクション

V850ES/JJ3は，ルネサス エレクトロニクスのリアルタイム制御向けシングルチップ・マイクロコントローラV850マイコンのロウ・パワー・シリーズの1製品です。

1. 1　概　　説

V850ES/JJ3は，V850ES CPUコアを使用し，ROM/RAM，タイマ／カウンタ，シリアル・インタフェース，A/Dコンバータ，D/Aコンバータなどの周辺機能を内蔵した32ビット・シングルチップ・マイクロコントローラです。

V850ES/JJ3は，高いリアルタイム応答性と1クロック・ピッチの基本命令に加え，ディジタル・サーボ制御の応用に最適な命令として，ハードウエア乗算器による乗算命令，飽和演算命令，ビット操作命令などを持っています。また，リアルタイム制御システムとして，低消費電力を必要とするホーム・オーディオ，プリンタ，情報家電などへの応用が，きわめて高いコスト・パフォーマンスで実現できます。

表1－1にV850ES/JJ3の製品一覧について示します。

表1ー1　V850ES/JJ3の製品一覧

品　名		μPD70F3743	μPD70F3744	μPD70F3745	μPD70F3746
内部メモリ	フラッシュ・メモリ	384 Kバイト	512 Kバイト	768 Kバイト	1024 Kバイト
	RAM	32 Kバイト	40 Kバイト	60 Kバイト	60 Kバイト
メモリ空間	論理空間	64 Mバイト			
	外部メモリ領域	16 Mバイト			
外部バス・インタフェース		アドレス・バス：24ビット データ・バス：8/16ビット マルチプレクス・バス・モード／セパレート・バス・モード チップ・セレクト信号：4本			
汎用レジスタ		32ビット×32レジスタ			
メイン・クロック（発振周波数）		セラミック／クリスタル （PLLモード時：f_X = 2.5～5 MHz（4逓倍）またはf_X = 2.5～4 MHz（8逓倍），クロック・スルー・モード時：f_X = 2.5～10 MHz）			
サブクロック（発振周波数）		クリスタル（f_{XT} = 32.768 kHz）			
内蔵発振器		f_R = 220 kHz（TYP.）			
最小命令実行時間		31.25 ns（メイン・クロック（f_{XX}）　= 32 MHz動作時）			
DSP機能		32×32 = 64：125-156.25 ns（32 MHz時） 32×32＋32 = 32：187.5 ns（32 MHz時） 16×16 = 32：31.25-62.5 ns（32 MHz時） 16×16＋32 = 32：93.75 ns（32 MHz時）			
I/Oポート		入出力：128本（5 Vトレラント／N-chオープン・ドレーン出力選択可能：60本）			
タイマ		16ビット・タイマ／イベント・カウンタP　：9チャネル 16ビット・タイマ／イベント・カウンタQ　：1チャネル 16ビット・インターバル・タイマM　：1チャネル 時計タイマ　：1チャネル ウォッチドッグ・タイマ　：1チャネル			
リアルタイム出力ポート		6ビット×2チャネル			
A/Dコンバータ		10ビット分解能×16チャネル			
D/Aコンバータ		8ビット分解能×2チャネル			
シリアル・インタフェース		UART　：1チャネル UART/CSI　：1チャネル UART/I^2Cバス　：2チャネル CSI　：4チャネル CSI/I^2Cバス　：1チャネル			
DMAコントローラ		4チャネル（転送対象：内蔵周辺I/O，内蔵RAM，外部メモリ）			
割り込み要因		外部：10（10）[注]，内部：61			
パワー・セーブ機能		HALT/IDLE1/IDLE2/STOP/サブクロック／サブIDLEモード			
リセット		$\overline{\text{RESET}}$端子入力，ウォッチドッグ・タイマ2（WDT2），クロック・モニタ（CLM），低電圧検出回路（LVI）			
DCU		あり（RUN／ブレーク）			
動作電源電圧		2.85～3.6 V			
動作周囲温度		－40～＋85℃			
パッケージ		144ピン・プラスチックLQFP（ファインピッチ）（20×20 mm）			

注　（　）内はSTOPモード解除可能な外部割り込み本数です。

1. 2　特　　徴

○最小命令実行時間　31.25 ns（メイン・クロック（fxx）= 32 MHz動作時）

○汎用レジスタ　32ビット×32本

○CPUの特徴　符号付き乗算（16×16→32）：1-2クロック）

符号付き乗算（32×32→64）：1-5クロック）

飽和演算（オーバフロー／アンダフロー検出機能付き）

32ビット・シフト命令：1クロック

ビット操作命令

ロング／ショート形式を持つロード／ストア命令

○メモリ空間　64 Mバイト・リニア・アドレス空間（プログラム／データ共用）

外部拡張：16 Mバイトまで可能

（このうち1 Mバイトは内部ROM/RAM空間として使用）

・内蔵メモリ　RAM　：32 K/40 K/60 Kバイト（表1ー1参照）

フラッシュ・メモリ：384 K/512 K/768 K/1024 Kバイト（表1ー1参照）

・外部バス・インタフェース

セパレート・バス／マルチプレクス・バス出力選択可能

8/16ビット・データ・バス・サイジング機能

ウエイト機能

・プログラマブル・ウエイト機能

・外部ウエイト機能

アイドル・ステート機能

バス・ホールド機能

○割り込み／例外

ノンマスカブル割り込み：2要因

マスカブル割り込み　：60要因

ソフトウエア例外　：32要因

例外トラップ　：2要因

○I/Oライン　入出力ポート：128

○タイマ機能

16ビット・インターバル・タイマM（TMM）　：1ch

16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP）：9ch

16ビット・タイマ／イベント・カウンタQ（TMQ）：1ch

時計用タイマ　：1ch

ウォッチドッグ・タイマ　：1ch

○リアルタイム出力ポート　6ビット×2ch

○シリアル・インタフェース

アシンクロナス・シリアル・インタフェースA（UARTA）

3線式可変長シリアル・インタフェースB（CSIB）

I^2Cバス・インタフェース（I^2C）

UARTA/CSIB	：1ch
UARTA/I^2C	：2ch
CSIB/I^2C	：1ch
CSIB	：4ch
UARTA	：1ch

○A/Dコンバータ　10ビット分解能：16ch

○D/Aコンバータ　8ビット分解能：2ch

○DMAコントローラ：4ch

○CRC機能　8ビット単位のデータに対して16ビットの誤り検出用コードを生成

○DCU（デバッグ・コントロール・ユニット）：JTAGインタフェース

○クロック・ジェネレータ　メイン・クロック／サブクロック動作

CPUクロック7段階（fxx, fxx/2, fxx/4, fxx/8, fxx/16, fxx/32, fxT）

クロック・スルー・モード／PLLモード選択可

○内蔵発振クロック：220 kHz（TYP.）

○パワー・セーブ機能　HALT/IDLE1/IDLE2/STOP／サブクロック／サブIDLEモード

○パッケージ　144ピン・プラスチックLQFP（ファインピッチ）（20×20）

1. 3　応用分野

ホーム・オーディオ，プリンタ，情報家電，その他民生機器

1. 4　オーダ情報

オーダ名称	パッケージ	内蔵フラッシュ・メモリ
μPD70F3743GJ-GAE-AX	144ピン・プラスチックLQFP（ファインピッチ）（20×20）	384 Kバイト
μPD70F3744GJ-GAE-AX	〃	512 Kバイト
μPD70F3745GJ-GAE-AX	〃	768 Kバイト
μPD70F3746GJ-GAE-AX	〃	1024 Kバイト

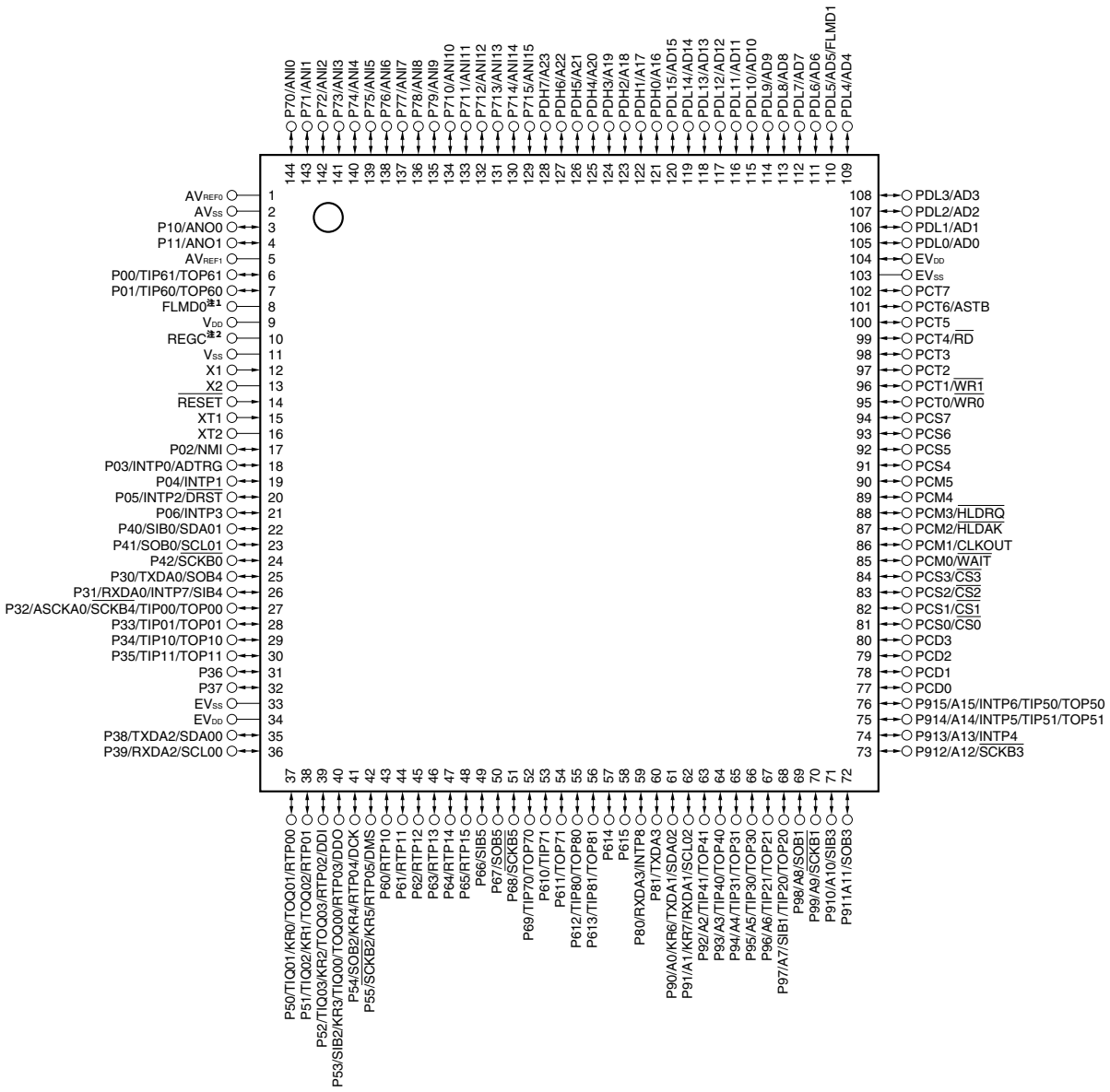
備考　V850ES/JJ3は，鉛フリー製品です。

1. 5　端子接続図（Top View）

144ピン・プラスチックLQFP（ファインピッチ）（20×20）

μPD70F3743GJ-GAE-AX　　μPD70F3744GJ-GAE-AX

μPD70F3745GJ-GAE-AX　　μPD70F3746GJ-GAE-AX



注1.　**通常モード時は**VSS**に接続してください。**

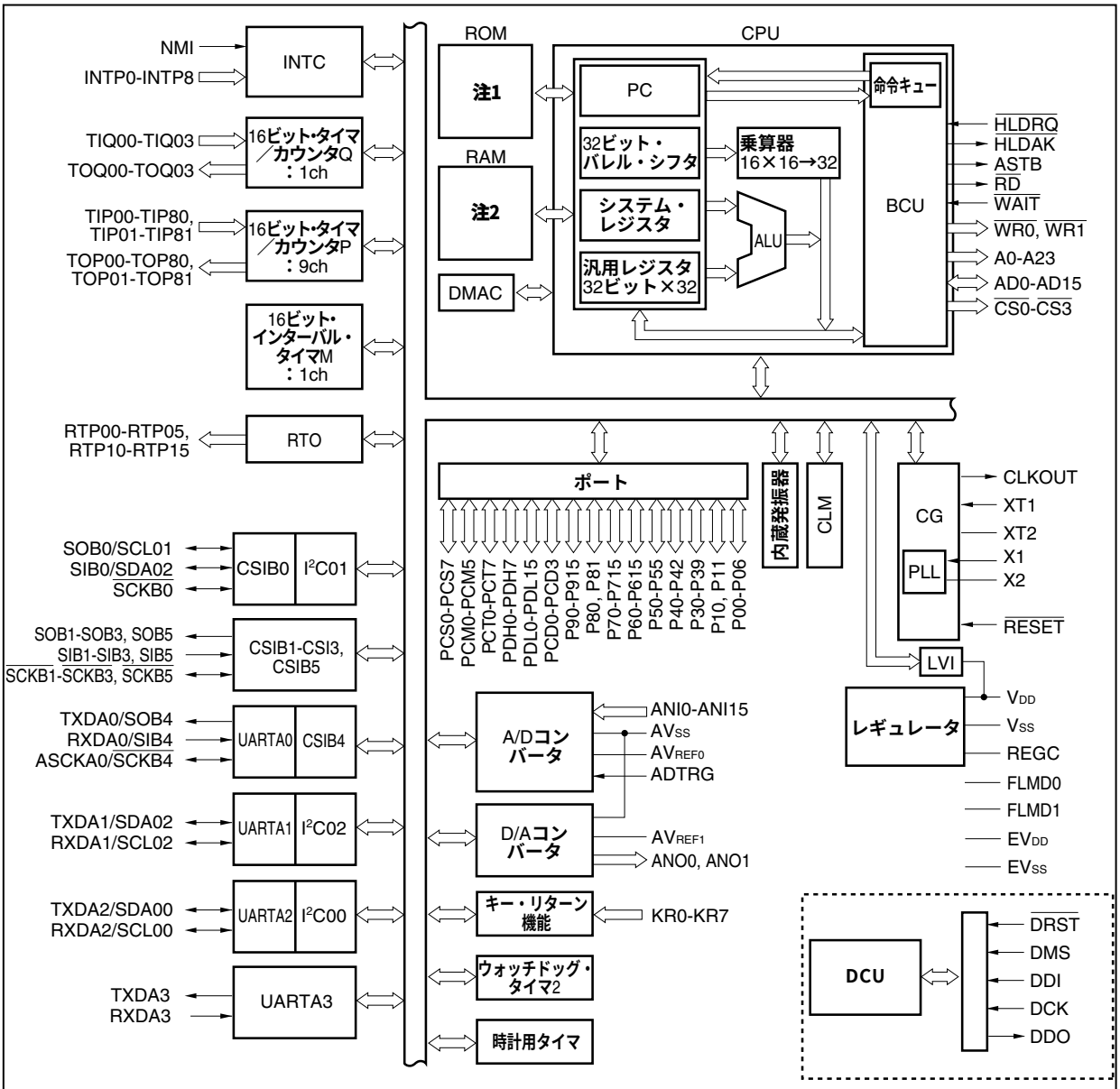
2.　REGC**端子は**4.7 μF**（推奨値）のコンデンサを介し，**VSS**に接続してください。**

端子名称

A0-A23	：Address Bus	$\overline{\text{RD}}$	：Read Strobe
AD0-AD15	：Address/Data Bus	REGC	：Regulator Control
ADTRG	：A/D Trigger Input	$\overline{\text{RESET}}$	：Reset
ANI0-ANI15	：Analog Input	RTP00-RTP05,	：Real-time Output Port
ANO0, ANO1	：Analog Output	RTP10-RTP15	
ASCKA0	：Asynchronous Serial Clock	RXDA0-RXDA3	：Receive Data
ASTB	：Address Strobe	$\overline{\text{SCKB0}}$-$\overline{\text{SCKB5}}$	：Serial Clock
AV_{REF0}, AV_{REF1}	：Analog Reference Voltage	SCL00-SCL02	：Serial Clock
AV_{SS}	：Analog V_{SS}	SDA00-SDA02	：Serial Data
CLKOUT	：Clock Output	SIB0-SIB5	：Serial Input
$\overline{\text{CS0}}$-$\overline{\text{CS3}}$	：Chip Select	SOB0-SOB5	：Serial Output
DCK	：Debug Clock	TIP00, TIP01,	：Timer Input
DDI	：Debug Data Input	TIP10, TIP11,	
DDO	：Debug Data Output	TIP20, TIP21,	
DMS	：Debug Mode Select	TIP30, TIP31,	
$\overline{\text{DRST}}$	：Debug Reset	TIP40, TIP41,	
EV_{DD}	：Power Supply for External Pin	TIP50, TIP51,	
EV_{SS}	：Ground for External Pin	TIP60, TIP61,	
FLMD0, FLMD1	：Flash Programming Mode	TIP70, TIP71,	
$\overline{\text{HLDAK}}$	：Hold Acknowledge	TIP80, TIP81,	
$\overline{\text{HLDRQ}}$	：Hold Request	TIQ00-TIQ03	
INTP0-INTP8	：External Interrupt Input	TOP00, TOP01,	：Timer Output
KR0-KR7	：Key Return	TOP10, TOP11,	
NMI	：Non-maskable Interrupt Request	TOP20, TOP21,	
P00-P06	：Port 0	TOP30, TOP31,	
P10, P11	：Port 1	TOP40, TOP41,	
P30-P39	：Port 3	TOP50, TOP51,	
P40-P42	：Port 4	TOP60, TOP61,	
P50-P55	：Port 5	TOP70, TOP71,	
P60-P615	：Port 6	TOP80, TOP81,	
P70-P715	：Port 7	TOQ00-TOQ03	
P80, P81	：Port 8	TXDA0-TXDA3	：Transmit Data
P90-P915	：Port 9	V_{DD}	：Power Supply
PCD0-PCD3	：Port CD	V_{SS}	：Ground
PCM0-PCM5	：Port CM	$\overline{\text{WAIT}}$	：Wait
PCS0-PCS7	：Port CS	$\overline{\text{WR0}}$	：Lower Byte Write Strobe
PCT0-PCT7	：Port CT	$\overline{\text{WR1}}$	：Upper Byte Write Strobe
PDH0-PDH7	：Port DH	X1, X2	：Crystal for Main Clock
PDL0-PDL15	：Port DL	XT1, XT2	：Crystal for Subclock

1. 6　機能ブロック構成

1. 6. 1　内部ブロック図



注1.　384 K/512 K/768 K/1024 K**バイト（フラッシュ・メモリ）（表**1**ー**1**参照）**

2.　32 K/40 K/60 K**バイト（表**1**ー**1**参照）**

1. 6. 2　内部ユニット

(1) CPU

アドレス計算，算術論理演算，データ転送などのほとんどの命令処理を，5段パイプライン制御により1クロックで実行できます。

乗算器（16ビット×16ビット→32ビット），バレル・シフタ（32ビット）などの専用ハードウエアを内蔵し，複雑な処理の高速化を図っています。

(2) バス・コントロール・ユニット（BCU）

CPUで得られた物理アドレスに基づいて必要な外部バス・サイクルを起動します。外部メモリ領域から命令フェッチするときにCPUからのバス・サイクル起動の要求がない場合は，プリフェッチ・アドレスを生成し，命令コードのプリフェッチを行います。プリフェッチされた命令コードは，内部の命令キューに取り込まれます。

(3) ROM

0000000H-00FFFFFH/0000000H-00BFFFFH/0000000H-007FFFFH/0000000H-005FFFFH番地にマッピングされる1024 K/768 K/512 K/384 Kバイトのフラッシュ・メモリです。

命令フェッチ時にCPUから1クロックでアクセスできます。

(4) RAM

3FF0000H-3FFEFFFH/3FF5000H-3FFEFFFH/3FF7000H-3FFEFFFH番地にマッピングされる60 K/40 K/32 Kバイトの RAMです。データ・アクセス時にCPUから1クロックでアクセスできます。

(5) 割り込みコントローラ（INTC）

内蔵周辺ハードウエア，および外部からのハードウエア割り込み要求（NMI, INTP0-INTP8）を処理します。これらの割り込み要求は，8レベルの割り込み優先順位を指定でき，多重処理制御ができます。

(6) クロック・ジェネレータ（CG）

メイン・クロック発振回路とサブクロック発振回路があり，メイン・クロック発振周波数（f_X）とサブクロック周波数（f_{XT}）を生成しています。メイン・クロック周波数（f_{XX}）として，f_Xをそのまま使用するクロック・スルー・モードと，f_Xを4逓倍または8逓倍して使用するPLLモードがあります。

CPUクロック周波数（f_{CPU}）としては，f_{XX}, $f_{XX}/2$, $f_{XX}/4$, $f_{XX}/8$, $f_{XX}/16$, $f_{XX}/32$, f_{XT}の7種類から選択できます。

(7) 内蔵発振器

内蔵発振器を搭載しています。発振周波数は220 kHz（TYP.）です。ウォッチドッグ・タイマ2とタイマMへクロック供給します。

(8) タイマ／カウンタ

16ビットのタイマ／イベント・カウンタP（TMP）を9チャネル，16ビットのタイマ／イベント・カウンタQ（TMQ）を1チャネル，16ビットのインターバル・タイマM（TMM）を1チャネル内蔵しています。

(9) 時計用タイマ

サブクロック（32.768 kHz）またはプリスケーラ3からのf_{BRG}（32.768 kHz）から時計カウント用の基準時間（0.5秒）をカウントします。メイン・クロックによるインターバル・タイマとしても同時に使用できます。

(10) ウォッチドッグ・タイマ2

プログラムの暴走，システム異常などを検出するためのウォッチドッグ・タイマを内蔵しています。

ソース・クロックとして内蔵発振クロック，メイン・クロック，サブクロックを選択できます。

オーバフローでノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2），またはシステム・リセット信号（WDT2RES）を発生します。

(11) シリアル・インタフェース

V850ES/JJ3には，シリアル・インタフェースとしてアシンクロナス・シリアル・インタフェースA（UARTA），3線式可変長シリアル・インタフェースB（CSIB），I^2Cバス・インタフェース（I^2C）を内蔵しています。

UARTAは，TXDA0-TXDA3, RXDA0-RXDA3端子によりデータ転送を行います。

CSIBは，SOB0-SOB5, SIB0-SIB5, $\overline{SCKB0}$-$\overline{SCKB5}$端子によりデータ転送を行います。

I^2Cは，SDA00-SDA02, SCL00-SCL02端子によりデータ転送を行います。

(12) A/Dコンバータ

16本のアナログ入力端子を持つ10ビットA/Dコンバータです。逐次変換方式で変換します。

(13) D/Aコンバータ

8ビット分解能のD/Aコンバータを2チャネル内蔵しています。R-2Rラダー方式です。

(14) DMAコントローラ

4チャネルのDMAコントローラを内蔵しています。内蔵周辺I/Oによる割り込み要求に基づいて，内蔵RAM，内蔵周辺I/O，外部メモリ間でデータを転送します。

(15) キー割り込み機能

8チャネルのキー入力端子に立ち下がりエッジを入力することによって，キー割り込み要求信号（INTKR）を発生させることができます。

(16) リアルタイム出力機能

あらかじめ設定しておいた6ビット・データを，タイマのコンペア・レジスタの一致信号により出力ラッチに転送します。

(17) CRC機能

8ビットのデータ設定により，16ビットのCRC（Cyclic Redundancy Check）コードを生成する，CRC演算回路を内蔵します。

（18）DCU（デバッグ・コントロール・ユニット）

JTAG（Joint Test Action Group）の通信仕様を利用したオンチップ・デバッグ機能を内蔵しています。通常ポート機能とオンチップ・デバッグ機能の切り替えは，制御端子の入力レベルとOCDMレジスタの2つで行います。

（19）ポート

次に示すように，汎用ポートとしての機能と制御端子の機能があります。

ポート	入出力	兼用機能
P0	7ビット入出力	タイマ入出力，NMI，外部割り込み，A/Dコンバータ・トリガ，デバッグ・リセット
P1	2ビット入出力	D/Aコンバータ・アナログ出力
P3	10ビット入出力	外部割り込み，シリアル・インタフェース，タイマ入出力
P4	3ビット入出力	シリアル・インタフェース
P5	6ビット入出力	タイマ入出力，リアルタイム出力，キー割り込み入力，シリアル・インタフェース，デバッグ入出力
P6	16ビット入出力	リアルタイム出力，シリアル・インタフェース，タイマ入出力
P7	16ビット入出力	A/Dコンバータ・アナログ入力
P8	2ビット入出力	シリアル・インタフェース，外部割り込み
P9	16ビット入出力	外部アドレス・バス，シリアル・インタフェース，キー割り込み入力，タイマ入出力，外部割り込み
PCD	4ビット入出力	－
PCM	6ビット入出力	外部制御信号
PCS	8ビット入出力	チップ・セレクト出力
PCT	8ビット入出力	外部制御信号
PDH	8ビット入出力	外部アドレス・バス
PDL	16ビット入出力	外部アドレス／データ・バス

第2章　端子機能

2. 1　端子機能一覧

V850ES/JJ3の端子名称と機能を次に示します。

端子の入出力バッファ電源には，AV_{REF0}, AV_{REF1}, EV_{DD}の3系統があります。それぞれの電源と端子の関係を次に示します。

表2－1　各端子の入出力バッファ電源

電　源	対応する端子
AV_{REF0}	ポート7
AV_{REF1}	ポート1
EV_{DD}	$\overline{RESET}$，ポート0, 3-6, 8, 9, CD, CM, CS, CT, DH, DL

(1) ポート端子

(1/4)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子
P00	6	入出力	ポート0 7ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能 1ビット単位でN-chオープン・ドレーン出力指定可能 5 Vトレラント対応	TIP61/TOP61
P01	7			TIP60/TOP60
P02	17			NMI
P03	18			INTP0/ADTRG
P04	19			INTP1
P05[注]	20			INTP2/$\overline{\text{DRST}}$
P06	21			INTP3
P10	3	入出力	ポート1 2ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能	ANO0
P11	4			ANO1
P30	25	入出力	ポート3 10ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能 1ビット単位でN-chオープン・ドレーン出力指定可能 5 Vトレラント対応	TXDA0/SOB4
P31	26			RXDA0/INTP7/SIB4
P32	27			ASCKA0/$\overline{\text{SCKB4}}$/TIP00/TOP00
P33	28			TIP01/TOP01
P34	29			TIP10/TOP10
P35	30			TIP11/TOP11
P36	31			–
P37	32			–
P38	35			TXDA2/SDA00
P39	36			RXDA2/SCL00
P40	22	入出力	ポート4 3ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能 1ビット単位でN-chオープン・ドレーン出力指定可能 5 Vトレラント対応	SIB0/SDA01
P41	23			SOB0/SCL01
P42	24			$\overline{\text{SCKB0}}$
P50	37	入出力	ポート5 6ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能 1ビット単位でN-chオープン・ドレーン出力指定可能 5 Vトレラント対応	TIQ01/KR0/TOQ01/RTP00
P51	38			TIQ02/KR1/TOQ02/RTP01
P52	39			TIQ03/KR2/TOQ03/RTP02/DDI
P53	40			SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO
P54	41			SOB2/KR4/RTP04/DCK
P55	42			$\overline{\text{SCKB2}}$/KR5/RTP05/DMS

注　プルダウン抵抗を内蔵しています。OCDM.OCDM0**ビットをクリアすることでプルダウン抵抗を切断できます。**

(2/4)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子
P60	43	入出力	ポート6 16ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能 1ビット単位でN-chオープン・ドレーン出力指定可能 5 Vトレラント対応	RTP10
P61	44			RTP11
P62	45			RTP12
P63	46			RTP13
P64	47			RTP14
P65	48			RTP15
P66	49			SIB5
P67	50			SOB5
P68	51			$\overline{\text{SCKB5}}$
P69	52			TIP70/TOP70
P610	53			TIP71
P611	54			TOP71
P612	55			TIP80/TOP80
P613	56			TIP81/TOP81
P614	57			–
P615	58			–
P70	144	入出力	ポート7 16ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能	ANI0
P71	143			ANI1
P72	142			ANI2
P73	141			ANI3
P74	140			ANI4
P75	139			ANI5
P76	138			ANI6
P77	137			ANI7
P78	136			ANI8
P79	135			ANI9
P710	134			ANI10
P711	133			ANI11
P712	132			ANI12
P713	131			ANI13
P714	130			ANI14
P715	129			ANI15
P80	59	入出力	ポート8 2ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能 1ビット単位でN-chオープン・ドレーン出力指定可能 5 Vトレラント対応	RXDA3/INTP8
P81	60			TXDA3

(3/4)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子
P90	61	入出力	ポート9 16ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能 1ビット単位でN-chオープン・ドレーン出力指定可能 5 Vトレラント対応	A0/KR6/TXDA1/SDA02
P91	62			A1/KR7/RXDA1/SCL02
P92	63			A2/TIP41/TOP41
P93	64			A3/TIP40/TOP40
P94	65			A4/TIP31/TOP31
P95	66			A5/TIP30/TOP30
P96	67			A6/TIP21/TOP21
P97	68			A7/SIB1/TIP20/TOP20
P98	69			A8/SOB1
P99	70			A9/$\overline{\text{SCKB1}}$
P910	71			A10/SIB3
P911	72			A11/SOB3
P912	73			A12/$\overline{\text{SCKB3}}$
P913	74			A13/INTP4
P914	75			A14/INTP5/TIP51/TOP51
P915	76			A15/INTP6/TIP50/TOP50
PCD0	77	入出力	ポートCD 4ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能	–
PCD1	78			–
PCD2	79			–
PCD3	80			–
PCM0	85	入出力	ポートCM 6ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能	$\overline{\text{WAIT}}$
PCM1	86			CLKOUT
PCM2	87			$\overline{\text{HLDAK}}$
PCM3	88			$\overline{\text{HLDRQ}}$
PCM4	89			–
PCM5	90			–
PCS0	81	入出力	ポートCS 8ビット入出力ポート 1ビット単位で入力／出力の指定が可能	$\overline{\text{CS0}}$
PCS1	82			$\overline{\text{CS1}}$
PCS2	83			$\overline{\text{CS2}}$
PCS3	84			$\overline{\text{CS3}}$
PCS4	91			–
PCS5	92			–
PCS6	93			–
PCS7	94			–

(4/4)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子
PCT0	95	入出力	ポートCT	$\overline{\text{WR0}}$
PCT1	96		8ビット入出力ポート	$\overline{\text{WR1}}$
PCT2	97		1ビット単位で入力／出力の指定が可能	–
PCT3	98			–
PCT4	99			$\overline{\text{RD}}$
PCT5	100			–
PCT6	101			ASTB
PCT7	102			–
PDH0	121	入出力	ポートDH	A16
PDH1	122		8ビット入出力ポート	A17
PDH2	123		1ビット単位で入力／出力の指定が可能	A18
PDH3	124			A19
PDH4	125			A20
PDH5	126			A21
PDH6	127			A22
PDH7	128			A23
PDL0	105	入出力	ポートDL	AD0
PDL1	106		16ビット入出力ポート	AD1
PDL2	107		1ビット単位で入力／出力の指定が可能	AD2
PDL3	108			AD3
PDL4	109			AD4
PDL5	110			AD5/FLMD1
PDL6	111			AD6
PDL7	112			AD7
PDL8	113			AD8
PDL9	114			AD9
PDL10	115			AD10
PDL11	116			AD11
PDL12	117			AD12
PDL13	118			AD13
PDL14	119			AD14
PDL15	120			AD15

(2) ポート以外の端子

(1/6)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子名
A0	61	出力	外部メモリに対するアドレス・バス (セパレート・バス使用時) N-chオープン・ドレーン出力選択可能 5 Vトレラント対応	P90/KR6/TXDA1/SDA02
A1	62			P91/KR7/RXDA1/SCL02
A2	63			P92/TIP41/TOP41
A3	64			P93/TIP40/TOP40
A4	65			P94/TIP31/TOP31
A5	66			P95/TIP30/TOP30
A6	67			P96/TIP21/TOP21
A7	68			P97/SIB1/TIP20/TOP20
A8	69			P98/SOB1
A9	70			P99/$\overline{\text{SCKB1}}$
A10	71			P910/SIB3
A11	72			P911/SOB3
A12	73			P912/$\overline{\text{SCKB3}}$
A13	74			P913/INTP4
A14	75			P914/INTP5/TIP51/TOP51
A15	76			P915/INTP6/TIP50/TOP50
A16	121	出力	外部メモリに対するアドレス・バス	PDH0
A17	122			PDH1
A18	123			PDH2
A19	124			PDH3
A20	125			PDH4
A21	126			PDH5
A22	127			PDH6
A23	128			PDH7
AD0	105	入出力	外部メモリに対するアドレス／データ・バス	PDL0
AD1	106			PDL1
AD2	107			PDL2
AD3	108			PDL3
AD4	109			PDL4
AD5	110			PDL5/FLMD1
AD6	111			PDL6
AD7	112			PDL7
AD8	113			PDL8
AD9	114			PDL9
AD10	115			PDL10
AD11	116			PDL11
AD12	117			PDL12
AD13	118			PDL13
AD14	119			PDL14
AD15	120			PDL15

(2/6)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子名
ADTRG	18	入力	A/Dコンバータ外部トリガ入力，5 Vトレラント対応	P03/INTP0
ANI0	144	入力	A/Dコンバータ用アナログ電圧入力	P70
ANI1	143			P71
ANI2	142			P72
ANI3	141			P73
ANI4	140			P74
ANI5	139			P75
ANI6	138			P76
ANI7	137			P77
ANI8	136			P78
ANI9	135			P79
ANI10	134			P710
ANI11	133			P711
ANI12	132			P712
ANI13	131			P713
ANI14	130			P714
ANI15	129			P715
ANO0	3	出力	D/Aコンバータ用アナログ電圧出力	P10
ANO1	4			P11
ASCKA0	27	入力	UARTA0のボー・レート・クロック入力 5 Vトレラント対応	P32/$\overline{\text{SCKB4}}$/TIP00/TOP00
ASTB	101	出力	外部メモリに対するアドレス・ストローブ信号出力	PCT6
AV_{REF0}	1	－	A/Dコンバータ用基準電圧入力，兼ポート7用正電源供給	－
AV_{REF1}	5		D/Aコンバータ用基準電圧入力，兼ポート1用正電源供給	－
AV_{SS}	2	－	A/D, D/Aコンバータ用グランド電位（V_{SS}と同電位）	－
CLKOUT	86	出力	内部システム・クロック出力	PCM1
$\overline{\text{CS0}}$	81	出力	チップ・セレクト出力	PCS0
$\overline{\text{CS1}}$	82			PCS1
$\overline{\text{CS2}}$	83			PCS2
$\overline{\text{CS3}}$	84			PCS3
DCK	41	入力	デバッグ・クロック入力，5 Vトレラント対応	P54/SOB2/KR4/RTP04
DDI	39	入力	デバッグ・データ入力，5 Vトレラント対応	P52/TIQ03/KR2/TOQ03/RTP02
DDO[注]	40	出力	デバッグ・データ出力 N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P53/SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/ RTP03
DMS	42	入力	デバッグ・モード・セレクト入力，5 Vトレラント対応	P55/$\overline{\text{SCKB2}}$/KR5/RTP05
$\overline{\text{DRST}}$	20	入力	デバッグ・リセット入力，5 Vトレラント対応	P05/INTP2
EV_{DD}	34, 104	－	外部用正電源供給（V_{DD}と同電位）	－
EV_{SS}	33, 103	－	外部用グランド電位（V_{SS}と同電位）	－
FLMD0	8	入力	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード引き込み用端子	－
FLMD1	110			PDL5/AD5

注　オンチップ・デバッグ・モード時，強制的にハイ・レベル出力に設定されます。

(3/6)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子名
$\overline{\text{HLDAK}}$	87	出力	バス・ホールド・アクノリッジ出力	PCM2
$\overline{\text{HLDRQ}}$	88	入力	バス・ホールド要求入力	PCM3
INTP0	18	入力	外部割り込み要求入力（マスカブル，アナログ・ノイズ除去） INTP3端子は，アナログ・ノイズ除去／ディジタル・ノイズ除去選択可能 5 Vトレラント対応	P03/ADTRG
INTP1	19			P04
INTP2	20			P05/$\overline{\text{DRST}}$
INTP3	21			P06
INTP4	74			P913/A13
INTP5	75			P914/A14/TIP51/TOP51
INTP6	76			P915/A15/TIP50/TOP50
INTP7	26			P31/RXDA0/SIB4
INTP8	59			P80/RXDA3
KR0[注1]	37	入力	キー割り込み入力（アナログ・ノイズ除去回路内蔵） 5 Vトレラント対応	P50/TIQ01/TOQ01/RTP00
KR1[注1]	38			P51/TIQ02/TOQ02/RTP01
KR2[注1]	39			P52/TIQ03/TOQ03/RTP02/DDI
KR3[注1]	40			P53/SIB2/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO
KR4[注1]	41			P54/SOB2/RTP04/DCK
KR5[注1]	42			P55/$\overline{\text{SCKB2}}$/RTP05/DMS
KR6[注1]	61			P90/A0/TXDA1/SDA02
KR7[注1]	62			P91/A1/RXDA1/SCL02
NMI[注2]	17	入力	外部割り込み入力（ノンマスカブル，アナログ・ノイズ除去） 5 Vトレラント対応	P02
$\overline{\text{RD}}$	99	出力	外部メモリに対するリード・ストローブ信号出力	PCT4
REGC	10	－	レギュレータ出力安定容量接続（4.7 μF（推奨値））	－
$\overline{\text{RESET}}$	14	入力	システム・リセット入力	－
RTP00	37	出力	リアルタイム出力ポート N-chオープン・ドレーン出力選択可能 5 Vトレラント対応	P50/TIQ01/KR0/TOQ01
RTP01	38			P51/TIQ02/KR1/TOQ02
RTP02	39			P52/TIQ03/KR2/TOQ03/DDI
RTP03	40			P53/SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/DDO
RTP04	41			P54/SOB2/KR4/DCK
RTP05	42			P55/$\overline{\text{SCKB2}}$/KR5/DMS
RTP10	43			P60
RTP11	44			P61
RTP12	45			P62
RTP13	46			P63
RTP14	47			P64
RTP15	48			P65

注1. 外部でプルアップ処理を行ってください。

2. NMI端子はP02端子と兼用しており，リセット後はP02端子として機能します。NMI端子を有効にする場合は，PMC0.PMC02ビットをセット（1）してください。また，NMI端子の初期設定は“エッジ検出なし”になっています。INTF0, INTR0レジスタでNMI端子の有効エッジを選択してください。

(4/6)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子名
RXDA0	26	入力	シリアル受信データ入力（UARTA0-UARTA3） 5 Vトレラント対応	P31/INTP7/SIB4
RXDA1	62			P91/A1/KR7/SCL02
RXDA2	36			P39/SCL00
RXDA3	59			P80/INTP8
$\overline{\text{SCKB0}}$	24	入出力	シリアル・クロック入出力（CSIB0-CSIB5） N-chオープン・ドレーン出力選択可能 5 Vトレラント対応	P42
$\overline{\text{SCKB1}}$	70			P99/A9
$\overline{\text{SCKB2}}$	42			P55/KR5/RTP05/DMS
$\overline{\text{SCKB3}}$	73			P912/A12
$\overline{\text{SCKB4}}$	27			P32/ASCKA0/TIP00/TOP00
$\overline{\text{SCKB5}}$	51			P68
SCL00	36	入出力	シリアル・クロック入出力（I^2C00-I^2C02） N-chオープン・ドレーン出力選択可能 5 Vトレラント対応	P39/RXDA2
SCL01	23			P41/SOB0
SCL02	62			P91/A1/KR7/RXDA1
SDA00	35	入出力	シリアル送受信データ入出力（I^2C00-I^2C02） N-chオープン・ドレーン出力選択可能 5 Vトレラント対応	P38/TXDA2
SDA01	22			P40/SIB0
SDA02	61			P90/A0/KR6/TXDA1
SIB0	22	入力	シリアル受信データ入力（CSIB0-CSIB5） 5 Vトレラント対応	P40/SDA01
SIB1	68			P97/A7/TIP20/TOP20
SIB2	40			P53/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO
SIB3	71			P910/A10
SIB4	26			P31/RXDA0/INTP7
SIB5	49			P66
SOB0	23	出力	シリアル送信データ出力（CSIB0-CSIB5） N-chオープン・ドレーン出力選択可能 5 Vトレラント対応	P41/SCL01
SOB1	69			P98/A8
SOB2	41			P54/KR4/RTP04/DCK
SOB3	72			P911/A11
SOB4	25			P30/TXDA0
SOB5	50			P67
TIP00	27	入力	外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMP0） 5 Vトレラント対応	P32/ASCKA0/$\overline{\text{SCKB4}}$/TOP00
TIP01	28		キャプチャ・トリガ入力（TMP0） 5 Vトレラント対応	P33/TOP01
TIP10	29		外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMP1） 5 Vトレラント対応	P34/TOP10
TIP11	30		キャプチャ・トリガ入力（TMP1） 5 Vトレラント対応	P35/TOP11

(5/6)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子名
TIP20	68	入力	外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMP2） 5 Vトレラント対応	P97/A7/SIB1/TOP20
TIP21	67		キャプチャ・トリガ入力（TMP2） 5 Vトレラント対応	P96/A6/TOP21
TIP30	66		外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMP3） 5 Vトレラント対応	P95/A5/TOP30
TIP31	65		キャプチャ・トリガ入力（TMP3） 5 Vトレラント対応	P94/A4/TOP31
TIP40	64		外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMP4） 5 Vトレラント対応	P93/A3/TOP40
TIP41	63		キャプチャ・トリガ入力（TMP4） 5 Vトレラント対応	P92/A2/TOP41
TIP50	76		外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMP5） 5 Vトレラント対応	P915/A15/INTP6/TOP50
TIP51	75		キャプチャ・トリガ入力（TMP5） 5 Vトレラント対応	P914/A14/INTP5/TOP51
TIP60	7		外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMP6） 5 Vトレラント対応	P01/TOP60
TIP61	6		キャプチャ・トリガ入力（TMP6） 5 Vトレラント対応	P00/TOP61
TIP70	52		外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMP7） 5 Vトレラント対応	P69/TOP70
TIP71	53		キャプチャ・トリガ入力（TMP7） 5 Vトレラント対応	P610
TIP80	55		外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMP8） 5 Vトレラント対応	P612/TOP80
TIP81	56		キャプチャ・トリガ入力（TMP8） 5 Vトレラント対応	P613/TOP81
TIQ00	40	入力	外部イベント・カウント入力／キャプチャ・トリガ入力／外部トリガ入力（TMQ0） 5 Vトレラント対応	P53/SIB2/KR3/TOQ00/RTP03/DDO
TIQ01	37		キャプチャ・トリガ入力（TMQ0） 5 Vトレラント対応	P50/KR0/TOQ01/RTP00
TIQ02	38			P51/KR1/TOQ02/RTP01
TIQ03	39			P52/KR2/TOQ03/RTP02/DDI

(6/6)

端子名称	ピン番号	入出力	機　　能	兼用端子名
TOP00	27	出力	タイマ出力（TMP0）	P32/ASCKA0/$\overline{\text{SCKB4}}$/TIP00
TOP01	28		N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P33/TIP01
TOP10	29		タイマ出力（TMP1）	P34/TIP10
TOP11	30		N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P35/TIP11
TOP20	68		タイマ出力（TMP2）	P97/A7/SIB1/TIP20
TOP21	67		N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P96/A6/TIP21
TOP30	66		タイマ出力（TMP3）	P95/A5/TIP30
TOP31	65		N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P94/A4/TIP31
TOP40	64		タイマ出力（TMP4）	P93/A3/TIP40
TOP41	63		N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P92/A2/TIP41
TOP50	76		タイマ出力（TMP5）	P915/A15/INTP6/TIP50
TOP51	75		N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P914/A14/INTP5/TIP51
TOP60	7		タイマ出力（TMP6）	P01/TIP60
TOP61	6		N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P00/TIP61
TOP70	52		タイマ出力（TMP7）	P69/TIP70
TOP71	54		N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P611
TOP80	55		タイマ出力（TMP8）	P612/TIP80
TOP81	56		N-chオープン・ドレーン出力選択可能，5 Vトレラント対応	P613/TIP81
TOQ00	40	出力	タイマ出力（TMQ0）	P53/SIB2/KR3/TIQ00/RTP03/DDO
TOQ01	37		N-chオープン・ドレーン出力選択可能	P50/TIQ01/KR0/RTP00
TOQ02	38		5 Vトレラント対応	P51/RTP01/KR1/TIQ02
TOQ03	39			P52/TIQ03/KR2/RTP02/DDI
TXDA0	25	出力	シリアル送信データ出力（UARTA0-UARTA3）	P30/SOB4
TXDA1	61		N-chオープン・ドレーン出力選択可能	P90/A0/KR6/SDA02
TXDA2	35		5 Vトレラント対応	P38/SDA00
TXDA3	60			P81
V_{DD}	9	－	内部用正電源供給端子	－
V_{SS}	11	－	内部用グランド電位	－
$\overline{\text{WAIT}}$	85	入力	外部ウエイト入力	PCM0
$\overline{\text{WR0}}$	95	出力	外部メモリ（下位8ビット）に対するライト・ストローブ	PCT0
$\overline{\text{WR1}}$	96		外部メモリ（上位8ビット）に対するライト・ストローブ	PCT1
X1	12	入力	メイン・クロック用発振子接続	－
X2	13	－		－
XT1	15	入力	サブクロック用発振子接続	－
XT2	16	－		－

2. 2　端子状態

動作モードによる各端子の動作状態を次に示します。

表2－2　動作モードによる各端子の動作状態

端子名称	電源投入時[注1]	リセット中（電源投入時以外）	HALTモード[注2]	IDLE1, IDLE2, サブIDLEモード[注2]	STOPモード[注2]	アイドル・ステート[注3]	バス・ホールド
P05/$\overline{\text{DRST}}$	プルダウン	プルダウン[注4]	保持	保持	保持	保持	保持
P10/ANO0, P11/ANO1	Hi-Z	Hi-Z	保持	保持	Hi-Z	保持	保持
P53/DDO	不定	Hi-Z[注5]	保持	保持	保持	保持	保持
AD0-AD15	Hi-Z[注6]	Hi-Z[注6]	注7, 8	Hi-Z	Hi-Z	保持	Hi-Z
A0-A15			不定[注7, 9]				
A16-A23			不定[注7]				
$\overline{\text{WAIT}}$			－	－	－	－	－
CLKOUT			動作	L	L	動作	動作
$\overline{\text{WR0}}$, $\overline{\text{WR1}}$			H[注7]	H	H	H	Hi-Z
$\overline{\text{RD}}$							
ASTB							
$\overline{\text{HLDAK}}$			動作[注7]				L
$\overline{\text{HLDRQ}}$				－	－	－	動作
$\overline{\text{CS0}}$-$\overline{\text{CS3}}$			H[注7]	H	H	保持	Hi-Z
その他のポート端子	Hi-Z	Hi-Z	保持	保持	保持	保持	保持

注1.　電源投入時，電源電圧が動作電源電圧範囲（下限）に達してから，1 ms経過するまでの期間です。

2.　兼用機能が動作しているときは動作します。

3.　セパレート・バス・モード時は，T2ステート後に挿入されるアイドル・ステート時の端子状態を示します。マルチプレクス・バス・モード時は，T3ステート後に挿入されるアイドル・ステート時の端子状態を示します。

4.　外部リセット時はプルダウンされます。ウォッチドッグ・タイマやクロック・モニタなどによる内部リセット時は，OCDM.OCDM0ビットの設定によって異なります。

5.　オンチップ・デバッグ・モード時には，DDO出力になります。

6.　バス制御端子はポート端子と兼用するので，入力モード（ポート・モード）に初期化します。

7.　HALTモード時でもDMA動作中は動作します。

8.　セパレート・バス・モード時　　：Hi-Z
　　マルチプレクス・バス・モード時　：不定

9.　セパレート・バス・モード時

備考　Hi-Z　：ハイ・インピーダンス
　　保持　：直前の外部バス・サイクルでの状態を保持
　　L　　：ロウ・レベル出力
　　H　　：ハイ・レベル出力
　　－　　：入力非サンプリング（受け付けない）

2. 3　端子の入出力回路タイプ，入出力バッファ電源と未使用時の処理

(1/3)

端　子	兼用端子名	ピン番号	入出力回路タイプ	推奨接続方法
P00	TIP61/TOP61	6	10-D	入力時：個別に抵抗を介して，EV_{DD}またはEV_{SS}に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P01	TIP60/TOP60	7		
P02	NMI	17		
P03	INTP0/ADTRG	18		
P04	INTP1	19		
P05	INTP2/$\overline{\text{DRST}}$	20	10-N	入力時：個別に抵抗を介して，EV_{SS}に接続してください。V_{DD}レベルへの固定は禁止です。 出力時：オープンにしてください。 $\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット時，内部でプルダウンされます。
P06	INTP3	21	10-D	入力時：個別に抵抗を介して，EV_{DD}またはEV_{SS}に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P10, P11	ANO0, ANO1	3, 4	12-D	入力時：個別に抵抗を介して，AV_{REF1}またはAV_{SS}に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P30	TXDA0/SOB4	25	10-G	入力時：個別に抵抗を介して，EV_{DD}またはEV_{SS}に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P31	RXDA0/INTP7/SIB4	26	10-D	
P32	ASCKA0/$\overline{\text{SCKB4}}$/TIP00	27		
P33	TIP01/TOP01	28		
P34	TIP10/TOP10	29		
P35	TIP11/TOP11	30		
P36	－	31	10-G	
P37	－	32		
P38	TXDA2/SDA00	35	10-D	
P39	RXDA2/SCL00	36		
P40	SIB0/SDA01	22		
P41	SOB0/SCL01	23		
P42	$\overline{\text{SCKB0}}$	24		
P50	TIQ01/KR0/TOQ01/RTP00	37		
P51	TIQ02/KR1/TOQ02/RTP01	38		
P52	TIQ03/KR2/TOQ03/RTP02/DDI	39		
P53	SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO	40		
P54	SOB2/KR4/RTP04/DCK	41		
P55	$\overline{\text{SCKB2}}$/KR5/RTP05/DMS	42		

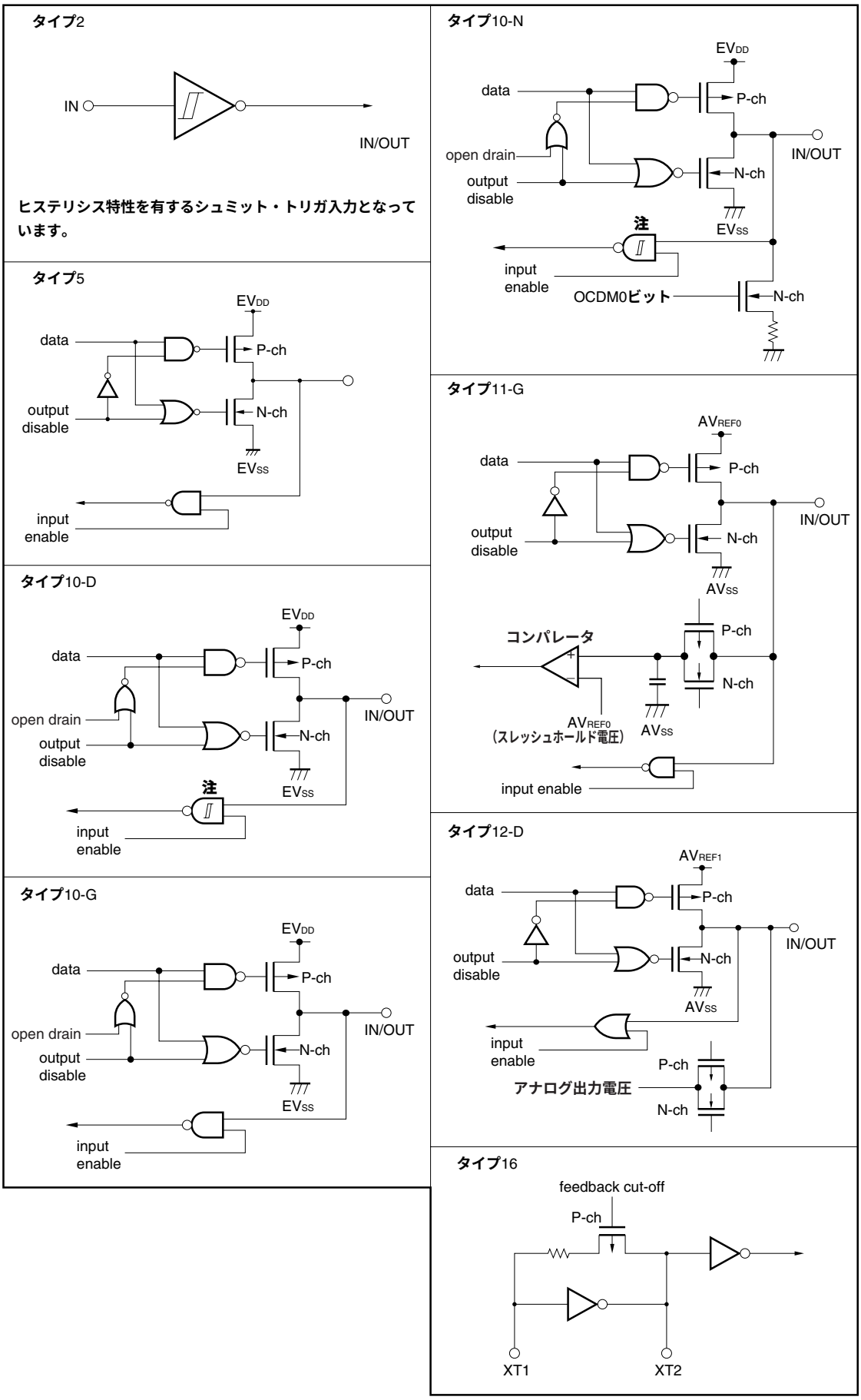
(2/3)

端　子	兼用端子名	ピン番号	入出力回路タイプ	推奨接続方法
P60-P65	RTP10-RTP15	43-48	10-G	入力時：個別に抵抗を介して，EV_{DD}またはEV_{SS}に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P66	SIB5	49	10-D	
P67	SOB5	50	10-G	
P68	$\overline{SCKB5}$	51	10-D	
P69	TIP70/TOP70	52		
P610	TIP71	53		
P611	TOP71	54	10-G	
P612	TIP80/TOP80	55	10-D	
P613	TIP81/TOP81	56		
P614, P615	－	57, 58	10-G	
P70-P715	ANI0-ANI15	144-129	11-G	入力時：個別に抵抗を介して，AV_{REF0}またはAV_{SS}に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P80	RXDA3, INTP8	59	10-D	入力時：個別に抵抗を介して，EV_{DD}またはEV_{SS}に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
P81	TXDA3	60	10-G	
P90	A0/KR6/TDXA1/SDA02	61	10-D	
P91	A1/KR7/RXDA1/SCL02	62		
P92	A2/TIP41/TOP41	63		
P93	A3/TIP40/TOP40	64		
P94	A4/TIP31/TOP31	65		
P95	A5/TIP30/TOP30	66		
P96	A6/TIP21/TOP21	67		
P97	A7/SIB1/TIP20/TOP20	68		
P98	A8/SOB1	69	10-G	
P99	A9/$\overline{SCKB1}$	70	10-D	
P910	A10/SIB3	71		
P911	A11/SOB3	72	10-G	
P912	A12/$\overline{SCKB3}$	73	10-D	
P913	A13/INTP4	74		
P914	A14/INTP5/TIP51/TOP51	75		
P915	A15/INTP6/TIP50/TOP50	76		
PCD0-PCD3	－	77-80	5	
PCM0	$\overline{WAIT}$	85		
PCM1	CLKOUT	86		
PCM2	$\overline{HLDAK}$	87		
PCM3	$\overline{HLDRQ}$	88		
PCM4, PCM5	－	89, 90		
PCS0-PCS3	$\overline{CS0}$-$\overline{CS3}$	81-84		
PCS4-PCS7	－	91-94		

(3/3)

端　子	兼用端子名	ピン番号	入出力回路タイプ	推奨接続方法
PCT0, PCT1	$\overline{WR0}$, $\overline{WR1}$	95, 96	5	入力時：個別に抵抗を介して，EV_{DD}またはEV_{SS}に接続してください。 出力時：オープンにしてください。
PCT2, PCT3	－	97, 98		
PCT4	$\overline{RD}$	99		
PCT5	－	100		
PCT6	ASTB	101		
PCT7	－	102		
PDH0-PDH7	A16-A23	121-128		
PDL0-PDL4	AD0-AD4	105-109		
PDL5	AD5/FLMD1	110		
PDL6-PDL15	AD6-AD15	111-120		
AV_{REF0}	－	1	－	常に電源に接続してください（スタンバイ時も同様です）。
AV_{REF1}	－	5	－	
AV_{SS}	－	2	－	常にグランドに直接接続してください（スタンバイ時も同様です）。
EV_{DD}	－	34, 104	－	常に電源に接続してください（スタンバイ時も同様です）。
EV_{SS}	－	33, 103	－	常にグランドに直接接続してください（スタンバイ時も同様です）。
FLMD0	－	8	－	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時以外はV_{SS}に接続してください。
REGC	－	10	－	レギュレータ出力安定容量接続（4.7 μF（推奨値））
$\overline{RESET}$	－	14	2	－
V_{DD}	－	9	－	常に電源に接続してください（スタンバイ時も同様です）。
V_{SS}	－	11	－	常にグランドに直接接続してください（スタンバイ時も同様です）。
X1	－	12	－	－
X2	－	13	－	－
XT1	－	15	16	V_{SS}に接続してください。
XT2	－	16	16	オープンにしてください。

図2－1　端子の入出力回路タイプ



注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

2. 4　注意事項

次に示す端子は，電源投入時にはリセット中でも一時的に不定レベルを出力する可能性があります。

- P53/SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO**端子**

第3章　CPU機能

V850ES/JJ3のCPUは，RISCアーキテクチャをベースとして，5段パイプラインの制御によりほとんどの命令を1クロックで実行します。

3. 1　特　　徴

○最小命令実行時間：31.25 ns（32 MHz動作時）
　　30.5 μs（サブクロック（f_{XT}）= 32.768 kHz動作時）
○メモリ空間　　プログラム（物理アドレス）空間：64 Mバイト・リニア
　　データ（論理アドレス）空間　　：4 Gバイト・リニア
○汎用レジスタ：32ビット×32本
○内部32ビット・アーキテクチャ
○5段パイプライン制御
○乗除算命令
○飽和演算命令
○32ビット・シフト命令：1クロック
○ロング／ショート形式を持つロード／ストア命令
○ビット操作命令4種
- SET1
- CLR1
- NOT1
- TST1

3. 2　CPUレジスタ・セット

V850ES/JJ3のレジスタは，汎用のプログラム・レジスタ・セットと，専用のシステム・レジスタ・セットの2種類に分類できます。すべてのレジスタは32ビット幅となっています。

詳細はV850ES　ユーザーズ・マニュアル　アーキテクチャ編を参照してください。

(1) プログラム・レジスタ・セット

31　　0

r0	(ゼロ・レジスタ)
r1	(アセンブラ予約レジスタ)
r2	
r3	(スタック・ポインタ (SP))
r4	(グローバル・ポインタ (GP))
r5	(テキスト・ポインタ (TP))
r6	
r7	
r8	
r9	
r10	
r11	
r12	
r13	
r14	
r15	
r16	
r17	
r18	
r19	
r20	
r21	
r22	
r23	
r24	
r25	
r26	
r27	
r28	
r29	
r30	(エレメント・ポインタ (EP))
r31	(リンク・ポインタ (LP))

31　　0

PC	(プログラム・カウンタ)

(2) システム・レジスタ・セット

31　　0

EIPC	(割り込み時状態退避レジスタ)
EIPSW	(割り込み時状態退避レジスタ)

FEPC	(NMI時状態退避レジスタ)
FEPSW	(NMI時状態退避レジスタ)

ECR	(割り込み要因レジスタ)

PSW	(プログラム・ステータス・ワード)

CTPC	(CALLT実行時状態退避レジスタ)
CTPSW	(CALLT実行時状態退避レジスタ)

DBPC	(例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ)
DBPSW	(例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ)

CTBP	(CALLTベース・ポインタ)

3. 2. 1　プログラム・レジスタ・セット

プログラム・レジスタには，汎用レジスタとプログラム・カウンタがあります。

(1) 汎用レジスタ（r0-r31）

汎用レジスタとして，r0-r31の32本が用意されています。これらのレジスタは，どれでもデータ変数またはアドレス変数として利用できます。

ただし，r0とr30は命令により暗黙的に使用しますので，これらのレジスタを使用する際には注意が必要です。r0は常に0を保持しているレジスタで，0を使用する演算やオフセット0のアドレシングで使用されます。r30はSLD命令とSST命令により，メモリをアクセスするときのベース・ポインタとして使用されます。また，r1, r3-r5, r31は，アセンブラとCコンパイラが暗黙的に使用しますので，これらのレジスタを使用する際にはレジスタの内容を破壊しないように退避してから使用し，使用後に元に戻す必要があります。r2は，リアルタイムOSが使用する場合があります。使用するリアルタイムOSがr2を使用していない場合は，変数用レジスタとしてr2を使用できます。

表3－1　プログラム・レジスター覧

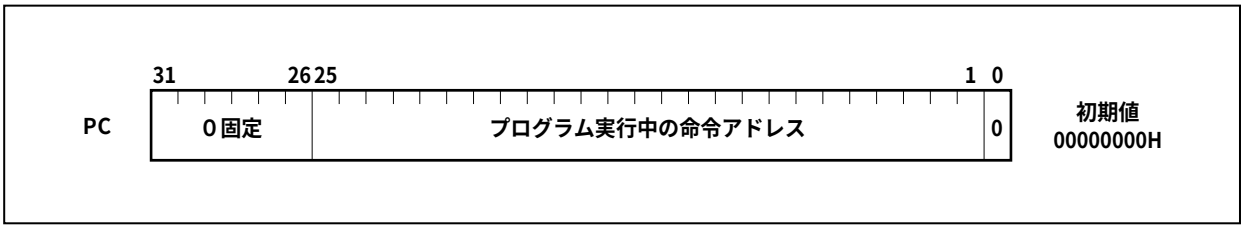
名　称	用　　途	動　　作
r0	ゼロ・レジスタ	常に0を保持
r1	アセンブラ予約レジスタ	32ビット・イミーディエト作成用のワーキング・レジスタとして使用
r2	アドレス／データ変数用レジスタ（使用するリアルタイムOSがr2を使用していない場合）	
r3	スタック・ポインタ	関数コール時のスタック・フレーム生成時に使用
r4	グローバル・ポインタ	データ領域のグローバル変数をアクセスするときに使用
r5	テキスト・ポインタ	テキスト領域（プログラム・コードを配置する領域）の先頭を指すレジスタとして使用
r6-r29	アドレス／データ変数用レジスタ	
r30	エレメント・ポインタ	メモリをアクセスするときのベース・ポインタとして使用
r31	リンク・ポインタ	コンパイラが関数コールをするときに使用
PC	プログラム・カウンタ	プログラム実行中の命令アドレスを保持

備考　アセンブラやCコンパイラで使用されるr1, r3-r5, r31の詳細な説明は，CA850（Cコンパイラ・パッケージ）　ユーザーズ・マニュアル　アセンブリー言語編を参照してください。

(2) プログラム・カウンタ（PC）

プログラム実行中の命令アドレスを保持します。下位26ビットが有効で，ビット31-26は0に固定されます。ビット25からビット26へのキャリーがあっても無視します。

また，ビット0は0に固定されており，奇数番地への分岐はできません。



3. 2. 2　システム・レジスタ・セット

システム・レジスタは，CPUの状態制御，割り込み情報保持などを行います。

システム・レジスタへのリード／ライトは，システム・レジスタ・ロード／ストア命令（LDSR, STSR命令）により，次に示すシステム・レジスタ番号を設定することで行います。

表3－2　システム・レジスタ番号

システム・レジスタ番号	システム・レジスタ名称	オペランド指定の可否	
		LDSR命令	STSR命令
0	割り込み時状態退避レジスタ（EIPC）注1	○	○
1	割り込み時状態退避レジスタ（EIPSW）注1	○	○
2	NMI時状態退避レジスタ（FEPC）注1	○	○
3	NMI時状態退避レジスタ（FEPSW）注1	○	○
4	割り込み要因レジスタ（ECR）	×	○
5	プログラム・ステータス・ワード（PSW）	○	○
6-15	将来の機能拡張のための予約番号（アクセスした場合の動作は保証しません）	×	×
16	CALLT実行時状態退避レジスタ（CTPC）	○	○
17	CALLT実行時状態退避レジスタ（CTPSW）	○	○
18	例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ（DBPC）	○注2	○注2
19	例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ（DBPSW）	○注2	○注2
20	CALLTベース・ポインタ（CTBP）	○	○
21-31	将来の機能拡張のための予約番号（アクセスした場合の動作は保証しません）	×	×

注1.　これらのレジスタは1組しかないため，多重割り込みを許す場合はプログラムでこのレジスタを退避する必要があります。

2.　DBTRAP命令または不正命令コードを実行してからDBRET命令を実行するまでの期間だけアクセス可能です。

注意　LDSR命令によりEIPCかFEPC，またはCTPCのビット0をセット（1）しても，割り込み処理後のRETI命令で復帰するときにビット0は無視されます（PCのビット0を0固定してあるため）。EIPC，FEPC，CTPCに値を設定する場合は，偶数値（ビット0 = 0）を設定してください。

備考　○：アクセス可能
　　×：アクセス禁止

(1) **割り込み時状態退避レジスタ（**EIPC, EIPSW**）**

割り込み時状態退避レジスタには，EIPCとEIPSWがあります。

ソフトウエア例外やマスカブル割り込みが発生した場合，プログラム・カウンタ（PC）の内容がEIPCに，プログラム・ステータス・ワード（PSW）の内容がEIPSWに退避されます（ノンマスカブル割り込み（NMI）発生時には，NMI時状態退避レジスタ（FEPC, FEPSW）に退避されます）。

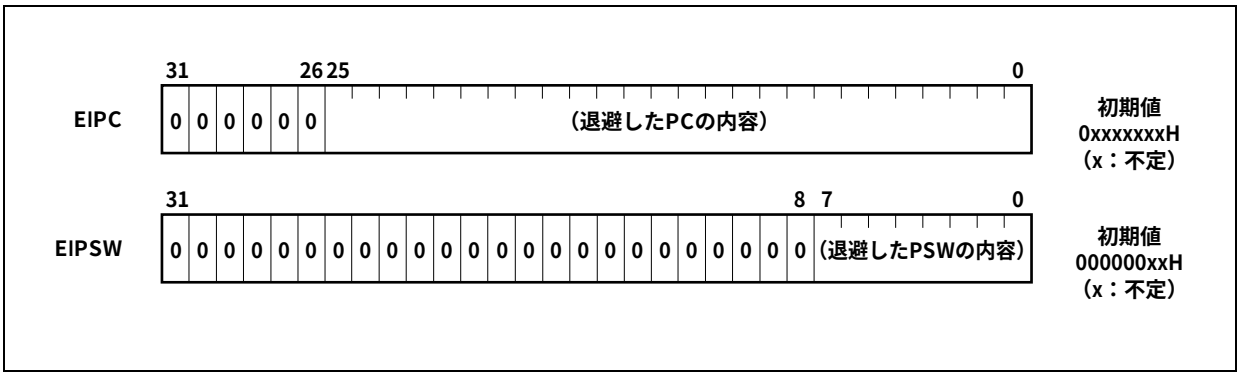
EIPCには，一部の命令（19. 8　CPUが割り込みを受け付けない期間参照）を除き，ソフトウエア例外やマスカブル割り込みが発生したときに実行していた命令の次の命令のアドレスが退避されます。

EIPSWには，現在のPSWの内容が退避されます。

割り込み時状態退避レジスタは1組しかないため，多重割り込みを行う場合はプログラムによってこれらのレジスタの内容を退避する必要があります。

なお，EIPCのビット31-26とEIPSWのビット31-8は，将来の機能拡張のために予約されています（0に固定）。

RETI命令により，EIPCの値はPCへ，EIPSWの値はPSWへ復帰します。



(2) NMI時状態退避レジスタ（FEPC, FEPSW）

NMI時状態退避レジスタには，FEPCとFEPSWがあります。

ノンマスカブル割り込み（NMI）が発生した場合，プログラム・カウンタ（PC）の内容がFEPCに，プログラム・ステータス・ワード（PSW）の内容がFEPSW に退避されます。

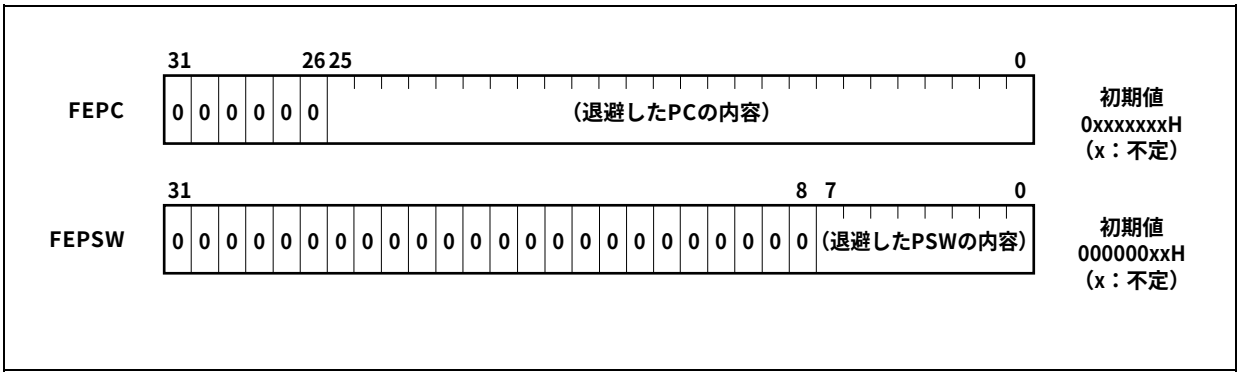
FEPCには，一部の命令を除き，NMIが発生したときに実行していた命令の次の命令のアドレスが退避されます。

FEPSWには，現在のPSWの内容が退避されます。

NMI時状態退避レジスタは1組しかないため，多重割り込みを行う場合はプログラムによってこれらのレジスタの内容を退避する必要があります。

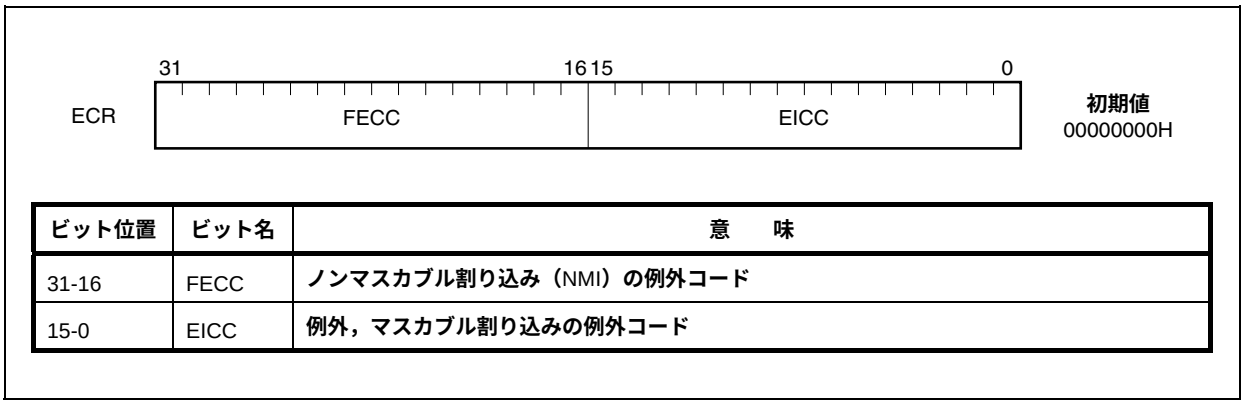
なお，FEPCのビット31-26とFEPSWのビット31-8は，将来の機能拡張のために予約されています（0に固定）。

RETI命令により，FEPCの値はPCへ，FEPSWの値はPSWへ復帰します。



(3) 割り込み要因レジスタ（ECR）

割り込み要因レジスタ（ECR）は，例外や割り込みが発生した場合に，その要因を保持するレジスタです。ECRが保持する値は，割り込み要因ごとにコード化された例外コードです。なお，このレジスタは読み出し専用のため，LDSR命令を使ってこのレジスタにデータを書き込むことはできません。



ビット位置	ビット名	意　味
31-16	FECC	ノンマスカブル割り込み（NMI）の例外コード
15-0	EICC	例外，マスカブル割り込みの例外コード

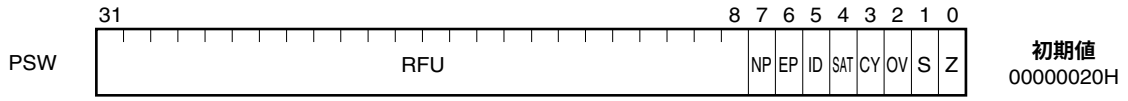
(4) プログラム・ステータス・ワード（PSW）

プログラム・ステータス・ワード（PSW）は，プログラムの状態（命令実行の結果）やCPUの状態を示すフラグの集合です。

LDSR命令を使用してこのレジスタの各ビットの内容を変更した場合は，LDSR命令実行終了直後から変更内容が有効となります。ただし，IDフラグをセット（1）する場合，LDSR命令実行中から割り込み要求の受け付けを禁止します。

なお，ビット31-8は，将来の機能拡張のために予約されています（0に固定）。

(1/2)



ビット位置	フラグ名	意　味
31-8	RFU	予約フィールドです。“0”に固定されています。
7	NP	ノンマスカブル割り込み（NMI）処理中であることを示します。NMI要求が受け付けられるとセット“1”され，多重割り込みを禁止します。 0：NMI処理中でない。 1：NMI処理中である。
6	EP	例外処理中であることを示します。例外の発生でセット“1”されます。なお，このビットがセットされても割り込み要求は受け付けます。 0：例外処理中でない。 1：例外処理中である。
5	ID	マスカブル割り込み要求を受け付ける状態かどうかを示します。 0：割り込み可 1：割り込み不可
4	SAT注	飽和演算命令の演算結果がオーバフローし，演算結果が飽和していることを示します。累積フラグのため，飽和演算命令で演算結果が飽和するとセット“1”され，以降の命令の演算結果が飽和しなくてもクリア“0”されません。クリア“0”する場合は，LDSR命令により行います。なお，算術演算命令の実行では，セット“1”もクリア“0”も行いません。 0：飽和していない。 1：飽和している。
3	CY	演算結果にキャリー，またはボローがあったかどうかを示します。 0：キャリー，またはボローは発生していない。 1：キャリー，またはボローが発生した。
2	OV注	演算中にオーバフローが発生したかどうかを示します。 0：オーバフローは発生していない。 1：オーバフローが発生した。
1	S注	演算の結果が負かどうかを示します。 0：演算の結果は，正または0であった。 1：演算の結果は負であった。
0	Z	演算の結果が0かどうかを示します。 0：演算の結果は0でなかった。 1：演算の結果は0であった。

備考　注の説明は次ページに記載しています。

(2/2)

注　飽和演算時の OV フラグと S フラグの内容で飽和処理した演算結果が決まります。また，飽和演算時に OV フラグがセット（1）された場合だけ，SAT フラグはセット（1）されます。

演算結果の状態	フラグの状態			飽和処理をした演算結果
	SAT	OV	S	
正の最大値を越えた	1	1	0	7FFFFFFFH
負の最大値を越えた	1	1	1	80000000H
正（最大値を越えない）	演算前の値を保持	0	0	演算結果そのもの
負（最大値を越えない）			1	

(5) CALLT実行時状態退避レジスタ（CTPC, CTPSW）

CALLT実行時状態退避レジスタには，CTPCとCTPSWがあります。

CALLT命令が実行されると，プログラム・カウンタ（PC）の内容がCTPCに，プログラム・ステータス・ワード（PSW）の内容がCTPSWに退避されます。

CTPCに退避される内容は，CALLT命令の次の命令のアドレスです。

CTPSWには，現在のPSWの内容が退避されます。

なお，CTPCのビット31-26とCTPSWのビット31-8は，将来の機能拡張のために予約されています（“0”に固定）。

(6) 例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ（DBPC, DBPSW）

例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタとして，DBPCとDBPSWがあります。

例外トラップ，またはデバッグ・トラップが発生すると，プログラム・カウンタ（PC）の内容がDBPC に，プログラム・ステータス・ワード（PSW）の内容がDBPSWに退避されます。

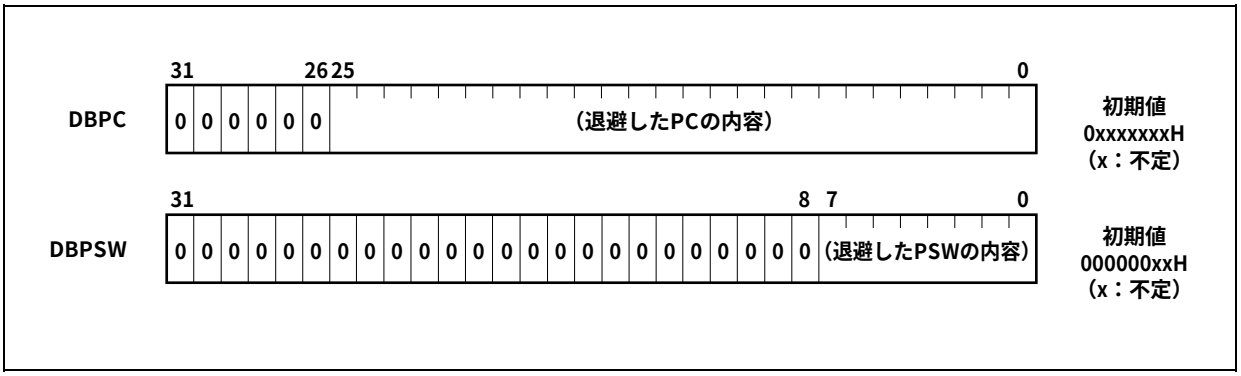
DBPCに退避される内容は，例外トラップ，またはデバッグ・トラップが発生したときに実行していた命令の次の命令のアドレスです。

DBPSWには，現在のPSWの内容が退避されます。

このレジスタへのリード／ライトは，DBTRAP命令または不正命令コードを実行してからDBRET命令を実行するまでの期間だけ可能です。

なお，DBPCのビット31-26とDBPSWのビット31-8は，将来の機能拡張のために予約されています（“0”に固定）。

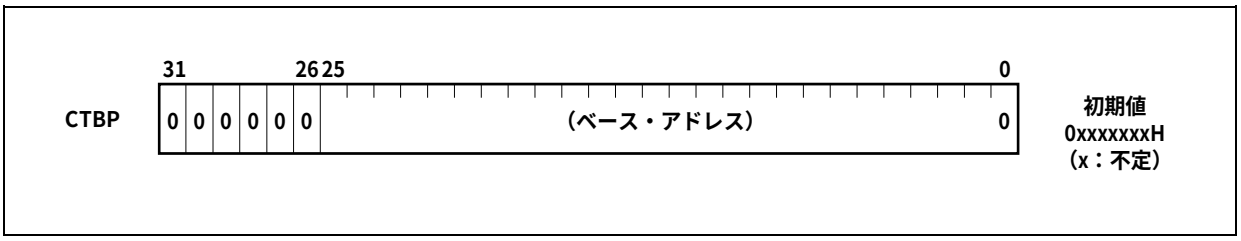
DBRET命令により，DBPCの値はPCへ，DBPSWの値はPSWへ復帰します。



(7) CALLTベース・ポインタ（CTBP）

CALLTベース・ポインタ（CTBP）は，テーブル・アドレスの指定，ターゲット・アドレスの生成に使用されます（ビット0は“0”に固定）。

なお，ビット31-26は，将来の機能拡張のために予約されています（“0”に固定）。



3. 3　動作モード

V850ES/JJ3は次に示す動作モードを備えます。

(1) 通常動作モード

システム・リセット解除後，バス・インタフェース関連の各端子はポート・モードになり，内蔵ROMのリセット・エントリ・アドレスに分岐し，命令処理を開始します。

(2) フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード

このモードを指定すると，フラッシュ・ライタによる内蔵フラッシュ・メモリへのプログラム動作が可能になります。

(3) オンチップ・デバッグ・モード

JTAG（Joint Test Action Group）の通信仕様を利用したオンチップ・デバッグ機能を内蔵しています。

詳細は第28章　オンチップ・デバッグ機能を参照してください。

3. 3. 1　動作モード指定

FLMD0, FLMD1端子の状態により，動作モードを指定します。

通常モード時は，リセット解除時に，FLMD0端子にロウ・レベルを入力してください。

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時のFLMD0端子へのハイ・レベル入力は，フラッシュ・ライタ接続時はフラッシュ・ライタから行いますが，セルフ・プログラミング時は外部回路で行ってください。

リセット解除時の動作		リセット後の動作モード
FLMD0	FLMD1	
L	×	通常動作モード
H	L	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード
H	H	設定禁止

備考　L：ロウ・レベル入力

H：ハイ・レベル入力

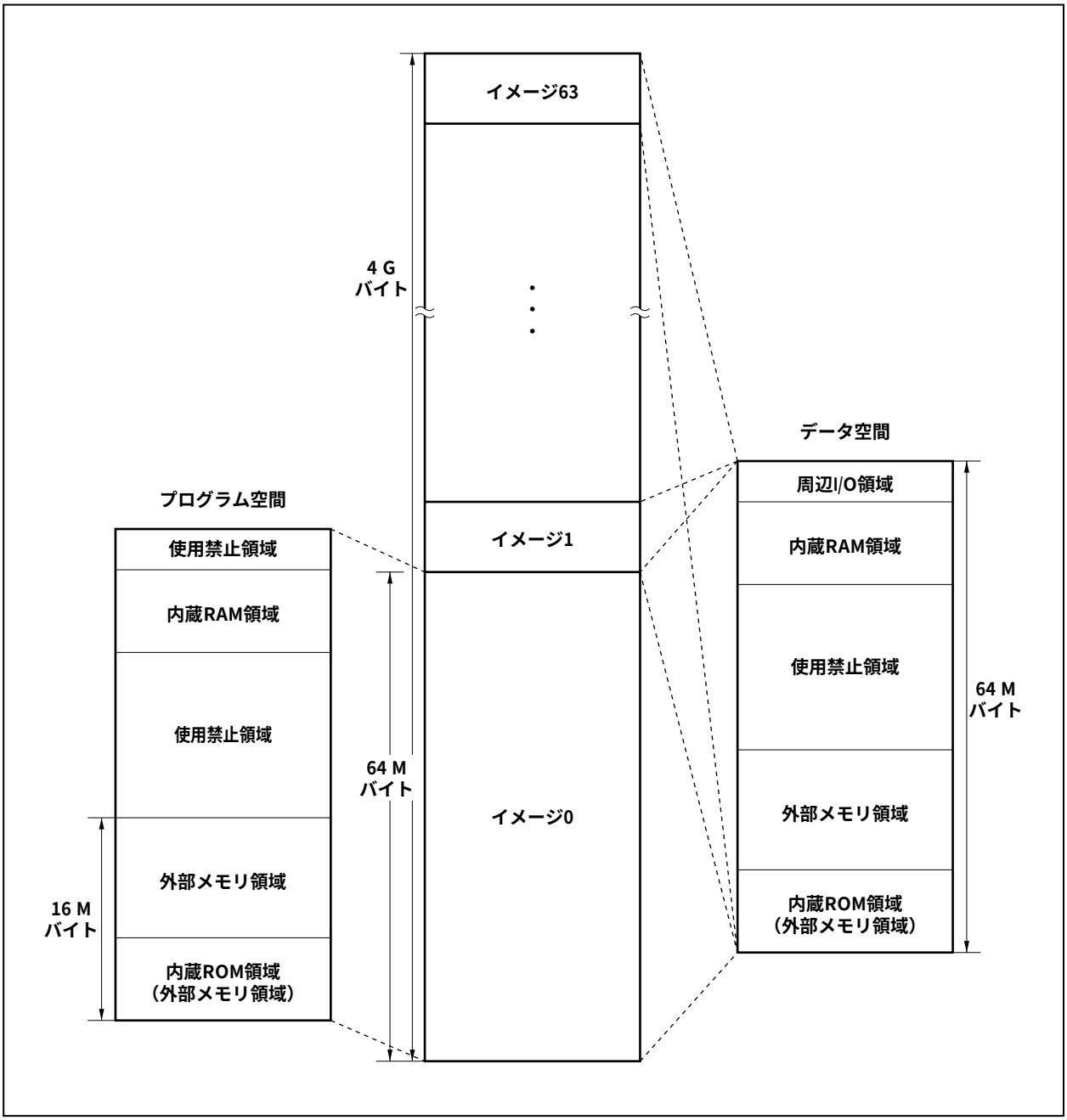
×：任意

3. 4　アドレス空間

3. 4. 1　CPUアドレス空間

命令アドレスのアドレシングにおいては，最大で64 Mバイトのリニア・アドレス空間（プログラム空間）のうち最大16 Mバイトの外部メモリ領域および内蔵ROM領域と，内蔵RAM領域をサポートしています。オペランド・アドレシング（データ・アクセス）においては，最大4 Gバイトのリニア・アドレス空間（データ空間）をサポートしています。ただし，4 Gバイトのアドレス空間には64 Mバイトの物理アドレス空間が64個のイメージとして見えます。つまり，ビット31-26がどのような値でも，同じ64 Mバイトの物理アドレス空間をアクセスします。

図3－1　アドレス空間上のイメージ



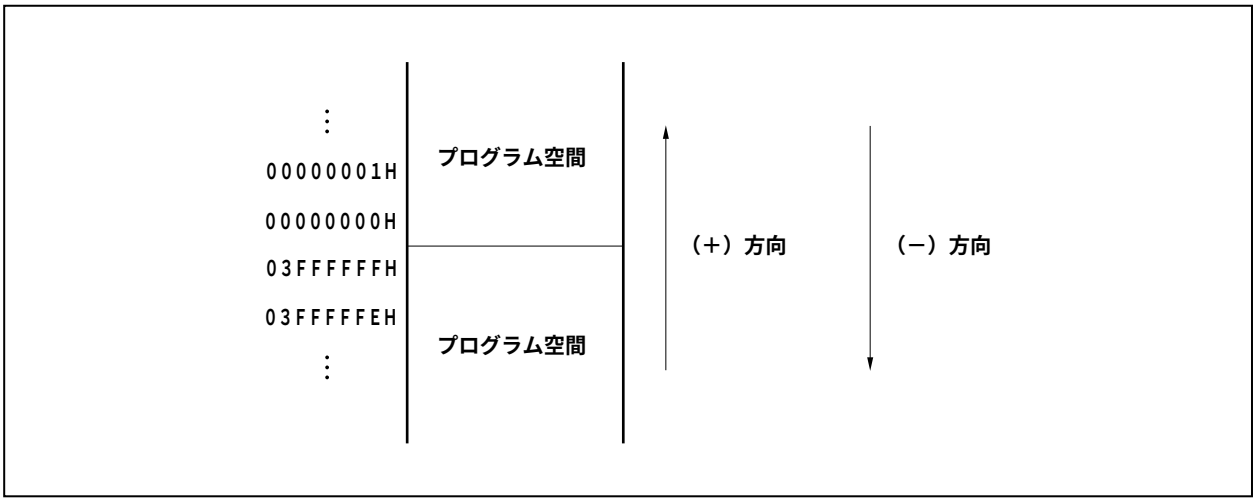
3. 4. 2　CPUアドレス空間のラップ・アラウンド

(1) プログラム空間

PC（プログラム・カウンタ）は32ビットのうち上位6ビットが0固定で，下位26ビットだけ有効です。分岐アドレス計算などでビット25からビット26に対するキャリーまたはボローがあっても上位6ビットはこれを無視します。

したがって，プログラム空間の上限である03FFFFFFH番地と，下限である00000000H番地は連続したアドレスとなります。このようにメモリ空間の上限と下限が連続したアドレスになることをラップ・アラウンドといいます。

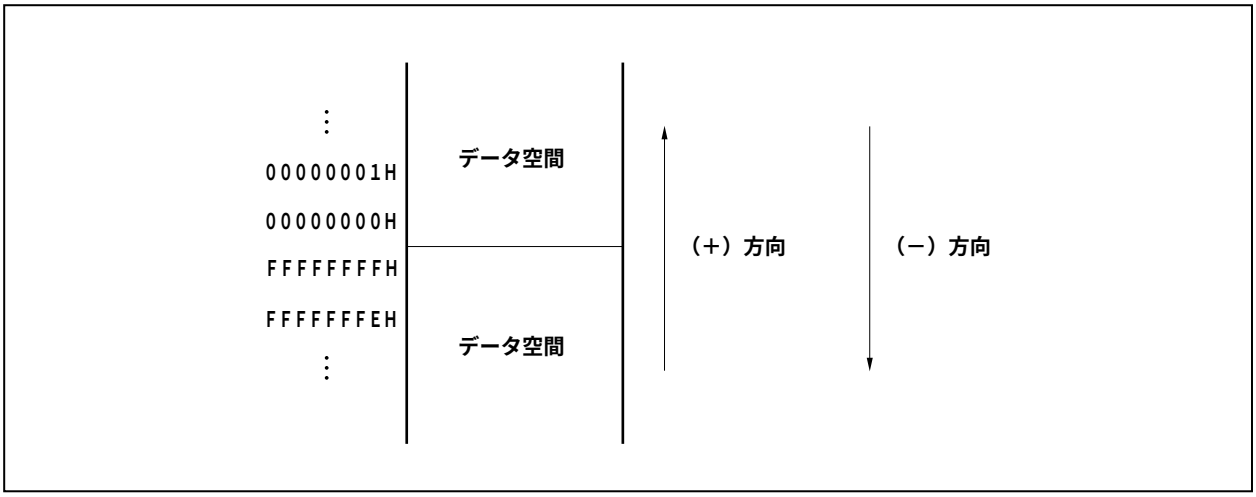
注意　03FFF000H-03FFFFFFHの4 Kバイトの領域は，内蔵周辺I/O領域のため，命令フェッチすることができません。したがって，分岐アドレス計算の結果がこの領域にかかるような操作はしないようにしてください。



(2) データ空間

オペランド・アドレス計算で32ビットを越える演算結果は無視します。

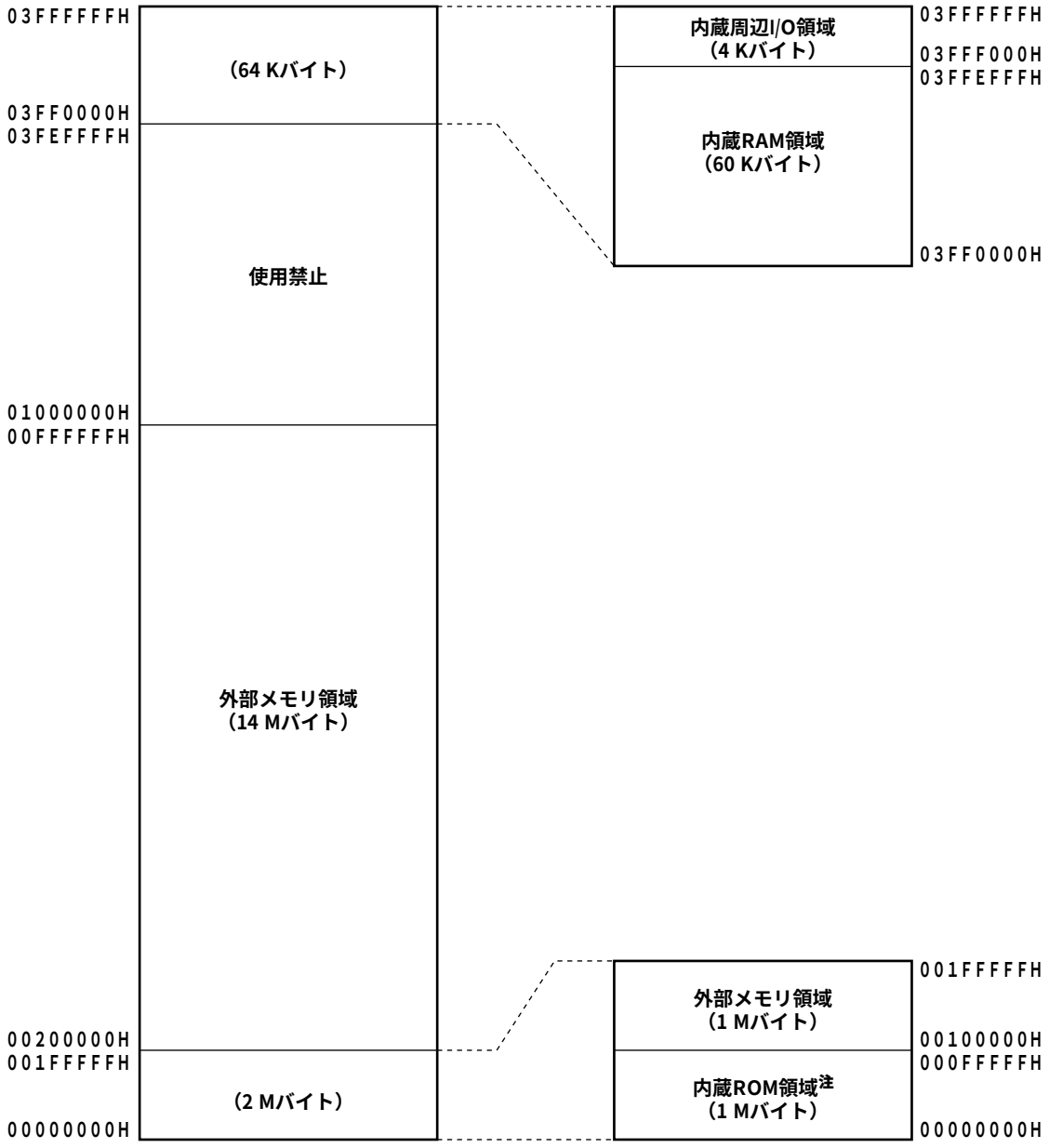
したがって，データ空間の上限であるFFFFFFFFH番地と，下限である00000000H番地は連続したアドレスになり，この境界でラップ・アラウンドします。



3. 4. 3 メモリ・マップ

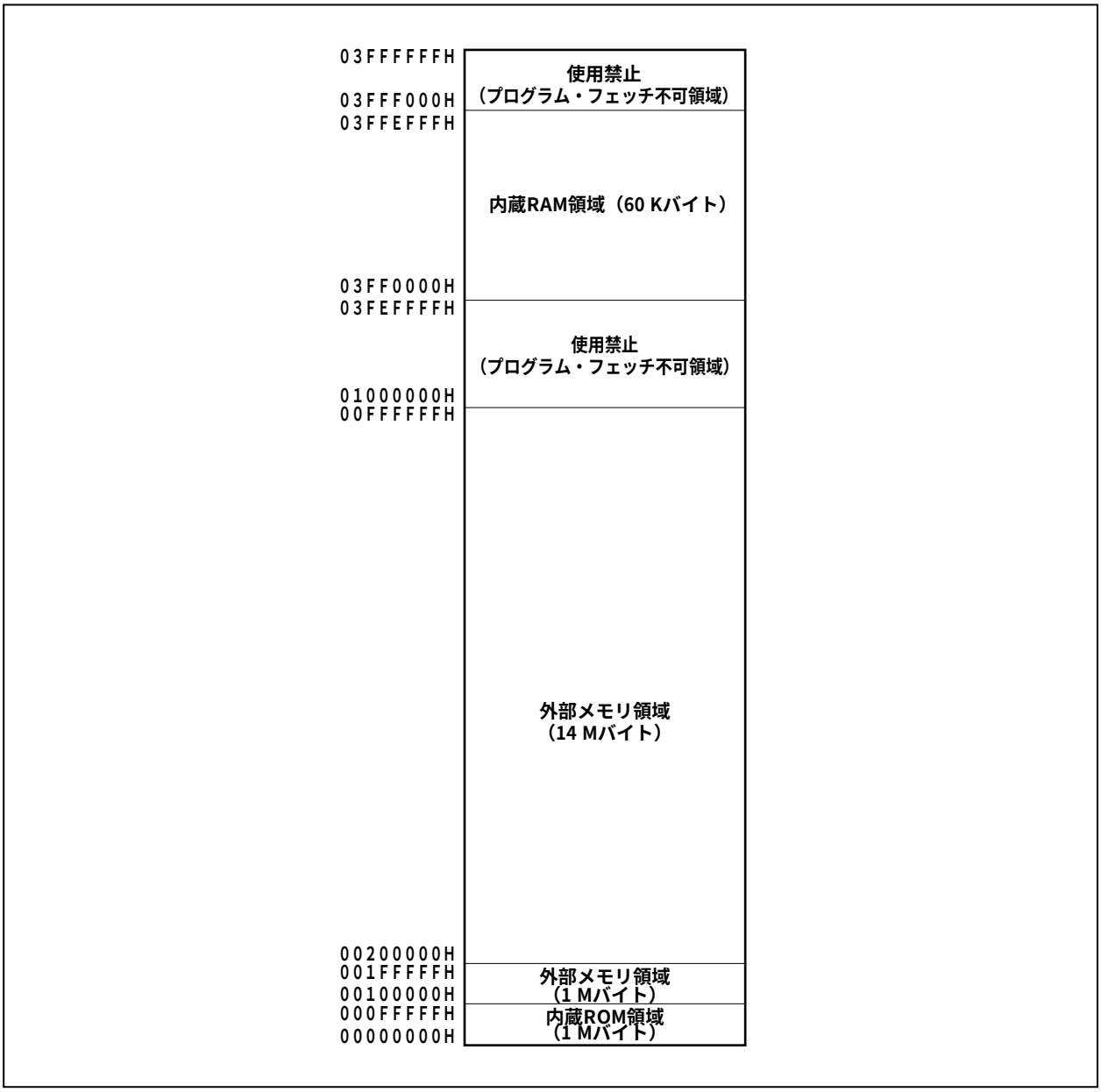
V850ES/JJ3では，次に示すように各領域を予約しています。

図3－2 データ・メモリ・マップ（物理アドレス）



注 00000000H-000FFFFFH番地へのフェッチ・アクセスおよびリード・アクセスは内蔵ROM領域に対して行われますが，データ・ライト・アクセス時は外部メモリ領域に対して行われます。

図3－3　プログラム・メモリ・マップ



3. 4. 4　領　　域

(1) 内蔵ROM領域

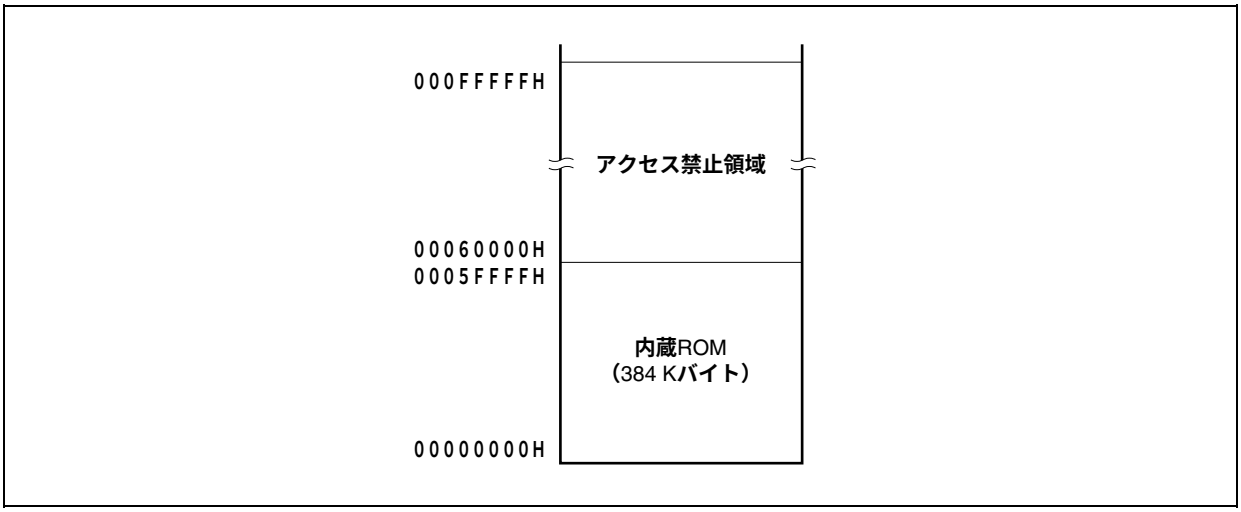
内蔵ROM領域は，最大1 Mバイトが予約されています。

(a) 内蔵ROM（384 Kバイト）

μPD70F3743には00000000Hから0005FFFFH番地に384 Kバイト実装しています。

00060000Hから000FFFFFH番地はアクセス禁止領域です。

図3－4　内蔵ROM領域（384 Kバイト）

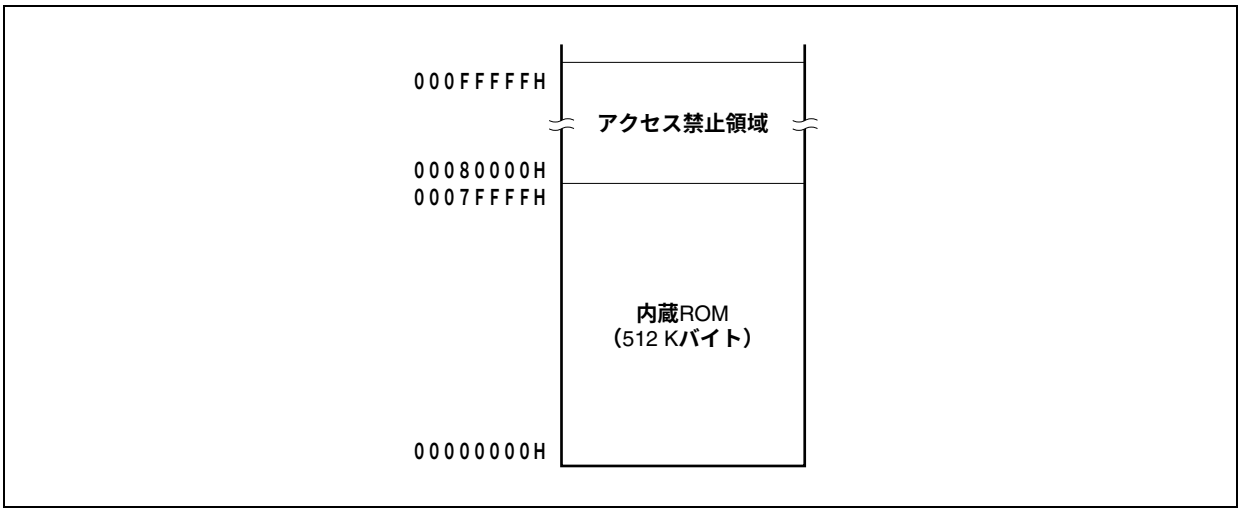


(b) 内蔵ROM（512 Kバイト）

μPD70F3744には00000000Hから0007FFFFH番地に512 Kバイト実装しています。

00080000Hから000FFFFFH番地はアクセス禁止領域です。

図3－5　内蔵ROM領域（512 Kバイト）

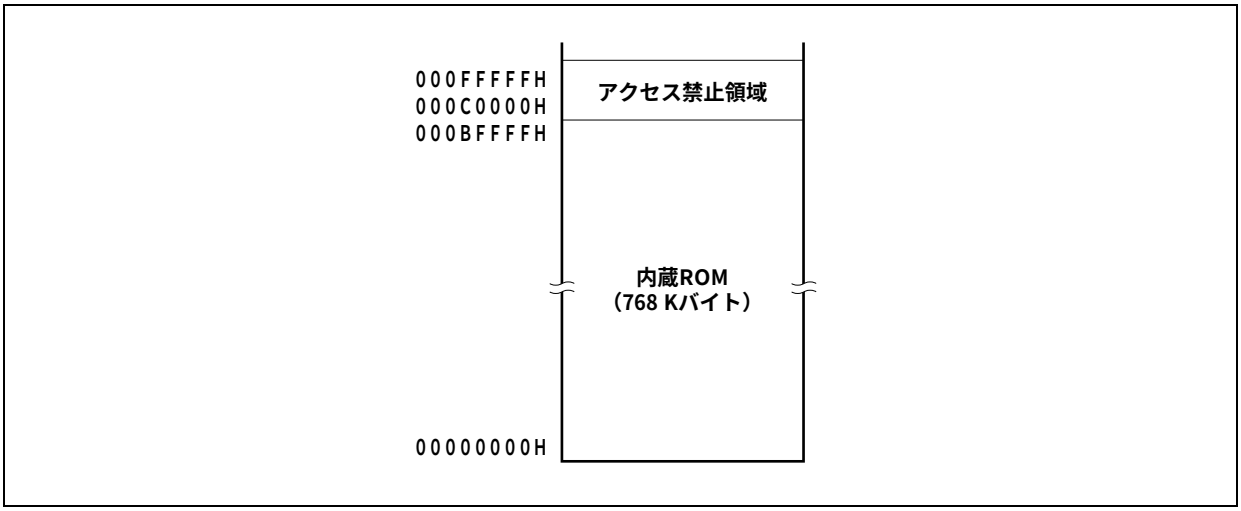


(c) 内蔵ROM**（**768 K**バイト）**

μPD70F3745**には**00000000H**から**000BFFFFH**番地に**768 K**バイト実装しています。**

000C0000H**から**000FFFFFH**番地はアクセス禁止領域です。**

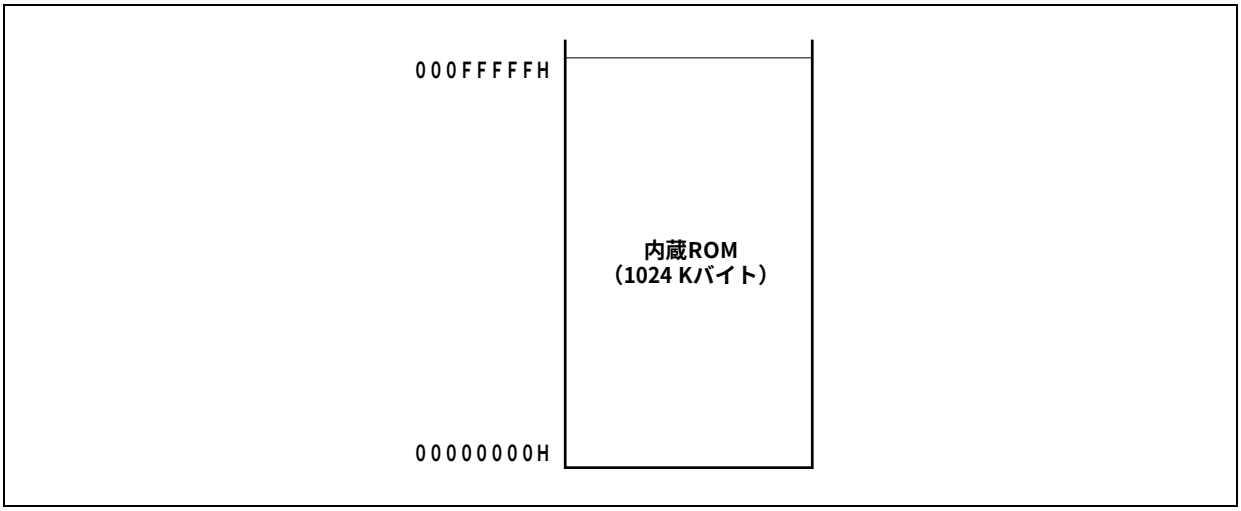
図3**ー**6　**内蔵**ROM**領域（**768 K**バイト）**



(d) 内蔵ROM**（**1024 K**バイト）**

μPD70F3746**には**00000000H**から**000FFFFFH**番地に**1024 K**バイト実装しています。**

図3**ー**7　**内蔵**ROM**領域（**1024 K**バイト）**



(2) 内蔵RAM領域

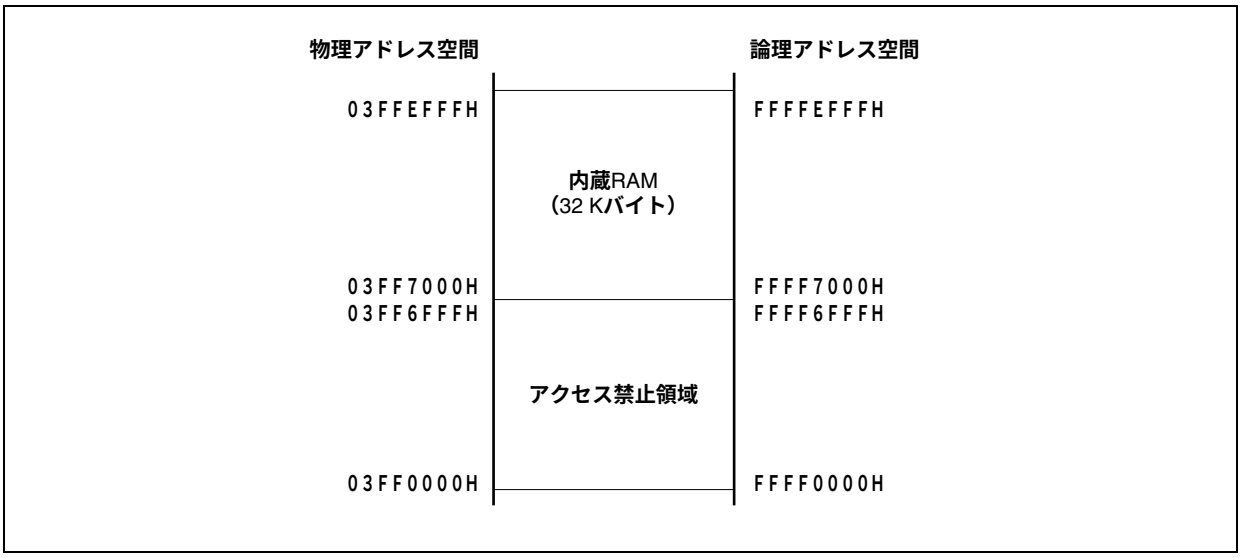
内蔵RAM領域は，最大60 Kバイトが予約されています。

(a) 内蔵RAM（32 Kバイト）

μPD70F3743には03FF7000Hから03FFEFFFH番地に32 Kバイト実装しています。

03FF0000Hから03FF6FFFH番地はアクセス禁止領域です。

図3－8　内蔵RAM領域（32 Kバイト）

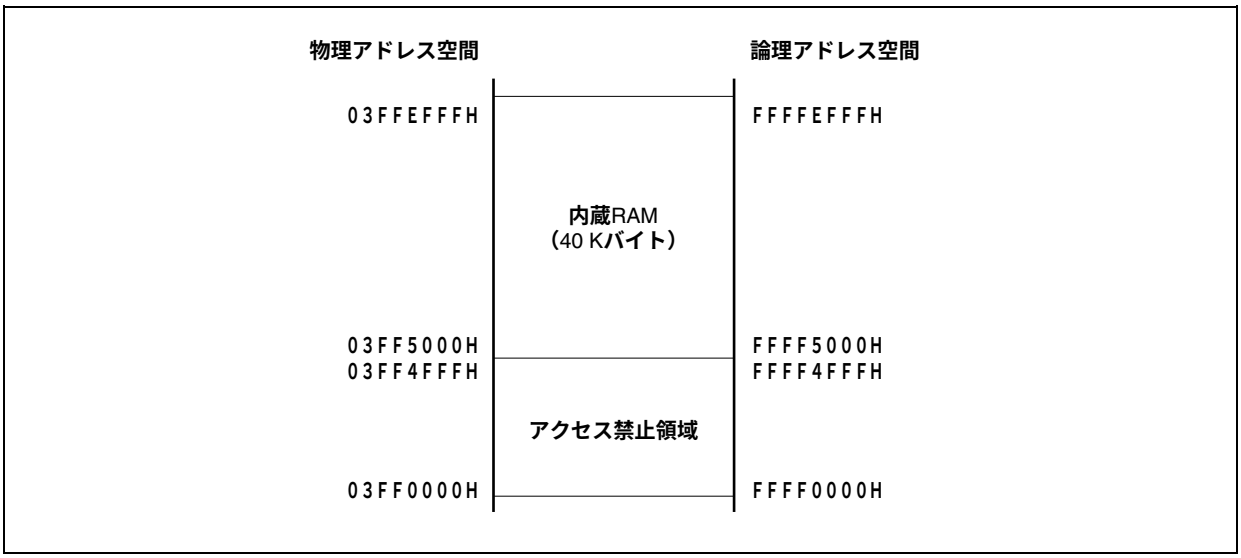


(b) 内蔵RAM（40 Kバイト）

μPD70F3744には03FF5000Hから03FFEFFFH番地に40 Kバイト実装しています。

03FF0000Hから03FF4FFFH番地はアクセス禁止領域です。

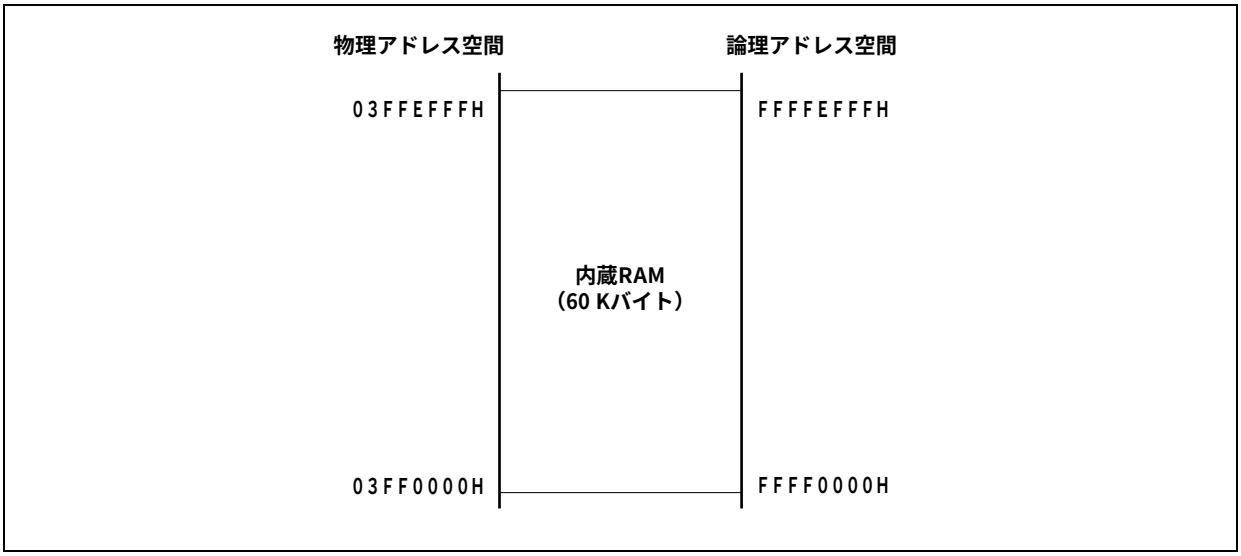
図3－9　内蔵RAM領域（40 Kバイト）



（c）内蔵RAM**（**60 K**バイト）**

μPD70F3745, 70F3746**には**03FF0000H**から**03FFEFFFH**番地に**60 K**バイト実装しています。**

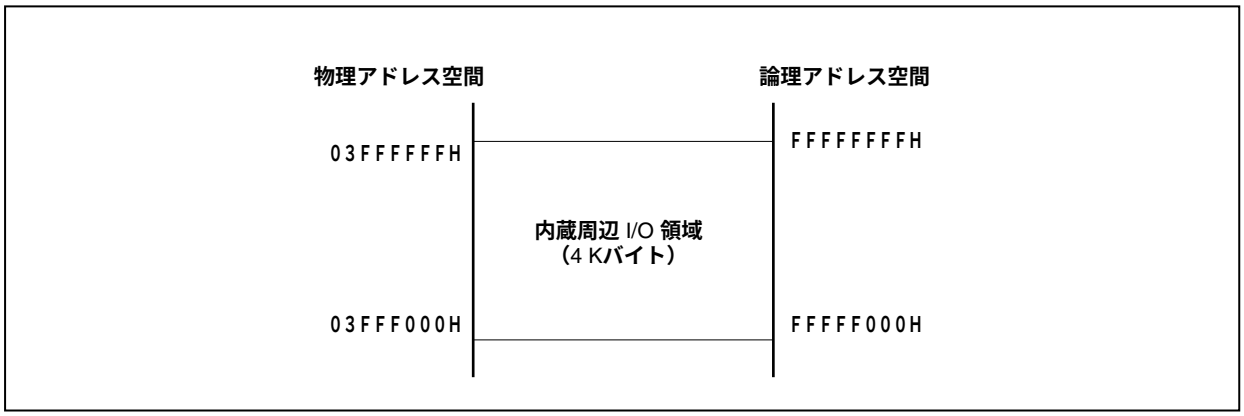
図3**ー**10　**内蔵**RAM**領域（**60 K**バイト）**



(3) 内蔵周辺I/O領域

内蔵周辺I/O領域として03FFF000H-03FFFFFFH番地の4 Kバイトを予約しています。

図3－11　内蔵周辺I/O領域



内蔵周辺I/O領域には，内蔵周辺I/Oの動作モード指定，状態モニタリングなどの機能を割り付けた周辺I/Oレジスタがマッピングされています。これらの領域からはプログラム・フェッチを行うことができません。

注意1. レジスタにワード・アクセスを行うと，アドレスの下位2ビットを無視したワード領域に対し下位，上位の順番でハーフワード・アクセスを2回行います。

2. バイト・アクセス可能なレジスタにハーフワード・アクセスした場合，リード時は上位8ビットが不定になり，ライト時は下位8ビット・データがレジスタに書き込まれます。

3. レジスタとして定義されていないアドレスは，将来の拡張用に予約されており，アクセスした場合の動作は不定であり，保証しません。

(4) 外部メモリ領域

外部メモリ領域として15 Mバイト（00100000H-00FFFFFFH）あります。詳細は第5章　バス制御機能を参照してください。

3. 4. 5　アドレス空間の推奨使用方法

V850ES/JJ3のアーキテクチャでは，データ空間のオペランド・データ・アクセスを行うときに必ずポインタとなるレジスタをアドレス生成用に確保する必要があります。このポインタ用レジスタに入れたアドレスの±32 Kバイトには，命令から直接オペランド・データ・アクセスが行えます。しかし，ポインタ用レジスタとして使う汎用レジスタには限りがあるため，ポインタ値を変更する際のアドレス計算による性能ダウンを極力抑えるようにすることで，変数用の汎用レジスタを最大限に確保し，かつプログラム・サイズを抑えることができます。

(1) プログラム空間

PC（プログラム・カウンタ）は，32ビットのうち上位6ビットは0に固定であり，下位26ビットだけ有効となります。したがって，プログラム空間に関しては無条件に00000000H番地から連続した64 Mバイト空間がそのままメモリ・マップに対応します。

内蔵RAM領域をプログラム空間として使用する場合は，次の番地に対してアクセスしてください。

注意　内蔵RAM領域の上限に分岐命令がある場合，内蔵周辺I/O領域にまたがるプリフェッチ動作（無効フェッチ）は発生しません。

RAMサイズ	アクセス番地
60 Kバイト	03FF0000H-03FFEFFFH
40 Kバイト	03FF5000H-03FFEFFFH
32 Kバイト	03FF7000H-03FFEFFFH

(2) データ空間

V850ES/JJ3では，4 GバイトのCPUアドレス空間に64 Mバイトの物理アドレス空間が64個のイメージとして見えるため，この26ビット・アドレスの最上位ビット（ビット25）を32ビット長まで符号拡張したアドレスとして割り当てています。

(a) ラップ・アラウンドを利用した応用例

LD/ST disp16 [R] **命令で**R = r0 **(ゼロ・レジスタ) とした場合，符号拡張した**disp16**により，**00000000H **番地±**32 K**バイトの範囲がアドレシング可能です。内蔵ハードウエアのすべてのリソースについて**1**つのポインタでアドレス指定可能です。**

ゼロ・レジスタ（r0**）はハードウエアでゼロ固定のレジスタであり，ポインタ専用に費やすレジスタは実質不要となります。**

例　μPD70F3746**の場合**

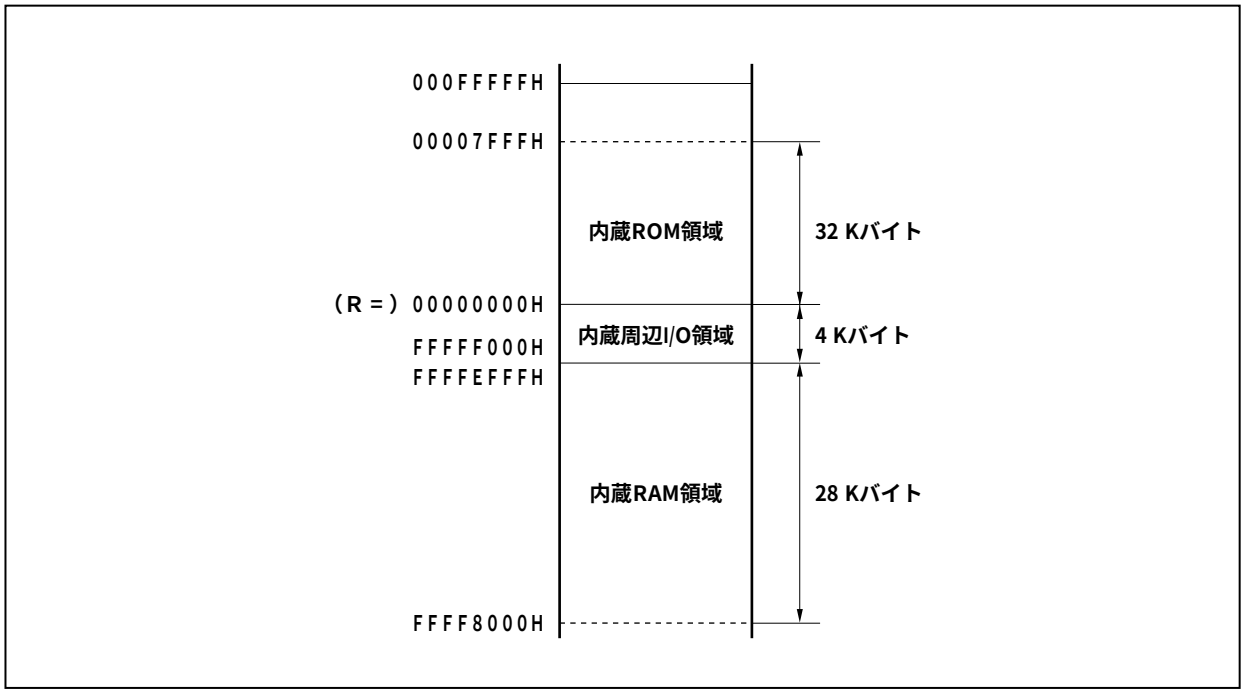
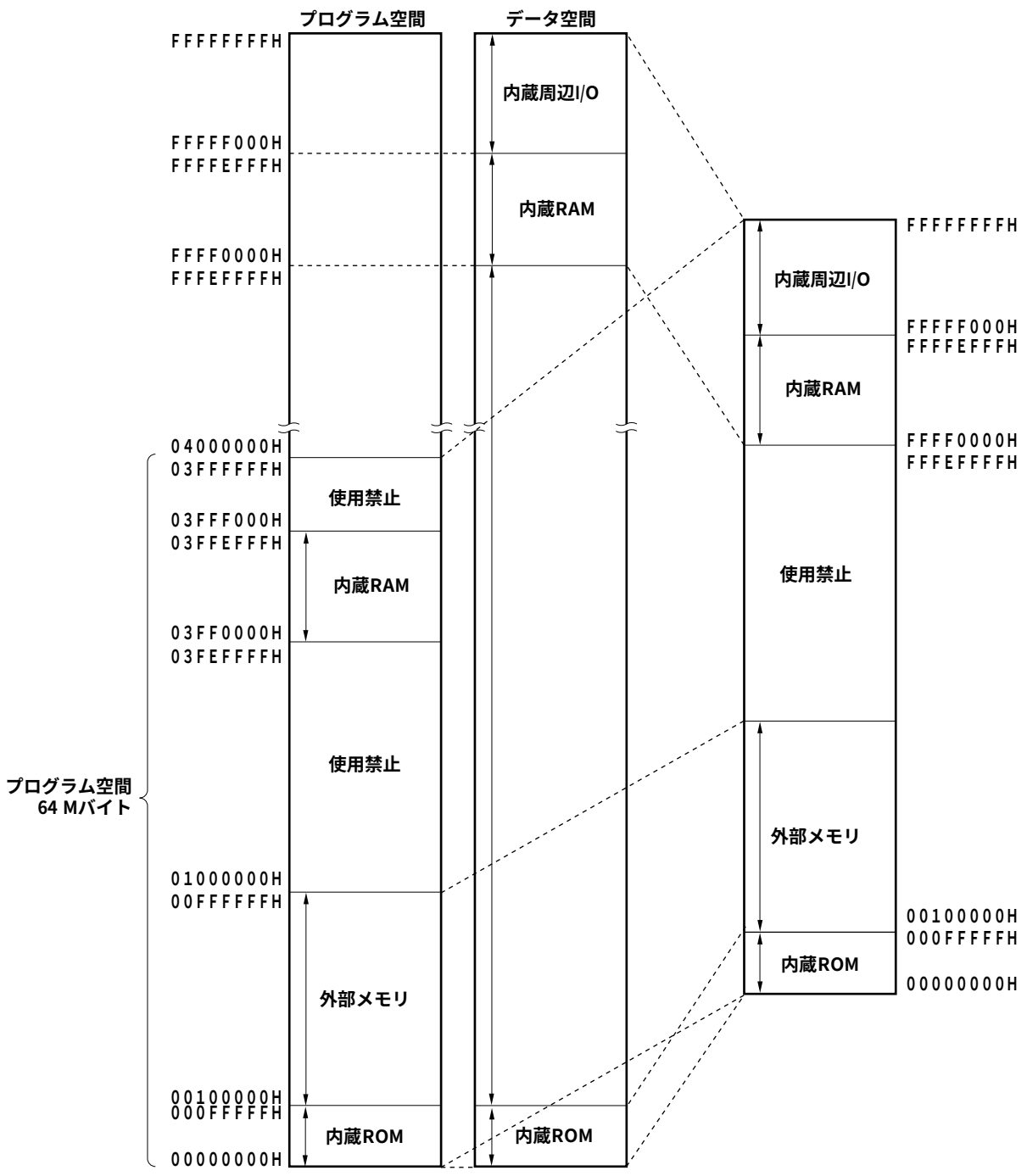


図3ー12 推奨メモリ・マップ



備考1. ↕ は推奨使用領域です。

2. この図はμPD70F3746の場合の推奨メモリ・マップです。

3. 4. 6 周辺I/Oレジスタ

(1/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF004H	ポートDLレジスタ	PDL	R/W			○	0000H注
FFFFF004H	ポートDLLレジスタ	PDLL		○	○		00H注
FFFFF005H	ポートDLHレジスタ	PDLH		○	○		00H注
FFFFF006H	ポートDHレジスタ	PDH		○	○		00H注
FFFFF008H	ポートCSレジスタ	PCS		○	○		00H注
FFFFF00AH	ポートCTレジスタ	PCT		○	○		00H注
FFFFF00CH	ポートCMレジスタ	PCM		○	○		00H注
FFFFF00EH	ポートCDレジスタ	PCD		○	○		00H注
FFFFF024H	ポートDLモード・レジスタ	PMDL				○	FFFFH
FFFFF024H	ポートDLモード・レジスタL	PMDLL		○	○		FFH
FFFFF025H	ポートDLモード・レジスタH	PMDLH		○	○		FFH
FFFFF026H	ポートDHモード・レジスタ	PMDH		○	○		FFH
FFFFF028H	ポートCSモード・レジスタ	PMCS		○	○		FFH
FFFFF02AH	ポートCTモード・レジスタ	PMCT		○	○		FFH
FFFFF02CH	ポートCMモード・レジスタ	PMCM		○	○		FFH
FFFFF02EH	ポートCDモード・レジスタ	PMCD		○	○		FFH
FFFFF044H	ポートDLモード・コントロール・レジスタ	PMCDL				○	0000H
FFFFF044H	ポートDLモード・コントロール・レジスタL	PMCDLL		○	○		00H
FFFFF045H	ポートDLモード・コントロール・レジスタH	PMCDLH		○	○		00H
FFFFF046H	ポートDHモード・コントロール・レジスタ	PMCDH		○	○		00H
FFFFF048H	ポートCSモード・コントロール・レジスタ	PMCCS		○	○		00H
FFFFF04AH	ポートCTモード・コントロール・レジスタ	PMCCT		○	○		00H
FFFFF04CH	ポートCMモード・コントロール・レジスタ	PMCCM		○	○		00H
FFFFF066H	バス・サイズ・コンフィギュレーション・レジスタ	BSC				○	5555H
FFFFF06EH	システム・ウエイト・コントロール・レジスタ	VSWC			○		77H
FFFFF080H	DMAソース・アドレス・レジスタ0L	DSA0L				○	不定
FFFFF082H	DMAソース・アドレス・レジスタ0H	DSA0H				○	不定
FFFFF084H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0L	DDA0L				○	不定
FFFFF086H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0H	DDA0H				○	不定
FFFFF088H	DMAソース・アドレス・レジスタ1L	DSA1L				○	不定
FFFFF08AH	DMAソース・アドレス・レジスタ1H	DSA1H				○	不定
FFFFF08CH	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ1L	DDA1L				○	不定
FFFFF08EH	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ1H	DDA1H				○	不定
FFFFF090H	DMAソース・アドレス・レジスタ2L	DSA2L				○	不定
FFFFF092H	DMAソース・アドレス・レジスタ2H	DSA2H				○	不定
FFFFF094H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ2L	DDA2L				○	不定
FFFFF096H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ2H	DDA2H				○	不定
FFFFF098H	DMAソース・アドレス・レジスタ3L	DSA3L				○	不定
FFFFF09AH	DMAソース・アドレス・レジスタ3H	DSA3H				○	不定
FFFFF09CH	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ3L	DDA3L				○	不定
FFFFF09EH	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ3H	DDA3H				○	不定

注 出力ラッチは00Hまたは0000Hになります。入力時は端子の状態を読み出します。

(2/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF0C0H	DMA転送カウント・レジスタ0	DBC0	R/W			○	不定
FFFFF0C2H	DMA転送カウント・レジスタ1	DBC1				○	不定
FFFFF0C4H	DMA転送カウント・レジスタ2	DBC2				○	不定
FFFFF0C6H	DMA転送カウント・レジスタ3	DBC3				○	不定
FFFFF0D0H	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ0	DADC0				○	0000H
FFFFF0D2H	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ1	DADC1				○	0000H
FFFFF0D4H	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ2	DADC2				○	0000H
FFFFF0D6H	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ3	DADC3				○	0000H
FFFFF0E0H	DMAチャネル・コントロール・レジスタ0	DCHC0		○	○		00H
FFFFF0E2H	DMAチャネル・コントロール・レジスタ1	DCHC1		○	○		00H
FFFFF0E4H	DMAチャネル・コントロール・レジスタ2	DCHC2		○	○		00H
FFFFF0E6H	DMAチャネル・コントロール・レジスタ3	DCHC3		○	○		00H
FFFFF100H	割り込みマスク・レジスタ0	IMR0				○	FFFFH
FFFFF100H	割り込みマスク・レジスタ0L	IMR0L		○	○		FFH
FFFFF101H	割り込みマスク・レジスタ0H	IMR0H		○	○		FFH
FFFFF102H	割り込みマスク・レジスタ1	IMR1				○	FFFFH
FFFFF102H	割り込みマスク・レジスタ1L	IMR1L		○	○		FFH
FFFFF103H	割り込みマスク・レジスタ1H	IMR1H		○	○		FFH
FFFFF104H	割り込みマスク・レジスタ2	IMR2				○	FFFFH
FFFFF104H	割り込みマスク・レジスタ2L	IMR2L		○	○		FFH
FFFFF105H	割り込みマスク・レジスタ2H	IMR2H		○	○		FFH
FFFFF106H	割り込みマスク・レジスタ3	IMR3				○	FFFFH
FFFFF106H	割り込みマスク・レジスタ3L	IMR3L		○	○		FFH
FFFFF107H	割り込みマスク・レジスタ3H	IMR3H		○	○		FFH
FFFFF108H	割り込みマスク・レジスタ4	IMR4				○	FFFFH
FFFFF108H	割り込みマスク・レジスタ4L	IMR4L		○	○		FFH
FFFFF109H	割り込みマスク・レジスタ4H	IMR4H		○	○		FFH
FFFFF110H	割り込み制御レジスタ	LVIIC		○	○		47H
FFFFF112H	割り込み制御レジスタ	PIC0		○	○		47H
FFFFF114H	割り込み制御レジスタ	PIC1		○	○		47H
FFFFF116H	割り込み制御レジスタ	PIC2		○	○		47H
FFFFF118H	割り込み制御レジスタ	PIC3		○	○		47H
FFFFF11AH	割り込み制御レジスタ	PIC4		○	○		47H
FFFFF11CH	割り込み制御レジスタ	PIC5		○	○		47H
FFFFF11EH	割り込み制御レジスタ	PIC6		○	○		47H
FFFFF120H	割り込み制御レジスタ	PIC7		○	○		47H
FFFFF122H	割り込み制御レジスタ	TQ0OVIC		○	○		47H
FFFFF124H	割り込み制御レジスタ	TQ0CCIC0		○	○		47H
FFFFF126H	割り込み制御レジスタ	TQ0CCIC1		○	○		47H
FFFFF128H	割り込み制御レジスタ	TQ0CCIC2		○	○		47H
FFFFF12AH	割り込み制御レジスタ	TQ0CCIC3		○	○		47H
FFFFF12CH	割り込み制御レジスタ	TP0OVIC		○	○		47H
FFFFF12EH	割り込み制御レジスタ	TP0CCIC0		○	○		47H

(3/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF130H	割り込み制御レジスタ	TP0CCIC1	R/W	○	○		47H
FFFFF132H	割り込み制御レジスタ	TP1OVIC		○	○		47H
FFFFF134H	割り込み制御レジスタ	TP1CCIC0		○	○		47H
FFFFF136H	割り込み制御レジスタ	TP1CCIC1		○	○		47H
FFFFF138H	割り込み制御レジスタ	TP2OVIC		○	○		47H
FFFFF13AH	割り込み制御レジスタ	TP2CCIC0		○	○		47H
FFFFF13CH	割り込み制御レジスタ	TP2CCIC1		○	○		47H
FFFFF13EH	割り込み制御レジスタ	TP3OVIC		○	○		47H
FFFFF140H	割り込み制御レジスタ	TP3CCIC0		○	○		47H
FFFFF142H	割り込み制御レジスタ	TP3CCIC1		○	○		47H
FFFFF144H	割り込み制御レジスタ	TP4OVIC		○	○		47H
FFFFF146H	割り込み制御レジスタ	TP4CCIC0		○	○		47H
FFFFF148H	割り込み制御レジスタ	TP4CCIC1		○	○		47H
FFFFF14AH	割り込み制御レジスタ	TP5OVIC		○	○		47H
FFFFF14CH	割り込み制御レジスタ	TP5CCIC0		○	○		47H
FFFFF14EH	割り込み制御レジスタ	TP5CCIC1		○	○		47H
FFFFF150H	割り込み制御レジスタ	TM0EQIC0		○	○		47H
FFFFF152H	割り込み制御レジスタ	CB0RIC/IICIC1		○	○		47H
FFFFF154H	割り込み制御レジスタ	CB0TIC		○	○		47H
FFFFF156H	割り込み制御レジスタ	CB1RIC		○	○		47H
FFFFF158H	割り込み制御レジスタ	CB1TIC		○	○		47H
FFFFF15AH	割り込み制御レジスタ	CB2RIC		○	○		47H
FFFFF15CH	割り込み制御レジスタ	CB2TIC		○	○		47H
FFFFF15EH	割り込み制御レジスタ	CB3RIC		○	○		47H
FFFFF160H	割り込み制御レジスタ	CB3TIC		○	○		47H
FFFFF162H	割り込み制御レジスタ	UA0RIC/CB4RIC		○	○		47H
FFFFF164H	割り込み制御レジスタ	UA0TIC/CB4TIC		○	○		47H
FFFFF166H	割り込み制御レジスタ	UA1RIC/IICIC2		○	○		47H
FFFFF168H	割り込み制御レジスタ	UA1TIC		○	○		47H
FFFFF16AH	割り込み制御レジスタ	UA2RIC/IICIC0		○	○		47H
FFFFF16CH	割り込み制御レジスタ	UA2TIC		○	○		47H
FFFFF16EH	割り込み制御レジスタ	ADIC		○	○		47H
FFFFF170H	割り込み制御レジスタ	DMAIC0		○	○		47H
FFFFF172H	割り込み制御レジスタ	DMAIC1		○	○		47H
FFFFF174H	割り込み制御レジスタ	DMAIC2		○	○		47H
FFFFF176H	割り込み制御レジスタ	DMAIC3		○	○		47H
FFFFF178H	割り込み制御レジスタ	KRIC		○	○		47H
FFFFF17AH	割り込み制御レジスタ	WTIIC		○	○		47H
FFFFF17CH	割り込み制御レジスタ	WTIC		○	○		47H
FFFFF18EH	割り込み制御レジスタ	PIC8		○	○		47H
FFFFF190H	割り込み制御レジスタ	TP6OVIC		○	○		47H
FFFFF192H	割り込み制御レジスタ	TP6CCIC0		○	○		47H
FFFFF194H	割り込み制御レジスタ	TP6CCIC1		○	○		47H

(4/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF196H	割り込み制御レジスタ	TP7OVIC	R/W	○	○		47H
FFFFF198H	割り込み制御レジスタ	TP7CCIC0		○	○		47H
FFFFF19AH	割り込み制御レジスタ	TP7CCIC1		○	○		47H
FFFFF19CH	割り込み制御レジスタ	TP8OVIC		○	○		47H
FFFFF19EH	割り込み制御レジスタ	TP8CCIC0		○	○		47H
FFFFF1A0H	割り込み制御レジスタ	TP8CCIC1		○	○		47H
FFFFF1A2H	割り込み制御レジスタ	CB5RIC		○	○		47H
FFFFF1A4H	割り込み制御レジスタ	CB5TIC		○	○		47H
FFFFF1A6H	割り込み制御レジスタ	UA3RIC		○	○		47H
FFFFF1A8H	割り込み制御レジスタ	UA3TIC		○	○		47H
FFFFF1FAH	インサービス・プライオリティ・レジスタ	ISPR	R	○	○		00H
FFFFF1FCH	コマンド・レジスタ	PRCMD	W		○		不定
FFFFF1FEH	パワー・セーブ・コントロール・レジスタ	PSC	R/W	○	○		00H
FFFFF200H	A/Dコンバータ・モード・レジスタ0	ADA0M0		○	○		00H
FFFFF201H	A/Dコンバータ・モード・レジスタ1	ADA0M1		○	○		00H
FFFFF202H	A/Dコンバータ・チャネル指定レジスタ	ADA0S		○	○		00H
FFFFF203H	A/Dコンバータ・モード・レジスタ2	ADA0M2		○	○		00H
FFFFF204H	パワー・フェイル比較モード・レジスタ	ADA0PFM		○	○		00H
FFFFF205H	パワー・フェイル比較しきい値レジスタ	ADA0PFT		○	○		00H
FFFFF210H	A/D変換結果レジスタ0	ADA0CR0	R			○	不定
FFFFF211H	A/D変換結果レジスタ0H	ADA0CR0H			○		不定
FFFFF212H	A/D変換結果レジスタ1	ADA0CR1				○	不定
FFFFF213H	A/D変換結果レジスタ1H	ADA0CR1H			○		不定
FFFFF214H	A/D変換結果レジスタ2	ADA0CR2				○	不定
FFFFF215H	A/D変換結果レジスタ2H	ADA0CR2H			○		不定
FFFFF216H	A/D変換結果レジスタ3	ADA0CR3				○	不定
FFFFF217H	A/D変換結果レジスタ3H	ADA0CR3H			○		不定
FFFFF218H	A/D変換結果レジスタ4	ADA0CR4				○	不定
FFFFF219H	A/D変換結果レジスタ4H	ADA0CR4H			○		不定
FFFFF21AH	A/D変換結果レジスタ5	ADA0CR5				○	不定
FFFFF21BH	A/D変換結果レジスタ5H	ADA0CR5H			○		不定
FFFFF21CH	A/D変換結果レジスタ6	ADA0CR6				○	不定
FFFFF21DH	A/D変換結果レジスタ6H	ADA0CR6H			○		不定
FFFFF21EH	A/D変換結果レジスタ7	ADA0CR7				○	不定
FFFFF21FH	A/D変換結果レジスタ7H	ADA0CR7H			○		不定
FFFFF220H	A/D変換結果レジスタ8	ADA0CR8				○	不定
FFFFF221H	A/D変換結果レジスタ8H	ADA0CR8H			○		不定
FFFFF222H	A/D変換結果レジスタ9	ADA0CR9				○	不定
FFFFF223H	A/D変換結果レジスタ9H	ADA0CR9H			○		不定
FFFFF224H	A/D変換結果レジスタ10	ADA0CR10				○	不定
FFFFF225H	A/D変換結果レジスタ10H	ADA0CR10H			○		不定
FFFFF226H	A/D変換結果レジスタ11	ADA0CR11				○	不定
FFFFF227H	A/D変換結果レジスタ11H	ADA0CR11H			○		不定

(5/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF228H	A/D変換結果レジスタ12	ADA0CR12	R			○	不定
FFFFF229H	A/D変換結果レジスタ12H	ADA0CR12H			○		不定
FFFFF22AH	A/D変換結果レジスタ13	ADA0CR13				○	不定
FFFFF22BH	A/D変換結果レジスタ13H	ADA0CR13H			○		不定
FFFFF22CH	A/D変換結果レジスタ14	ADA0CR14				○	不定
FFFFF22DH	A/D変換結果レジスタ14H	ADA0CR14H			○		不定
FFFFF22EH	A/D変換結果レジスタ15	ADA0CR15				○	不定
FFFFF22FH	A/D変換結果レジスタ15H	ADA0CR15H			○		不定
FFFFF280H	D/A変換値設定レジスタ0	DA0CS0	R/W		○		00H
FFFFF281H	D/A変換値設定レジスタ1	DA0CS1			○		00H
FFFFF282H	D/Aコンバータ・モード・レジスタ	DA0M		○	○		00H
FFFFF300H	キー・リターン・モード・レジスタ	KRM		○	○		00H
FFFFF308H	セレクタ動作制御レジスタ0	SELCNT0		○	○		00H
FFFFF310H	CRCインプット・レジスタ	CRCIN			○		00H
FFFFF312H	CRCデータ・レジスタ	CRCD				○	0000H
FFFFF318H	ノイズ除去制御レジスタ	NFC			○		00H
FFFFF320H	プリスケーラ・モード・レジスタ1	PRSM1		○	○		00H
FFFFF321H	プリスケーラ・コンペア・レジスタ1	PRSCM1			○		00H
FFFFF324H	プリスケーラ・モード・レジスタ2	PRSM2		○	○		00H
FFFFF325H	プリスケーラ・コンペア・レジスタ2	PRSCM2			○		00H
FFFFF328H	プリスケーラ・モード・レジスタ3	PRSM3		○	○		00H
FFFFF329H	プリスケーラ・コンペア・レジスタ3	PRSCM3			○		00H
FFFFF340H	IIC分周クロック選択レジスタ0	OCKS0			○		00H
FFFFF344H	IIC分周クロック選択レジスタ1	OCKS1			○		00H
FFFFF400H	ポート0レジスタ	P0		○	○		00H注
FFFFF402H	ポート1レジスタ	P1		○	○		00H注
FFFFF406H	ポート3レジスタ	P3				○	0000H注
FFFFF406H	ポート3Lレジスタ	P3L		○	○		00H注
FFFFF407H	ポート3Hレジスタ	P3H		○	○		00H注
FFFFF408H	ポート4レジスタ	P4		○	○		00H注
FFFFF40AH	ポート5レジスタ	P5		○	○		00H注
FFFFF40CH	ポート6レジスタ	P6				○	0000H注
FFFFF40CH	ポート6Lレジスタ	P6L		○	○		00H注
FFFFF40DH	ポート6Hレジスタ	P6H		○	○		00H注
FFFFF40EH	ポート7Lレジスタ	P7L		○	○		00H注
FFFFF40FH	ポート7Hレジスタ	P7H		○	○		00H注
FFFFF410H	ポート8レジスタ	P8		○	○		00H注
FFFFF412H	ポート9レジスタ	P9				○	0000H注
FFFFF412H	ポート9Lレジスタ	P9L		○	○		00H注
FFFFF413H	ポート9Hレジスタ	P9H		○	○		00H注
FFFFF420H	ポート0モード・レジスタ	PM0		○	○		FFH
FFFFF422H	ポート1モード・レジスタ	PM1		○	○		FFH

注 出力ラッチは00Hまたは0000Hになります。入力時は端子の状態を読み出します。

(6/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF426H	ポート3モード・レジスタ	PM3	R/W			○	FFFFH
FFFFF426H	ポート3モード・レジスタL	PM3L		○	○		FFH
FFFFF427H	ポート3モード・レジスタH	PM3H		○	○		FFH
FFFFF428H	ポート4モード・レジスタ	PM4		○	○		FFH
FFFFF42AH	ポート5モード・レジスタ	PM5		○	○		FFH
FFFFF42CH	ポート6モード・レジスタ	PM6				○	FFFFH
FFFFF42CH	ポート6モード・レジスタL	PM6L		○	○		FFH
FFFFF42DH	ポート6モード・レジスタH	PM6H		○	○		FFH
FFFFF42EH	ポート7モード・レジスタL	PM7L		○	○		FFH
FFFFF42FH	ポート7モード・レジスタH	PM7H		○	○		FFH
FFFFF430H	ポート8モード・レジスタ	PM8		○	○		FFH
FFFFF432H	ポート9モード・レジスタ	PM9				○	FFFFH
FFFFF432H	ポート9モード・レジスタL	PM9L		○	○		FFH
FFFFF433H	ポート9モード・レジスタH	PM9H		○	○		FFH
FFFFF440H	ポート0モード・コントロール・レジスタ	PMC0		○	○		00H
FFFFF446H	ポート3モード・コントロール・レジスタ	PMC3				○	0000H
FFFFF446H	ポート3モード・コントロール・レジスタL	PMC3L		○	○		00H
FFFFF447H	ポート3モード・コントロール・レジスタH	PMC3H		○	○		00H
FFFFF448H	ポート4モード・コントロール・レジスタ	PMC4		○	○		00H
FFFFF44AH	ポート5モード・コントロール・レジスタ	PMC5		○	○		00H
FFFFF44CH	ポート6モード・コントロール・レジスタ	PMC6				○	0000H
FFFFF44CH	ポート6モード・コントロール・レジスタL	PMC6L		○	○		00H
FFFFF44DH	ポート6モード・コントロール・レジスタH	PMC6H		○	○		00H
FFFFF450H	ポート8モード・コントロール・レジスタ	PMC8		○	○		00H
FFFFF452H	ポート9モード・コントロール・レジスタ	PMC9				○	0000H
FFFFF452H	ポート9モード・コントロール・レジスタL	PMC9L		○	○		00H
FFFFF453H	ポート9モード・コントロール・レジスタH	PMC9H		○	○		00H
FFFFF460H	ポート0ファンクション・コントロール・レジスタ	PFC0		○	○		00H
FFFFF466H	ポート3ファンクション・コントロール・レジスタ	PFC3				○	0000H
FFFFF466H	ポート3ファンクション・コントロール・レジスタL	PFC3L		○	○		00H
FFFFF467H	ポート3ファンクション・コントロール・レジスタH	PFC3H		○	○		00H
FFFFF468H	ポート4ファンクション・コントロール・レジスタ	PFC4		○	○		00H
FFFFF46AH	ポート5ファンクション・コントロール・レジスタ	PFC5		○	○		00H
FFFFF46DH	ポート6ファンクション・コントロール・レジスタH	PFC6H		○	○		00H
FFFFF472H	ポート9ファンクション・コントロール・レジスタ	PFC9				○	0000H
FFFFF472H	ポート9ファンクション・コントロール・レジスタL	PFC9L		○	○		00H
FFFFF473H	ポート9ファンクション・コントロール・レジスタH	PFC9H		○	○		00H
FFFFF484H	データ・ウエイト・コントロール・レジスタ0	DWC0				○	7777H
FFFFF488H	アドレス・ウエイト・コントロール・レジスタ	AWC				○	FFFFH
FFFFF48AH	バス・サイクル・コントロール・レジスタ	BCC				○	AAAAH
FFFFF540H	TMQ0制御レジスタ0	TQ0CTL0		○	○		00H
FFFFF541H	TMQ0制御レジスタ1	TQ0CTL1		○	○		00H
FFFFF542H	TMQ0I/O制御レジスタ0	TQ0IOC0		○	○		00H

(7/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF543H	TMQ0I/O制御レジスタ1	TQ0IOC1	R/W	○	○		00H
FFFFF544H	TMQ0I/O制御レジスタ2	TQ0IOC2		○	○		00H
FFFFF545H	TMQ0オプション・レジスタ0	TQ0OPT0		○	○		00H
FFFFF546H	TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TQ0CCR0				○	0000H
FFFFF548H	TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TQ0CCR1				○	0000H
FFFFF54AH	TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ2	TQ0CCR2				○	0000H
FFFFF54CH	TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ3	TQ0CCR3				○	0000H
FFFFF54EH	TMQ0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TQ0CNT	R			○	0000H
FFFFF590H	TMP0制御レジスタ0	TP0CTL0	R/W	○	○		00H
FFFFF591H	TMP0制御レジスタ1	TP0CTL1		○	○		00H
FFFFF592H	TMP0I/O制御レジスタ0	TP0IOC0		○	○		00H
FFFFF593H	TMP0I/O制御レジスタ1	TP0IOC1		○	○		00H
FFFFF594H	TMP0I/O制御レジスタ2	TP0IOC2		○	○		00H
FFFFF595H	TMP0オプション・レジスタ0	TP0OPT0		○	○		00H
FFFFF596H	TMP0キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TP0CCR0				○	0000H
FFFFF598H	TMP0キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TP0CCR1				○	0000H
FFFFF59AH	TMP0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TP0CNT	R			○	0000H
FFFFF5A0H	TMP1制御レジスタ0	TP1CTL0	R/W	○	○		00H
FFFFF5A1H	TMP1制御レジスタ1	TP1CTL1		○	○		00H
FFFFF5A2H	TMP1I/O制御レジスタ0	TP1IOC0		○	○		00H
FFFFF5A3H	TMP1I/O制御レジスタ1	TP1IOC1		○	○		00H
FFFFF5A4H	TMP1I/O制御レジスタ2	TP1IOC2		○	○		00H
FFFFF5A5H	TMP1オプション・レジスタ0	TP1OPT0		○	○		00H
FFFFF5A6H	TMP1キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TP1CCR0				○	0000H
FFFFF5A8H	TMP1キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TP1CCR1				○	0000H
FFFFF5AAH	TMP1カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TP1CNT	R			○	0000H
FFFFF5B0H	TMP2制御レジスタ0	TP2CTL0	R/W	○	○		00H
FFFFF5B1H	TMP2制御レジスタ1	TP2CTL1		○	○		00H
FFFFF5B2H	TMP2I/O制御レジスタ0	TP2IOC0		○	○		00H
FFFFF5B3H	TMP2I/O制御レジスタ1	TP2IOC1		○	○		00H
FFFFF5B4H	TMP2I/O制御レジスタ2	TP2IOC2		○	○		00H
FFFFF5B5H	TMP2オプション・レジスタ0	TP2OPT0		○	○		00H
FFFFF5B6H	TMP2キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TP2CCR0				○	0000H
FFFFF5B8H	TMP2キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TP2CCR1				○	0000H
FFFFF5BAH	TMP2カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TP2CNT	R			○	0000H
FFFFF5C0H	TMP3制御レジスタ0	TP3CTL0	R/W	○	○		00H
FFFFF5C1H	TMP3制御レジスタ1	TP3CTL1		○	○		00H
FFFFF5C2H	TMP3I/O制御レジスタ0	TP3IOC0		○	○		00H
FFFFF5C3H	TMP3I/O制御レジスタ1	TP3IOC1		○	○		00H
FFFFF5C4H	TMP3I/O制御レジスタ2	TP3IOC2		○	○		00H
FFFFF5C5H	TMP3オプション・レジスタ0	TP3OPT0		○	○		00H
FFFFF5C6H	TMP3キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TP3CCR0				○	0000H
FFFFF5C8H	TMP3キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TP3CCR1				○	0000H

(8/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF5CAH	TMP3カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TP3CNT	R			○	0000H
FFFFF5D0H	TMP4制御レジスタ0	TP4CTL0	R/W	○	○		00H
FFFFF5D1H	TMP4制御レジスタ1	TP4CTL1		○	○		00H
FFFFF5D2H	TMP4I/O制御レジスタ0	TP4IOC0		○	○		00H
FFFFF5D3H	TMP4I/O制御レジスタ1	TP4IOC1		○	○		00H
FFFFF5D4H	TMP4I/O制御レジスタ2	TP4IOC2		○	○		00H
FFFFF5D5H	TMP4オプション・レジスタ0	TP4OPT0		○	○		00H
FFFFF5D6H	TMP4キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TP4CCR0				○	0000H
FFFFF5D8H	TMP4キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TP4CCR1				○	0000H
FFFFF5DAH	TMP4カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TP4CNT	R			○	0000H
FFFFF5E0H	TMP5制御レジスタ0	TP5CTL0	R/W	○	○		00H
FFFFF5E1H	TMP5制御レジスタ1	TP5CTL1		○	○		00H
FFFFF5E2H	TMP5I/O制御レジスタ0	TP5IOC0		○	○		00H
FFFFF5E3H	TMP5I/O制御レジスタ1	TP5IOC1		○	○		00H
FFFFF5E4H	TMP5I/O制御レジスタ2	TP5IOC2		○	○		00H
FFFFF5E5H	TMP5オプション・レジスタ0	TP5OPT0		○	○		00H
FFFFF5E6H	TMP5キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TP5CCR0				○	0000H
FFFFF5E8H	TMP5キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TP5CCR1				○	0000H
FFFFF5EAH	TMP5カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TP5CNT	R			○	0000H
FFFFF5F0H	TMP6制御レジスタ0	TP6CTL0	R/W	○	○		00H
FFFFF5F1H	TMP6制御レジスタ1	TP6CTL1		○	○		00H
FFFFF5F2H	TMP6I/O制御レジスタ0	TP6IOC0		○	○		00H
FFFFF5F3H	TMP6I/O制御レジスタ1	TP6IOC1		○	○		00H
FFFFF5F4H	TMP6I/O制御レジスタ2	TP6IOC2		○	○		00H
FFFFF5F5H	TMP6オプション・レジスタ0	TP6OPT0		○	○		00H
FFFFF5F6H	TMP6キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TP6CCR0				○	0000H
FFFFF5F8H	TMP6キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TP6CCR1				○	0000H
FFFFF5FAH	TMP6カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TP6CNT	R			○	0000H
FFFFF600H	TMP7制御レジスタ0	TP7CTL0	R/W	○	○		00H
FFFFF601H	TMP7制御レジスタ1	TP7CTL1		○	○		00H
FFFFF602H	TMP7I/O制御レジスタ0	TP7IOC0		○	○		00H
FFFFF603H	TMP7I/O制御レジスタ1	TP7IOC1		○	○		00H
FFFFF604H	TMP7I/O制御レジスタ2	TP7IOC2		○	○		00H
FFFFF605H	TMP7オプション・レジスタ0	TP7OPT0		○	○		00H
FFFFF606H	TMP7キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TP7CCR0				○	0000H
FFFFF608H	TMP7キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TP7CCR1				○	0000H
FFFFF60AH	TMP7カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TP7CNT	R			○	0000H
FFFFF610H	TMP8制御レジスタ0	TP8CTL0	R/W	○	○		00H
FFFFF611H	TMP8制御レジスタ1	TP8CTL1		○	○		00H
FFFFF612H	TMP8I/O制御レジスタ0	TP8IOC0		○	○		00H
FFFFF613H	TMP8I/O制御レジスタ1	TP8IOC1		○	○		00H
FFFFF614H	TMP8I/O制御レジスタ2	TP8IOC2		○	○		00H
FFFFF615H	TMP8オプション・レジスタ0	TP8OPT0		○	○		00H

(9/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF616H	TMP8キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TP8CCR0	R/W			○	0000H
FFFFF618H	TMP8キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TP8CCR1				○	0000H
FFFFF61AH	TMP8カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TP8CNT	R			○	0000H
FFFFF680H	時計タイマ動作モード・レジスタ	WTM	R/W	○	○		00H
FFFFF690H	TMM0制御レジスタ0	TM0CTL0		○	○		00H
FFFFF694H	TMM0コンペア・レジスタ0	TM0CMP0				○	0000H
FFFFF6C0H	発振安定時間選択レジスタ	OSTS			○		06H
FFFFF6C1H	PLLロックアップ時間指定レジスタ	PLLS			○		03H
FFFFF6D0H	ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2	WDTM2			○		67H
FFFFF6D1H	ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ	WDTE			○		9AH
FFFFF6E0H	リアルタイム出力バッファ・レジスタ0L	RTBL0		○	○		00H
FFFFF6E2H	リアルタイム出力バッファ・レジスタ0H	RTBH0		○	○		00H
FFFFF6E4H	リアルタイム出力ポート・モード・レジスタ0	RTPM0		○	○		00H
FFFFF6E5H	リアルタイム出力ポート・コントロール・レジスタ0	RTPC0		○	○		00H
FFFFF6F0H	リアルタイム出力バッファ・レジスタ1L	RTBL1		○	○		00H
FFFFF6F2H	リアルタイム出力バッファ・レジスタ1H	RTBH1		○	○		00H
FFFFF6F4H	リアルタイム出力ポート・モード・レジスタ1	RTPM1		○	○		00H
FFFFF6F5H	リアルタイム出力ポート・コントロール・レジスタ1	RTPC1		○	○		00H
FFFFF706H	ポート3ファンクション・コントロール拡張レジスタL	PFCE3L		○	○		00H
FFFFF70AH	ポート5ファンクション・コントロール拡張レジスタ	PFCE5		○	○		00H
FFFFF712H	ポート9ファンクション・コントロール拡張レジスタ	PFCE9				○	0000H
FFFFF712H	ポート9ファンクション・コントロール拡張レジスタL	PFCE9L		○	○		00H
FFFFF713H	ポート9ファンクション・コントロール拡張レジスタH	PFCE9H		○	○		00H
FFFFF802H	システム・ステータス・レジスタ	SYS		○	○		00H
FFFFF80CH	内蔵発振モード・レジスタ	RCM		○	○		00H
FFFFF810H	DMAトリガ要因レジスタ0	DTFR0		○	○		00H
FFFFF812H	DMAトリガ要因レジスタ1	DTFR1		○	○		00H
FFFFF814H	DMAトリガ要因レジスタ2	DTFR2		○	○		00H
FFFFF816H	DMAトリガ要因レジスタ3	DTFR3		○	○		00H
FFFFF820H	パワー・セーブ・モード・レジスタ	PSMR		○	○		00H
FFFFF822H	クロック・コントロール・レジスタ	CKC		○	○		0AH
FFFFF824H	ロック・レジスタ	LOCKR	R	○	○		00H
FFFFF828H	プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ	PCC	R/W	○	○		03H
FFFFF82CH	PLLコントロール・レジスタ	PLLCTL		○	○		01H
FFFFF82EH	CPU動作クロック・ステータス・レジスタ	CCLS	R	○	○		00H
FFFFF870H	クロック・モニタ・モード・レジスタ	CLM	R/W	○	○		00H
FFFFF888H	リセット要因フラグ・レジスタ	RESF		○	○		00H
FFFFF890H	低電圧検出レジスタ	LVIM		○	○		00H
FFFFF891H	低電圧検出レベル選択レジスタ	LVIS			○		00H
FFFFF892H	内蔵RAMデータ・ステータス・レジスタ	RAMS		○	○		01H
FFFFF8B0H	プリスケーラ・モード・レジスタ0	PRSM0		○	○		00H
FFFFF8B1H	プリスケーラ・コンペア・レジスタ0	PRSCM0			○		00H

(10/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFF9FCH	オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ	OCDM	R/W	○	○		01H
FFFFF9FEH	周辺エミュレーション・レジスタ1	PEMU1注		○	○		00H
FFFFFA00H	UARTA0制御レジスタ0	UA0CTL0		○	○		10H
FFFFFA01H	UARTA0制御レジスタ1	UA0CTL1			○		00H
FFFFFA02H	UARTA0制御レジスタ2	UA0CTL2			○		FFH
FFFFFA03H	UARTA0オプション制御レジスタ0	UA0OPT0		○	○		14H
FFFFFA04H	UARTA0状態レジスタ	UA0STR		○	○		00H
FFFFFA06H	UARTA0受信データ・レジスタ	UA0RX	R		○		FFH
FFFFFA07H	UARTA0送信データ・レジスタ	UA0TX	R/W		○		FFH
FFFFFA10H	UARTA1制御レジスタ0	UA1CTL0		○	○		10H
FFFFFA11H	UARTA1制御レジスタ1	UA1CTL1			○		00H
FFFFFA12H	UARTA1制御レジスタ2	UA1CTL2			○		FFH
FFFFFA13H	UARTA1オプション制御レジスタ0	UA1OPT0		○	○		14H
FFFFFA14H	UARTA1状態レジスタ	UA1STR		○	○		00H
FFFFFA16H	UARTA1受信データ・レジスタ	UA1RX	R		○		FFH
FFFFFA17H	UARTA1送信データ・レジスタ	UA1TX	R/W		○		FFH
FFFFFA20H	UARTA2制御レジスタ0	UA2CTL0		○	○		10H
FFFFFA21H	UARTA2制御レジスタ1	UA2CTL1			○		00H
FFFFFA22H	UARTA2制御レジスタ2	UA2CTL2			○		FFH
FFFFFA23H	UARTA2オプション制御レジスタ0	UA2OPT0		○	○		14H
FFFFFA24H	UARTA2状態レジスタ	UA2STR		○	○		00H
FFFFFA26H	UARTA2受信データ・レジスタ	UA2RX	R		○		FFH
FFFFFA27H	UARTA2送信データ・レジスタ	UA2TX	R/W		○		FFH
FFFFFA30H	UARTA3制御レジスタ0	UA3CTL0		○	○		10H
FFFFFA31H	UARTA3制御レジスタ1	UA3CTL1			○		00H
FFFFFA32H	UARTA3制御レジスタ2	UA3CTL2			○		FFH
FFFFFA33H	UARTA3オプション制御レジスタ0	UA3OPT0		○	○		14H
FFFFFA34H	UARTA3状態レジスタ	UA3STR		○	○		00H
FFFFFA36H	UARTA3受信データ・レジスタ	UA3RX	R		○		FFH
FFFFFA37H	UARTA3送信データ・レジスタ	UA3TX	R/W		○		FFH
FFFFFC00H	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ0	INTF0		○	○		00H
FFFFFC06H	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ3	INTF3		○	○		00H
FFFFFC10H	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ8	INTF8		○	○		00H
FFFFFC13H	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ9H	INTF9H		○	○		00H
FFFFFC20H	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ0	INTR0		○	○		00H
FFFFFC26H	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ3	INTR3		○	○		00H
FFFFFC30H	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ8	INTR8		○	○		00H
FFFFFC33H	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ9H	INTR9H		○	○		00H
FFFFFC60H	ポート0ファンクション・レジスタ	PF0		○	○		00H

注 エミュレーション時のみ

(11/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFFC66H	ポート3ファンクション・レジスタ	PF3	R/W			○	0000H
FFFFFC66H	ポート3ファンクション・レジスタL	PF3L		○	○		00H
FFFFFC67H	ポート3ファンクション・レジスタH	PF3H		○	○		00H
FFFFFC68H	ポート4ファンクション・レジスタ	PF4		○	○		00H
FFFFFC6AH	ポート5ファンクション・レジスタ	PF5		○	○		00H
FFFFFC6CH	ポート6ファンクション・レジスタ	PF6				○	0000H
FFFFFC6CH	ポート6ファンクション・レジスタL	PF6L		○	○		00H
FFFFFC6DH	ポート6ファンクション・レジスタH	PF6H		○	○		00H
FFFFFC70H	ポート8ファンクション・レジスタ	PF8		○	○		00H
FFFFFC72H	ポート9ファンクション・レジスタ	PF9				○	0000H
FFFFFC72H	ポート9ファンクション・レジスタL	PF9L		○	○		00H
FFFFFC73H	ポート9ファンクション・レジスタH	PF9H		○	○		00H
FFFFFD00H	CSIB0制御レジスタ0	CB0CTL0		○	○		01H
FFFFFD01H	CSIB0制御レジスタ1	CB0CTL1		○	○		00H
FFFFFD02H	CSIB0制御レジスタ2	CB0CTL2			○		00H
FFFFFD03H	CSIB0状態レジスタ	CB0STR		○	○		00H
FFFFFD04H	CSIB0受信データ・レジスタ	CB0RX	R			○	0000H
FFFFFD04H	CSIB0受信データ・レジスタL	CB0RXL			○		00H
FFFFFD06H	CSIB0送信データ・レジスタ	CB0TX	R/W			○	0000H
FFFFFD06H	CSIB0送信データ・レジスタL	CB0TXL			○		00H
FFFFFD10H	CSIB1制御レジスタ0	CB1CTL0		○	○		01H
FFFFFD11H	CSIB1制御レジスタ1	CB1CTL1		○	○		00H
FFFFFD12H	CSIB1制御レジスタ2	CB1CTL2			○		00H
FFFFFD13H	CSIB1状態レジスタ	CB1STR		○	○		00H
FFFFFD14H	CSIB1受信データ・レジスタ	CB1RX	R			○	0000H
FFFFFD14H	CSIB1受信データ・レジスタL	CB1RXL			○		00H
FFFFFD16H	CSIB1送信データ・レジスタ	CB1TX	R/W			○	0000H
FFFFFD16H	CSIB1送信データ・レジスタL	CB1TXL			○		00H
FFFFFD20H	CSIB2制御レジスタ0	CB2CTL0		○	○		01H
FFFFFD21H	CSIB2制御レジスタ1	CB2CTL1		○	○		00H
FFFFFD22H	CSIB2制御レジスタ2	CB2CTL2			○		00H
FFFFFD23H	CSIB2状態レジスタ	CB2STR		○	○		00H
FFFFFD24H	CSIB2受信データ・レジスタ	CB2RX	R			○	0000H
FFFFFD24H	CSIB2受信データ・レジスタL	CB2RXL			○		00H
FFFFFD26H	CSIB2送信データ・レジスタ	CB2TX	R/W			○	0000H
FFFFFD26H	CSIB2送信データ・レジスタL	CB2TXL			○		00H
FFFFFD30H	CSIB3制御レジスタ0	CB3CTL0		○	○		01H
FFFFFD31H	CSIB3制御レジスタ1	CB3CTL1		○	○		00H
FFFFFD32H	CSIB3制御レジスタ2	CB3CTL2			○		00H
FFFFFD33H	CSIB3状態レジスタ	CB3STR		○	○		00H
FFFFFD34H	CSIB3受信データ・レジスタ	CB3RX	R			○	0000H
FFFFFD34H	CSIB3受信データ・レジスタL	CB3RXL			○		00H

(12/12)

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
FFFFFD36H	CSIB3受信データ・レジスタ	CB3TX	R/W			○	0000H
FFFFFD36H	CSIB3送信データ・レジスタL	CB3TXL			○		00H
FFFFFD40H	CSIB4制御レジスタ0	CB4CTL0		○	○		01H
FFFFFD41H	CSIB4制御レジスタ1	CB4CTL1		○	○		00H
FFFFFD42H	CSIB4制御レジスタ2	CB4CTL2			○		00H
FFFFFD43H	CSIB4状態レジスタ	CB4STR		○	○		00H
FFFFFD44H	CSIB4受信データ・レジスタ	CB4RX	R			○	0000H
FFFFFD44H	CSIB4受信データ・レジスタL	CB4RXL			○		00H
FFFFFD46H	CSIB4送信データ・レジスタ	CB4TX	R/W			○	0000H
FFFFFD46H	CSIB4送信データ・レジスタL	CB4TXL			○		00H
FFFFFD50H	CSIB5制御レジスタ0	CB5CTL0		○	○		01H
FFFFFD51H	CSIB5制御レジスタ1	CB5CTL1		○	○		00H
FFFFFD52H	CSIB5制御レジスタ2	CB5CTL2			○		00H
FFFFFD53H	CSIB5状態レジスタ	CB5STR		○	○		00H
FFFFFD54H	CSIB5受信データ・レジスタ	CB5RX	R			○	0000H
FFFFFD54H	CSIB5受信データ・レジスタL	CB5RXL			○		00H
FFFFFD56H	CSIB5送信データ・レジスタ	CB5TX	R/W			○	0000H
FFFFFD56H	CSIB5送信データ・レジスタL	CB5TXL			○		00H
FFFFFD80H	IICシフト・レジスタ0	IIC0			○		00H
FFFFFD82H	IICコントロール・レジスタ0	IICC0		○	○		00H
FFFFFD83H	スレーブ・アドレス・レジスタ0	SVA0			○		00H
FFFFFD84H	IICクロック選択レジスタ0	IICCL0		○	○		00H
FFFFFD85H	IIC機能拡張レジスタ0	IICX0		○	○		00H
FFFFFD86H	IIC状態レジスタ0	IICS0	R	○	○		00H
FFFFFD8AH	IICフラグ・レジスタ0	IICF0	R/W	○	○		00H
FFFFFD90H	IICシフト・レジスタ1	IIC1			○		00H
FFFFFD92H	IICコントロール・レジスタ1	IICC1		○	○		00H
FFFFFD93H	スレーブ・アドレス・レジスタ1	SVA1			○		00H
FFFFFD94H	IICクロック選択レジスタ1	IICCL1		○	○		00H
FFFFFD95H	IIC機能拡張レジスタ1	IICX1		○	○		00H
FFFFFD96H	IIC状態レジスタ1	IICS1	R	○	○		00H
FFFFFD9AH	IICフラグ・レジスタ1	IICF1	R/W	○	○		00H
FFFFFDA0H	IICシフト・レジスタ2	IIC2			○		00H
FFFFFDA2H	IICコントロール・レジスタ2	IICC2		○	○		00H
FFFFFDA3H	スレーブ・アドレス・レジスタ2	SVA2			○		00H
FFFFFDA4H	IICクロック選択レジスタ2	IICCL2		○	○		00H
FFFFFDA5H	IIC機能拡張レジスタ2	IICX2		○	○		00H
FFFFFDA6H	IIC状態レジスタ2	IICS2	R	○	○		00H
FFFFFDAAH	IICフラグ・レジスタ2	IICF2	R/W	○	○		00H
FFFFFFBEH	外部バス・インタフェース・モード・コントロール・レジスタ	EXIMC		○	○		00H

3. 4. 7　特定レジスタ

特定レジスタは，プログラムの暴走などにより不正なデータが書き込まれないよう保護されているレジスタです。V850ES/JJ3には次の8個の特定レジスタがあります。

- パワー・セーブ・コントロール・レジスタ（PSC）
- クロック・コントロール・レジスタ（CKC）
- プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ（PCC）
- クロック・モニタ・モード・レジスタ（CLM）
- リセット要因フラグ・レジスタ（RESF）
- 低電圧検出レジスタ（LVIM）
- 内蔵RAMデータ・ステータス・レジスタ（RAMS）
- オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ（OCDM）

また，プログラムの暴走により応用システムが不用意に停止しないように，特定レジスタへの書き込み動作に対するプロテクション・レジスタとして，PRCMDレジスタがあり，特定レジスタへのライト・アクセスは特定のシーケンスで行われ，不正なストア動作はSYSレジスタに報告されます。

(1) 特定レジスタへのデータ設定

特定レジスタへのデータ設定は次のシーケンスで行います。

① DMA動作を禁止する。

② 任意の汎用レジスタに特定レジスタへ設定するためのデータを用意する。

③ PRCMDレジスタに②で用意したデータを書き込む。

④ 特定レジスタに設定データを書き込む（次の命令で行う）。

・ストア命令（ST/SST命令）

・ビット操作命令（SET1/CLR1/NOT1命令）

（⑤-⑨NOP命令を挿入する（5命令）。）注

⑩ DMA動作が必要な場合，DMA動作を許可する。

[記述例] PSCレジスタの場合（スタンバイ・モードの設定）

```
  ST.B r11, PSMR [r0]    ;PSMRレジスタ設定（IDLE1, IDLE2, STOPモードの設定）
①CLR1 0, DCHCn [r0]      ;DMA動作禁止，n = 0-3
②MOV  0x02, r10
③ST.B r10, PRCMD [r0]    ;PRCMDレジスタ書き込み
④ST.B r10, PSC [r0]      ;PSCレジスタ設定
⑤NOP注                   ;ダミー命令
⑥NOP注                   ;ダミー命令
⑦NOP注                   ;ダミー命令
⑧NOP注                   ;ダミー命令
⑨NOP注                   ;ダミー命令
⑩SET1 0，DCHCn [r0]      ;DMA動作許可，n = 0-3
(next instruction)
```

なお，特定レジスタを読み出す場合は，特別なシーケンスは必要ありません。

注 IDLE1, IDLE2, STOPモードに移行する場合（PSC.STPビット = 1）には，直後にNOP命令を5命令以上挿入する必要があります。

注意1. コマンド・レジスタに対するストア命令では，割り込みを受け付けません。これはプログラムで上記③，④を連続したストア命令で行うことを前提としているためです。③，④の間にほかの命令が置かれていると，その命令で割り込みを受け付けた際，上記シーケンスが成立しなくなる場合があり，誤動作の要因となります。

2. PRCMDレジスタへ書き込むデータはダミーですが，特定レジスタへの設定（例④）で使用する汎用レジスタと同じレジスタをPRCMDレジスタ書き込み（例③）でも使用してください。アドレシングに汎用レジスタを使用する場合も同様です。

(2) コマンド・レジスタ（PRCMD）

PRCMDレジスタは，プログラムの暴走などにより，応用システムが不用意に停止しないように，システムに重大な影響を与える可能性があるレジスタへの書き込み動作に対してプロテクションを施すために使用する8ビット・レジスタです。あらかじめ，PRCMDレジスタに対して書き込み動作を行ったあとの最初の特定レジスタへの書き込みのみ有効となります。これにより定められたシーケンスによってだけ，レジスタの値が書き換えられ，不正な書き込み動作ができなくなります。

8ビット単位でライトのみ可能です（リードした場合，不定データを読み出します）。

リセットにより不定になります。

リセット時：不定　W　**アドレス：**FFFFF1FCH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PRCMD	REG7	REG6	REG5	REG4	REG3	REG2	REG1	REG0

(3) システム・ステータス・レジスタ（SYS）

システム全体の動作状態を示すステータス・フラグが割り付けられています。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF802H

	7	6	5	4	3	2	1	⓪
SYS	0	0	0	0	0	0	0	PRERR

PRERR	プロテクション・エラーの検出
0	プロテクション・エラーは発生していない
1	プロテクション・エラーが発生している

PRERRフラグの動作条件を次に示します。

(a) セット条件（PRERRフラグ = 1）

(i) PRCMDレジスタへの書き込み動作を行わず，特定レジスタへの書き込み動作を行ったとき（3. 4. 7（1）特定レジスタへのデータ設定で示す③を行わずに④を行ったとき）。

(ii) PRCMDレジスタへの書き込み動作後，特定レジスタ以外の内蔵周辺I/Oレジスタに書き込み動作（ビット操作命令を含む）を行ったとき（3. 4. 7（1）特定レジスタへのデータ設定で示す④が特定レジスタでなかったとき）。

備考 特定レジスタは，PRCMDレジスタへの書き込み動作と特定レジスタへの書き込み動作の間に，内蔵周辺I/Oレジスタの読み出し動作（ビット操作命令を除く）など（内蔵RAMへのアクセスなど）を行っても，PRERRフラグはセットされず，特定レジスタに設定データを書き込むことができます。

(b) クリア条件（PRERRフラグ = 0）

(i) PRERRフラグに0を書き込んだとき。

(ii) システム・リセットしたとき。

注意1. PRCMDレジスタへの書き込み動作直後に，特定レジスタではないSYSレジスタのPRERRビットに“0”を書き込んだ場合，PRERRビットは“0”になります（ライト優先）。

2. PRCMDレジスタへの書き込み動作直後に，特定レジスタではないPRCMDレジスタへの書き込み動作を行った場合，PRERRビットは“1”になります。

3. 4. 8　注意事項

(1) 最初に設定するレジスタ

V850ES/JJ3を使用する際には，必ず最初に次のレジスタを設定してください。

・システム・ウエイト・コントロール・レジスタ（VSWC）
・オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ（OCDM）
・ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2（WDTM2）

VSWC, OCDM, WDTM2レジスタを設定後，必要に応じてその他の各レジスタを設定してください。

なお，外部バスを使用する場合は上記レジスタを設定したあと，ただちにポート関連のレジスタの設定により，各端子を兼用するバス制御端子に設定してください。

(a) システム・ウエイト・コントロール・レジスタ（VSWC）

VSWCレジスタは，内蔵周辺I/Oレジスタに対するバス・アクセスのウエイトを制御するレジスタです。

内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスは3クロック（ノー・ウエイト時）ですが，V850ES/JJ3では動作周波数によりウエイトが必要です。使用する動作周波数に応じて，VSWCレジスタには次に示す値を設定してください。

8ビット単位でリード／ライト可能です（アドレス：FFFFF06EH，初期値：77H）。

動作周波数（f_{CLK}）	VSWCの設定値	ウエイト数
32 kHz≦f_{CLK}＜16.6 MHz	00H	0（ノー・ウエイト）
16.6 MHz≦f_{CLK}＜25 MHz	01H	1
25 MHz≦f_{CLK}≦32 MHz	11H	2

(b) オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ（OCDM）

詳細は，第28章　オンチップ・デバッグ機能を参照してください。

(c) ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2（WDTM2）

WDTM2レジスタは，ウォッチドッグ・タイマ2のオーバフロー時間および動作クロックを設定するレジスタです。

ウォッチドッグ・タイマ2は，リセット解除後に自動的にリセット・モードでスタートします。動作を確定するために，WDTM2レジスタへ書き込みを行ってください。

詳細は，第11章　ウォッチドッグ・タイマ2機能を参照してください。

(2) 特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについて

この製品は，内部に2種類のシステム・バスを有しています。

1つはCPU用バスで，もう1つは低速周辺ハードウエアとのインタフェースを行う周辺用バスです。

CPU用バスのクロックと周辺用バスのクロックは非同期の関係となるため，CPUと周辺ハードウエアとのアクセス間に競合が発生した場合は，予期せぬ不正データの受け渡しが行われる可能性があります。したがって，競合の恐れがある周辺ハードウエアへのアクセス時は，CPUは正しいデータの受け渡しが行われるよう，アクセス・サイクル数が変わります。その結果，CPUは次の命令処理に移行せず，CPU処理としてウエイト状態となるため，このウエイトが発生した場合，命令の実行クロック数が次に示すウエイト・クロック数分長くなります。

リアルタイム性が要求される処理を行う場合は，この内容に注意してください。

特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセス時に，VSWCレジスタで設定したウエイト以外に，さらにウエイトを要する場合があります。

その際のアクセス条件と，挿入されるウエイト数（CPUクロック数）の算出方法を次に示します。

周辺機能	レジスタ名称	アクセス	k
16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP） (n = 0-8)	TPnCNT	リード	1-2
	TPnCCR0, TPnCCR1	ライト	・1回目：ウエイトなし ・連続書き込み：3-4
		リード	1-2
16ビット・タイマ／イベント・カウンタQ（TMQ）	TQ0CNT	リード	1-2
	TQ0CCR0-TQ0CCR3	ライト	・1回目：ウエイトなし ・連続書き込み：3-4
		リード	1-2
ウォッチドッグ・タイマ2 (WDT2)	WDTM2	ライト (WDT2動作時)	3
リアルタイム出力機能（RTO） (n = 0, 1)	RTBLn, RTBHn	ライト (RTPCn.RTPOEnビット = 0)	1
A/Dコンバータ	ADA0M0	リード	1-2
	ADA0CR0-ADA0CR15	リード	1-2
	ADA0CR0H-ADA0CR15H	リード	1-2
I^2C00-I^2C02	IICS0-IICS2	リード	1
CRC	CRCD	ライト	1

アクセスに必要なクロック数 = 3＋i＋j＋（2＋j）×k

注意 次に示す状態において，上記レジスタへのアクセスは禁止です。ウエイトが発生した場合，解除する方法はリセットだけです。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

備考 i：VSWCレジスタの上位4ビットの値（0, 1）

j：VSWCレジスタの下位4ビットの値（0, 1）

(3) sld命令と割り込み競合に関する制限事項

(a) 内 容

次の命令<1>の事項が完了する前に，後続の sld 命令の直前の命令<2>のデコード動作と割り込み要求が競合した場合，先の命令<1>の実行結果がレジスタに格納されないことがあります。

命令<1>

- ld 命令 ：ld.b, ld.h, ld.w, ld.bu, ld.hu
- sld 命令 ：sld.b, sld.h, sld.w, sld.bu, sld.hu
- 乗算命令 ：mul, mulh, mulhi, mulu

命令<2>

mov reg1, reg2	not reg1, reg2	satsubr reg1, reg2	satsub reg1, reg2
satadd reg1, reg2	satadd imm5, reg2	or reg1, reg2	xor reg1, reg2
and reg1, reg2	tst reg1, reg2	subr reg1, reg2	sub reg1, reg2
add reg1, reg2	add imm5, reg2	cmp reg1, reg2	cmp imm5, reg2
mulh reg1, reg2	shr imm5, reg2	sar imm5, reg2	shl imm5, reg2

<例>

```
< i >   ld.w    [r11], r10
          .
          .
          .
< ii >  mov     r10, r28
<iii>   sld.w   0x28, r10
```

< i >の ld 命令の実行が完了する前に，<iii>の sld 命令の直前の mov 命令< ii >のデコード動作と割り込み要求が競合した場合，< i >の ld 命令の実行結果がレジスタに格納されないことがあります。

(b) 回 避 策

① コンパイラ（CA850）使用時

Ver.2.61以降のバージョンを使用してください。該当命令シーケンスの生成を自動的に抑止します。

② アセンブラでの対策

命令< ii >の直後にsld命令を実行する場合は，次のいずれかの方法を用いて，上記動作を回避してください。

- sld 命令の直前に nop 命令を入れる。
- sld 命令のディスティネーション・レジスタと同じレジスタを，sld 命令の直前で実行する上記< ii >の命令で使用しない。

第4章　ポート機能

4.1 特　　徴

○入出力ポート：128本

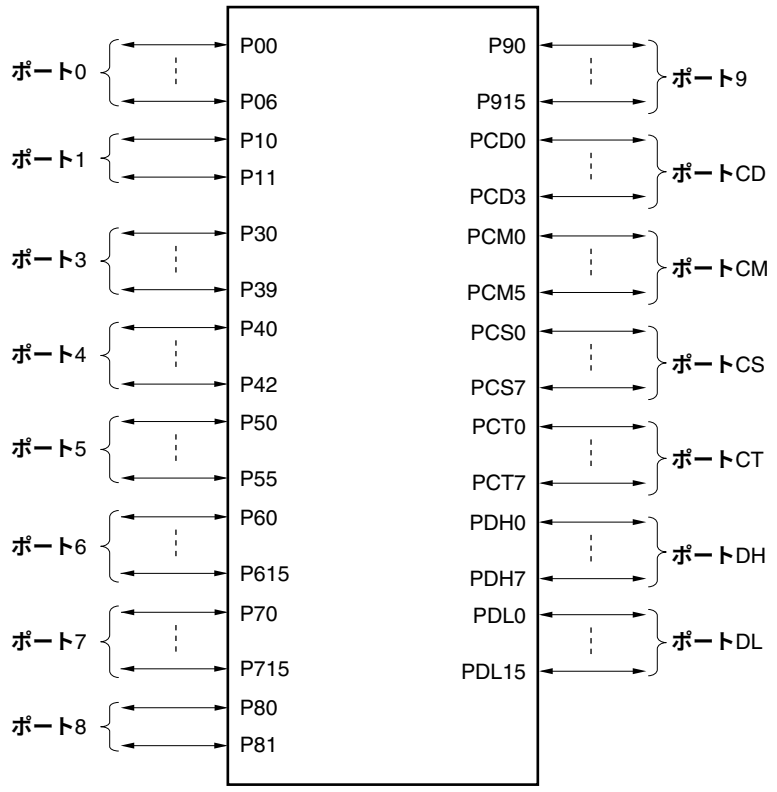
・5 Vトレラント／N-chオープン・ドレーン出力切り替え可能：60本（ポート0, 3-6, 8, 9）

○1ビット単位で入力／出力指定可能

4.2 ポートの基本構成

V850ES/JJ3は，ポート0, 1, 3-9, CD, CM, CS, CT, DH, DLの合計128本の入出力ポートを内蔵しています。ポートの構成を次に示します。

図4－1　ポートの構成図



注意　ポート0, 3-6, 8, 9は，5 Vトレラント対応

表4－1　各端子の入出力バッファ電源

電　源	対応する端子
AV_{REF0}	ポート7
AV_{REF1}	ポート1
EV_{DD}	$\overline{RESET}$，ポート0, 3-6, 8, 9, CD, CM, CS, CT, DH, DL

4. 3　ポートの構成

表4－2　ポートの構成

項　　目	構　　成
制御レジスタ	ポートnモード・レジスタ（PMn：n = 0, 1, 3-9, CD, CM, CS, CT, DH, DL） ポートnモード・コントロール・レジスタ（PMCn：n = 0, 3-6, 8, 9, CM, CS, CT, DH, DL） ポートnファンクション・コントロール・レジスタ（PFCn：n = 0, 3-6, 9） ポートnファンクション・コントロール拡張レジスタ（PFCEn：n = 3, 5, 9） ポートnファンクション・レジスタ（PFn：n = 0, 3-6, 8, 9）
ポート	入出力：128本

(1) ポートnレジスタ（Pn）

外部とのデータ入出力は，Pnレジスタへの書き込み，および読み出しによって行います。Pnレジスタは，出力データを保持するポート・ラッチ，および端子の状態を読み込む回路で構成されています。

Pnレジスタの各ビットは，それぞれポートnの端子1本ずつに対応しており，1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W

	7	6	5	7	3	2	1	0
Pn	Pn7	Pn6	Pn5	Pn4	Pn3	Pn2	Pn1	Pn0

Pnm	出力データの制御（出力モード時）
0	0を出力
1	1を出力

PMCnレジスタの設定によらず，Pnレジスタへの書き込みや読み出しは次のようになります。

表4－3　Pnレジスタへの書き込み／読み出しについて

PMnレジスタへの設定	Pnレジスタへの書き込み	Pnレジスタの読み出し
出力モード （PMnm = 0）	出力ラッチに対して書き込みます注。 ポート・モード（PMCn = 0）の場合，出力ラッチの内容が端子から出力されます。	出力ラッチの値を読み出します。
入力モード （PMnm = 1）	出力ラッチに対して書き込みます。 端子の状態には影響ありません注。	端子状態を読み出します。

注　出力ラッチに書き込まれた値は，再度出力ラッチに値を書き込まれるまで保持されます。

(2) ポートnモード・レジスタ（PMn）

ポートの入力モード／出力モードを指定します。

PMnレジスタの各ビットは，それぞれポートnの端子1本ずつに対応しており，1ビット単位で指定可能です。

リセット時：FFH　R/W

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMn	PMn7	PMn6	PMn5	PMn4	PMn3	PMn2	PMn1	PMn0

PMnm	入出力モードの制御
0	出力モード
1	入力モード

(3) ポートnモード・コントロール・レジスタ（PMCn）

ポート・モード／兼用機能を指定します。

PMCnレジスタの各ビットは，それぞれポートnの端子1本ずつに対応しており，1ビット単位で指定可能です。

リセット時：00H　R/W

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCn	PMCn7	PMCn6	PMCn5	PMCn4	PMCn3	PMCn2	PMCn1	PMCn0

PMCnm	動作モードの指定
0	ポート・モード
1	兼用機能モード

(4) ポートnファンクション・コントロール・レジスタ（PFCn）

1本の端子に兼用機能が2つ以上存在する場合に，使用する兼用機能を指定するレジスタです。

PFCnレジスタの各ビットは，それぞれポートnの端子1本ずつに対応しており，1ビット単位で指定可能です。

リセット時：00H　R/W

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFCn	PFCn7	PFCn6	PFCn5	PFCn4	PFCn3	PFCn2	PFCn1	PFCn0

PFCnm	兼用機能の指定
0	兼用機能1
1	兼用機能2

(5) ポートnファンクション・コントロール拡張レジスタ（PFCEn）

1本の端子に兼用機能が3つ以上存在する場合に，使用する兼用機能を指定するレジスタです。

PFCEnレジスタの各ビットは，それぞれポートnの端子1本ずつに対応しており，1ビット単位で指定可能です。

リセット時：00H　R/W

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFCEn	PFCEn7	PFCEn6	PFCEn5	PFCEn4	PFCEn3	PFCEn2	PFCEn1	PFCEn0
	7	6	5	4	3	2	1	0
PFCn	PFCn7	PFCn6	PFCn5	PFCn4	PFCn3	PFCn2	PFCn1	PFCn0

PFCEnm	PFCnm	兼用機能の指定
0	0	兼用機能1
0	1	兼用機能2
1	0	兼用機能3
1	1	兼用機能4

(6) ポートnファンクション・レジスタ（PFn）

通常出力/N-chオープン・ドレーン出力を指定するレジスタです。

PFnレジスタの各ビットは，それぞれポートnの端子1本ずつに対応しており，1ビット単位で指定可能です。

リセット時：00H　R/W

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFn	PFn7	PFn6	PFn5	PFn4	PFn3	PFn2	PFn1	PFn0

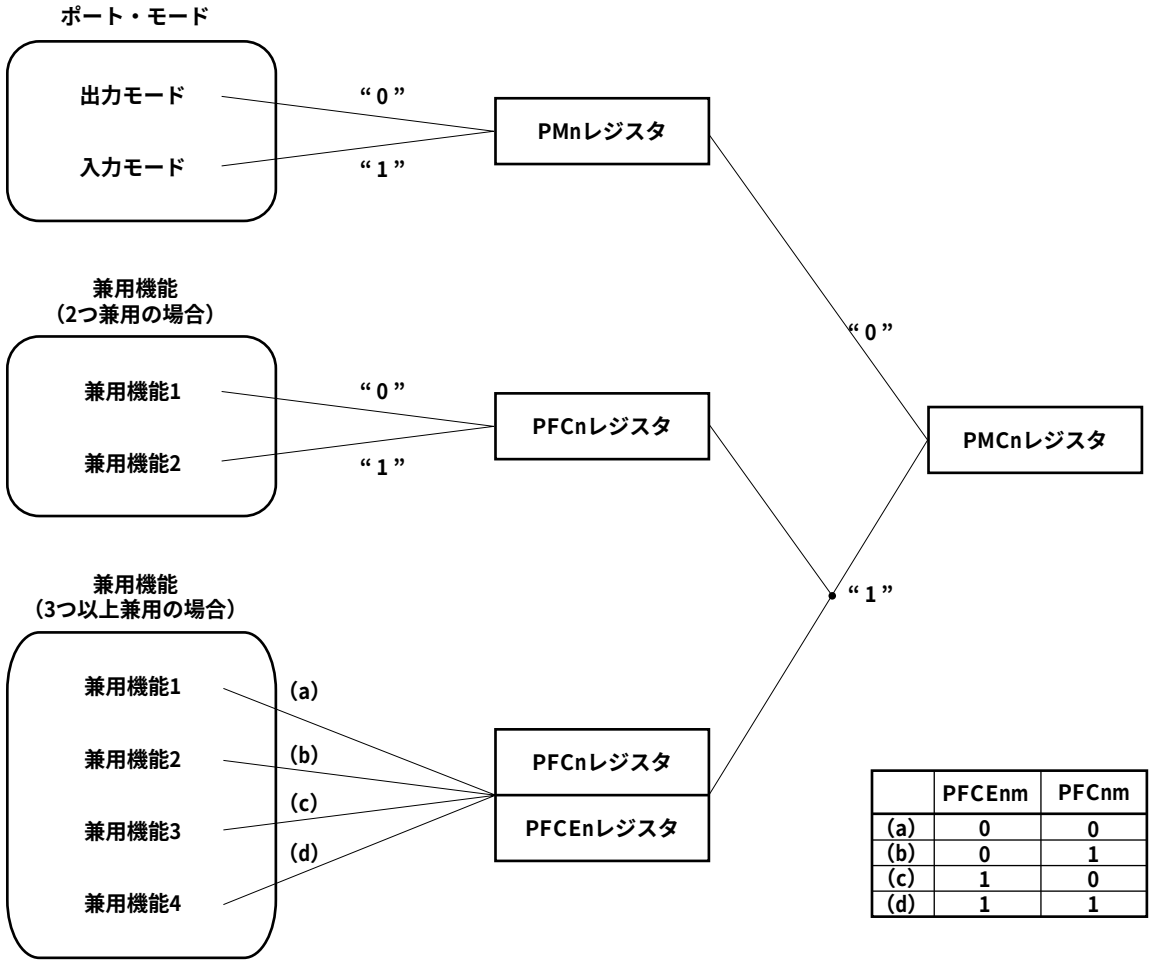
PFnm注	通常出力/N-chオープン・ドレーン出力の制御
0	通常出力（CMOS出力）
1	N-chオープン・ドレーン出力

注　ポート・モード時（PMCnmビット = 0），PFnレジスタのPFnmビットは，PMnレジスタのPMnmビット = 0（出力モード時）のときのみ有効です。PMnmビット = 1（入力モード時）のときは，PFnレジスタの設定値は無効です。

(7) ポートの設定

ポートの設定は，次のように設定してください。

図4－2　各レジスタの設定と端子の機能



	PFCEnm	PFCnm
(a)	0	0
(b)	0	1
(c)	1	0
(d)	1	1

備考　**兼用機能に切り替えるには，次の順で行ってください。**

① PFCn, PFCEn**レジスタを設定**

② PMCn**レジスタを設定**

③ INTRn, INTFn**レジスタを設定（外部割り込み端子を設定する場合）**

PMCn**レジスタを先に設定すると，**PFCn, PFCEn**レジスタ設定中に意図しない兼用機能に設定されてしまう可能性があります。**

4. 3. 1　ポート0

ポート0は1ビット単位で入出力を制御できる7ビットのポートです。

ポート0は，次に示す端子と兼用しています。

表4－4　ポート0の兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
P00	6	TIP61/TOP61	入出力	N-chオープン・ドレーン出力選択可能	G-1
P01	7	TIP60/TOP60	入出力		G-1
P02	17	NMI	入力		L-1
P03	18	INTP0/ADTRG	入力		N-1
P04	19	INTP1	入力		L-1
P05	20	INTP2/$\overline{\text{DRST}}$注	入力		AA-1
P06	21	INTP3	入力		L-1

注　$\overline{\text{DRST}}$端子はオンチップ・デバッグ用の端子です。

オンチップ・デバッグを使用しない場合，$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット解除後から，OCDM.OCDM0ビットをクリア（0）するまで，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子状態をロウ・レベルに固定してください。

詳細は，4. 6. 3　オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項を参照してください。

注意　P00-P06端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。

（1）ポート0レジスタ（P0）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF400H

	7	6	5	4	3	2	1	0
P0	0	P06	P05	P04	P03	P02	P01	P00

P0n	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-6）
0	0を出力
1	1を出力

（2）ポート0モード・レジスタ（PM0）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF420H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PM0	1	PM06	PM05	PM04	PM03	PM02	PM01	PM00

PM0n	入出力モードの制御（n = 0-6）
0	出力モード
1	入力モード

(3) ポート0モード・コントロール・レジスタ（PMC0）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF440H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC0	0	PMC06	PMC05	PMC04	PMC03	PMC02	PMC01	PMC00

PMC06	P06端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	INTP3入力

PMC05	P05端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	INTP2入力

PMC04	P04端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	INTP1入力

PMC03	P03端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	INTP0入力/ADTRG入力

PMC02	P02端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	NMI入力

PMC01	P01端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIP60入力/TOP60出力

PMC00	P00端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIP61入力/TOP61出力

注意　P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子は，OCDM.OCDM0ビット = 1のときは，PMC05ビットの値に関係なく$\overline{\text{DRST}}$端子となります。

(4) ポート0ファンクション・コントロール・レジスタ（PFC0）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF460H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFC0	0	0	0	0	PFC03	0	PFC01	PFC00

PFC03	P03端子の兼用機能の指定
0	INTP0入力
1	ADTRG入力

PFC01	P01端子の兼用機能の指定
0	TIP60入力
1	TOP60出力

PFC00	P00端子の兼用機能の指定
0	TIP61入力
1	TOP61出力

(5) ポート0ファンクション・レジスタ（PF0）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFFC60H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PF0	0	PF06	PF05	PF04	PF03	PF02	PF01	PF00

PF0n	通常出力/N-chオープン・ドレーン出力の制御（n = 0-6）
0	通常出力（CMOS出力）
1	N-chオープン・ドレーン出力

注意　出力端子に対してEV_{DD}以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF0nビットを1に設定してください。

4. 3. 2　ポート1

ポート1は1ビット単位で入出力を制御できる2ビットのポートです。

ポート1は，次に示す端子と兼用しています。

表4－5　ポート1の兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
P10	3	ANO0	出力	－	A-2
P11	4	ANO1	出力	－	A-2

(1) ポート1レジスタ（P1）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF402H

	7	6	5	4	3	2	1	0
P1	0	0	0	0	0	0	P11	P10

P1n	出力データの制御（出力モード時）（n = 0, 1）
0	0を出力
1	1を出力

注意　D/A変換中にP1レジスタをリード／ライトしないでください（14. 4. 3　使用上の注意点参照）。

(2) ポート1モード・レジスタ（PM1）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF422H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PM1	1	1	1	1	1	1	PM11	PM10

PM1n	入出力モードの制御（n = 0, 1）
0	出力モード
1	入力モード

注意1.　P1nを兼用機能（ANOn端子出力）として使用する場合，PM1nビットを1に設定してください。

2.　1本を入出力ポート，1本をD/A出力端子として使用する場合，D/A出力中は，ポートの入出力レベルが変化しないようなアプリケーションで使用してください。

4. 3. 3　ポート3

ポート3は1ビット単位で入出力を制御できる10ビットのポートです。

ポート3は，次に示す端子と兼用しています。

表4－6　ポート3の兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
P30	25	TXDA0/SOB4	出力	N-chオープン・ドレーン出力選択可能	G-3
P31	26	RXDA0/INTP7/SIB4	入力		N-3
P32	27	ASCKA0/$\overline{\text{SCKB4}}$/TIP00/TOP00	入出力		U-1
P33	28	TIP01/TOP01	入出力		G-1
P34	29	TIP10/TOP10	入出力		G-1
P35	30	TIP11/TOP11	入出力		G-1
P36	31	－	－		C-1
P37	32	－	－		C-1
P38	35	TXDA2/SDA00	入出力		G-12
P39	36	RXDA2/SCL00	入出力		G-6

注意　P31-P35, P38, P39端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。

(1) ポート3レジスタ (P3)

リセット時：0000H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：P3 FFFFF406H,
P3L FFFFF406H, P3H FFFFF407H

	15	14	13	12	11	10	9	8
P3（P3H）	0	0	0	0	0	0	P39	P38
	7	6	5	4	3	2	1	0
（P3L）	P37	P36	P35	P34	P33	P32	P31	P30

P3n	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-9）
0	0を出力
1	1を出力

備考1. P3レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，P3レジスタの上位8ビットをP3Hレジスタ，下位8ビットをP3Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2. P3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，P3Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(2) ポート3モード・レジスタ (PM3)

リセット時：FFFFH　R/W　アドレス：PM3 FFFFF426H,
PM3L FFFFF426H, PM3H FFFFF427H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PM3（PM3H）	1	1	1	1	1	1	PM39	PM38
	7	6	5	4	3	2	1	0
（PM3L）	PM37	PM36	PM35	PM34	PM33	PM32	PM31	PM30

PM3n	入出力モードの制御（n = 0-9）
0	出力モード
1	入力モード

備考1. PM3レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PM3レジスタの上位8ビットをPM3Hレジスタ，下位8ビットをPM3Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2. PM3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PM3Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(3) ポート3モード・コントロール・レジスタ（PMC3）

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PMC3 FFFFF446H,
PMC3L FFFFF446H, PMC3H FFFFF447H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMC3（PMC3H）	0	0	0	0	0	0	PMC39	PMC38

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PMC3L）	0	0	PMC35	PMC34	PMC33	PMC32	PMC31	PMC30

PMC39	P39端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	RXDA2入力/SCL00入出力

PMC38	P38端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TXDA2出力/SDA00入出力

PMC35	P35端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIP11入力/TOP11出力

PMC34	P34端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIP10入力/TOP10出力

PMC33	P33端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIP01入力/TOP01出力

PMC32	P32端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	ASCKA0入力/$\overline{\text{SCKB4}}$入出力/TIP00入力/TOP00出力

PMC31	P31端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	RXDA0入力/SIB4入力/INTP7入力

PMC30	P30端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TXDA0出力/SOB4出力

注意　ビット15-10, 7, 6には必ず“0”を設定してください。

備考1.　PMC3レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PMC3レジスタの上位8ビットをPMC3Hレジスタ，下位8ビットをPMC3Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2.　PMC3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PMC3Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(4) ポート3ファンクション・コントロール・レジスタ（PFC3）

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PFC3 FFFFF466H,
PFC3L FFFFF466H, PFC3H FFFFF467H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFC3（PFC3H）	0	0	0	0	0	0	PFC39	PFC38
	7	6	5	4	3	2	1	0
（PFC3L）	0	0	PFC35	PFC34	PFC33	PFC32	PFC31	PFC30

備考1. 兼用機能の指定については4. 3. 3（6）ポート3の兼用機能の指定を参照してください。

2. PFC3レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PFC3レジスタの上位8ビットをPFC3Hレジスタ，下位8ビットをPFC3Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

3. PFC3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PFC3Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(5) ポート3ファンクション・コントロール拡張レジスタL（PFCE3L）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF706H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFCE3L	0	0	0	0	0	PFCE32	0	0

注意　ビット7-3, 1, 0には必ず“0”を設定してください。

備考　兼用機能の指定については4. 3. 3（6）ポート3の兼用機能の指定を参照してください。

(6) ポート3の兼用機能の指定

PFC39	P39端子の兼用機能の指定
0	RXDA2入力
1	SCL00入出力

PFC38	P38端子の兼用機能の指定
0	TXDA2出力
1	SDA00入出力

PFC35	P35端子の兼用機能の指定
0	TIP11入力
1	TOP11出力

PFC34	P34端子の兼用機能の指定
0	TIP10入力
1	TOP10出力

PFC33	P33端子の兼用機能の指定
0	TIP01入力
1	TOP01出力

PFCE32	PFC32	P32端子の兼用機能の指定
0	0	ASCKA0入力
0	1	$\overline{\text{SCKB4}}$入出力
1	0	TIP00入力
1	1	TOP00出力

PFC31	P31端子の兼用機能の指定
0	RXDA0入力/INTP7[注]入力
1	SIB4入力

PFC30	P30端子の兼用機能の指定
0	TXDA0出力
1	SOB4出力

注 INTP7端子とRXDA0端子は兼用となっています。RXDA0端子として使用する場合は，兼用しているINTP7端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF3.INTF31ビット = 0, INTR3.INTR31ビット = 0に設定）。また，INTP7端子として使用する場合は，UARTA0を受信動作停止としてください（UA0CTL0.UA0RXEビット = 0）。

（7）ポート3ファンクション・レジスタ（PF3）

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PF3 FFFFFC66H,
PF3L FFFFFC66H, PF3H FFFFFC67H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PF3（PF3H）	0	0	0	0	0	0	PF39	PF38

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PF3L）	PF37	PF36	PF35	PF34	PF33	PF32	PF31	PF30

PF3n	通常出力/N-chオープン・ドレーン出力の制御（n = 0-9）
0	通常出力（CMOS出力）
1	N-chオープン・ドレーン出力

注意　出力端子に対してEV_{DD}以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF3nビットを1に設定してください。

備考1.　PF3レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PF3レジスタの上位8ビットをPF3Hレジスタ，下位8ビットをPF3Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2.　PF3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PF3Hレジスタのビット0-7として指定してください。

4. 3. 4　ポート4

ポート4は1ビット単位で入出力を制御できる3ビットのポートです。

ポート4は，次に示す端子と兼用しています。

表4－7　ポート4の兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
P40	22	SIB0/SDA01	入出力	N-chオープン・ドレーン出力選択可能	G-6
P41	23	SOB0/SCL01	入出力		G-12
P42	24	$\overline{\text{SCKB0}}$	入出力		E-3

注意　P40-P42端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。

(1) ポート4レジスタ (P4)

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF408H

	7	6	5	4	3	2	1	0
P4	0	0	0	0	0	P42	P41	P40

P4n	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-2）
0	0を出力
1	1を出力

(2) ポート4モード・レジスタ (PM4)

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF428H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PM4	1	1	1	1	1	PM42	PM41	PM40

PM4n	入出力モードの制御（n = 0-2）
0	出力モード
1	入力モード

(3) ポート4モード・コントロール・レジスタ (PMC4)

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF448H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC4	0	0	0	0	0	PMC42	PMC41	PMC40

PMC42	P42端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	$\overline{\text{SCKB0}}$入出力

PMC41	P41端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	SOB0出力/SCL01入出力

PMC40	P40端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	SIB0入力/SDA01入出力

(4) ポート4ファンクション・コントロール・レジスタ（PFC4）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF468H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFC4	0	0	0	0	0	0	PFC41	PFC40

PFC41	P41端子の兼用機能の指定
0	SOB0出力
1	SCL01入出力

PFC40	P40端子の兼用機能の指定
0	SIB0入力
1	SDA01入出力

(5) ポート4ファンクション・レジスタ（PF4）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFFC68H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PF4	0	0	0	0	0	PF42	PF41	PF40

PF4n	通常出力/N-chオープン・ドレーン出力の制御（n = 0-2）
0	通常出力（CMOS出力）
1	N-chオープン・ドレーン出力

注意　出力端子に対してEV_{DD}以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF4nビットを1に設定してください。

4. 3. 5　ポート5

ポート5は1ビット単位で入出力を制御できる6ビットのポートです。

ポート5は，次に示す端子と兼用しています。

表4－8　ポート5の兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
P50	37	TIQ01/KR0/TOQ01/RTP00	入出力	N-chオープン・ドレーン出力選択可能	U-5
P51	38	TIQ02/KR1/TOQ02/RTP01	入出力		U-5
P52	39	TIQ03/KR2/TOQ03/RTP02/DDI注	入出力		U-6
P53	40	SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO注	入出力		U-7
P54	41	SOB2/KR4/RTP04/DCK注	入出力		U-8
P55	42	$\overline{\text{SCKB2}}$/KR5/RTP05/DMS注	入出力		U-9

注　DDI, DDO, DCK, DMS端子はオンチップ・デバッグ用の端子です。

オンチップ・デバッグを使用しない場合，$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット解除後から，OCDM.OCDM0ビットをクリア（0）するまで，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子状態をロウ・レベルに固定してください。

詳細は，4. 6. 3　オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項を参照してください。

注意1.　P53端子は，電源投入時にはリセット中でも一時的に不定レベルを出力する可能性があります。

2.　P50-P55端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。

（1）ポート5レジスタ（P5）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF40AH

	7	6	5	4	3	2	1	0
P5	0	0	P55	P54	P53	P52	P51	P50

P5n	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-5）
0	0を出力
1	1を出力

(2) ポート5モード・レジスタ（PM5）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF42AH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PM5	1	1	PM55	PM54	PM53	PM52	PM51	PM50

PM5n	入出力モードの制御（n = 0-5）
0	出力モード
1	入力モード

(3) ポート5モード・コントロール・レジスタ（PMC5）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF44AH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC5	0	0	PMC55	PMC54	PMC53	PMC52	PMC51	PMC50

PMC55	P55端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	$\overline{\text{SCKB2}}$入出力/KR5入力/RTP05出力

PMC54	P54端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	SOB2出力/KR4入力/RTP04出力

PMC53	P53端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	SIB2入力/KR3入力/TIQ00入力/TOQ00出力/RTP03出力

PMC52	P52端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIQ03入力/KR2入力/TOQ03出力/RTP02出力

PMC51	P51端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIQ02入力/KR1入力/TOQ02出力/RTP01出力

PMC50	P50端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIQ01入力/KR0入力/TOQ01出力/RTP00出力

(4) ポート5ファンクション・コントロール・レジスタ（PFC5）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF46AH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFC5	0	0	PFC55	PFC54	PFC53	PFC52	PFC51	PFC50

備考　兼用機能の指定については4. 3. 5（6）ポート5の兼用機能の指定を参照してください。

(5) ポート5ファンクション・コントロール拡張レジスタ（PFCE5）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF70AH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFCE5	0	0	PFCE55	PFCE54	PFCE53	PFCE52	PFCE51	PFCE50

備考　兼用機能の指定については4. 3. 5（6）ポート5の兼用機能の指定を参照してください。

(6) ポート5の兼用機能の指定

PFCE55	PFC55	P55端子の兼用機能の指定
0	0	$\overline{\text{SCKB2}}$入出力
0	1	KR5入力
1	0	設定禁止
1	1	RTP05出力

PFCE54	PFC54	P54端子の兼用機能の指定
0	0	SOB2出力
0	1	KR4入力
1	0	設定禁止
1	1	RTP04出力

PFCE53	PFC53	P53端子の兼用機能の指定
0	0	SIB2入力
0	1	TIQ00入力/KR3注入力
1	0	TOQ00出力
1	1	RTP03出力

PFCE52	PFC52	P52端子の兼用機能の指定
0	0	設定禁止
0	1	TIQ03入力/KR2注入力
1	0	TOQ03出力
1	1	RTP02出力

PFCE51	PFC51	P51端子の兼用機能の指定
0	0	設定禁止
0	1	TIQ02入力/KR1注入力
1	0	TOQ02出力
1	1	RTP01出力

PFCE50	PFC50	P50端子の兼用機能の指定
0	0	設定禁止
0	1	TIQ01入力/KR0注入力
1	0	TOQ01出力
1	1	RTP00出力

注 KRn端子とTIQ0m端子は兼用となっています。端子をTIQ0m端子として使用する場合は，兼用しているKRn端子のキー・リターン検出を無効にしてください（KRM.KRMnビットに0を設定）。また，KRn端子として使用する場合は，兼用しているTIQ0m端子のエッジ検出を無効にしてください（n = 0-3, m = 0-3）。

端子名称	TIQ0m端子として使用する場合	KRn端子として使用する場合
KR0/TIQ01	KRM.KRM0ビット = 0	TQ0IOC1.TQ0TIG2, TQ0TIG3ビット = 0
KR1/TIQ02	KRM.KRM1ビット = 0	TQ0IOC1.TQ0TIG4, TQ0TIG5ビット = 0
KR2/TIQ03	KRM.KRM2ビット = 0	TQ0IOC1.TQ0TIG6, TQ0TIG7ビット = 0
KR3/TIQ00	KRM.KRM3ビット = 0	TQ0IOC1.TQ0TIG0, TQ0TIG1ビット = 0 TQ0IOC2.TQ0EES0, TQ0EES1ビット = 0 TQ0IOC2.TQ0ETS0, TQ0ETS1ビット = 0

（7）ポート5ファンクション・レジスタ（PF5）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFFC6AH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PF5	0	0	PF55	PF54	PF53	PF52	PF51	PF50

PF5n	通常出力/N-chオープン・ドレーン出力の制御（n = 0-5）
0	通常出力（CMOS出力）
1	N-chオープン・ドレーン出力

注意　出力端子に対してEV_{DD}以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF5nビットを1に設定してください。

4. 3. 6　ポート6

ポート6は1ビット単位で入出力を制御できる16ビットのポートです。

ポート6は，次に示す端子と兼用しています。

表4－9　ポート6の兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
P60	43	RTP10	出力	N-chオープン・ドレーン出力選択可能	E-2
P61	44	RTP11	出力		E-2
P62	45	RTP12	出力		E-2
P63	46	RTP13	出力		E-2
P64	47	RTP14	出力		E-2
P65	48	RTP15	出力		E-2
P66	49	SIB5	入力		E-1
P67	50	SOB5	出力		E-2
P68	51	$\overline{\text{SCKB5}}$	入出力		E-3
P69	52	TIP70/TOP70	入出力		G-1
P610	53	TIP71	入力		E-1
P611	54	TOP71	出力		E-2
P612	55	TIP80/TOP80	入出力		G-1
P613	56	TIP81/TOP81	入出力		G-1
P614	57	－	－		C-1
P615	58	－	－		C-1

注意　P66, P68-P610, P612, P613端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。

(1) ポート6レジスタ（P6）

リセット時：0000H（出力ラッチ）　R/W　**アドレス：**P6 FFFFF40CH
P6L FFFFF40CH, P6LH FFFFF40DH

	15	14	13	12	11	10	9	8
P6（P6H）	P615	P614	P613	P612	P611	P610	P69	P68

	7	6	5	4	3	2	1	0
（P6L）	P67	P66	P65	P64	P63	P62	P61	P60

P6n	出力データの制御（出力モード時）(n = 0-15)
0	0を出力
1	1を出力

備考1.　P6レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，P6レジスタの上位8ビットをP6Hレジスタ，下位8ビットをP6Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2.　P6レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，P6Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(2) ポート6モード・レジスタ（PM6）

リセット時：FFFFH　R/W　**アドレス：**PM6 FFFFF42CH
PM6L FFFFF42CH, PM6H FFFFF42DH

	15	14	13	12	11	10	9	8
PM6（PM6H）	PM615	PM614	PM613	PM612	PM611	PM610	PM69	PM68

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PM6L）	PM67	PM66	PM65	PM64	PM63	PM62	PM61	PM60

PM6n	入出力モードの制御(n = 0-15)
0	出力モード
1	入力モード

備考1.　PM6レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PM6レジスタの上位8ビットをPM6Hレジスタ，下位8ビットをPM6Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2.　PM6レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PM6Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(3) ポート6モード・コントロール・レジスタ（PMC6）

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PMC6 FFFFF44CH
PMC6L FFFFF44CH, PMC6H FFFFF44DH

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMC6（PMC6H）	0	0	PMC613	PMC612	PMC611	PMC610	PMC69	PMC68

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PMC6L）	PMC67	PMC66	PMC65	PMC64	PMC63	PMC62	PMC61	PMC60

PMC613	P613端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIP81入力/TOP81出力

PMC612	P612端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIP80入力/TOP80出力

PMC611	P611端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TOP71出力

PMC610	P610端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIP71入力

PMC69	P69端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TIP70入力/TOP70出力

PMC68	P68端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	$\overline{\text{SCKB5}}$入出力

PMC67	P67端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	SOB5出力

PMC66	P66端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	SIB5入力

PMC6m	P6m端子の動作モードの指定（m = 0-5）
0	入出力ポート
1	RTP1m出力

備考1. PMC6レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PMC6レジスタの上位8ビットをPMC6Hレジスタ，下位8ビットをPMC6Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2. PMC6レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PMC6Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(4) ポート6ファンクション・コントロール・レジスタH（PFC6H）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF46DH

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFC6H	0	0	PFC613	PFC612	0	0	PFC69	0

PFC613	P613端子の兼用機能の指定
0	TIP81入力
1	TOP81出力

PFC612	P612端子の兼用機能の指定
0	TIP80入力
1	TOP80出力

PFC69	P69端子の兼用機能の指定
0	TIP70入力
1	TOP70出力

(5) ポート6ファンクション・レジスタ（PF6）

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PF6 FFFFFC6CH
PF6L FFFFFC6CH, PF6H FFFFFC6DH

	15	14	13	12	11	10	9	8
PF6（PF6H）	PF615	PF614	PF613	PF612	PF611	PF610	PF69	PF68

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PF6L）	PF67	PF66	PF65	PF64	PF63	PF62	PF61	PF60

PF6n	通常出力/N-chオープン・ドレーン出力の制御（n = 0-15）
0	通常出力（CMOS出力）
1	N-chオープン・ドレーン出力

注意　出力端子に対してEV_{DD}以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF6nビットを1に設定してください。

備考1.　PF6レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PF6レジスタの上位8ビットをPF6Hレジスタ，下位8ビットをPF6Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2.　PF6レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PF6Hレジスタのビット0-7として指定してください。

4. 3. 7　ポート7

ポート7は1ビット単位で入出力を制御できる16ビットのポートです。

ポート7は，次に示す端子と兼用しています。

表4－10　ポート7の兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
P70	144	ANI0	入力	－	A-1
P71	143	ANI1	入力		A-1
P72	142	ANI2	入力		A-1
P73	141	ANI3	入力		A-1
P74	140	ANI4	入力		A-1
P75	139	ANI5	入力		A-1
P76	138	ANI6	入力		A-1
P77	137	ANI7	入力		A-1
P78	136	ANI8	入力		A-1
P79	135	ANI9	入力		A-1
P710	134	ANI10	入力		A-1
P711	133	ANI11	入力		A-1
P712	132	ANI12	入力		A-1
P713	131	ANI13	入力		A-1
P714	130	ANI14	入力		A-1
P715	129	ANI15	入力		A-1

(1) ポート7レジスタH，ポート7レジスタL（P7H, P7L）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：P7L FFFFF40EH, P7H FFFFF40FH

	7	6	5	4	3	2	1	0
P7H	P715	P714	P713	P712	P711	P710	P79	P78

	7	6	5	4	3	2	1	0
P7L	P77	P76	P75	P74	P73	P72	P71	P70

P7n	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-15）
0	0を出力
1	1を出力

注意　A/D変換中にP7H, P7Lレジスタをリード／ライトしないでください（13. 6（4）兼用入出力について参照）。

備考　P7レジスタとして16ビット・アクセスはできません。P7H, P7Lレジスタとして8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

(2) ポート7モード・レジスタH，ポート7モード・レジスタL（PM7H, PM7L）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：PM7L FFFFF42EH, PM7H FFFFF42FH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PM7H	PM715	PM714	PM713	PM712	PM711	PM710	PM79	PM78

	7	6	5	4	3	2	1	0
PM7L	PM77	PM76	PM75	PM74	PM73	PM72	PM71	PM70

PM7n	入出力モードの制御（n = 0-15）
0	出力モード
1	入力モード

注意　P7n端子を兼用機能（ANIn端子）として使用する場合は，PM7nビット = 1に設定してください。

備考　PM7レジスタとして16ビット・アクセスはできません。PM7H, PM7Lレジスタとして8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

4. 3. 8　ポート8

ポート8は1ビット単位で入出力を制御できる2ビットのポートです。

ポート8は，次に示す端子と兼用しています。

表4－11　ポート8の兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
P80	59	RXDA3/INTP8	入力	N-chオープン・ドレーン出力選択可能	L-2
P81	60	TXDA3	出力		E-2

注意　P80端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。

(1) ポート8レジスタ（P8）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF410H

	7	6	5	4	3	2	1	0
P8	0	0	0	0	0	0	P81	P80

P8n	出力データの制御（出力モード時）（n = 0, 1）
0	0を出力
1	1を出力

(2) ポート8モード・レジスタ（PM8）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF430H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PM8	1	1	1	1	1	1	PM81	PM80

PM8n	入出力モードの制御（n = 0, 1）
0	出力モード
1	入力モード

(3) ポート8モード・コントロール・レジスタ（PMC8）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF450H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC8	0	0	0	0	0	0	PMC81	PMC80

PMC81	P81端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	TXDA3出力

PMC80	P80端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	RXDA3入力/INTP8注入力

注 INTP8端子とRXDA3端子は兼用となっています。RXDA3端子として使用する場合は，兼用しているINTP8端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF8.INTF80ビット = 0, INTR8.INTR80ビット = 0に設定）。また，INTP8端子として使用する場合は，UARTA3を受信動作停止としてください（UA3CTL0.UA3RXEビット = 0）。

(4) ポート8ファンクション・レジスタ（PF8）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFFC70H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PF8	0	0	0	0	0	0	PF81	PF80

PF8n	通常出力/N-chオープン・ドレーン出力の制御（n = 0, 1）
0	通常出力（CMOS出力）
1	N-chオープン・ドレーン出力

注意 出力端子に対してEV_{DD}以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF8nビットを1に設定してください。

4. 3. 9　ポート9

ポート9は1ビット単位で入出力を制御できる16ビットのポートです。

ポート9は，次に示す端子と兼用しています。

表4－12　ポート9の兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
P90	61	A0/KR6/TXDA1/SDA02	入出力	N-chオープン・ドレーン出力選択可能	U-10
P91	62	A1/KR7/RXDA1/SCL02	入出力		U-11
P92	63	A2/TIP41/TOP41	入出力		U-12
P93	64	A3/TIP40/TOP40	入出力		U-12
P94	65	A4/TIP31/TOP31	入出力		U-12
P95	66	A5/TIP30/TOP30	入出力		U-12
P96	67	A6/TIP21/TOP21	入出力		U-13
P97	68	A7/SIB1/TIP20/TOP20	入出力		U-14
P98	69	A8/SOB1	出力		G-3
P99	70	A9/$\overline{\text{SCKB1}}$	入出力		G-5
P910	71	A10/SIB3	入出力		G-2
P911	72	A11/SOB3	出力		G-3
P912	73	A12/$\overline{\text{SCKB3}}$	入出力		G-5
P913	74	A13/INTP4	入出力		N-2
P914	75	A14/INTP5/TIP51/TOP51	入出力		U-15
P915	76	A15/INTP6/TIP50/TOP50	入出力		U-15

注意　P90-P97, P99, P910, P912-P915端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。

(1) ポート9レジスタ (P9)

リセット時：0000H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：P9 FFFFF412H,
P9L FFFFF412H, P9H FFFFF413H

	15	14	13	12	11	10	9	8
P9（P9H）	P915	P914	P913	P912	P911	P910	P99	P98

	7	6	5	4	3	2	1	0
（P9L）	P97	P96	P95	P94	P93	P92	P91	P90

P9n	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-15）
0	0を出力
1	1を出力

備考1. P9レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，P9レジスタの上位8ビットをP9Hレジスタ，下位8ビットをP9Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2. P9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，P9Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(2) ポート9モード・レジスタ (PM9)

リセット時：FFFFH　R/W　アドレス：PM9 FFFFF432H,
PM9L FFFFF432H, PM9H FFFFF433H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PM9（PM9H）	PM915	PM914	PM913	PM912	PM911	PM910	PM99	PM98

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PM9L）	PM97	PM96	PM95	PM94	PM93	PM92	PM91	PM90

PM9n	入出力モードの制御（n = 0-15）
0	出力モード
1	入力モード

備考1. PM9レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PM9レジスタの上位8ビットをPM9Hレジスタ，下位8ビットをPM9Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2. PM9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PM9Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(3) ポート9モード・コントロール・レジスタ（PMC9）

(1/2)

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PMC9 FFFFF452H,
PMC9L FFFFF452H, PMC9H FFFFF453H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMC9（PMC9H）	PMC915	PMC914	PMC913	PMC912	PMC911	PMC910	PMC99	PMC98

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PMC9L）	PMC97	PMC96	PMC95	PMC94	PMC93	PMC92	PMC91	PMC90

PMC915	P915端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A15出力/INTP6入力/TIP50入力/TOP50出力

PMC914	P914端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A14出力/INTP5入力/TIP51入力/TOP51出力

PMC913	P913端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A13出力/INTP4入力

PMC912	P912端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A12出力/$\overline{\text{SCKB3}}$入出力

PMC911	P911端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A11出力/SOB3出力

PMC910	P910端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A10出力/SIB3入力

PMC99	P99端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A9出力/$\overline{\text{SCKB1}}$入出力

PMC98	P98端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A8出力/SOB1出力

備考1. PMC9レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PMC9レジスタの上位8ビットをPMC9Hレジスタ，下位8ビットをPMC9Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2. PMC9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PMC9Hレジスタのビット0-7として指定してください。

（2/2）

PMC97	P97端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A7出力/SIB1入力/TIP20入力/TOP20出力

PMC96	P96端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A6出力/TIP21入力/TOP21出力

PMC95	P95端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A5出力/TIP30入力/TOP30出力

PMC94	P94端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A4出力/TIP31入力/TOP31出力

PMC93	P93端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A3出力/TIP40入力/TOP40出力

PMC92	P92端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A2出力/TIP41入力/TOP41出力

PMC91	P91端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A1出力/KR7入力/RXDA1入力/SCL02入出力

PMC90	P90端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	A0出力/KR6入力/TXDA1出力/SDA02入出力

注意　P90-P915**端子の兼用機能として**A0-A15**端子を使用する場合は，必ず**PMC9**レジスタを**16**ビット一括して**FFFFH**としてください。**

(4) ポート9ファンクション・コントロール・レジスタ (PFC9)

注意　セパレート・アドレス・バス出力 (A0-A15) を行う場合，PFC9, PFCE9レジスタを0000Hに設定後，PMC9レジスタをFFFFHに16ビット一括で設定してください。

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PFC9 FFFFF472H,
PFC9L FFFFF472H, PFC9H FFFFF473H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFC9 (PFC9H)	PFC915	PFC914	PFC913	PFC912	PFC911	PFC910	PFC99	PFC98

	7	6	5	4	3	2	1	0
(PFC9L)	PFC97	PFC96	PFC95	PFC94	PFC93	PFC92	PFC91	PFC90

備考1. 兼用機能の指定については4. 3. 9 (6) ポート9の兼用機能の指定を参照してください。

2. PFC9レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PFC9レジスタの上位8ビットをPFC9Hレジスタ，下位8ビットをPFC9Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

3. PFC9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PFC9Hレジスタのビット0-7として指定してください。

（5）ポート9ファンクション・コントロール拡張レジスタ（PFCE9）

注意　セパレート・アドレス・バス出力（A0-A15）を行う場合，PFC9, PFCE9レジスタを0000Hに設定後，PMC9レジスタをFFFFHに16ビット一括で設定してください。

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PFCE9 FFFFF712H,
PFCE9L FFFFF712H, PFCE9H FFFFF713H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFCE9（PFCE9H）	PFCE915	PFCE914	0	0	0	0	0	0

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PFCE9L）	PFCE97	PFCE96	PFCE95	PFCE94	PFCE93	PFCE92	PFCE91	PFCE90

備考1.　兼用機能の指定については4. 3. 9（6）ポート9の兼用機能の指定を参照してください。

2.　PFCE9レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PFCE9レジスタの上位8ビットをPFCE9Hレジスタ，下位8ビットをPFCE9Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

3.　PFCE9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PFCE9Hレジスタのビット0-7として指定してください。

(6) ポート9の兼用機能の指定

PFCE915	PFC915	P915端子の兼用機能の指定
0	0	A15出力
0	1	INTP6入力
1	0	TIP50入力
1	1	TOP50出力

PFCE914	PFC914	P914端子の兼用機能の指定
0	0	A14出力
0	1	INTP5入力
1	0	TIP51入力
1	1	TOP51出力

PFC913	P913端子の兼用機能の指定
0	A13出力
1	INTP4入力

PFC912	P912端子の兼用機能の指定
0	A12出力
1	$\overline{\text{SCKB3}}$入出力

PFC911	P911端子の兼用機能の指定
0	A11出力
1	SOB3出力

PFC910	P910端子の兼用機能の指定
0	A10出力
1	SIB3入力

PFC99	P99端子の兼用機能の指定
0	A9出力
1	$\overline{\text{SCKB1}}$入出力

PFC98	P98端子の兼用機能の指定
0	A8出力
1	SOB1出力

PFCE97	PFC97	P97端子の兼用機能の指定
0	0	A7出力
0	1	SIB1入力
1	0	TIP20入力
1	1	TOP20出力

PFCE96	PFC96	P96端子の兼用機能の指定
0	0	A6出力
0	1	設定禁止
1	0	TIP21入力
1	1	TOP21出力

PFCE95	PFC95	P95端子の兼用機能の指定
0	0	A5出力
0	1	TIP30入力
1	0	TOP30出力
1	1	設定禁止

PFCE94	PFC94	P94端子の兼用機能の指定
0	0	A4出力
0	1	TIP31入力
1	0	TOP31出力
1	1	設定禁止

PFCE93	PFC93	P93端子の兼用機能の指定
0	0	A3出力
0	1	TIP40入力
1	0	TOP40出力
1	1	設定禁止

PFCE92	PFC92	P92端子の兼用機能の指定
0	0	A2出力
0	1	TIP41入力
1	0	TOP41出力
1	1	設定禁止

PFCE91	PFC91	P91端子の兼用機能の指定
0	0	A1出力
0	1	KR7入力
1	0	RXDA1入力/KR7入力[注]
1	1	SCL02入出力

PFCE90	PFC90	P90端子の兼用機能の指定
0	0	A0出力
0	1	KR6入力
1	0	TXDA1出力
1	1	SDA02入出力

注　RXDA1端子とKR7端子は同時に使用することはできません。RXDA1端子を使用する場合は，KR7端子を使用しないでください。また，KR7端子を使用する場合は，RXDA1端子を使用しないでください（PFC91ビット = 1, PFCE91ビット = 0に設定することを推奨します）。

(7) ポート9ファンクション・レジスタ（PF9）

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PF9 FFFFFC72H,
PF9L FFFFFC72H, PF9H FFFFFC73H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PF9（PF9H）	PF915	PF914	PF913	PF912	PF911	PF910	PF99	PF98

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PF9L）	PF97	PF96	PF95	PF94	PF93	PF92	PF91	PF90

PF9n	通常出力/N-chオープン・ドレーン出力の制御（n = 0-15）
0	通常出力（CMOS出力）
1	N-chオープン・ドレーン出力

注意　出力端子に対してEV_{DD}以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF9nビットを1に設定してください。

備考1.　PF9レジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PF9レジスタの上位8ビットをPF9Hレジスタ，下位8ビットをPF9Lレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2.　PF9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PF9Hレジスタのビット0-7として指定してください。

4. 3. 10　ポートCD

ポートCDは1ビット単位で入出力を制御できる4ビットのポートです。

ポートCDは，次に示す端子と兼用しています。

表4－13　ポートCDの兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
PCD0	77	－	－	－	B-1
PCD1	78	－	－		B-1
PCD2	79	－	－		B-1
PCD3	80	－	－		B-1

(1) ポートCDレジスタ（PCD）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF00EH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PCD	0	0	0	0	PCD3	PCD2	PCD1	PCD0

PCDn	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-3）
0	0を出力
1	1を出力

(2) ポートCDモード・レジスタ（PMCD）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF02EH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCD	1	1	1	1	PMCD3	PMCD2	PMCD1	PMCD0

PMCDn	入出力モードの制御（n = 0-3）
0	出力モード
1	入力モード

4. 3. 11　ポートCM

ポートCMは1ビット単位で入出力を制御できる6ビットのポートです。

ポートCMは，次に示す端子と兼用しています。

表4－14　ポートCMの兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
PCM0	85	$\overline{\text{WAIT}}$	入力	－	D-1
PCM1	86	CLKOUT	出力		D-2
PCM2	87	$\overline{\text{HLDAK}}$	出力		D-2
PCM3	88	$\overline{\text{HLDRQ}}$	入力		D-1
PCM4	89	－	－		B-1
PCM5	90	－	－		B-1

（1）ポートCMレジスタ（PCM）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF00CH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PCM	0	0	PCM5	PCM4	PCM3	PCM2	PCM1	PCM0

PCMn	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-5）
0	0を出力
1	1を出力

（2）ポートCMモード・レジスタ（PMCM）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF02CH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCM	1	1	PMCM5	PMCM4	PMCM3	PMCM2	PMCM1	PMCM0

PMCMn	入出力モードの制御（n = 0-5）
0	出力モード
1	入力モード

(3) ポートCMモード・コントロール・レジスタ（PMCCM）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF04CH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCCM	0	0	0	0	PMCCM3	PMCCM2	PMCCM1	PMCCM0

PMCCM3	PCM3端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	$\overline{\text{HLDRQ}}$入力

PMCCM2	PCM2端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	$\overline{\text{HLDAK}}$出力

PMCCM1	PCM1端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	CLKOUT出力

PMCCM0	PCM0端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	$\overline{\text{WAIT}}$入力

4. 3. 12　ポートCS

ポートCSは1ビット単位で入出力を制御できる8ビットのポートです。

ポートCSは，次に示す端子と兼用しています。

表4－15　ポートCSの兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
PCS0	81	$\overline{CS0}$	出力	－	D-2
PCS1	82	$\overline{CS1}$	出力		D-2
PCS2	83	$\overline{CS2}$	出力		D-2
PCS3	84	$\overline{CS3}$	出力		D-2
PCS4	91	－	－		B-1
PCS5	92	－	－		B-1
PCS6	93	－	－		B-1
PCS7	94	－	－		B-1

(1) ポートCSレジスタ（PCS）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF008H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PCS	PCS7	PCS6	PCS5	PCS4	PCS3	PCS2	PCS1	PCS0

PCSn	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-7）
0	0を出力
1	1を出力

(2) ポートCSモード・レジスタ（PMCS）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF028H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCS	PMCS7	PMCS6	PMCS5	PMCS4	PMCS3	PMCS2	PMCS1	PMCS0

PMCSn	入出力モードの制御（n = 0-7）
0	出力モード
1	入力モード

(3) ポートCSモード・コントロール・レジスタ（PMCCS）

リセット時：00H　R/W　**アドレス：**FFFFF048H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCCS	0	0	0	0	PMCCS3	PMCCS2	PMCCS1	PMCCS0

PMCCS3	PCS3端子の動作モードの指定
0	**入出力ポート**
1	$\overline{\text{CS3}}$**出力**

PMCCS2	PCS2端子の動作モードの指定
0	**入出力ポート**
1	$\overline{\text{CS2}}$**出力**

PMCCS1	PCS1端子の動作モードの指定
0	**入出力ポート**
1	$\overline{\text{CS1}}$**出力**

PMCCS0	PCS0端子の動作モードの指定
0	**入出力ポート**
1	$\overline{\text{CS0}}$**出力**

4. 3. 13　ポートCT

ポートCTは1ビット単位で入出力を制御1できる8ビットのポートです。

ポートCTは次に示す端子と兼用しています。

表4－16　ポートCTの兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
PCT0	95	$\overline{\text{WR0}}$	出力	－	D-2
PCT1	96	$\overline{\text{WR1}}$	出力		D-2
PCT2	97	－	－		B-1
PCT3	98	－	－		B-1
PCT4	99	$\overline{\text{RD}}$	出力		D-2
PCT5	100	－	－		B-1
PCT6	101	ASTB	出力		D-2
PCT7	102	－	－		B-1

(1) ポートCTレジスタ（PCT）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF00AH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PCT	PCT7	PCT6	PCT5	PCT4	PCT3	PCT2	PCT1	PCT0

PCTn	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-7）
0	0を出力
1	1を出力

(2) ポートCTモード・レジスタ（PMCT）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF02AH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCT	PMCT7	PMCT6	PMCT5	PMCT4	PMCT3	PMCT2	PMCT1	PMCT0

PMCTn	入出力モードの制御（n = 0-7）
0	出力モード
1	入力モード

(3) ポートCTモード・コントロール・レジスタ（PMCCT）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF04AH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCCT	0	PMCCT6	0	PMCCT4	0	0	PMCCT1	PMCCT0

PMCCT6	PCT6端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	ASTB出力

PMCCT4	PCT4端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	$\overline{\text{RD}}$出力

PMCCT1	PCT1端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	$\overline{\text{WR1}}$出力

PMCCT0	PCT0端子の動作モードの指定
0	入出力ポート
1	$\overline{\text{WR0}}$出力

4. 3. 14　ポートDH

ポートDHは1ビット単位で入出力を制御できる8ビットのポートです。

ポートDHは，次に示す端子と兼用しています。

表4－17　ポートDHの兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
PDH0	121	A16	出力	－	D-2
PDH1	122	A17	出力		D-2
PDH2	123	A18	出力		D-2
PDH3	124	A19	出力		D-2
PDH4	125	A20	出力		D-2
PDH5	126	A21	出力		D-2
PDH6	127	A22	出力		D-2
PDH7	128	A23	出力		D-2

(1) ポートDHレジスタ（PDH）

リセット時：00H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：FFFFF006H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PDH	PDH7	PDH6	PDH5	PDH4	PDH3	PDH2	PDH1	PDH0

PDHn	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-7）
0	0を出力
1	1を出力

(2) ポートDHモード・レジスタ（PMDH）

リセット時：FFH　R/W　アドレス：FFFFF026H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMDH	PMDH7	PMDH6	PMDH5	PMDH4	PMDH3	PMDH2	PMDH1	PMDH0

PMDHn	入出力モードの制御（n = 0-7）
0	出力モード
1	入力モード

(3) ポートDHモード・コントロール・レジスタ（PMCDH）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF046H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCDH	PMCDH7	PMCDH6	PMCDH5	PMCDH4	PMCDH3	PMCDH2	PMCDH1	PMCDH0

PMCDHn	PDHn端子の動作モードの指定（n = 0-7）
0	入出力ポート
1	Am出力（アドレス・バス出力）（m = 16-23）

4. 3. 15　ポートDL

ポートDLは1ビット単位で入出力を制御できる16ビットのポートです。

ポートDLは，次に示す端子と兼用しています。

表4－18　ポートDLの兼用端子

端子名	ピン番号	兼用端子名	入出力	備　考	ブロック・タイプ
PDL0	105	AD0	入出力	－	D-3
PDL1	106	AD1	入出力		D-3
PDL2	107	AD2	入出力		D-3
PDL3	108	AD3	入出力		D-3
PDL4	109	AD4	入出力		D-3
PDL5	110	AD5/FLMD1[注]	入出力		D-3
PDL6	111	AD6	入出力		D-3
PDL7	112	AD7	入出力		D-3
PDL8	113	AD8	入出力		D-3
PDL9	114	AD9	入出力		D-3
PDL10	115	AD10	入出力		D-3
PDL11	116	AD11	入出力		D-3
PDL12	117	AD12	入出力		D-3
PDL13	118	AD13	入出力		D-3
PDL14	119	AD14	入出力		D-3
PDL15	120	AD15	入出力		D-3

注　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時に設定する端子なので，ポート制御用レジスタで操作する必要はありません。詳細は第27章　フラッシュ・メモリを参照してください。

(1) ポートDLレジスタ（PDL）

リセット時：0000H（出力ラッチ）　R/W　アドレス：PDL FFFFF004H,
PDLL FFFFF004H, PDLH FFFFF005H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PDL（PDLH）	PDL15	PDL14	PDL13	PDL12	PDL11	PDL10	PDL9	PDL8

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PDLL）	PDL7	PDL6	PDL5	PDL4	PDL3	PDL2	PDL1	PDL0

PDLn	出力データの制御（出力モード時）（n = 0-15）
0	0を出力
1	1を出力

備考1. PDLレジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PDLレジスタの上位8ビットをPDLHレジスタ，下位8ビットをPDLLレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2. PDLレジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PDLHレジスタのビット0-7として指定してください。

(2) ポートDLモード・レジスタ（PMDL）

リセット時：FFFFH　R/W　アドレス：PMDL FFFFF024H,
PMDLL FFFFF024H, PMDLH FFFFF025H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMDL（PMDLH）	PMDL15	PMDL14	PMDL13	PMDL12	PMDL11	PMDL10	PMDL9	PMDL8

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PMDLL）	PMDL7	PMDL6	PMDL5	PMDL4	PMDL3	PMDL2	PMDL1	PMDL0

PMDLn	入出力モードの制御（n = 0-15）
0	出力モード
1	入力モード

備考1. PMDLレジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です。
ただし，PMDLレジスタの上位8ビットをPMDLHレジスタ，下位8ビットをPMDLLレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

2. PMDLレジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PMDLHレジスタのビット0-7として指定してください。

(3) ポートDL**モード・コントロール・レジスタ**（PMCDL）

リセット時：0000H　R/W　アドレス：PMCDL FFFFF044H,
PMCDLL FFFFF044H, PMCDLH FFFFF045H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMCDL（PMCDLH）	PMCDL15	PMCDL14	PMCDL13	PMCDL12	PMCDL11	PMCDL10	PMCDL9	PMCDL8

	7	6	5	4	3	2	1	0
（PMCDLL）	PMCDL7	PMCDL6	PMCDL5	PMCDL4	PMCDL3	PMCDL2	PMCDL1	PMCDL0

PMCDLn	PDLn端子の動作モードの指定（n = 0-15）
0	入出力ポート
1	ADn入出力（アドレス／データ・バス入出力）

注意　EXIMC**レジスタの**SMSEL**ビット** = 1**（セパレート・モード）かつ**BSC**レジスタの**BS30-BS00**ビット** = 0**（8ビット・バス幅）のとき，**AD8-AD15**端子を指定しないでください。**

備考1.　PMCDL**レジスタは，**16**ビット単位でリード／ライト可能です。**
ただし，PMCDL**レジスタの上位**8**ビットを**PMCDLH**レジスタ，下位**8**ビットを**PMCDLL**レジスタとして使用する場合は，**8/1**ビット単位でリード／ライト可能です。**

2.　PMCDL**レジスタのビット**8-15**を**8/1**ビット単位でリード／ライトする場合は，**
PMCDLH**レジスタのビット**0-7**として指定してください。**

4. 4　ブロック図

図4ー3　タイプA－1のブロック図

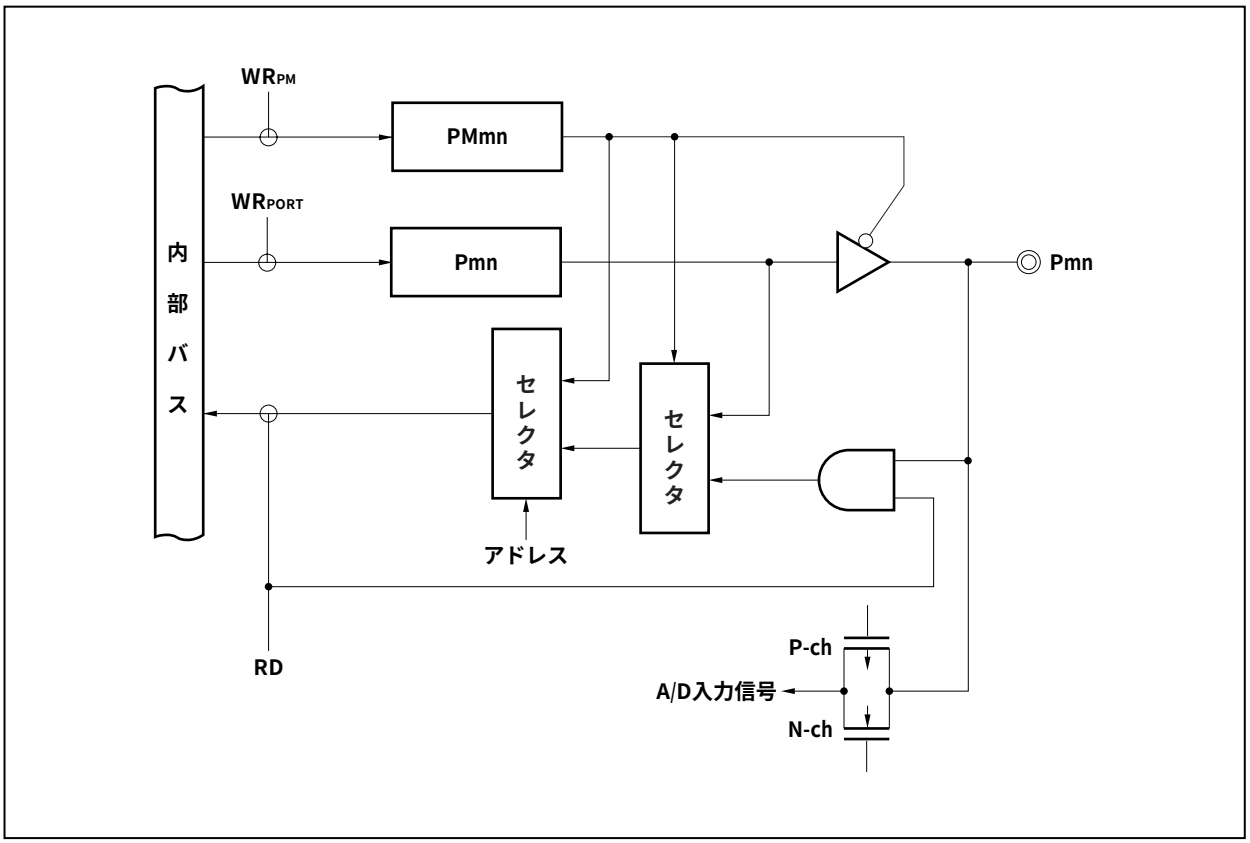


図4ー4　タイプA－2のブロック図

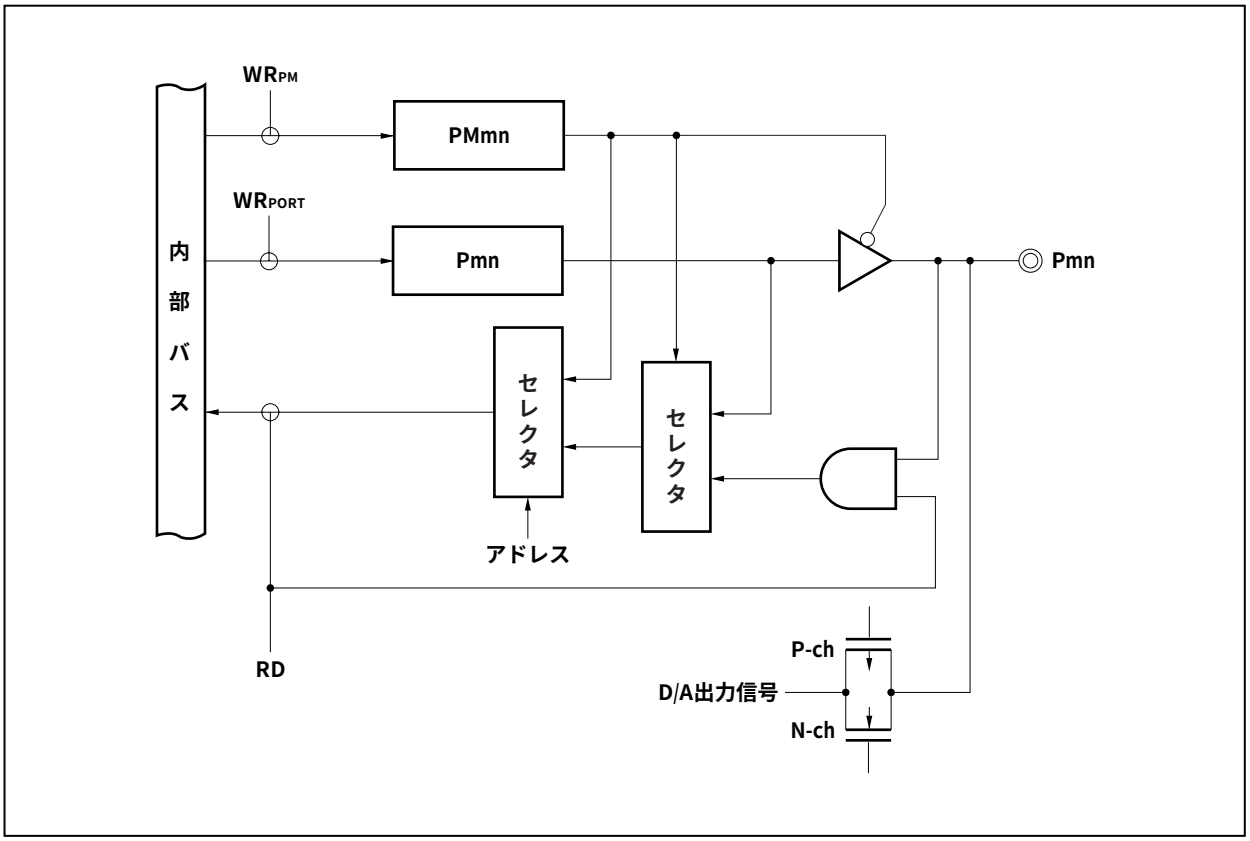


図4－5　タイプB－1のブロック図

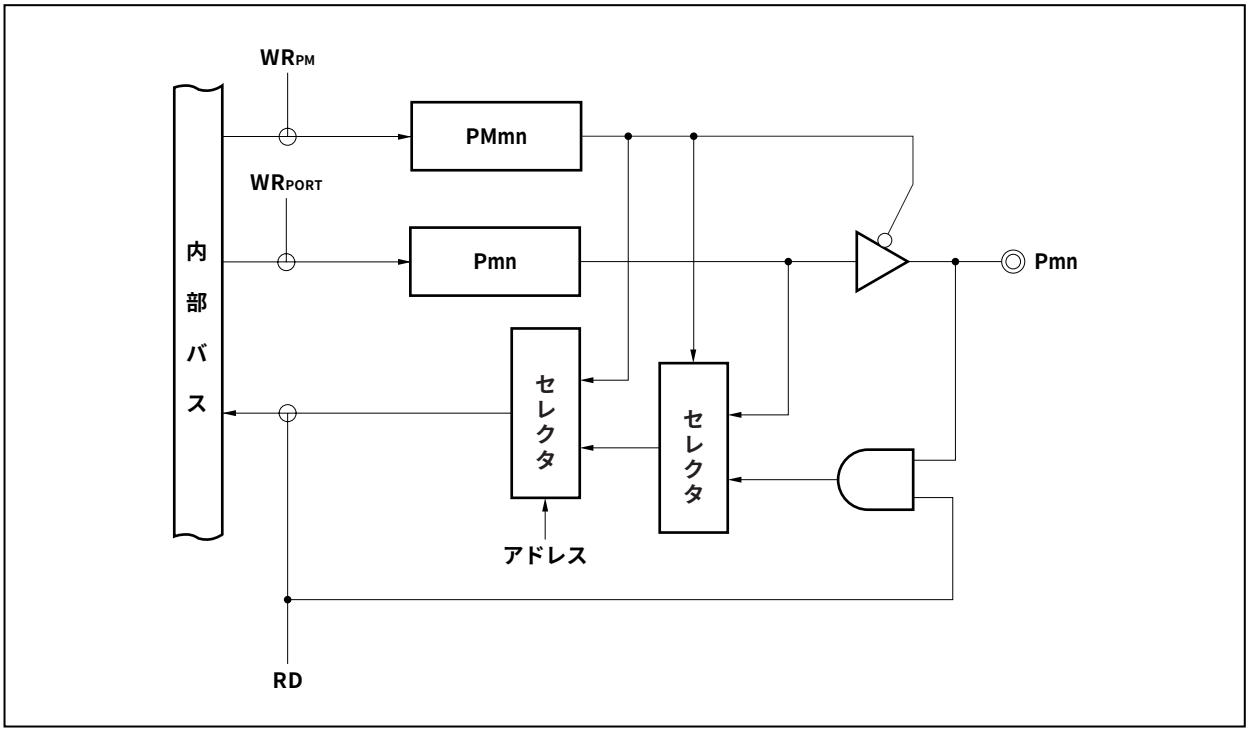


図4－6　タイプC－1のブロック図

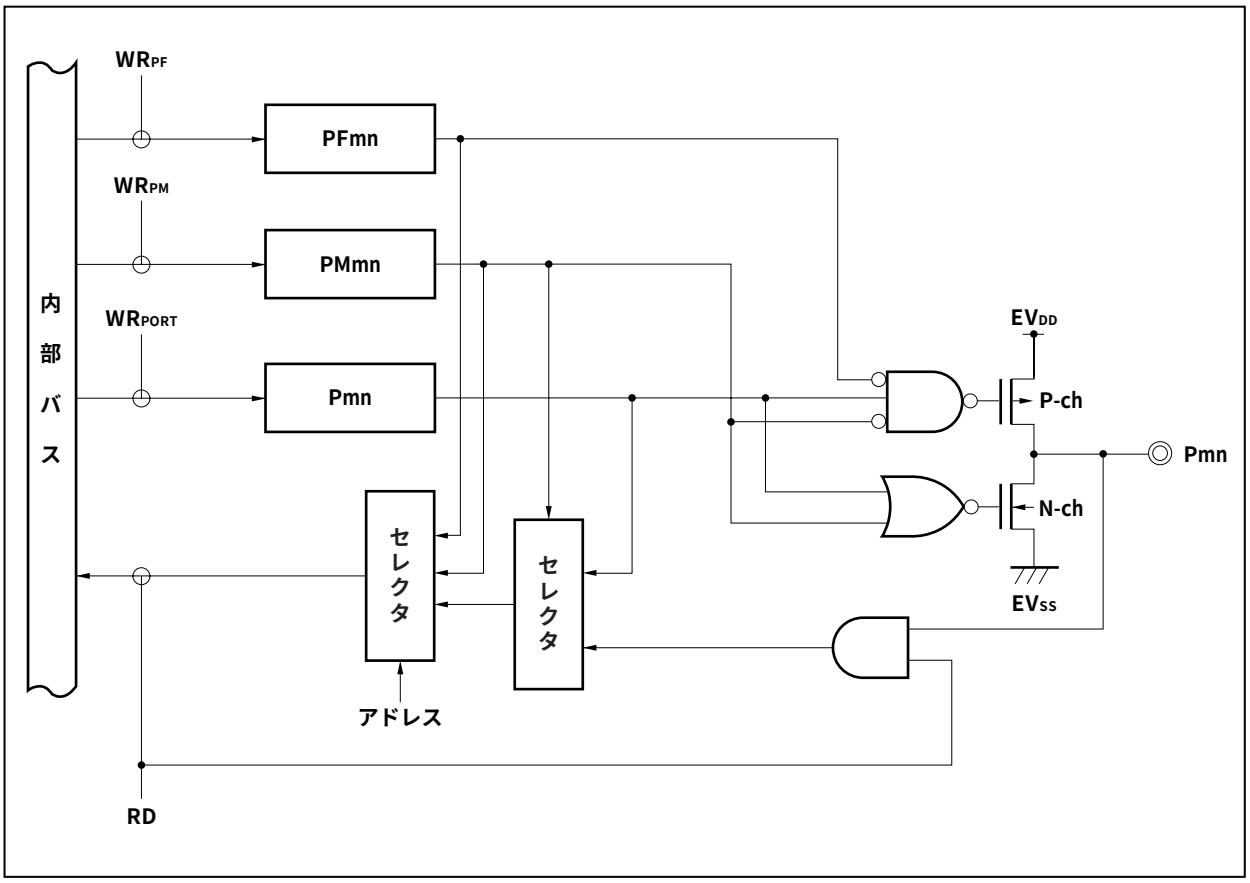


図4－7　タイプD－1のブロック図

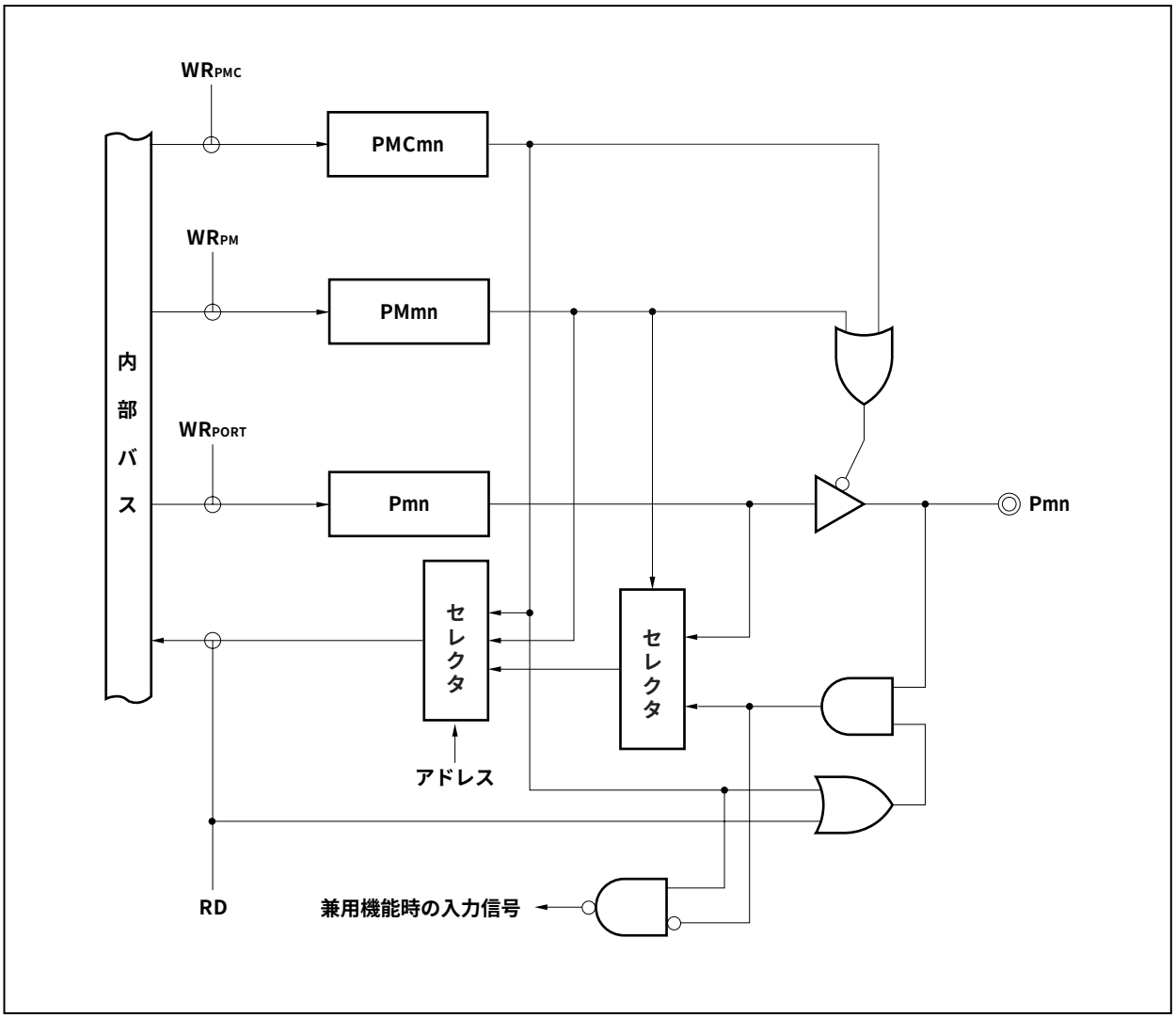


図4－8　タイプD－2のブロック図

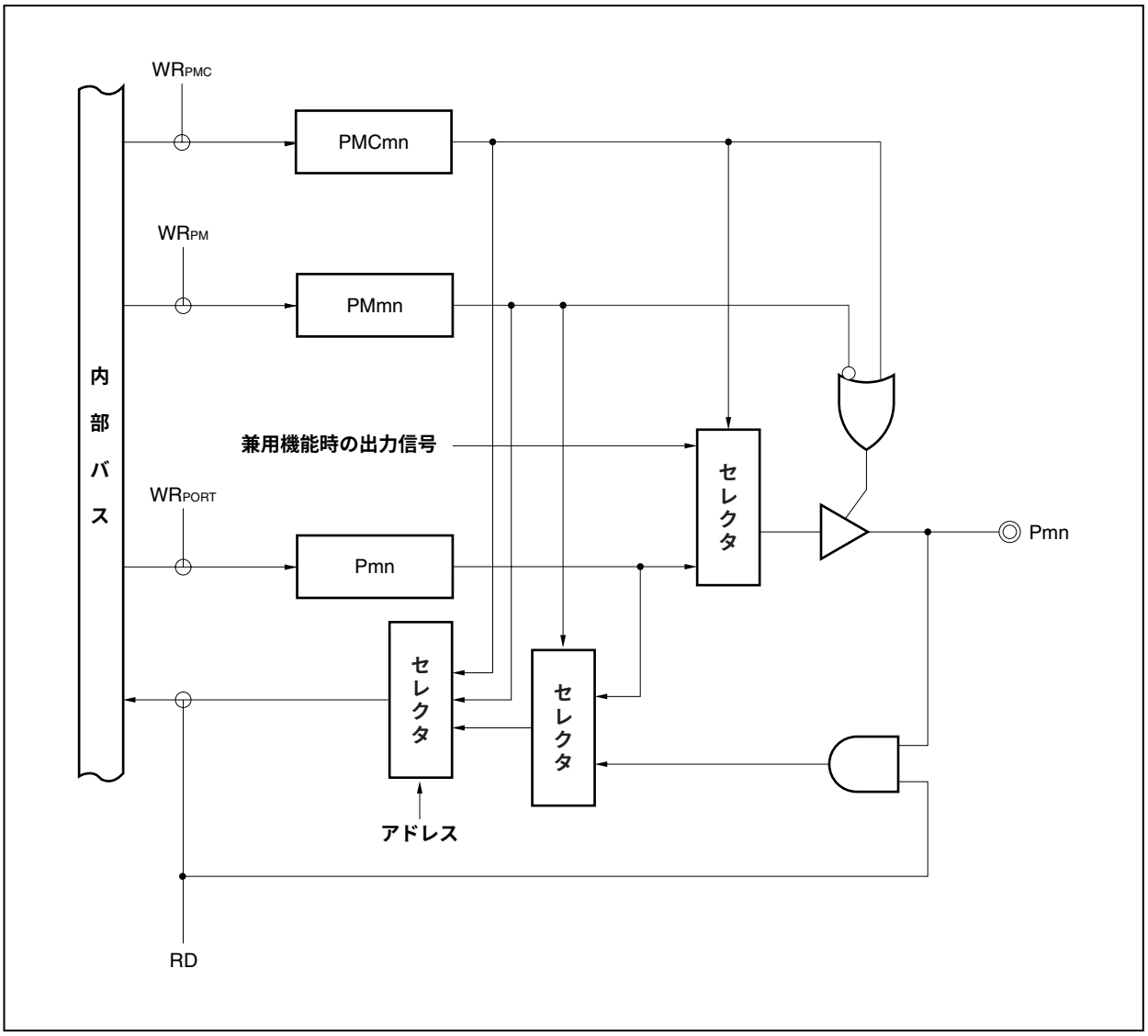


図4－9　タイプD－3のブロック図

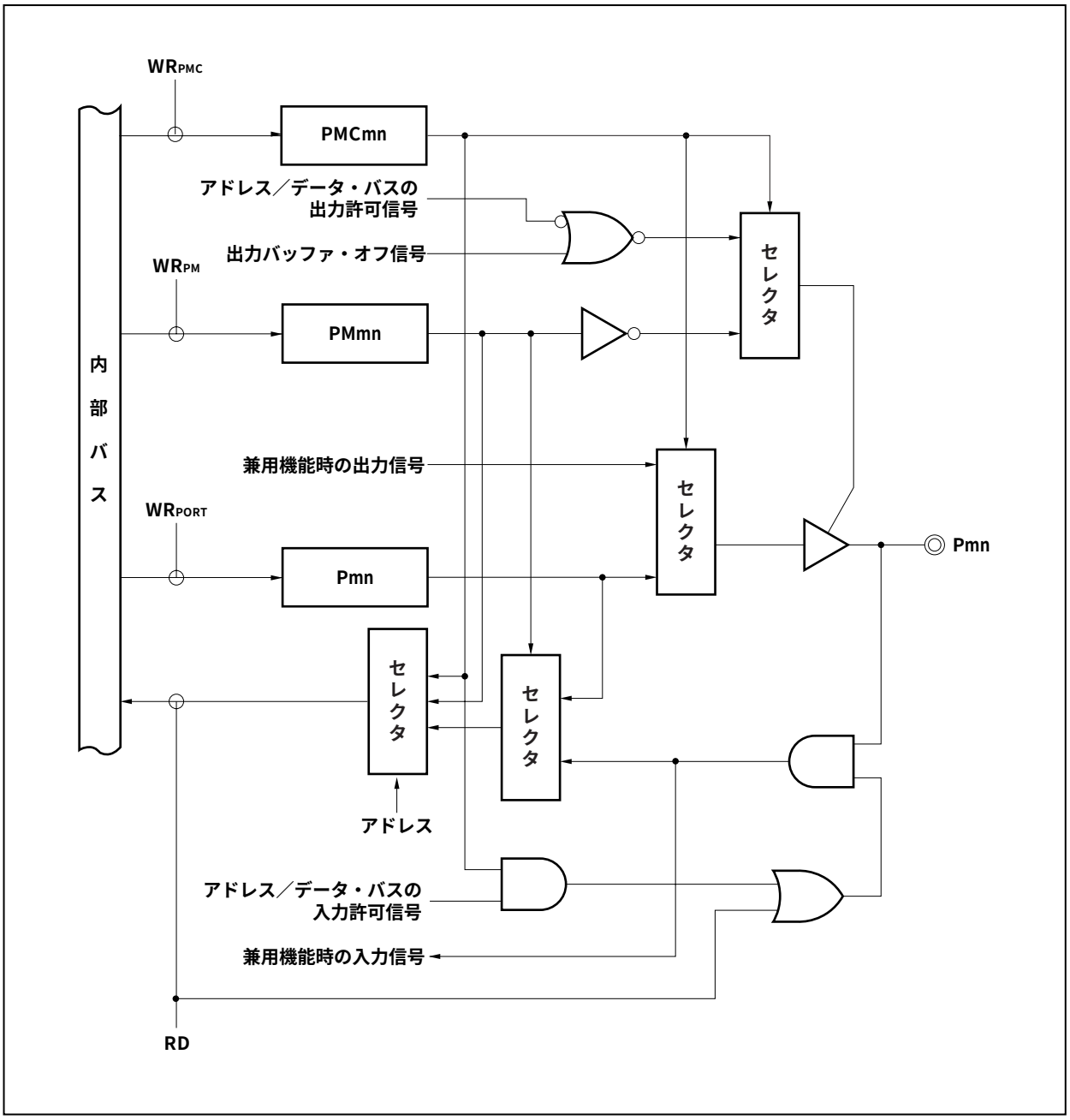
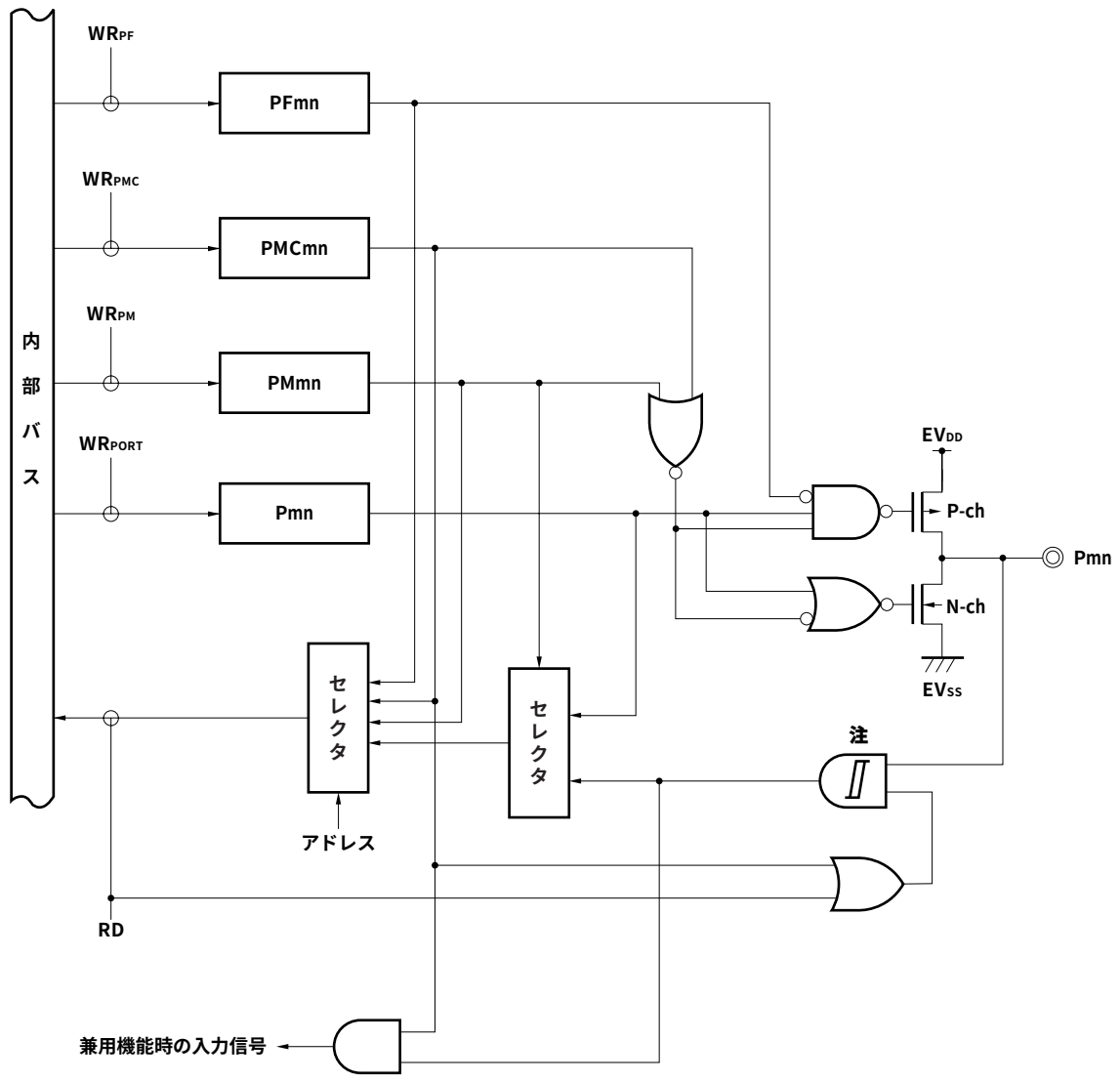


図4－10　タイプE－1のブロック図



注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－11　タイプE－2のブロック図

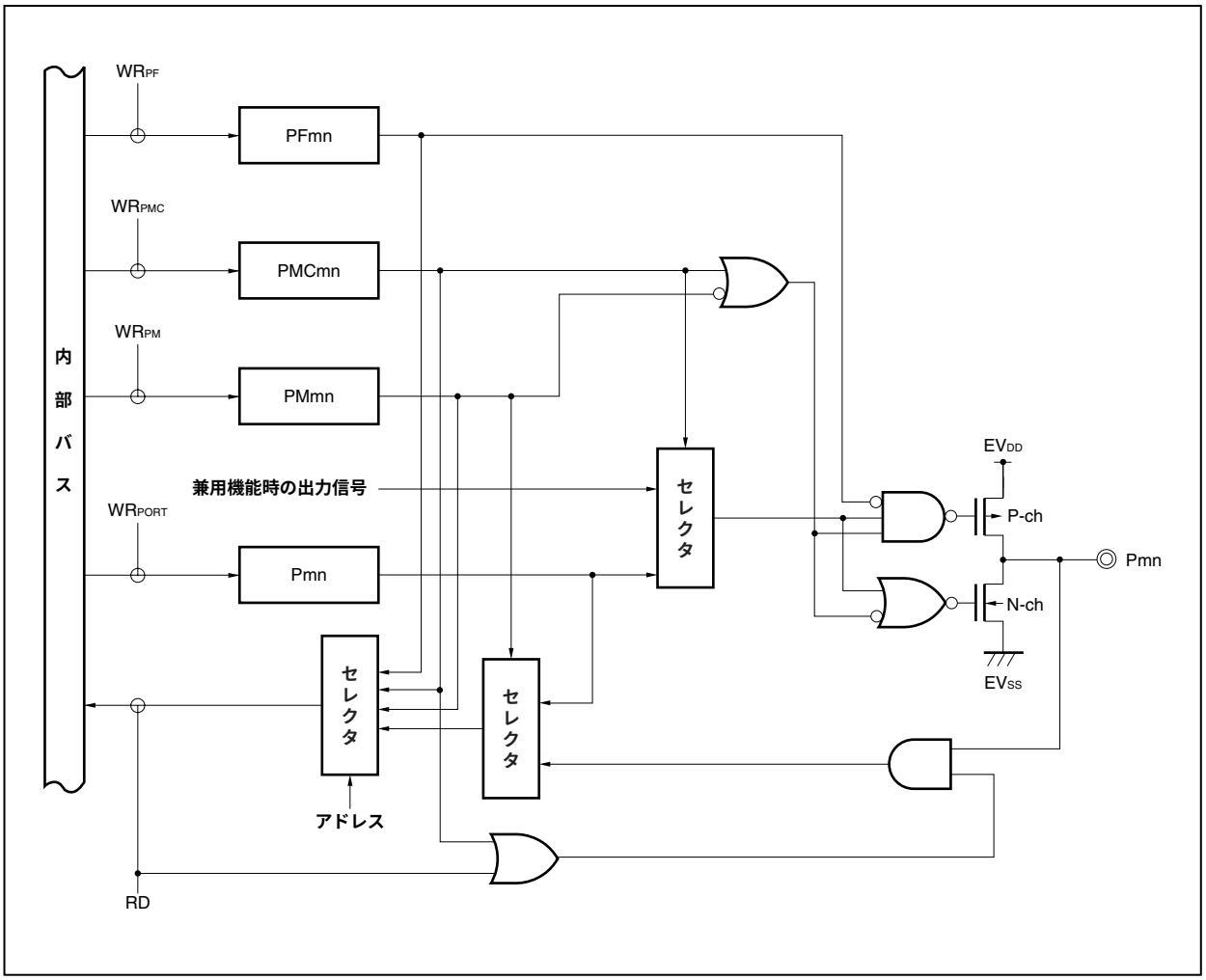
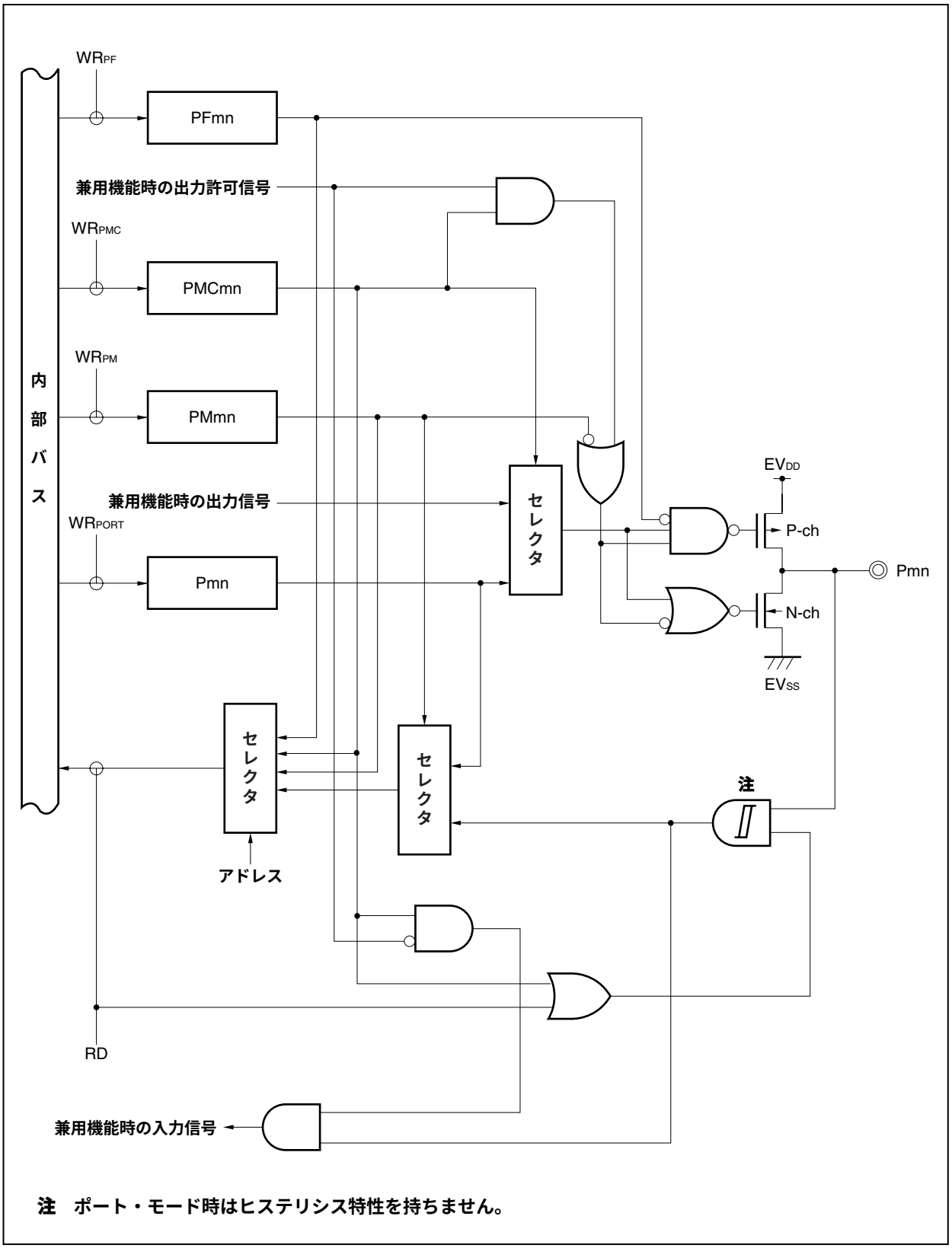
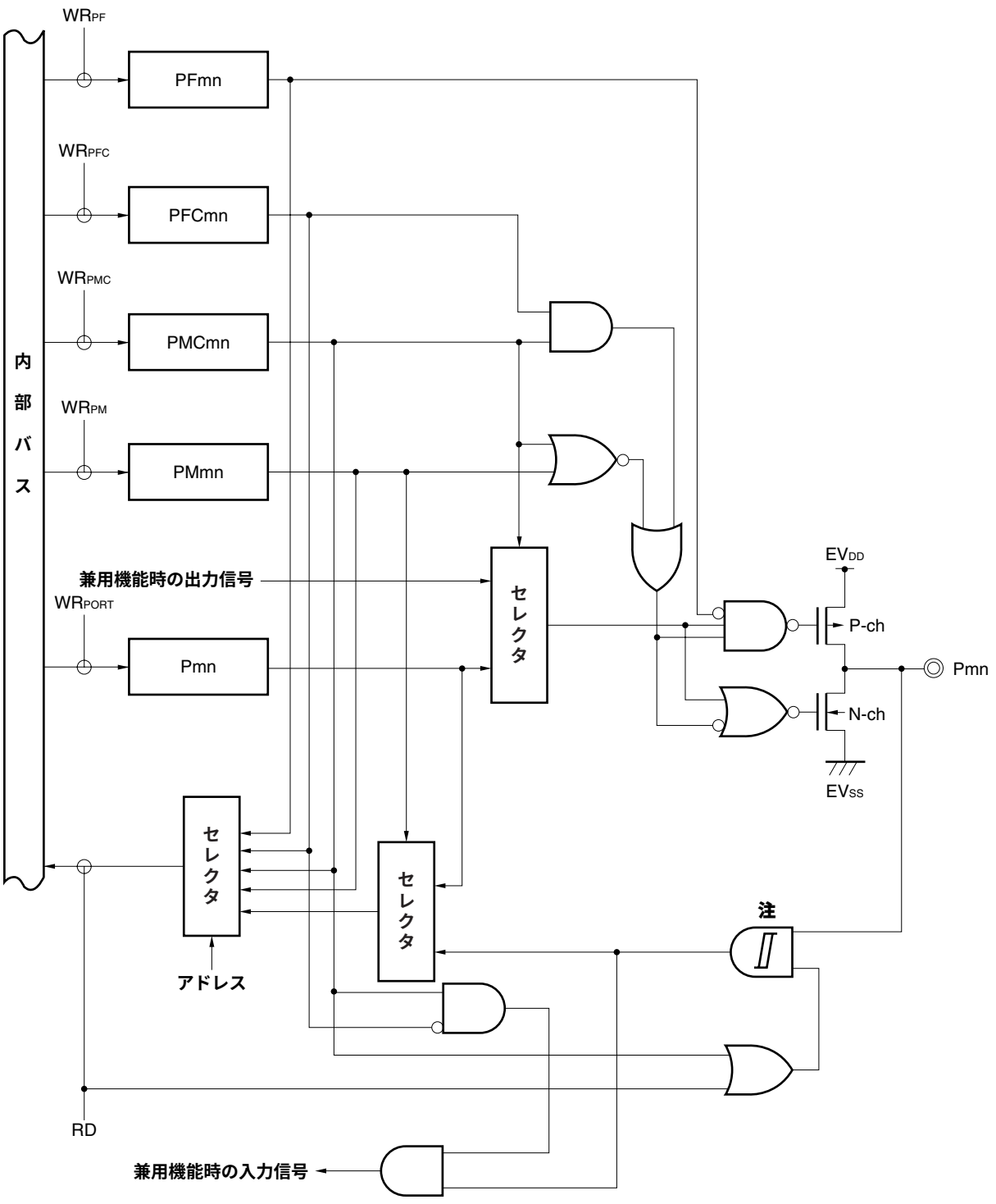


図4－12　タイプE－3のブロック図



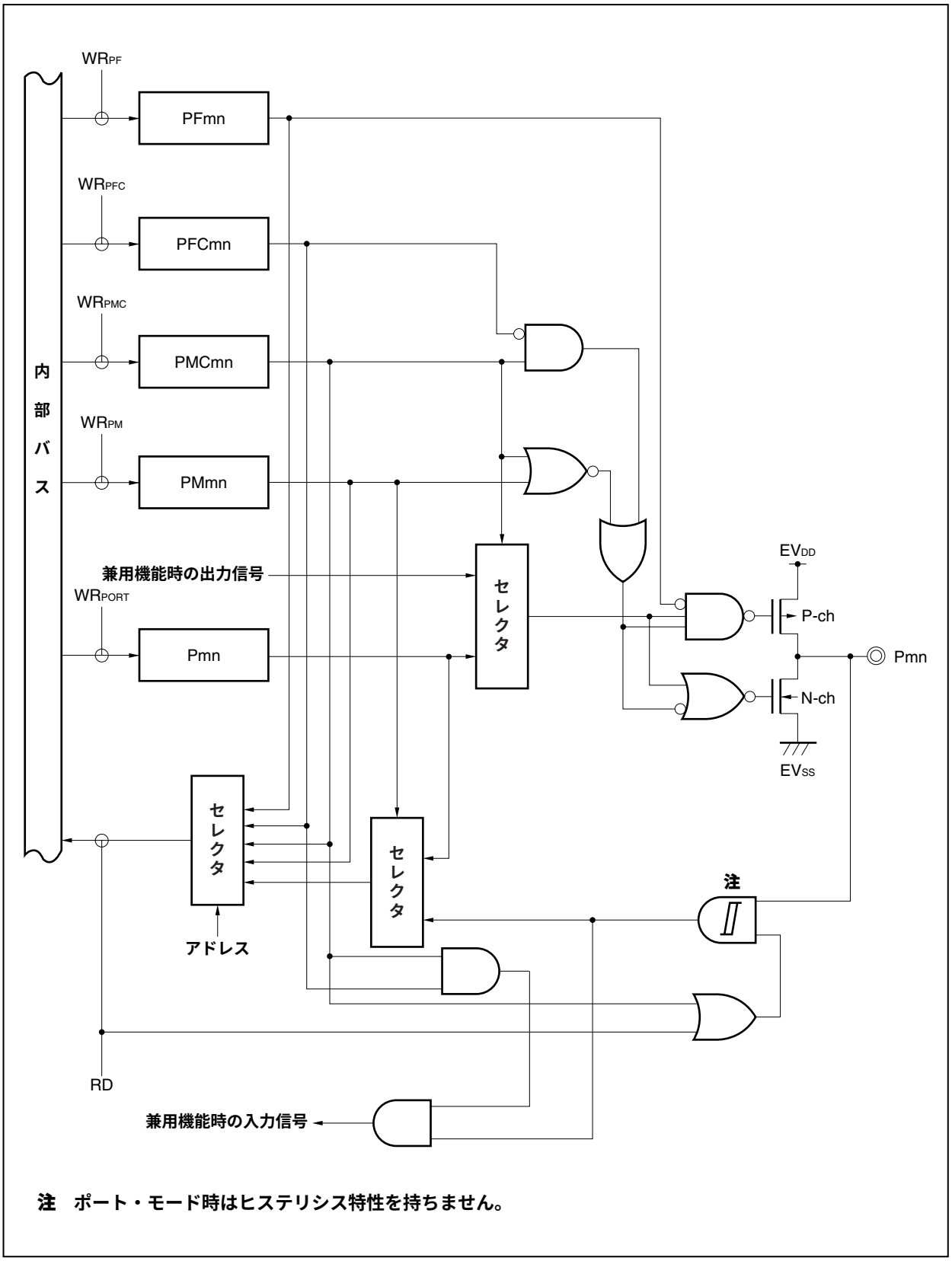
注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－13　タイプG－1のブロック図



注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－14　タイプG－2のブロック図



注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－15　タイプG－3のブロック図

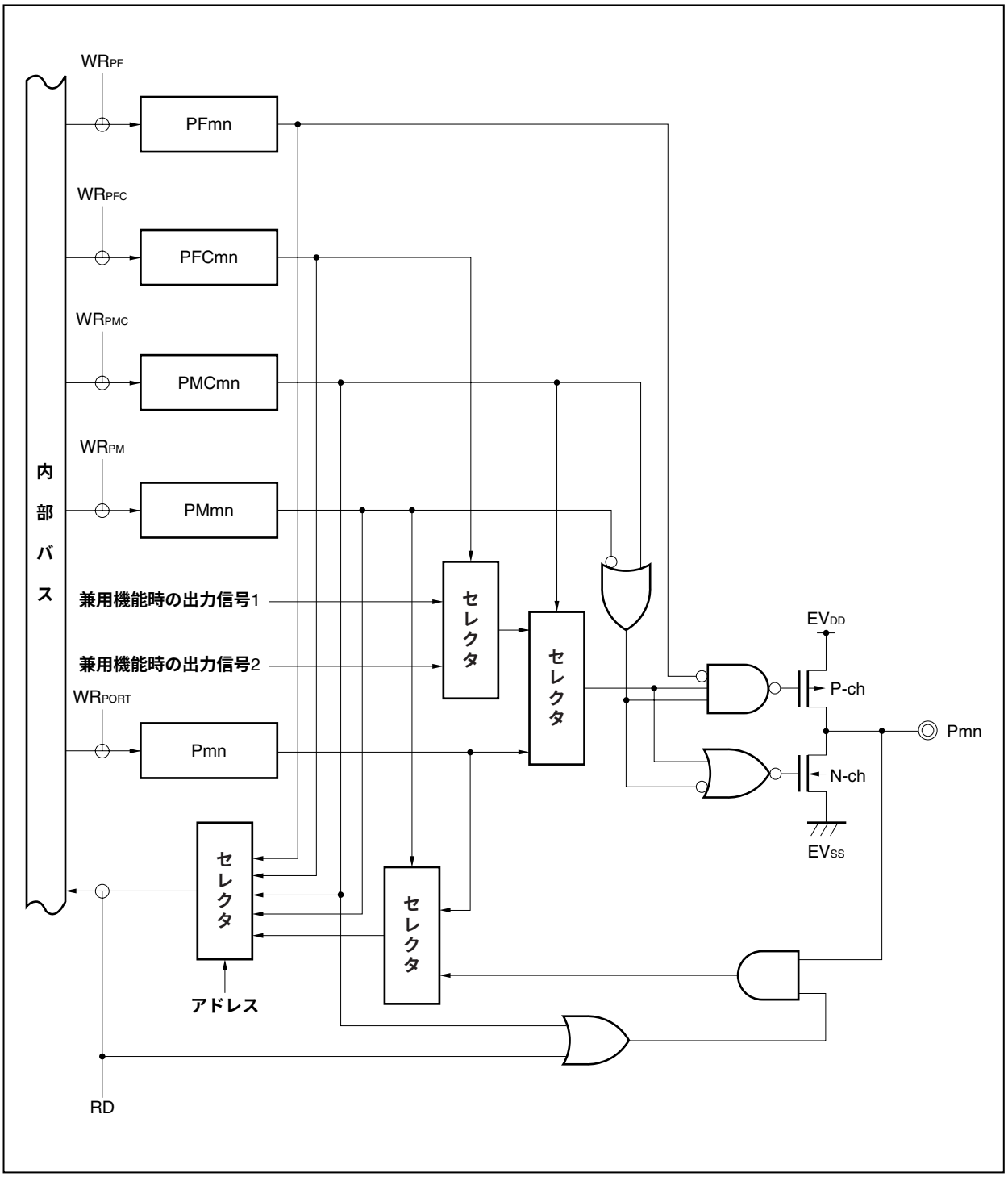
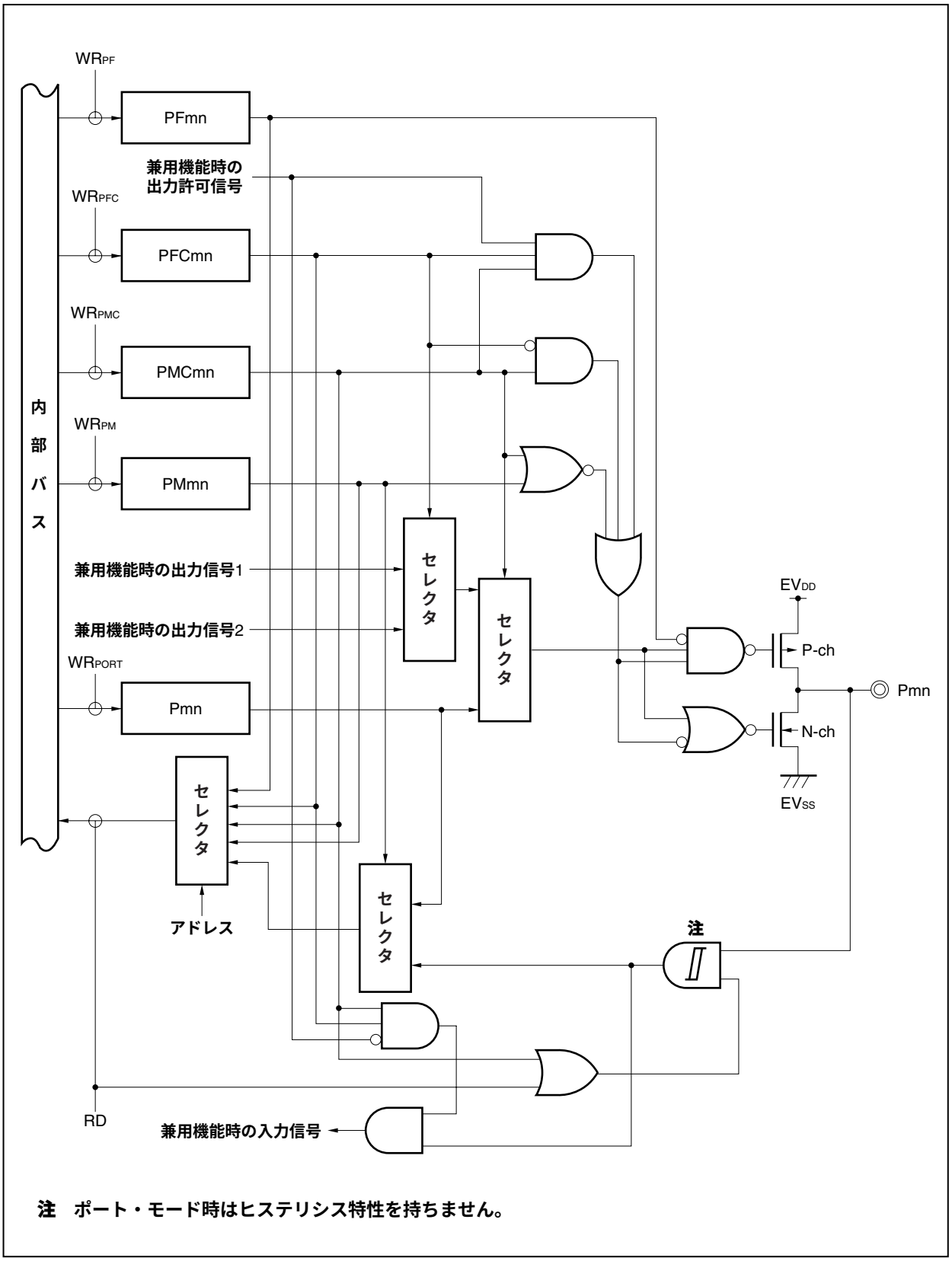
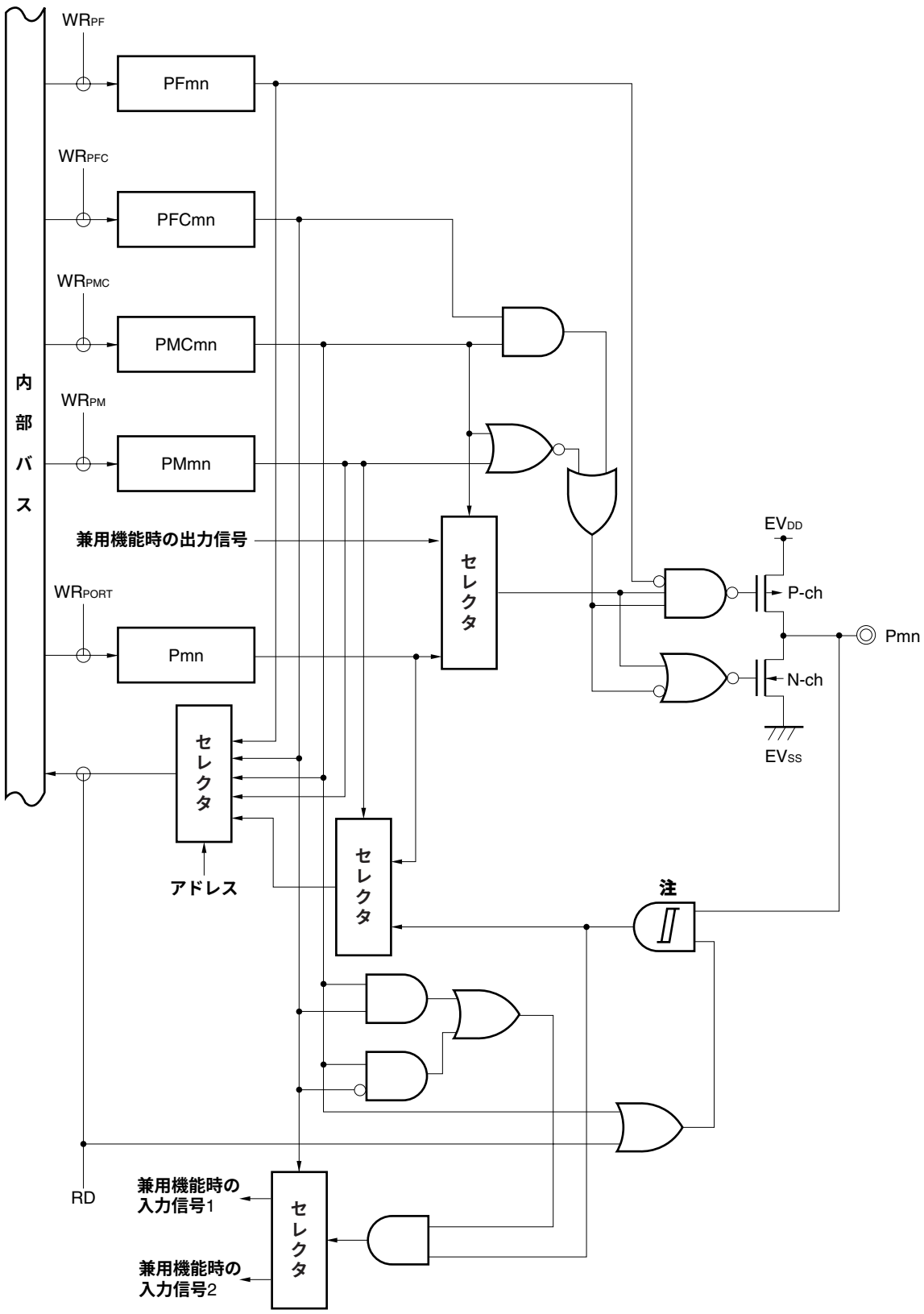


図4－16 タイプG－5のブロック図



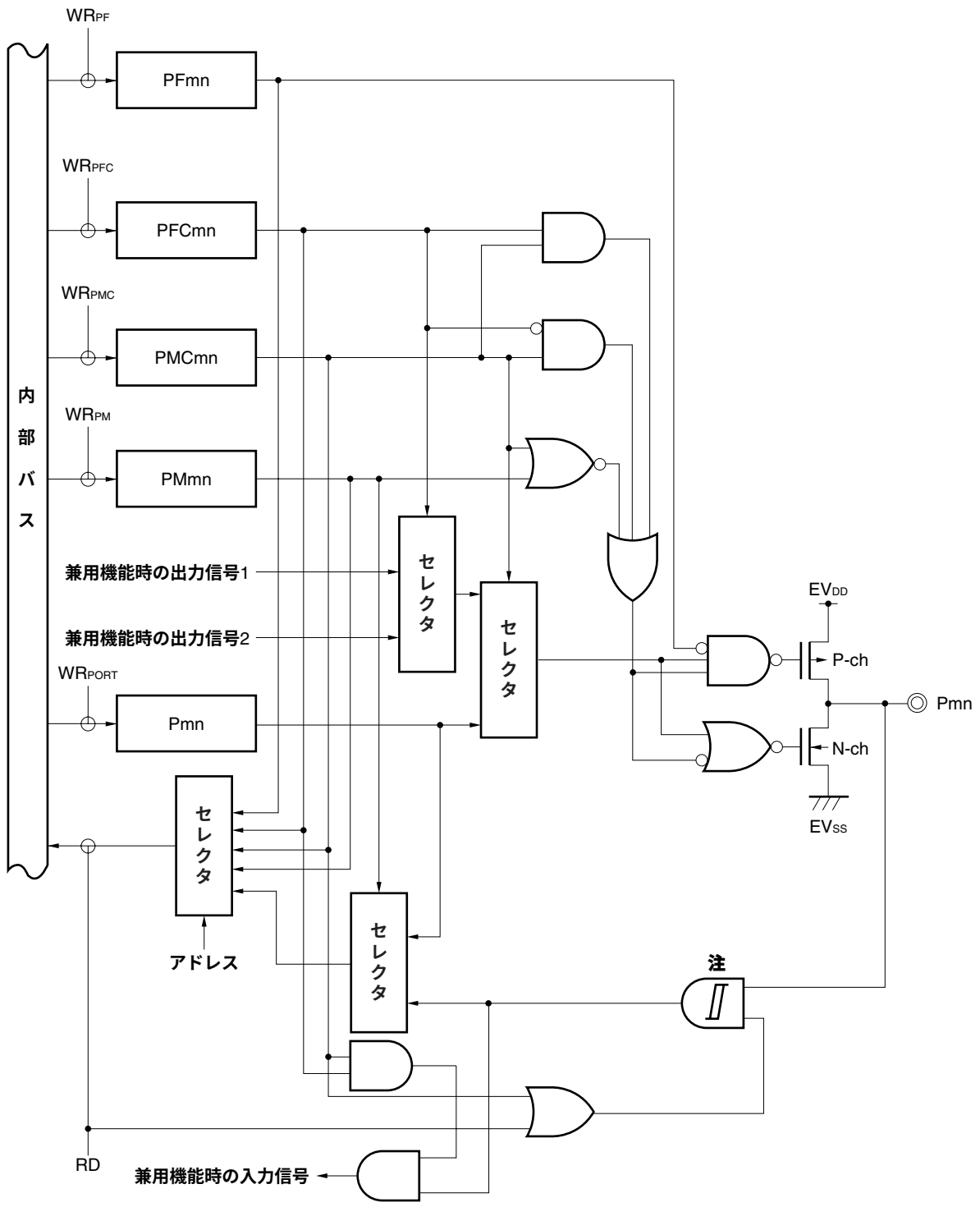
注 ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－17　タイプG－6のブロック図



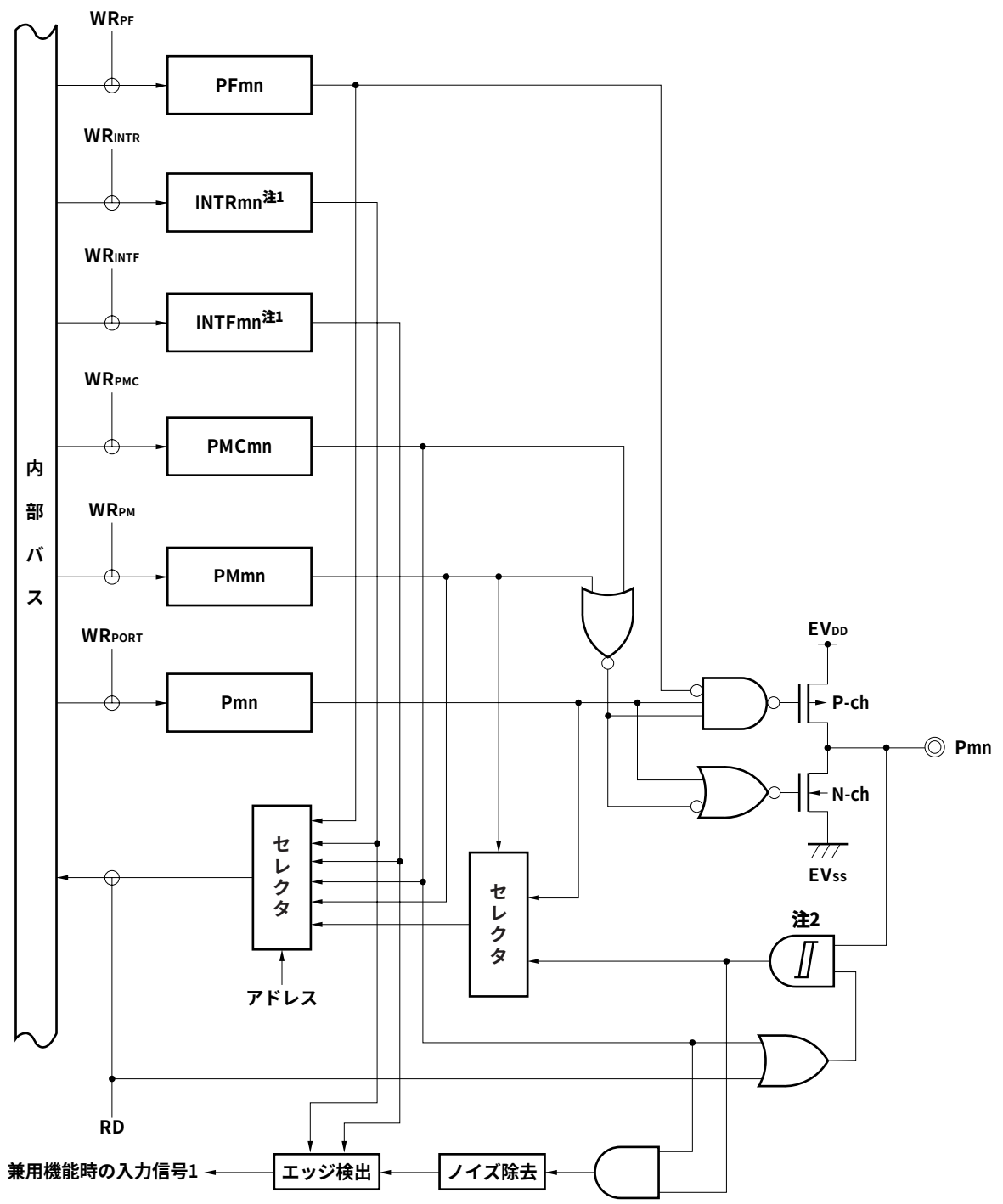
注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－18 タイプG－12のブロック図



注 ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

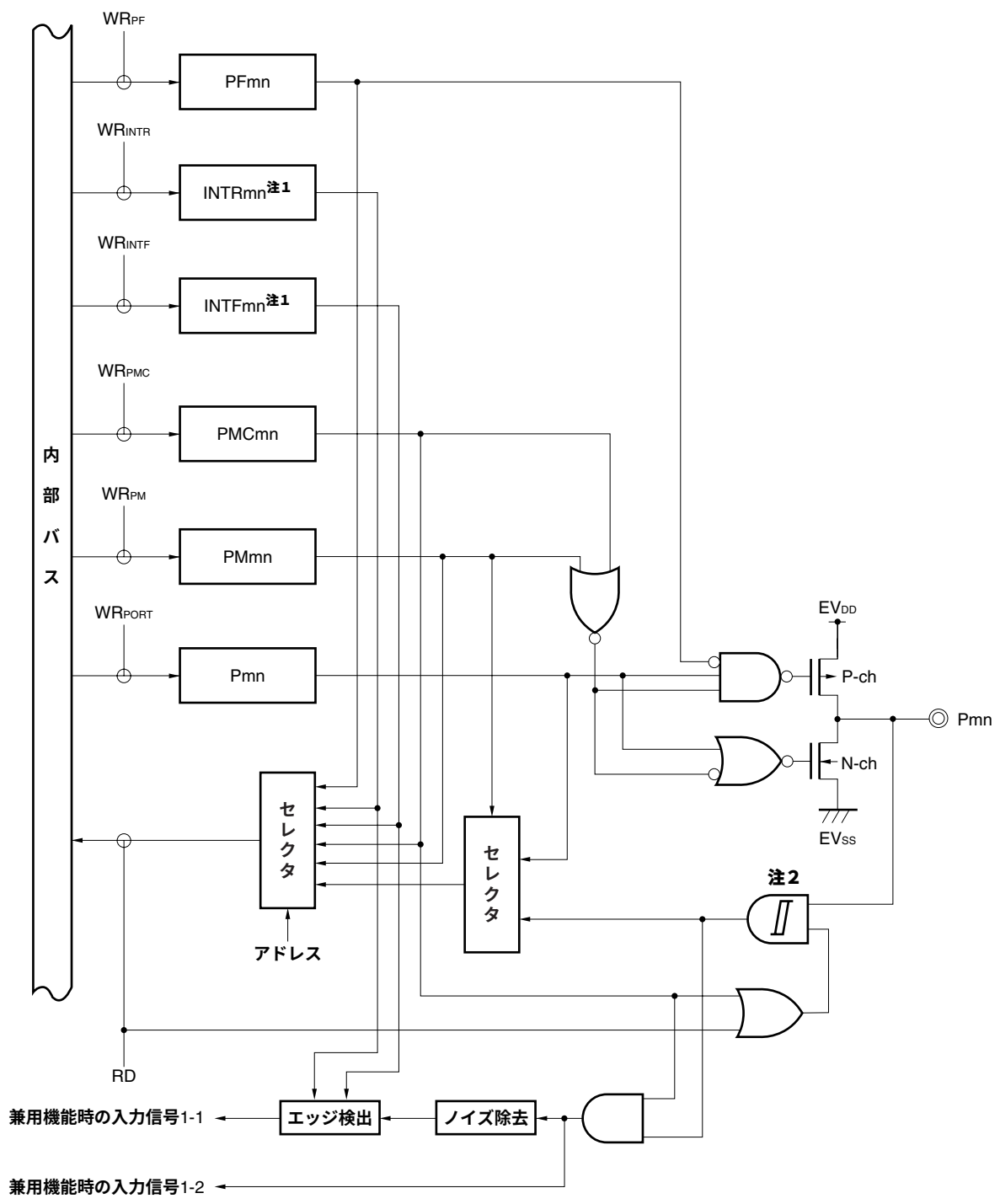
図4－19　タイプL－1のブロック図



注1.　19. 6　**外部割り込み要求入力端子**（NMI, INTP0-INTP8）**参照**

2.　**ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。**

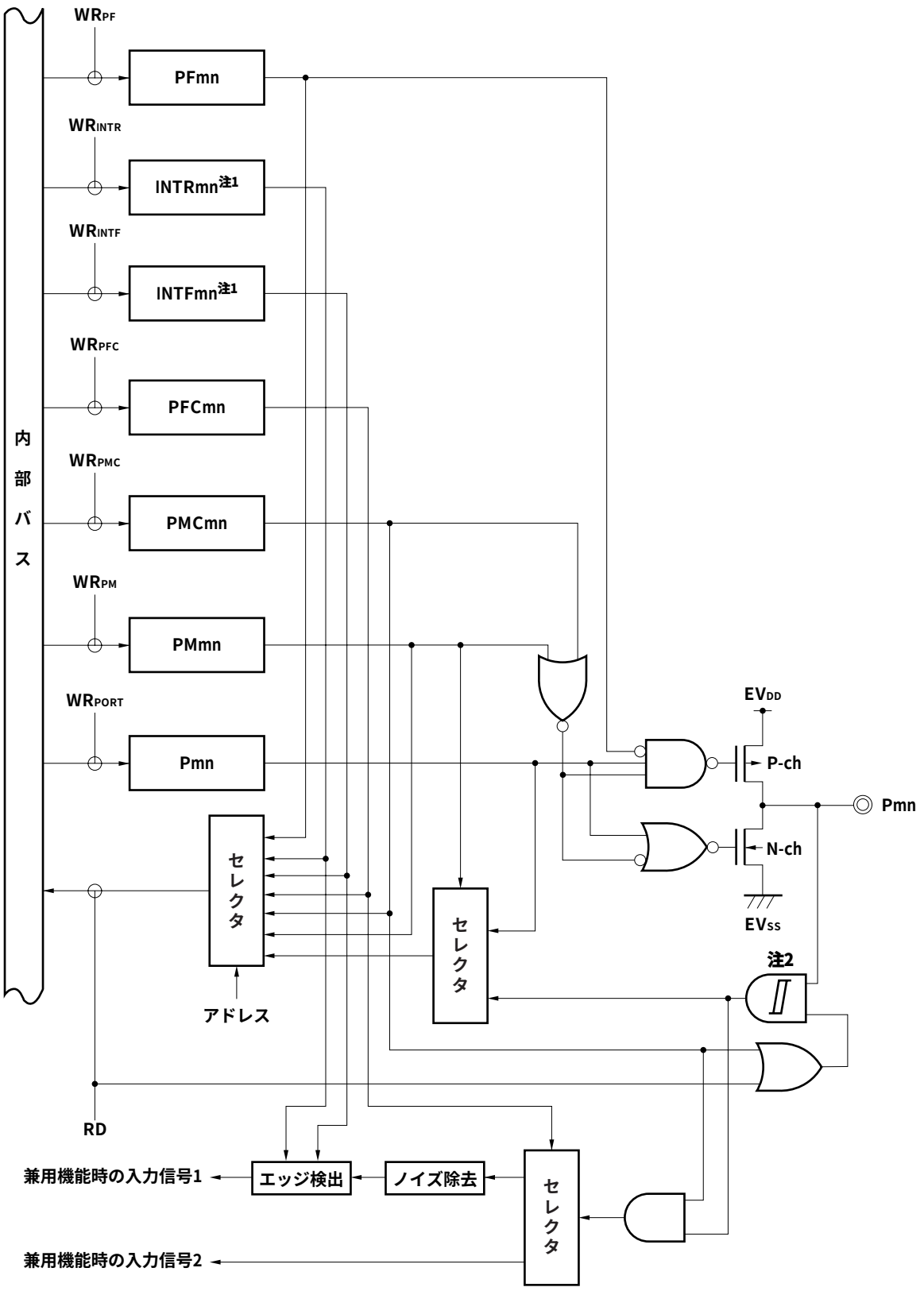
図4－20　タイプL－2のブロック図



注1.　19. 6　**外部割り込み要求入力端子**（NMI, INTP0-INTP8）**参照**

2.　**ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。**

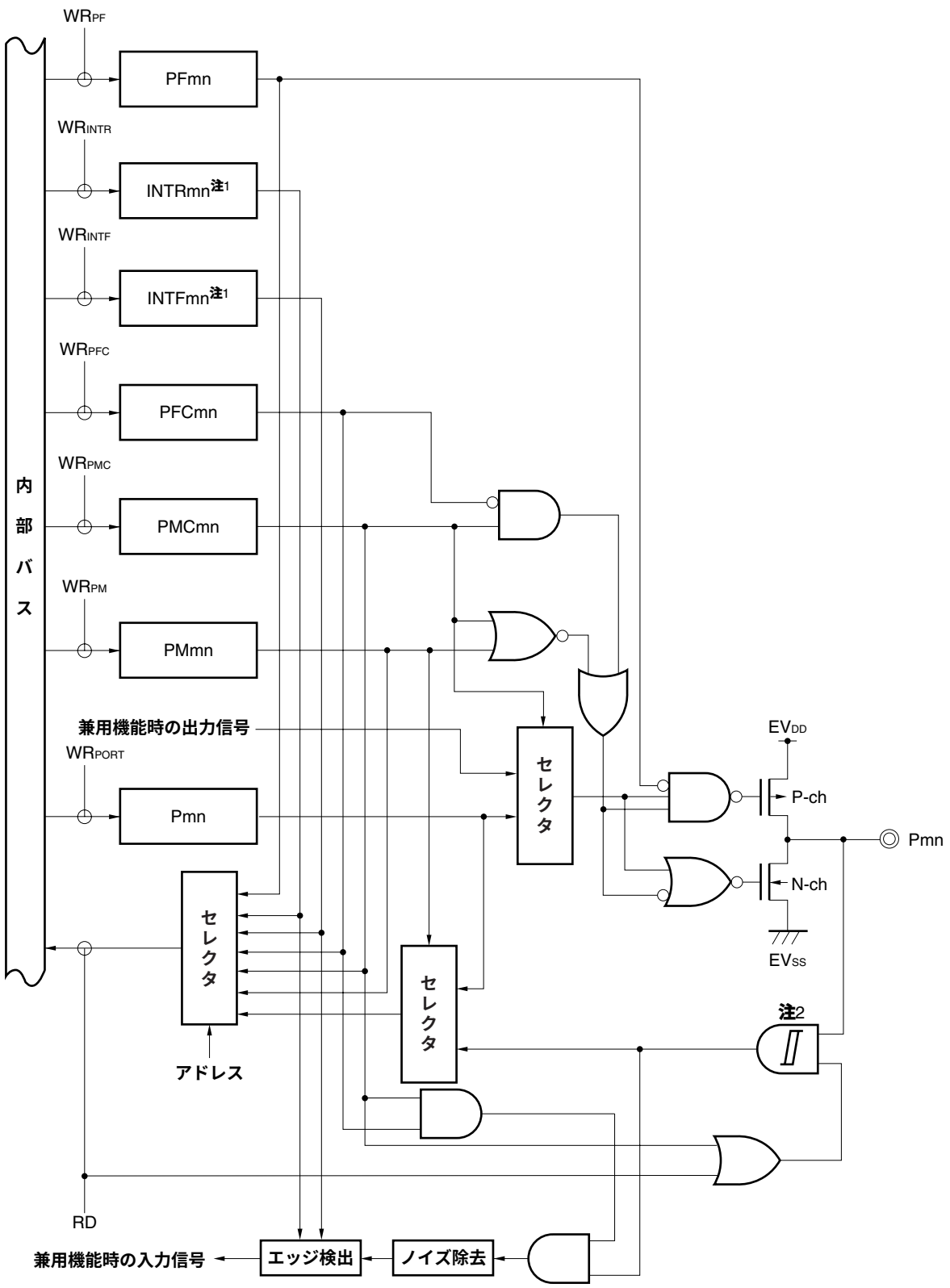
図4－21　タイプN－1のブロック図



注1.　19. 6　**外部割り込み要求入力端子**（NMI, INTP0-INTP8）**参照**

2.　**ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。**

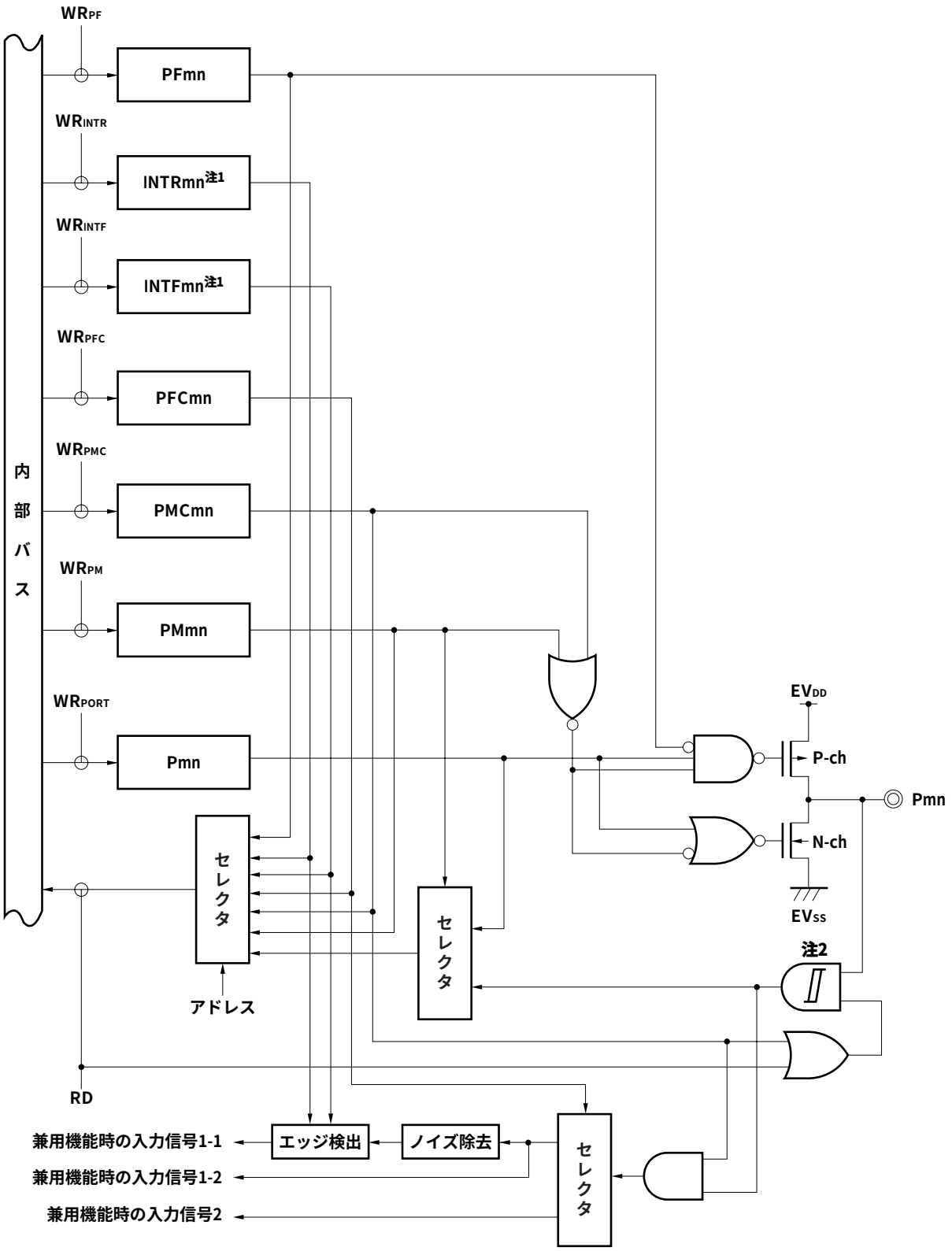
図4－22　タイプN－2のブロック図



注1.　19. 6　**外部割り込み要求入力端子**（NMI, INTP0-INTP8）**参照**

2.　**ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。**

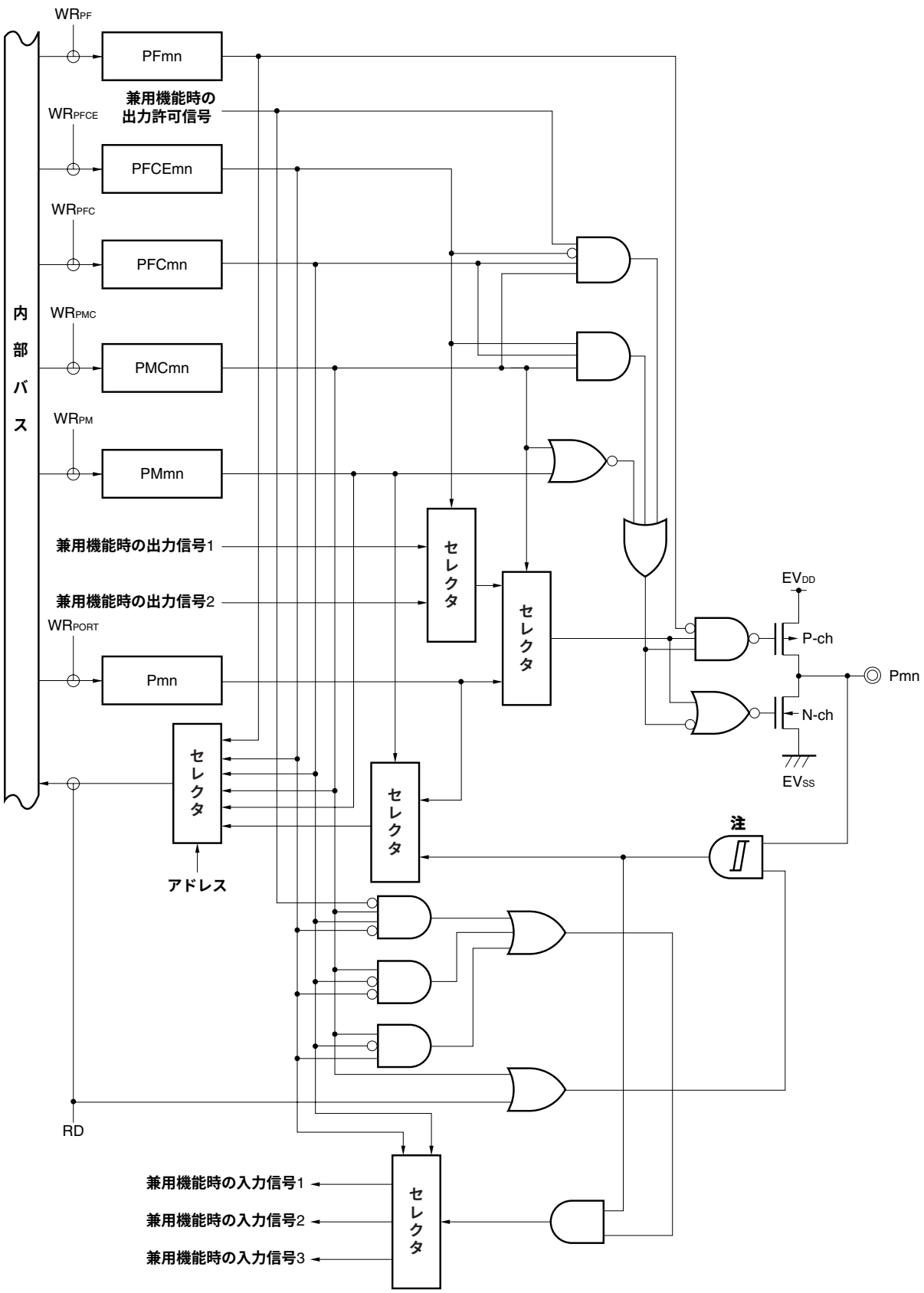
図4－23　タイプN－3のブロック図



注1.　19. 6　外部割り込み要求入力端子（NMI, INTP0-INTP8）参照

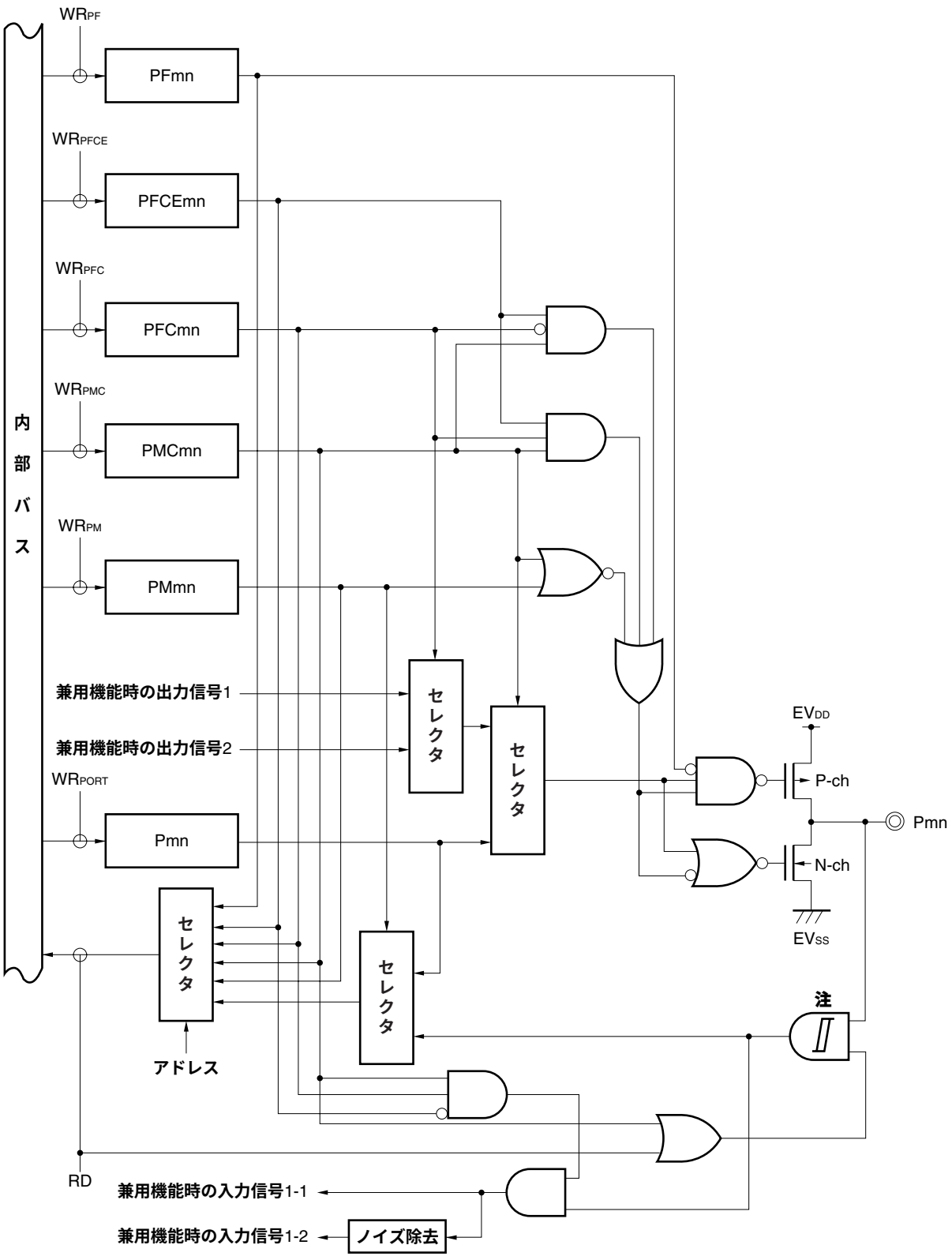
2.　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－24 タイプU－1のブロック図



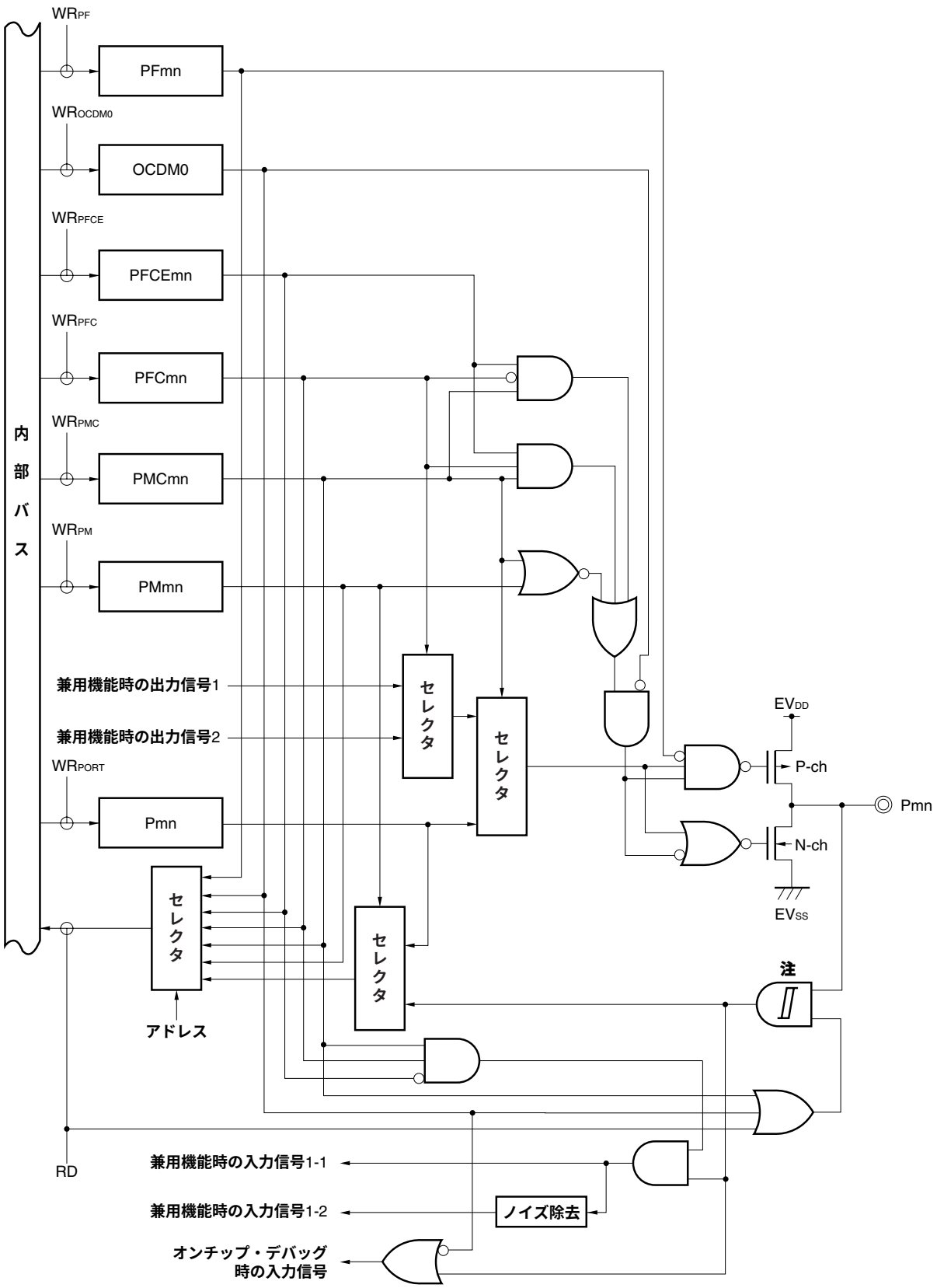
注 ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－25 タイプU－5のブロック図



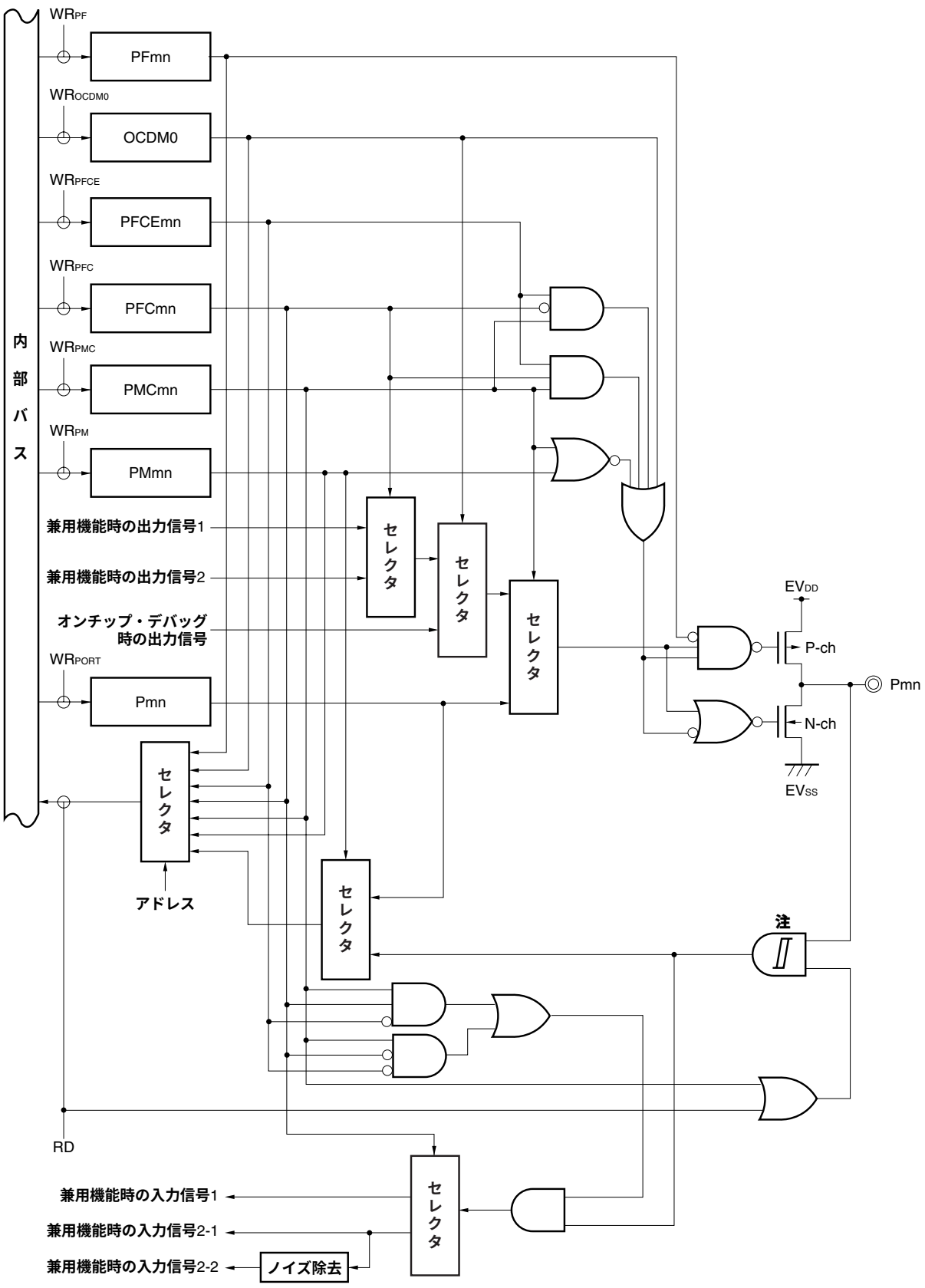
注 ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－26 タイプU－6のブロック図



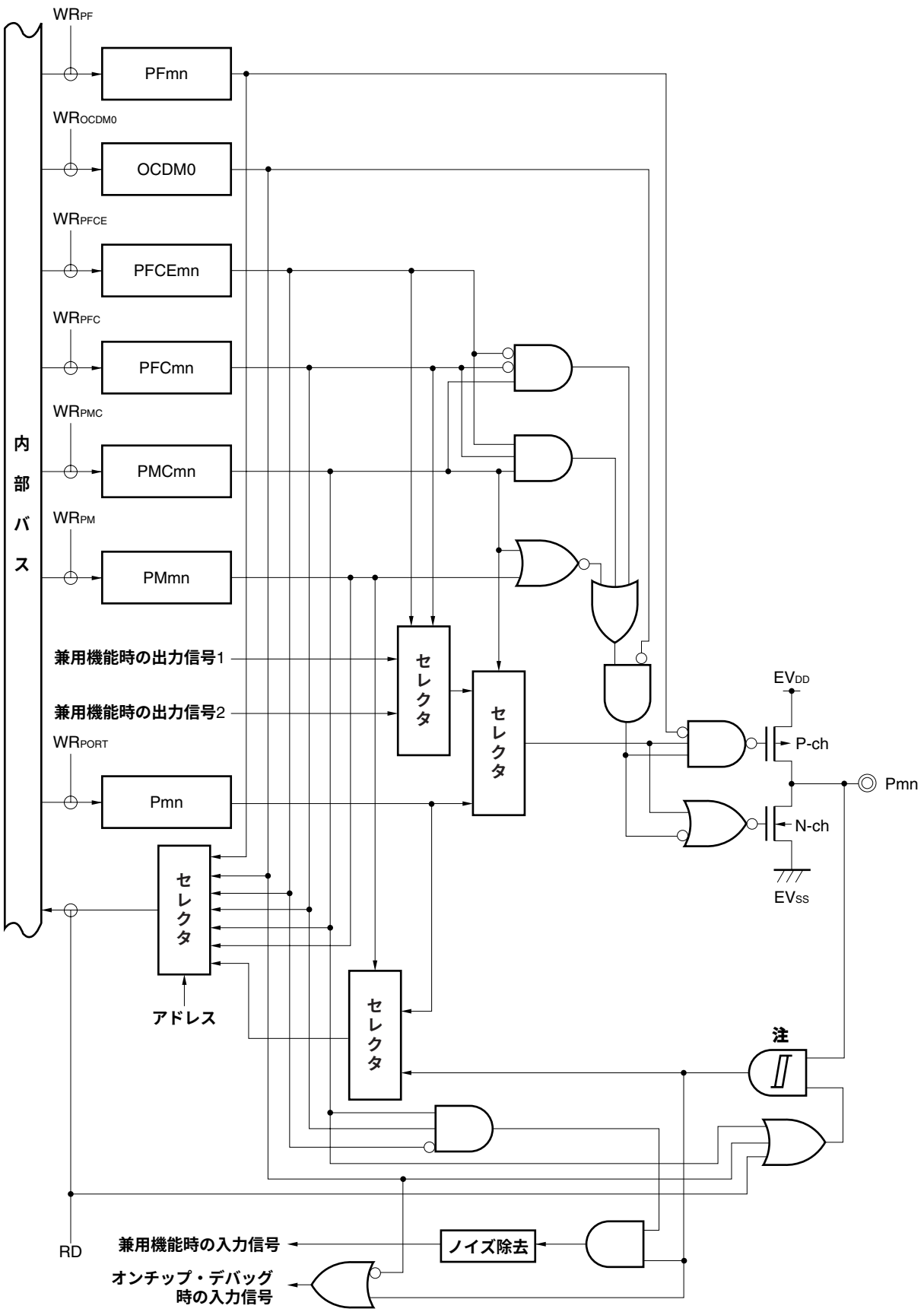
注 ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－27　タイプU－7のブロック図



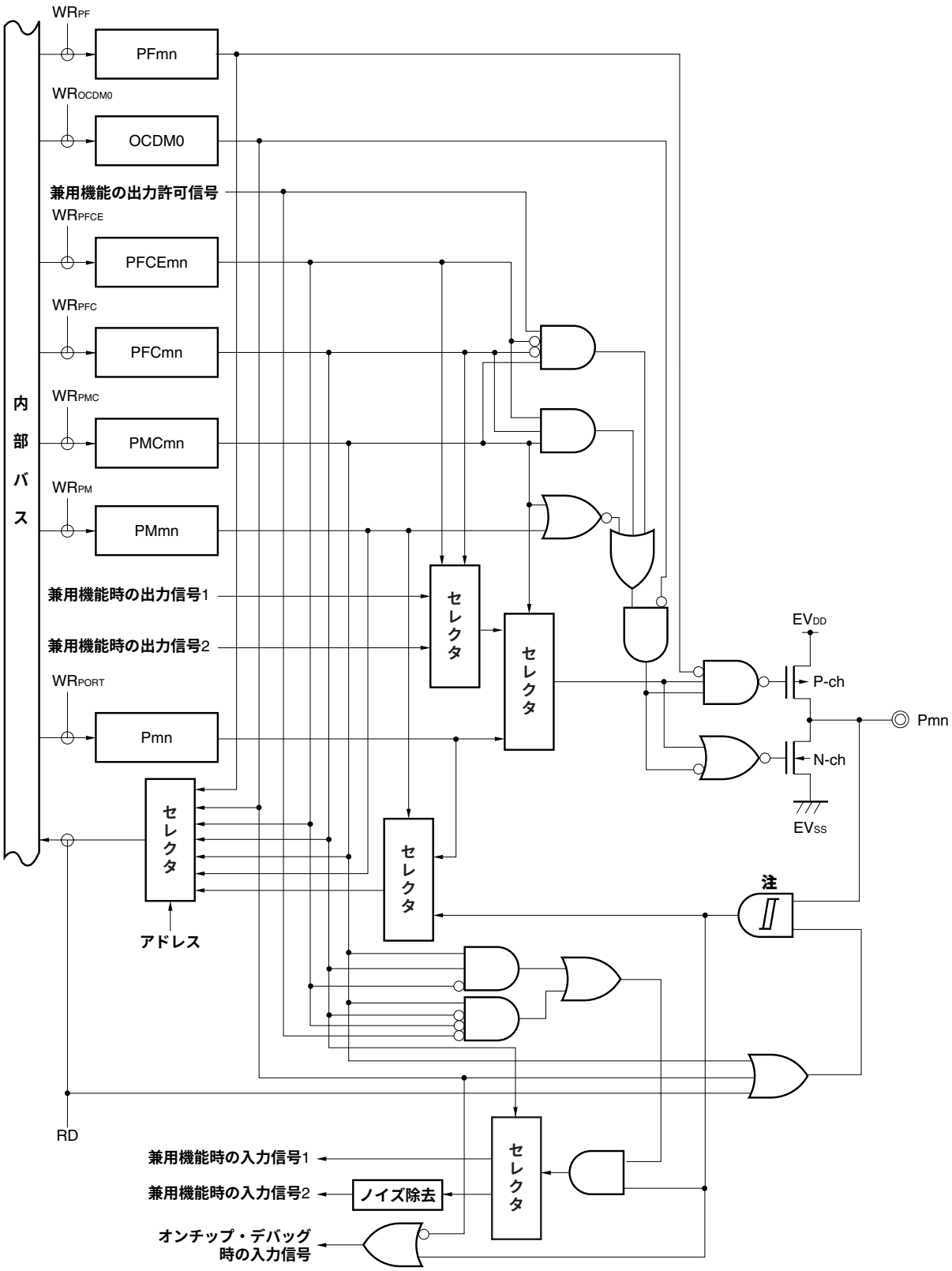
注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－28　タイプU－8のブロック図



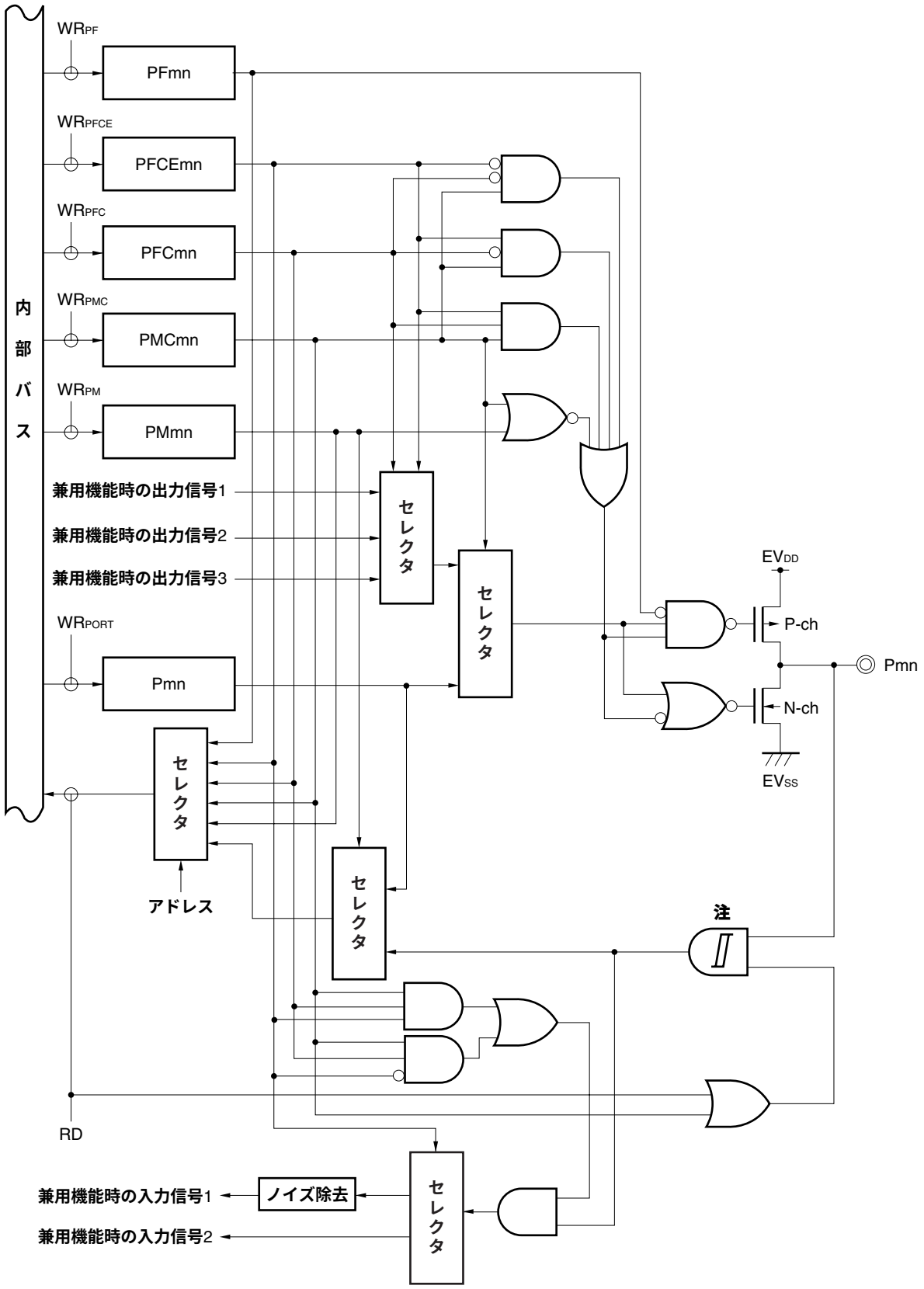
注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－29 タイプU－9のブロック図



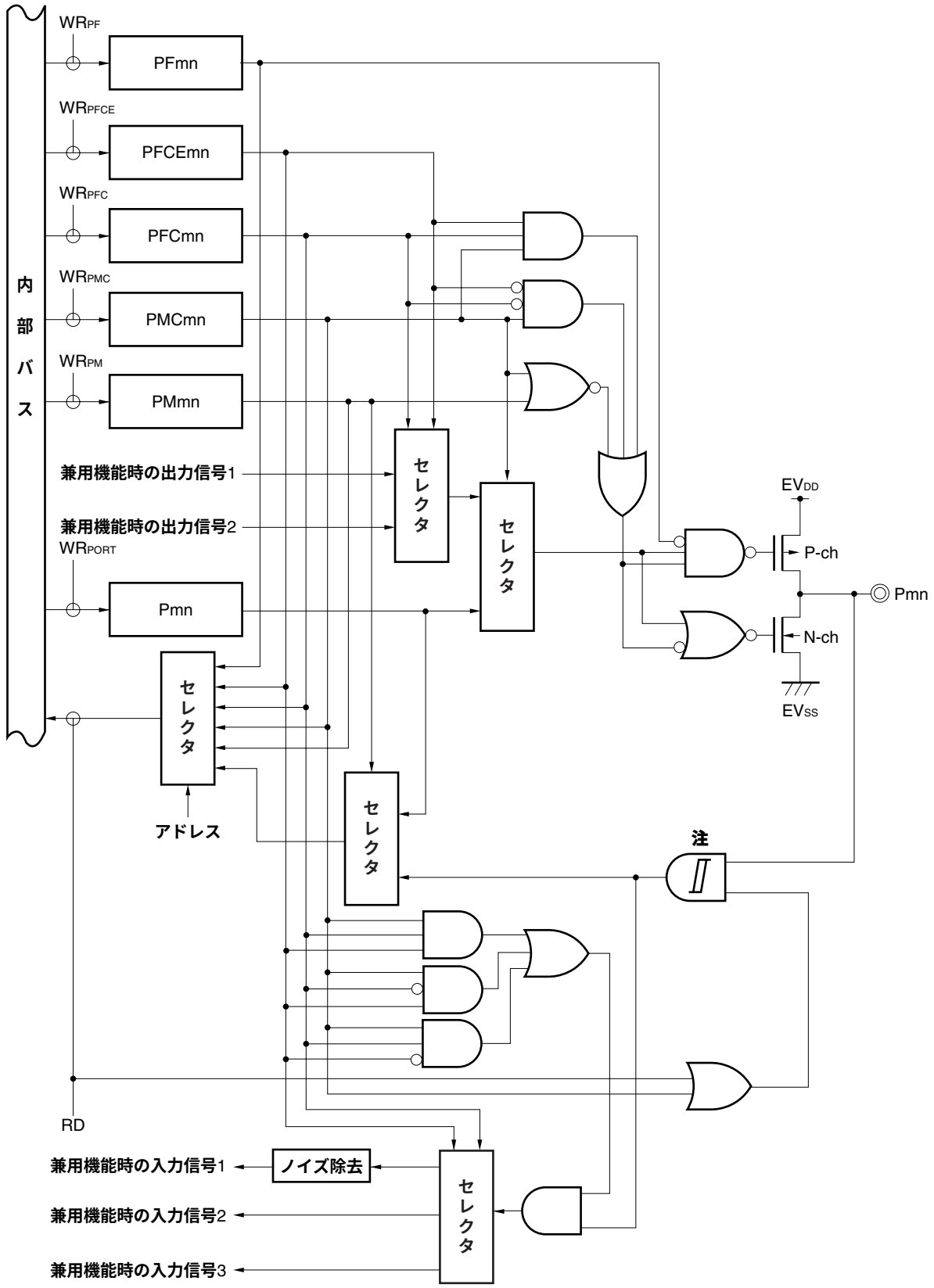
注 ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－30 タイプU－10のブロック図



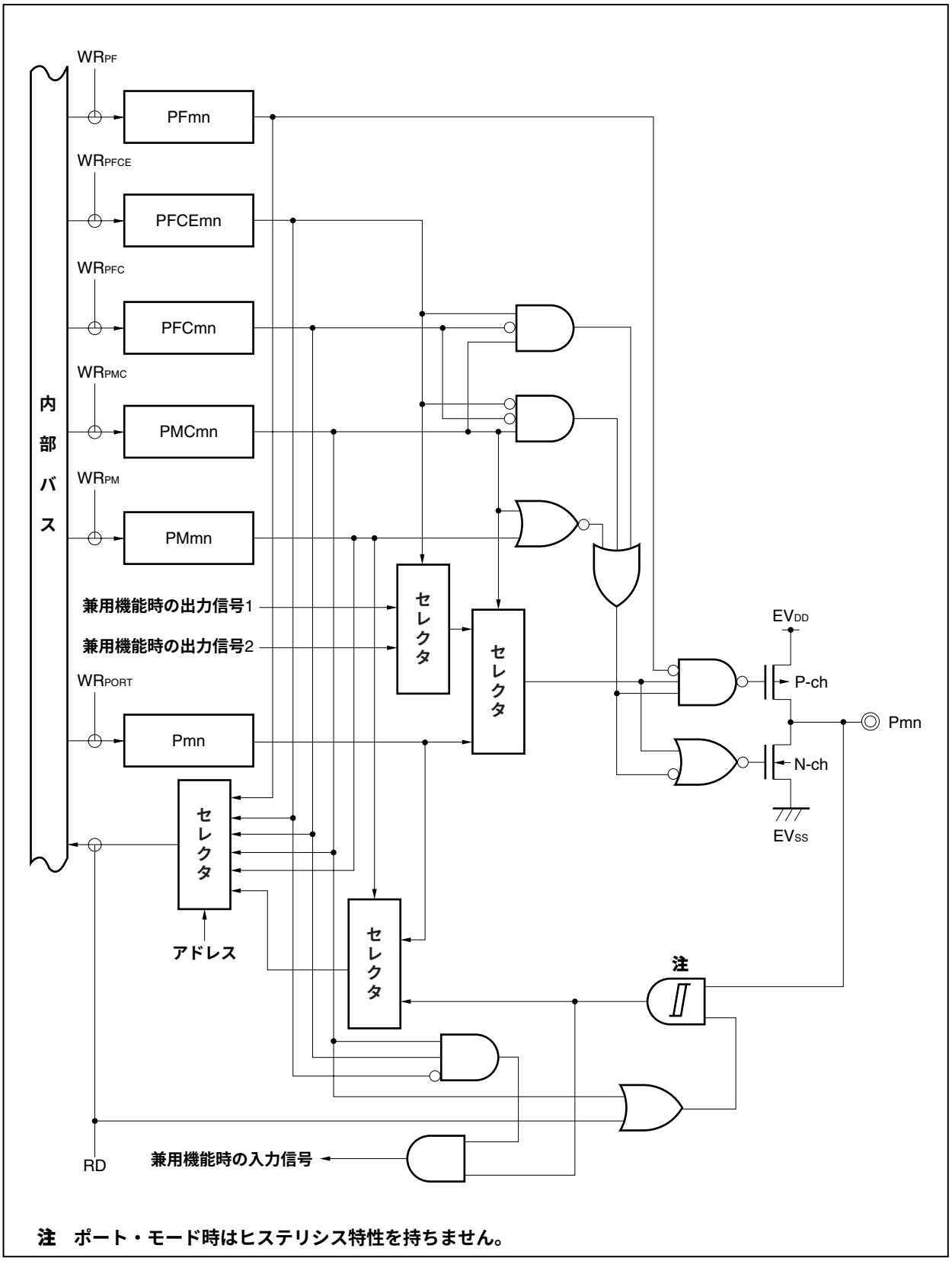
注 ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－31 タイプU－11のブロック図



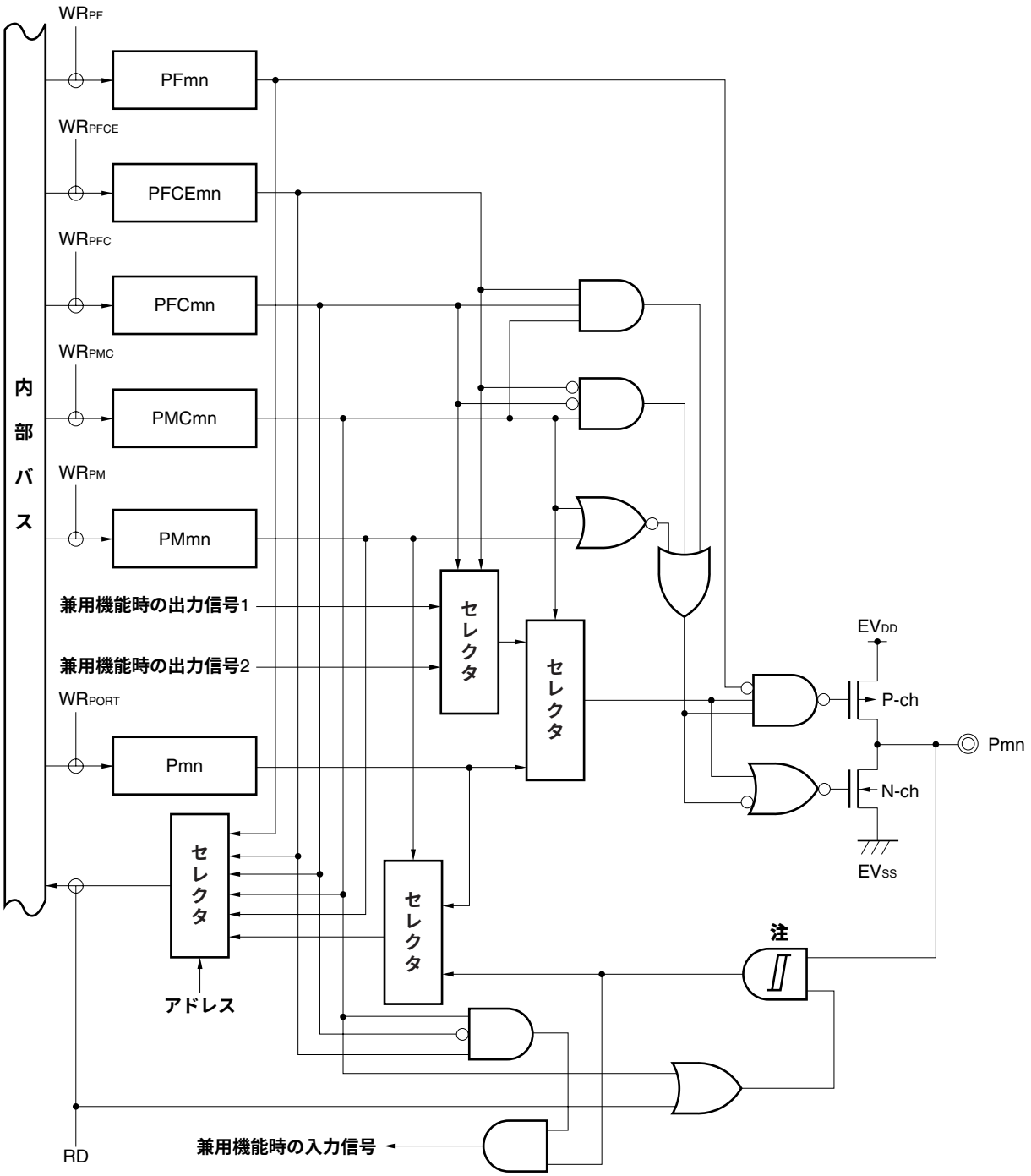
注 ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－32　タイプU－12のブロック図



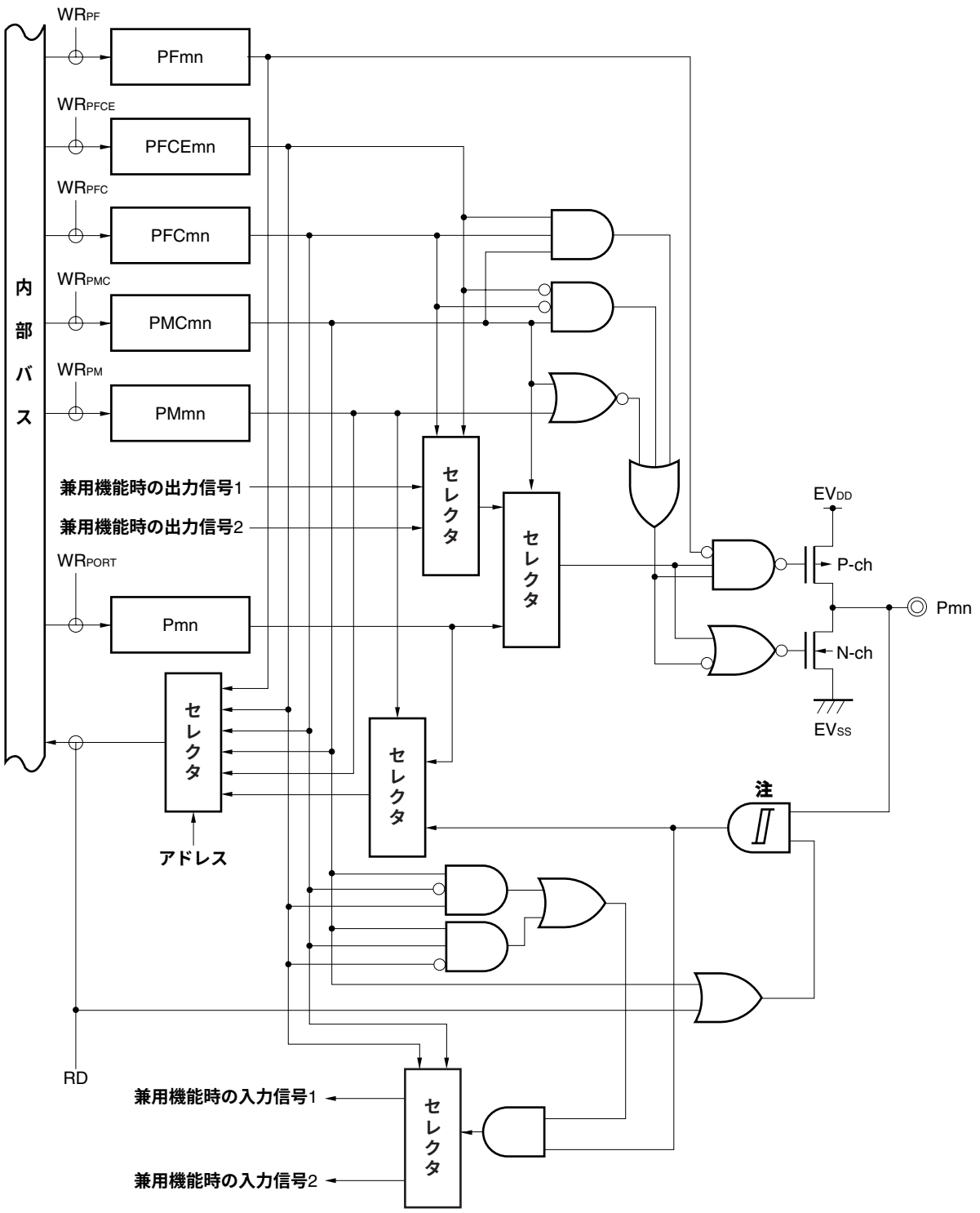
注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－33　タイプU－13のブロック図



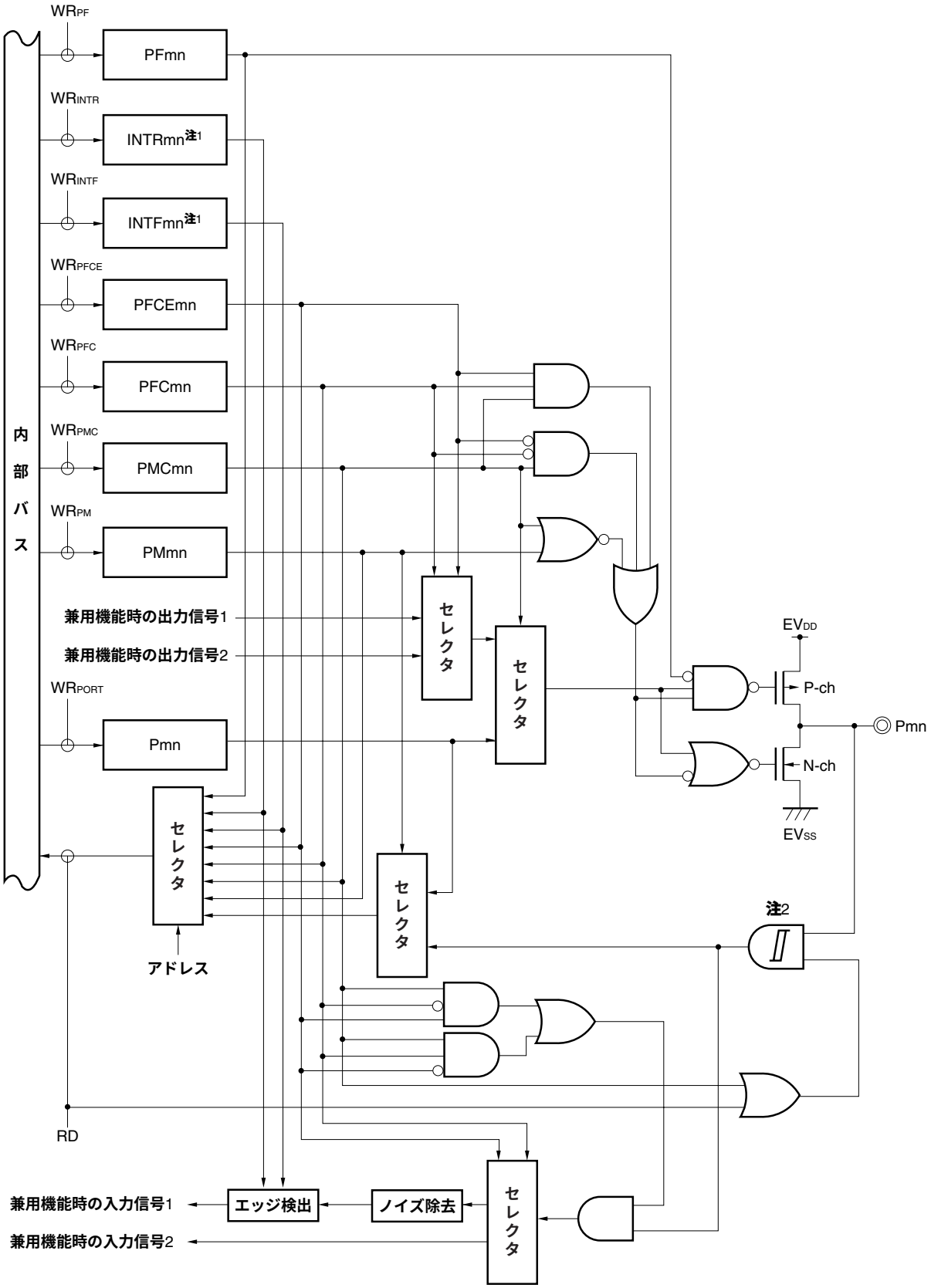
注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－34　タイプU－14のブロック図



注　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

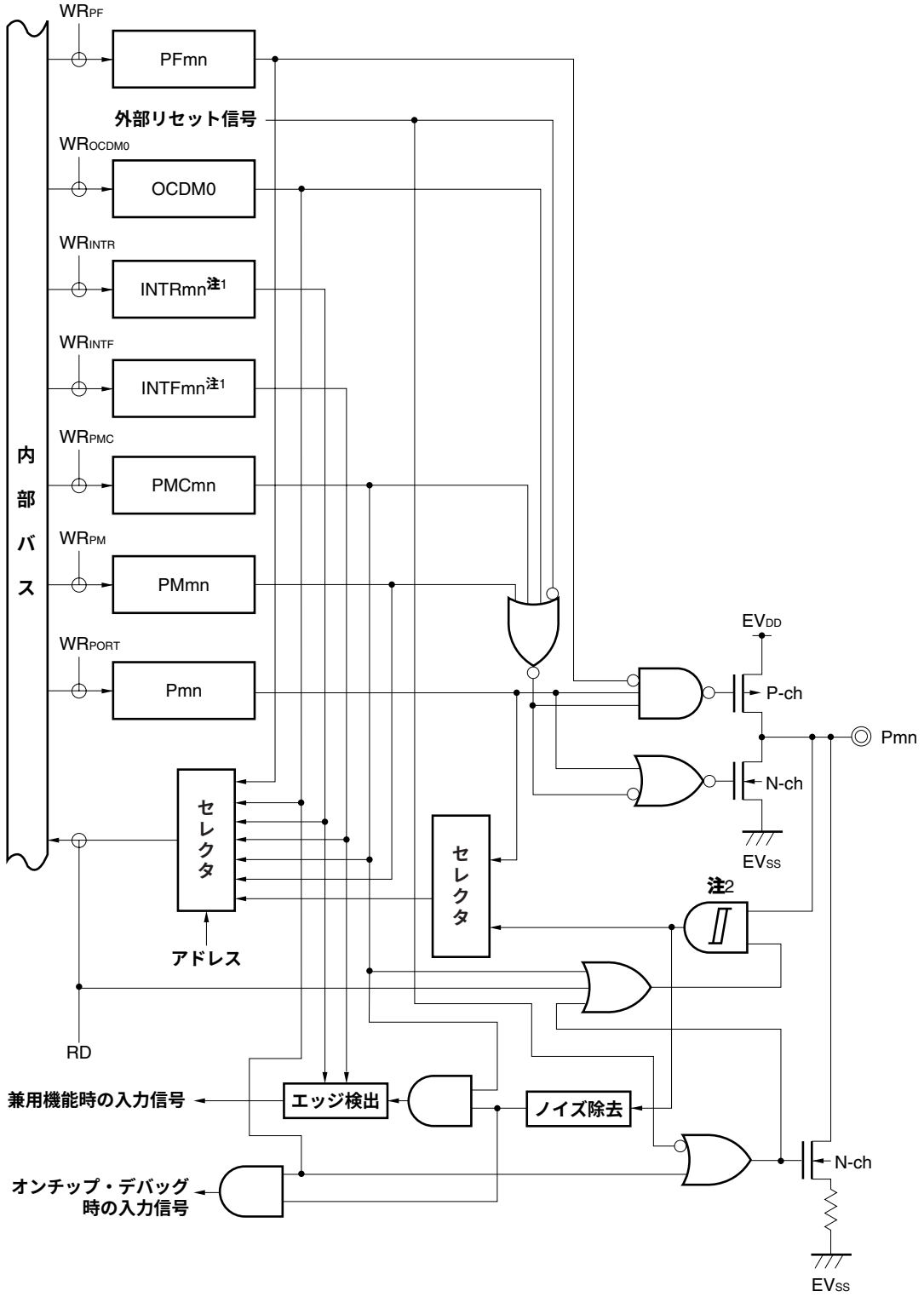
図4－35　タイプU－15のブロック図



注1.　19. 6　外部割り込み要求入力端子（NMI, INTP0-INTP8）参照

2.　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

図4－36　タイプAA－1のブロック図



注1.　19. 6　外部割り込み要求入力端子（NMI, INTP0-INTP8）参照

2.　ポート・モード時はヒステリシス特性を持ちません。

4. 5　兼用機能使用時のポートのレジスタ設定

各ポートを兼用端子として使用する場合のポートのレジスタ設定を表4－19に示します。

兼用端子として使用する場合は各機能を参照してください。

表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合（1/8）

端子名称	兼用端子		Pnレジスタの Pnxビット	PMnレジスタの PMnxビット	PMCnレジスタの PMCnxビット	PFCEnレジスタの PFCEnxビット	PFCnレジスタの PFCnxビット	その他のビット（レジスタ）
	名称	入出力						
P00	TIP61	入力	P00 = 設定不要	PM00 = 設定不要	PMC00 = 1	－	PFC00 = 0	
	TOP61	出力	P00 = 設定不要	PM00 = 設定不要	PMC00 = 1	－	PFC00 = 1	
P01	TIP60	入力	P01 = 設定不要	PM01 = 設定不要	PMC01 = 1	－	PFC01 = 0	
	TOP60	出力	P01 = 設定不要	PM01 = 設定不要	PMC01 = 1	－	PFC01 = 1	
P02	NMI	入力	P02 = 設定不要	PM02 = 設定不要	PMC02 = 1	－	－	
P03	INTP0	入力	P03 = 設定不要	PM03 = 設定不要	PMC03 = 1	－	PFC03 = 0	
	ADTRG	入力	P03 = 設定不要	PM03 = 設定不要	PMC03 = 1	－	PFC03 = 1	
P04	INTP1	入力	P04 = 設定不要	PM04 = 設定不要	PMC04 = 1	－	－	
P05	INTP2	入力	P05 = 設定不要	PM05 = 設定不要	PMC05 = 1	－	－	
	$\overline{\text{DRST}}$	入力	P05 = 設定不要	PM05 = 設定不要	PMC05 = 設定不要	－	－	OCDM0（OCDM）= 1
P06	INTP3	入力	P06 = 設定不要	PM06 = 設定不要	PMC06 = 1	－	－	
P10	ANO0	出力	P10 = 設定不要	PM10 = 1	－	－	－	
P11	ANO1	出力	P11 = 設定不要	PM11 = 1	－	－	－	
P30	TXDA0	出力	P30 = 設定不要	PM30 = 設定不要	PMC30 = 1	－	PFC30 = 0	
	SOB4	出力	P30 = 設定不要	PM30 = 設定不要	PMC30 = 1	－	PFC30 = 1	
P31	RXDA0	入力	P31 = 設定不要	PM31 = 設定不要	PMC31 = 1	－	注，PFC31 = 0	
	INTP7	入力	P31 = 設定不要	PM31 = 設定不要	PMC31 = 1	－	注，PFC31 = 0	
	SIB4	入力	P31 = 設定不要	PM31 = 設定不要	PMC31 = 1	－	PFC31 = 1	
P32	ASCKA0	入力	P32 = 設定不要	PM32 = 設定不要	PMC32 = 1	PFCE32 = 0	PFC32 = 0	
	$\overline{\text{SCKB4}}$	入出力	P32 = 設定不要	PM32 = 設定不要	PMC32 = 1	PFCE32 = 0	PFC32 = 1	
	TIP00	入力	P32 = 設定不要	PM32 = 設定不要	PMC32 = 1	PFCE32 = 1	PFC32 = 0	
	TOP00	出力	P32 = 設定不要	PM32 = 設定不要	PMC32 = 1	PFCE32 = 1	PFC32 = 1	

注　INTP7端子とRXDA0端子は兼用となっています。RXDA0端子として使用する場合は兼用しているINTP7端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF3.INTF31ビット = 0, INTR3.INTR31ビット = 0に設定）。またINTP7端子として使用する場合はUARTA0を受信動作停止としてください（UA0CTL0.UA0RXEビット = 0）。

注意　P10, P11端子を，1本を入出力ポート，1本をD/A出力端子（ANO0, ANO1）として使用する場合，D/A出力中は，ポートの入出力レベルが変化しないようにしてください。

表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合（2/8）

端子名称	兼用端子		Pnレジスタの Pnxビット	PMnレジスタの PMnxビット	PMCnレジスタの PMCnxビット	PFCEnレジスタの PFCEnxビット	PFCnレジスタの PFCnxビット	その他のビット（レジスタ）
	名称	入出力						
P33	TIP01	入力	P33 = 設定不要	PM33 = 設定不要	PMC33 = 1	－	PFC33 = 0	
	TOP01	出力	P33 = 設定不要	PM33 = 設定不要	PMC33 = 1	－	PFC33 = 1	
P34	TIP10	入力	P34 = 設定不要	PM34 = 設定不要	PMC34 = 1	－	PFC34 = 0	
	TOP10	入力	P34 = 設定不要	PM34 = 設定不要	PMC34 = 1	－	PFC34 = 1	
P35	TIP11	入力	P35 = 設定不要	PM35 = 設定不要	PMC35 = 1	－	PFC35 = 0	
	TOP11	出力	P35 = 設定不要	PM35 = 設定不要	PMC35 = 1	－	PFC35 = 1	
P38	TXDA2	出力	P38 = 設定不要	PM38 = 設定不要	PMC38 = 1	－	PFC38 = 0	
	SDA00	入出力	P38 = 設定不要	PM38 = 設定不要	PMC38 = 1	－	PFC38 = 1	PF38（PF3）= 1
P39	RXDA2	入力	P39 = 設定不要	PM39 = 設定不要	PMC39 = 1	－	PFC39 = 0	
	SCL00	入出力	P39 = 設定不要	PM39 = 設定不要	PMC39 = 1	－	PFC39 = 1	PF39（PF3）= 1
P40	SIB0	入力	P40 = 設定不要	PM40 = 設定不要	PMC40 = 1	－	PFC40 = 0	
	SDA01	入出力	P40 = 設定不要	PM40 = 設定不要	PMC40 = 1	－	PFC40 = 1	PF40（PF4）= 1
P41	SOB0	出力	P41 = 設定不要	PM41 = 設定不要	PMC41 = 1	－	PFC41 = 0	
	SCL01	入出力	P41 = 設定不要	PM41 = 設定不要	PMC41 = 1	－	PFC41 = 1	PF41（PF4）= 1
P42	$\overline{\text{SCKB0}}$	入出力	P42 = 設定不要	PM42 = 設定不要	PMC42 = 1	－	－	
P50	TIQ01	入力	P50 = 設定不要	PM50 = 設定不要	PMC50 = 1	PFCE50 = 0	PFC50 = 1	KRM0（KRM）= 0
	KR0	入力	P50 = 設定不要	PM50 = 設定不要	PMC50 = 1	PFCE50 = 0	PFC50 = 1	TQ0TIG2, TQ0TIG3（TQ0IOC1）= 0
	TOQ01	出力	P50 = 設定不要	PM50 = 設定不要	PMC50 = 1	PFCE50 = 1	PFC50 = 0	
	RTP00	出力	P50 = 設定不要	PM50 = 設定不要	PMC50 = 1	PFCE50 = 1	PFC50 = 1	
P51	TIQ02	入力	P51 = 設定不要	PM51 = 設定不要	PMC51 = 1	PFCE51 = 0	PFC51 = 1	KRM1（KRM）= 0
	KR1	入力	P51 = 設定不要	PM51 = 設定不要	PMC51 = 1	PFCE51 = 0	PFC51 = 1	TQ0TIG4, TQ0TIG5（TQ0IOC1）= 0
	TOQ02	出力	P51 = 設定不要	PM51 = 設定不要	PMC51 = 1	PFCE51 = 1	PFC51 = 0	
	RTP01	出力	P51 = 設定不要	PM51 = 設定不要	PMC51 = 1	PFCE51 = 1	PFC51 = 1	

表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合（3/8）

端子名称	兼用端子		Pnレジスタの Pnxビット	PMnレジスタの PMnxビット	PMCnレジスタの PMCnxビット	PFCEnレジスタの PFCEnxビット	PFCnレジスタの PFCnxビット	その他のビット（レジスタ）
	名称	入出力						
P52	TIQ03	入力	P52 = 設定不要	PM52 = 設定不要	PMC52 = 1	PFCE52 = 0	PFC52 = 1	KRM2（KRM）= 0
	KR2	入力	P52 = 設定不要	PM52 = 設定不要	PMC52 = 1	PFCE52 = 0	PFC52 = 1	TQ0TIG6, TQ0TIG7（TQ0I0C1）= 0
	TOQ03	出力	P52 = 設定不要	PM52 = 設定不要	PMC52 = 1	PFCE52 = 1	PFC52 = 0	
	RTP02	出力	P52 = 設定不要	PM52 = 設定不要	PMC52 = 1	PFCE52 = 1	PFC52 = 1	
	DDI	入力	P52 = 設定不要	PM52 = 設定不要	PMC52 = 設定不要	PFCE52 = 設定不要	PFC52 = 設定不要	OCDM0（OCDM）= 1
P53	SIB2	入力	P53 = 設定不要	PM53 = 設定不要	PMC53 = 1	PFCE53 = 0	PFC53 = 0	
	TIQ00	入力	P53 = 設定不要	PM53 = 設定不要	PMC53 = 1	PFCE53 = 0	PFC53 = 1	KRM3（KRM）= 0
	KR3	入力	P53 = 設定不要	PM53 = 設定不要	PMC53 = 1	PFCE53 = 0	PFC53 = 1	TQ0TIG0, TQ0TIG1（TQ0IOC1）= 0, TQ0EES0, TQ0EES1（TQ0IOC2）= 0, TQ0ETS0, TQ0ETS1（TQ0IOC2）= 0
	TOQ00	入力	P53 = 設定不要	PM53 = 設定不要	PMC53 = 1	PFCE53 = 1	PFC53 = 0	
	RTP03	出力	P53 = 設定不要	PM53 = 設定不要	PMC53 = 1	PFCE53 = 1	PFC53 = 1	
	DDO	出力	P53 = 設定不要	PM53 = 設定不要	PMC53 = 設定不要	PFCE53 = 設定不要	PFC53 = 設定不要	OCDM0（OCDM）= 1
P54	SOB2	出力	P54 = 設定不要	PM54 = 設定不要	PMC54 = 1	PFCE54 = 0	PFC54 = 0	
	KR4	入力	P54 = 設定不要	PM54 = 設定不要	PMC54 = 1	PFCE54 = 0	PFC54 = 1	
	RTP04	出力	P54 = 設定不要	PM54 = 設定不要	PMC54 = 1	PFCE54 = 1	PFC54 = 1	
	DCK	入力	P54 = 設定不要	PM54 = 設定不要	PMC54 = 設定不要	PFCE54 = 設定不要	PFC54 = 設定不要	OCDM0（OCDM）= 1
P55	$\overline{\text{SCKB2}}$	入出力	P55 = 設定不要	PM55 = 設定不要	PMC55 = 1	PFCE55 = 0	PFC55 = 0	
	KR5	入力	P55 = 設定不要	PM55 = 設定不要	PMC55 = 1	PFCE55 = 0	PFC55 = 1	
	RTP05	出力	P55 = 設定不要	PM55 = 設定不要	PMC55 = 1	PFCE55 = 1	PFC55 = 1	
	DMS	入力	P55 = 設定不要	PM55 = 設定不要	PMC55 = 設定不要	PFCE55 = 設定不要	PFC55 = 設定不要	OCDM0（OCDM）= 1
P60	RTP10	出力	P60 = 設定不要	PM60 = 設定不要	PMC60 = 1	－	－	
P61	RTP11	出力	P61 = 設定不要	PM61 = 設定不要	PMC61 = 1	－	－	
P62	RTP12	出力	P62 = 設定不要	PM62 = 設定不要	PMC62 = 1	－	－	
P63	RTP13	出力	P63 = 設定不要	PM63 = 設定不要	PMC63 = 1	－	－	
P64	RTP14	出力	P64 = 設定不要	PM64 = 設定不要	PMC64 = 1	－	－	

表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合（4/8）

端子名称	兼用端子		Pnレジスタの Pnxビット	PMnレジスタの PMnxビット	PMCnレジスタの PMCnxビット	PFCEnレジスタの PFCEnxビット	PFCnレジスタの PFCnxビット	その他のビット（レジスタ）
	名称	入出力						
P65	RTP15	出力	P65 = 設定不要	PM65 = 設定不要	PMC65 = 1	－	－	
P66	SIB5	入力	P66 = 設定不要	PM66 = 設定不要	PMC66 = 1	－	－	
P67	SOB5	出力	P67 = 設定不要	PM67 = 設定不要	PMC67 = 1	－	－	
P68	$\overline{\text{SCKB5}}$	入出力	P68 = 設定不要	PM68 = 設定不要	PMC68 = 1	－	－	
P69	TIP70	入力	P69 = 設定不要	PM69 = 設定不要	PMC69 = 1	－	PFC69 = 0	
	TOP70	出力	P69 = 設定不要	PM69 = 設定不要	PMC69 = 1	－	PFC69 = 1	
P610	TIP71	入力	P610 = 設定不要	PM610 = 設定不要	PMC610 = 1	－	－	
P611	TOP71	出力	P611 = 設定不要	PM611 = 設定不要	PMC611 = 1	－	－	
P612	TIP80	入力	P612 = 設定不要	PM612 = 設定不要	PMC612 = 1	－	PFC612 = 0	
	TOP80	出力	P612 = 設定不要	PM612 = 設定不要	PMC612 = 1	－	PFC612 = 1	
P613	TIP81	入力	P613 = 設定不要	PM613 = 設定不要	PMC613 = 1	－	PFC613 = 0	
	TOP81	出力	P613 = 設定不要	PM613 = 設定不要	PMC613 = 1	－	PFC613 = 1	
P70	ANI0	入力	P70 = 設定不要	PM70 = 1	－	－	－	
P71	ANI1	入力	P71 = 設定不要	PM71 = 1	－	－	－	
P72	ANI2	入力	P72 = 設定不要	PM72 = 1	－	－	－	
P73	ANI3	入力	P73 = 設定不要	PM73 = 1	－	－	－	
P74	ANI4	入力	P74 = 設定不要	PM74 = 1	－	－	－	
P75	ANI5	入力	P75 = 設定不要	PM75 = 1	－	－	－	
P76	ANI6	入力	P76 = 設定不要	PM76 = 1	－	－	－	
P77	ANI7	入力	P77 = 設定不要	PM77 = 1	－	－	－	
P78	ANI8	入力	P78 = 設定不要	PM78 = 1	－	－	－	
P79	ANI9	入力	P79 = 設定不要	PM79 = 1	－	－	－	
P710	ANI10	入力	P710 = 設定不要	PM710 = 1	－	－	－	
P711	ANI11	入力	P711 = 設定不要	PM711 = 1	－	－	－	
P712	ANI12	入力	P712 = 設定不要	PM712 = 1	－	－	－	
P713	ANI13	入力	P713 = 設定不要	PM713 = 1	－	－	－	

表4－19 ポート端子を兼用端子として使用する場合（5/8）

端子名称	兼用端子		Pnレジスタの Pnxビット	PMnレジスタの PMnxビット	PMCnレジスタの PMCnxビット	PFCEnレジスタの PFCEnxビット	PFCnレジスタの PFCnxビット	その他のビット（レジスタ）
	名称	入出力						
P714	ANI14	入力	P714 = 設定不要	PM714 = 1	－	－	－	
P715	ANI15	入力	P715 = 設定不要	PM715 = 1	－	－	－	
P80	RXDA3	入力	P80 = 設定不要	PM80 = 設定不要	PMC80 = 1	－	－	注1
	INTP8	入力	P80 = 設定不要	PM80 = 設定不要	PMC80 = 1	－	－	注1
P81	TXDA3	出力	P81 = 設定不要	PM81 = 設定不要	PMC81 = 1	－	－	
P90	A0	出力	P90 = 設定不要	PM90 = 設定不要	PMC90 = 1	PFCE90 = 0	PFC90 = 0	注2
	KR6	入力	P90 = 設定不要	PM90 = 設定不要	PMC90 = 1	PFCE90 = 0	PFC90 = 1	
	TXDA1	出力	P90 = 設定不要	PM90 = 設定不要	PMC90 = 1	PFCE90 = 1	PFC90 = 0	
	SDA02	入出力	P90 = 設定不要	PM90 = 設定不要	PMC90 = 1	PFCE90 = 1	PFC90 = 1	PF90（PF9）= 1
P91	A1	出力	P91 = 設定不要	PM91 = 設定不要	PMC91 = 1	PFCE91 = 0	PFC91 = 0	注2
	KR7	入力	P91 = 設定不要	PM91 = 設定不要	PMC91 = 1	PFCE91 = 0	PFC91 = 1	
	RXDA1/KR7注3	入力	P91 = 設定不要	PM91 = 設定不要	PMC91 = 1	PFCE91 = 1	PFC91 = 0	
	SCL02	入出力	P91 = 設定不要	PM91 = 設定不要	PMC91 = 1	PFCE91 = 1	PFC91 = 1	PF91（PF9）= 1
P92	A2	出力	P92 = 設定不要	PM92 = 設定不要	PMC92 = 1	PFCE92 = 0	PFC92 = 0	注2
	TIP41	入力	P92 = 設定不要	PM92 = 設定不要	PMC92 = 1	PFCE92 = 0	PFC92 = 1	
	TOP41	出力	P92 = 設定不要	PM92 = 設定不要	PMC92 = 1	PFCE92 = 1	PFC92 = 0	
P93	A3	出力	P93 = 設定不要	PM93 = 設定不要	PMC93 = 1	PFCE93 = 0	PFC93 = 0	注2
	TIP40	入力	P93 = 設定不要	PM93 = 設定不要	PMC93 = 1	PFCE93 = 0	PFC93 = 1	
	TOP40	出力	P93 = 設定不要	PM93 = 設定不要	PMC93 = 1	PFCE93 = 1	PFC93 = 0	

注1. INTP8端子とRXDA3端子は兼用となっています。RXDA3端子として使用する場合は兼用しているINTP8端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF8.INTF80ビット = 0, INTR8.INTR80ビット = 0に設定）。またINTP8端子として使用する場合はUARTA3を受信動作停止としてください（UA0CTL3.UA3RXEビット = 0）。

2. A0-A15端子に設定する際は，一括してPMC9レジスタ = FFFFHに16ビット設定してください。

3. RXDA1端子とKR7端子は同時に使用することはできません。RXDA1端子を使用する場合は，KR7端子を使用しないでください。また，KR7端子を使用する場合は，RXDA1端子を使用しないでください。（PFC91ビット = 1, PFCE91ビット = 0に設定することを推奨します）。

表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合（6/8）

端子名称	兼用端子		Pnレジスタの Pnxビット	PMnレジスタの PMnxビット	PMCnレジスタの PMCnxビット	PFCEnレジスタの PFCEnxビット	PFCnレジスタの PFCnxビット	その他のビット（レジスタ）
	名称	入出力						
P94	A4	出力	P94 = 設定不要	PM94 = 設定不要	PMC94 = 1	PFCE94 = 0	PFC94 = 0	注
	TIP31	入力	P94 = 設定不要	PM94 = 設定不要	PMC94 = 1	PFCE94 = 0	PFC94 = 1	
	TOP31	出力	P94 = 設定不要	PM94 = 設定不要	PMC94 = 1	PFCE94 = 1	PFC94 = 0	
P95	A5	出力	P95 = 設定不要	PM95 = 設定不要	PMC95 = 1	PFCE95 = 0	PFC95 = 0	注
	TIP30	入力	P95 = 設定不要	PM95 = 設定不要	PMC95 = 1	PFCE95 = 0	PFC95 = 1	
	TOP30	出力	P95 = 設定不要	PM95 = 設定不要	PMC95 = 1	PFCE95 = 1	PFC95 = 0	
P96	A6	出力	P96 = 設定不要	PM96 = 設定不要	PMC96 = 1	PFCE96 = 0	PFC96 = 0	注
	TIP21	入力	P96 = 設定不要	PM96 = 設定不要	PMC96 = 1	PFCE96 = 1	PFC96 = 0	
	TOP21	出力	P96 = 設定不要	PM96 = 設定不要	PMC96 = 1	PFCE96 = 1	PFC96 = 1	
P97	A7	出力	P97 = 設定不要	PM97 = 設定不要	PMC97 = 1	PFCE97 = 0	PFC97 = 0	注
	SIB1	入力	P97 = 設定不要	PM97 = 設定不要	PMC97 = 1	PFCE97 = 0	PFC97 = 1	
	TIP20	入力	P97 = 設定不要	PM97 = 設定不要	PMC97 = 1	PFCE97 = 1	PFC97 = 0	
	TOP20	出力	P97 = 設定不要	PM97 = 設定不要	PMC97 = 1	PFCE97 = 1	PFC97 = 1	
P98	A8	出力	P98 = 設定不要	PM98 = 設定不要	PMC98 = 1	－	PFC98 = 0	注
	SOB1	出力	P98 = 設定不要	PM98 = 設定不要	PMC98 = 1	－	PFC98 = 1	
P99	A9	出力	P99 = 設定不要	PM99 = 設定不要	PMC99 = 1	－	PFC99 = 0	注
	$\overline{\text{SCKB1}}$	入出力	P99 = 設定不要	PM99 = 設定不要	PMC99 = 1	－	PFC99 = 1	
P910	A10	出力	P910 = 設定不要	PM910 = 設定不要	PMC910 = 1	－	PFC910 = 0	注
	SIB3	入力	P910 = 設定不要	PM910 = 設定不要	PMC910 = 1	－	PFC910 = 1	
P911	A11	出力	P911 = 設定不要	PM911 = 設定不要	PMC911 = 1	－	PFC911 = 0	注
	SOB3	出力	P911 = 設定不要	PM911 = 設定不要	PMC911 = 1	－	PFC911 = 1	
P912	A12	出力	P912 = 設定不要	PM912 = 設定不要	PMC912 = 1	－	PFC912 = 0	注
	$\overline{\text{SCKB3}}$	入出力	P912 = 設定不要	PM912 = 設定不要	PMC912 = 1	－	PFC912 = 1	
P913	A13	出力	P913 = 設定不要	PM913 = 設定不要	PMC913 = 1	－	PFC913 = 0	注
	INTP4	入力	P913 = 設定不要	PM913 = 設定不要	PMC913 = 1	－	PFC913 = 1	

注　A0-A15端子に設定する際は，一括してPMC9レジスタ = FFFFHに16ビット設定してください。

表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合（7/8）

端子名称	兼用端子		Pnレジスタの Pnxビット	PMnレジスタの PMnxビット	PMCnレジスタの PMCnxビット	PFCEnレジスタの PFCEnxビット	PFCnレジスタの PFCnxビット	その他のビット（レジスタ）
	名称	入出力						
P914	A14	出力	P914 = 設定不要	PM914 = 設定不要	PMC914 = 1	PFCE914 = 0	PFC914 = 0	注
	INTP5	入力	P914 = 設定不要	PM914 = 設定不要	PMC914 = 1	PFCE914 = 0	PFC914 = 1	
	TIP51	入力	P914 = 設定不要	PM914 = 設定不要	PMC914 = 1	PFCE914 = 1	PFC914 = 0	
	TOP51	出力	P914 = 設定不要	PM914 = 設定不要	PMC914 = 1	PFCE914 = 1	PFC914 = 1	
P915	A15	出力	P915 = 設定不要	PM915 = 設定不要	PMC915 = 1	PFCE915 = 0	PFC915 = 0	注
	INTP6	入力	P915 = 設定不要	PM915 = 設定不要	PMC915 = 1	PFCE915 = 0	PFC915 = 1	
	TIP50	入力	P915 = 設定不要	PM915 = 設定不要	PMC915 = 1	PFCE915 = 1	PFC915 = 0	
	TOP50	出力	P915 = 設定不要	PM915 = 設定不要	PMC915 = 1	PFCE915 = 1	PFC915 = 1	
PCS0	$\overline{\text{CS0}}$	出力	PCS0 = 設定不要	PMCS0 = 設定不要	PMCCS0 = 1	－	－	
PCS1	$\overline{\text{CS1}}$	出力	PCS1 = 設定不要	PMCS1 = 設定不要	PMCCS1 = 1	－	－	
PCS2	$\overline{\text{CS2}}$	出力	PCS2 = 設定不要	PMCS2 = 設定不要	PMCCS2 = 1	－	－	
PCS3	$\overline{\text{CS3}}$	出力	PCS3 = 設定不要	PMCS3 = 設定不要	PMCCS3 = 1	－	－	
PCM0	$\overline{\text{WAIT}}$	入力	PCM0 = 設定不要	PMCM0 = 設定不要	PMCCM0 = 1	－	－	
PCM1	CLKOUT	出力	PCM1 = 設定不要	PMCM1 = 設定不要	PMCCM1 = 1	－	－	
PCM2	$\overline{\text{HLDAK}}$	出力	PCM2 = 設定不要	PMCM2 = 設定不要	PMCCM2 = 1	－	－	
PCM3	$\overline{\text{HLDRQ}}$	入力	PCM3 = 設定不要	PMCM3 = 設定不要	PMCCM3 = 1	－	－	
PCT0	$\overline{\text{WR0}}$	出力	PCT0 = 設定不要	PMCT0 = 設定不要	PMCCT0 = 1	－	－	
PCT1	$\overline{\text{WR1}}$	出力	PCT1 = 設定不要	PMCT1 = 設定不要	PMCCT1 = 1	－	－	
PCT4	$\overline{\text{RD}}$	出力	PCT4 = 設定不要	PMCT4 = 設定不要	PMCCT4 = 1	－	－	
PCT6	ASTB	出力	PCT6 = 設定不要	PMCT6 = 設定不要	PMCCT6 = 1	－	－	

注　A0-A15端子に設定する際は，一括してPMC9レジスタ = FFFFHに16ビット設定してください。

表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合（8/8）

端子名称	兼用端子		Pnレジスタの Pnxビット	PMnレジスタの PMnxビット	PMCnレジスタの PMCnxビット	PFCEnレジスタの PFCEnxビット	PFCnレジスタの PFCnxビット	その他のビット（レジスタ）
	名称	入出力						
PDH0	A16	出力	PDH0 = 設定不要	PMDH0 = 設定不要	PMCDH0 = 1	－	－	
PDH1	A17	出力	PDH1 = 設定不要	PMDH1 = 設定不要	PMCDH1 = 1	－	－	
PDH2	A18	出力	PDH2 = 設定不要	PMDH2 = 設定不要	PMCDH2 = 1	－	－	
PDH3	A19	出力	PDH3 = 設定不要	PMDH3 = 設定不要	PMCDH3 = 1	－	－	
PDH4	A20	出力	PDH4 = 設定不要	PMDH4 = 設定不要	PMCDH4 = 1	－	－	
PDH5	A21	出力	PDH5 = 設定不要	PMDH5 = 設定不要	PMCDH5 = 1	－	－	
PDH6	A22	出力	PDH6 = 設定不要	PMDH6 = 設定不要	PMCDH6 = 1	－	－	
PDH7	A23	出力	PDH7 = 設定不要	PMDH7 = 設定不要	PMCDH7 = 1	－	－	
PDL0	AD0	入出力	PDL0 = 設定不要	PMDL0 = 設定不要	PMCDL0 = 1	－	－	
PDL1	AD1	入出力	PDL1 = 設定不要	PMDL1 = 設定不要	PMCDL1 = 1	－	－	
PDL2	AD2	入出力	PDL2 = 設定不要	PMDL2 = 設定不要	PMCDL2 = 1	－	－	
PDL3	AD3	入出力	PDL3 = 設定不要	PMDL3 = 設定不要	PMCDL3 = 1	－	－	
PDL4	AD4	入出力	PDL4 = 設定不要	PMDL4 = 設定不要	PMCDL4 = 1	－	－	
PDL5	AD5	入出力	PDL5 = 設定不要	PMDL5 = 設定不要	PMCDL5 = 1	－	－	
	FLMD1[注]	入力	PDL5 = 設定不要	PMDL5 = 設定不要	PMCDL5 = 設定不要	－	－	
PDL6	AD6	入出力	PDL6 = 設定不要	PMDL6 = 設定不要	PMCDL6 = 1	－	－	
PDL7	AD7	入出力	PDL7 = 設定不要	PMDL7 = 設定不要	PMCDL7 = 1	－	－	
PDL8	AD8	入出力	PDL8 = 設定不要	PMDL8 = 設定不要	PMCDL8 = 1	－	－	
PDL9	AD9	入出力	PDL9 = 設定不要	PMDL9 = 設定不要	PMCDL9 = 1	－	－	
PDL10	AD10	入出力	PDL10 = 設定不要	PMDL10 = 設定不要	PMCDL10 = 1	－	－	
PDL11	AD11	入出力	PDL11 = 設定不要	PMDL11 = 設定不要	PMCDL11 = 1	－	－	
PDL12	AD12	入出力	PDL12 = 設定不要	PMDL12 = 設定不要	PMCDL12 = 1	－	－	
PDL13	AD13	入出力	PDL13 = 設定不要	PMDL13 = 設定不要	PMCDL13 = 1	－	－	
PDL14	AD14	入出力	PDL14 = 設定不要	PMDL14 = 設定不要	PMCDL14 = 1	－	－	
PDL15	AD15	入出力	PDL15 = 設定不要	PMDL15 = 設定不要	PMCDL15 = 1	－	－	

注　フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時に設定する端子なので，ポート制御用レジスタで操作する必要はありません。詳細は第27章　フラッシュ・メモリを参照してください。

4. 6　注意事項

4. 6. 1　ポート端子設定上の注意事項

(1) V850ES/JJ3では，1本の端子に汎用ポートと複数の周辺機能の入出力端子が兼用されています。汎用ポート（ポート・モード）と，周辺機能の入出力端子（兼用機能モード）との切り替えは，PMCnレジスタで設定します。このレジスタの設定順序に関して，次の点に注意してください。

(a) ポート・モードから兼用機能モードへ切り替える場合の注意事項

ポート・モードから兼用機能モードへ切り替える場合は，次の順序で行ってください。

① PFnレジスタを設定[注]　：N-chオープン・ドレーン設定
② PFCn, PFCEnレジスタを設定　：兼用端子機能選択
③ PMCnレジスタの該当ビットに1を設定　：兼用機能モードへ切り替え

PMCnレジスタを先に設定すると，その瞬間，またそのあとのPFn, PFCn, PFCEnレジスタの設定に伴う端子状態の変化によっては，意図しない動作に陥る可能性があるので注意してください。
【例】に具体例を示します。

注　N-chオープン・ドレーン出力端子のみ

注意　ポート・モード／兼用機能モードに関係なく，Pnレジスタのリード／ライトは次のようになります。
・Pnレジスタのリード　：ポート出力ラッチの値（PMn.PMnmビット = 0時），または端子状態（PMn.PMnmビット = 1時）の読み出し
・Pnレジスタへのライト：ポート出力ラッチへの書き込み

【例】SCL01端子の設定例
SCL01端子は，P41/SOB0と兼用されています。有効な端子機能を，PMC4, PFC4, PF4レジスタによって次のように選択します。

PMC41ビット	PFC41ビット	PF41ビット	有効な端子機能
0	don't care	1	P41（出力ポート・モードの場合，N-chオープン・ドレーン出力）
1	0	1	SOB0出力（N-chオープン・ドレーン出力）
	1	1	SCL01入出力（N-chオープン・ドレーン出力）

次に，P41端子からSCL01端子への切り替え時に，問題が発生する可能性がある設定順序を示します。

設定順	設定内容	端子状態	端子レベル
①	初期値 （PMC41ビット ＝ 0, PFC41ビット ＝ 0, PF41ビット ＝0）	ポート・モード （入力）	Hi-Z
②	PMC41ビット←1	SOB0出力	ロウ・レベル（CSIB0の設定によってはハイ・レベル）
③	PFC41ビット←1	SCL01入出力	ハイ・レベル（CMOS出力）
④	PF41ビット←1	SCL01入出力	Hi-Z（N-chオープン・ドレーン出力）

②で，兼用されているSOB0出力が端子に出力されるため，I^2C通信に影響を与える可能性があります。また，②，③のCMOS出力の期間に，不要な電流が発生する可能性があります。

(b) 兼用機能モード（入力）に関する注意事項

兼用機能ブロックへの入力信号は，PMCnレジスタの設定値と端子レベルのAND出力のため，PMCn.PMCnmビット ＝0のときはロウ・レベルとなります。そのため，ポート設定と兼用機能動作許可のタイミングによっては，意図しない動作に陥る可能性があります。したがって，PMCnレジスタによるポート・モードと兼用機能モードの切り替えは，次に示す順序で実行してください。

・ポート・モードから兼用機能モード（入力）へ切り替える場合
　PMCnレジスタで端子を兼用機能モードにしてから，兼用機能の動作を許可してください。
・兼用機能モード（入力）からポート・モードへ切り替える場合
　兼用機能の動作を停止してから，端子をポート・モードへ切り替えてください。

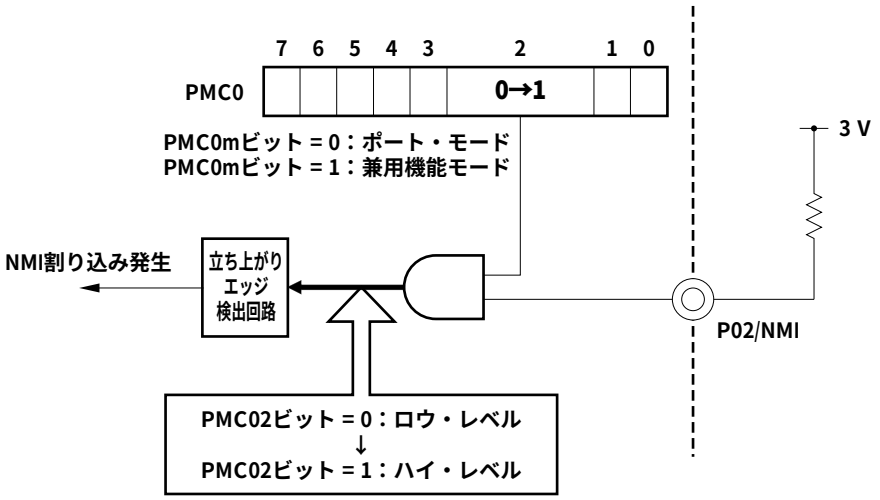
【例1】，【例2】に具体例を示します。

【例1】汎用ポート（P02）から外部割り込み端子（NMI）への切り替え

P02/NMI端子が図4－37のようにプルアップされており，かつNMI端子のエッジ検出設定で立ち上がりエッジを指定している場合に，P02端子からNMI端子へ切り替えたとき（PMC02ビット ＝0→1），NMI端子にはハイ・レベルが入力され続けているにもかかわらず，ロウ・レベル→ハイ・レベルと変化したかのように立ち上がりエッジとして検出し，NMI割り込みが発生します。

対策として，P02端子からNMI端子へ切り替えてから，NMI端子の有効エッジを設定してください。

図4－37　P02からNMIへの切り替え（悪い例）

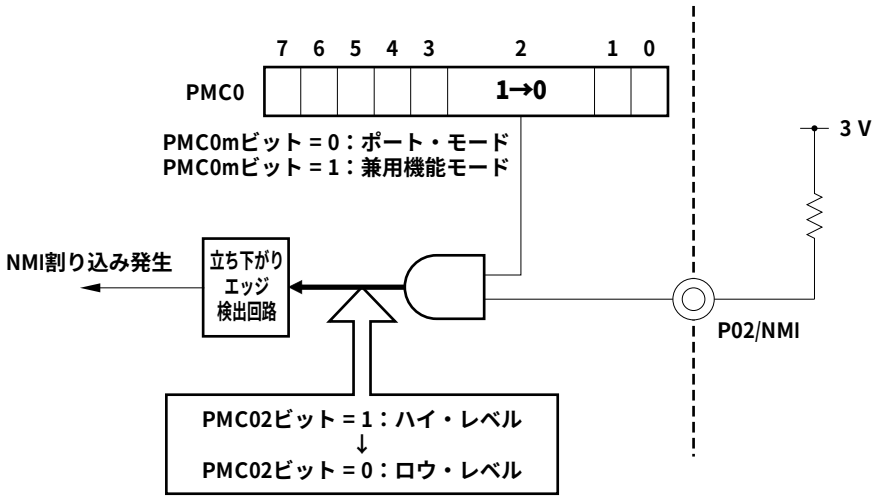


備考　m = 0-7

【例2】外部割り込み端子（NMI）から，汎用ポート（P02）への切り替え

P02/NMI端子が図4－38のようにプルアップされており，かつNMI端子のエッジ検出設定で立ち下がりエッジを指定している場合に，NMI端子からP02端子へ切り替えたとき（PMC02ビット ＝1→0），NMI端子にはハイ・レベルが入力され続けているにもかかわらず，ハイ・レベル→ロウ・レベルと変化したかのように立ち下がりエッジとして検出し，NMI割り込みが発生します。対策として，NMI端子のエッジ検出設定を“エッジ検出しない”にしてから，NMI端子からP02端子へ切り替えてください。

図4－38　NMIからP02への切り替え（悪い例）



備考　m = 0-7

（2）ポート・モードにおいてPFn.PFnmビットは，出力モード（PMn.PMnmビット ＝ 0）時のみ有効となります。入力モード（PMnmビット ＝ 1）のとき，PFnmビットの値はバッファに反映されません。

4. 6. 2　ポートnレジスタ（Pn）に対するビット操作命令に関する注意事項

入力／出力が混在しているポートに対して1ビット操作命令を行った場合，操作対象のビットだけでなく，操作対象ではない入力ポートの出力ラッチの値も書き換わる可能性があります。

そのため，任意のポートを入力モードから出力モードに切り替える前には，出力ラッチの値を書き直すことを推奨します。

＜例＞ P90端子は出力ポート，P91-P97端子は入力ポート（端子状態はすべてハイ・レベル）で，かつポート・ラッチの値が“00H”のとき，P90端子の出力をビット操作命令により“ロウ・レベル”→“ハイ・レベル”とすると，ポート・ラッチの値は，“FFH”になります。

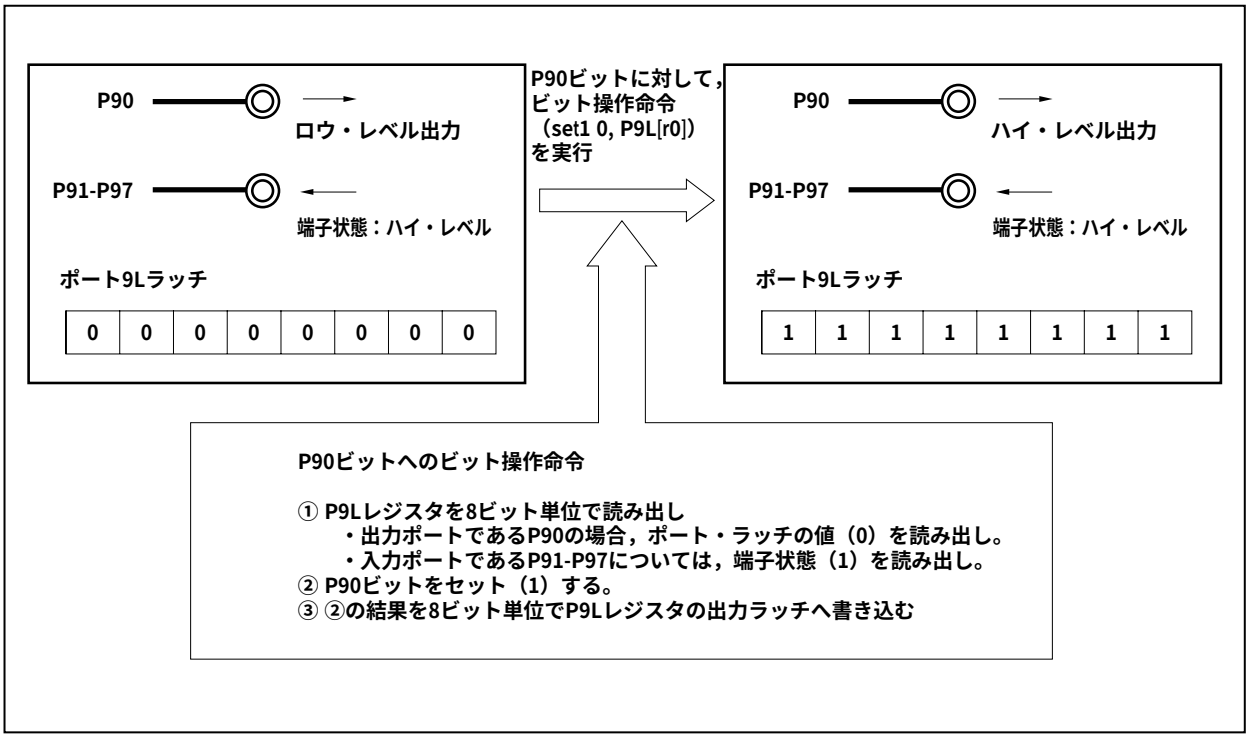
説明：PMnmビット = 1であるポートのPnレジスタへの書き込み／読み出しの対象は，それぞれ出力ラッチ／端子状態です。

また，ビット操作命令はV850ES/JJ3内部で，次の順序で行われます。

<1> Pnレジスタを8ビット単位で読み出し
<2> 対象の1ビットを操作
<3> Pnレジスタへ8ビット単位で書き込み

<1> のとき，出力ポートであるP90端子は出力ラッチの値（0）を読み出しますが，入力ポートであるP91-P97端子は端子状態を読み出します。このときP91-P97端子の端子状態が“ハイ・レベル”とすると，読み出し値は“FEH”となります。
<2> の操作で，値は“FFH”となります。
<3> の操作で，出力ラッチに“FFH”が書き込まれます。

図4－39　ビット操作命令（P90端子の場合）



4. 6. 3　オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項

$\overline{\text{DRST}}$, DCK, DMS, DDI, DDO端子はオンチップ・デバッグ用の端子です。

$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット後，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子はオンチップ・デバッグ用端子（$\overline{\text{DRST}}$）に初期化されます。このとき$\overline{\text{DRST}}$端子にハイ・レベルを入力すると，オンチップ・デバッグ・モードになり，DCK, DMS, DDI, DDO端子が使用可能になります。

オンチップ・デバッグを使用しない場合は，次の処置が必要です。

・OCDMレジスタ（特定レジスタ）のOCDM0ビットをクリア（0）

このとき，$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット解除時から，上記の処理を終えるまで，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子をロウ・レベル固定にしてください。

上記処置を行う前に$\overline{\text{DRST}}$端子にハイ・レベルを入力すると，誤動作（CPUデッド・ロック）の原因となるため，P05端子の取り扱いには十分注意してください。

注意　WDT2RES信号，クロック・モニタ（CLM），低電圧検出回路（LVI）によるリセット時は，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子はオンチップ・デバッグ用端子（$\overline{\text{DRST}}$）に初期化されません。また，OCDMレジスタも値を保持します。

4. 6. 4　P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子に関する注意事項

P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子はプルダウン抵抗（30 kΩ（TYP.））を内蔵しています。$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット後は，プルダウン抵抗が接続されています。OCDM0ビットをクリア（0）することにより，プルダウン抵抗は切断されます。

4. 6. 5　P53端子に関する電源投入時の注意事項

次に示す端子は，電源投入時にはリセット中でも一時的に不定レベルを出力する可能性があります。

・P53/SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO端子

4. 6. 6　ヒステリシス特性について

ポート・モードでは，次のポートはヒステリシス特性を持ちません。

P00-P06
P31-P35, P38, P39
P40-P42
P50-P55
P66, P68-P610, P612, P613
P80
P90-P97, P99, P910, P912-P915

第5章　バス制御機能

V850ES/JJ3は，外部にROM，RAMなどのメモリやI/Oなどを接続できる外部バス・インタフェース機能を内蔵しています。

5. 1　特　　徴

○最小で3バス・サイクルのマルチプレクス・バスと，最小で2バス・サイクルのセパレート・バス出力選択可能

○8ビット/16ビット・データ・バス切り替え可能

○ウエイト機能

・最大で7ステートのプログラマブル・ウエイト機能

・$\overline{\text{WAIT}}$端子による外部ウエイト機能

○アイドル・ステート機能

○バス・ホールド機能

○最大16 Mバイト物理メモリを接続可能（うち，1 Mバイトは内蔵ROM空間）

5. 2　バス制御端子

外部デバイスの接続には，次の端子を使用します。

表5－1　バス制御端子一覧（マルチプレクス・バス選択時）

バス制御端子	兼用端子	入出力	機　　能
AD0-AD15	PDL0-PDL15	入出力	アドレス／データ・バス
A16-A23	PDH0-PDH7	出力	アドレス・バス
$\overline{\text{WAIT}}$	PCM0	入力	外部ウエイト制御
CLKOUT	PCM1	出力	内部システム・クロック
$\overline{\text{WR0}}$, $\overline{\text{WR1}}$	PCT0, PCT1	出力	ライト・ストローブ信号
$\overline{\text{RD}}$	PCT4	出力	リード・ストローブ信号
ASTB	PCT6	出力	アドレス・ストローブ信号
$\overline{\text{HLDRQ}}$	PCM3	入力	バス・ホールド制御
$\overline{\text{HLDAK}}$	PCM2	出力	
$\overline{\text{CS0}}$-$\overline{\text{CS3}}$	PCS0-PCS3	出力	チップ・セレクト

表5－2　バス制御端子一覧（セパレート・バス選択時）

バス制御端子	兼用端子	入出力	機　　能
AD0-AD15	PDL0-PDL15	入出力	データ・バス
A0-A15	P90-P915	出力	アドレス・バス
A16-A23	PDH0-PDH7	出力	アドレス・バス
$\overline{\text{WAIT}}$	PCM0	入力	外部ウエイト制御
CLKOUT	PCM1	出力	内部システム・クロック
$\overline{\text{WR0}}$, $\overline{\text{WR1}}$	PCT0, PCT1	出力	ライト・ストローブ信号
$\overline{\text{RD}}$	PCT4	出力	リード・ストローブ信号
$\overline{\text{HLDRQ}}$	PCM3	入力	バス・ホールド制御
$\overline{\text{HLDAK}}$	PCM2	出力	
$\overline{\text{CS0}}$-$\overline{\text{CS3}}$	PCS0-PCS3	出力	チップ・セレクト

5. 2. 1　内蔵ROM，内蔵RAM，内蔵周辺I/Oアクセス時の端子状態

内蔵ROM，内蔵RAM，内蔵周辺I/Oへアクセスした場合，各端子状態は次のようになります。

表5－3　内蔵ROM，内蔵RAM，内蔵周辺I/Oアクセス時の端子状態一覧

セパレート・バス・モード		マルチプレクス・バス・モード	
アドレス・バス（A23-A0）	不定	アドレス・バス（A23-A16）	不定
データ・バス（AD15-AD0）	Hi-Z	アドレス／データ・バス（AD15-AD0）	不定
制御信号	インアクティブ	制御信号	インアクティブ

注意　内蔵ROM領域へライト・アクセスしたときには，外部メモリ領域へのアクセスと同じく，アドレス，データ，制御信号ともに活性化されます。

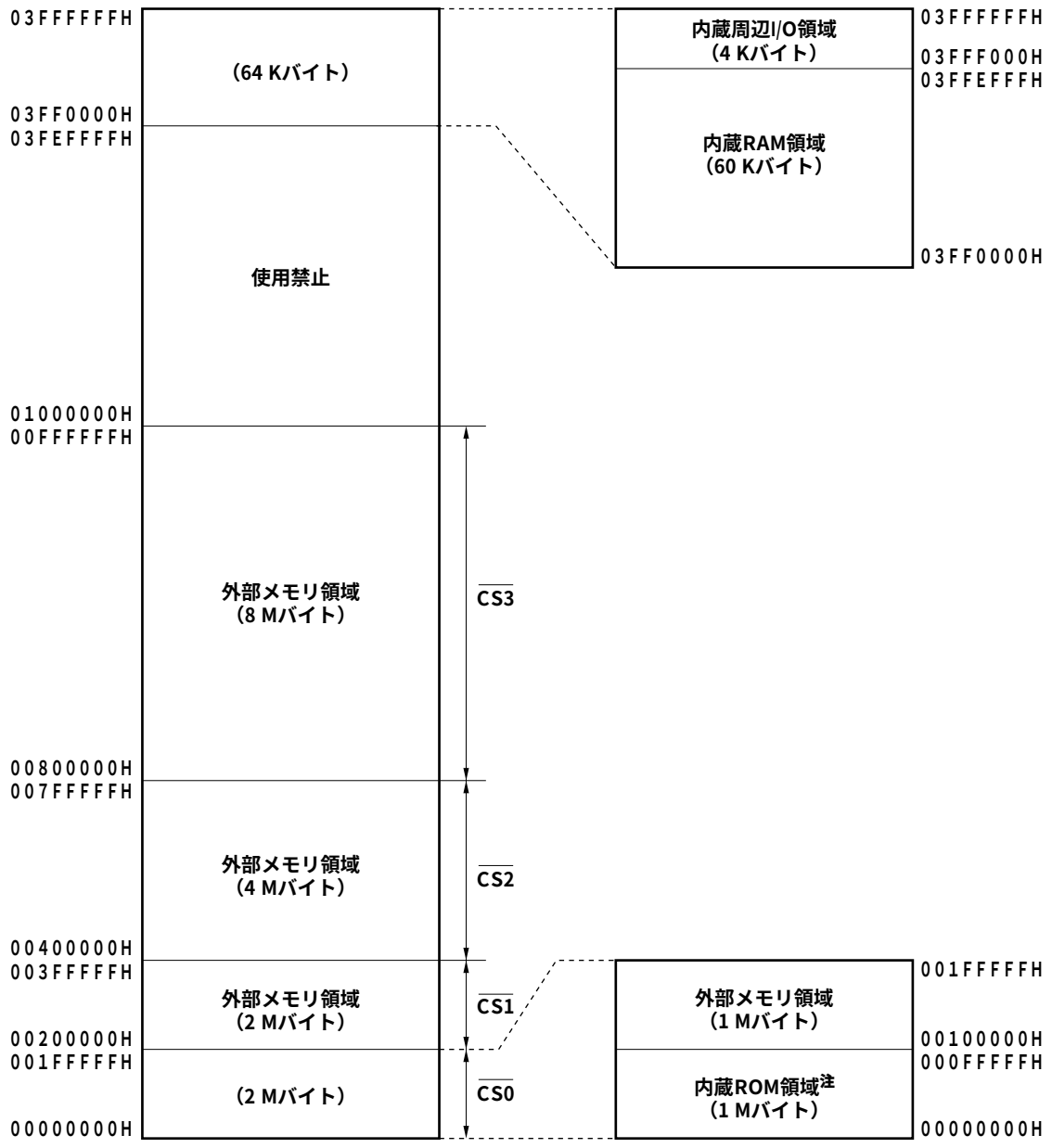
5. 2. 2　各動作モードの端子状態

V850ES/JJ3各動作モードの端子状態については，2. 2　端子状態を参照してください。

5. 3　メモリ・ブロック機能

16 Mバイトの外部メモリ空間は下位2 M, 2 M, 4 M, 8 Mバイト単位のメモリ・ブロックに分割され，1ブロック単位にプログラマブル・ウエイト機能，バス・サイクル動作モードなどを独立に制御できます。

図5－1　データ・メモリ・マップ：物理アドレス



注　データ・ライト・アクセス時は，外部メモリ領域になります。

5. 4　外部バス・インタフェース・モード制御機能

V850ES/JJ3は，外部バス・インタフェースとして次の2つのモードがあります。

・マルチプレクス・バス・モード
・セパレート・バス・モード

2つのモードの切り替えは，EXIMCレジスタで設定します。

(1) 外部バス・インタフェース・モード・コントロール・レジスタ（EXIMC）

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。
リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFFFBEH

	7	6	5	4	3	2	1	0
EXIMC	0	0	0	0	0	0	0	SMSEL

SMSEL	モード切り替え
0	マルチプレクス・バス・モード
1	セパレート・バス・モード

注意　EXIMCレジスタの設定は，外部アクセスを行う前に，内蔵ROMまたは内蔵RAM領域から行ってください。
また，EXIMCレジスタ設定後には，必ずNOP命令を1つ挿入してください。

5. 5　バス・アクセス

5. 5. 1　アクセス・クロック数

各リソースに対するアクセスに要する基本クロック数を次に示します。

領域（バス幅） バス・サイクル・タイプ	内蔵ROM（32ビット）	内蔵RAM（32ビット）	外部メモリ（16ビット）
命令フェッチ（通常アクセス）	1	1注1	3＋n注2
命令フェッチ（分岐）	2	2注1	3＋n注2
オペランド・データ・アクセス	3	1	3＋n注2

注1.　データ・アクセスと競合した場合は，＋1されます。

2.　セパレート・バス選択時は，2＋nクロック（n：ウエイト数）です。

備考　単位はクロック／アクセスです。

5. 5. 2　バス・サイズ設定機能

外部メモリ領域は，$\overline{\text{CSn}}$で選択される領域ごとにBSCレジスタで設定できます。ただし，設定可能なバス・サイズは8ビットと16ビットのみです。

V850ES/JJ3の外部メモリ領域は，$\overline{\text{CS0}}$-$\overline{\text{CS3}}$で選択されます。

(1) バス・サイズ・コンフィギュレーション・レジスタ（BSC）

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより5555Hになります。

注意　BSCレジスタへの書き込みはリセット後に行い，そのあとは値を変更しないでください。また，BSCレジスタの初期設定が終わるまでは，外部メモリ領域をアクセスしないでください。

リセット時：5555H　R/W　アドレス：FFFFF066H

	15	14	13	12	11	10	9	8
BSC	0	1	0	1	0	1	0	1
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	BS30	0	BS20	0	BS10	0	BS00
		$\overline{\text{CS3}}$		$\overline{\text{CS2}}$		$\overline{\text{CS1}}$		$\overline{\text{CS0}}$

BSn0	CSn空間のデータ・バス幅（n = 0-3）
0	8ビット
1	16ビット

注意　ビット14, 12, 10, 8には必ず1を設定し，ビット15, 13, 11, 9, 7, 5, 3, 1には必ず0を設定してください。

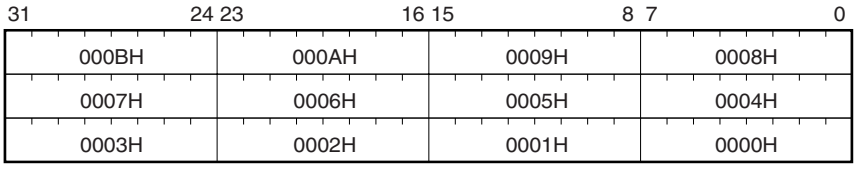
5. 5. 3　バス・サイズによるアクセス

V850ES/JJ3が内蔵周辺I/Oアクセス，外部メモリ・アクセスを行う場合には，8, 16, 32ビット・アクセスがあります。またバス・サイズは次のとおりです。

- 内蔵周辺I/Oのバス・サイズは16ビット固定
- 外部メモリのバス・サイズは8ビット/16ビット選択可能（BSCレジスタにより設定）

次にそれぞれのアクセス時の動作を示します。すべてデータの下位側から順番にアクセスを行います。
V850ES/JJ3は，リトル・エンディアン形式のみ対応しています。

図5－2　ワード内のリトル・エンディアン・アドレス



(1) データ空間

V850ES/JJ3はアドレス・ミス・アライン機能を内蔵しています。

この機能により，データの形式（ワード・データ，ハーフワード・データ）にかかわらず，すべてのアドレスに対してデータを配置できます。ただし，ワード・データ，ハーフワード・データの場合，データが境界整列していないと，バス・サイクルが最低2回は発生し，バス効率が低下します。

(a) ハーフワード長のデータ・アクセスの場合

アドレスの最下位ビットが1のとき，バイト長のバス・サイクルを2回生成します。

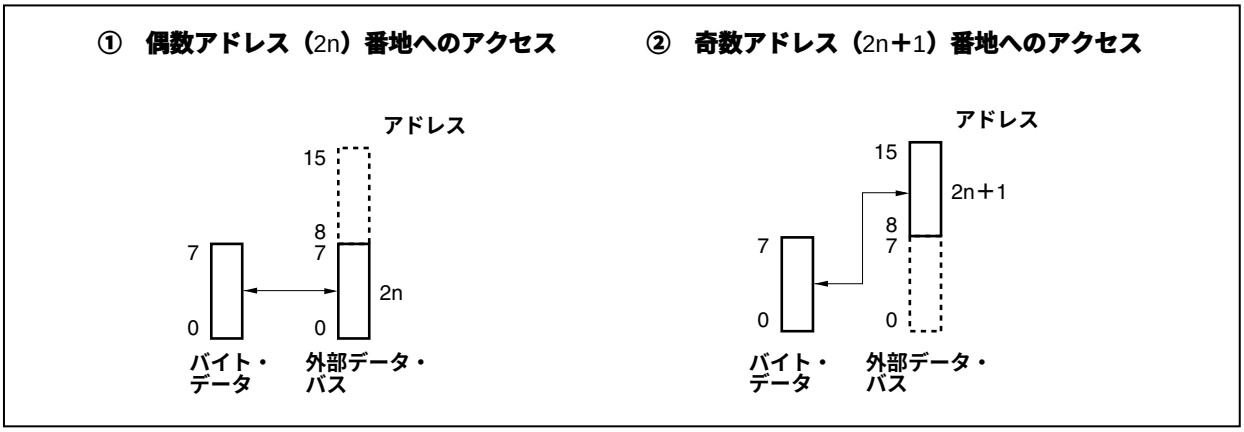
(b) ワード長のデータ・アクセスの場合

(i) アドレスの最下位ビットが1のとき，バイト長のバス・サイクル，ハーフワード長のバス・サイクル，バイト長のバス・サイクルの順でバス・サイクルを生成します。

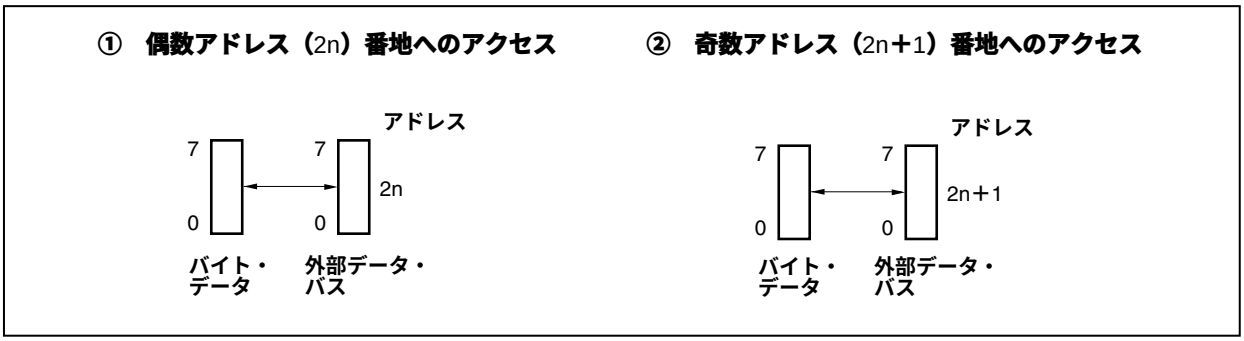
(ii) アドレスの下位2ビットが10のとき，ハーフワード長のバス・サイクルを2回生成します。

(2) バイト・アクセス（8ビット）

(a) 16ビット・データ・バス幅のとき

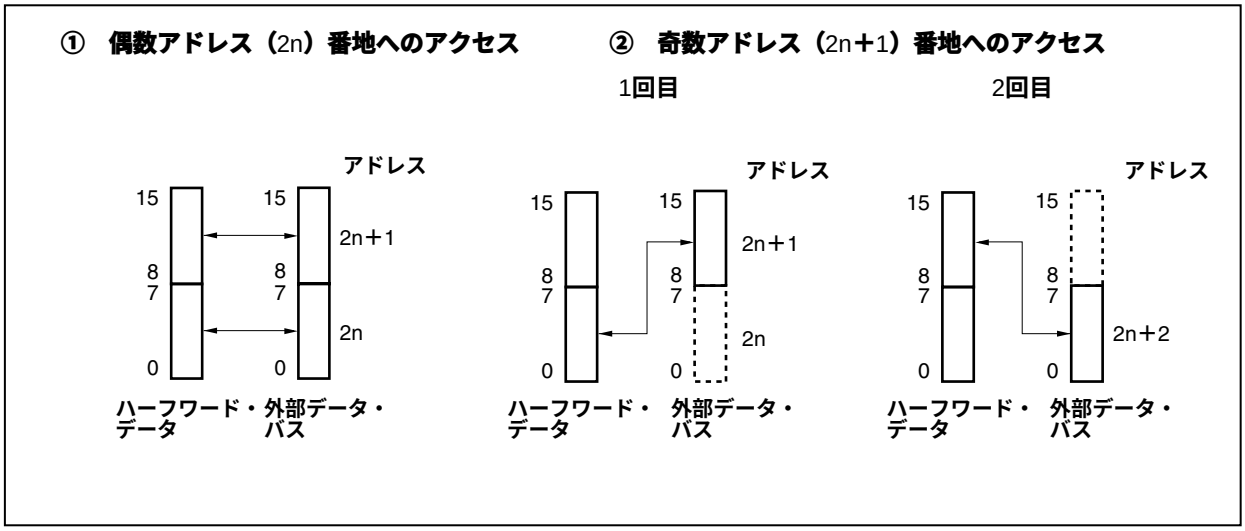


(b) 8ビット・データ・バス幅のとき

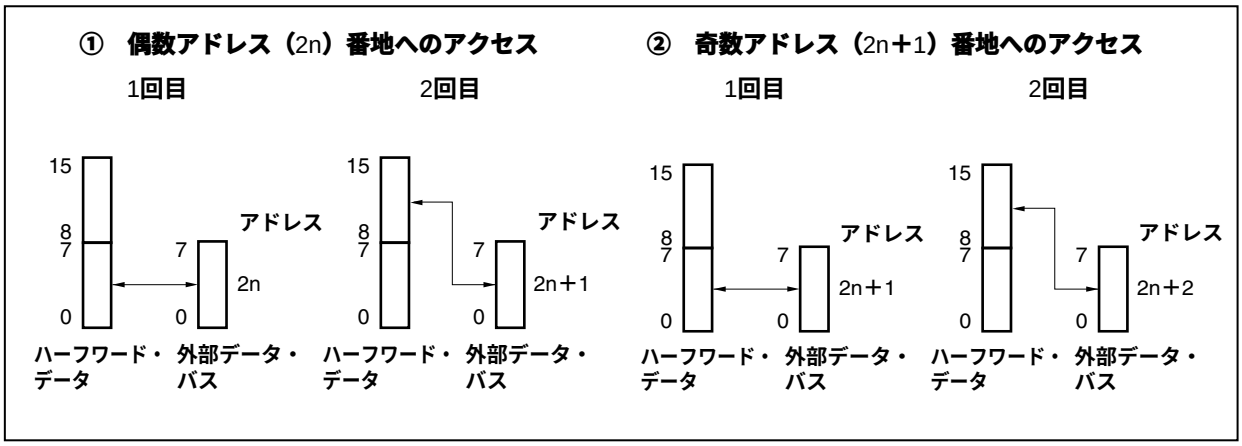


(3) ハーフワード・アクセス（16ビット）

(a) 16ビット・データ・バス幅のとき



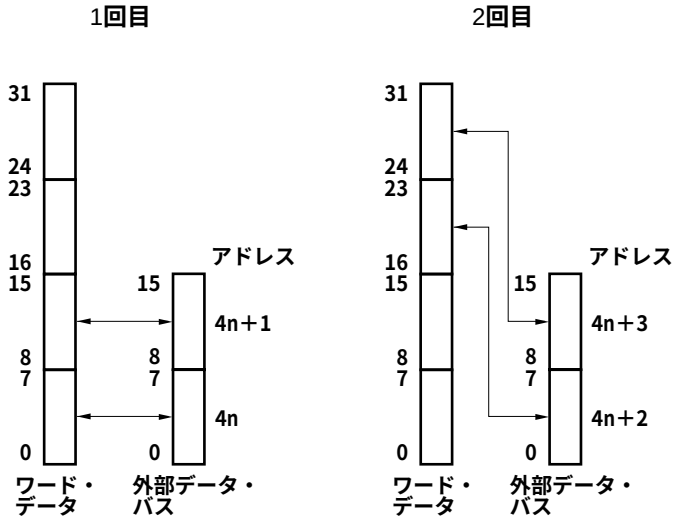
(b) 8ビット・データ・バス幅のとき



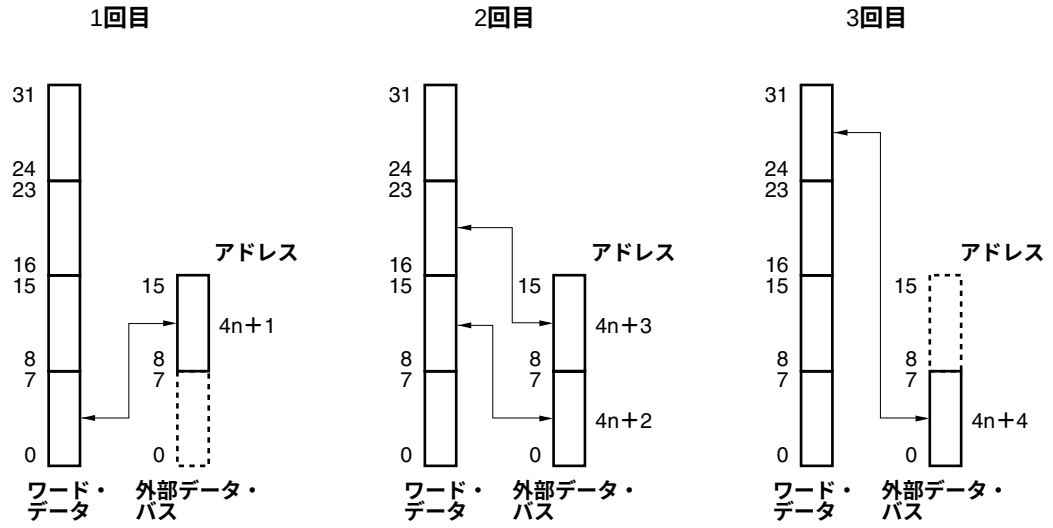
(4) ワード・アクセス（32ビット）

(a) 16ビット・データ・バス幅のとき（1/2）

① アドレス（4n）番地へのアクセス

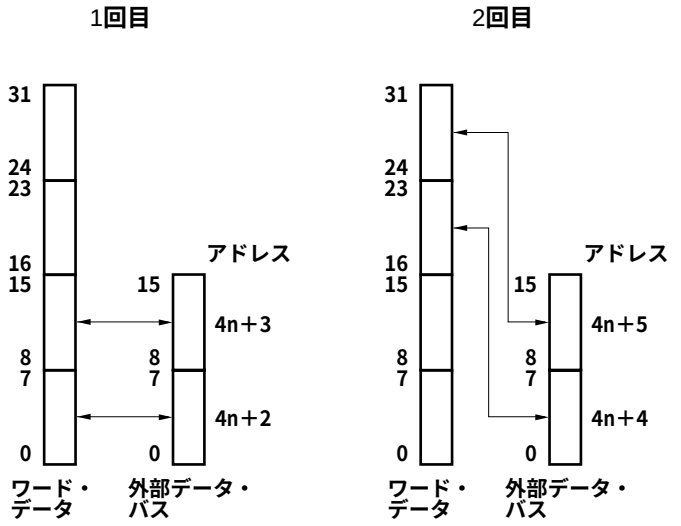


② アドレス（4n+1）番地へのアクセス

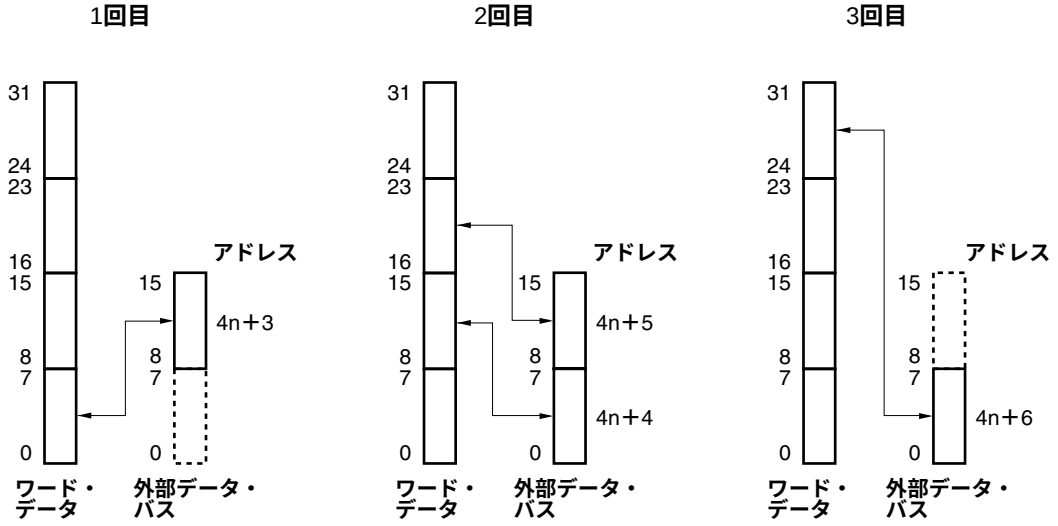


(a) 16ビット・データ・バス幅のとき (2/2)

③ アドレス (4n+2) 番地へのアクセス

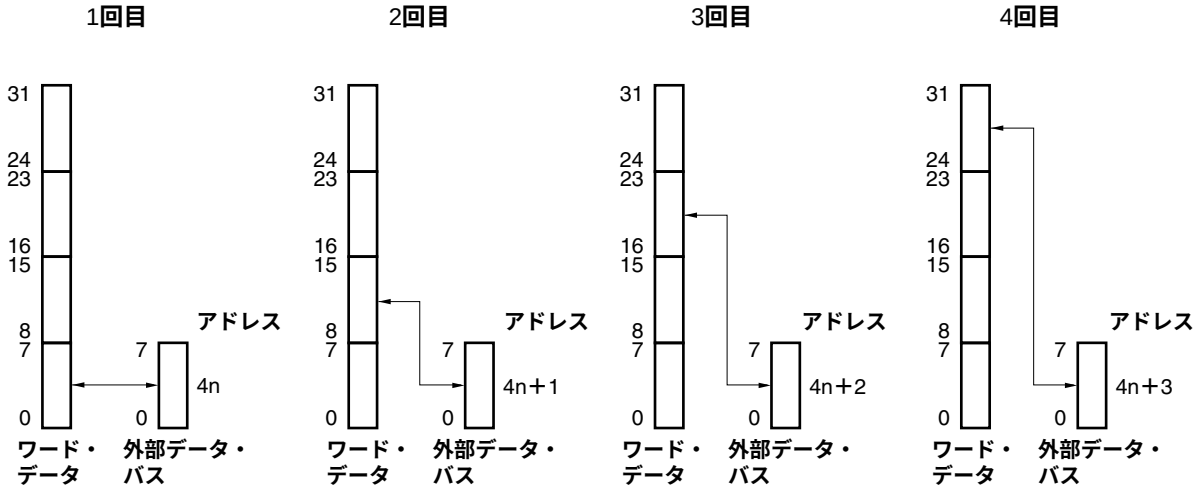


④ アドレス (4n+3) 番地へのアクセス

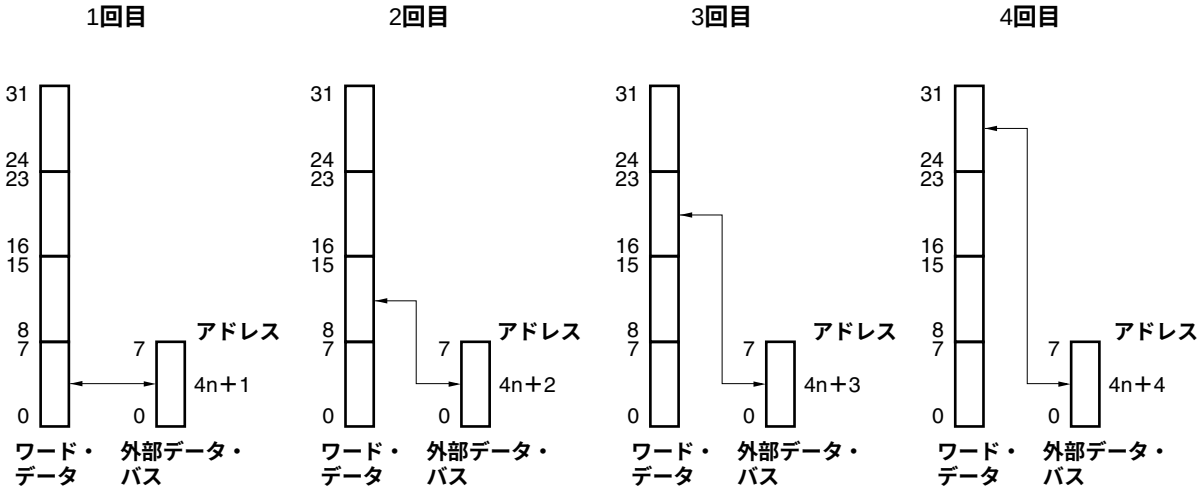


(b) 8ビット・データ・バス幅のとき (1/2)

① アドレス (4n) 番地へのアクセス

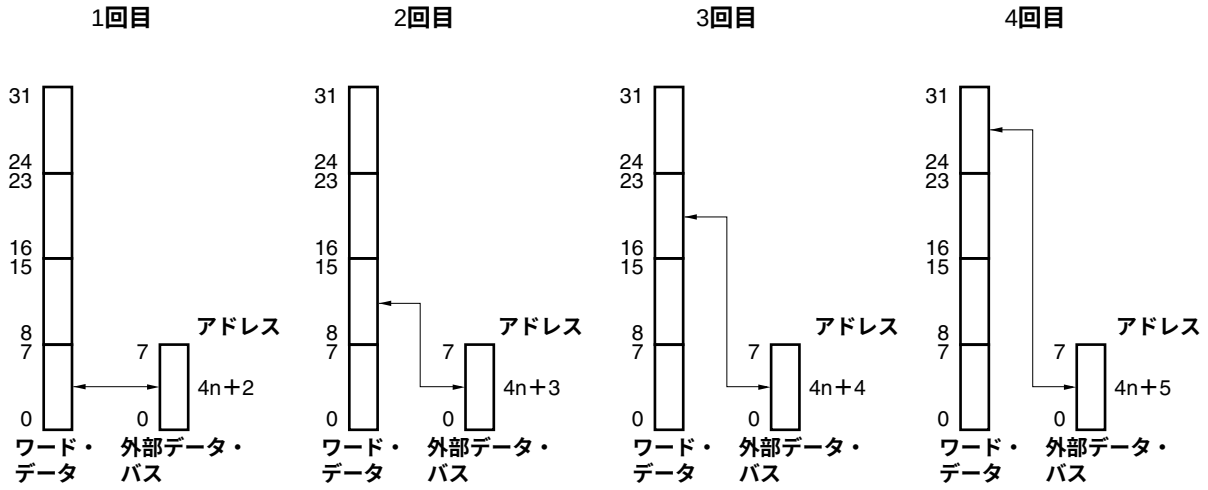


② アドレス (4n+1) 番地へのアクセス

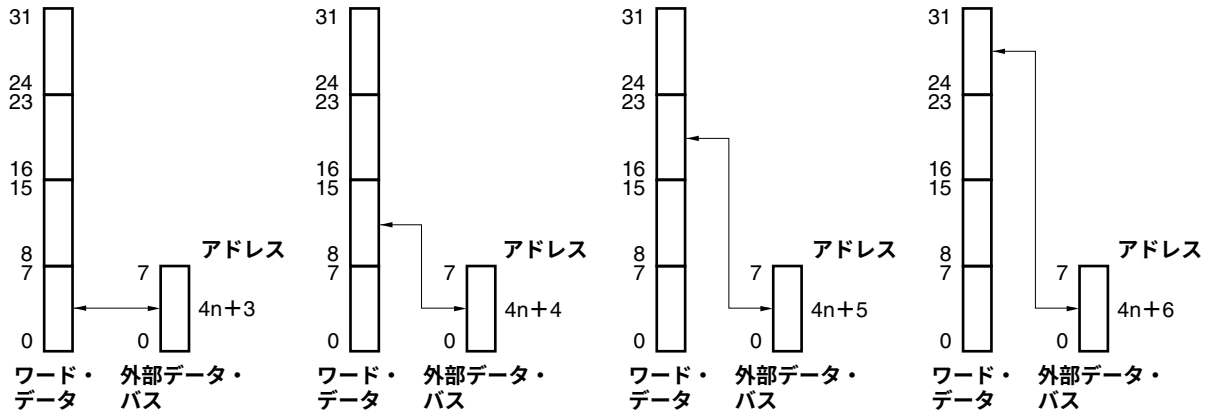


(b) 8ビット・データ・バス幅のとき (2/2)

③ アドレス (4n+2) 番地へのアクセス



④ アドレス (4n+3) 番地へのアクセス



5. 6　ウエイト機能

5. 6. 1　プログラマブル・ウエイト機能

(1) データ・ウエイト・コントロール・レジスタ0（DWC0）

低速メモリ，I/Oに対するインタフェースを容易に実現させることを目的とし，各CS空間ごとに起動されるバス・サイクルに対し，最大7ステートのデータ・ウエイトを挿入可能です。

ウエイト数は，DWC0レジスタでプログラマブルに指定可能です。システム・リセット直後は，全ブロックに対して7データ・ウエイトの挿入状態になります。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより7777Hになります。

注意1. 内蔵ROM領域，内蔵RAM領域は，プログラマブル・ウエイトの対象外で，常にノー・ウエイト・アクセスを行います。また，内蔵周辺I/O領域も，プログラマブル・ウエイトの対象外で，各周辺機能からのウエイト制御だけ行われます。

2. DWC0レジスタへの書き込みはリセット後に行い，そのあとは値を変更しないでください。また，DWC0レジスタの初期設定が終わるまでは，外部メモリ領域をアクセスしないでください。

3. セパレート・バスで使用し，かつfxx＞20 MHzで動作させる場合，必ずウエイトを1つ以上挿入してください。

リセット時：7777H　R/W　アドレス：FFFFF484H

	15	14	13	12	11	10	9	8
DWC0	0	DW32	DW31	DW30	0	DW22	DW21	DW20
		$\overline{CS3}$				$\overline{CS2}$		

7	6	5	4	3	2	1	0
0	DW12	DW11	DW10	0	DW02	DW01	DW00
	$\overline{CS1}$				$\overline{CS0}$		

DWn2	DWn1	DWn0	CSn空間の挿入ウエイト数（n = 0-3）		
			マルチプレクス・バス	セパレート・バス	
				fxx≦20 MHz	fxx＞20 MHz
0	0	0	挿入しない	挿入しない	設定禁止
0	0	1	1		
0	1	0	2		
0	1	1	3		
1	0	0	4		
1	0	1	5		
1	1	0	6		
1	1	1	7		

注意　ビット15, 11, 7, 3には必ず0を設定してください。

5. 6. 2　外部ウエイト機能

極端に遅いメモリや，I/O，非同期システムに接続する場合など，外部デバイスに同期をとる目的で，外部ウエイト端子（$\overline{\text{WAIT}}$）によりバス・サイクルに任意のウエイト・ステートを挿入することができます。

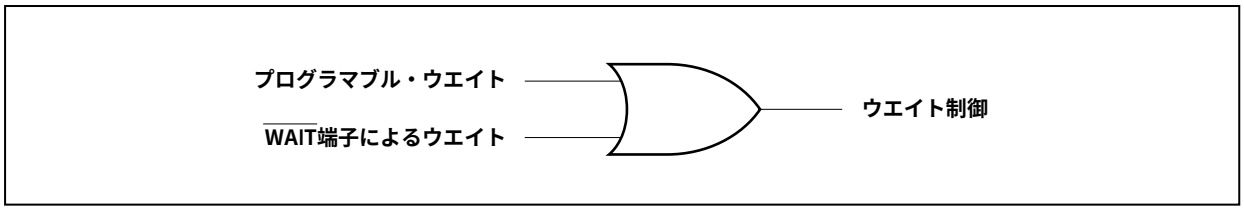
PCM0端子が兼用機能に設定されている場合に，外部ウエイト機能が有効になります。

内蔵ROM，内蔵RAM，内蔵周辺I/Oの各領域へのアクセスに対しては，プログラマブル・ウエイトと同様に，外部ウエイトによる制御はできません。

$\overline{\text{WAIT}}$入力は，CLKOUTに対する非同期入力が可能で，マルチプレクス・バス時にはバス・サイクルのT2, TWステートのクロックの立ち下がりでサンプリングされます。セパレート・バス時にはバス・サイクルのT1とTWステート直後のクロックの立ち上がりでサンプリングされます。サンプル・タイミングにおける設定／保持時間を満たさないときは，次のステートでウエイトを挿入するか，挿入しないかのどちらかになります。

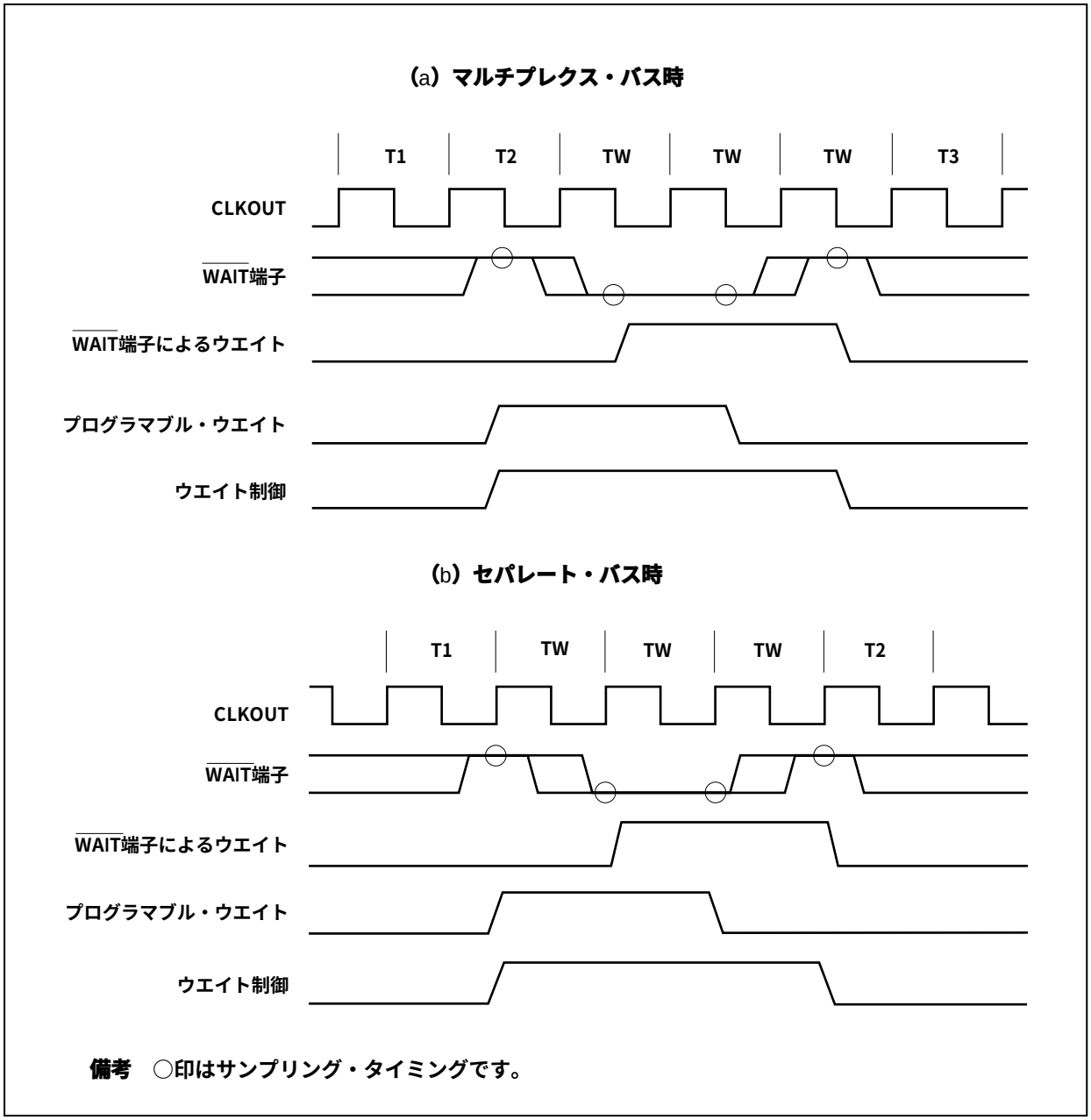
5. 6. 3　プログラマブル・ウエイトと外部ウエイトの関係

ウエイト・サイクルは，プログラマブル・ウエイトの設定値によるウエイト・サイクルと，$\overline{\text{WAIT}}$端子制御によるウエイト・サイクルの論理和（OR）として挿入されます。



たとえば，プログラマブル・ウエイト，$\overline{\text{WAIT}}$端子が次のようなタイミングのとき，バス・サイクルは，3ウエイトになります。

図5－3　ウエイト挿入例



備考　○印はサンプリング・タイミングです。

5. 6. 4　プログラマブル・アドレス・ウエイト機能

AWCレジスタにより，各バス・サイクルに対して挿入するアドレス・セットアップ・ウエイト／アドレス・ホールド・ウエイトを設定できます。アドレス・ウエイト挿入は各チップ・セレクト領域（$\overline{CS0}$-$\overline{CS3}$）ごとに設定します。

アドレス・セットアップ・ウエイトを挿入すると，T1ステートのハイ・クロック期間が1クロック分伸びたイメージになります。また，アドレス・ホールド・ウエイトを挿入すると，T1ステートのロウ・クロック期間が1クロック分伸びたイメージになります。

(1) アドレス・ウエイト・コントロール・レジスタ（AWC）

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットによりFFFFHになります。

注意1. 内蔵ROM領域，内蔵RAM領域，内蔵周辺I/O領域は，アドレス・セットアップ・ウエイト／アドレス・ホールド・ウエイト挿入の対象外になります。

2. AWCレジスタへの書き込みはリセット後に行い，そのあとは値を変更しないでください。また，AWCレジスタの初期設定が終わるまでは，外部メモリ領域をアクセスしないでください。

3. f_{XX}＞20 MHzで動作させる場合，必ずアドレス・ホールド・ウエイトとアドレス・セットアップ・ウエイトを挿入してください。

リセット時：FFFFH　R/W　アドレス：FFFFF488H

	15	14	13	12	11	10	9	8
AWC	1	1	1	1	1	1	1	1
	7	6	5	4	3	2	1	0
	AHW3	ASW3	AHW2	ASW2	AHW1	ASW1	AHW0	ASW0
	$\overline{CS3}$		$\overline{CS2}$		$\overline{CS1}$		$\overline{CS0}$	

AHWn	アドレス・ホールド・ウエイト挿入指定（n = 0-3）	
	f_{XX}≦20 MHz	f_{XX}＞20 MHz
0	挿入しない	設定禁止
1	挿入する	挿入する

ASWn	アドレス・セットアップ・ウエイト挿入指定（n = 0-3）	
	f_{XX}≦20 MHz	f_{XX}＞20 MHz
0	挿入しない	設定禁止
1	挿入する	挿入する

注意　ビット15-8には必ず1を設定してください。

5. 7　アイドル・ステート挿入機能

低速メモリに対するインタフェースを容易に実現させることを目的とし，チップ・セレクトで選択される空間ごとに起動されるバス・サイクルに対し，マルチプレクス・アドレス／データ・バス時にはT3ステート後に，1ステートのアイドル・ステート（TI）を挿入できます。また，セパレート・バス時には，T2ステート後に1ステートのアイドル・ステート（TI）を挿入できます。アイドル・ステートを挿入することにより，リード・アクセス時のメモリのデータ出力フロート遅延時間を確保することができます（ライト・アクセス時には，アイドル・ステートは挿入できません）。

アイドル・ステートの挿入指定は，BCCレジスタでプログラマブルに設定できます。

システム・リセット直後は，全領域に対してアイドル・ステートの挿入状態になります。

(1) バス・サイクル・コントロール・レジスタ（BCC）

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットによりAAAAHになります。

注意1. 内蔵ROM領域，内蔵RAM領域，内蔵周辺I/O領域は，アイドル・ステート挿入の対象外になります。

2. BCCレジスタへの書き込みはリセット後に行い，そのあとは値を変更しないでください。また，BCCレジスタの初期設定が終わるまでは，外部メモリ領域をアクセスしないでください。

リセット時：AAAAH　R/W　アドレス：FFFFF48AH

	15	14	13	12	11	10	9	8
BCC	1	0	1	0	1	0	1	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	BC31	0	BC21	0	BC11	0	BC01	0
	CS3		CS2		CS1		CS0	

BCn1	アイドル・ステート挿入指定（n = 0-3）
0	挿入しない
1	挿入する

注意　ビット15, 13, 11, 9には必ず1を設定し，ビット14, 12, 10, 8, 6, 4, 2, 0には必ず0を設定してください。

5. 8　バス・ホールド機能

5. 8. 1　機能概要

PCM2, PCM3端子が兼用機能に設定されていれば，$\overline{\text{HLDRQ}}$, $\overline{\text{HLDAK}}$機能が有効になります。

ほかのバス・マスタからのバス獲得要求として$\overline{\text{HLDRQ}}$端子がアクティブ（ロウ・レベル）になったことを受け付けると，外部アドレス／データ・バスをハイ・インピーダンス状態にし，解放します（バス・ホールド状態）。$\overline{\text{HLDRQ}}$端子がインアクティブ（ハイ・レベル）になりバス獲得要求が解除されれば，再びこれらの端子の駆動を開始します。

バス・ホールド期間中は，内蔵周辺I/Oレジスタ・アクセスあるいは，外部メモリ・アクセスがあるまで，内蔵ROM，内蔵RAMからのプログラムの実行を継続します。

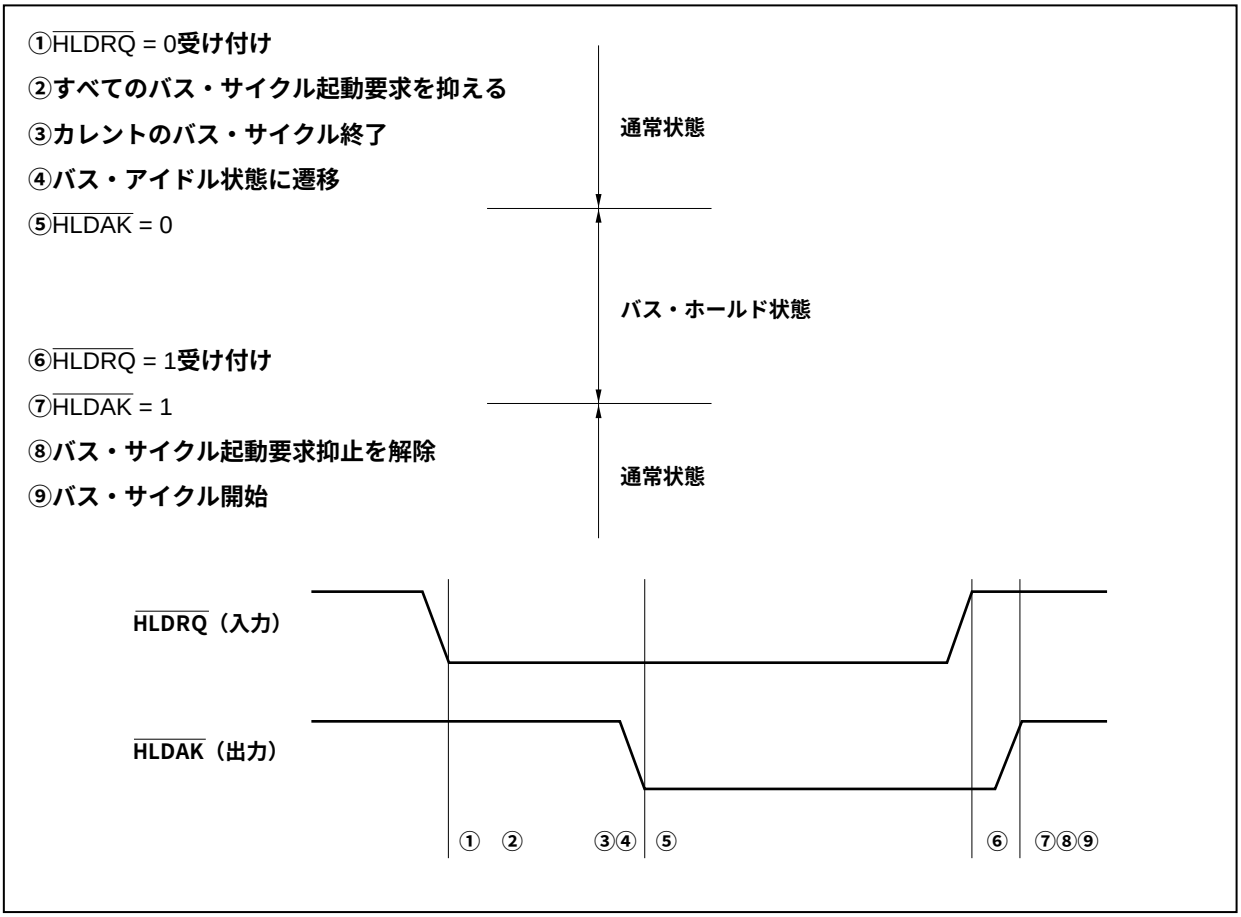
バス・ホールド状態は，$\overline{\text{HLDAK}}$端子がアクティブ（ロウ・レベル）になったことにより知ることができます。マルチプロセッサ構成など，バス・マスタが複数存在するようなシステムを構成できます。

なお，バス・サイジングおよびビット操作命令による複数アクセスのサイクル中は，バス・ホールド要求を受け付けません。

状　態	データ・バス幅	アクセス形態	バス・ホールド要求を受け付けないタイミング
CPUバス・ロック	16ビット	偶数番地へのワード・アクセス	1回目と2回目の間
		奇数番地へのワード・アクセス	1回目と2回目の間
			2回目と3回目の間
		奇数番地へのハーフワード・アクセス	1回目と2回目の間
	8ビット	ワード・アクセス	1回目と2回目の間
			2回目と3回目の間
			3回目と4回目の間
		ハーフワード・アクセス	1回目と2回目の間
ビット操作命令のリード・モディファイ・ライト・アクセス	－	－	リード・アクセスとライト・アクセスの間

5. 8. 2　バス・ホールド手順

バス・ホールド状態遷移の手順を次に示します。



5. 8. 3　パワー・セーブ・モード時の動作

STOPモード期間中およびIDLE1, IDLE2モード期間中は，内部システム・クロックが停止するため，HLDRQ端子がアクティブになっても受け付けられずバス・ホールド状態にはなりません。

HALTモードでは，HLDRQ端子がアクティブになると，ただちにHLDAK端子がアクティブになり，バス・ホールド状態になります。その後，HLDRQ端子がインアクティブになると，HLDAK端子もインアクティブになり，バス・ホールド状態は解除されます。

5. 9　バスの優先順位

外部バス・サイクルには，バス・ホールド，DMA転送，オペランド・データ・アクセス，命令フェッチ（分岐），命令フェッチ（連続）の5つがあります。

優先順位はバス・ホールドが最も高く，DMA転送，オペランド・データ・アクセス，命令フェッチ（分岐），命令フェッチ（連続）の順で低くなります。

リード・モディファイ・ライト・アクセスのリード・アクセスとライト・アクセスの間には，命令フェッチが挿入されることがあります。

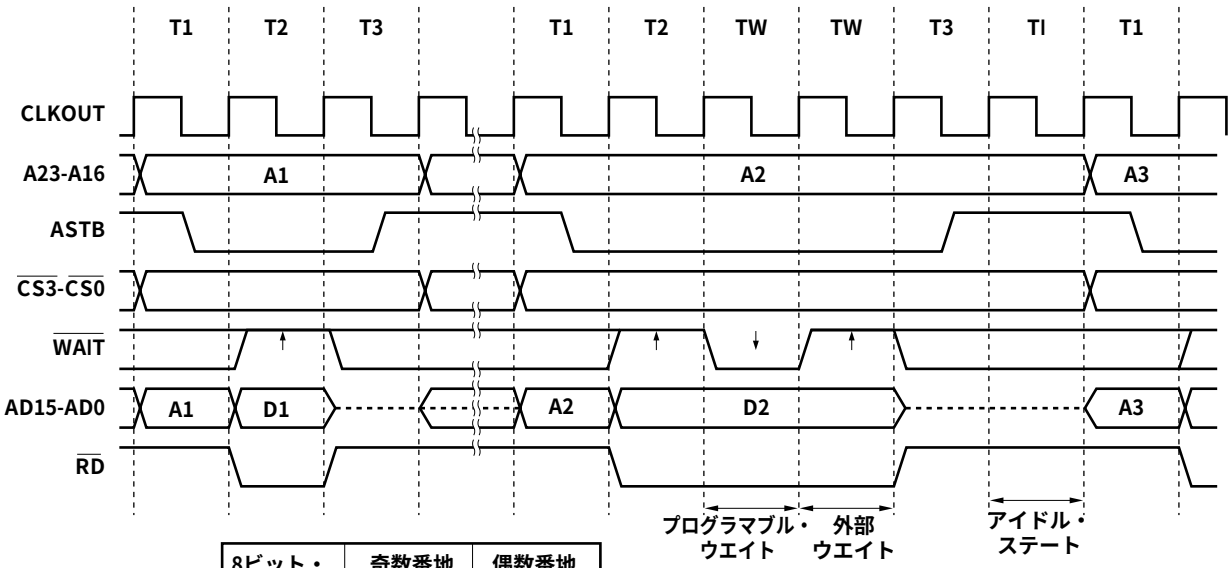
なお，バス・サイズの関係で，数回のアクセスで命令を実行するとき，アクセスとアクセスの間には命令フェッチとバス・ホールドは挿入されません。

表5ー4　バスの優先順位

優先順位	外部バス・サイクル	バス・マスタ
高い	バス・ホールド	外部デバイス
↑	DMA転送	DMAC
	オペランド・データ・アクセス	CPU
↓	命令フェッチ（分岐）	CPU
低い	命令フェッチ（連続）	CPU

5. 10　バス・タイミング

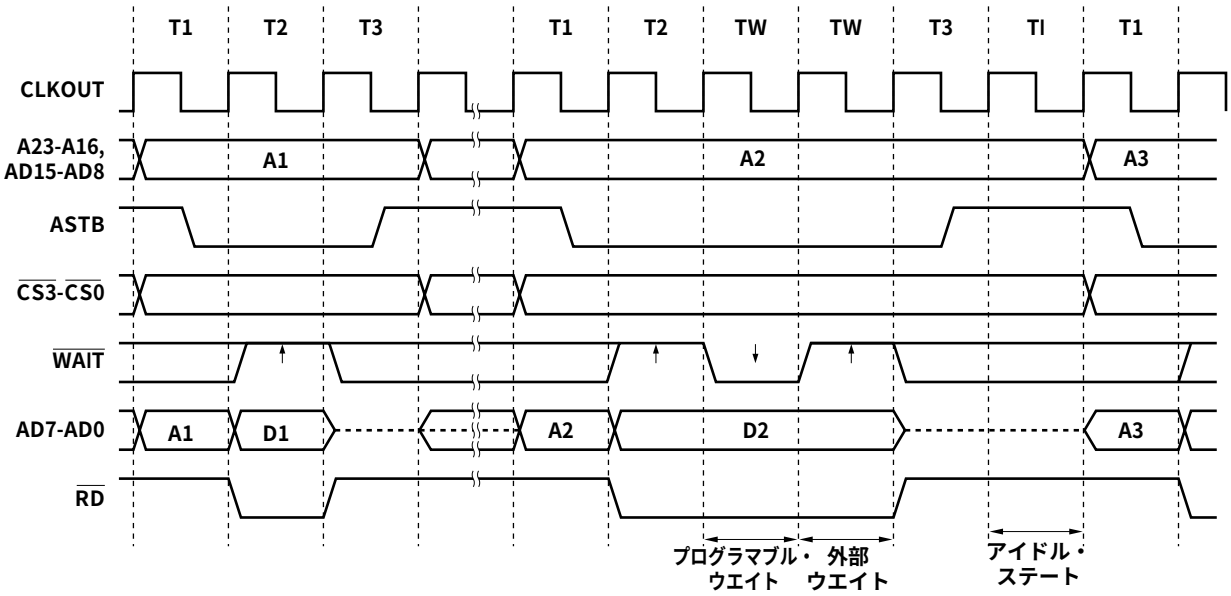
図5－4　マルチプレクス・バス・リード・タイミング（バス・サイズ：16ビット，16ビット・アクセス時）



8ビット・アクセス時	奇数番地	偶数番地
AD15-AD8	アクティブ	Hi-Z
AD7-AD0	Hi-Z	アクティブ

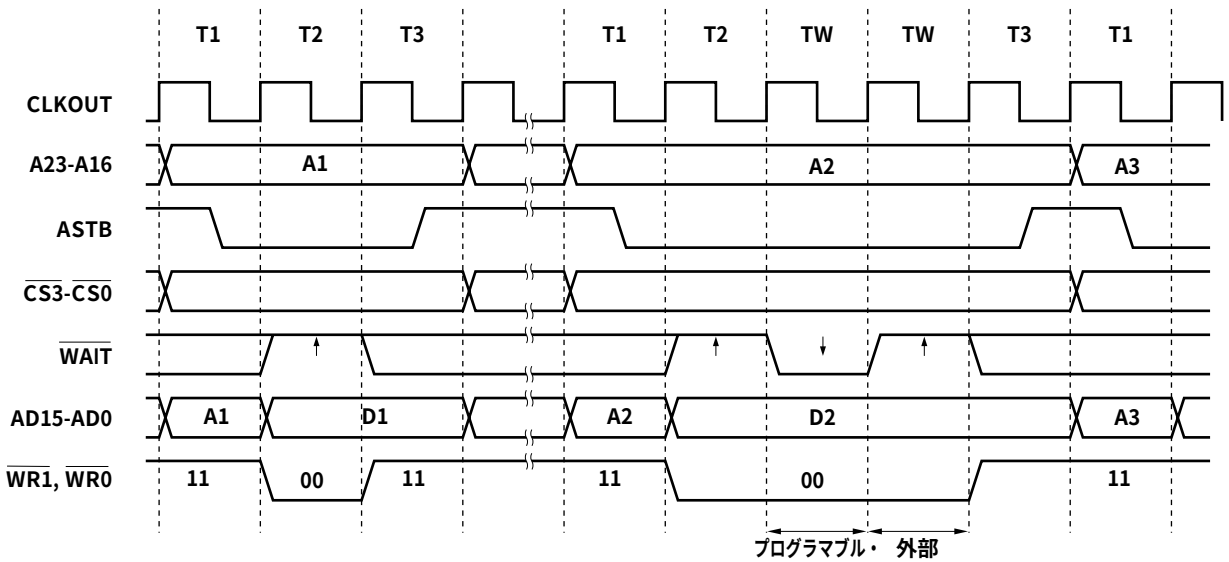
備考　破線はハイ・インピーダンスを示します。

図5－5　マルチプレクス・バス・リード・タイミング（バス・サイズ：8ビット）



備考　破線はハイ・インピーダンスを示します。

図5ー6　マルチプレクス・バス・ライト・タイミング（バス・サイズ：16ビット，16ビット・アクセス時）



8ビット・アクセス時	奇数番地	偶数番地
AD15-AD8	アクティブ	不定
AD7-AD0	不定	アクティブ
$\overline{WR1}$, $\overline{WR0}$	01	10

図5ー7　マルチプレクス・バス・ライト・タイミング（バス・サイズ：8ビット）

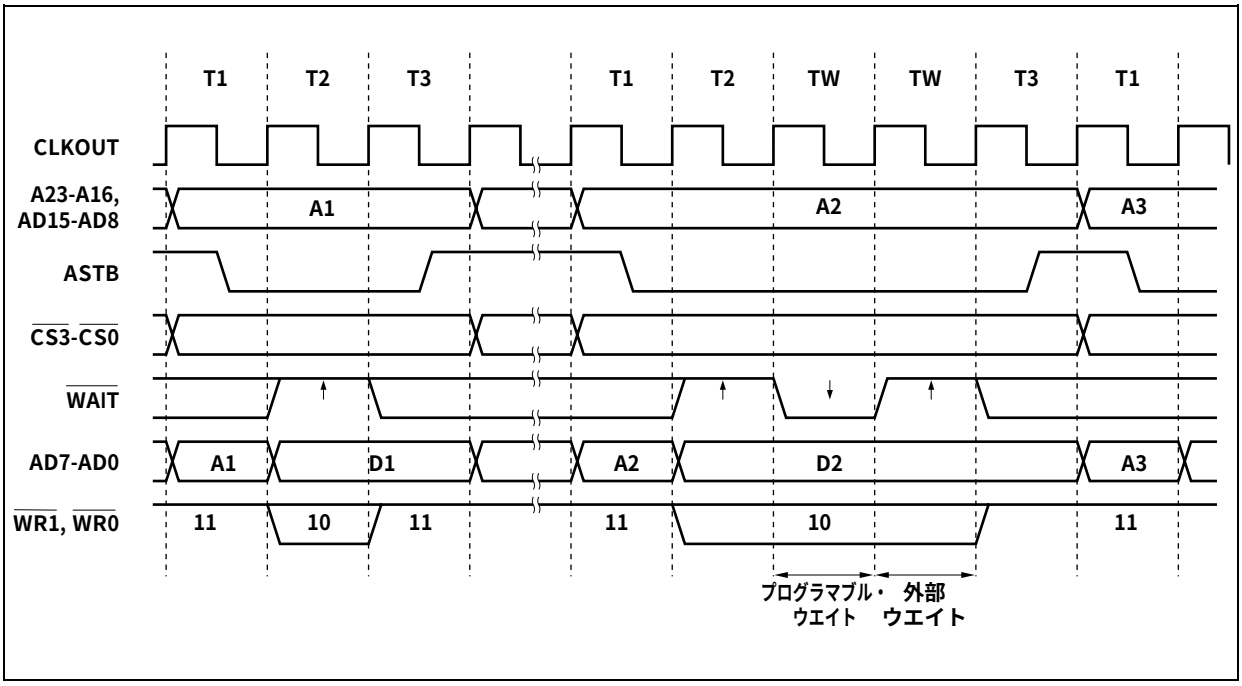
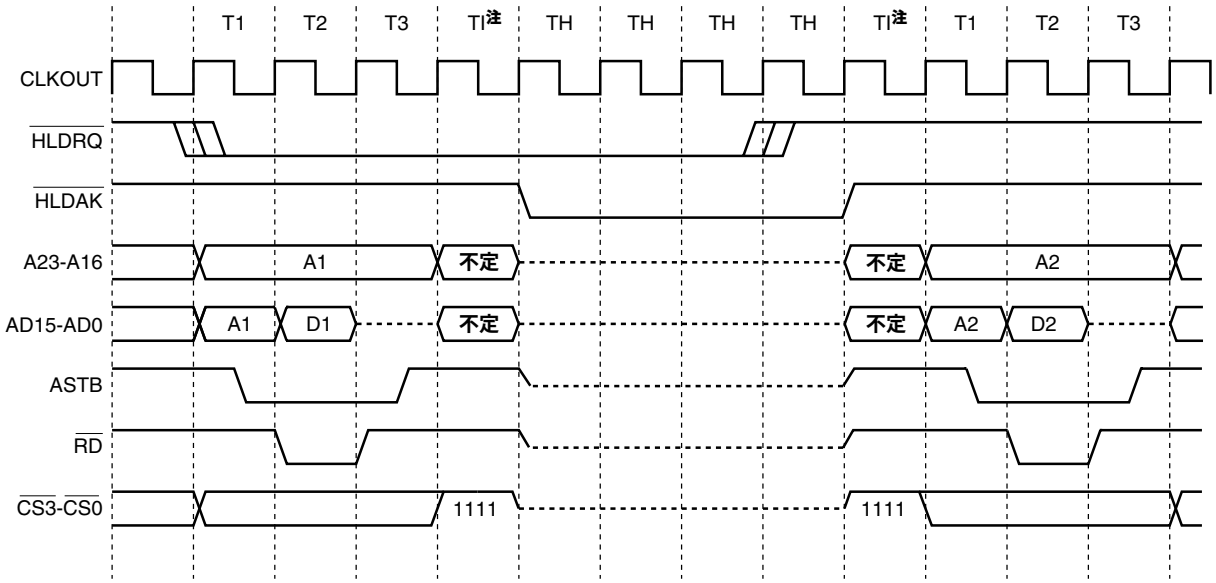


図5－8　マルチプレクス・バス・ホールド・タイミング（バス・サイズ：16ビット，16ビット・アクセス時）

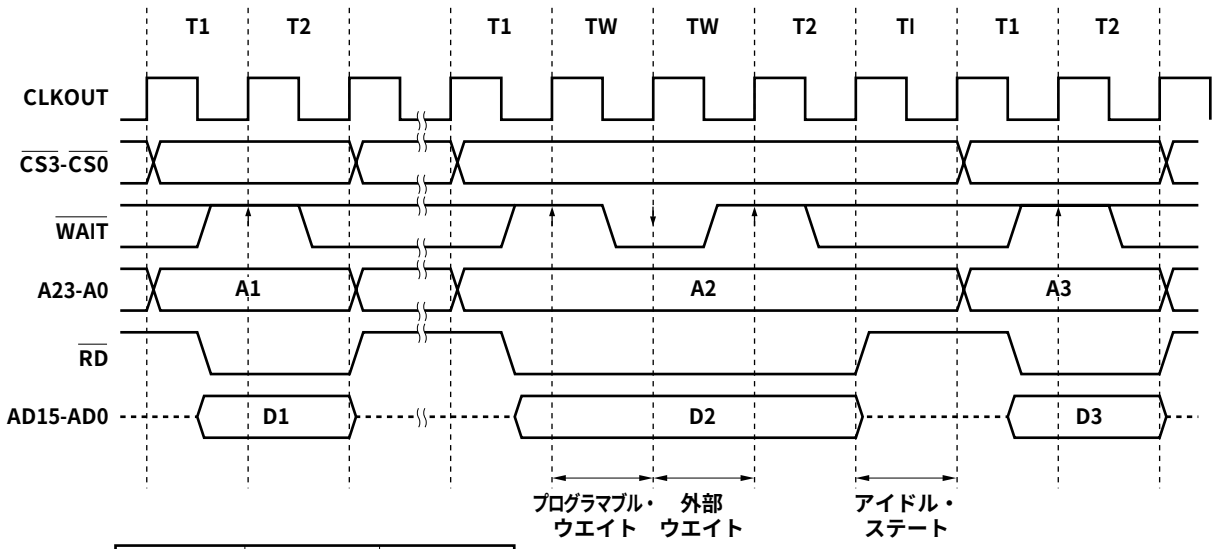


注　BCCレジスタの設定に依存しないアイドル・ステート（TI）です。

備考1.　バス・ホールド時の各端子の状態については表2－2を参照してください。

2.　破線はハイ・インピーダンスを示します。

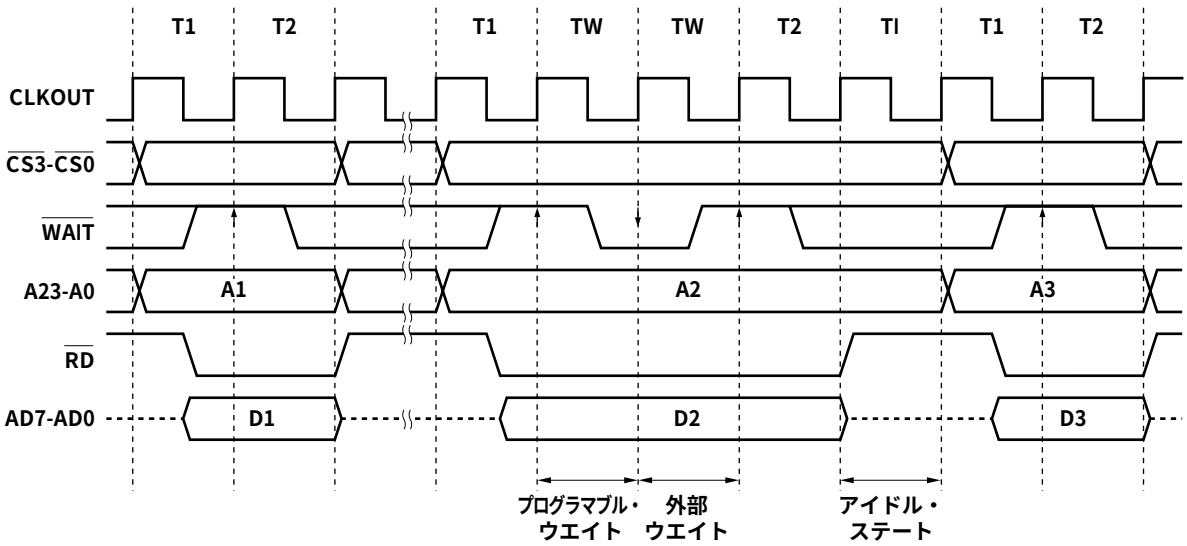
図5－9　セパレート・バス・リード・タイミング（バス・サイズ：16ビット，16ビット・アクセス時）



8ビット・アクセス時	奇数番地	偶数番地
AD15-AD8	アクティブ	Hi-Z
AD7-AD0	Hi-Z	アクティブ

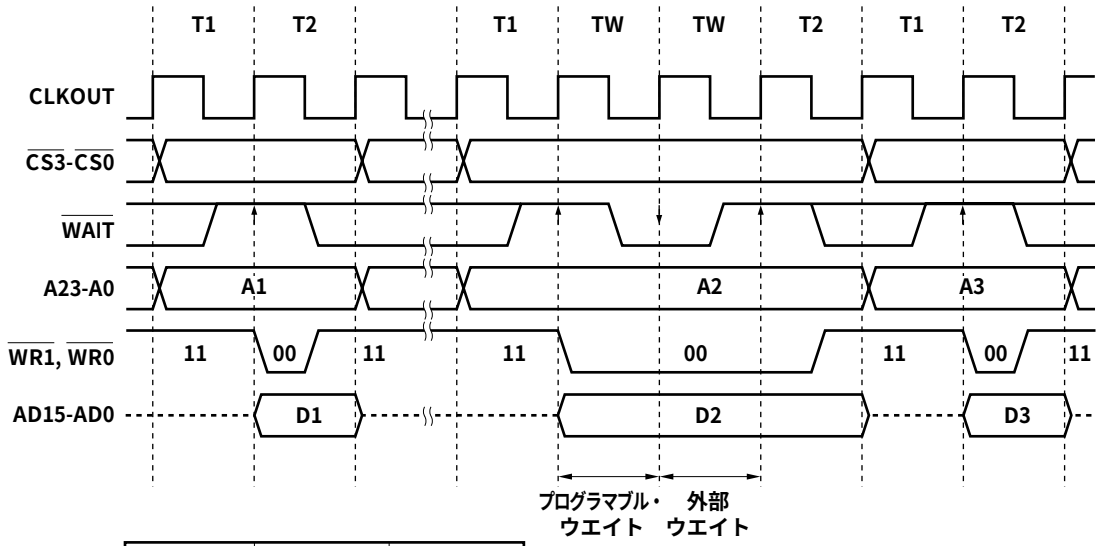
備考　破線はハイ・インピーダンスを示します。

図5－10　セパレート・バス・リード・タイミング（バス・サイズ：8ビット）



備考　破線はハイ・インピーダンスを示します。

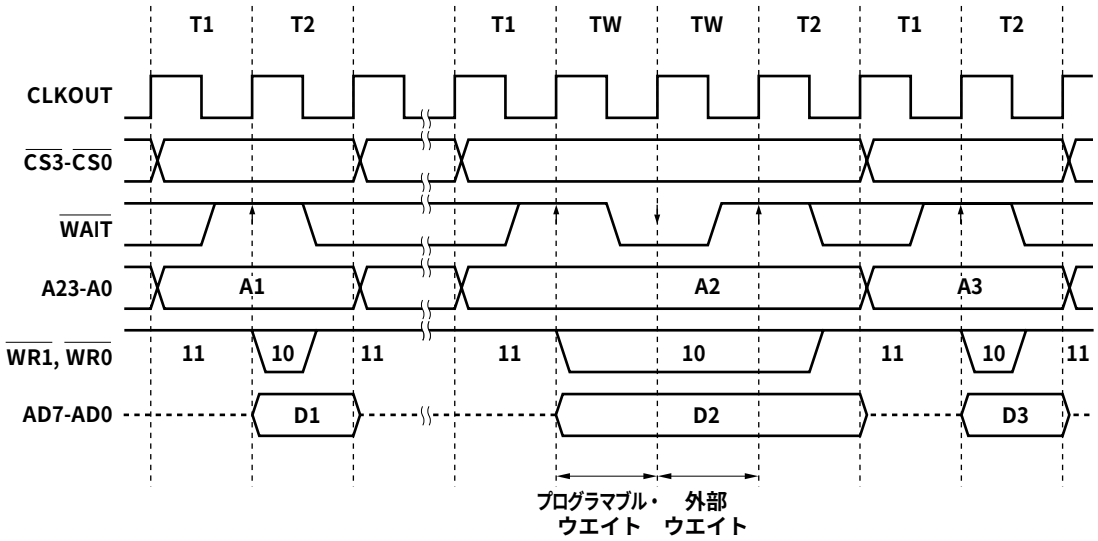
図5－11　セパレート・バス・ライト・タイミング（バス・サイズ：16ビット，16ビット・アクセス時）



8ビット・アクセス時	奇数番地	偶数番地
AD15-AD8	アクティブ	不定
AD7-AD0	不定	アクティブ
WR1, WR0	01	10

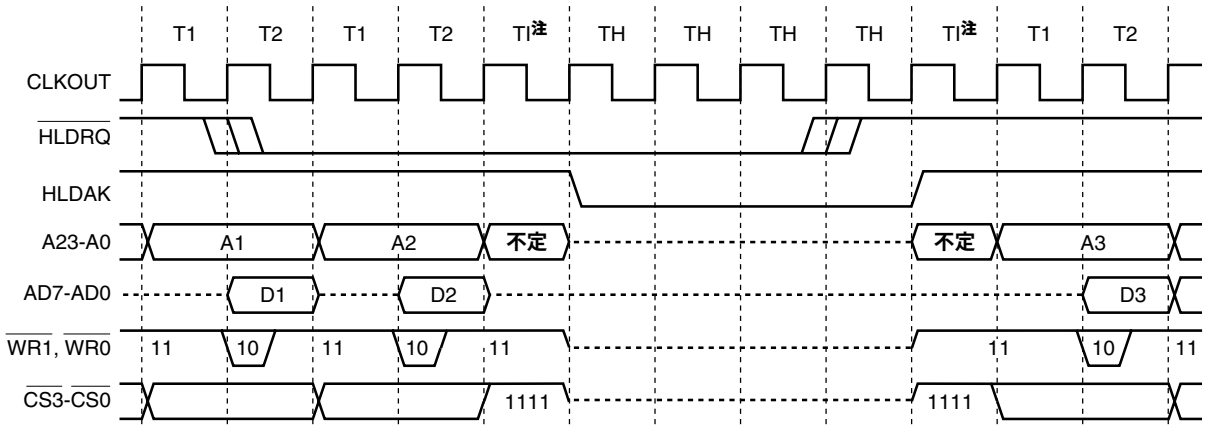
備考　破線はハイ・インピーダンスを示します。

図5－12　セパレート・バス・ライト・タイミング（バス・サイズ：8ビット）



備考　破線はハイ・インピーダンスを示します。

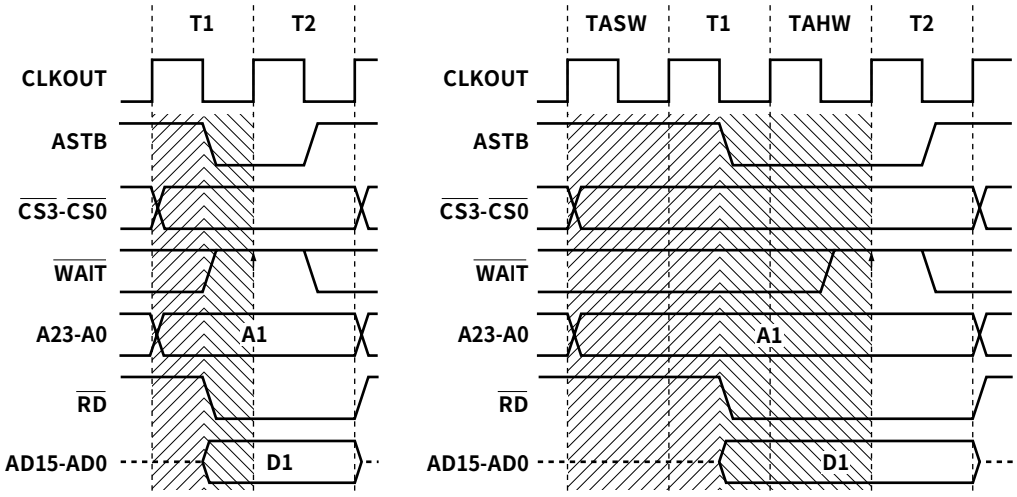
図5－13 セパレート・バス・ホールド・タイミング（バス・サイズ：8ビット，ライト時）



注 BCCレジスタの設定に依存しないアイドル・ステート（TI）です。

備考 破線はハイ・インピーダンスを示します。

図5－14 アドレス・ウエイト・タイミング
（セパレート・バス・リード，バス・サイズ：16ビット，16ビット・アクセス時）



備考1. TASW（アドレス・セットアップ・ウエイト時）：
T1ステートのハイ・レベル幅が伸びたイメージ
2. TAHW（アドレス・ホールド・ウエイト時）：
T1ステートのロウ・レベル幅が伸びたイメージ
3. 破線はハイ・インピーダンスを示します。

第6章　クロック発生機能

6. 1　概　　要

クロック発生機能の概要を次に示します。

○メイン・クロック発振回路

・クロック・スルー・モード時

f_X = 2.5～10 MHz（f_{XX} = 2.5～10 MHz）

・PLLモード時

f_X = 2.5～5 MHz（4逓倍：f_{XX} = 10～20 MHz）

f_X = 2.5～4 MHz（8逓倍：f_{XX} = 20～32 MHz）

○サブクロック発振回路

・f_{XT} = 32.768 kHz

○PLL（Phase Locked Loop）による逓倍機能（4逓倍/8逓倍）

・クロック・スルー・モード/PLLモード選択可

○内蔵発振器

・f_R = 220 kHz（TYP.）

○内部システム・クロックの生成

・7段階（f_{XX}, f_{XX}/2, f_{XX}/4, f_{XX}/8, f_{XX}/16, f_{XX}/32, f_{XT}）

○周辺クロックの生成

○クロック出力機能

備考　f_X ：メイン・クロック発振周波数

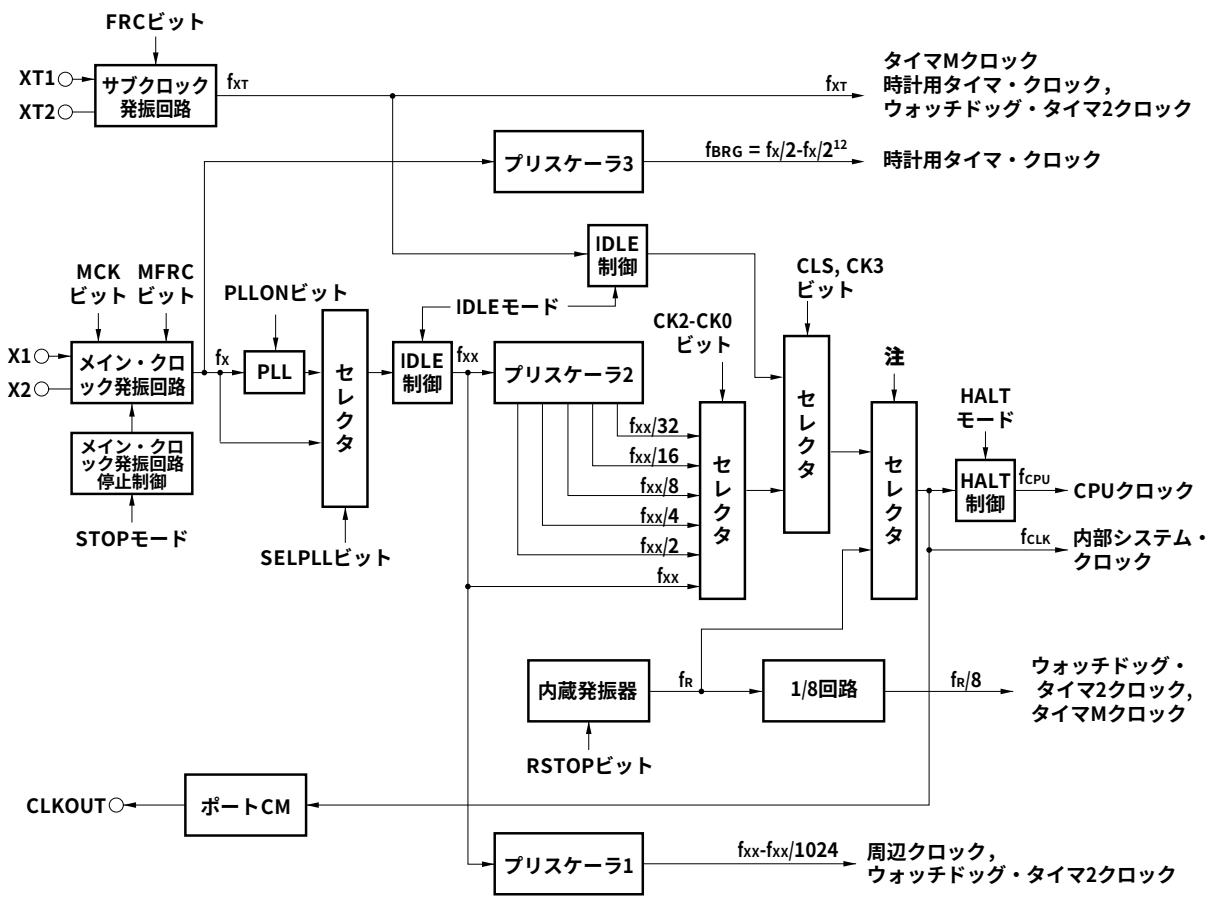
f_{XX}：メイン・クロック周波数

f_{XT}：サブクロック周波数

f_R ：内蔵発振クロック周波数

6. 2 構　　成

図6－1　クロック発生回路



注　発振安定期間中にウォッチドッグ・タイマ2がオーバフローした場合，内蔵発振クロックが選択されます。

備考　f_X　：メイン・クロック発振周波数

f_{XX}　：メイン・クロック周波数

f_{CLK}　：内部システム・クロック周波数

f_{XT}　：サブクロック周波数

f_{CPU}　：CPUクロック周波数

f_{BRG}　：時計タイマ・クロック周波数

f_R　：内蔵発振クロック周波数

(1) メイン・クロック発振回路

次の周波数（f_X）を発振します。

・クロック・スルー・モード時

f_X = 2.5～10 MHz

・PLLモード時

f_X = 2.5～5 MHz（4逓倍）

f_X = 2.5～4 MHz（8逓倍）

(2) サブクロック発振回路

32.768 kHzの周波数（f_{XT}）を発振します。

(3) メイン・クロック発振回路停止制御

メイン・クロック発振回路の発振を停止する制御信号を生成します。

STOPモード時，あるいはPCC.MCKビット = 1（PCC.CLSビット = 1のときだけ有効）のとき，メイン・クロック発振回路の発振を停止します。

(4) 内蔵発振器

220 kHz（TYP.）の周波数（f_R）を発振します。

(5) プリスケーラ1

内蔵周辺機能に供給するクロック（f_{XX}-f_{XX}/1024）を生成します。

クロック供給の対象となるブロックを次に示します。

TMP0-TMP8, TMQ0, TMM0, CSIB0-CSIB5, UARTA0-UARTA3, I^2C00-I^2C02, ADC, WDT2

(6) プリスケーラ2

メイン・クロック（f_{XX}）を分周する回路です。

CPUクロック（f_{CPU}），内部システム・クロック（f_{CLK}）を生成するセレクタに，プリスケーラ2で生成したクロック（f_{XX}-f_{XX}/32）を供給します。

なお，f_{CLK}は，INTC, ROM, RAMブロックに供給するクロックで，CLKOUT端子から出力できます。

(7) プリスケーラ3

メイン・クロック発振回路で生成するクロック（f_X）を所定の周波数（32.768 kHz）まで分周する回路で，時計用タイマ・ブロックに供給します。

詳細は，第10章　時計タイマ機能を参照してください。

(8) PLL

メイン・クロック発振回路で生成するクロック（f_X）を4逓倍または8逓倍します。

PLLCTL.SELPLLビットにより，f_Xをそのまま出力するクロック・スルー・モードと，逓倍クロックを出力するPLLモードを選択します。

また，CKC.CKDIV0ビットにより4逓倍または8逓倍を選択し，PLLCTL.PLLONビットによりPLLを動作，停止します。

6. 3　レジスタ

(1) プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ（PCC）

PCCレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスの組み合わせによってだけ書き込みができます（3. 4. 7　特定レジスタ参照）。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより03Hになります。

リセット時：03H　R/W　アドレス：FFFFF828H

	7	⑥	5	④	③	2	1	0
PCC	FRC	MCK	MFRC	CLS注	CK3	CK2	CK1	CK0

FRC	サブクロックの内蔵帰還抵抗の選択
0	使用する
1	使用しない

MCK	メイン・クロック発振回路の制御
0	発振許可
1	発振停止
・CPUクロックがメイン・クロックで動作中にMCKビットをセット（1）しても，メイン・クロックの動作は停止しません。CPUクロックをサブクロックに変更したあと，停止します。 ・MCKビットを0から1にセットする前に，メイン・クロックで動作している内蔵周辺機能を停止してください。 ・メイン・クロックを停止させてサブクロックで動作している場合に，再度CPUクロックをメイン・クロックに切り替えるとき，または内蔵周辺機能を動作させたいときは，MCKビットをクリア（0）し，ソフトウエアで発振安定時間を確保したあとにCPUクロックを切り替え，または内蔵周辺機能を動作させてください。	

MFRC	メイン・クロックの内蔵帰還抵抗の選択
0	使用する
1	使用しない

CLS注	CPUクロック（f_{CPU}）の状態
0	メイン・クロック動作
1	サブクロック動作

CK3	CK2	CK1	CK0	クロックの選択（f_{CLK}/f_{CPU}）
0	0	0	0	f_{XX}
0	0	0	1	$f_{XX}/2$
0	0	1	0	$f_{XX}/4$
0	0	1	1	$f_{XX}/8$
0	1	0	0	$f_{XX}/16$
0	1	0	1	$f_{XX}/32$
0	1	1	X	設定禁止
1	X	X	X	f_{XT}

注　CLSビットはリードのみ可能です。

注意1.　CLKOUTを出力している間は，CPUクロック（CK3-CK0ビット）を変更しないでください。

2.　CK3ビットを操作する際は，ビット操作命令で行ってください。8ビット操作命令で行う場合は，CK2-CK0ビットの設定値を変更しないでください。

備考　X：任意

(a) メイン・クロック動作→サブクロック動作の設定例

① CK3ビット ← 1　：ビット操作命令推奨。CK2-CK0ビットは変更しないでください。

② サブクロック動作　：CLSビットをリードしてサブクロック動作に切り替わったかどうかを確認してください。CK3ビットを設定したあと，サブクロック動作に切り替わるまでの時間は次のとおりです。

最大：1/f_{XT}（1/サブクロック周波数）

③ MCKビット ← 1　：メイン・クロックを停止するときだけ，MCKビットを1に設定します。

注意1. メイン・クロックを停止する場合は，PLLを停止してください。また，メイン・クロックで動作している内蔵周辺機能を動作停止にしてください。

2. 次の条件を満たしていない場合は，条件を満たすようにCK2-CK0ビットを変更後，サブクロック動作モードに移行してください。

内部システム・クロック（f_{CLK}）＞サブクロック（f_{XT}：32.768 kHz）×4

備考　内部システム・クロック（f_{CLK}）：CK2-CK0ビットの設定によってメイン・クロック（f_{XX}）から生成するクロック

[記述例]

```
  _DMA_DISABLE :
  clr1        0, DCHCn[r0]          -- DMA動作禁止 n = 0-3
① _SET_SUB_RUN :
   st.b       r0, PRCMD[r0]
   set1       3, PCC[r0]            -- CK3ビット ← 1
② _CHECK_CLS :
   tst1       4, PCC[r0]            -- サブクロック動作に切り替わるまでウエイト
   bz         _CHECK_CLS
③ _STOP_MAIN_CLOCK :
   st.b       r0, PRCMD[r0]
   set1       6, PCC[r0]            -- MCKビット ← 1，メイン・クロック停止
  _DMA_ENABLE :
   set1       0, DCHCn[r0]          -- DMA動作許可 n=0-3
```

備考　この記述例はあくまでも一例です。特に，②において閉ループでCLSビットをリードしていますので，注意してください。

(b) サブクロック動作→メイン・クロック動作の設定例

① MCKビット ← 0　　：メイン・クロック発振開始

② プログラムによりウエイトを挿入して，メイン・クロックの発振安定時間が経過するまで待ちます。

③ CK3ビット ← 0　　：ビット操作命令を推奨します。CK2-CK0ビットは変更しないでください。

④ メイン・クロック動作　：CK3ビットを設定したあと，メイン・クロック動作に切り替わるまでの時間は次のとおりです。

最大：1/f_{XT}（1/サブクロック周波数）

したがって，CK3ビットを0とした直後にNOP命令を1つ挿入するか，またはCLSビットをリードしてメイン・クロック動作に切り替わったかどうかを確認してください。

注意　メイン・クロックで動作する内蔵周辺機能は，メイン・クロックの発振が安定してから動作を許可してください。発振安定時間が経過する前に動作許可すると，誤動作する可能性があります。

[記述例]

```
  _DMA_DISABLE :
  clr1        0, DCHCn[r0]          -- DMA動作禁止 n = 0-3
① _START_MAIN_OSC :
   st.b       r0, PRCMD[r0]         -- 特定レジスタ，プロテクション解除
   clr1       6, PCC[r0]            -- メイン・クロック発振開始
② movea       0x55, r0, r11         -- 発振安定時間待ち
   _WAIT_OST :
   nop
   nop
   nop
   addi       -1, r11, r11
   cmp        r0, r11
   bne                _WAIT_OST
③ st.b        r0, PRCMD[r0]
   clr1       3, PCC[r0]            -- CK3 ← 0
④ _CHECK_CLS :
   tst1       4, PCC[r0]            -- メイン・クロック動作に切り替わるまでウエイト
   bnz        _CHECK_CLS
   _DMA_ENABLE :
   set1       0, DCHCn[r0]          -- DMA動作許可 n = 0-3
```

備考　この記述例はあくまでも一例です。特に，④において閉ループでCLSビットをリードしていますので，注意してください。

(2) 内蔵発振モード・レジスタ（RCM）

RCMレジスタは内蔵発振器の動作モードの設定を行う8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF80CH

	7	6	5	4	3	2	1	⓪
RCM	0	0	0	0	0	0	0	RSTOP

RSTOP	内蔵発振器の発振／停止
0	内蔵発振器発振
1	内蔵発振器停止

注意1. CPUが内蔵発振クロックで動作している間（CCLS.CCLSFビット = 1）は内蔵発振器を停止できません。RSTOPビットをセット（1）しないでください。

2. RSTOPビットがセット（1）されている場合でも，CCLS.CCLSFビットがセット（1）されると（発振安定時間中にWDTオーバフローが発生），内蔵発振器は発振します。このときRSTOPビットはセット（1）されたままです。

(3) CPU動作クロック・ステータス・レジスタ（CCLS）

CCLSレジスタは，CPU動作クロックの状態を示すレジスタです。

8/1ビット単位でリードのみ可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H注　R　アドレス：FFFFF82EH

	7	6	5	4	3	2	1	0
CCLS	0	0	0	0	0	0	0	CCLSF

CCLSF	CPU動作クロックの状態
0	メイン・クロック（f_X）またはサブクロック（f_{XT}）で動作
1	内蔵発振クロック（f_R）で動作

注　リセット解除後の発振安定時間中にWDTオーバフローが発生した場合，CCLSFビットがセット（1）され，リセット値は01Hになります。

6.4 動　　作

6.4.1 各クロックの動作

各クロックの動作状態を次の表に示します。

表6－1　各クロックの動作状態

レジスタ設定および動作状態 ＼ 対象クロック	PCCレジスタ								
	CLSビット = 0, MCKビット = 0					CLSビット = 1, MCKビット = 0		CLSビット = 1, MCKビット = 1	
	リセット中	発振安定時間カウント中	HALTモード	IDLE1, IDLE2モード	STOPモード	サブクロック・モード	サブIDLEモード	サブクロック・モード	サブIDLEモード
メイン・クロック発振回路（f_X）	×	○	○	○	×	○	○	×	×
サブクロック発振回路（f_{XT}）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CPUクロック(f_{CPU})	×	×	×	×	×	○	×	○	×
内部システム・クロック（f_{CLK}）	×	×	○	×	×	○	×	○	×
メイン・クロック（PLLモード時，f_{XX}）	×	○注	○	×	×	○	○	×	×
周辺クロック（f_{XX}-f_{XX}/1024）	×	×	○	×	×	○	×	×	×
WTクロック（メイン）	×	○	○	○	×	○	○	×	×
WTクロック（サブ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
WDT2クロック（内蔵発振）	×	○	○	○	○	○	○	○	○
WDT2クロック（メイン）	×	×	○	×	×	○	×	×	×
WDT2クロック（サブ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注　ロックアップ時間

備考　○：動作可能
　　×：停止

6.4.2 クロック出力機能

クロック出力機能は，内部システム・クロック（f_{CLK}）をCLKOUT端子から出力します。

内部システム・クロック（f_{CLK}）は，PCC.CK3-CK0ビットで選択します。

CLKOUT端子はPCM1端子と兼用しており，ポートCMの制御レジスタを操作することにより，クロック出力端子として機能します。

CLKOUT端子の状態は表6－1の内部システム・クロックと同じ状態になり，○（動作可能）のときにクロックを出力できます。また，×（停止）のときにはロウ・レベルを出力します。ただし，リセット後，CLKOUT端子の出力設定をするまでは，ポート・モード（PCM1端子：入力モード）となるので，端子の状態はHi-Zになります。

6. 5　PLL機能

6. 5. 1　概　　要

V850ES/JJ3では，CPUおよび内蔵周辺機能の動作クロックとしてPLL機能による発振周波数の4逓倍／8逓倍出力とクロック・スルー・モードを選択できます。

PLL機能使用時（4逓倍）　：入力クロック = 2.5～5 MHz（出力10～20 MHz）
PLL機能使用時（8逓倍）　：入力クロック = 2.5～4 MHz（出力20～32 MHz）
クロック・スルー・モード ：入力クロック = 2.5～10 MHz（出力2.5～10 MHz）

6. 5. 2　レジスタ

（1）PLLコントロール・レジスタ（PLLCTL）

PLLを制御する8ビット・レジスタです。
8/1ビット単位でリード／ライト可能です。
リセットにより01Hになります。

リセット時：01H　R/W　アドレス：FFFFF82CH

	7	6	5	4	3	2	①	⓪
PLLCTL	0	0	0	0	0	0	SELPLL	PLLON

PLLON	PLL動作停止レジスタ
0	PLL停止
1	PLL動作（PLLを動作開始後，周波数が安定するまで所定のロックアップ時間が必要）

SELPLL	CPU動作クロック選択レジスタ
0	クロック・スルー・モード
1	PLLモード

注意1. PLLONビット = 0に設定すると，自動的にSELPLLビット = 0（クロック・スルー・モード）になります。
2. SELPLLビット = 1の設定は，PLLクロック周波数が安定した状態のときのみ可能です。安定していないとき（アンロック中）にSELPLLビットをライトすると“0”がライトされます。

(2) クロック・コントロール・レジスタ（CKC）

CKCレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスの組み合わせによってだけ書き込みができます（3.4. 7　特定レジスタ参照）

CKCレジスタは，PLLモード時の内部システム・クロックを制御するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0AHになります。

リセット時：0AH　R/W　アドレス：FFFFF822H

	7	6	5	4	3	2	1	0
CKC	0	0	0	0	1	0	1	CKDIV0

CKDIV0	PLLモード時の内部システム・クロック（f_{XX}）
0	$f_{XX} = 4 \times f_X$（f_X = 2.5～5.0 MHz）
1	$f_{XX} = 8 \times f_X$（f_X = 2.5～4.0 MHz）

注意1. f_X = 5.0～10.0 MHzではPLLモードは使用できません。

2. CKCレジスタで4逓倍／8逓倍を切り替える場合は，クロック・スルー・モードに設定し，PLLを停止してから逓倍率を変更してください。

3. ビット3, 1には必ず1を設定し，ビット7-4, 2には必ず0を設定してください。

備考　CKCレジスタでの分周は，CPUクロックと周辺クロックの両方が対象となりますが，PCCレジスタでの分周は，CPUクロックのみ対象になります。

(3) ロック・レジスタ（LOCKR）

電源投入後，またはSTOPモード解除直後から所定の周波数でフェーズ・ロックし，安定するまでの時間がロックアップ時間（周波数安定時間）です。この安定するまでの状態をロックアップ状態と呼び，安定した状態をロック状態と呼びます。

LOCKRレジスタには，PLL周波数の安定状態を反映するLOCKビットがあります。

8/1ビット単位でリードのみ可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R　アドレス：FFFFF824H

	7	6	5	4	3	2	1	⓪
LOCKR	0	0	0	0	0	0	0	LOCK

LOCK	PLLのロック状態の確認
0	ロック状態
1	アンロック（ロックしていない）状態

注意　LOCKビットはPLLのロック状態をリアルタイムに反映するものではありません。セット／クリア条件は次のとおりです。

【セット条件】

- システム・リセット時[注]
- IDLE2, STOPモード時
- PLL停止を設定した時（PLLCTL.PLLONビットに“0”を設定）
- CPUをサブクロック動作としメイン・クロックを停止したとき（PCC.CK3ビットに“1”を設定し，PCC.MCKビットに“1”を設定）

注　リセットで01Hになり，リセット解除後の発振安定時間経過後に00Hになります。

【クリア条件】

- リセット解除後の発振安定用タイマのオーバフロー（OSTSレジスタの初期値の時間（21. 2（3）発振安定時間選択レジスタ（OSTS）参照））
- PLL動作状態でSTOPモードを設定した場合の，STOPモード解除後の発振安定用タイマのオーバフロー（OSTSレジスタで時間設定）
- PLLCTL.PLLONビットを0→1に設定した時の，PLLロックアップ時間タイマのオーバフロー（PLLSレジスタで時間設定）
- PLL動作状態でIDLE2モードを設定した場合の，IDLE2モード解除時に挿入されるセットアップ時間解除後（OSTSレジスタで時間設定）

(4) PLLロックアップ時間指定レジスタ（PLLS）

PLLSレジスタは，PLLCTL.PLLONビットを0→1に設定したときの，PLLロックアップ時間を選択する8ビット・レジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより03Hになります。

リセット時：03H　R/W　アドレス：FFFFF6C1H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PLLS	0	0	0	0	0	0	PLLS1	PLLS0

PLLS1	PLLS0	PLLロックアップ時間の選択
0	0	$2^{10}/f_X$
0	1	$2^{11}f_X$
1	0	$2^{12}/f_X$
1	1	$2^{13}/f_X$（初期値）

注意1. **ロックアップ時間は，**800 μs**以上になるように設定してください。**

2. **ロックアップ期間中は，**PLLS**レジスタの設定を変更しないでください。**

6. 5. 3　使用方法

(1) PLLを使用する場合

- リセット解除後は，PLLは動作（PLLCTL.PLLONビット = 1）していますが，初期設定はクロック・スルー・モード（PLLCTL.SELPLLビット = 0）のため，PLLモード（SELPLLビット = 1）に変更してください。
- PLLを動作させる場合はPLLONビット = 1として，LOCKR.LOCKビット = 0となってからSELPLLビット = 1としてください。PLLを停止させる場合は，最初にクロック・スルー・モード（SELPLLビット = 0）として，8クロック以上後に，PLL停止（PLLONビット = 0）としてください。
- IDLE2/STOPモードへ遷移時は，設定にかかわらずPLLは停止しますが，IDLE2/STOPモードからは遷移前の状態で復帰します。復帰にかかる時間は次のとおりです。

(a) クロック・スルー・モード時にIDLE2/STOPモードへ遷移する場合

- STOPモード：発振安定時間が1 ms（MIN.）以上となるようにOSTSレジスタを設定してください。
- IDLE2モード：セットアップ時間が350 μs（MIN.）以上となるようにOSTSレジスタを設定してください。

(b) PLL動作モードのままIDLE2/STOPモードへ遷移する場合

- STOPモード：発振安定時間が1 ms（MIN.）以上となるようにOSTSレジスタを設定してください。
- IDLE2モード：セットアップ時間が800 μs（MIN.）以上となるようにOSTSレジスタを設定してください。

IDLE1モードへ遷移時は，PLLは停止しません。必要に応じて停止してください。

(2) PLLを使用しない場合

- リセット解除後は，クロック・スルー・モード（SELPLLビット = 0）ですが，PLLは動作（PLLONビット = 1）しているので，PLLを停止（PLLONビット = 0）してください。

第7章　16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP）

タイマP（TMP）は，16ビットのタイマ／イベント・カウンタです。

V850ES/JJ3は，TMP0-TMP8を内蔵しています。

7. 1　概　　要

TMPnの概要を次に示します。

- クロック選択　：8通り
- キャプチャ・トリガ入力端子　：2本
- 外部イベント・カウント入力端子　：1本
- 外部トリガ入力端子　：1本
- タイマ・カウンタ　：1本
- キャプチャ／コンペア・レジスタ　：2本
- キャプチャ／コンペア一致割り込み要求信号　：2本
- タイマ出力端子　：2本

備考　n = 0-8

7. 2　機　　能

TMPnの機能を次に示します。

- インターバル・タイマ
- 外部イベント・カウンタ
- 外部トリガ・パルス出力
- ワンショット・パルス出力
- PWM出力
- フリー・ランニング・タイマ
- パルス幅測定

備考　n = 0-8

7. 3　構　　成

TMPnは，次のハードウエアで構成されています。

表7ー1　TMPn**の構成**

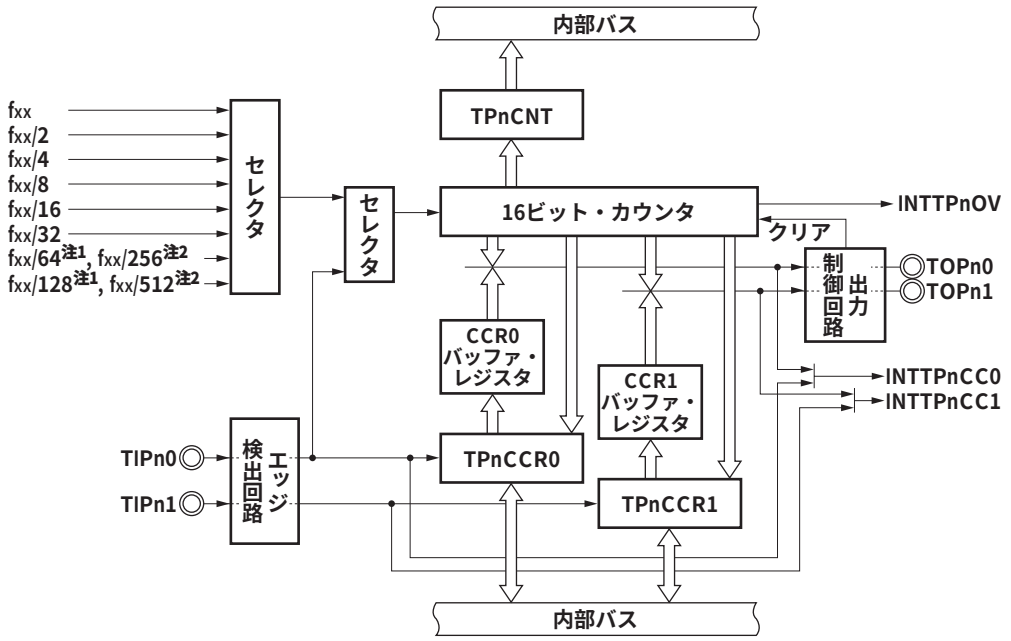
項　　目	構　　成
タイマ・レジスタ	16ビット・カウンタ
レジスタ	TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ0, 1（TPnCCR0, TPnCCR1） TMPnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TPnCNT） CCR0, CCR1バッファ・レジスタ
タイマ入力	2本（TIPn0[注1], TIPn1端子）
タイマ出力	2本（TOPn0, TOPn1端子）
制御レジスタ[注2]	TMPn制御レジスタ0, 1（TPnCTL0, TPnCTL1） TMPnI/O制御レジスタ0-2（TPnIOC0-TPnIOC2） TMPnオプション・レジスタ0（TPnOPT0）

注1.　TIPn0端子には，キャプチャ・トリガ入力信号，外部イベント・カウント入力信号，外部トリガ入力信号が兼用されています。

2.　TIPn0, TIPn1, TOPn0, TOPn1端子の機能を使用する場合は，**表**4ー19　**ポート端子を兼用端子として使用する場合**を参照してください。

備考　n = 0-8

図7ー1　TMPn**のブロック図**



注1.　TMP0, TMP2, TMP4, TMP6, TMP8

2.　TMP1, TMP3, TMP5, TMP7

備考　fxx：メイン・クロック周波数

(1) 16ビット・カウンタ

内部クロックまたは外部イベントをカウントできる16ビットのカウンタです。

16ビット・カウンタのカウント値は，TPnCNTレジスタでリードできます。

TPnCTL0.TPnCEビット = 0のとき，16ビット・カウンタはFFFFHになります。このときTPnCNTレジスタをリードすると，0000Hがリードされます。

リセットによりTPnCEビット = 0になるため，16ビット・カウンタはFFFFHになります。

(2) CCR0バッファ・レジスタ

16ビット・カウンタのカウント値を比較する16ビットのコンペア・レジスタです。

TPnCCR0レジスタをコンペア・レジスタとして使用するとき，TPnCCR0レジスタにライトした値がCCR0バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致すると，コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC0）を発生します。

CCR0バッファ・レジスタは，直接リード／ライトできません。

リセットによりTPnCCR0レジスタが0000Hになるため，CCR0バッファ・レジスタも0000Hになります。

(3) CCR1バッファ・レジスタ

16ビット・カウンタのカウント値を比較する16ビットのコンペア・レジスタです。

TPnCCR1レジスタをコンペア・レジスタとして使用するとき，TPnCCR1レジスタにライトした値がCCR1バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR1バッファ・レジスタの値が一致すると，コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC1）を発生します。

CCR1バッファ・レジスタは，直接リード／ライトできません。

リセットによりTPnCCR1レジスタが0000Hになるため，CCR1バッファ・レジスタも0000Hになります。

(4) エッジ検出回路

TIPn0, TIPn1端子に入力される有効エッジを検出します。有効エッジは，TPnIOC1, TPnIOC2レジスタにより，エッジ検出なし，立ち上がり，立ち下がり，立ち上がり／立ち下がり両エッジから選択できます。

(5) 出力制御回路

TOPn0, TOPn1端子の出力を制御します。TOPn0, TOPn1端子の出力は，TPnIOC0レジスタで制御します。

(6) セレクタ

16ビット・カウンタのカウント・クロックを選択します。カウント・クロックとして，8種類の内部クロックまたは外部イベントから選択できます。

7. 4　レジスタ

TMPnを制御するレジスタを次に示します。

- TMPn制御レジスタ0（TPnCTL0）
- TMPn制御レジスタ1（TPnCTL1）
- TMPnI/O制御レジスタ0（TPnIOC0）
- TMPnI/O制御レジスタ1（TPnIOC1）
- TMPnI/O制御レジスタ2（TPnIOC2）
- TMPnオプション・レジスタ0（TPnOPT0）
- TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ0（TPnCCR0）
- TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ1（TPnCCR1）
- TMPnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TPnCNT）

備考1.　TIPn0, TIPn1, TOPn0, TOPn1端子の機能を使用する場合は，表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合を参照してください。

2.　n = 0-8

（1）TMPn制御レジスタ0（TPnCTL0）

TPnCTL0レジスタは，TMPnの動作を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

TPnCTL0レジスタは，常時ソフトウエアでの同値書き込みができます。

リセット時：00H　R/W　アドレス：TP0CTL0 FFFFF590H, TP1CTL0 FFFFF5A0H,
TP2CTL0 FFFFF5B0H, TP3CTL0 FFFFF5C0H,
TP4CTL0 FFFFF5D0H, TP5CTL0 FFFFF5E0H,
TP6CTL0 FFFFF5F0H, TP7CTL0 FFFFF600H,
TP8CTL0 FFFFF610H

	⑦	6	5	4	3	2	1	0
TPnCTL0 （n = 0-8）	TPnCE	0	0	0	0	TPnCKS2	TPnCKS1	TPnCKS0

TPnCE	TMPnの動作の制御
0	TMPn動作禁止（TMPnを非同期にリセット注）
1	TMPn動作許可。TMPn動作開始

TPnCKS2	TPnCKS1	TPnCKS0	内部カウント・クロックの選択	
			n = 0, 2, 4, 6, 8	n = 1, 3, 5, 7
0	0	0	f_{XX}	
0	0	1	$f_{XX}/2$	
0	1	0	$f_{XX}/4$	
0	1	1	$f_{XX}/8$	
1	0	0	$f_{XX}/16$	
1	0	1	$f_{XX}/32$	
1	1	0	$f_{XX}/64$	$f_{XX}/256$
1	1	1	$f_{XX}/128$	$f_{XX}/512$

注　TPnOPT0.TPnOVFビット，16ビット・カウンタ，タイマ出力（TOPn0, TOPn1端子）。

注意1.　TPnCKS2-TPnCKS0ビットは，TPnCEビット = 0のときに設定してください。TPnCEビットを“0”から“1”に設定するときに，同時にTPnCKS2-TPnCKS0ビットを設定できます。

2.　ビット3-6には必ず“0”を設定してください。

備考　f_{XX}：メイン・クロック周波数

（2）TMPn制御レジスタ1（TPnCTL1）

TPnCTL1レジスタは，TMPnの動作を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：TP0CTL1 FFFFF591H, TP1CTL1 FFFFF5A1H,
TP2CTL1 FFFFF5B1H, TP3CTL1 FFFFF5C1H,
TP4CTL1 FFFFF5D1H, TP5CTL1 FFFFF5E1H,
TP6CTL1 FFFFF5F1H, TP7CTL1 FFFFF601H,
TP8CTL1 FFFFF611H

	7	⑥	⑤	4	3	2	1	0
TPnCTL1 (n = 0-8)	0	TPnEST	TPnEEE	0	0	TPnMD2	TPnMD1	TPnMD0

TPnEST	ソフトウエア・トリガ制御
0	－
1	外部トリガ入力への有効な信号を作成 ・ワンショット・パルス出力モード時：TPnESTビットへの”1”ライトをトリガとして，ワンショット・パルスを出力 ・外部トリガ・パルス出力モード時：TPnESTビットへの”1”ライトをトリガとして，PWM波形を出力

TPnEEE	カウント・クロックの選択
0	外部イベント・カウント入力での動作禁止 （TPnCTL0.TPnCK0-TPnCK2ビットによって選択されたカウント・クロックでカウント動作を行う）
1	外部イベント・カウント入力での動作許可 （外部イベント・カウント入力信号の有効エッジごとにカウント動作を行う）
TPnEEEビットは，内部カウント・クロックか，または外部イベント・カウント入力の有効エッジでカウント動作を行うかを選択するためのビットです。	

TPnMD2	TPnMD1	TPnMD0	タイマ・モードの選択
0	0	0	インターバル・タイマ・モード
0	0	1	外部イベント・カウント・モード
0	1	0	外部トリガ・パルス出力モード
0	1	1	ワンショット・パルス出力モード
1	0	0	PWM出力モード
1	0	1	フリー・ランニング・タイマ・モード
1	1	0	パルス幅測定モード
1	1	1	設定禁止

注意1. TPnEST**ビットは，外部トリガ・パルス出力モードまたはワンショット・パルス出力モード時のみ有効です。それ以外のモードでは，“**1**”をライトしても無視されます。**

2. **外部イベント・カウント・モードのときは，**TPnEEE**ビットの値にかかわらず外部イベント・カウント入力が選択されます。**

3. TPnEEE, TPnMD2-TPnMD0**ビットは，**TPnCTL0.TPnCE**ビット** = 0**のときに設定してください（**TPnCE**ビット** = 1**のときの同値書き込みは可能）。**TPnCE**ビット** = 1**のときに書き換えた場合，動作を保証できません。誤って書き換えた場合は，**TPnCE**ビットをクリア（**0**）してから再設定してください。**

4. **ビット**3, 4, 7**には必ず“**0**”を設定してください。**

（3）TMPnI/O制御レジスタ0（TPnIOC0）

TPnIOC0レジスタは，タイマ出力（TOPn0, TOPn1端子）を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：TP0IOC0 FFFFF592H, TP1IOC0 FFFFF5A2H,
TP2IOC0 FFFFF5B2H, TP3IOC0 FFFFF5C2H,
TP4IOC0 FFFFF5D2H, TP5IOC0 FFFFF5E2H,
TP6IOC0 FFFFF5F2H, TP7IOC0 FFFFF602H,
TP8IOC0 FFFFF612H

	7	6	5	4	3	②	1	⓪
TPnIOC0	0	0	0	0	TPnOL1	TPnOE1	TPnOL0	TPnOE0

（n = 0-8）

TPnOL1	TOPn1端子出力レベルの設定注
0	TOPn1端子ハイ・レベル・スタート
1	TOPn1端子ロウ・レベル・スタート

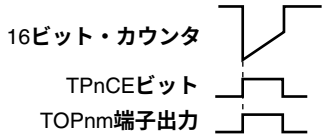
TPnOE1	TOPn1端子出力の設定
0	タイマ出力禁止 ・TPnOL1ビット = 0のときTOPn1端子からロウ・レベルを出力 ・TPnOL1ビット = 1のときTOPn1端子からハイ・レベルを出力
1	タイマ出力許可（TOPn1端子から方形波を出力）

TPnOL0	TOPn0端子出力レベルの設定注
0	TOPn0端子ハイ・レベル・スタート
1	TOPn0端子ロウ・レベル・スタート

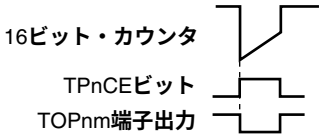
TPnOE0	TOPn0端子出力の設定
0	タイマ出力禁止 ・TPnOL0ビット = 0のときTOPn0端子からロウ・レベルを出力 ・TPnOL0ビット = 1のときTOPn0端子からハイ・レベルを出力
1	タイマ出力許可（TOPn0端子から方形波を出力）

注　TPnOLmビットの指定によるタイマ出力端子（TOPnm）の出力レベルを次に示します（m = 0, 1）。

・TPnOLmビット = 0の場合



・TPnOLmビット = 1の場合



注意1.　TPnOL1, TPnOE1, TPnOL0, TPnOE0ビットは，TPnCTL0.TPnCEビット = 0のときに書き換えてください（TPnCEビット = 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TPnCEビットをクリア（0）してから再設定してください。

2.　TPnCEビット = 0, TPnOEmビット = 0の状態において，TPnOLmビットを操作した場合でも，TOPnm端子の出力レベルは変化します（m = 0, 1）。

（4）TMPnI/O制御レジスタ1（TPnIOC1）

TPnIOC1レジスタは，キャプチャ・トリガ入力信号（TIPn0，TIPn1端子）に対する有効エッジを制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：TP0IOC1 FFFFF593H, TP1IOC1 FFFFF5A3H,
TP2IOC1 FFFFF5B3H, TP3IOC1 FFFFF5C3H,
TP4IOC1 FFFFF5D3H, TP5IOC1 FFFFF5E3H,
TP6IOC1 FFFFF5F3H, TP7IOC1 FFFFF603H,
TP8IOC1 FFFFF613H

	7	6	5	4	3	2	1	0
TPnIOC1	0	0	0	0	TPnIS3	TPnIS2	TPnIS1	TPnIS0

（n = 0-8）

TPnIS3	TPnIS2	キャプチャ・トリガ入力信号（TIPn1端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（キャプチャ動作無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TPnIS1	TPnIS0	キャプチャ・トリガ入力信号（TIPn0端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（キャプチャ動作無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

注意1. TPnIS3-TPnIS0ビットは，TPnCTL0.TPnCEビット = 0のときに書き換えてください（TPnCEビット = 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TPnCEビットをクリア（0）してから再設定してください。

2. TPnIS3-TPnIS0ビットは，フリー・ランニング・タイマ・モードと，パルス幅測定モードのときのみ有効です。それ以外のモードではキャプチャ動作は行われません。

(5) TMPnI/O**制御レジスタ**2**（**TPnIOC2**）**

TPnIOC2**レジスタは，外部イベント・カウント入力信号（**TIPn0**端子），外部トリガ入力信号（**TIPn0**端子）に対する有効エッジを制御する**8**ビット・レジスタです。**

8/1**ビット単位でリード／ライト可能です。**

リセットにより00H**になります。**

リセット時：00H　R/W　アドレス：TP0IOC2 FFFFF594H, TP1IOC2 FFFFF5A4H,
TP2IOC2 FFFFF5B4H, TP3IOC2 FFFFF5C4H,
TP4IOC2 FFFFF5D4H, TP5IOC2 FFFFF5E4H,
TP6IOC2 FFFFF5F4H, TP7IOC2 FFFFF604H,
TP8IOC2 FFFFF614H

	7	6	5	4	3	2	1	0
TPnIOC2 (n = 0-8)	0	0	0	0	TPnEES1	TPnEES0	TPnETS1	TPnETS0

TPnEES1	TPnEES0	外部イベント・カウント入力信号（TIPn0端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（外部イベント・カウント無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TPnETS1	TPnETS0	外部トリガ入力信号（TIPn0端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（外部トリガ無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

注意1.　TPnEES1, TPnEES0, TPnETS1, TPnETS0**ビットは，**TPnCTL0.TPnCE**ビット** = 0**のときに書き換えてください（**TPnCE**ビット** = 1**のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，**TPnCE**ビットをクリア（**0**）してから再設定してください。**

2.　TPnEES1, TPnEES0**ビットは，**TPnCTL1.TPnEEE**ビット** = 1**，または外部イベント・カウント・モード（**TPnCTL1.TPnMD2-TPnMD0**ビット** = 001**）に設定したときのみ有効です。**

3.　TPnETS1, TPnETS0**ビットは，外部トリガ・パルス出力モード（**TPnCTL1.TPnMD2-TPnMD0**ビット** = 010**），ワンショット・パルス出力モード（**TPnCTL1.TPnMD2-TPnMD0 = 011**）に設定したときのみ有効です。**

(6) TMPnオプション・レジスタ0（TPnOPT0）

TPnOPT0レジスタは，キャプチャ／コンペア動作の設定，オーバフローの検出をする8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：TP0OPT0 FFFFF595H, TP1OPT0 FFFFF5A5H,
TP2OPT0 FFFFF5B5H, TP3OPT0 FFFFF5C5H,
TP4OPT0 FFFFF5D5H, TP5OPT0 FFFFF5E5H,
TP6OPT0 FFFFF5F5H, TP7OPT0 FFFFF605H,
TP8OPT0 FFFFF615H

	7	6	5	4	3	2	1	⓪
TPnOPT0	0	0	TPnCCS1	TPnCCS0	0	0	0	TPnOVF

(n = 0-8)

TPnCCS1	TPnCCR1レジスタのキャプチャ／コンペア選択
0	コンペア・レジスタに選択
1	キャプチャ・レジスタに選択
TPnCCS1ビットの設定はフリー・ランニング・タイマ・モードのときのみ有効になります。	

TPnCCS0	TPnCCR0レジスタのキャプチャ／コンペア選択
0	コンペア・レジスタに選択
1	キャプチャ・レジスタに選択
TPnCCS0ビットの設定はフリー・ランニング・タイマ・モードのときのみ有効になります。	

TPnOVF	TMPnのオーバフロー検出フラグ
セット（1）	オーバフロー発生
リセット（0）	TPnOVFビットへの0ライトまたはTPnCTL0.TPnCEビット = 0

- TPnOVFビットは，フリー・ランニング・タイマ・モードおよびパルス幅測定モード時に，16ビット・カウンタのカウント値がFFFFHから0000Hにオーバフローするときセット（1）されます。
- TPnOVFビットがセット（1）されると同時に，割り込み要求信号（INTTPnOV）が発生します。フリー・ランニング・タイマ・モードおよびパルス幅測定モード以外では，INTTPnOV信号は発生しません。
- TPnOVFビット = 1のときにTPnOVFビットまたはTPnOPT0レジスタをリードしても，TPnOVFビットはクリアされません。
- TPnOVFビットはリード／ライト可能ですが，ソフトウエアでTPnOVFビットをセット（1）することはできません。“1”をライトしてもTMPnの動作に影響はありません。

注意1. TPnCCS1, TPnCCS0ビットは，TPnCEビット = 0のときに書き換えてください（TPnCEビット = 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TPnCEビットをクリア（0）してから再設定してください。

2. ビット1-3, 6, 7には必ず“0”を設定してください。

（7）TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ0（TPnCCR0）

TPnCCR0レジスタは，各モードによりキャプチャ機能とコンペア機能を切り替えて使用できるレジスタです。

TPnCCR0レジスタは，フリー・ランニング・タイマ・モードの場合のみ，TPnOPT0.TPnCCS0ビットの設定により，キャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタに設定できます。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・レジスタとしてのみ使用します。これら以外のモードでは，コンペア・レジスタとしてのみ使用します。

TPnCCR0レジスタは，動作中のリード／ライトを許可します。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意　次に示す状態において，TPnCCR0レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：0000H　R/W　アドレス：TP0CCR0 FFFFF596H, TP1CCR0 FFFFF5A6H,
TP2CCR0 FFFFF5B6H, TP3CCR0 FFFFF5C6H,
TP4CCR0 FFFFF5D6H, TP5CCR0 FFFFF5E6H,
TP6CCR0 FFFFF5F6H, TP7CCR0 FFFFF606H,
TP8CCR0 FFFFF616H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TPnCCR0																

（n = 0-8）

(a) コンペア・レジスタとしての機能

TPnCCR0レジスタは，TPnCTL0.TPnCEビット = 1のときでも書き換えできます。

TPnCCR0レジスタの設定値はCCR0バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致することでコンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC0）を発生し，TOPn0端子出力を許可している場合，TOPn0端子出力を反転します。

インターバル・タイマ・モード，外部イベント・カウント・モード，外部トリガ・パルス出力モード，ワンショット・パルス出力モード，PWM出力モードにおいて，TPnCCR0レジスタを周期レジスタとして使用する場合は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致することで16ビット・カウンタをクリア（0000H）します。

(b) キャプチャ・レジスタとしての機能

フリー・ランニング・タイマ・モードにおいて，TPnCCR0レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用する場合，キャプチャ・トリガ入力（TIPn0端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTPnCCR0レジスタに格納します。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・トリガ入力（TIPn0端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTPnCCR0レジスタに格納し，16ビット・カウンタをクリア（0000H）します。

キャプチャ動作とTPnCCR0レジスタのリードが競合しても，TPnCCR0レジスタは正しい値をリードできます。

各動作モードと，対応するキャプチャ／コンペア・レジスタの機能，およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

表7－2　各動作モードとキャプチャ／コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法

動作モード	キャプチャ／コンペア・レジスタ	コンペア・レジスタ書き込み方法
インターバル・タイマ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部イベント・カウンタ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部トリガ・パルス出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
ワンショット・パルス出力	コンペア・レジスタ	随時書き込み
PWM出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
フリー・ランニング・タイマ	キャプチャ／コンペア・レジスタ	随時書き込み
パルス幅測定	キャプチャ・レジスタ	－

（8）TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ1（TPnCCR1）

TPnCCR1レジスタは，各モードによりキャプチャ機能とコンペア機能を切り替えて使用できるレジスタです。

TPnCCR1レジスタは，フリー・ランニング・タイマ・モードの場合のみ，TPnOPT0.TPnCCS1ビットの設定により，キャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタに設定できます。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・レジスタとしてのみ使用します。これら以外のモードでは，コンペア・レジスタとしてのみ使用します。

TPnCCR1レジスタは，動作中のリード／ライトを許可します。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意　次に示す状態において，TPnCCR1レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：0000H　R/W　アドレス：TP0CCR1 FFFFF598H, TP1CCR1 FFFFF5A8H,
TP2CCR1 FFFFF5B8H, TP3CCR1 FFFFF5C8H,
TP4CCR1 FFFFF5D8H, TP5CCR1 FFFFF5E8H,
TP6CCR1 FFFFF5F8H, TP7CCR1 FFFFF608H,
TP8CCR1 FFFFF618H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TPnCCR1 (n = 0-8)																

(a) コンペア・レジスタとしての機能

TPnCCR1レジスタは，TPnCTL0.TPnCEビット = 1のときでも書き換えできます。

TPnCCR1レジスタの設定値はCCR1バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR1バッファ・レジスタの値が一致することでコンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC1）を発生し，TOPn1端子出力を許可している場合，TOPn1端子出力を反転します。

(b) キャプチャ・レジスタとしての機能

フリー・ランニング・タイマ・モードにおいて，TPnCCR1レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用する場合，キャプチャ・トリガ入力（TIPn1端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTPnCCR1レジスタに格納します。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・トリガ入力（TIPn1端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTPnCCR1レジスタに格納し，16ビット・カウンタをクリア（0000H）します。

キャプチャ動作とTPnCCR1レジスタのリードが競合しても，TPnCCR1レジスタは正しい値をリードできます。

各動作モードと，対応するキャプチャ／コンペア・レジスタの機能，およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

表7－3　各動作モードとキャプチャ／コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法

動作モード	キャプチャ／コンペア・レジスタ	コンペア・レジスタ書き込み方法
インターバル・タイマ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部イベント・カウンタ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部トリガ・パルス出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
ワンショット・パルス出力	コンペア・レジスタ	随時書き込み
PWM出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
フリー・ランニング・タイマ	キャプチャ／コンペア・レジスタ	随時書き込み
パルス幅測定	キャプチャ・レジスタ	－

(9) TMPnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TPnCNT）

TPnCNTレジスタは，16ビットのカウント値をリードできるリード・バッファ・レジスタです。

TPnCTL0.TPnCEビット = 1のときにTPnCNTレジスタをリードすると，16ビット・カウンタのカウント値をリードできます。

16ビット単位でリードのみ可能です。

TPnCEビット = 0のとき，TPnCNTレジスタは0000Hになります。このときにTPnCNTレジスタをリードすると，16ビット・カウンタの値（FFFFH）をリードせず，そのまま0000Hをリードします。

リセットによりTPnCEビット = 0になるため，TPnCNTレジスタは0000Hになります。

注意　次に示す状態において，TPnCNTレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：0000H　R　アドレス：TP0CNT FFFFF59AH, TP1CNT FFFFF5AAH, TP2CNT FFFFF5BAH, TP3CNT FFFFF5CAH, TP4CNT FFFFF5DAH, TP5CNT FFFFF5EAH, TP6CNT FFFFF5FAH, TP7CNT FFFFF60AH, TP8CNT FFFFF61AH

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TPnCNT (n = 0-8)																

7.5 動　　作

TMPnには次のような動作があります。

動　作	TPnCTL1.TPnESTビット（ソフトウエア・トリガ・ビット）	TIPn0端子（外部トリガ入力）	キャプチャ／コンペア・レジスタの設定	コンペア・レジスタの書き込み方法
インターバル・タイマ・モード	無効	無効	コンペア専用	随時書き込み
外部イベント・カウント・モード注1	無効	無効	コンペア専用	随時書き込み
外部トリガ・パルス出力モード注2	有効	有効	コンペア専用	一斉書き込み
ワンショット・パルス出力モード注2	有効	有効	コンペア専用	随時書き込み
PWM出力モード	無効	無効	コンペア専用	一斉書き込み
フリー・ランニング・タイマ・モード	無効	無効	切り替え可能	随時書き込み
パルス幅測定モード注2	無効	無効	キャプチャ専用	対象外

注1.　外部イベント・カウント・モードを使用する場合，TIPn0端子のキャプチャ・トリガ入力の有効エッジの設定を，エッジを検出しない（TPnIOC1.TPnIS1, TPnIS0ビットを“00”）に設定してください。

2.　外部トリガ・パルス出力モード，ワンショット・パルス出力モード，パルス幅測定モードを使用する場合，カウント・クロックは内部クロックを選択（TPnCTL1.TPnEEEビット = 0に設定）してください。

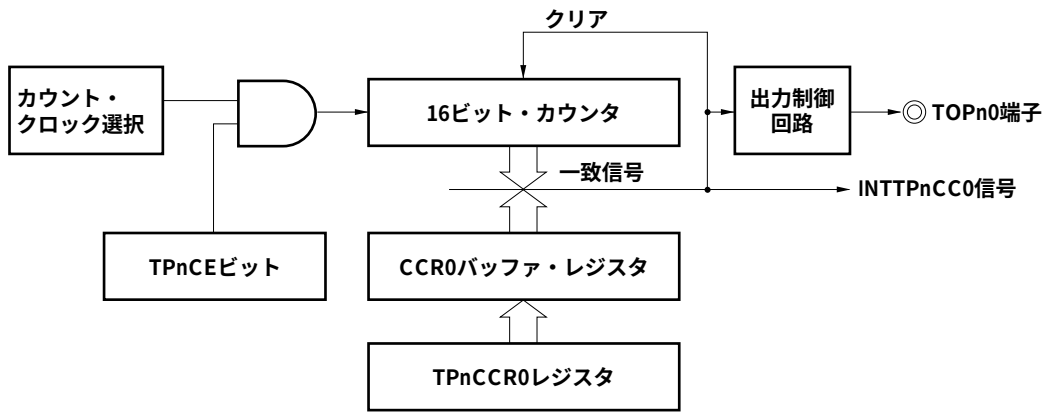
備考　n = 0-8

7. 5. 1　インターバル・タイマ・モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 000）

インターバル・タイマ・モードは，TPnCTL0.TPnCEビットをセット（1）することで，任意のインターバル間隔にて割り込み要求信号（INTTPnCC0）を発生します。また，TOPn0端子から，インターバル間隔を半周期とする方形波を出力できます。

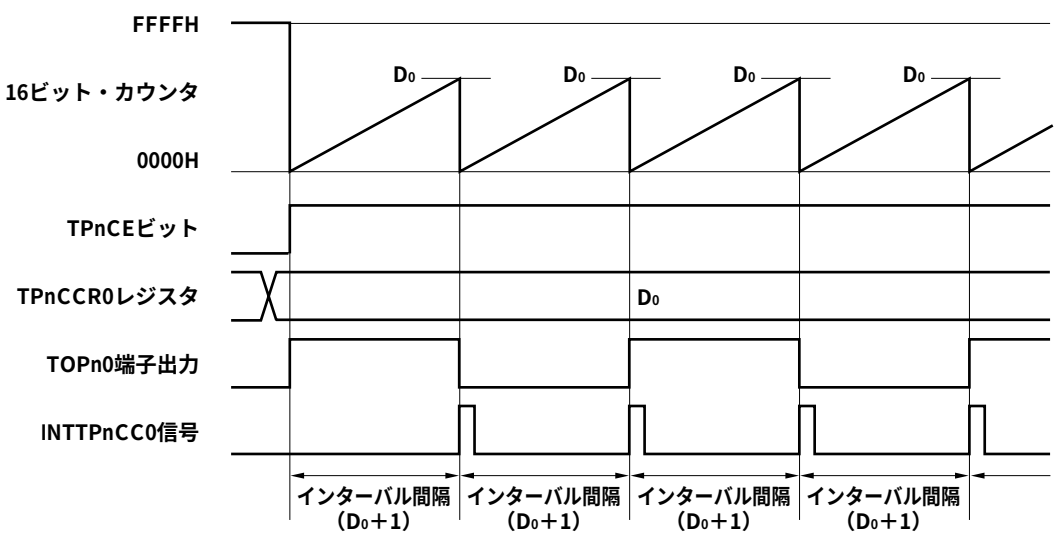
インターバル・タイマ・モードでは，通常，TPnCCR1レジスタを使用しません。

図7－2　インターバル・タイマの構成図



備考　n = 0-8

図7－3　インターバル・タイマ・モード動作の基本タイミング



備考　n = 0-8

TPnCEビットをセット（1）することで，カウント・クロックに同期して16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアし，カウント動作を開始します。このときTOPn0端子出力を反転します。また，TPnCCR0レジスタの設定値がCCR0バッファ・レジスタに転送されます。

16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致すると，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，TOPn0端子出力を反転させて，コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC0）を発生します。

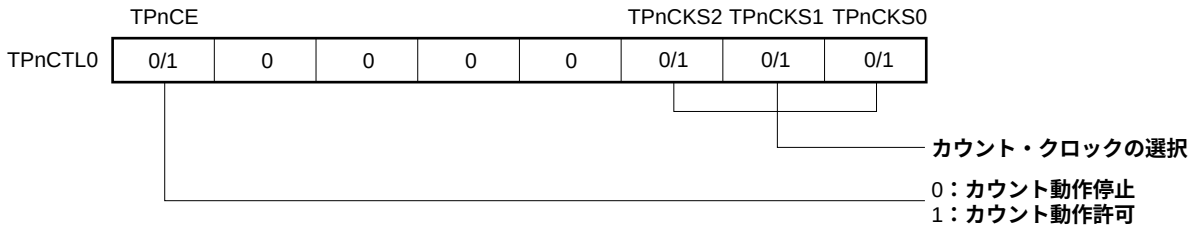
インターバル間隔は次のようになります。

インターバル間隔 ＝ （TPnCCR0レジスタ設定値＋1）×カウント・クロック周期

備考　n = 0-8

図7－4　インターバル・タイマ・モード動作時のレジスタ設定内容（1/2）

（a）TMPn制御レジスタ0（TPnCTL0）

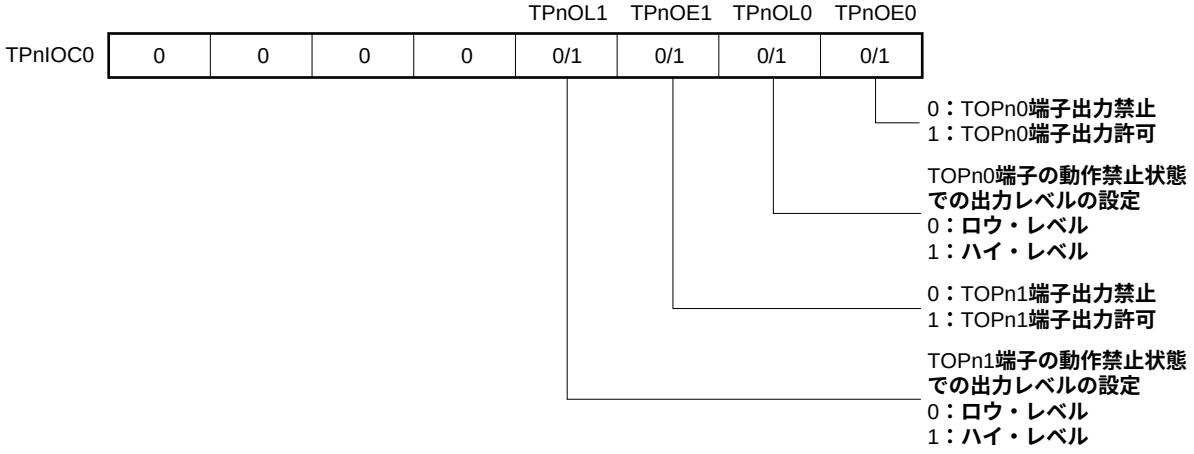


（b）TMPn制御レジスタ1（TPnCTL1）

注　割り込み要求信号（INTTPnCC0, INTTPnCC1）を割り込みマスク・フラグ（TPnCCMK0, TPnCCMK1）でマスク設定し，タイマ出力（TOPn1）する場合だけ，1に設定することを許可します。ただし，TPnCCR0, TPnCCR1レジスタの設定値は同値にしてください（7. 5. 1（2）（d）TPnCCR1レジスタの動作参照）。

図7－4　インターバル・タイマ・モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

（c）TMPnI/O制御レジスタ0（TPnIOC0）



（d）TMPnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TPnCNT）

TPnCNTレジスタをリードすることで，16ビット・カウンタのカウント値をリードできます。

（e）TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ0（TPnCCR0）

TPnCCR0レジスタにD_0を設定した場合，

インターバル間隔 ＝ （D_0＋1）×カウント・クロック周期

となります。

（f）TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ1（TPnCCR1）

インターバル・タイマ・モードでは，通常，TPnCCR1レジスタを使用しません。しかし，TPnCCR1レジスタの設定値はCCR1バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR1バッファ・レジスタの値が一致するとコンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC1）が発生します。

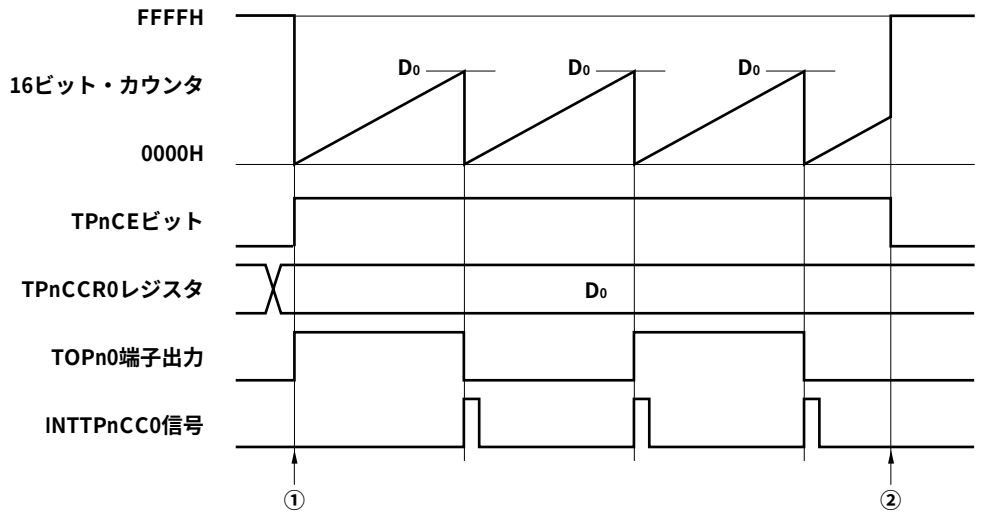
したがって，割り込みマスク・フラグ（TPnCCMK1）でマスク設定しておいてください。

備考1.　TMPnI/O制御レジスタ1（TPnIOC1），TMPnI/O制御レジスタ2（TPnIOC2），TMPnオプション・レジスタ0（TPnOPT0）は，インターバル・タイマ・モードでは使用しません。

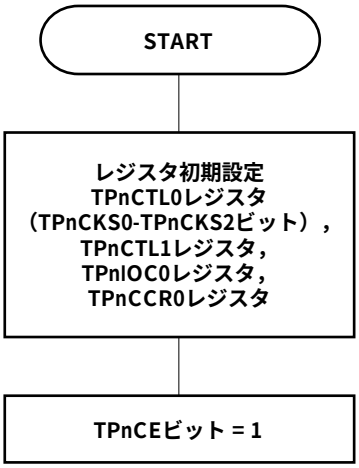
2.　n = 0-8

(1) インターバル・タイマ・モード動作フロー

図7－5　インターバル・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー



①　カウント動作開始フロー



TPnCEビット = 1にする前に，
これらのレジスタを初期設定。

カウント動作開始（TPnCEビット = 1）と同時に，
TPnCKS0-TPnCKS2ビットの設定は可能。

②　カウント動作停止フロー

カウント動作停止（TPnCEビット = 0）にすることで，
カウンタを初期化しカウント動作を停止。

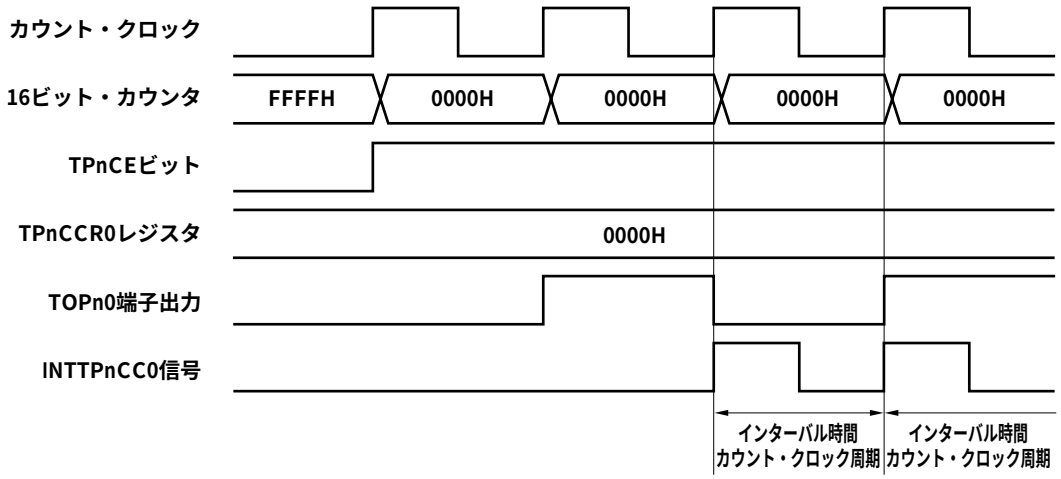
備考　n = 0-8

(2) インターバル・タイマ・モード動作タイミング

(a) TPnCCR0レジスタに0000Hを設定した場合の動作

TPnCCR0レジスタに0000Hを設定した場合，2クロック目以降のカウント・クロックごとにINTTPnCC0信号を発生し，TOPn0端子の出力を反転します。

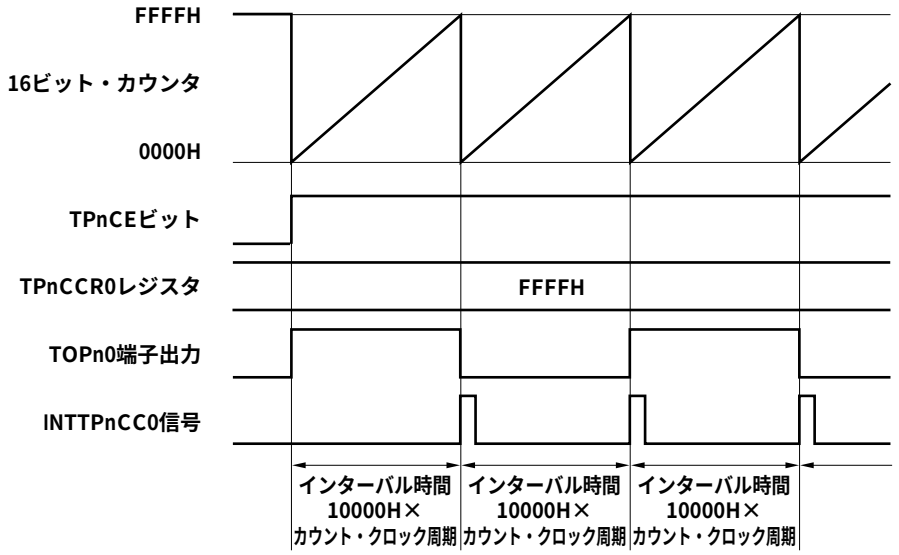
16ビット・カウンタは，常に0000Hとなります。



備考　n = 0-8

(b) TPnCCR0レジスタにFFFFHを設定した場合の動作

TPnCCR0レジスタにFFFFHを設定した場合，16ビット・カウンタはFFFFHまでカウント動作を行い，次のカウント・アップ・タイミングに同期して，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，INTTPnCC0信号を発生し，TOPn0端子の出力を反転します。このとき，オーバフロー割り込み要求信号（INTTPnOV）は発生せず，オーバフロー・フラグ（TPnOPT0.TPnOVFビット）もセット（1）されません。

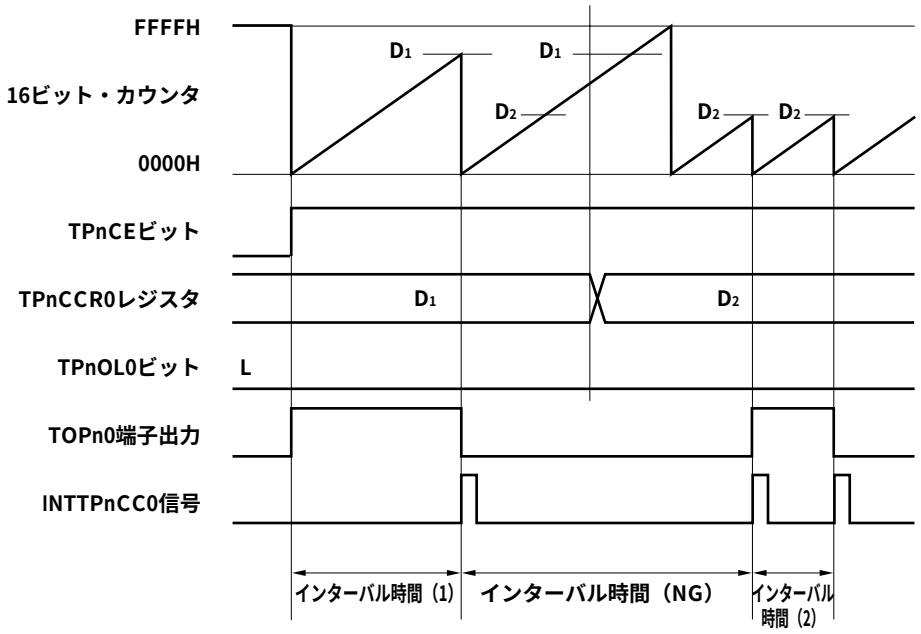


備考　n = 0-8

(c) TPnCCR0レジスタの書き換えに関する注意事項

TPnCCR0レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。

カウント動作中にTPnCCR0レジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。



備考1.　インターバル時間（1）　：（D_1＋1）×カウント・クロック周期

インターバル時間（NG）　：（10000H＋D_2＋1）×カウント・クロック周期

インターバル時間（2）　：（D_2＋1）×カウント・クロック周期

2.　n = 0-8

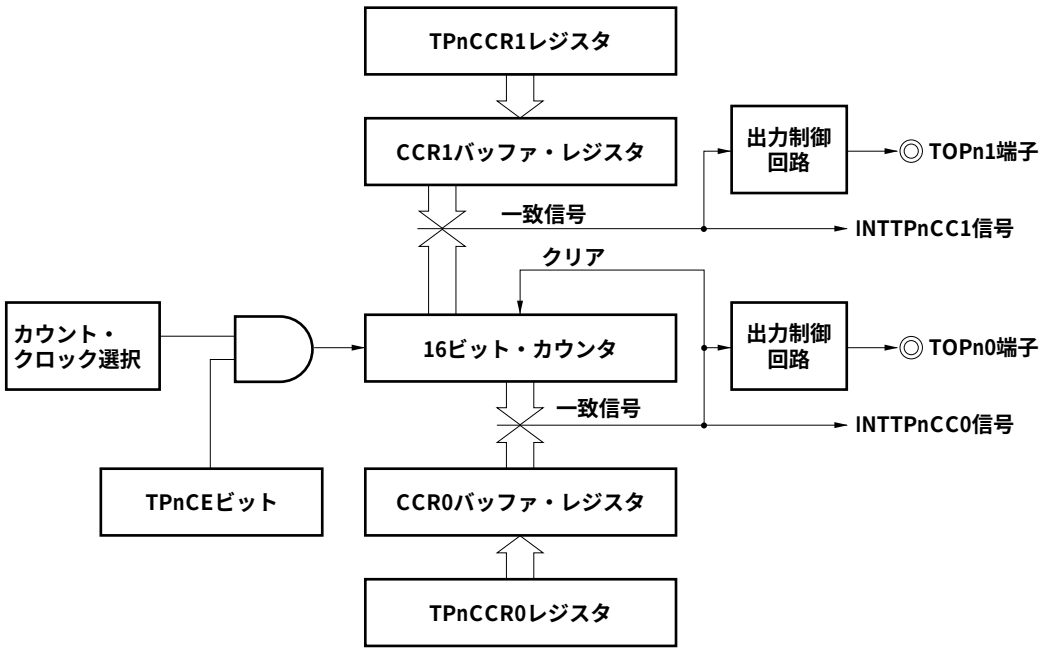
カウント値がD_2よりも大きくD_1よりも小さい状態において，TPnCCR0レジスタをD_1からD_2に書き換えると，書き換えたタイミングでCCR0バッファ・レジスタに転送されるため，16ビット・カウンタとのコンペア値がD_2となります。

しかし，カウント値はすでにD_2を越えているためにFFFFHまでカウントを行い，オーバフロー後，0000Hから再度カウント・アップを行います。そして，D_2との一致でINTTPnCC0信号を発生しTOPn0端子出力を反転します。

したがって，本来期待しているインターバル時間である「（D_1＋1）×カウント・クロック周期」または「（D_2＋1）×カウント・クロック周期」でINTTPnCC0信号は発生せずに，「（10000H＋D_2＋1）×カウント・クロック周期」の間隔でINTTPnCC0信号が発生する場合があります。

(d) TPnCCR1**レジスタの動作**

図7**ー**6　TPnCCR1**レジスタの構成図**

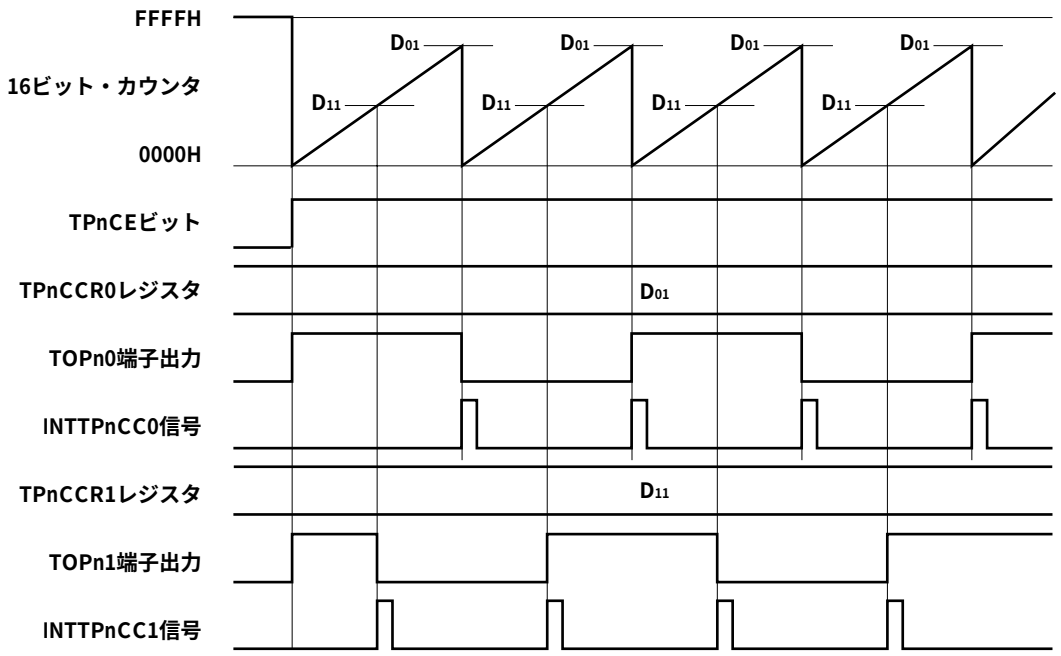


備考　n = 0-8

TPnCCR1レジスタの設定値がTPnCCR0レジスタの設定値よりも小さい場合には，1周期に1回のINTTPnCC1信号が発生します。また，同じタイミングでTOPn1端子出力は反転します。

TOPn1端子出力は，TOPn0端子出力と同じ周期の方形波を出力します。

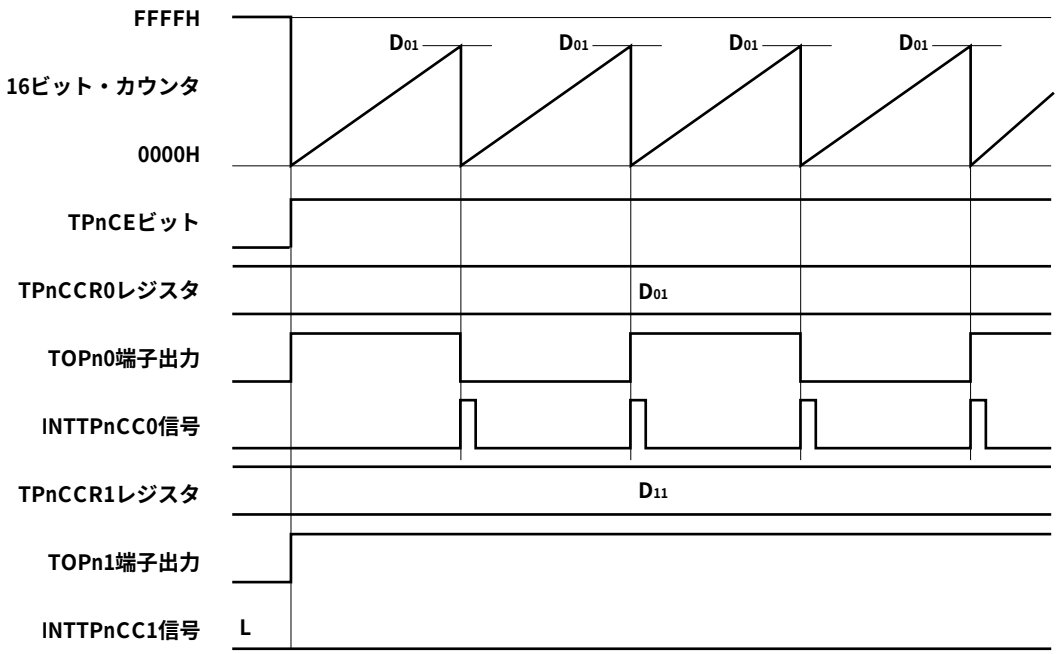
図7－7　$D_{01} \geqq D_{11}$の場合のタイミング図



備考　n = 0-8

TPnCCR1レジスタの設定値がTPnCCR0レジスタの設定値よりも大きい場合には，16ビット・カウンタのカウント値とTPnCCR1レジスタの値が一致しないので，INTTPnCC1信号は発生しません。また，TOPn1端子出力も変化しません。

図7－8　D_{01}＜D_{11}の場合のタイミング図



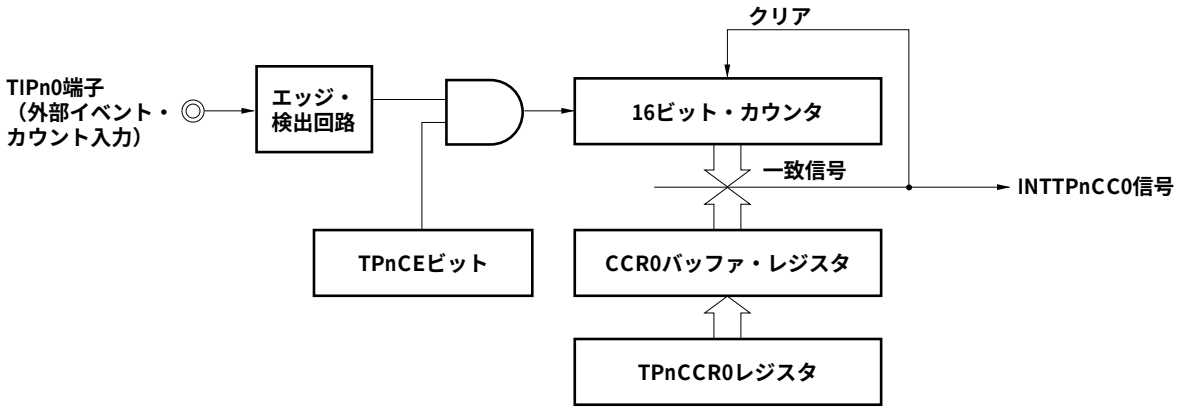
備考　n = 0-8

7. 5. 2　外部イベント・カウント・モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 001）

外部イベント・カウント・モードは，TPnCTL0.TPnCEビットをセット（1）することで，外部イベント・カウント入力の有効エッジをカウントし，任意のカウント数をカウントするごとに割り込み要求信号（INTTPnCC0）を発生します。TOPn0端子は使用できません。

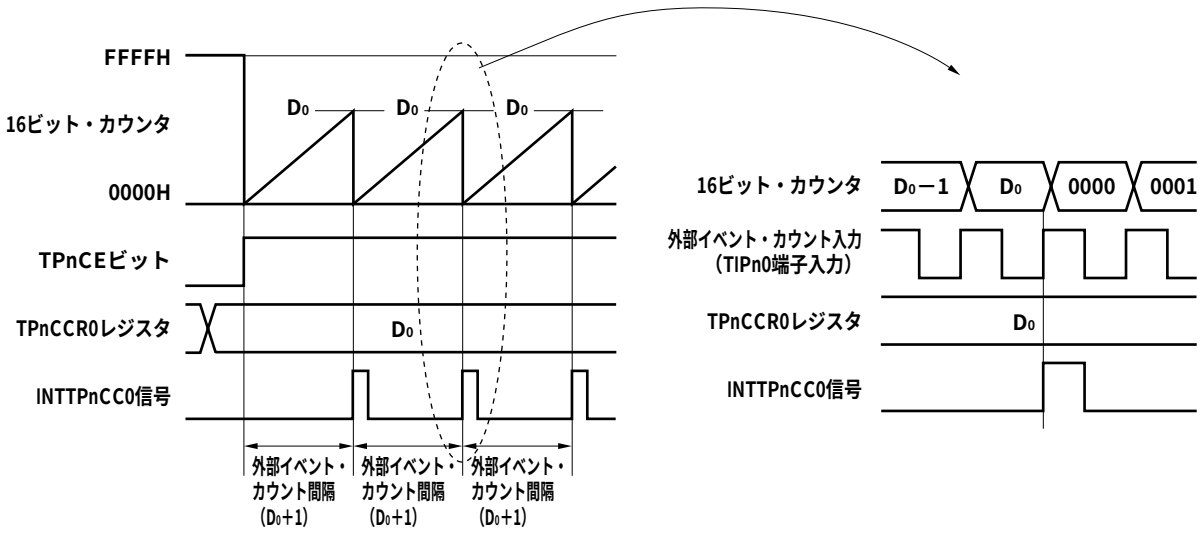
外部イベント・カウント・モードでは，通常，TPnCCR1レジスタは使用しません。

図7－9　外部イベント・カウント・モードの構成図



備考　n = 0-8

図7－10　外部イベント・カウント・モードの基本タイミング



備考1.　外部イベント・カウント入力の有効エッジを，立ち上がりエッジに指定した場合

2.　n = 0-8

TPnCEビットをセット（1）することで，16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアし，外部イベント・カウント入力の有効エッジを検出するごとにカウント動作を行います。また，TPnCCR0レジスタの設定値がCCR0バッファ・レジスタに転送されます。

16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致すると，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC0）を発生します。

INTTPnCC0信号は，外部イベント・カウント入力の有効エッジを（TPnCCR0レジスタに設定した値＋1）回検出するごとに発生します。

図7－11　外部イベント・カウント・モード動作時のレジスタ設定内容（1/2）

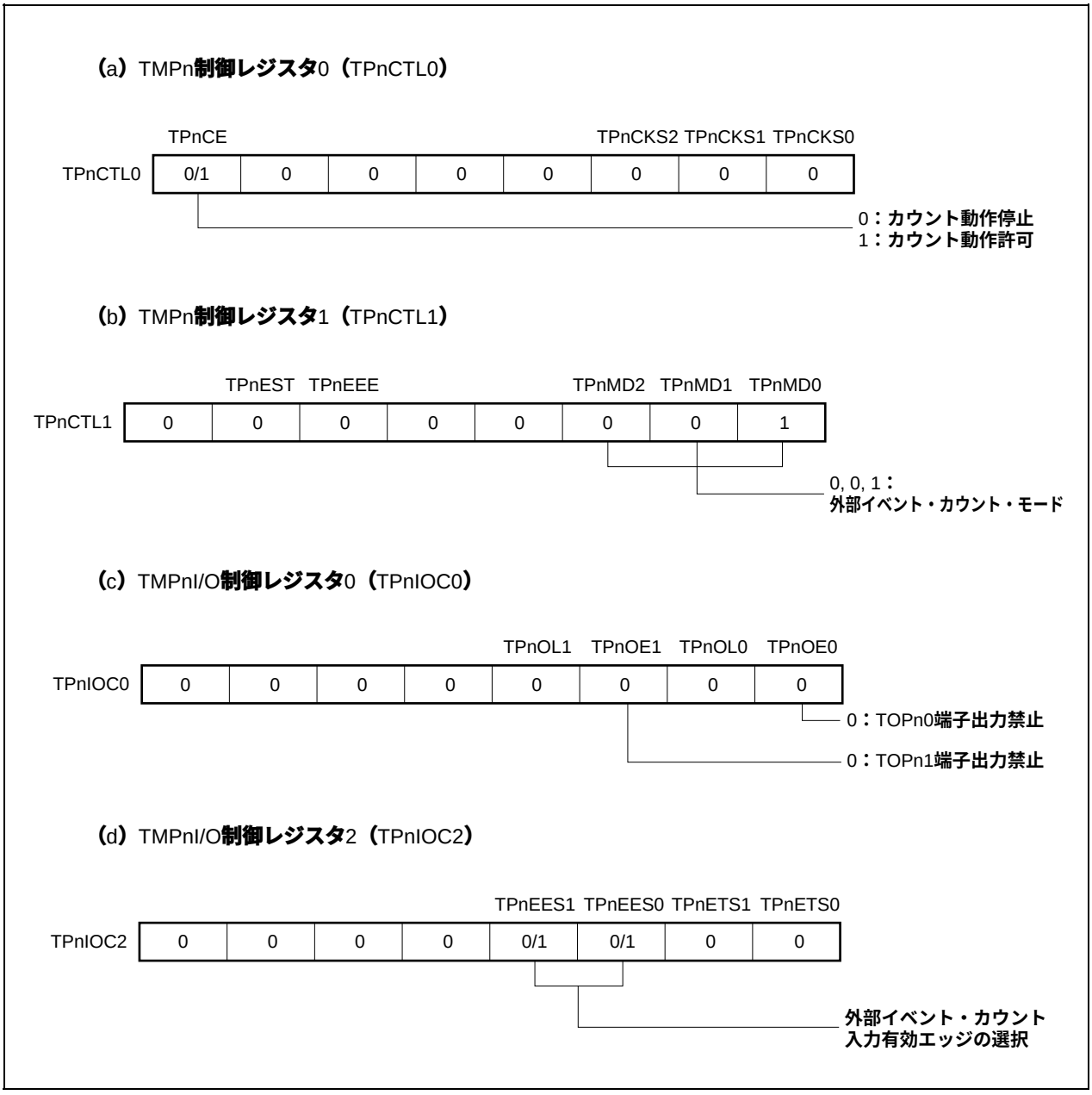


図7－11　外部イベント・カウント・モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

（e）TMPn**カウンタ・リード・バッファ・レジスタ**（TPnCNT）

TPnCNT**レジスタをリードすることで，16ビット・カウンタのカウント値をリードできます。**

（f）TMPn**キャプチャ／コンペア・レジスタ**0（TPnCCR0）

TPnCCR0**レジスタに**D_0**を設定した場合，外部イベント・カウント数が**（D_0＋1）**回となるとカウントをクリアしコンペア一致割り込み要求信号**（INTTPnCC0）**を発生します。**

（g）TMPn**キャプチャ／コンペア・レジスタ**1（TPnCCR1）

外部イベント・カウント・モードでは，通常，TPnCCR1**レジスタは使用しません。しかし，**TPnCCR1**レジスタの設定値は**CCR1**バッファ・レジスタに転送され，**16**ビット・カウンタのカウント値と**CCR1**バッファ・レジスタの値が一致するとコンペア一致割り込み要求信号**（INTTPnCC1）**が発生します。**

したがって，割り込みマスク・フラグ（TPnCCMK1）**でマスク設定しておいてください。**

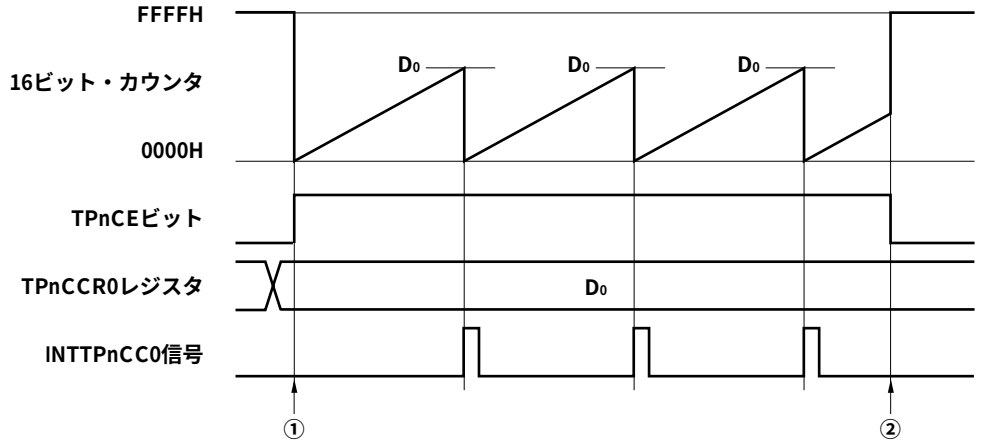
注意　カウント・クロックとして外部クロックを使用するときは，外部クロックはTIPn0**端子からのみ入力できます。このとき，**TPnIOC1.TPnIS1, TPnIS0**ビット** = 00**（キャプチャ・トリガ入力**（TIPn0**端子）：エッジ検出なし）に設定してください。**

備考1.　TMPnI/O**制御レジスタ**1（TPnIOC1），TMPn**オプション・レジスタ**0（TPnOPT0）**は，外部イベント・カウント・モードでは使用しません。**

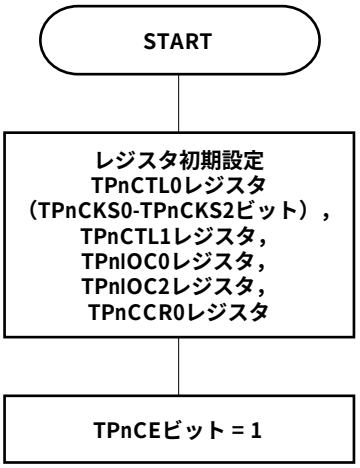
2.　n = 0-8

(1) 外部イベント・カウント・モード動作フロー

図7－12　外部イベント・カウント・モード使用時のソフトウエア処理フロー



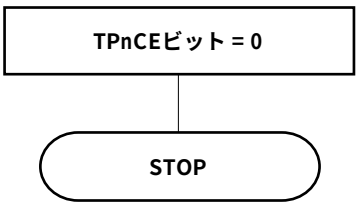
①　カウント動作開始フロー



TPnCEビット = 1にする前に，
これらのレジスタを初期設定。

カウント動作開始（TPnCEビット = 1）と同時に，
TPnCKS0-TPnCKS2ビットの設定は可能。

②　カウント動作停止フロー



カウント動作停止（TPnCEビット = 0）にすることで，
カウンタを初期化しカウント動作を停止。

備考　n = 0-8

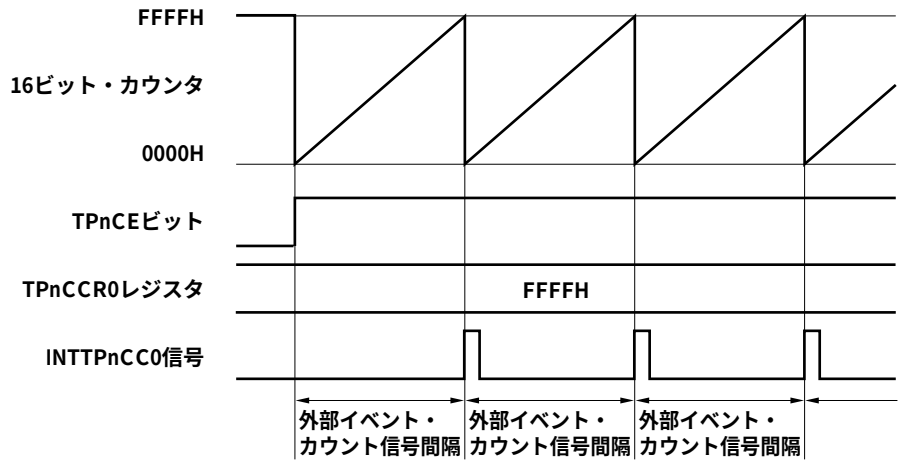
（2）外部イベント・カウント・モード動作タイミング

注意1. **外部イベント・カウント・モード時，**TPnCCR0**レジスタには，**0000H**を設定しないでください。**

2. **外部イベント・カウント・モード時，タイマ出力は使用禁止です。外部イベント・カウント入力でタイマ出力を行う場合は，インターバル・タイマ・モードに設定してカウント・クロックを外部イベント・カウント入力での動作許可に選択してください（**TPnCTL1.TPnMD2-TPnMD0**ビット** = 000, TPnCTL1.TPnEEE**ビット** = 1**）。**

（a）TPnCCR0**レジスタに**FFFFH**を設定した場合の動作**

TPnCCR0**レジスタに**FFFFH**を設定した場合，**16**ビット・カウンタは外部イベント・カウント信号の有効エッジを検出するごとに**FFFFH**までカウント動作を行い，次のカウント・アップ・タイミングに同期して，**16**ビット・カウンタを**0000H**にクリアし，**INTTPnCC0**信号を発生します。このとき，**TPnOPT0.TPnOVF**ビットはセットされません。**

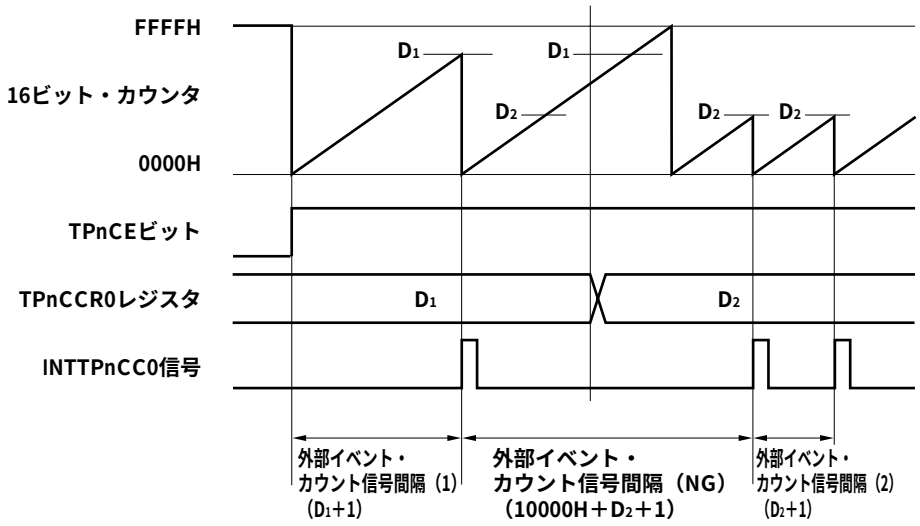


備考　n = 0-8

(b) TPnCCR0レジスタの書き換えに関する注意事項

TPnCCR0レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。

カウント動作中にTPnCCR0レジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。



備考　n = 0-8

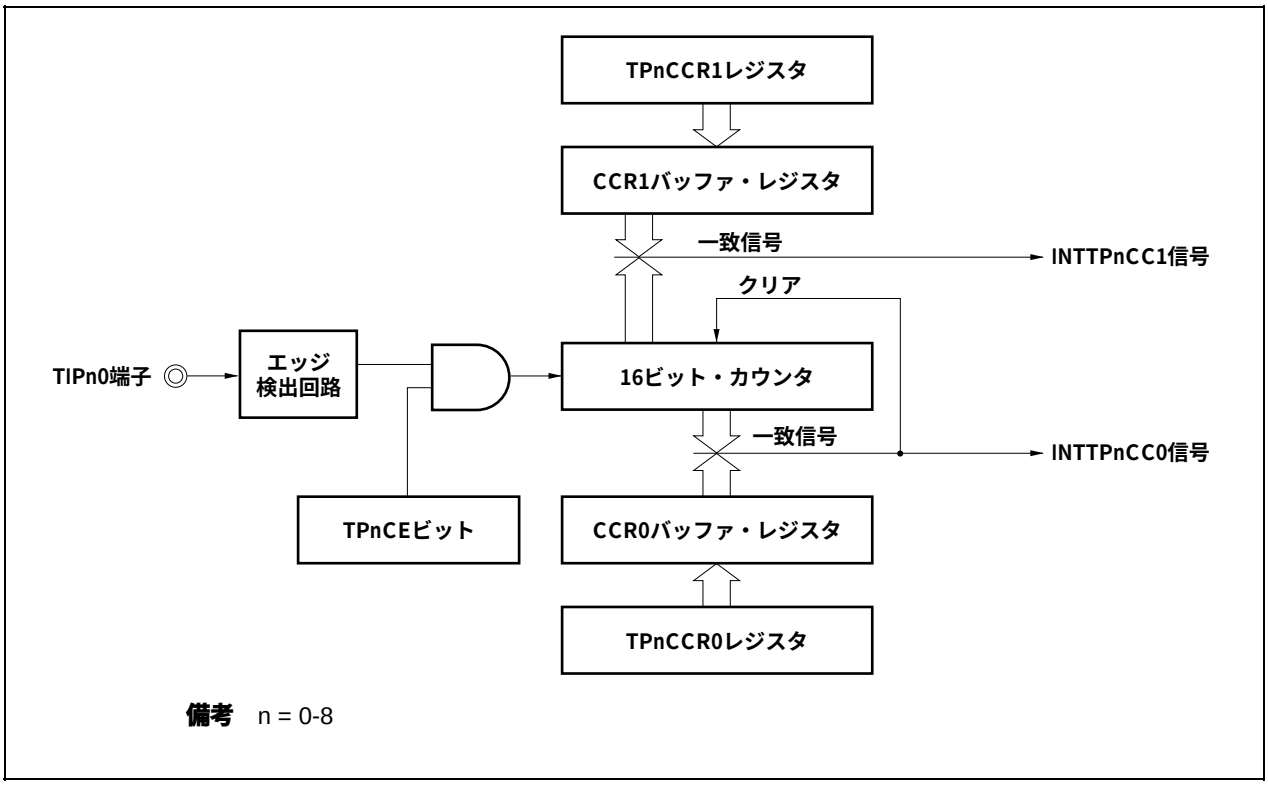
カウント値がD_2よりも大きくD_1よりも小さい状態において，TPnCCR0レジスタをD_1からD_2に書き換えると，書き換えたタイミングでCCR0バッファ・レジスタに転送されるため，16ビット・カウンタとのコンペア値がD_2となります。

しかし，カウント値はすでにD_2を越えているためにFFFFHまでカウントを行い，オーバフロー後，0000Hから再度カウント・アップを行います。そして，D_2との一致でINTTPnCC0信号を発生します。

したがって，本来期待している外部イベント・カウント数である「（D_1＋1）回」または「（D_2＋1）回」の有効エッジ数でINTTPnCC0信号は発生せずに，「（10000H＋D_2＋1）回」の有効エッジ数でINTTPnCC0信号が発生する場合があります。

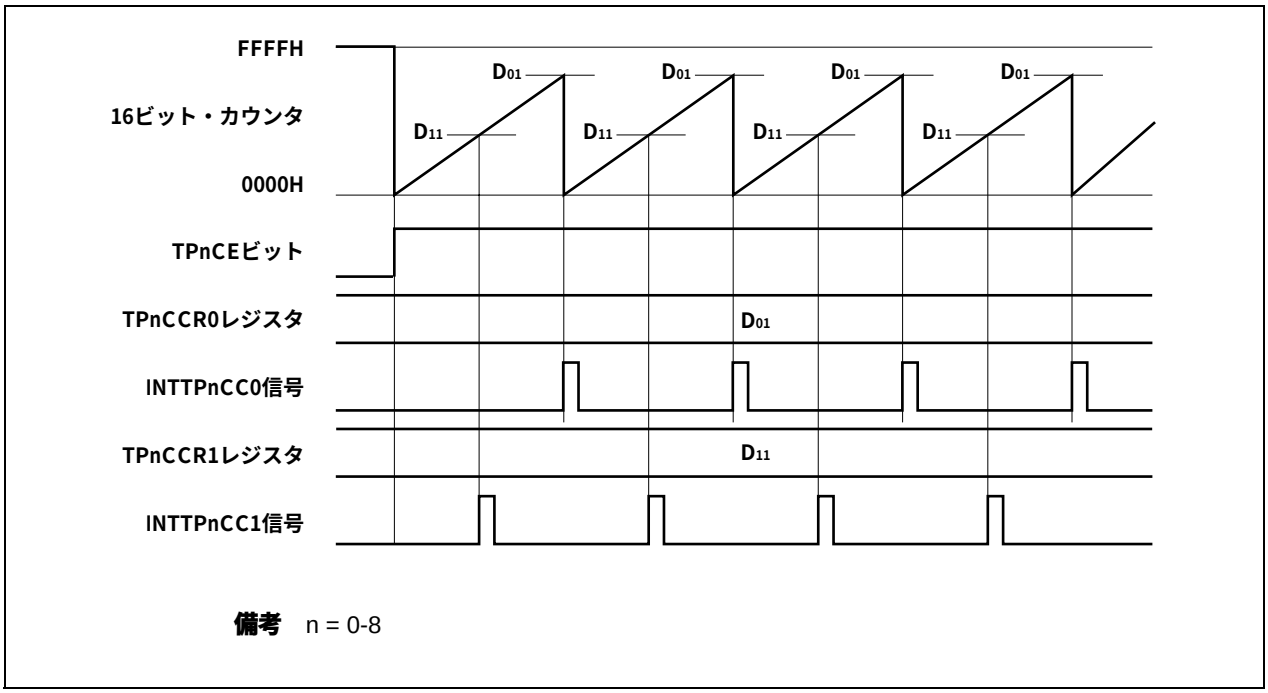
(c) TPnCCR1レジスタの動作

図7ー13　TPnCCR1レジスタの構成図



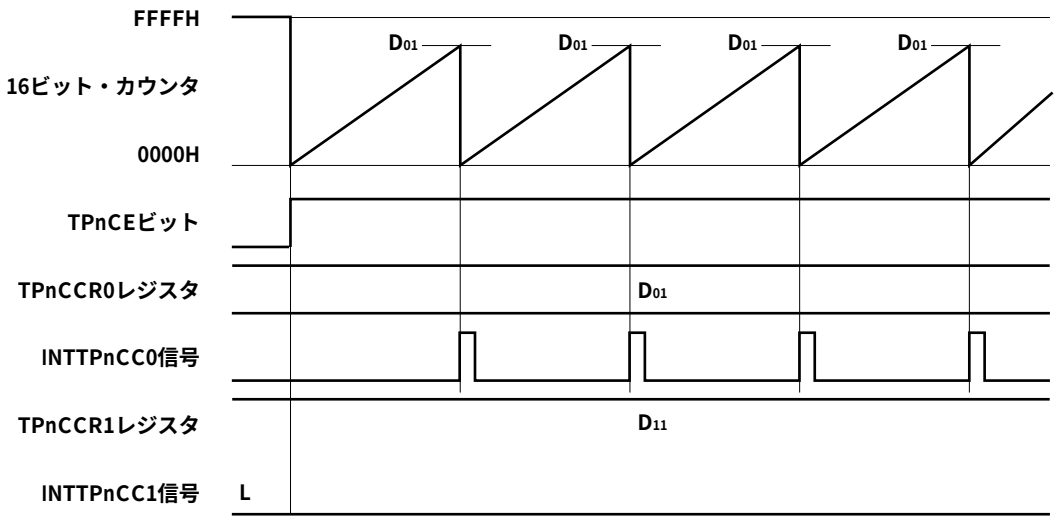
TPnCCR1レジスタの設定値がTPnCCR0レジスタの設定値よりも小さい場合には，1周期に1回のINTTPnCC1信号が発生します。

図7ー14　$D_{01} \geqq D_{11}$の場合のタイミング図



TPnCCR1レジスタの設定値がTPnCCR0レジスタの設定値よりも大きい場合には，16ビット・カウンタのカウント値とTPnCCR1レジスタの値が一致しないので，INTTPnCC1信号は発生しません。

図7－15　D_{01}＜D_{11}の場合のタイミング図



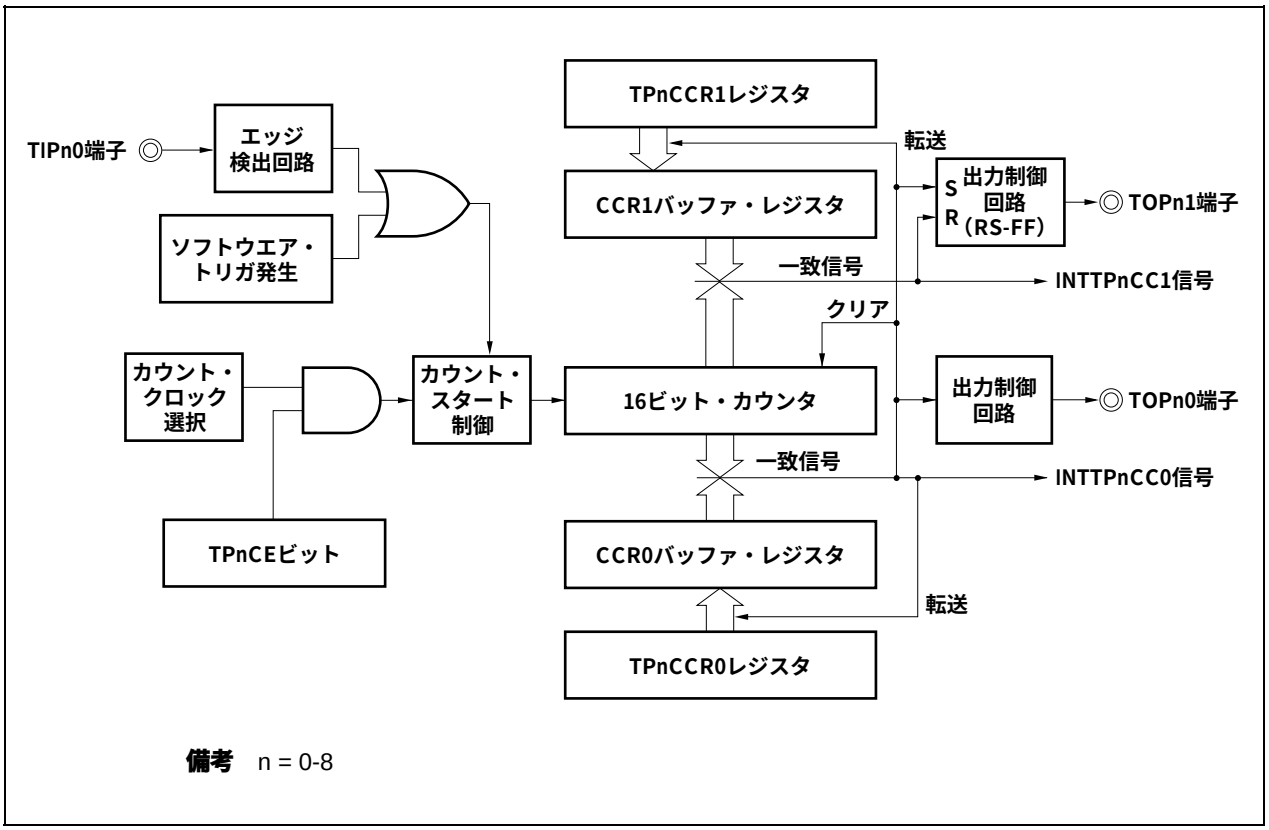
備考　n = 0-8

7. 5. 3　外部トリガ・パルス出力モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 010）

外部トリガ・パルス出力モードは，TPnCTL0.TPnCEビットをセット（1）することでトリガ待ち状態となり，外部トリガ入力の有効エッジを検出すると，カウント動作を開始し，TOPn1端子からPWM波形を出力します。

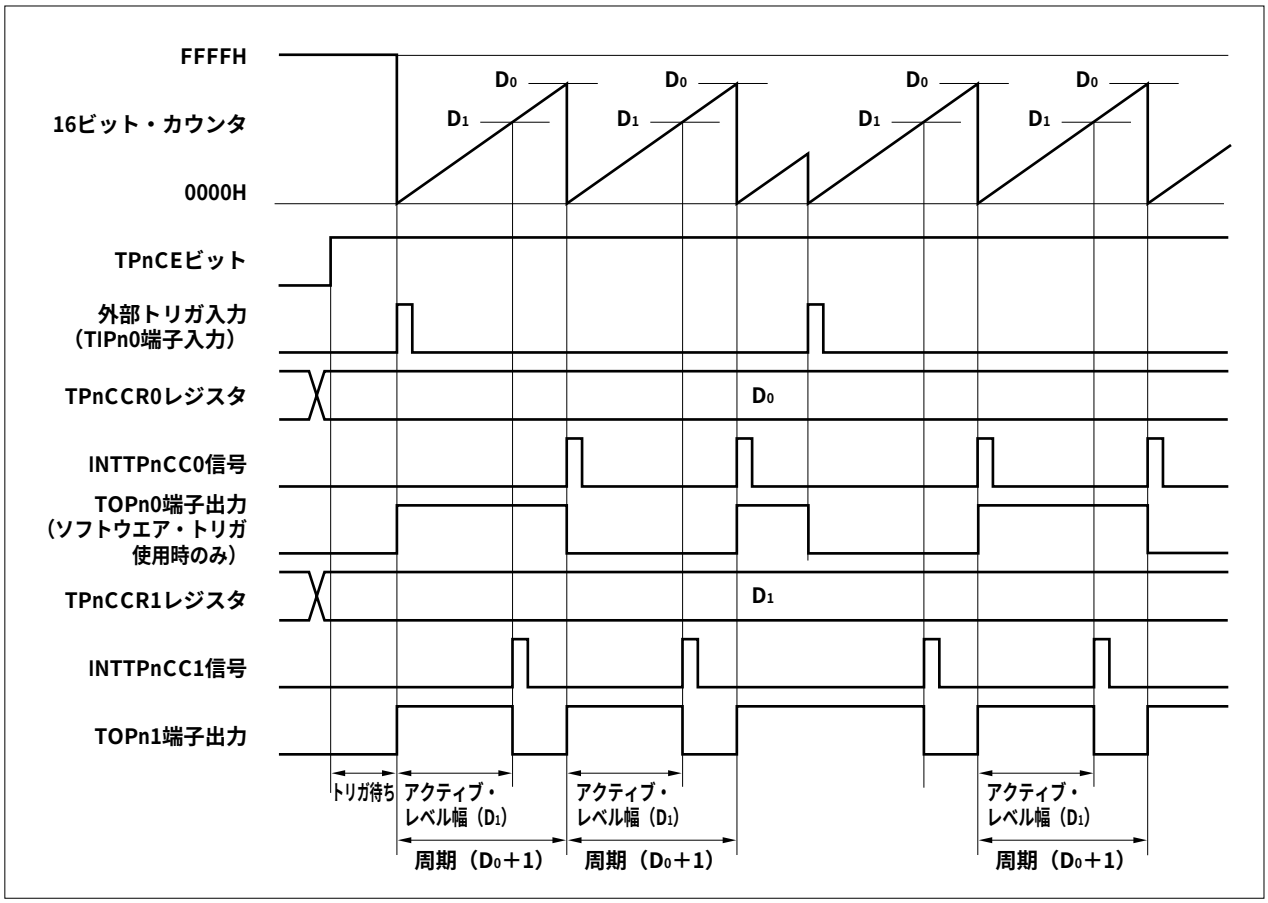
外部トリガ入力の代わりに，ソフトウエア・トリガを発生させることでもパルスを出力できます。ソフトウエア・トリガを使用する場合，TOPn0端子から，PWM波形の1周期を半周期とする方形波を出力できます。

図7－16　外部トリガ・パルス出力モードの構成図



備考　n = 0-8

図7－17　外部トリガ・パルス出力モードの基本タイミング



TPnCEビットをセット（1）することで，トリガ待ち状態となります。トリガが発生すると，16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアして同時にカウント動作を開始し，TOPn1端子からPWM波形を出力します。動作中に，再度トリガが発生した場合には，カウンタを0000Hにクリアし再スタートします（TOPn0端子出力は反転します。TOPn1端子出力は，ロウ・レベル出力，ハイ・レベル出力にかかわらず，ハイ・レベル出力になります）。

PWM波形のアクティブ・レベル幅，周期，およびデューティは次のように求められます。

アクティブ・レベル幅 ＝ （TPnCCR1レジスタの設定値）×カウント・クロック周期
周期 ＝ （TPnCCR0レジスタの設定値＋1）×カウント・クロック周期
デューティ ＝ （TPnCCR1レジスタの設定値）／（TPnCCR0レジスタの設定値＋1）

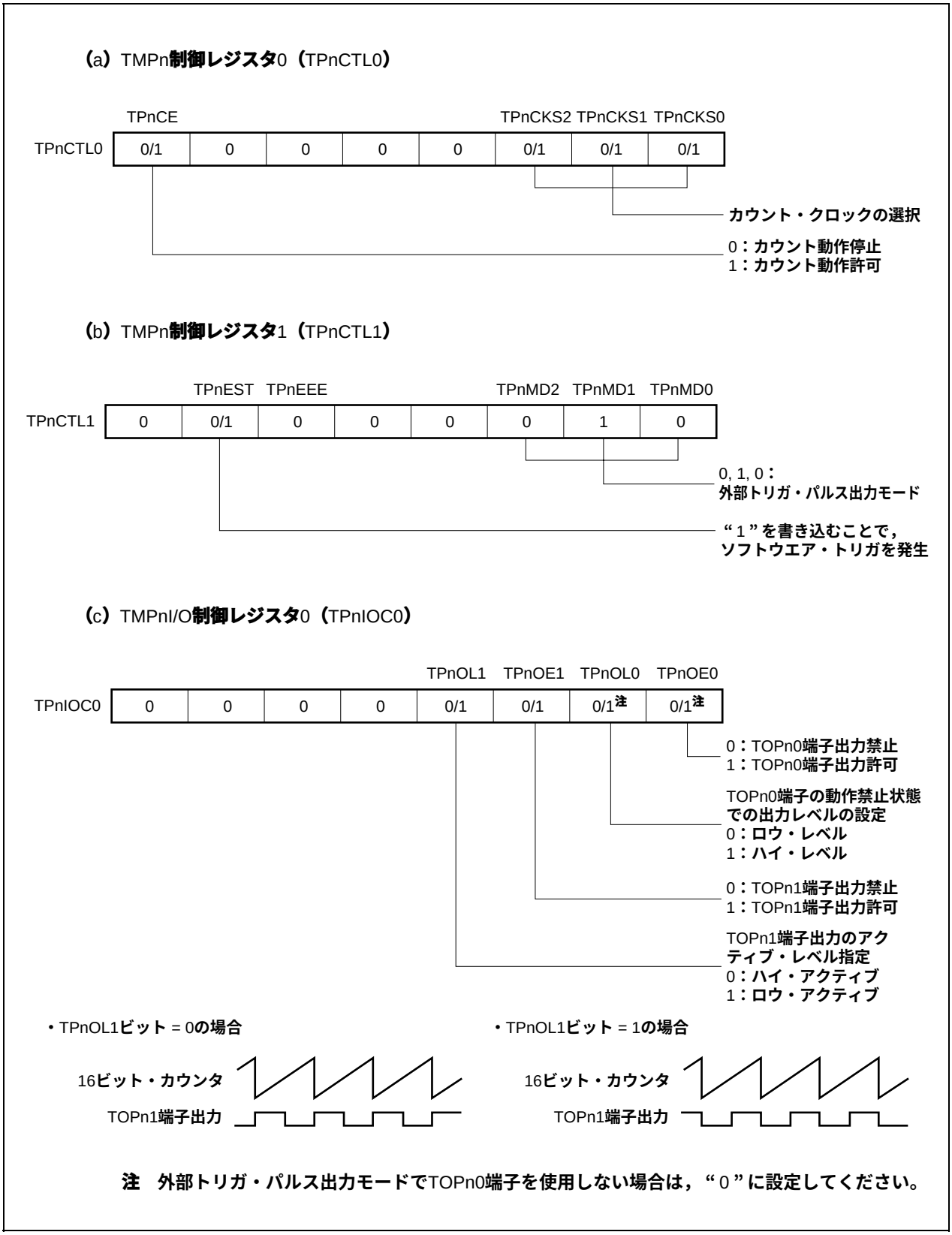
コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC0）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致した次のカウント・タイミングで発生し，同時に16ビット・カウンタを0000Hにクリアします。コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC1）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR1バッファ・レジスタの値が一致するタイミングで発生します。

TPnCCRmレジスタに設定した値は，16ビット・カウンタのカウント値とCCRmバッファ・レジスタの値が一致し，16ビット・カウンタを0000Hにクリアするタイミングで CCRmバッファ・レジスタに転送されます。

トリガには，外部トリガ入力の有効エッジ，またはソフトウエア・トリガ（TPnCTL1.TPnESTビット）のセット（1）があります。

備考　n = 0-8, m = 0, 1

図7－18　外部トリガ・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（1/2）



注　外部トリガ・パルス出力モードでTOPn0端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。

図7－18　外部トリガ・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

（d）TMPnI/O制御レジスタ2（TPnIOC2）

					TPnEES1	TPnEES0	TPnETS1	TPnETS0
TPnIOC2	0	0	0	0	0	0	0/1	0/1

外部トリガ入力有効エッジの選択

（e）TMPnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TPnCNT）

TPnCNTレジスタをリードすることで，16ビット・カウンタの値をリードできます。

（f）TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ0, 1（TPnCCR0, TPnCCR1）

TPnCCR0レジスタにD_0を設定し，TPnCCR1レジスタにD_1を設定した場合，

PWM波形の周期 ＝ （D_0＋1）×カウント・クロック周期

PWM波形のアクティブ・レベル幅 ＝ D_1×カウント・クロック周期

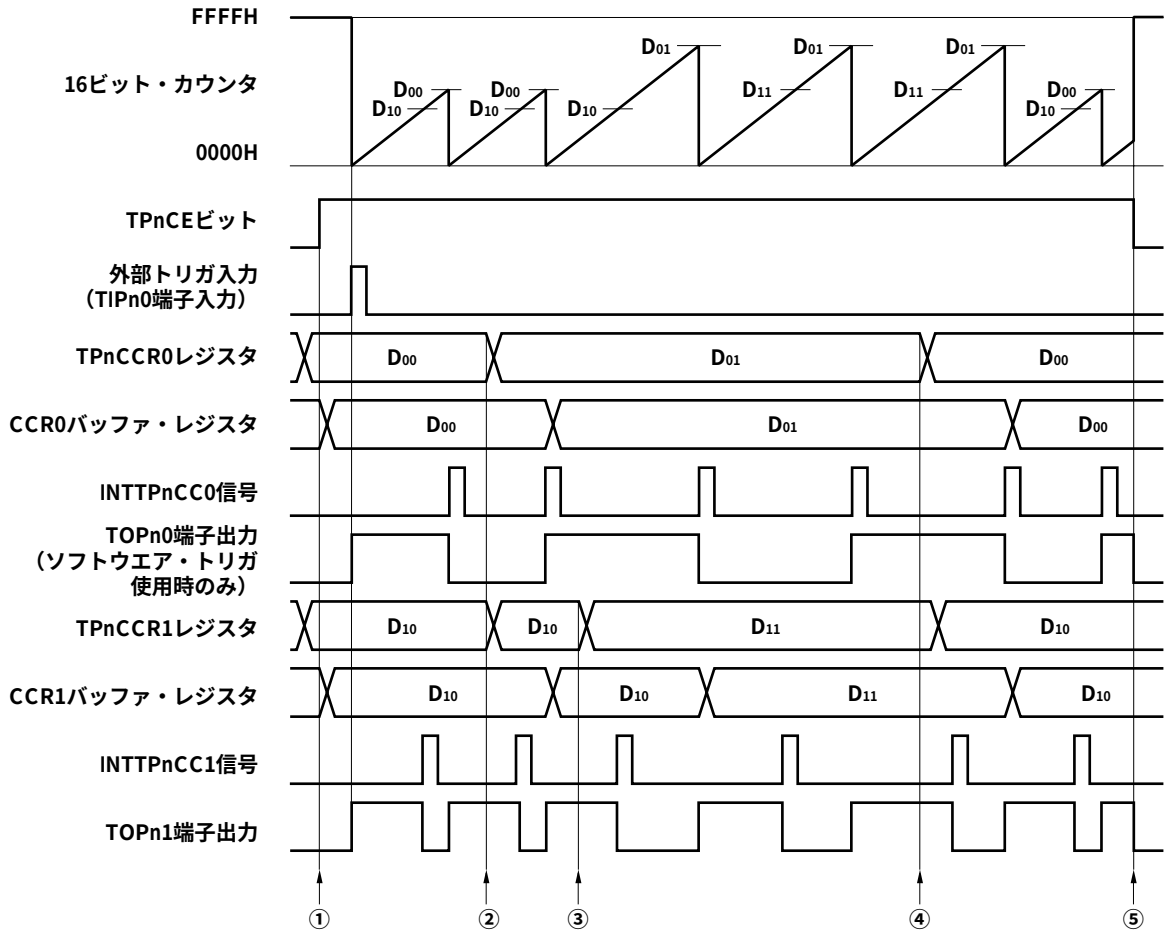
となります。

備考1.　TMPnI/O制御レジスタ1（TPnIOC1），TMPnオプション・レジスタ0（TPnOPT0）は，外部トリガ・パルス出力モードでは使用しません。

2.　n = 0-8

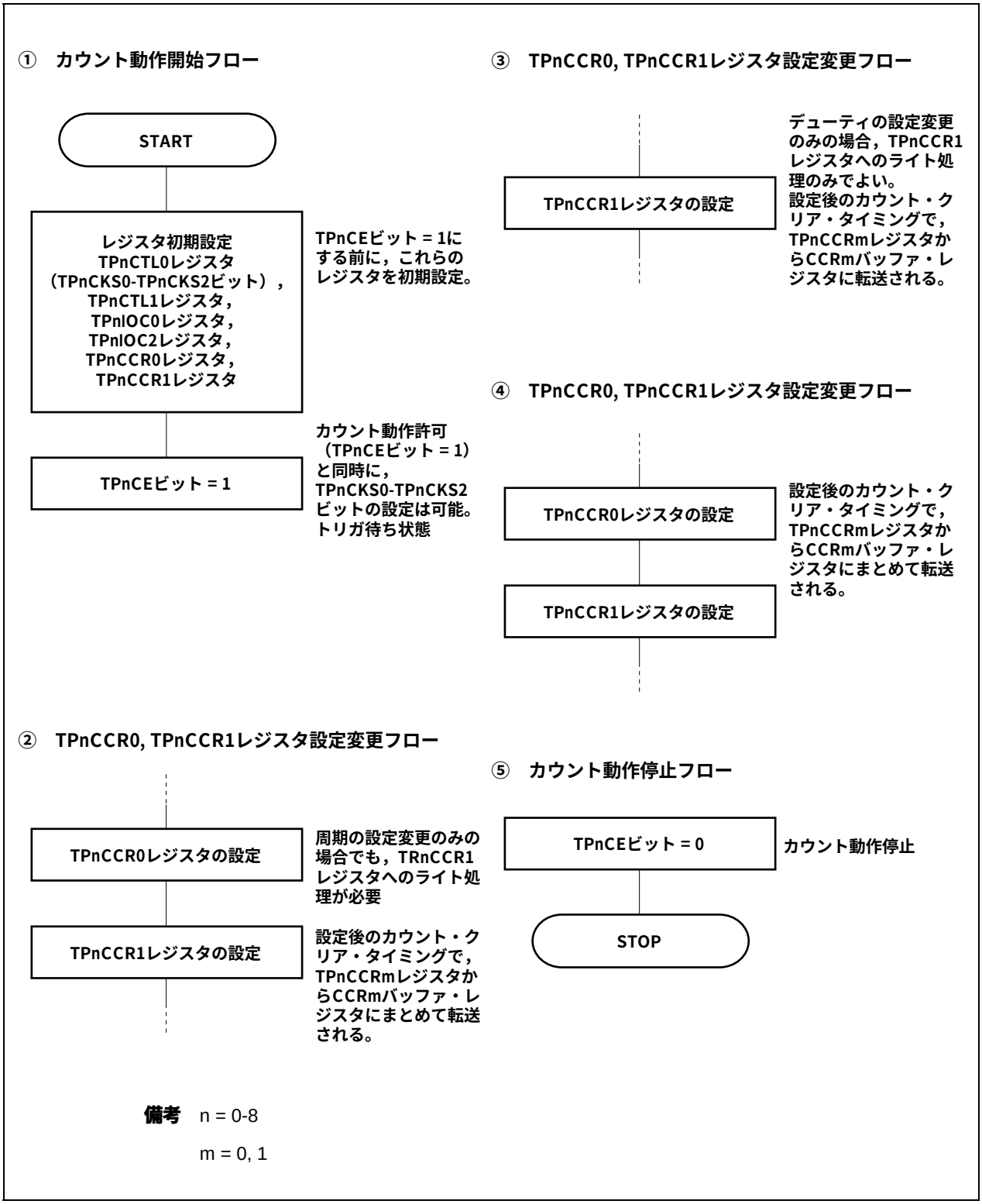
（1）外部トリガ・パルス出力モード動作フロー

図7－19　外部トリガ・パルス出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（1/2）



備考　n = 0-8

図7－19　外部トリガ・パルス出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（2/2）



備考　n = 0-8

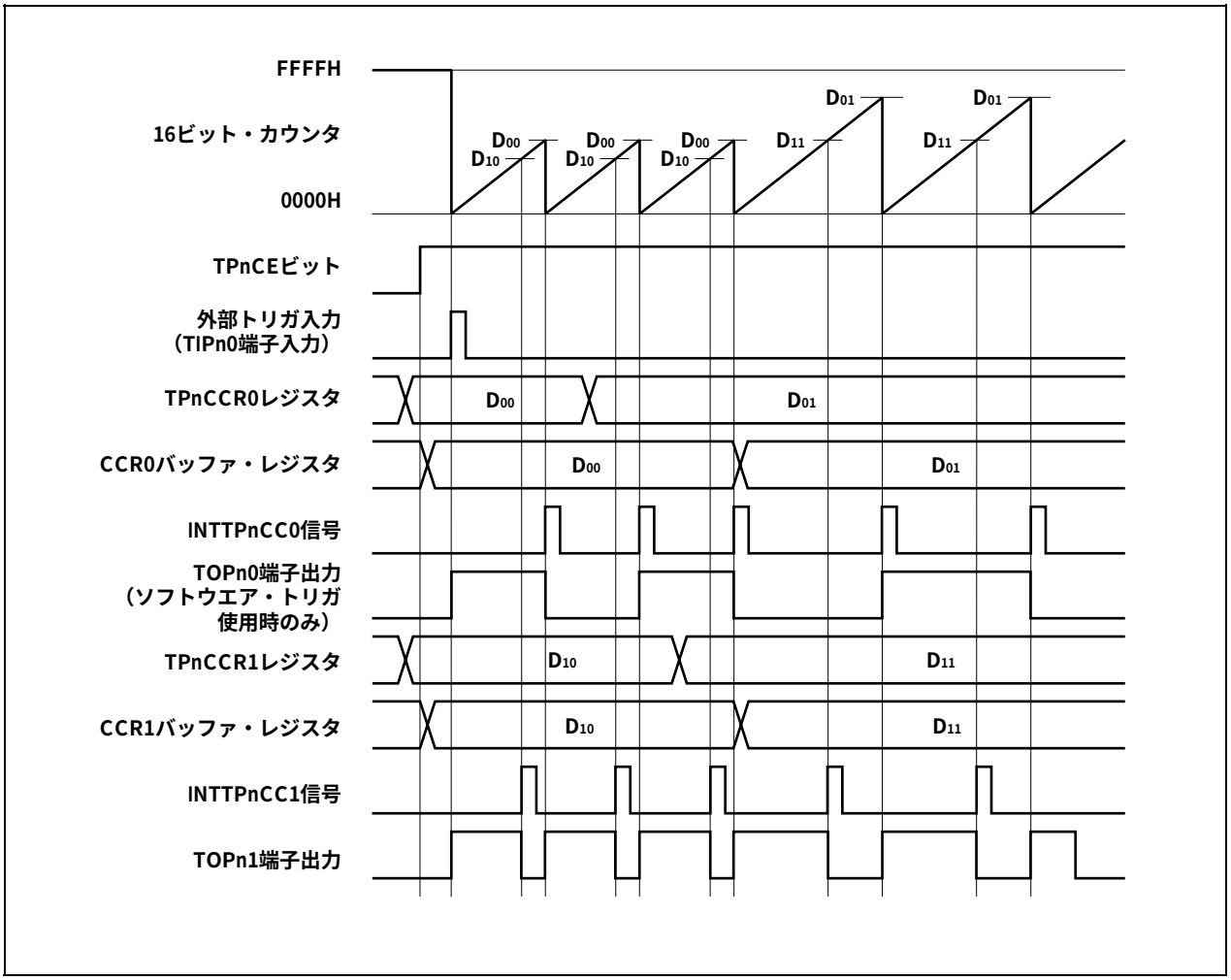
m = 0, 1

(2) 外部トリガ・パルス出力モード動作タイミング

(a) 動作中のパルス幅変更の注意事項

動作中にPWM波形を変更する場合には，最後にTPnCCR1レジスタにライトしてください。

TPnCCR1レジスタにライト後，再度TPnCCRmレジスタの書き換えを行う場合には，INTTPnCC0信号を検出後に書き換えてください。



TPnCCRmレジスタからCCRmバッファ・レジスタへのデータ転送を行うためには，TPnCCR1レジスタに対してライトする必要があります。

このとき，PWM波形の周期とアクティブ・レベル幅の両方を変更する場合には，まずTPnCCR0レジスタに周期を設定し，そのあとでTPnCCR1レジスタにアクティブ・レベル幅を設定してください。

PWM波形の周期だけを変更する場合には，まずTPnCCR0レジスタに周期を設定し，そのあとでTPnCCR1レジスタに同値をライトしてください。

PWM波形のアクティブ・レベル幅（デューティ）のみ変更する場合は，TPnCCR1レジスタのみの設定でかまいません。

TPnCCR1レジスタにライトしたあと，16ビット・カウンタのクリア・タイミングに同期して，TPnCCRmレジスタに書き込まれた値がCCRmバッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタとのコンペア値となります。

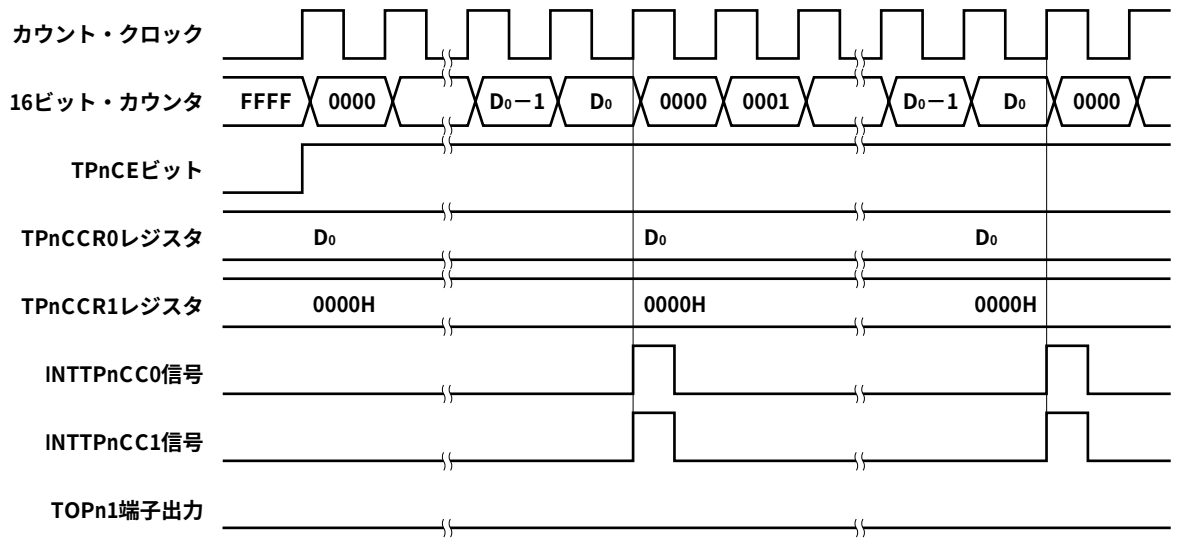
また，一度TPnCCR1レジスタにライトしたあとで，再度TPnCCR0，またはTPnCCR1レジスタへのライトを行う場合は， INTTPnCC0信号の発生後に行ってください。これを守れない場合には，TPnCCRmレジスタからCCRmバッファ・レジスタへのデータ転送タイミングと，TPnCCRmレジスタの書き換えの競合により，CCRmバッファ・レジスタの値が不定値になる場合があります。

備考　n = 0-8

m = 0, 1

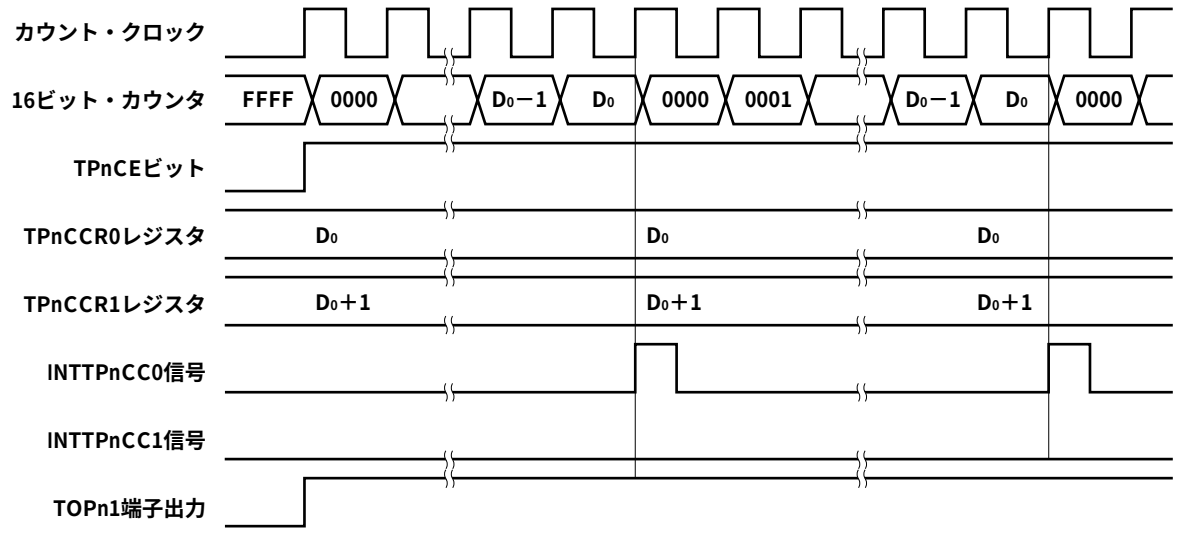
(b) PWM波形の0 %／100 %出力

0 %波形を出力するためには，TPnCCR1レジスタに対して0000Hを設定します。ただし，TPnCCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には，INTTPnCC1信号が定期的に発生します。



備考　n = 0-8

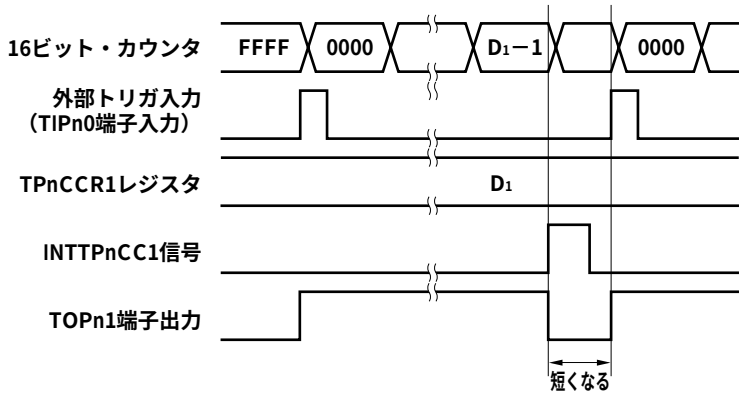
100 %波形を出力するためには，TPnCCR1レジスタに対して（TPnCCR0レジスタの設定値＋1）の値を設定してください。TPnCCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には，100 %出力はできません。



備考　n = 0-8

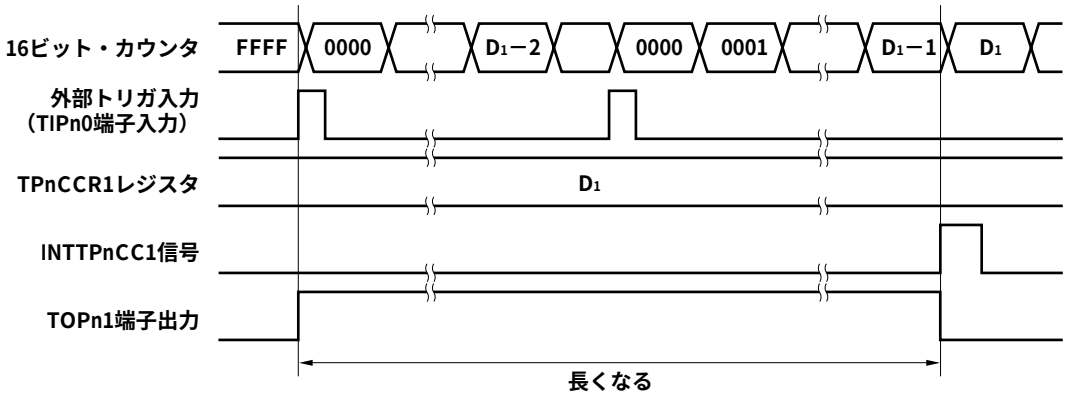
(c) トリガ検出とTPnCCR1レジスタとの一致の競合

INTTPnCC1信号発生直後にトリガが検出された場合には，トリガ検出とともに16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，TOPn1端子出力をアクティブ・レベルにしてカウント動作を続けます。そのため，PWM波形のインアクティブ期間が短くなります。



備考　n = 0-8

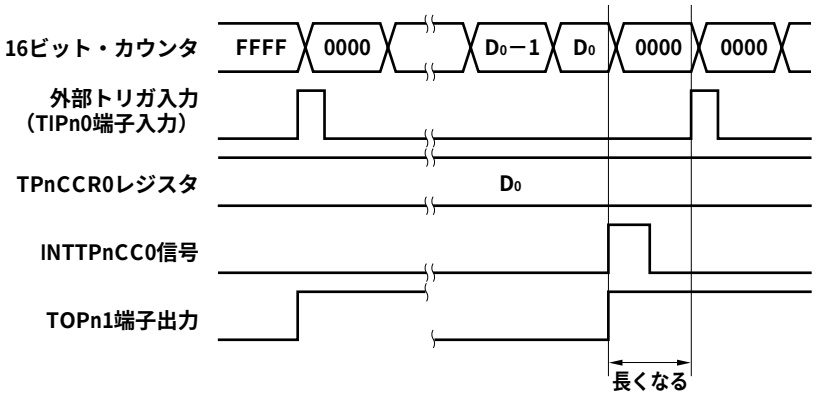
INTTPnCC1信号発生直前にトリガを検出した場合には， INTTPnCC1信号を発生することなく，16ビット・カウンタを0000Hにクリアしてカウント動作を継続します。TOPn1端子出力はアクティブ・レベルのままとなるため，PWM波形のアクティブ期間が長くなります。



備考　n = 0-8

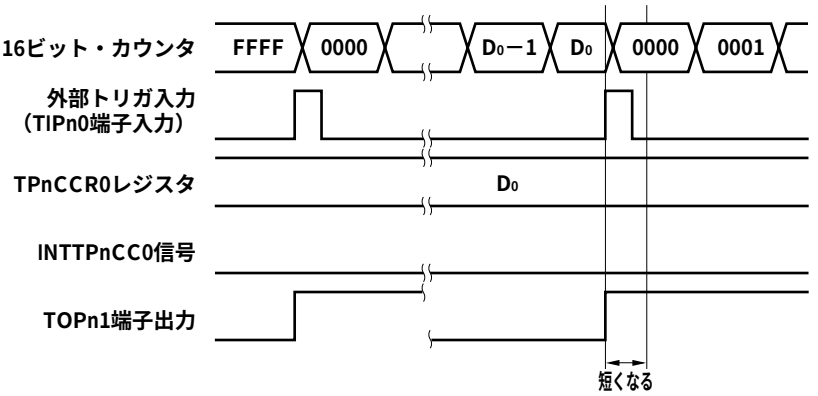
(d) トリガ検出とTPnCCR0レジスタとの一致の競合

INTTPnCC0信号発生直後にトリガを検出した場合，そこから再度16ビット・カウンタを0000Hにクリアしてカウント・アップ動作を継続します。したがって，TOPn1端子出力のアクティブ期間が，INTTPnCC0信号発生からトリガ検出までの分だけ長くなります。



備考　n = 0-8

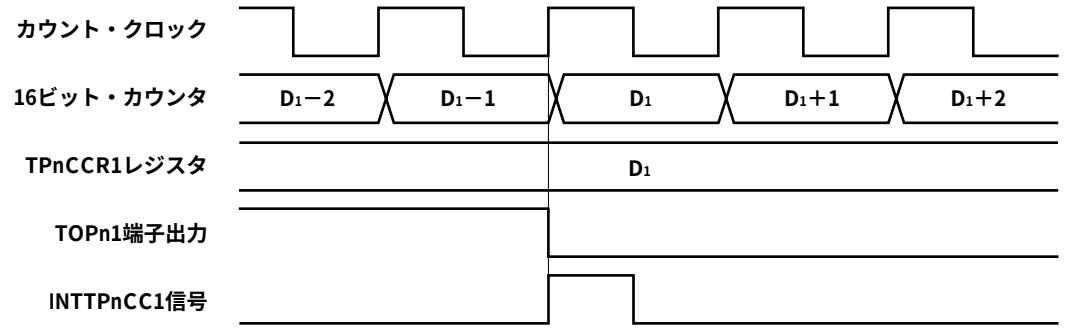
INTTPnCC0信号発生直前にトリガを検出した場合，INTTPnCC0信号を発生することなく，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，TOPn1端子出力をアクティブ・レベルにして，カウント動作を継続します。そのため，それまで出力していたPWM波形のインアクティブ期間は短くなります。



備考　n = 0-8

(e) コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC1）の発生タイミング

外部トリガ・パルス出力モードにおけるINTTPnCC1信号の発生タイミングは，ほかのINTTPnCC1信号と異なり，16ビット・カウンタのカウント値とTPnCCR1レジスタの値との一致と同時に発生します。



備考　n = 0-8

通常，INTTPnCC1信号は，16ビット・カウンタのカウント値とTPnCCR1レジスタの値との一致後，次のカウント・アップに同期して発生します。

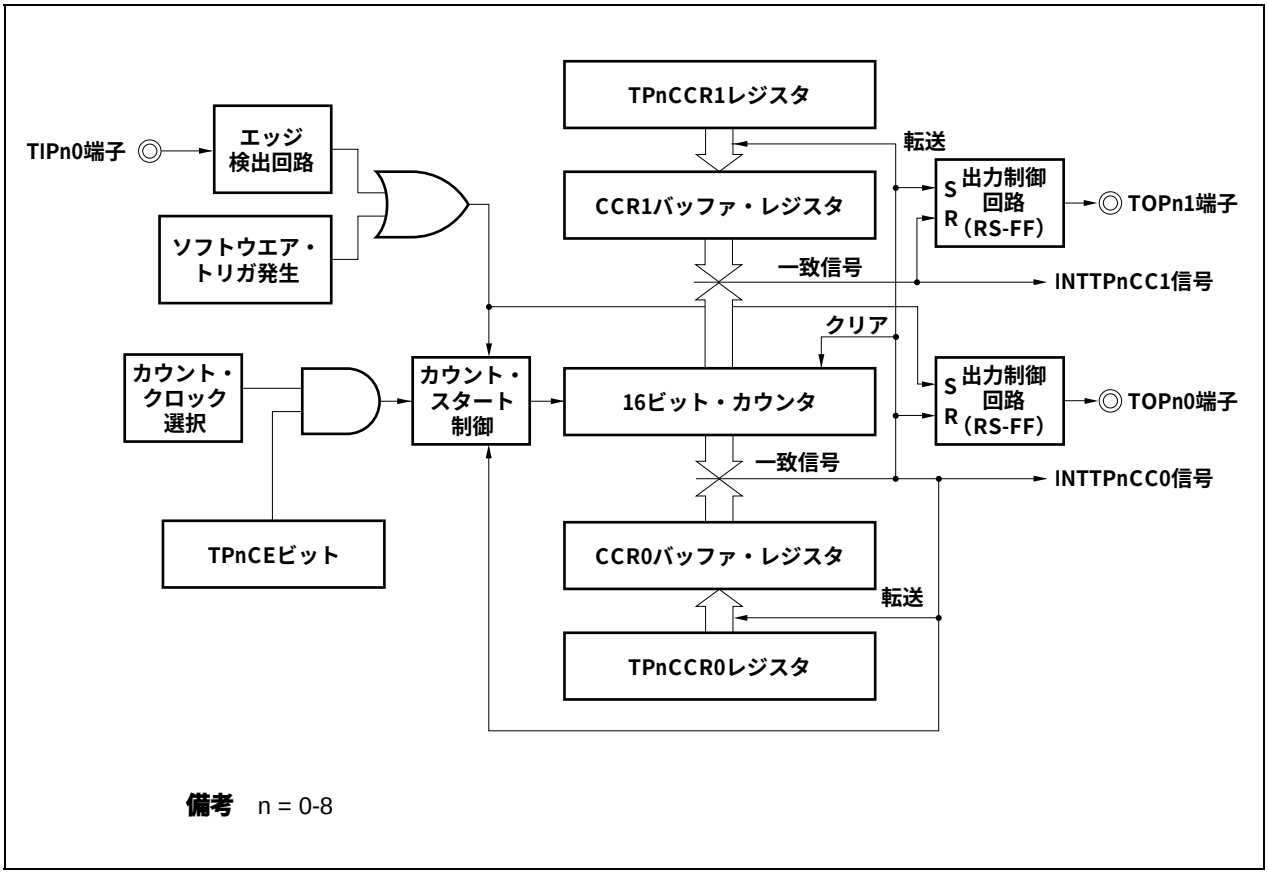
しかし，外部トリガ・パルス出力モードの場合，1クロック早いタイミングで発生します。これは，TOPn1端子出力の変化タイミングとあわせるために，タイミングを変更しているからです。

7. 5. 4　ワンショット・パルス出力モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 011）

ワンショット・パルス出力モードは，TPnCTL0.TPnCEビットをセット（1）することでトリガ待ち状態となり，外部トリガ入力の有効エッジを検出すると，カウント動作を開始し，TOPn1端子からワンショット・パルスを出力します。

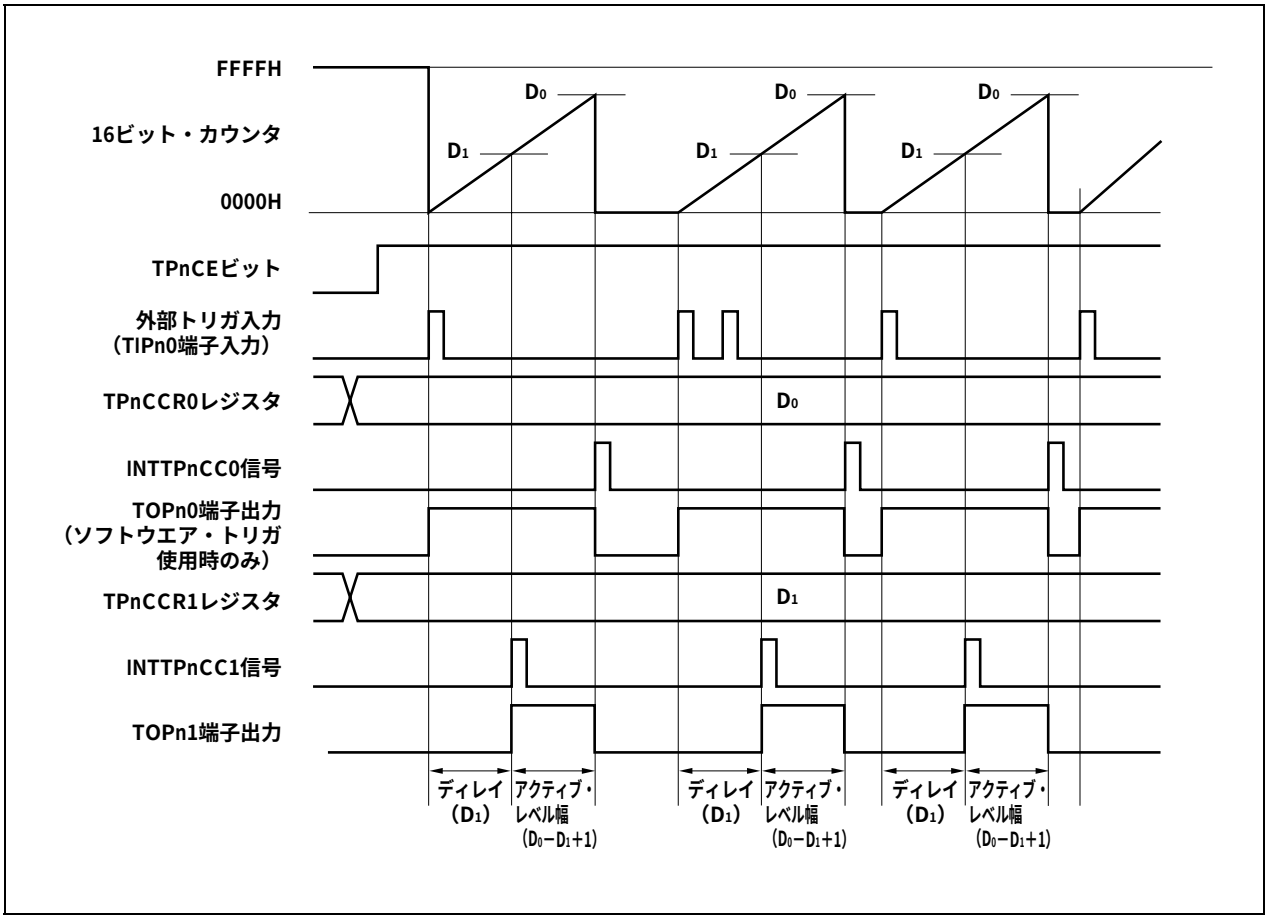
外部トリガ入力の代わりに，ソフトウエア・トリガを発生させることでもパルスを出力できます。ソフトウエア・トリガを使用する場合，TOPn0端子から，16ビット・カウンタがカウント動作中のときはアクティブ・レベルを出力し，カウント停止（トリガ待ち状態）中のときはインアクティブ・レベルを出力できます。

図7－20　ワンショット・パルス出力モードの構成図



備考　n = 0-8

図7－21　ワンショット・パルス出力モードの基本タイミング



TPnCEビットをセット（1）することで，トリガ待ち状態となります。トリガが発生すると，16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアして同時にカウント動作を開始し，TOPn1端子からワンショット・パルスを出力します。ワンショット・パルスを出力したあと，16ビット・カウンタをFFFFHにしてカウント動作を停止し，トリガ待ち状態になります。ワンショット・パルス出力中に再度トリガが発生しても無視します。

ワンショット・パルスの出力ディレイ期間，およびアクティブ・レベル幅は次のように求められます。

出力ディレイ期間 ＝ （TPnCCR1レジスタの設定値）×カウント・クロック周期

アクティブ・レベル幅 ＝ （TPnCCR0レジスタの設定値－TPnCCR1レジスタの設定値＋1）
×カウント・クロック周期

コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC0）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致した次のカウント・タイミングで発生します。コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC1）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR1バッファ・レジスタの値が一致するタイミングで発生します。

トリガには，外部トリガ入力の有効エッジ，またはソフトウエア・トリガ（TPnCTL1.TPnESTビット）のセット（1）があります。

備考　n = 0-8,
m = 0, 1

図7－22　ワンショット・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（1/2）

（a）TMPn制御レジスタ0（TPnCTL0）

	TPnCE					TPnCKS2	TPnCKS1	TPnCKS0
TPnCTL0	0/1	0	0	0	0	0/1	0/1	0/1

カウント・クロックの選択

0：カウント動作停止
1：カウント動作許可

（b）TMPn制御レジスタ1（TPnCTL1）

		TPnEST	TPnEEE			TPnMD2	TPnMD1	TPnMD0
TPnCTL1	0	0/1	0	0	0	0	1	1

0, 1, 1：
ワンショット・パルス出力モード

“1”を書き込むことで，
ソフトウエア・トリガを発生

（c）TMPnI/O制御レジスタ0（TPnIOC0）

					TPnOL1	TPnOE1	TPnOL0	TPnOE0
TPnIOC0	0	0	0	0	0/1	0/1	0/1注	0/1注

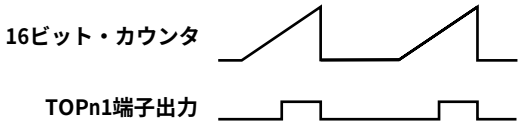
0：TOPn0端子出力禁止
1：TOPn0端子出力許可

TOPn0端子の動作禁止状態
での出力レベルの設定
0：ロウ・レベル
1：ハイ・レベル

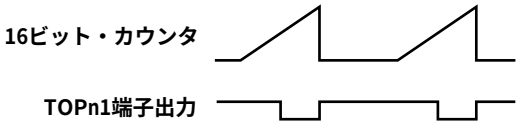
0：TOPn1端子出力禁止
1：TOPn1端子出力許可

TOPn1端子出力のアクテ
ィブ・レベル指定
0：ハイ・アクティブ
1：ロウ・アクティブ

・TPnOL1ビット＝0の場合



・TPnOL1ビット＝1の場合



注　ワンショット・パルス出力モードでTOPn0端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。

図7－22　ワンショット・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

（d）TMPnI/O制御レジスタ2（TPnIOC2）

					TPnEES1	TPnEES0	TPnETS1	TPnETS0
TPnIOC2	0	0	0	0	0	0	0/1	0/1

外部トリガ入力有効エッジの選択

（e）TMPnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TPnCNT）

TPnCNTレジスタをリードすることで，16ビット・カウンタの値をリードできます。

（f）TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ0, 1（TPnCCR0, TPnCCR1）

TPnCCR0レジスタにD_0を設定し，TPnCCR1レジスタにD_1を設定した場合，

ワンショット・パルスのアクティブ・レベル幅 ＝ （D_0－D_1＋1）×カウント・クロック周期

ワンショット・パルスの出力ディレイ期間 ＝（D_1）×カウント・クロック周期となります。

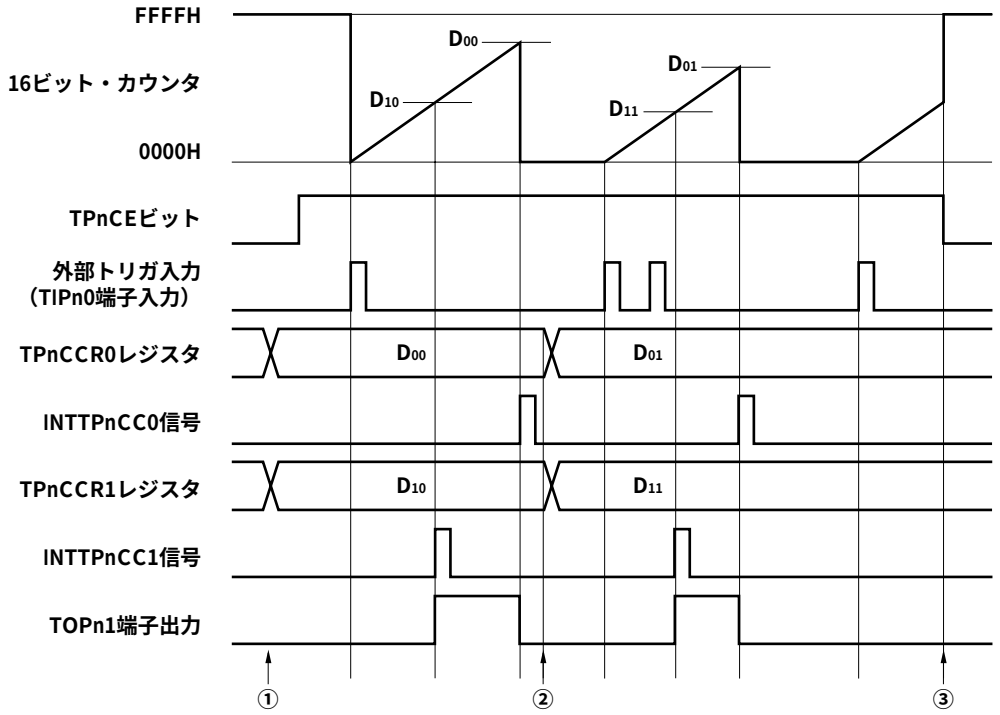
注意　ワンショット・パルス出力モードにおいて，TPnCCR1レジスタの設定値がTPnCCR0レジスタより大きい場合，ワンショット・パルスは出力しません。

備考1.　TMPnI/O制御レジスタ1（TPnIOC1），TMPnオプション・レジスタ0（TPnOPT0）は，ワンショット・パルス出力モードでは使用しません。

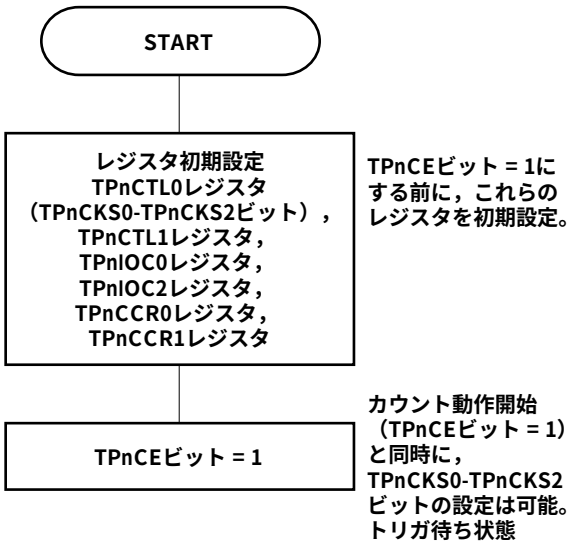
2.　n = 0-8

(1)　ワンショット・パルス出力モード動作フロー

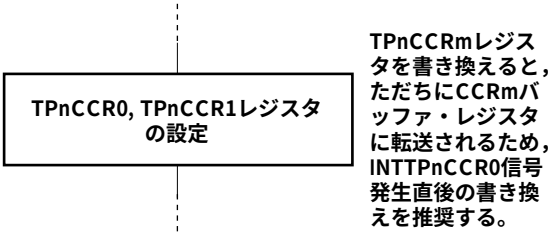
図7－23　ワンショット・パルス出力モード使用時のソフトウエア処理フロー



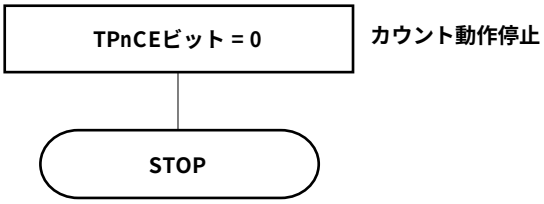
① カウント動作開始フロー



② TPnCCR0, TPnCCR1レジスタ設定変更フロー



③ カウント動作停止フロー



備考　n = 0-8

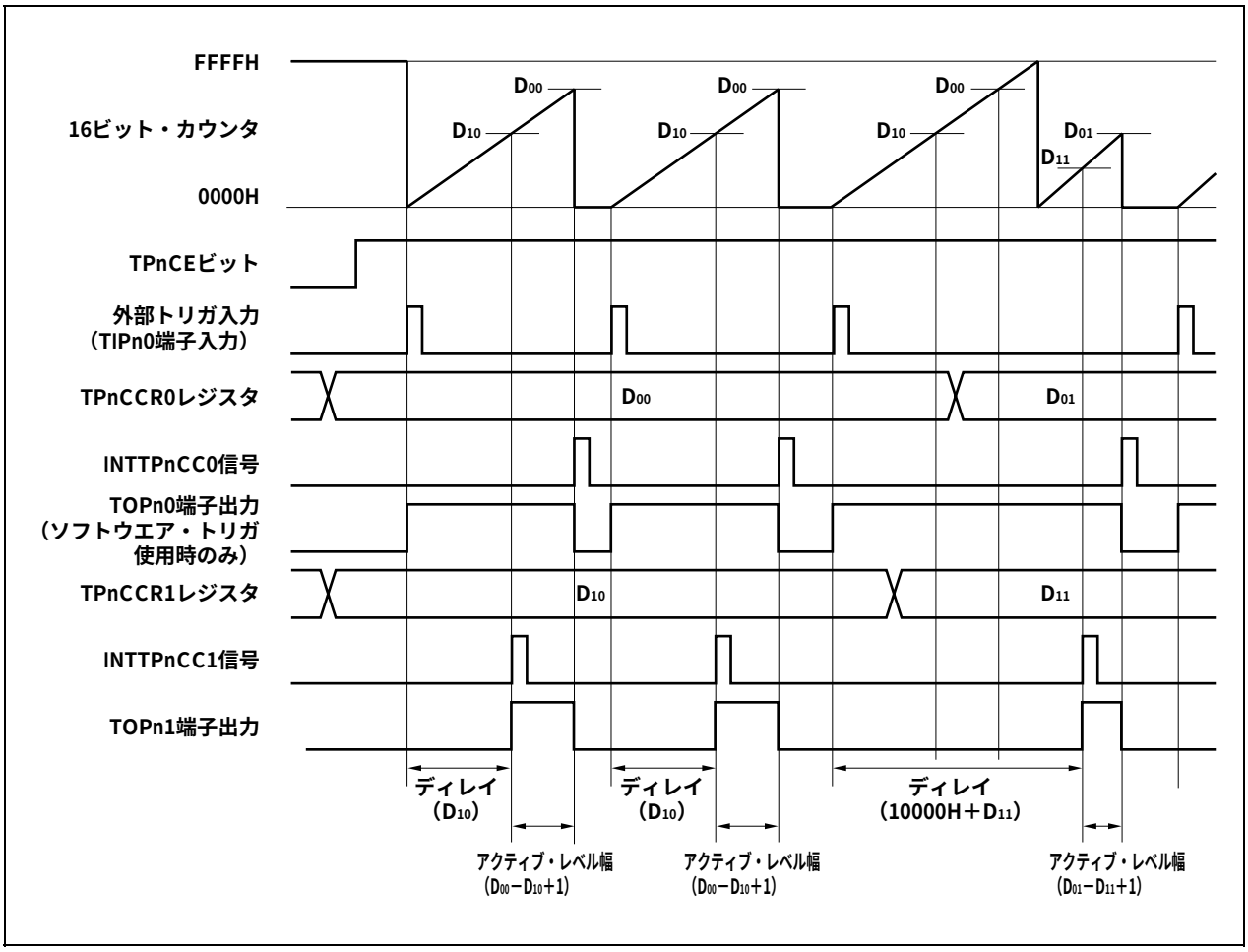
m = 0, 1

(2) ワンショット・パルス出力モード動作タイミング

(a) TPnCCRmレジスタの書き換えに関する注意事項

TPnCCRmレジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。

カウント動作中にTPnCCRmレジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。



TPnCCR0レジスタをD_{00}からD_{01}に，TPnCCR1レジスタをD_{10}からD_{11}に書き換える場合において，D_{00}＞D_{01}, D_{10}＞D_{11}の状態で，16ビット・カウンタのカウント値がD_{11}よりも大きくD_{10}よりも小さい状態のときTPnCCR1レジスタを書き換え，カウント値がD_{01}よりも大きくD_{00}よりも小さい状態でTPnCCR0レジスタを書き換えた場合，書き換えたタイミングで，それぞれの設定値は反映されてカウント値と比較されるために，カウント値はFFFFHまでカウント動作を行い，その後，0000Hから再度カウント・アップを行います。そして，D_{11}との一致でINTTPnCC1信号を発生してTOPn1端子出力をアクティブ・レベルにし，D_{01}との一致でINTTPnCC0信号を発生してTOPn1端子出力をインアクティブにしてカウント動作を停止します。

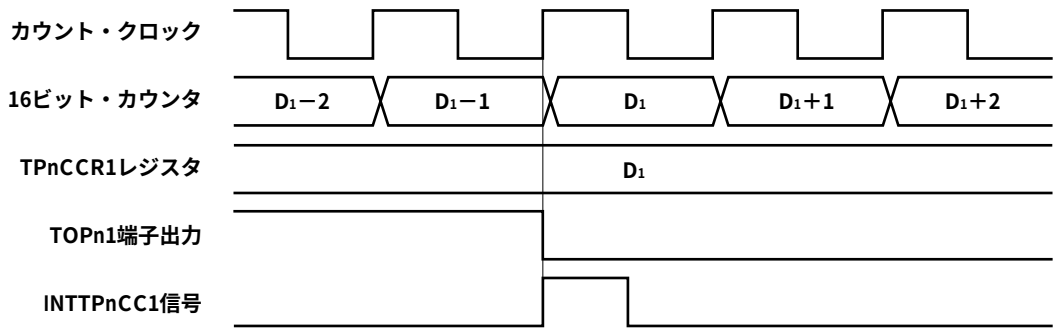
したがって，本来期待しているワンショット・パルス出力に対し，ディレイ期間またはアクティブ期間が異なるパルスを出力してしまう場合があります。

備考　n = 0-8

m = 0, 1

(b) コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC1）の発生タイミング

ワンショット・パルス出力モードにおけるINTTPnCC1信号の発生タイミングは，ほかのINTTPnCC1信号と異なり，16ビット・カウンタのカウント値とTPnCCR1レジスタの値との一致と同時に発生します。



備考　n = 0-8

通常，INTTPnCC1信号は，16ビット・カウンタのカウント値とTPnCCR1レジスタの値との一致後，次のカウント・アップに同期して発生します。

しかし，ワンショット・パルス出力モードの場合，1クロック早いタイミングで発生します。これは，TOPn1端子出力の変化タイミングとあわせるために，タイミングを変更しているからです。

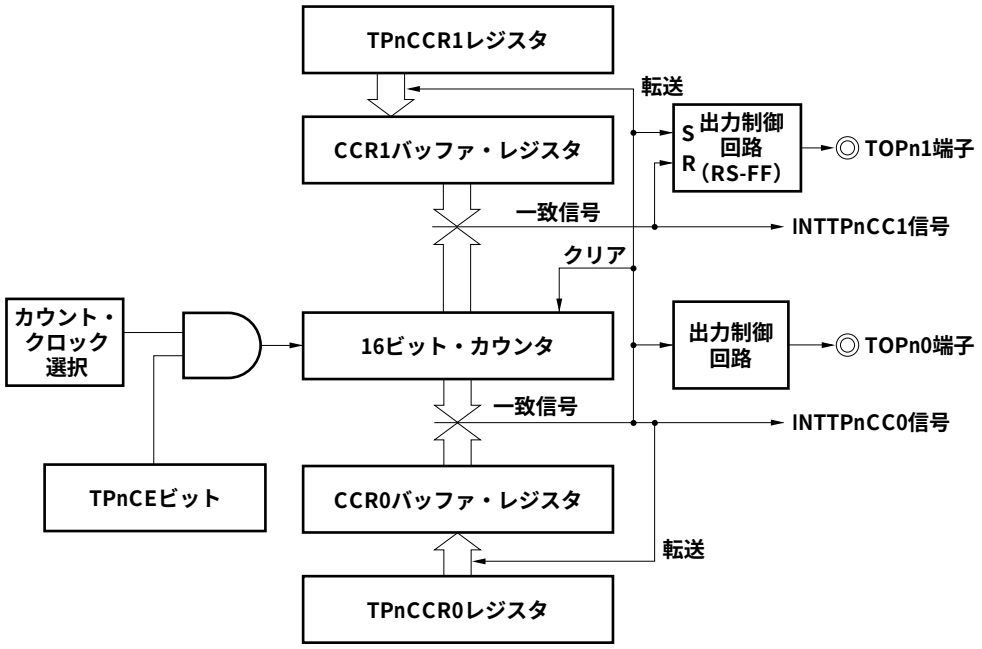
備考　n = 0-8

7. 5. 5　PWM出力モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 100）

PWM出力モードは，TPnCTL0.TPnCEビットをセット（1）することで，TOPn1端子からPWM波形を出力します。

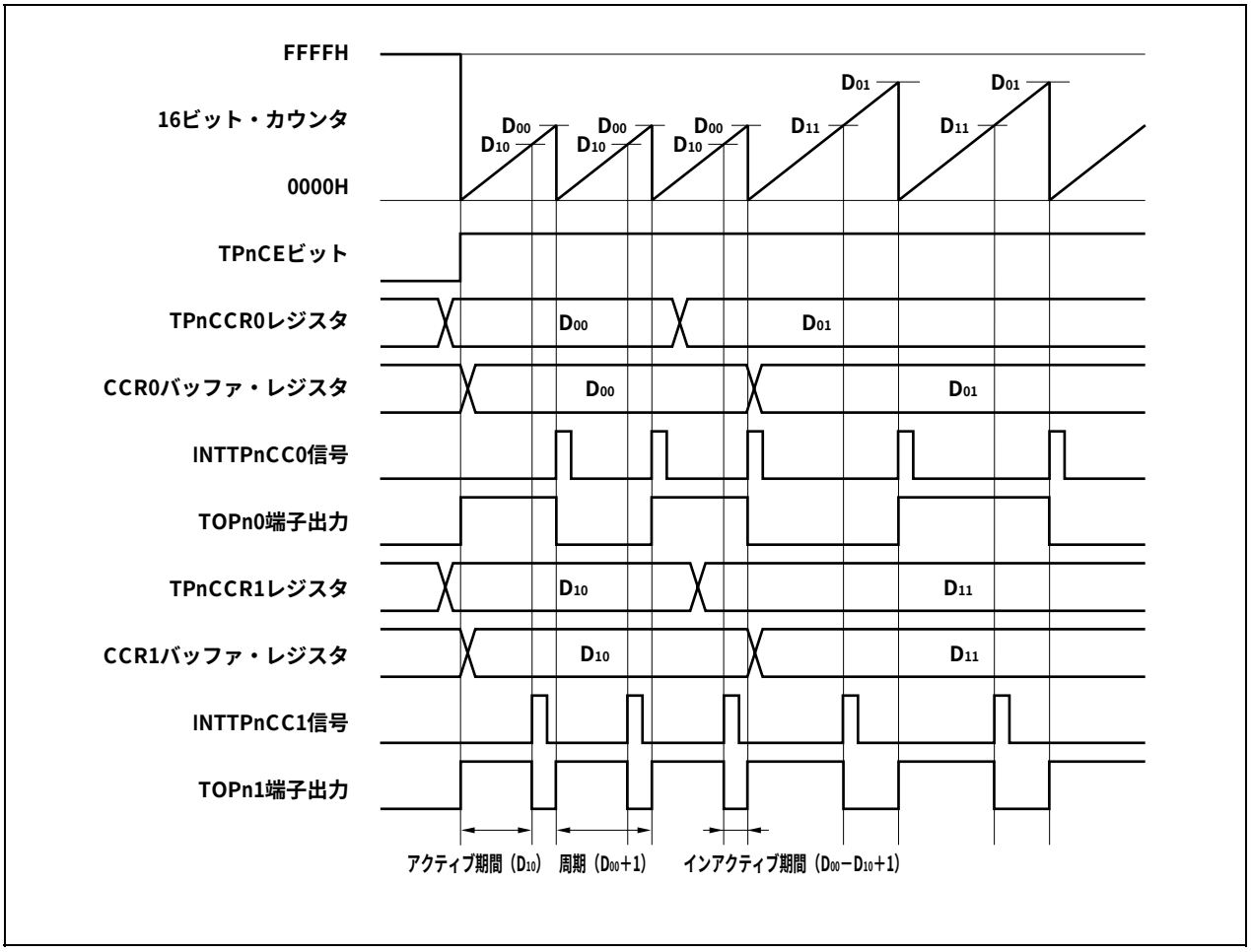
また，TOPn0端子から，PWM波形の1周期を半周期とするパルスを出力します。

図7－24　PWM出力モードの構成図



備考　n = 0-8

図7－25　PWM出力モードの基本タイミング



TPnCEビットをセット（1）することで，16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアして同時にカウント動作を開始し，TOPn1端子からPWM波形を出力します。

PWM波形のアクティブ・レベル幅，周期，およびデューティは次のように求められます。

アクティブ・レベル幅 ＝ （TPnCCR1レジスタの設定値）×カウント・クロック周期

周期 ＝ （TPnCCR0レジスタの設定値＋1）×カウント・クロック周期

デューティ ＝ （TPnCCR1レジスタの設定値）／（TPnCCR0レジスタの設定値＋1）

動作中にTPnCCRmレジスタを書き換えることにより，PWM波形を変更できます。書き換えた値は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致し，16ビット・カウンタが0000Hにクリアされるタイミングで反映されます。

コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC0）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致した次のカウント・タイミングで発生し，同時に16ビット・カウンタを0000Hにクリアします。コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC1）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR1バッファ・レジスタの値が一致するタイミングで発生します。

TPnCCRmレジスタに設定した値は，16ビット・カウンタのカウント値とCCRmバッファ・レジスタの値が一致し，16ビット・カウンタを0000Hにクリアするタイミングで CCRmバッファ・レジスタに転送されます。

備考　n = 0-8, m = 0, 1

図7－26　PWM出力モード動作時のレジスタ設定内容（1/2）

（a）TMPn制御レジスタ0（TPnCTL0）

	TPnCE					TPnCKS2	TPnCKS1	TPnCKS0
TPnCTL0	0/1	0	0	0	0	0/1	0/1	0/1

カウント・クロックの選択注1

0：カウント動作停止
1：カウント動作許可

（b）TMPn制御レジスタ1（TPnCTL1）

		TPnEST	TPnEEE			TPnMD2	TPnMD1	TPnMD0
TPnCTL1	0	0	0/1	0	0	1	0	0

1, 0, 0：
PWM出力モード

0：TPnCKS0-TPnCKS2ビットで選択したカウント・クロックで動作
1：外部イベント・カウント入力信号でカウント動作

（c）TMPnI/O制御レジスタ0（TPnIOC0）

					TPnOL1	TPnOE1	TPnOL0	TPnOE0
TPnIOC0	0	0	0	0	0/1	0/1	0/1注2	0/1注2

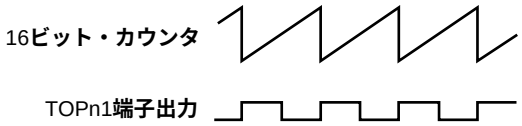
0：TOPn0端子出力禁止
1：TOPn0端子出力許可

TOPn0端子の動作禁止状態での出力レベルの設定
0：ロウ・レベル
1：ハイ・レベル

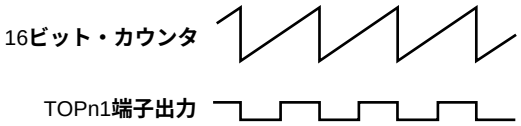
0：TOPn1端子出力禁止
1：TOPn1端子出力許可

TOPn1端子出力のアクティブ・レベル指定
0：ハイ・アクティブ
1：ロウ・アクティブ

・TPnOL1ビット = 0の場合



・TPnOL1ビット = 1の場合



注1.　TPnCTL1.TPnEEEビット = 1のときは設定が無効になります。
　　2.　PWM出力モードでTOPn0端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。

図7－26　PWM出力モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

（d）TMPnI/O制御レジスタ2（TPnIOC2）

					TPnEES1	TPnEES0	TPnETS1	TPnETS0
TPnIOC2	0	0	0	0	0/1	0/1	0	0

外部イベント・カウント入力有効エッジの選択

（e）TMPnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TPnCNT）

TPnCNTレジスタをリードすることで，16ビット・カウンタの値をリードできます。

（f）TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ0, 1（TPnCCR0, TPnCCR1）

TPnCCR0レジスタにD_0を設定し，TPnCCR1レジスタにD_1を設定した場合，

PWM波形の周期 ＝ （D_0＋1）×カウント・クロック周期

PWM波形のアクティブ・レベル幅 ＝ D_1×カウント・クロック周期

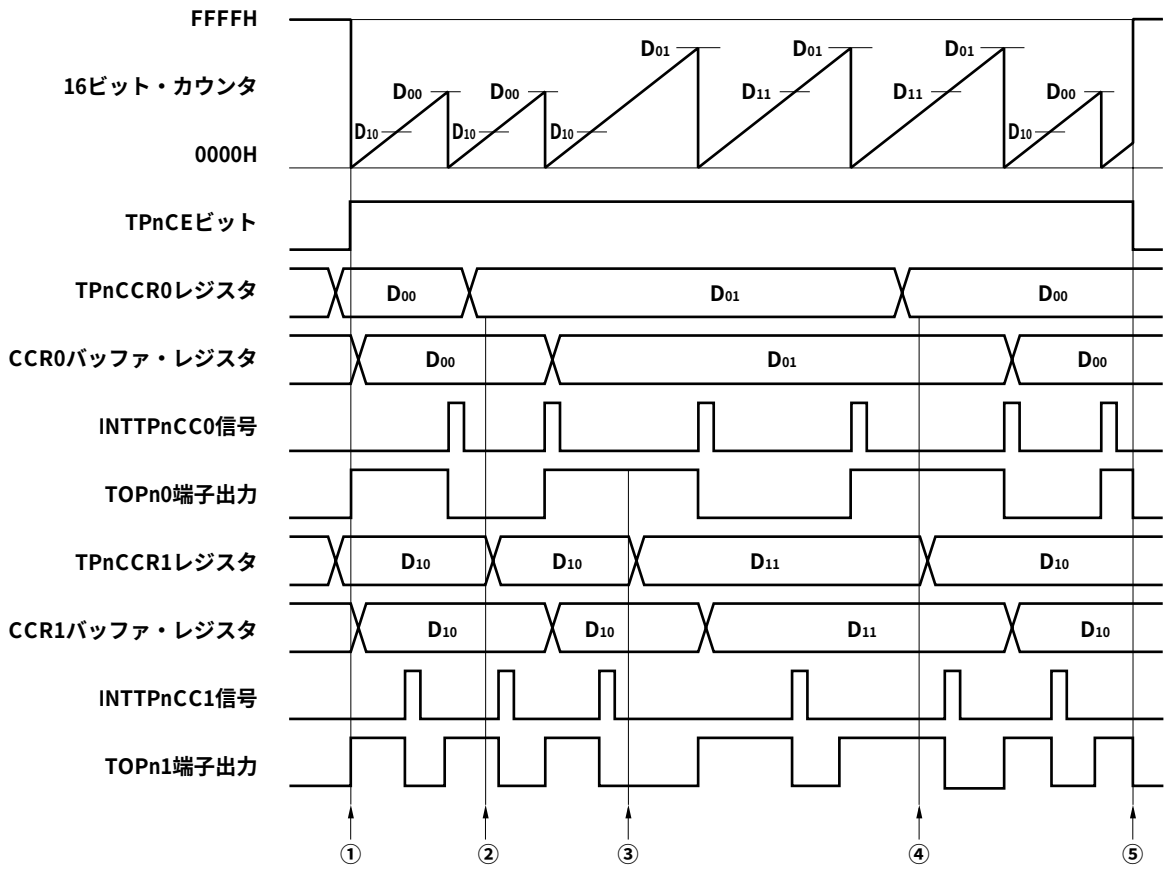
となります。

備考1.　TMPnI/O制御レジスタ1（TPnIOC1），TMPnオプション・レジスタ0（TPnOPT0）は，PWM出力モードでは使用しません。

2.　n = 0-8

（1）PWM出力モード動作フロー

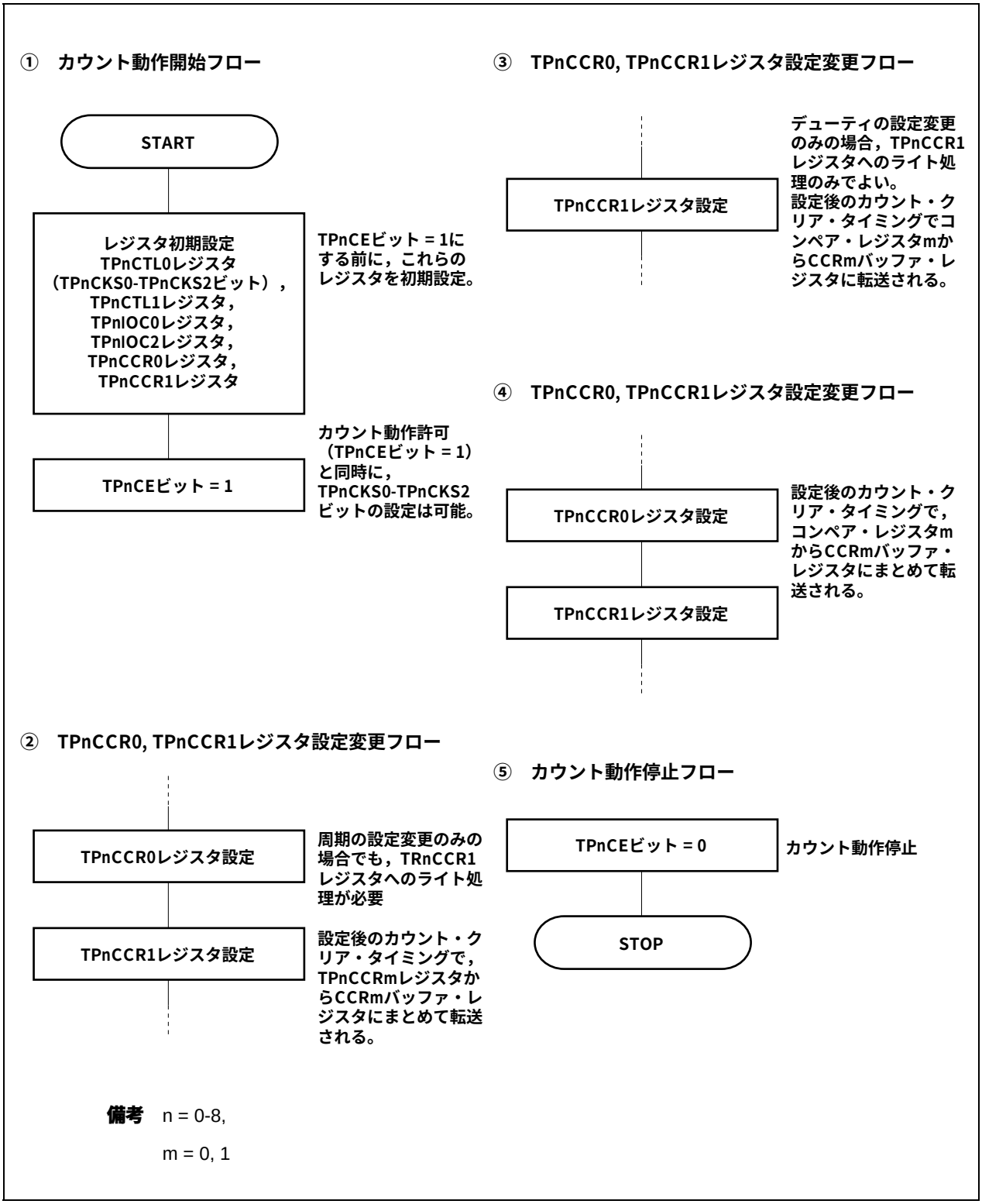
図7ー27　PWM出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（1/2）



備考　n = 0-8,

m = 0, 1

図7－27　PWM出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（2/2）



備考　n = 0-8,

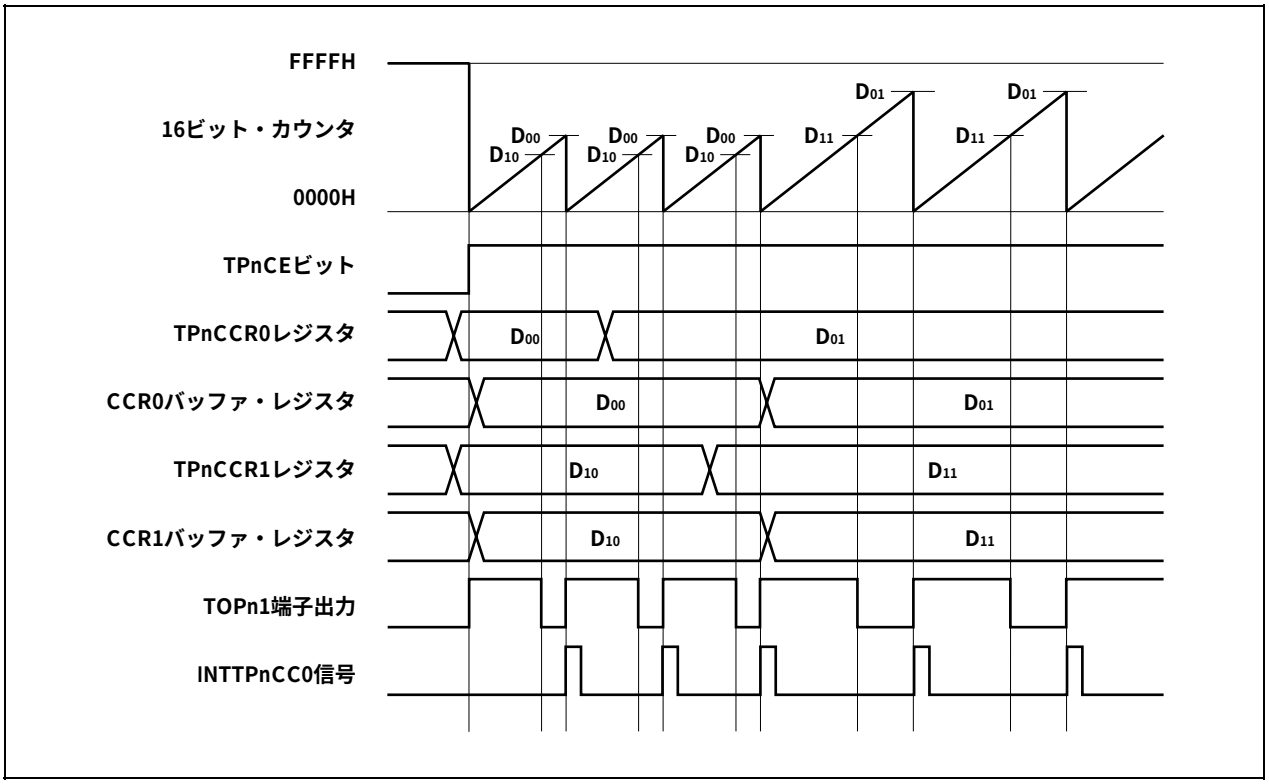
m = 0, 1

(2) PWM出力モード動作タイミング

(a) 動作中のパルス幅の変更

動作中にPWM波形を変更する場合には，最後にTPnCCR1レジスタにライトしてください。

TPnCCR1レジスタにライト後，再度TPnCCRmレジスタの書き換えを行う場合には，INTTPnCC1信号を検出後に書き換えてください。



TPnCCRmレジスタからCCRmバッファ・レジスタへのデータ転送を行うためには，TPnCCR1レジスタに対してライトする必要があります。

このとき，PWM波形の周期とアクティブ・レベル幅の両方を変更する場合には，まずTPnCCR0レジスタに周期を設定し，そのあとでTPnCCR1レジスタにアクティブ・レベル幅を設定してください。

PWM波形の周期だけを変更する場合には，まずTPnCCR0レジスタに周期を設定し，そのあとでTPnCCR1レジスタに同値をライトしてください。

PWM波形のアクティブ・レベル幅（デューティ）のみ変更する場合は，TPnCCR1レジスタのみの設定でかまいません。

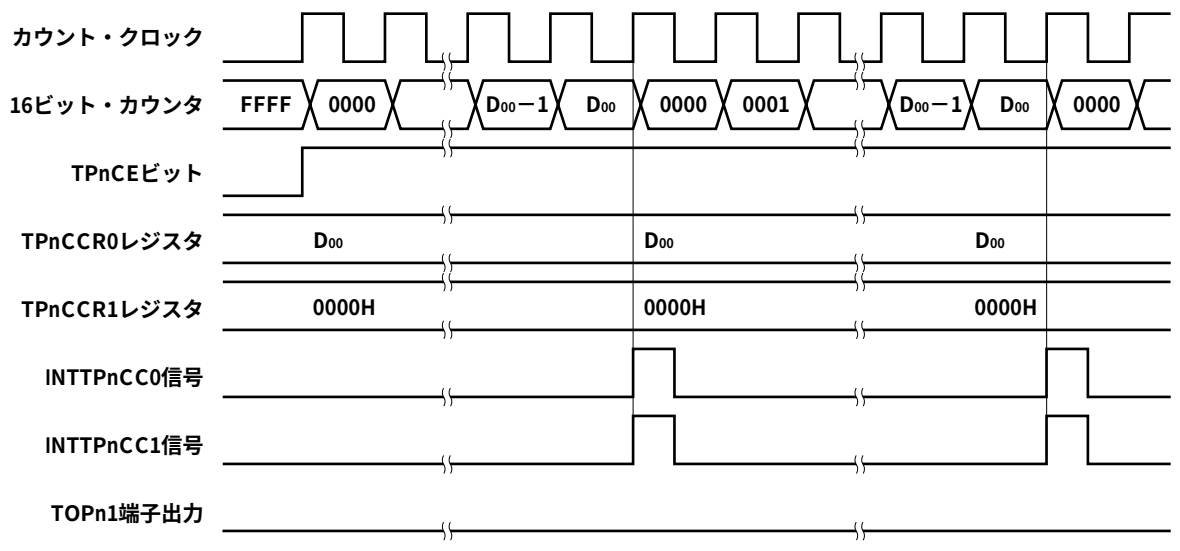
TPnCCR1レジスタにライトしたあと，16ビット・カウンタのクリア・タイミングに同期して，TPnCCRmレジスタに書き込まれた値がCCRmバッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタとのコンペア値となります。

また，一度TPnCCR1レジスタにライトしたあとで，再度TPnCCR0，またはTPnCCR1レジスタへのライトを行う場合は， INTTPnCC0信号の発生後に行ってください。これを守れない場合には，TPnCCRmレジスタからCCRmバッファ・レジスタへのデータ転送タイミングと，TPnCCRmレジスタの書き換えの競合により，CCRmバッファ・レジスタの値が不定値になる場合があります。

備考　n = 0-8, m = 0, 1

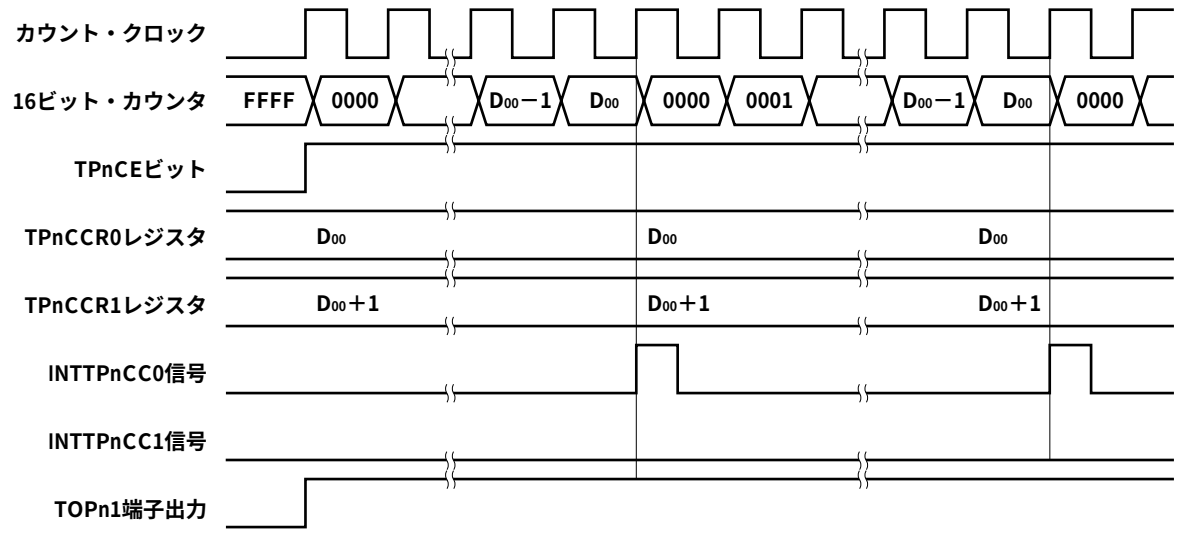
(b) PWM波形の0 %／100 %出力

0 %波形を出力するためには，TPnCCR1レジスタに対して0000Hを設定します。ただし，TPnCCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には，INTTPnCC1信号が定期的に発生します。



備考　n = 0-8

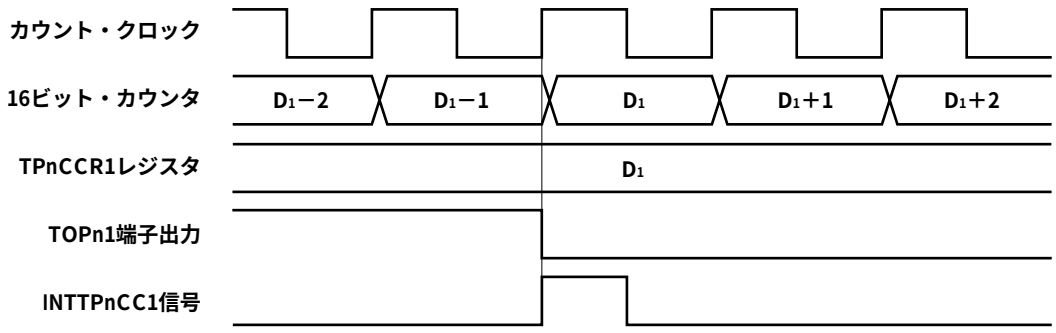
100 %波形を出力するためには，TPnCCR1レジスタに対して（TPnCCR0レジスタの設定値＋1）の値を設定してください。TPnCCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には，100 %出力はできません。



備考　n = 0-8

(c) コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCC1）の発生タイミング

PWM出力モードにおけるINTTPnCC1信号の発生タイミングは，ほかのINTTPnCC1信号と異なり，16ビット・カウンタのカウント値とTPnCCR1レジスタの値との一致と同時に発生します。



備考　n = 0-8

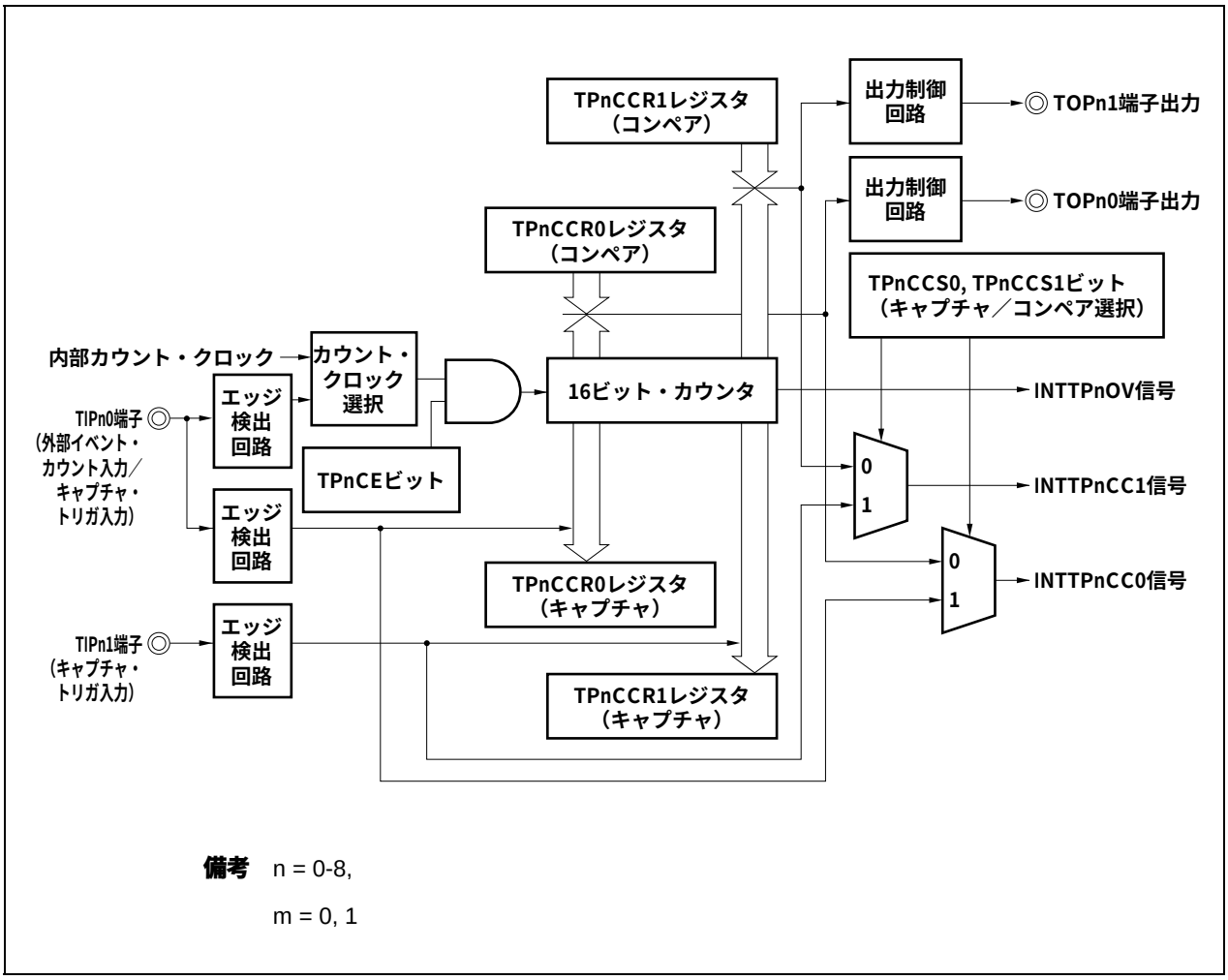
通常，INTTPnCC1信号は，16ビット・カウンタのカウント値とTPnCCR1レジスタの値との一致後，次のカウント・アップに同期して発生します。

しかし，PWM出力モードの場合，1クロック早いタイミングで発生します。これは，TOPn1端子出力の変化タイミングとあわせるために，タイミングを変更しているからです。

7. 5. 6　フリー・ランニング・タイマ・モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 101）

フリー・ランニング・タイマ・モードは，TPnCTL0.TPnCEビットをセット（1）することでカウント動作を開始します。このときのTPnCCRmレジスタの動作は，TPnOPT0.TPnCCS0，TPnCCS1ビットの設定により，コンペア・レジスタまたはキャプチャ・レジスタの選択ができます。

図7－28　フリー・ランニング・タイマ・モードの構成図



備考　n = 0-8,

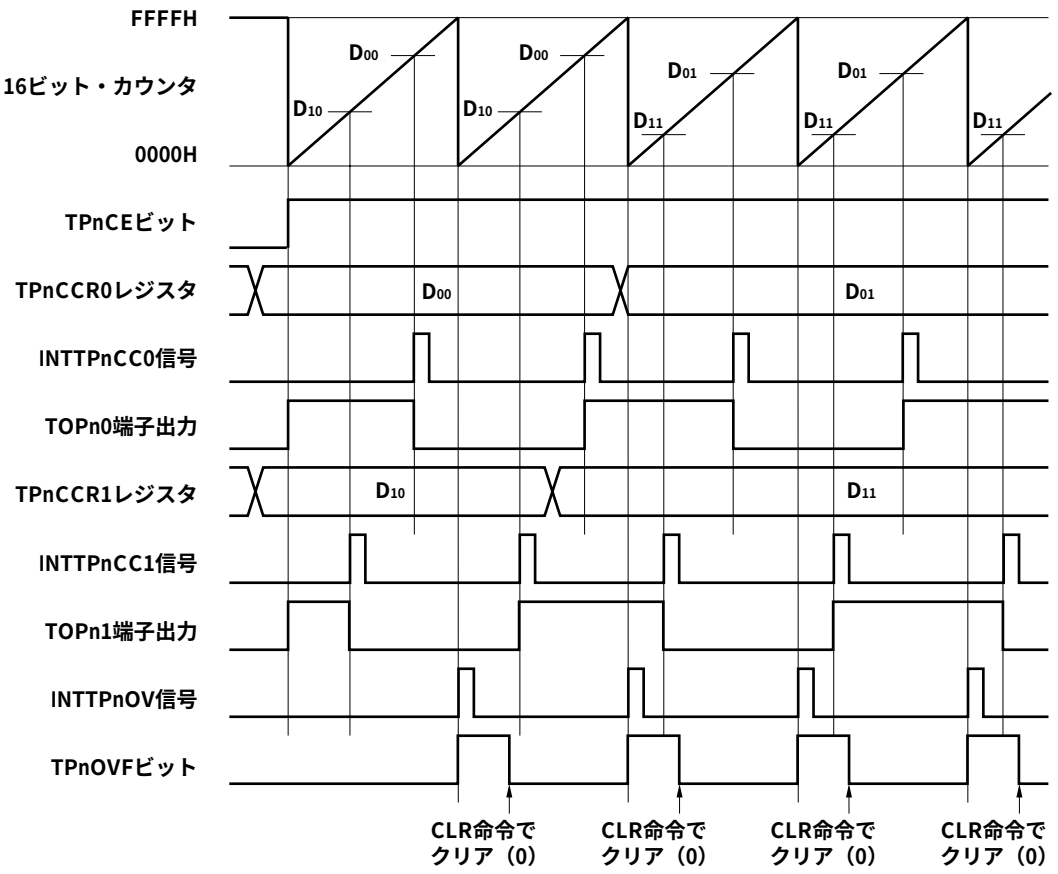
m = 0, 1

TPnCEビットをセット（1）することで，カウント動作を開始し，TOPn0, TOPn1端子出力を反転します。その後，16ビット・カウンタのカウント値とTPnCCRmレジスタの設定値が一致すると，コンペア一致割り込み要求信号（INTTPnCCm）を発生し，TOPnm端子出力を反転します。

16ビット・カウンタは，カウント・クロックに同期してカウント動作を続け，FFFFHまでカウントすると，次のクロックでオーバフロー割り込み要求信号（INTTPnOV）を発生するとともに，0000Hにクリアしカウント動作を継続します。また，このときオーバフロー・フラグ（TPnOPT0.TPnOVFビット）もセット（1）されます。オーバフロー・フラグは，ソフトウエアでCLR命令を実行してクリア（0）してください。

TPnCCRmレジスタは，カウント動作中の書き換えを許可しています。書き換えた場合，随時書き換えた値が反映され，カウント値と比較されます。

図7－29　フリー・ランニング・タイマ・モードの基本タイミング（コンペア機能）



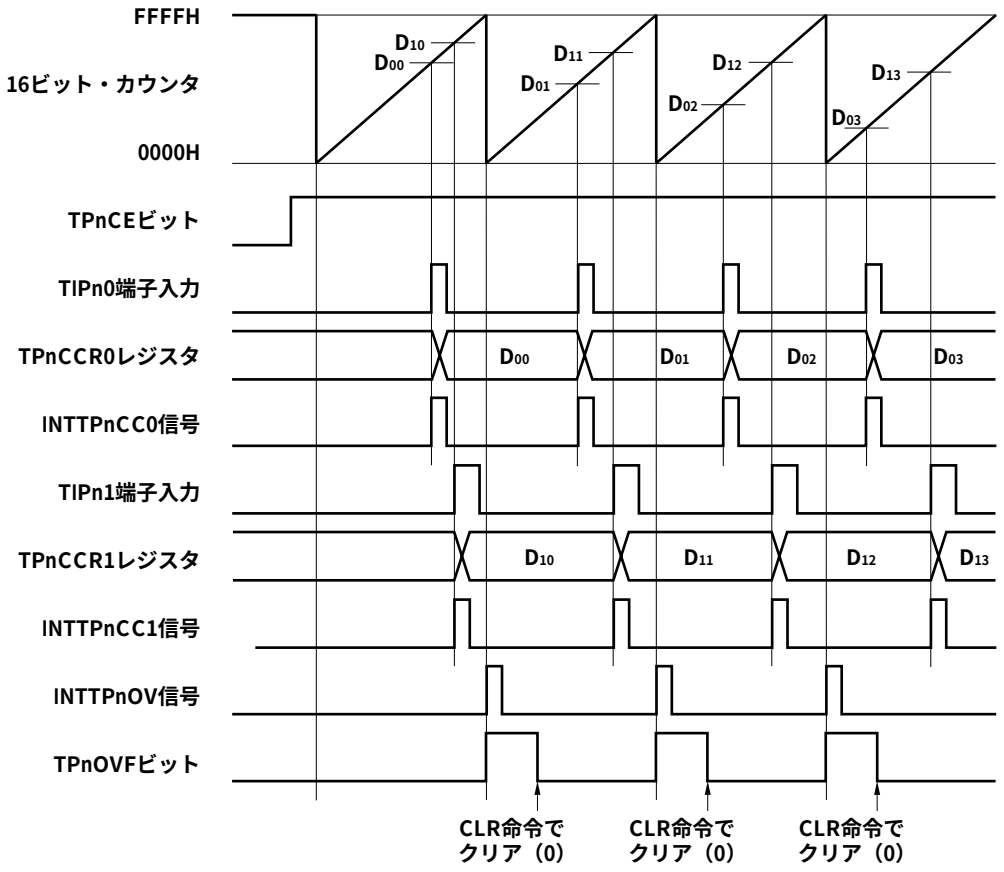
備考　n = 0-8,

m = 0, 1

TPnCEビットをセット（1）することで，カウント動作を開始します。その後，TIPnm端子入力の有効エッジを検出することにより，16ビット・カウンタのカウント値をTPnCCRmレジスタに格納し，キャプチャ割り込み要求信号（INTTPnCCm）を発生します。

16ビット・カウンタは，カウント・クロックに同期してカウント動作を続け，FFFFHまでカウントすると，次のクロックでオーバフロー割り込み要求信号（INTTPnOV）を発生するとともに，0000Hにクリアしカウント動作を継続します。また，このときオーバフロー・フラグ（TPnOPT0.TPnOVFビット）もセット（1）されます。オーバフロー・フラグは，ソフトウエアでCLR命令を実行してクリア（0）してください。

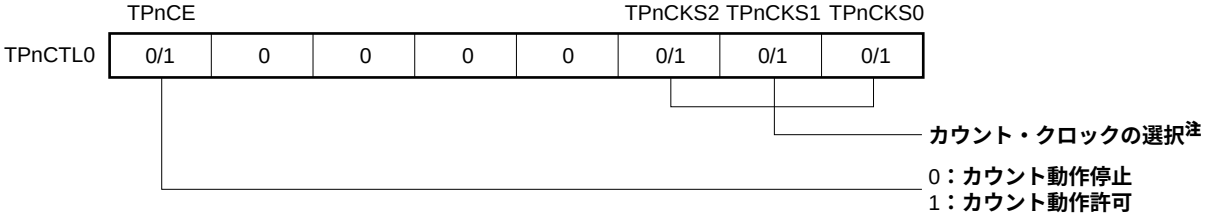
図7－30　フリー・ランニング・タイマ・モードの基本タイミング（キャプチャ機能）



備考　n = 0-8

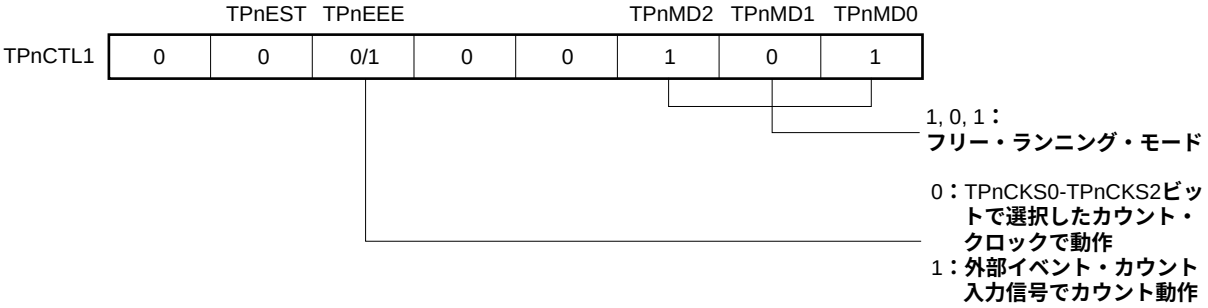
図7－31　フリー・ランニング・タイマモード動作時のレジスタ設定内容（1/2）

（a）TMPn制御レジスタ0（TPnCTL0）



注　TPnCTL1.TPnEEEビット = 1のときは設定が無効になります。

（b）TMPn制御レジスタ1（TPnCTL1）



（c）TMPnI/O制御レジスタ0（TPnIOC0）

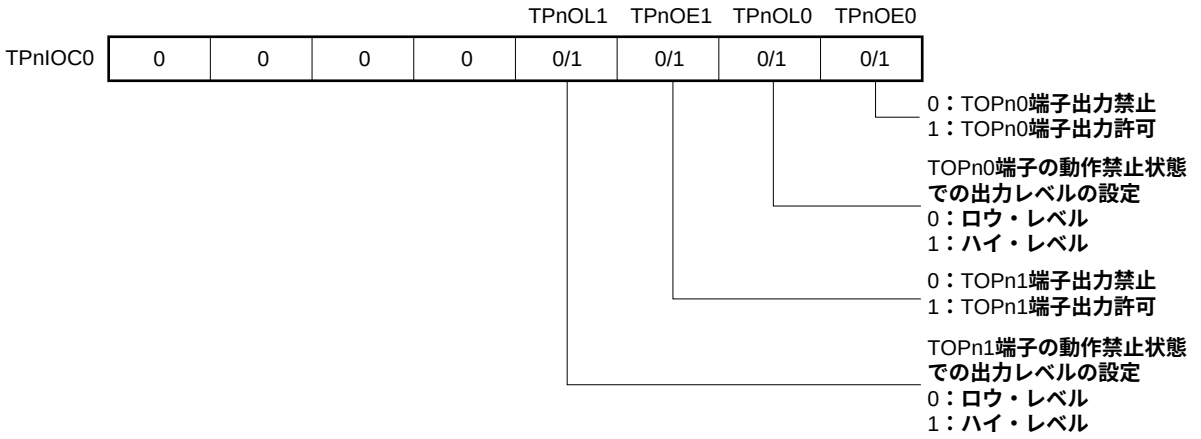
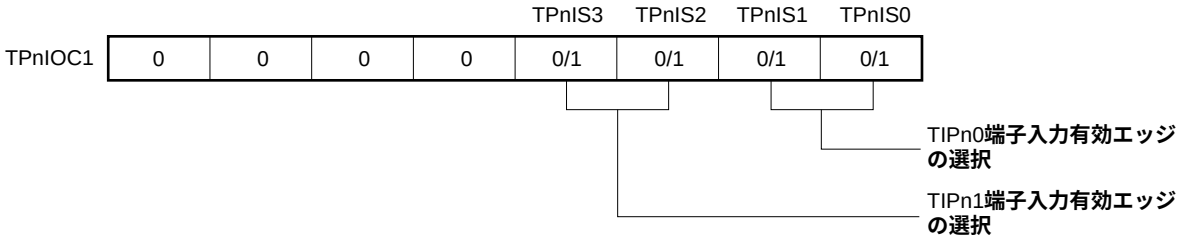
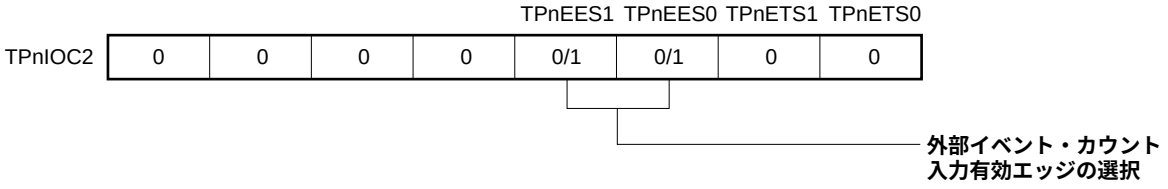


図7－31　フリー・ランニング・タイマ・モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

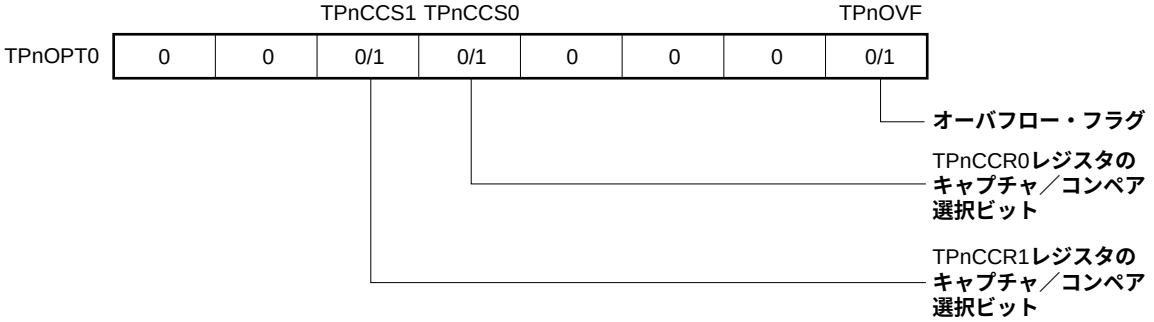
（d）TMPnI/O制御レジスタ1（TPnIOC1）



（e）TMPnI/O制御レジスタ2（TPnIOC2）



（f）TMPnオプション・レジスタ0（TPnOPT0）



（g）TMPnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TPnCNT）

TPnCNTレジスタをリードすることで，16ビット・カウンタの値をリードできます。

（h）TMPnキャプチャ／コンペア・レジスタ0, 1（TPnCCR0, TPnCCR1）

TPnOPT0.TPnCCSmビットの設定によりキャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタとして動作します。

キャプチャ・レジスタとして動作する場合には，TIPnm端子入力の有効エッジ検出により，16ビット・カウンタのカウント値を格納します。

コンペア・レジスタとして動作する場合には，TPnCCRmレジスタにD_mを設定した場合，カウンタが（D_m＋1）になるタイミングでINTTPnCCm信号を発生し，TOPnm端子出力を反転します。

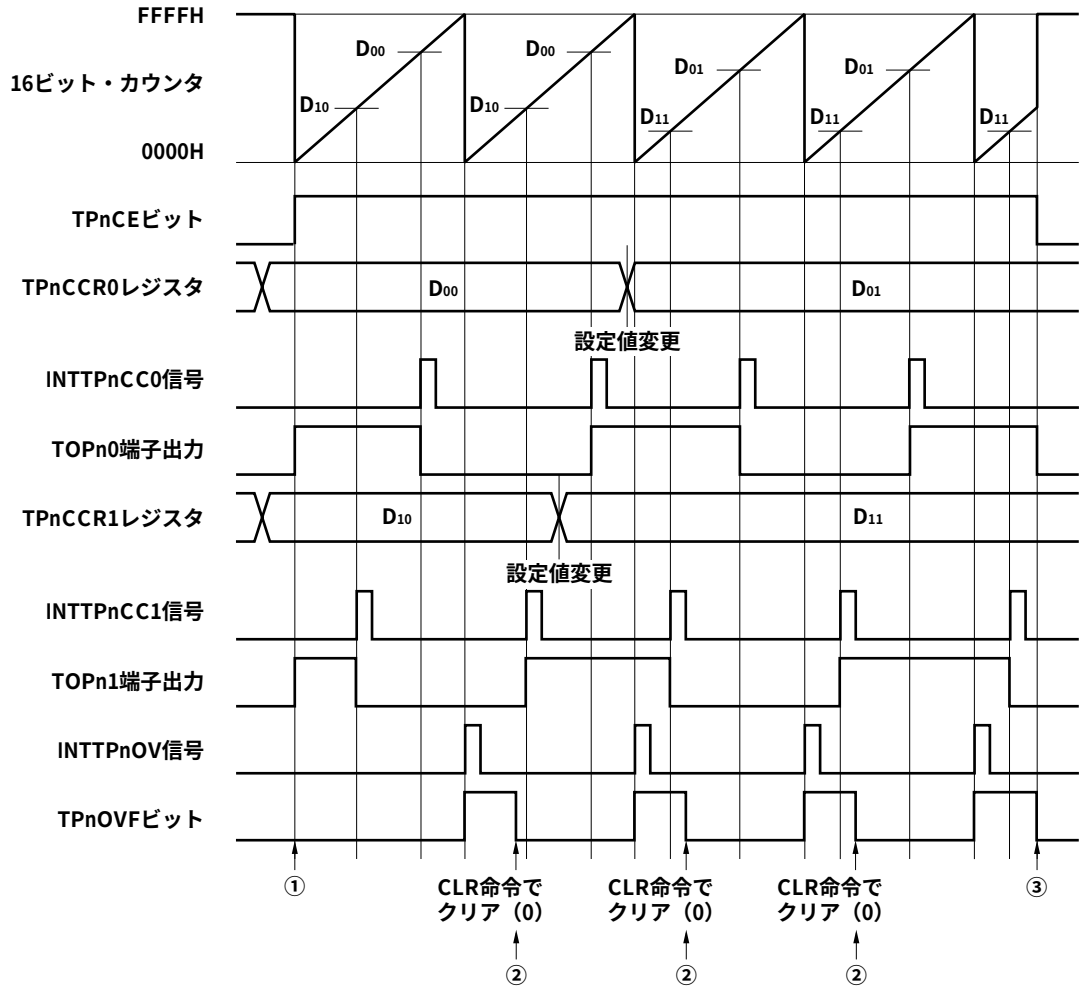
備考　n = 0-8,

m = 0, 1

(1) フリー・ランニング・タイマ・モード動作フロー

(a) キャプチャ／コンペア・レジスタをコンペア・レジスタとして使用した場合

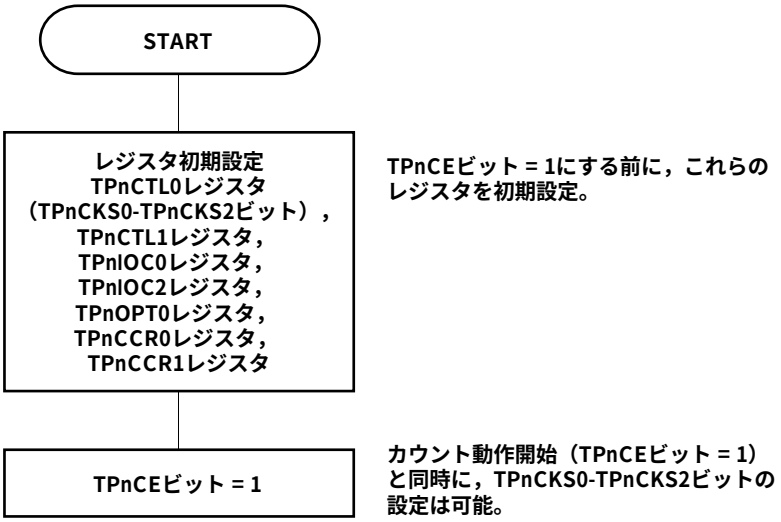
図7－32　フリー・ランニング・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー（コンペア機能）（1/2）



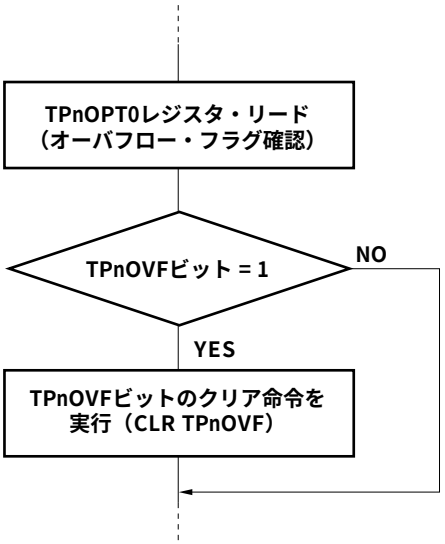
備考　n = 0-8

図7－32　フリー・ランニング・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー（コンペア機能）（2/2）

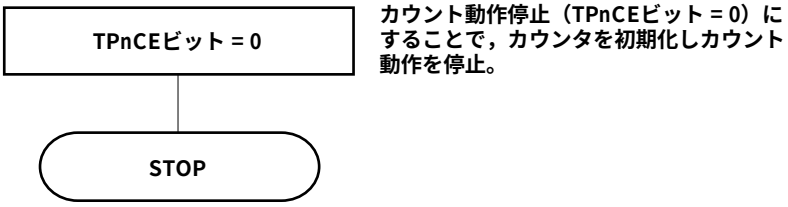
① カウント動作開始フロー



② オーバフロー・フラグ・クリア・フロー



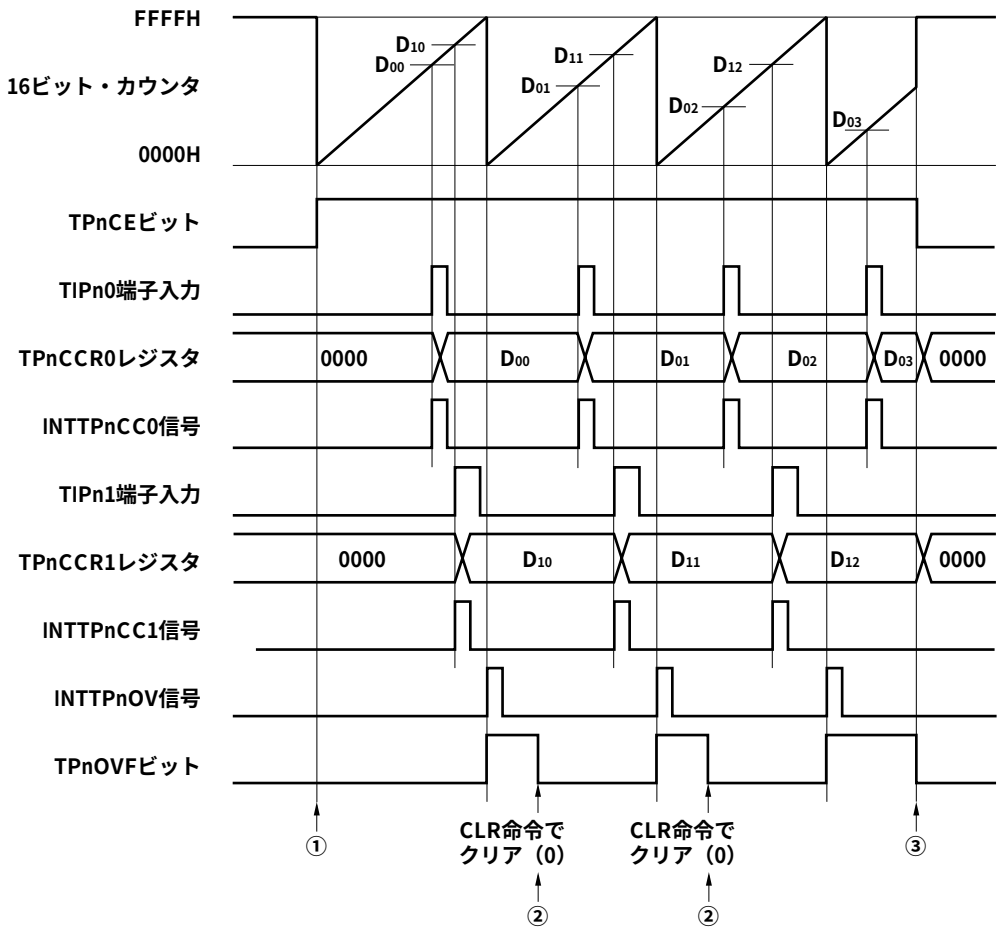
③ カウント動作停止フロー



備考　n = 0-8

(b) キャプチャ／コンペア・レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用する場合

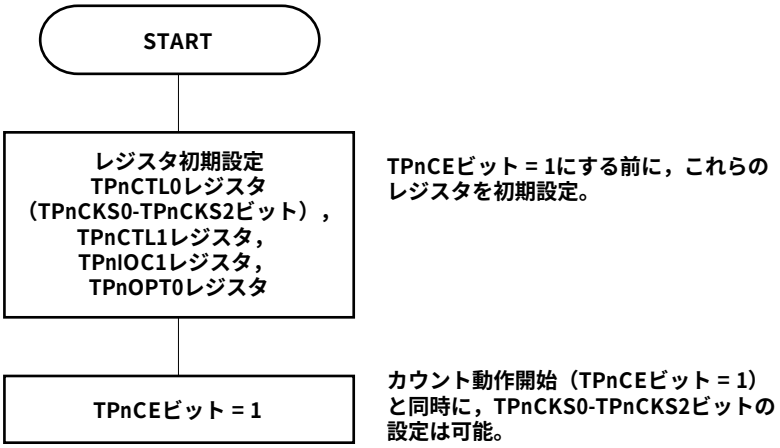
図7－33　フリー・ランニング・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー（キャプチャ機能）（1/2）



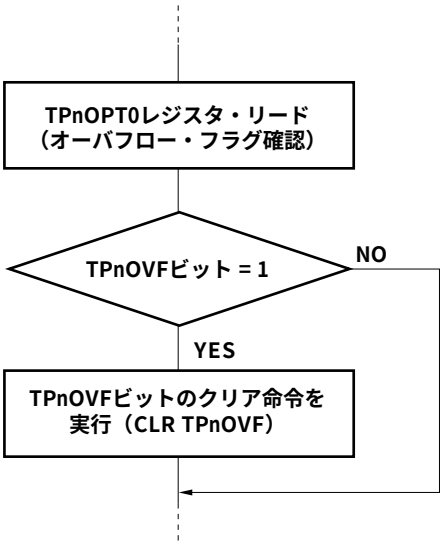
備考　n = 0-8

図7－33　フリー・ランニング・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー（キャプチャ機能）（2/2）

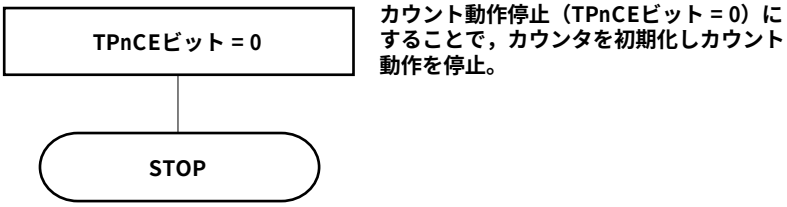
① カウント動作開始フロー



② オーバフロー・フラグ・クリア・フロー



③ カウント動作停止フロー

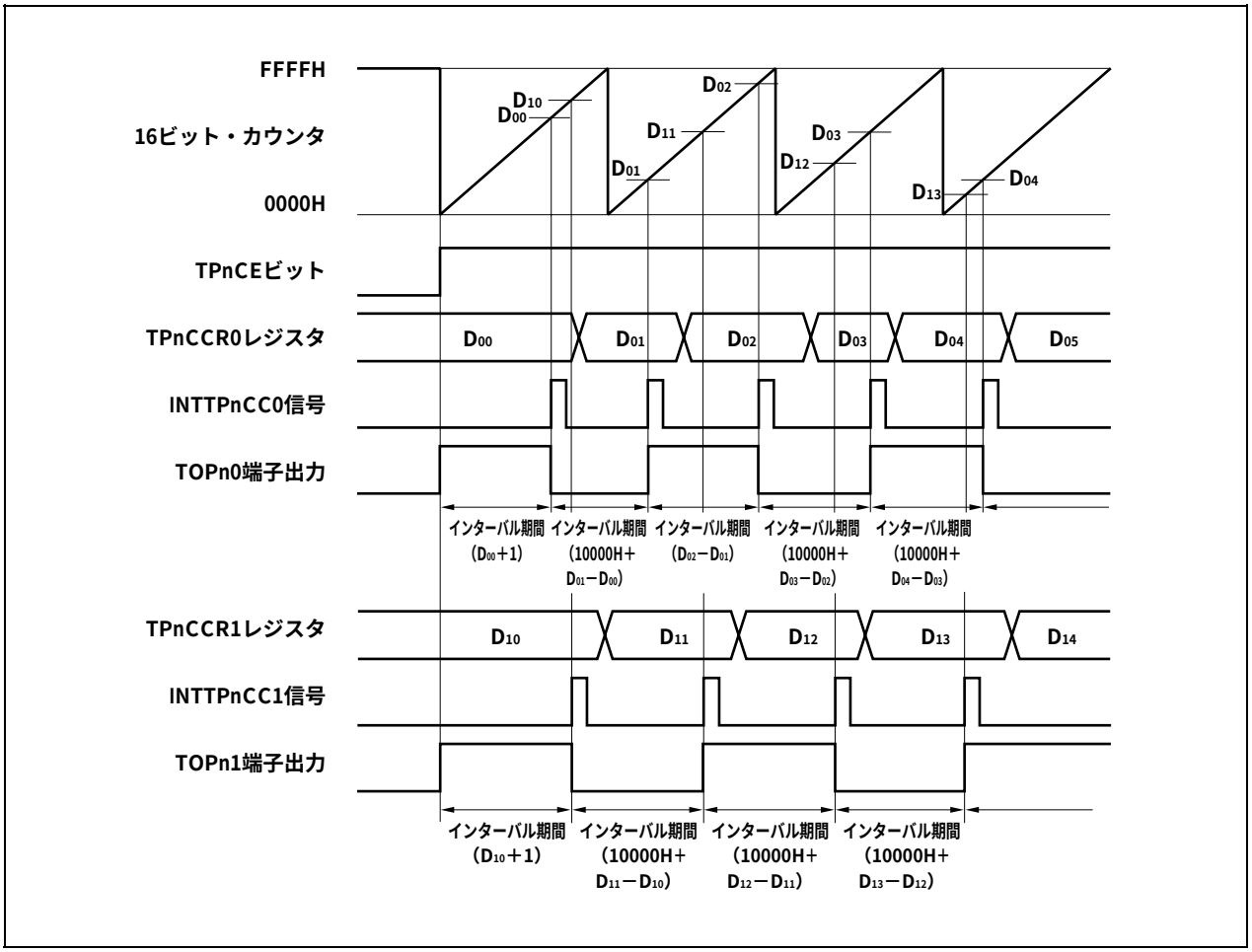


備考　n = 0-8

(2) フリー・ランニング・タイマ・モード動作タイミング

(a) コンペア・レジスタとして使用し，インターバル動作をさせる場合

TPnCCRmレジスタをコンペア・レジスタとして使用してインターバル動作をさせる場合，INTTPnCCm信号を検出するごとに，次の割り込み要求信号を発生させるためのコンペア値を設定するソフトウエア処理が必要となります。



フリー・ランニング・タイマ・モードでインターバル動作を行う場合，1チャネルで2つのインターバル時間を設定できます。

インターバル動作を行う場合，INTTPnCCm信号を検出したときの割り込み処理中に，対応するTPnCCRmレジスタの値を再設定する必要があります。

再設定する場合の設定値は，インターバル期間を“Dm”とすると，次のように求められます。

コンペア・レジスタ初期値：Dm−1

2回目以降のコンペア・レジスタ設定値 ＝ 前回の設定値＋Dm

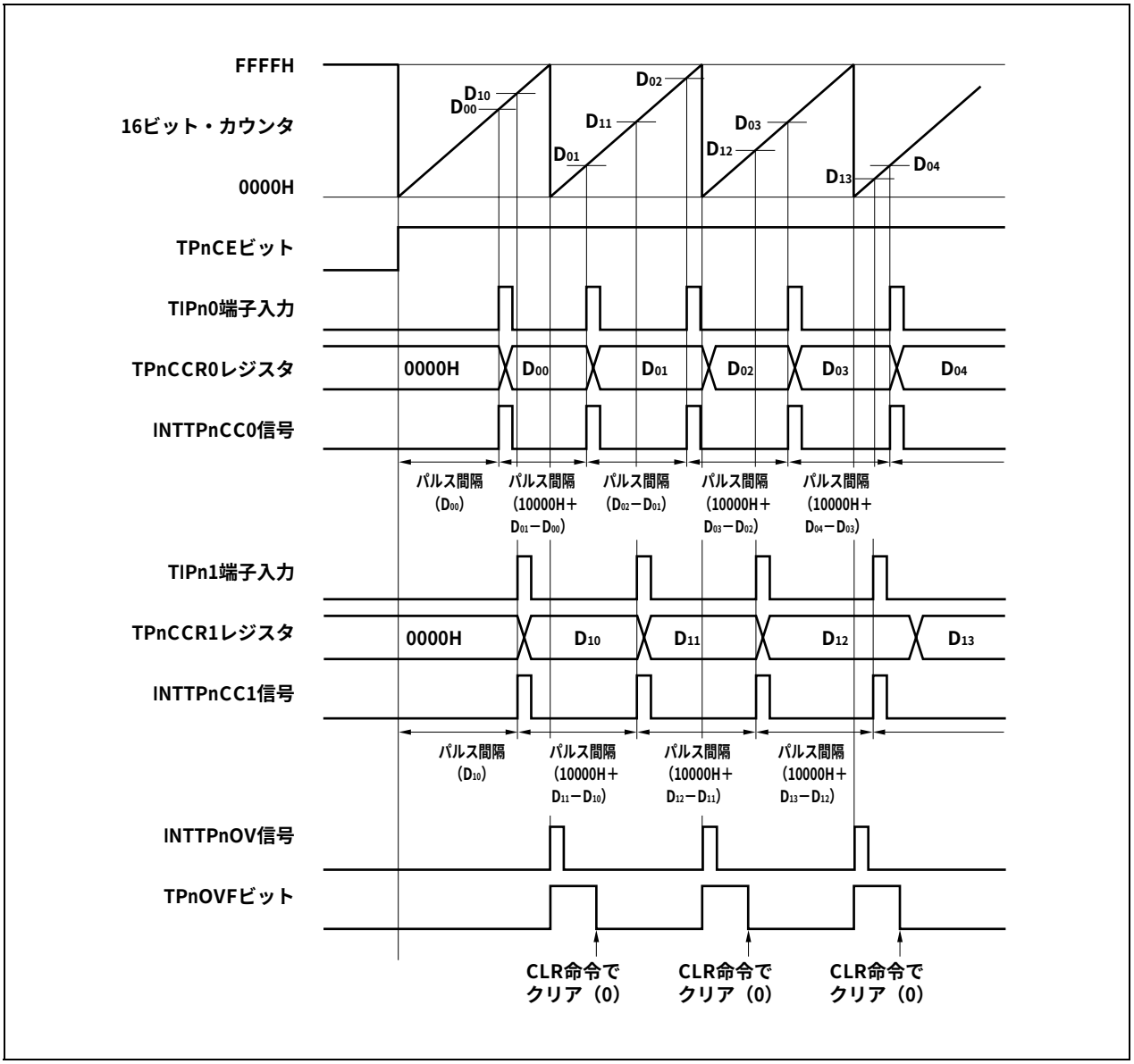
（演算結果がFFFFHよりも大きい場合には，演算結果から10000Hを引いた値を設定してください）

備考　n = 0-8,

m = 0, 1

(b) キャプチャ・レジスタとして使用し，パルス幅測定をさせる場合

TPnCCRm**レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用し，パルス幅測定を行う場合，**INTTPnCCm**信号を検出するごとに，キャプチャ・レジスタをリードし，間隔を算出するソフトウエア処理が必要となります。**



フリー・ランニング・タイマ・モードでパルス幅測定を行う場合，1**チャネルで**2**つのパルス幅測定ができます。**

パルス幅測定を行う場合，INTTPnCCm**信号に同期して**TPnCCRm**レジスタの値をリードし，同一キャプチャ・レジスタの前回のリード・データとの差分を求めることでパルス幅を算出できます。**

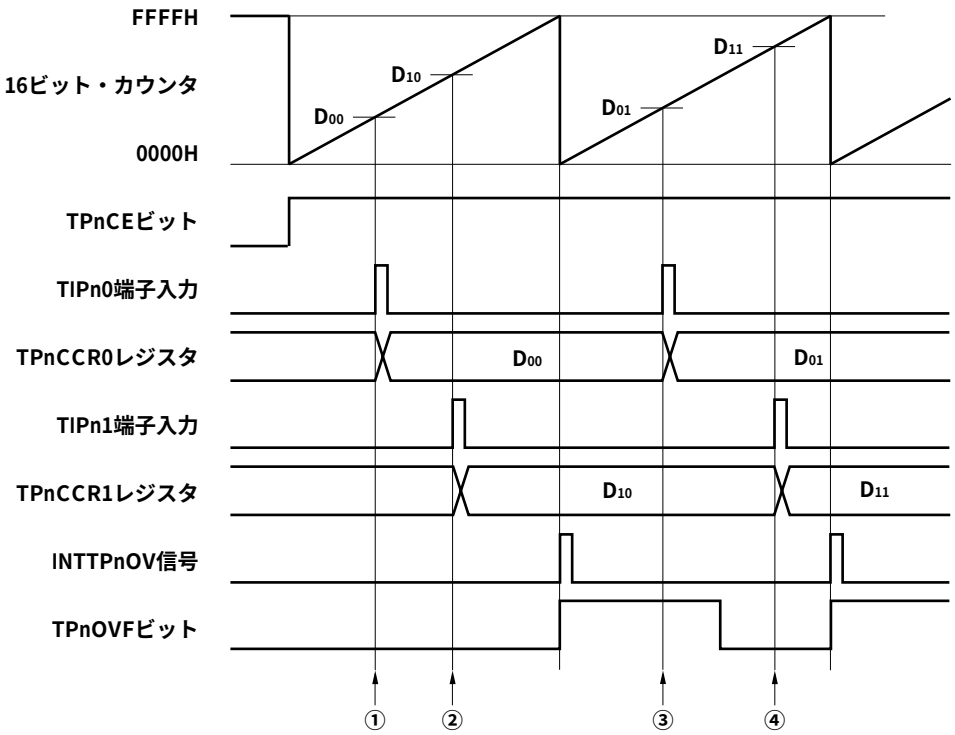
備考　n = 0-8,

m = 0, 1

(c) 2つのキャプチャ・レジスタを使用した場合のオーバフローの処理方法

2つのキャプチャを使用する場合には，オーバフロー・フラグの処理に注意が必要です。まず悪い例を，次に示します。

2つのキャプチャを使用するときの悪い例



フリー・ランニング・タイマ・モードで2つのパルス幅を測定する場合，次のような問題が起こる場合があります。

① TPnCCR0レジスタをリードする（TIPn0端子入力の初期値設定）。

② TPnCCR1レジスタをリードする（TIPn1端子入力の初期値設定）。

③ TPnCCR0レジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。→オーバフロー・フラグが“1”だった場合，クリア（0）する。
オーバフロー・フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{01}－D_{00}）で求められます。

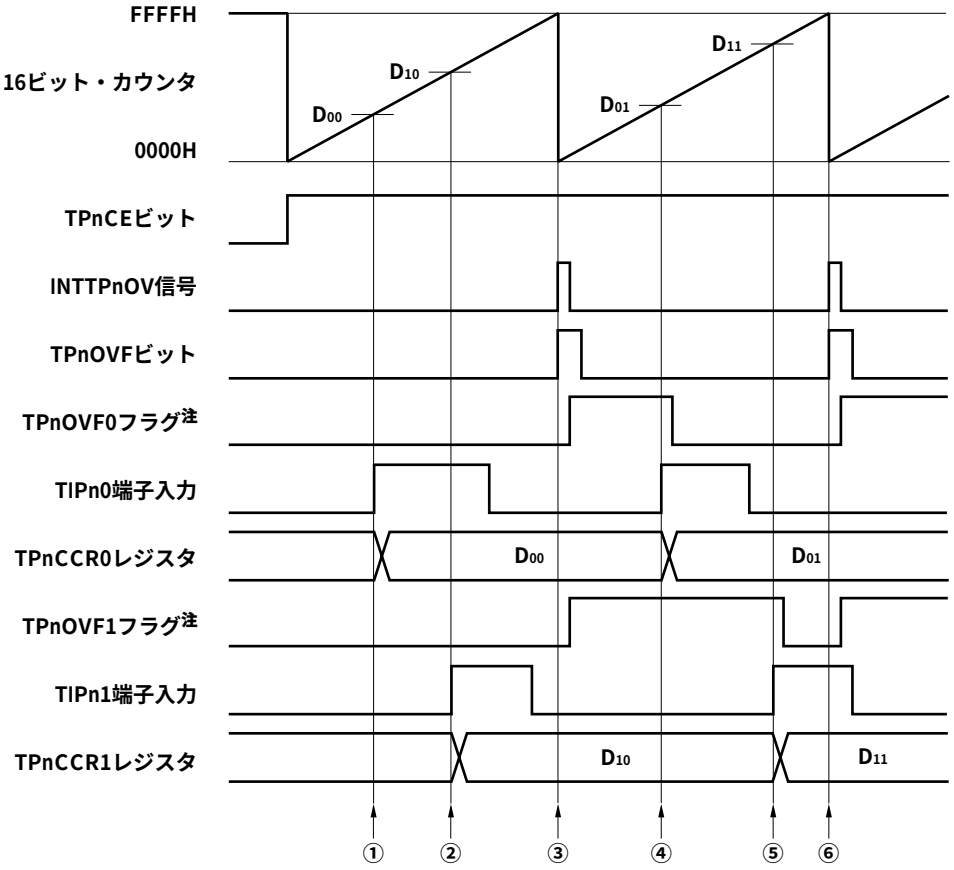
④ TPnCCR1レジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。→③でクリア（0）されているため，0がリードされます。
オーバフロー・フラグが“0”なので，パルス幅は（D_{11}－D_{10}）で求められます（NG）。

このように，2つのキャプチャを使用する場合に，1つのキャプチャでオーバフロー・フラグをクリア（0）してしまうと，もう1つのキャプチャは正しいパルス幅が求められない可能性があります。

2つのキャプチャを使用する場合には，ソフトウエアで対応してください。次に，ソフトウエア対応例を示します。

(1/2)

2つのキャプチャを使用するときの対応例（オーバフロー割り込みを使用）



注　TPnOVF0, TPnOVF1フラグは，ソフトウエアにより，内蔵RAM上に任意に設定したものです。

① TPnCCR0レジスタをリードする（TIPn0端子入力の初期値設定）。

② TPnCCR1レジスタをリードする（TIPn1端子入力の初期値設定）。

③ オーバフローが発生する。オーバフロー割り込み処理の中で，TPnOVF0, TPnOVF1フラグをセット（1）し，オーバフロー・フラグをクリア（0）する。

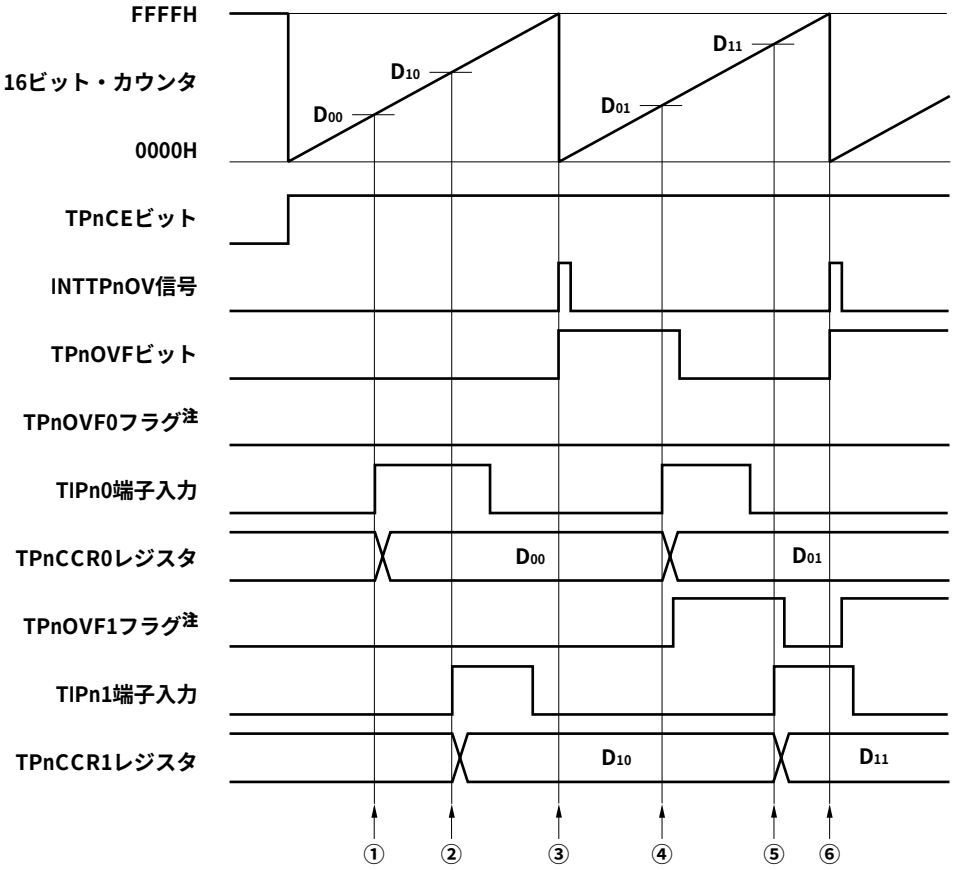
④ TPnCCR0レジスタをリードする。
TPnOVF0フラグをリードする。→TPnOVF0フラグが“1”だった場合，クリア（0）する。
TPnOVF0フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{01}－D_{00}）で求められます。

⑤ TPnCCR1レジスタをリードする。
TPnOVF1フラグをリードする。→TPnOVF1フラグが“1”だった場合，クリア（0）する（④でクリア（0）されたのはTPnOVF0フラグであり，TPnOVF1フラグは“1”のまま）。
TPnOVF1フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{11}－D_{10}）で求められます（OK）。

⑥ ③と同じです。

（2/2）

2つのキャプチャを使用するときの対応例（オーバフロー割り込みを使用しない）



注　TPnOVF0, TPnOVF1フラグは，ソフトウエアにより，内蔵RAM上に任意に設定したものです。

① TPnCCR0レジスタをリードする（TIPn0端子入力の初期値設定）。

② TPnCCR1レジスタをリードする（TIPn1端子入力の初期値設定）。

③ オーバフローが発生する。ソフトウエアでは何もしない。

④ TPnCCR0レジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。→オーバフロー・フラグが“1”だった場合，TPnOVF1フラグのみをセット（1）し，オーバフロー・フラグをクリア（0）する。
オーバフロー・フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{01}－D_{00}）で求められます。

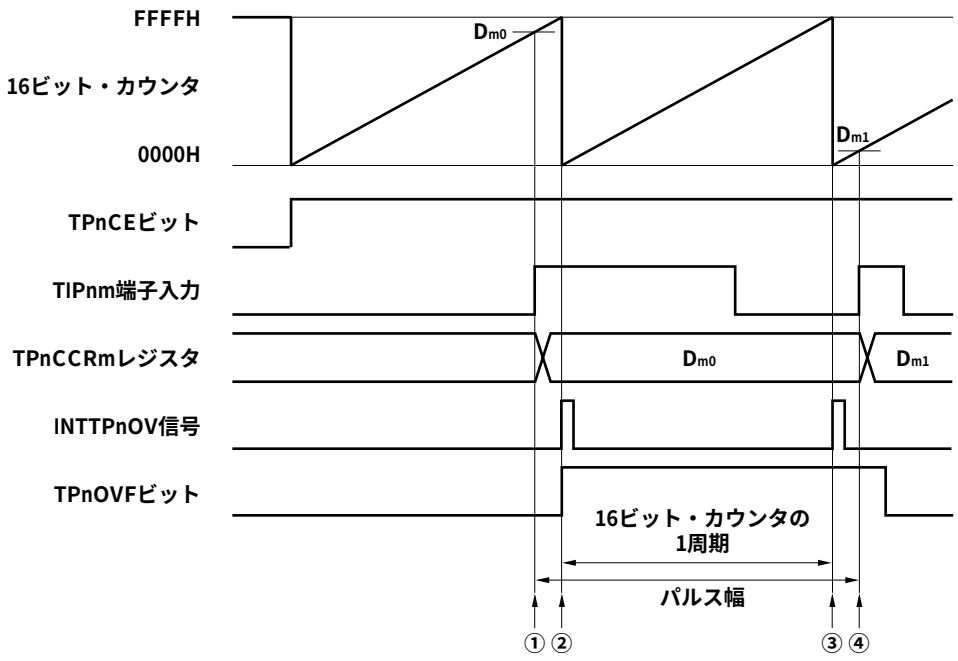
⑤ TPnCCR1レジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。オーバフロー・フラグは④でクリア（0）されているので“0”がリードされる。
TPnOVF1フラグをリードする。→TPnOVF1フラグが“1”だった場合，クリア（0）する。
TPnOVF1フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{11}－D_{10}）で求められます（OK）。

⑥ ③と同じです。

(d) キャプチャ・トリガの間隔が長いときのオーバフローの処理方法

パルス幅が16ビット・カウンタの1周期以上ある場合，キャプチャ・トリガから次のキャプチャ・トリガまでの間にオーバフローが2回以上発生する可能性があるので注意が必要です。まず悪い例を，次に示します。

キャプチャ・トリガの間隔が長いときの悪い例



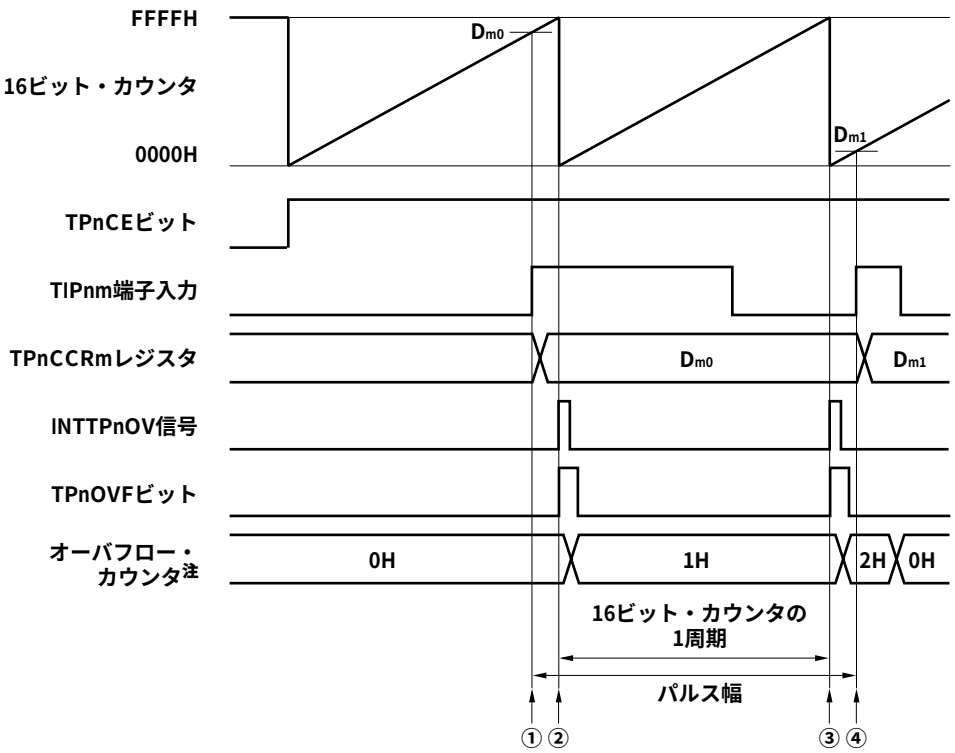
フリー・ランニング・タイマ・モードで長いパルス幅を測定する場合，次のような問題が起こる場合があります。

① TPnCCRmレジスタをリードする（TIPnm端子入力の初期値設定）。
② オーバフローが発生する。ソフトウエアでは何もしない。
③ 2回目のオーバフローが発生する。ソフトウエアでは何もしない。
④ TPnCCRmレジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。→オーバフロー・フラグが“1”だった場合，クリア（0）する。
オーバフロー・フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{m1}－D_{m0}）で求められます（NG）。
実際には，2回のオーバフローが発生しているので，パルス幅は，（20000H＋D_{m1}－D_{m0}）になるはずです。

このように，キャプチャ・トリガの間隔が長い場合に，2回以上のオーバフローが発生すると，正しいパルス幅が求められない可能性があります。

キャプチャ・トリガの間隔が長い場合には，カウント・クロックを遅くして16ビット・カウンタの1周期を長くするか，ソフトウエアで対応してください。次に，ソフトウエア対応例を示します。

キャプチャ・トリガの間隔が長いときの対応例



注　オーバフロー・カウンタは，ソフトウエアにより，内蔵RAM上に任意に設定したものです。

① TPnCCRmレジスタをリードする（TIPnm端子入力の初期値設定）。

② オーバフローが発生する。オーバフロー割り込み処理の中で，オーバフロー・カウンタをインクリメントし，オーバフロー・フラグをクリア（0）する。

③ 2回目のオーバフローが発生する。オーバフロー割り込み処理の中で，オーバフロー・カウンタをインクリメント（＋1）し，オーバフロー・フラグをクリア（0）する。

④ TPnCCRmレジスタをリードする。

オーバフロー・カウンタをリードする。

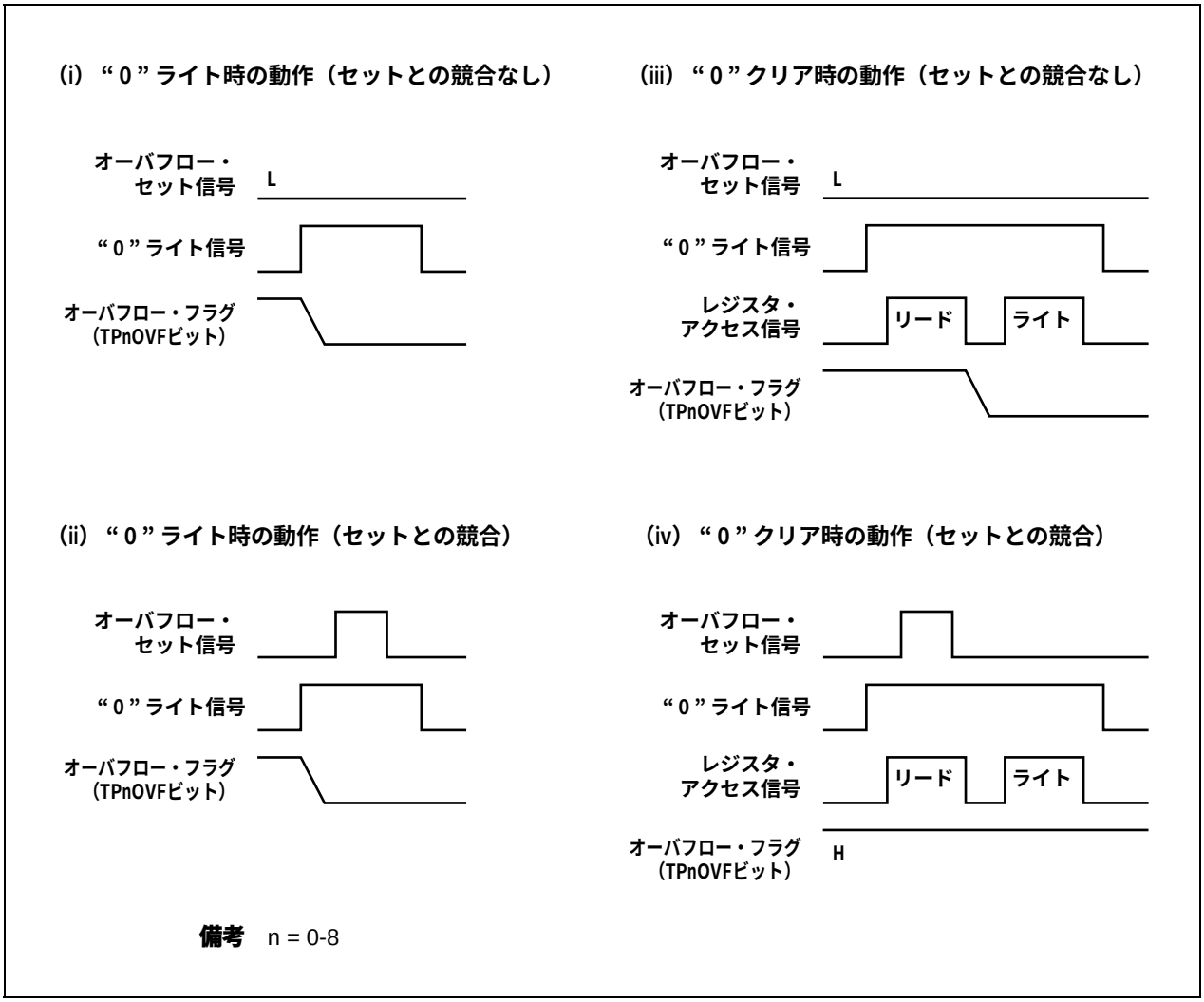
→オーバフロー・カウンタが“N”のとき，パルス幅は（N×10000H＋D_{m1}－D_{m0}）で求められる。

この例では，2回のオーバフローが発生しているので，パルス幅は，（20000H＋D_{m1}－D_{m0}）になります。

オーバフロー・カウンタをクリア（0H）する。

(e) オーバフロー・フラグのクリア方法

オーバフロー・フラグをクリア（0）する方法は，TPnOVFビットをCLR命令でクリア（0）する方法と，TPnOPT0レジスタに8ビット・データ（ビット0は“0”）をライトする方法がありますが，確実にオーバフローを検出するために，TPnOVFビット ＝1をリードしたあと，ビット操作命令でクリア（0）してください。



オーバフロー・フラグをクリア（0）する場合には，リードしてオーバフロー・フラグがセット（1）されていることを確認したあと，CLR命令でクリア（0）してください。確認せずに0をライトすると，オーバフローのセット情報を“0”ライトで消してしまう場合があります（上図の（ii））。そのために，実際にはオーバフローが発生したにもかかわらず，ソフトウエアではオーバフローしていないと判断することになります。

オーバフロー・フラグをCLR命令でクリア（0）するときに，CLR命令の実行とオーバフロー発生のタイミングが競合した場合，クリア命令実行後もオーバフロー・フラグはセット（1）されたままになります。

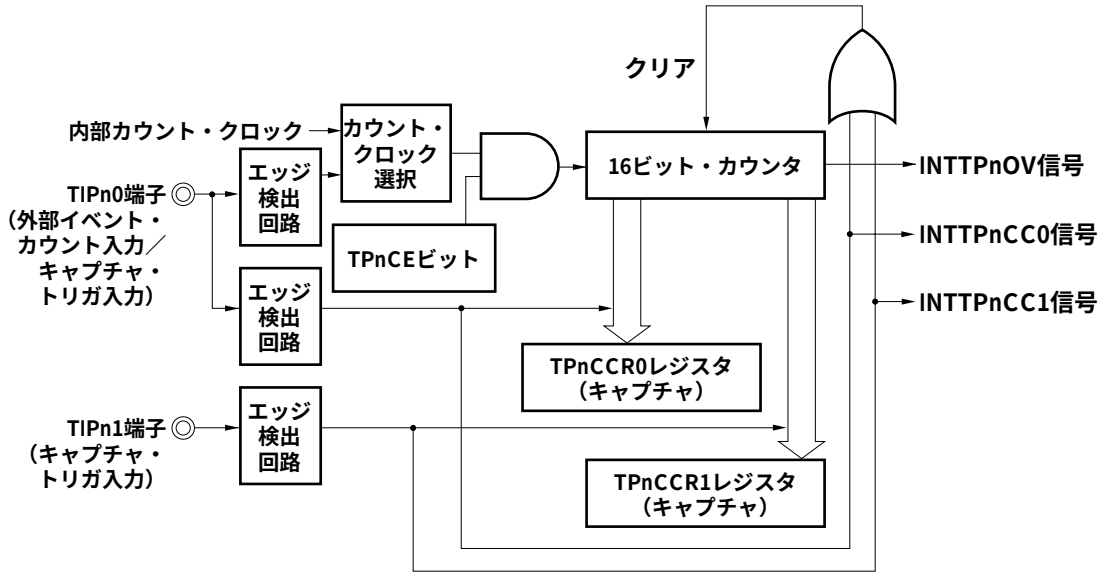
7. 5. 7　パルス幅測定モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 110）

パルス幅測定モードは，TPnCTL0.TPnCEビットをセット（1）することでカウント動作を開始し，TIPnm端子入力の有効エッジを検出するごとに，16ビット・カウンタのカウント値をTPnCCRmレジスタに格納し，16ビット・カウンタを0000Hにクリアします。

キャプチャ割り込み要求信号（INTTPnCCm）が発生したあと，TPnCCRmレジスタをリードすることにより，有効エッジ間隔を測定できます。

キャプチャ・トリガ入力端子として，TIPn0, TIPn1端子のいずれか1本を使用してください。使用しない端子は，TPnIOC1レジスタで“エッジ検出なし”に設定してください。

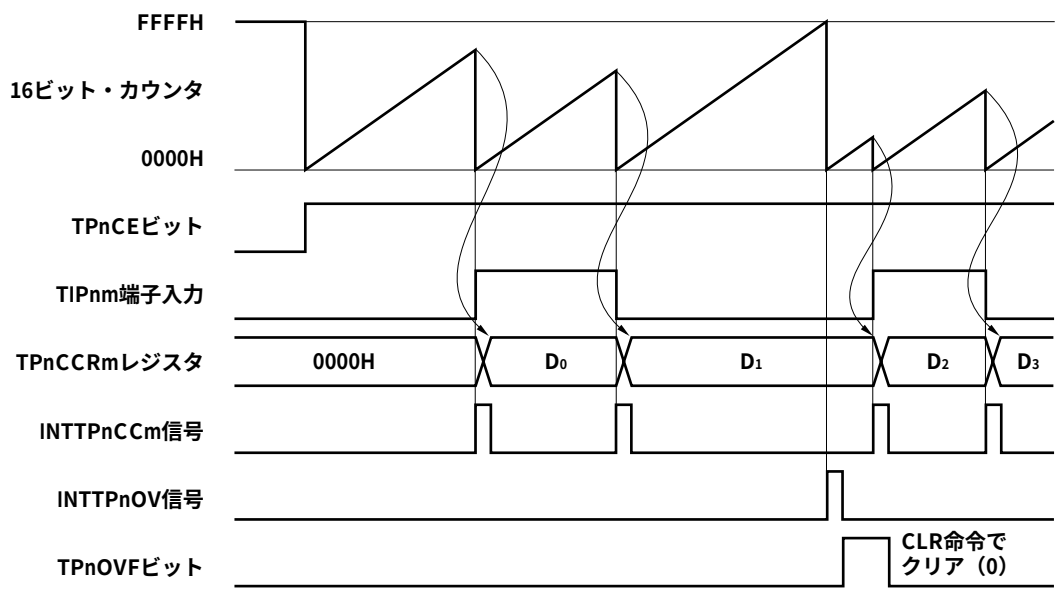
図7－34　パルス幅測定モードの構成図



備考　n = 0-8,

m = 0, 1

図7－35　パルス幅測定モードの基本タイミング



備考　n = 0-8,

m = 0, 1

TPnCEビットをセット（1）することで，カウント動作を開始します。その後，TIPnm端子入力の有効エッジを検出することにより，16ビット・カウンタのカウント値をTPnCCRmレジスタに格納し，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，キャプチャ割り込み要求信号（INTTPnCCm）を発生します。

パルス幅は次のように求められます。

パルス幅 ＝ キャプチャされた値×カウント・クロック周期

16ビット・カウンタがFFFFHまでカウントしても有効エッジが入力されなかった場合，次のクロックでオーバフロー割り込み要求信号（INTTPnOV）を発生するとともに，0000Hにクリアしカウント動作を継続します。また，このときオーバフロー・フラグ（TPnOPT0.TPnOVFビット）もセット（1）されます。オーバフロー・フラグは，ソフトウエアでCLR命令を実行してクリア（0）してください。

オーバフロー・フラグがセット（1）した場合，パルス幅は次のように求められます。

パルス幅 ＝（10000H×TPnOVFビットがセット（1）された回数＋キャプチャされた値）
×カウント・クロック周期

備考　n = 0-8,

m = 0, 1

図7－36　パルス幅測定モード動作時のレジスタ設定内容（1/2）

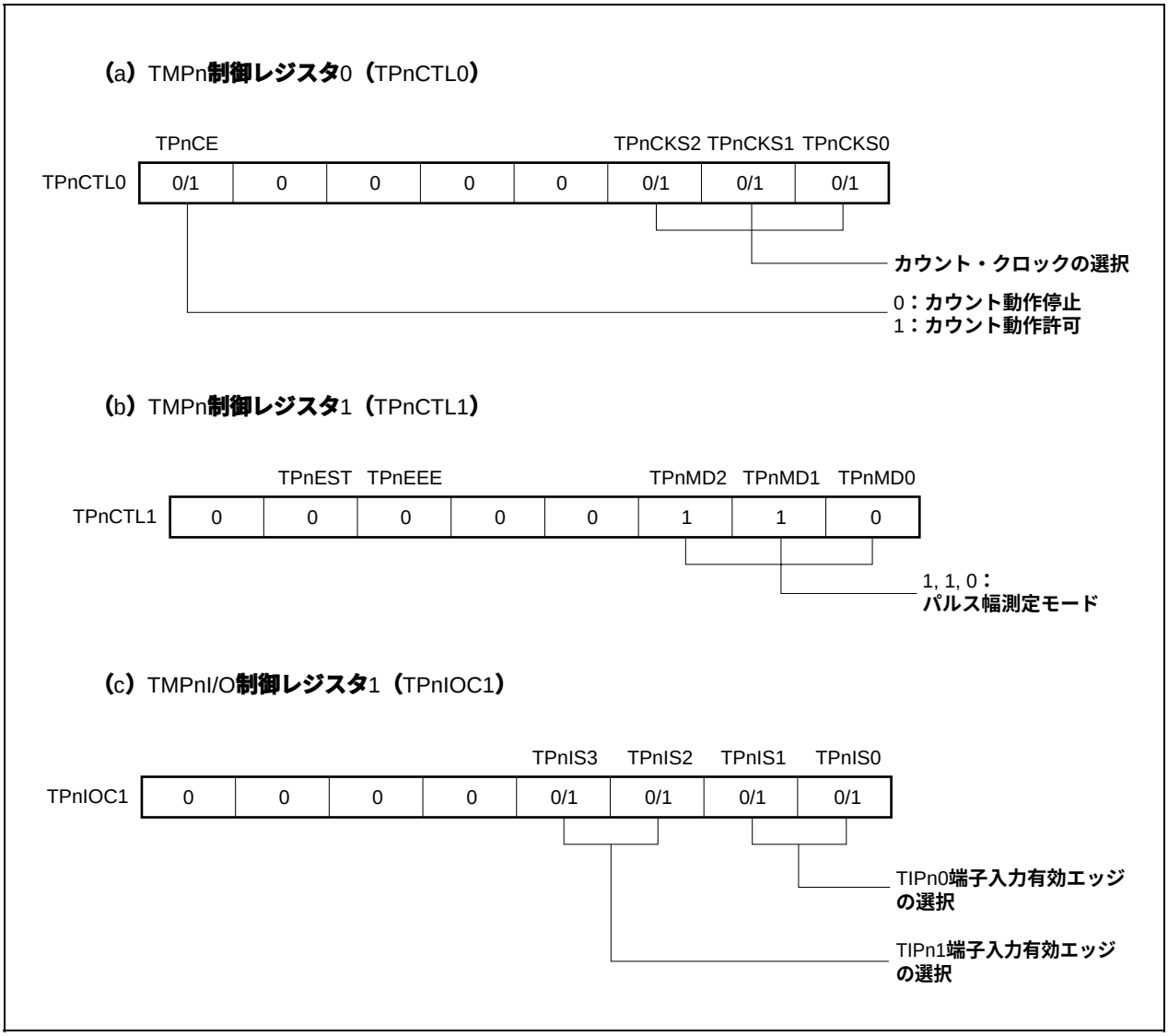


図7－36　パルス幅測定モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

（d）TMPn**オプション・レジスタ**0（TPnOPT0）

			TPnCCS1	TPnCCS0				TPnOVF
TPnOPT0	0	0	0	0	0	0	0	0/1

オーバフロー・フラグ

（e）TMPn**カウンタ・リード・バッファ・レジスタ**（TPnCNT）

TPnCNT**レジスタをリードすることで，**16**ビット・カウンタの値をリードできます。**

（f）TMPn**キャプチャ／コンペア・レジスタ**0, 1（TPnCCR0, TPnCCR1）

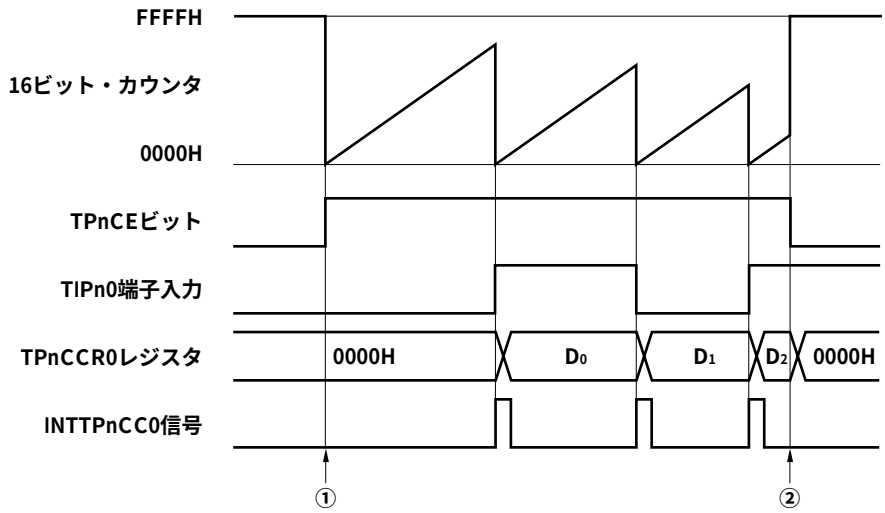
TIPnm**端子入力の有効エッジ検出により，**16**ビット・カウンタのカウント値を格納します。**

備考1.　**パルス幅測定モードでは，**TMPnI/O**制御レジスタ**0（TPnIOC0），TMPnI/O**制御レジスタ**2（TPnIOC2）**は使用しません。**

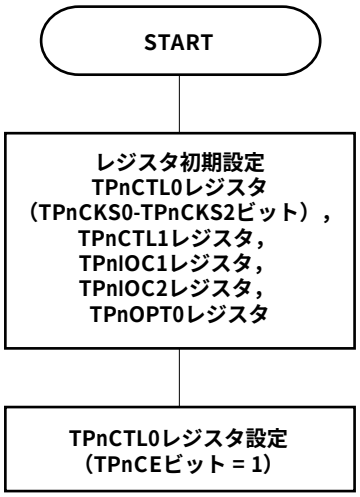
2.　n = 0-8,
m = 0, 1

(1) パルス幅測定モード動作フロー

図7－37　パルス幅測定モード使用時のソフトウエア処理フロー



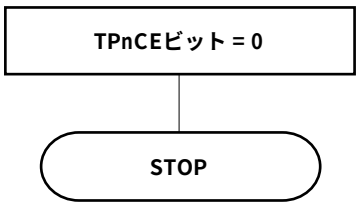
① カウント動作開始フロー



TPnCEビット = 1にする前に，
これらのレジスタを初期設定。

カウント動作開始（TPnCEビット = 1）と同時に，
TPnCKS0-TPnCKS2ビットの設定は可能。

② カウント動作停止フロー



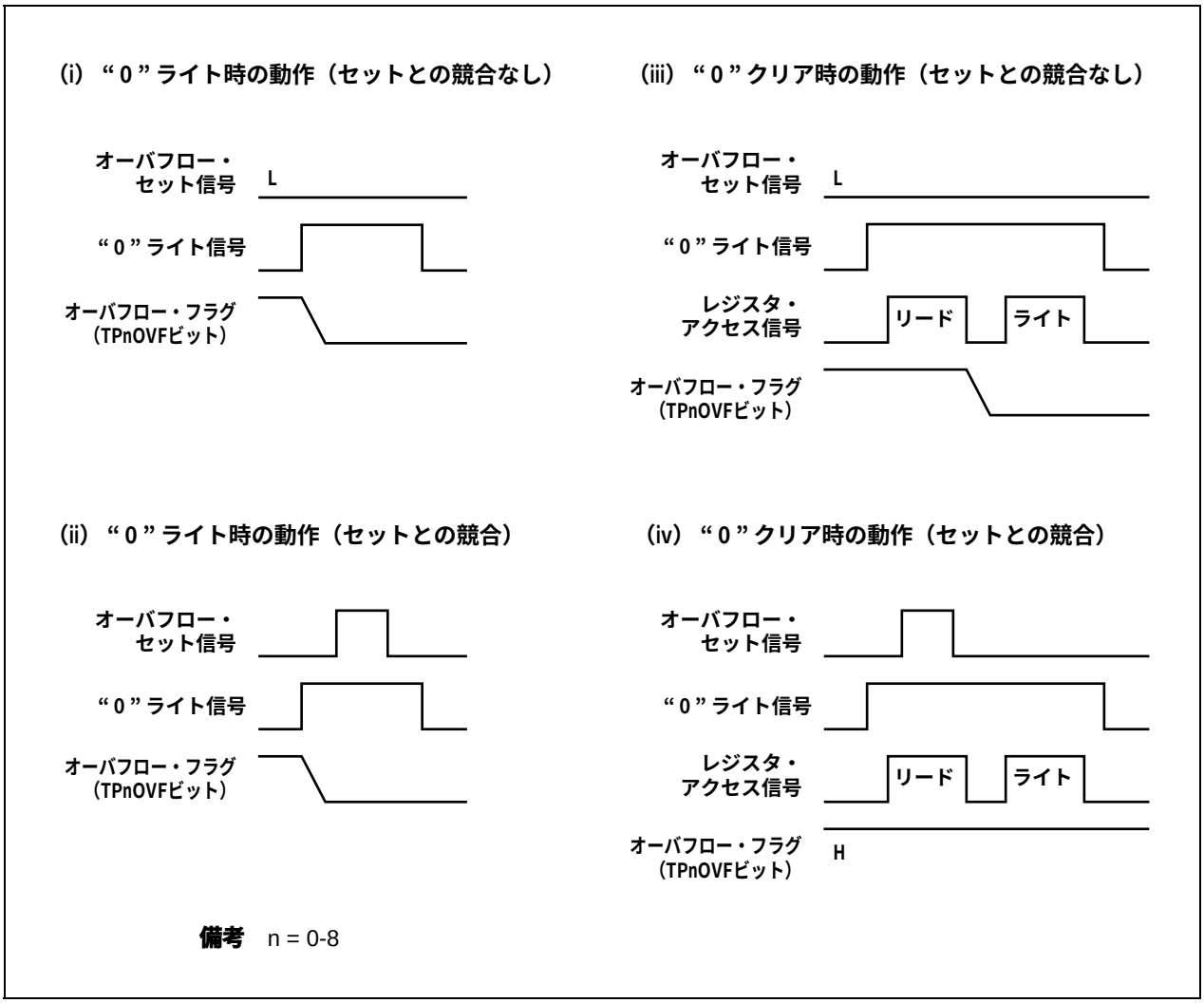
カウント動作停止（TPnCEビット = 0）にすることで，
カウンタを初期化しカウント動作を停止。

備考　n = 0-8

(2) パルス幅測定モード動作タイミング

(a) オーバフロー・フラグのクリア方法

オーバフロー・フラグをクリア（0）する方法は，TPnOVFビットをCLR命令でクリア（0）する方法と，TPnOPT0レジスタに8ビット・データ（ビット0は“0”）をライトする方法がありますが，確実にオーバフローを検出するために，TPnOVFビット ＝1をリードしたあと，ビット操作命令でクリア（0）してください。



オーバフロー・フラグをクリア（0）する場合には，リードしてオーバフロー・フラグがセット（1）されていることを確認したあと，CLR命令でクリア（0）してください。確認せずに0をライトすると，オーバフローのセット情報を“0”ライトで消してしまう場合があります（上図の（ii））。そのために，実際にはオーバフローが発生したにもかかわらず，ソフトウエアではオーバフローしていないと判断することになります。

オーバフロー・フラグをCLR命令でクリア（0）するときに，CLR命令の実行とオーバフロー発生のタイミングが競合した場合，クリア命令実行後もオーバフロー・フラグはセット（1）されたままになります。

7. 5. 8　タイマ出力動作説明

次にTOPn0, TOPn1端子の動作，および出力レベルを示します。

表7－4　各モードによるタイマ出力制御

動作モード	TOPn1端子	TOPn0端子
インターバル・タイマ・モード	方形波出力	
外部イベント・カウント・モード	方形波出力	－
外部トリガ・パルス出力モード	外部トリガ・パルス出力	方形波出力
ワンショット・パルス出力モード	ワンショット・パルス出力	
PWM出力モード	PWM出力	
フリー・ランニング・タイマ・モード	方形波出力（コンペア機能のときのみ）	
パルス幅測定モード	－	

備考　n = 0-8

表7－5　タイマ出力制御ビットによるTOPn0, TOPn1端子の真理値表

TPnIOC0.TPnOLmビット	TPnIOC0.TPnOEmビット	TPnCTL0.TPnCEビット	TOPnm端子のレベル
0	0	×	ロウ・レベル出力
	1	0	ロウ・レベル出力
		1	カウント直前はロウ・レベル， カウント開始後はハイ・レベル
1	0	×	ハイ・レベル出力
	1	0	ハイ・レベル出力
		1	カウント直前はハイ・レベル， カウント開始後はロウ・レベル

備考　n = 0-8,

m = 0, 1

7. 6　セレクタ機能

V850ES/JJ3ではTMPのキャプチャ・トリガ入力を，ポートの兼用端子と周辺I/O（TMP，UARTA）信号とで選択が可能です。

この機能を利用して，次のことが可能です。

- TMP1のTIP10，TIP11入力信号を，ポートのタイマ兼用端子（TIP10，TIP11端子）とUARTAの受信兼用端子（RXDA0, RXDA1）とで選択。TMP3のTIP31入力信号を，ポートのタイマ兼用端子（TIP31端子）とUARTAの受信兼用端子（RXDA3）とで選択。

  →UARTA0, UARTA1, UARTA3のRXDA0, RXDA1, RXDA3信号を選択すると，UARTAのLIN受信転送レートのボー・レート誤差算出として使用

注意1.　セレクタ機能を使用する場合は，接続されるTMPをキャプチャ・トリガ入力に設定してください。

2.　セレクタ機能を設定する場合は，接続される周辺I/O（TMP，UARTA）を動作禁止にしてから設定してください。

セレクタ機能によるキャプチャ入力の設定は次のレジスタで設定します。

(1) セレクタ動作制御レジスタ0（SELCNT0）

SELCNT0レジスタは，TMP1, TMP3のキャプチャ・トリガを選択する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF308H

	7	⑥	5	④	③	2	1	0
SELCNT0	0	ISEL6	0	ISEL4	ISEL3	0	0	0

ISEL6	TIP31入力信号選択（TMP3）
0	TIP31端子入力
1	RXDA3端子入力

ISEL4	TIP11入力信号選択（TMP1）
0	TIP11端子入力
1	RXDA1端子入力

ISEL3	TIP10入力信号選択（TMP1）
0	TIP10端子入力
1	RXDA0端子入力

注意1. ISEL3, ISEL4, ISEL6の各ビットを“1”に設定する場合は，対応する機能端子をキャプチャ入力に設定してください。

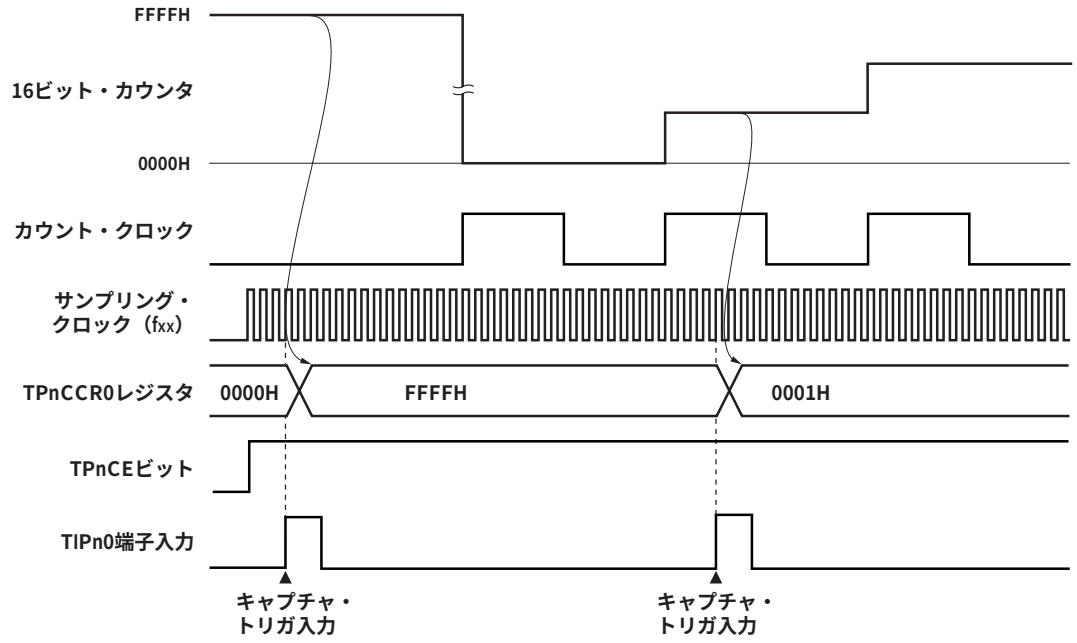
2. ビット7, 5, 2-0には必ず“0”を設定してください。

7. 7　注意事項

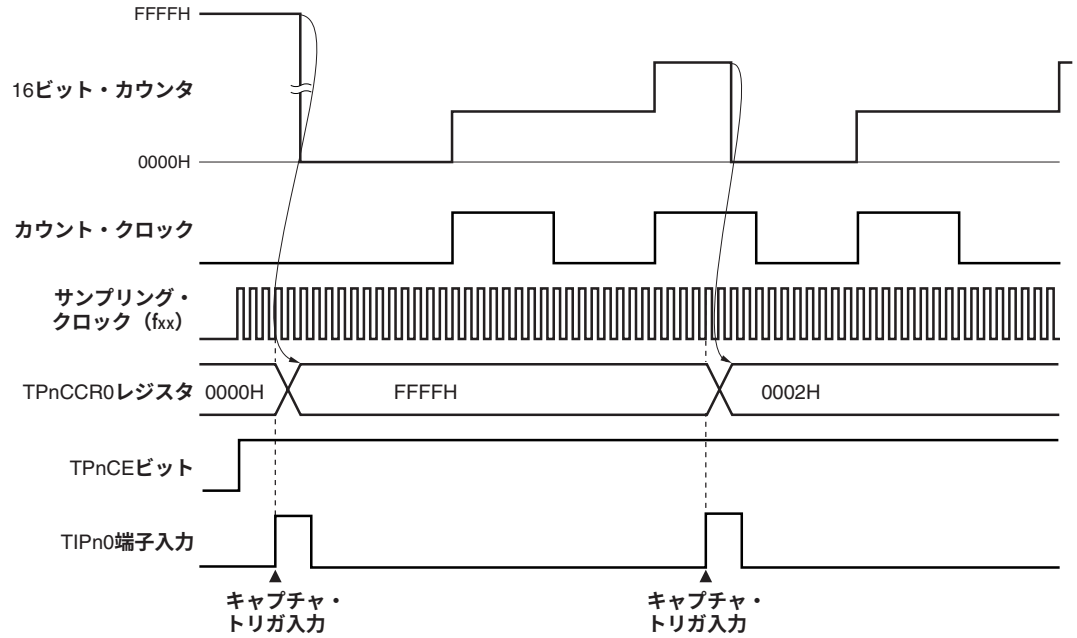
(1) キャプチャ動作

キャプチャ動作を使用し，かつカウント・クロックとして遅いクロックを選択した場合，TPnCEビットをセット (1) したすぐあとに，キャプチャ・トリガが入力されると，TPnCCR0, TPnCCR1レジスタに0000HではなくFFFFHがキャプチャされる場合があります。

(a) フリー・ランニング・タイマ・モード



(b) パルス幅測定モード



第8章　16ビット・タイマ／イベント・カウンタQ（TMQ）

タイマQ（TMQ）は，16ビットのタイマ／イベント・カウンタです。

V850ES/JJ3は，TMQ0を内蔵しています。

8. 1　概　　要

TMQ0の概要を次に示します。

- クロック選択　：8通り
- キャプチャ・トリガ入力端子　：4本
- 外部イベント・カウント入力端子　：1本
- 外部トリガ入力端子　：1本
- タイマ・カウンタ　：1本
- キャプチャ／コンペア・レジスタ　：4本
- キャプチャ／コンペア一致割り込み要求信号　：4本
- タイマ出力端子　：4本

8. 2　機　　能

TMQ0の機能を次に示します。

- インターバル・タイマ
- 外部イベント・カウンタ
- 外部トリガ・パルス出力
- ワンショット・パルス出力
- PWM出力
- フリー・ランニング・タイマ
- パルス幅測定

8. 3　構　　成

TMQ0は，次のハードウエアで構成されています。

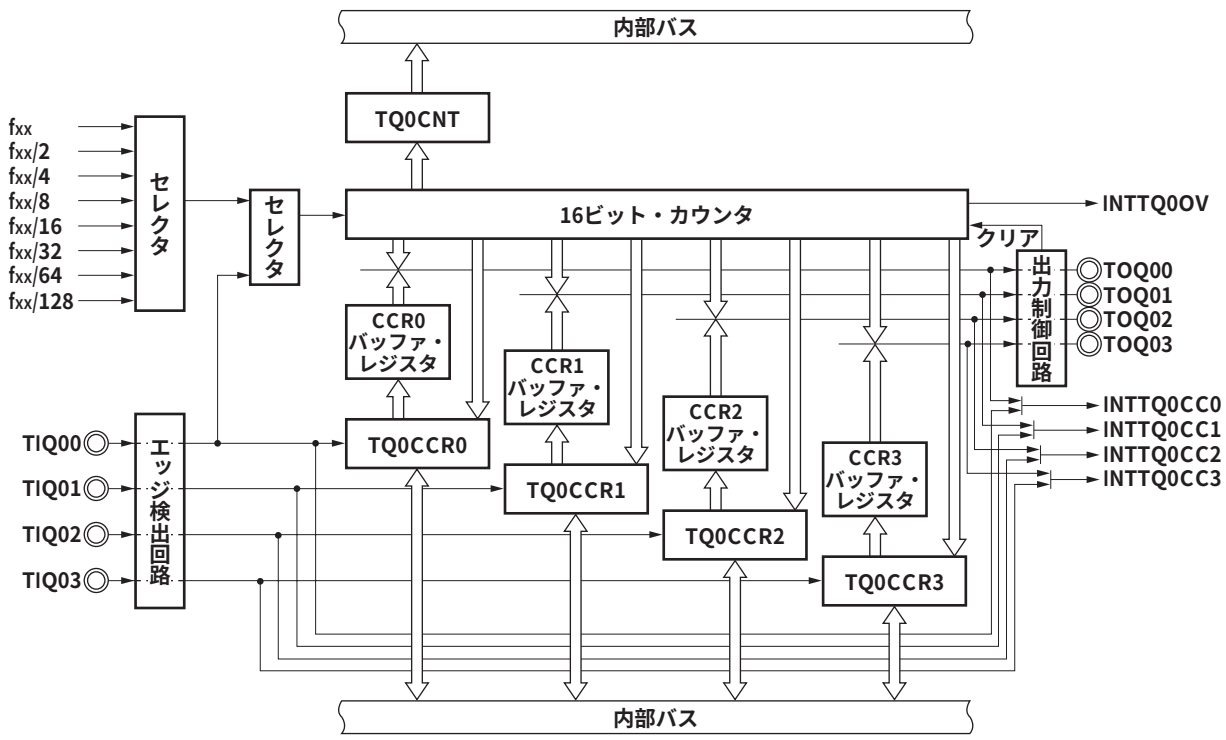
表8－1　TMQ0の構成

項　　目	構　　成
タイマ・レジスタ	16ビット・カウンタ
レジスタ	TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ0-3（TQ0CCR0-TQ0CCR3） TMQ0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TQ0CNT） CCR0-CCR3バッファ・レジスタ
タイマ入力	4本（TIQ00[注1]-TIQ03端子）
タイマ出力	4本（TOQ00-TOQ03端子）
制御レジスタ[注2]	TMQ0制御レジスタ0, 1（TQ0CTL0, TQ0CTL1） TMQ0I/O制御レジスタ0-2（TQ0IOC0-TQ0IOC2） TMQ0オプション・レジスタ0（TQ0OPT0）

注1.　TIQ00端子には，キャプチャ・トリガ入力信号，外部イベント・カウント入力信号，外部トリガ入力信号が兼用されています。

2.　TIQ00-TIQ03，TOQ00-TOQ03端子の機能を使用する場合は，表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合を参照してください。

図8－1　TMQ0のブロック図



備考　fxx：メイン・クロック周波数

(1) 16ビット・カウンタ

内部クロックまたは外部イベントをカウントできる16ビットのカウンタです。

16ビット・カウンタのカウント値は，TQ0CNTレジスタでリードできます。

TQ0CTL0.TQ0CEビット = 0のとき，16ビット・カウンタはFFFFHになります。このときTQ0CNTレジスタをリードすると，0000Hがリードされます。

リセットによりTQ0CEビット = 0になるため，16ビット・カウンタはFFFFHになります。

(2) CCR0バッファ・レジスタ

16ビット・カウンタのカウント値を比較する16ビットのコンペア・レジスタです。

TQ0CCR0レジスタをコンペア・レジスタとして使用するとき，TQ0CCR0レジスタにライトした値がCCR0バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致すると，コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC0）を発生します。

CCR0バッファ・レジスタは，直接リード／ライトできません。

リセットによりTQ0CCR0レジスタが0000Hになるため，CCR0バッファ・レジスタも0000Hになります。

(3) CCR1バッファ・レジスタ

16ビット・カウンタのカウント値を比較する16ビットのコンペア・レジスタです。

TQ0CCR1レジスタをコンペア・レジスタとして使用するとき，TQ0CCR1レジスタにライトした値がCCR1バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR1バッファ・レジスタの値が一致すると，コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC1）を発生します。

CCR1バッファ・レジスタは，直接リード／ライトできません。

リセットによりTQ0CCR1レジスタが0000Hになるため，CCR1バッファ・レジスタも0000Hになります。

(4) CCR2バッファ・レジスタ

16ビット・カウンタのカウント値を比較する16ビットのコンペア・レジスタです。

TQ0CCR2レジスタをコンペア・レジスタとして使用するとき，TQ0CCR2レジスタにライトした値がCCR2バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR2バッファ・レジスタの値が一致すると，コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC2）を発生します。

CCR2バッファ・レジスタは，直接リード／ライトできません。

リセットによりTQ0CCR2レジスタが0000Hになるため，CCR2バッファ・レジスタも0000Hになります。

(5) CCR3バッファ・レジスタ

16ビット・カウンタのカウント値を比較する16ビットのコンペア・レジスタです。

TQ0CCR3レジスタをコンペア・レジスタとして使用するとき，TQ0CCR3レジスタにライトした値がCCR3バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR3バッファ・レジスタの値が一致すると，コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC3）を発生します。

CCR3バッファ・レジスタは，直接リード／ライトできません。

リセットによりTQ0CCR3レジスタが0000Hになるため，CCR3バッファ・レジスタも0000Hになります。

(6) エッジ検出回路

TIQ00-TIQ03端子に入力される有効エッジを検出します。有効エッジは，TQ0IOC1，TQ0IOC2レジスタにより，エッジ検出なし，立ち上がり，立ち下がり，立ち上がり／立ち下がり両エッジから選択できます。

（7）出力制御回路

TOQ00-TOQ03端子の出力を制御します。TOQ00-TOQ03端子の出力は，TQ0IOC0レジスタで制御します。

（8）セレクタ

16ビット・カウンタのカウント・クロックを選択します。カウント・クロックとして，8種類の内部クロックまたは外部イベントから選択できます。

8. 4　レジスタ

TMQ0を制御するレジスタを次に示します。

- TMQ0制御レジスタ0（TQ0CTL0）
- TMQ0制御レジスタ1（TQ0CTL1）
- TMQ0I/O制御レジスタ0（TQ0IOC0）
- TMQ0I/O制御レジスタ1（TQ0IOC1）
- TMQ0I/O制御レジスタ2（TQ0IOC2）
- TMQ0オプション・レジスタ0（TQ0OPT0）
- TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ0（TQ0CCR0）
- TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ1（TQ0CCR1）
- TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ2（TQ0CCR2）
- TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ3（TQ0CCR3）
- TMQ0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TQ0CNT）

備考　TIQ00-TIQ03，TOQ00-TOQ03端子の機能を使用する場合は，表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合を参照してください。

（1）TMQ0制御レジスタ0（TQ0CTL0）

TQ0CTL0レジスタは，TMQ0の動作を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

TQ0CTL0レジスタは，常時ソフトウエアでの同値書き込みができます。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF540H

	⑦	6	5	4	3	2	1	0
TQ0CTL0	TQ0CE	0	0	0	0	TQ0CKS2	TQ0CKS1	TQ0CKS0

TQ0CE	TMQ0の動作の制御
0	TMQ0動作禁止（TMQ0を非同期にリセット注）
1	TMQ0動作許可。TMQ0動作開始

TQ0CKS2	TQ0CKS1	TQ0CKS0	内部カウント・クロックの選択
0	0	0	fxx
0	0	1	fxx/2
0	1	0	fxx/4
0	1	1	fxx/8
1	0	0	fxx/16
1	0	1	fxx/32
1	1	0	fxx/64
1	1	1	fxx/128

注　TQ0OPT0.TQ0OVFビット，16ビット・カウンタ，タイマ出力（TOQ00-TOQ03端子）。

注意1.　TQ0CKS2-TQ0CKS0ビットは，TQ0CEビット = 0のときに設定してください。TQ0CEビットを“0”から“1”に設定するときに，同時にTQ0CKS2-TQ0CKS0ビットを設定できます。

2.　ビット3-6には必ず“0”を設定してください。

備考　fxx：メイン・クロック周波数

（2）TMQ0制御レジスタ1（TQ0CTL1）

TQ0CTL1レジスタは，TMQ0の動作を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF541H

	7	⑥	⑤	4	3	2	1	0
TQ0CTL1	0	TQ0EST	TQ0EEE	0	0	TQ0MD2	TQ0MD1	TQ0MD0

TQ0EST	ソフトウエア・トリガ制御
0	－
1	外部トリガ入力への有効な信号を作成 ・ワンショット・パルス出力モード時：TQ0ESTビットへの“1”ライトをトリガとして，ワンショット・パルスを出力 ・外部トリガ・パルス出力モード時　：TQ0ESTビットへの“1”ライトをトリガとして，PWM波形を出力

TQ0EEE	カウント・クロックの選択
0	外部イベント・カウント入力での動作禁止 （TQ0CTL0.TQ0CK0-TQ0CK2ビットによって選択されたカウント・クロックでカウント動作を行う）
1	外部イベント・カウント入力での動作許可 （外部イベント・カウント入力信号の有効エッジごとにカウント動作を行う）
TQ0EEEビットは，内部カウント・クロックか，または外部イベント・カウント入力の有効エッジでカウント動作を行うかを選択するためのビットです。	

TQ0MD2	TQ0MD1	TQ0MD0	タイマ・モードの選択
0	0	0	インターバル・タイマ・モード
0	0	1	外部イベント・カウント・モード
0	1	0	外部トリガ・パルス出力モード
0	1	1	ワンショット・パルス出力モード
1	0	0	PWM出力モード
1	0	1	フリー・ランニング・タイマ・モード
1	1	0	パルス幅測定モード
1	1	1	設定禁止

注意1. TQ0ESTビットは，外部トリガ・パルス出力モードまたはワンショット・パルス出力モード時のみ有効です。それ以外のモードでは，“1”をライトしても無視されます。

2. 外部イベント・カウント・モードのときは，TQ0EEEビットの値にかかわらず外部イベント・カウント入力が選択されます。

3. TQ0EEE, TQ0MD2-TQ0MD0ビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット = 0のときに設定してください（TQ0CEビット = 1のときの同値書き込みは可能）。TQ0CEビット = 1のときに書き換えた場合，動作を保証できません。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。

4. ビット3, 4, 7は必ず“0”を設定してください。

(3) TMQ0I/O制御レジスタ0（TQ0IOC0）

TQ0IOC0レジスタは，タイマ出力（TOQ00-TOQ03端子）を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF542H

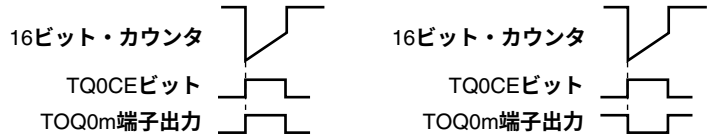
	7	⑥	5	④	3	②	1	⓪
TQ0IOC0	TQ0OL3	TQ0OE3	TQ0OL2	TQ0OE2	TQ0OL1	TQ0OE1	TQ0OL0	TQ0OE0

TQ0OLm	TOQ0m端子出力レベルの設定（m = 0-3）注
0	TOQ0m端子ハイ・レベル・スタート
1	TOQ0m端子ロウ・レベル・スタート

TQ0OEm	TOQ0m端子出力の設定（m = 0-3）
0	タイマ出力禁止 ・TQ0OLmビット = 0のときTOQ0m端子からロウ・レベルを出力 ・TQ0OLmビット = 1のときTOQ0m端子からハイ・レベルを出力
1	タイマ出力許可（TOQ0m端子から方形波を出力）

注　TQ0OLmビットの指定によるタイマ出力端子（TOQ0m）の出力レベルを次に示します。

・TQ0OLmビット = 0の場合　　・TQ0OLmビット = 1の場合



注意1.　TQ0OLm, TQ0OEmビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット = 0のときに書き換えてください（TQ0CEビット = 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。

2.　TQ0CEビット= 0, TQ0OEmビット= 0の状態において，TQ0OLmビットを操作した場合でも，TOQ0m端子の出力レベルは変化します。

備考　m = 0-3

（4）TMQ0I/O制御レジスタ1（TQ0IOC1）

TQ0IOC1レジスタは，キャプチャ・トリガ入力信号（TIQ00-TIQ03端子）に対する有効エッジを制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF543H

	7	6	5	4	3	2	1	0
TQ0IOC1	TQ0IS7	TQ0IS6	TQ0IS5	TQ0IS4	TQ0IS3	TQ0IS2	TQ0IS1	TQ0IS0

TQ0IS7	TQ0IS6	キャプチャ・トリガ入力信号（TIQ03端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（キャプチャ動作無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TQ0IS5	TQ0IS4	キャプチャ・トリガ入力信号（TIQ02端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（キャプチャ動作無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TQ0IS3	TQ0IS2	キャプチャ・トリガ入力信号（TIQ01端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（キャプチャ動作無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TQ0IS1	TQ0IS0	キャプチャ・トリガ入力信号（TIQ00端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（キャプチャ動作無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

注意1. TQ0IS7-TQ0IS0ビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット= 0のときに書き換えてください（TQ0CEビット = 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。

2. TQ0IS7-TQ0IS0ビットは，フリー・ランニング・タイマ・モードと，パルス幅測定モードのときのみ有効です。それ以外のモードではキャプチャ動作は行われません。

(5) TMQ0I/O制御レジスタ2（TQ0IOC2）

TQ0IOC2レジスタは，外部イベント・カウント入力信号（TIQ00端子），外部トリガ入力信号（TIQ00端子）に対する有効エッジを制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF544H

	7	6	5	4	3	2	1	0
TQ0IOC2	0	0	0	0	TQ0EES1	TQ0EES0	TQ0ETS1	TQ0ETS0

TQ0EES1	TQ0EES0	外部イベント・カウント入力信号（TIQ00端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（外部イベント・カウント無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TQ0ETS1	TQ0ETS0	外部トリガ入力信号（TIQ00端子）の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし（外部トリガ無効）
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

注意1. TQ0EES1, TQ0EES0, TQ0ETS1, TQ0ETS0ビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット = 0のときに書き換えてください（TQ0CEビット = 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。

2. TQ0EES1, TQ0EES0ビットは，TQ0CTL1.TQ0EEEビット = 1，または外部イベント・カウント・モード（TQ0CTL1.TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 001）に設定したときのみ有効です。

3. TQ0ETS1, TQ0ETS0ビットは，外部トリガ・パルス出力モード（TQ0CTL1.TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 010），ワンショット・パルス出力モード（TQ0CTL1.TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 011）に設定したときのみ有効です。

(6) TMQ0オプション・レジスタ0（TQ0OPT0）

TQ0OPT0レジスタは，キャプチャ／コンペア動作の設定，オーバフローの検出をする8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF545H

	7	6	5	4	3	2	1	⓪
TQ0OPT0	TQ0CCS3	TQ0CCS2	TQ0CCS1	TQ0CCS0	0	0	0	TQ0OVF

TQ0CCSm	TQ0CCRmレジスタのキャプチャ／コンペア選択
0	コンペア・レジスタに選択
1	キャプチャ・レジスタに選択
TQ0CCSmビットの設定はフリー・ランニング・タイマ・モードのときのみ有効になります。	

TQ0OVF	TMQ0のオーバフロー検出
セット（1）	オーバフロー発生
リセット（0）	TQ0OVFビットへの0ライトまたはTQ0CTL0.TQ0CEビット = 0
・TQ0OVFビットは，カウントフリー・ランニング・タイマ・モードおよびパルス幅測定モード時に，16ビット・カウンタのカウント値がFFFFHから0000Hにオーバフローするときセット（1）されます。 ・TQ0OVFビットがセット（1）されると同時に，割り込み要求信号（INTTQ0OV）が発生します。フリー・ランニング・タイマ・モードおよびパルス幅測定モード以外では，INTTQ0OV信号は発生しません。 ・TQ0OVFビット = 1のときにTQ0OVFビットまたはTQ0OPT0レジスタをリードしてもTQ0OVFビットはクリアされません。 ・TQ0OVFビットはリード／ライト可能ですが，ソフトウエアでTQ0OVFビットをセット（1）することはできません。“1”をライトしてもTMQ0の動作に影響はありません。	

注意1.　TQ0CCS3-TQ0CCS0ビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット = 0のときに書き換えてください（TQ0CEビット = 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。

2.　ビット1-3には必ず“0”を設定してください。

備考　m = 0-3

（7）TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ0（TQ0CCR0）

TQ0CCR0レジスタは，各モードによりキャプチャ機能とコンペア機能を切り替えて使用できるレジスタです。

TQ0CCR0レジスタは，フリー・ランニング・タイマ・モードの場合のみ，TQ0OPT0.TQ0CCS0ビットの設定により，キャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタに設定できます。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・レジスタとしてのみ使用します。これら以外のモードでは，コンペア・レジスタとしてのみ使用します。

TQ0CCR0レジスタは，動作中のリード／ライトを許可します。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意　次に示す状態において，TQ0CCR0レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF546H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TQ0CCR0																

(a) コンペア・レジスタとしての機能

TQ0CCR0レジスタは，TQ0CTL0.TQ0CEビット = 1のときでも書き換えできます。

TQ0CCR0レジスタの設定値はCCR0バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致することでコンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC0）を発生し，TOQ00端子出力を許可している場合，TOQ00端子出力を反転します。

インターバル・タイマ・モード，外部イベント・カウント・モード，外部トリガ・パルス出力モード，ワンショット・パルス出力モード，PWM出力モードにおいて，TQ0CCR0レジスタを周期レジスタとして使用する場合は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致することで16ビット・カウンタをクリア（0000H）します。

(b) キャプチャ・レジスタとしての機能

フリー・ランニング・タイマ・モードにおいて，TQ0CCR0レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用する場合，キャプチャ・トリガ入力（TIQ00端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCR0レジスタに格納します。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・トリガ入力（TIQ00端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCR0レジスタに格納し，16ビット・カウンタをクリア（0000H）します。

キャプチャ動作とTQ0CCR0レジスタのリードが競合しても，TQ0CCR0レジスタは正しい値をリードできます。

各動作モードと，対応するキャプチャ／コンペア・レジスタの機能，およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

表8－2　各動作モードとキャプチャ／コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法

動作モード	キャプチャ／コンペア・レジスタ	コンペア・レジスタ書き込み方法
インターバル・タイマ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部イベント・カウンタ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部トリガ・パルス出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
ワンショット・パルス出力	コンペア・レジスタ	随時書き込み
PWM出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
フリー・ランニング・タイマ	キャプチャ／コンペア・レジスタ	随時書き込み
パルス幅測定	キャプチャ・レジスタ	－

（8）TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ1（TQ0CCR1）

TQ0CCR1レジスタは，各モードによりキャプチャ機能とコンペア機能を切り替えて使用できるレジスタです。

TQ0CCR1レジスタは，フリー・ランニング・タイマ・モードの場合のみ，TQ0OPT0.TQ0CCS1ビットの設定により，キャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタに設定できます。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・レジスタとしてのみ使用します。これら以外のモードでは，コンペア・レジスタとしてのみ使用します。

TQ0CCR1レジスタは，動作中のリード／ライトを許可します。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意　次に示す状態において，TQ0CCR1レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF548H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TQ0CCR1																

(a) コンペア・レジスタとしての機能

TQ0CCR1レジスタは，TQ0CTL0.TQ0CEビット = 1のときでも書き換えできます。

TQ0CCR1レジスタの設定値はCCR1バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR1バッファ・レジスタの値が一致することでコンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC1）を発生し，TOQ01端子出力を許可している場合，TOQ01端子出力を反転します。

(b) キャプチャ・レジスタとしての機能

フリー・ランニング・タイマ・モードにおいて，TQ0CCR1レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用する場合，キャプチャ・トリガ入力（TIQ01端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCR1レジスタに格納します。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・トリガ入力（TIQ01端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCR1レジスタに格納し，16ビット・カウンタをクリア（0000H）します。

キャプチャ動作とTQ0CCR1レジスタのリードが競合しても，TQ0CCR1レジスタは正しい値をリードできます。

各動作モードと，対応するキャプチャ／コンペア・レジスタの機能，およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

表8－3　各動作モードとキャプチャ／コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法

動作モード	キャプチャ／コンペア・レジスタ	コンペア・レジスタ書き込み方法
インターバル・タイマ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部イベント・カウンタ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部トリガ・パルス出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
ワンショット・パルス出力	コンペア・レジスタ	随時書き込み
PWM出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
フリー・ランニング・タイマ	キャプチャ／コンペア・レジスタ	随時書き込み
パルス幅測定	キャプチャ・レジスタ	－

（9）TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ2（TQ0CCR2）

TQ0CCR2レジスタは，各モードによりキャプチャ機能とコンペア機能を切り替えて使用できるレジスタです。

TQ0CCR2レジスタは，フリー・ランニング・タイマ・モードの場合のみ，TQ0OPT0.TQ0CCS2ビットの設定により，キャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタに設定できます。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・レジスタとしてのみ使用します。これら以外のモードでは，コンペア・レジスタとしてのみ使用します。

TQ0CCR2レジスタは，動作中のリード／ライトを許可します。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意　次に示す状態において，TQ0CCR2レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF54AH

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TQ0CCR2																

(a) コンペア・レジスタとしての機能

TQ0CCR2レジスタは，TQ0CTL0.TQ0CEビット = 1のときでも書き換えできます。

TQ0CCR2レジスタの設定値はCCR2バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR2バッファ・レジスタの値が一致することでコンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC2）を発生し，TOQ02端子出力を許可している場合，TOQ02端子出力を反転します。

(b) キャプチャ・レジスタとしての機能

フリー・ランニング・タイマ・モードにおいて，TQ0CCR2レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用する場合，キャプチャ・トリガ入力（TIQ02端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCR2レジスタに格納します。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・トリガ入力（TIQ02端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCR2レジスタに格納し，16ビット・カウンタをクリア（0000H）します。

キャプチャ動作とTQ0CCR2レジスタのリードが競合しても，TQ0CCR2レジスタは正しい値をリードできます。

各動作モードと，対応するキャプチャ／コンペア・レジスタの機能，およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

表8－4　各動作モードとキャプチャ／コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法

動作モード	キャプチャ／コンペア・レジスタ	コンペア・レジスタ書き込み方法
インターバル・タイマ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部イベント・カウンタ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部トリガ・パルス出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
ワンショット・パルス出力	コンペア・レジスタ	随時書き込み
PWM出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
フリー・ランニング・タイマ	キャプチャ／コンペア・レジスタ	随時書き込み
パルス幅測定	キャプチャ・レジスタ	－

（10）TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ3（TQ0CCR3）

TQ0CCR3レジスタは，各モードによりキャプチャ機能とコンペア機能を切り替えて使用できるレジスタです。

TQ0CCR3レジスタは，フリー・ランニング・タイマ・モードの場合のみ，TQ0OPT0.TQ0CCS3ビットの設定により，キャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタに設定できます。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・レジスタとしてのみ使用します。これら以外のモードでは，コンペア・レジスタとしてのみ使用します。

TQ0CCR3レジスタは，動作中のリード／ライトを許可します。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意　次に示す状態において，TQ0CCR3レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF54CH

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TQ0CCR3																

(a) コンペア・レジスタとしての機能

TQ0CCR3レジスタは，TQ0CTL0.TQ0CEビット = 1のときでも書き換えできます。

TQ0CCR3レジスタの設定値はCCR3バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR3バッファ・レジスタの値が一致することでコンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC3）を発生し，TOQ03端子出力を許可している場合，TOQ03端子出力を反転します。

(b) キャプチャ・レジスタとしての機能

フリー・ランニング・タイマ・モードにおいて，TQ0CCR3レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用する場合，キャプチャ・トリガ入力（TIQ03端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCR3レジスタに格納します。パルス幅測定モードの場合は，キャプチャ・トリガ入力（TIQ03端子）の有効エッジを検出すると，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCR3レジスタに格納し，16ビット・カウンタをクリア（0000H）します。

キャプチャ動作とTQ0CCR3レジスタのリードが競合しても，TQ0CCR3レジスタは正しい値をリードできます。

各動作モードと，対応するキャプチャ／コンペア・レジスタの機能，およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

表8－5　各動作モードとキャプチャ／コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法

動作モード	キャプチャ／コンペア・レジスタ	コンペア・レジスタ書き込み方法
インターバル・タイマ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部イベント・カウンタ	コンペア・レジスタ	随時書き込み
外部トリガ・パルス出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
ワンショット・パルス出力	コンペア・レジスタ	随時書き込み
PWM出力	コンペア・レジスタ	一斉書き込み
フリー・ランニング・タイマ	キャプチャ／コンペア・レジスタ	随時書き込み
パルス幅測定	キャプチャ・レジスタ	－

（11）TMQ0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TQ0CNT）

TQ0CNTレジスタは，16ビットのカウント値をリードできるリード・バッファ・レジスタです。

TQ0CTL0.TQ0CEビット = 1のときにTQ0CNTレジスタをリードすると，16ビット・カウンタのカウント値をリードできます。

16ビット単位でリードのみ可能です。

TQ0CEビット = 0のとき，TQ0CNTレジスタは0000Hになります。このときにTQ0CNTレジスタをリードすると，16ビット・カウンタの値（FFFFH）をリードせず，そのまま0000Hをリードします。

リセットによりTQ0CEビット = 0になるため，TQ0CNTレジスタは0000Hになります。

注意　次に示す状態において，TQ0CNTレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：0000H　R　アドレス：FFFFF54EH

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TQ0CNT																

8.5 動　　作

TMQ0には次のような動作があります。

動　作	TQ0CTL1.TQ0ESTビット（ソフトウエア・トリガ・ビット）	TIQ00端子（外部トリガ入力）	キャプチャ／コンペア・レジスタの設定	コンペア・レジスタの書き込み方法
インターバル・タイマ・モード	無効	無効	コンペア専用	随時書き込み
外部イベント・カウント・モード注1	無効	無効	コンペア専用	随時書き込み
外部トリガ・パルス出力モード注2	有効	有効	コンペア専用	一斉書き込み
ワンショット・パルス出力モード注2	有効	有効	コンペア専用	随時書き込み
PWM出力モード	無効	無効	コンペア専用	一斉書き込み
フリー・ランニング・タイマ・モード	無効	無効	切り替え可能	随時書き込み
パルス幅測定モード注2	無効	無効	キャプチャ専用	対象外

注1. 外部イベント・カウント・モードを使用する場合，TIQ00端子のキャプチャ・トリガ入力の有効エッジの設定を，エッジを検出しない（TQ0IOC1.TQ0IS1, TQ0IS0ビットを“00”）に設定してください。

2. 外部トリガ・パルス出力モード，ワンショット・パルス出力モード，パルス幅測定モードを使用する場合，カウント・クロックは内部クロックを選択（TQ0CTL1.TQ0EEEビット = 0に設定）してください。

8. 5. 1　インターバル・タイマ・モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 000）

インターバル・タイマ・モードは，TQ0CTL0.TQ0CEビットをセット（1）することで，任意のインターバル間隔にて割り込み要求信号（INTTQ0CC0）を発生します。また，TOQ00端子から，インターバル間隔を半周期とする方形波を出力できます。

インターバル・タイマ・モードでは，通常，TQ0CCR1-TQ0CCR3レジスタを使用しません。

図8－2　インターバル・タイマの構成図

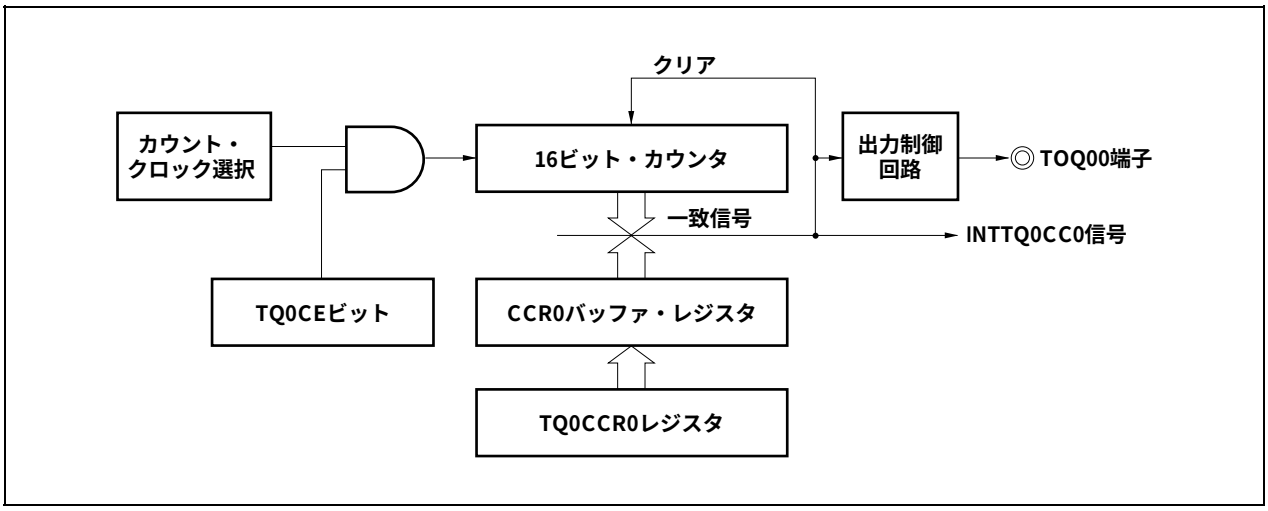
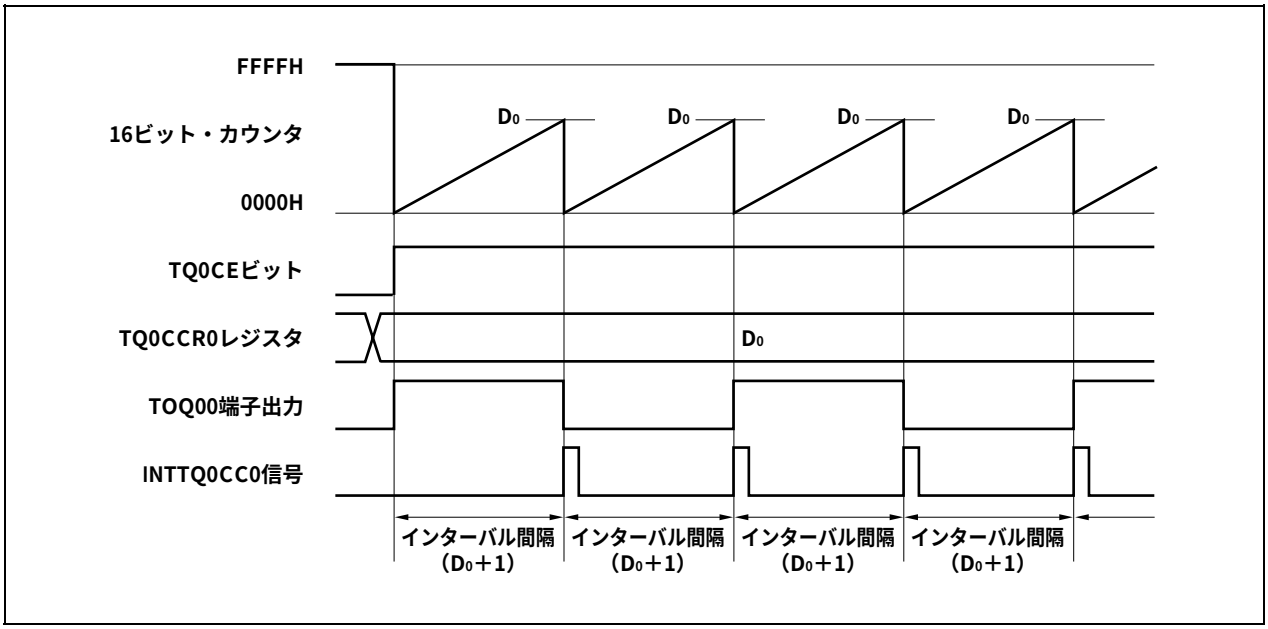


図8－3　インターバル・タイマ・モード動作の基本タイミング



TQ0CEビットをセット（1）することで，カウント・クロックに同期して16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアし，カウント動作を開始します。このときTOQ00端子出力を反転します。また，TQ0CCR0レジスタの設定値がCCR0バッファ・レジスタに転送されます。

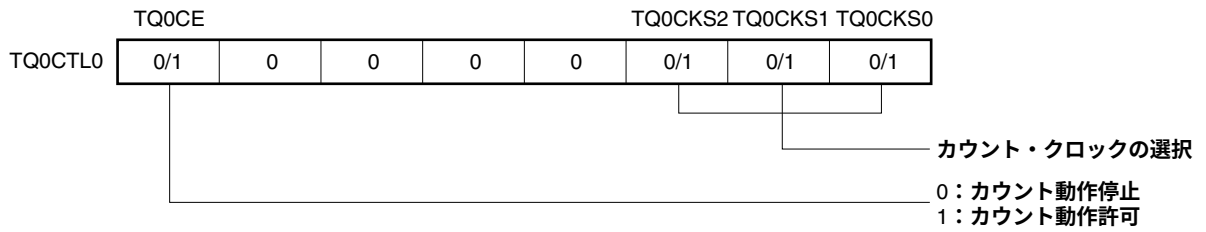
16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致すると，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，TOQ00端子出力を反転させて，コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC0）を発生します。

インターバル間隔は次のようになります。

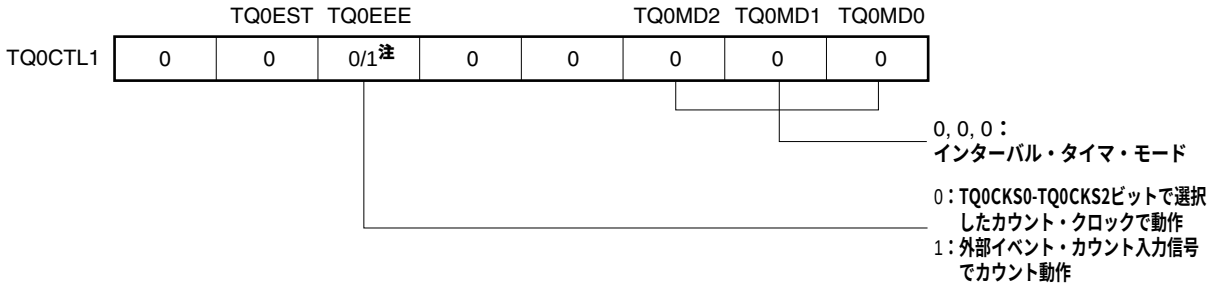
インターバル間隔 ＝ （TQ0CCR0レジスタ設定値＋1）×カウント・クロック周期

図8－4　インターバル・タイマ・モード動作時のレジスタ設定内容（1/2）

（a）TMQ0制御レジスタ0（TQ0CTL0）



（b）TMQ0制御レジスタ1（TQ0CTL1）



注　割り込み要求信号（INTTQ0CC0, INTTQ0CCk）を割り込みマスク・フラグ（TQ0CCMK0, TQ0CCMKk）でマスク設定し，タイマ出力（TOQ0k）する場合だけ，1に設定することを許可します。ただし，TQ0CCR0, TQ0CCRkレジスタの設定値は，同値にしてください（8. 5. 1（2）（d）TQ0CCR1-TQ0CCR3レジスタの動作参照）（k = 1-3）。

図8－4　インターバル・タイマ・モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

（c）TMQ0I/O**制御レジスタ**0（TQ0IOC0）

	TQ0OL3	TQ0OE3	TQ0OL2	TQ0OE2	TQ0OL1	TQ0OE1	TQ0OL0	TQ0OE0
TQ0IOC0	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1

0：TOQ00端子出力禁止
1：TOQ00端子出力許可

TOQ00端子の動作禁止状態での出力レベルの設定
0：ロウ・レベル
1：ハイ・レベル

0：TOQ01端子出力禁止
1：TOQ01端子出力許可

TOQ01端子の動作禁止状態での出力レベルの設定
0：ロウ・レベル
1：ハイ・レベル

0：TOQ02端子出力禁止
1：TOQ02端子出力許可

TOQ02端子の動作禁止状態での出力レベルの設定
0：ロウ・レベル
1：ハイ・レベル

0：TOQ03端子出力禁止
1：TOQ03端子出力許可

TOQ03端子の動作禁止状態での出力レベルの設定
0：ロウ・レベル
1：ハイ・レベル

（d）TMQ0**カウンタ・リード・バッファ・レジスタ**（TQ0CNT）

TQ0CNT**レジスタをリードすることで，**16**ビット・カウンタのカウント値をリードできます。**

（e）TMQ0**キャプチャ／コンペア・レジスタ**0（TQ0CCR0）

TQ0CCR0**レジスタに**D_0**を設定した場合，**

インターバル間隔 ＝ （D_0＋1）×**カウント・クロック周期**

となります。

（f）TMQ0**キャプチャ／コンペア・レジスタ**1-3（TQ0CCR1-TQ0CCR3）

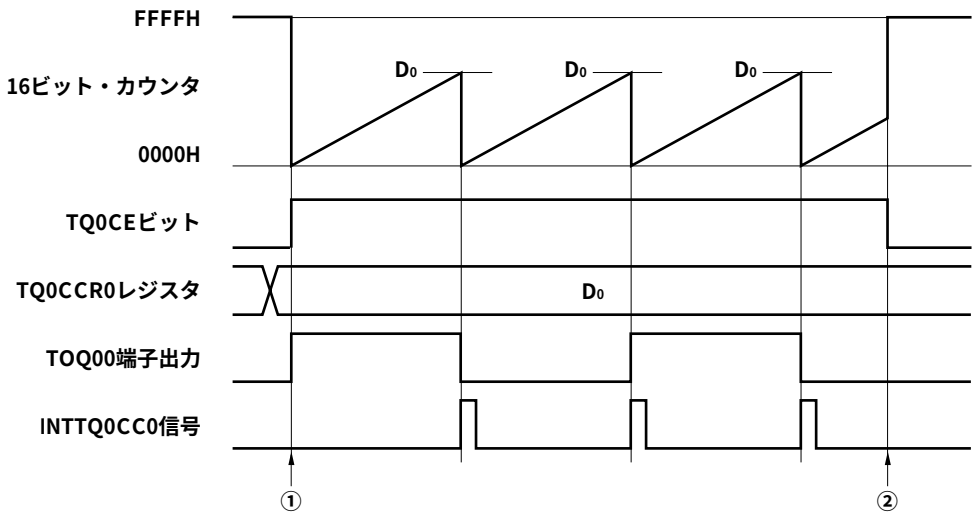
インターバル・タイマ・モードでは，通常，TQ0CCR1-TQ0CCR3**レジスタを使用しません。しかし，**TQ0CCR1-TQ0CCR3**レジスタの設定値は**CCR1-CCR3**バッファ・レジスタに転送され，**16**ビット・カウンタのカウント値と**CCR1-CCR3**バッファ・レジスタの値が一致するとコンペア一致割り込み要求信号（**INTTQ0CC1-INTTQ0CC3）**が発生します。**

したがって，割り込みマスク・フラグ（TQ0CCMK1-TQ0CCMK3）**でマスク設定しておいてください。**

備考　TMQ0I/O**制御レジスタ**1（TQ0IOC1），TMQ0I/O**制御レジスタ**2（TQ0IOC2），TMQ0**オプション・レジスタ**0（TQ0OPT0）**は，インターバル・タイマ・モードでは使用しません。**

(1) インターバル・タイマ・モード動作フロー

図8－5　インターバル・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー



① カウント動作開始フロー

TQ0CEビット = 1にする前に，
これらのレジスタを初期設定。

カウント動作開始（TQ0CEビット = 1）と同時に，
TQ0CKS0-TQ0CKS2ビットの設定は可能。

② カウント動作停止フロー

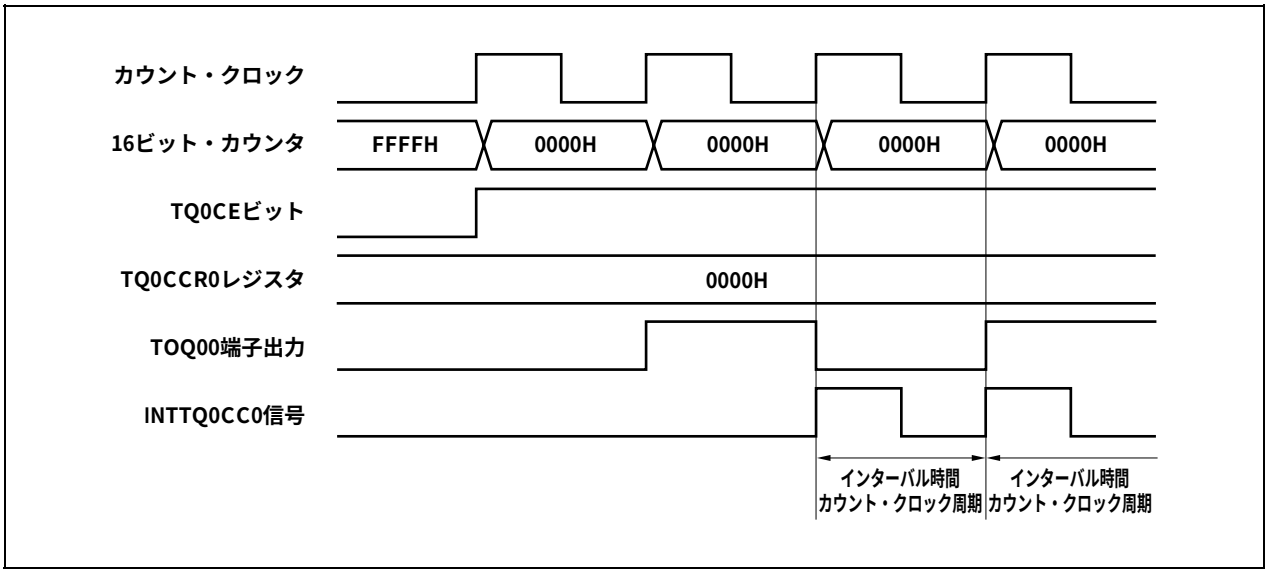
カウント動作停止（TQ0CEビット = 0）にすることで，
カウンタを初期化しカウント動作を停止。

(2) インターバル・タイマ・モード動作タイミング

(a) TQ0CCR0レジスタに0000Hを設定した場合の動作

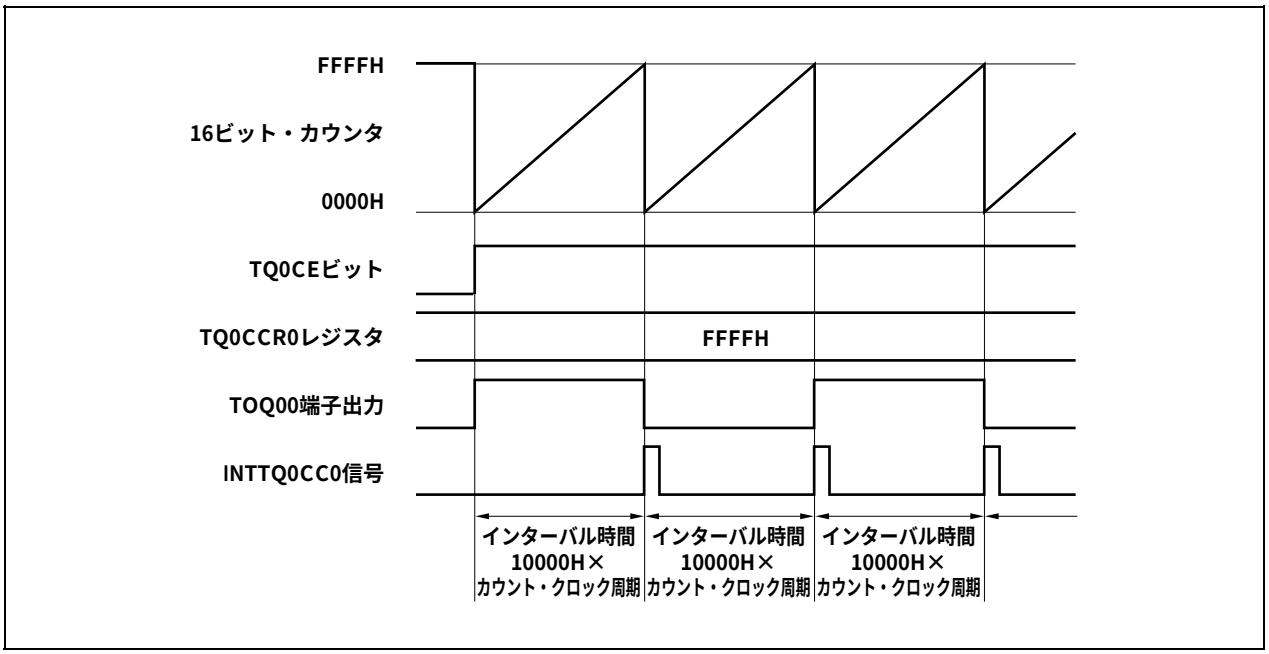
TQ0CCR0レジスタに0000Hを設定した場合，2クロック目以降のカウント・クロックごとにINTTQ0CC0信号を発生し，TOQ00端子の出力を反転します。

16ビット・カウンタは，常に0000Hとなります。



(b) TQ0CCR0レジスタにFFFFHを設定した場合の動作

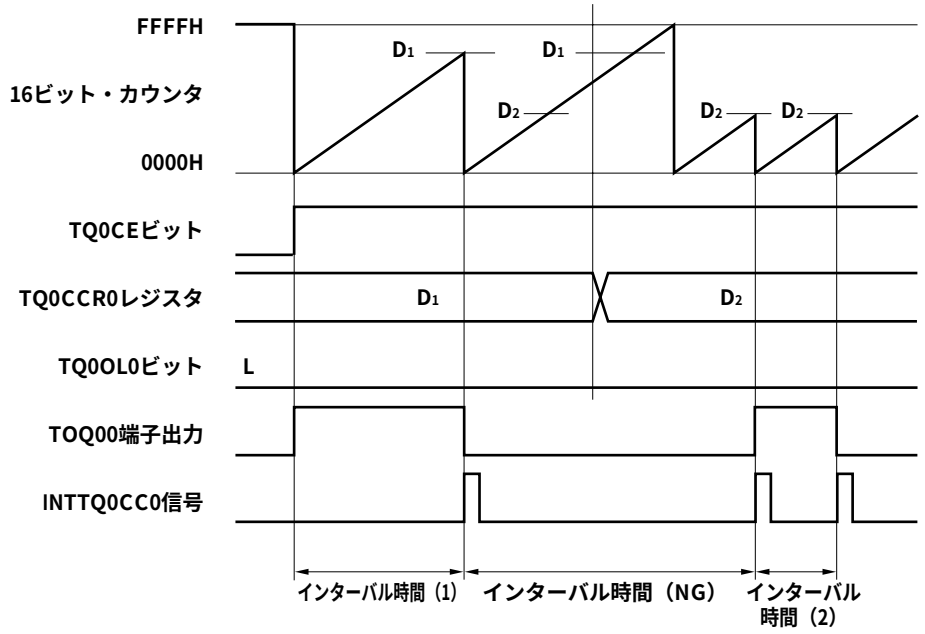
TQ0CCR0レジスタにFFFFHを設定した場合，16ビット・カウンタはFFFFHまでカウント動作を行い，次のカウント・アップ・タイミングに同期して，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，INTTQ0CC0信号を発生し，TOQ00端子の出力を反転します。このとき，オーバフロー割り込み要求信号（INTTQ0OV）は発生せず，オーバフロー・フラグ（TQ0OPT0.TQ0OVFビット）もセット（1）されません。



(c) TQ0CCR0レジスタの書き換えに関する注意事項

TQ0CCR0レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。

カウント動作中にTQ0CCR0レジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。



備考　インターバル時間（1）　：（D_1＋1）×カウント・クロック周期
　　インターバル時間（NG）　：（10000H＋D_2＋1）×カウント・クロック周期
　　インターバル時間（2）　：（D_2＋1）×カウント・クロック周期

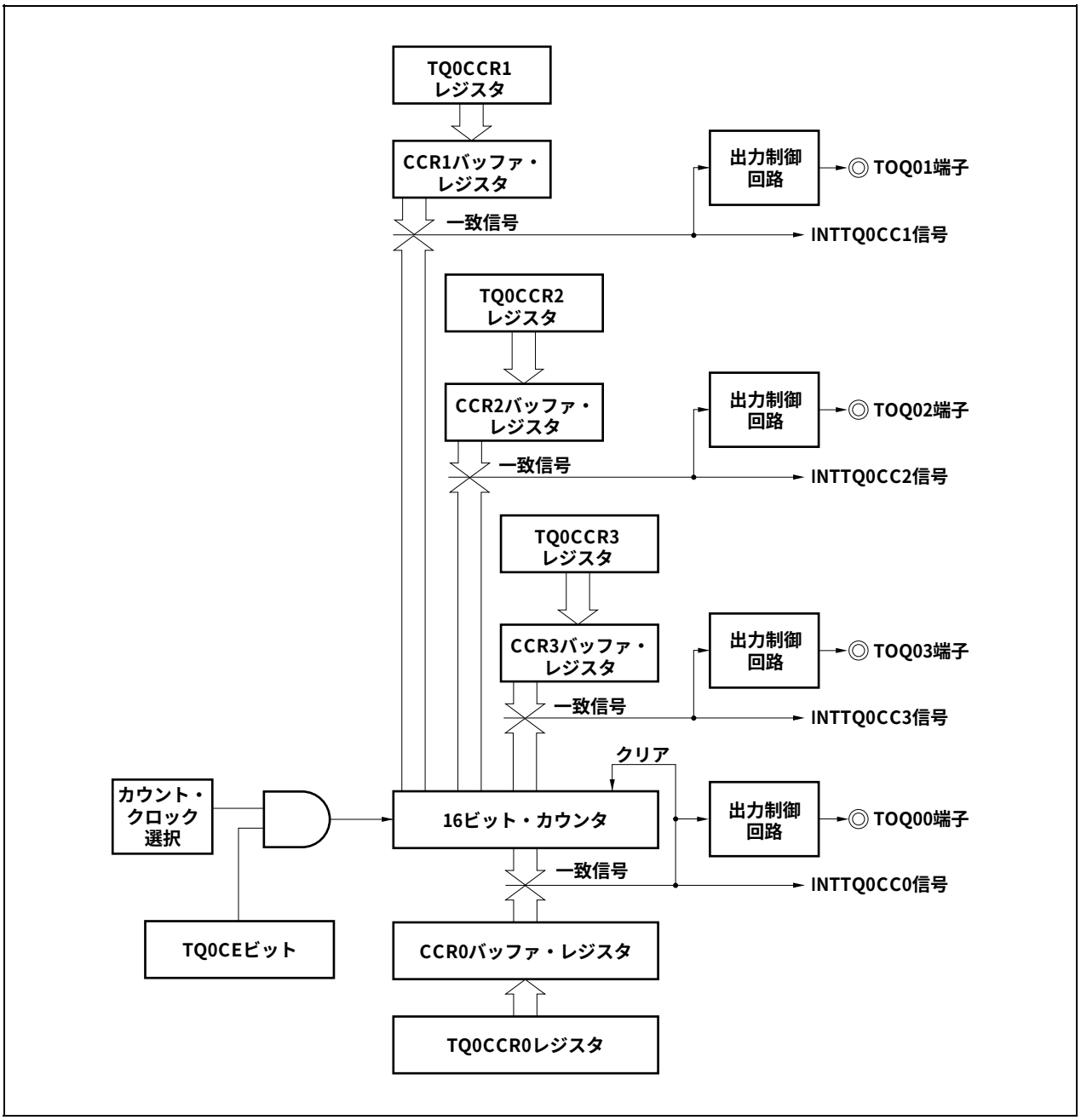
カウント値がD_2よりも大きくD_1よりも小さい状態において，TQ0CCR0レジスタをD_1からD_2に書き換えると，書き換えたタイミングでCCR0バッファ・レジスタに転送されるため，16ビット・カウンタとのコンペア値がD_2となります。

しかし，カウント値はすでにD_2を越えているためにFFFFHまでカウントを行い，オーバフロー後，0000Hから再度カウント・アップを行います。そして，D_2との一致でINTTQ0CC0信号を発生しTOQ00端子出力を反転します。

したがって，本来期待しているインターバル時間である「（D_1＋1）×カウント・クロック周期」または「（D_2＋1）×カウント・クロック周期」でINTTQ0CC0信号は発生せずに，「（10000H＋D_2＋1）×カウント・クロック周期」の間隔でINTTQ0CC0信号が発生する場合があります。

(d) TQ0CCR1-TQ0CCR3**レジスタの動作**

図8**ー**6　TQ0CCR1-TQ0CCR3**レジスタの構成図**

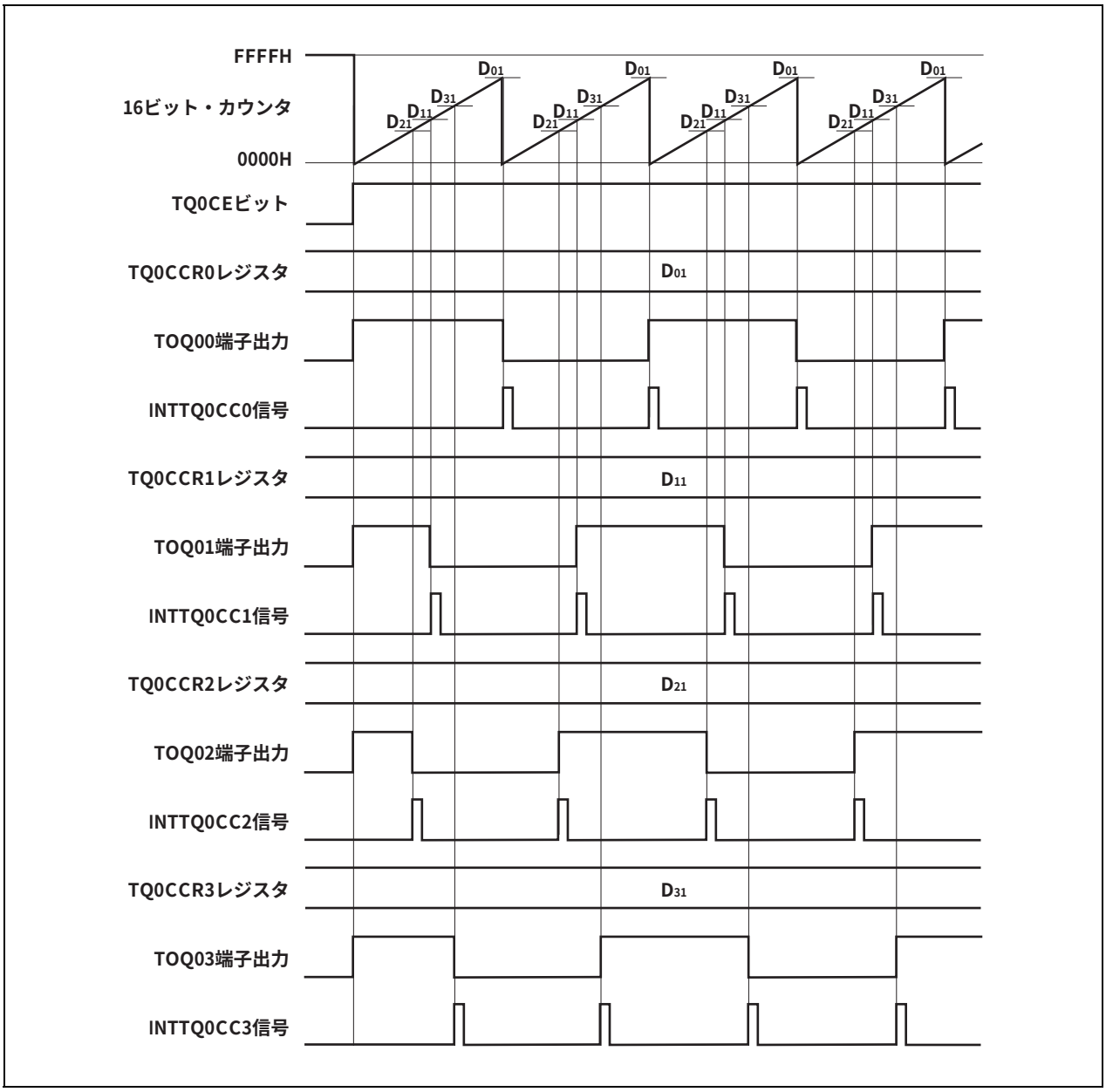


TQ0CCRkレジスタの設定値がTQ0CCR0レジスタの設定値よりも小さい場合には，1周期に1回のINTTQ0CCk信号が発生します。また，同じタイミングでTOQ0k端子出力は反転します。

TOQ0k端子出力は，TOQ00端子出力と同じ周期の方形波を出力します。

備考　k = 1-3

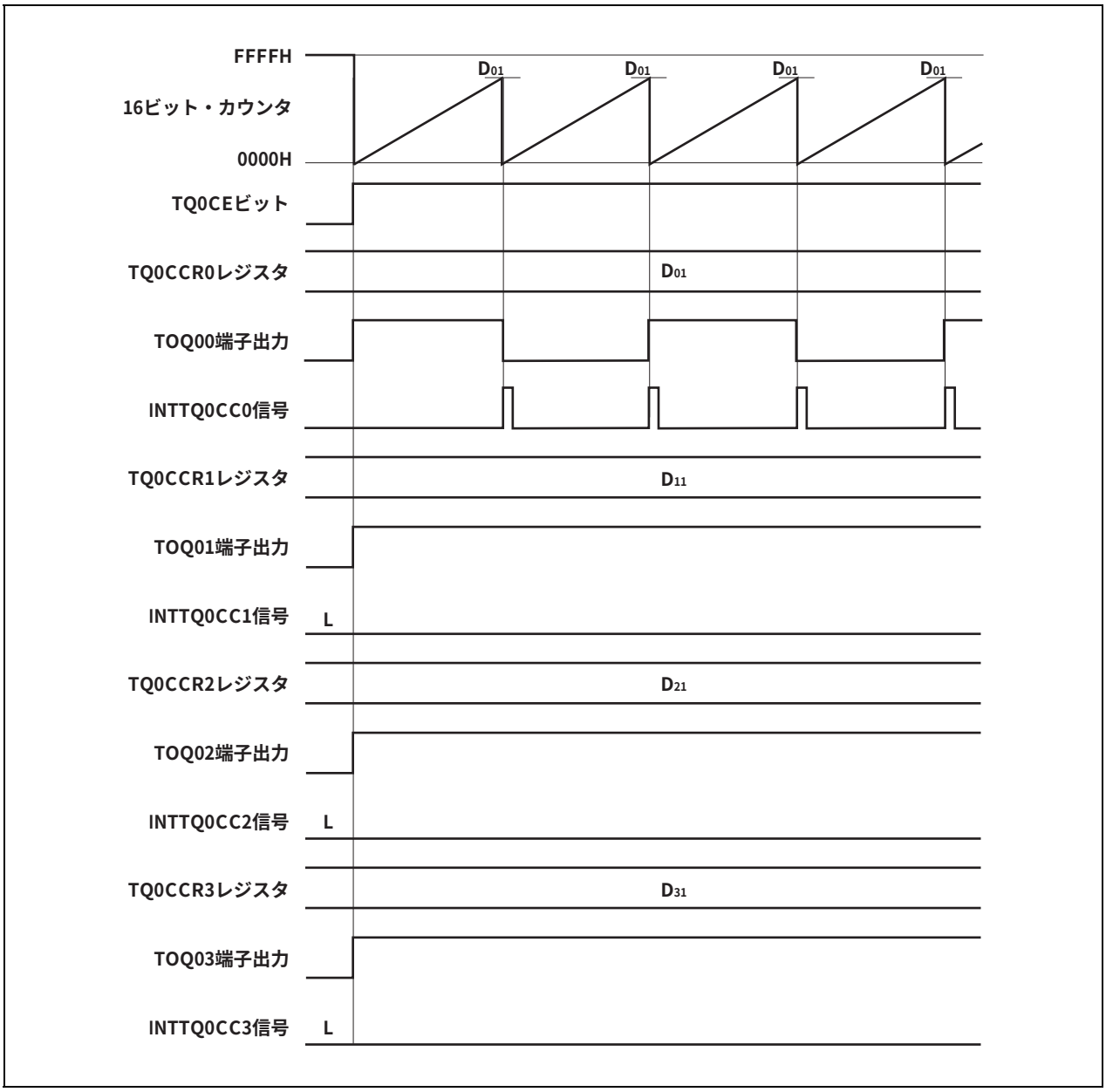
図8－7　$D_{01} \geqq D_{k1}$の場合のタイミング図



TQ0CCRkレジスタの設定値がTQ0CCR0レジスタの設定値よりも大きい場合には，16ビット・カウンタのカウント値とTQ0CCRkレジスタの値が一致しないので，INTTQ0CCk信号は発生しません。また，TOQ0k端子出力も変化しません。

備考　k = 1-3

図8－8　D_{01}＜D_{k1}の場合のタイミング図



8. 5. 2　外部イベント・カウント・モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 001）

外部イベント・カウント・モードは，TQ0CTL0.TQ0CEビットをセット（1）することで，外部イベント・カウント入力の有効エッジをカウントし，任意のカウント数をカウントするごとに割り込み要求信号（INTTQ0CC0）を発生します。TOQ00端子は使用できません。

外部イベント・カウント・モードでは，通常，TQ0CCR1-TQ0CCR3レジスタは使用しません。

図8－9　外部イベント・カウント・モードの構成図

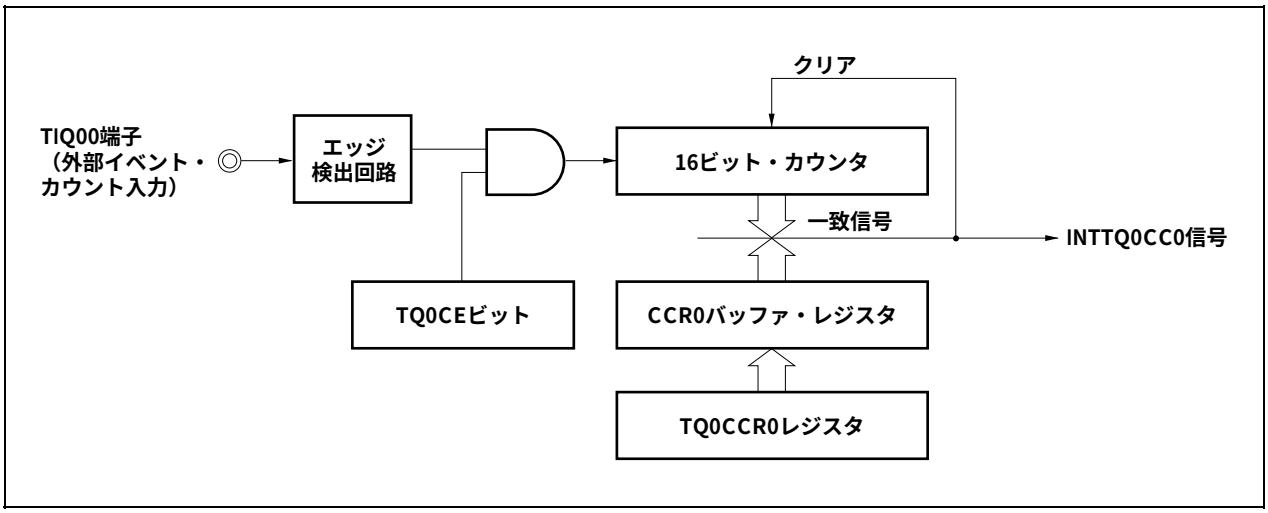
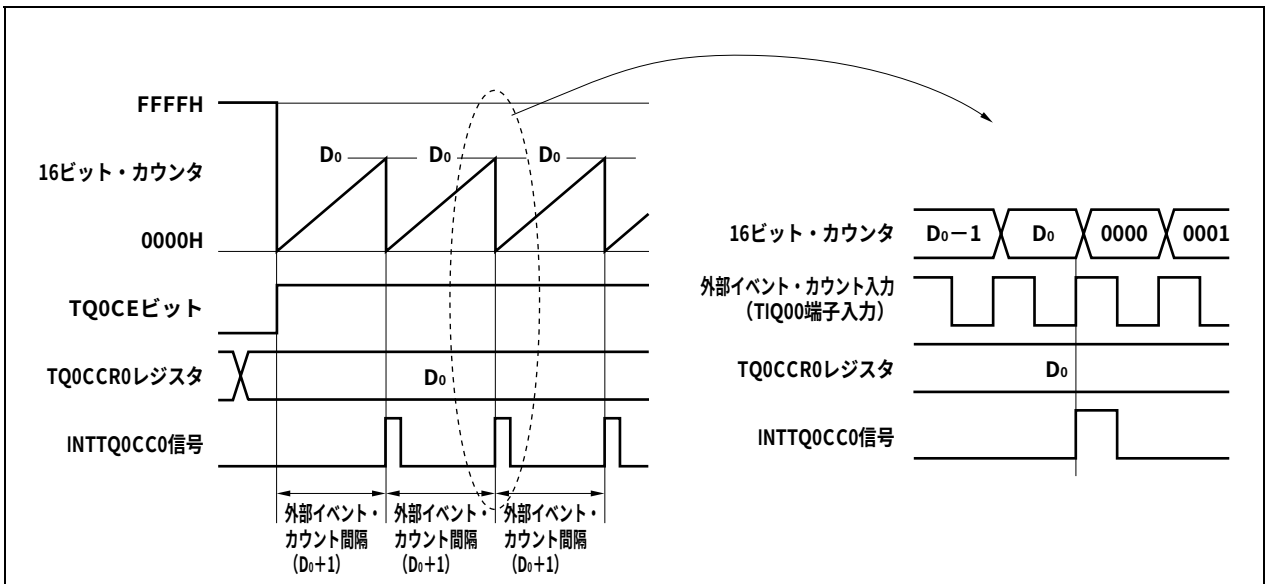


図8－10　外部イベント・カウント・モードの基本タイミング



備考　外部イベント・カウント入力の有効エッジを，立ち上がりエッジに指定した場合

TQ0CEビットをセット（1）することで，16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアし，外部イベント・カウント入力の有効エッジを検出するごとにカウント動作を行います。また，TQ0CCR0レジスタの設定値がCCR0バッファ・レジスタに転送されます。

16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致すると，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC0）を発生します。

INTTQ0CC0信号は，外部イベント・カウント入力の有効エッジを（TQ0CCR0レジスタに設定した値＋1）回検出するごとに発生します。

図8－11　外部イベント・カウント・モード動作時のレジスタ設定内容（1/2）

（a）TMQ0制御レジスタ0（TQ0CTL0）

	TQ0CE					TQ0CKS2	TQ0CKS1	TQ0CKS0
TQ0CTL0	0/1	0	0	0	0	0	0	0

0：カウント動作停止
1：カウント動作許可

（b）TMQ0制御レジスタ1（TQ0CTL1）

		TQ0EST	TQ0EEE			TQ0MD2	TQ0MD1	TQ0MD0
TQ0CTL1	0	0	0	0	0	0	0	1

0, 0, 1：
外部イベント・カウント・モード

（c）TMQ0I/O制御レジスタ0（TQ0IOC0）

	TQ0OL3	TQ0OE3	TQ0OL2	TQ0OE2	TQ0OL1	TQ0OE1	TQ0OL0	TQ0OE0
TQ0IOC0	0	0	0	0	0	0	0	0

0：TOQ00端子出力禁止
0：TOQ01端子出力禁止
0：TOQ02端子出力禁止
0：TOQ03端子出力禁止

（d）TMQ0I/O制御レジスタ2（TQ0IOC2）

					TQ0EES1	TQ0EES0	TQ0ETS1	TQ0ETS0
TQ0IOC2	0	0	0	0	0/1	0/1	0	0

外部イベント・カウント
入力有効エッジの選択

（e）TMQ0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TQ0CNT）

TQ0CNTレジスタをリードすることで，16ビット・カウンタのカウント値をリードできます。

図8－11　外部イベント・カウント・モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

(f) TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ0（TQ0CCR0）

TQ0CCR0レジスタにD_0を設定した場合，外部イベント・カウント数が（D_0＋1）回となるとカウントをクリアしコンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC0）を発生します。

(g) TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ1-3（TQ0CCR1-TQ0CCR3）

外部イベント・カウント・モードでは，通常，TQ0CCR1-TQ0CCR3レジスタは使用しません。しかし，TQ0CCR1-TQ0CCR3レジスタの設定値はCCR1-CCR3バッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタのカウント値とCCR1-CCR3バッファ・レジスタの値が一致するとコンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC1-INTTQ0CC3）が発生します。

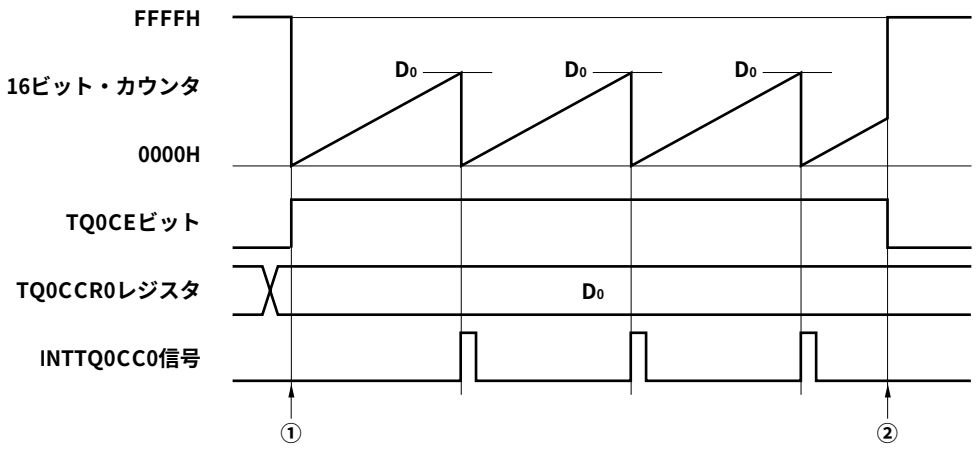
したがって，割り込みマスク・フラグ（TQ0CCMK1-TQ0CCMK3）でマスク設定しておいてください。

注意　カウント・クロックとして外部クロックを使用するときは，外部クロックはTIQ00端子からのみ入力できます。このとき，TQ0IOC1.TQ0IS1, TQ0IS0ビット = 00（キャプチャ・トリガ入力（TIQ00端子）：エッジ検出なし）に設定してください。

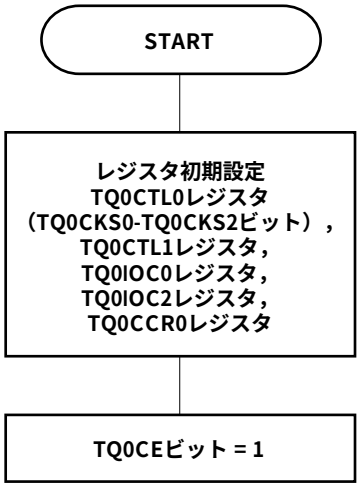
備考　TMQ0I/O制御レジスタ1（TQ0IOC1），TMQ0オプション・レジスタ0（TQ0OPT0）は，外部イベント・カウント・モードでは使用しません。

(1) 外部イベント・カウント・モード動作フロー

図8－12　外部イベント・カウント・モード使用時のソフトウエア処理フロー



① カウント動作開始フロー



TQ0CEビット = 1にする前に，
これらのレジスタを初期設定。

カウント動作開始（TQ0CEビット = 1）と同時に，
TQ0CKS0-TQ0CKS2ビットの設定は可能。

② カウント動作停止フロー

カウント動作停止（TQ0CEビット = 0）にすることで，
カウンタを初期化しカウント動作を停止。

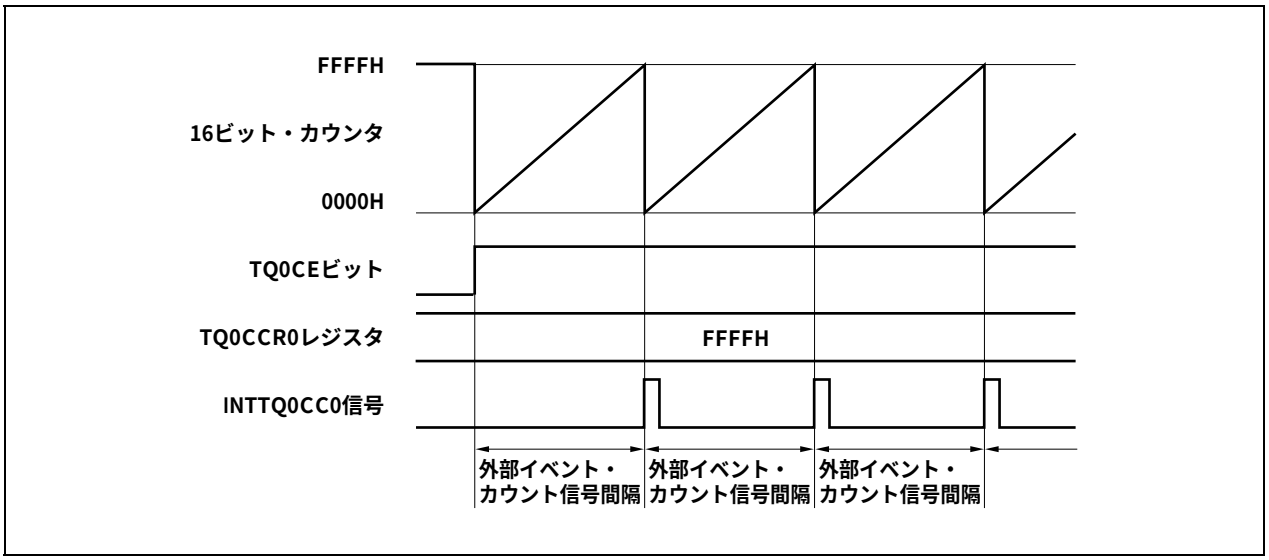
（2）外部イベント・カウント・モード動作タイミング

注意1.　**外部イベント・カウント・モード時，**TQ0CCR0**レジスタには，**0000H**を設定しないでください。**

2.　**外部イベント・カウント・モード時，タイマ出力は使用禁止です。外部イベント・カウント入力でタイマ出力を行う場合は，インターバル・タイマ・モードに設定してカウント・クロックを外部イベント・カウント入力での動作許可に選択してください（**TQ0CTL1.TQ0MD2-TQ0MD0**ビット** = 000, TQ0CTL1.TQ0EEE**ビット** = 1**）。**

（a）TQ0CCR0**レジスタに**FFFFH**を設定した場合の動作**

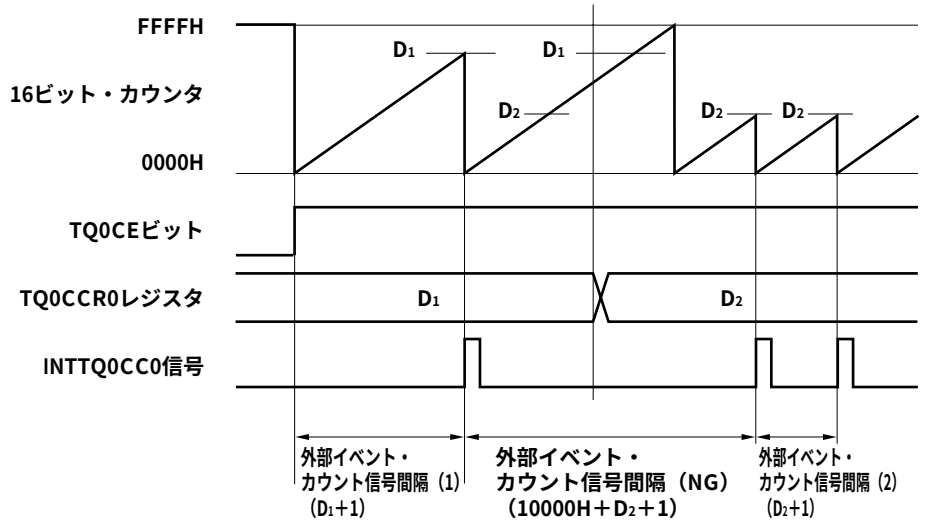
TQ0CCR0**レジスタに**FFFFH**を設定した場合，**16**ビット・カウンタは外部イベント・カウント信号の有効エッジを検出するごとに**FFFFH**までカウント動作を行い，次のカウント・アップ・タイミングに同期して，**16**ビット・カウンタを**0000H**にクリアし，**INTTQ0CC0**信号を発生します。このとき，**TQ0OPT0.TQ0OVF**ビットはセットされません。**



(b) TQ0CCR0レジスタの書き換えに関する注意事項

TQ0CCR0レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。

カウント動作中にTQ0CCR0レジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。



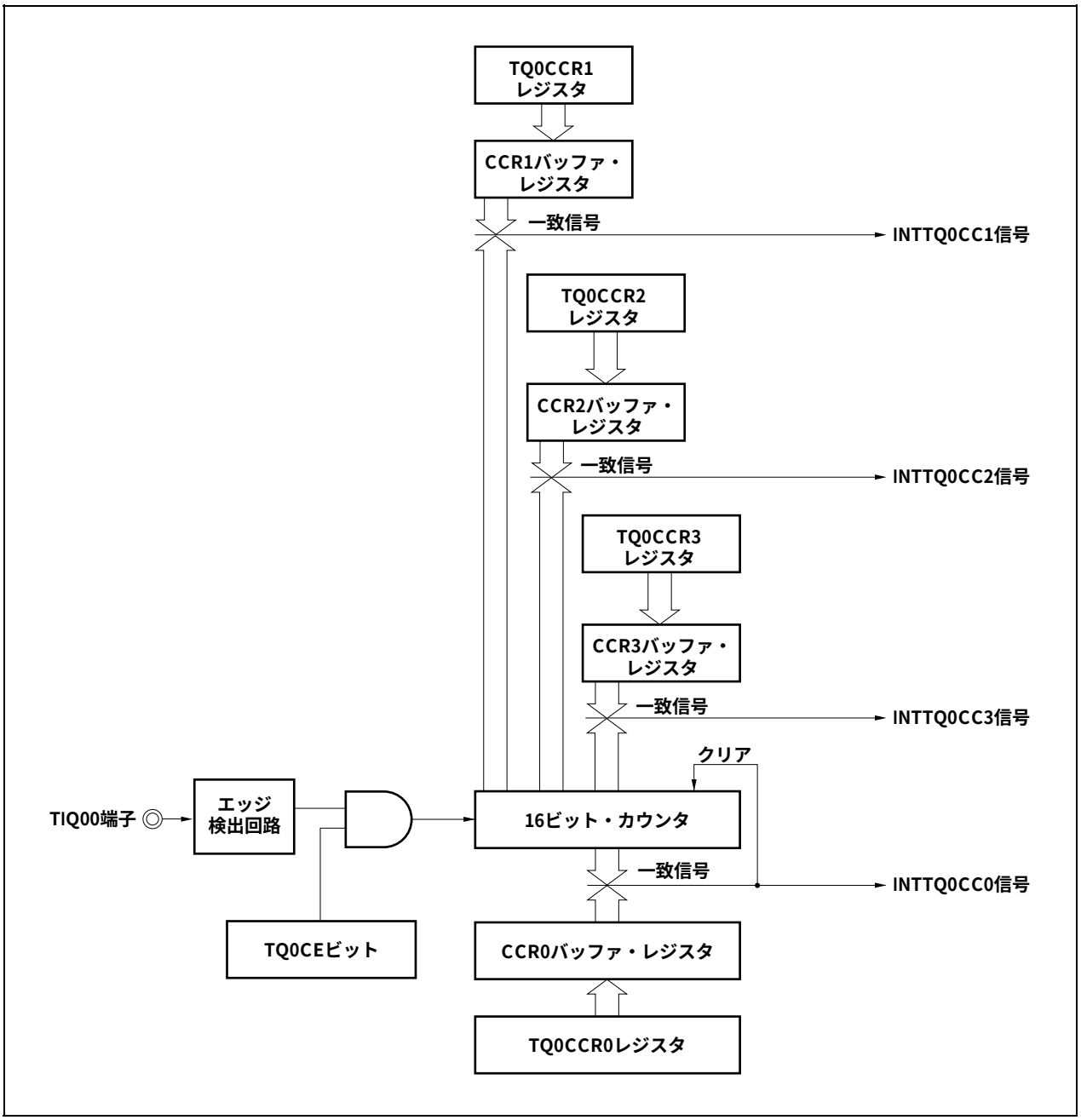
カウント値がD2よりも大きくD1よりも小さい状態において，TQ0CCR0レジスタをD1からD2に書き換えると，書き換えたタイミングでCCR0バッファ・レジスタに転送されるため，16ビット・カウンタとのコンペア値がD2となります。

しかし，カウント値はすでにD2を越えているためにFFFFHまでカウントを行い，オーバフロー後，0000Hから再度カウント・アップを行います。そして，D2との一致でINTTQ0CC0信号を発生します。

したがって，本来期待している外部イベント・カウント数である「（D1＋1）回」または「（D2＋1）回」の有効エッジ数でINTTQ0CC0信号は発生せずに，「（10000H＋D2＋1）回」の有効エッジ数でINTTQ0CC0信号が発生する場合があります。

(c) TQ0CCR1-TQ0CCR3**レジスタの動作**

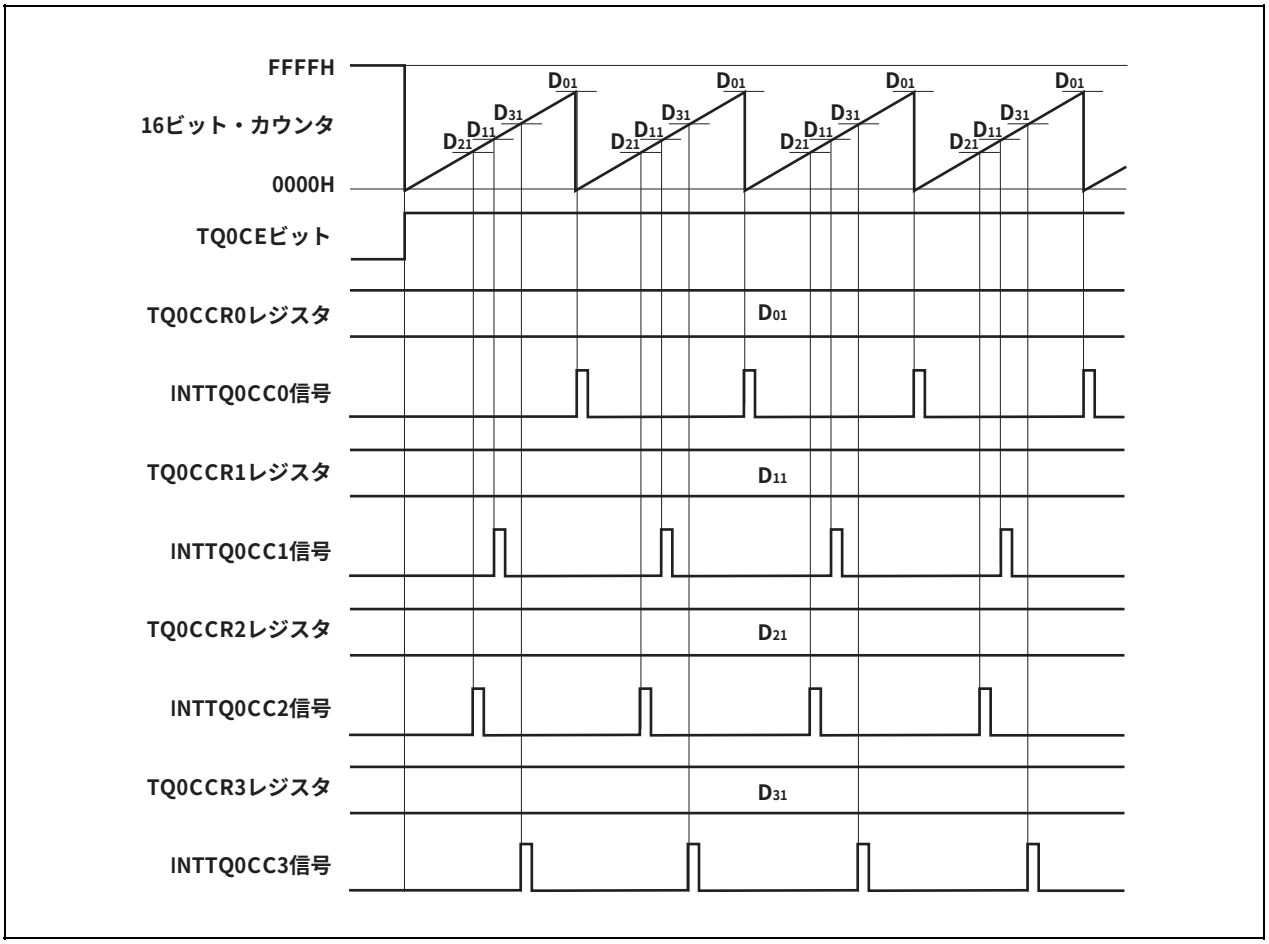
図8**ー**13　TQ0CCR1-TQ0CCR3**レジスタの構成図**



TQ0CCRkレジスタの設定値がTQ0CCR0レジスタの設定値よりも小さい場合には，1周期に1回のINTTQ0CCk信号が発生します。

備考　k = 1-3

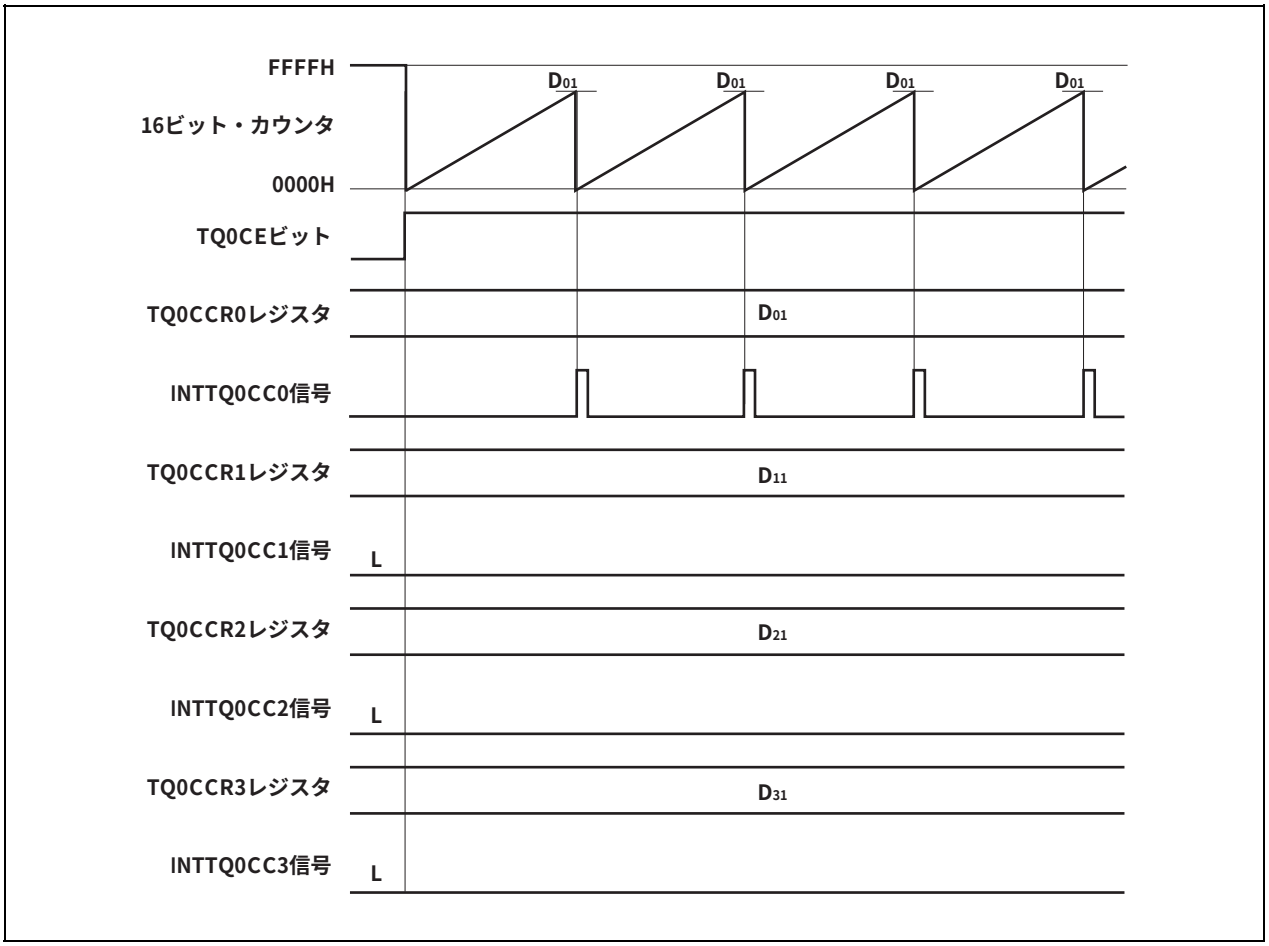
図8－14　$D_{01} \geqq D_{k1}$の場合のタイミング図



TQ0CCRkレジスタの設定値がTQ0CCR0レジスタの設定値よりも大きい場合には，16ビット・カウンタのカウント値とTQ0CCRkレジスタの値が一致しないので，INTTQ0CCk信号は発生しません。

備考　k = 1-3

図8－15　D_{01}＜D_{k1}の場合のタイミング図



8. 5. 3　外部トリガ・パルス出力モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 010）

外部トリガ・パルス出力モードは，TQ0CTL0.TQ0CEビットをセット（1）することでトリガ待ち状態となり，外部トリガ入力の有効エッジを検出すると，カウント動作を開始し，TOQ01-TOQ03端子から最大3相のPWM波形を出力します。

外部トリガ入力の代わりに，ソフトウエア・トリガを発生させることでもパルスを出力できます。ソフトウエア・トリガを使用する場合，TOQ00端子から，PWM波形の1周期を半周期とする方形波を出力できます。

図8－16　外部トリガ・パルス出力モードの構成図

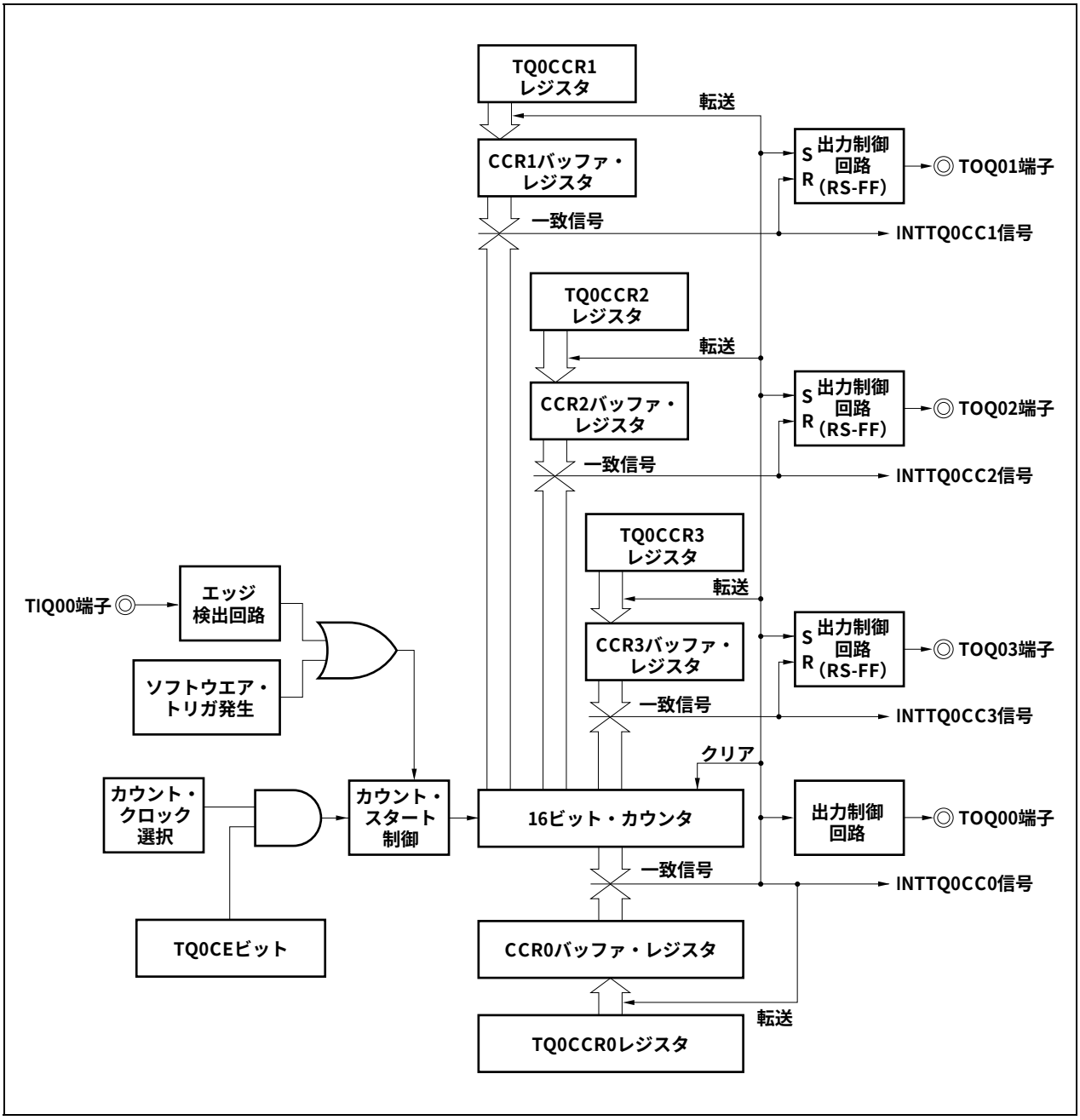
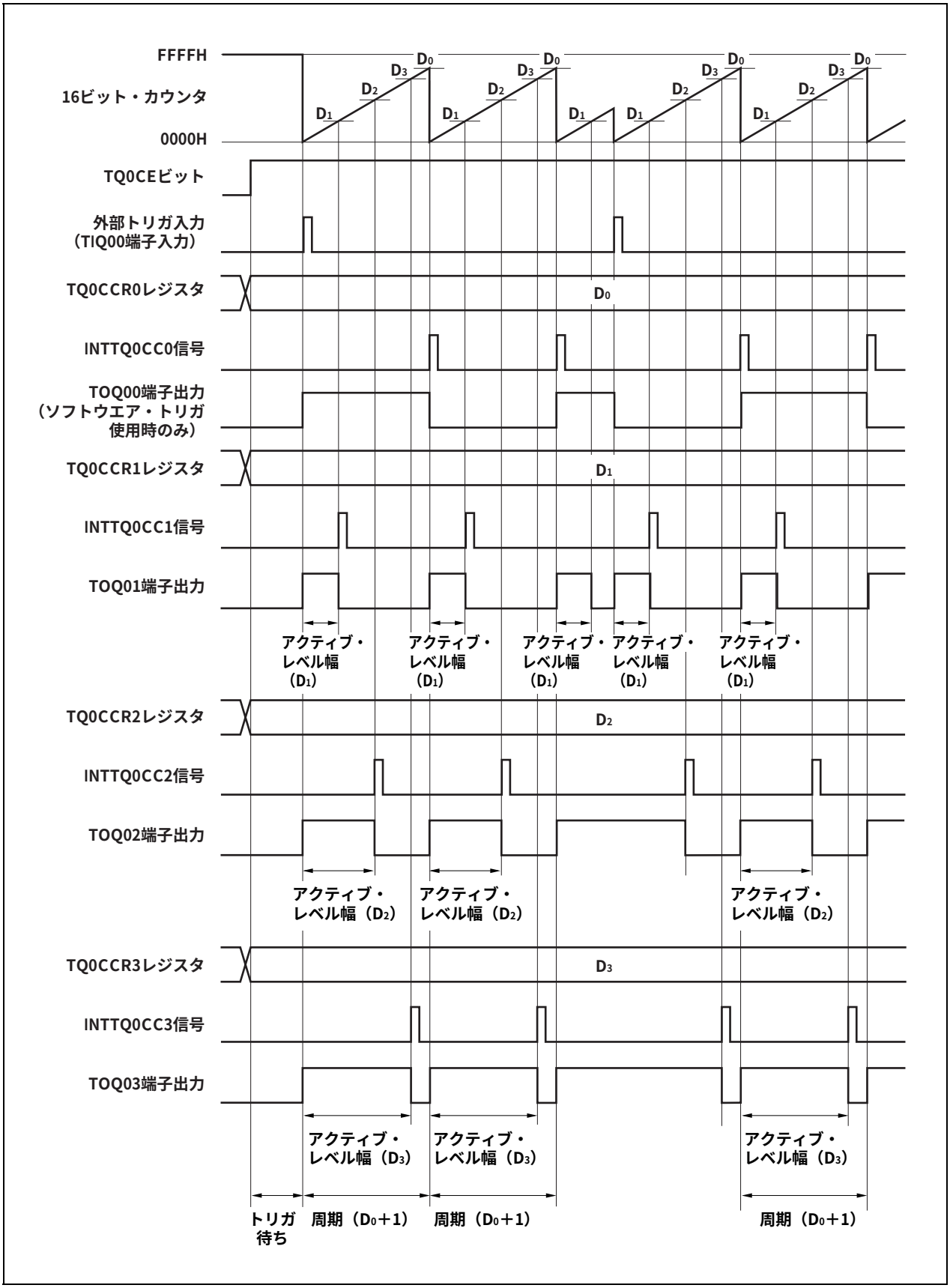


図8－17　外部トリガ・パルス出力モードの基本タイミング



TQ0CEビットをセット（1）することで，トリガ待ち状態となります。トリガが発生すると，16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアして同時にカウント動作を開始し，TOQ0k端子からPWM波形を出力します。動作中に，再度トリガが発生した場合には，カウンタを0000Hにクリアし再スタートします（TOQ00端子出力は反転します。TOQ0k端子出力は，ロウ・レベル出力，ハイ・レベル出力にかかわらず，ハイ・レベル出力になります）。

PWM波形のアクティブ・レベル幅，周期，およびデューティは次のように求められます。

アクティブ・レベル幅 = （TQ0CCRkレジスタの設定値）×カウント・クロック周期
周期 = （TQ0CCR0レジスタの設定値＋1）×カウント・クロック周期
デューティ = （TQ0CCRkレジスタの設定値）／（TQ0CCR0レジスタの設定値＋1）

コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC0）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致した次のカウント・タイミングで発生し，同時に16ビット・カウンタを0000Hにクリアします。コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CCk）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCRkバッファ・レジスタの値が一致するタイミングで発生します。

TQ0CCRmレジスタに設定した値は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致し，16ビット・カウンタを0000Hにクリアするタイミングで CCRmバッファ・レジスタに転送されます。

トリガには，外部トリガ入力の有効エッジ，またはソフトウエア・トリガ（TQ0CTL1.TQ0ESTビット）のセット（1）があります。

備考　k = 1-3,
m = 0-3

図8－18　外部トリガ・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（1/3）

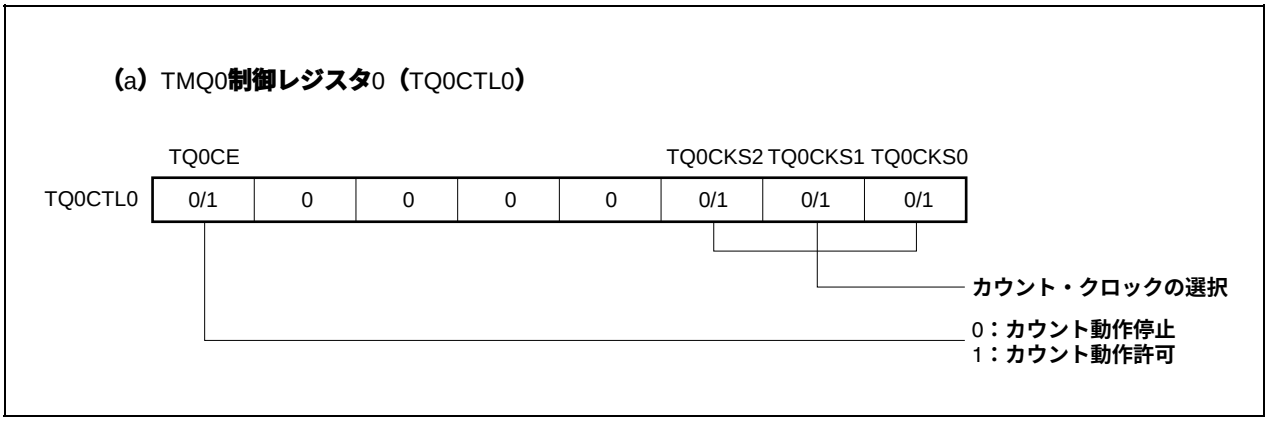


図8－18　外部トリガ・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（2/3）

(b) TMQ0**制御レジスタ**1**（**TQ0CTL1**）**

	TQ0EST	TQ0EEE				TQ0MD2	TQ0MD1	TQ0MD0
TQ0CTL1	0	0	0	0	0	0	1	0

0, 1, 0：
外部トリガ・パルス出力モード

“1”を書き込むことで，
ソフトウエア・トリガを発生

(c) TMQ0I/O**制御レジスタ**0**（**TQ0IOC0**）**

	TQ0OL3	TQ0OE3	TQ0OL2	TQ0OE2	TQ0OL1	TQ0OE1	TQ0OL0	TQ0OE0
TQ0IOC0	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1注	0/1注

0：TOQ00端子出力禁止
1：TOQ00端子出力許可

TOQ00端子の動作禁止状態
での出力レベルの設定
0：ロウ・レベル
1：ハイ・レベル

0：TOQ01端子出力禁止
1：TOQ01端子出力許可

TOQ01端子出力のアク
ティブ・レベル指定
0：ハイ・アクティブ
1：ロウ・アクティブ

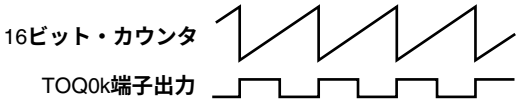
0：TOQ02端子出力禁止
1：TOQ02端子出力許可

TOQ02端子出力のアク
ティブ・レベル指定
0：ハイ・アクティブ
1：ロウ・アクティブ

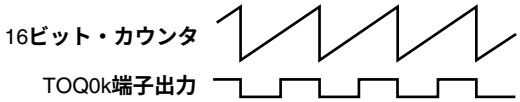
0：TOQ03端子出力禁止
1：TOQ03端子出力許可

TOQ03端子出力のアク
ティブ・レベル指定
0：ハイ・アクティブ
1：ロウ・アクティブ

・TQ0OLkビット = 0の場合



・TQ0OLkビット = 1の場合



注　外部トリガ・パルス出力モードでTOQ00端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。

図8－18　外部トリガ・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（3/3）

（d）TMQ0I/O制御レジスタ2（TQ0IOC2）

					TQ0EES1	TQ0EES0	TQ0ETS1	TQ0ETS0
TQ0IOC2	0	0	0	0	0	0	0/1	0/1

外部トリガ入力有効エッジの選択

（e）TMQ0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TQ0CNT）

TQ0CNTレジスタをリードすることで，16ビット・カウンタの値をリードできます。

（f）TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ0-3（TQ0CCR0-TQ0CCR3）

TQ0CCR0レジスタにD_0を設定し，TQ0CCR1レジスタにD_1を，TQ0CCR2レジスタにD_2を，TQ0CCR3レジスタにD_3を設定した場合，

PWM波形の周期 ＝ （D_0＋1）×カウント・クロック周期
TOQ01端子からのPWM波形のアクティブ・レベル幅 ＝ D_1×カウント・クロック周期
TOQ02端子からのPWM波形のアクティブ・レベル幅 ＝ D_2×カウント・クロック周期
TOQ03端子からのPWM波形のアクティブ・レベル幅 ＝ D_3×カウント・クロック周期

となります。

備考1.　TMQ0I/O制御レジスタ1（TQ0IOC1），TMQ0オプション・レジスタ0（TQ0OPT0）は，外部トリガ・パルス出力モードでは使用しません。

2.　TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ2（TQ0CCR2），TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ3（TQ0CCR3）の更新は，TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ1（TQ0CCR1）への書き込みにより有効になります。

（1）外部トリガ・パルス出力モード動作フロー

図8－19　外部トリガ・パルス出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（1/2）

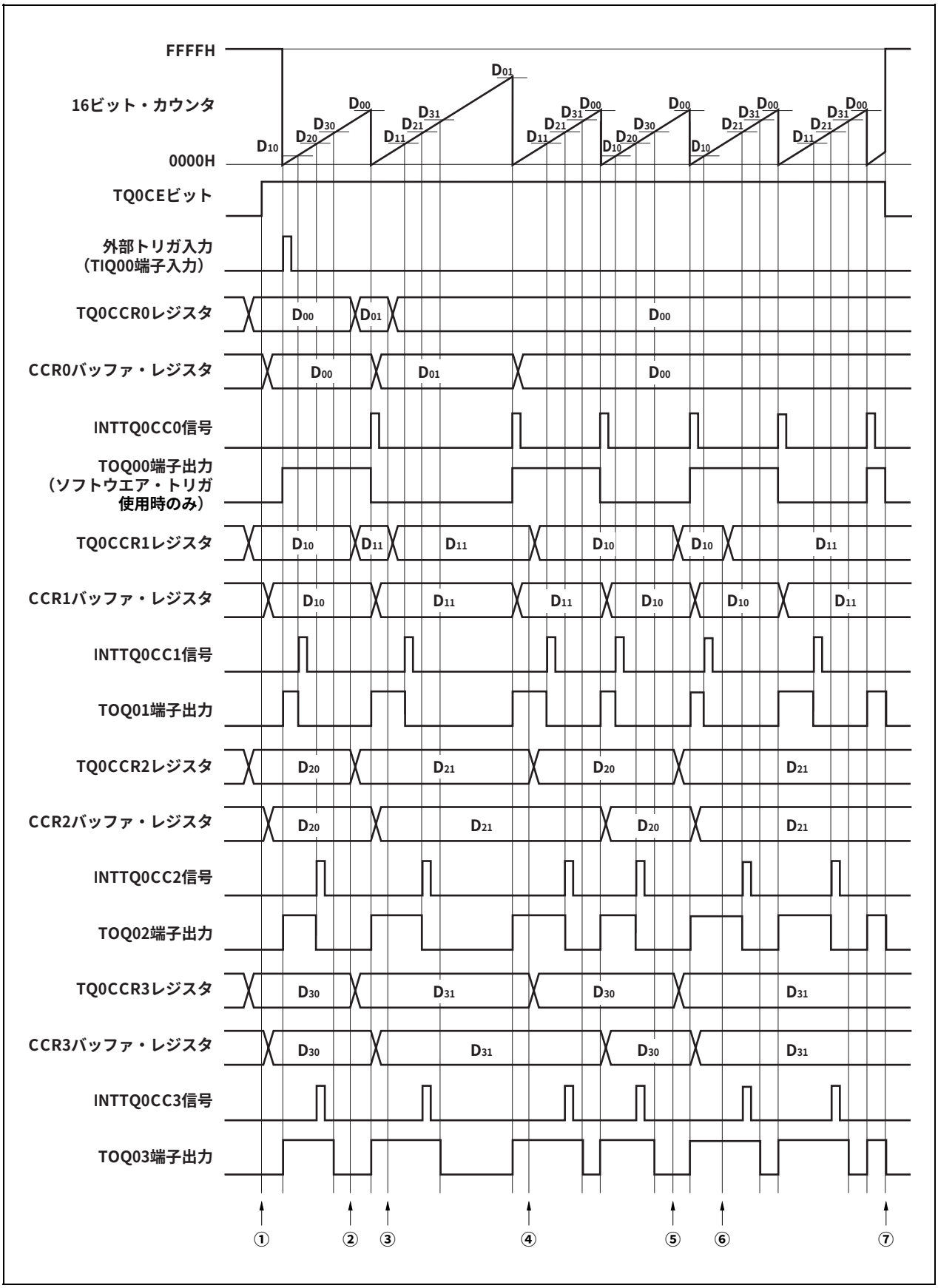
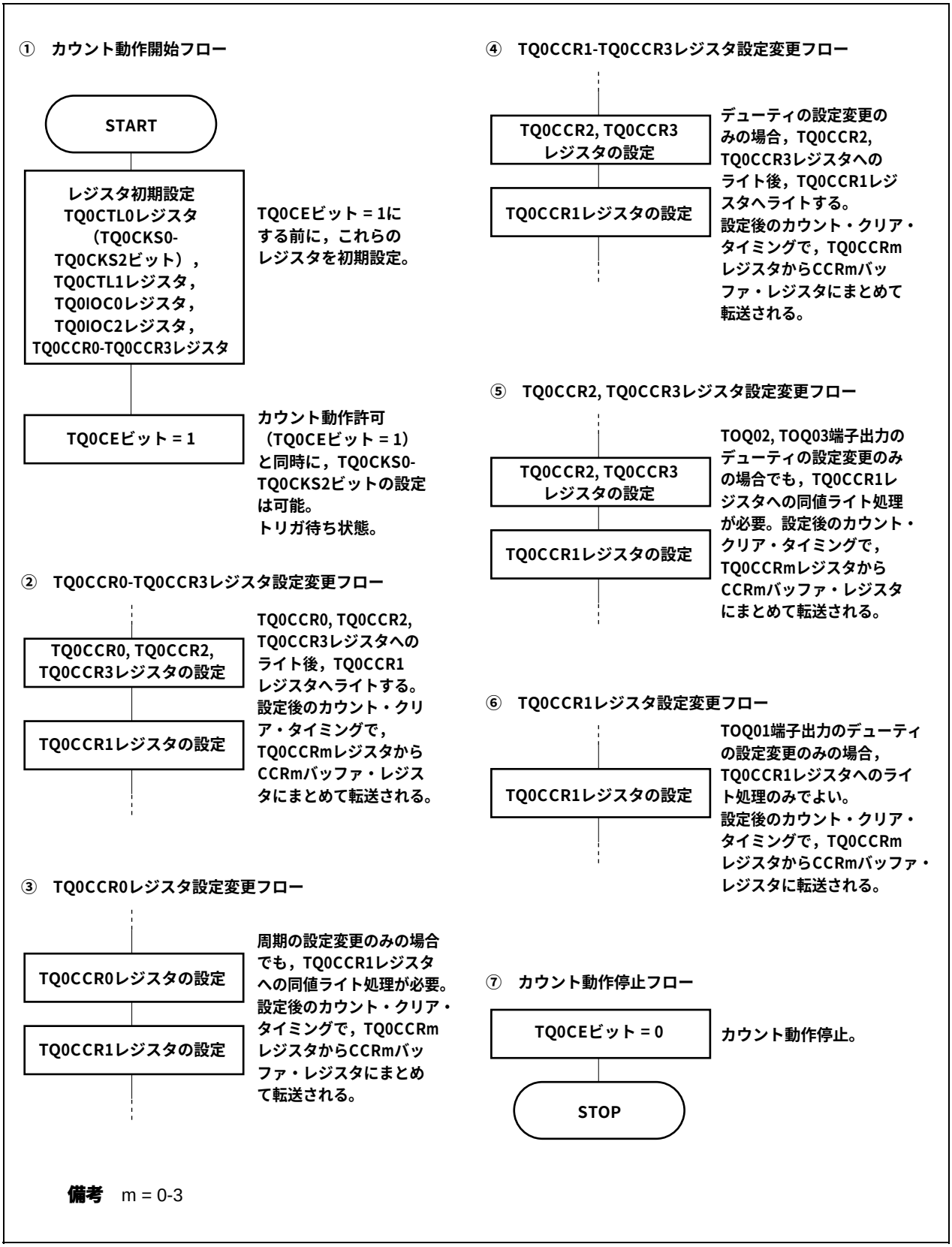


図8－19　外部トリガ・パルス出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（2/2）



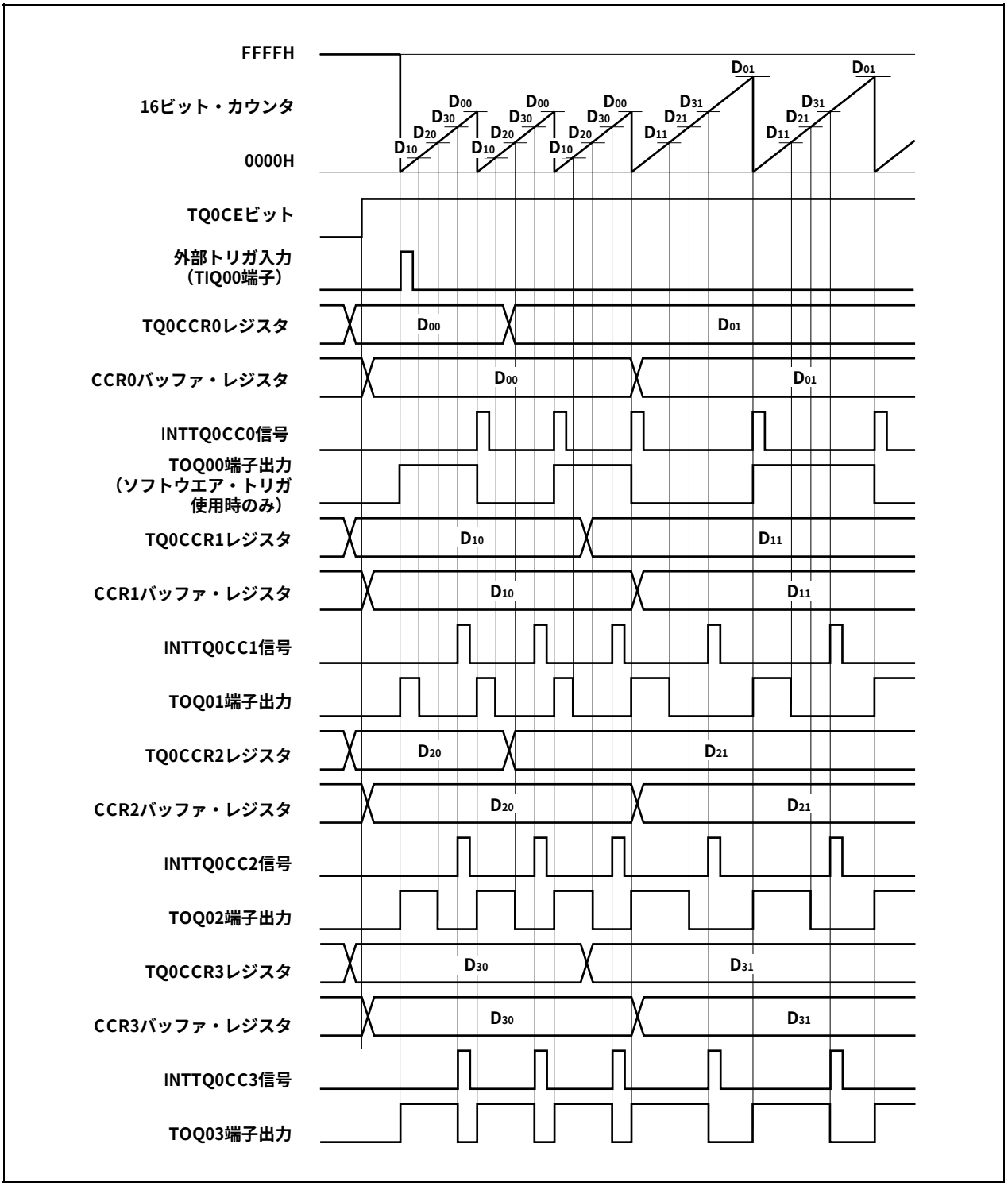
備考　m = 0-3

(2) 外部トリガ・パルス出力モード動作タイミング

(a) 動作中のパルス幅変更の注意事項

動作中にPWM波形を変更する場合には，最後にTQ0CCR1レジスタにライトしてください。

TQ0CCR1レジスタにライト後，再度TQ0CCRkレジスタの書き換えを行う場合には，INTTQ0CC0信号を検出後に書き換えてください。



TQ0CCRmレジスタからCCRmバッファ・レジスタへのデータ転送を行うためには，TQ0CCR1レジスタに対してライトする必要があります。

このとき，PWM波形の周期とアクティブ・レベル幅の両方を変更する場合には，まずTQ0CCR0レジスタに周期を，TQ0CCR2, TQ0CCR3レジスタにアクティブ・レベル幅を設定し，最後にTQ0CCR1レジスタにアクティブ・レベル幅を設定してください。

PWM波形の周期だけを変更する場合には，まずTQ0CCR0レジスタに周期を設定し，そのあとでTQ0CCR1レジスタに同値をライトしてください。

PWM波形のアクティブ・レベル幅（デューティ）のみ変更する場合には，まず，TQ0CCR2, TQ0CCR3レジスタにアクティブ・レベル幅を設定し，最後にTQ0CCR1レジスタにアクティブ・レベル幅を設定してください。

TOQ01端子出力のPWM波形のアクティブ・レベル幅（デューティ）のみ変更する場合は，TQ0CCR1レジスタのみの設定でかまいません。

TOQ02，TOQ03端子出力のPWM波形のアクティブ・レベル幅（デューティ）のみ変更する場合は，まずTQ0CCR2, TQ0CCR3レジスタにアクティブ・レベル幅を設定し，そのあとでTQ0CCR1レジスタに同値をライトしてください。

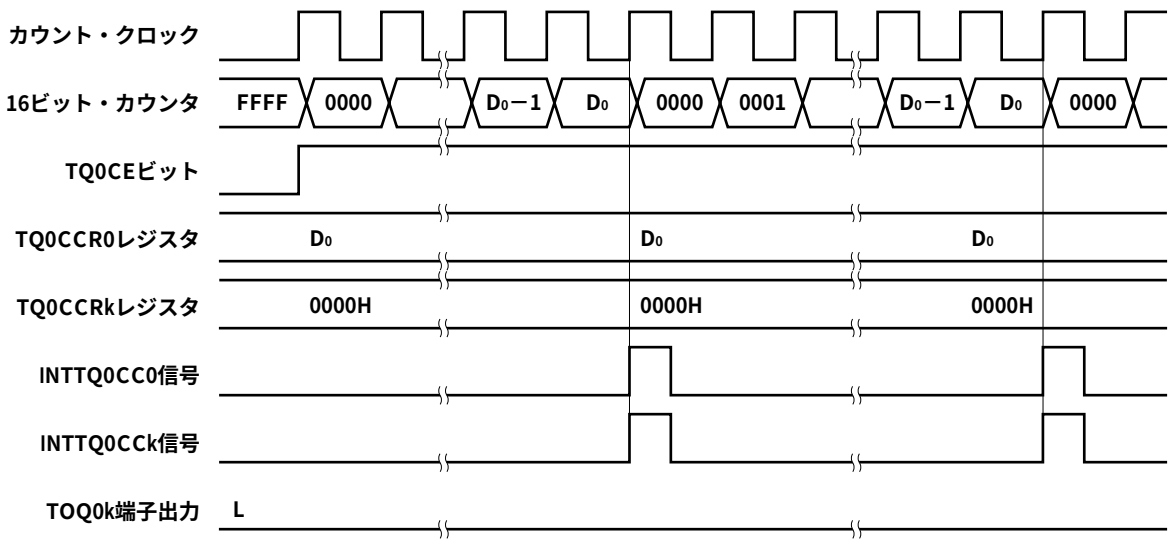
TQ0CCR1レジスタにライトしたあと，16ビット・カウンタのクリア・タイミングに同期して，TQ0CCRmレジスタに書き込まれた値がCCRmバッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタとのコンペア値となります。

また，一度TQ0CCR1レジスタにライトしたあとで，再度TQ0CCR0-TQ0CCR3レジスタへのライトを行う場合は， INTTQ0CC0信号の発生後に行ってください。これを守れない場合には，TQ0CCRmレジスタからCCRmバッファ・レジスタへのデータ転送タイミングと，TQ0CCRmレジスタの書き換えの競合により，CCRmバッファ・レジスタの値が不定値になる場合があります。

備考　m = 0-3

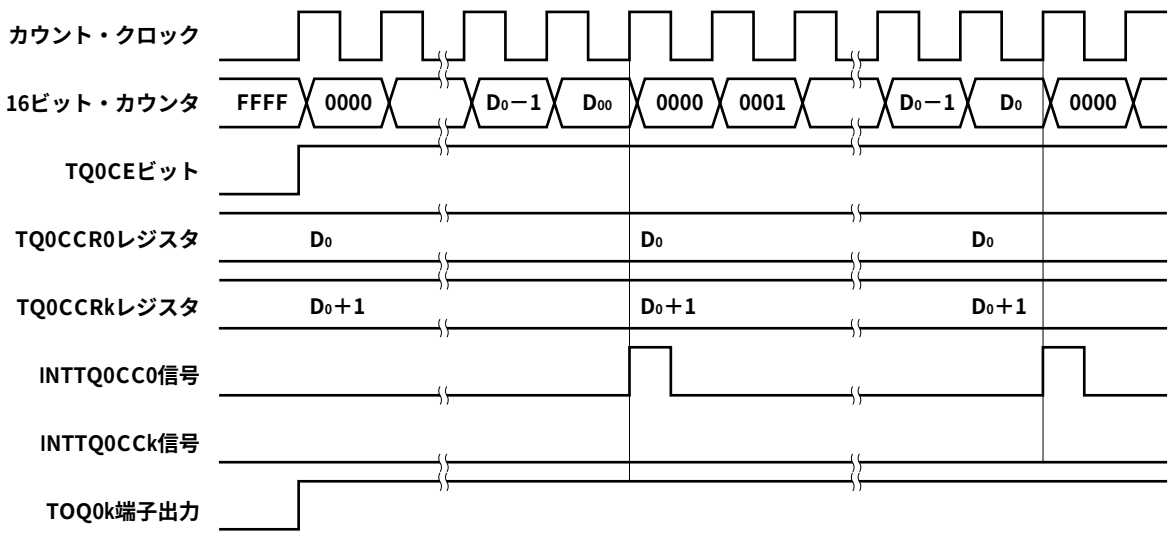
（b）PWM波形の0 %／100 %出力

0 %波形を出力するためには，TQ0CCRkレジスタに対して0000Hを設定します。ただし，TQ0CCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には，INTTQ0CCk信号が定期的に発生します。



備考　k = 1-3

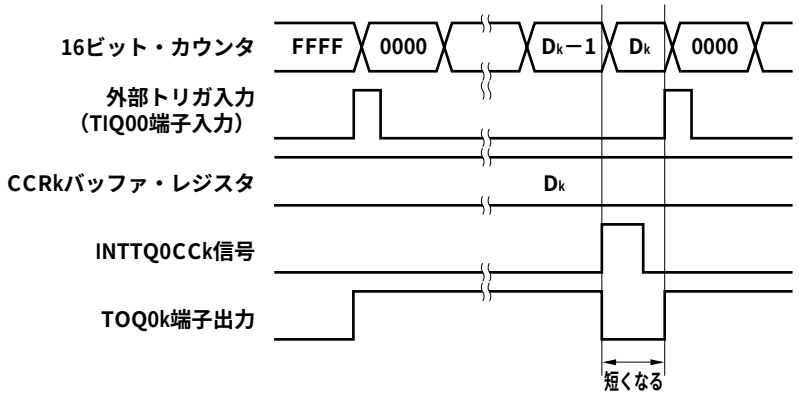
100 %波形を出力するためには，TQ0CCRkレジスタに対して（TQ0CCR0レジスタの設定値＋1）の値を設定してください。TQ0CCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には，100 %出力はできません。



備考　k = 1-3

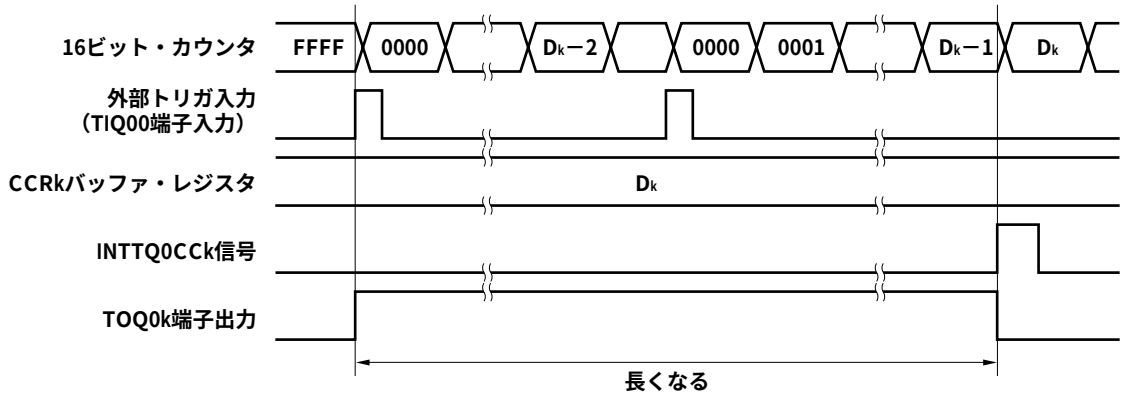
(c) トリガ検出とCCRkバッファ・レジスタとの一致の競合

INTTQ0CCk信号発生直後にトリガが検出された場合には，トリガ検出とともに16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，TOQ0k端子出力をアクティブ・レベルにしてカウント動作を続けます。そのため，PWM波形のインアクティブ期間が短くなります。



備考　k = 1-3

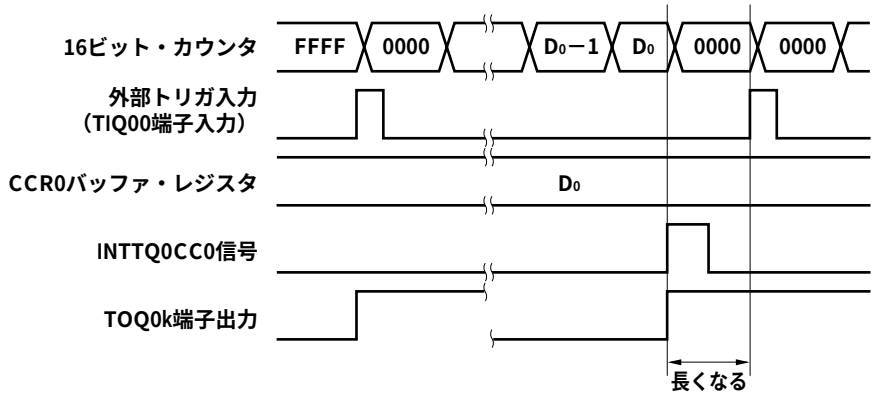
INTTQ0CCk信号発生直前にトリガを検出した場合には， INTTQ0CCk信号を発生することなく，16ビット・カウンタを0000Hにクリアしてカウント動作を継続します。TOQ0k端子出力はアクティブ・レベルのままとなるため，PWM波形のアクティブ期間が長くなります。



備考　k = 1-3

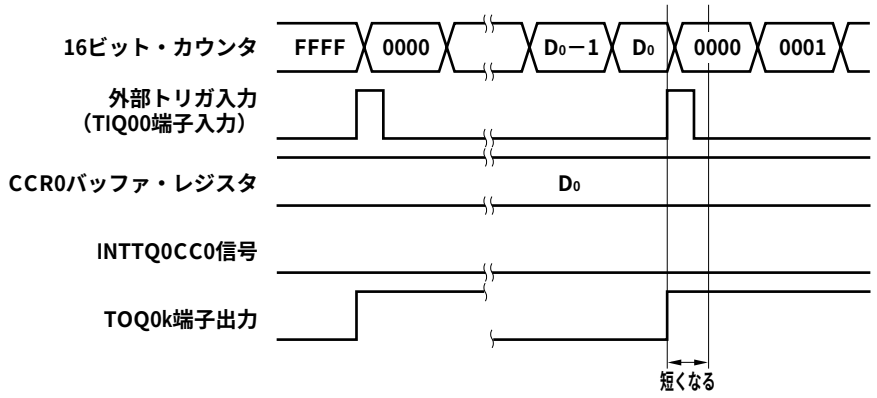
(d) トリガ検出とCCR0バッファ・レジスタとの一致の競合

INTTQ0CC0信号発生直後にトリガを検出した場合，そこから再度16ビット・カウンタを0000Hにクリアしてカウント・アップ動作を継続します。したがって，TOQ0k端子出力のアクティブ期間が，INTTQ0CC0信号発生からトリガ検出までの分だけ長くなります。



備考　k = 1-3

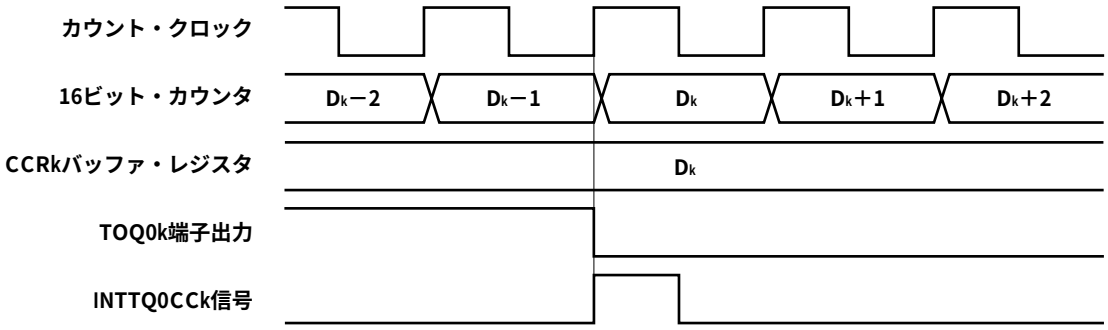
INTTQ0CC0信号発生直前にトリガを検出した場合，INTTQ0CC0信号を発生することなく，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，TOQ0k端子出力をアクティブ・レベルにして，カウント動作を継続します。そのため，それまで出力していたPWM波形のインアクティブ期間は短くなります。



備考　k = 1-3

（e）コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CCk）の発生タイミング

外部トリガ・パルス出力モードにおけるINTTQ0CCk信号の発生タイミングは，ほかのINTTQ0CCk信号と異なり，16ビット・カウンタのカウント値とCCRkバッファ・レジスタの値との一致と同時に発生します。



備考　k = 1-3

通常，INTTQ0CCk信号は，16ビット・カウンタのカウント値とCCRkバッファ・レジスタの値との一致後，次のカウント・アップに同期して発生します。

しかし，外部トリガ・パルス出力モードの場合，1クロック早いタイミングで発生します。これは，TOQ0k端子出力の変化タイミングとあわせるために，タイミングを変更しているからです。

8. 5. 4　ワンショット・パルス出力モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 011）

ワンショット・パルス出力モードは，TQ0CTL0.TQ0CEビットをセット（1）することでトリガ待ち状態となり，外部トリガ入力の有効エッジを検出すると，カウント動作を開始し，TOQ01-TOQ03端子からワンショット・パルスを出力します。

外部トリガ入力の代わりに，ソフトウエア・トリガを発生させることでもパルスを出力できます。ソフトウエア・トリガを使用する場合，TOQ00端子から，16ビット・カウンタがカウント動作中のときはアクティブ・レベルを出力し，カウント停止（トリガ待ち状態）中のときはインアクティブ・レベルを出力できます。

図8－20　ワンショット・パルス出力モードの構成図

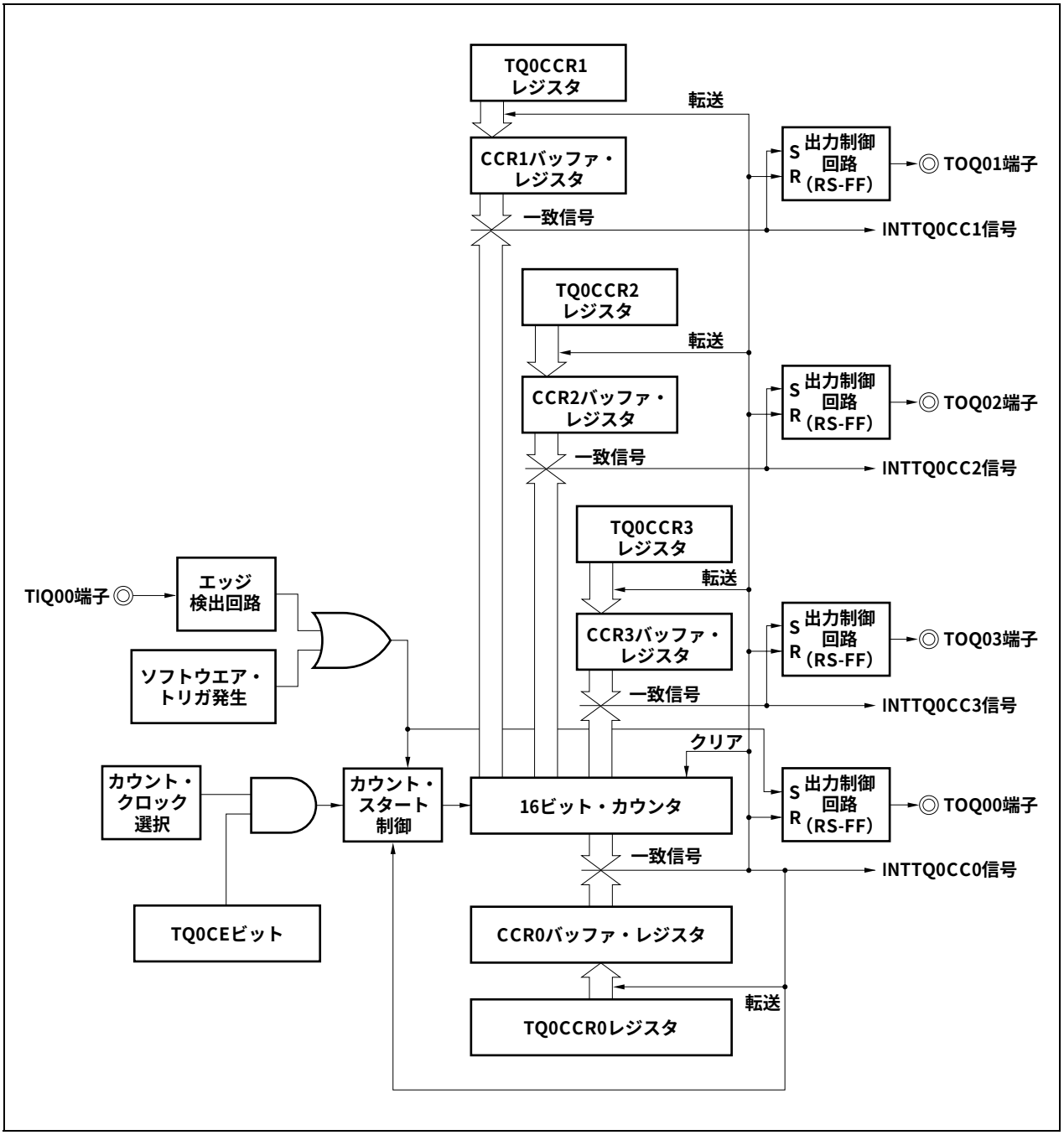
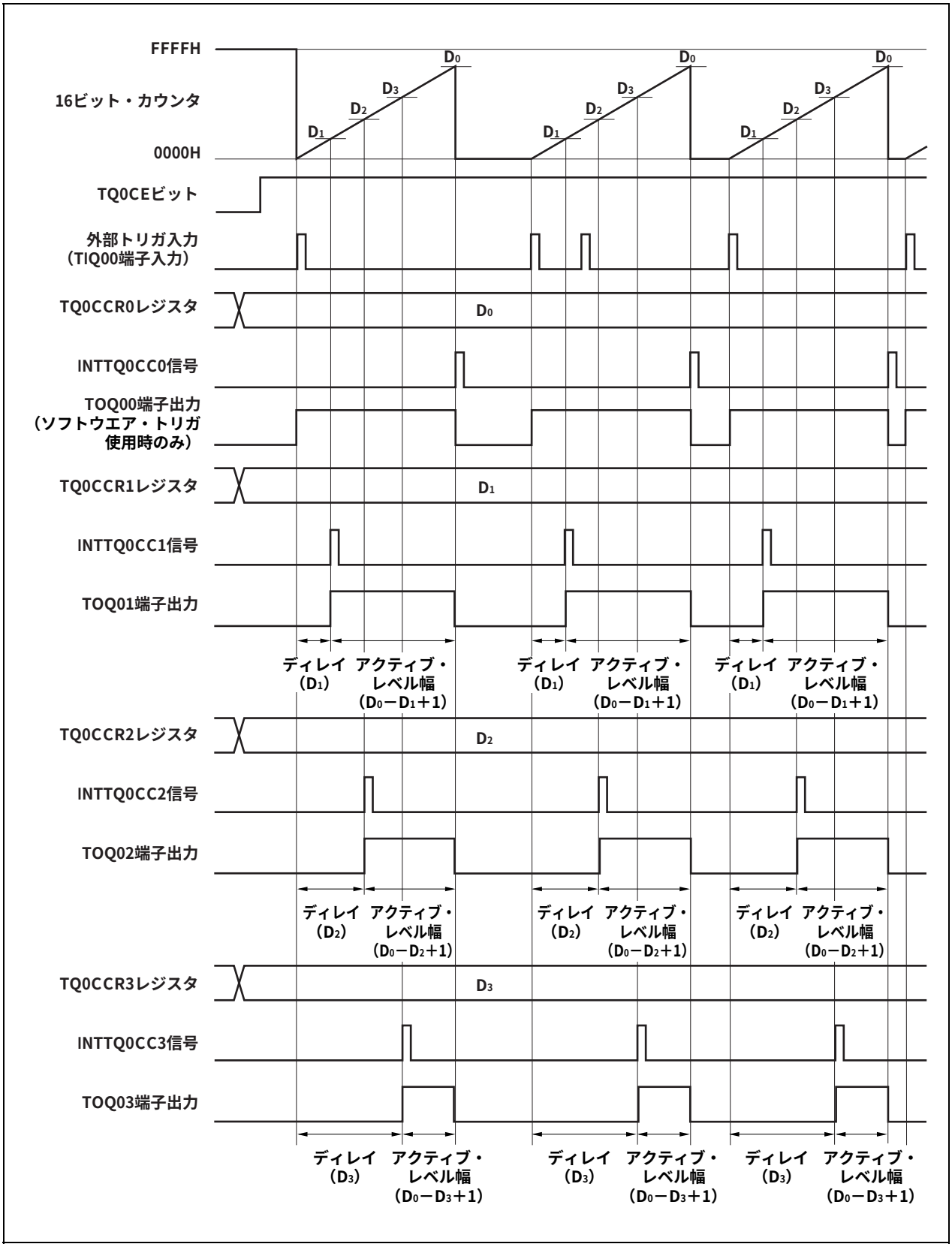


図8－21　ワンショット・パルス出力モードの基本タイミング



TQ0CEビットをセット（1）することで，トリガ待ち状態となります。トリガが発生すると，16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアして同時にカウント動作を開始し，TOQ0k端子からワンショット・パルスを出力します。ワンショット・パルスを出力したあと，16ビット・カウンタをFFFFHにしてカウント動作を停止し，トリガ待ち状態になります。ワンショット・パルス出力中に再度トリガが発生しても無視します。

ワンショット・パルスの出力ディレイ期間，およびアクティブ・レベル幅は次のように求められます。

出力ディレイ期間 ＝ （TQ0CCRkレジスタの設定値）×カウント・クロック周期

アクティブ・レベル幅 ＝ （TQ0CCR0レジスタの設定値－TQ0CCRkレジスタの設定値＋1）
×カウント・クロック周期

コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC0）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致した次のカウント・タイミングで発生します。コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CCk）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCRkバッファ・レジスタの値が一致するタイミングで発生します。

トリガには，外部トリガ入力の有効エッジ，またはソフトウエア・トリガ（TQ0CTL1.TQ0ESTビット）のセット（1）があります。

備考　k = 1-3

図8－22　ワンショット・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（1/3）

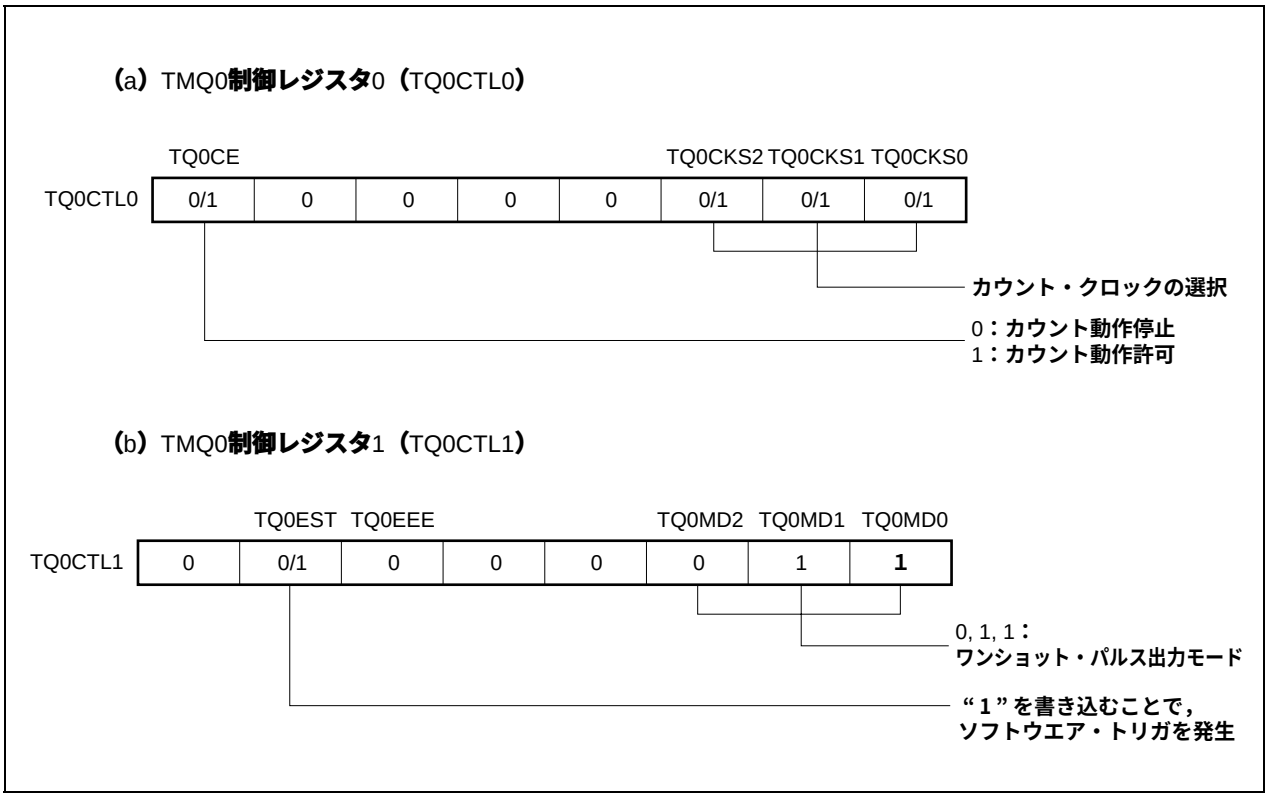


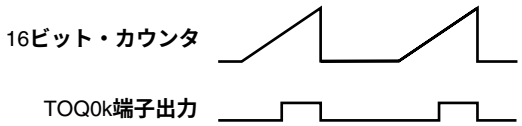
図8－22　ワンショット・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（2/3）

（c）TMQ0I/O制御レジスタ0（TQ0IOC0）

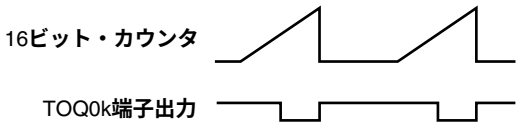
	TQ0OL3	TQ0OE3	TQ0OL2	TQ0OE2	TQ0OL1	TQ0OE1	TQ0OL0	TQ0OE0
TQ0IOC0	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1注	0/1注

- TQ0OE0：0：TOQ00端子出力禁止　1：TOQ00端子出力許可
- TQ0OL0：TOQ00端子の動作禁止状態での出力レベルの設定　0：ロウ・レベル　1：ハイ・レベル
- TQ0OE1：0：TOQ01端子出力禁止　1：TOQ01端子出力許可
- TQ0OL1：TOQ01端子出力のアクティブ・レベル指定　0：ハイ・アクティブ　1：ロウ・アクティブ
- TQ0OE2：0：TOQ02端子出力禁止　1：TOQ02端子出力許可
- TQ0OL2：TOQ02端子出力のアクティブ・レベル指定　0：ハイ・アクティブ　1：ロウ・アクティブ
- TQ0OE3：0：TOQ03端子出力禁止　1：TOQ03端子出力許可
- TQ0OL3：TOQ03端子出力のアクティブ・レベル指定　0：ハイ・アクティブ　1：ロウ・アクティブ

・TQ0OLkビット = 0の場合



・TQ0OLkビット = 1の場合



（d）TMQ0I/O制御レジスタ2（TQ0IOC2）

					TQ0EES1	TQ0EES0	TQ0ETS1	TQ0ETS0
TQ0IOC2	0	0	0	0	0	0	0/1	0/1

- TQ0ETS1，TQ0ETS0：外部トリガ入力有効エッジの選択

（e）TMQ0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TQ0CNT）

TQ0CNTレジスタをリードすることで，16ビット・カウンタの値をリードできます。

注　ワンショット・パルス出力モードでTOQ00端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。

図8－22　ワンショット・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容（3/3）

(f) TMQ0**キャプチャ／コンペア・レジスタ**0-3（TQ0CCR0-TQ0CCR3）

TQ0CCR0**レジスタに**D_0**を設定し，**TQ0CCRk**レジスタに**D_k**を設定した場合，**

ワンショット・パルスのアクティブ・レベル幅 =（D_0－D_k＋1）×**カウント・クロック周期**

ワンショット・パルスの出力ディレイ期間 =（D_k）×**カウント・クロック周期**

となります。

注意　ワンショット・パルス出力モードにおいて，TQ0CCRk**レジスタの設定値が，**TQ0CCR0**レジスタより大きい場合，ワンショット・パルスは出力しません。**

備考1.　TMQ0I/O**制御レジスタ**1（TQ0IOC1），TMQ0**オプション・レジスタ**0（TQ0OPT0）**は，ワンショット・パルス出力モードでは使用しません。**

2.　k = 1-3

（1）ワンショット・パルス出力モード動作フロー

図8－23　ワンショット・パルス出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（1/2）

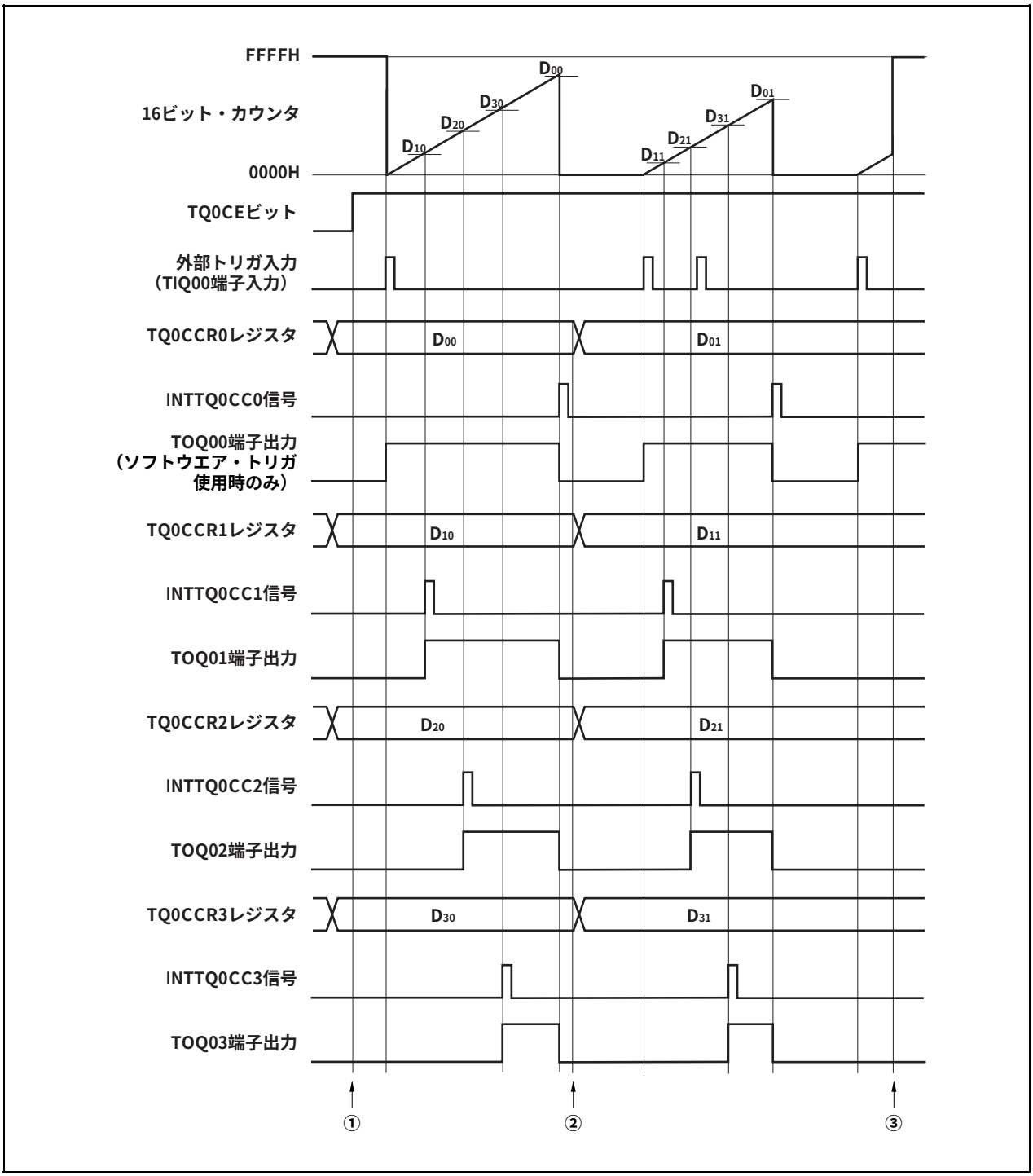
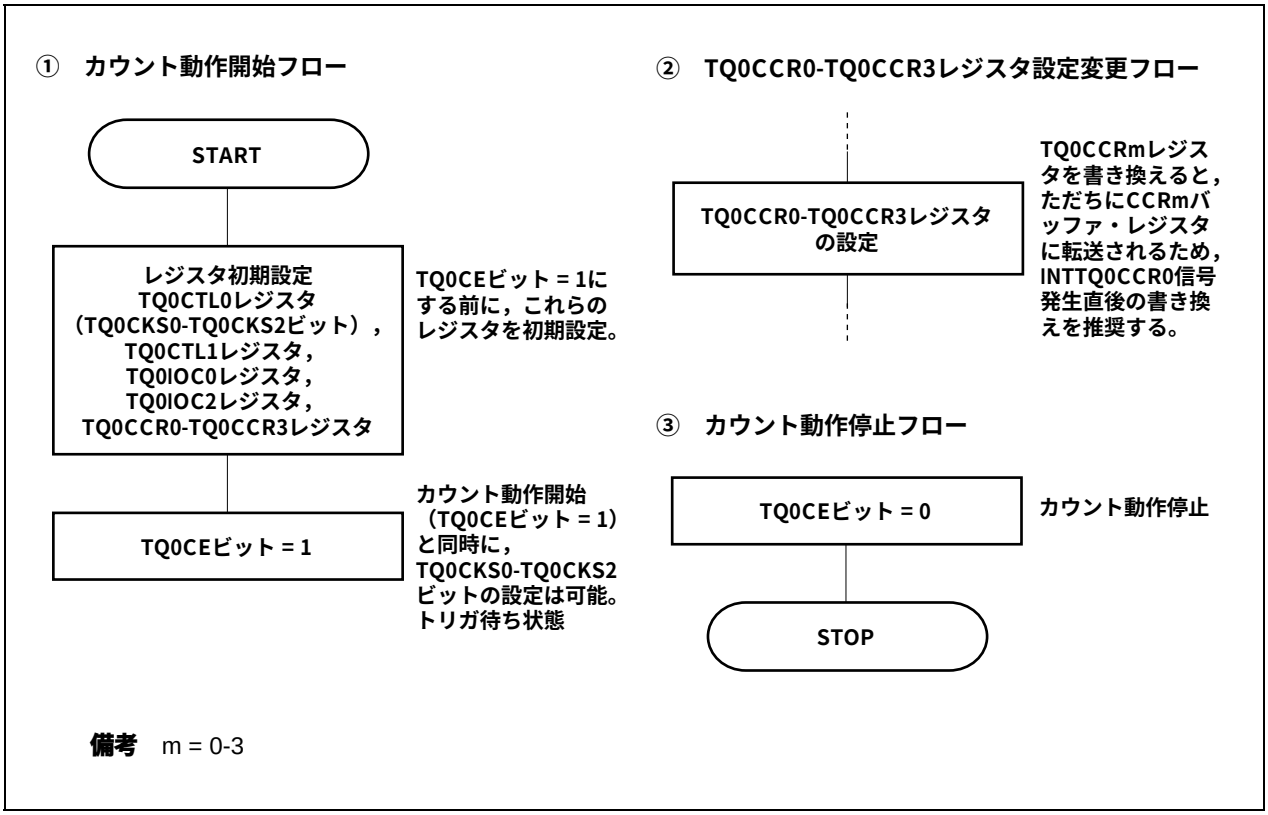


図8－23　ワンショット・パルス出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（2/2）



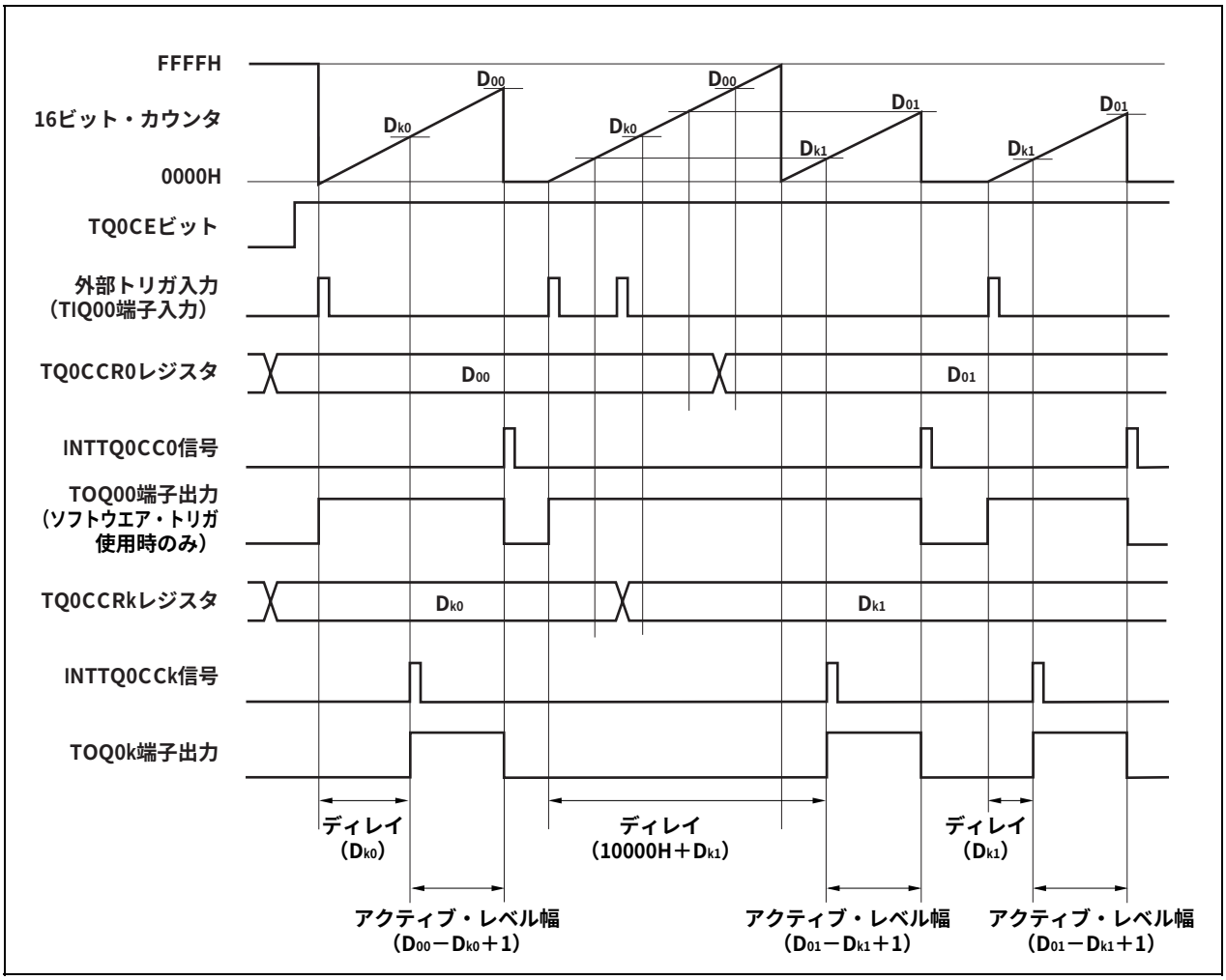
備考　m = 0-3

(2) ワンショット・パルス出力モード動作タイミング

(a) TQ0CCRm レジスタの書き換えに関する注意事項

TQ0CCRm レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。

カウント動作中に TQ0CCR0 レジスタの値を小さい値に書き換えると，16 ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。



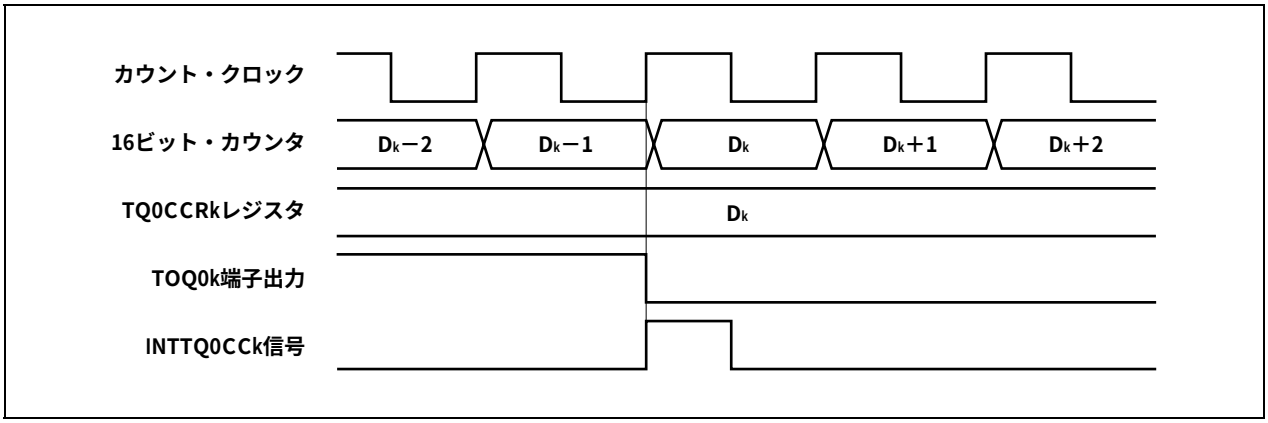
TQ0CCR0 レジスタを D_{00} から D_{01} に，TQ0CCRk レジスタを D_{k0} から D_{k1} に書き換える場合において，$D_{00} > D_{01}$, $D_{k0} > D_{k1}$ の状態で，16 ビット・カウンタのカウント値が D_{k1} よりも大きく D_{k0} よりも小さい状態のとき TQ0CCRk レジスタを書き換え，カウント値が D_{01} よりも大きく D_{00} よりも小さい状態で TQ0CCR0 レジスタを書き換えた場合，書き換えたタイミングで，それぞれの設定値は反映されてカウント値と比較されるために，カウント値は FFFFH までカウント動作を行い，その後，0000H から再度カウント・アップを行います。そして，D_{k1} との一致で INTTQ0CCk 信号を発生して TOQ0k 端子出力をアクティブ・レベルにし，D_{01} との一致で INTTQ0CC0 信号を発生して TOQ0k 端子出力をインアクティブにしてカウント動作を停止します。

したがって，本来期待しているワンショット・パルス出力に対し，ディレイ期間またはアクティブ期間が異なるパルスを出力してしまう場合があります。

備考　k = 1-3

(b) コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CCk）の発生タイミング

ワンショット・パルス出力モードにおけるINTTQ0CCk信号の発生タイミングは，ほかのINTTQ0CCk信号と異なり，16ビット・カウンタのカウント値とTQ0CCRkレジスタの値との一致と同時に発生します。



通常，INTTQ0CCk信号は，16ビット・カウンタのカウント値とTQ0CCRkレジスタの値との一致後，次のカウント・アップに同期して発生します。

しかし，ワンショット・パルス出力モードの場合，1クロック早いタイミングで発生します。これは，TOQ0k端子出力の変化タイミングとあわせるために，タイミングを変更しているからです。

備考　k = 1-3

8. 5. 5　PWM出力モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 100）

PWM出力モードは，TQ0CTL0.TQ0CEビットをセット（1）することで，TOQ01-TOQ03端子からPWM波形を出力します。

また，TOQ00端子から，PWM波形の1周期を半周期とするパルスを出力します。

図8－24　PWM出力モードの構成図

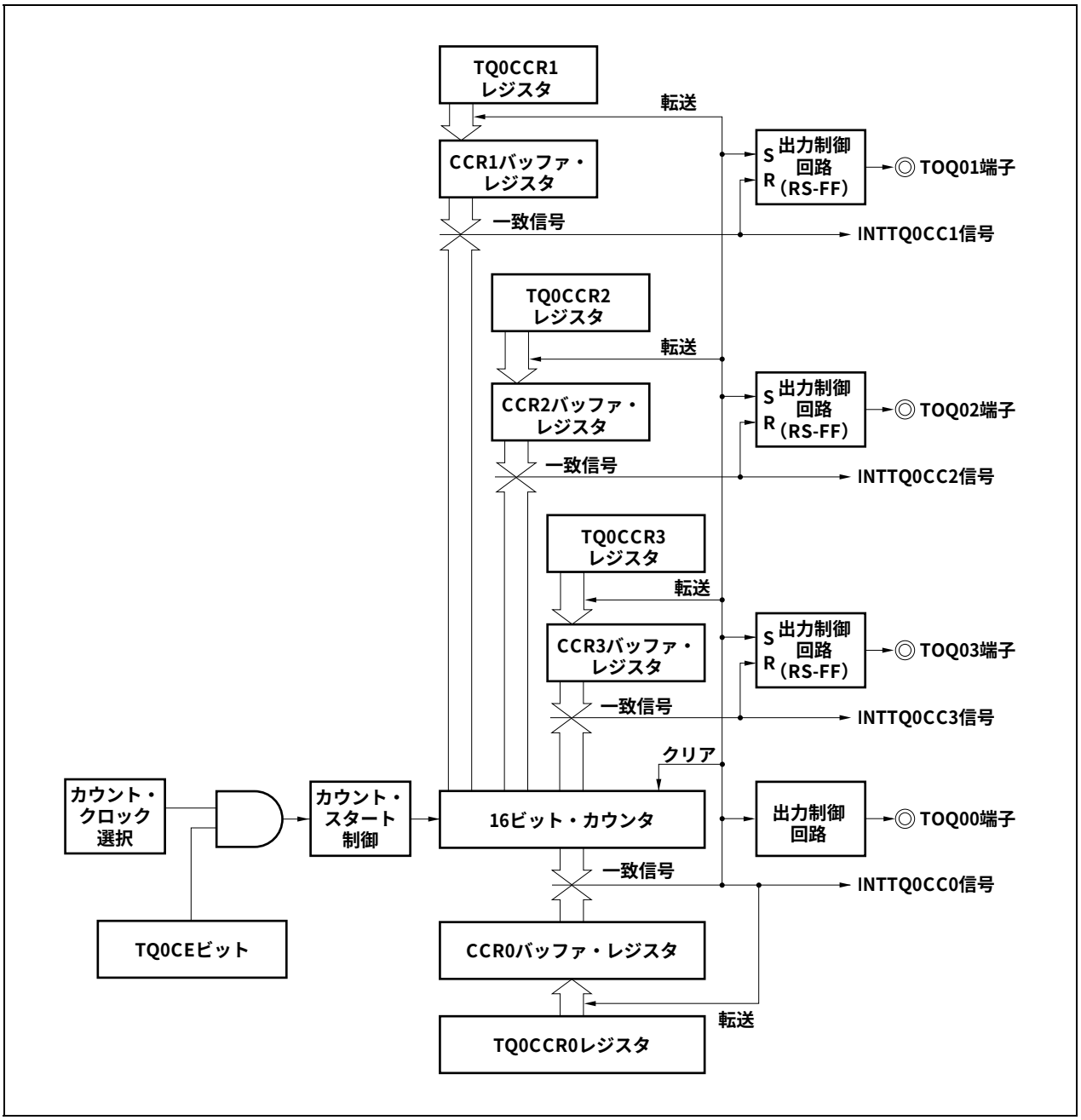
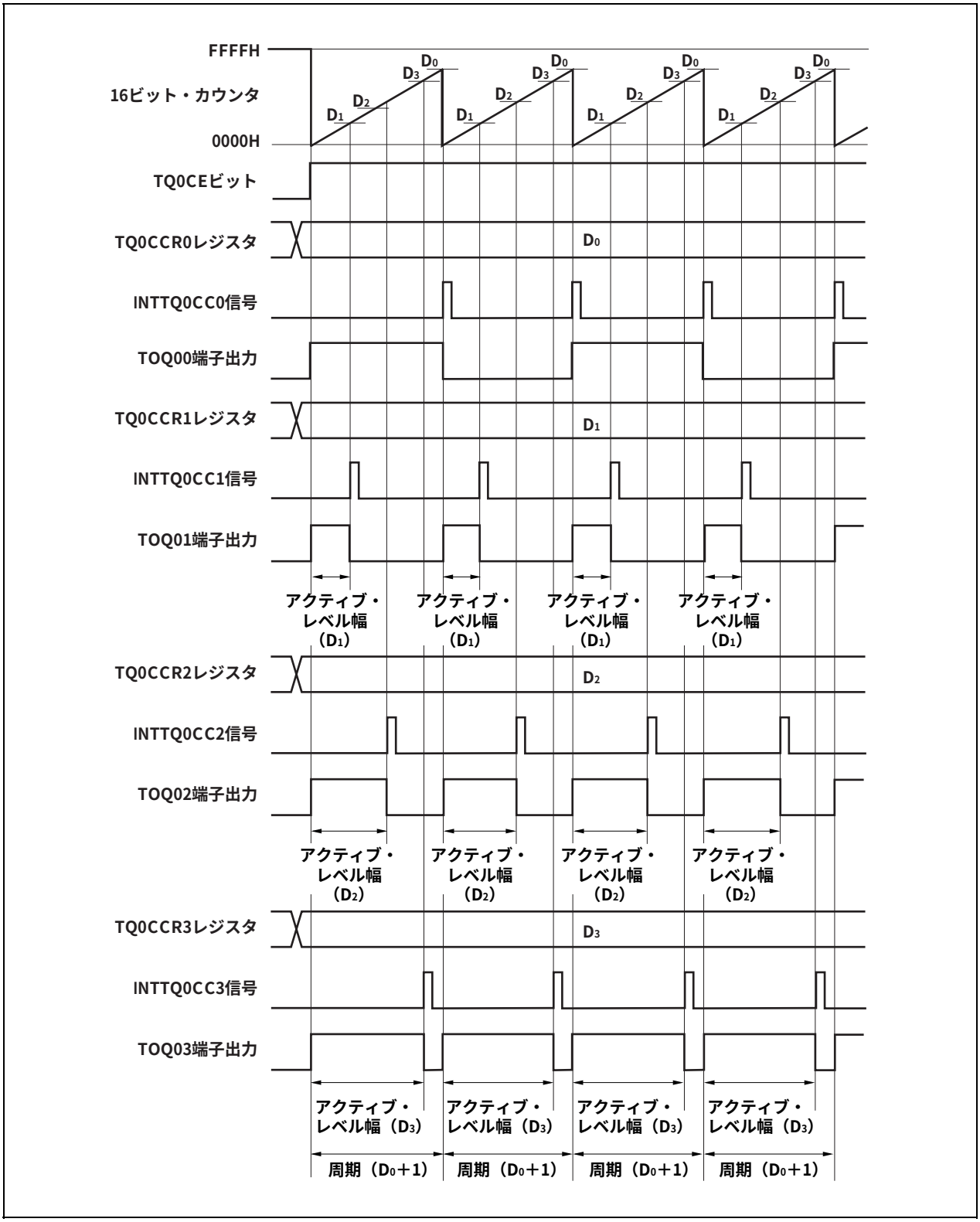


図8－25　PWM出力モードの基本タイミング



TQ0CEビットをセット（1）することで，16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアして同時にカウント動作を開始し，TOQ0k端子からPWM波形を出力します。

PWM波形のアクティブ・レベル幅，周期，およびデューティは次のように求められます。

アクティブ・レベル幅 ＝ （TQ0CCRkレジスタの設定値）×カウント・クロック周期

周期 ＝ （TQ0CCR0レジスタの設定値＋1）×カウント・クロック周期

デューティ ＝ （TQ0CCRkレジスタの設定値）／（TQ0CCR0レジスタの設定値＋1）

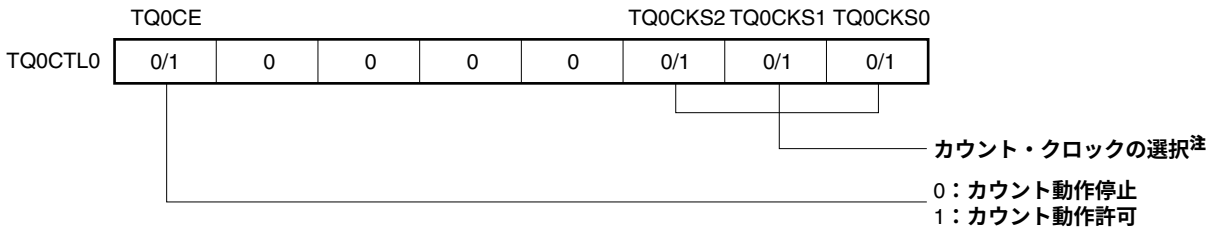
動作中にTQ0CCRmレジスタを書き換えることにより，PWM波形を変更できます。書き換えた値は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致し，16ビット・カウンタが0000Hにクリアされるタイミングで反映されます。

コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CC0）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致した次のカウント・タイミングで発生し，同時に16ビット・カウンタを0000Hにクリアします。コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CCk）は，16ビット・カウンタのカウント値とCCRkバッファ・レジスタの値が一致するタイミングで発生します。

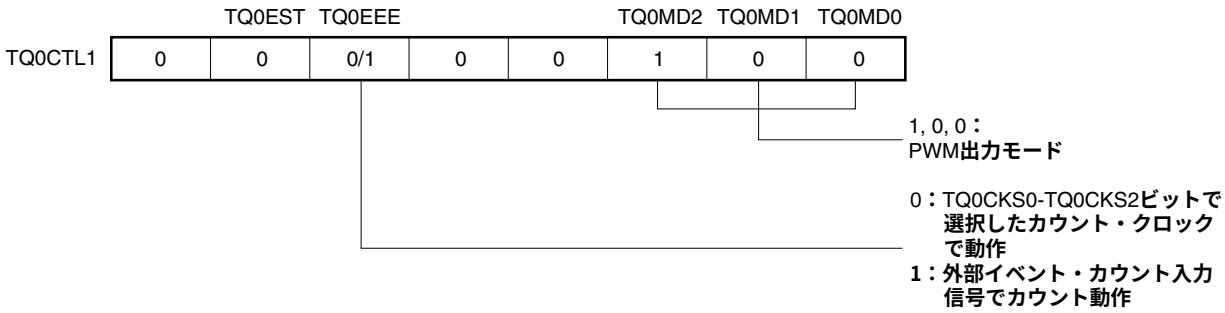
備考　k = 1-3,
　　m = 0-3

図8－26　PWM出力モード動作時のレジスタ設定内容（1/3）

（a）TMQ0制御レジスタ0（TQ0CTL0）



（b）TMQ0制御レジスタ1（TQ0CTL1）



注　TQ0CTL1.TQ0EEEビット ＝ 1のときは設定が無効になります。

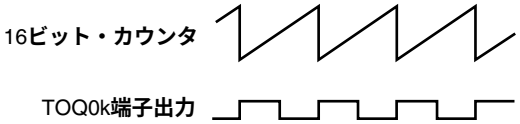
図8－26　PWM出力モード動作時のレジスタ設定内容（2/3）

（c）TMQ0I/O制御レジスタ0（TQ0IOC0）

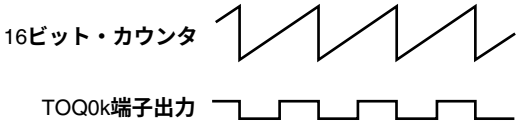
	TQ0OL3	TQ0OE3	TQ0OL2	TQ0OE2	TQ0OL1	TQ0OE1	TQ0OL0	TQ0OE0
TQ0IOC0	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1注	0/1注

- TQ0OE0：0：TOQ00端子出力禁止　1：TOQ00端子出力許可
- TQ0OL0：TOQ00端子の動作禁止状態での出力レベルの設定　0：ロウ・レベル　1：ハイ・レベル
- TQ0OE1：0：TOQ01端子出力禁止　1：TOQ01端子出力許可
- TQ0OL1：TOQ01端子出力のアクティブ・レベル指定　0：ハイ・アクティブ　1：ロウ・アクティブ
- TQ0OE2：0：TOQ02端子出力禁止　1：TOQ02端子出力許可
- TQ0OL2：TOQ02端子出力のアクティブ・レベル指定　0：ハイ・アクティブ　1：ロウ・アクティブ
- TQ0OE3：0：TOQ03端子出力禁止　1：TOQ03端子出力許可
- TQ0OL3：TOQ03端子出力のアクティブ・レベル指定　0：ハイ・アクティブ　1：ロウ・アクティブ

・TQ0OLkビット = 0の場合



・TQ0OLkビット = 1の場合



（d）TMQ0I/O制御レジスタ2（TQ0IOC2）

					TQ0EES1	TQ0EES0	TQ0ETS1	TQ0ETS0
TQ0IOC2	0	0	0	0	0/1	0/1	0	0

- TQ0EES1, TQ0EES0：外部イベント・カウント入力有効エッジの選択

（e）TMQ0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ（TQ0CNT）

TQ0CNTレジスタをリードすることで，16ビット・カウンタの値をリードできます。

注　PWM出力モードでTOQ00端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。

図8－26　PWM出力モード動作時のレジスタ設定内容（3/3）

（f）TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ0-3（TQ0CCR0-TQ0CCR3）

TQ0CCR0レジスタにD_0を設定し，TQ0CCRkレジスタにD_kを設定した場合，

PWM波形の周期 ＝ （D_0＋1）×カウント・クロック周期

PWM波形のアクティブ・レベル幅 ＝ D_k×カウント・クロック周期

となります。

備考1.　TMQ0I/O制御レジスタ1（TQ0IOC1），TMQ0オプション・レジスタ0（TQ0OPT0）は，PWM出力モードでは使用しません。

2.　TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ2（TQ0CCR2），TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ3（TQ0CCR3）の更新は，TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ1（TQ0CCR1）への書き込みにより有効になります。

（1）PWM出力モード動作フロー

図8－27　PWM出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（1/2）

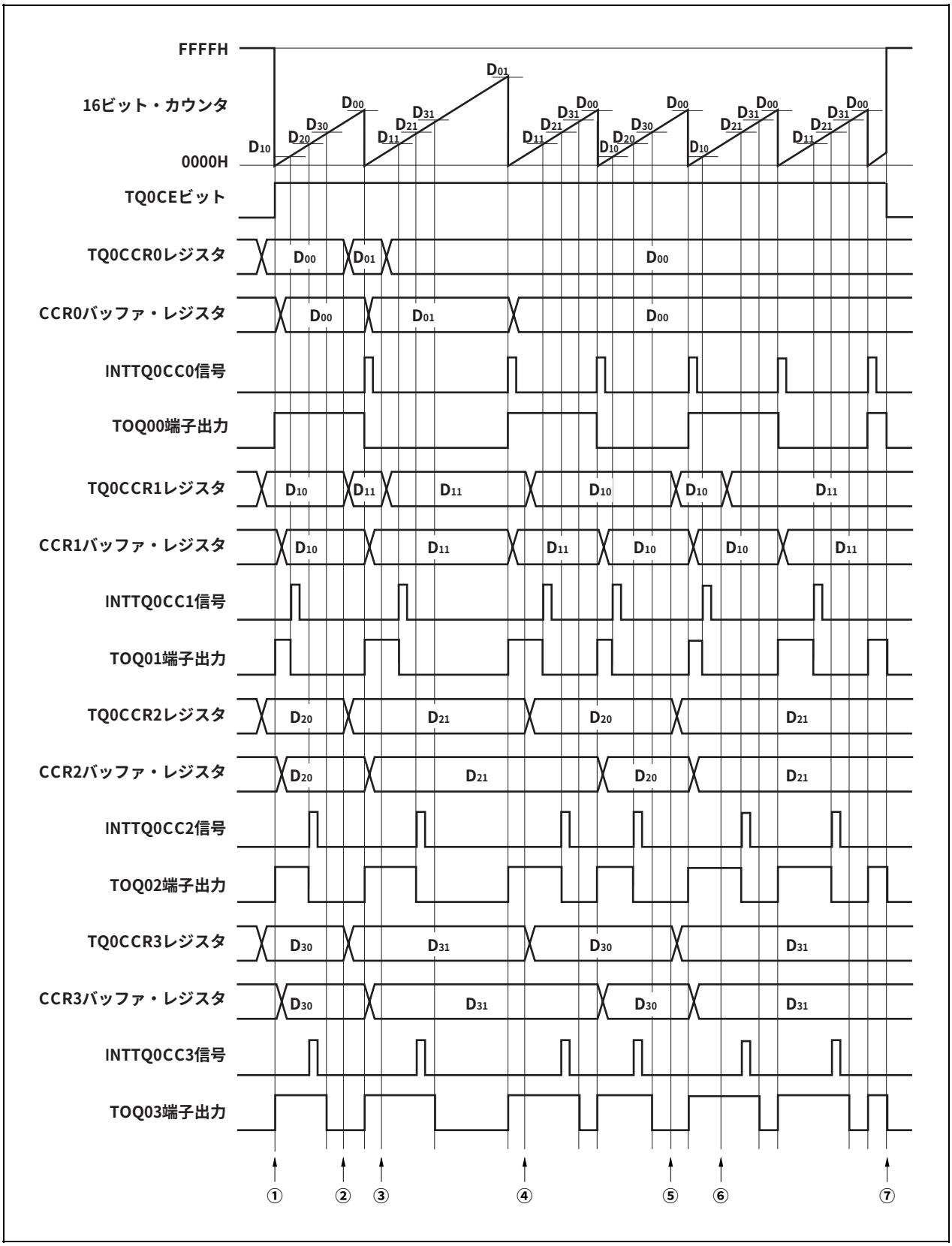
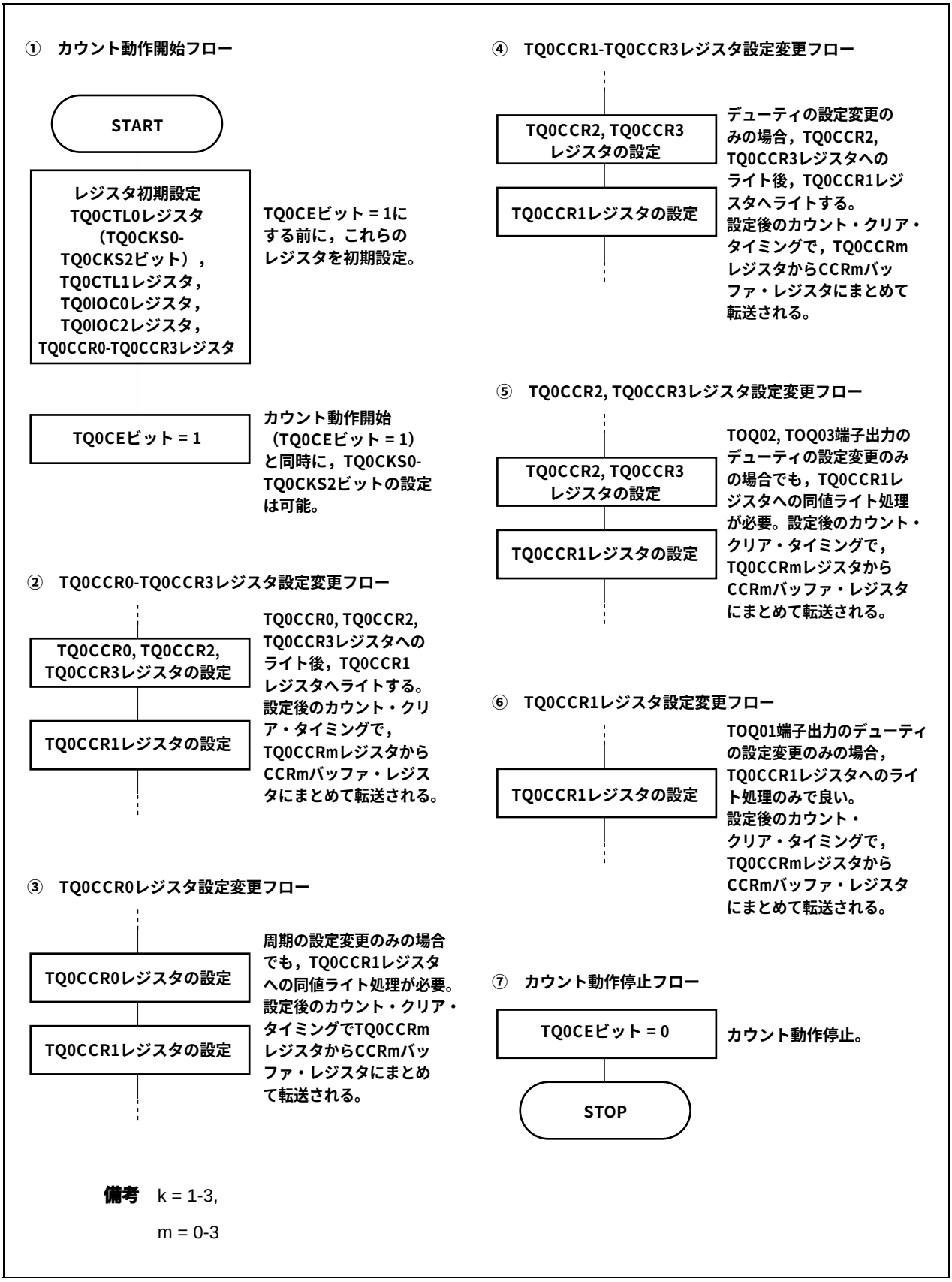


図8ー27　PWM出力モード使用時のソフトウエア処理フロー（2/2）



備考　k = 1-3,

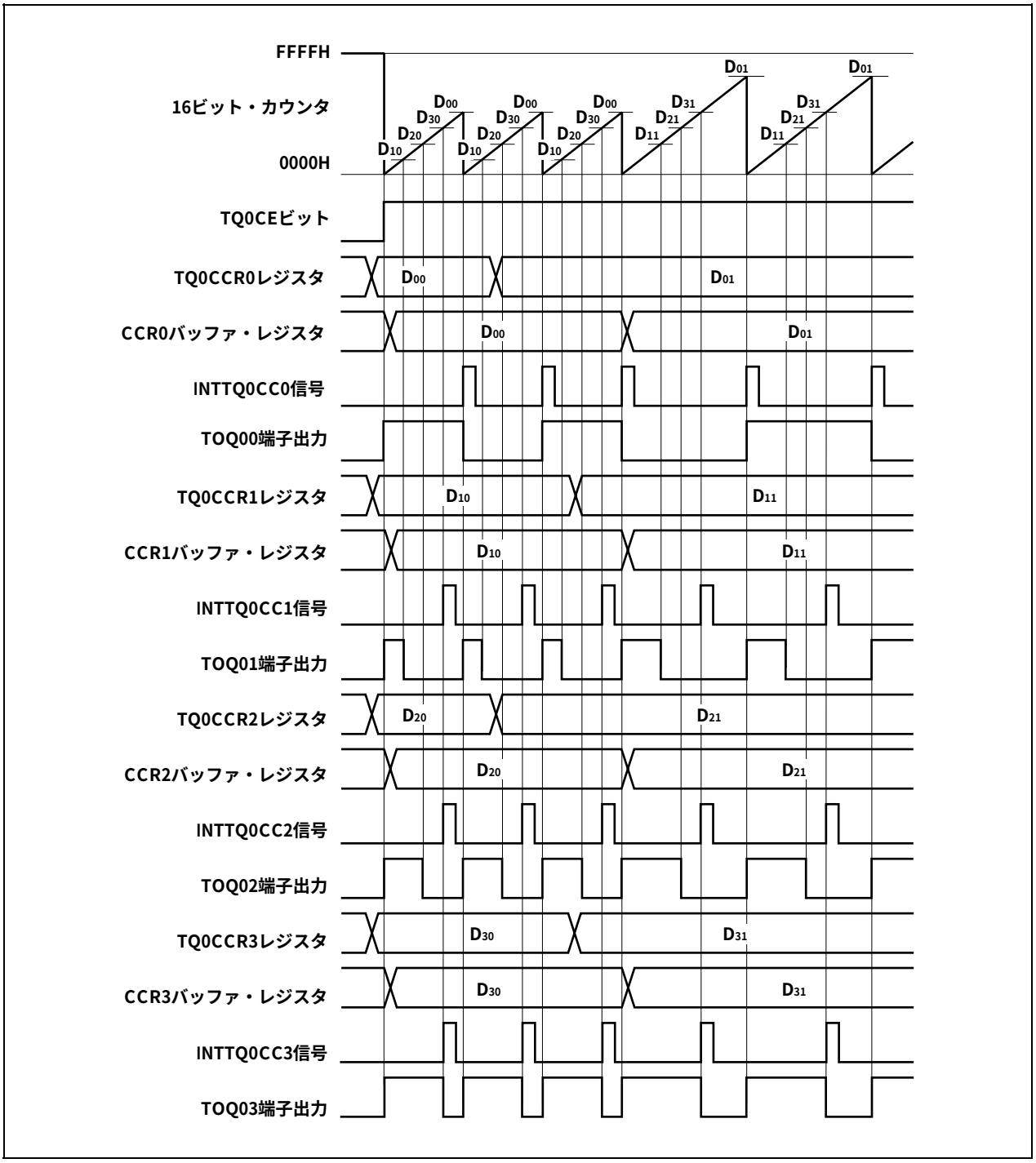
m = 0-3

(2) PWM出力モード動作タイミング

(a) 動作中のパルス幅の変更

動作中にPWM波形を変更する場合には，最後にTQ0CCR1レジスタにライトしてください。

TQ0CCR1レジスタにライト後，再度TQ0CCRkレジスタの書き換えを行う場合には，INTTQ0CC1信号を検出後に書き換えてください。



TQ0CCRmレジスタからCCRmバッファ・レジスタへのデータ転送を行うためには，TQ0CCR1レジスタに対してライトする必要があります。

このとき，PWM波形の周期とアクティブ・レベル幅の両方を変更する場合には，まずTQ0CCR0レジスタに周期を，TQ0CCR2, TQ0CCR3レジスタにアクティブ・レベル幅を設定し，最後にTQ0CCR1レジスタにアクティブ・レベル幅を設定してください。

PWM波形の周期だけを変更する場合には，まずTQ0CCR0レジスタに周期を設定し，そのあとでTQ0CCR1レジスタに同値をライトしてください。

PWM波形のアクティブ・レベル幅（デューティ）のみ変更する場合には，まず，TQ0CCR2, TQ0CCR3レジスタにアクティブ・レベル幅を設定し，最後にTQ0CCR1レジスタにアクティブ・レベル幅を設定してください。

TOQ01端子出力のPWM波形のアクティブ・レベル幅（デューティ）のみ変更する場合は，TQ0CCR1レジスタのみの設定でかまいません。

TOQ02，TOQ03端子出力のPWM波形のアクティブ・レベル幅（デューティ）のみ変更する場合は，まずTQ0CCR2, TQ0CCR3レジスタにアクティブ・レベル幅を設定し，そのあとでTQ0CCR1レジスタに同値をライトしてください。

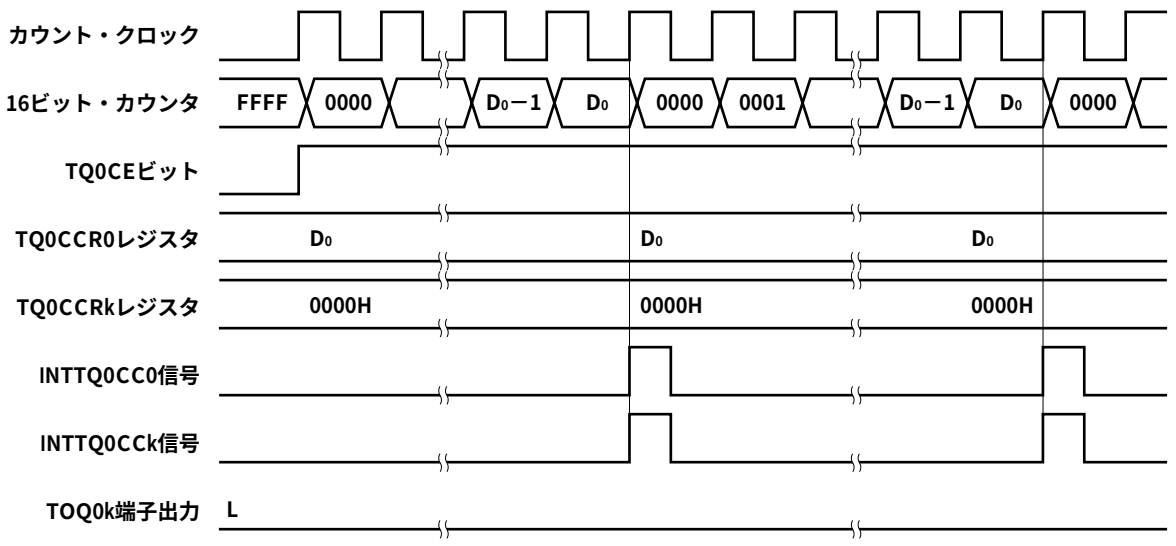
TQ0CCR1レジスタにライトしたあと，16ビット・カウンタのクリア・タイミングに同期して，TQ0CCRmレジスタに書き込まれた値がCCRmバッファ・レジスタに転送され，16ビット・カウンタとのコンペア値となります。

また，一度TQ0CCR1レジスタにライトしたあとで，再度TQ0CCR0-TQ0CCR3レジスタへのライトを行う場合は， INTTQ0CC0信号の発生後に行ってください。これを守れない場合には，TQ0CCRmレジスタからCCRmバッファ・レジスタへのデータ転送タイミングと，TQ0CCRmレジスタの書き換えの競合により，CCRmバッファ・レジスタの値が不定値になる場合があります。

備考　m = 0-3

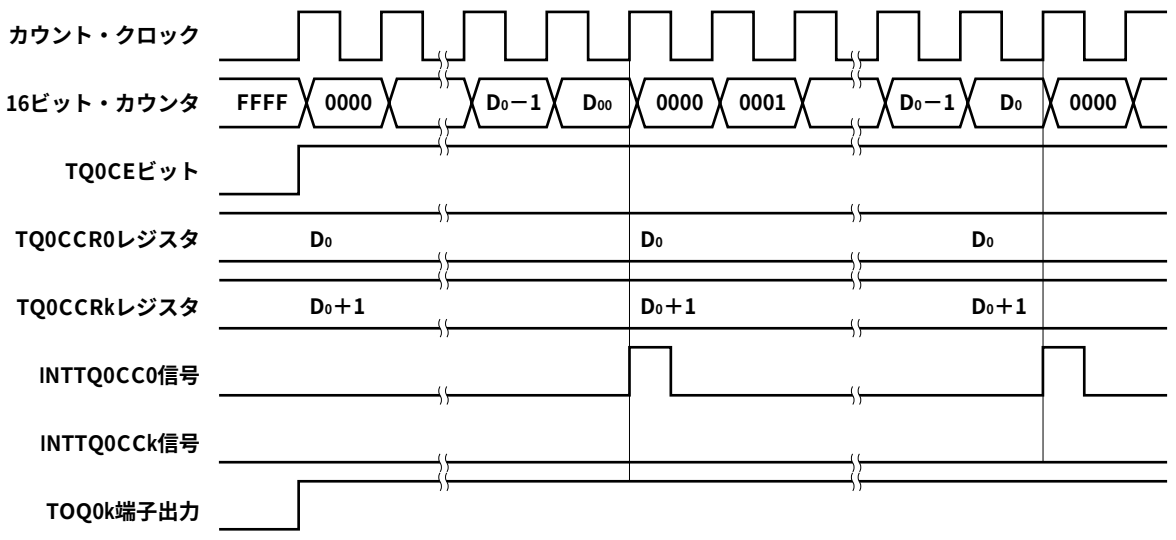
（b）PWM波形の0 %／100 %出力

0 %波形を出力するためには，TQ0CCRkレジスタに対して0000Hを設定します。ただし，TQ0CCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には，INTTQ0CCk信号が定期的に発生します。



備考　k = 1-3

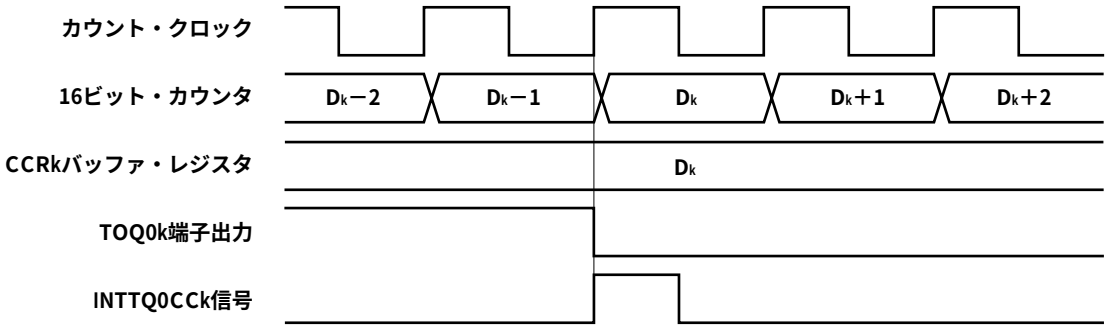
100 %波形を出力するためには，TQ0CCRkレジスタに対して（TQ0CCR0レジスタの設定値＋1）の値を設定してください。TQ0CCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には，100 %出力はできません。



備考　k = 1-3

（c）コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CCk）の発生タイミング

PWM出力モードにおけるINTTQ0CCk信号の発生タイミングは，ほかのINTTQ0CCk信号と異なり，16ビット・カウンタのカウント値とTQ0CCRkレジスタの値との一致と同時に発生します。



備考　k = 1-3

通常，INTTQ0CCk信号は，16ビット・カウンタのカウント値とTQ0CCRkレジスタの値との一致後，次のカウント・アップに同期して発生します。

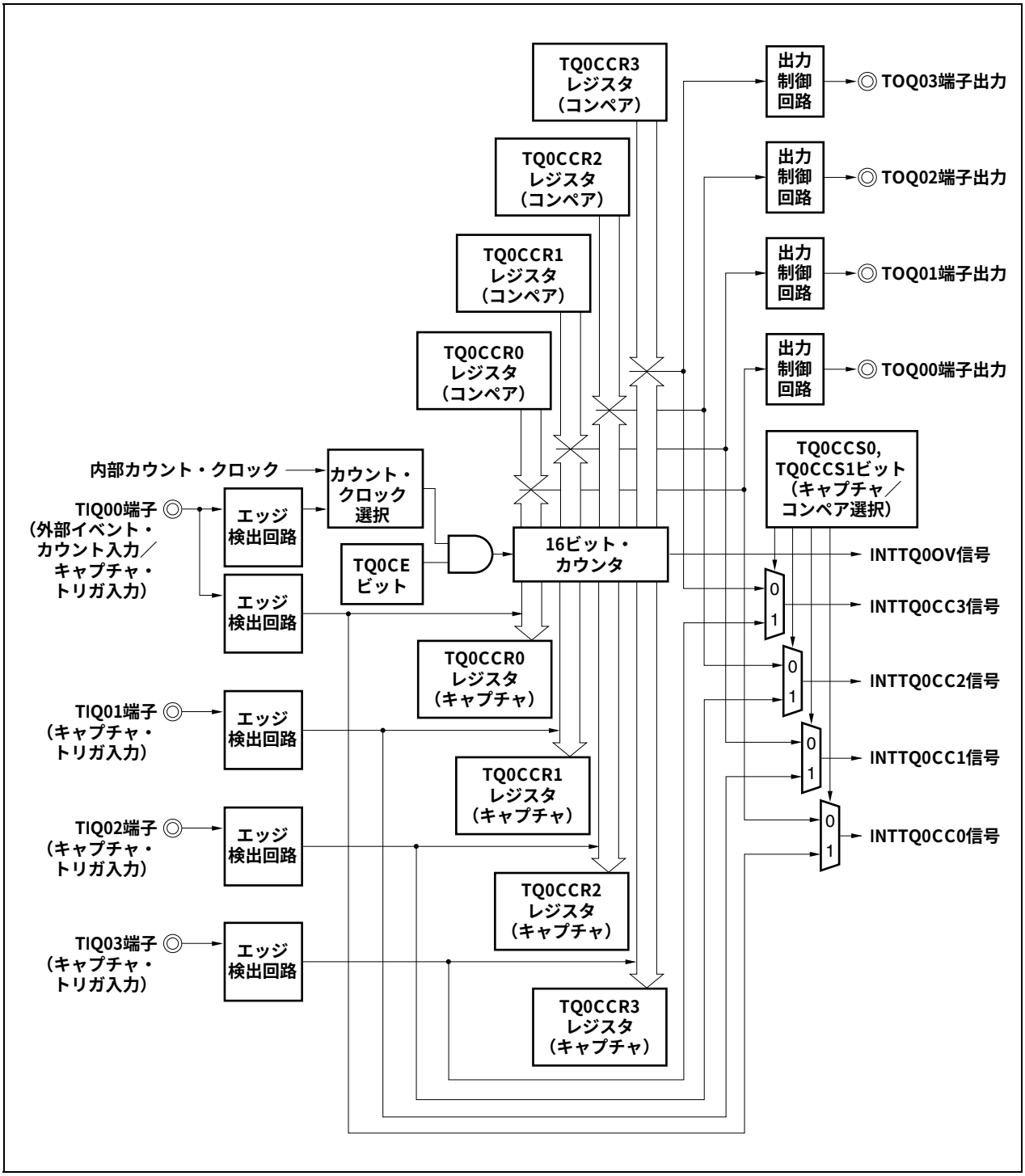
しかし，PWM出力モードの場合，1クロック早いタイミングで発生します。これは，TOQ0k端子出力の変化タイミングとあわせるために，タイミングを変更しているからです。

8. 5. 6　フリー・ランニング・タイマ・モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 101）

フリー・ランニング・タイマ・モードは，TQ0CTL0.TQ0CEビットをセット（1）することでカウント動作を開始します。このときのTQ0CCRmレジスタの動作は，TQ0OPT0.TQ0CCS0，TQ0CCS1ビットの設定により，コンペア・レジスタまたはキャプチャ・レジスタの選択ができます。

備考　m = 0-3

図8－28　フリー・ランニング・タイマ・モードの構成図

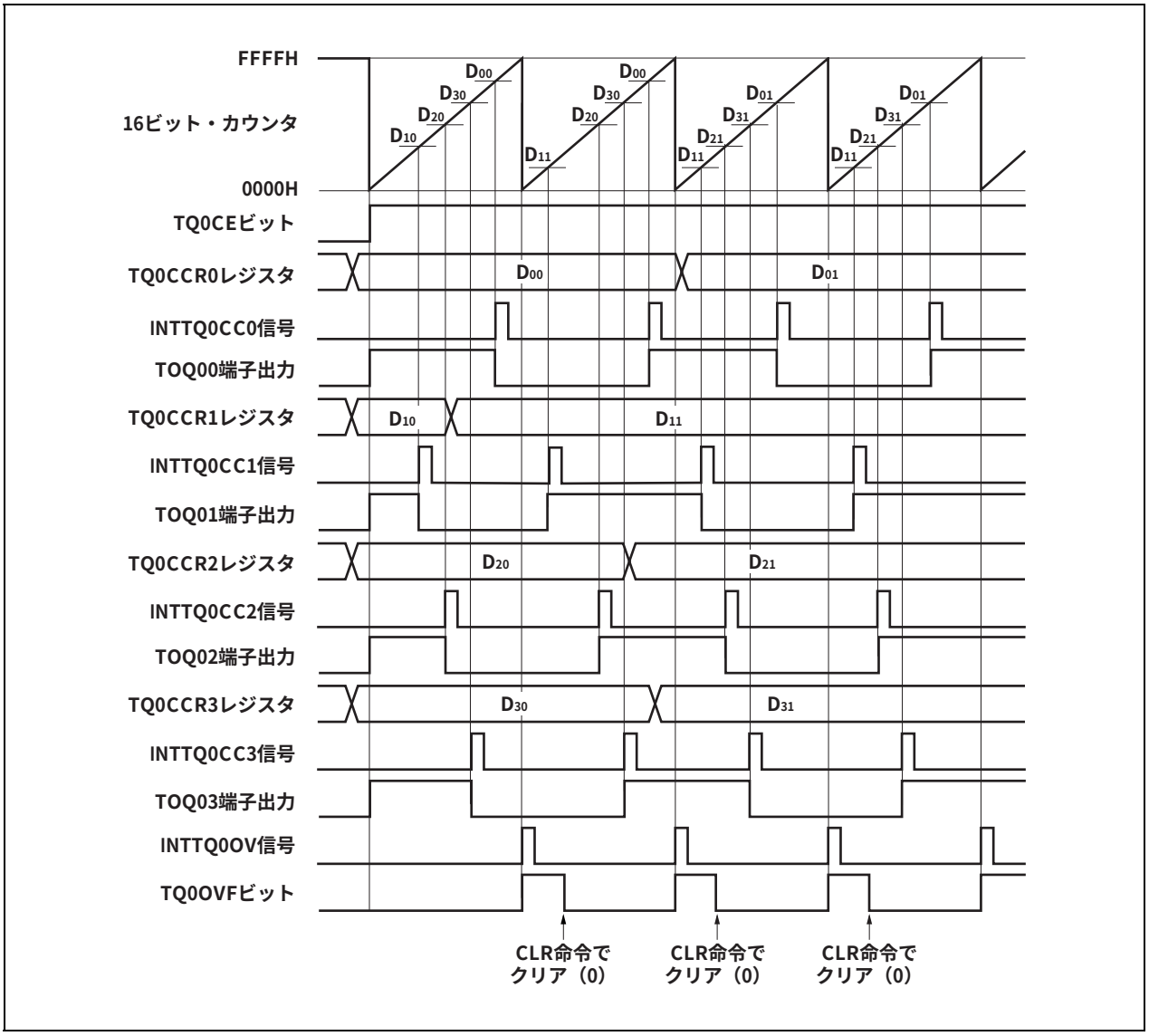


TQ0CEビットをセット（1）することで，カウント動作を開始し，TOQ00-TOQ03端子出力を反転します。その後，16ビット・カウンタのカウント値とTQ0CCRmレジスタの設定値が一致すると，コンペア一致割り込み要求信号（INTTQ0CCm）を発生し，TOQ0m端子出力を反転します。

16ビット・カウンタは，カウント・クロックに同期してカウント動作を続け，FFFFHまでカウントすると，次のクロックでオーバフロー割り込み要求信号（INTTQ0OV）を発生するとともに，0000Hにクリアしカウント動作を継続します。また，このときオーバフロー・フラグ（TQ0OPT0.TQ0OVFビット）もセット（1）されます。オーバフロー・フラグは，ソフトウエアでCLR命令を実行してクリア（0）してください。

TQ0CCRmレジスタは，カウント動作中の書き換えを許可しています。書き換えた場合，随時書き換えた値が反映され，カウント値と比較されます。

図8－29　フリー・ランニング・タイマ・モードの基本タイミング（コンペア機能）



TQ0CEビットをセット（1）することで，カウント動作を開始します。その後，TIQ0m端子入力の有効エッジを検出することにより，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCRmレジスタに格納し，キャプチャ割り込み要求信号（INTTQ0CCm）を発生します。

16ビット・カウンタは，カウント・クロックに同期してカウント動作を続け，FFFFHまでカウントすると，次のクロックでオーバフロー割り込み要求信号（INTTQ0OV）を発生するとともに，0000Hにクリアしカウント動作を継続します。また，このときオーバフロー・フラグ（TQ0OVFビット）もセット（1）されます。オーバフロー・フラグは，ソフトウエアでCLR命令を実行してクリア（0）してください。

図8－30　フリー・ランニング・タイマ・モードの基本タイミング（キャプチャ機能）

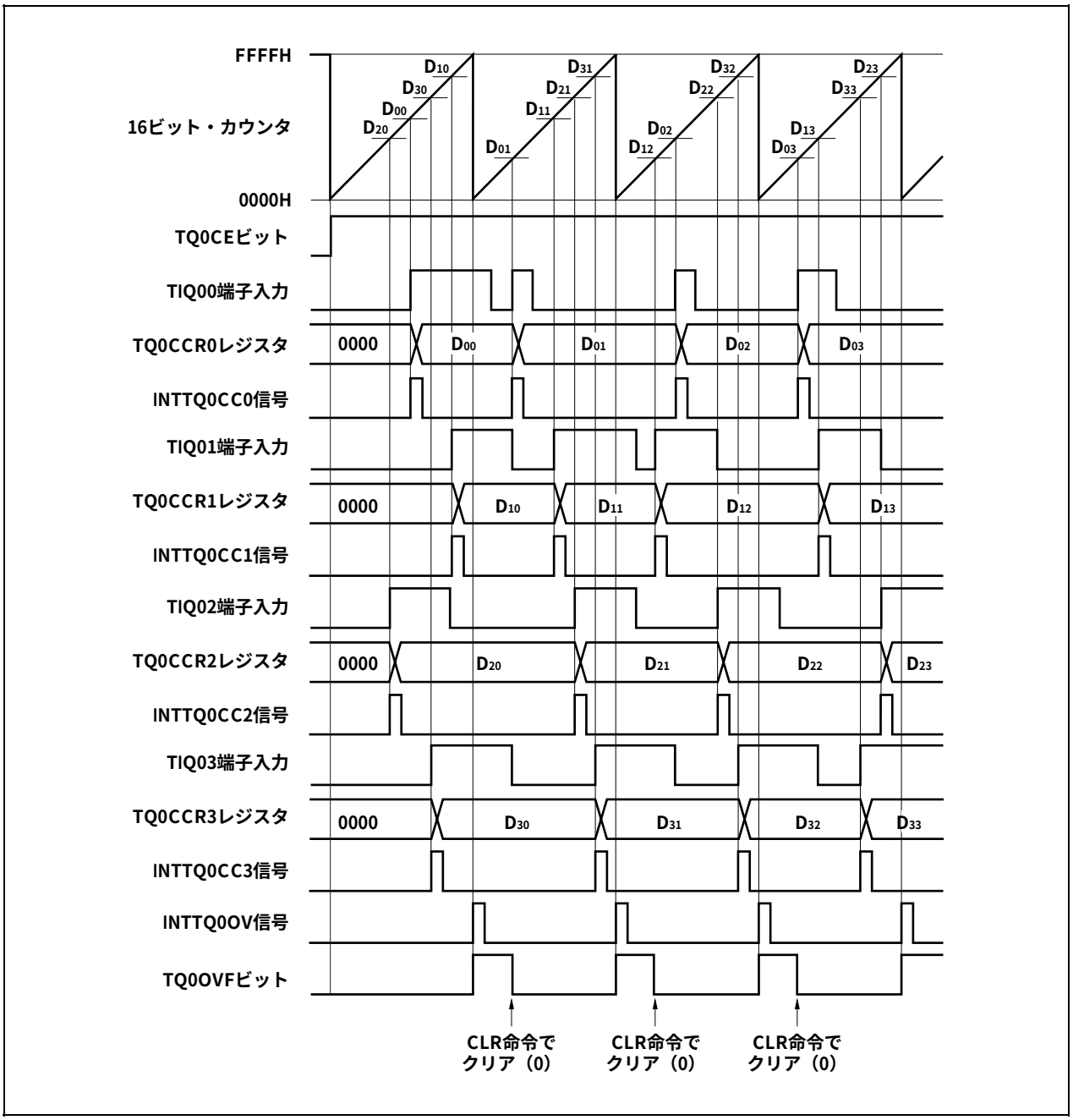
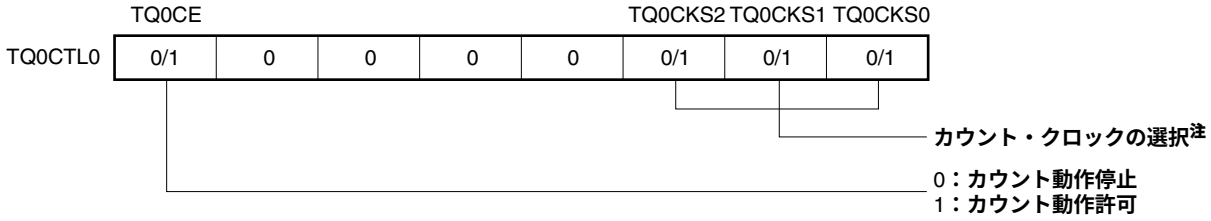


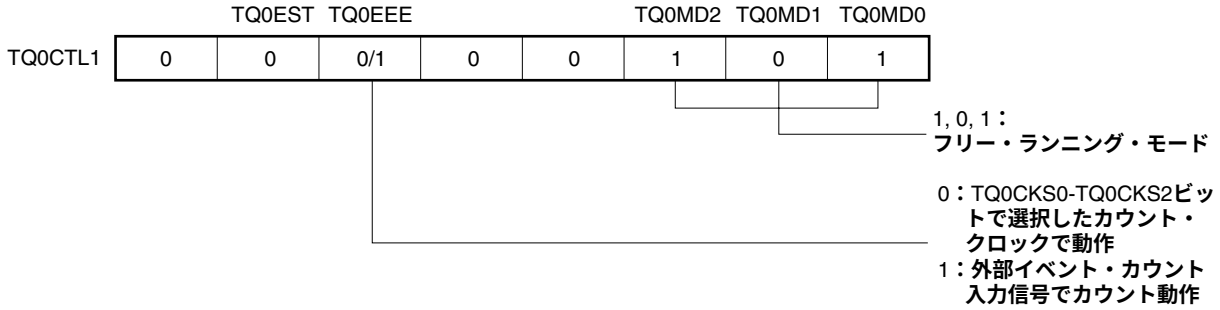
図8－31　フリー・ランニング・タイマ・モード動作時のレジスタ設定内容（1/3）

（a）TMQ0制御レジスタ0（TQ0CTL0）



注　TQ0CTL1.TQ0EEEビット = 1のときは設定が無効になります。

（b）TMQ0制御レジスタ1（TQ0CTL1）



（c）TMQ0I/O制御レジスタ0（TQ0IOC0）

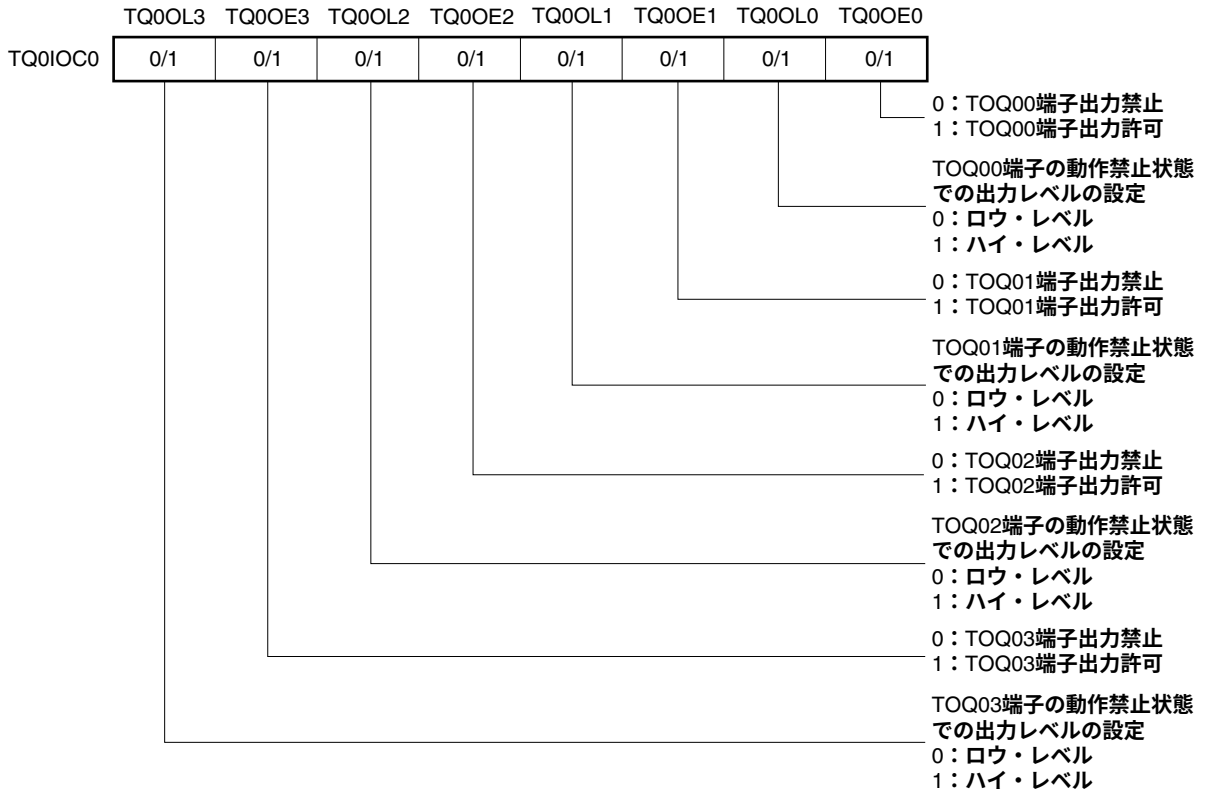


図8－31　フリー・ランニング・タイマ・モード動作時のレジスタ設定内容（2/3）

(d) TMQ0I/O**制御レジスタ**1**（**TQ0IOC1**）**

	TQ0IS7	TQ0IS6	TQ0IS5	TQ0IS4	TQ0IS3	TQ0IS2	TQ0IS1	TQ0IS0
TQ0IOC1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1

- TIQ00端子入力有効エッジの選択
- TIQ01端子入力有効エッジの選択
- TIQ02端子入力有効エッジの選択
- TIQ03端子入力有効エッジの選択

(e) TMQ0I/O**制御レジスタ**2**（**TQ0IOC2**）**

					TQ0EES1	TQ0EES0	TQ0ETS1	TQ0ETS0
TQ0IOC2	0	0	0	0	0/1	0/1	0	0

- 外部イベント・カウント入力有効エッジの選択

(f) TMQ0**オプション・レジスタ**0**（**TQ0OPT0**）**

	TQ0CCS3	TQ0CCS2	TQ0CCS1	TQ0CCS0				TQ0OVF
TQ0OPT0	0/1	0/1	0/1	0/1	0	0	0	0/1

- オーバフロー・フラグ
- TQ0CCR0レジスタのキャプチャ／コンペア選択ビット
- TQ0CCR1レジスタのキャプチャ／コンペア選択ビット
- TQ0CCR2レジスタのキャプチャ／コンペア選択ビット
- TQ0CCR3レジスタのキャプチャ／コンペア選択ビット

(g) TMQ0**カウンタ・リード・バッファ・レジスタ（**TQ0CNT**）**

TQ0CNT**レジスタをリードすることで，**16**ビット・カウンタの値をリードできます。**

図8－31　フリー・ランニング・タイマ・モード動作時のレジスタ設定内容（3/3）

（h）TMQ0**キャプチャ／コンペア・レジスタ**0-3（TQ0CCR0-TQ0CCR3）

TQ0OPT0.TQ0CCSm**ビットの設定によりキャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタとして動作します。**

キャプチャ・レジスタとして動作する場合には，TIQ0m**端子入力の有効エッジ検出により，**16**ビット・カウンタのカウント値を格納します。**

コンペア・レジスタとして動作する場合には，TQ0CCRm**レジスタに**D_m**を設定した場合，カウンタが（**D_m＋1**）になるタイミングで**INTTQ0CCm**信号を発生し，**TOQ0m**端子出力を反転します。**

備考　m = 0-3

(1) フリー・ランニング・タイマ・モード動作フロー

(a) キャプチャ／コンペア・レジスタをコンペア・レジスタとして使用した場合

図8－32　フリー・ランニング・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー（コンペア機能）（1/2）

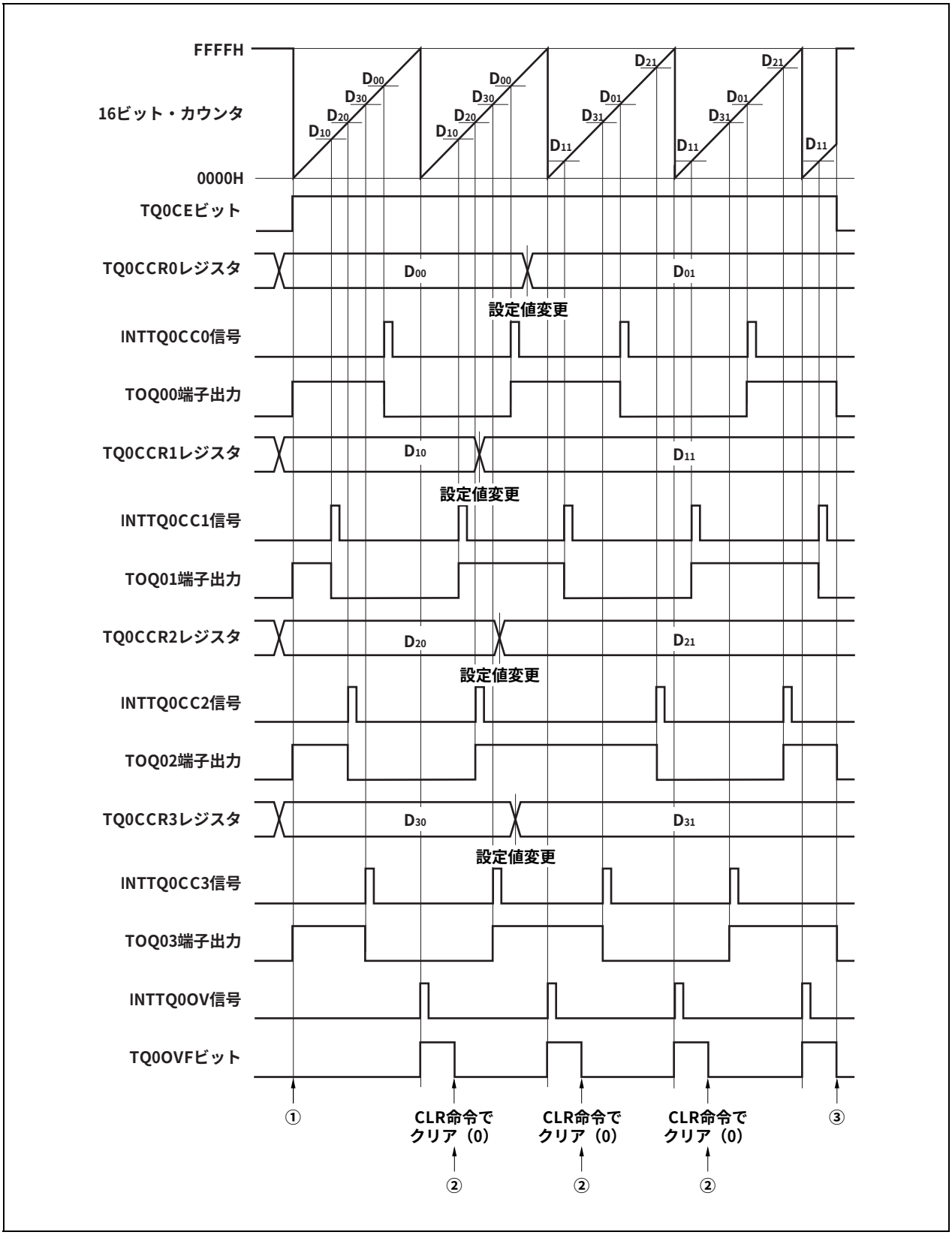
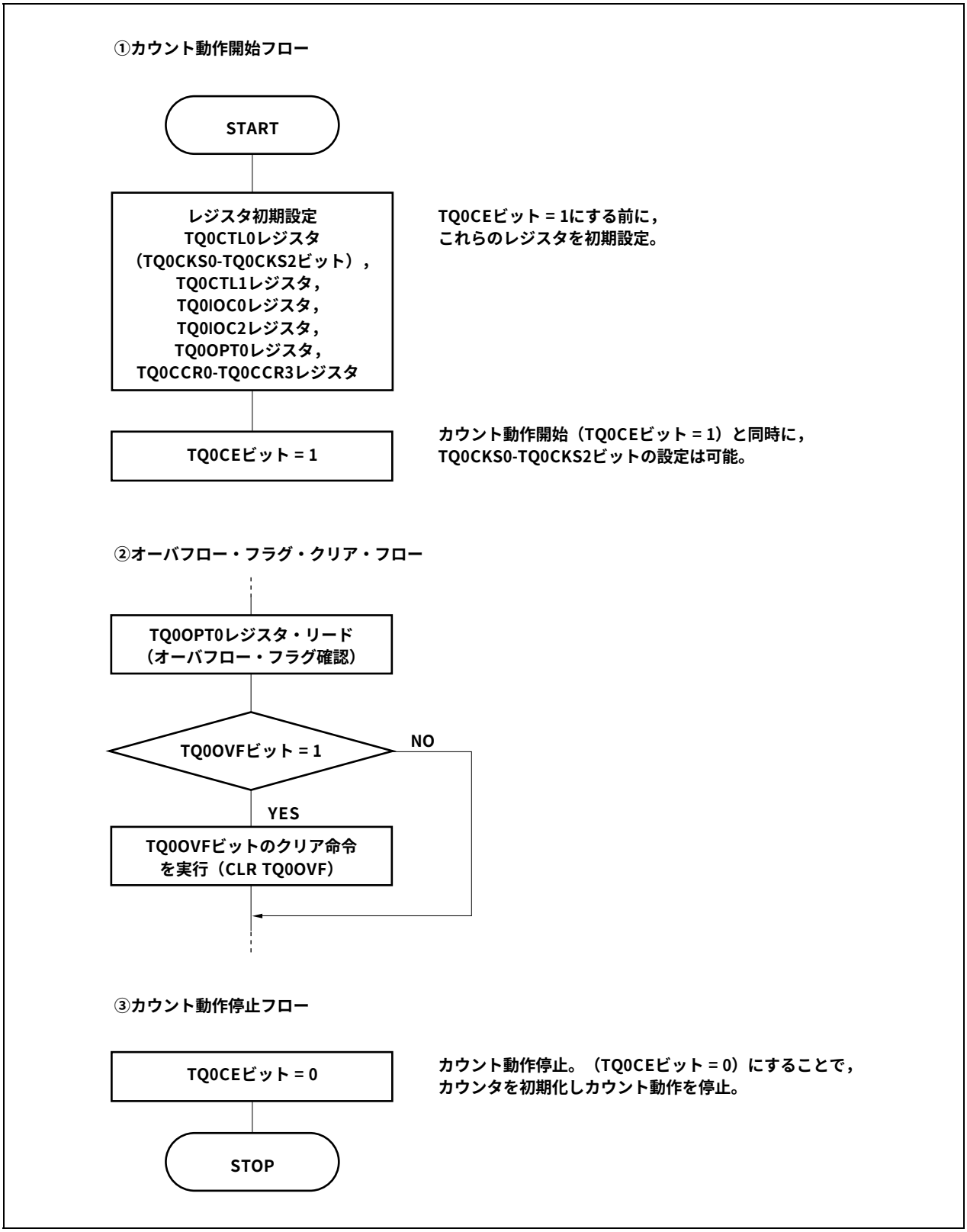


図8－32　フリー・ランニング・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー（コンペア機能）（2/2）



(b) キャプチャ／コンペア・レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用する場合

図8－33　フリー・ランニング・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー（キャプチャ機能）（1/2）

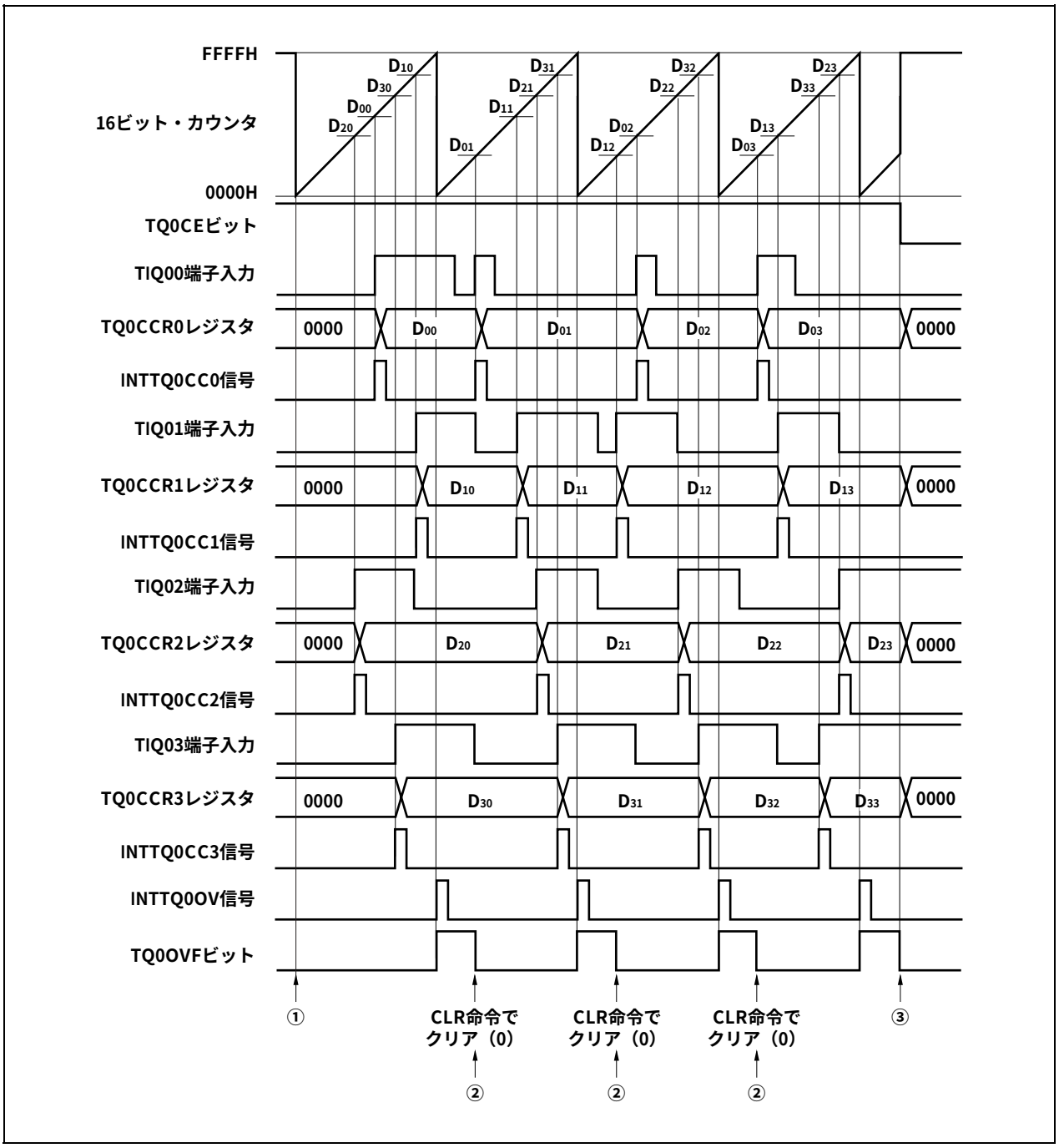
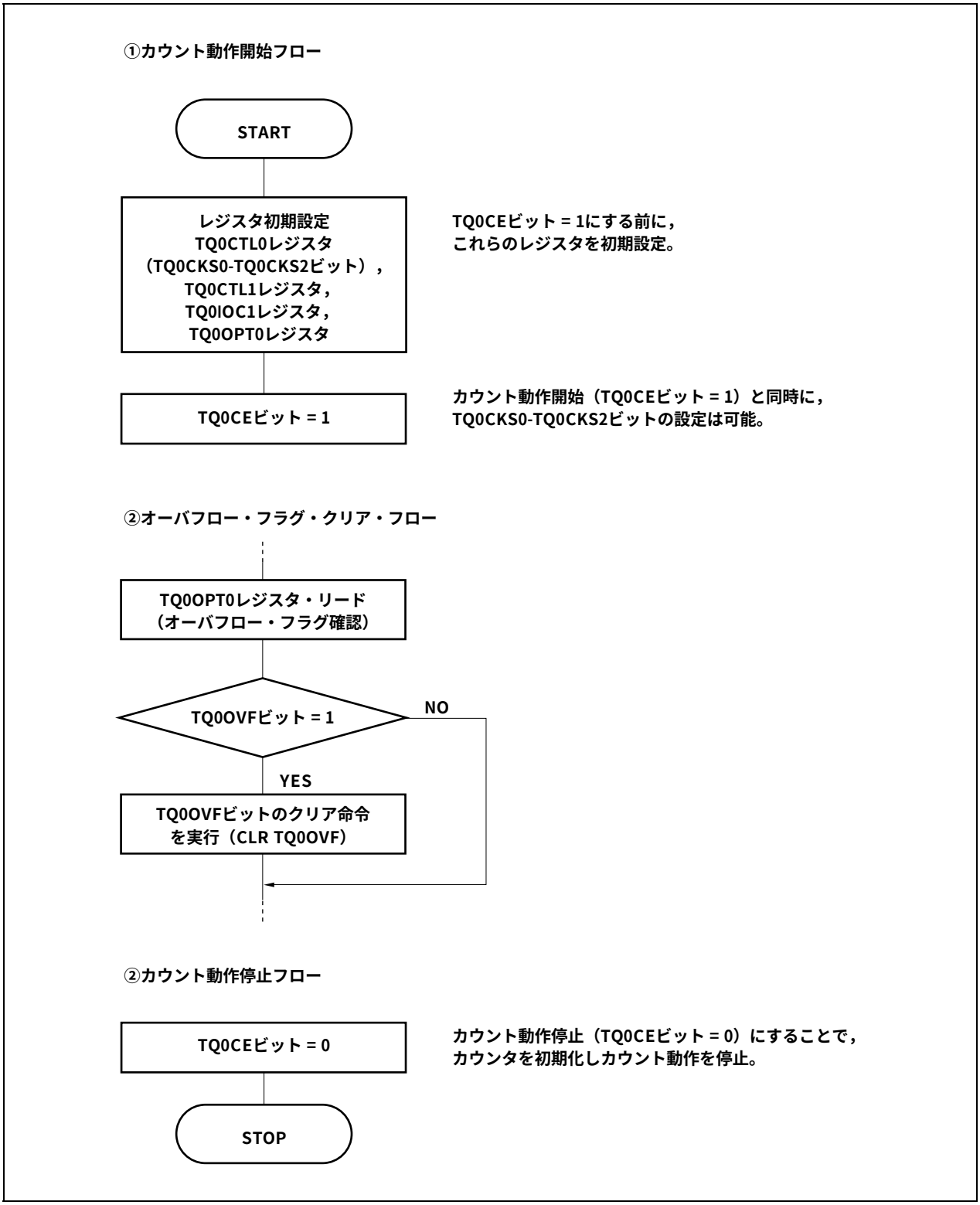


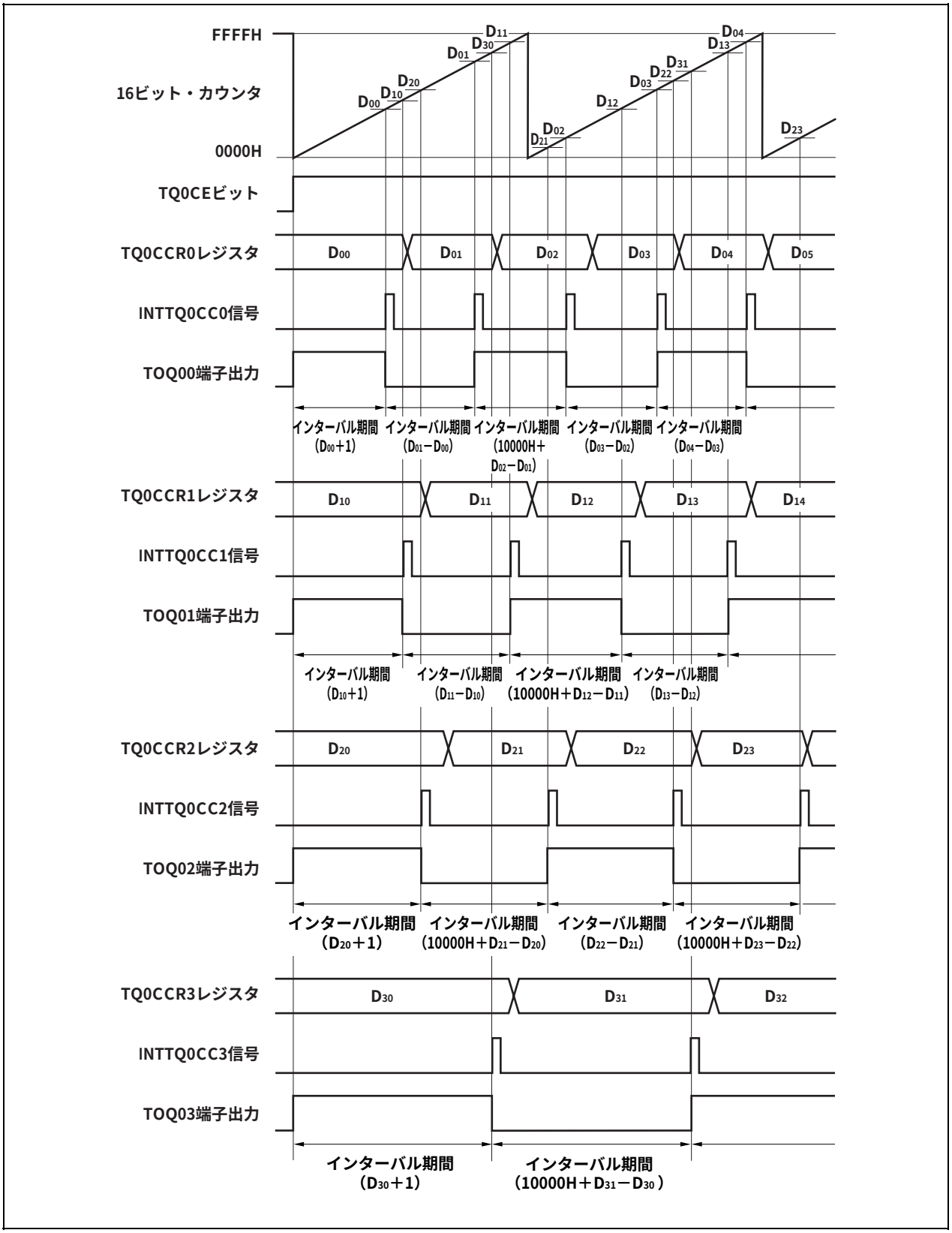
図8－33　フリー・ランニング・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー（キャプチャ機能）（2/2）



(2) フリー・ランニング・タイマ・モード動作タイミング

(a) コンペア・レジスタとして使用し，インターバル動作をさせる場合

TQ0CCRmレジスタをコンペア・レジスタとして使用してインターバル動作をさせる場合，INTTQ0CCm信号を検出するごとに,次の割り込み要求信号を発生させるためのコンペア値を設定するソフトウエア処理が必要となります。



フリー・ランニング・タイマ・モードでインターバル動作を行う場合，4つのインターバル時間を設定できます。

インターバル動作を行う場合，INTTQ0CCm信号を検出したときの割り込み処理中に，対応するTQ0CCRmレジスタの値を再設定する必要があります。

再設定する場合の設定値は，インターバル期間を“ D_m ”とすると，次のように求められます。

コンペア・レジスタ初期値：D_m－1

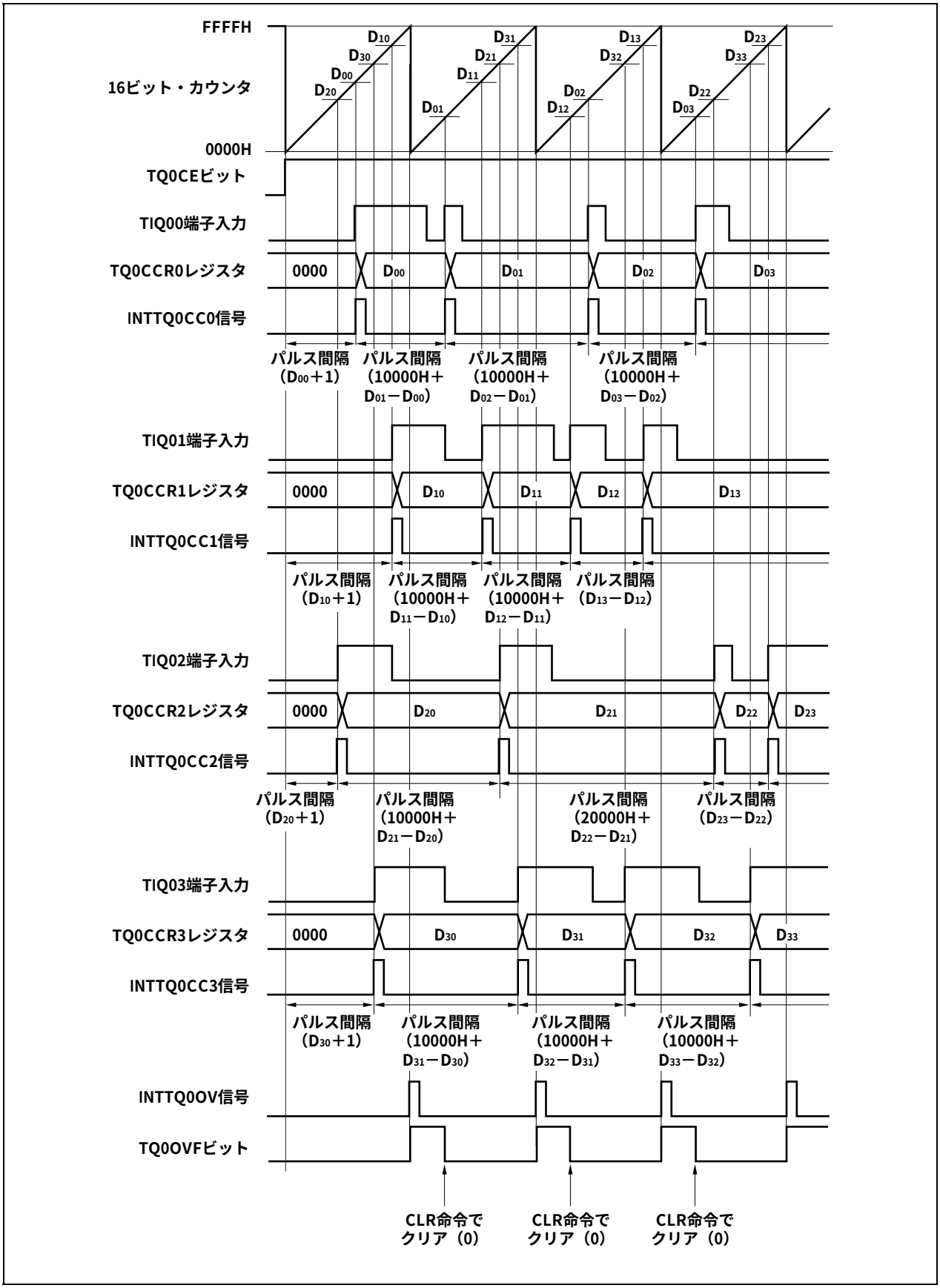
2回目以降のコンペア・レジスタ設定値 ＝ 前回の設定値＋D_m

（演算結果がFFFFHよりも大きい場合には，演算結果から10000Hを引いた値を設定してください。）

備考　m = 0-3

(b) キャプチャ・レジスタとして使用し，パルス幅測定をさせる場合

TQ0CCRm**レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用し，パルス幅測定を行う場合，**INTTQ0CCm**信号を検出するごとに，キャプチャ・レジスタをリードし，間隔を算出するソフトウエア処理が必要となります。**



フリー・ランニング・タイマ・モードでパルス幅測定を行う場合，4つのパルス幅測定ができます。

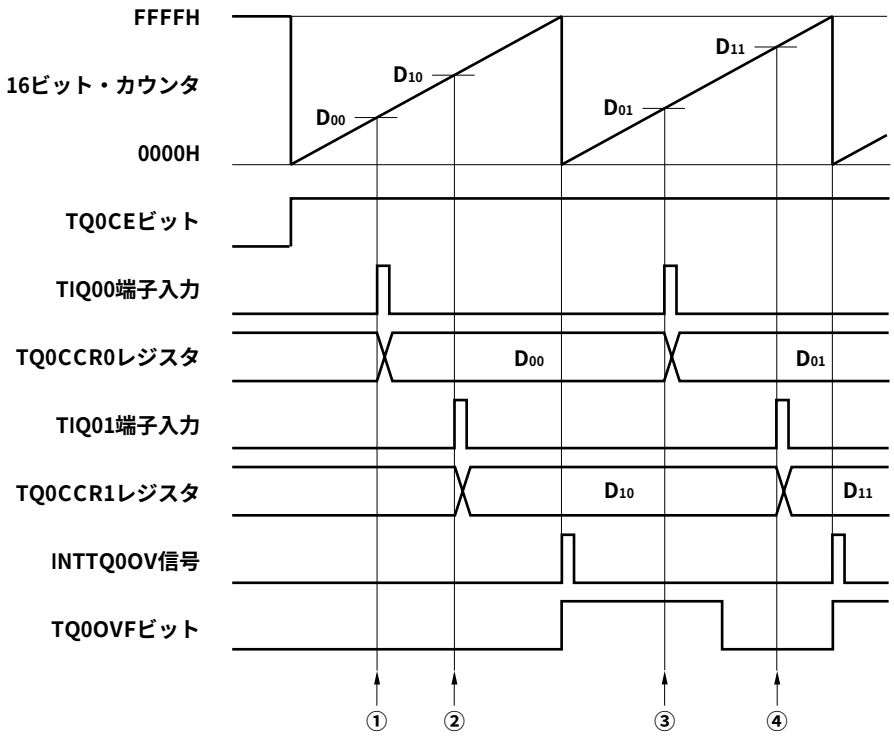
パルス幅測定を行う場合，INTTQ0CCm信号に同期してTQ0CCRmレジスタの値をリードし，同一キャプチャ・レジスタの前回のリード・データとの差分を求めることでパルス幅を算出できます。

備考　m = 0-3

(c) 2つ以上のキャプチャ・レジスタを使用した場合のオーバフローの処理方法

2つ以上のキャプチャを使用する場合には，オーバフロー・フラグの処理に注意が必要です。まず悪い例を，次に示します。

2つ以上のキャプチャを使用するときの悪い例



フリー・ランニング・タイマ・モードで2つのパルス幅を測定する場合，次のような問題が起こる場合があります。

① TQ0CCR0レジスタをリードする（TIQ00端子入力の初期値設定）。

② TQ0CCR1レジスタをリードする（TIQ01端子入力の初期値設定）。

③ TQ0CCR0レジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。→オーバフロー・フラグが“1”だった場合，クリア（0）する。
オーバフロー・フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{01}－D_{00}）で求められます。

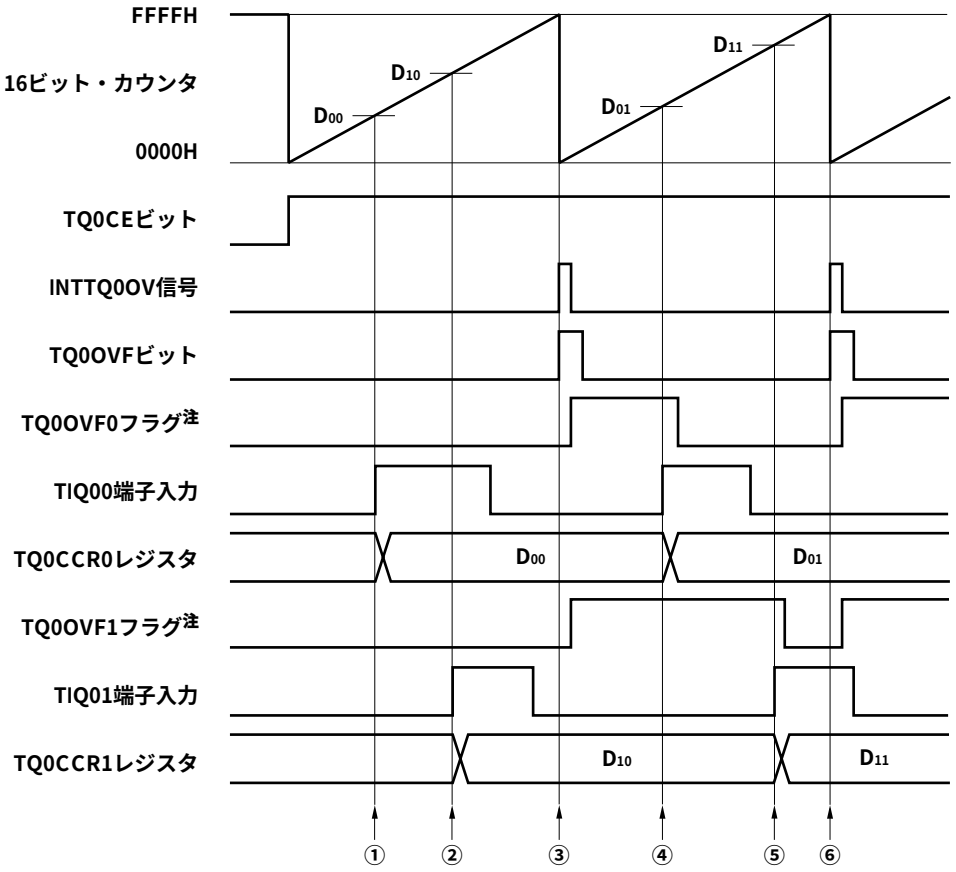
④ TQ0CCR1レジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。→③でクリア（0）されているため，0がリードされます。
オーバフロー・フラグが“0”なので，パルス幅は（D_{11}－D_{10}）で求められます（NG）。

このように，2つ以上のキャプチャを使用する場合に，1つのキャプチャでオーバフロー・フラグをクリア（0）してしまうと，他のキャプチャは正しいパルス幅が求められない可能性があります。

2つ以上のキャプチャを使用する場合には，ソフトウエアで対応してください。次に，ソフトウエア対応例を示します。

（1/2）

2つのキャプチャを使用するときの対応例（オーバフロー割り込みを使用）



注　TQ0OVF0, TQ0OVF1フラグは，ソフトウエアにより，内蔵RAM上に任意に設定したものです。

① TQ0CCR0レジスタをリードする（TIQ00端子入力の初期値設定）。

② TQ0CCR1レジスタをリードする（TIQ01端子入力の初期値設定）。

③ オーバフローが発生する。オーバフロー割り込み処理の中で，TQ0OVF0, TQ0OVF1フラグをセット（1）し，オーバフロー・フラグをクリア（0）する。

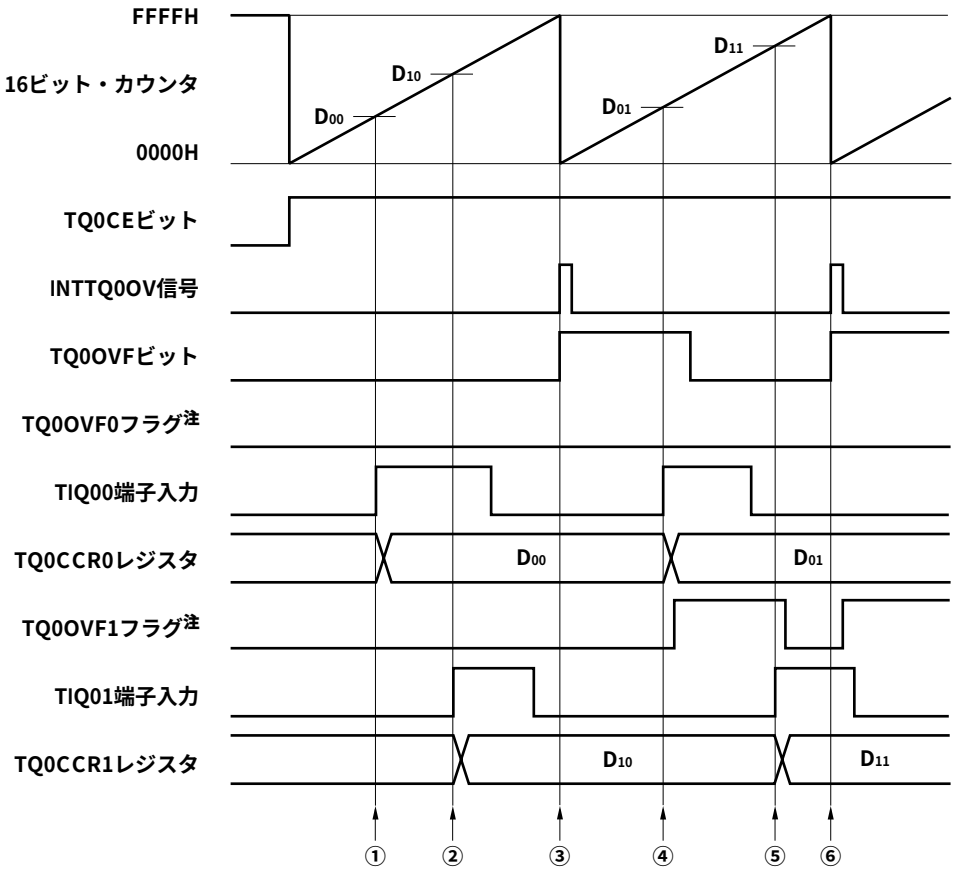
④ TQ0CCR0レジスタをリードする。
TQ0OVF0フラグをリードする。→TQ0OVF0フラグが“1”だった場合，クリア（0）する。
TQ0OVF0フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{01}－D_{00}）で求められます。

⑤ TQ0CCR1レジスタをリードする。
TQ0OVF1フラグをリードする。→TQ0OVF1フラグが“1”だった場合，クリア（0）する（④でクリア（0）されたのはTQ0OVF0フラグであり，TQ0OVF1フラグは“1”のまま）。
TQ0OVF1フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{11}－D_{10}）で求められます（OK）。

⑥ ③と同じです。

(2/2)

2つのキャプチャを使用するときの対応例（オーバフロー割り込みを使用しない）



注　TQ0OVF0, TQ0OVF1フラグは，ソフトウエアにより，内蔵RAM上に任意に設定したものです。

① TQ0CCR0レジスタをリードする（TIQ00端子入力の初期値設定）。

② TQ0CCR1レジスタをリードする（TIQ01端子入力の初期値設定）。

③ オーバフローが発生する。ソフトウエアでは何もしない。

④ TQ0CCR0レジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。→オーバフロー・フラグが“1”だった場合，TQ0OVF1フラグのみをセット（1）し，オーバフロー・フラグをクリア（0）する。
オーバフロー・フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{01}－D_{00}）で求められます。

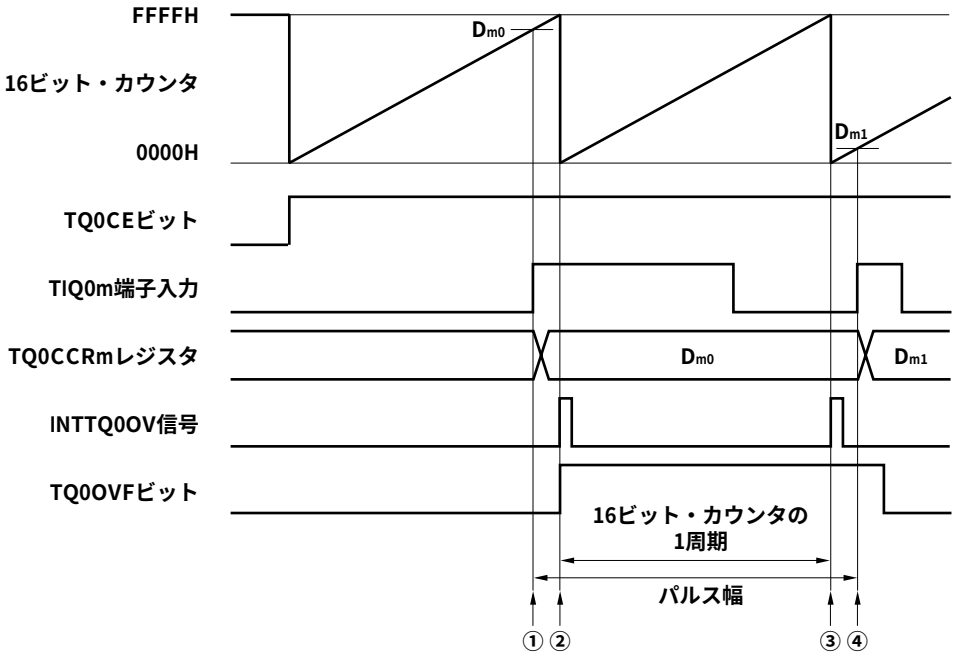
⑤ TQ0CCR1レジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。オーバフロー・フラグは④でクリア（0）されているので“0”がリードされる。
TQ0OVF1フラグをリードする。→TQ0OVF1フラグが“1”だった場合，クリア（0）する。
TQ0OVF1フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{11}－D_{10}）で求められます（OK）。

⑥ ③と同じです。

(d) キャプチャ・トリガの間隔が長いときのオーバフローの処理方法

パルス幅が16ビット・カウンタの1周期以上ある場合，キャプチャ・トリガから次のキャプチャ・トリガまでの間にオーバフローが2回以上発生する可能性があるので注意が必要です。まず悪い例を，次に示します。

キャプチャ・トリガの間隔が長いときの悪い例



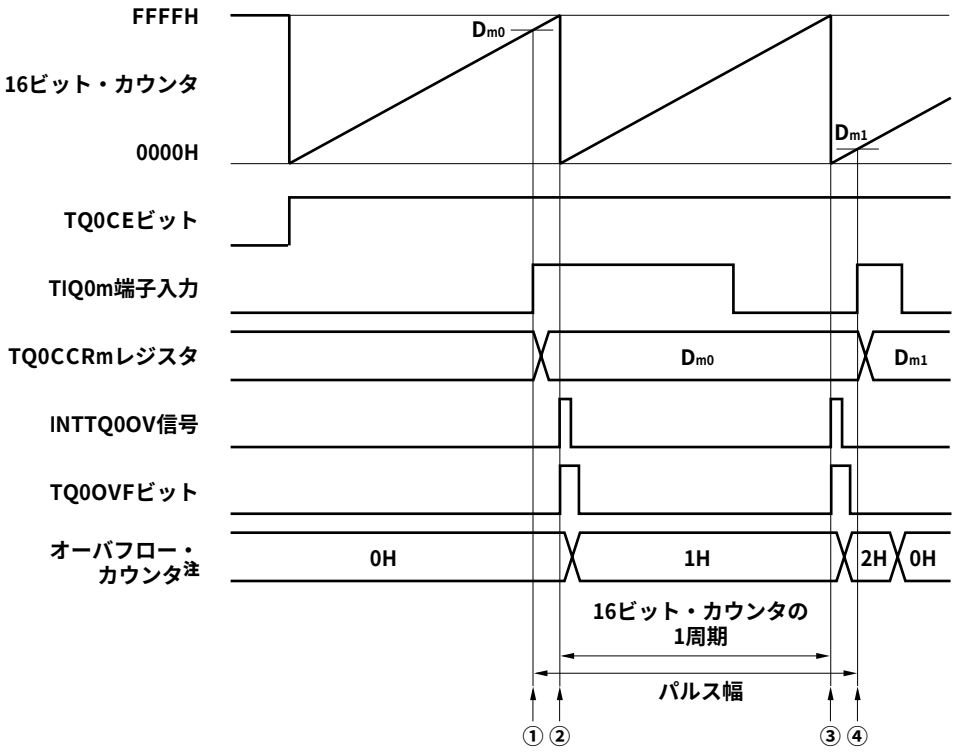
フリー・ランニング・タイマ・モードで長いパルス幅を測定する場合，次のような問題が起こる場合があります。

① TQ0CCRmレジスタをリードする（TIQ0m端子入力の初期値設定）。
② オーバフローが発生する。ソフトウエアでは何もしない。
③ 2回目のオーバフローが発生する。ソフトウエアでは何もしない。
④ TQ0CCRmレジスタをリードする。
オーバフロー・フラグをリードする。→オーバフロー・フラグが“1”だった場合，クリア（0）する。
オーバフロー・フラグが“1”なので，パルス幅は（10000H＋D_{m1}－D_{m0}）で求められます（NG）。
実際には，2回のオーバフローが発生しているので，パルス幅は，（20000H＋D_{m1}－D_{m0}）になるはずです。

このように，キャプチャ・トリガの間隔が長い場合に，2回以上のオーバフローが発生すると，正しいパルス幅が求められない可能性があります。

キャプチャ・トリガの間隔が長い場合には，カウント・クロックを遅くして16ビット・カウンタの1周期を長くするか，ソフトウエアで対応してください。次に，ソフトウエア対応例を示します。

キャプチャ・トリガの間隔が長いときの対応例



注　オーバフロー・カウンタは，ソフトウエアにより，内蔵RAM上に任意に設定したものです。

① TQ0CCRmレジスタをリードする（TIQ0m端子入力の初期値設定）。

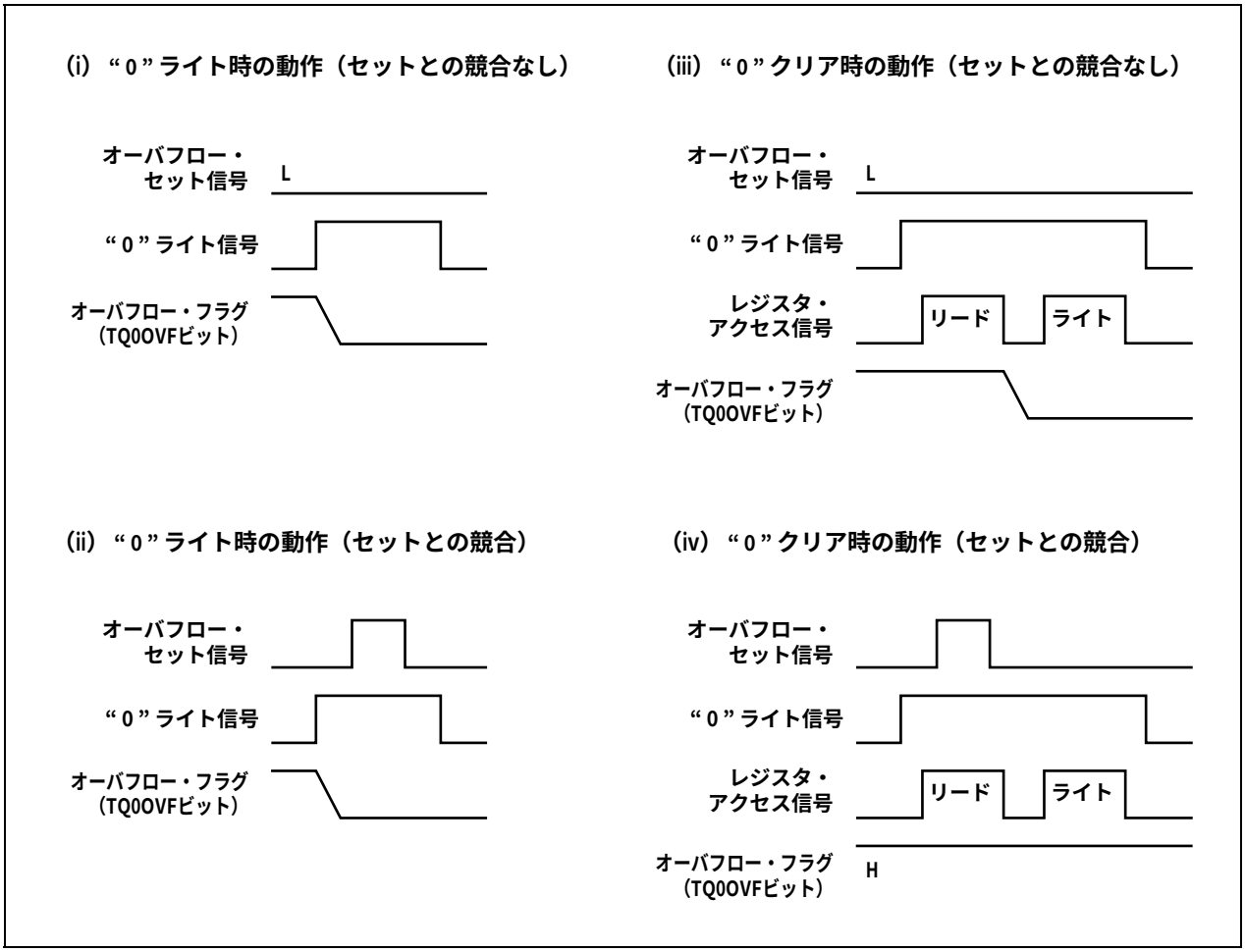
② オーバフローが発生する。オーバフロー割り込み処理の中で，オーバフロー・カウンタをインクリメントし，オーバフロー・フラグをクリア（0）する。

③ 2回目のオーバフローが発生する。オーバフロー割り込み処理の中で，オーバフロー・カウンタをインクリメントし，オーバフロー・フラグをクリア（0）する。

④ TQ0CCRmレジスタをリードする。
オーバフロー・カウンタをリードする。
→オーバフロー・カウンタが“N”のとき，パルス幅は（N×10000H＋D_{m1}－D_{m0}）で求められる。
この例では，2回のオーバフローが発生しているので，パルス幅は，（20000H＋D_{m1}－D_{m0}）になります。
オーバフロー・カウンタをクリア（0H）する。

(e) オーバフロー・フラグのクリア方法

オーバフロー・フラグをクリア（0）する方法は，TQ0OVFビットをCLR命令でクリア（0）する方法と，TQ0OPT0レジスタに8ビット・データ（ビット0は“0”）をライトする方法がありますが，確実にオーバフローを検出するために，TQ0OVFビット = 1をリードしたあと，ビット操作命令でクリア（0）してください。



オーバフロー・フラグをクリア（0）する場合には，リードしてオーバフロー・フラグがセット（1）されていることを確認したあと，CLR命令でクリア（0）してください。確認せずに0をライトすると，オーバフローのセット情報を“0”ライトで消してしまう場合があります（上図の（ii））。そのために，実際にはオーバフローが発生したにもかかわらず，ソフトウエアではオーバフローしていないと判断することになります。

オーバフロー・フラグをCLR命令でクリア（0）するときに，CLR命令の実行とオーバフロー発生のタイミングが競合した場合，クリア命令実行後もオーバフロー・フラグはセット（1）されたままになります。

8. 5. 7　パルス幅測定モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 110）

パルス幅測定モードは，TQ0CTL0.TQ0CEビットをセット（1）することでカウント動作を開始し，TIQ0m端子入力の有効エッジを検出するごとに，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCRmレジスタに格納し，16ビット・カウンタを0000Hにクリアします。

キャプチャ割り込み要求信号（INTTQ0CCm）が発生したあと，TQ0CCRmレジスタをリードすることにより，有効エッジ間隔を測定できます。

キャプチャ・トリガ入力端子として，TIQ00-TIQ03端子のいずれか1本を使用してください。使用しない端子は，TQ0IOC1レジスタで“エッジ検出なし”に設定してください。

備考　m = 0-3

k = 1-3

図8－34　パルス幅測定モードの構成図

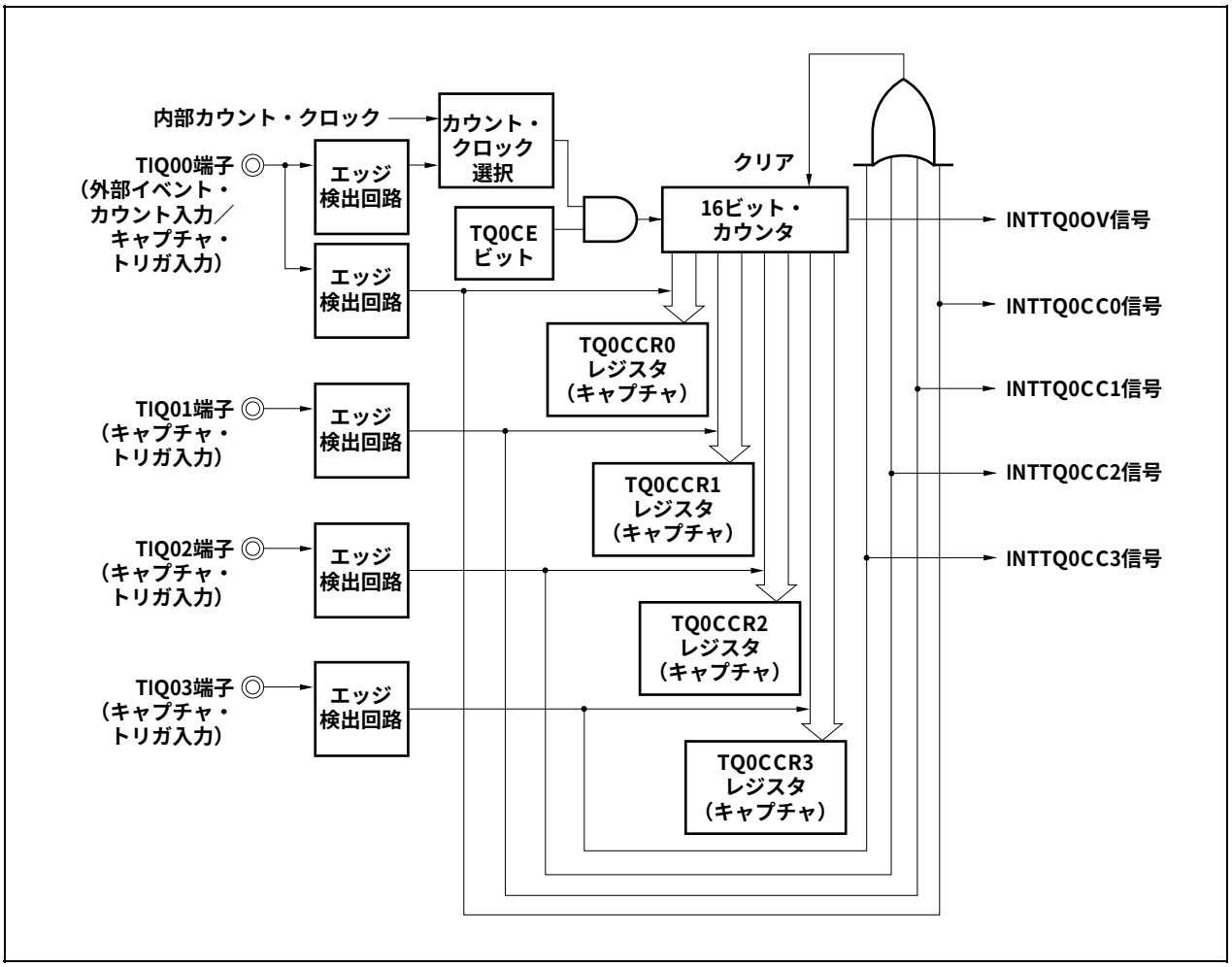
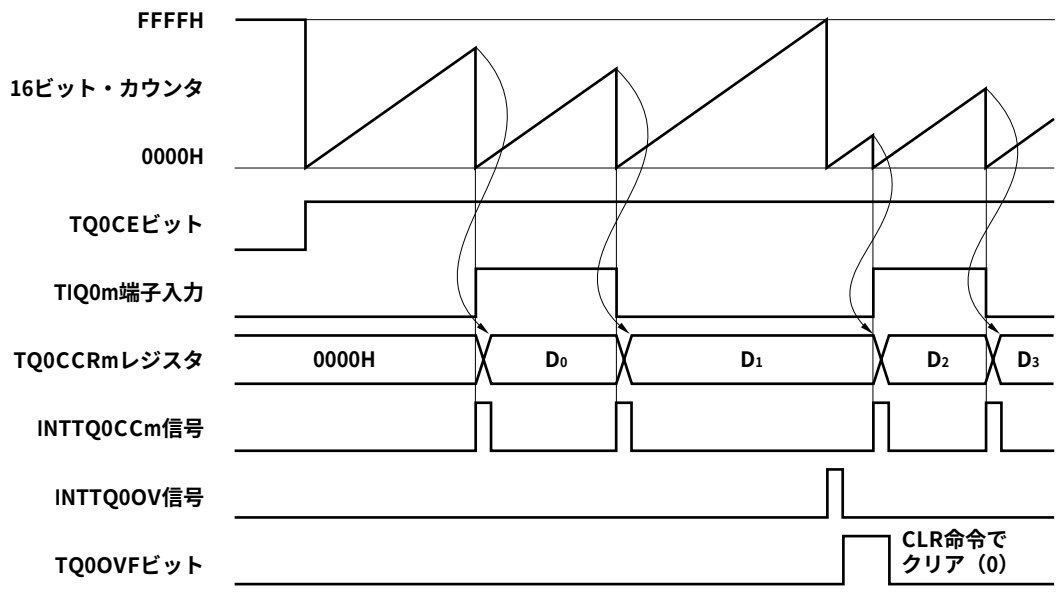


図8－35　パルス幅測定モードの基本タイミング



備考　m = 0-3

TQ0CEビットをセット（1）することで，カウント動作を開始します。その後，TIQ0m端子入力の有効エッジを検出することにより，16ビット・カウンタのカウント値をTQ0CCRmレジスタに格納し，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，キャプチャ割り込み要求信号（INTTQ0CCm）を発生します。

パルス幅は次のように求められます。

パルス幅 ＝ キャプチャされた値×カウント・クロック周期

16ビット・カウンタがFFFFHまでカウントしても有効エッジが入力されなかった場合，次のクロックでオーバフロー割り込み要求信号（INTTQ0OV）を発生するとともに，0000Hにクリアしカウント動作を継続します。また，このときオーバフロー・フラグ（TQ0OPT0.TQ0OVFビット）もセット（1）されます。オーバフロー・フラグは，ソフトウエアでCLR命令を実行してクリア（0）してください。

オーバフロー・フラグがセット（1）した場合，パルス幅は次のように求められます。

パルス幅 ＝（10000H×TQ0OVFビットがセット（1）された回数＋キャプチャされた値）
×カウント・クロック周期

備考　m = 0-3

図8－36　パルス幅測定モード動作時のレジスタ設定内容（1/2）

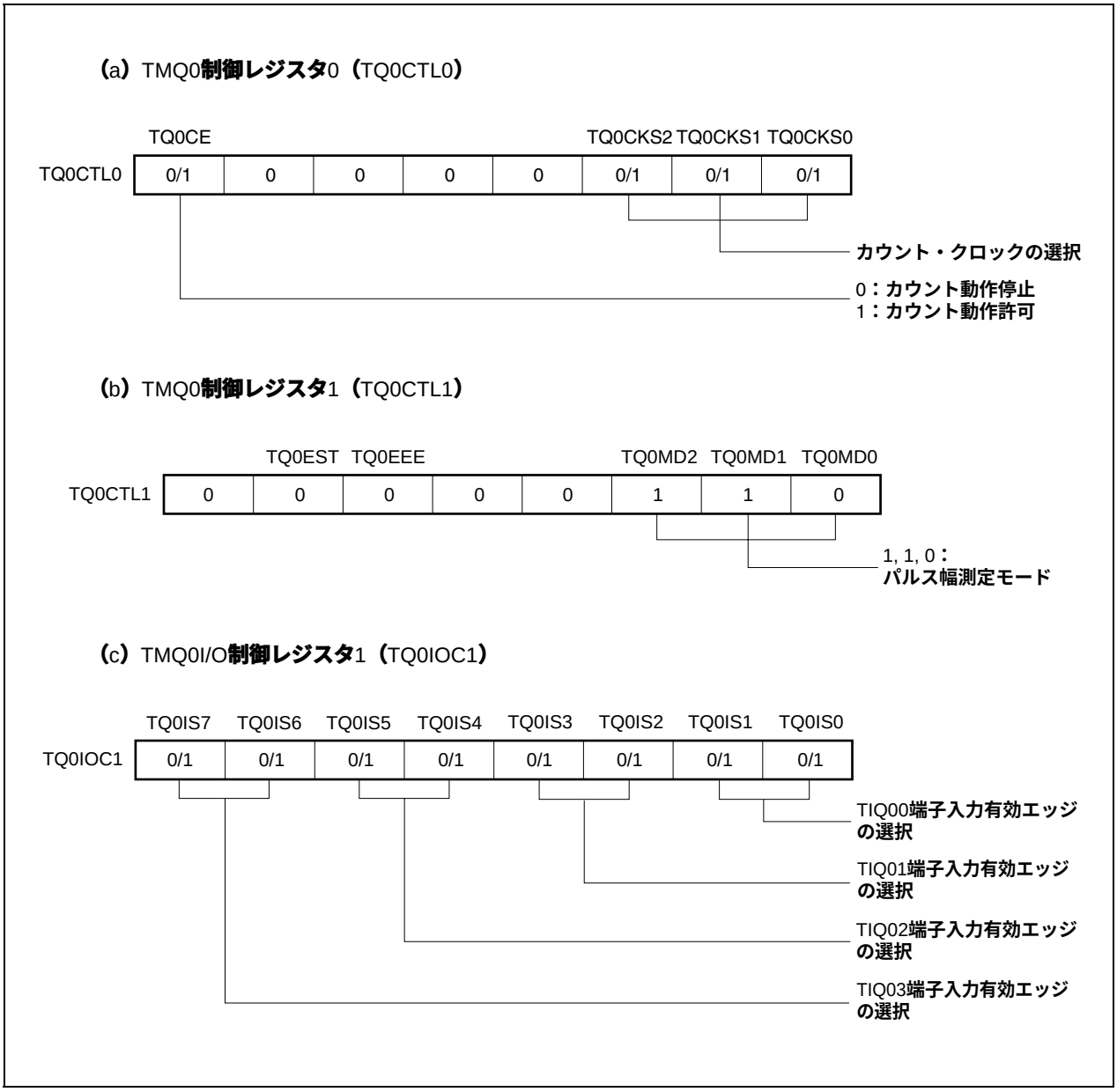


図8－36　パルス幅測定モード動作時のレジスタ設定内容（2/2）

（d）TMQ0**オプション・レジスタ**0（TQ0OPT0）

	TQ0CCS3	TQ0CCS2	TQ0CCS1	TQ0CCS0				TQ0OVF
TQ0OPT0	0	0	0	0	0	0	0	0/1

オーバフロー・フラグ

（e）TMQ0**カウンタ・リード・バッファ・レジスタ**（TQ0CNT）

TQ0CNT**レジスタをリードすることで，**16**ビット・カウンタの値をリードできます。**

（f）TMQ0**キャプチャ／コンペア・レジスタ**0-3（TQ0CCR0-TQ0CCR3）

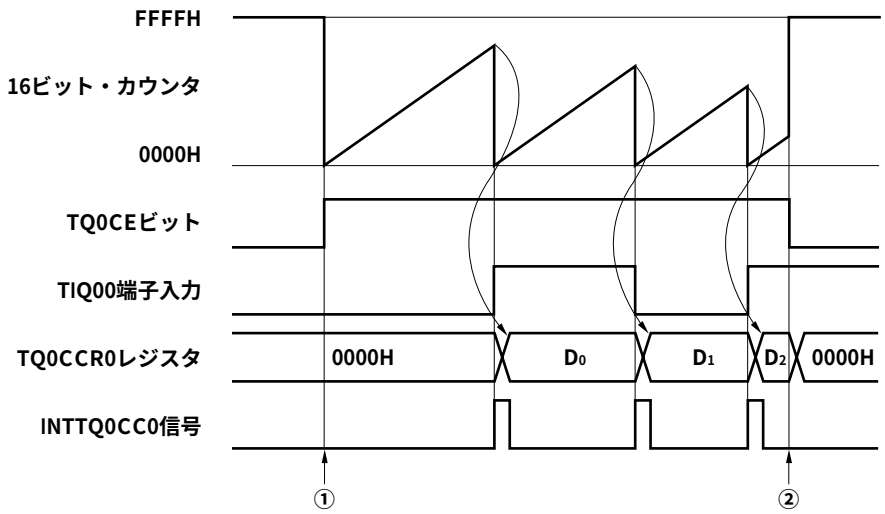
TIQ0m**端子入力の有効エッジ検出により，**16**ビット・カウンタのカウント値を格納します。**

備考1.　**パルス幅測定モードでは，**TMQ0I/O**制御レジスタ**0（TQ0IOC0），TMQ0I/O**制御レジスタ**2（TQ0IOC2）**は使用しません。**

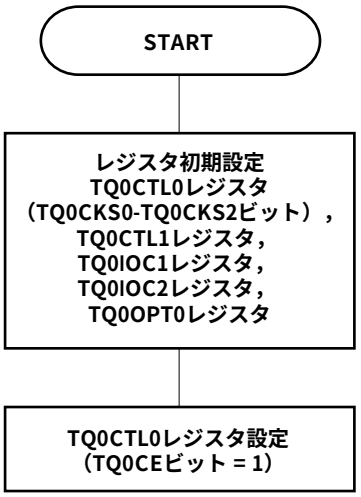
2.　m = 0-3

(1) パルス幅測定モード動作フロー

図8－37　パルス幅測定モード使用時のソフトウエア処理フロー



① カウント動作開始フロー



TQ0CEビット = 1にする前に，
これらのレジスタを初期設定。

カウント動作開始（TQ0CEビット = 1）と同時に，
TQ0CKS0-TQ0CKS2ビットの設定は可能。

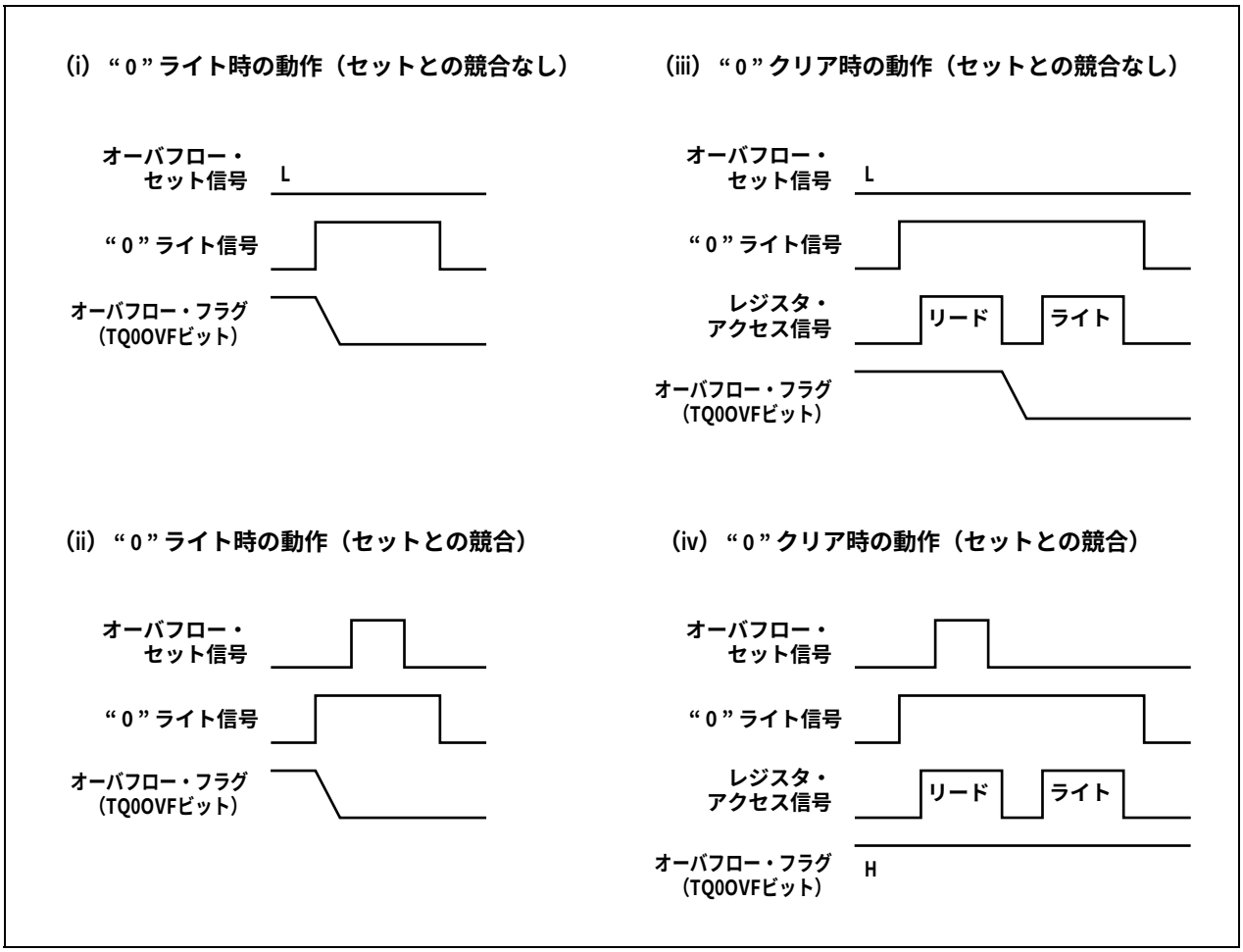
② カウント動作停止フロー

カウント動作停止（TQ0CEビット = 0）にすることで，
カウンタを初期化しカウント動作を停止。

(2) パルス幅測定モード動作タイミング

(a) オーバフロー・フラグのクリア方法

オーバフロー・フラグをクリア（0）する方法は，TQ0OVFビットをCLR命令でクリア（0）する方法と，TQ0OPT0レジスタに8ビット・データ（ビット0は“0”）をライトする方法がありますが，確実にオーバフローを検出するために，TQ0OVFビット = 1をリードしたあと，ビット操作命令でクリア（0）してください。



オーバフロー・フラグをクリア（0）する場合には，リードしてオーバフロー・フラグがセット（1）されていることを確認したあと，CLR命令でクリア（0）してください。確認せずに0をライトすると，オーバフローのセット情報を“0”ライトで消してしまう場合があります（上図の（ii））。そのために，実際にはオーバフローが発生したにもかかわらず，ソフトウエアではオーバフローしていないと判断することになります。

オーバフロー・フラグをCLR命令でクリア（0）するときに，CLR命令の実行とオーバフロー発生のタイミングが競合した場合，クリア命令実行後もオーバフロー・フラグはセット（1）されたままになります。

8. 5. 8　タイマ出力動作説明

次にTOQ00-TOQ03端子の動作，および出力レベルを示します。

表8－6　各モードによるタイマ出力制御

動作モード	TOQ00端子	TOQ01端子	TOQ02端子	TOQ03端子
インターバル・タイマ・モード	方形波出力			
外部イベント・カウント・モード	方形波出力	－		
外部トリガ・パルス出力モード	方形波出力	外部トリガ・パルス出力	外部トリガ・パルス出力	外部トリガ・パルス出力
ワンショット・パルス出力モード		ワンショット・パルス出力	ワンショット・パルス出力	ワンショット・パルス出力
PWM出力モード		PWM出力	PWM出力	PWM出力
フリー・ランニング・タイマ・モード	方形波出力（コンペア機能のときのみ）			
パルス幅測定モード	－			

表8－7　タイマ出力制御ビットによるTOQ00-TOQ03端子の真理値表

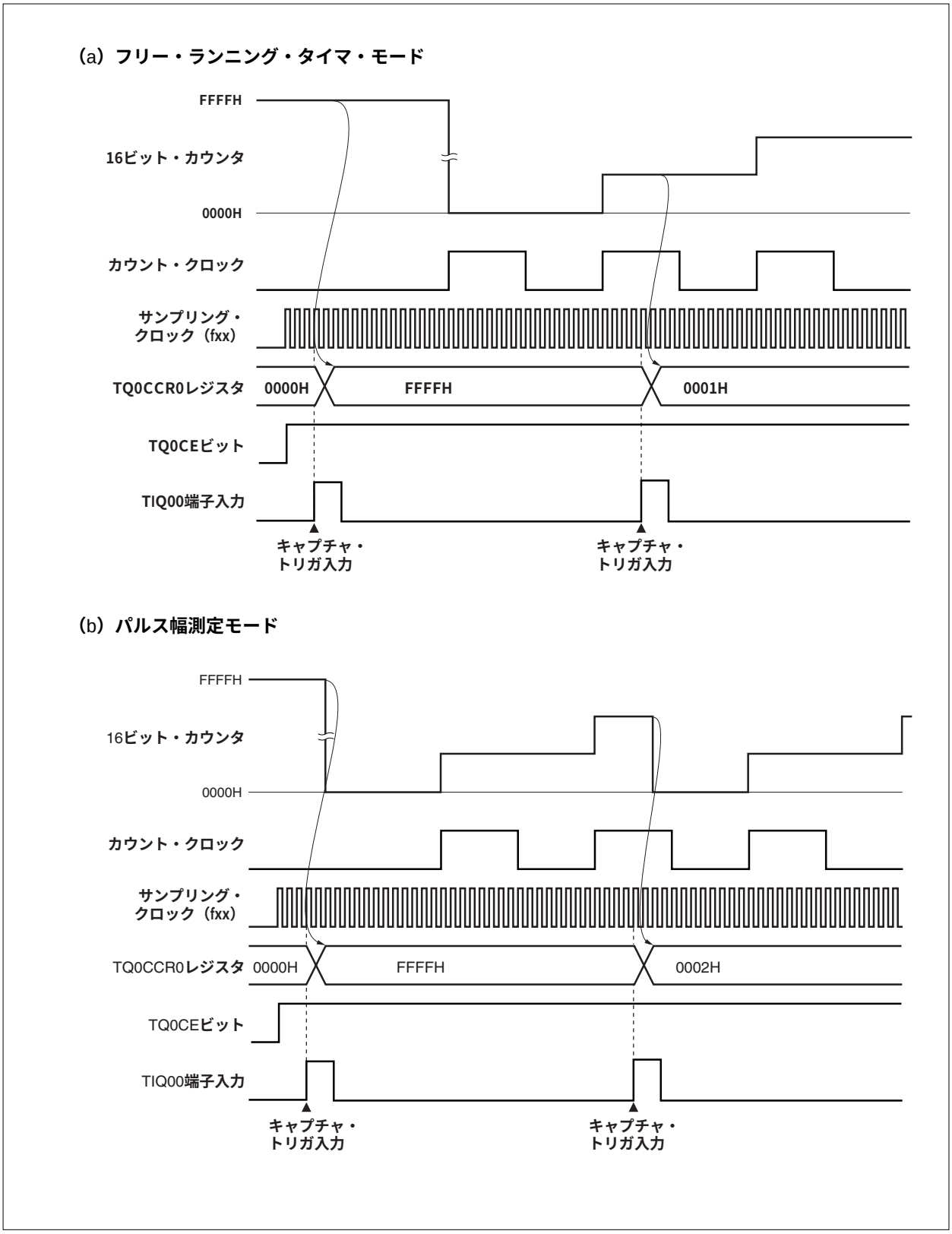
TQ0IOC0.TQ0OLmビット	TQ0IOC0.TQ0OEmビット	TQ0CTL0.TQ0CEビット	TOQ0m端子のレベル
0	0	×	ロウ・レベル出力
	1	0	ロウ・レベル出力
		1	カウント直前はロウ・レベル，カウント開始後はハイ・レベル
1	0	×	ハイ・レベル出力
	1	0	ハイ・レベル出力
		1	カウント直前はハイ・レベル，カウント開始後はロウ・レベル

備考　m = 0-3

8. 6　注意事項

(1) キャプチャ動作

キャプチャ動作を使用し，かつカウント・クロックとして遅いクロックを選択した場合，TQ0CE**ビットをセット（**1**）したすぐあとに，キャプチャ・トリガが入力されると，**TQ0CCR0, TQ0CCR1, TQ0CCR2, TQ0CCR3**レジスタに**0000H**ではなく**FFFFH**がキャプチャされる場合があります。**



第9章　16ビット・インターバル・タイマM（TMM）

9. 1　概　　要

- インターバル機能
- クロック選択×8
- 16ビット・カウンタ×1（タイマ・カウント動作中のカウンタ・リードはできません。）
- コンペア・レジスタ×1（タイマ・カウント動作中のコンペア・レジスタへのライトはできません。）
- コンペア一致割り込み×１

タイマMはクリア＆スタート・モードのみサポートしています。フリー・ランニング・タイマ・モードはサポートしていません。

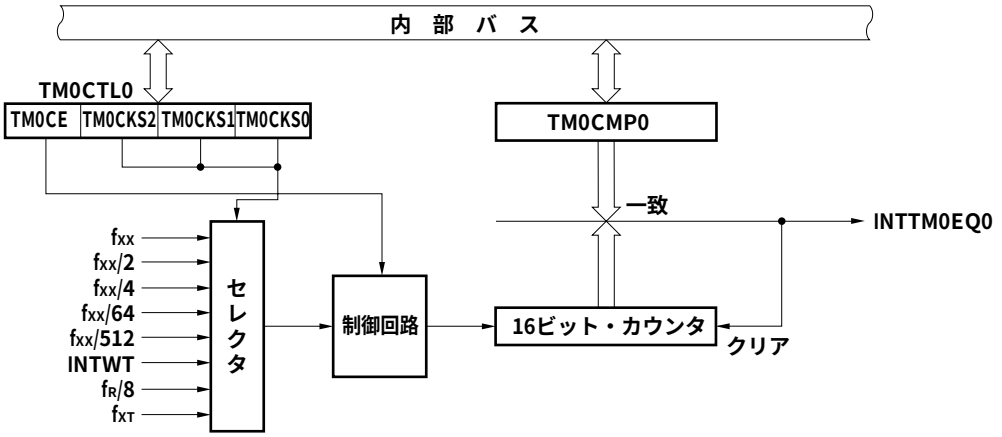
9. 2　構　　成

TMM0は，次のハードウエアで構成されています。

表9ー1　TMM0の構成

項　　目	構　　成
タイマ・レジスタ	16ビット・カウンタ
レジスタ	TMM0コンペア・レジスタ0（TM0CMP0）
制御レジスタ	TMM0制御レジスタ0（TM0CTL0）

図9ー1　TMM0のブロック図



備考　f_{XX}　：メイン・クロック周波数

f_R　：内蔵発振クロック周波数

f_{XT}　：サブクロック周波数

INTWT　：時計タイマ割り込み要求信号

（1）16ビット・カウンタ

内部クロックをカウントする16ビットのカウンタです。

16ビット・カウンタはリード／ライトできません。

（2）TMM0コンペア・レジスタ0（TM0CMP0）

TM0CMP0レジスタは16ビットのコンペア・レジスタです。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

TM0CMP0レジスタは，常時ソフトウエアでの同値書き込みができます。

TM0CTL0.TM0CEビット = 1のとき，TM0CMP0レジスタの書き換えは禁止です。

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF694H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TM0CMP0																

9. 3 レジスタ

（1）TMM0制御レジスタ0（TM0CTL0）

TM0CTL0レジスタはTMM0の動作を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

TM0CTL0レジスタは，常時ソフトウエアでの同値書き込みができます。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF690H

	⑦	6	5	4	3	2	1	0
TM0CTL0	TM0CE	0	0	0	0	TM0CKS2	TM0CKS1	TM0CKS0

TM0CE	内部クロック動作許可／禁止指定
0	TMM0動作禁止（16ビット・カウンタを非同期にリセット）。動作クロック供給停止
1	TMM0動作許可。動作クロック供給開始。TMM0動作開始
TM0CEビットにより，TMM0の内部クロックの制御と内部回路のリセットを非同期に行います。TM0CEビットをクリア（0）すると，TMM0の内部クロックは停止（ロウ・レベル固定）し，16ビット・カウンタが非同期にリセットされます。	

TM0CKS2	TM0CKS1	TM0CKS0	カウント・クロックの選択
0	0	0	fxx
0	0	1	fxx/2
0	1	0	fxx/4
0	1	1	fxx/64
1	0	0	fxx/512
1	0	1	INTWT
1	1	0	f_R/8
1	1	1	f_{XT}

注意1. TM0CKS2-TM0CKS0ビットはTM0CEビット = 0のときに設定してください。
TM0CEビットを“0”から“1”に設定するときに，同時にTM0CKS2-TM0CKS0ビットを設定できません。

2. ビット3-6には必ず“0”を設定してください。

備考 f_{XX}：メイン・クロック周波数
f_R：内蔵発振クロック周波数
f_{XT}：サブクロック周波数

9. 4　動　　作

注意　TM0CMP0**レジスタには，**FFFFH**を設定しないでください。**

9. 4. 1　インターバル・タイマ・モード

インターバル・タイマ・モードは，TM0CTL0.TM0CE**ビットをセット（**1**）することで，任意のインターバル間隔にて割り込み要求信号（**INTTM0EQ0**）を発生します。**

図9－2　**インターバル・タイマの構成図**

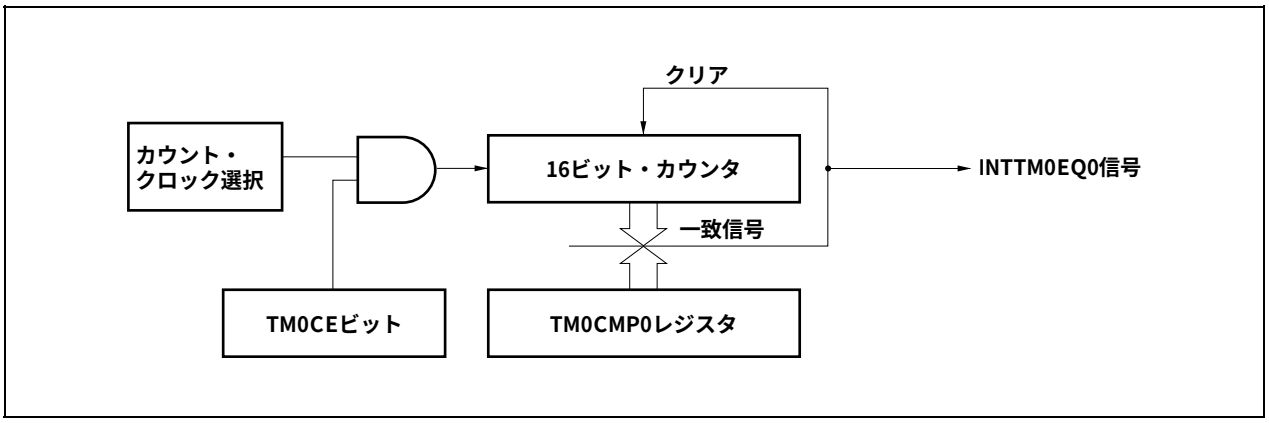
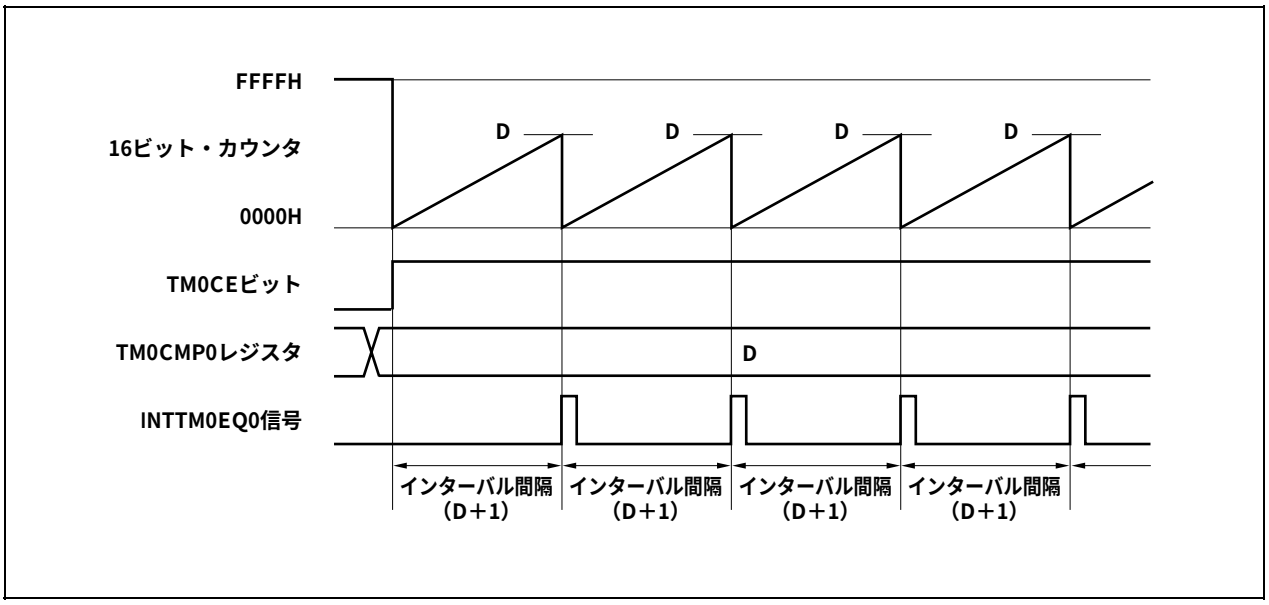


図9－3　**インターバル・タイマ・モード動作の基本タイミング**



TM0CEビットをセット（1）することで，カウント・クロックに同期して16ビット・カウンタをFFFFHから0000Hにクリアし，カウント動作を開始します。

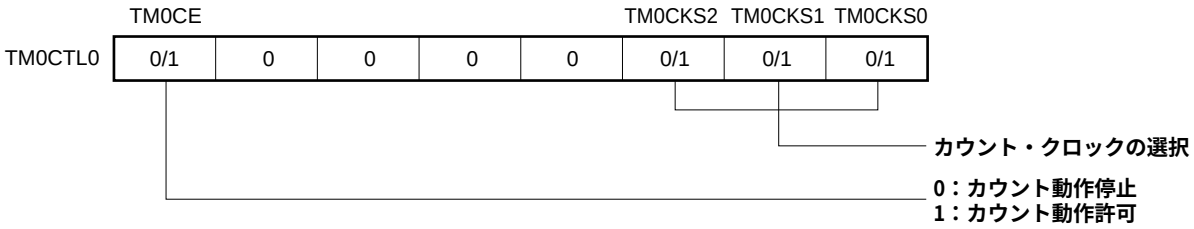
16ビット・カウンタのカウント値とTM0CMP0レジスタの値が一致すると，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，コンペア一致割り込み要求信号（INTTM0EQ0）を発生します。

インターバル間隔は次のようになります。

インターバル間隔 ＝ （TM0CMP0レジスタ設定値＋1）×カウント・クロック周期

図9－4　インターバル・タイマ・モード動作時のレジスタ設定内容

（a）TMM0制御レジスタ0（TM0CTL0）



（b）TMM0コンペア・レジスタ0（TM0CMP0）

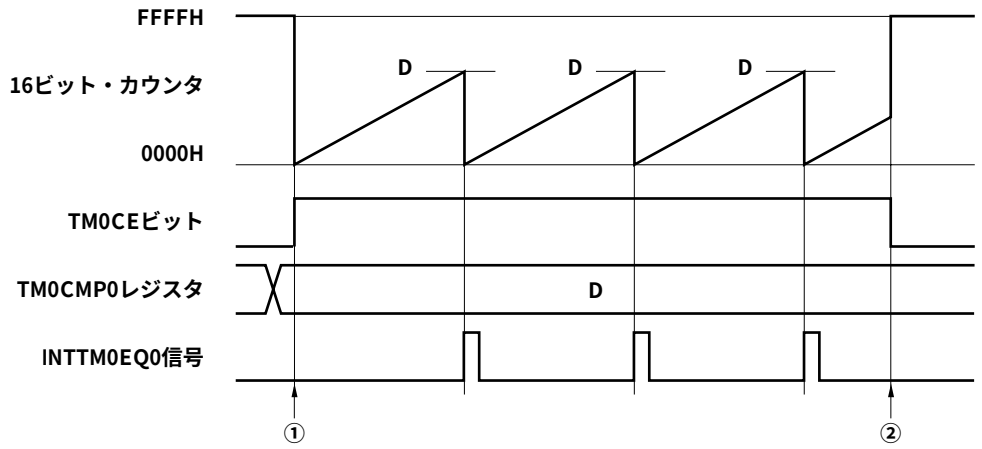
TM0CMP0レジスタにDを設定した場合，

インターバル間隔 ＝ （D＋1）×カウント・クロック周期

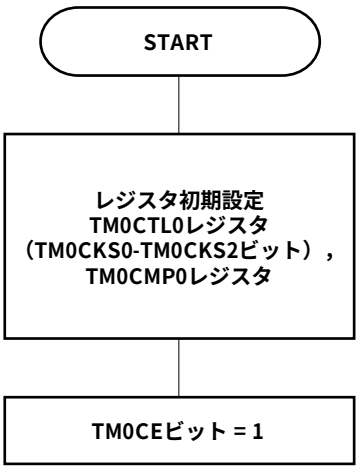
となります。

(1) インターバル・タイマ・モード動作フロー

図9－5　インターバル・タイマ・モード使用時のソフトウエア処理フロー



① カウント動作開始フロー



TM0CEビット = 1にする前に，
これらのレジスタを初期設定。

カウント動作開始（TM0CEビット = 1）と同時に，
TM0CKS0-TM0CKS2ビットの設定は禁止。

② カウント動作停止フロー

カウント動作停止（TM0CEビット = 0）にすることで，
カウンタを初期化しカウント動作を停止。

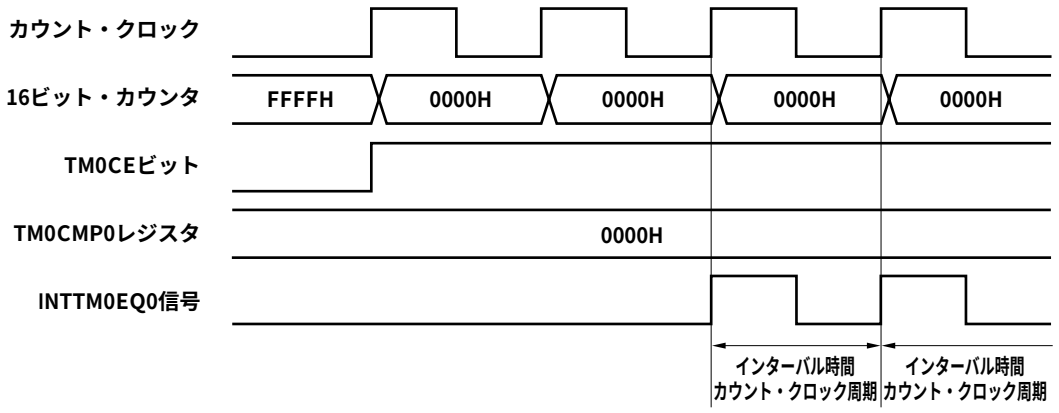
(2) インターバル・タイマ・モード動作タイミング

注意　TM0CMP0レジスタには，FFFFHを設定しないでください。

(a) TM0CMP0レジスタに0000Hを設定した場合の動作

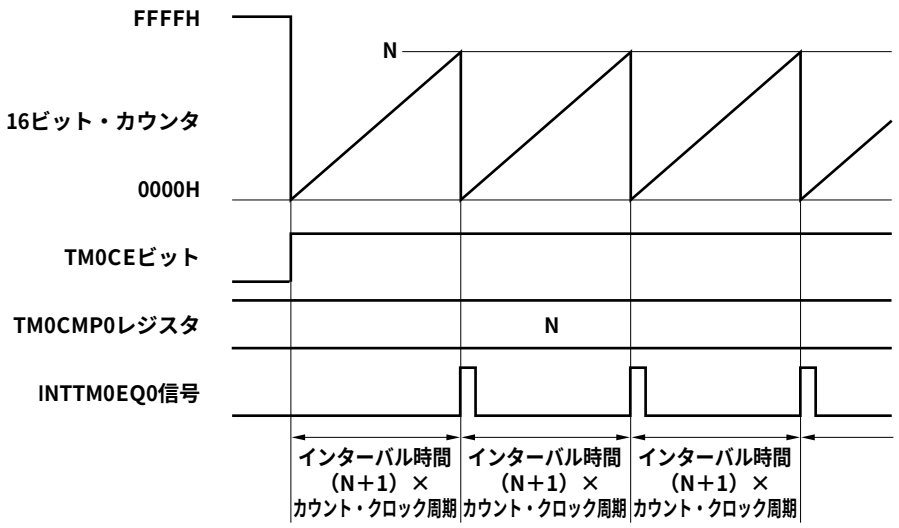
TM0CMP0レジスタに0000Hを設定した場合，カウント・クロックごとにINTTM0EQ0信号を発生します。

16ビット・カウンタは，常に0000Hとなります。



(b) TM0CMP0レジスタにNを設定した場合の動作

TM0CMP0レジスタにNを設定した場合，16ビット・カウンタはNまでカウント動作を行い，次のカウント・アップ・タイミングに同期して，16ビット・カウンタを0000Hにクリアし，INTTM0EQ0信号を発生します。



備考　0000H＜N＜FFFFH

9. 4. 2　注意事項

（1）TM0CTL0.TM0CEビット = 1としてからカウント開始するまで，選択したカウント・クロックによって次の時間が最大かかります。

選択したカウント・クロック	カウント開始までの最大時間
f_{XX}	$2/f_{XX}$
$f_{XX}/2$	$3/f_{XX}$
$f_{XX}/4$	$6/f_{XX}$
$f_{XX}/64$	$128/f_{XX}$
$f_{XX}/512$	$1024/f_{XX}$
INTWT	INTWT信号の2回目の立ち上がり
$f_R/8$	$16/f_R$
f_{XT}	$2/f_{XT}$

（2）TM0CMP0, TM0CTL0レジスタはTMM0動作中の書き換えは禁止です。
TM0CEビット = 1のときに書き換えた場合，動作を保証できません。誤って書き換えた場合は，TM0CTL0.TM0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。

第10章　時計タイマ機能

10. 1　機　　能

時計タイマには，次のような機能があります。

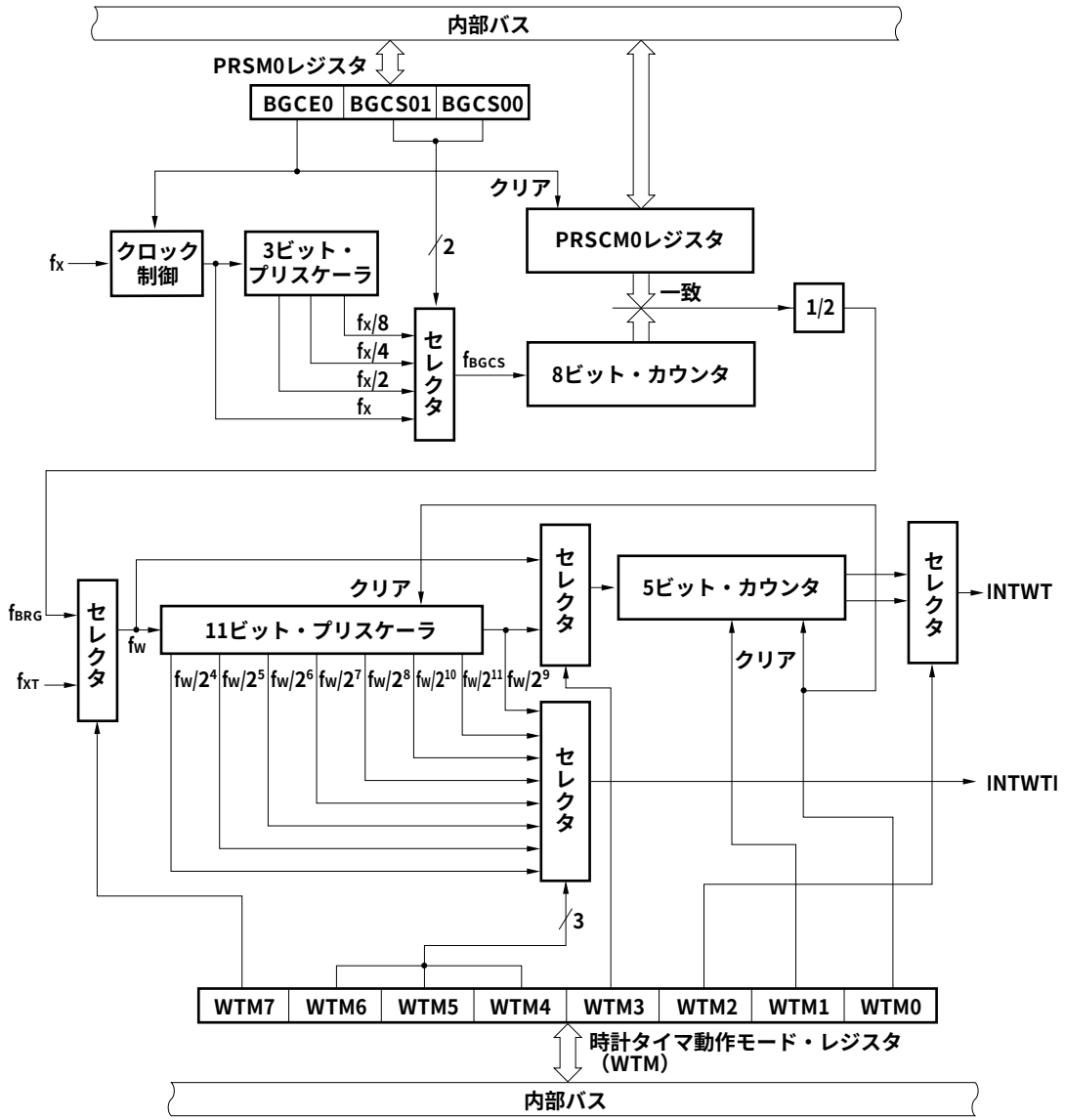
- 時計タイマ　　：メイン・クロックまたはサブクロックを使用することで，0.5秒または0.25秒の時間間隔で割り込み要求信号（INTWT）を発生します。
- インターバル・タイマ：あらかじめ設定した時間間隔で割り込み要求信号（INTWTI）を発生します。

時計タイマとインターバル・タイマは，同時に使用できます。

10. 2　構　　成

次に時計タイマのブロック図を示します。

図10－1　時計タイマのブロック図



備考　f_X　：メイン・クロック発振周波数

f_{BGCS}　：時計タイマ・ソース・クロック周波数

f_{BRG}　：時計タイマ・カウント・クロック周波数

f_{XT}　：サブクロック周波数

f_W　：時計タイマ・クロック周波数

INTWT　：時計タイマ割り込み要求信号

INTWTI　：インターバル・タイマ割り込み要求信号

(1) クロック制御

時計タイマのメイン・クロックでの動作クロック（f_X）の供給／停止を制御します。

(2) 3 ビット・プリスケーラ

f_Xを分周して，$f_X/2$, $f_X/4$, $f_X/8$を生成します。

(3) 8 ビット・カウンタ

ソース・クロック（f_{BGCS}）をカウントする8ビットのカウンタです。

(4) 11 ビット・プリスケーラ

f_Wを分周して，$f_W/2^4$-$f_W/2^{11}$のクロックを生成します。

(5) 5 ビット・カウンタ

f_Wまたは$f_W/2^9$をカウントして，$2^4/f_W$，$2^5/f_W$，$2^{13}/f_W$または$2^{14}/f_W$ごとに時計タイマ割り込み要求信号（INTWT）を発生します。

(6) セレクタ

時計タイマには，次の5つのセレクタがあります。

- 時計タイマのソース・クロックとして，f_X, $f_X/2$, $f_X/4$, $f_X/8$のうちの1つを選択します。
- 時計タイマのクロックとして，メイン・クロック（f_X）かサブクロック（f_{XT}）かを選択します。
- 5ビット・カウンタのカウント・クロック周波数として，f_Wか$f_W/2^9$かを選択します。
- INTWT信号発生時間間隔として，$2^4/f_W$または$2^{13}/f_W$か，$2^5/f_W$または$2^{14}/f_W$かを選択します。
- インターバル・タイマ割り込み要求信号（INTWTI）発生時間間隔として，$2^4/f_W$-$2^{11}/f_W$から選択します。

(7) PRSCM レジスタ

インターバル時間を設定する8ビットのコンペア・レジスタです。

(8) PRSM レジスタ

時計タイマへのクロック供給を制御するレジスタです。

(9) WTM レジスタ

時計タイマ／インターバル・タイマの動作制御や割り込み要求信号発生間隔を設定する8ビットのレジスタです。

10. 3　レジスタ

時計タイマには次のレジスタがあります。

・プリスケーラ・モード・レジスタ0（PRSM0）
・プリスケーラ・コンペア・レジスタ0（PRSCM0）
・時計タイマ動作モード・レジスタ（WTM）

(1) プリスケーラ・モード・レジスタ 0（PRSM0）

PRSM0レジスタは，時計タイマのカウント・クロックの生成を制御します。
8/1ビット単位でリード／ライト可能です。
リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF8B0H

	7	6	5	④	3	2	1	0
PRSM0	0	0	0	BGCE0	0	0	BGCS01	BGCS00

BGCE0	メイン・クロックでの動作許可
0	禁止
1	許可

BGCS01	BGCS00	時計タイマ・ソース・クロック（f_{BGCS}）の選択		
			5 MHz	4 MHz
0	0	fx	200 ns	250 ns
0	1	fx/2	400 ns	500 ns
1	0	fx/4	800 ns	1 μs
1	1	fx/8	1.6 μs	2 μs

注意1. 時計タイマ動作中に，BGCS01, BGCS00ビットの値を変更しないでください。
2. PRSM0レジスタの設定はBGCE0ビットをセット（1）する前に行ってください。
3. f_{BRG}の周波数が32.768 kHzとなるよう，使用するメイン・クロック周波数にあわせて，PRSM0, PRSCM0レジスタの設定を行ってください。

(2) プリスケーラ・コンペア・レジスタ 0（PRSCM0）

8ビットのコンペア・レジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF8B1H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PRSCM0	PRSCM07	PRSCM06	PRSCM05	PRSCM04	PRSCM03	PRSCM02	PRSCM01	PRSCM00

注意1. 時計タイマ動作中にPRSCM0レジスタを書き換えないでください。

2. PRSM0.BGCE0ビットをセット（1）する前にPRSCM0レジスタの設定を行ってください。

3. f_{BRG}の周波数が32.768 kHzとなるよう，使用するメイン・クロック周波数にあわせて，PRSM0, PRSCM0レジスタの設定を行ってください。

f_{BRG}の計算式を次に示します。

$$f_{BRG} = f_{BGCS}/2N$$

備考 f_{BGCS} ：PRSM0レジスタで設定した時計タイマ・ソース・クロック

N ：PRSCM0レジスタの設定値 = 1-256

ただし，N = 256となるのは，PRSCM0レジスタに00Hを設定した場合です。

(3) 時計タイマ動作モード・レジスタ（WTM）

時計タイマのカウント・クロックおよび動作の許可／禁止，プリスケーラのインターバル時間，5ビット・カウンタの動作制御および時計フラグのセット時間を設定するレジスタです。

WTMレジスタを設定する前にPRSM0レジスタを設定してください。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(1/2)

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF680H

	7	6	5	4	3	2	①	⓪
WTM	**WTM7**	**WTM6**	**WTM5**	**WTM4**	**WTM3**	**WTM2**	**WTM1**	**WTM0**

WTM7	WTM6	WTM5	WTM4	プリスケーラのインターバル時間の選択
0	0	0	0	$2^4/f_W$（488 μs：$f_W = f_{XT}$）
0	0	0	1	$2^5/f_W$（977 μs：$f_W = f_{XT}$）
0	0	1	0	$2^6/f_W$（1.95 ms：$f_W = f_{XT}$）
0	0	1	1	$2^7/f_W$（3.91 ms：$f_W = f_{XT}$）
0	1	0	0	$2^8/f_W$（7.81 ms：$f_W = f_{XT}$）
0	1	0	1	$2^9/f_W$（15.6 ms：$f_W = f_{XT}$）
0	1	1	0	$2^{10}/f_W$（31.3 ms：$f_W = f_{XT}$）
0	1	1	1	$2^{11}/f_W$（62.5 ms：$f_W = f_{XT}$）
1	0	0	0	$2^4/f_W$（488 μs：$f_W = f_{BRG}$）
1	0	0	1	$2^5/f_W$（977 μs：$f_W = f_{BRG}$）
1	0	1	0	$2^6/f_W$（1.95 ms：$f_W = f_{BRG}$）
1	0	1	1	$2^7/f_W$（3.91 ms：$f_W = f_{BRG}$）
1	1	0	0	$2^8/f_W$（7.81 ms：$f_W = f_{BRG}$）
1	1	0	1	$2^9/f_W$（15.6 ms：$f_W = f_{BRG}$）
1	1	1	0	$2^{10}/f_W$（31.3 ms：$f_W = f_{BRG}$）
1	1	1	1	$2^{11}/f_W$（62.5 ms：$f_W = f_{BRG}$）

（2/2）

WTM7	WTM3	WTM2	時計用フラグのセット時間の選択
0	0	0	2^{14}/fw（0.5 s：fw = f_{XT}）
0	0	1	2^{13}/fw（0.25 s：fw = f_{XT}）
0	1	0	2^{5}/fw（977 μs：fw = f_{XT}）
0	1	1	2^{4}/fw（488 μs：fw = f_{XT}）
1	0	0	2^{14}/fw（0.5 s：fw = f_{BRG}）
1	0	1	2^{13}/fw（0.25 s：fw = f_{BRG}）
1	1	0	2^{5}/fw（977 μs：fw = f_{BRG}）
1	1	1	2^{4}/fw（488 μs：fw = f_{BRG}）

WTM1	5 ビット・カウンタの動作制御
0	動作停止後クリア
1	スタート

WTM0	時計用タイマの動作許可
0	動作停止（プリスケーラ，5ビット・カウンタともにクリア）
1	動作許可

注意　WTM2-WTM7ビットを書き換える場合は，WTM0, WTM1ビットがともに0の状態で行ってください。

備考1.　fw：時計タイマ・クロック周波数

2.　（　）内は，fw = 32.768 kHz動作時

10. 4　動　　作

10. 4. 1　時計タイマとしての動作

時計タイマは，一定の時間間隔ごとに割り込み要求信号（INTWT）を発生します。

サブクロック（32.768 kHz）またはメイン・クロックを使用して，0.25秒または0.5秒の時間間隔の時計タイマとして動作します。

WTM.WTM1, WTM0ビットに“11”を設定するとカウント動作がスタートします。WTM0ビットに0を設定すると11ビット・プリスケーラと5ビット・カウンタがクリアされ，カウント動作が停止します。

時計タイマをインターバル・タイマと同時に動作させているとき，WTM1ビットをクリア（0）して5ビット・カウンタをクリアすることにより，時刻合わせができます。このとき，インターバル・タイマには影響はありませんが，時計タイマは最大で15.6 msの誤差が発生することがあります。

時計タイマのカウント・クロックとしてメイン・クロックを使用するときは，PRSM0.BGCS01, BGCS00ビットでカウント・クロックを，PRSCM0レジスタで8ビットのコンペア値を設定し，時計タイマのカウント・クロック周波数（f_{BRG}）が32.768 kHzになるようにしてください。

PRSM0.BGCE0ビットをセット（1）すると，時計タイマにf_{BRG}を供給します。

f_{BRG}は，次の式で求められます。

$$f_{BRG} = f_X/(2^{m+1} \times N)$$

f_{BRG}を32.768 kHzにするには，次のように計算してBGCS01, BGCS00ビット，PRSCM0レジスタを設定してください。

① N = f_X/65,536とし，m = 0としてください。
② Nの小数点第一位を四捨五入した値が偶数のとき，四捨五入する前のN = N/2とし，m = m＋1としてください。
③ Nが奇数になるか，またはm = 3になるまで，②を繰り返してください。
④ Nの小数点第一位を四捨五入した値をPRSCM0レジスタに，mをBGCS01, BGCS00ビットに設定してください。

例：f_X = 4.00 MHzの場合

① N = 4,000,000/65,536 = 61.03…，m = 0
②，③ N（小数点第一位を四捨五入）は奇数なので，N = 61, m = 0のまま
④ PRSCM0レジスタ設定値：3DH（61），BGCS01, BGCS00ビット設定値：00

このとき，実際のf_{BRG}の周波数は，次のようになります。

$f_{BRG} = f_X/(2^{m+1} \times N)$ = 4,000,000/（2×61）

= 32.787 kHz

備考　m ：分周値（BGCS01, BGCS00ビット設定値） = 0-3
N ：PRSCM0レジスタ設定値 = 1-256
ただし，N = 256となるのは，PRSCM0レジスタに00Hを設定した場合です。
f_X ：メイン・クロック発振周波数

10. 4. 2　インターバル・タイマとしての動作

あらかじめ設定したカウント値をインターバルとし，繰り返し割り込み要求信号（INTWTI）を発生するインターバル・タイマとして動作します。

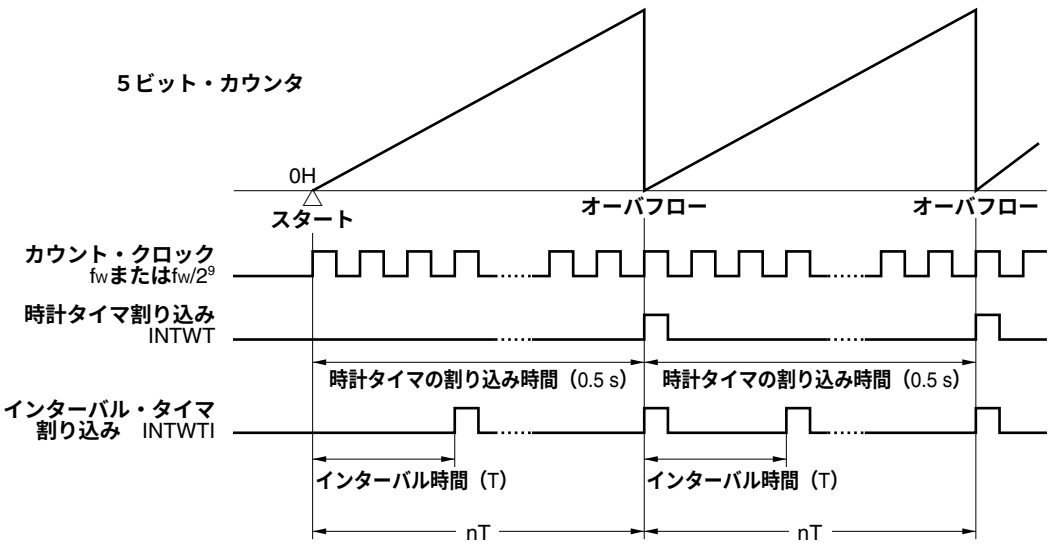
WTMレジスタのWTM4-WTM7ビットにより，インターバル時間を選択できます。

表10ー1　インターバル・タイマのインターバル時間

WTM7	WTM6	WTM5	WTM4	インターバル時間	
0	0	0	0	2^4×1/fw	488 μs（f_W = f_{XT} = 32.768 kHz動作時）
0	0	0	1	2^5×1/fw	977 μs（f_W = f_{XT} = 32.768 kHz動作時）
0	0	1	0	2^6×1/fw	1.95 ms（f_W = f_{XT} = 32.768 kHz動作時）
0	0	1	1	2^7×1/fw	3.91 ms（f_W = f_{XT} = 32.768 kHz動作時）
0	1	0	0	2^8×1/fw	7.81 ms（f_W = f_{XT} = 32.768 kHz動作時）
0	1	0	1	2^9×1/fw	15.6 ms（f_W = f_{XT} = 32.768 kHz動作時）
0	1	1	0	2^{10}×1/fw	31.3 ms（f_W = f_{XT} = 32.768 kHz動作時）
0	1	1	1	2^{11}×1/fw	62.5 ms（f_W = f_{XT} = 32.768 kHz動作時）
1	0	0	0	2^4×1/fw	488 μs（f_W = f_{BRG} = 32.768 kHz動作時）
1	0	0	1	2^5×1/fw	977 μs（f_W = f_{BRG} = 32.768 kHz動作時）
1	0	1	0	2^6×1/fw	1.95 ms（f_W = f_{BRG} = 32.768 kHz動作時）
1	0	1	1	2^7×1/fw	3.91 ms（f_W = f_{BRG} = 32.768 kHz動作時）
1	1	0	0	2^8×1/fw	7.81 ms（f_W = f_{BRG} = 32.768 kHz動作時）
1	1	0	1	2^9×1/fw	15.6 ms（f_W = f_{BRG} = 32.768 kHz動作時）
1	1	1	0	2^{10}×1/fw	31.3 ms（f_W = f_{BRG} = 32.768 kHz動作時）
1	1	1	1	2^{11}×1/fw	62.5 ms（f_W = f_{BRG} = 32.768 kHz動作時）

備考　f_W：時計タイマ・クロック周波数

図10－2　時計タイマ／インターバル・タイマの動作タイミング



備考1.　時計タイマの割り込み時間として，0.5秒を設定した場合

2.　fw：時計タイマ・クロック周波数

（　）内は，fw = 32.768 kHz動作時

n：インターバル・タイマ動作の回数

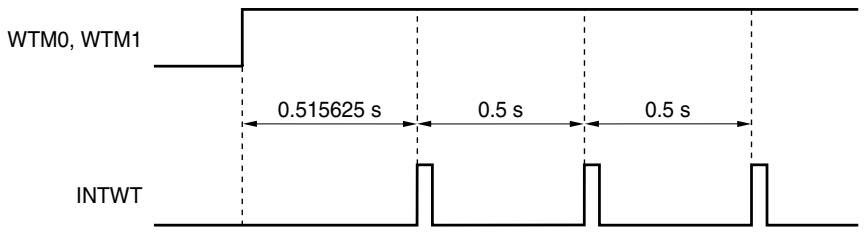
10. 4. 3　注意事項

動作許可（WTM.WTM1, WTM0ビット = 1）してから，最初の1回目の時計タイマ割り込み要求信号（INTWT）が発生するまで多少時間がかかります。

図10－3　時計タイマ割り込み要求信号（INTWT）の発生例（割り込み周期 = 0.5 sの場合）

1回目のINTWT信号が発生するまでに，最大0.515625 sかかります（最大2^9×1/32768 = 0.015625 s長くかかります）。

そのあとは0.5 sごとにINTWT信号が発生します。



第11章　ウォッチドッグ・タイマ2機能

11. 1　機　　能

ウォッチドッグ・タイマ2には，次のような機能があります。

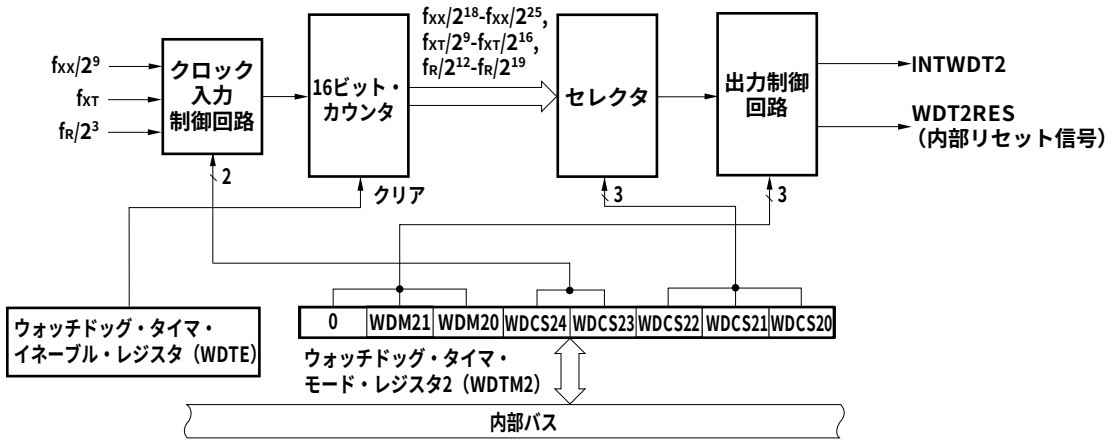
・ディフォールト・スタート・ウォッチドッグ・タイマ[注1]
　→リセット・モード：ウォッチドッグ・タイマ2のオーバフローによるリセット動作（WDT2RES信号を発生）
　→ノンマスカブル割り込み要求モード：ウォッチドッグ・タイマ2のオーバフローによるNMI動作（INTWDT2信号を発生）[注2]
・ソース・クロックとしてメイン・クロック，内蔵発振クロック，サブクロックからの入力を選択可能

注1. ウォッチドッグ・タイマ2は，リセット解除後に自動的にリセット・モードでスタートします。ウォッチドッグ・タイマ2を使用しない場合は，この機能によるリセットが発生する前に停止するか，一度ウォッチドッグ・タイマ2をクリアし，次のインターバル時間内で停止してください。
また，ディフォールトの設定（リセット・モード，インターバル時間：$f_R/2^{19}$）で変更する必要がない場合も，動作を確定するために，1回だけWDTM2レジスタへの書き込みを行ってください。
2. ノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2）によるノンマスカブル割り込み処理については19. 2. 2（2）INTWDT2信号の場合を参照してください。

11. 2　構　　成

次にウォッチドッグ・タイマ2のブロック図を示します。

図11－1　ウォッチドッグ・タイマ2のブロック図



備考　fXX　：メイン・クロック周波数

fXT　：サブクロック周波数

fR　：内蔵発振クロック周波数

INTWDT2　：ウォッチドッグ・タイマ2によるノンマスカブル割り込み要求信号

WDTRES2：ウォッチドッグ・タイマ2リセット信号

ウォッチドッグ・タイマ2は，次のハードウエアで構成されています。

表11－1　ウォッチドッグ・タイマ2の構成

項　　目	構　　成
制御レジスタ	ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2（WDTM2） ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）

11. 3　レジスタ

(1) ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2（WDTM2）

ウォッチドッグ・タイマ2のオーバフロー時間および動作クロックを設定するレジスタです。

WDTM2は8ビット単位でリード／ライト可能です。ただし，リードは何回でもできますが，ライトはリセット解除後に1回のみできます。

リセットにより67Hになります。

注意　次に示す状態において，WDTM2レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：67H　R/W　アドレス：FFFFF6D0H

	7	6	5	4	3	2	1	0
WDTM2	0	WDM21	WDM20	WDCS24	WDCS23	WDCS22	WDCS21	WDCS20

WDM21	WDM20	ウォッチドッグ・タイマ2の動作モードの選択
0	0	動作停止
0	1	ノンマスカブル割り込み要求モード（INTWDT2信号を発生）
1	ー	リセット・モード（WDT2RES信号を発生）

注意1. WDCS24-WDCS20ビットについては表11ー2　ウォッチドッグ・タイマ2のクロック選択を参照してください。

2. 内蔵発振器の停止のみでウォッチドッグ・タイマ2は停止しますが，動作を確定するため（誤書き込みで，メイン・クロックやサブクロックが選択されないようにする），WDTM2レジスタに00Hを設定してください。

3. リセット後，WDTM2レジスタに2回書き込んだ場合，強制的にオーバフロー信号を発生し，カウンタをリセットします。

4. 意図的にオーバフロー信号を発生させたい場合は，WDTM2レジスタに2回だけ書き込むか，WDTEレジスタに“ACH”以外の値を1回だけ書き込んでください。
ただし，ウォッチドッグ・タイマ2を動作停止に設定した場合は，WDTM2レジスタに2回だけ書き込む，またはWDTEレジスタに“ACH”以外の値を1回だけ書き込んでもオーバフロー信号は発生しません。

5. ウォッチドッグ・タイマ2の動作を停止する場合は，RCM.RSTOPビット = 1に設定（内蔵発振器の停止）するとともに，WDTM2レジスタに00Hを書き込んでください。RCM.RSTOPビット = 1に設定できない場合は，WDCS23ビット = 1に設定してください（2^n/fxxが選択され，IDLE1，IDLE2，サブIDLE，サブクロック動作モードでクロックを停めることができます）。

表11－2　ウォッチドッグ・タイマ2のクロック選択

WDCS24	WDCS23	WDCS22	WDCS21	WDCS20	選択クロック	100 kHz（MIN.）	220 kHz（TYP.）	400 kHz（MAX.）
0	0	0	0	0	$2^{12}/f_R$	41.0 ms	18.6 ms	10.2 ms
0	0	0	0	1	$2^{13}/f_R$	81.9 ms	37.2 ms	20.5 ms
0	0	0	1	0	$2^{14}/f_R$	163.8 ms	74.5 ms	41.0 ms
0	0	0	1	1	$2^{15}/f_R$	327.7 ms	148.9 ms	81.9 ms
0	0	1	0	0	$2^{16}/f_R$	655.4 ms	297.9 ms	163.8 ms
0	0	1	0	1	$2^{17}/f_R$	1310.7 ms	595.8 ms	327.7 ms
0	0	1	1	0	$2^{18}/f_R$	2621.4 ms	1191.6 ms	655.4 ms
0	0	1	1	1	$2^{19}/f_R$	5242.9 ms	2383.1 ms	1310.7 ms
						f_{XX} = 32 MHz時	f_{XX} = 20 MHz時	f_{XX} = 10 MHz時
0	1	0	0	0	$2^{18}/f_{XX}$	8.2 ms	13.1 ms	26.2 ms
0	1	0	0	1	$2^{19}/f_{XX}$	16.4 ms	26.2 ms	52.4 ms
0	1	0	1	0	$2^{20}/f_{XX}$	32.8 ms	52.4 ms	104.9 ms
0	1	0	1	1	$2^{21}/f_{XX}$	65.5 ms	104.9 ms	209.7 ms
0	1	1	0	0	$2^{22}/f_{XX}$	131.1 ms	209.7 ms	419.4 ms
0	1	1	0	1	$2^{23}/f_{XX}$	262.1 ms	419.4 ms	838.9 ms
0	1	1	1	0	$2^{24}/f_{XX}$	524.3 ms	838.9 ms	1677.7 ms
0	1	1	1	1	$2^{25}/f_{XX}$	1048.6 ms	1677.7 ms	3355.4 ms
						f_{XT} = 32.768 kHz		
1	×	0	0	0	$2^{9}/f_{XT}$	15.625 ms		
1	×	0	0	1	$2^{10}/f_{XT}$	31.25 ms		
1	×	0	1	0	$2^{11}/f_{XT}$	62.5 ms		
1	×	0	1	1	$2^{12}/f_{XT}$	125 ms		
1	×	1	0	0	$2^{13}/f_{XT}$	250 ms		
1	×	1	0	1	$2^{14}/f_{XT}$	500 ms		
1	×	1	1	0	$2^{15}/f_{XT}$	1000 ms		
1	×	1	1	1	$2^{16}/f_{XT}$	2000 ms		

(2) ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ（WDTE）

WDTEレジスタに“ACH”を書き込むことにより，ウォッチドッグ・タイマ2のカウンタをクリアし，再びカウントを開始します。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより9AHになります。

リセット時：9AH　R/W　アドレス：FFFFF6D1H

	7	6	5	4	3	2	1	0
WDTE								

注意1. WDTEレジスタに“ACH”以外の値を書き込んだ場合，強制的にオーバフロー信号を発生します。

2. WDTEレジスタに1ビット・メモリ操作命令を実行した場合，強制的にオーバフロー信号を発生します。

3. 意図的にオーバフロー信号を発生させたい場合は，WDTEレジスタに“ACH”以外の値を1回だけ書き込むか，WDTM2レジスタに2回だけ書き込んでください。ただし，ウォッチドッグ・タイマ2を動作停止に設定した場合は，WDTEレジスタに“ACH”以外の値を1回だけ書き込む，またはWDTM2レジスタに2回だけ書き込んでもオーバフロー信号は発生しません。

4 WDTEレジスタのリード値は，“9AH”（書き込んだ値（“ACH”）とは異なる値）になります。

11.4 動　作

ウォッチドッグ・タイマ2は，リセット解除後に自動的にリセット・モードでスタートします。

WDTM2レジスタへの書き込みは，バイト・アクセスのみリセット後に一度だけ可能です。ウォッチドッグ・タイマ2を使用する場合は，動作モードとインターバル時間を8ビット・メモリ操作でWDTM2レジスタに書き込んでください。この操作後，動作停止することはできません。

WDTM2.WDCS24-WDCS20ビットで，ウォッチドッグ・タイマ2の暴走検出時間間隔を選択できます。

WDTEレジスタにACHを書き込むことにより，ウォッチドッグ・タイマ2のカウンタをクリアし，再度カウント動作を開始します。カウント動作を開始したあと，設定した暴走検出時間間隔内にWDTEレジスタにACHを書き込んでください。

WDTEレジスタにACHが書き込まれず，暴走検出時間を越えてしまった場合は，WDTM2.WDM21, WDM20ビットの設定値により，リセット信号（WDT2RES）またはノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2）が発生します。

WDTM2.WDM21ビット = 1（リセット・モード）に設定している場合，リセットやスタンバイ解除後の発振安定時間中にWDTオーバフローが発生すると，内部リセットは発生せずに，CPUクロックが内蔵発振クロックに切り替わります。

ウォッチドッグ・タイマ2を使用しない場合は，WDTM2レジスタに00Hを書き込んでください。

また，ノンマスカブル割り込み要求モードに設定した場合，ノンマスカブル割り込み処理については19. 2. 2 (2) INTWDT2信号の場合を参照してください。

第12章　リアルタイム出力機能（RTO）

12. 1　機　　能

RTBLn, RTBHnレジスタにあらかじめ設定したデータを，タイマ割り込みの発生と同時にハードウエアで出力ラッチに転送して，外部に出力することをリアルタイム出力機能（RTO）といいます。また，外部へ出力する端子をリアルタイム出力ポートと呼びます。

RTOを使用することにより，ジッタのない信号を出力できますので，ステッピング・モータなどの制御に最適です。

V850ES/JJ3では，6ビット・リアルタイム出力ポートを2チャネル搭載しています。

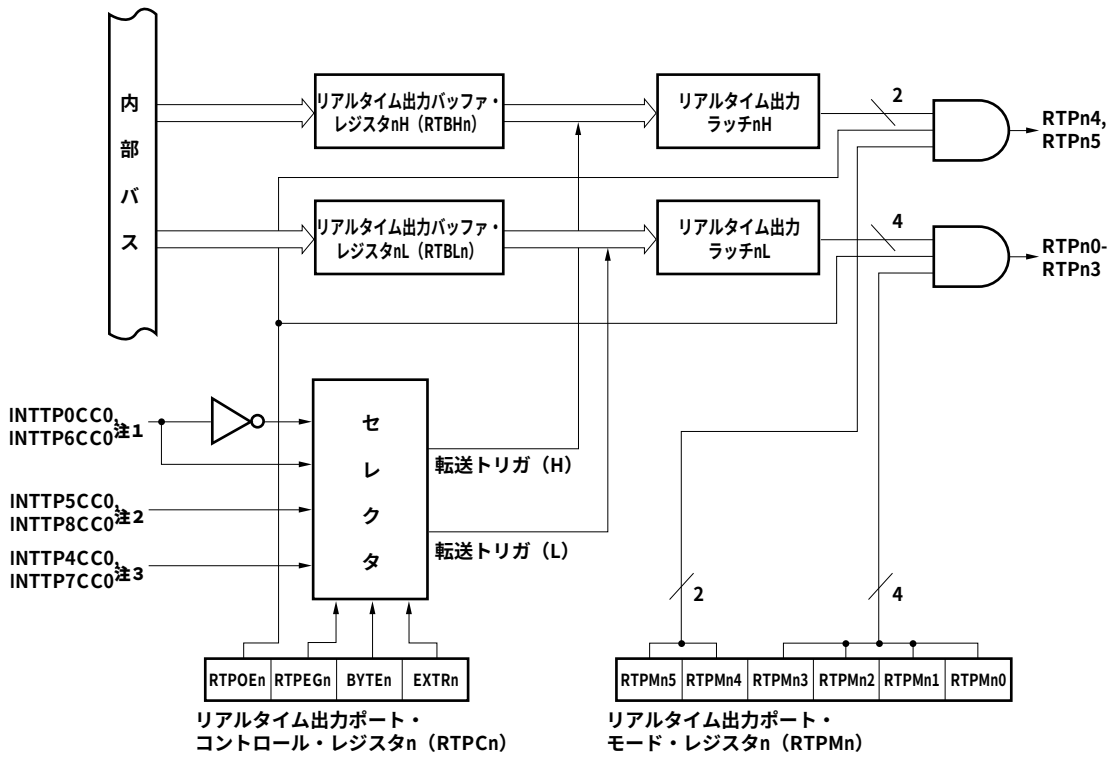
1ビット単位でポート・モード／リアルタイム出力ポート・モードの指定ができます。

備考　n = 0, 1

12. 2　構　　成

次にRTOのブロック図を示します。

図12ー1　RTOのブロック図



注1.　n = 0のとき，INTTP0CC0, n = 1のとき，INTTP6CC0

2.　n = 0のとき，INTTP5CC0, n = 1のとき，INTTP8CC0

3.　n = 0のとき，INTTP4CC0, n = 1のとき，INTTP7CC0

備考　n = 0, 1

RTOは，次のハードウエアで構成しています。

表12ー1　RTOの構成

項　　目	構　　成
レジスタ	リアルタイム出力バッファ・レジスタnL, nH（RTBLn, RTBHn）
制御レジスタ	リアルタイム出力ポート・モード・レジスタn（RTPMn） リアルタイム出力ポート・コントロール・レジスタn（RTPCn）

（1）**リアルタイム出力バッファ・レジスタ**nL, nH（RTBLn, RTBHn）

出力データをあらかじめ保持しておく4**ビットのレジスタです。**

RTBLn, RTBHn**レジスタは，周辺**I/O**レジスタ領域内でそれぞれ独立したアドレスにマッピングされています。**

8/1**ビット単位でリード／ライト可能です。**

リセットにより00H**になります。**

4**ビット×**1**チャネル，**2**ビット×**1**チャネルの動作モードを指定したとき（**RTPCn.BYTEn**ビット** = 0）**は，**RTBLn, RTBHn**レジスタはそれぞれ独立にデータを設定できます。また，**RTBLn, RTBHn**レジスタのどちらのアドレスを指定しても両方のデータを一括して読み出せます。**

6**ビット×**1**チャネルの動作モードを指定したとき（**BYTEn**ビット** = 1）**は，**RTBLn, RTBHn**レジスタのどちらか一方に**8**ビット・データを書き込むことにより，**RTBLn, RTBHn**レジスタそれぞれにデータを設定できます。また，**RTBLn, RTBHn**レジスタのどちらのアドレスを指定しても両方のデータを一括して読み出せます。**

表12－2**に**RTBLn, RTBHn**レジスタに対する操作時の動作を示します。**

リセット時：00H　R/W　アドレス：RTBL0 FFFFF6E0H, RTBH0 FFFFF6E2H,
RTBL1 FFFFF6F0H, RTBH1 FFFFF6F2H

	7	6	5	4	3	2	1	0
RTBLn					RTBLn3	RTBLn2	RTBLn1	RTBLn0
RTBHn	0	0	RTBHn5	RTBHn4				

注意1.　RTBHn**レジスタのビット**6, 7**への書き込み時は，必ず“**0**”を書き込んでください。**

2.　**次に示す状態において，**RTBLn, RTBHn**レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は**3. 4. 8 (2) **特定の内蔵周辺**I/O**レジスタへのアクセスについてを参照してください。**

- CPU**がサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合**
- CPU**が内蔵発振クロックで動作している場合**

備考　n = 0, 1

表12－2　RTBLn, RTBHn**レジスタに対する操作時の動作**

動作モード	操作対象レジスタ	リード時		ライト時[注]	
		上位4ビット	下位4ビット	上位4ビット	下位4ビット
4ビット×1チャネル，2ビット×1チャネル	RTBLn	RTBHn	RTBLn	無効	RTBLn
	RTBHn	RTBHn	RTBLn	RTBHn	無効
6ビット×1チャネル	RTBLn	RTBHn	RTBLn	RTBHn	RTBLn
	RTBHn	RTBHn	RTBLn	RTBHn	RTBLn

注　**リアルタイム出力ポートに設定後，リアルタイム出力トリガが発生されるまでに**RTBLn, RTBHn**レジスタに出力データを設定してください。**

12. 3　レジスタ

RTOは，次の2種類のレジスタで制御します。

・リアルタイム出力ポート・モード・レジスタn（RTPMn）
・リアルタイム出力ポート・コントロール・レジスタn（RTPCn）

(1) リアルタイム出力ポート・モード・レジスタn（RTPMn）

RTPMnレジスタは，リアルタイム出力ポート・モードとポート・モードの選択を1ビット単位で設定するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより，00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：RTPM0 FFFFF6E4H, RTPM1 FFFFF6F4H

	7	6	5	4	3	2	1	0
RTPMn (n = 0, 1)	0	0	RTPMn5	RTPMn4	RTPMn3	RTPMn2	RTPMn1	RTPMn0

RTPMnm	リアルタイム出力ポートの制御（m = 0-5）
0	リアルタイム出力禁止
1	リアルタイム出力許可

注意1. リアルタイム出力動作を許可（RTPCn.RTPOEnビット = 1）することにより，RTPn0-RTPn5信号のうちリアルタイム出力許可されたビットはリアルタイム出力を行い，リアルタイム出力動作禁止に指定されたビットは“0”を出力します。

2. リアルタイム出力動作を禁止（RTPOEnビット = 0）した場合は，RTPMnレジスタの設定にかかわらず，リアルタイム出力端子（RTPn0-RTPn5）は全ビット“0”を出力します。

3. リアルタイム出力端子（RTPn0-RTPn5）として使用するには，PMC, PFCレジスタでリアルタイム出力ポートに設定してください。

(2) リアルタイム出力ポート・コントロール・レジスタn（RTPCn）

RTPCnレジスタは，リアルタイム出力ポートの動作モード，および出力トリガを設定するレジスタです。

リアルタイム出力ポートの動作モードと出力トリガについては表12－3，表12－4に示すような関係があります。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより，00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：RTPC0 FFFFF6E5H, RTPC1 FFFFF6F5H

	⑦	6	5	4	3	2	1	0
RTPCn (n = 0, 1)	RTPOEn	RTPEGn	BYTEn	EXTRn	0	0	0	0

RTPOEn	リアルタイム出力の動作制御
0	動作禁止注1
1	動作許可

RTPEGn	INTTPaCC0（n = 0, a = 0, 4, 5），INTTPbCC0（n = 1, b = 6-8）信号の有効エッジ
0	立ち下がりエッジ注2
1	立ち上がりエッジ

BYTEn	リアルタイム出力のチャネル構成指定
0	4ビット×2チャネル，2ビット×2チャネル
1	6ビット×2チャネル

注1. リアルタイム出力動作禁止（RTPOEnビット = 0）の場合，リアルタイム出力信号（RTPn0-RTPn5）は全ビット“0”を出力します。

2. INTTP0CC0, INTTP6CC0信号は，TMP0, TMP6で選択しているカウント・クロックの1クロック分出力されます。

注意 RTPEGn, BYTEn, EXTRnビットの設定は，必ずRTPOEnビット = 0のときに行ってください。

表12－3　リアルタイム出力ポートの動作モードと出力トリガ（n = 0）

BYTE0	EXTR0	動作モード	RTBH0（RTP04, RTP05）	RTBL0（RTP00-RTP03）
0	0	4ビット×1チャネル，2ビット×1チャネル	INTTP5CC0	INTTP4CC0
	1		INTTP4CC0	INTTP0CC0
1	0	6ビット×1チャネル	INTTP4CC0	
	1		INTTP0CC0	

表12－4　リアルタイム出力ポートの動作モードと出力トリガ（n = 1）

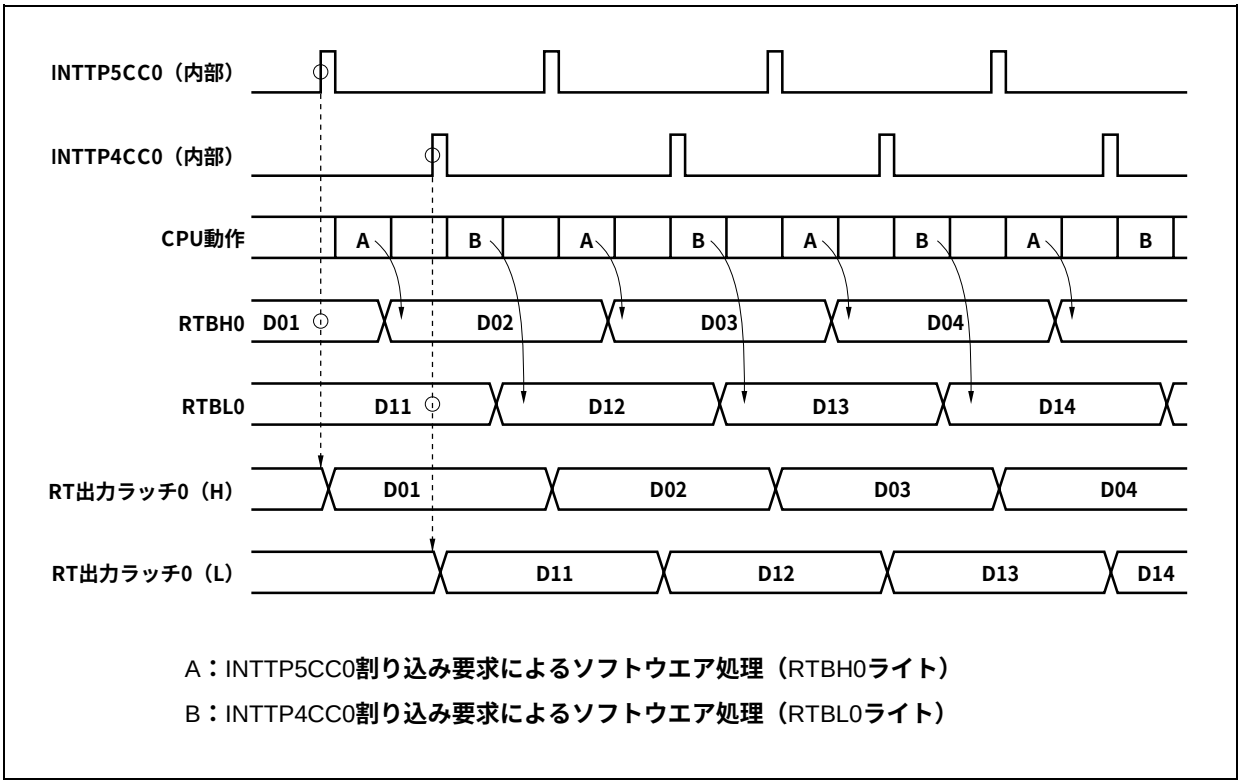
BYTE1	EXTR1	動作モード	RTBH1（RTP14, RTP15）	RTBL1（RTP10-RTP13）
0	0	4ビット×1チャネル，2ビット×1チャネル	INTTP8CC0	INTTP7CC0
	1		INTTP7CC0	INTTP6CC0
1	0	6ビット×1チャネル	INTTP7CC0	
	1		INTTP6CC0	

12. 4　動　　作

RTPCn.RTPOEnビット = 1でリアルタイム出力動作を許可した場合，選択された転送トリガ（RTPCn.EXTRn, BYTEnビットで設定）の発生に同期して，RTBHn, RTBLnレジスタのデータをリアルタイム出力ラッチに転送します。転送されたデータのうちRTPMnレジスタの設定により，リアルタイム出力を許可されたビットのデータのみをRTPn0-RTPn5のそれぞれのビットから出力します。RTPMnレジスタでリアルタイム出力動作禁止に指定されたビットは0を出力します。

RTPOEnビット = 0でリアルタイム出力動作を禁止した場合は，RTPMnレジスタの設定に関係なくRTPn0-RTPn5信号は0を出力します。

図12ー2　RTO0の動作タイミング例（EXTR0ビット = 0, BYTE0ビット = 0の場合）



備考　スタンバイ時の動作については，第21章　スタンバイ機能を参照してください。

12. 5　使用方法

(1) リアルタイム出力動作を禁止する。

RTPCn.RTPOEnビット = 0に設定。

(2) 初期設定

・ポート5の兼用端子を設定する。

PFC5.PFC5mビット，PFCE5.PFCE5mビットに1を設定後，PMC5.PMC5mビットに1を設定する（m = 0-5）。

・ビット単位でリアルタイム出力ポート・モード／ポート・モードを指定する。

RTPMnレジスタを設定。

・チャネル構成，トリガおよび有効エッジを選択する。

RTPCn.EXTRn, BYTEn, RTPEGnビットを設定。

・初期値をRTBHn, RTBLnレジスタに設定する[注1]。

(3) リアルタイム出力動作を許可する。

RTPOEnビット = 1に設定。

(4) 選択した転送トリガが発生するまでに，次の出力値をRTBHn, RTBLnレジスタに設定する[注2]。

(5) 選択したトリガに対応する割り込み処理により，順次，次のリアルタイム出力値をRTBHn, RTBLnレジスタに設定する。

注1. RTPOEnビット = 0のとき，RTBHn, RTBLnレジスタに対してライトを行うと，その値がそれぞれリアルタイム出力ラッチnH，リアルタイム出力ラッチnLに転送されます。

2. RTPOEnビット = 1のとき，RTBHn, RTBLnレジスタに対してライトを行っても，リアルタイム出力ラッチnH，リアルタイム出力ラッチnLにデータ転送はされません。

12. 6　注意事項

(1) ソフトウエアにより，次の競合を回避してください。

・リアルタイム出力動作の禁止／許可の切り替え（RTPOEnビット）と選択したリアルタイム出力トリガとの競合

・リアルタイム出力動作許可状態におけるRTBHn, RTBLnレジスタのライトと選択したリアルタイム出力トリガとの競合

(2) 初期設定は，リアルタイム出力動作を禁止（RTPOEnビット = 0）にしてから行ってください。

(3) 一度リアルタイム出力動作を禁止（RTPOEnビット = 0）した場合は，リアルタイム出力動作を許可（RTPOEnビット = 0→1）する前に，必ずRTBHn, RTBLnレジスタに初期値を設定してください。

第13章　A/Dコンバータ

13. 1　概　　要

A/Dコンバータは，アナログ入力をディジタル値に変換するコンバータで，10ビット分解能，16チャネル：ANI0-ANI15端子の構成になっています。

次にA/Dコンバータの特徴について示します。

○10ビット分解能
○16チャネル
○逐次比較変換方式
○動作電圧：AV_{REF0} = 3.0～3.6 V
○アナログ入力電圧：0 V～AV_{REF0}
○動作モードとして，次の機能があります。
　・連続セレクト・モード
　・連続スキャン・モード
　・ワンショット・セレクト・モード
　・ワンショット・スキャン・モード
○トリガ・モードとして，次の機能があります。
　・ソフトウエア・トリガ・モード
　・外部トリガ・モード（外部1本）
　・タイマ・トリガ・モード
○パワー・フェイル監視機能（変換結果比較機能）

13. 2　機　　能

（1）10ビット分解能A/D変換

アナログ入力をANI0-ANI15から1チャネル選択し，10ビット分解能のA/D変換動作を繰り返します。A/D変換を1回終了するたびに，割り込み要求信号（INTAD）を発生します。

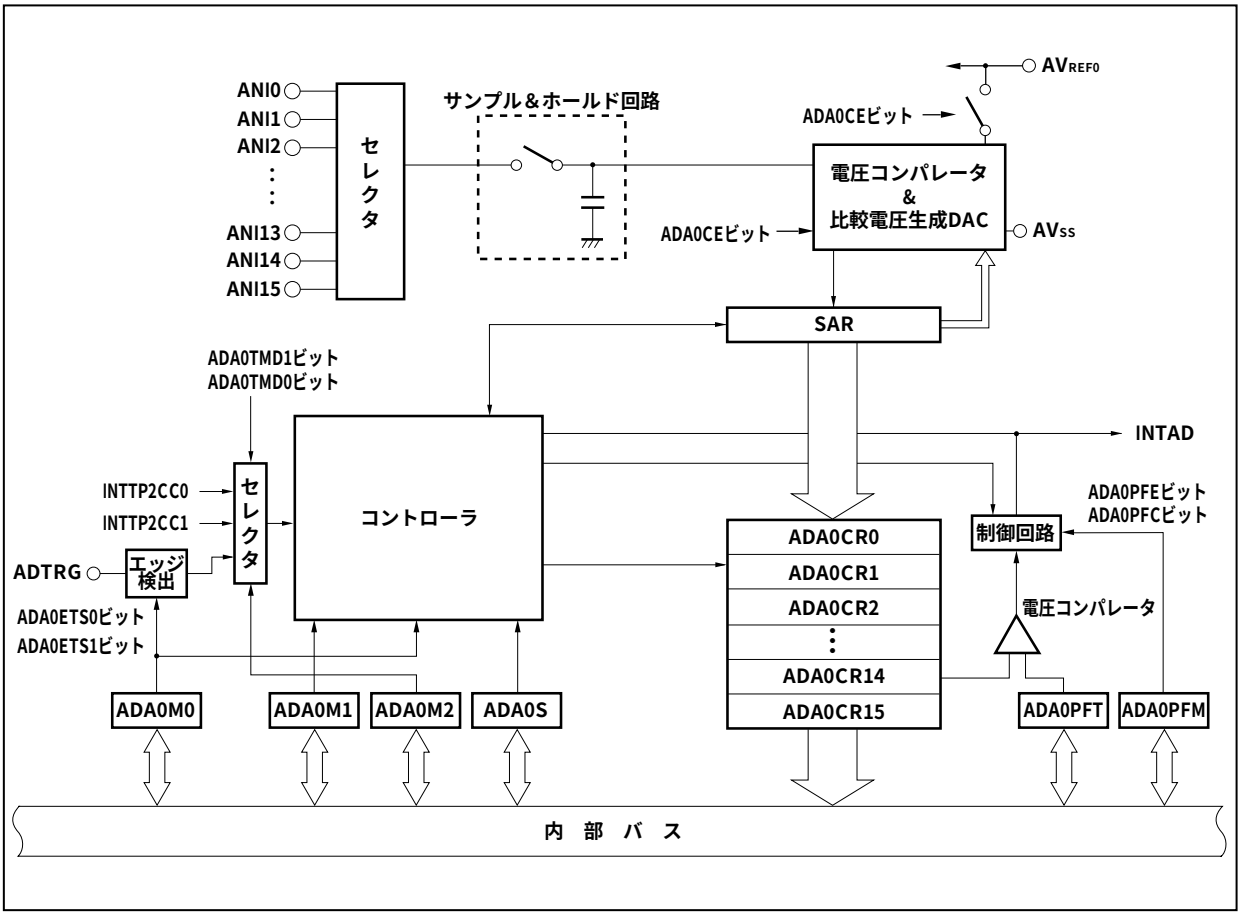
（2）パワー・フェイル検出機能

バッテリ電圧低下を検出するための機能です。A/D変換結果（ADA0CRnHレジスタ値）とADA0PFTレジスタの値との大小比較を行い，比較条件に合致した場合のみINTAD信号を発生します（n = 0-15）。

13. 3 構 成

次にブロック図を示します。

図13ー1 A/Dコンバータのブロック図



A/Dコンバータは，次のハードウエアで構成しています。

表13ー1 A/Dコンバータの構成

項 目	構 成
アナログ入力	16チャネル（ANI0-ANI15端子）
レジスタ	逐次変換レジスタ（SAR） A/D変換結果レジスタ0-15（ADA0CR0-ADA0CR15） A/D変換結果レジスタ0H-15H（ADCR0H-ADCR15H）：上位8ビットだけ読み出し可能
制御レジスタ	A/Dコンバータ・モード・レジスタ0-2（ADA0M0-ADA0M2） A/Dコンバータ・チャネル指定レジスタ0（ADA0S） パワー・フェイル比較モード・レジスタ（ADA0PFM） パワー・フェイル比較しきい値レジスタ（ADA0PFT）

(1) **逐次変換レジスタ**（SAR）

アナログ入力の電圧値と比較電圧生成DACの出力電圧（比較電圧）の値を比較し，その結果を最上位ビット（MSB）から保持するレジスタです。

最下位ビット（LSB）まで保持すると（A/D変換終了），SARレジスタの内容はADA0CRnレジスタに転送されます。

備考　n = 0-15

(2) A/D**変換結果レジスタ**n（ADA0CRn），A/D**変換結果レジスタ**nH（ADA0CRnH）

ADA0CRnレジスタはA/D変換の結果を格納する16ビットのレジスタです。16本のレジスタで構成されており，A/D変換結果はアナログ入力に対応したADA0CRnレジスタの上位10ビットに格納します（下位6ビットは0に固定）。

(3) A/D**コンバータ・モード・レジスタ**0（ADA0M0）

動作モードの指定および変換動作の制御を行うレジスタです。

(4) A/D**コンバータ・モード・レジスタ**1（ADA0M1）

A/D変換するアナログ入力の変換時間を設定するレジスタです。

(5) A/D**コンバータ・モード・レジスタ**2（ADA0M2）

ハードウエア・トリガのモードを設定するレジスタです。

(6) A/D**コンバータ・チャネル指定レジスタ**（ADA0S）

A/D変換するアナログ電圧の入力ポートを設定するレジスタです。

(7) **パワー・フェイル比較モード・レジスタ**（ADA0PFM）

パワー・フェイル監視モードを設定するレジスタです。

(8) **パワー・フェイル比較しきい値レジスタ**（ADA0PFT）

A/D変換結果レジスタnH（ADA0CRnH）と大小比較する場合のしきい値を設定するレジスタです。

ADA0PFTレジスタに設定した8ビット・データとA/D変換結果レジスタの上位8ビット（ADA0CRnH）が比較されます。

(9) **制御回路**

A/D変換が終了するか，パワー・フェイル検出機能使用時，A/D変換結果（ADA0CRnHレジスタ値）とADA0PFTレジスタの値との大小比較を行い，比較条件に合致した場合のみINTAD信号を発生します。

(10) **サンプル＆ホールド回路**

サンプル＆ホールド回路は，入力回路で選択されたアナログ入力信号をサンプリングし，電圧コンパレータに送ります。また，そのサンプリングしたアナログ入力電圧値をA/D変換中は保持します。

（11）**電圧コンパレータ**

電圧コンパレータは，サンプリングされ保持された電圧値と比較電圧生成DACの出力電圧を比較します。

（12）**比較電圧生成**DAC

比較電圧生成DACはAV_{REF0}-AV_{SS}間に接続されており，アナログ入力と比較する電圧を発生します。

（13）ANI0-ANI15**端子**

A/Dコンバータへの16チャネルのアナログ入力端子です。A/D変換するアナログ信号を入力します。ADA0Sレジスタでアナログ入力として選択した端子以外は，入力ポートとして使用できます。

注意　ANI0-ANI15端子入力電圧は規格の範囲内で使用してください。特にAV_{REF0}以上の電圧が入力されると，そのチャネルの変換値が不定となり，またほかのチャネルの変換値にも影響を与えることがあります。

（14）AV_{REF0}**端子**

A/Dコンバータの基準電圧を入力する端子です。A/Dコンバータを使用しないときでも，常にV_{DD}端子と同電位で使用してください。

AV_{REF0}，AV_{SS}間にかかる電圧に基づいて，ANI0-ANI15端子に入力される信号をディジタル信号に変換します。

（15）AV_{SS}**端子**

A/Dコンバータのグランド電位端子です。A/Dコンバータを使用しないときでも，常にV_{SS}端子と同電位で使用してください。

13. 4　レジスタ

A/Dコンバータは，次に示すレジスタで制御します。

- A/Dコンバータ・モード・レジスタ0, 1, 2（ADA0M0, ADA0M1, ADA0M2）
- A/Dコンバータ・チャネル指定レジスタ0（ADA0S）
- パワー・フェイル比較モード・レジスタ（ADA0PFM）

また，次のレジスタも使用します。

- A/D変換結果レジスタn（ADA0CRn）
- A/D変換結果レジスタnH（ADA0CRnH）
- パワー・フェイル比較しきい値レジスタ（ADA0PFT）

(1) A/Dコンバータ・モード・レジスタ0（ADA0M0）

動作モードの指定および変換動作の制御を行う8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。ただし，ADA0EFビットはリードのみ可能です。

リセットにより，00Hになります。

(1/2)

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF200H

	⑦	6	5	4	3	2	1	⓪
ADA0M0	ADA0CE	0	ADA0MD1	ADA0MD0	ADA0ETS1	ADA0ETS0	ADA0TMD	ADA0EF

ADA0CE	A/D変換動作の制御
0	A/D変換動作停止
1	A/D変換動作許可

ADA0MD1	ADA0MD0	A/Dコンバータ動作モードを指定
0	0	連続セレクト・モード
0	1	連続スキャン・モード
1	0	ワンショット・セレクト・モード
1	1	ワンショット・スキャン・モード

ADA0ETS1	ADA0ETS0	外部トリガ（ADTRG端子）入力の有効エッジを指定
0	0	エッジ検出なし
0	1	立ち下がりエッジ検出
1	0	立ち上がりエッジ検出
1	1	立ち上がり／立ち下がり両エッジ検出

(2/2)

ADA0TMD	トリガ・モードを指定
0	ソフトウエア・トリガ・モード
1	外部トリガ・モード／タイマ・トリガ・モード

ADA0EF	A/Dコンバータの状態を提示
0	A/D変換停止中
1	A/D変換動作中

注意1. 次に示す状態において，ADA0M0レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

2. ビット0に書き込みを行った場合，書き込みは無視されます。
3. A/D変換動作許可中（ADA0CEビット = 1）は，ADA0M1.ADA0FR2-ADA0FR0ビットの変更は禁止です。
4. 次のモードでは，ADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0CEビット = 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット = 1）してください。
   - 通常変換モード
   - 高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード

   また，そのほかのモードでA/D変換動作中（ADA0EFビット = 1）にADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタに書き込みを行った場合には各モードにより次のようになります。
   - ソフトウエア・トリガ・モード時
     A/D変換動作は中断され，再度，最初から変換動作を行います。
   - ハードウエア・トリガ・モード時
     A/D変換動作は中断され，再度，トリガ待機状態になります。
5. 外部トリガ・モード／タイマ・トリガ・モードを選択する場合（ADA0TMDビット = 1）は，高速変換モード（ADA0M1.ADA0HS1ビット = 1）に設定してください。また，A/D変換動作許可（ADA0CEビット = 1）したあとに一度だけ挿入される安定時間中にトリガを入力しないでください。
6. A/Dコンバータを使用しない場合は，消費電力を小さくするために，ADA0CEビット = 0として動作を停止させてください。

（2）A/Dコンバータ・モード・レジスタ1（ADA0M1）

変換時間の指定を行う8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより，00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF201H

	7	6	5	4	3	2	1	0
ADA0M1	ADA0HS1	0	0	0	ADA0FR3	ADA0FR2	ADA0FR1	ADA0FR0

ADA0HS1	A/D変換時間の通常変換モード／高速変換モードを指定
0	通常変換モード
1	高速変換モード

注意1. A/D変換動作許可中（ADA0M0.ADA0CEビット = 1）は，ADA0M1レジスタの変更は禁止です。

2. 外部トリガ・モード／タイマ・トリガ・モードを選択する場合（ADA0M0.ADA0TMDビット = 1）は，高速変換モード（ADA0HS1ビット = 1）に設定してください。また，A/D変換動作許可（ADA0CEビット = 1）したあとに一度だけ挿入される安定時間中にトリガを入力しないでください。

3. ビット6-4には必ず“0”を設定してください。

備考　A/D変換時間の設定例は表13－2，表13－3を参照してください。

表13ー2 通常変換モード時の変換時間の選択（ADA0HS1ビット = 0）

ADA0FR3-ADA0FR0ビット	A/D変換時間					
	安定時間＋変換時間＋ウエイト時間	f_{XX} = 32 MHz	f_{XX} = 20 MHz	f_{XX} = 16 MHz	f_{XX} = 4 MHz	トリガ応答時間
0000	66/f_{XX}（13/f_{XX}＋26/f_{XX}＋27/f_{XX}）	設定禁止	設定禁止	設定禁止	16.50 μs	3/f_{XX}
0001	131/f_{XX}（26/f_{XX}＋52/f_{XX}＋53/f_{XX}）	設定禁止	6.55 μs	8.19 μs	設定禁止	3/f_{XX}
0010	196/f_{XX}（39/f_{XX}＋78/f_{XX}＋79/f_{XX}）	設定禁止	9.80 μs	12.25 μs	設定禁止	3/f_{XX}
0011	259/f_{XX}（50/f_{XX}＋104/f_{XX}＋105/f_{XX}）	8.09 μs	12.95 μs	16.19 μs	設定禁止	3/f_{XX}
0100	311/f_{XX}（50/f_{XX}＋130/f_{XX}＋131/f_{XX}）	9.72 μs	15.55 μs	19.44 μs	設定禁止	3/f_{XX}
0101	363/f_{XX}（50/f_{XX}＋156/f_{XX}＋157/f_{XX}）	11.34 μs	18.15 μs	22.69 μs	設定禁止	3/f_{XX}
0110	415/f_{XX}（50/f_{XX}＋182/f_{XX}＋183/f_{XX}）	12.97 μs	20.75 μs	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
0111	467/f_{XX}（50/f_{XX}＋208/f_{XX}＋209/f_{XX}）	14.59 μs	23.35 μs	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
1000	519/f_{XX}（50/f_{XX}＋234/f_{XX}＋235/f_{XX}）	16.22 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
1001	571/f_{XX}（50/f_{XX}＋260/f_{XX}＋261/f_{XX}）	17.84 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
1010	623/f_{XX}（50/f_{XX}＋286/f_{XX}＋287/f_{XX}）	19.47 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
1011	675/f_{XX}（50/f_{XX}＋312/f_{XX}＋313/f_{XX}）	21.09 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
上記以外	設定禁止					

備考 安定時間 ：A/Dコンバータのセットアップ時間（1 μs以上）

変換時間 ：実際にA/D変換にかかる時間（2.6～10.4 μs）

ウエイト時間 ：次の変換までに挿入されるウエイト時間

トリガ応答時間：ソフトウエア・トリガ，外部トリガ，またはタイマ・トリガが安定時間経過後に発生した場合，変換時間の前に挿入されます。

通常変換モードでは，ADA0M0.ADA0CEビットをセット（1）してから，安定時間後に変換を開始し，変換時間（2.6～10.4 μs）の間だけA/D変換動作を行います。変換終了後，動作を停止し，ウエイト時間が経過してからA/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生します。

ウエイト時間中は変換動作を停止しているため，動作電流を低減することができます。

注意1. 2.6 μs≦変換時間≦10.4 μsになるように設定してください。

2. A/D変換中に，ADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みまたはトリガが入力されると再変換が行われますが，安定時間終了タイミングとADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みが競合した場合，または安定時間終了タイミングとトリガの入力が競合した場合は，安定時間が64クロック再挿入されます。

また，再挿入の安定時間終了タイミングと再び競合すると，再度，安定時間が挿入されますので，トリガの入力間隔と制御レジスタ書き込みの間隔は64クロック以下にしないでください。

表13ー3 高速変換モード時の変換時間の選択（ADA0HS1ビット = 1）

ADA0FR3-ADA0FR0 ビット	A/D 変換時間					
	変換時間（＋安定時間）	f_{XX} = 32 MHz	f_{XX} = 20 MHz	f_{XX} = 16 MHz	f_{XX} = 4 MHz	トリガ応答時間
0000	26/f_{XX}（＋13/f_{XX}）	設定禁止	設定禁止	設定禁止	6.5 μs (＋3.25 μs)	3/f_{XX}
0001	52/f_{XX}（＋26/f_{XX}）	設定禁止	2.6 μs (＋1.3 μs)	3.25 μs (＋1.625 μs)	設定禁止	3/f_{XX}
0010	78/f_{XX}（＋39/f_{XX}）	設定禁止	3.9 μs (＋1.95 μs)	4.875 μs (＋2.4375 μs)	設定禁止	3/f_{XX}
0011	104/f_{XX}（＋50/f_{XX}）	3.25 μs (＋1.5625 μs)	5.2 μs (＋2.5 μs)	6.5 μs (＋3.125 μs)	設定禁止	3/f_{XX}
0100	130/f_{XX}（＋50/f_{XX}）	4.0625 μs (＋1.5625 μs)	6.5 μs (＋2.5 μs)	8.125 μs (＋3.125 μs)	設定禁止	3/f_{XX}
0101	156/f_{XX}（＋50/f_{XX}）	4.875 μs (＋1.5625 μs)	7.8 μs (＋2.5 μs)	9.75 μs (＋3.125 μs)	設定禁止	3/f_{XX}
0110	182/f_{XX}（＋50/f_{XX}）	5.6875 μs (＋1.5625 μs)	9.1 μs (＋2.5 μs)	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
0111	208/f_{XX}（＋50/f_{XX}）	6.5 μs (＋1.5625 μs)	10.4 μs (＋2.5 μs)	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
1000	234/f_{XX}（＋50/f_{XX}）	7.3125 μs (＋1.5625 μs)	設定禁止	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
1001	260/f_{XX}（＋50/f_{XX}）	8.125 μs (＋1.5625 μs)	設定禁止	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
1010	286/f_{XX}（＋50/f_{XX}）	8.9375 μs (＋1.5625 μs)	設定禁止	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
1011	312/f_{XX}（＋50/f_{XX}）	9.75 μs (＋1.5625 μs)	設定禁止	設定禁止	設定禁止	3/f_{XX}
上記以外	設定禁止					

備考 変換時間 ：実際にA/D変換にかかる時間（2.6～10.4 μs）

安定時間 ：A/Dコンバータのセットアップ時間（1 μs以上）

トリガ応答時間：ソフトウエア・トリガ，外部トリガ，またはタイマ・トリガが安定時間経過後に発生した場合，変換時間の前に挿入されます。

高速変換モードでは，ADA0M0.ADA0CEビットをセット（1）してから，安定時間後に変換を開始し，変換時間（2.6～10.4 μs）の間A/D変換動作を行います。変換終了後，ただちにA/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生します。

連続変換モードの場合，1回目の変換前だけに安定時間が挿入され，2回目以降は安定時間が挿入されません（A/Dコンバータは起動したままです）。

注意1. 2.6 μs≦変換時間≦10.4 μsになるように設定してください。

2. 高速モードでは，安定時間中のADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタの書き換え，およびトリガ入力を禁止します。

(3) A/Dコンバータ・モード・レジスタ2（ADA0M2）

ハードウエア・トリガのモードを指定します。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより，00Hになります。

リセット時：00H R/W アドレス：FFFFF203H

	7	6	5	4	3	2	1	0
ADA0M2	0	0	0	0	0	0	ADA0TMD1	ADA0TMD0

ADA0TMD1	ADA0TMD0	ハードウエア・トリガ・モードの指定
0	0	外部トリガ・モード（ADTRG端子の有効エッジ検出時）
0	1	タイマ・トリガ・モード0（INTTP2CC0割り込み要求発生時）
1	0	タイマ・トリガ・モード1（INTTP2CC1割り込み要求発生時）
1	1	設定禁止

注意1. 次のモードでは，ADA0M2レジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0M0.ADA0CEビット = 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット = 1）してください。

- 通常変換モード
- 高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード

2. ビット7-2には必ず“0”を設定してください。

(4) A/Dコンバータ・チャネル指定レジスタ0（ADA0S）

A/D変換するアナログ電圧の入力ポートを指定するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより，00Hになります。

リセット時：00H R/W アドレス：FFFFF202H

	7	6	5	4	3	2	1	0
ADA0S	0	0	0	0	ADA0S3	ADA0S2	ADA0S1	ADA0S0

ADA0S3	ADA0S2	ADA0S1	ADA0S0	セレクト・モード	スキャン・モード
0	0	0	0	ANI0	ANI0
0	0	0	1	ANI1	ANI0-ANI1
0	0	1	0	ANI2	ANI0-ANI2
0	0	1	1	ANI3	ANI0-ANI3
0	1	0	0	ANI4	ANI0-ANI4
0	1	0	1	ANI5	ANI0-ANI5
0	1	1	0	ANI6	ANI0-ANI6
0	1	1	1	ANI7	ANI0-ANI7
1	0	0	0	ANI8	ANI0-ANI8
1	0	0	1	ANI9	ANI0-ANI9
1	0	1	0	ANI10	ANI0-ANI10
1	0	1	1	ANI11	ANI0-ANI11
1	1	0	0	**ANI12**	**ANI0-ANI12**
1	1	0	1	**ANI13**	**ANI0-ANI13**
1	1	1	0	**ANI14**	**ANI0-ANI14**
1	1	1	1	**ANI15**	**ANI0-ANI15**

注意1. 次のモードでは，ADA0Sレジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0M0.ADA0CEビット = 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット = 1）してください。

- 通常変換モード
- 高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード

2. ビット7-4には必ず“0”を設定してください。

（5）A/D変換結果レジスタn, nH（ADA0CRn, ADA0CRnH）

ADA0CRn, ADA0CRnHレジスタは，A/D変換結果を格納するレジスタです。

16/8ビット単位でリードのみ可能です。ただし，16ビット・アクセス時はADA0CRnレジスタを指定，8ビット・アクセス時はADA0CRnHレジスタを指定します。ADA0CRnレジスタは上位10ビットに変換結果の10ビットが読み出され，下位6ビットには0が読み出されます。ADA0CRnHレジスタには変換結果の上位8ビットが読み出されます。

注意 次に示す状態において，ADA0CRn, ADA0CRnHレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

リセット時：不定 R アドレス：ADA0CR0 FFFFF210H, ADA0CR1 FFFFF212H,
ADA0CR2 FFFFF214H, ADA0CR3 FFFFF216H,
ADA0CR4 FFFFF218H, ADA0CR5 FFFFF21AH,
ADA0CR6 FFFFF21CH, ADA0CR7 FFFFF21EH,
ADA0CR8 FFFFF220H, ADA0CR9 FFFFF222H,
ADA0CR10 FFFFF224H, ADA0CR11 FFFFF226H,
ADA0CR12 FFFFF228H, ADA0CR13 FFFFF22AH,
ADA0CR14 FFFFF22CH, ADA0CR15 FFFFF22EH

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ADA0CRn (n = 0-15)	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	0	0	0	0	0	0

リセット時：不定 R アドレス：ADA0CR0H FFFFF211H, ADA0CR1H FFFFF213H,
ADA0CR2H FFFFF215H, ADA0CR3H FFFFF217H,
ADA0CR4H FFFFF219H, ADA0CR5H FFFFF21BH,
ADA0CR6H FFFFF21DH, ADA0CR7H FFFFF21FH,
ADA0CR8H FFFFF221H, ADA0CR9H FFFFF223H,
ADA0CR10H FFFFF225H, ADA0CR11H FFFFF227H,
ADA0CR12H FFFFF229H, ADA0CR13H FFFFF22BH,
ADA0CR14H FFFFF22DH, ADA0CR15H FFFFF22FH

	7	6	5	4	3	2	1	0
ADA0CRnH (n = 0-15)	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2

注意 ADA0M0, ADA0Sレジスタに対して書き込み動作を行ったとき，ADA0CRnレジスタの内容は不定になることがあります。変換結果は，変換動作終了後，ADA0M0, ADA0Sレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。上記以外のタイミングでは，正しい変換結果が読み出されないことがあります。

アナログ入力端子（ANI0-ANI15）に入力されたアナログ入力電圧とA/D変換結果（ADA0CRnレジスタ）には次式に示す関係があります。

$$SAR = INT\left(\frac{V_{IN}}{AV_{REF0}} \times 1024 + 0.5\right)$$

$$ADA0CR^{注} = SAR \times 64$$

または，

$$(SAR - 0.5) \times \frac{AV_{REF0}}{1024} \leqq V_{IN} < (SAR + 0.5) \times \frac{AV_{REF0}}{1024}$$

INT（ ）：（ ）内の値の整数部を返す関数

V_{IN} ：アナログ入力電圧

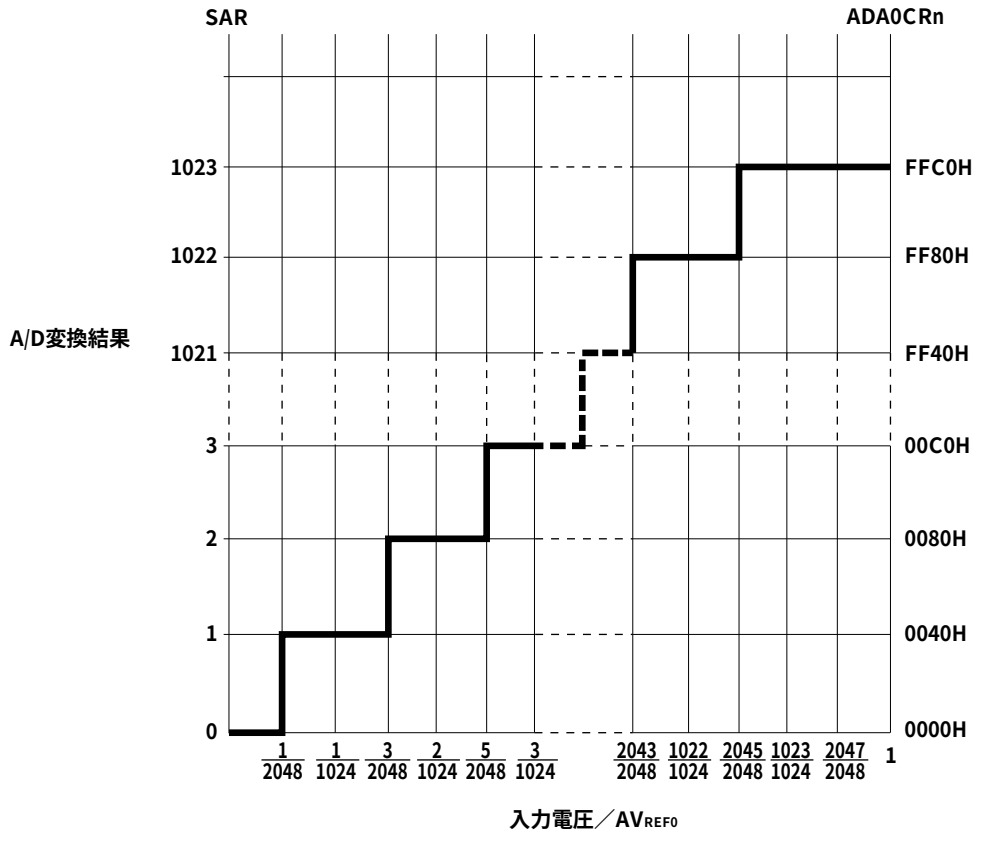
AV_{REF0} ：AV_{REF0}端子電圧

ADA0CR ：ADA0CRnレジスタの値

注 ADA0CRnレジスタの下位6ビットは0固定です。

次にアナログ入力電圧とA/D変換結果の関係を示します。

図13－2 アナログ入力電圧とA/D変換結果の関係



(6) パワー・フェイル比較モード・レジスタ（ADA0PFM）

ADA0PFMレジスタは，パワー・フェイル比較モードの設定を行う8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより，00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF204H

	⑦	6	5	4	3	2	1	0
ADA0PFM	ADA0PFE	ADA0PFC	0	0	0	0	0	0

ADA0PFE	パワー・フェイル比較許可／禁止の選択
0	パワー・フェイル比較禁止
1	パワー・フェイル比較許可

ADA0PFC	パワー・フェイル比較モードの選択
0	ADA0CRnH≧ADA0PFTで割り込み要求信号（INTAD）を発生
1	ADA0CRnH＜ADA0PFTで割り込み要求信号（INTAD）を発生

注意1. セレクト・モードではADA0PFTレジスタに設定した8ビット・データとADA0Sレジスタで指定したADA0CRnHレジスタの値を比較し，結果がADA0PFCビットで設定された条件に一致した場合はADA0CRnレジスタに変換結果を格納しINTAD信号が発生しますが，一致しない場合は割り込みを発生しません。

2. スキャン・モードではADA0PFTレジスタに設定した8ビット・データとADA0CR0Hレジスタを比較し，結果がADA0PFCビットで設定された条件に一致した場合はADA0CR0レジスタに変換結果を格納しINTAD信号を発生させますが，一致しない場合はINTAD信号を発生させません。また比較結果にかかわらず，比較後はスキャン動作を継続しスキャン終了までADA0CRnレジスタに変換結果は格納しますが，スキャン終了後のINTAD信号は発生しません。

3. 次のモードでは，ADA0PFMレジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0M0.ADA0CEビット = 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット = 1）してください。
   - 通常変換モード
   - 高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード

（7）パワー・フェイル比較しきい値レジスタ（ADA0PFT）

ADA0PFTレジスタは，パワー・フェイル比較モード時の比較値を設定するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより，00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF205H

	7	6	5	4	3	2	1	0
ADA0PFT								

注意　次のモードでは，ADA0PFTレジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0M0.ADA0CEビット = 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット = 1）してください。

- 通常変換モード
- 高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード

13. 5 動　　作

13. 5. 1 基本動作

① A/D変換する動作モード，トリガ・モード，変換時間などをADA0M0, ADA0M1, ADA0M2, ADA0Sレジスタで設定します。ADA0M0レジスタのADA0CEビットをセットすると，ソフトウエア・トリガ・モード時は変換を開始し，外部／タイマ・トリガ・モード時はトリガ待機状態になります。

② A/D変換が開始されると選択されたアナログ入力チャネルに入力されている電圧を，サンプル＆ホールド回路でサンプリングします。

③ 一定時間サンプリングを行うとサンプル＆ホールド回路はホールド状態となり，入力されたアナログ電圧をA/D変換が終了するまで保持します。

④ 逐次変換レジスタ（SAR）のビット9をセットし，比較電圧生成DACを（1/2）AV_{REF0}にします。

⑤ 比較電圧生成DACとアナログ入力との電圧差を電圧コンパレータで比較します。もし，アナログ入力が（1/2）AV_{REF0}よりも大きければ，SARレジスタのMSBをセットしたままです。また，（1/2）AV_{REF0}よりも小さければMSBをリセットします。

⑥ 次にSARレジスタのビット8が自動的にセットされ，次の比較に移ります。ここではすでに結果がセットされているビット9の値によって，次に示すように比較電圧生成DACが選択されます。
・ビット9 = 1：（3/4）AV_{REF0}
・ビット9 = 0：（1/4）AV_{REF0}
この比較電圧とアナログ入力電圧を比較し，その結果でSARレジスタのビット8を次のように操作します。
アナログ入力電圧≧比較電圧：ビット8 = 1
アナログ入力電圧≦比較電圧：ビット8 = 0

⑦ このような比較をSARレジスタのビット0まで続けます。

⑧ 10ビットの比較が終了したとき，SARレジスタには有効なディジタルの結果が残り，その値がADA0CRnレジスタに転送され格納されます。そのあと，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。

⑨ ワンショット・セレクト・モードの場合は，変換を停止します[注]。ワンショット・スキャン・モードの場合は，スキャンを一巡すると停止します[注]。連続セレクト・モードの場合はADA0M0.ADA0CEビット = 0とするまで②～⑧を繰り返します。連続スキャン・モードの場合もそれぞれのチャネルに対して②～⑧を繰り返します。

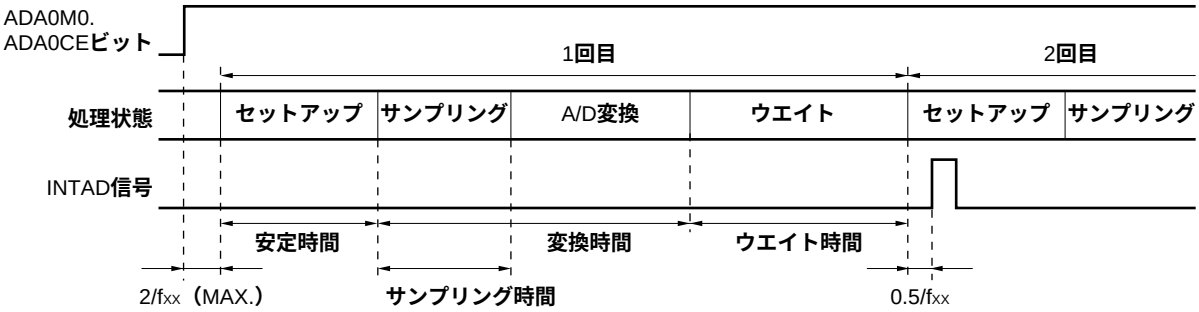
注 外部トリガ・モード，タイマ・トリガ・モード0，タイマ・トリガ・モード1時はトリガ待機状態になります。

備考 トリガ待機状態とは，安定時間経過後の状態を示します。

13. 5. 2 変換動作タイミング

図13ー3 変換動作タイミング（連続変換）

（1）通常変換モード時の動作（ADA0HS1ビット = 0）



（2）高速変換モード時の動作（ADA0HS1ビット = 1）

ADA0FR3-ADA0FR0 ビット	安定時間	変換時間（サンプリング時間）	ウエイト時間	トリガ応答時間
0000	13/fxx	26/fxx（8/fxx）	27/fxx	3/fxx
0001	26/fxx	52/fxx（16/fxx）	53/fxx	3/fxx
0010	39/fxx	78/fxx（24/fxx）	79/fxx	3/fxx
0011	50/fxx	104/fxx（32/fxx）	105/fxx	3/fxx
0100	50/fxx	130/fxx（40/fxx）	131/fxx	3/fxx
0101	50/fxx	156/fxx（48/fxx）	157/fxx	3/fxx
0110	50/fxx	182/fxx（56/fxx）	183/fxx	3/fxx
0111	50/fxx	208/fxx（64/fxx）	209/fxx	3/fxx
1000	50/fxx	234/fxx（72/fxx）	235/fxx	3/fxx
1001	50/fxx	260/fxx（80/fxx）	261/fxx	3/fxx
1010	50/fxx	286/fxx（88/fxx）	287/fxx	3/fxx
1011	50/fxx	312/fxx（96/fxx）	313/fxx	3/fxx
上記以外	設定禁止			

備考 上記のタイミングは安定時間内にトリガが発生した場合です。安定時間経過後にトリガが発生した場合は，トリガ応答時間が挿入されます。

13. 5. 3 トリガ・モード

トリガ・モードの設定により，変換動作の開始タイミングの指定を行います。トリガ・モードにはソフトウエア・トリガ・モード，ハードウエア・トリガ・モードがあり，ハードウエア・トリガ・モードでは，タイマ・トリガ・モード0, 1，外部トリガ・モードの3つがあります。トリガ・モードの設定はADA0M0.ADA0TMDビットで行い，ハードウエア・トリガ・モードの設定はADA0M2.ADA0TMD1, ADA0TMD0ビットで行います。

(1) ソフトウエア・トリガ・モード

ADA0M0.ADA0CEビットを“1”に設定すると，ADA0Sレジスタで指定したアナログ入力（ANI0-ANI15端子）に対し，変換動作を開始します。変換を終了すると，変換結果をADA0CRnレジスタに格納し，同時に，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を発生します。

ADA0M0.ADA0MD1, ADA0MD0ビットで設定される動作モードが，連続セレクト／スキャン・モードであれば，変換終了後はADA0CEビットを“0”にしないかぎり，次の変換を繰り返し行います。動作モードがワンショット・セレクト／スキャン・モードであれば，1回で変換を終了します。

変換が開始されると，ADA0M0.ADA0EFビット = 1（動作中）となります。

変換動作中にADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタに書き込みを行った場合，変換は中断され，再度最初から変換を行います。ただし，通常変換モード時，高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード時の書き込みは禁止です。

(2) 外部トリガ・モード

外部トリガ（ADTRG端子）の入力により，ADA0Sレジスタで指定したアナログ入力（ANI0-ANI15端子）に対し，変換動作を開始するモードです。ADA0M0.ADA0ETS1, ATA0ETS0ビットの設定により，外部トリガのエッジ検出（立ち上がり，立ち下がり，立ち上がり／立ち下がりの両エッジ）の指定ができます。ADA0CEビットをセット（1）設定するとトリガ待機状態となり，外部トリガが入力された後に変換を開始します。

ADA0MD1, ADA0MD0ビットで設定される動作モードが，連続セレクト／連続スキャン／ワンショット・セレクト／ワンショット・スキャン・モードにかかわらず，変換を終了すると，変換結果をADA0CRnレジスタに格納し，同時に，INTAD信号を発生し，再びトリガ待機状態になります。

変換が開始されると，ADA0EFビット = 1（動作中）となります。ただし，トリガ待機状態の時はADA0EFビット = 0（停止中）となります。変換動作中に有効なトリガが入力されると，変換は中断され，再度最初から変換を行います。

変換動作中にADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタに書き込みを行った場合，変換は中断され，再度トリガ待機状態になります。ただし，ワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード時の書き込みは禁止です。

注意 外部トリガ・モードを選択する場合は，高速変換モードに設定してください。また，A/D変換動作許可（ADA0M0.ADA0CEビット = 1）したあとに一度だけ挿入される安定時間中にトリガを入力しないでください。

備考 トリガ待機状態とは，安定時間経過後の状態を示します。

(3) タイマ・トリガ・モード

タイマに接続されたキャプチャ／コンペア・レジスタのコンペア一致割り込み要求信号（INTTP2CC0, INTTP2CC1）により，ADA0Sレジスタで指定したアナログ入力（ANI0-ANI15端子）に対し，変換動作を開始するモードです。ADA0TMD1, ADA0TMD0ビットの設定により，INTTP2CC0, INTTP2CC1信号のいずれかを指定し，指定されたコンペア一致割り込み要求信号の立ち上がりエッジで変換を開始します。ADA0CEビットをセット（1）するとトリガ待機状態となり，タイマのコンペア一致割り込み要求信号が入力されたあとに変換を開始します。

ADA0MD1, ADA0MD0ビットで設定される動作モードが，連続セレクト／連続スキャン／ワンショット・セレクト／ワンショット・スキャン・モードにかかわらず，変換を終了すると，変換結果をADA0CRnレジスタに格納し，同時に，INTAD信号を発生し，再びトリガ待機状態になります。

変換が開始されると，ADA0EFビット = 1（動作中）となります。ただし，トリガ待機状態の時はADA0EFビット = 0（停止中）となります。変換動作中に有効なトリガが入力されると，変換は中断され，再度最初から変換を行います。

変換動作中にADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタに書き込みを行った場合，変換は中断され，再度，トリガ待機状態になります。ただし，ワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード時の書き込みは禁止です。

注意　タイマ・トリガ・モードを選択する場合は，高速変換モードに設定してください。また，A/D変換動作許可（ADA0M0.ADA0CEビット = 1）したあとに一度だけ挿入される安定時間中にトリガを入力しないでください。

備考　トリガ待機状態とは，安定時間経過後の状態を示します。

13. 5. 4 動作モード

動作モードには，ANI0-ANI15端子を設定するモードとして，連続セレクト・モード，連続スキャン・モード，ワンショット・セレクト・モード，ワンショット・スキャン・モードの4つがあります。

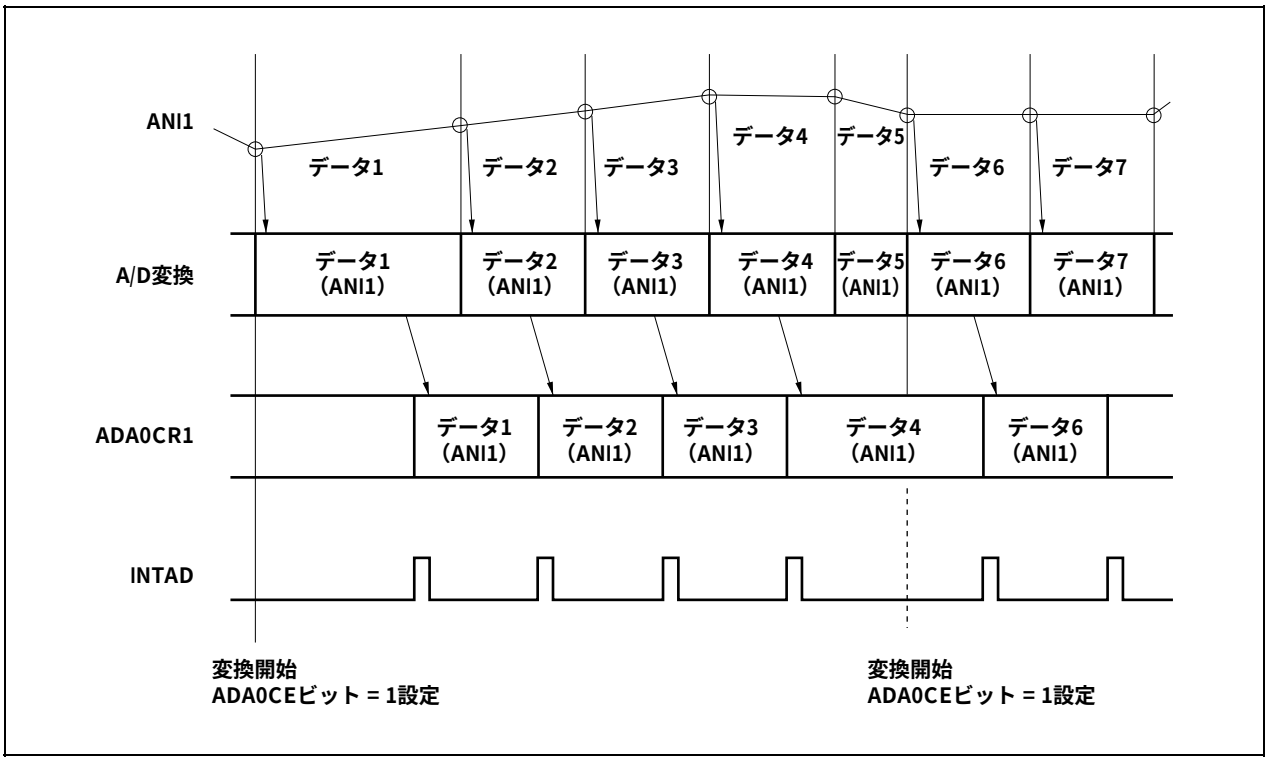
動作モードはADA0M0.ADA0MD1, ADA0MD0ビットで設定します。

(1) 連続セレクト・モード

ADA0Sレジスタで指定される１つのアナログ入力端子の電圧を連続してA/D変換します。

変換結果はアナログ入力端子に対応したADA0CRnレジスタに格納されます。このモードではアナログ入力端子とADA0CRnレジスタは1対1に対応しており，1回のA/D変換終了ごとにA/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）が発生します。変換終了後はADA0M0.ADA0CEビットを“0”にしないかぎり，次の変換を繰り返し行います（n = 0-15）。

図13－4 連続セレクト・モード動作タイミング例（ADA0Sレジスタ = 01H）



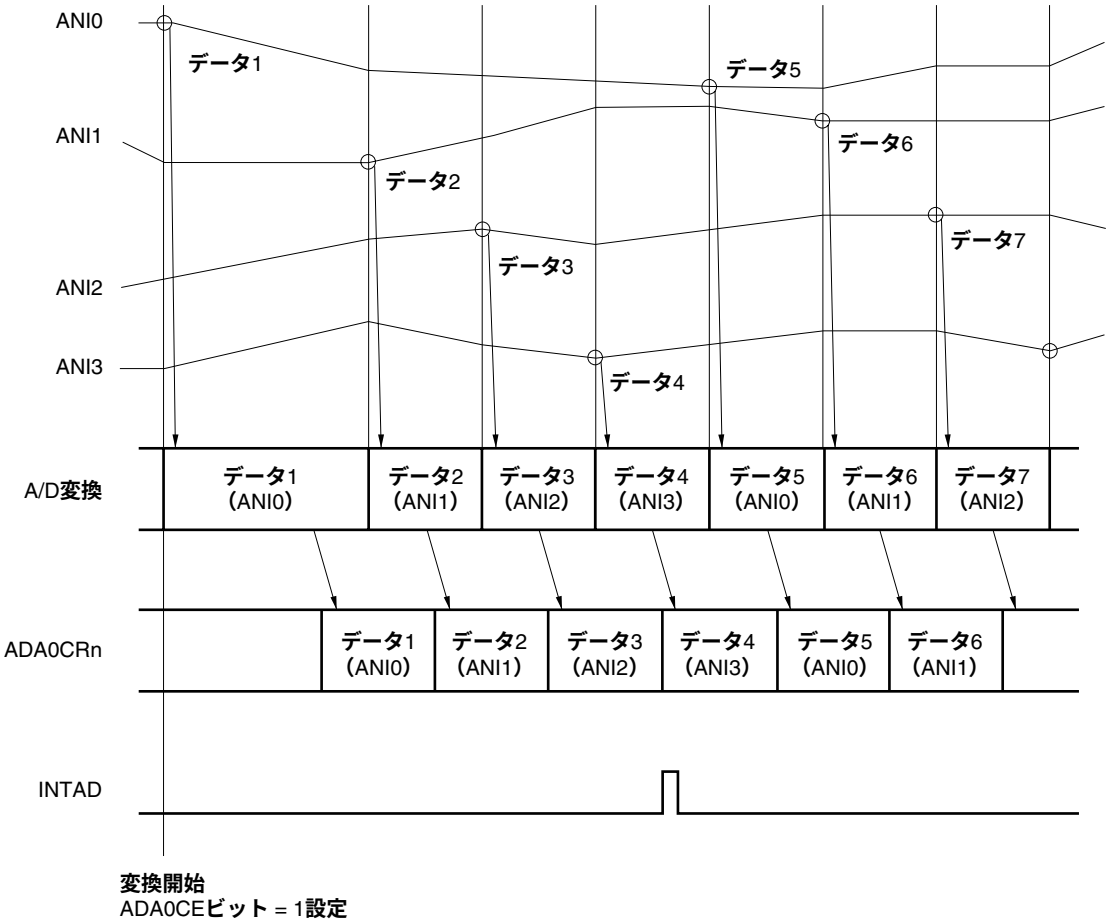
(2) 連続スキャン・モード

ANI0端子からADA0Sレジスタで指定したアナログ入力端子まで順に選択し，A/D変換を連続で行います。

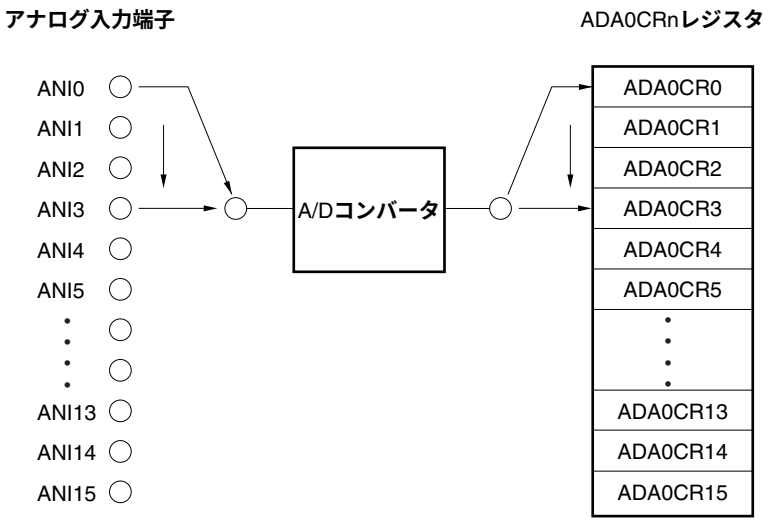
変換結果はアナログ入力端子に対応したADA0CRnレジスタに格納されます。ADA0Sレジスタで指定したアナログ入力端子の変換を終了すると，INTAD信号が発生し，ADA0CEビットを“0”にしないかぎり，再びANI0端子からA/D変換を開始します（n = 0-15）。

図13ー5 連続スキャン・モード動作タイミング例（ADA0Sレジスタ = 03H）

(a) タイミング例



(b) ブロック図

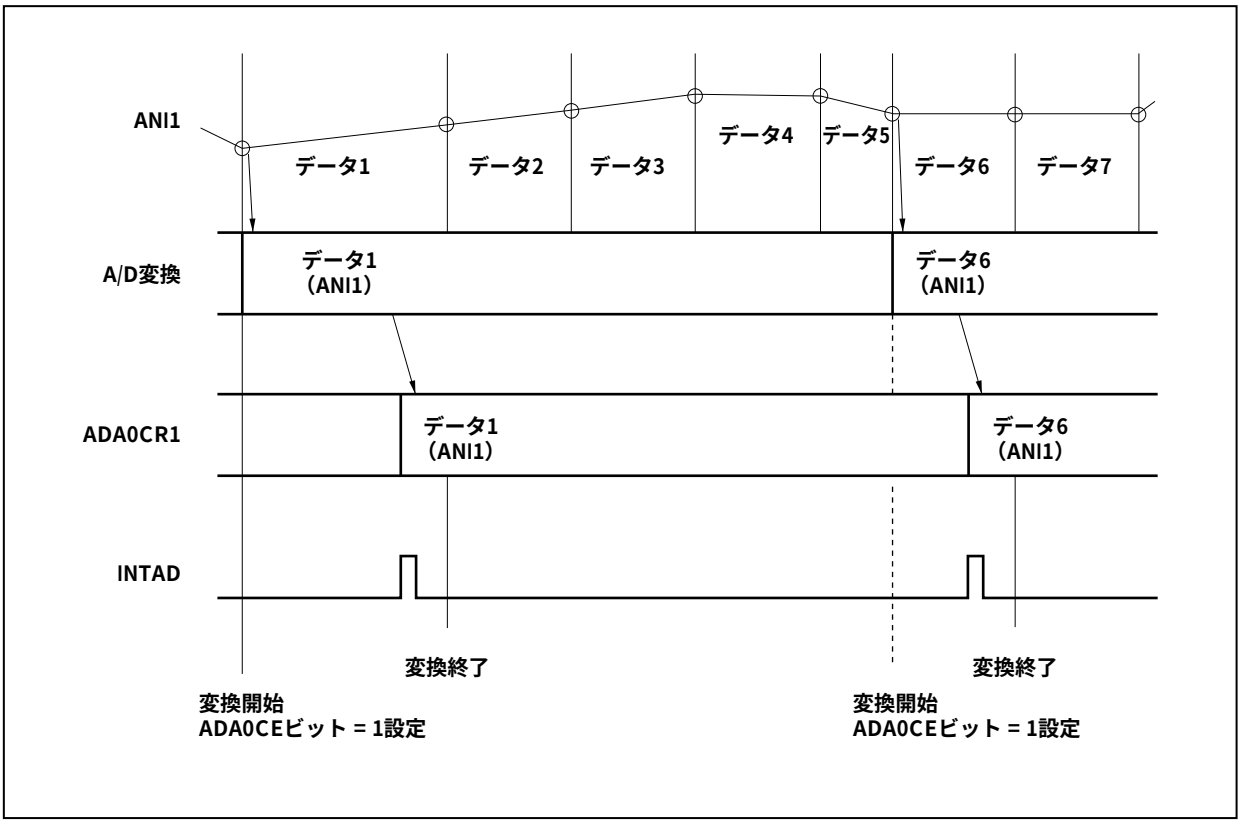


(3) ワンショット・セレクト・モード

ADA0Sレジスタで指定される1つのアナログ入力端子を1回のみA/D変換します。

変換結果はアナログ入力端子に対応したADA0CRnレジスタに格納されます。このモードではアナログ入力端子とADA0CRnレジスタは1対1に対応しており，1回のA/D変換終了後，INTAD信号が発生します。A/D変換終了後はA/D変換動作を停止します（n = 0-15）。

図13－6 ワンショット・セレクト・モード動作タイミング例（ADA0Sレジスタ = 01H）



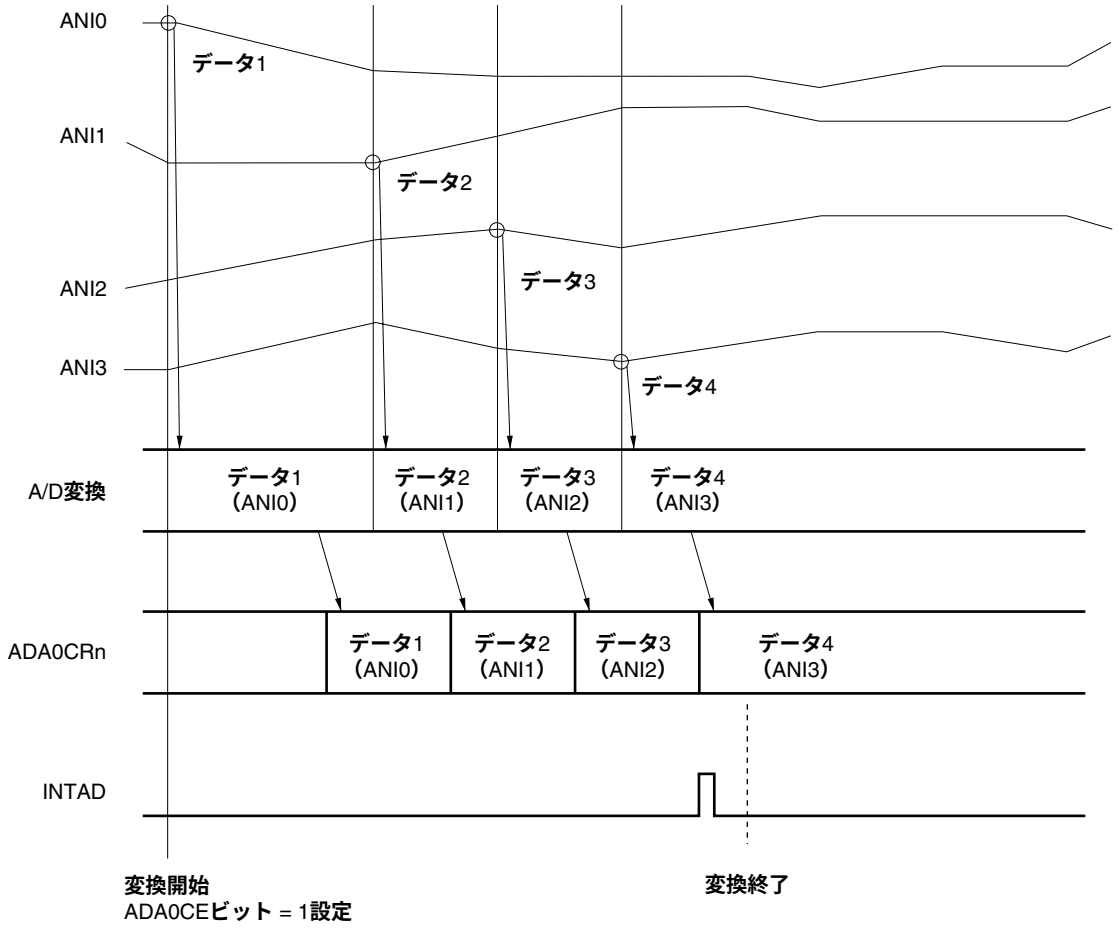
(4) ワンショット・スキャン・モード

ANI0端子からADA0Sレジスタで指定したアナログ入力端子まで順に選択し，A/D変換します。

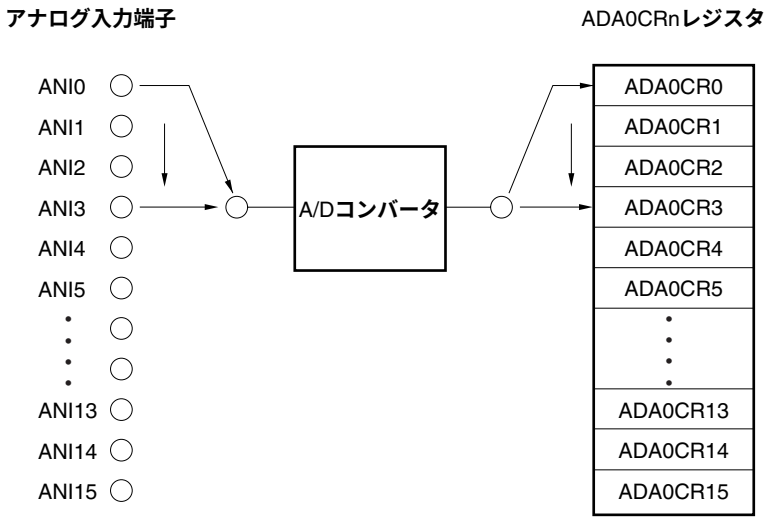
変換結果はアナログ入力端子に対応したADA0CRnレジスタに格納されます。ADA0Sレジスタで指定したアナログ入力端子の変換を終了すると，INTAD信号が発生し，A/D変換終了後はA/D変換動作を停止します（n = 0-15）。

図13－7 ワンショット・スキャン・モード動作タイミング例（ADA0Sレジスタ = 03H）

(a) タイミング例



(b) ブロック図



13. 5. 5　パワー・フェイル比較モード

ADA0PFM, ADA0PFTレジスタにより，A/D変換終了割り込み要求信号（INTAD）を次のように制御できます。

- ADA0PFM.ADA0PFEビット = 0の場合，変換終了ごとにINTAD信号が発生します（通常のA/Dコンバータとして使用）。
- ADA0PFEビット = 1かつADA0PFM.ADA0PFCビット = 0の場合，変換終了タイミングでADA0CRnHレジスタとADA0PFTレジスタの値を比較し，ADA0CRnH≧ADA0PFTの場合のみ，INTAD信号を発生します。
- ADA0PFEビット = 1かつADA0PFCビット = 1の場合，変換終了タイミングでADA0CRnHレジスタとADA0PFTレジスタの値を比較し，ADA0CRnH＜ADA0PFTの場合のみ，INTAD信号を発生します。

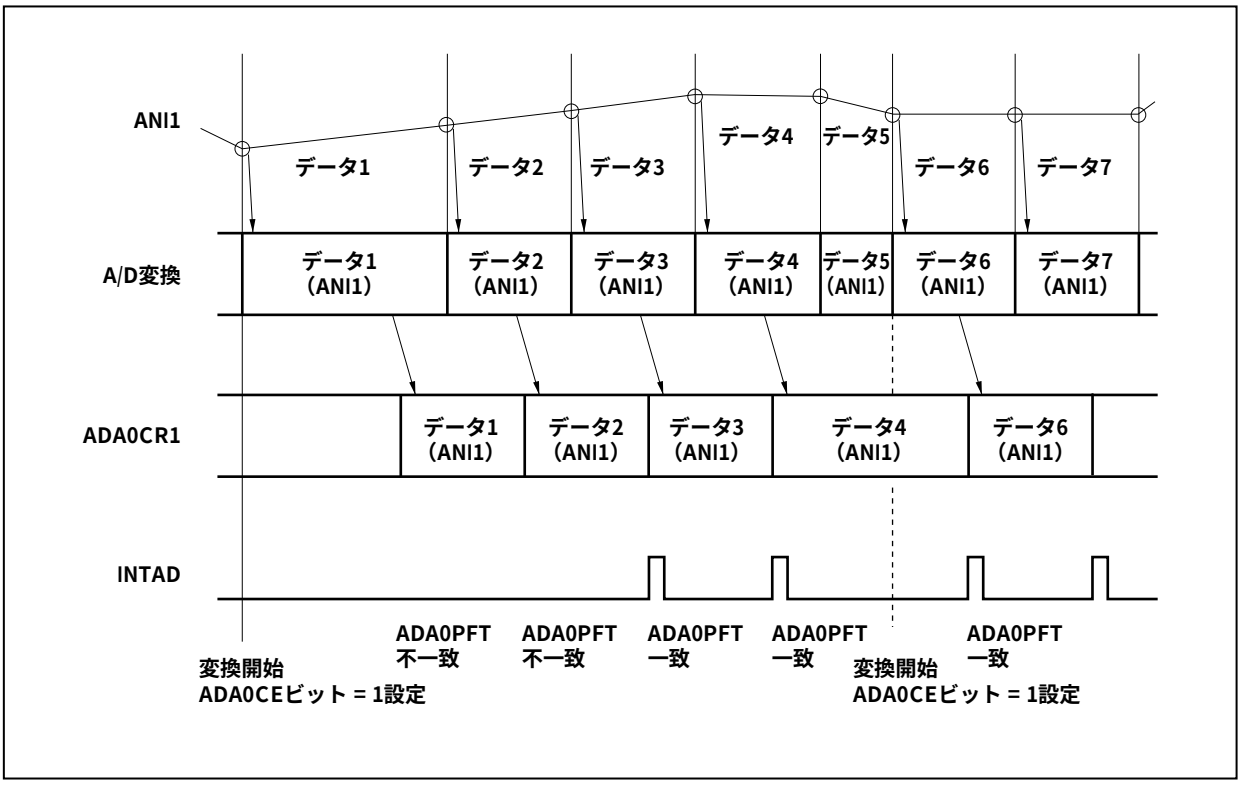
備考　n = 0-15

パワー・フェイル比較モードにもANI0-ANI15端子を設定するモードとして，連続セレクト・モード，連続スキャン・モード，ワンショット・セレクト・モード，ワンショット・スキャン・モードの4つがあります。

(1) 連続セレクト・モード

ADA0Sレジスタで指定された1つのアナログ入力端子電圧の変換結果とADA0PFTレジスタの設定値を比較します。パワー・フェイル比較した結果がADA0PFCビットで設定された条件に一致した場合，変換結果をADA0CRnレジスタに格納し，INTAD信号が発生します。一致しない場合，変換結果をADA0CRnレジスタに格納し，INTAD信号を発生しません。変換終了後はADA0M0.ADA0CEビットを“0”にしないかぎり，次の変換を繰り返し行います（n = 0-15）。

図13－8 連続セレクト・モード動作タイミング例（パワー・フェイル比較時：ADA0Sレジスタ = 01H）



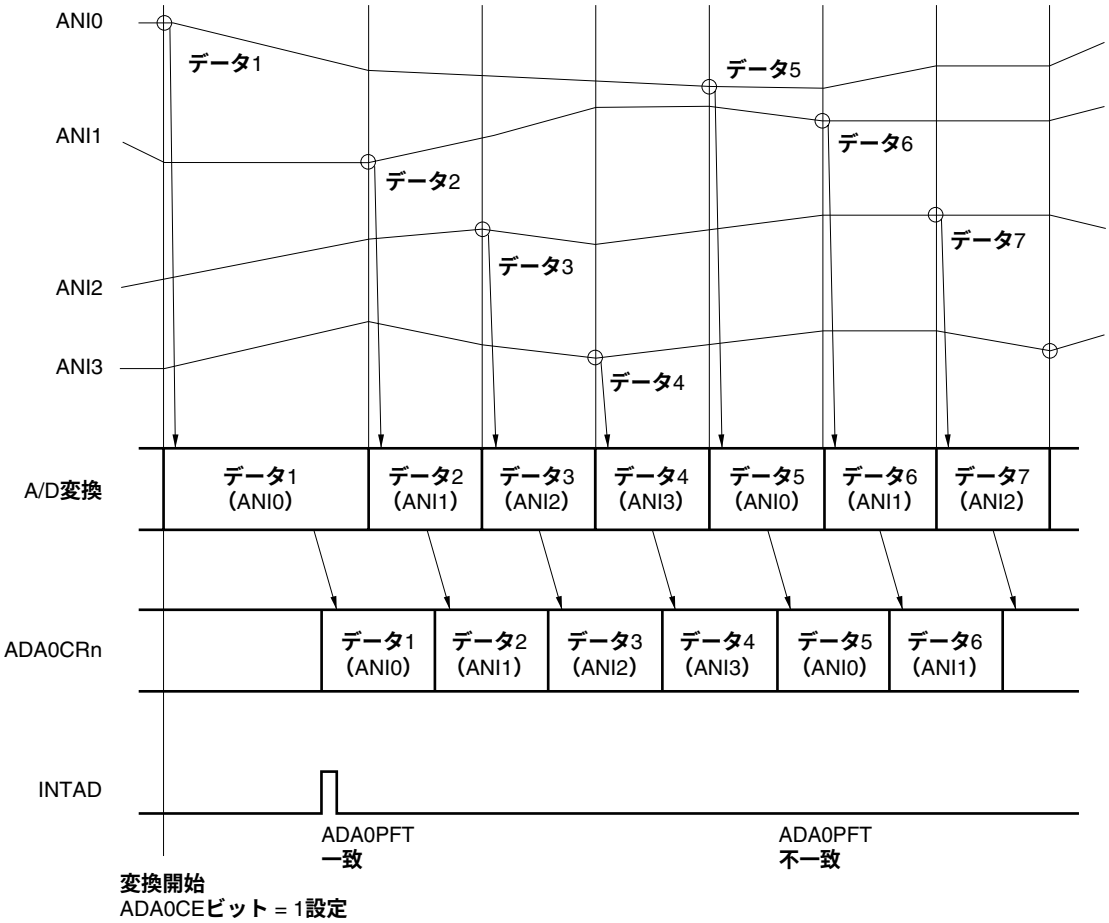
(2) 連続スキャン・モード

ANI0端子からADA0Sレジスタで指定したアナログ入力端子まで順に選択した変換結果を格納し，チャネル0のADA0CR0Hレジスタと ADA0PFTレジスタの設定値を比較します。パワー・フェイル比較した結果がADA0PFCビットで設定された条件に一致した場合，変換結果をADA0CR0レジスタに格納し，INTAD信号を発生します。一致しない場合，変換結果をADA0CR0レジスタに格納し，INTAD信号を発生しません。

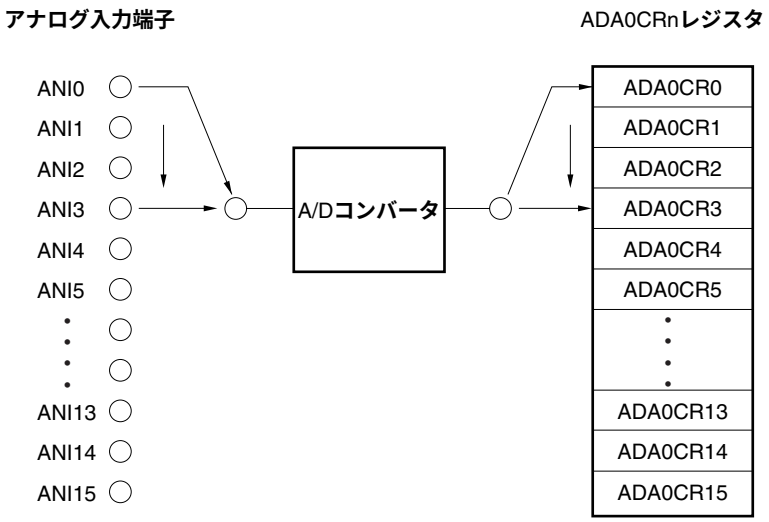
ADA0CR0レジスタに格納後，ADA0Sレジスタで指定されたアナログ入力端子まで順に変換結果を格納します。変換終了後はADA0CEビットを“0”にしないかぎり，再びANI0端子から変換を開始します。

図13ー9 連続スキャン・モード動作タイミング例（パワー・フェイル比較時：ADA0Sレジスタ = 03H）

(a) タイミング例



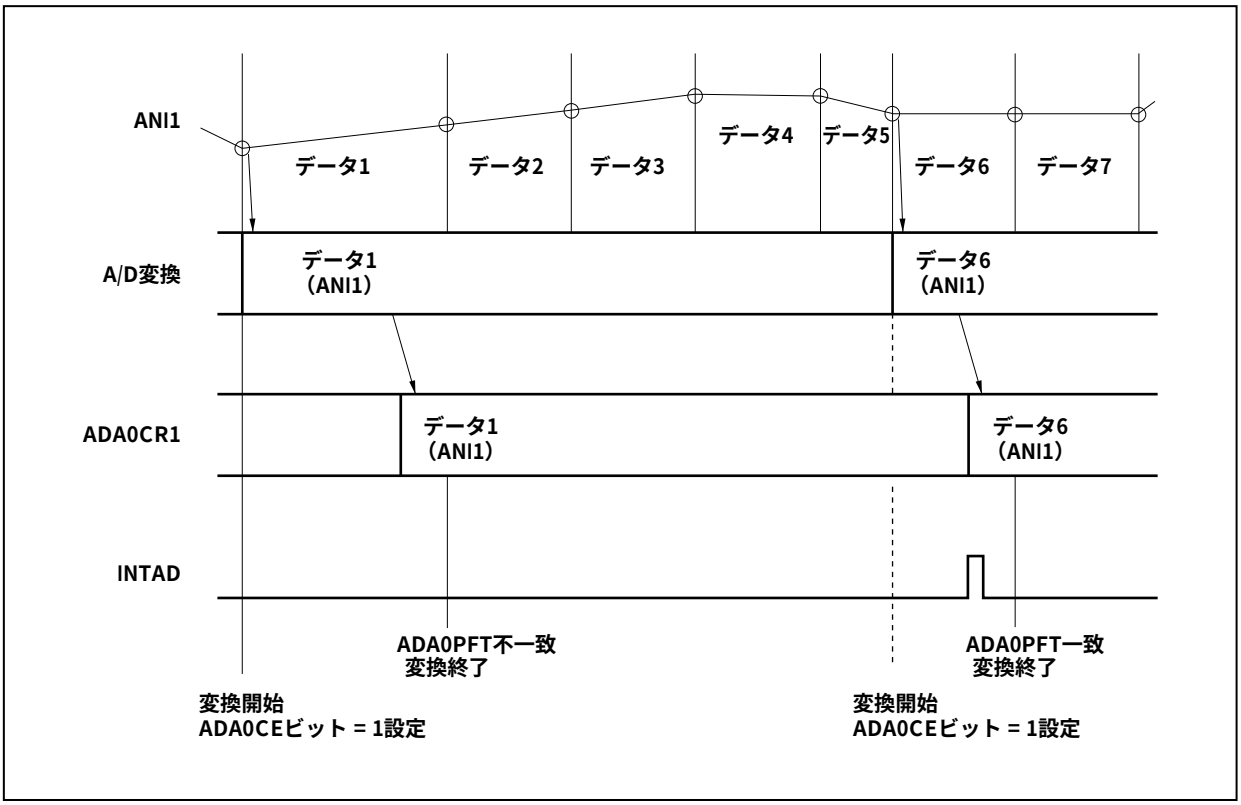
(b) ブロック図



(3) ワンショット・セレクト・モード

ADA0Sレジスタで指定された１つのアナログ入力端子の変換結果とADA0PFTレジスタの設定値を比較します。パワー・フェイル比較した結果がADA0PFCビットで設定された条件に一致した場合，変換結果をADA0CRnレジスタに格納し，INTAD信号が発生します。一致しない場合，変換結果をADA0CRnレジスタに格納し，INTAD信号を発生しません。変換終了後は変換を停止します。

図13－10 ワンショット・セレクト・モード動作タイミング例（パワー・フェイル比較時：ADA0Sレジスタ = 01H）

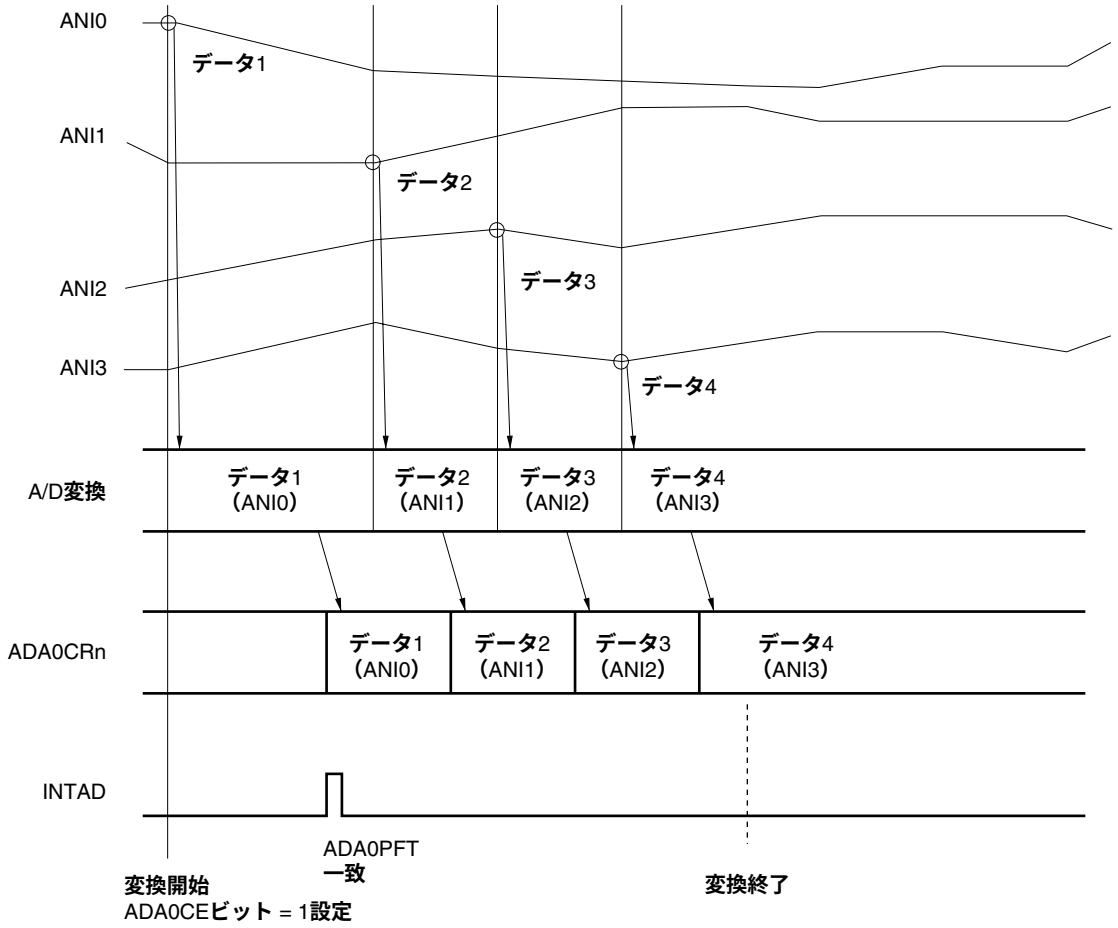


(4) ワンショット・スキャン・モード

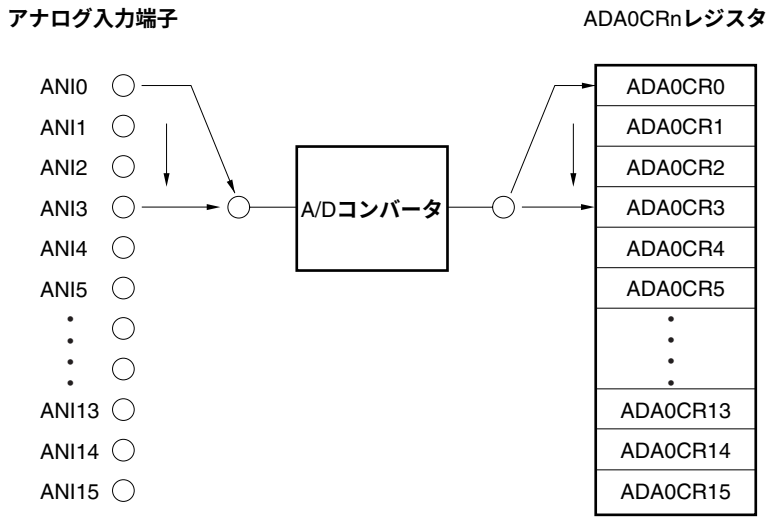
ANI0端子からADA0Sレジスタで指定したアナログ入力端子まで順に選択した変換結果を格納し，チャネル0のADA0CR0Hレジスタと ADA0PFTレジスタの設定値を比較します。パワー・フェイル比較した結果がADA0PFCビットで設定された条件に一致した場合，変換結果をADA0CR0レジスタに格納し，INTAD信号を発生します。一致しない場合，変換結果をADA0CR0レジスタに格納し，INTAD信号を発生しません。ADA0CR0レジスタに格納後，ADA0Sレジスタで指定されたアナログ入力端子まで順に変換結果を格納します。変換終了後は変換を停止します。

図13ー11 ワンショット・スキャン・モード動作タイミング例（パワー・フェイル比較時：ADA0Sレジスタ = 03H）

(a) タイミング例



(b) ブロック図



13. 6　注意事項

(1) A/Dコンバータ未使用時について

未使用時は，ADA0M0.ADA0CEビット = 0とすることにより消費電力を低減できます。

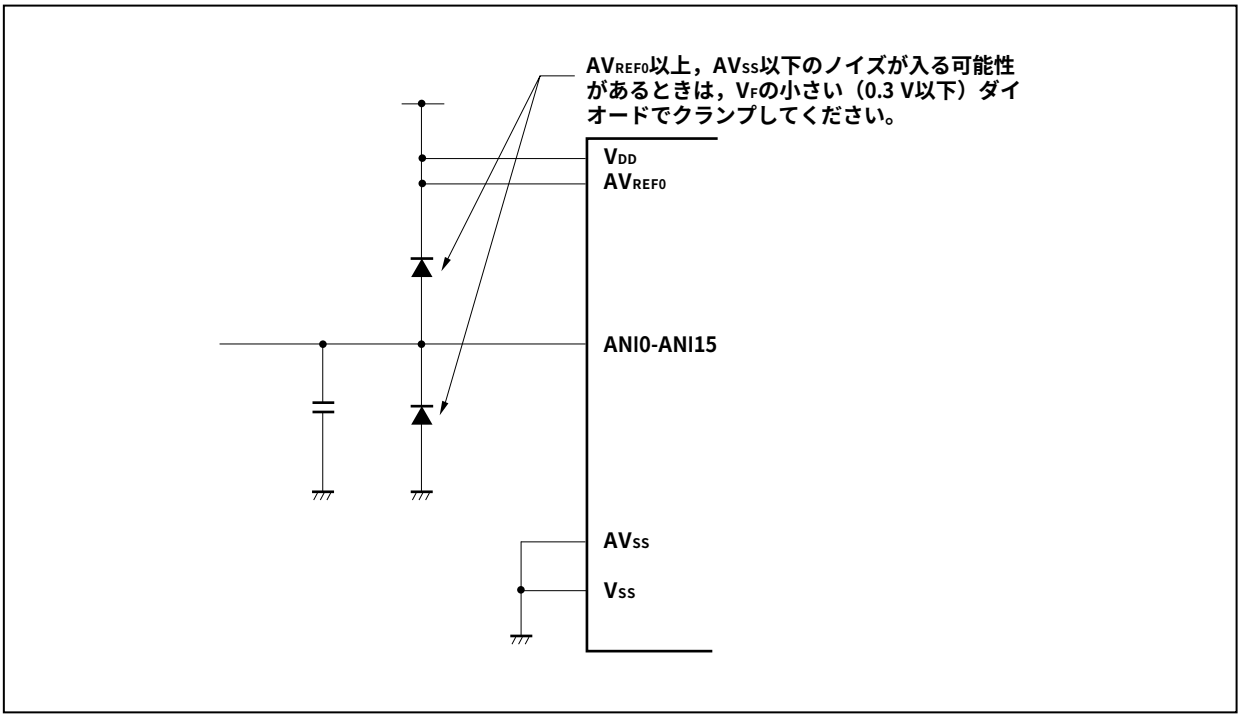
(2) ANI0-ANI15端子入力範囲について

ANI0-ANI15端子の入力電圧は規格の範囲内で使用してください。ただし，絶対最大定格の範囲内であってもAV$_{REF0}$以上，AV$_{SS}$以下の電圧が入力されると，そのチャネルの変換値が不定となります。また，ほかのチャネルの変換値にも影響を与えることがあります。

(3) ノイズ対策について

10ビット分解能を保つためには，ANI0-ANI15端子へのノイズに注意する必要があります。アナログ入力源の出力インピーダンスが高いほど影響が大きくなりますので，ノイズを低減するために図13－12のようにコンデンサを外付けすることを推奨します。

図13－12　アナログ入力端子の処理



(4) 兼用入出力について

アナログ入力（ANI0-ANI15）端子はポート端子と兼用になっています。ANI0-ANI15端子のいずれかを選択してA/D変換をする場合，変換中に入力ポートへの読み出し命令，または出力ポートへの書き込み命令を実行しないでください。変換分解能が低下することがあります。

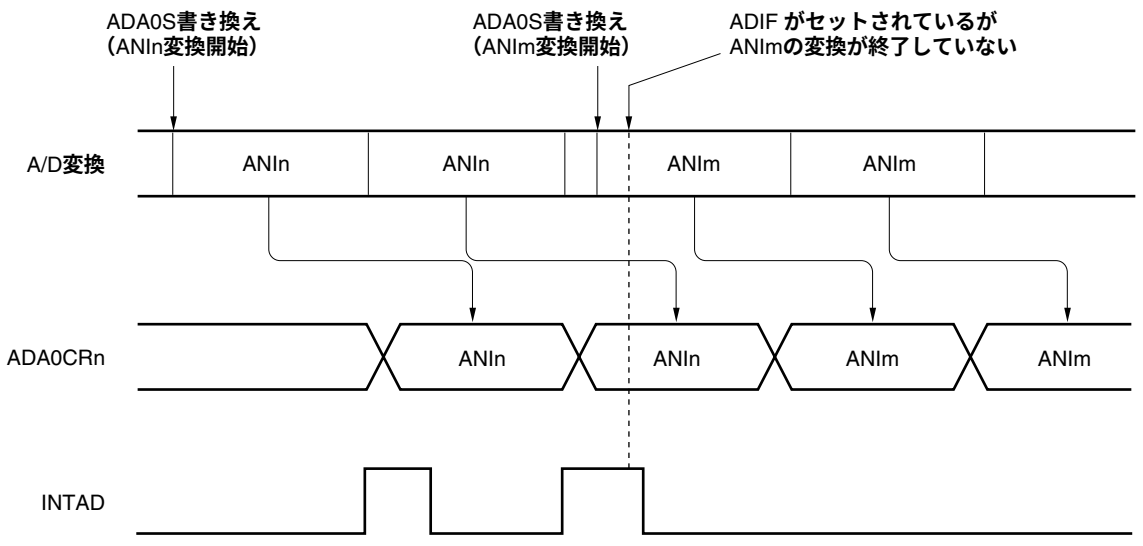
また，A/D変換中に出力ポートに設定している端子で，ポート端子に接続される外部回路の影響で出力電流が変動する場合も変換分解能が低下することがあります。

A/D変換中の端子に隣接する端子へディジタル・パルスを印加したりディジタル・パルスを出力したりすると，カップリング・ノイズによってA/D変換値が期待どおりに得られないこともあります。したがって，A/D変換中の端子に隣接する端子へのパルス印加またはパルス出力はしないでください。

(5) 割り込み要求フラグ（ADIF）について

ADA0Sレジスタを変更しても，割り込み要求フラグ（ADIF）はクリアされません。したがって，A/D変換中にアナログ入力端子の変更を行った場合，ADA0Sレジスタ書き換え直前に変更前のアナログ入力に対するA/D変換結果および変換終了割り込み要求フラグがセットされる場合があり，ADA0Sレジスタ書き換え直後にADIFフラグを読み出すと，変更後のアナログ入力に対するA/D変換が終了していないにもかかわらずADIFフラグがセットされている場合がありますので注意してください。また，A/D変換を一度停止させて再開する場合は，再開する前にADIFフラグをクリアしてください。

図13－13 A/D変換終了割り込み要求発生タイミング



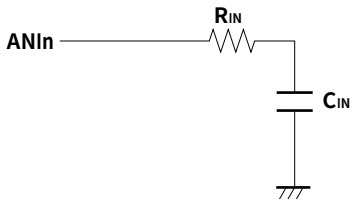
備考 n = 0-15

m = 0-15

(6) 内部等価回路について

アナログ入力部の等価回路を次に示します。

図13－14 ANIn端子内部等価回路



R_{IN}	C_{IN}
14 kΩ	8.0 pF

備考1. 値は参考値です。

2. n = 0-15

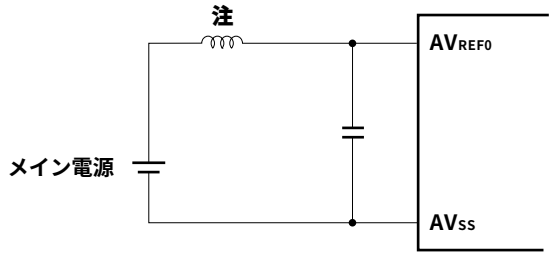
(7) AV_{REF0}端子について

(a) AV_{REF0}端子はA/Dコンバータの電源端子を兼用しており，また兼用ポートにも電源を供給しています。したがって，バックアップ電源に切り替えるようなアプリケーションにおいても図13－15のように必ずV_{DD}と同じ電位を印加してください。

(b) AV_{REF0}端子はA/Dコンバータ用の基準電圧端子を兼用しています。したがって，AV_{REF0}端子への供給部のインピーダンス値が高い場合や，電源の電流供給能力が低い場合，変換時に流れる電流（特に変換動作許可ADA0CEビット = 1とした直後）により基準電圧が変動し，変換精度が悪くなるおそれがあります。これを避けるため図13－15のようにAV_{REF0}端子とAV_{SS}端子間にコンデンサを接続し変動を抑えるようにすることを推奨します。

(c) AV_{REF0}端子への供給部に直流抵抗値（ダイオード挿入など）が高いと，A/D変換電流による電圧降下により，変換動作停止時より動作許可時のほうが電圧が低くなる可能性があります。

図13－15 AV_{REF0}端子の処理例



注 寄生インダクタンス

(8) ADA0CRnレジスタの読み出しについて

ADA0M0-ADA0M2，ADA0S，ADA0PFM，ADA0PFTレジスタに対して書き込み動作を行ったとき，ADA0CRnレジスタの内容は不定になることがあります。変換結果は，変換動作終了後，ADA0M0-ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。また，外部／タイマ・トリガを受け付けたときも，ADA0CRnレジスタの内容は不定になることがあります。変換結果は，変換動作終了後，次の外部／タイマ・トリガを受け付ける前に読み出してください。上記以外のタイミングでは，正しい変換結果が読み出されないことがあります。

(9) スタンバイ・モードについて

A/Dコンバータは，STOPモード時に動作が停止するため，変換結果は無効になり消費電力を低減できます。STOPモード解除後，再び動作を開始しますが，STOPモード解除後のA/D変換結果は無効です。STOPモード解除後にA/Dコンバータを使用する場合は，STOPモード設定前またはSTOPモード解除後にADA0M0.ADA0CEビット = 0に設定してからSTOPモード解除後にADA0CEビット = 1に設定してください。

IDLE1，IDLE2モード，サブクロック動作モードでは動作が保持されるため，消費電力を低減する場合にはADA0M0.ADA0CEビット = 0にしてください。ただし，IDLE1, IDLE2モード期間中は，アナログ入力電

圧値が保持できなくなるため，IDLE1, IDLE2モード解除後のA/D変換結果は無効です。また，IDLE1, IDLE2モード設定前のA/D変換結果は有効です。

（10）高速変換モードについて

高速変換モードでは，安定時間中のADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTのレジスタの書き換え，およびトリガ入力を禁止します。

（11）A/D変換時間について

A/D変換時間は，安定時間，変換時間，ウエイト時間，およびトリガ応答時間の合計時間になります（それぞれの時間については，表13ー2　通常変換モード時の変換時間の選択（ADA0HS1ビット= 0），表13ー3　高速変換モード時の変換時間の選択（ADA0HS1ビット= 1）を参照してください）。

通常変換モードでは，A/D変換中に，ADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みまたはトリガが入力されると再変換が行われますが，安定時間終了タイミングとADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みが競合した場合，または安定時間終了タイミングとトリガの入力が競合した場合は，安定時間が64クロック再挿入されます。

また，再挿入の安定時間終了タイミングと再び競合すると，再度，安定時間が挿入されますので，トリガの入力間隔と制御レジスタ書き込みの間隔は64クロック以下にしないでください。

（12）A/D変換結果のばらつきについて

電源電圧の変動やノイズなどの影響によりA/D変換結果がばらつくことがあります。ばらつきを軽減する必要がある場合は，A/D変換結果の平均値をとるなど，プログラムで対策してください。

（13）A/D変換のヒステリシス特性について

逐次比較型A/Dコンバータは，内部のサンプル＆ホールド用コンデンサにアナログ入力電圧を保持し，そのあと，A/D変換を行います。A/D変換が終了したあとも，内部のサンプル＆ホールド用コンデンサには，アナログ入力電圧が残っています。このため次のような現象が起きることがあります。

- 同一チャネルでA/D変換を実行する場合，以前のA/D変換時よりも高い電圧，または低い電圧に変化していると，変換結果が以前の値に影響されるヒステリシス特性が現れ，同じ電位でも変換結果が異なる場合があります。
- アナログ入力チャネルを切り替える場合，1つのA/Dコンバータを用いてA/D変換を行っているため，変換結果が以前のチャネルの値に影響されるヒステリシス特性が現れ，同じ電位でも変換結果が異なる場合があります。

13. 7　A/Dコンバータ特性表の読み方

A/Dコンバータに特有な用語について説明します。

(1) 分 解 能

識別可能な最小アナログ入力電圧，つまり，ディジタル出力1ビットあたりのアナログ入力電圧の比率を1 LSB（Least Significant Bit）といいます。1 LSBのフルスケールに対する比率を%FSR（Full Scale Range）で表します。%FSRとは変換可能なアナログ入力電圧範囲に対する比率を百分率で表したもので分解能に関係なく次のような式になります。

1 %FSR =（変換可能なアナログ入力電圧の最大値－変換可能なアナログ入力電圧の最小値）/100

= （AV_{REF0}－0）/100

= AV_{REF0}/100

分解能10ビットのとき，1 LSBは次のようになります。

1 LSB = $1/2^{10}$ = 1/1024

= 0.098 %FSR

精度は分解能とは関係なく，総合誤差によって決まります。

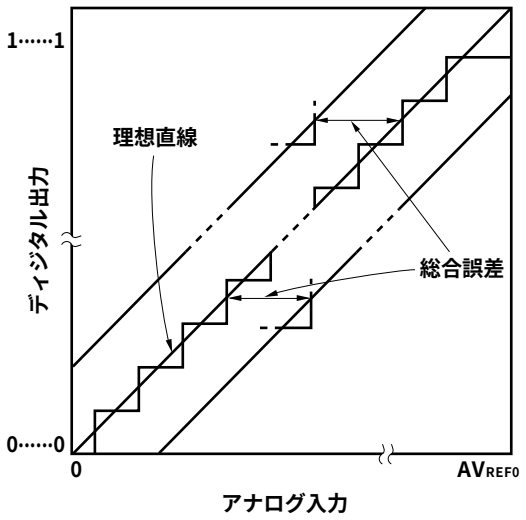
(2) 総合誤差

実測値と理論値との差の最大値を指しています。

ゼロスケール誤差，フルスケール誤差，直線性誤差，およびそれらの組み合わせから生じる誤差を総合した誤差を表しています。

なお，特性表の総合誤差には量子化誤差は含まれていません。

図13－16　総合誤差

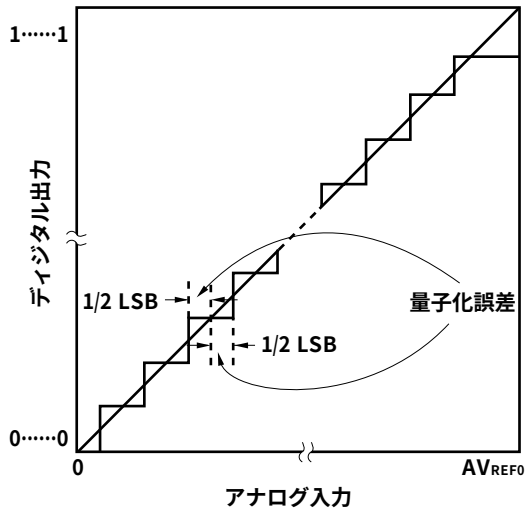


(3) 量子化誤差

アナログ値をディジタル値に変換するとき，必然的に生じる±1/2 LSBの誤差です。A/Dコンバータでは，±1/2 LSBの範囲にあるアナログ入力電圧は，同じディジタル・コードに変換されるため，量子化誤差を避けることはできません。

なお，特性表の総合誤差，ゼロスケール誤差，フルスケール誤差，積分直線性誤差，微分直線性誤差には含まれていません。

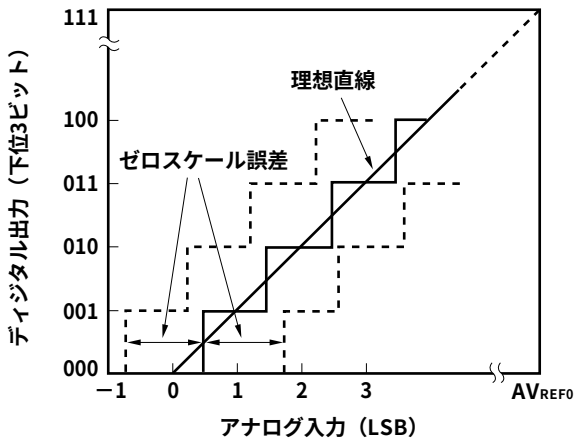
図13－17 量子化誤差



(4) ゼロスケール誤差

ディジタル出力が0……000から0……001に変化するときの，アナログ入力電圧の実測値と理論値（1/2 LSB）との差を表します。

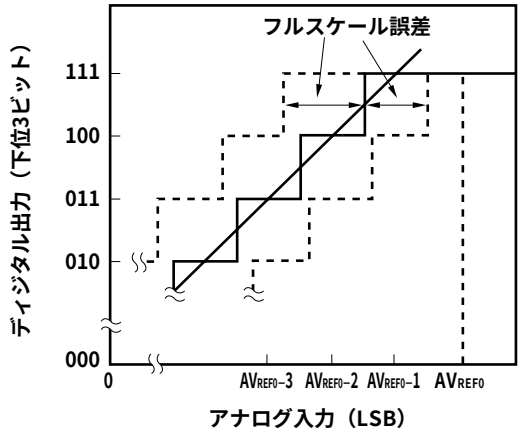
図13－18 ゼロスケール誤差



(5) フルスケール誤差

ディジタル出力が1……110から1……111に変化するときの，アナログ入力電圧の実測値と理論値（フルスケール－3/2 LSB）との差を表します。

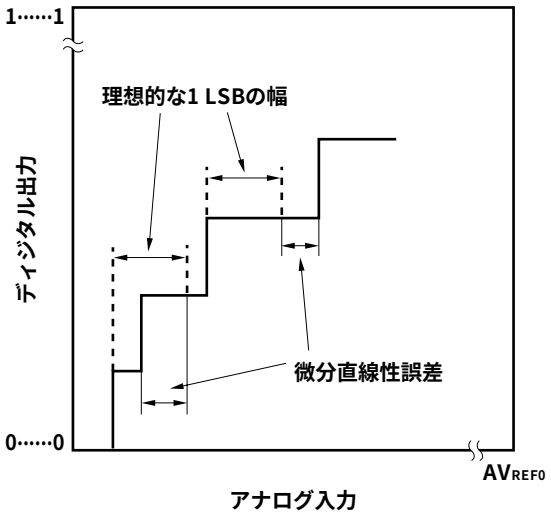
図13－19 フルスケール誤差



(6) 微分直線性誤差

理想的にはあるコードを出力する幅は1 LSBですが，あるコードを出力する幅の実測値と理想値との差を表します。同一チャネルのアナログ入力端子に印加する電圧をAV_{SS}からAV_{REF0}まで少しずつ単調増加させた場合のA/D変換の基本特性を示します。入力電圧が増減する場合や複数チャネルを使用する場合は，13. 7 (2) **総合誤差**を参照してください。

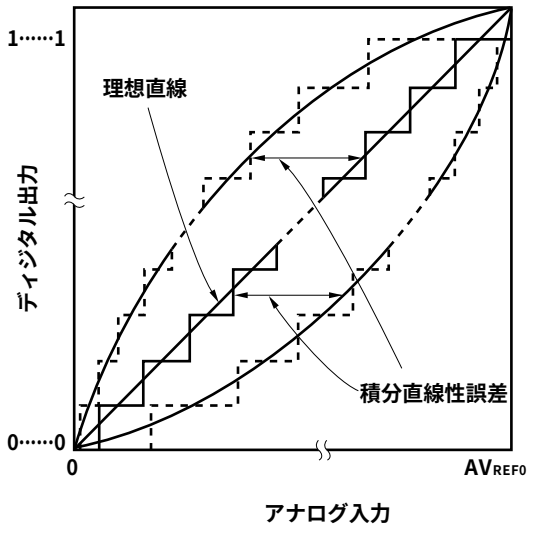
図13－20 微分直線性誤差



(7) 積分直線性誤差

変換特性が，理想的な直線関係からはずれている程度を指します。ゼロスケール誤差，フルスケール誤差を0としたときの，実測値と理想直線との差の最大値を表します。

図13－21 積分直線性誤差



(8) 変換時間

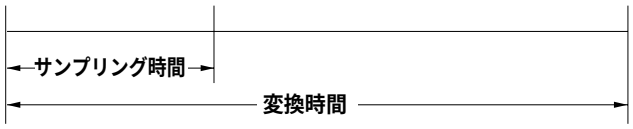
各トリガが発生してから，ディジタル出力が得られるまでの時間を表します。

特性表の変換時間にはサンプリング時間が含まれています。

(9) サンプリング時間

アナログ電圧をサンプル＆ホールド回路に取り込むため，アナログ・スイッチがオンしている時間です。

図13－22 サンプリング時間



第14章　D/Aコンバータ

14. 1　機　　能

D/Aコンバータには，次のような機能があります。

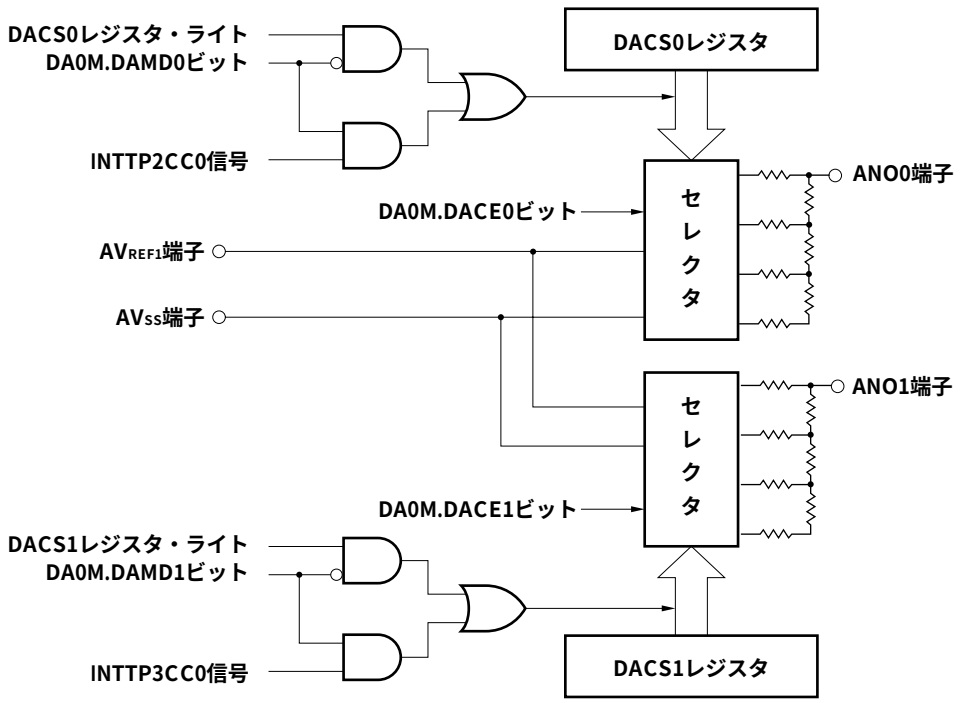
○8ビット分解能×2ch（DA0CS0, DA0CS1）
○R-2Rラダー方式
○セトリング・タイム：3 μs（MAX.）（AV_{REF1} = 3.0～3.6 V，外部負荷20 pF時）
○アナログ出力電圧：AV_{REF1}×m/256（m = 0-255；DA0CSnレジスタに設定した値）
○動作モード：通常モード／リアルタイム出力モード

備考　n = 0, 1

14. 2　構　　成

次にD/Aコンバータの構成について示します。

図14－1　D/Aコンバータのブロック図



注意1.　DAC0, DAC1は，AV_{REF1}端子を共用しています。
2.　DAC0, DAC1は，AV_{SS}端子を共用しています。また，AV_{SS}端子はA/Dコンバータとも共用しています。

D/Aコンバータは，次のハードウエアで構成されています。

表14ー1　D/Aコンバータの構成

項　　目	構　　成
制御レジスタ	D/Aコンバータ・モード・レジスタ（DA0M） D/A変換値設定レジスタ0, 1（DA0CS0, DA0CS1）

14. 3　レジスタ

D/Aコンバータを制御するレジスタを次に示します。

- D/Aコンバータ・モード・レジスタ（DA0M）
- D/A変換値設定レジスタ0, 1（DA0CS0, DA0CS1）

（1）D/Aコンバータ・モード・レジスタ（DA0M）

D/Aコンバータの動作を制御するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF282H

	7	6	⑤	④	3	2	1	0
DA0M	0	0	DA0CE1	DA0CE0	0	0	DA0MD1	DA0MD0

DA0CEn	D/Aコンバータの動作許可／禁止制御（n = 0, 1 ）
0	動作禁止
1	動作許可

DA0MDn	D/Aコンバータの動作モードの選択（n = 0, 1）
0	通常モード
1	リアルタイム出力モード注

注　リアルタイム出力モード（DA0MDnビット = 1）時の出力トリガは，次のとおりです。

- n = 0のとき：INTTP2CC0信号（第7章　16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP）参照）
- n = 1のとき：INTTP3CC0信号（第7章　16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP）参照）

（2）D/A変換値設定レジスタ0, 1（DA0CS0, DA0CS1）

ANO0, ANO1端子に出力するアナログ電圧値を設定するレジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：DA0CS0 FFFFF280H, DA0CS1 FFFFF281H

	7	6	5	4	3	2	1	0
DA0CSn	DA0CSn7	DA0CSn6	DA0CSn5	DA0CSn4	DA0CSn3	DA0CSn2	DA0CSn1	DA0CSn0

注意　リアルタイム出力モード（DA0M.DA0MDnビット = 1）のとき，INTTP2CC0/INTTP3CC0信号が発生する前に，DA0CSnレジスタを設定してください。INTTP2CC0/INTTP3CC0信号発生でD/A変換を開始します。

備考　n = 0, 1

14. 4　動　　作

14. 4. 1　通常モード時の動作

DA0CSnレジスタへのライト動作を起動トリガとして，D/A変換を行います。

次に，その設定方法を示します。

① DA0M.DA0MDnビット = 0（通常モード）に設定します。

② DA0CSnレジスタにANOn端子に出力するアナログ電圧値を設定します。

以上①，②を初期設定として行います。

③ DA0M.DA0CEnビット = 1（D/A変換動作許可）に設定します。

これによりD/A変換が開始します。

④ 以降，D/A変換を行う場合は，DA0CSnレジスタへのライト動作を行います。

なお，次のD/A変換を行うまでは，前回D/A変換した結果を保持します。

備考1. 兼用端子の設定は表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合を参照してください。

2. n = 0, 1

14. 4. 2　リアルタイム出力モード時の動作

TMP2, TMP3の割り込み要求信号（INTTP2CC0, INTTP3CC0）を起動トリガとして，D/A変換を行います。

次に，その設定方法を示します。

① DA0M.DA0MDnビット = 1（リアルタイム出力モード）に設定します。

② DA0CSnレジスタにANOn端子に出力するアナログ電圧値を設定します。

③ DA0M.DA0CEnビット = 1（D/A変換動作許可）に設定します。

以上①～③を初期設定として行います。

④ TMP2, TMP3を動作させます。

⑤ INTTP2CC0, INTTP3CC0信号が発生すると，D/A変換を開始します。

⑥ 以降，DA0CSnレジスタに設定した値がINTTP2CC0, INTTP3CC0信号のタイミングで出力されます。

備考1. ⑤までのANO0, ANO1端子の出力値は不定です。

2. HALT，IDLE1，IDLE2，STOPモード時のANO0，ANO1端子の出力値については，第21章スタンバイ機能を参照してください。

3. 兼用端子の設定は表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合を参照してください。

14. 4. 3　使用上の注意点

D/Aコンバータを使用する際の注意事項を次に示します。

(1) リアルタイム出力モード時，トリガ信号が出ている間にDA0CSnレジスタの設定値を変更しないでください。

(2) 動作モードを切り替える場合は，必ずDA0M.DA0CEnビット = 0にしたあとに行ってください。

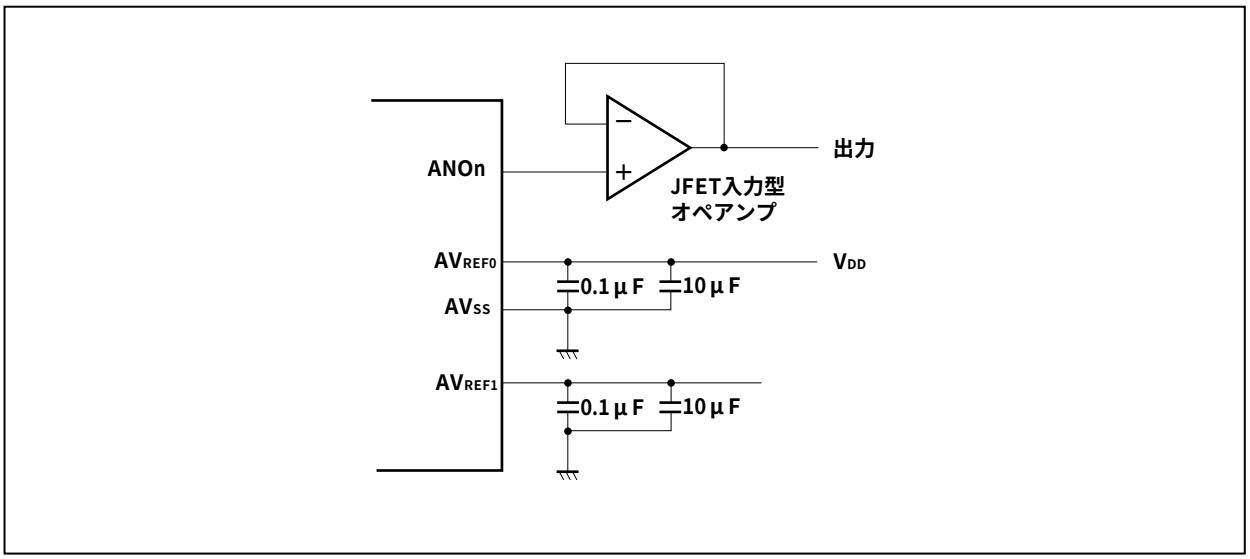
(3) P10/ANO0, P11/ANO1端子を，1本を入出力ポート，1本をD/A出力端子として使用する場合，D/A出力中は，ポートの入出力レベルが変化しないようなアプリケーションで使用してください。

(4) AV_{REF0} = V_{DD} = AV_{REF1} = 3.0～3.6 Vの範囲で使用してください。それ以外の場合の動作は保証できません。

(5) AV_{REF1}の電源投入および電源切断は，AV_{REF0}と同じタイミングで行ってください。

(6) D/Aコンバータの出力インピーダンスが高いため，ANOn端子（n = 0, 1）から電流を取り出すことはできません。2 MΩ以下の抵抗を接続する場合には，抵抗とANOn端子の間にJFET入力型オペアンプを挿入してください。

図14－2　外部端子の接続例



(7) D/Aコンバータは，STOPモード時に動作が停止するため，ANO0, ANO1端子は，ハイ・インピーダンスになり消費電力を低減できます。
ただし，IDLE1, IDLE2モード，サブクロック動作モードでは端子は保持されるため，消費電力を低減する場合にはDA0M.DA0CEnビット = 0にしてください。

第15章　アシンクロナス・シリアル・インタフェースA（UARTA）

15. 1　UARTAとほかのシリアル・インタフェースのモード切り替え

15. 1. 1　CSIB4とUARTA0のモード切り替え

V850ES/JJ3では，CSIB4とUARTA0は端子が兼用になっており，同時には使用できません。UARTA0を使用するときは，あらかじめPMC3, PFC3レジスタで設定する必要があります。

注意　CSIB4またはUARTA0において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。

図15－1　CSIB4とUARTA0のモード切り替え設定

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF446H, FFFFF447H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMC3	0	0	0	0	0	0	PMC39	PMC38

7	6	5	4	3	2	1	0
0	0	PMC35	PMC34	PMC33	PMC32	PMC31	PMC30

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF466H, FFFFF467H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFC3	0	0	0	0	0	0	PFC39	PFC38

7	6	5	4	3	2	1	0
0	0	PFC35	PFC34	PFC33	PFC32	PFC31	PFC30

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF706H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFCE3L	0	0	0	0	0	PFCE32	0	0

PMC32	PFCE32	PFC32	動作モード
0	×	×	ポート入出力モード
1	0	0	ASCKA0
1	0	1	$\overline{\text{SCKB4}}$

PMC3n	PFC3n	動作モード
0	×	ポート入出力モード
1	0	UARTA0モード
1	1	CSIB4モード

備考1.　n = 0, 1

2.　x = don’t care

15. 1. 2　UARTA2とI²C00のモード切り替え

V850ES/JJ3では，UARTA2とI²C00は端子が兼用になっており，同時には使用できません。UARTA2を使用するときは，あらかじめPMC3, PFC3レジスタで設定する必要があります。

注意　UARTA2またはI²C00において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。

図15ー2　UARTA2とI²C00のモード切り替え設定

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF446H, FFFFF447H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMC3	0	0	0	0	0	0	PMC39	PMC38
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	PMC35	PMC34	PMC33	PMC32	PMC31	PMC30

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF466H, FFFFF467H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFC3	0	0	0	0	0	0	PFC39	PFC38
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	PFC35	PFC34	PFC33	PFC32	PFC31	PFC30

PMC3n	PFC3n	動作モード
0	×	ポート入出力モード
1	0	UARTA2モード
1	1	I²C00モード

備考1.　n = 8, 9

2.　x = don’t care

15. 1. 3　UARTA1とI²C02のモード切り替え

V850ES/JJ3では，UARTA1とI²C02は端子が兼用になっており，同時には使用できません。UARTA1を使用するときは，あらかじめPMC9, PFC9, PFCE9レジスタで設定する必要があります。

注意　UARTA1とI²C02において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。

図15ー3　UARTA1とI²C02のモード切り替え設定

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF452H, FFFFF453H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMC9	PMC915	PMC914	PMC913	PMC912	PMC911	PMC910	PMC99	PMC98
	7	6	5	4	3	2	1	0
	PMC97	PMC96	PMC95	PMC94	PMC93	PMC92	PMC91	PMC90

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF472H, FFFFF473H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFC9	PFC915	PFC914	PFC913	PFC912	PFC911	PFC910	PFC99	PFC98
	7	6	5	4	3	2	1	0
	PFC97	PFC96	PFC95	PFC94	PFC93	PFC92	PFC91	PFC90

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF712H, FFFFF713H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFCE9	PFCE915	PFCE914	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	PFCE97	PFCE96	PFCE95	PFCE94	PFCE93	PFCE92	PFCE91	PFCE90

PMC9n	PFCE9n	PFC9n	動作モード
1	1	0	UARTA1モード
1	1	1	I²C02モード

備考　n = 0, 1

15. 2　特　　徴

○転送速度　300 bps～625 kbps（内部システム・クロック32 MHz，専用ボー・レート・ジェネレータ使用）

○全二重通信　UARTAn受信データ・レジスタ（UAnRX）内蔵

UARTAn送信データ・レジスタ（UAnTX）内蔵

○2端子構成　TXDAn：送信データの出力端子

RXDAn：受信データの入力端子

○受信エラー検出機能

・パリティ・エラー

・フレーミング・エラー

・オーバラン・エラー

○割り込みソース：2種類

・受信完了割り込み（INTUAnR）　：受信許可状態において，シリアル転送完了後，受信シフト・レジスタから受信データ・レジスタへ受信データを転送すると発生

・送信許可割り込み（INTUAnT）　：送信許可状態において，送信データ・レジスタから送信シフト・レジスタへ送信データを転送すると発生

○キャラクタ長：7, 8ビット

○パリティ機能：奇数，偶数，0，なし

○送信ストップ・ビット：1, 2ビット

○専用ボー・レート・ジェネレータ内蔵

○MSB/LSBファースト転送選択可能

○送受信データの反転入出力が可能

○LIN（Local Interconnect Network）通信フォーマットにおけるSBF（Synch Break Field）送受信可能

・SBF送信は13-20ビットまで選択可能

・SBF受信は11ビット以上認識可能

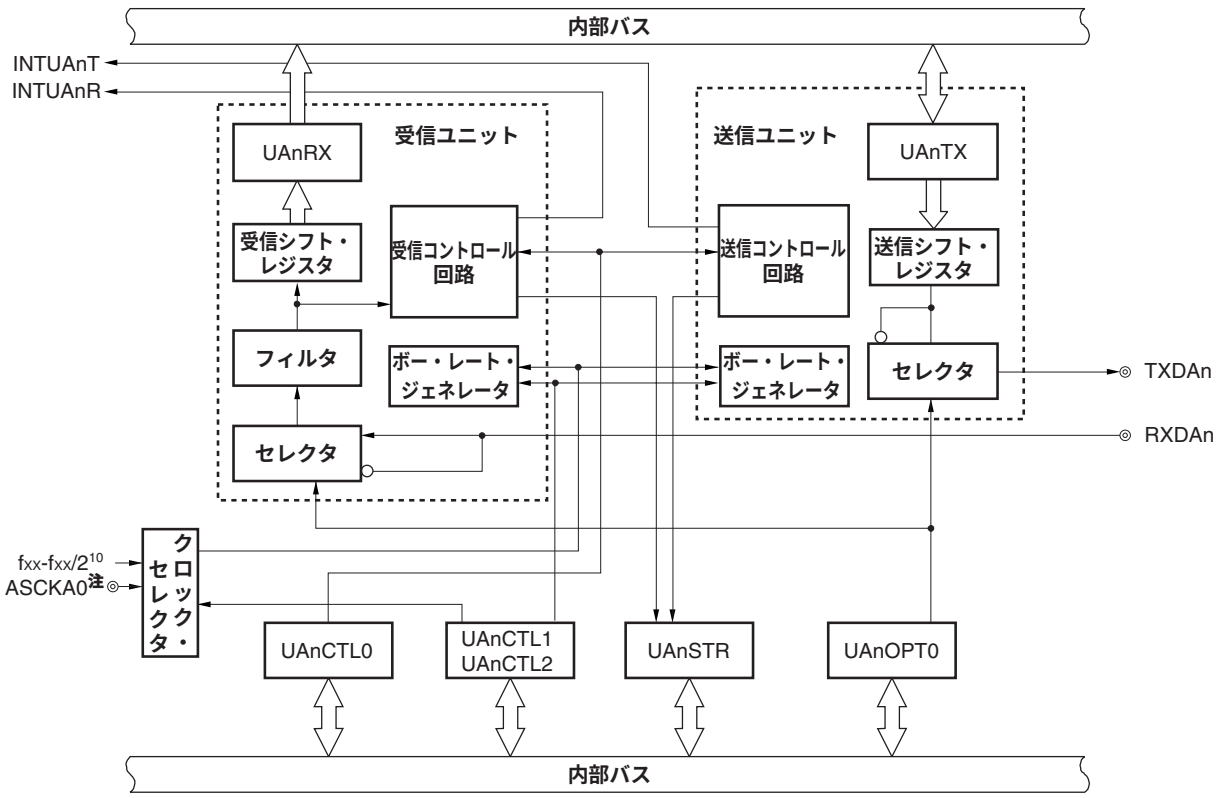
・SBF受信フラグあり

備考　n = 0-3

15. 3　構　　成

次にUARTAnのブロック図を示します。

図15ー4　アシンクロナス・シリアル・インタフェースAnのブロック図



注　UARTA0のみ

備考1.　n = 0-3

2.　ボー・レート・ジェネレータの構成は図15ー16を参照してください。

UARTAnは，次のハードウエアで構成されています。

表15ー1　UARTAnの構成

項　　目	構　　成
レジスタ	UARTAn制御レジスタ0（UAnCTL0） UARTAn制御レジスタ1（UAnCTL1） UARTAn制御レジスタ2（UAnCTL2） UARTAnオプション制御レジスタ0（UAnOPT0） UARTAn状態レジスタ（UAnSTR） UARTAn受信シフト・レジスタ UARTAn受信データ・レジスタ（UAnRX） UARTAn送信シフト・レジスタ UARTAn送信データ・レジスタ（UAnTX）

（1）UARTAn**制御レジスタ**0（UAnCTL0）

UAnCTL0**レジスタは，**UARTAn**の動作を指定する**8**ビット・レジスタです。**

（2）UARTAn**制御レジスタ**1（UAnCTL1）

UAnCTL1**レジスタは，**UARTAn**の入力クロックを選択する**8**ビット・レジスタです。**

（3）UARTAn**制御レジスタ**2（UAnCTL2）

UAnCTL2**レジスタは，**UARTAn**のボー・レートを制御する**8**ビット・レジスタです。**

（4）UARTAn**オプション制御レジスタ**0（UAnOPT0）

UAnOPT0**レジスタは，**UARTAn**のシリアル転送を制御する**8**ビット・レジスタです。**

（5）UARTAn**状態レジスタ**（UAnSTR）

UAnSTR**レジスタは，受信エラー発生時のエラー内容を示すフラグの集合レジスタです。受信エラーの各フラグは受信エラー発生時にセット**（1）**されます。**

（6）UARTAn**受信シフト・レジスタ**

RXDAn**端子に入力されたシリアル・データをパラレル・データに変換するシフト・レジスタです。**1**バイト分のデータを受信し，ストップ・ビットを検出すると，受信データを**UAnRX**レジスタへ転送します。**

このレジスタは直接操作することはできません。

（7）UARTAn**受信データ・レジスタ**（UAnRX）

UAnRX**レジスタは，受信データを保持する**8**ビットのバッファ・レジスタです。**7**キャラクタの受信では上位ビットには**0**が格納されます**（LSB**ファースト受信時**）。**

受信許可状態中は，受信データは1**フレーム分のシフト・イン処理終了に同期して**UARTAn**受信シフト・レジスタから**UAnRX**レジスタに転送されます。**

また，UAnRX**レジスタへの転送により，受信完了割り込み要求信号**（INTUAnR）**が発生します。**

（8）UARTAn**送信シフト・レジスタ**

送信シフト・レジスタは，UAnTX**レジスタから転送されたパラレル・データをシリアル・データに変換するシフト・レジスタです。**

UAnTX**レジスタから**1**バイト分のデータが転送されると，シフト・レジスタのデータを**TXDAn**端子から出力します。**

このレジスタは直接操作することはできません。

（9）UARTAn**送信データ・レジスタ**（UAnTX）

UAnTX**レジスタは，**8**ビットの送信データ用バッファです。**UAnTX**レジスタへ送信データを書き込むことにより，送信動作が開始されます。**UAnTX**レジスタにデータの書き込みが可能になる**（UAnTX**レジスタから**UARTAn**送信シフト・レジスタに**1**フレーム分のデータが転送される**）**と，送信許可割り込み要求信号**（INTUAnT）**を発生します。**

15. 4　レジスタ

（1）UARTAn制御レジスタ0（UAnCTL0）

UAnCTL0レジスタは，UARTAnシリアル転送動作を制御する8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより10Hになります。

（1/2）

リセット時：10H　R/W　アドレス：UA0CTL0 FFFFFA00H, UA1CTL0 FFFFFA10H,
UA2CTL0 FFFFFA20H, UA3CTL0 FFFFFA30H

	⑦	⑥	⑤	④	3	2	1	0
UAnCTL0 （n = 0-3）	UAnPWR	UAnTXE	UAnRXE	UAnDIR	UAnPS1	UAnPS0	UAnCL	UAnSL

UAnPWR	UARTAnの動作の制御
0	UARTAn動作禁止（UARTAnを非同期にリセット）
1	UARTAn動作許可

UAnPWRビットにより，UARTAn動作の制御を行います。UAnPWRビットをクリア（0）すると，TXDAn端子の出力はハイ・レベルに固定されます（UAnOPT0.UAnTDLビット = 1のときは，ロウ・レベルに固定されます）。

UAnTXE	送信動作許可
0	送信動作禁止
1	送信動作許可

- 起動時はUAnPWRビット = 1にしてから，UAnTXEビット = 1としてください。また，停止時はUAnTXEビット = 0にしてから，UAnPWRビット = 0としてください。
- 送信ユニットを初期化する場合は，UAnTXEビットをクリア（0）して，基本クロックの2周期分の時間を経過してから，再びUAnTXEビットをセット（1）しなければ，状態の初期化ができない場合があります（基本クロックについては15. 7（1）（a）基本クロック参照）。

UAnRXE	受信動作許可
0	受信動作禁止
1	受信動作許可

- 起動時はUAnPWRビット = 1にしてから，UAnRXEビット = 1としてください。また，停止時は，UAnRXEビット = 0にしてから，UAnPWRビット = 0としてください。
- 受信ユニットの状態を初期化する場合は，UAnRXEビットをクリア（0）して，基本クロックの2周期分の時間を経過してから，再びUAnRXEビットをセット（1）しなければ，状態の初期化ができない場合があります（基本クロックについては15. 7（1）（a）基本クロック参照）。

（2/2）

UAnDIR	転送方向選択
0	MSB転送ファースト
1	LSB転送ファースト

・UAnPWRビット = 0，またはUAnTXEビット = UAnRXEビット = 0の場合のみ書き換え可能です。
・LINのフォーマットで送受信を行う場合は，UAnDIRビットは“1”に設定してください。

UAnPS1	UAnPS0	送信時のパリティ選択	受信時のパリティ選択
0	0	パリティを出力しない	パリティなしで受信
0	1	0パリティを出力	0パリティとして受信
1	0	奇数パリティを出力	奇数パリティとして判定を行う
1	1	偶数パリティを出力	偶数パリティとして判定を行う

・UAnPWRビット = 0，またはUAnTXEビット = UAnRXEビット = 0の場合のみ書き換え可能です。
・受信時に「0パリティとして受信」を選択した場合，パリティ判定を行いません。したがって，UAnSTR.UAnPEビットはセットされません。
・LINのフォーマットで送受信を行う場合，UAnPS1, UAnPS0ビットは“00”に設定してください。

UAnCL	送受信データ1フレームのデータ・キャラクタ長指定
0	7ビット
1	8ビット

・UAnPWRビット = 0，またはUAnTXEビット = UAnRXEビット = 0の場合のみ書き換え可能です。
・LINのフォーマットで送受信を行う場合は，UAnCLビットは“1”に設定してください。

UAnSL	送信データのストップ・ビット長指定
0	1ビット
1	2ビット

UAnPWRビット = 0，またはUAnTXEビット = UAnRXEビット = 0の場合のみ書き換え可能です。

備考　パリティについての詳細は，15. 6. 9　**パリティの種類と動作**を参照してください。

（2）UARTAn**制御レジスタ**1（UAnCTL1）

詳細は，15. 7（2）UARTAn**制御レジスタ**1（UAnCTL1）を参照してください。

（3）UARTAn**制御レジスタ**2（UAnCTL2）

詳細は，15. 7（3）UARTAn**制御レジスタ**2（UAnCTL2）を参照してください。

（4）UARTAn オプション制御レジスタ 0（UAnOPT0）

UAnOPT0 レジスタは，UARTAn のシリアル転送動作を制御する 8 ビットのレジスタです。

8/1 ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより 14H になります。

（1/2）

リセット時：14H　R/W　アドレス：UA0OPT0 FFFFFA03H, UA1OPT0 FFFFFA13H, UA2OPT0 FFFFFA23H, UA3OPT0 FFFFFA33H

	⑦	6	5	4	3	2	1	0
UAnOPT0 (n = 0-3)	UAnSRF	UAnSRT	UAnSTT	UAnSLS2	UAnSLS1	UAnSLS0	UAnTDL	UAnRDL

UAnSRF	SBF受信フラグ
0	UAnCTL0.UAnPWRビット = UAnRXEビット = 0に設定したとき。または SBF受信正常終了したとき。
1	SBF受信中

- LIN通信でのSBF（Synch Break Field）を受信していることを判断します。
- SBF受信エラー時，UAnSRFビットは“1”を保持し，そのあと再度SBF受信を開始します。
- UAnSRFビットはリードのみ可能です。

UAnSRT	SBF受信トリガ
0	—
1	SBF受信トリガ

- LIN通信でのSBFの受信トリガ・ビットであり，読み出した場合，常に“0”が読み出されます。SBFを受信する場合，UAnSRTビットをセット（1）しSBF受信可能状態にしてください。
- UAnPWRビット = UAnRXEビット = 1としてからUAnSRTビットを設定してください。

UAnSTT	SBF送信トリガ
0	—
1	SBF送信トリガ

- LIN通信でのSBFの送信トリガ・ビットであり，読み出した場合，常に“0”が読み出されます。
- UAnPWRビット = UAnTXEビット = 1としてからUAnSTTビットを設定してください。

注意　UAnSRT, UAnSTT ビットは，SBF 受信中（UAnSRF ビット = 1）にセット（1）しないでください。

（2/2）

UAnSLS2	UAnSLS1	UAnSLS0	SBF送信長選択
1	0	1	13ビット長で出力（リセット値）
1	1	0	14ビット長で出力
1	1	1	15ビット長で出力
0	0	0	16ビット長で出力
0	0	1	17ビット長で出力
0	1	0	18ビット長で出力
0	1	1	19ビット長で出力
1	0	0	20ビット長で出力
UAnPWRビット = 0またはUAnTXEビット = 0のとき設定できます。			

UAnTDL	送信データ・レベル・ビット
0	転送データ通常出力
1	転送データ反転出力
・UAnTDLビットによりTXDAn端子の出力レベルを反転できます。 ・UAnPWRビット = 0またはUAnTXEビット = 0のとき設定できます。	

UAnRDL	受信データ・レベル・ビット
0	転送データ通常入力
1	転送データ反転入力
・UAnRDLビットによりRXDAn端子の入力レベルを反転できます。 ・UAnPWRビット = 0またはUAnRXEビット = 0のとき設定できます。	

（5）UARTAn状態レジスタ（UAnSTR）

UAnSTRレジスタは，UARTAnの転送状態と受信エラー内容を示す8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。UAnTSFビットはリードのみ可能で，UAnPE，UAnFE，UAnOVEビットについてはリード／ライト可能ですが，ライト時は“0”ライトによるクリアのみ可能で，“1”ライトによるセット動作はできません（“1”をライトしても値を保持します）。

次に初期化条件を示します。

レジスタ／ビット	初期化条件
UAnSTRレジスタ	・リセット ・UAnCTL0.UAnPWRビット = 0
UAnTSFビット	・UAnCTL0.UAnTXEビット = 0
UAnPE, UAnFE, UAnOVEビット	・0の書き込み ・UAnCTL0.UAnRXEビット = 0

リセット時：00H　R/W　アドレス：UA0STR FFFFFA04H, UA1STR FFFFFA14H,
UA2STR FFFFFA24H, UA3STR FFFFFA34H

	⑦	6	5	4	3	②	①	⓪
UAnSTR	UAnTSF	0	0	0	0	UAnPE	UAnFE	UAnOVE

(n = 0-3)

UAnTSF	転送状態フラグ
0	・UAnPWRビット = 0，またはUAnTXEビット = 0に設定したとき ・転送完了後に，UAnTXレジスタに次のデータ転送がなかったとき
1	UAnTXレジスタへの書き込み

連続送信を行っている場合にはUAnTSFビットは常に“1”になっています。
送信ユニットの初期化を行う場合には，UAnTSFビット = 0になっていることを確認してから初期化を行ってください。UAnTSFビット = 1の状態で初期化を行った場合の送信データは保証できません。

UAnPE	パリティ・エラー・フラグ
0	・UAnPWRビット = 0，またはUAnRXEビット = 0に設定したとき ・“0”をライトしたとき
1	受信時，データのパリティとパリティ・ビットが一致しないとき

・UAnPEビットの動作は，UAnCTL0.UAnPS1, UAnPS0ビットの設定により左右されます。
・UAnPEビットはリード／ライト可能となっていますが，“0”ライトによるクリアのみ可能で，“1”ライトによるセット動作はできません。“1”をライトした場合，値を保持します。

UAnFE	フレーミング・エラー・フラグ
0	・UAnPWRビット = 0，またはUAnRXEビット = 0に設定したとき ・“0”をライトしたとき
1	受信時，ストップ・ビットが検出されないとき

・受信データのストップ・ビットは，UAnCTL0.UAnSLビットの値に関わらず，最初の1ビットのみチェックします。
・UAnFEビットはリード／ライト可能となっていますが，“0”ライトによるクリアのみ可能で，“1”ライトによるセット動作はできません。“1”をライトした場合，値を保持します。

UAnOVE	オーバラン・エラー・フラグ
0	・UAnPWRビット = 0，またはUAnRXEビット = 0に設定したとき ・“0”をライトしたとき
1	UAnRXレジスタに受信データがセットされ，それを読み出す前に次の受信動作が完了したとき

・オーバラン・エラーが発生したとき，次の受信データは受信バッファに書き込まれず，データは破棄されます。
・UAnOVEビットはリード／ライト可能となっていますが，“0”ライトによるクリアのみ可能で，“1”ライトによるセット動作はできません。“1”をライトした場合，値を保持します。

（6）UARTAn受信データ・レジスタ（UAnRX）

UAnRXレジスタは，受信シフト・レジスタで変換したパラレル・データを格納するための8ビット・バッファ・レジスタです。

1バイト・データの受信完了により受信シフト・レジスタに格納したデータをUAnRXレジスタに転送します。

データ長を7ビットに指定し，LSBファーストで受信する場合，受信データはUAnRXレジスタのビット6-ビット0に転送され，MSBは必ず“ 0 ”になります。MSBファーストで受信する場合，受信データはUAnRXレジスタのビット7-ビット1に転送されLSBは必ず “ 0 ” になります。

オーバラン・エラー（UAnOVE）が発生した場合は，そのときの受信データはUAnRXレジスタに転送されず破棄されます。

8ビット単位でリードのみ可能です。

リセット以外に，UAnCTL0.UAnPWRビット = 0によってもUAnRXレジスタはFFHになります。

リセット時：FFH　R　アドレス：UA0RX FFFFFA06H, UA1RX FFFFFA16H,
UA2RX FFFFFA26H, UA3RX FFFFFA36H

	7	6	5	4	3	2	1	0
UAnRX								

（n = 0-3）

（7）UARTAn送信データ・レジスタ（UAnTX）

UAnTXレジスタは，送信データを設定するための8ビット・レジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットによりFFHになります。

リセット時：FFH　R/W　アドレス：UA0TX FFFFFA07H, UA1TX FFFFFA17H,
UA2TX FFFFFA27H, UA3TX FFFFFA37H

	7	6	5	4	3	2	1	0
UAnTX								

（n = 0-3）

15. 5　割り込み要求信号

UARTAnからは次の2種類の割り込み要求信号を発生します。

・受信完了割り込み要求信号（INTUAnR）
・送信許可割り込み要求信号（INTUAnT）

これら2種類の割り込み要求信号のディフォールト優先順位は受信完了割り込み要求信号の方が高く，送信許可割り込み要求信号の方が低くなっています。

表15－2　発生する割り込みとディフォールト優先順位

割り込み	優先順位
受信完了	高
送信許可	低

(1) 受信完了割り込み要求信号（INTUAnR）

受信許可状態中で，受信シフト・レジスタにデータがシフト・インされUAnRXレジスタに転送されると受信完了割り込み要求信号が発生します。

受信完了割り込み要求信号は，受信エラーが起った場合にも発生しますので，受信完了割り込み要求信号を受け付け，データを読み出すときに，UAnSTRレジスタを読み出して受信結果がエラーでないか確認してください。

受信禁止状態中は，受信完了割り込み要求信号は発生しません。

(2) 送信許可割り込み要求信号（INTUAnT）

送信許可状態で，UAnTXレジスタからUARTAn送信シフト・レジスタへ送信データが転送されると送信許可割り込み要求信号を発生します。

15. 6　動　　作

15. 6. 1　データ・フォーマット

全二重シリアル・データの送受信を行います。

送受信データのフォーマットは図15－5に示すとおり，スタート・ビット，キャラクタ・ビット，パリティ・ビット，ストップ・ビットで1データ・フレームを構成します。

1データ・フレーム内のキャラクタ・ビット長の指定，パリティ選択，ストップ・ビット長の指定，MSB/LSBファーストの転送指定は，UAnCTL0レジスタによって行います。

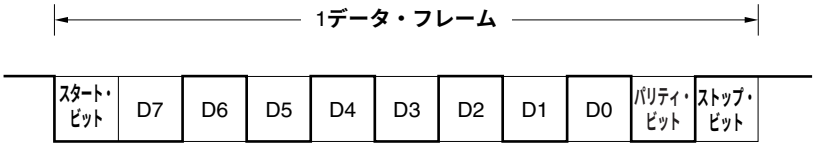
また，UAnOPT0.UAnTDLビットでTXDAn端子のUART出力／反転出力の制御を行います。

- スタート・ビット　……　1ビット
- キャラクタ・ビット　…　7ビット/8ビット
- パリティ・ビット　……　偶数パリティ／奇数パリティ/0パリティ／パリティなし
- ストップ・ビット　……　1ビット/2ビット

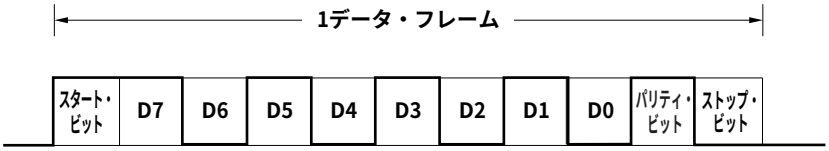
図15ー5　UARTAの送受信データのフォーマット

(a) 8ビット・データ長，LSBファースト，偶数パリティ，1ストップ・ビット，転送データ：55H

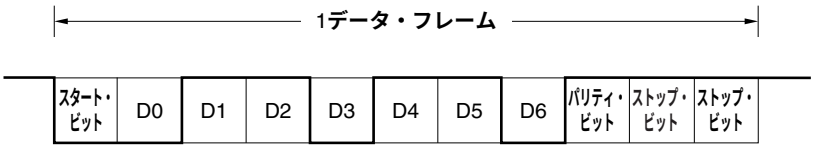
(b) 8ビット・データ長，MSBファースト，偶数パリティ，1ストップ・ビット，転送データ：55H



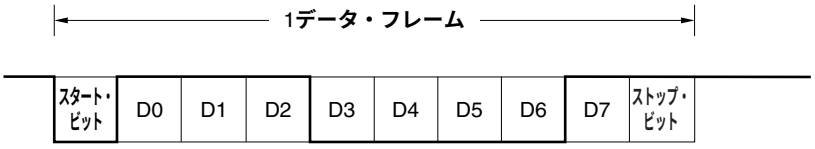
(c) 8ビット・データ長，MSBファースト，偶数パリティ，1ストップ・ビット，転送データ：55H, TXDAn反転



(d) 7ビット・データ長，LSBファースト，奇数パリティ，2ストップ・ビット，転送データ：36H



(e) 8ビット・データ長，LSBファースト，パリティなし，1ストップ・ビット，転送データ：87H



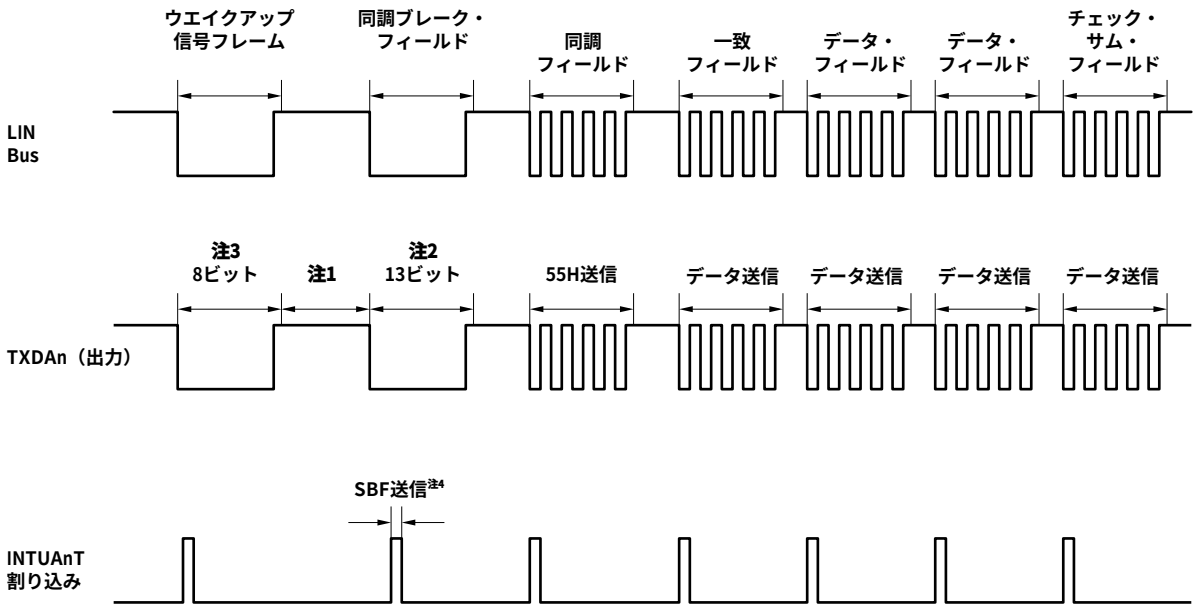
15. 6. 2　SBF送信／受信フォーマット

V850ES/JJ3にはLIN機能として使用するために，SBF（Synch Break Field）送信／受信制御機能があります。

備考　LINとは，Local Interconnect Networkの略称で，車載ネットワークのコストダウンを目的とする低速（1～20 kbps）のシリアル通信プロトコルです。
LINの通信はシングル・マスタ通信で，1つのマスタに対し最大15のスレーブが接続可能です。
LINのスレーブは，スイッチ，アクチュエータ，センサなどの制御に使用され，これらがLINのネットワークを介してLINのマスタに接続されます。
LINのマスタは通常，CAN（Controller Area Network）などのネットワークに接続されます。
また，LINバスはシングル・ワイヤ方式で，ISO9141に準拠したトランシーバを介して各ノードが接続されます。
LINのプロトコルでは，マスタはフレームにボー・レート情報をつけて送信し，スレーブはこれを受信してマスタとのボー・レート誤差を補正します。このため，スレーブのボー・レート誤差が±15 %以下であれば，通信可能です。

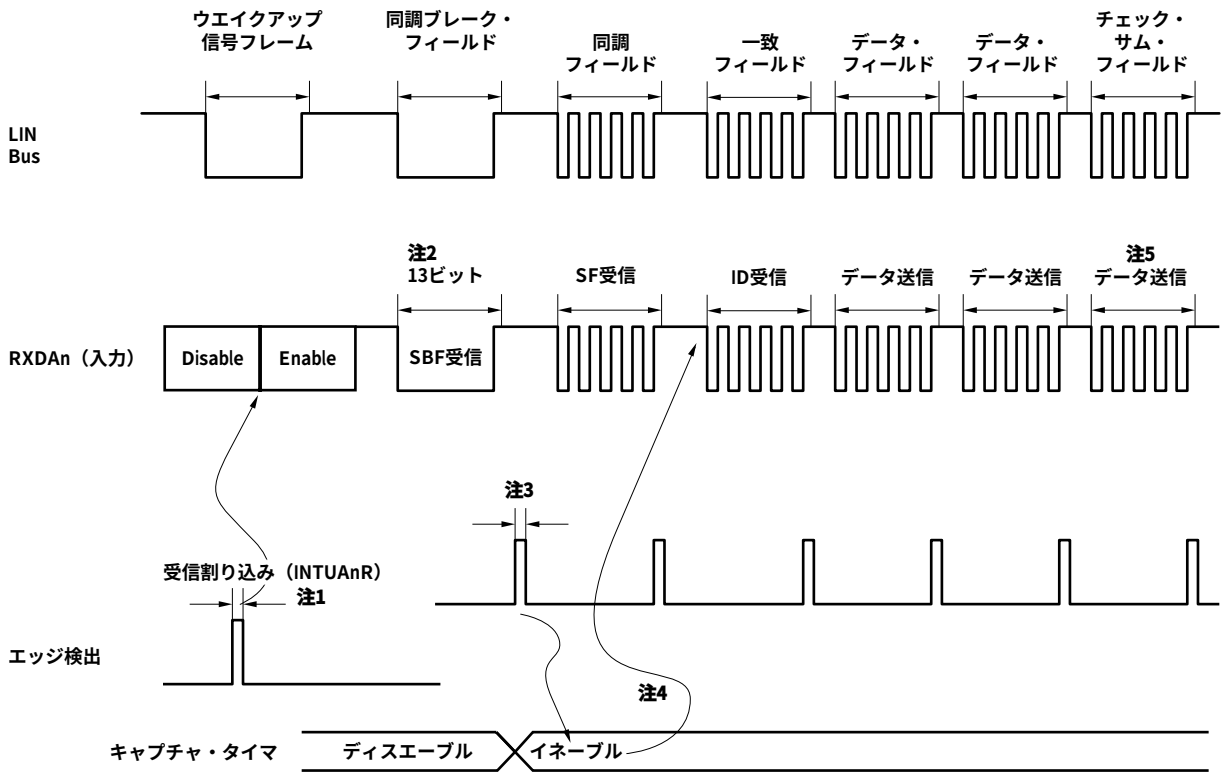
LINの送信操作と受信操作の概略を，図15－6，図15－7に示します。

図15－6　LINの送信操作概略



注1.　各フィールド間の間隔はソフトウエアで制御します。
2.　SBFの出力はハードウエアで行います。出力幅はUAnOPT0.UAnSLS2-UAnSLS0ビットで設定したビット長になります。さらに細かい出力幅調整が必要な場合は，UAnCTL2.UAnBRS7-UAnBRS0ビット値で調整します。
3.　ウエイクアップ信号フレームは，8ビット・モードの80H転送で代用します。
4.　各送信開始時には送信許可割り込み要求信号（INTUAnT）を出力します。SBF送信開始時もINTUAnT信号を出力します。

図15ー7　LINの受信操作概略



注1.　**ウエイクアップ・シグナルは，端子のエッジ検出器で行い，**UARTAn**をイネーブルし，**SBF**受信モードに設定します。**

2.　STOP**ビットの検出まで受信動作を行います。**11**ビット以上の**SBF**受信を検出したら，正常**SBF**受信終了と判断し，割り込み信号を出力します。**11**ビット以下の**SBF**受信を検出したら，**SBF**受信エラーと判断し，割り込み信号を出力せず，**SBF**受信モードに戻ります。**

3.　**正常に**SBF**受信を終了した場合，割り込み要求信号を出力します。**SBF**受信完了割り込みでタイマをイネーブルにします。また，**UAnSTR.UAnOVE, UAnPE, UAnFE**ビットの各エラー検出は抑制され，**UART**通信のエラー検出処理，および**UARTAn**受信シフト・レジスタと**UAnRX**レジスタのデータ転送も行われません。**UARTAn**受信シフト・レジスタは初期値の**FFH**を保持します。**

4.　RXDAn**端子をタイマの**TI**（キャプチャ入力）に接続し転送レートを計算し，ボー・レート誤差を算出します，**SF**受信後に**UARTA**のイネーブルを落としてからボー・レート誤差を補正した**UAnCTL2**レジスタの値を再セットし，受信状態にします。**

5.　**チェック・サム・フィールドの区別はソフトウエアで行います。**CSF**受信後に**UARTAn**を初期化し，再び**SBF**受信モードに設定する処理もソフトウエアにて行います。**

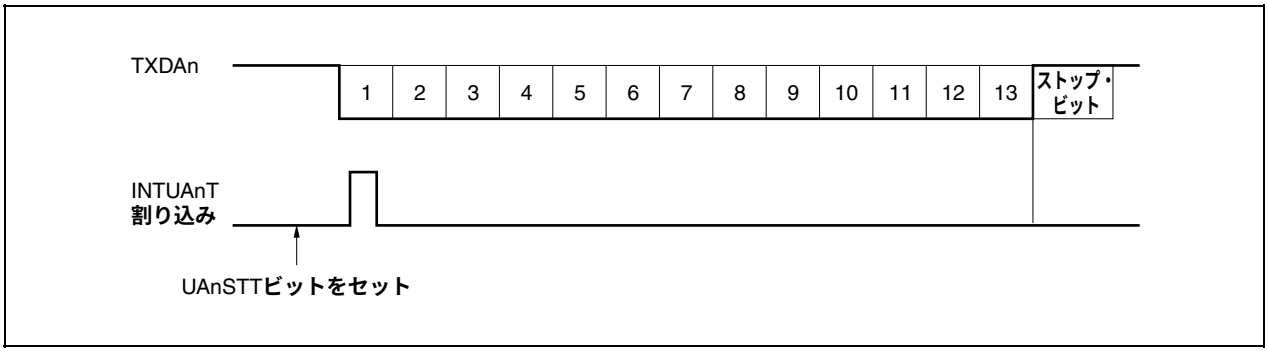
15. 6. 3　SBF送信

UAnCTL0.UAnPWRビット = UAnTXEビット = 1にすると送信許可状態となり，SBF送信トリガ（UAnOPT0.UAnSTTビット）をセット（1）することによりSBF送信動作は起動します。

そのあとUAnOPT0.UAnSLS2-UAnSLS0ビットで指定された13ビットから20ビット分までの幅のロウ・レベルを出力します。SBF送信開始時には送信許可割り込み要求信号（INTUAnT）を発生します。SBF送信を終了したあと，UAnSTTビットは自動的にクリアされます。そのあと，UART送信モードに戻ります。

次に送信するデータをUAnTXレジスタに書き込み，あるいはSBF送信トリガ（UAnSTTビット）をセットするまで，送信動作は中断します。

図15ー8　SBF送信



15. 6. 4　SBF受信

UAnCTL0.UAnPWRビット = 1にして，次に，UAnCTL0.UAnRXEビット = 1にすることにより，受信待ち状態になります。

SBF受信トリガ（UAnOPT0.UAnSRTビット）をセット（1）することで，SBF受信待ち状態になります。

SBF受信待ち状態はUARTの受信待ち状態と同じくRXDAn端子をモニタし，スタート・ビットの検出を行います。

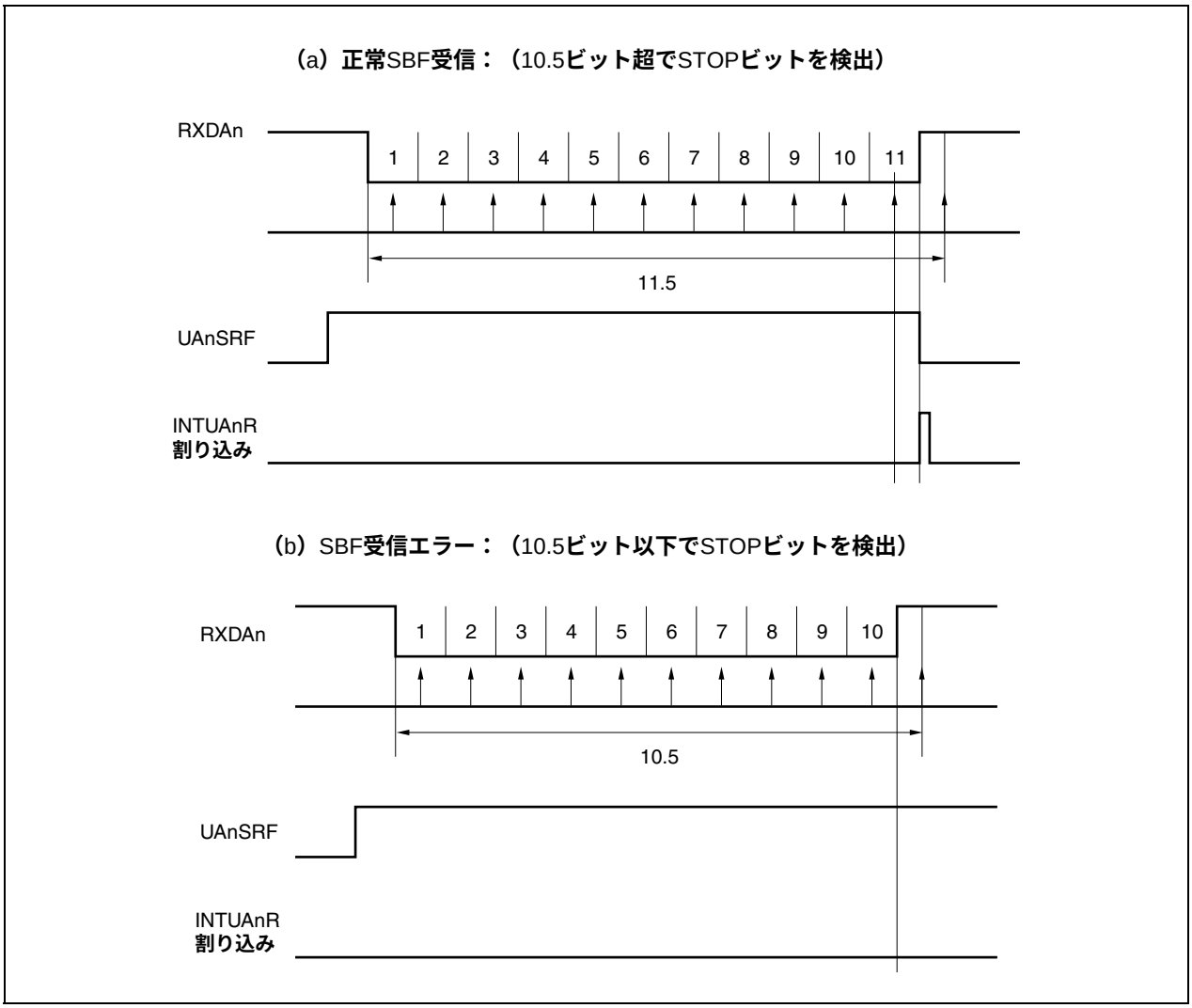
スタート・ビットを検出したら，受信動作を開始し，設定されたボー・レートにあわせて，内蔵カウンタをカウント・アップします。

ストップ・ビットを受信したら，SBFの幅が11ビット長以上の場合，正常処理として，受信完了割り込み要求信号（INTUAnR）を発生します。UAnOPT0.UAnSRFビットは自動的にクリアされ，SBF受信を終了します。UAnSTR.UAnOVE，UAnPE，UAnFEビットの各エラー検出は抑制されUART通信のエラー検出処理は行われません。また，UARTAn受信シフト・レジスタとUAnRXレジスタのデータの転送も行われず，初期値のFFHを保持します。SBFの幅が10ビット長以下の場合，エラー処理として，割り込みを出さずに受信を終了し，再びSBF受信モードに戻ります。その際UAnSRFビットはクリアされません。

注意1.　データ受信中に，SBFが送信されてきた場合には，フレーミング・エラーとなります。

2.　SBF受信トリガ・ビット（UAnSRT），SBF送信トリガ・ビット（UAnSTT）はSBF受信中（UAnSRF = 1）にセット（1）しないでください。

図15ー9　SBF受信



15. 6. 5　UART送信

UAnCTL0.UAnPWRビット ＝1とすることにより，TXDAn端子からハイ・レベルを出力します。

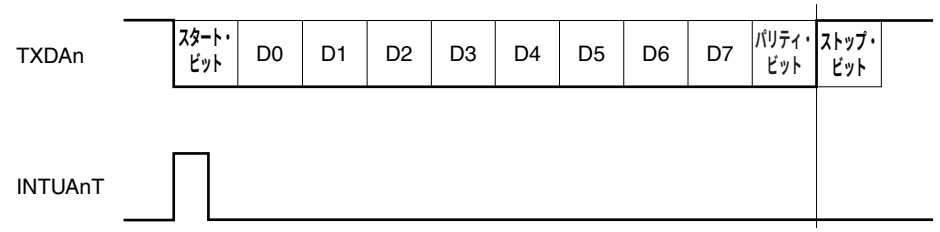
次に，UAnCTL0.UAnTXEビット ＝1にすると送信許可状態となり，UAnTXレジスタに送信データを書き込むことにより送信動作は起動します。スタート・ビット，パリティ・ビット，ストップ・ビットは自動的に付加します。

なお，UARTAnにはCTS（送信許可信号）入力端子がないので，相手側が受信許可状態かを確認するときはポートを使用してください。

送信動作の開始により，UAnTXレジスタ内のデータをUARTAn送信シフト・レジスタへ転送します。

UAnTXレジスタのデータをUARTAn送信シフト・レジスタに転送完了したタイミングで，送信許可割り込み要求信号（INTUAnT）を発生し，そのあとUARTAn送信シフト・レジスタから順次，TXDAn端子に出力します。INTUAnT信号の発生後，UAnTXレジスタに次の転送データの書き込みができます。

図15－10　UART送信



備考　LSBファースト

15. 6. 6　連続送信の手順説明

UARTAnはUARTAn送信シフト・レジスタがシフト動作を開始した時点で，次の送信データをUAnTXレジスタへ書き込むことができます。UARTAn送信シフト・レジスタへの送信タイミングは，送信許可割り込み要求信号（INTUAnT）で判断できます。次に送信するデータを，転送中にUAnTXレジスタに書き込むことにより，効率的な通信レートを実現できます。

注意　送信の初期化を行う場合，連続送信実行中は，UAnSTR.UAnTSFビットが“0”であることを確認してから初期化を実行してください。UAnTSFビットが“1”のときに初期化を実行した場合の送信データの保証できません。

図15－11　連続送信の処理フロー

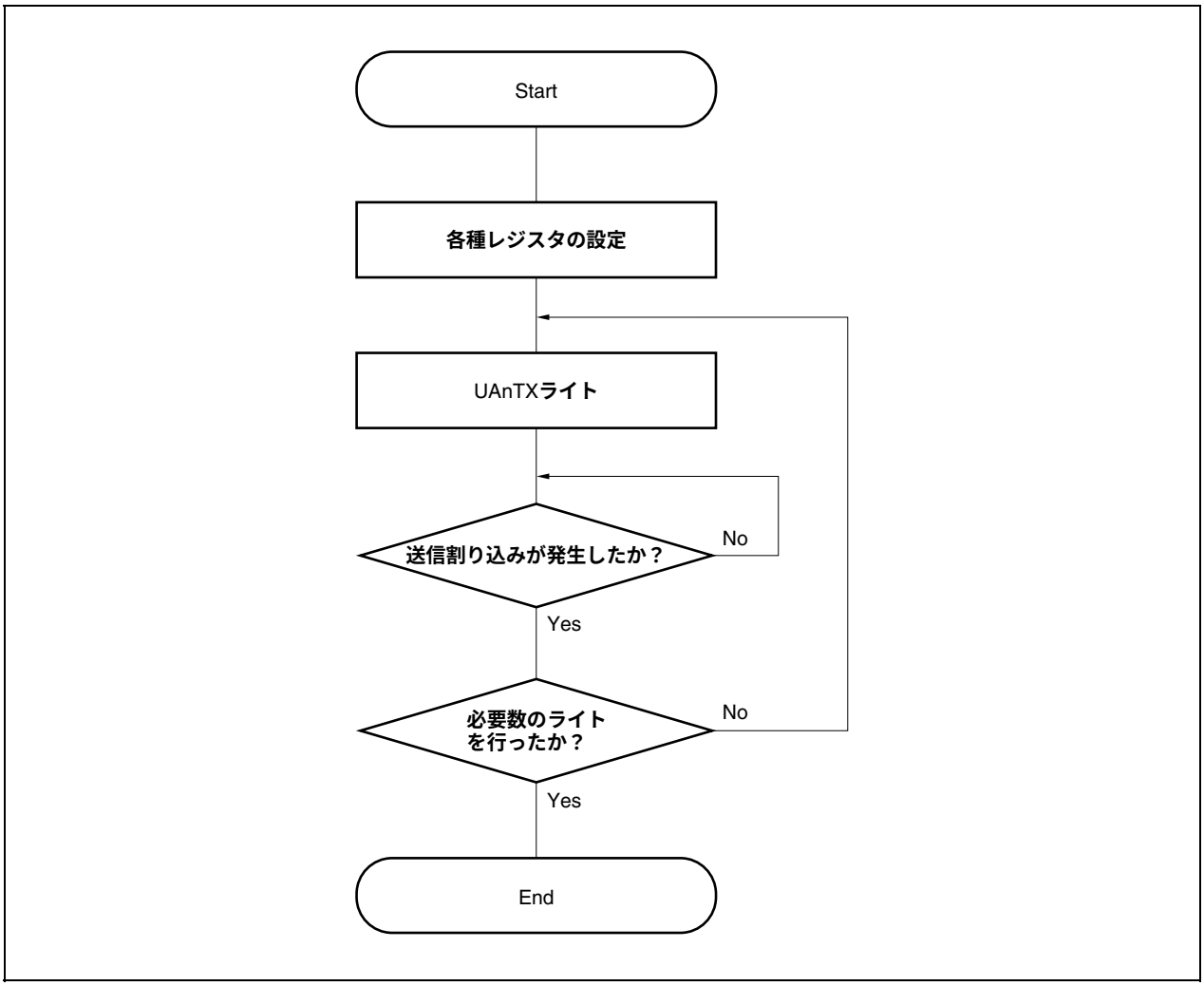
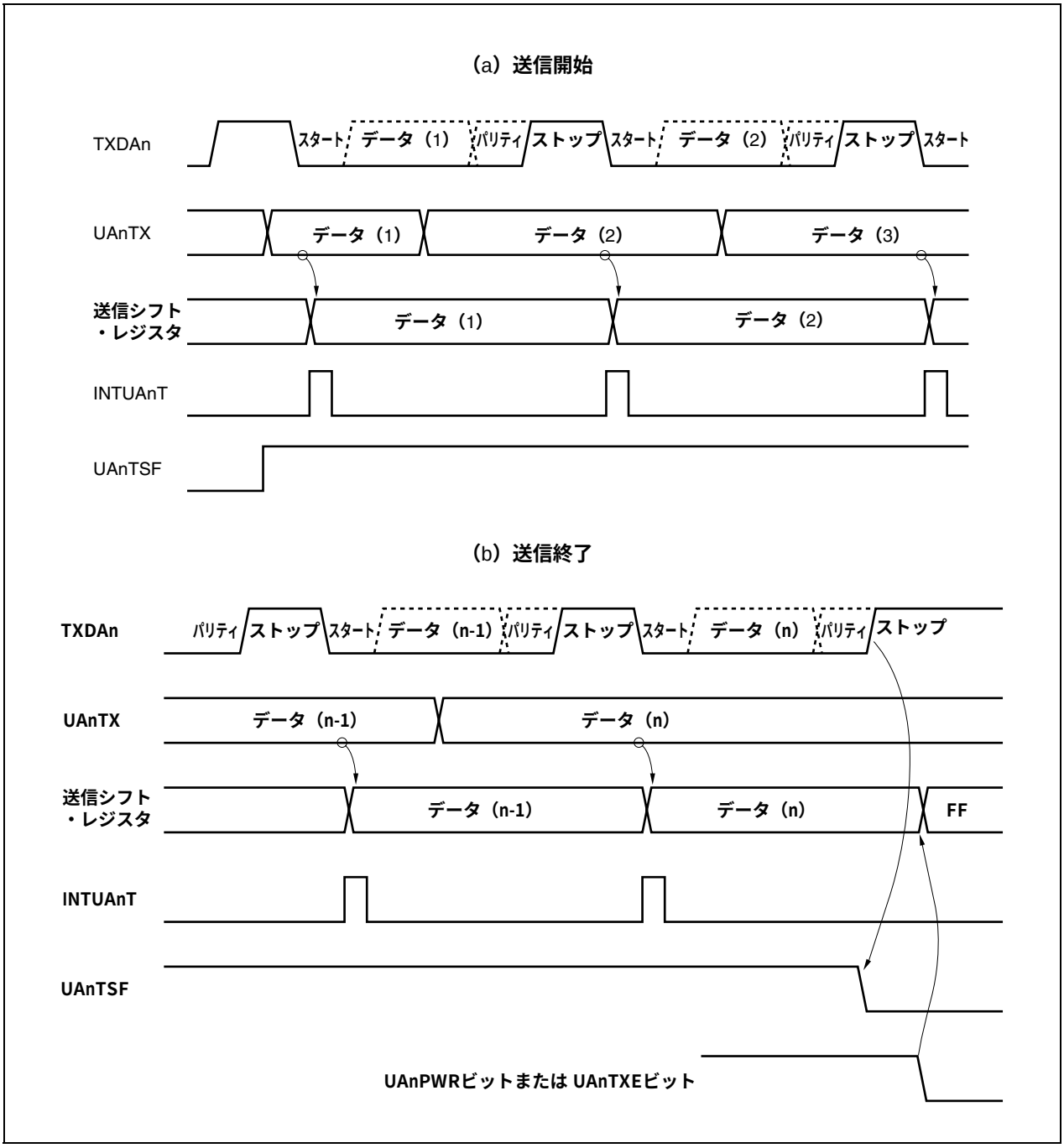


図15－12　連続送信動作のタイミング



15. 6. 7　UART受信

UAnCTL0.UAnPWRビット ＝1にして，次にUAnCTL0.UAnRXEビット ＝1にすることにより，受信待ち状態になります。受信待ち状態では，RXDAn端子をモニタし，スタート・ビットの検出を行います。

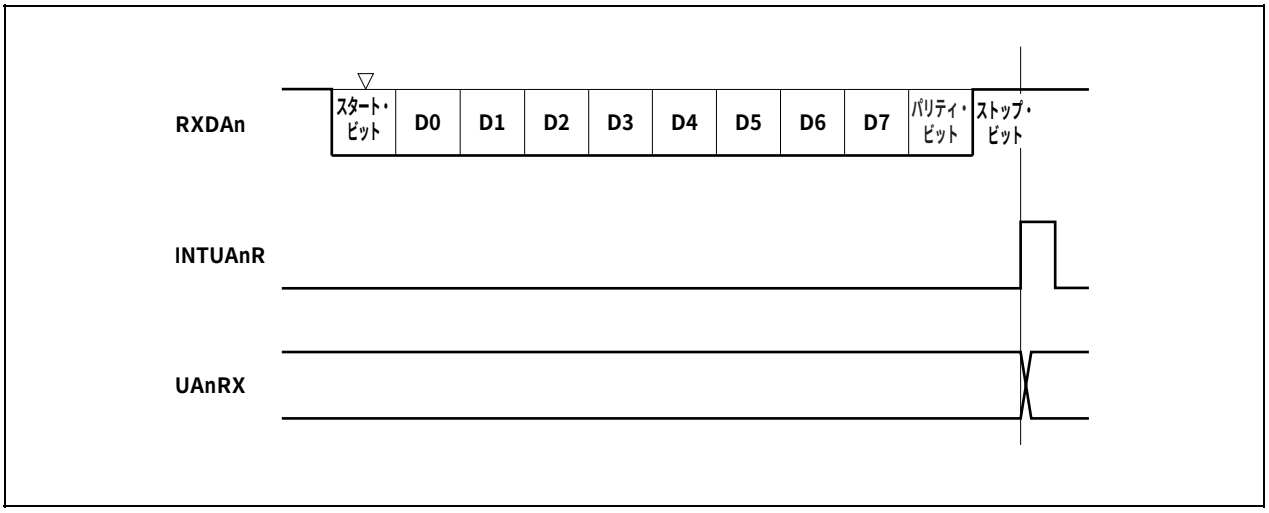
なおスタート・ビットの認識には2段階の検出ルーチンを取ります。

まずRXDAn端子の立ち下がりを検出すると立ち下がりエッジでサンプリングを開始します。スタート・ビットのサンプリング・ポイントでRXDAn端子がロウ・レベルであれば，スタート・ビットと認識します。スタート・ビットが認識されたら，受信動作を開始し，設定されたボー・レートにあわせて，シリアル・データを順次，UARTAn受信シフト・レジスタに格納していきます。

ストップ・ビットを受信したら，受信完了割り込み要求信号（INTUAnR）を発生すると同時に，UARTAn受信シフト・レジスタのデータをUAnRXレジスタに書き込みます。ただし，オーバラン・エラー（UAnSTR.UAnOVEビット）が発生した場合は，そのときの受信データをUAnRXレジスタに書き込まれずに破棄されます。

受信途中に，パリティ・エラー（UAnSTR.UAnPEビット），フレーミング・エラー（UAnSTR.UAnFEビット）が発生しても，1ビット目のストップ・ビットの受信位置までは，受信を継続し，受信完了後にINTUAnR信号を発生します。

図15－13　UART受信



注意1. 受信エラー発生時にも，UAnRXレジスタは必ず読み出してください。UAnRXレジスタを読み出さないと，次のデータ受信にオーバラン・エラーが発生し，いつまでも受信エラーの状態が続くことになります。

2. 受信時は，常に「ストップ・ビット数 = 1」として動作します。2ビット目のストップ・ビットは，無視されます。

3. 受信終了時は，受信完了割り込み要求信号（INTUAnR）発生後，UAnRXレジスタを読み出してからUAnPWRビット = 0またはUAnRXEビット = 0としてください。INTUAnR信号が発生する前にUAnPWRビット = 0またはUAnRXEビット = 0とした場合，UAnRXレジスタのリード値は保証できません。

4. UARTAnの受信完了処理（INTUAnR信号の発生）と，UAnPWRビット = 0またはUAnRXEビット = 0が競合した場合，UAnRXレジスタにデータを格納していないにもかかわらず，INTUAnR信号が発生することがあります。INTUAnR信号の発生を待たずに受信終了を行うときには，必ず割り込み制御レジスタ（UAnRIC）の割り込みマスク・フラグ（UAnRMK）をセット（1）してから，UAnPWRビット = 0またはUAnRXEビット = 0とし，さらにUAnRICレジスタの割り込み要求フラグ（UAnRIF）をクリア（0）してください。

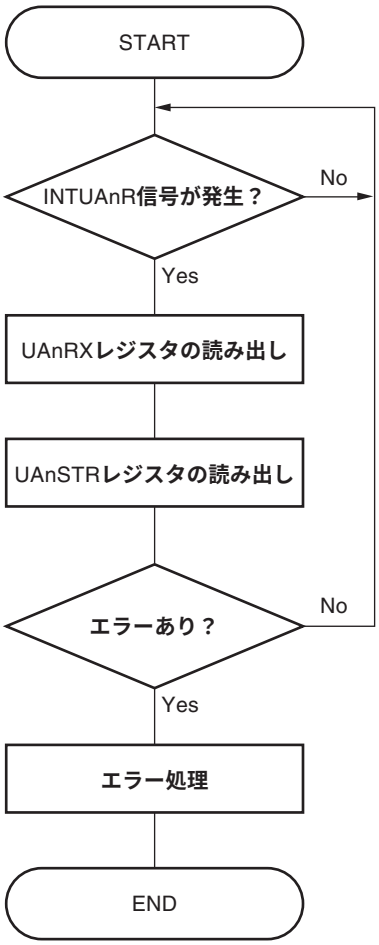
15. 6. 8　受信エラー

受信動作時のエラーは，パリティ・エラー，フレーミング・エラー，オーバーラン・エラーの3種類があります。データ受信の結果エラー・フラグがUAnSTRレジスタに設定され，受信完了割り込み要求信号（INTUAnR）を発生します。

UAnSTRレジスタの内容を読み出すことによって，いずれのエラーが受信時に発生したかを検出することができます。

受信エラー・フラグをリードしたあとは，“0”ライトによりクリアしてください。

・受信データの読み出しフロー



注意　INTUAnR信号が発生したら，必ずUAnSTRレジスタを読み出してエラーの有無を確認してください。

・受信エラーの要因

エラー・フラグ	受信エラー	要　　因
UAnPE	パリティ・エラー	受信したパリティ・ビットが設定と一致しない
UAnFE	フレーミング・エラー	ストップ・ビットが検出されない
UAnOVE	オーバラン・エラー	受信バッファからデータを読み出す前に次のデータ受信が完了

受信エラー発生時は，エラーの内容によって，次の処理を行ってください。

・パリティ・エラー

受信ラインへのノイズなどによって誤ったデータを受信しているため，受信データを破棄し，再度通信を行ってください。

・フレーミング・エラー

送信側との間でボー・レートずれが発生しているか，何らかの理由で誤ってスタート・ビットを検出してしまったことが考えられます。通信フォーマットのフェータルなエラーであるため，送信側の動作停止を確認後，互いに初期化処理を行って再度通信を開始してください。

・オーバラン・エラー

受信データを読み出す前に次の受信が完了してしまったため，1フレーム分のデータが破棄された状態になっています。必要なデータであれば再度通信をやり直してください。

注意　連続受信時に受信エラー割り込みが発生した場合は，次の受信が完了する前にUAnSTRレジスタの内容を読み出してエラー処理を実施してください。

15. 6. 9　パリティの種類と動作

注意　LIN機能を使用する場合，UAnCTL0.UAnPS1, UAnPS0ビットを“00”に固定してください。

パリティ・ビットは通信データのビット誤りを検出するためのビットです。通常は送信側と受信側のパリティ・ビットは同一の種類のものを使用します。

偶数パリティと奇数パリティでは奇数個ビットの誤りを検出することができます。0パリティとパリティなしでは誤りを検出することはできません。

(a) 偶数パリティ

(i) 送信時

パリティ・ビットを含めた送信データ中の，値が“1”のビット数を偶数個にするように制御します。パリティ・ビットの値は次のようになります。

・送信データ中に値が“1”のビット数が奇数個：1
・送信データ中に値が“1”のビット数が偶数個：0

(ii) 受信時

パリティ・ビットを含めた受信データ中の，値が“1”のビット数をカウントし，奇数個であった場合にパリティ・エラーを発生します。

(b) 奇数パリティ

(i) 送信時

偶数パリティとは逆に，パリティ・ビットを含めた送信データ中の，値が“1”のビット数を奇数個にするように制御します。パリティ・ビットの値は次のようになります。

・送信データ中に，値が“1”のビット数が奇数個：0
・送信データ中に，値が“1”のビット数が偶数個：1

(ii) 受信時

パリティ・ビットを含めた受信データ中の，値が“1”のビット数をカウントし，偶数個であった場合にパリティ・エラーを発生します。

(c) 0パリティ

送信時には，送信データによらずパリティ・ビットを“0”にします。

受信時にはパリティ・ビットの検査を行いません。したがって，パリティ・ビットが“0”でも“1”でもパリティ・エラーを発生しません。

(d) パリティなし

送信データにパリティ・ビットを付加しません。

受信時にもパリティ・ビットがないものとして受信動作を行います。パリティ・ビットがないため，パリティ・エラーを発生しません。

15. 6. 10　受信データのノイズ・フィルタ

プリスケーラ部出力の基本クロックでRXDAn端子をサンプリングします。

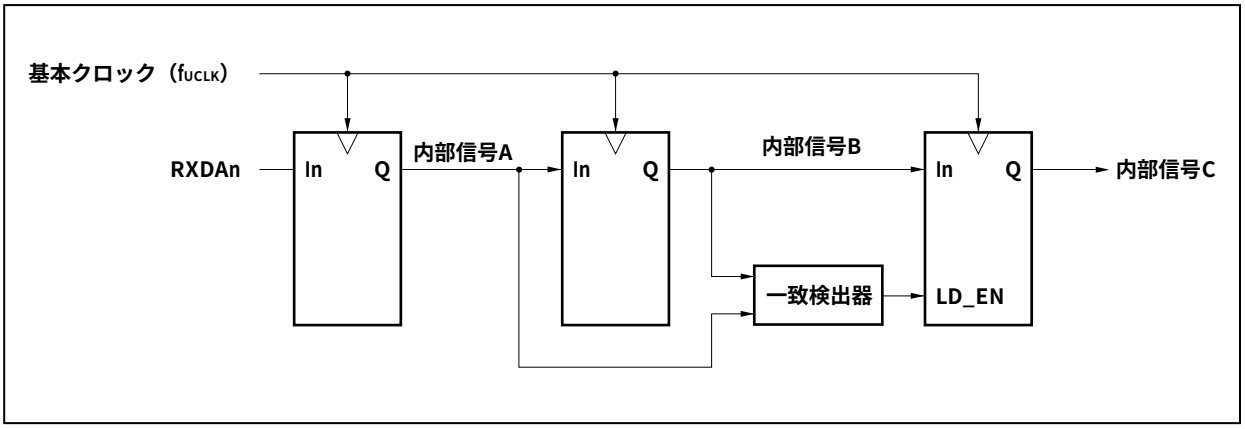
サンプリング値が同じ値を2回取ると，一致検出器の出力が変化し，入力データとしてサンプリングされます。

★　したがって，1クロック幅以下のデータはノイズとして判断され，内部回路には伝わりません（図15－15参照）。

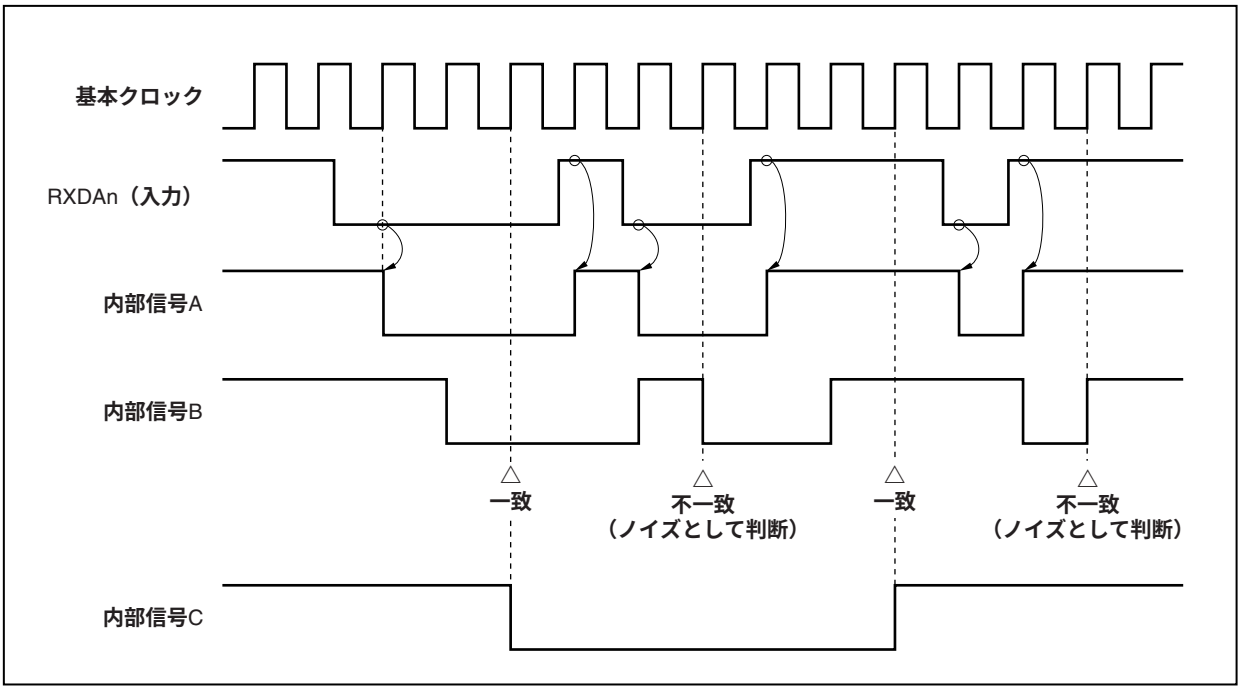
基本クロックについては15. 7（1）（a）基本クロックを参照してください。

また，回路は図15－14のようになっているので，受信動作の内部での処理は，外部の信号状態より3クロック分遅れて動作することになります。

図15－14　ノイズ・フィルタ回路



★　**図15－15　ノイズとして判断されるRXDAn信号のタイミング**



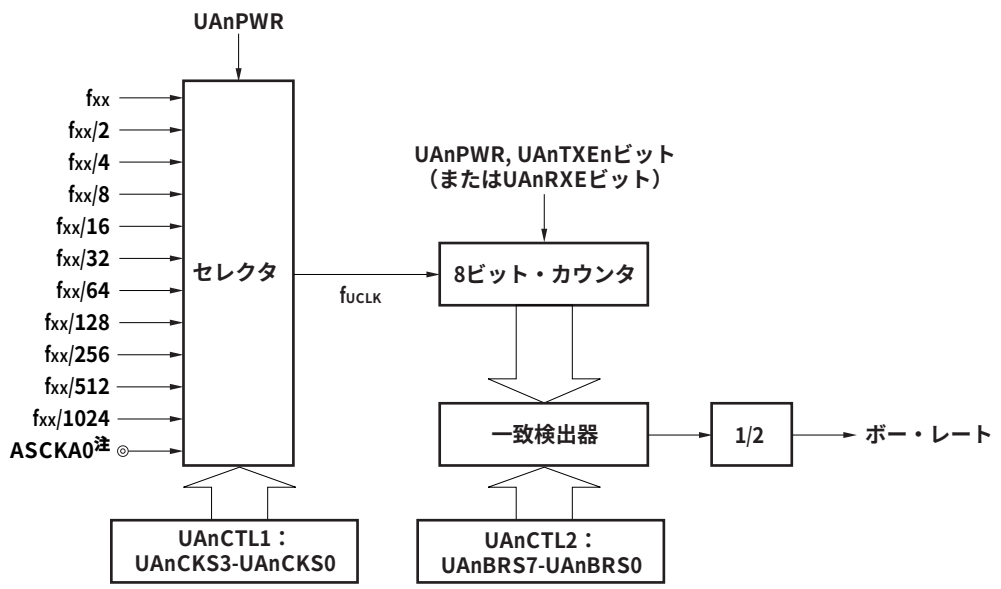
15. 7　専用ボー・レート・ジェネレータ

専用ボー・レート・ジェネレータは，ソース・クロック・セレクタ部と8ビットのプログラマブル・カウンタにより構成され，UARTAnにおける送受信時のシリアル・クロックを生成します。シリアル・クロックは，チャネルごとに専用ボー・レート・ジェネレータ出力を選択できます。

なお，8ビット・カウンタは送信用と受信用が別々に存在します。

(1) ボー・レート・ジェネレータの構成

図15－16　ボー・レート・ジェネレータの構成



注　UARTA0のみ有効，UARTA1-UARTA3は設定禁止

備考1.　n = 0-3

2.　fxx　：メイン・クロック周波数

3.　fUCLK　：基本クロック周波数

(a) 基本クロック

UAnCTL0.UAnPWRビット = 1のとき，UAnCTL1.UAnCKS3-UAnCKS0ビットで選択したクロックを8ビット・カウンタに供給します。このクロックを基本クロック（fUCLK）と呼びます。

(b) シリアル・クロックの生成

UAnCTL1レジスタとUAnCTL2レジスタの設定により，シリアル・クロックを生成できます（n = 0-3）。

UAnCTL1.UAnCKS3-UAnCKS0ビットにより，基本クロックを選択します。

UAnCTL2.UAnBRS7-UAnBRS0ビットにより，8ビット・カウンタの分周値を設定できます。

（2）UARTAn制御レジスタ1（UAnCTL1）

UAnCTL1レジスタは，UARTAnの基本クロックを選択するための8ビットのレジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

注意　UAnCTL1レジスタを書き換える場合は，UAnCTL0.UAnPWRビット = 0にしてから行ってください。

リセット時：00H　R/W　アドレス：UA0CTL1 FFFFFA01H, UA1CTL1 FFFFFA11H,
UA2CTL1 FFFFFA21H, UA3CTL1 FFFFFA31H

	7	6	5	4	3	2	1	0
UAnCTL1	0	0	0	0	UAnCKS3	UAnCKS2	UAnCKS1	UAnCKS0

（n = 0-3）

UAnCKS3	UAnCKS2	UAnCKS1	UAnCKS0	基本クロック（fUCLK）の選択
0	0	0	0	fxx
0	0	0	1	fxx/2
0	0	1	0	fxx/4
0	0	1	1	fxx/8
0	1	0	0	fxx/16
0	1	0	1	fxx/32
0	1	1	0	fxx/64
0	1	1	1	fxx/128
1	0	0	0	fxx/256
1	0	0	1	fxx/512
1	0	1	0	fxx/1024
1	0	1	1	外部クロック注（ASCKA0端子）
上記以外				設定禁止

注　UARTA0のみ有効，UARTA1-UARTA3は設定禁止

備考　fxx：メイン・クロック周波数

（3）UARTAn制御レジスタ2（UAnCTL2）

UAnCTL2レジスタは，UARTAnのボー・レート（シリアル転送スピード）クロックを選択するための8ビットのレジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットによりFFHになります。

注意　UAnCTL2レジスタを書き換える場合は，UAnCTL0.UAnPWRビット = 0，またはUAnTXE, UAnRXEビット = 00にしてから行ってください。

リセット時：FFH　R/W　アドレス：UA0CTL2 FFFFFA02H, UA1CTL2 FFFFFA12H, UA2CTL2 FFFFFA22H, UA3CTL2 FFFFFA32H

	7	6	5	4	3	2	1	0
UAnCTL2	UAnBRS7	UAnBRS6	UAnBRS5	UAnBRS4	UAnBRS3	UAnBRS2	UAnBRS1	UAnBRS0

（n = 0-3）

UAn BRS7	UAn BRS6	UAn BRS5	UAn BRS4	UAn BRS3	UAn BRS2	UAn BRS1	UAn BRS0	規定値（k）	シリアル・クロック
0	0	0	0	0	0	×	×	×	設定禁止
0	0	0	0	0	1	0	0	4	$f_{UCLK}/4$
0	0	0	0	0	1	0	1	5	$f_{UCLK}/5$
0	0	0	0	0	1	1	0	6	$f_{UCLK}/6$
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
1	1	1	1	1	1	0	0	252	$f_{UCLK}/252$
1	1	1	1	1	1	0	1	253	$f_{UCLK}/253$
1	1	1	1	1	1	1	0	254	$f_{UCLK}/254$
1	1	1	1	1	1	1	1	255	$f_{UCLK}/255$

備考　f_{UCLK}：UAnCTL1.UAnCKS3-UAnCKS0ビットで選択したクロック周波数

(4) ボー・レート

ボー・レートは次の式によって求められます。

$$\text{ボー・レート} = \frac{f_{UCLK}}{2 \times k} \text{[bps]}$$

内部クロックを使用する場合は，次の式になります（UARTA0**で**ASCKA0**端子入力をクロックとして使用する場合は，上の式で計算してください）。**

$$\text{ボー・レート} = \frac{f_{XX}}{2^{m+1} \times k} \text{[bps]}$$

備考　f_{UCLK} = UAnCTL1.UAnCKS3-UAnCKS0**ビットで選択した基本クロックの周波数**

f_{XX}**：メイン・クロック周波数**

m = UAnCTL1.UAnCKS3-UAnCKS0**ビットで設定した値（**m = 0-10**）**

k = UAnCTL2.UAnBRS7-UAnBRS0**ビットで設定した値（**k = 4-255**）**

ボー・レート誤差は次の式によって求められます。

$$\text{誤差（\%）} = \left(\frac{\text{実際のボー・レート（誤差のあるボー・レート）}}{\text{目標ボー・レート（正常なボー・レート）}} - 1 \right) \times 100 \text{ [\%]}$$

$$= \left(\frac{f_{UCLK}}{2 \times k \times \text{目標ボー・レート}} - 1 \right) \times 100 \text{ [\%]}$$

内部クロックを使用する場合は，次の式になります（UARTA0**で**ASCKA0**端子入力をクロックとして使用する場合は，上の式で計算してください）。**

$$\text{誤差（\%）} = \left(\frac{f_{XX}}{2^{m+1} \times k \times \text{目標ボー・レート}} - 1 \right) \times 100 \text{ [\%]}$$

注意1.　**送信時のボー・レート誤差は，受信先の許容誤差以内にしてください。**

2.　**受信時のボー・レート誤差は，（**5**）受信時の許容ボー・レート範囲で示す範囲を満たすようにしてください。**

ボー・レートを設定するときは，次のように計算してUAnCTL1, UAnCTL2レジスタを設定してください（内部クロック使用時）。

① k = fxx/（2×目標ボー・レート）　とし，m = 0としてください。
② k≧256のとき，k = k/2とし，m = m＋1としてください。
③ k＜256になるまで，②を繰り返してください。
④ kの小数点第一位を四捨五入します。
四捨五入して，k = 256になったときは，もう一度②を行ってください（k = 128になります）。
⑤ mをUAnCTL1レジスタに，kをUAnCTL2レジスタに設定してください。

例：fxx = 32 MHz，目標ボー・レート：153,600 bpsの場合
① k = 32,000,000/（2×153,600）　= 104.16…，m = 0
②，③　k = 104.16…＜256，m = 0
④　UAnCTL2レジスタ設定値：k = 104 = 68H，UAnCTL1レジスタ設定値：m = 0

実際のボー・レート　= 32,000,000/（2×104）
= 153,846　[bps]

ボー・レート誤差　=　{32,000,000/（2×104×153,600）－1}　×100
= 0.160　[%]

次に，代表的なボー・レートの設定例を示します。

表15－3　ボー・レート・ジェネレータ設定データ

ボー・レート	fxx = 32 MHz			fxx = 20 MHz			fxx = 10 MHz		
(bps)	UAnCTL1	UAnCTL2	ERR（%）	UAnCTL1	UAnCTL2	ERR（%）	UAnCTL1	UAnCTL2	ERR（%）
300	08H	D0H	0.16	08H	82H	0.16	07H	82H	0.16
600	07H	D0H	0.16	07H	82H	0.16	06H	82H	0.16
1200	06H	D0H	0.16	06H	82H	0.16	05H	82H	0.16
2400	05H	D0H	0.16	05H	82H	0.16	04H	82H	0.16
4800	04H	D0H	0.16	04H	82H	0.16	03H	82H	0.16
9600	03H	D0H	0.16	03H	82H	0.16	02H	82H	0.16
19200	02H	D0H	0.16	02H	82H	0.16	01H	82H	0.16
31250	02H	80H	0.00	01H	A0H	0.00	00H	A0H	0.00
38400	01H	D0H	0.16	01H	82H	0.16	00H	82H	0.16
76800	00H	D0H	0.16	00H	82H	0.16	00H	41H	0.16
153600	00H	68H	0.16	00H	41H	0.16	00H	21H	－1.36
312500	00H	33H	0.39	00H	20H	0.00	00H	10H	0.00
625000	00H	1AH	－1.54	00H	10H	0.00	00H	08H	0.00

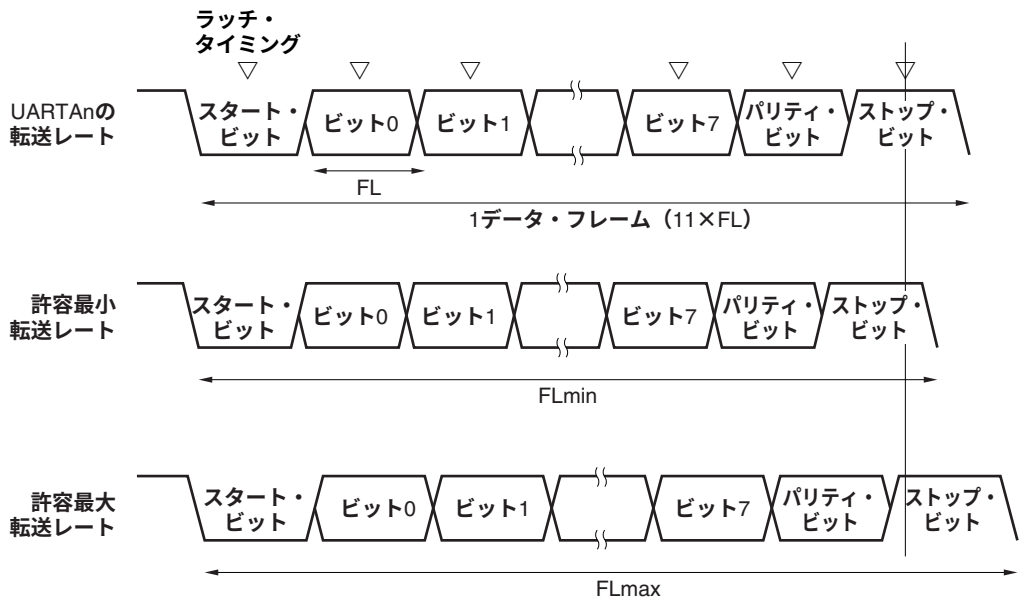
備考　fxx　：メイン・クロック周波数
ERR　：ボー・レート誤差　[%]

(5) 受信時の許容ボー・レート範囲

受信の際に，送信先のボー・レートのずれがどの程度まで許容できるかを次に示します。

注意　受信時のボー・レート誤差は，下記に示す算出式を使用して，必ず許容誤差範囲内になるように設定してください。

図15－17　受信時の許容ボー・レート範囲



備考　n = 0-3

図15－17に示すように，スタート・ビット検出後はUAnCTL2レジスタで設定したカウンタにより，受信データのラッチ・タイミングが決定されます。このラッチ・タイミングに最終データ（ストップ・ビット）までが間に合えば正常に受信できます。

これを11ビット受信に当てはめると理論上，次のようになります。

FL = $(\text{Brate})^{-1}$

Brate　：UARTAnのボー・レート（n = 0-3）

k　：UAnCTL2.UAnBRS7-UAnBRS0ビットの設定値（n = 0-3）

FL　：1ビット・データ長

ラッチ・タイミングのマージン：2クロック

許容最小転送レート：$\text{FLmin} = 11 \times \text{FL} - \frac{k-2}{2k} \times \text{FL} = \frac{21k+2}{2k}\text{FL}$

したがって，受信可能な送信先の最大ボー・レートは次のようになります。

$$BRmax = (FLmin/11)^{-1} = \frac{22k}{21k+2} Brate$$

同様に，許容最大転送レートを求めると，次のようになります。

$$\frac{10}{11} \times FLmax = 11 \times FL - \frac{k+2}{2 \times k} \times FL = \frac{21k-2}{2 \times k} FL$$

$$FLmax = \frac{21k-2}{20k} FL \times 11$$

したがって，受信可能な送信先の最小ボー・レートは次のようになります。

$$BRmin = (FLmax/11)^{-1} = \frac{20k}{21k-2} Brate$$

前述の最小／最大ボー・レート値の算出式から，UARTAnと送信先とのボー・レートの許容誤差を求めると次のようになります。

表15－4　許容最大／最小ボー・レート誤差

分周比（k）	許容最大ボー・レート誤差	許容最小ボー・レート誤差
4	＋2.32 %	－2.43 %
8	＋3.52 %	－3.61 %
20	＋4.26 %	－4.30 %
50	＋4.56 %	－4.58 %
100	＋4.66 %	－4.67 %
255	＋4.72 %	－4.72 %

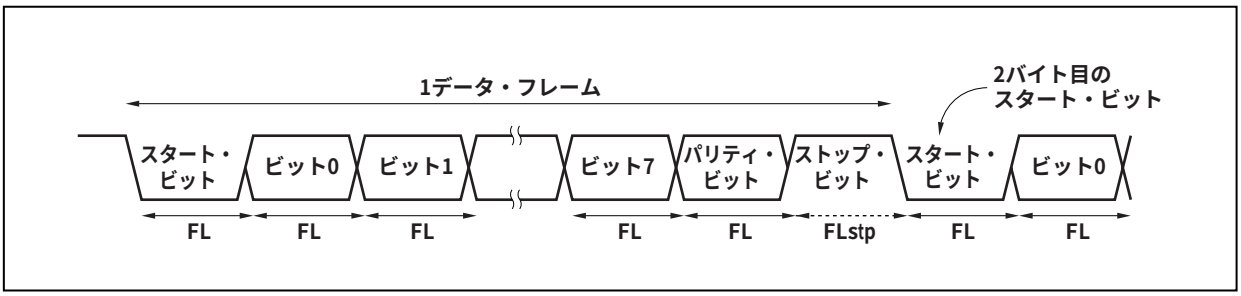
備考1.　受信の精度は，1フレーム・ビット数，入力クロック周波数，分周比（k）に依存します。入力クロック周波数が高く，分周比（k）が大きくなるほど精度は高くなります。

2.　k：UAnCTL2.UAnBRS7-UAnBRS0ビットの設定値（n = 0-3）

（6）連続送信時の転送レート

連続送信する場合，ストップ・ビットから次のスタート･ビットまでの転送レートが通常より基本クロックの2クロック分延びます。ただし，受信側はスタート・ビットの検出により，タイミングの初期化が行われるので転送結果には影響しません。

図15－18　連続送信時の転送レート



1ビット・データ長：FL，**ストップ・ビット長：**FLstp，**基本クロック周波数：**f_{UCLK}**とすると次の式が成り立ちます。**

$$FLstp = FL + 2 / f_{UCLK}$$

したがって，連続送信での転送レートは次のようになります。

転送レート $= 11 \times FL + (2 / f_{UCLK})$

15. 8　注意事項

（1）UARTAnへの供給クロックが停止する場合（例：IDLE1, IDLE2, STOPモード）は，各レジスタはクロック停止直前の値を保持したまま動作を停止します。TXDAn端子出力も停止直前の値を保持，出力します。ただし，クロック供給の再開後の動作は保証しません。したがって，再開後はUAnCTL0.UAnPWR，UAnRXEn，UAnTXEnビット = 000とし，回路を初期化してください。

（2）RXDA1端子とKR7端子は同時に使用することはできません。RXDA1端子を使用する場合は，KR7端子を使用しないでください。また，KR7端子を使用する場合は，RXDA1端子を使用しないでください（PFC91ビット = 1, PFCE91ビット = 0に設定することを推奨します）。

（3）UARTAnでは，通信エラーによる割り込みを発生しません。そのため，DMA転送で送信データ，受信データの転送を行う場合，転送中にエラー（パリティ／オーバラン／フレーミング）が発生しても，エラー処理を行えません。DMA転送終了後にUAnSTRレジスタを読み出してエラーがなかったことを確認するか，通信中に適宜UAnSTRレジスタを読み出してエラーの有無を確認してください。

（4）UARTAnの起動は次の順序で行ってください。

① UAnCTL0.UAnPWRビット = 1

② ポートの設定

③ UAnCTL0.UAnTXEビット = 1, UAnCTL0.UAnRXEビット = 1

（5）UARTAnの停止は次の順序で行ってください。

① UAnCTL0.UAnTXEビット = 0, UAnCTL0.UAnRXEビット = 0

② ポートの設定，UAnCTL0.UAnPWRビット = 0（ポートの設定は変更しなくても問題ありません）

（6）送信モード中（UAnCTL0.UAnPWRビット = 1，かつUAnCTL0.UAnTXEビット = 1）に，ソフトウエアでUAnTXレジスタの同値書き込みをしないでください。このレジスタへの書き込みにより送信が開始するためです。同値を連続送信する場合は問題ありません。

（7）連続送信の場合，ストップ・ビットから次のスタート・ビットまでの通信レートが，通常より基本クロックの2クロック分延びます。ただし，受信側はスタート・ビットの検出でタイミングの初期化を行うため，受信結果には影響しません。

第16章　3線式可変長シリアルI/O（CSIB）

16. 1　CSIBとほかのシリアル・インタフェースのモード切り替え

16. 1. 1　CSIB4とUARTA0のモード切り替え

V850ES/JJ3では，CSIB4とUARTA0は端子が兼用になっており，同時には使用できません。CSIB4を使用するときは，あらかじめPMC3, PFC3レジスタで設定する必要があります。

注意　CSIB4またはUARTA0において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。

図16－1　CSIB4とUARTA0のモード切り替え設定

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF446H, FFFFF447H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMC3	0	0	0	0	0	0	PMC39	PMC38
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	PMC35	PMC34	PMC33	PMC32	PMC31	PMC30

リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF466H, FFFFF467H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFC3	0	0	0	0	0	0	PFC39	PFC38
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	PFC35	PFC34	PFC33	PFC32	PFC31	PFC30

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF706H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFCE3L	0	0	0	0	0	PFCE32	0	0

PMC32	PFCE32	PFC32	動作モード
0	×	×	ポート入出力モード
1	0	0	ASCKA0
1	0	1	$\overline{\text{SCKB4}}$

PMC3n	PFC3n	動作モード
0	×	ポート入出力モード
1	0	UARTA0モード
1	1	CSIB4モード

備考1.　n = 0, 1

2.　× = don't care

16. 1. 2　CSIB0とI²C01のモード切り替え

V850ES/JJ3では，CSIB0とI²C01は端子が兼用になっており，同時には使用できません。CSIB0を使用するときは，あらかじめPMC4, PFC4レジスタで設定する必要があります。

注意　CSIB0またはI²C01において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。

図16－2　CSIB0とI²C01のモード切り替え設定

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF448H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC4	0	0	0	0	0	PMC42	PMC41	PMC40

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF468H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFC4	0	0	0	0	0	0	PFC41	PFC40

PMC4n	PFC4n	動作モード
0	×	ポート入出力モード
1	0	CSIB0モード
1	1	I²C01モード

備考1.　n = 0, 1

2.　× = don't care

16. 2　特　　徴

○転送速度：最大8 Mbps（fxx = 32 MHz，内部クロック使用時）

○マスタ・モードとスレーブ・モードを選択可能

○8-16ビット転送，3線式シリアル・インタフェース

○割り込み要求信号（INTCBnT, INTCBnR）×2

○シリアル・クロックとデータのフェーズ切り替えが可能

○転送データ長を8-16ビットに1ビット単位で選択可能

○転送データのMSB先頭/LSB先頭を切り替え可能

○3線式　SOBn　　：シリアル・データ出力

　　SIBn　　：シリアル・データ入力

　　$\overline{\text{SCKBn}}$　　：シリアル・クロック入出力

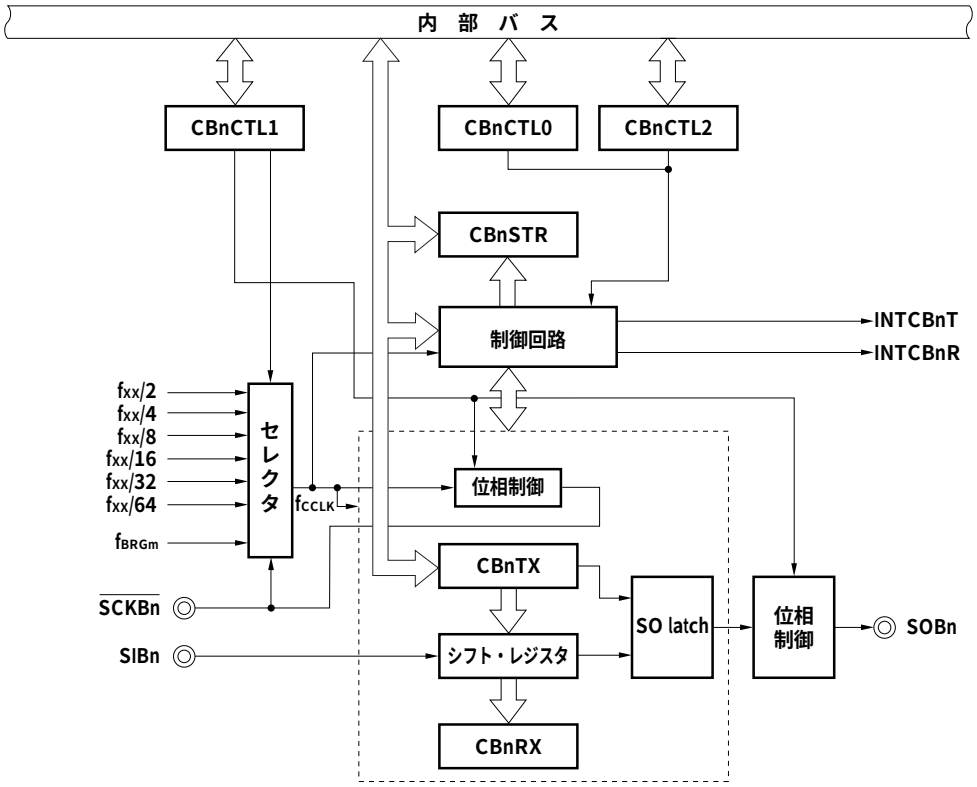
送信モード，受信モード，送受信モードを指定可能

備考　n = 0-5

16. 3　構　　成

次にCSIBnのブロック図を示します。

図16ー3　CSIBnのブロック図



備考　f_{CCLK}　：通信クロック

f_{XX}　：メイン・クロック周波数

f_{BRGm}　：BRGmのカウント・クロック

n = 0-5,

m = 1（n = 0, 1）

m = 2（n = 2, 3）

m = 3（n = 4, 5）

CSIBnは，次のハードウエアで構成されています。

表16ー1　CSIBnの構成

項　　目	構　　成
レジスタ	CSIBn受信データ・レジスタ（CBnRX） CSIBn送信データ・レジスタ（CBnTX）
制御レジスタ	CSIBn制御レジスタ0（CBnCTL0） CSIBn制御レジスタ1（CBnCTL1） CSIBn制御レジスタ2（CBnCTL2） CSIBn状態レジスタ（CBnSTR）

（1）CSIBn受信データ・レジスタ（CBnRX）

CBnRXレジスタは，受信データを保持する16ビットのバッファ・レジスタです。

16ビット単位でリードのみ可能です。

受信許可状態中に，CBnRXレジスタをリードすることにより，受信動作を開始します。

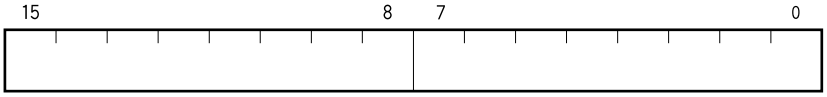
転送データ長が8ビットの場合は，CBnRXレジスタの下位8ビットをCBnRXLレジスタとして，8ビット単位でリードのみ可能です。

リセットにより0000Hになります。

リセット以外に，CBnCTL0レジスタのCBnPWRビットをクリア（0）しても初期化されます。

リセット時：0000H　R　アドレス：CB0RX FFFFFD04H, CB1RX FFFFFD14H,
CB2RX FFFFFD24H, CB3RX FFFFFD34H,
CB4RX FFFFFD44H, CB5RX FFFFFD54H

CBnRX
（n = 0-5）



（2）CSIBn送信データ・レジスタ（CBnTX）

CBnTXレジスタは，CSIBnの転送データを書き込む16ビットのバッファ・レジスタです。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

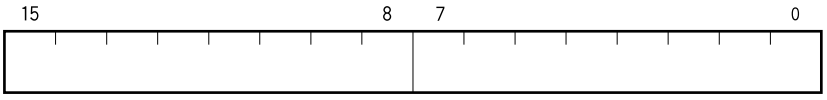
送信許可状態のときは，CBnTXレジスタにデータをライトすることにより，送信動作を開始します。

転送データ長が8ビットの場合は，CBnTXレジスタの下位8ビットをCBnTXLレジスタとして，8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

リセット時：0000H　R/W　アドレス：CB0TX FFFFFD06H, CB1TX FFFFFD16H,
CB2TX FFFFFD26H, CB3TX FFFFFD36H,
CB4TX FFFFFD46H, CB5TX FFFFFD56H

CBnTX
（n = 0-5）



備考　通信開始条件について

送信モード（CBnTXEビット = 1, CBnRXEビット = 0）　：CBnTXレジスタへのライト

送受信モード（CBnTXEビット = 1, CBnRXEビット = 1）　：CBnTXレジスタへのライト

受信モード（CBnTXEビット = 0, CBnRXEビット = 1）　：CBnRXレジスタのリード

16. 4　レジスタ

CSIBnを制御するレジスタには，次のものがあります。

- CSIBn制御レジスタ0（CBnCTL0）
- CSIBn制御レジスタ1（CBnCTL1）
- CSIBn制御レジスタ2（CBnCTL2）
- CSIBn状態レジスタ（CBnSTR）

（1）CSIBn制御レジスタ0（CBnCTL0）

CSIBnのシリアル転送動作を制御するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより01Hになります。

（1/3）

リセット時：01H　R/W　アドレス：CB0CTL0 FFFFFD00H, CB1CTL0 FFFFFD10H,
CB2CTL0 FFFFFD20H, CB3CTL0 FFFFFD30H,
CB4CTL0 FFFFFD40H, CB5CTL0 FFFFFD50H

	⑦	⑥	⑤	④	3	2	1	⓪
CBnCTL0 （n = 0-5）	CBnPWR	CBnTXE注	CBnRXE注	CBnDIR注	0	0	CBnTMS注	CBnSCE

CBnPWR	CSIBn動作禁止／許可の指定
0	CSIBn動作禁止，CBnSTRレジスタをリセットする
1	CSIBn動作許可
・CBnPWRビット はCSIBnの動作の制御と内部回路のリセットを行います。	

CBnTXE注	送信動作禁止／許可の指定
0	送信動作禁止
1	送信動作許可
・CBnTXEビット = 0のとき，SOBn出力はロウ・レベルとなります。	

CBnRXE注	受信動作禁止／許可の指定
0	受信動作禁止
1	受信動作許可
・CBnRXEビット = 0にすることで受信動作を禁止するため，規定のデータを転送されても受信完了割り込みは出力されず，受信データ（CBnRXレジスタ）は更新されません。	

注　CBnPWRビット = 0の場合のみ書き換えが可能です。ただし同時にCBnPWRビット = 1とするのは可能です。

注意　送受信を強制中断する場合は，CBnRXE, CBnTXEビットではなく，CBnPWRビットをクリア（0）してください。このとき，クロック出力も停止します。

(2/3)

CBnDIR0注	転送方向モード（MSB/LSB）の指定
0	MSBファースト
1	LSBファースト

CBnTMS注	転送モードの指定
0	シングル転送モード
1	連続転送モード

【シングル転送モード】

通信の完了で受信完了割り込み（INTCBnR）を発生します。

送信許可（CBnTXEビット = 1）の場合でも送信許可割り込み（INTCBnT）は発生しません。

通信中（CBnSTR.CBnTSFビット = 1）に次の送信データをライトしても無視され，次の通信は起動しません。また，受信のみの通信に設定したとき（CBnTXEビット = 0, CBnRXEビット = 1）も，通信中（CBnSTR.CBnTSFビット = 1）に受信データをリードしても次の通信は起動しません。

【連続転送モード】

通信中（CBnSTR.CBnTSFビット = 1）に次の送信データをライトすることで連続送信が可能です。

次の送信データがライト可能になるのは，送信許可割り込み（INTCBnT）発生後です。

また，連続転送モードで受信のみの通信に設定（CBnTXEビット = 0, CBnRXEビット = 1）すると，CBnRXレジスタのリード操作に関係なく，受信完了割り込み（INTCBnR）後，連続して次の受信を開始します。

そのため，速やかにCBnRXレジスタから受信データを読み出してください。読み出しが遅れるとオーバラン・エラー（CBnOVEビット = 1）が発生します。

注　CBnPWRビット = 0の場合のみ書き換えが可能です。ただし同時にCBnPWRビット = 1とするのは可能です。

(3/3)

CBnSCE	起動転送無効／許可の指定
0	通信起動トリガ無効
1	通信起動トリガ有効

・マスタ・モード時

通信起動トリガの有効／無効を制御するビットです。

（a）シングル送信／送受信モード，連続送信／送受信モード時

CBnSCEビットの設定は，動作に影響ありません。

（b）シングル受信モード時

受信データ（CBnRXレジスタ）のリードで受信動作が起動されるため，最終受信データのリードを行う前にCBnSCEビットを“0”に設定して次の受信動作の起動を無効にしてください注1。

（c）連続受信モード時

最終データの受信が完了する1通信クロック前までにCBnSCEビットを“0”に設定して最終データ受信後の受信動作の起動を無効にしてください注2。

・スレーブ・モード時

通信起動トリガの有効／無効を制御するビットです。

CBnSCEビットは“1”に設定してください。

【CBnSCEビットの使用方法】

・シングル受信モード時

①INTCBnR割り込み処理で最終データの受信が完了している場合には，CBnSCEビット＝0にしてからCBnRXレジスタを読み出す。

②CBnSTR.CBnTSFビット＝0を確認後，受信を禁止する場合，CBnRXEビット＝0とする。

続けて受信をする場合には，CBnSCEビット＝1にしてCBnRXレジスタのダミー・リードにより次の受信動作を起動する。

・連続受信モード時

①INTCBnR割り込み処理で最終データ受信中にCBnSCEビット＝0とする。

②CBnRXレジスタを読み出す。

③CBnTIR割り込みを受けて，CBnRXレジスタを読み出すことで，最終受信データを読み出す。

④CBnSTR.CBnTSFビット＝0を確認後，受信を禁止する場合，CBnRXEビット＝0とする。

続けて受信をする場合には，CBnSCEビット＝1にしてCBnRXレジスタのダミー・リードにより次の受信動作まで待つ。

注1. CBnSCEビットが“1”のままリードした場合，次回の通信動作が起動されます。

2. 最終データの受信を完了する1通信クロック前までにCBnSCEビットを“0”にしない場合，自動的に次回の通信動作が起動されます。

注意　ビット3, 2には必ず0を設定してください。

（2）CSIBn**制御レジスタ**1（CBnCTL1）

CSIBn**のシリアル転送動作を制御する**8**ビット・レジスタです。**

8/1**ビット単位でリード／ライト可能です。**

リセットにより00H**になります。**

注意　CBnCTL1**レジスタは，**CBnCTL0.CBnPWR**ビット** = 0**の場合のみ書き換えが可能です。**

リセット時：00H　　R/W　　アドレス：CB0CTL1 FFFFFD01H, CB1CTL1 FFFFFD11H,
CB2CTL1 FFFFFD21H, CB3CTL1 FFFFFD31H,
CB4CTL1 FFFFFD41H, CB5CTL1 FFFFFD51H

	7	6	5	4	3	2	1	0
CBnCTL1 **（n = 0-5）**	**0**	**0**	**0**	**CBnCKP**	**CBnDAP**	**CBnCKS2**	**CBnCKS1**	**CBnCKS0**

	CBnCKP	CBnDAP	$\overline{\text{SCKBn}}$に対するデータの送受信タイミングの指定
通信タイプ1	0	0	$\overline{\text{SCKBn}}$（入出力） SOBn（出力）　D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0 SIBnキャプチャ
通信タイプ2	0	1	$\overline{\text{SCKBn}}$（入出力） SOBn（出力）　D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0 SIBnキャプチャ
通信タイプ3	1	0	$\overline{\text{SCKBn}}$（入出力） SOBn（出力）　D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0 SIBnキャプチャ
通信タイプ4	1	1	$\overline{\text{SCKBn}}$（入出力） SOBn（出力）　D7 D6 D5 D4 D3 D2 D1 D0 SIBnキャプチャ

CBnCKS2	CBnCKS1	CBnCKS0	通信クロック（f_{CCLK}）注	モード
0	0	0	$f_{XX}/2$	マスタ・モード
0	0	1	$f_{XX}/4$	マスタ・モード
0	1	0	$f_{XX}/8$	マスタ・モード
0	1	1	$f_{XX}/16$	マスタ・モード
1	0	0	$f_{XX}/32$	マスタ・モード
1	0	1	$f_{XX}/64$	マスタ・モード
1	1	0	f_{BRGm}	マスタ・モード
1	1	1	外部クロック（$\overline{\text{SCKBn}}$）	スレーブ・モード

注　**通信クロック**（f_{CCLK}）**は，**8 MHz**以下になるように設定してください。**

備考　n = 0, 1**の場合，**m = 1

n = 2, 3**の場合，**m = 2

n = 4, 5**の場合，**m = 3

f_{BRGm}**についての詳細は**16. 8　**ボー・レート・ジェネレータを参照してください。**

（3）CSIBn制御レジスタ2（CBnCTL2）

CSIBnのシリアル転送ビット数を制御する8ビットのレジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

注意　CBnCTL2レジスタは，CBnCTL0.CBnPWRビット = 0，またはCBnTXE, CBnRXEビット = 0の場合のみ書き換えが可能です。

リセット時：00H　R/W　アドレス：CB0CTL2 FFFFFD02H, CB1CTL2 FFFFFD12H,
CB2CTL2 FFFFFD22H, CB3CTL2 FFFFFD32H,
CB4CTL2 FFFFFD42H, CB5CTL2 FFFFFD52H

	7	6	5	4	3	2	1	0
CBnCTL2 （n = 0-5）	0	0	0	0	CBnCL3	CBnCL2	CBnCL1	CBnCL0

CBnCL3	CBnCL2	CBnCL1	CBnCL0	シリアル・レジスタのビット長
0	0	0	0	8ビット
0	0	0	1	9ビット
0	0	1	0	10ビット
0	0	1	1	11ビット
0	1	0	0	12ビット
0	1	0	1	13ビット
0	1	1	0	14ビット
0	1	1	1	15ビット
1	×	×	×	16ビット

備考1.　転送ビット数が8/16ビットではない場合には，CBnTX, CBnRXレジスタの最下位ビットから詰めてデータを準備して使用してください。

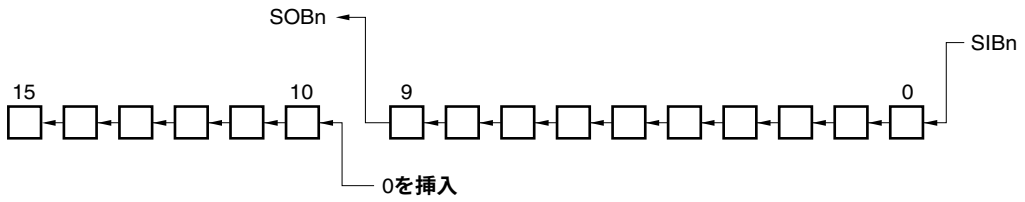
2.　×：don’t care

(a) 転送データ長変更機能

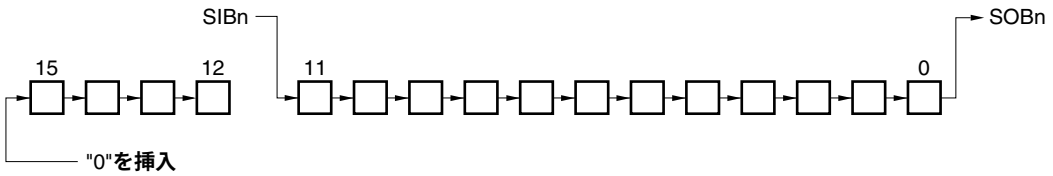
CSIBnの転送データ長はCBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビットによって，8-16ビットに1ビット単位で設定可能です。

転送ビット長を16ビット以外に設定した場合，CBnTX，CBnRXレジスタへは，転送先頭ビットがMSBであってもLSBであっても最下位ビットから詰めてデータをセットしてください。使用しない上位ビットにセットするデータは任意ですが，シリアル転送後の受信データは“0”になります。

（i）転送ビット長 = 10**ビット，**MSB**ファーストの場合**



（ii）転送ビット長 = 12**ビット，**LSB**ファーストの場合**



(4) CSIBn状態レジスタ（CBnSTR）

CSIBnの状態をあらわす8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能ですが，CBnTSFフラグはリードのみ可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット以外に，CBnCTL0.CBnPWRビットをクリア（0）する場合も初期化されます。

リセット時：00H　R/W　アドレス：CB0STR FFFFFD03H, CB1STR FFFFFD13H,
CB2STR FFFFFD23H, CB3STR FFFFFD33H,
CB4STR FFFFFD43H, CB5STR FFFFFD53H

CBnSTR
(n = 0-5)

⑦	6	5	4	3	2	1	⓪
CBnTSF	0	0	0	0	0	0	CBnOVE

CBnTSF	通信状態フラグ
0	通信停止
1	通信中

・送信時にはCBnTXレジスタにデータを準備したタイミングでセットされます。
受信時にはCBnRXレジスタをダミー・リードしたタイミングでセットされます。
転送終了時，クロックの最後のエッジでクリア（0）されます。

CBnOVE	オーバラン・エラー・フラグ
0	オーバランなし
1	オーバランあり

・受信時もしくは受信動作完了後に，受信バッファの値をCPUがリードせずに次の受信が完了した場合，オーバラン・エラーとなります。
CBnOVEフラグは，このような場合のオーバラン・エラーの発生状態を示します。
・シングル転送モード時もCBnOVEビットは有効です。そのため，送信のみで使用する場合は，次のように対応してください。
　・CBnOVEフラグのチェックを行わない。
　・受信データを読み出す必要がない場合でも読み出す。
・CBnOVEフラグは“0”ライトによりクリアされます。“1”ライトしてもセットされません。

16. 5　割り込み要求信号

CSIBnからは次の2種類の割り込み要求信号を発生します。

・受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）
・送信許可割り込み要求信号（INTCBnT）

これら2種類の割り込み要求信号のディフォールト優先順位は，受信完了割り込み要求信号の方が高く，送信許可割り込み要求信号の方が低くなっています。

表16－2　発生する割り込みとディフォールト優先順位

割り込み	優先順位
受信完了	高
送信許可	低

(1) 受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）

受信許可状態中で，CBnRXレジスタに受信データが転送されると受信完了割り込み要求信号が発生します。

受信完了割り込み要求信号は，オーバラン・エラーが起こった場合にも発生します。

受信完了割り込み要求信号を受け付け，データを読み出すときに，CBnSTRレジスタを読み出して受信結果がエラーでないか確認してください。

また，シングル転送モード時は送信のみにおいても，送信完了のタイミングで，INTCBnR割り込み要求信号が発生します。

(2) 送信許可割り込み要求信号（INTCBnT）

連続送信／連続送受信モードにおいて，CBnTXレジスタから送信データが転送され，CBnTXへの書き込みが可能となった時点で送信許可割り込み要求信号を発生します。

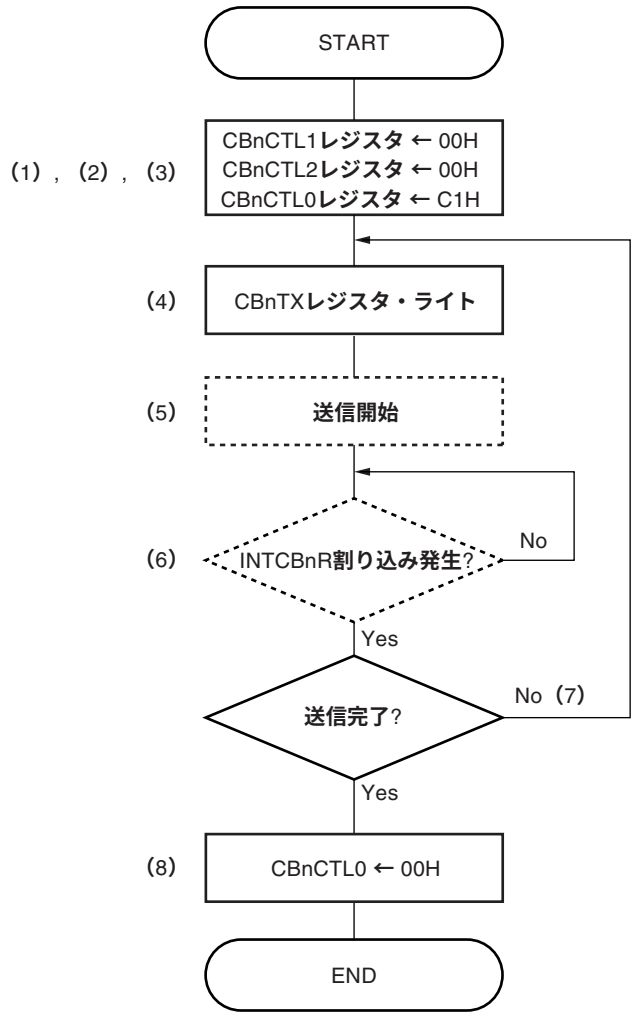
シングル送信／シングル送受信モードにおいては，INTCBnT割り込みは発生しません。

16. 6 動　　作

16. 6. 1 シングル転送モード（マスタ・モード，送信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}） = f_{XX}/2（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 000），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

（1）動作フロー

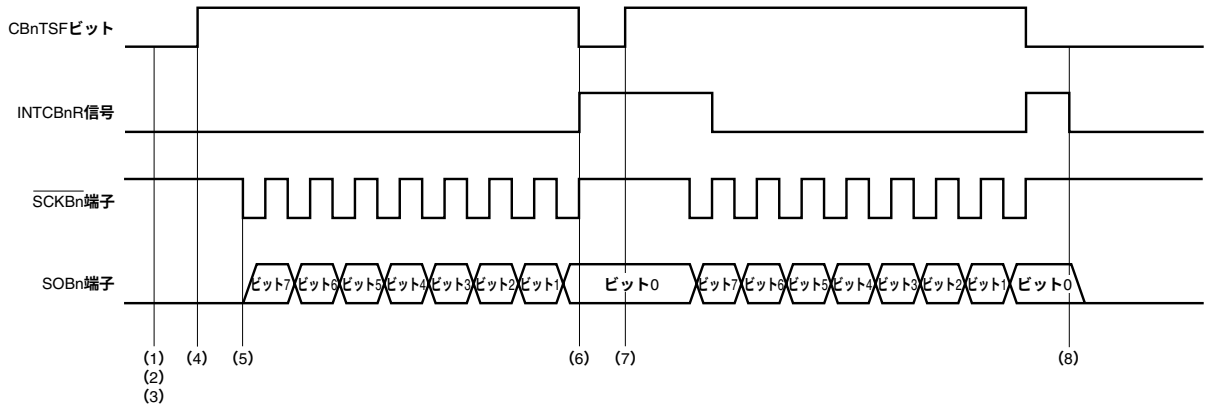


備考1. 破線はハードウエア処理を表します。

2. 番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。

3. n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに00Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}） = f_{XX}/2，マスタ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにC1Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，送信モード，MSBファーストを選択する。

（4）CBnTXレジスタに送信データをライトすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，送信を開始する。

（5）送信が開始されると，$\overline{\text{SCKBn}}$端子にシリアル・クロックを出力し，シリアル・クロックに同期してSOBn端子より送信データを出力する。

（6）CBnCTL2レジスタで設定した転送データ長分の送信が終了すると，シリアル・クロックの出力と送信データの出力を停止し，シリアル・クロックの最終エッジで，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）を発生し，CBnTSFビットをクリア（0）する。

（7）続けて送信を行う場合は，INTCBnR信号発生後，再びCBnTXレジスタに送信データをライトすることで次の送信を開始する。

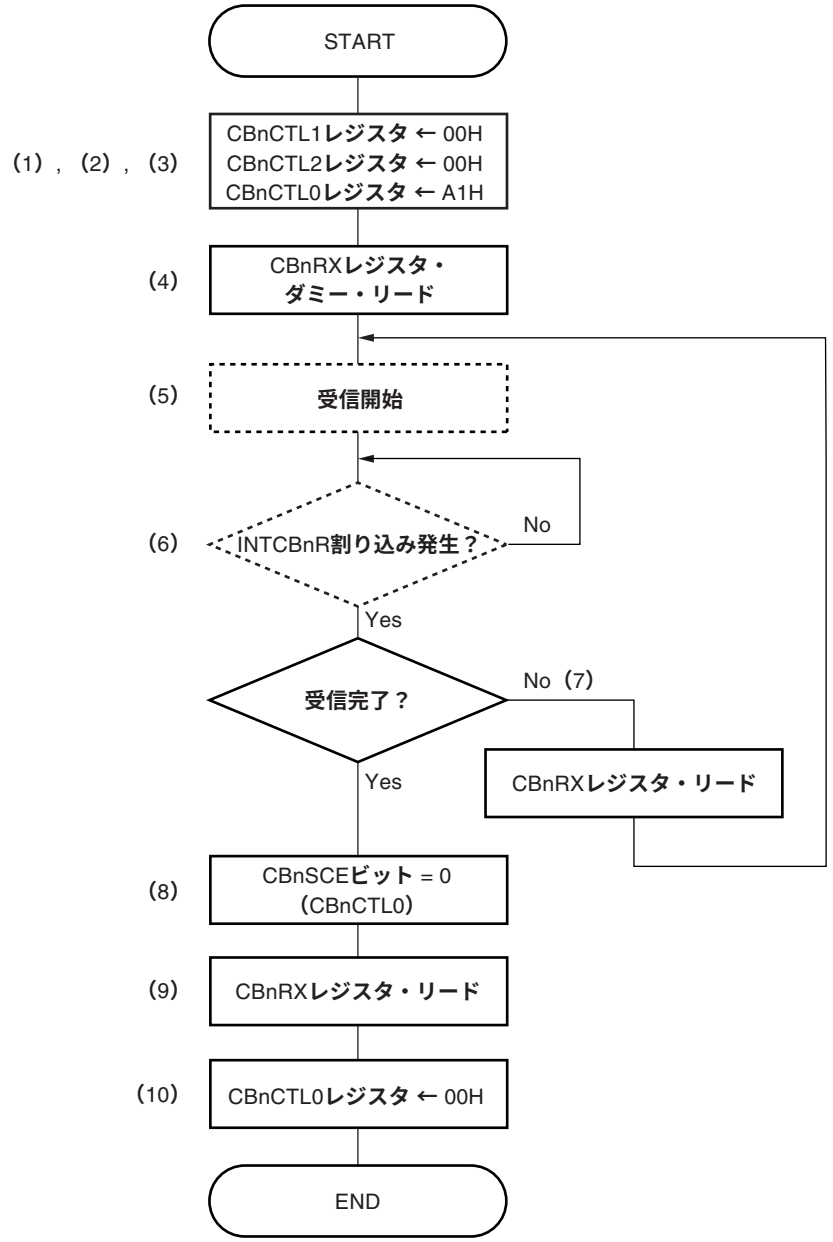
（8）送信を完了する場合は，CBnCTL0.CBnPWRビット = 0，CBnCTL0.CBnTXEビット = 0をライトする。

備考　n = 0-5

16. 6. 2　シングル転送モード（マスタ・モード，受信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}） = $f_{XX}/2$（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 000），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

（1）動作フロー

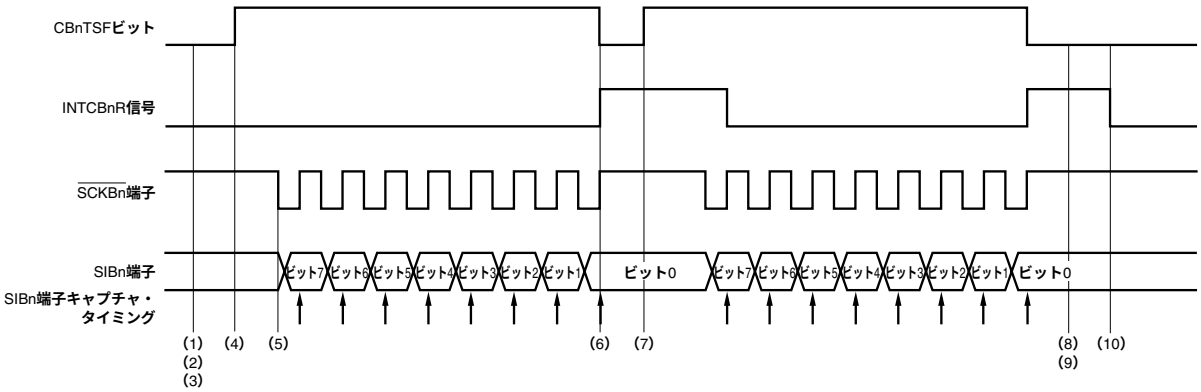


備考1.　破線はハードウエア処理を表します。

2.　番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに00Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}） = f_{XX}/2，マスタ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにA1Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，受信モード，MSBファーストを選択する。

（4）CBnRXレジスタをダミー・リードすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，受信を開始する。

（5）受信が開始されると，$\overline{\text{SCKBn}}$端子にシリアル・クロックを出力し，シリアル・クロックに同期してSIBn端子の受信データをキャプチャする。

（6）CBnCTL2レジスタで設定した転送データ長分の受信が終了すると，シリアル・クロック出力とデータ・キャプチャを停止し，シリアル・クロックの最終エッジで，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）を発生し，CBnTSFビットをクリア（0）する。

（7）続けて受信を行う場合は，ITNCBnR信号発生後，CBnCTL0.CBnSCEビット = 1のまま，CBnRXレジスタをリードする。

（8）次の受信を開始させずにCBnRXレジスタをリードする場合には，CBnSCEビット = 0をライトする。

（9）CBnRXレジスタをリードする。

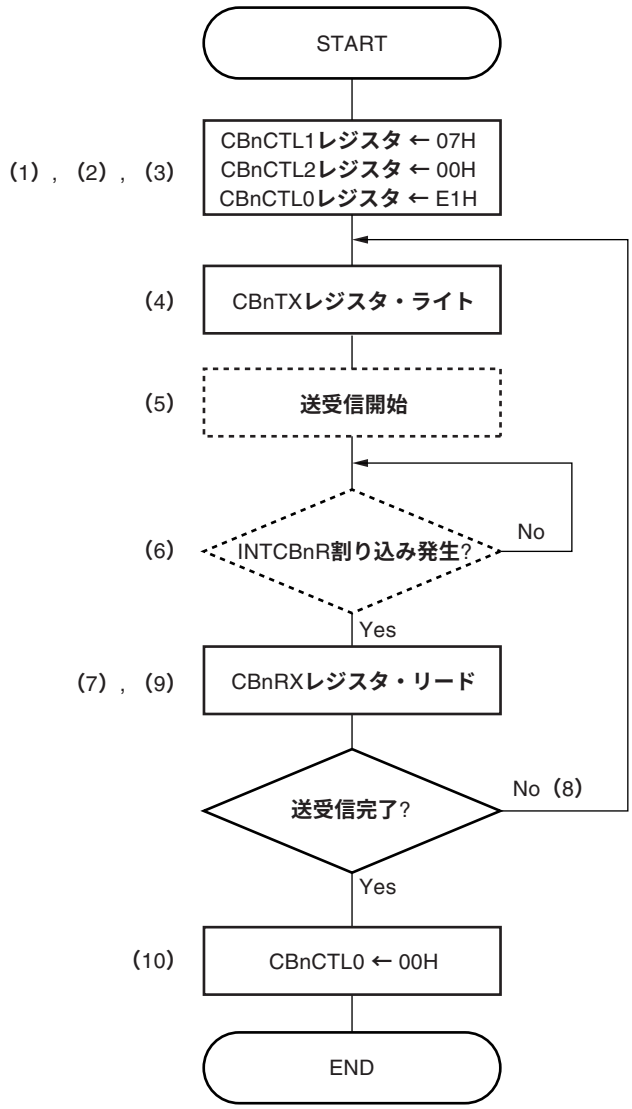
（10）受信を完了する場合は，CBnCTL0.CBnPWRビット = 0，CBnCTL0.CBnRXEビット = 0をライトする。

備考　n = 0-5

16. 6. 3　シングル転送モード（マスタ・モード，送受信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}） = $f_{XX}/2$（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 000），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

（1）動作フロー

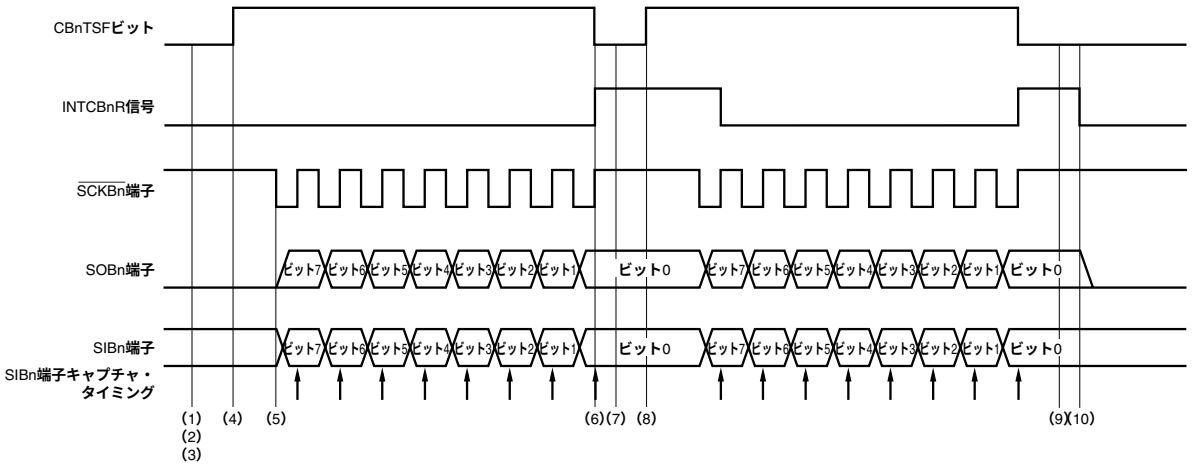


備考1.　破線はハードウエア処理を表します。

2.　番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに00Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}）＝ $f_{XX}/2$，マスタ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにE1Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，送受信モード，MSBファーストを選択する。

（4）CBnTXレジスタに送信データをライトすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，送受信を開始する。

（5）送受信が開始されると，$\overline{\text{SCKBn}}$端子にシリアル・クロックを出力し，シリアル・クロックに同期してSOBn端子に送信データを出力し，SIBn端子の受信データをキャプチャする。

（6）CBnCTL2レジスタで設定した転送データ長分の送受信が終了すると，シリアル・クロックの出力，送信データの出力，データ・キャプチャを停止し，シリアル・クロックの最終エッジで，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）を発生し，CBnTSFビットをクリア（0）する。

（7）CBnRXレジスタをリードする。

（8）続けて送受信を行う場合は，再びCBnTXレジスタに送信データをライトする。

（9）CBnRXレジスタをリードする。

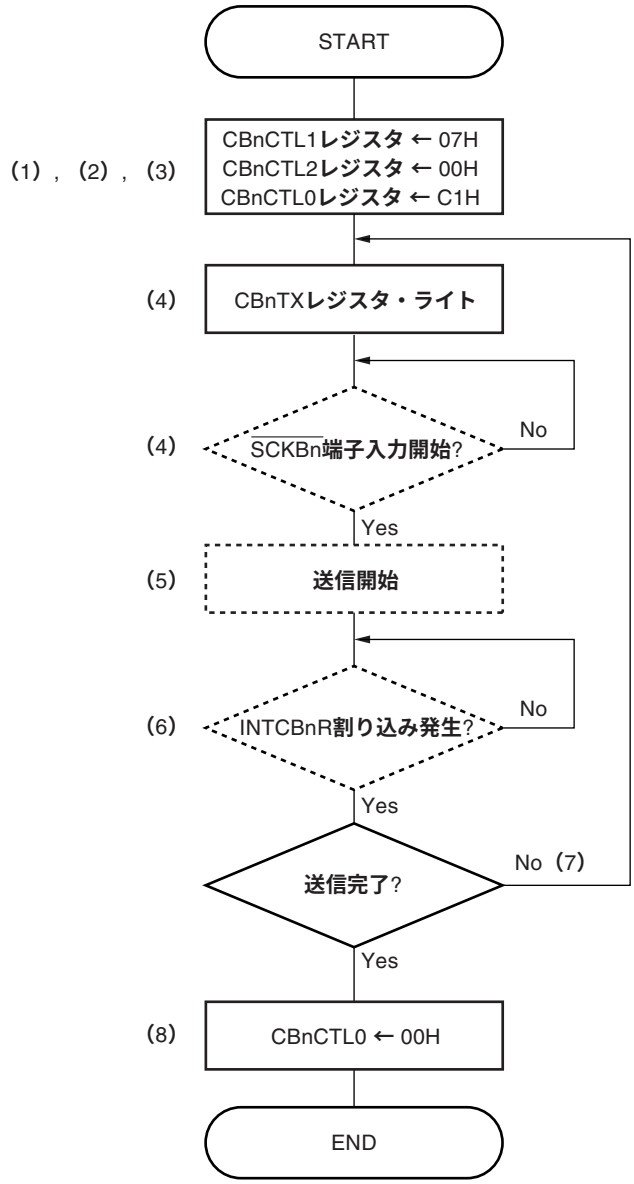
（10）送受信を完了する場合は，CBnCTL0.CBnPWRビット ＝ 0，CBnCTL0.CBnTXEビット ＝ 0，CBnCTL0.CBnRXEビット ＝ 0をライトする。

備考　n = 0-5

16. 6. 4　シングル転送モード（スレーブ・モード，送信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}）=外部クロック（$\overline{\text{SCKBn}}$）（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 111），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

（1）動作フロー

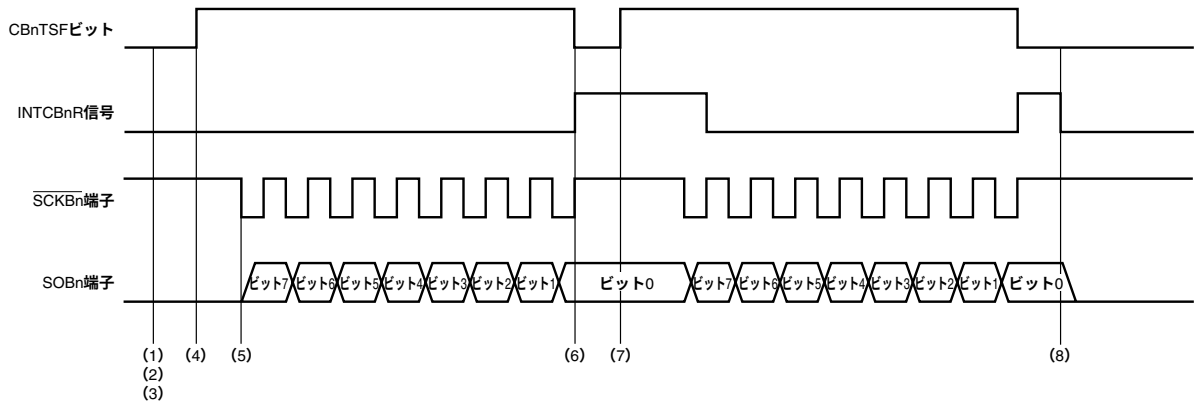


備考1.　破線はハードウエア処理を表します。

2.　番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに07Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}）＝外部クロック（$\overline{SCKBn}$），スレーブ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにC1Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，送信モード，MSBファーストを選択する。

（4）CBnTXレジスタに送信データをライトすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，シリアル・クロック入力待ち状態になる。

（5）シリアル・クロックが入力されると，シリアル・クロックに同期してSOBn端子より送信データを出力する。

（6）CBnCTL2レジスタで設定した転送データ長分の送信が終了すると，シリアル・クロックの入力と送信データの出力を停止し，シリアル・クロックの最終エッジで，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）を発生し，CBnTSFビットをクリア（0）する。

（7）続けて送信を行う場合は，INTCBnR信号発生後，再びCBnTXレジスタに送信データをライトし，シリアル・クロックの入力を待つ。

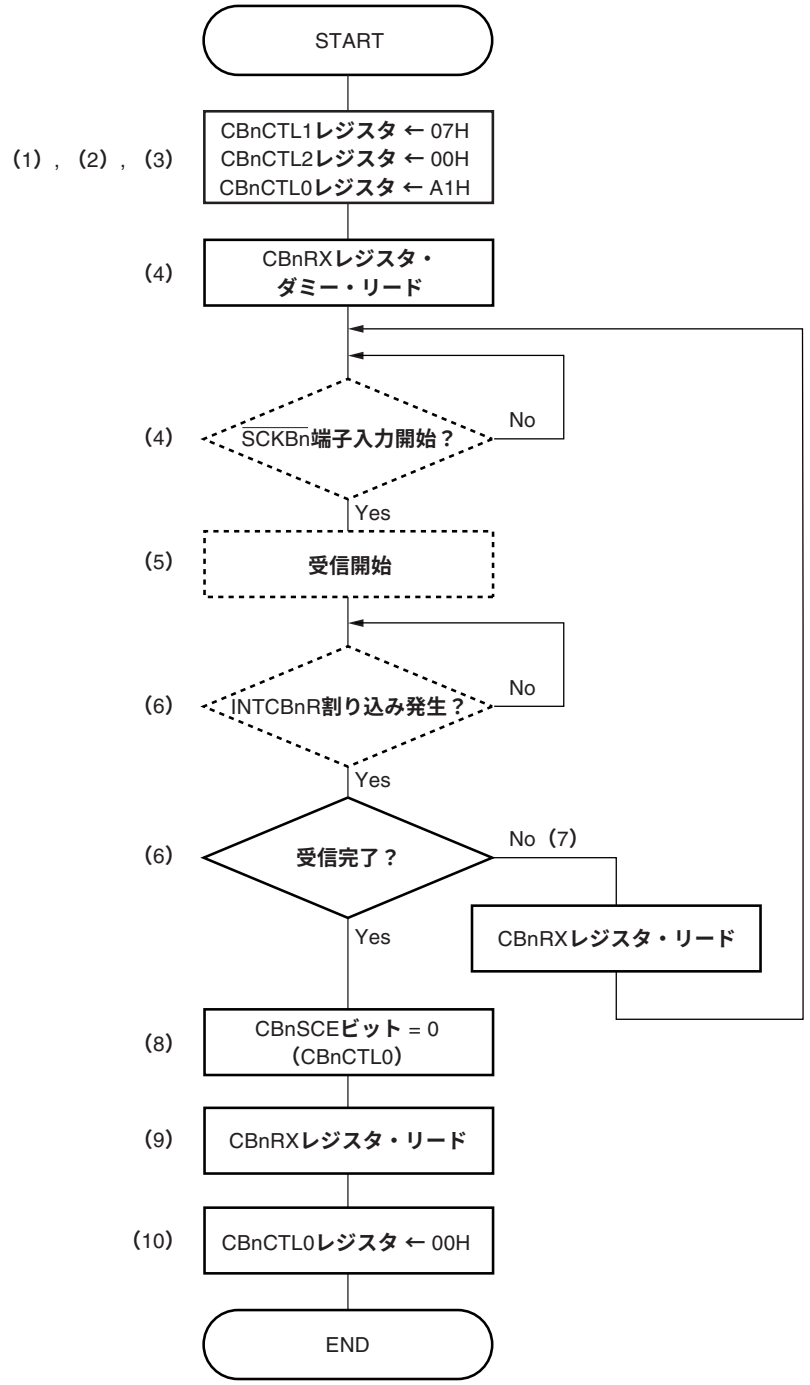
（8）送信を完了する場合は，CBnCTL0.CBnPWRビット ＝ 0，CBnCTL0.CBnTXEビット ＝ 0をライトする。

備考　n = 0-5

16. 6. 5　シングル転送モード（スレーブ・モード，受信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}）=外部クロック（$\overline{SCKBn}$）（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 111），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

（1）動作フロー

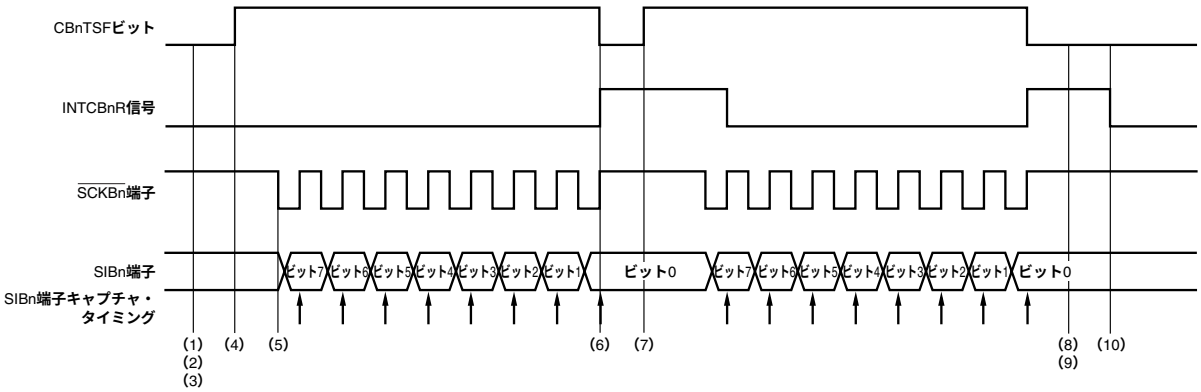


備考1.　破線はハードウエア処理を表します。

2.　番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに07Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}）＝外部クロック（$\overline{\text{SCKBn}}$），スレーブ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにA1Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，受信モード，MSBファーストを選択する。

（4）CBnRXレジスタをダミー・リードすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，シリアル・クロック入力待ち状態になる。

（5）シリアル・クロックが入力されると，シリアル・クロックに同期してSIBn端子の受信データをキャプチャする。

（6）CBnCTL2レジスタで設定した転送データ長分の受信が終了すると，シリアル・クロックの入力とデータ・キャプチャを停止し，シリアル・クロックの最終エッジで，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）を発生し，CBnTSFビットをクリア（0）する。

（7）続けて受信を行う場合は，INTCBnR信号発生後，CBnCTL0.CBnSCEビット ＝ 1のまま，CBnRXレジスタをリードし，シリアル・クロックの入力を待つ。

（8）受信を完了する場合は，CBnSCEビット ＝ 0をライトする。

（9）CBnRXレジスタをリードする。

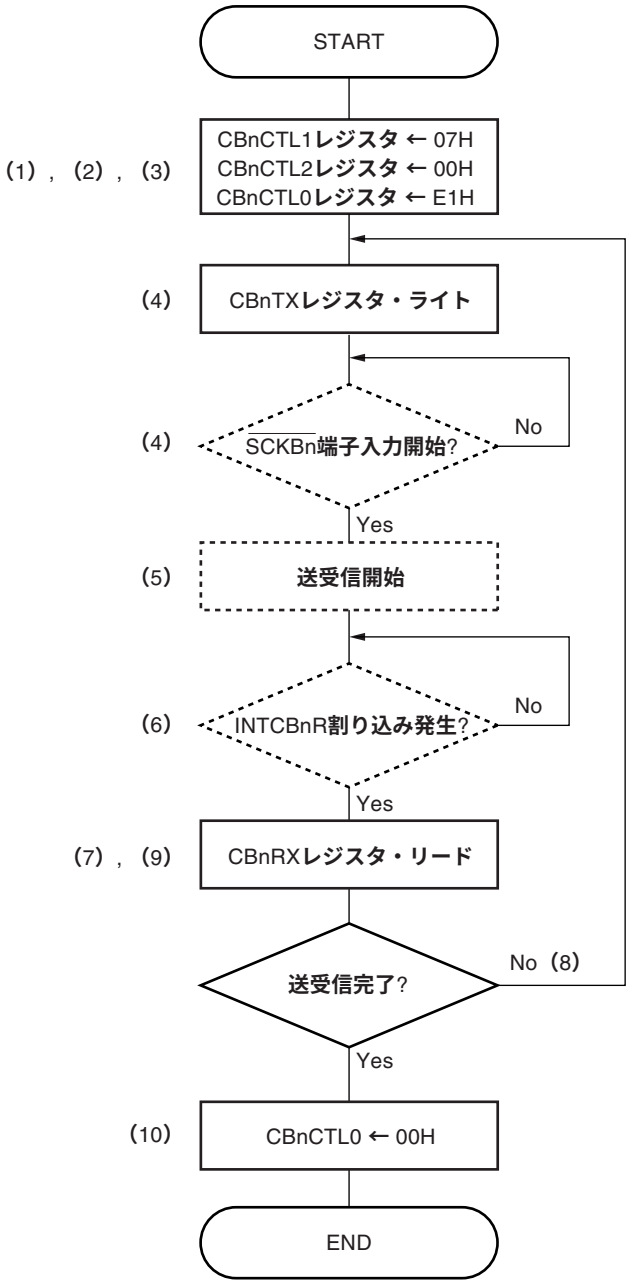
（10）受信を完了する場合は，CBnCTL0.CBnPWRビット ＝ 0，CBnCTL0.CBnRXEビット ＝ 0をライトする。

備考　n = 0-5

16. 6. 6　シングル転送モード（スレーブ・モード，送受信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}） =外部クロック（$\overline{\text{SCKBn}}$）（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 111），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

（1）動作フロー

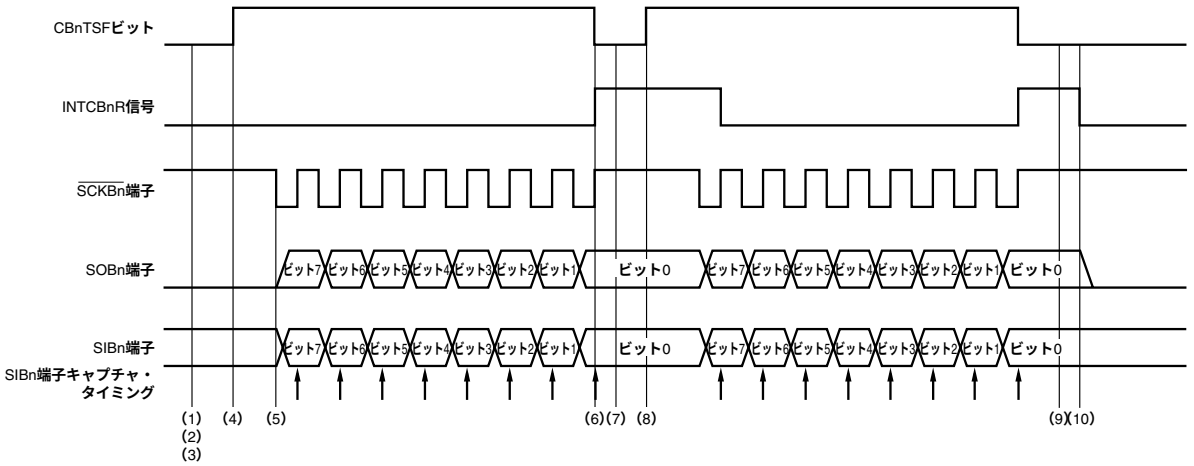


備考1.　破線はハードウエア処理を表します。

2.　番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに07Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}） = 外部クロック（$\overline{\text{SCKBn}}$），スレーブ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにE1Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，送受信モード，MSBファーストを選択する。

（4）CBnTXレジスタに送信データをライトすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，シリアル・クロック入力待ち状態になる。

（5）シリアル・クロックが入力されると，シリアル・クロックに同期してSOBn端子に送信データを出力し，SIBn端子の受信データをキャプチャする。

（6）CBnCTL2レジスタで設定した転送データ長分の送受信が終了すると，シリアル・クロックの入力，送信データの出力，データ・キャプチャを停止し，シリアル・クロックの最終エッジで，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）を発生し，CBnTSFビットをクリア（0）する。

（7）CBnRXレジスタをリードする。

（8）続けて送受信を行う場合は，再びCBnTXレジスタに送信データをライトし，シリアル・クロックの入力を待つ。

（9）CBnRXレジスタをリードする。

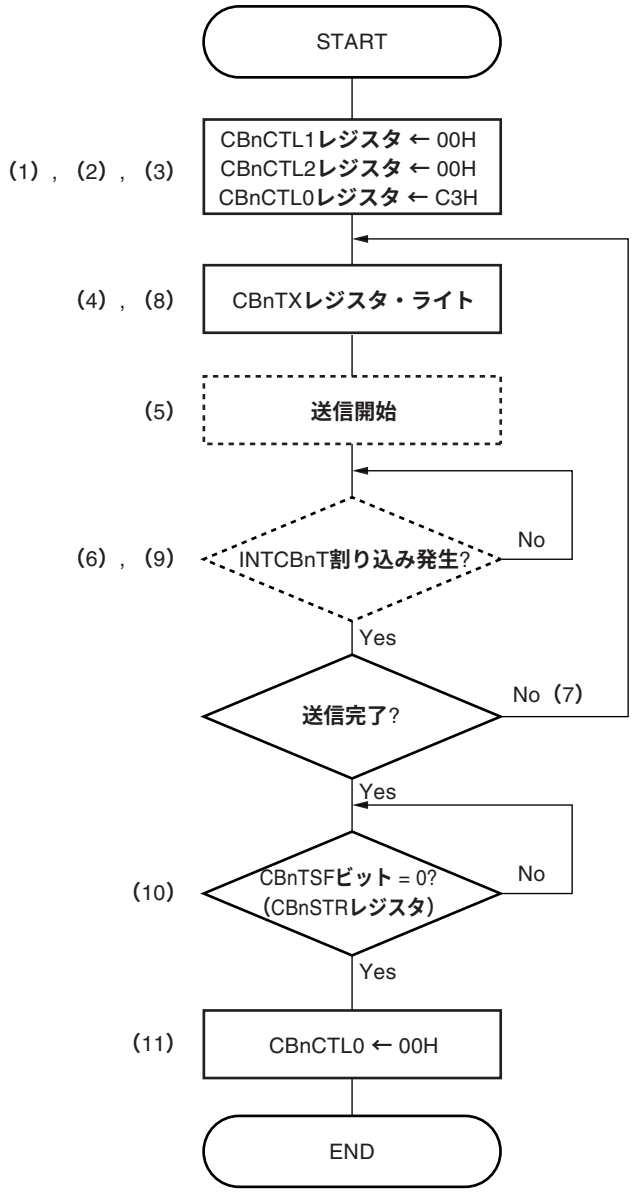
（10）送受信を完了する場合は，CBnCTL0.CBnPWRビット = 0，CBnCTL0.CBnTXEビット = 0，CBnCTL0.CBnRXEビット = 0をライトする。

備考　n = 0-5

16. 6. 7　連続転送モード（マスタ・モード，送信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}） = f_{XX}/2（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 000），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

（1）動作フロー

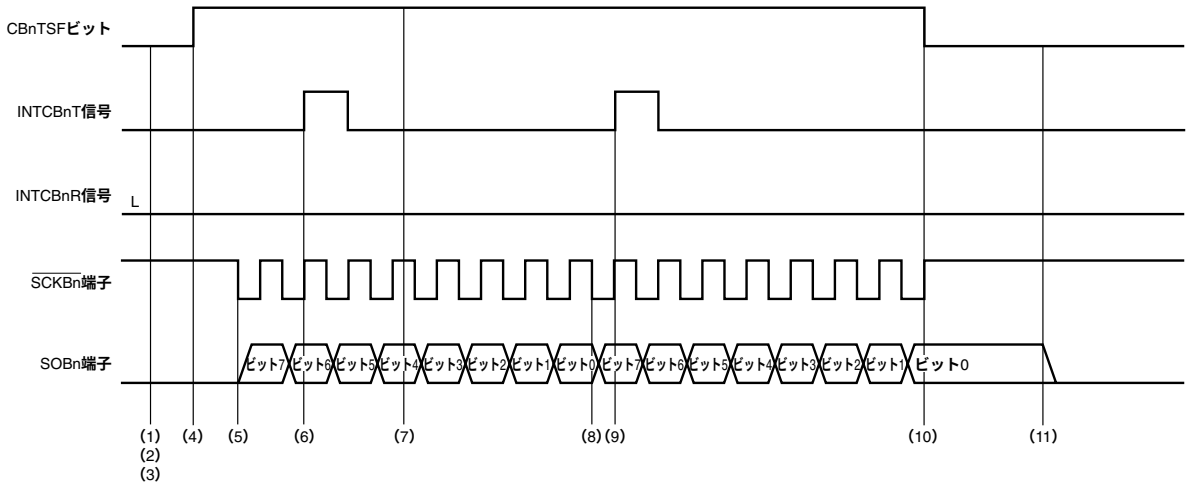


備考1.　破線はハードウエア処理を表します。

2.　番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに00Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}）＝ $f_{XX}/2$，マスタ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにC3Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，送信モード，MSBファースト，連続転送モードを選択する。

（4）CBnTXレジスタに送信データをライトすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，送信を開始する。

（5）送信が開始されると，$\overline{\text{SCKBn}}$端子にシリアル・クロックを出力し，シリアル・クロックに同期してSOBn端子より送信データを出力する。

（6）CBnTXレジスタからシフト・レジスタへの送信データの転送が完了し，CBnTXレジスタへのライトが可能になると，送信許可割り込み要求信号（INTCBnT）が発生する。

（7）続けて送信を行う場合は，INTCBnT信号発生後，再びCBnTXレジスタに送信データをライトする。

（8）通信完了前に新たな送信データがCBnTXレジスタへライトされていると，通信完了後に続けて次の通信を開始する。

（9）CBnTXレジスタからシフト・レジスタへの送信データの転送が完了し，INTCBnT信号が発生する。現送信で連続送信を完了する場合は，CBnTXレジスタへのライトを行わない。

（10）転送完了までに次の送信データがCBnTXレジスタへライトされない場合は，転送完了後，$\overline{\text{SCKBn}}$端子へのシリアル・クロックの出力を停止し，CBnTSFビットをクリア（0）する。

（11）送信許可状態を解除する場合は，CBnTSFビット ＝0を確認後，CBnCTL0.CBnPWRビット ＝0，CBnCTL0.CBnTXEビット ＝0をライトする。

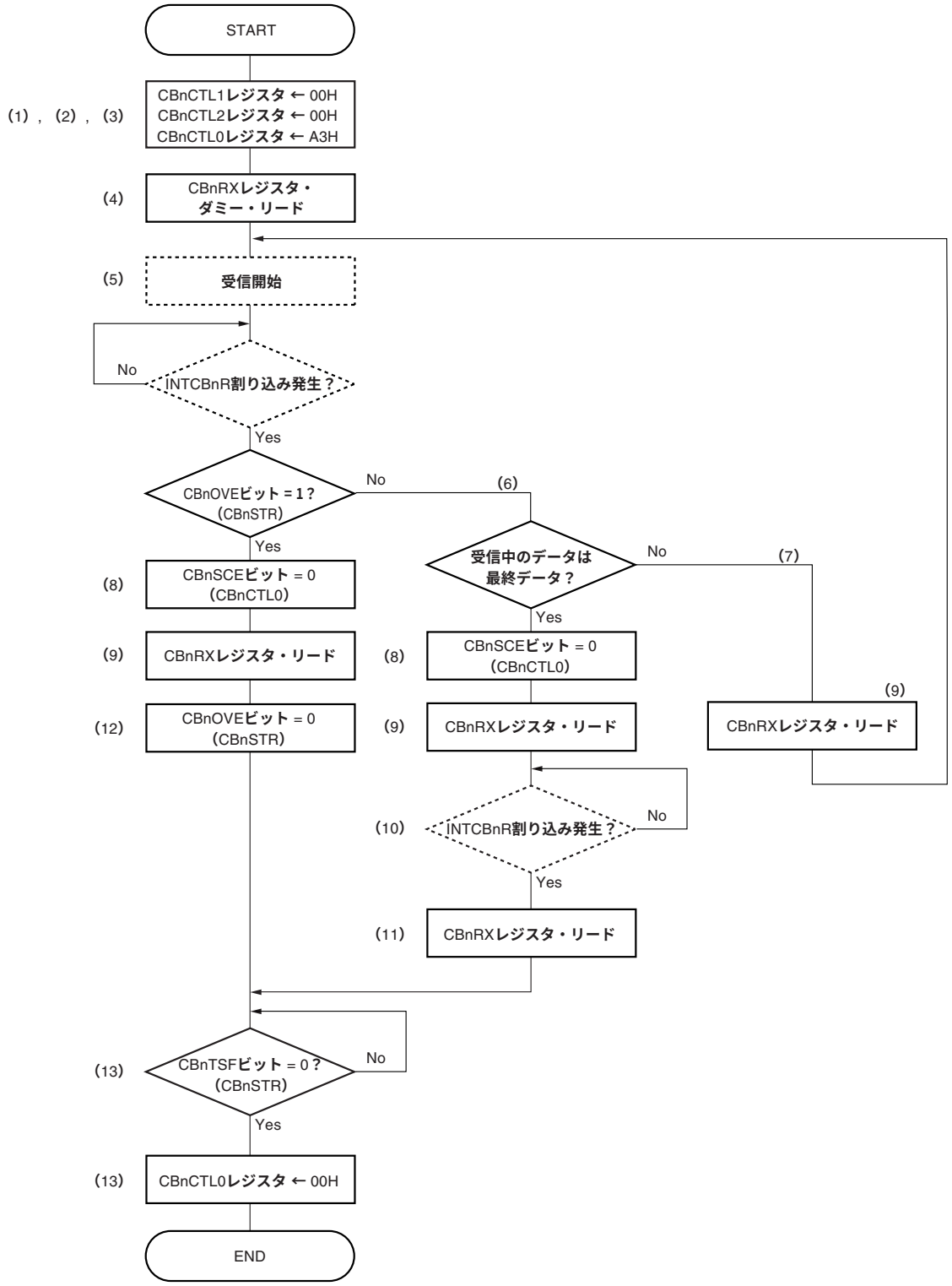
注意　連続送信モードでは，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）は発生しません。

備考　n = 0-5

16. 6. 8　連続転送モード（マスタ・モード，受信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}） = f_{XX}/2（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 000），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

（1）動作フロー

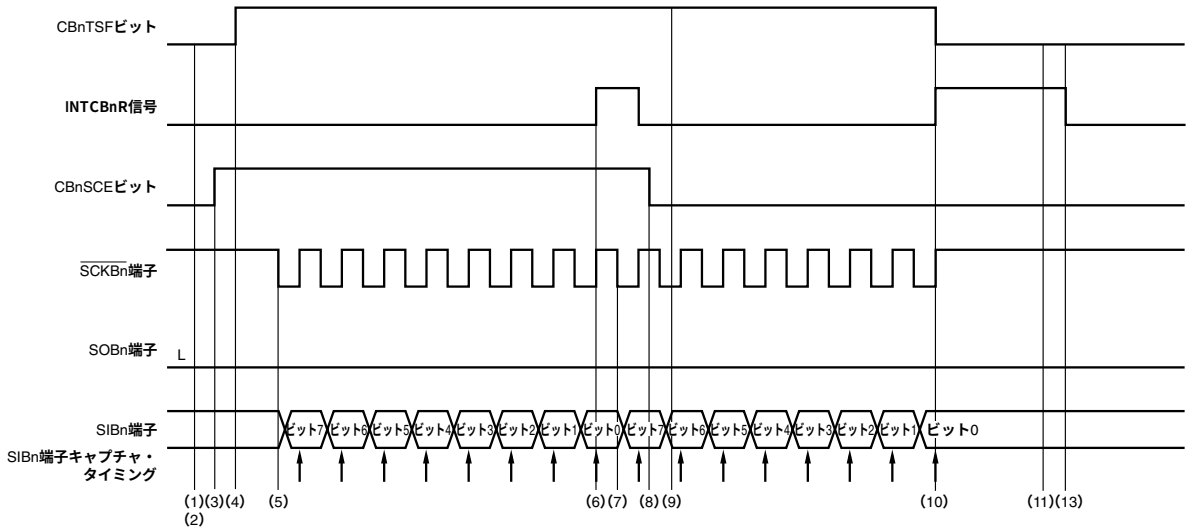


備考1.　**破線はハードウエア処理を表します。**

2.　**番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。**

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに00Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}） = f_{XX}/2，マスタ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにA3Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，受信モード，MSBファースト，連続転送モードを選択する。

（4）CBnRXレジスタをダミー・リードすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，受信を開始する。

（5）受信が開始されると，$\overline{\text{SCKBn}}$端子にシリアル・クロックを出力し，シリアル・クロックに同期してSIBn端子の受信データをキャプチャする。

（6）受信が完了すると，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）が発生し，CBnRXレジスタのリードが可能になる。

（7）通信完了時にCBnCTL0.CBnSCEビット = 1だと，通信完了後に続けて次の通信を開始する。

（8）現受信で連続受信を完了する場合は，CBnSCEビット = 0をライトする。

（9）CBnRXレジスタをリードする。

（10）受信が完了すると，INTCBnR信号が発生し，CBnRXレジスタのリードが可能になる。通信完了前にCBnSCEビット = 0に設定されていると，$\overline{\text{SCKBn}}$端子へのシリアル・クロックの出力を停止し，CBnTSFビットをクリア（0）し受信動作を終了する。

（11）CBnRXレジスタをリードする。

（12）オーバラン・エラー発生時は，CBnSTR.CBnOVEビット = 0をライトして，エラー・フラグをクリアする。

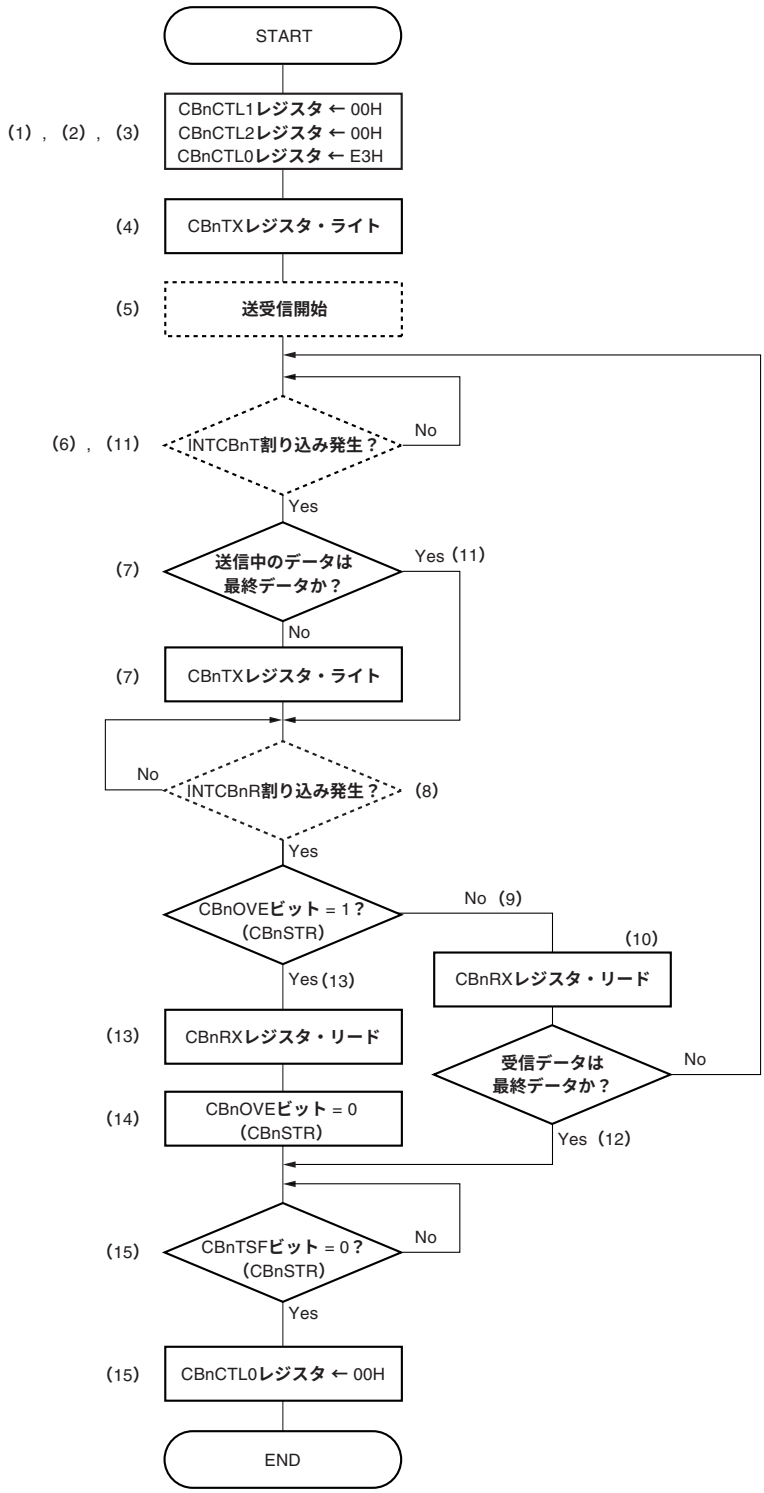
（13）受信許可状態を解除する場合は，CBnTSFビット = 0を確認後，CBnCTL0.CBnPWRビット = 0，CBnCTL0.CBnRXEビット = 0をライトする。

備考　n = 0-5

16. 6. 9　連続転送モード（マスタ・モード，送受信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}） = f_{XX}/2（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 000），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

(1) 動作フロー



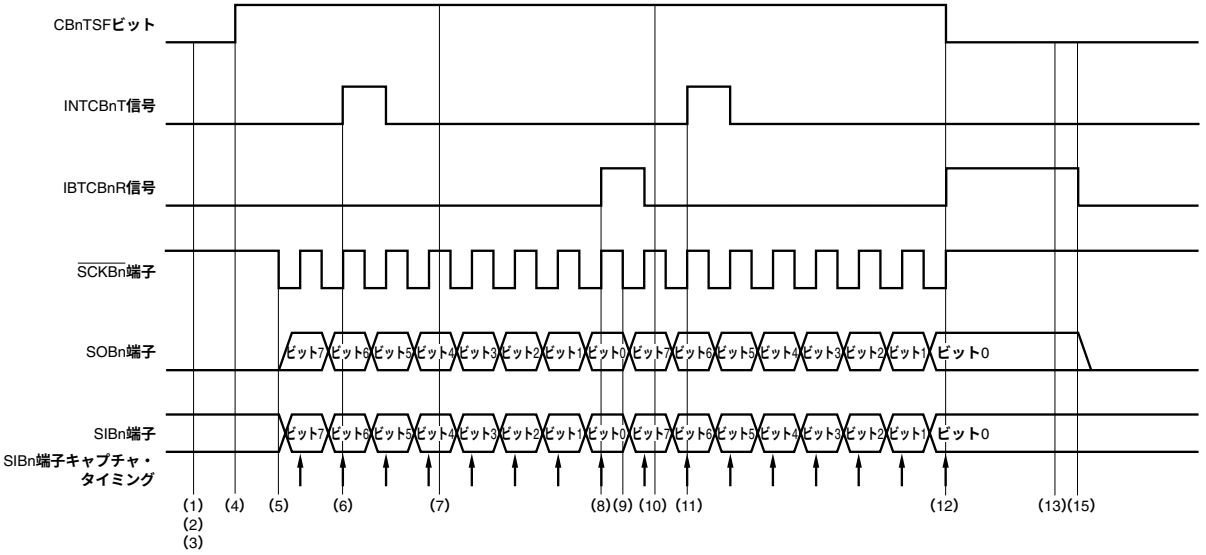
備考1.　**破線はハードウエア処理を表します。**

2.　**番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。**

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング

（1/2）



（1）CBnCTL1レジスタに00Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}） = $f_{XX}/2$，マスタ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにE3Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，送受信モード，MSBファースト，連続転送モードを選択する。

（4）CBnTXレジスタに送信データをライトすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，送受信を開始する。

（5）送受信が開始されると，$\overline{\text{SCKBn}}$端子にシリアル・クロックを出力し，シリアル・クロックに同期してSOBn端子に送信データを出力し，SIBn端子の受信データをキャプチャする。

（6）CBnTXレジスタからシフト・レジスタへの送信データの転送が完了し，CBnTXレジスタへのライトが可能になると，送信許可割り込み要求信号（INTCBnT）が発生する。

（7）続けて送受信を行う場合は，INTCBnT信号発生後，再びCBnTXレジスタに送信データをライトする。

（8）1回の送受信が完了すると，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）が発生し，CBnRXレジスタのリードが可能になる。

（9）通信完了前に新たな送信データがCBnTXレジスタへライトされていると，通信完了後に続けて次の通信を開始する。

（10）CBnRXレジスタをリードする。

備考　n = 0-5

（2/2）

（11） CBnTXレジスタからシフト・レジスタへの送信データの転送が完了し，INTCBnT信号が発生する。現送受信で連続送受信を完了する場合は，CBnTXレジスタへのライトを行わない。

（12） 転送完了までに次の送信データがCBnTXレジスタへライトされない場合は，転送完了後，$\overline{\text{SCKBn}}$端子へのシリアル・クロックの出力を停止し，CBnTSFビットをクリア（0）する。

（13） 受信エラー割り込み要求信号（INTCBnR）発生時は，CBnRXレジスタをリードする。

（14） オーバラン・エラー発生時は，CBnSTR.CBnOVEビット = 0をライトして，エラー・フラグをクリアする。

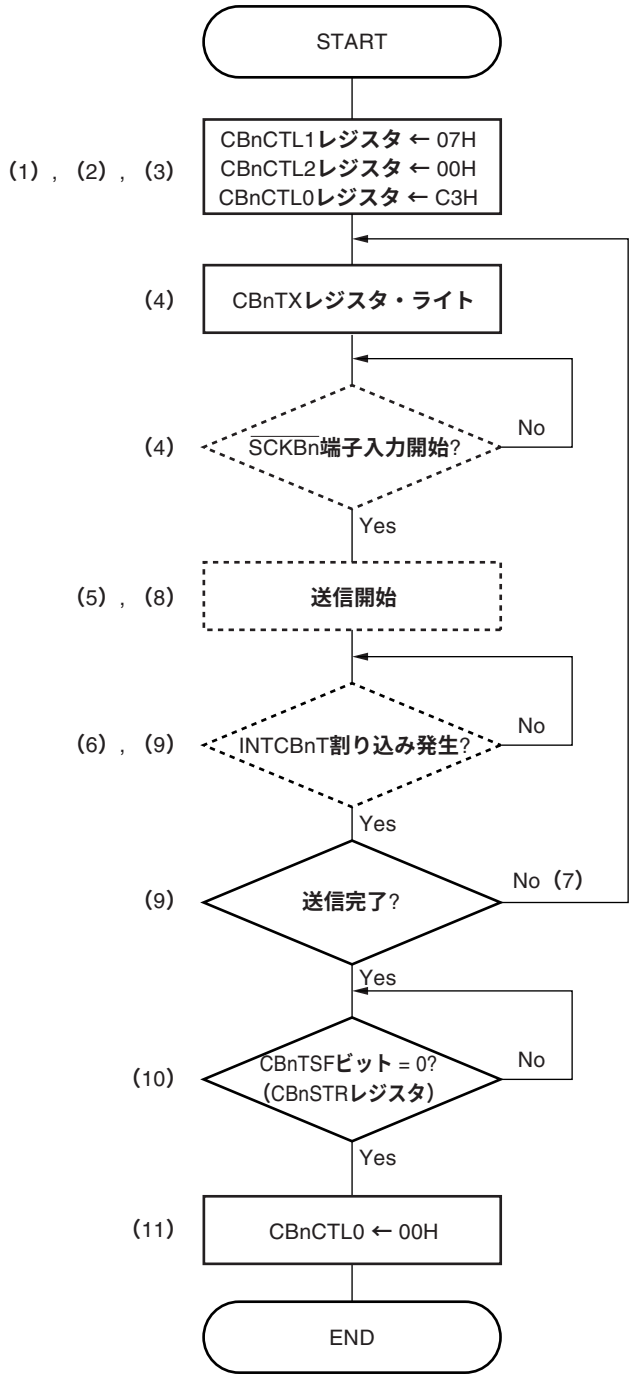
（15） 送受信許可状態を解除する場合は，CBnTSFビット = 0を確認後，CBnCTL0.CBnPWRビット = 0，CBnCTL0.CBnTXEビット = 0, CBnCTL0.CBnRXEビット = 0をライトする。

備考 n = 0-5

16. 6. 10　連続転送モード（スレーブ・モード，送信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}）= 外部クロック（$\overline{\text{SCKBn}}$）（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 111），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

（1）動作フロー

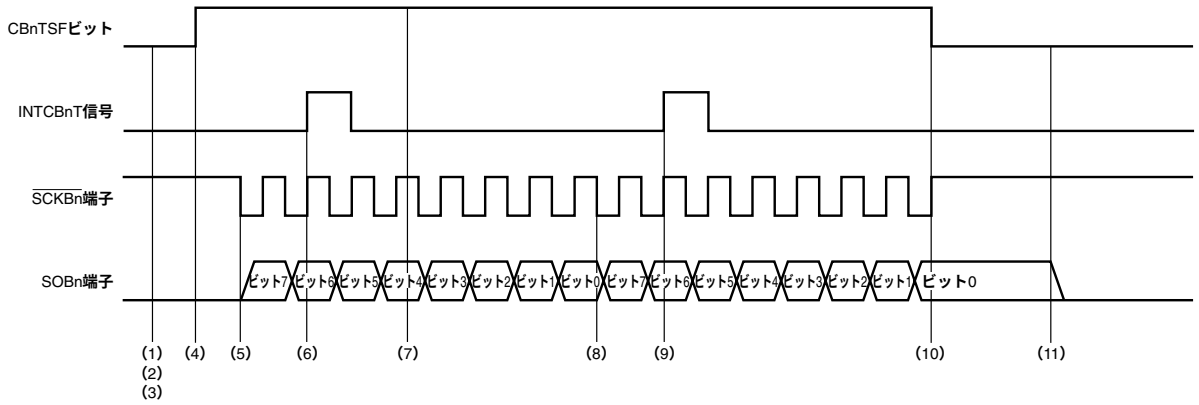


備考1.　破線はハードウエア処理を表します。

2.　番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに07Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}）＝外部クロック（$\overline{SCKBn}$），スレーブ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにC3Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，送信モード，MSBファースト，連続転送モードを選択する。

（4）CBnTXレジスタに送信データをライトすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，シリアル・クロック入力待ち状態になる。

（5）シリアル・クロックが入力されると，シリアル・クロックに同期してSOBn端子より送信データを出力する。

（6）CBnTXレジスタからシフト・レジスタへの送信データの転送が完了し，CBnTXレジスタへのライトが可能になると，送信許可割り込み要求信号（INTCBnT）が発生する。

（7）続けて送信を行う場合は，INTCBnT信号発生後，再びCBnTXレジスタに送信データをライトする。

（8）CBnCTL2レジスタで設定した転送データ長分の送信が完了後に続けてシリアル・クロックが入力されると，連続送信を開始する。

（9）CBnTXレジスタからシフト・レジスタへの送信データの転送が完了し，CBnTXレジスタへのライトが可能になるとINTCBnT信号が発生する。現送信で連続送信を完了する場合は，CBnTXレジスタへのライトを行わない。

（10）CBnTXレジスタへライトされていない状態で，CBnCTL2レジスタに設定した転送データ長分のクロックが入力されると，CBnTSFビットをクリア（0）し，送信を終了する。

（11）送信許可状態を解除する場合は，CBnTSFビット＝0を確認後，CBnCTL0.CBnPWRビット＝0，CBnCTL0.CBnTXEビット＝0をライトする。

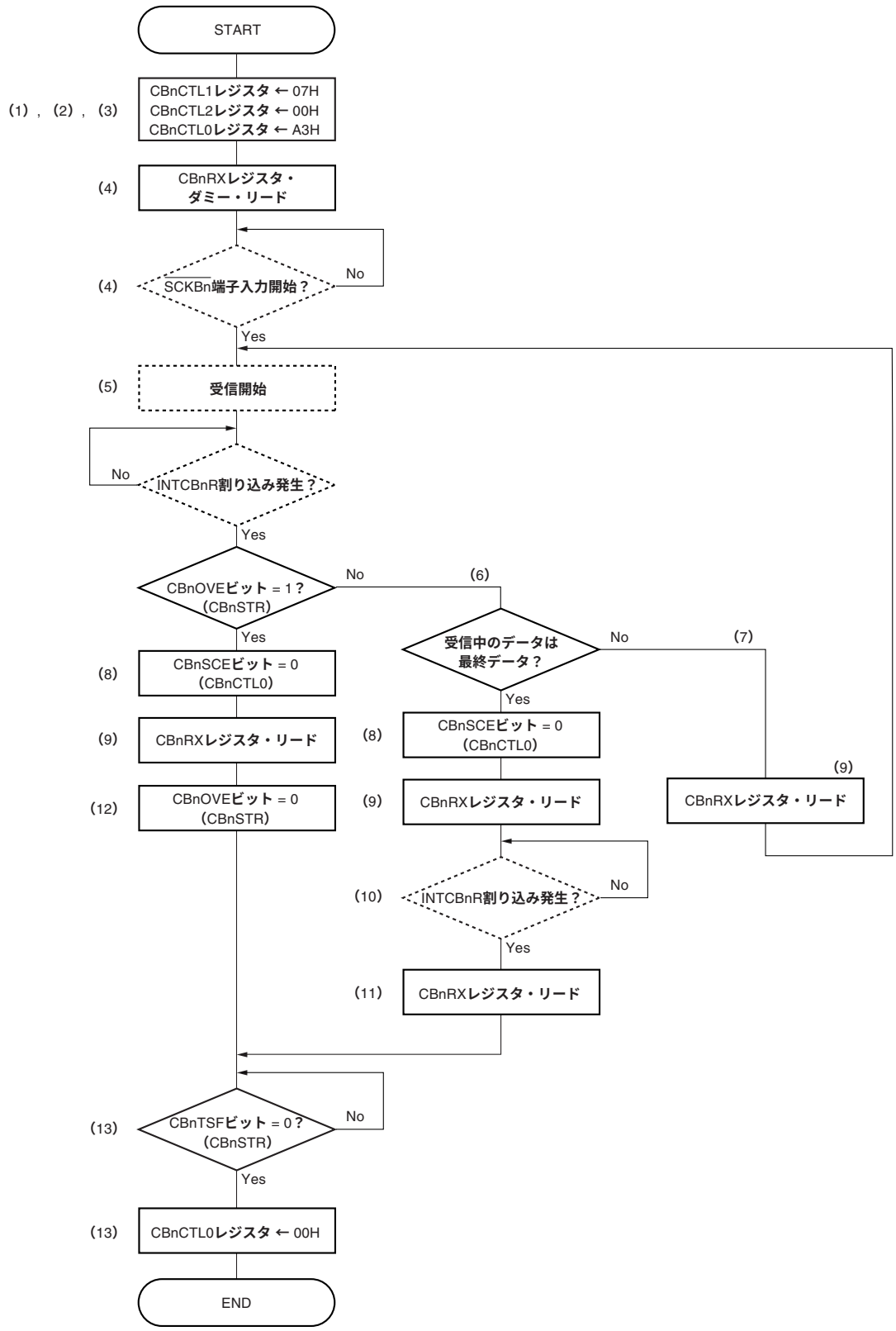
注意　連続送信モードでは，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）は発生しません。

備考　n = 0-5

16. 6. 11　連続転送モード（スレーブ・モード，受信モード）

MSBファースト（CBnCTL0.CBnDIRビット = 0），通信タイプ1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAPビット = 00），通信クロック（f_{CCLK}） =外部クロック（$\overline{\text{SCKBn}}$）（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 111），転送データ長8ビット（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0ビット = 0000）の場合

(1) 動作フロー

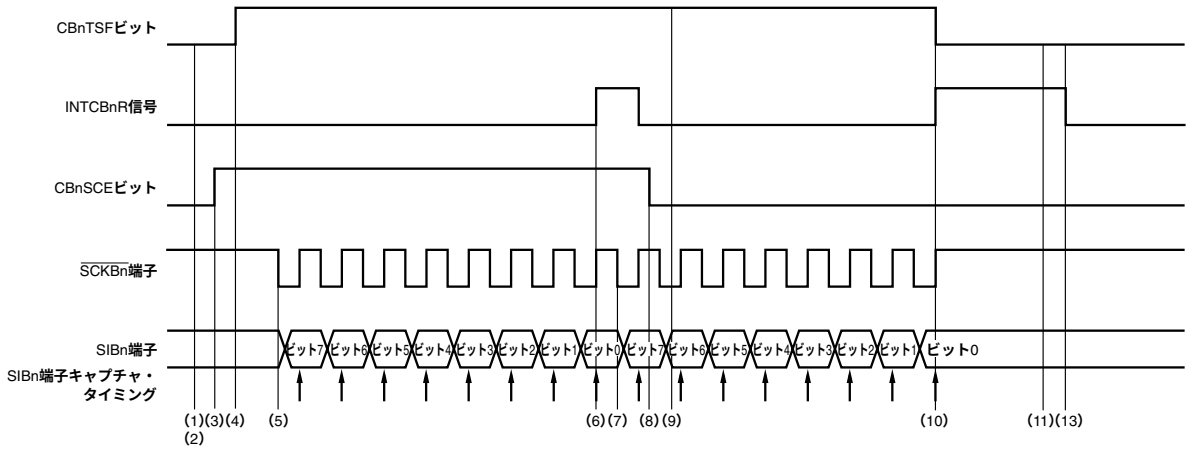


備考1.　**破線はハードウエア処理を表します。**

2.　**番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。**

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング



（1）CBnCTL1レジスタに07Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}） = 外部クロック（$\overline{\text{SCKBn}}$），スレーブ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにA3Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，受信モード，MSBファースト，連続転送モードを選択する。

（4）CBnRXレジスタをダミー・リードすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，シリアル・クロック入力待ち状態になる。

（5）シリアル・クロックが入力されると，シリアル・クロックに同期してSIBn端子の受信データをキャプチャする。

（6）受信が完了すると，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）が発生し，CBnRXレジスタのリードが可能になる。

（7）CBnCTL0.CBnSCEビット = 1状態でシリアル・クロックが入力されると，連続して受信動作を開始する。

（8）現受信で連続受信を完了する場合は，CBnSCEビット = 0をライトする。

（9）CBnRXレジスタをリードする。

（10）受信が完了すると，INTCBnR信号が発生し，CBnRXレジスタのリードが可能になる。通信完了前にCBnSCEビット = 0に設定されていると，CBnTSFビットをクリア（0）し受信動作を終了する。

（11）CBnRXレジスタをリードする。

（12）オーバラン・エラー発生時は，CBnSTR.CBnOVEビット = 0をライトして，エラー・フラグをクリアする。

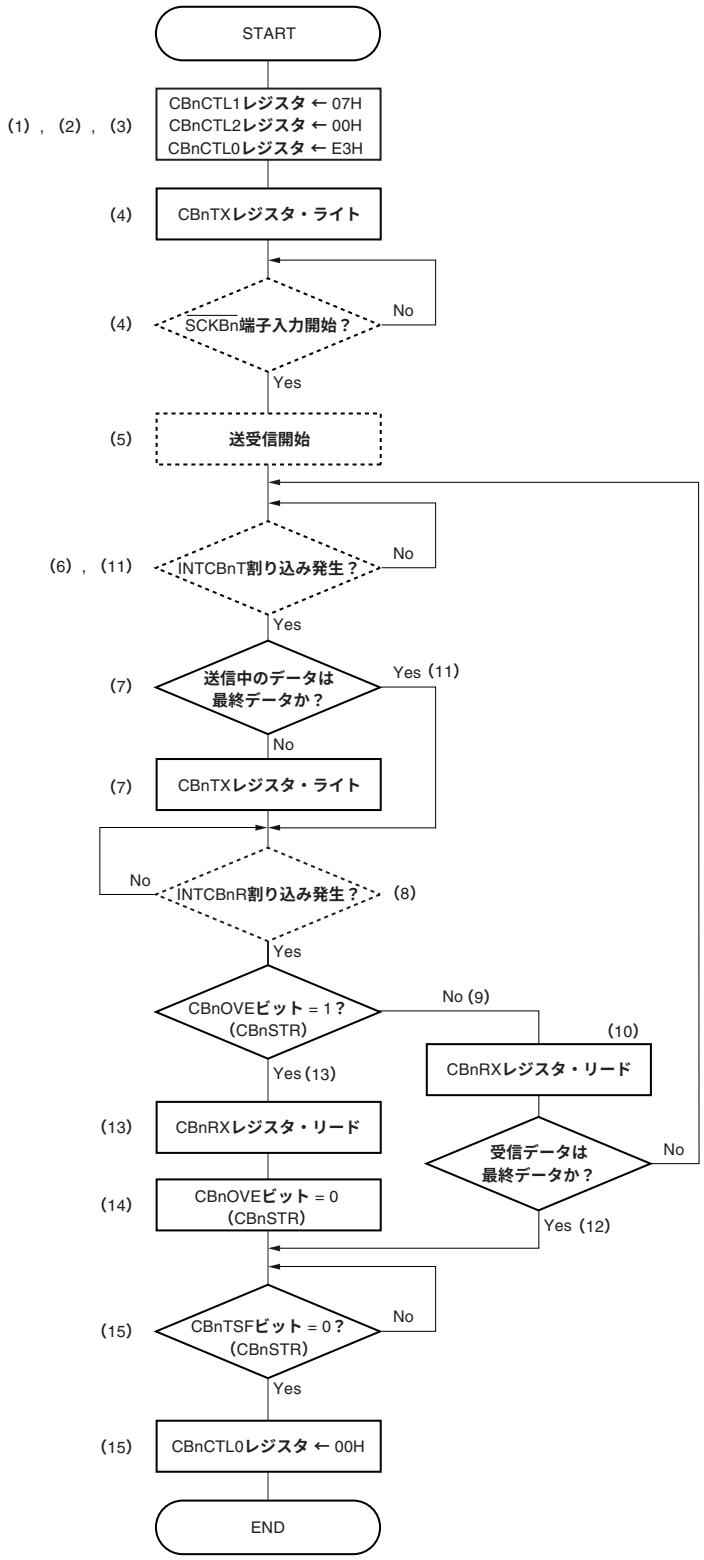
（13）受信許可状態を解除する場合は，CBnTSFビット = 0を確認後，CBnCTL0.CBnPWRビット = 0，CBnCTL0.CBnRXEビット = 0をライトする。

備考　n = 0-5

16. 6. 12　連続転送モード（スレーブ・モード，送受信モード）

MSB**ファースト**（CBnCTL0.CBnDIR**ビット** = 0）**，通信タイプ**1（CBnCTL1.CBnCKP, CBnDAP**ビット** = 00）**，通信クロック**（f_{CCLK}） = **外部クロック**（$\overline{\text{SCKBn}}$）（CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0**ビット** = 111）**，転送データ長**8**ビット**（CBnCTL2.CBnCL3-CBnCL0**ビット** = 0000）**の場合**

(1) 動作フロー



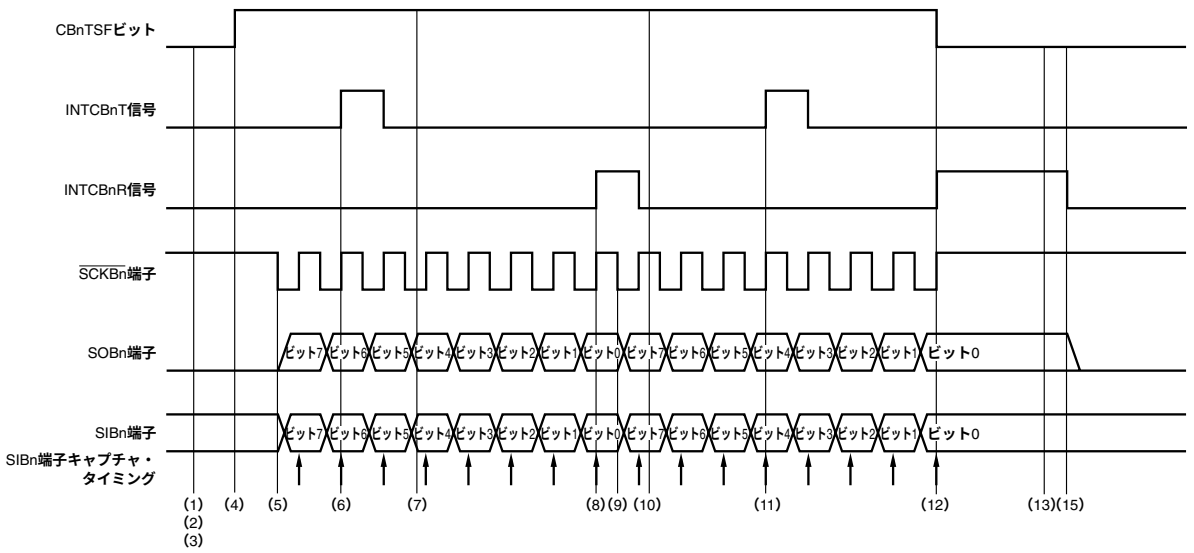
備考1.　**破線はハードウエア処理を表します。**

2.　**番号は（2）動作タイミング内の処理番号に対応しています。**

3.　n = 0-5

（2）動作タイミング

（1/2）



（1）CBnCTL1レジスタに07Hをライトし，通信タイプ1，通信クロック（f_{CCLK}） = 外部クロック（$\overline{SCKBn}$），スレーブ・モードを選択する。

（2）CBnCTL2レジスタに00Hをライトし，転送データ長を8ビットに設定する。

（3）CBnCTL0レジスタにE3Hをライトし，通信クロック（f_{CCLK}）を動作許可状態にすると同時に，送受信モード，MSBファースト，連続転送モードを選択する。

（4）CBnTXレジスタに送信データをライトすることで，CBnSTR.CBnTSFビットがセット（1）され，シリアル・クロック入力待ち状態になる。

（5）シリアル・クロックが入力されると，シリアル・クロックに同期してSOBn端子に送信データを出力し，SIBn端子の受信データをキャプチャする。

（6）CBnTXレジスタからシフト・レジスタへの送信データの転送が完了し，CBnTXレジスタへのライトが可能になると，送信許可割り込み要求信号（INTCBnT）が発生する。

（7）続けて送信を行う場合は，INTCBnT信号発生後，再びCBnTXレジスタに送信データをライトする。

（8）CBnCTL2レジスタで設定した転送データ長分の受信が終了すると，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）を発生し，CBnRXレジスタのリードが可能になる。

（9）続けてシリアル・クロックが入力されると，連続送受信を開始する。

（10）CBnRXレジスタをリードする。

（11）CBnTXレジスタからシフト・レジスタへの送信データの転送が完了し，CBnTXレジスタへのライトが可能になるとINTCBnT信号が発生する。現送受信で連続送受信を完了する場合は，CBnTXレジスタへのライトを行わない。

備考　n = 0-5

（2/2）

（12） CBnTXレジスタへライトされていない状態で，CBnCTL2レジスタに設定した転送データ長分のクロックが入力されると，INTCBnR信号が発生し，CBnTSFビットをクリア（0）し，送受信を終了する。

（13） INTCBnR信号発生時は，CBnRXレジスタをリードする。

（14） オーバラン・エラー発生時は，CBnSTR.CBnOVEビット = 0をライトして，エラー・フラグをクリアする。

（15） 送受信許可状態を解除する場合は，CBnTSFビット = 0を確認後，CBnCTL0.CBnPWRビット = 0，CBnCTL0.CBnTXEビット = 0, CBnCTL0.CBnRXEビット = 0をライトする。

備考 n = 0-5

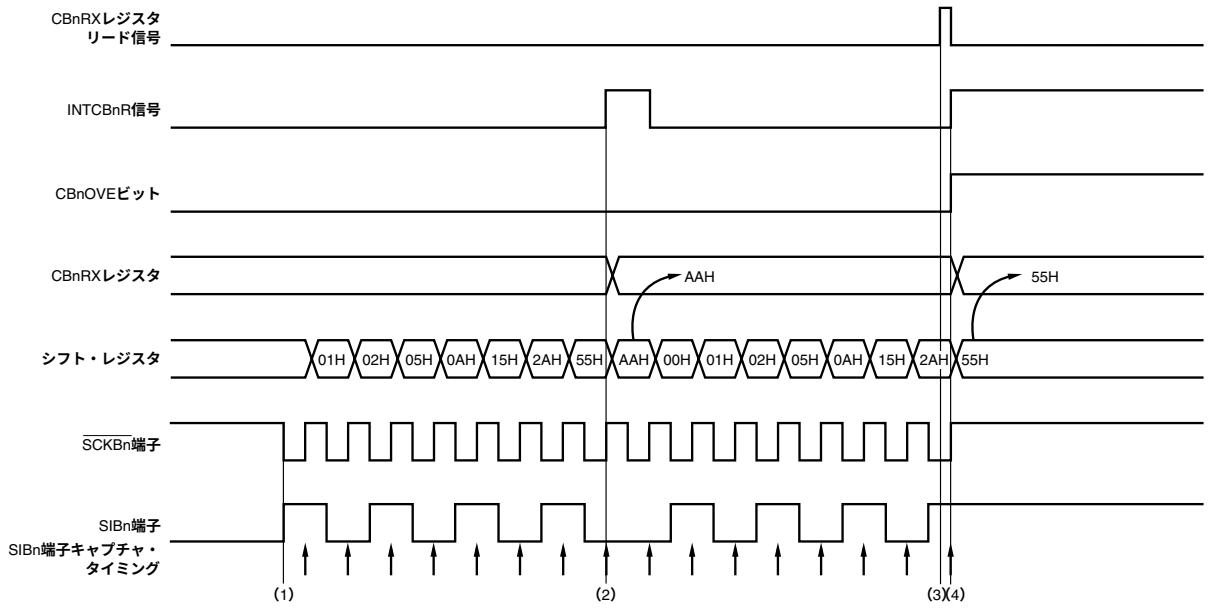
16. 6. 13　受信エラー

連続転送モード時に受信許可（CBnCTL0.CBnRXEビット = 1）で転送を行う場合，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）発生後，CBnRXレジスタをリードする前に次の受信動作が完了すると再度INTCBnR信号が発生し，オーバラン・エラー・フラグ（CBnSTR.CBnOVE）がセット（1）されます。

オーバラン・エラーが発生した場合でも，CBnRXレジスタは更新されるため，前回の受信データは失われます。また，受信エラーが発生した場合でもCBnRXレジスタをリードしないと，次の受信完了で再びINTCBnR信号が発生します。

オーバラン・エラーを回避するためには，INTCBnR信号発生後から次の受信データの最終ビットをサンプリングする半クロック前までに，CBnRXレジスタのリードを完了してください。

（1）動作タイミング



（1）連続転送開始。

（2）1回目の転送完了。

（3）2回目の転送完了の半クロック前までにCBnRXレジスタをリードできない。

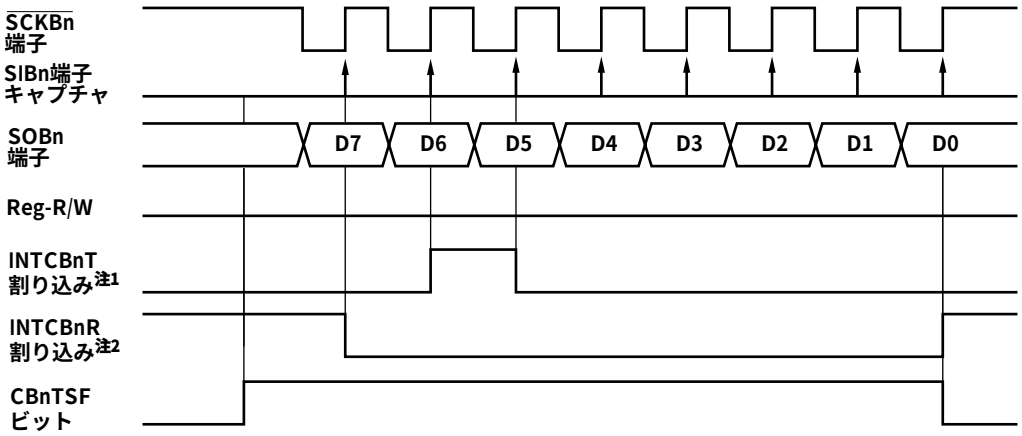
（4）オーバラン・エラーが発生し，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）が発生し，オーバラン・エラー・フラグ（CBnSTR.CBnOVE）がセット（1）される。受信データは上書きされる。

備考　n = 0-5

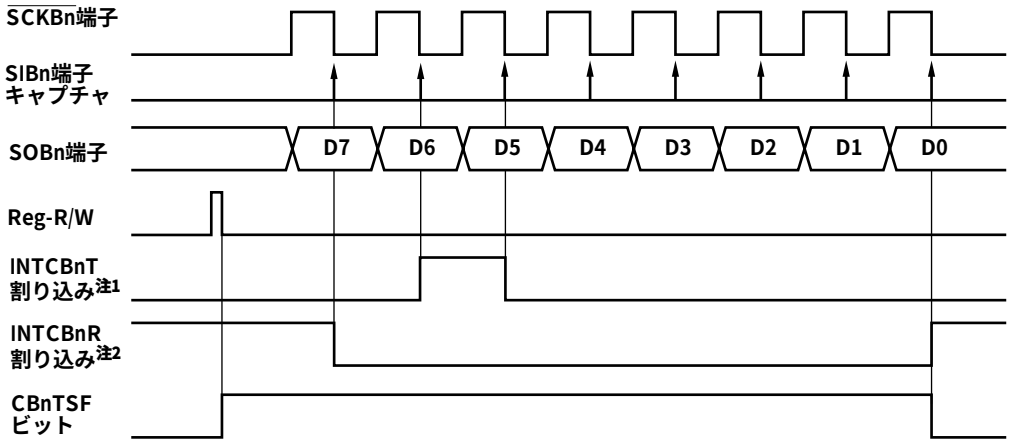
16. 6. 14　クロック・タイミング

（1/2）

（ｉ）通信タイプ1（CBnCKP, CBnDAPビット = 00）



（ii）通信タイプ3（CBnCKP, CBnDAPビット = 10）



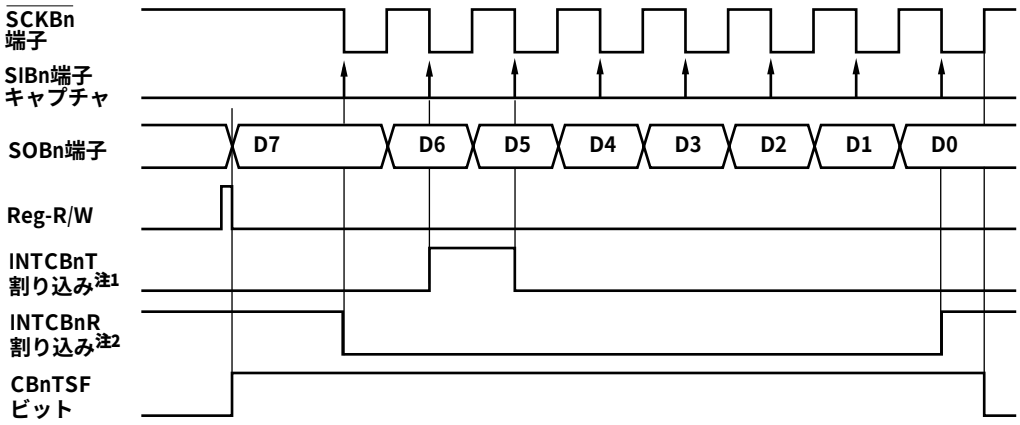
注1.　連続送信／連続送受信モードにおいて，CBnTXレジスタに書き込んだデータがデータ・シフト・レジスタに転送されたタイミングでセットされます。シングル送信／シングル送受信モードにおいては，INTCBnT割り込み要求信号は発生せずに，通信完了時にINTCBnR割り込み要求信号が発生します。

2.　受信許可状態において，正常に受信を完了し受信データがCBnRXレジスタに準備できた場合に発生します。また，シングル・モードの場合には，送信モードにおいても，通信完了のタイミングでINTCBnR割り込み要求信号が発生します。

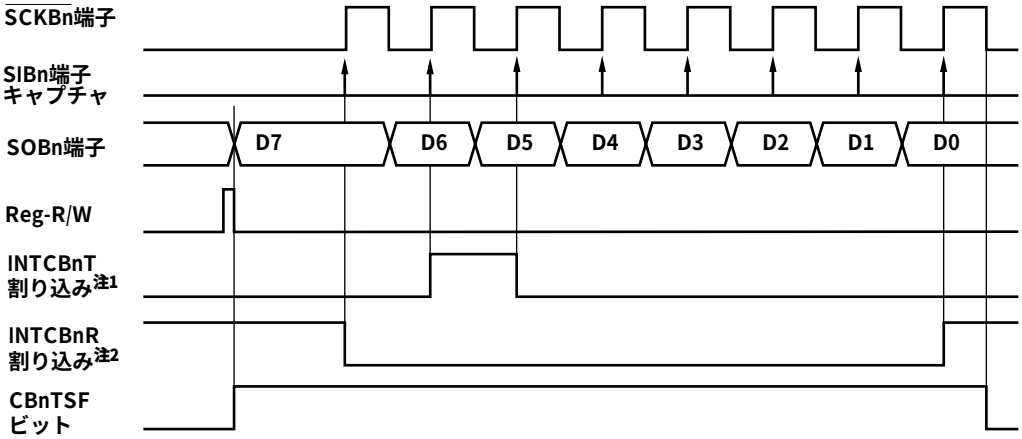
注意　シングル転送モードでは，CBnTSFビット = 1の状態でCBnTXレジスタに書き込みを行っても無視されます。なお，転送中の動作には影響はありません。
たとえば，INTCBnR信号発生によりDMAを起動し，CBnTXレジスタに次のデータを書き込んでも，CBnTSFビット = 1のため書き込んだデータの転送は行われません。
このようなアプリケーションは，シングル転送モードではなく連続転送モードを使用してください。

(2/2)

（ iii ）通信タイプ2（CBnCKP, CBnDAPビット = 01）



（ iv ）通信タイプ4（CBnCKP, CBnDAPビット = 11）



注1.　連続送信／連続送受信モードにおいて，CBnTXレジスタに書き込んだデータがデータ・シフト・レジスタに転送されたタイミングでセットされます。シングル送信／シングル送受信モードにおいては，INTCBnT割り込み要求信号は発生せずに，通信完了時にINTCBnR割り込み要求信号が発生します。

2.　受信許可状態において，正常に受信を完了し受信データがCBnRXレジスタに準備できた場合に発生します。また，シングル・モードの場合には，送信モードにおいても，通信完了のタイミングでINTCBnR割り込み要求信号が発生します。

注意　シングル転送モードでは，CBnTSFビット = 1の状態でCBnTXレジスタに書き込みを行っても無視されます。なお，転送中の動作には影響はありません。
たとえば，INTCBnR信号発生によりDMAを起動し，CBnTXレジスタに次のデータを書き込んでも，CBnTSFビット = 1のため書き込んだデータの転送は行われません。
このようなアプリケーションは，シングル転送モードではなく連続転送モードを使用してください。

16. 7　出力端子

(1) $\overline{\text{SCKBn}}$端子

CSIBn動作禁止（CBnCTL0.CBnPWRビット = 0）のとき，$\overline{\text{SCKBn}}$端子出力状態は次のようになります。

CBnCKP	CBnCKS2	CBnCKS1	CBnCKS0	$\overline{\text{SCKBn}}$端子出力
0	1	1	1	ハイ・インピーダンス
	上記以外			ハイ・レベル固定
1	1	1	1	ハイ・インピーダンス
	上記以外			ロウ・レベル固定

備考1.　CBnCTL1.CBnCKP, CBnCKS2-CBnCKS0ビットのいずれかを書き換えると$\overline{\text{SCKBn}}$端子の出力が変化します。

2.　n = 0-5

(2) SOBn端子

CSIBn動作禁止（CBnPWRビット = 0）のとき，SOBn端子出力状態は次のようになります。

CBnTXE	CBnDAP	CBnDIR	SOBn端子出力
0	x	x	ロウ・レベル固定
1	0	x	SOBnラッチの値（ロウ・レベル）
	1	0	CBnTXの値（MSB）
		1	CBnTXの値（LSB）

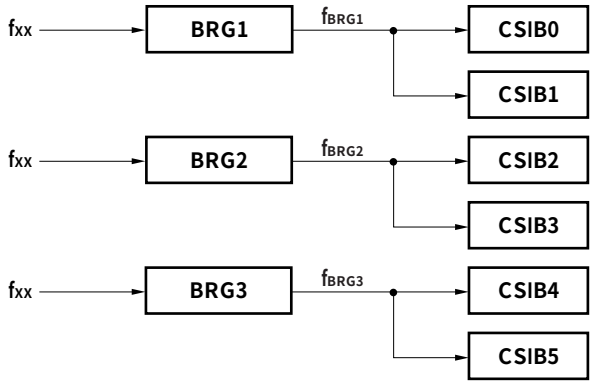
備考1.　CBnCTL0.CBnTXE, CBnDIRビット，CBnCTL1.CBnDAPビットのいずれかを書き換えるとSOBn端子の出力が変化します。

2.　x：任意

3.　n = 0-5

16. 8　ボー・レート・ジェネレータ

ボー・レート・ジェネレータBRG1-BRG3とCSIB0-CSIB5は，次のブロック図のように接続されています。



(1) プリスケーラ・モード・レジスタ 1-3（PRSM1-PRSM3）

PRSMmレジスタは，CSIBのボー・レート信号の生成を制御します。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：PRSM1 FFFFF320H, PRSM2 FFFFF324H, PRSM3 FFFFF328H

	7	6	5	④	3	2	1	0
PRSMm (m = 1-3)	0	0	0	BGCEm	0	0	BGCSm1	BGCSm0

BGCEm	ボー・レート出力
0	禁止
1	許可

BGCSm1	BGCSm0	入力クロックの選択（f_{BGCSm}）	設定値（k）
0	0	fxx	0
0	1	fxx/2	1
1	0	fxx/4	2
1	1	fxx/8	3

注意1.　**動作中に，**PRSMm**レジスタを書き換えないでください。**

2.　PRSMm**レジスタの設定は**BGCEm**ビットに“**1**”を設定する前に行ってください。**

3.　**ビット**7-5, 3, 2**には必ず“**0**”を設定してください。**

(2) プリスケーラ・コンペア・レジスタ 1-3（PRSCM1-PRSCM3）

8ビットのコンペア・レジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：PRSCM1 FFFFF321H, PRSCM2 FFFFF325H, PRSCM3 FFFFF329H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PRSCMm (m = 1-3)	PRSCMm7	PRSCMm6	PRSCMm5	PRSCMm4	PRSCMm3	PRSCMm2	PRSCMm1	PRSCMm0

注意1. **動作中に**PRSCMm**レジスタを書き換えないでください。**

2. PRSMm.BGCEm**ビットに“**1**”を設定する前に**PRSCMm**レジスタの設定を行ってください。**

16. 8. 1　ボー・レートの生成

メイン・クロックを分周して送受信クロックを生成します。メイン・クロックから生成するボー・レートは次の式によって求められます。

$$f_{BRGm} = \frac{f_{XX}}{2^{k+1} \times N}$$

注意　f_{BRGm}**は，**8 MHz**以下になるように設定してください。**

備考　f_{BRGm} **：**BRGm**のカウント・クロック**

f_{XX}　**：メイン・クロックの発振周波数**

k　**：**PRSMm**レジスタの設定値** = 0-3

N　**：**PRSCMm**レジスタ設定値** = 1-256

ただし，N = 256**となるのは，**PRSCMm**レジスタに**00H**を設定した場合です。**

m = 1-3

16. 9　注意事項

(1) DMA転送により，送信データ，受信データの転送を行う場合，シリアル転送中にオーバラン・エラーが発生してもエラー処理を行えません。DMA転送終了後にCBnSTR.CBnOVEビットを読み出してオーバラン・エラーがなかったことを確認してください。

(2) 動作中（CBnCTL0.CBnPWRビット = 1）の書き換えを禁止しているレジスタに対して，動作中に誤って書き換えを行ってしまった場合は，一度CBnCTL0.CBnPWRビット = 0に設定してCSIBnを初期化してください。

動作中の書き換えが禁止されているレジスタを次に示します。

- CBnCTL0レジスタ：CBnTXE, CBnRXE, CBnDIR, CBnTMSビット
- CBnCTL1レジスタ：CBnCKP, CBnDAP, CBnCKS2-CBnCKS0ビット
- CBnCTL2レジスタ：CBnCL3-CBnCL0ビット

(3) 通信タイプ2, 4（CBnCTL1.CBnDAPビット = 1）では，受信完了割り込み（INTCBnR）発生後，$\overline{\text{SCKBn}}$半クロック後にCBnSTR.CBnTSFビットがクリアされます。

一方，シングル転送モードでは，通信中（CBnTSFビット = 1）に次の送信データをライトしても無視され，次の通信は起動しません。また，受信のみの通信に設定したとき（CBnCTL0.CBnTXEビット = 0, CBnCTL0.CBnRXEビット = 1）も，通信中（CBnTSFビット = 1）に受信データをリードしても次の通信は起動しません。

そのため，通信タイプ2, 4（CBnDAPビット = 1）でシングル転送モードを使用する場合，次の点に注意してください。

- 次の送信を起動する場合は，CBnTSFビット = 0であることを確認したあと，CBnTXレジスタに送信データを書き込む
- 受信のみの通信に設定したとき（CBnTXEビット = 0, CBnRXEビット = 1）に続けて次の受信を行う場合は，CBnTSFビット = 0であることを確認したあと，CBnRXレジスタをリードする

または，シングル転送モードではなく，連続転送モードを使用してください。特にDMAを使用する場合は連続転送モードの使用を推奨します。

備考　n = 0-5

第17章 I²Cバス

この機能を使用する場合は，P38/SDA00, P39/SCL00, P40/SDA01, P41/SCL01, P90/SDA02, P91/SCL02**端子を兼用端子として使用し，**N-ch**オープン・ドレーン出力に設定してください。**

17. 1 I²Cバスとほかのシリアル・インタフェースのモード切り替え

17. 1. 1 UARTA2とI²C00のモード切り替え

V850ES/JJ3では，UARTA2とI²C00は端子が兼用になっており，同時には使用できません。I²C00を使用するときは，あらかじめPMC3, PFC3レジスタで設定する必要があります。

注意 UARTA2またはI²C00において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。

図17ー1 UARTA2とI²C00のモード切り替え設定

リセット時：0000H R/W アドレス：FFFFF446H, FFFFF447H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMC3	0	0	0	0	0	0	PMC39	PMC38
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	PMC35	PMC34	PMC33	PMC32	PMC31	PMC30

リセット時：0000H R/W アドレス：FFFFF466H, FFFFF467H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFC3	0	0	0	0	0	0	PFC39	PFC38
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	PFC35	PFC34	PFC33	PFC32	PFC31	PFC30

PMC3n	PFC3n	動作モード
0	×	ポート入出力モード
1	0	UARTA2モード
1	1	I²C00モード

備考1. n = 8, 9

2. × = don't care

17. 1. 2 CSIB0とI²C01のモード切り替え

V850ES/JJ3では，CSIB0とI²C01は端子が兼用になっており，同時には使用できません。I²C01を使用するときは，あらかじめPMC4, PFC4レジスタで設定する必要があります。

注意 CSIB0またはI²C01において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。

図17－2 CSIB0とI²C01のモード切り替え設定

リセット時：00H R/W アドレス：FFFFF448H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC4	0	0	0	0	0	PMC42	PMC41	PMC40

リセット時：00H R/W アドレス：FFFFF468H

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFC4	0	0	0	0	0	0	PFC41	PFC40

PMC4n	PFC4n	動作モード
0	×	ポート入出力モード
1	0	CSIB0モード
1	1	I²C01モード

備考1. n = 0, 1

2. × = don't care

17. 1. 3 UARTA1とI²C02のモード切り替え

V850ES/JJ3では，UARTA1とI²C02は端子が兼用になっており，同時には使用できません。I²C02を使用するときは，あらかじめPMC9, PFC9, PFCE9レジスタで設定する必要があります。

注意 UARTA1とI²C02において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。

図17ー3 UARTA1とI²C02のモード切り替え設定

リセット時：0000H R/W アドレス：FFFFF452H, FFFFF453H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PMC9	PMC915	PMC914	PMC913	PMC912	PMC911	PMC910	PMC99	PMC98
	7	6	5	4	3	2	1	0
	PMC97	PMC96	PMC95	PMC94	PMC93	PMC92	PMC91	PMC90

リセット時：0000H R/W アドレス：FFFFF472H, FFFFF473H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFC9	PFC915	PFC914	PFC913	PFC912	PFC911	PFC910	PFC99	PFC98
	7	6	5	4	3	2	1	0
	PFC97	PFC96	PFC95	PFC94	PFC93	PFC92	PFC91	PFC90

リセット時：0000H R/W アドレス：FFFFF712H, FFFFF713H

	15	14	13	12	11	10	9	8
PFCE9	PFCE915	PFCE914	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	PFCE97	PFCE96	PFCE95	PFCE94	PFCE93	PFCE92	PFCE91	PFCE90

PMC9n	PFCE9n	PFC9n	動作モード
1	1	0	UARTA1モード
1	1	1	I²C02モード

備考 n = 0, 1

17. 2 特　　徴

I²C00-I²C02には，次の2種類のモードがあります。

- 動作停止モード
- I²C（Inter IC）バス・モード（マルチマスタ対応）

(1) 動作停止モード

シリアル転送を行わないときに使用するモードです。消費電力を低減できます。

(2) I²Cバス・モード（マルチマスタ対応）

シリアル・クロック端子（SCL0n）とシリアル・データ・バス端子（SDA0n）の2本のラインにより，複数のデバイスと8ビット・データ転送を行うモードです。

I²Cバス・フォーマットに準拠しており，マスタはスレーブに対してシリアル・データ・バス上に“スタート・コンディション”，“アドレス”，“転送方向指定”，“データ”および“ストップ・コンディション”を生成できます。スレーブは，受信したこれらの状態およびデータをハードウエアにより自動的に検出します。この機能により応用プログラムのI²Cバス制御部分を簡単にすることができます。

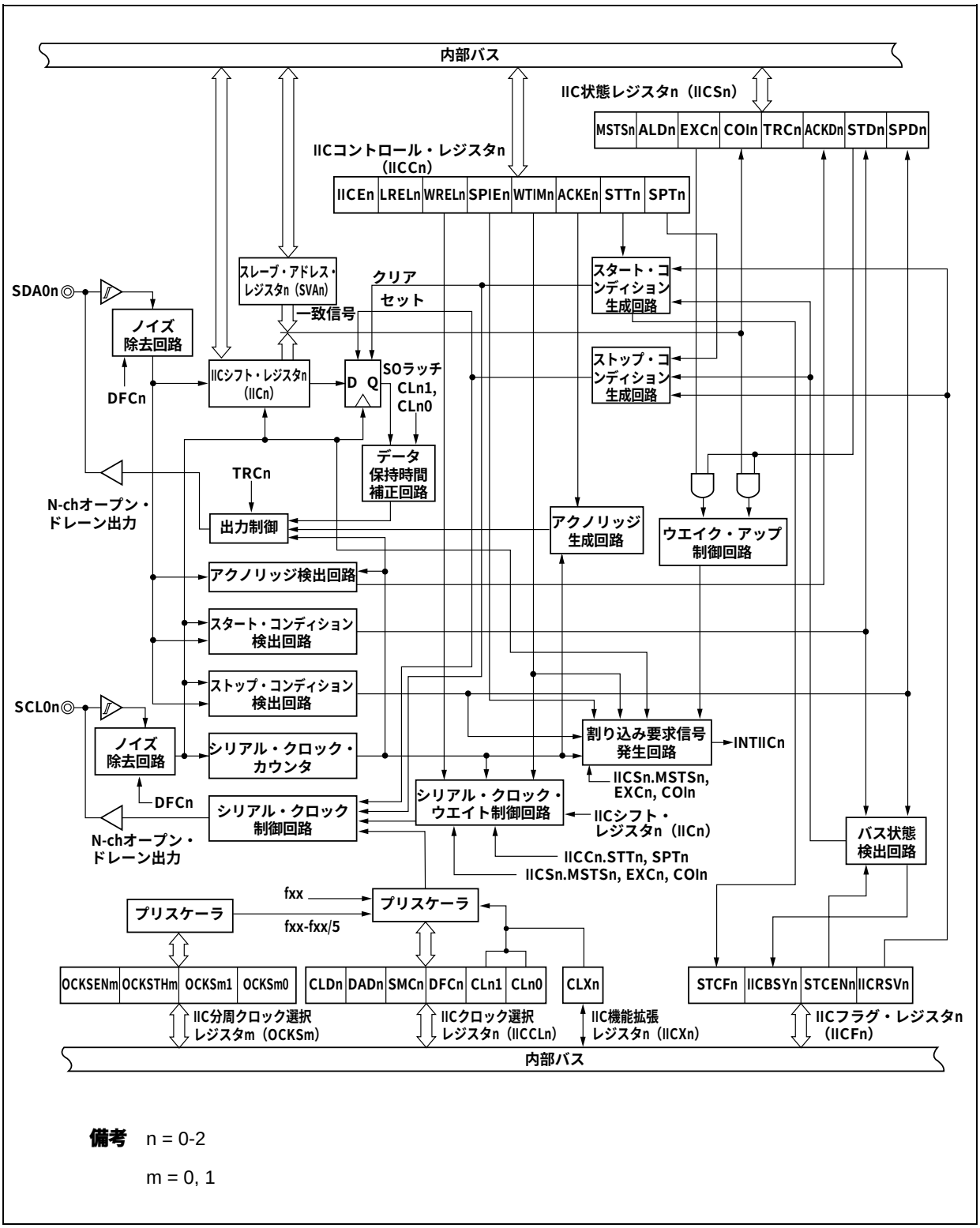
I²C0nでは，SCL0n端子とSDA0n端子はN-chオープン・ドレーン出力で使用するため，シリアル・クロック・ラインおよびシリアル・データ・バス・ラインにはプルアップ抵抗が必要です。

備考　n = 0-2

17. 3 構　　成

I²C0nのブロック図を次に示します。

図17ー4 I²C0nのブロック図

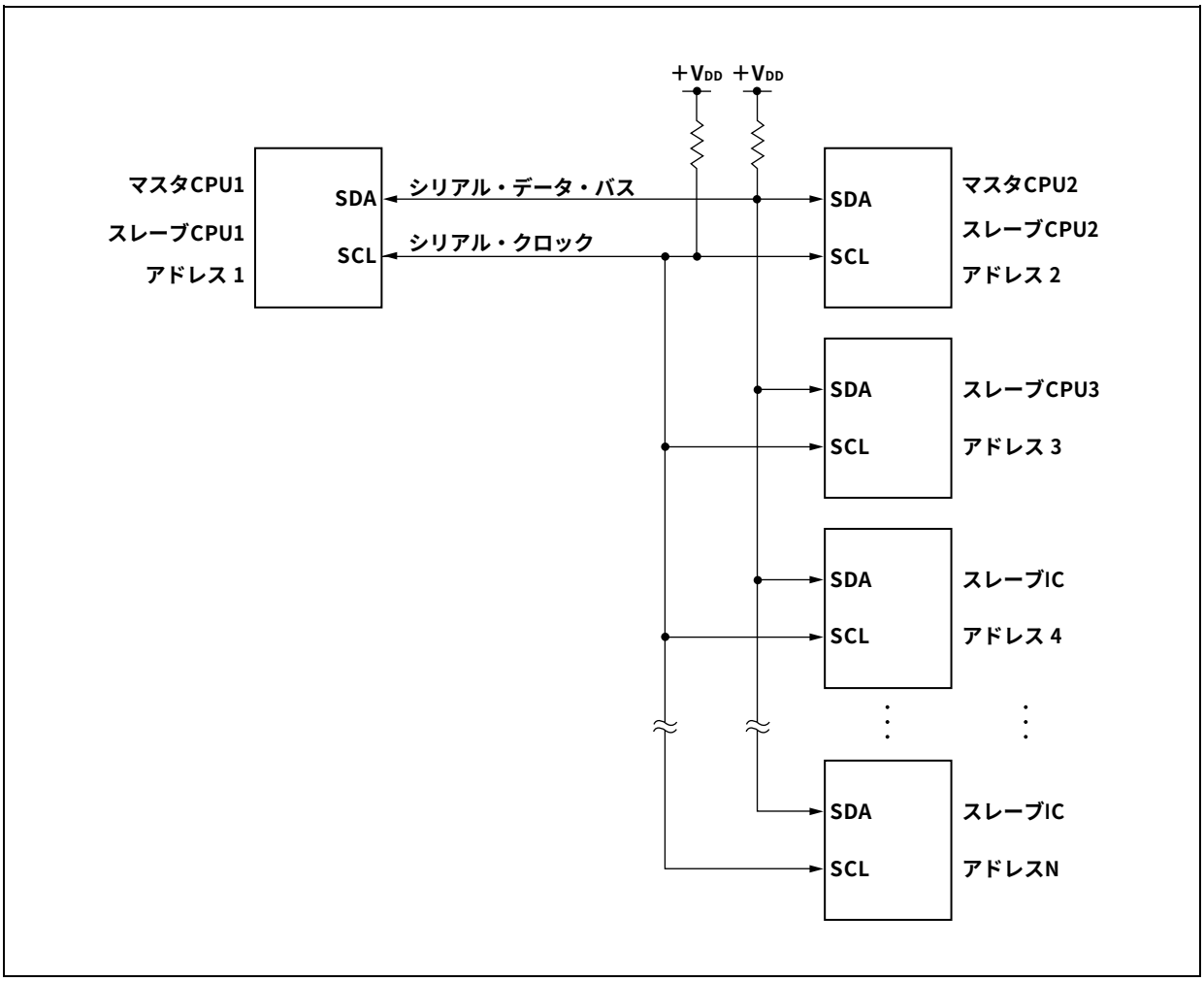


備考 n = 0-2

m = 0, 1

次にシリアル・バス構成例を示します。

図17ー5 I²Cバスによるシリアル・バス構成例



I²C0nは，次のハードウエアで構成されています（n = 0-2）。

表17ー1 I²C0nの構成

項　目	構　成
レジスタ	IICシフト・レジスタn（IICn） スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）
制御レジスタ	IICコントロール・レジスタn（IICCn） IIC状態レジスタn（IICSn） IICフラグ・レジスタn（IICFn） IICクロック選択レジスタn（IICCLn） IIC機能拡張レジスタn（IICXn） IIC分周クロック選択レジスタ0, 1（OCKS0, OCKS1）

(1) IICシフト・レジスタn（IICn）

IICnレジスタは，8ビットのシリアル・データを8ビットのパラレル・データに，8ビットのパラレル・データを8ビットのシリアル・データに変換するレジスタです。IICnレジスタは送信および受信の両方に使用されます（n = 0-2）。

IICnレジスタに対する書き込み／読み出しにより，実際の送受信動作が制御されます。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(2) スレーブ・アドレス・レジスタn（SVAn）

スレーブとして使用する場合に，自局アドレスを設定するレジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です（n = 0-2）。

リセットにより00Hになります。

(3) SOラッチ

SOラッチは，SDA0n端子出力レベルを保持するラッチです（n = 0-2）。

(4) ウエイク・アップ制御回路

SVAnレジスタに設定したアドレス値と受信アドレスが一致した場合，または拡張コードを受信した場合に割り込み要求信号（INTIICn）を発生させる回路です（n = 0-2）。

(5) プリスケーラ

使用するサンプリング・クロックを選択します。

(6) シリアル・クロック・カウンタ

送信／受信動作時に出力する，または入力されるシリアル・クロックをカウントし，8ビット・データの送受信が行われたことを調べます。

(7) 割り込み要求信号発生回路

割り込み要求信号（INTIICn）の発生を制御します。

I²C割り込みは，次の2つのトリガで発生します。

- シリアル・クロックの8クロック目または9クロック目の立ち下がり（IICCn.WTIMnビットで設定）
- ストップ・コンディション検出による割り込み発生（IICCn.SPIEnビットで設定）

備考 n = 0-2

(8) シリアル・クロック制御回路

マスタ・モード時に，SCL0n端子に出力するクロックをサンプリング・クロックから生成します（n = 0-2）。

(9) シリアル・クロック・ウエイト制御回路

ウエイト・タイミングを制御します。

(10) アクノリッジ生成回路，ストップ・コンディション検出回路，スタート・コンディション検出回路，アクノリッジ検出回路

各状態の生成および検出を行います。

(11) データ保持時間補正回路

SCL0n端子の立ち下がりに対するデータの保持時間を生成するための回路です。

(12) スタート・コンディション生成回路

IICCn.STTnビットがセットされるとスタート・コンディションを生成します。

ただし，通信予約禁止状態（IICFn.IICRSVnビット = 1）で，かつバスが解放されていない（IICFn.IICBSYnビット = 1）場合には，この要求は無視し，IICFn.STCFnビットをセット（1）します。

(13) ストップ・コンディション生成回路

IICCn.SPTnビットがセットされるとストップ・コンディションを生成します。

(14) バス状態検出回路

スタート・コンディションおよびストップ・コンディションの検出により，バスが解放されているか，解放されていないかを検出します。

ただし，動作直後はバス状態を検出できないため，IICFn.STCENnビットにより，バス状態検出回路の初期状態を設定してください。

17. 4 レジスタ

I²C00-I²C02は，次のレジスタで制御します。

- IICコントロール・レジスタ0-2（IICC0-IICC2）
- IIC状態レジスタ0-2（IICS0-IICS2）
- IICフラグ・レジスタ0-2（IICF0-IICF2）
- IICクロック選択レジスタ0-2（IICCL0-IICCL2）
- IIC機能拡張レジスタ0-2（IICX0-IICX2）
- IIC分周クロック選択レジスタ0, 1（OCKS0, OCKS1）

また，次のレジスタも使用します。

- IICシフト・レジスタ0-2（IIC0-IIC2）
- スレーブ・アドレス・レジスタ0-2（SVA0-SVA2）

備考 兼用端子の設定は表4ー19 ポート端子を兼用端子として使用する場合を参照してください。

(1) IICコントロール・レジスタ0-2（IICC0-IICC2）

I²C0nの動作許可／停止，ウエイト・タイミングの設定，その他I²C動作の設定を行うレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です（n = 0-2）。ただし，SPIEn, WTIMn, ACKEnビットは，IICEnビット = 0のとき，またはウエイト期間中に設定してください。IICEnビットを“0”から“1”に設定するときに，同時にこれらのビットを設定できます。

リセットにより00Hになります。

(1/4)

リセット時：00H R/W アドレス：IICC0 FFFFFD82H, IICC1 FFFFFD92H, IICC2 FFFFFDA2H

	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	⓪
IICCn	IICEn	LRELn	WRELn	SPIEn	WTIMn	ACKEn	STTn	SPTn

(n = 0-2)

IICEn	I²Cn動作許可／禁止の指定	
0	動作停止。IICSnレジスタをリセット注1。内部動作も停止。	
1	動作許可。	
このビットのセット（1）は，必ずSCL0n, SDA0nラインがハイ・レベルの状態で行ってください。		
クリアされる条件（IICEnビット = 0）		セットされる条件（IICEnビット = 1）
・命令によるクリア ・リセット時		・命令によるセット

LRELn注2	通信退避	
0	通常動作。	
1	現在行っている通信から退避し，待機状態。実行後自動的にクリアされる。 自局に関係ない拡張コードを受信したときなどに使用する。 SCL0n, SDA0nラインはハイ・インピーダンス状態になる。 STTn, SPTnビット，IICSn.MSTSn, EXCn, COIn, TRCn, ACKDn, STDnビットがクリアされる。	
次の通信参加条件が満たされるまでは，通信から退避した待機状態となる。 ストップ・コンディション検出後，マスタとしての起動 スタート・コンディション後のアドレス一致または拡張コード受信		
クリアされる条件（LRELnビット = 0）		セットされる条件（LRELnビット = 1）
・実行後，自動的にクリア ・リセット時		・命令によるセット

WRELn注2	ウエイト解除の制御	
0	ウエイトを解除しない。	
1	ウエイト解除する。ウエイト解除後，自動的にクリアされる。	
クリアされる条件（WRELnビット = 0）		セットされる条件（WRELnビット = 1）
・実行後，自動的にクリア ・リセット時		・命令によるセット

注1. リセットされるのはIICSnレジスタ，IICFn.STCFn, IICBSYnビット，IICCLn.CLDn, DADnビットです。

2. IICEnビット = 0により，このフラグの信号を無効にします。

注意 SCL0nラインがハイ・レベル，SDA0nラインがロウ・レベルの状態で，I²Cnを動作許可（IICEnビット = 1）した場合，直後にスタート・コンディションを検出してしまいます。I²Cnを動作許可（IICEnビット = 1）したあと，連続してビット操作命令によりLRELnビットをセット（1）してください。

備考 LRELn, WRELnビットは，データ設定後に読み出すと0になっています。

(2/4)

SPIEn注	ストップ・コンディション検出による割り込み要求発生の許可／禁止
0	禁止
1	許可

クリアされる条件（SPIEnビット = 0）	セットされる条件（SPIEnビット = 1）
・命令によるクリア ・リセット時	・命令によるセット

WTIMn注	ウエイトおよび割り込み要求発生の制御
0	8クロック目の立ち下がりで割り込み要求発生。 マスタの場合　：8クロック出力後，クロック出力をロウ・レベルにしたままウエイト スレーブの場合：8クロック入力後，クロックをロウ・レベルにしてマスタをウエイト
1	9クロック目の立ち下がりで割り込み要求発生。 マスタの場合　：9クロック出力後，クロック出力をロウ・レベルにしたままウエイト スレーブの場合：9クロック入力後，クロックをロウ・レベルにしてマスタをウエイト

アドレス転送中はこのビットの設定にかかわらず，9クロック目の立ち下がりで割り込みが発生します。アドレス転送終了後このビットの設定が有効になります。またマスタ時，アドレス転送中は9クロックの立ち下がりにウエイトが入ります。自局アドレスを受信したスレーブは，アクノリッジ（$\overline{\text{ACK}}$）発生後の9クロック目の立ち下がりでウエイトに入ります。ただし拡張コードを受信したスレーブは，8クロック目の立ち下がりでウエイトに入ります。

クリアされる条件（WTIMnビット = 0）	セットされる条件（WTIMnビット = 1）
・命令によるクリア ・リセット時	・命令によるセット

ACKEn注	アクノリッジ制御
0	アクノリッジを禁止。
1	アクノリッジを許可。9クロック期間中にSDA0nラインをロウ・レベルにする。

スレーブでアドレス受信のときは，ACKEnビットの設定は無効です。この場合，アドレスが一致したときはアクノリッジを生成します。
ただし，拡張コードを受信するときは，ACKEnビットの設定は有効になります。拡張コードを受信するシステムでは，ACKEnビットの設定をしてください。

クリアされる条件（ACKEnビット = 0）	セットされる条件（ACKEnビット = 1）
・命令によるクリア ・リセット時	・命令によるセット

注 IICEnビット = 0により，このフラグの信号を無効にします。

備考 n = 0-2

(3/4)

STTn	スタート・コンディション・トリガ
0	スタート・コンディションを生成しない。
1	バスが解放されているとき（ストップ状態）： スタート・コンディションを生成する（マスタとしての起動）。SCLnラインがハイ・レベルの状態でSDA0nラインをハイ・レベルからロウ・レベルに変化させ，スタート・コンディションを生成する。そのあと，規格の時間を確保し，SCL0nラインをロウ・レベルにする。 第三者が通信中のとき： 通信予約機能許可の場合（IICFn.IICRSVnビット = 0） ・スタート・コンディション予約フラグとして機能。セット（1）されると，バスが解放されたあと自動的にスタート・コンディションを生成する。 通信予約機能禁止の場合（IICRSVnビット = 1） ・IICFn.STCFnビットをセット（1）し，STTnビットにセット（1）した情報をクリアする。スタート・コンディションは生成しない。 ウエイト状態（マスタ時）： ウエイトを解除してリスタート・コンディションを生成する。

セット・タイミングに関する注意

マスタ受信の場合：転送中のセット（1）は禁止です。ACKEnビット = 0に設定し，受信の最後であることをスレーブに伝えたあとにだけセット（1）可能です。

マスタ送信の場合：アクノリッジ期間中は，正常にスタート・コンディションが生成されないことがあります。9クロック目出力後のウエイト期間中にセット（1）してください。

スレーブの場合　：通信予約機能禁止（IICRSVnビット = 1）の場合でも，通信予約状態になってしまいます。

・SPTnビットと同時にセット（1）することは禁止です。

・STTnビットをセット（1）後，クリア（0）される前に再度セット（1）することは禁止です。

クリアされる条件（STTnビット = 0）	セットされる条件（STTnビット = 1）
・通信予約禁止状態でのSTTnビットのセット（1） ・アービトレーションに負けたとき ・マスタでのスタート・コンディション生成後クリア ・LRELnビット = 1（通信退避）によるクリア ・IICEnビット = 0（動作停止）のとき ・リセット時	・命令によるセット

備考1.　STTnビットは，データ設定後に読み出すと0になっています。

2.　n = 0-2

(4/4)

SPTn	ストップ・コンディション・トリガ
0	ストップ・コンディションを生成しない。
1	ストップ・コンディションを生成する（マスタとしての転送終了）。 SDA0nラインをロウ・レベルにしたあと，SCL0nラインをハイ・レベルにするか，またはSCL0n端子がハイ・レベルになるのを待つ。そのあと，規格の時間を確保し，SDA0nラインをロウ・レベルからハイ・レベルに変化させ，ストップ・コンディションを生成する。

セット・タイミングに関する注意

マスタ受信の場合：転送中のセット（1）は禁止です。ACKEnビット = 0に設定し，受信の最後であることをスレーブに伝えたあとのウエイト期間中にだけセット（1）可能です。

マスタ送信の場合：アクノリッジ受信期間中は，正常にストップ・コンディションが生成されないことがあります。9クロック目出力後のウエイト期間中にセット（1）してください。

- STTnビットと同時にセット（1）することは禁止です。
- SPTnビットのセット（1）は，マスタのときのみ行ってください注。
- WTIMnビット = 0設定時に，8クロック出力後のウエイト期間中にSPTnビットをセット（1）すると，ウエイト解除後，9クロック目のハイ・レベル期間中にストップ・コンディションを生成するので注意してください。8クロック出力後のウエイト期間中にWTIMnビット = 0→1にセットし，9クロック目出力後のウエイト期間中にSPTnビットをセット（1）してください。
- SPTnビットをセット（1）後，クリア（0）される前に再度セット（1）することは禁止です。

クリアされる条件（SPTnビット = 0）	セットされる条件（SPTnビット = 1）
・アービトレーションに負けたとき ・ストップ・コンディション検出後，自動的にクリア ・LRELnビット = 1（通信退避）によるクリア ・IICEnビット = 0（動作停止）のとき ・リセット時	・命令によるセット

注 SPTnビットのセット（1）は，マスタのときのみ行ってください。ただし，IICRSVnビットが0の場合，動作許可後最初のストップ・コンディションを検出する前にマスタ動作を行うには，一度SPTnビットをセット（1）してストップ・コンディションを生成する必要があります。詳細は，17. 15 **注意事項**を参照してください。

注意 TRCnビット = 1のとき，9クロック目にWRELnビットをセット（1）してウエイトを解除すると，TRCnビットをクリア（0）してSDA0nラインをハイ・インピーダンスにします。

備考1. SPTnビットは，データ設定後に読み出すと0になっています。

2. n = 0-2

(2) IIC状態レジスタ0-2（IICS0-IICS2）

I²C0nのステータスを表すレジスタです。

8/1ビット単位でリードのみ可能です（n = 0-2）。ただし，IICSnレジスタは，IICCn.STTnビット = 1のとき，またはウエイト期間中だけリード可能です。

リセットにより00Hになります。

注意 次に示す状態において，IICSnレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

(1/3)

リセット時：00H R アドレス：IICS0 FFFFFD86H, IICS1 FFFFFD96H, IICS2 FFFFFDA6H

IICSn (n = 0-2)

⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	⓪
MSTSn	ALDn	EXCn	COIn	TRCn	ACKDn	STDn	SPDn

MSTSn	マスタの状態
0	スレーブ状態または通信待機状態。
1	マスタ通信状態。

クリアされる条件（MSTSnビット = 0）	セットされる条件（MSTSnビット = 1）
・ストップ・コンディション検出時 ・ALDnビット = 1（アービトレーション負け）のとき ・IICCn.LRELnビット = 1（通信退避）によるクリア ・IICCn.IICEnビット = 1→0（動作停止）のとき ・リセット時	・スタート・コンディション生成時

ALDn	アービトレーション負け検出
0	アービトレーションが起こっていない状態。またはアービトレーションに勝った状態。
1	アービトレーションに負けた状態。MSTSnビットがクリア（0）される。

クリアされる条件（ALDnビット = 0）	セットされる条件（ALDnビット = 1）
・IICSnレジスタ読み出し後，自動的にクリア注 ・IICEnビット = 1→0（動作停止）のとき ・リセット時	・アービトレーションに負けたとき

EXCn	拡張コード受信検出
0	拡張コードを受信していない。
1	拡張コードを受信。

クリアされる条件（EXCnビット = 0）	セットされる条件（EXCnビット = 1）
・スタート・コンディション検出時 ・ストップ・コンディション検出時 ・LRELnビット = 1（通信退避）によるクリア ・IICEnビット = 1→0（動作停止）のとき ・リセット時	受信したアドレス・データの上位4ビットが“0000”または“1111”のとき（8クロック目の立ち上がりでセット）

注 IICSnレジスタのほかのビットに対しビット操作命令を実行した場合もクリアされます。

(2/3)

COIn	アドレス一致検出
0	アドレスが一致していない。
1	アドレスが一致している。

クリアされる条件（COInビット = 0）	セットされる条件（COInビット = 1）
・スタート・コンディション検出時 ・ストップ・コンディション検出時 ・LRELnビット = 1（通信退避）によるクリア ・IICEnビット = 1→0（動作停止）のとき ・リセット時	受信アドレスが自局アドレス（SVAnレジスタ）と一致したとき（8クロック目の立ち上がりでセット）

TRCn	送信／受信状態検出
0	受信状態（送信状態以外）。SDA0nラインをハイ・インピーダンスにする。
1	送信状態。SDA0nラインにSOラッチの値が出力できるようにする（1バイト目の9クロック目の立ち上がり以降有効）

クリアされる条件（TRCnビット = 0）	セットされる条件（TRCnビット = 1）
・ストップ・コンディション検出時 ・LRELnビット = 1（通信退避）によるクリア ・IICEnビット = 1→0（動作停止）のとき ・IICCn.WRELnビット = 1によるクリア注 ・ALDnビット = 0→1（アービトレーション負け）のとき ・リセット時 マスタの場合 ・1バイト目のLSB（転送方向指定ビット）に“1”を出力したとき スレーブの場合 ・スタート・コンディション検出時 通信不参加の場合	マスタの場合 ・スタート・コンディション生成時 ・1バイト目のLSB（転送方向指定ビット）に“0”を出力したとき スレーブの場合 ・1バイト目のLSB（転送方向指定ビット）に“1”を入力したとき

ACKDn	アクノリッジ（$\overline{\text{ACK}}$）検出
0	アクノリッジを検出していない。
1	アクノリッジを検出。

クリアされる条件（ACKDnビット = 0）	セットされる条件（ACKDnビット = 1）
・ストップ・コンディション検出時 ・次のバイトの1クロック目の立ち上がり時 ・LRELnビット = 1（通信退避）によるクリア ・IICEnビット = 1→0（動作停止）のとき ・リセット時	SCL0n端子の9クロック目の立ち上がり時にSDA0n端子がロウ・レベルであったとき

注 TRCnビット = 1のとき，9クロック目にWRELnビットをセット（1）してウエイトを解除すると，TRCnビットをクリア（0）してSDA0nラインをハイ・インピーダンスにします。

備考 n = 0-2

(3/3)

STDn	スタート・コンディション検出
0	スタート・コンディションを検出していない。
1	スタート・コンディションを検出。アドレス転送期間であることを示す。

クリアされる条件（STDnビット = 0）	セットされる条件（STDnビット = 1）
・ストップ・コンディション検出時 ・アドレス転送後の次のバイトの1クロック目の立ち上がり時 ・LRELnビット = 1（通信退避）によるクリア ・IICEnビット = 1→0（動作停止）のとき ・リセット時	・スタート・コンディション検出時

SPDn	ストップ・コンディション検出
0	ストップ・コンディションを検出していない。
1	ストップ・コンディションを検出。マスタでの通信が終了し，バスが解放される。

クリアされる条件（SPDnビット = 0）	セットされる条件（SPDnビット = 1）
・このビットのセット後で，スタート・コンディション検出後の，アドレス転送バイトの1クロック目の立ち上がり時 ・IICEnビット = 1→0（動作停止）のとき ・リセット時	・ストップ・コンディション検出時

備考 n = 0-2

（3）IICフラグ・レジスタ0-2（IICF0-IICF2）

I²C0nの動作モードの設定と，I²Cバスの状態を表すレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。ただし，STCFn, IICBSYnビットはリードのみ可能です。

IICRSVnビットにより通信予約機能の禁止／許可を設定します（17. 14 通信予約参照）。

また，STCENnビットにより，IICBSYnビットの初期値を設定します（17. 15 注意事項参照）。

IICRSVn, STCENnビットは，I²C0nが動作禁止（IICCn.IICEnビット = 0）のときのみ書き込み可能です。

動作許可後，IICFnレジスタは読み出し可能となります（n = 0-2）。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W注　アドレス：IICF0 FFFFFD8AH, IICF1 FFFFFD9AH, IICF2 FFFFFDAAH

	⑦	⑥	5	4	3	2	①	⓪
IICFn	STCFn	IICBSYn	0	0	0	0	STCENn	IICRSVn

(n = 0-2)

STCFn	STTnビット・クリア
0	スタート・コンディション発行
1	スタート・コンディション発行できずSTTnビット・クリア

クリアされる条件（STCFnビット = 0）	セットされる条件（STCFnビット = 1）
・IICCn.STTnビット = 1によるクリア ・IICCn.IICEnビット = 0のとき ・リセット時	・通信予約禁止（IICRSVnビット = 1）設定時にスタート・コンディション発行できず，STTnフラグ・クリア（0）されたとき

IICBSYn	I²C0nバス状態
0	バス解放状態（STCENnビット = 1時の通信初期状態）
1	バス通信状態（STCENnビット = 0時の通信初期状態）

クリアされる条件（IICBSYnビット = 0）	セットされる条件（IICBSYnビット = 1）
・ストップ・コンディション検出時 ・IICEnビット = 0のとき ・リセット時	・スタート・コンディション検出時 ・STCENnビット = 0のときIICEnビットのセット

STCENn	初期スタート許可トリガ
0	動作許可（IICEnビット = 1）後，ストップ・コンディションを検出するまで，スタート・コンディションを生成できない。
1	動作許可（IICEnビット = 1）後，ストップ・コンディションを検出しなくても，スタート・コンディションを生成できる。

クリアされる条件（STCENnビット = 0）	セットされる条件（STCENnビット = 1）
・スタート・コンディション検出時 ・リセット時	・命令によるセット

IICRSVn	通信予約機能禁止ビット
0	通信予約許可
1	通信予約禁止

クリアされる条件（IICRSVnビット = 0）	セットされる条件（IICRSVnビット = 1）
・命令によるクリア ・リセット時	・命令によるセット

注　ビット6, 7はリード・オンリーです。

注意1. STCENnビットへの書き込みは，動作停止（IICEnビット = 0）時のみ行ってください。

2. STCENnビット = 1とした場合，I²C動作許可直後は実際のバス状態にかかわらずバス解放状態（IICBSYnビット = 0）と認識しますので，1回目のスタート・コンディションを発行（STTnビット = 1）する場合は他の通信を破壊しないようにバスが解放されていることを確認する必要があります。

3. IICRSVnビットへの書き込みは，動作停止（IICEnビット = 0）時のみ行ってください。

(4) IICクロック選択レジスタ0-2（IICCL0-IICCL2）

I²C0nの転送クロックを設定するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。ただし，CLDn, DADnビットはリードのみ可能です。

IICCLnレジスタは，IICCn.IICEnビット = 0のときに設定してください。

SMCn, CLn1, CLn0ビットの設定は，IICXn.CLXnビットと，OCKSm.OCKSTHm, OCKSm1, OCKSm0ビットと組み合わせて設定します（17. 4（6）I²C0nの転送クロックの設定方法参照）（n = 0-2, m = 0, 1）。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W注　アドレス：IICCL0 FFFFFD84H, IICCL1 FFFFFD94H, IICCL2 FFFFFDA4H

	7	6	⑤	④	3	2	1	0
IICCLn	0	0	CLDn	DADn	SMCn	DFCn	CLn1	CLn0

(n = 0-2)

CLDn	SCL0n端子のレベル検出（IICCn.IICEnビット = 1のときのみ有効）
0	SCL0n端子がロウ・レベルであることを検出
1	SCL0n端子がハイ・レベルであることを検出

クリアされる条件（CLDnビット = 0）	セットされる条件（CLDnビット = 1）
・SCL0n端子がロウ・レベルのとき ・IICEnビット = 0（動作停止）のとき ・リセット時	・SCL0n端子がハイ・レベルのとき

DADn	SDA0n端子のレベル検出（IICEnビット = 1のときのみ有効）
0	SDA0n端子がロウ・レベルであることを検出
1	SDA0n端子がハイ・レベルであることを検出

クリアされる条件（DADnビット = 0）	セットされる条件（DADnビット = 1）
・SDA0n端子がロウ・レベルのとき ・IICEnビット = 0（動作停止）のとき ・リセット時	・SDA0n端子がハイ・レベルのとき

SMCn	動作モードの切り替え
0	標準モードで動作
1	高速モードで動作

DFCn	ディジタル・フィルタの動作制御
0	ディジタル・フィルタ・オフ
1	ディジタル・フィルタ・オン
ディジタル・フィルタは，高速モード時にのみ使用できます。 高速モード時は，DFCnビットの設定により転送クロックが変化することはありません。 ディジタル・フィルタは，高速モード時にノイズ除去のために使用します。	

注　ビット4, 5はリード・オンリーです。

注意　ビット7, 6には必ず“0”を設定してください。

備考　IICCn.IICEnビット = 0のとき，CLDn, DADnビットは0がリードされます。

(5) IIC機能拡張レジスタ0-2（IICX0-IICX2）

I²C0nの機能拡張を設定するレジスタです（高速モード時のみ有効）。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

CLXnビットの設定は，IICCLn.SMCn, CLn1, CLn0ビットと，OCKSm.OCKSTHm, OCKSm1, OCKSm0ビット（m = 0, 1）と組み合わせて設定します（17. 4（6）I²C0nの転送クロックの設定方法参照）。

IICXnレジスタは，IICCn.IICEnビット = 0のときに設定してください。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：IICX0 FFFFFD85H, IICX1 FFFFFD95H, IICX2 FFFFFDA5H

	7	6	5	4	3	2	1	⓪
IICXn	0	0	0	0	0	0	0	CLXn

(n = 0-2)

(6) I²C0nの転送クロックの設定方法

I²C0nの転送クロック周波数（f_{SCL}）は，次の計算式により求められます（n = 0-2）。

f_{SCL} = 1/（m×T＋t_R＋t_F）

m = 12, 18, 24, 36, 44, 48, 54, 60, 66, 72, 86, 88, 96, 132, 172, 176, 198, 220, 258, 344（表17－2　クロックの設定参照）

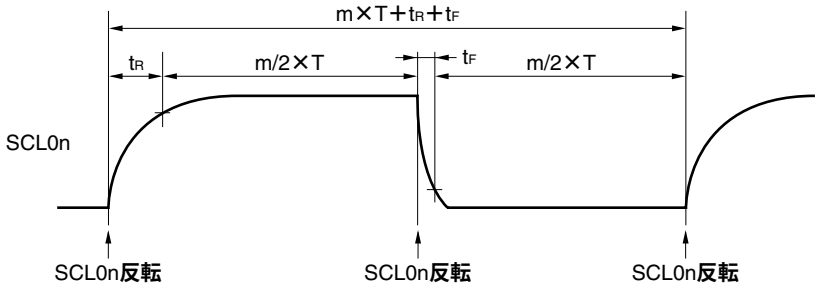
T：1/f_{XX}

t_R：SCL0n端子立ち上がり時間

t_F：SCL0n端子立ち下がり時間

たとえば，f_{XX} = 19.2 MHz, m = 198, t_R = 200 ns, t_F = 50 nsの場合のI²C0nの転送クロック周波数（f_{SCL}）は，次の計算式により求められます。

f_{SCL} = 1/（198×52 ns＋200 ns＋50 ns）　94.7 kHz



選択クロックは，IICCLn.SMCn, CLn1, CLn0ビット，IICXn.CLXnビット，OCKSm.OCKSTHm, OCKSm1, OCKSm0ビットを組み合わせて設定します（n = 0-2, m = 0, 1）。

表17－2 クロックの設定（1/2）

IICX0	IICCL0			選択クロック	転送クロック	設定可能なメイン・クロック周波数（fxx）の範囲	動作モード
ビット0	ビット3	ビット1	ビット0				
CLX0	SMC0	CL01	CL00				
0	0	0	0	fxx（OCKS0 = 18H設定時）	fxx/44	2.00 MHz≦fxx≦4.19 MHz	標準モード（SMC0ビット = 0）
				fxx/2（OCKS0 = 10H設定時）	fxx/88	4.00 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
				fxx/3（OCKS0 = 11H設定時）	fxx/132	6.00 MHz≦fxx≦12.57 MHz	
				fxx/4（OCKS0 = 12H設定時）	fxx/176	8.00 MHz≦fxx≦16.76 MHz	
				fxx/5（OCKS0 = 13H設定時）	fxx/220	10.00 MHz≦fxx≦20.95 MHz	
0	0	0	1	fxx（OCKS0 = 18H設定時）	fxx/86	4.19 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
				fxx/2（OCKS0 = 10H設定時）	fxx/172	8.38 MHz≦fxx≦16.76 MHz	
				fxx/3（OCKS0 = 11H設定時）	fxx/258	12.57 MHz≦fxx≦25.14 MHz	
				fxx/4（OCKS0 = 12H設定時）	fxx/344	16.76 MHz≦fxx≦32.00 MHz	
				fxx/5（OCKS0 = 13H設定時）	fxx/430	20.95 MHz≦fxx≦32.00 MHz	
0	0	1	0	fxx注	fxx/86	4.19 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
0	0	1	1	fxx（OCKS0 = 18H設定時）	fxx/66	6.40 MHz	
				fxx/2（OCKS0 = 10H設定時）	fxx/132	12.80 MHz	
				fxx/3（OCKS0 = 11H設定時）	fxx/198	19.20 MHz	
				fxx/4（OCKS0 = 12H設定時）	fxx/264	25.60 MHz	
				fxx/5（OCKS0 = 13H設定時）	fxx/330	32.00 MHz	
0	1	0	X	fxx（OCKS0 = 18H設定時）	fxx/24	4.19 MHz≦fxx≦8.38 MHz	高速モード（SMC0ビット = 1）
				fxx/2（OCKS0 = 10H設定時）	fxx/48	8.00 MHz≦fxx≦16.76 MHz	
				fxx/3（OCKS0 = 11H設定時）	fxx/72	12.00 MHz≦fxx≦25.14 MHz	
				fxx/4（OCKS0 = 12H設定時）	fxx/96	16.00 MHz≦fxx≦32.00 MHz	
0	1	1	0	fxx注	fxx/24	4.00 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
0	1	1	1	fxx（OCKS0 = 18H設定時）	fxx/18	6.40 MHz	
				fxx/2（OCKS0 = 10H設定時）	fxx/36	12.80 MHz	
				fxx/3（OCKS0 = 11H設定時）	fxx/54	19.20 MHz	
				fxx/4（OCKS0 = 12H設定時）	fxx/72	25.60 MHz	
				fxx/5（OCKS0 = 13H設定時）	fxx/90	32.00 MHz	
1	1	0	X	fxx（OCKS0 = 18H設定時）	fxx/12	4.00 MHz≦fxx≦4.19 MHz	
				fxx/2（OCKS0 = 10H設定時）	fxx/24	8.00 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
				fxx/3（OCKS0 = 11H設定時）	fxx/36	12.00 MHz≦fxx≦12.57 MHz	
				fxx/4（OCKS0 = 12H設定時）	fxx/48	16.00 MHz≦fxx≦16.67 MHz	
				fxx/5（OCKS0 = 13H設定時）	fxx/60	20.00 MHz≦fxx≦20.95 MHz	
1	1	1	0	fxx注	fxx/12	4.00 MHz≦fxx≦4.19 MHz	
上記以外				設定禁止	－	－	－

注 OCKS0レジスタの設定値によらずfxxになるので，OCKS0レジスタ = 00H（I²C分周クロックは停止状態）を設定してください。

備考 X：don't care

表17－2 クロックの設定（2/2）

IICXm	IICCLm			選択クロック	転送クロック	設定可能なメイン・クロック周波数（fxx）の範囲	動作モード
ビット0	ビット3	ビット1	ビット0				
CLXm	SMCm	CLm1	CLm0				
0	0	0	0	fxx（OCKS1 = 18H設定時）	fxx/44	2.00 MHz≦fxx≦4.19 MHz	標準モード（SMCmビット = 0）
				fxx/2（OCKS1 = 10H設定時）	fxx/88	4.00 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
				fxx/3（OCKS1 = 11H設定時）	fxx/132	6.00 MHz≦fxx≦12.57 MHz	
				fxx/4（OCKS1 = 12H設定時）	fxx/176	8.00 MHz≦fxx≦16.76 MHz	
				fxx/5（OCKS1 = 13H設定時）	fxx/220	10.00 MHz≦fxx≦20.95 MHz	
0	0	0	1	fxx（OCKS1 = 18H設定時）	fxx/86	4.19 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
				fxx/2（OCKS1 = 10H設定時）	fxx/172	8.38 MHz≦fxx≦16.76 MHz	
				fxx/3（OCKS1 = 11H設定時）	fxx/258	12.57 MHz≦fxx≦25.14 MHz	
				fxx/4（OCKS1 = 12H設定時）	fxx/344	16.76 MHz≦fxx≦32.00 MHz	
				fxx/5（OCKS1 = 13H設定時）	fxx/430	20.95 MHz≦fxx≦32.00 MHz	
0	0	1	0	fxx注	fxx/86	4.19 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
0	0	1	1	fxx（OCKS1 = 18H設定時）	fxx/66	6.40 MHz	
				fxx/2（OCKS1 = 10H設定時）	fxx/132	12.80 MHz	
				fxx/3（OCKS1 = 11H設定時）	fxx/198	19.20 MHz	
				fxx/4（OCKS1 = 12H設定時）	fxx/264	25.60 MHz	
				fxx/5（OCKS1 = 13H設定時）	fxx/330	32.00 MHz	
0	1	0	X	fxx（OCKS1 = 18H設定時）	fxx/24	4.19 MHz≦fxx≦8.38 MHz	高速モード（SMCmビット = 1）
				fxx/2（OCKS1 = 10H設定時）	fxx/48	8.00 MHz≦fxx≦16.76 MHz	
				fxx/3（OCKS1 = 11H設定時）	fxx/72	12.00 MHz≦fxx≦25.14 MHz	
				fxx/4（OCKS1 = 12H設定時）	fxx/96	16.00 MHz≦fxx≦32.00 MHz	
0	1	1	0	fxx注	fxx/24	4.00 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
0	1	1	1	fxx（OCKS1 = 18H設定時）	fxx/18	6.40 MHz	
				fxx/2（OCKS1 = 10H設定時）	fxx/36	12.80 MHz	
				fxx/3（OCKS1 = 11H設定時）	fxx/54	19.20 MHz	
				fxx/4（OCKS1 = 12H設定時）	fxx/72	25.60 MHz	
				fxx/5（OCKS1 = 13H設定時）	fxx/90	32.00 MHz	
1	1	0	X	fxx（OCKS1 = 18H設定時）	fxx/12	4.00 MHz≦fxx≦4.19 MHz	
				fxx/2（OCKS1 = 10H設定時）	fxx/24	8.00 MHz≦fxx≦8.38 MHz	
				fxx/3（OCKS1 = 11H設定時）	fxx/36	12.00 MHz≦fxx≦12.57 MHz	
				fxx/4（OCKS1 = 12H設定時）	fxx/48	16.00 MHz≦fxx≦16.67 MHz	
				fxx/5（OCKS1 = 13H設定時）	fxx/60	20.00 MHz≦fxx≦20.95 MHz	
1	1	1	0	fxx注	fxx/12	4.00 MHz≦fxx≦4.19 MHz	
上記以外				設定禁止	－	－	－

注 OCKS1レジスタの設定値によらずfxxになるので，OCKS1レジスタ = 00H（I²C分周クロックは停止状態）を設定してください。

備考1. m = 1, 2

2. X：don't care

(7) IIC分周クロック選択レジスタ0, 1（OCKS0, OCKS1）

I²C0nの分周クロックを制御するレジスタです（n = 0-2）。

OCKS0レジスタでI²C00の分周クロックを，OCKS1レジスタでI²C01, I²C02の分周クロックを制御します。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：OCKS0 FFFFF340H, OCKS1 FFFFF344H

	7	6	5	4	3	2	1	0
OCKSm (m = 0, 1)	0	0	0	OCKSENm	OCKSTHm	0	OCKSm1	OCKSm0

OCKSENm	I²C分周クロック動作指定
0	I²C分周クロック動作停止
1	I²C分周クロック動作許可

OCKSTHm	OCKSm1	OCKSm0	I²C分周クロック選択
0	0	0	$f_{XX}/2$
0	0	1	$f_{XX}/3$
0	1	0	$f_{XX}/4$
0	1	1	$f_{XX}/5$
1	0	0	f_{XX}
その他			設定禁止

(8) IICシフト・レジスタ0-2（IIC0-IIC2）

このレジスタは，シリアル・クロックに同期してシリアル送受信（シフト動作）を行うためのものです。

8ビット単位でリード／ライト可能ですが，データ転送中にIICnレジスタへデータを書き込まないでください。

IICnレジスタには，ウエイト期間中にだけアクセス（リード／ライト）してください。ウエイト期間中を除く通信状態でのIICnレジスタのアクセスは禁止です。ただし，マスタになる場合は，送信トリガ・ビット（IICCn.STTnビット）をセット（1）したあと，1回だけライトできます。

ウエイト期間中のIICnレジスタへの書き込みにより，ウエイト解除しデータ転送を開始します（n = 0-2）。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：IIC0 FFFFFD80H, IIC1 FFFFFD90H, IIC2 FFFFFDA0H

	7	6	5	4	3	2	1	0
IICn (n = 0-2)								

(9) スレーブ・アドレス・レジスタ0-2（SVA0-SVA2）

SVAn**レジスタには，**I²C**バスのスレーブ・アドレスを格納します。**

8**ビット単位でリード／ライト可能ですが，ビット**0**は**0**に固定されています。ただし，**IICSn.STDn**ビット** = 1（**スタート・コンディション検出）のときの書き換えは禁止です。**

リセットにより00H**になります。**

リセット時：00H　R/W　アドレス：SVA0 FFFFFD83H, SVA1 FFFFFD93H, SVA2 FFFFFDA3H

	7	6	5	4	3	2	1	0
SVAn								**0**

(n = 0-2)

17. 5 I²Cバス・モードの機能

17. 5. 1 端子構成

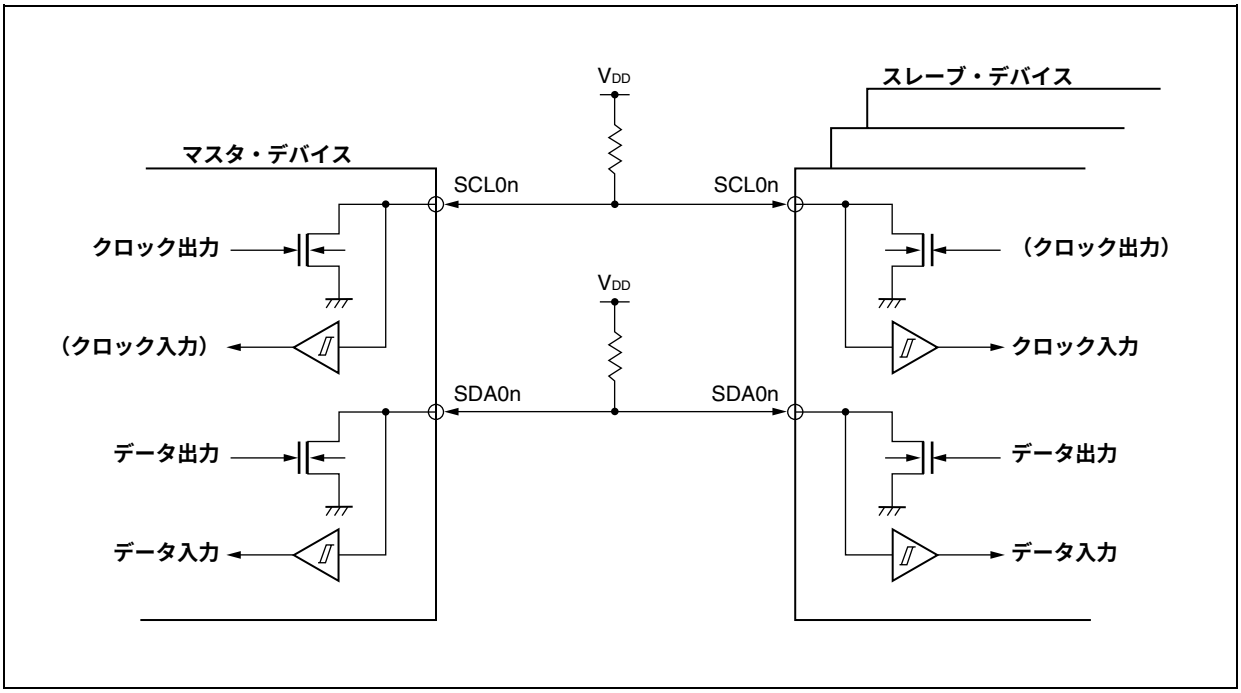
シリアル・クロック端子（SCL0n）と，シリアル・データ・バス端子（SDA0n）の構成は，次のようになっています（n = 0-2）。

SCL0n … シリアル・クロックを入出力するための端子。
マスタ，スレーブともに，出力はN-chオープン・ドレーン。入力はシュミット入力。

SDA0n … シリアル・データの入出力兼用端子。
マスタ，スレーブともに，出力はN-chオープン・ドレーン。入力はシュミット入力。

シリアル・クロック・ラインおよびシリアル・データ・バス・ラインは，出力がN-chオープン・ドレーンのため，外部にプルアップ抵抗が必要となります。

図17－6 端子構成図

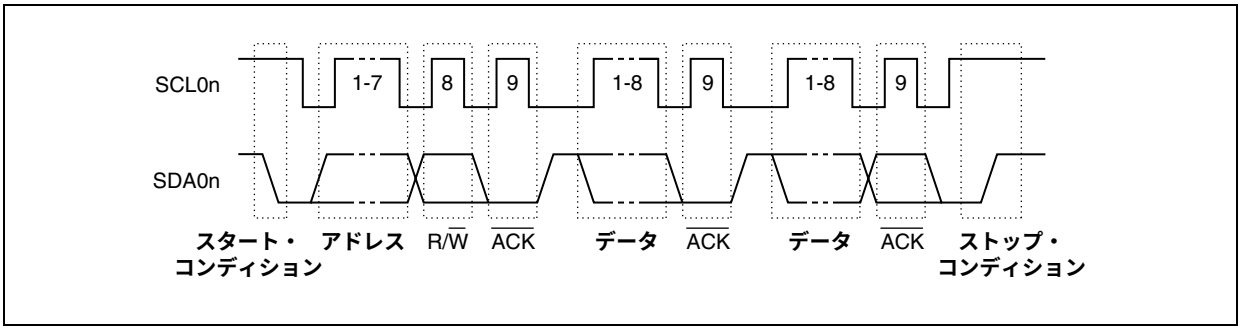


17. 6 I²Cバスの定義および制御方法

I²Cバスのシリアル・データ通信フォーマットおよび，使用する信号の意味について次に説明します。

I²Cバスのシリアル・データ・バス上に生成されている“スタート・コンディション”，“アドレス”，“転送方向指定”，“データ”および“ストップ・コンディション”の各転送タイミングを次に示します。

図17－7 I²Cバスのシリアル・データ転送タイミング



スタート・コンディション，スレーブ・アドレス，ストップ・コンディションはマスタが生成します。

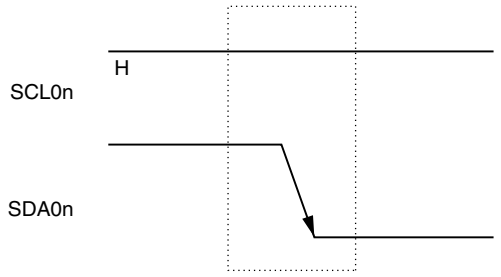
アクノリッジ（$\overline{\text{ACK}}$）は，マスタ，スレーブのどちらでも生成できます（通常，8ビット・データの受信側が生成します）。

シリアル・クロック（SCL0n）は，マスタが出力し続けます。ただし，スレーブはSCL0n端子のロウ・レベル期間を延長し，ウエイトを挿入できます（n = 0-2）。

17. 6. 1 スタート・コンディション

SCL0n端子がハイ・レベルのときに，SDA0n端子がハイ・レベルからロウ・レベルに変化するとスタート・コンディションとなります。SCL0n, SDA0n端子のスタート・コンディションはマスタがスレーブに対してシリアル転送を開始するときに出力する信号です。スレーブとして使用する場合は，スタート・コンディションを検出できます（n = 0-2）。

図17－8 スタート・コンディション



スタート・コンディションは，ストップ・コンディション検出状態（IICSn.SPDnビット = 1）のときにIICCn.STTnビットをセット（1）すると出力されます。また，スタート・コンディションを検出すると，IICSn.STDnビットがセット（1）されます（n = 0-2）。

注意 ほかのデバイス同士の通信中にV850ES/JJ3のIICCn.IICEnビットをセット（1）した場合，通信ラインの状態によってスタート・コンディションを検出することがあります。IICCn.IICEnビットのセット（1）は，必ずSCL0n, SDA0nラインがハイ・レベルの状態で行ってください。

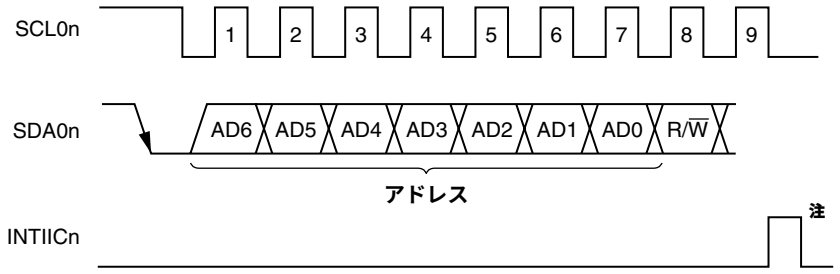
17. 6. 2 アドレス

スタート・コンディションに続く7ビット・データはアドレスと定義されています。

アドレスは，マスタがバス・ラインに接続されている複数のスレーブの中から，特定のスレーブを選択するために出力する7ビット・データです。したがって，バス・ライン上のスレーブは，すべて異なるアドレスにしておく必要があります。

スレーブは，ハードウエアでこの条件を検出し，さらに，7ビット・データがSVAnレジスタと一致しているかを調べます。このとき，7ビット・データとSVAnレジスタの値が一致すると，そのスレーブが選択されたことになり，以後，マスタがスタート・コンディションまたはストップ・コンディションを生成するまでマスタとの通信を行います（n = 0-2）。

図17ー9 アドレス



注 スレーブ動作時に自局アドレスまたは拡張コードを受信すると，割り込み要求信号（INTIICn）が発生します。

備考 n = 0-2

アドレスは，スレーブのアドレスと17. 6. 3 **転送方向指定**に説明する転送方向を合わせて8ビットとしてIICnレジスタに書き込むと出力します。また，受信したアドレスはIICnレジスタに書き込まれます（n = 0-2）。

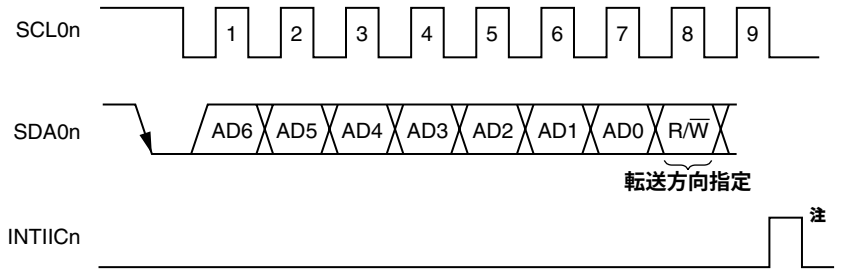
なお，スレーブのアドレスは，IICnレジスタの上位7ビットに割り当てられます。

17. 6. 3 転送方向指定

マスタは，7ビットのアドレスに続いて，転送方向を指定するための1ビット・データを送信します。

この転送方向指定ビットが0のとき，マスタがスレーブにデータを送信することを示します。また，転送方向指定ビットが1のとき，マスタがスレーブからデータを受信することを示します。

図17－10 転送方向指定



注 スレーブ動作時に自局アドレスまたは拡張コードを受信すると，INTIICn信号が発生します。

備考 n = 0-2

17. 6. 4 アクノリッジ（$\overline{\text{ACK}}$）

アクノリッジ（$\overline{\text{ACK}}$）によって，送信側と受信側におけるシリアル・データの状態を確認することができます。

受信側は，8ビット・データを受信するごとにアクノリッジを返します。

送信側は通常，8ビット・データ送信後，アクノリッジを受信します。受信側からアクノリッジが返されたとき，受信が正しく行われたものとして処理を続けます。アクノリッジの検出は，IICSn.ACKDnビットで確認できます。

マスタが受信で最終データを受信したときはアクノリッジを返さず，ストップ・コンディションを生成します。スレーブが受信でアクノリッジを返さないとき，マスタはストップ・コンディションまたはリスタート・コンディションを生成し，送信を中止します。アクノリッジが返らない場合，次の要因が考えられます。

① 受信が正しく行われていない。
② 最終データの受信が終わっている。
③ アドレス指定した受信側が存在しない。

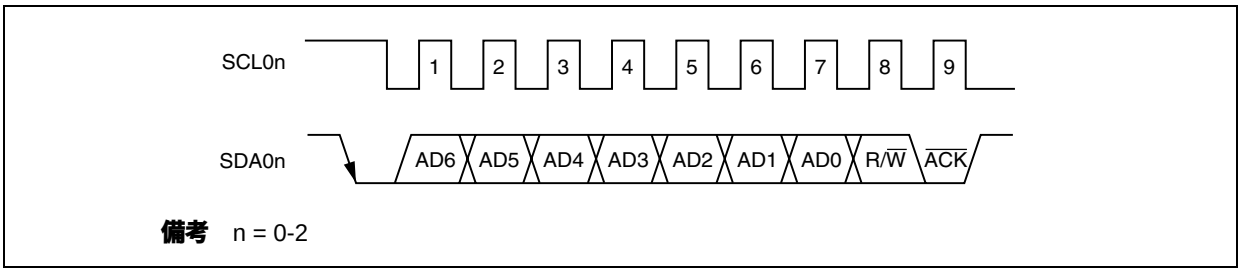
アクノリッジ生成は，受信側が9クロック目にSDA0nラインをロウ・レベルにすることによって行われます（正常受信）。

IICCn.ACKEnビットをセット（1）することによって，アクノリッジが自動生成可能な状態になります。7ビットのアドレス情報に続く8ビット目のデータによりIICSn.TRCnビットが設定されます。受信（TRCnビット = 0）の場合は，通常，ACKEnビットをセット（1）してください。

スレーブ受信動作時（TRCnビット = 0）にデータを受信できなくなったとき，または次のデータを必要としないときには，ACKEnビットをクリア（0）し，マスタ側に受信ができないことを示してください。

マスタ受信動作時（TRCnビット = 0）に，次のデータを必要としない場合，アクノリッジを生成しないようにACKEnビットをクリア（0）してください。これによって，スレーブ送信側にデータの終わりを知らせます（送信停止）。

図17－11 アクノリッジ



自局アドレス受信時は，ACKEnビットの値にかかわらずアクノリッジを自動生成します。自局アドレス以外の受信時は，アクノリッジを生成しません（NACK）。

拡張コード受信時は，あらかじめACKEnビットをセット（1）しておくことによってアクノリッジを生成します。

データ受信時のアクノリッジ生成方法は，ウエイト・タイミングの設定により次のように異なります。

- 8クロック・ウエイト選択時（IICCn.WTIMnビット = 0）：
  ウエイト解除を行う前にACKEnビットをセット（1）することによって，SCL0n端子の8クロック目の立ち下がりに同期してアクノリッジを生成します。
- 9クロック・ウエイト選択時（WTIMnビット = 1）：
  あらかじめACKEnビットをセット（1）することによって，アクノリッジを生成します。

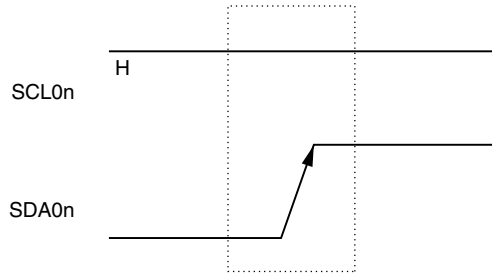
備考 n = 0-2

17. 6. 5 ストップ・コンディション

SCL0n端子がハイ・レベルのときに，SDA0n端子がロウ・レベルからハイ・レベルに変化すると，ストップ・コンディションとなります（n = 0-2）。

ストップ・コンディションは，マスタがスレーブに対してシリアル転送が終了したときに生成します。スレーブとして使用する場合は，ストップ・コンディションを検出できます。

図17－12 ストップ・コンディション



備考 n = 0-2

ストップ・コンディションは，IICCn.SPTnビットをセット（1）すると発生します。また，ストップ・コンディションを検出するとIICSn.SPDnビットがセット（1）され，IICCn.SPIEnビットがセット（1）されている場合には割り込み要求信号（INTIICn）が発生します（n = 0-2）。

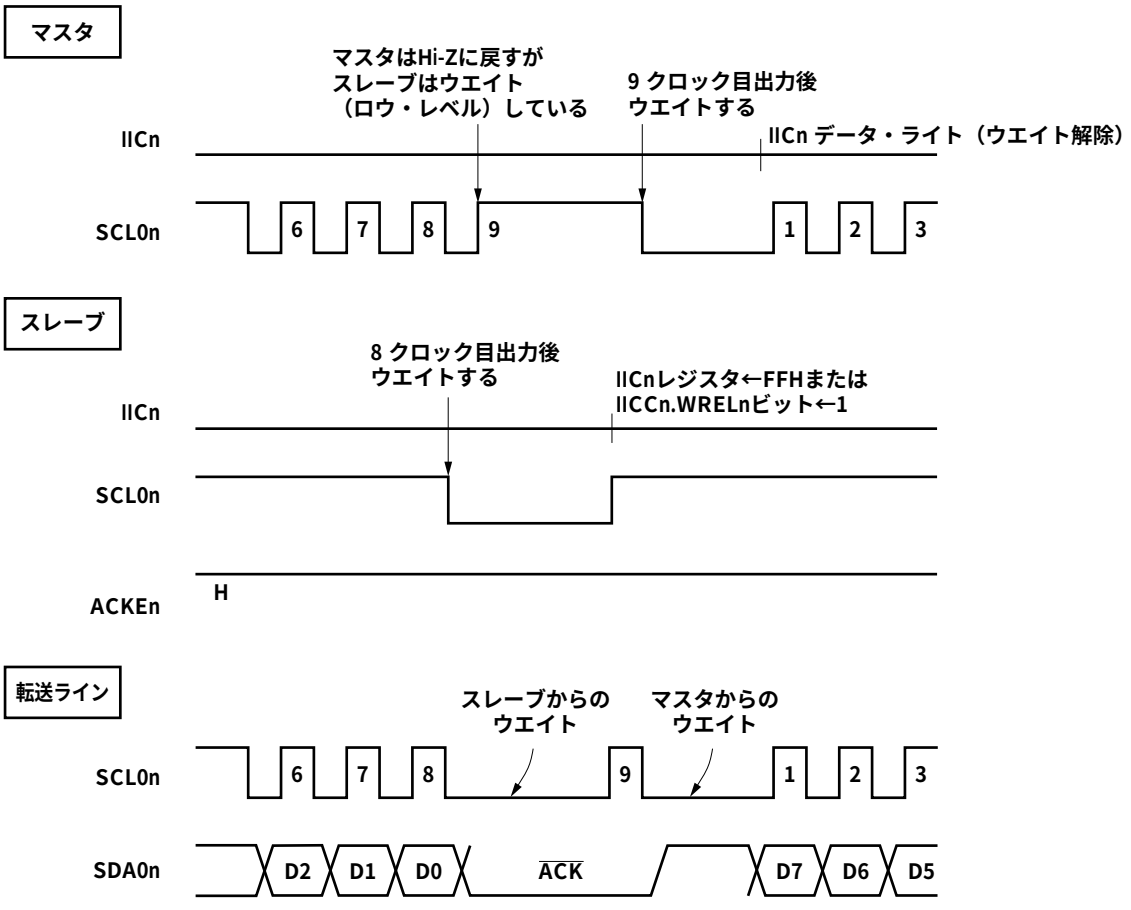
17. 6. 6 ウエイト

ウエイトは，マスタまたはスレーブがデータの送受信が準備中（ウエイト状態）であることを相手に知らせます。

SCL0n端子をロウ・レベルにすることにより，相手にウエイト状態を知らせます。マスタ，スレーブ両方のウエイト状態が解除されると，次の転送を開始できます（n = 0-2）。

図17－13 ウエイト（1/2）

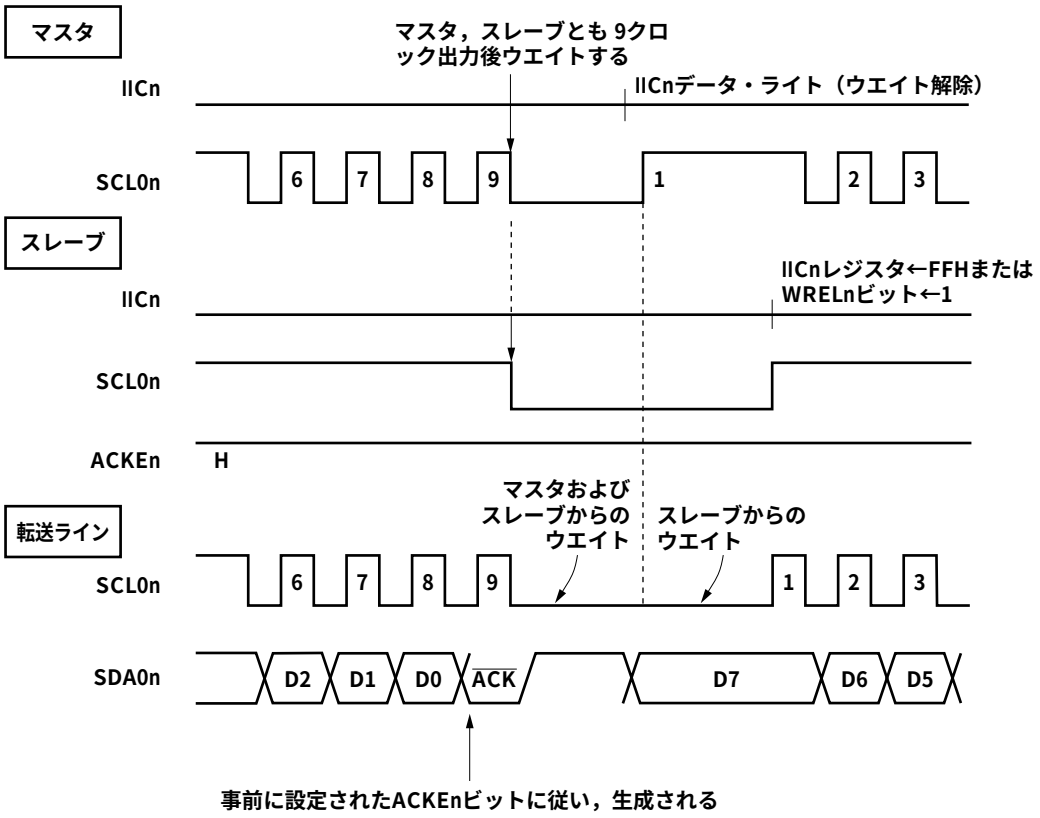
（a）マスタは9クロック・ウエイト，スレーブは8クロック・ウエイト時（マスタ：送信，スレーブ：受信，IICCn.ACKEnビット = 1）



備考 n = 0-2

図17－13 **ウエイト**（2/2）

（b）**マスタ，スレーブとも**9**クロック・ウエイト時（マスタ：送信，スレーブ：受信，**ACKEn**ビット** = 1）



備考 n = 0-2

ウエイトは，IICCn.WTIMn**ビットの設定により自動的に発生します**（n = 0-2）**。**

通常，受信側はWRELn**ビット** = 1**または**IICn**レジスタ←**FFH**ライトにするとウエイトを解除し，送信側は**IICn**レジスタにデータを書き込むとウエイトを解除します。**

マスタの場合は，次の方法でもウエイトを解除できます。

- IICCn.STTn**ビット** = 1
- IICCn.SPTn**ビット** = 1

17. 6. 7 ウエイト解除方法

I²C0nでは，通常，次のような処理でウエイトを解除できます（n = 0-2）。

- IICnレジスタへのデータの書き込み
- IICCn.WRELnビットのセット（1）（ウエイト解除）
- IICCn.STTnビットのセット（1）（スタート・コンディションの生成）
- IICCn.SPTnビットのセット（1）（ストップ・コンディションの生成）

これらのウエイト解除処理を実行した場合，I²C0nはウエイトを解除し通信が再開されます。

ウエイトを解除してデータ（アドレスを含む）を送信する場合には，IICnレジスタにデータを書き込んでください。

ウエイト解除後にデータを受信する場合，またはデータ送信を完了する場合には，WRELnビットをセット（1）してください。

ウエイト解除後にリスタート・コンディションを生成する場合には，STTnビットをセット（1）してください。

ウエイト解除後にストップ・コンディションを生成する場合には，SPTnビットをセット（1）してください。

1回のウエイト状態に対して，1回だけ解除処理を実行してください。

たとえば，WRELnビットのセット（1）によるウエイト解除後，IICnレジスタへのデータ書き込みを実施した場合には，SDAnラインの変化タイミングとIICnレジスタへの書き込みタイミングの競合により，SDAnラインへの出力データが間違った値になる可能性があります。

このような処理以外でも，通信を途中で中止した場合には，IICCn.IICEnビットをクリア（0）すると通信を停止するので，ウエイトを解除できます。

I²Cバスがノイズなどによりデッド・ロックしてしまった場合には，IICCn.LRELnビットをセット（1）すると通信から退避するので，ウエイトを解除できます。

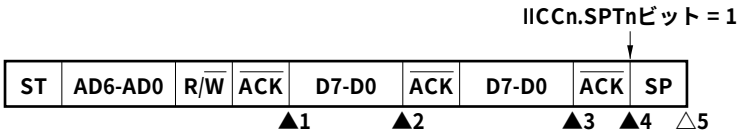
17. 7 I²C割り込み要求信号（INTIICn）

次に，INTIICn割り込み要求信号発生タイミングと，INTIICn信号タイミングでのIICSnレジスタの値を示します（n = 0-2）。

17. 7. 1 マスタ動作

（1）Start～Address～Data～Data～Stop（通常送受信）

① IICCn.WTIMnビット = 0のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000X000B

▲3：IICSnレジスタ = 1000X000B（WTIMnビット = 1）

▲4：IICSnレジスタ = 1000XX00B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

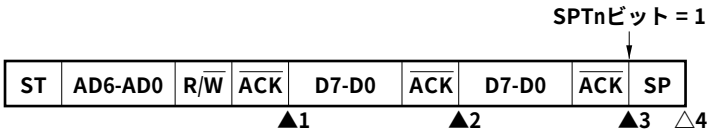
備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000X100B

▲3：IICSnレジスタ = 1000XX00B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

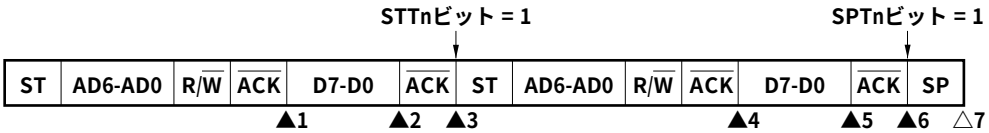
△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

（2）Start〜Address〜Data〜Start〜Address〜Data〜Stop（リスタート）

① WTIMnビット = 0のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000X000B（WTIMnビット = 1）

▲3：IICSnレジスタ = 1000XX00B（WTIMnビット = 0）

▲4：IICSnレジスタ = 1000X110B（WTIMnビット = 0）

▲5：IICSnレジスタ = 1000X000B（WTIMnビット = 1）

▲6：IICSnレジスタ = 1000XX00B

△7：IICSnレジスタ = 00000001B

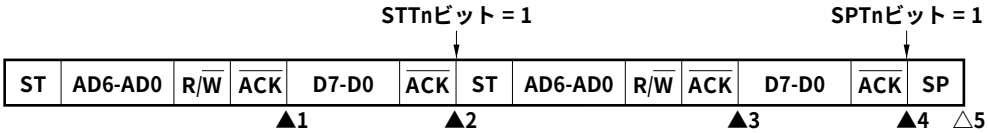
備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000XX00B

▲3：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲4：IICSnレジスタ = 1000XX00B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

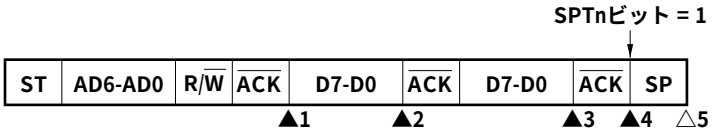
△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

(3) Start〜Code〜Data〜Data〜Stop（拡張コード送信）

① WTIMnビット = 0のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1010X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1010X000B

▲3：IICSnレジスタ = 1010X000B（WTIMnビット = 1）

▲4：IICSnレジスタ = 1010XX00B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

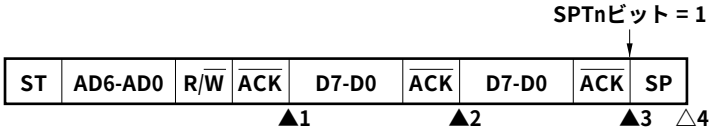
備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1010X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1010X100B

▲3：IICSnレジスタ = 1010XX00B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

17. 7. 2 スレーブ動作（スレーブ・アドレス・データ受信時（アドレス一致））

（1）Start〜Address〜Data〜Data〜Stop

① IICCn.WTIMnビット = 0のとき

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2		▲3	△4

▲1：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲2：IICSnレジスタ = 0001X000B

▲3：IICSnレジスタ = 0001X000B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ IICCn.SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2		▲3	△4

▲1：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲2：IICSnレジスタ = 0001X100B

▲3：IICSnレジスタ = 0001XX00B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

(2) Start〜Address〜Data〜Start〜Address〜Data〜Stop

① WTIMnビット = 0のとき（リスタート後，アドレス一致）

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2					▲3	▲4	△5

▲1：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲2：IICSnレジスタ = 0001X000B

▲3：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲4：IICSnレジスタ = 0001X000B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき（リスタート後，アドレス一致）

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1			▲2				▲3	▲4	△5

▲1：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲2：IICSnレジスタ = 0001XX00B

▲3：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲4：IICSnレジスタ = 0001XX00B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

(3) Start〜Address〜Data〜Start〜Code〜Data〜Stop

① WTIMnビット = 0のとき（リスタート後，拡張コード受信）

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2				▲3		▲4	△5

▲1：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲2：IICSnレジスタ = 0001X000B

▲3：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲4：IICSnレジスタ = 0010X000B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき（リスタート後，拡張コード受信）

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1			▲2			▲3	▲4	▲5	△6

▲1：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲2：IICSnレジスタ = 0001XX00B

▲3：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲4：IICSnレジスタ = 0010X110B

▲5：IICSnレジスタ = 0010XX00B

△6：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

（4）Start～Address～Data～Start～Address～Data～Stop

① WTIMnビット = 0のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2					▲3		△4

▲1：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲2：IICSnレジスタ = 0001X000B

▲3：IICSnレジスタ = 00000X10B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1			▲2				▲3		△4

▲1：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲2：IICSnレジスタ = 0001XX00B

▲3：IICSnレジスタ = 00000X10B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

17. 7. 3 スレーブ動作（拡張コード受信時）

（1）Start～Code～Data～Data～Stop

① IICCn.WTIMnビット = 0のとき

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2		▲3	△4

▲1：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲2：IICSnレジスタ = 0010X000B

▲3：IICSnレジスタ = 0010X000B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ IICCn.SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1 ▲2			▲3	▲4	△5

▲1：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲2：IICSnレジスタ = 0010X110B

▲3：IICSnレジスタ = 0010X100B

▲4：IICSnレジスタ = 0010XX00B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

（2）Start～Code～Data～Start～Address～Data～Stop

① WTIMnビット = 0のとき（リスタート後，アドレス一致）

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2					▲3	▲4	△5

▲1：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲2：IICSnレジスタ = 0010X000B

▲3：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲4：IICSnレジスタ = 0001X000B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき（リスタート後，アドレス一致）

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1	▲2		▲3				▲4	▲5	△6

▲1：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲2：IICSnレジスタ = 0010X110B

▲3：IICSnレジスタ = 0010XX00B

▲4：IICSnレジスタ = 0001X110B

▲5：IICSnレジスタ = 0001XX00B

△6：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

(3) Start〜Code〜Data〜Start〜Code〜Data〜Stop

① WTIMnビット = 0のとき（リスタート後，拡張コード受信）

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2				▲3		▲4	△5

▲1：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲2：IICSnレジスタ = 0010X000B

▲3：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲4：IICSnレジスタ = 0010X000B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき（リスタート後，拡張コード受信）

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1	▲2		▲3			▲4	▲5	▲6	△7

▲1：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲2：IICSnレジスタ = 0010X110B

▲3：IICSnレジスタ = 0010XX00B

▲4：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲5：IICSnレジスタ = 0010X110B

▲6：IICSnレジスタ = 0010XX00B

△7：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

(4) Start〜Code〜Data〜Start〜Address〜Data〜Stop

① WTIMnビット = 0のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2					▲3		△4

▲1：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲2：IICSnレジスタ = 0010X000B

▲3：IICSnレジスタ = 00000X10B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1	▲2		▲3				▲4		△5

▲1：IICSnレジスタ = 0010X010B

▲2：IICSnレジスタ = 0010X110B

▲3：IICSnレジスタ = 0010XX00B

▲4：IICSnレジスタ = 00000X10B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

17. 7. 4 通信不参加の動作

（1）Start～Code～Data～Data～Stop

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP

△1

△1：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. △ SPIEnビット = 1のときだけ発生

2. n = 0-2

17. 7. 5 アービトレーション負けの動作（アービトレーション負けのあと，スレーブとして動作）

(1) スレーブ・アドレス・データ送信中にアービトレーションに負けた場合

① IICCn.WTIMnビット = 0のとき

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
				▲1	▲2		▲3	△4

▲1：IICSnレジスタ = 0101X110B（例　割り込み処理中にIICSn.ALDnビットをリード）

▲2：IICSnレジスタ = 0001X000B

▲3：IICSnレジスタ = 0001X000B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

△　IICCn.SPIEnビット = 1のときだけ発生

X　任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
				▲1		▲2	▲3	△4

▲1：IICSnレジスタ = 0101X110B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

▲2：IICSnレジスタ = 0001X100B

▲3：IICSnレジスタ = 0001XX00B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

X　任意

2. n = 0-2

(2) 拡張コード送信中にアービトレーションに負けた場合

① WTIMnビット = 0のとき

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1		▲2		▲3	△4

▲1：IICSnレジスタ = 0110X010B（例 割り込み処理中にALDnビットをリード）

▲2：IICSnレジスタ = 0010X000B

▲3：IICSnレジスタ = 0010X000B

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
			▲1	▲2		▲3	▲4	△5

▲1：IICSnレジスタ = 0110X010B（例 割り込み処理中にALDnビットをリード）

▲2：IICSnレジスタ = 0010X110B

▲3：IICSnレジスタ = 0010X100B

▲4：IICSnレジスタ = 0010XX00B

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲ 必ず発生

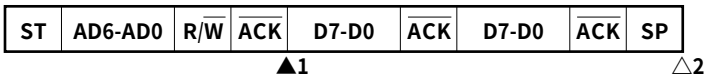
△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

17. 7. 6 アービトレーション負けの動作（アービトレーション負けのあと，不参加）

(1) スレーブ・アドレス・データ送信中にアービトレーションに負けた場合



▲1：IICSnレジスタ = 01000110B（例　割り込み処理中にIICSn.ALDnビットをリード）

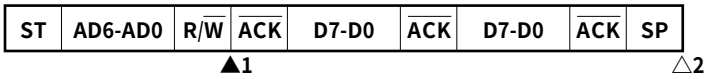
△2：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

△　IICCn.SPIEnビット = 1のときだけ発生

2. n = 0-2

(2) 拡張コード送信中にアービトレーションに負けた場合



▲1：IICSnレジスタ = 0110X010B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

ソフトウエアでIICCn.LRELnビット = 1を設定

△2：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

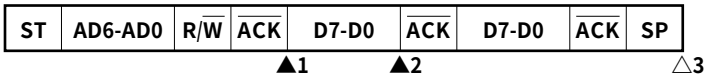
△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

X　任意

2. n = 0-2

(3) データ転送時にアービトレーションに負けた場合

① IICCn.WTIMnビット = 0のとき



▲1：IICSnレジスタ = 10001110B

▲2：IICSnレジスタ = 01000000B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

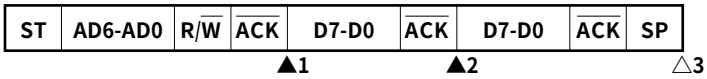
△3：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき



▲1：IICSnレジスタ = 10001110B

▲2：IICSnレジスタ = 01000100B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

△3：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

2. n = 0-2

（4）データ転送時にリスタート・コンディションで負けた場合

① 拡張コード以外（例　アドレス不一致）

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-Dn	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
				▲1					▲2		△3

▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 01000110B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

△3：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

X　任意

Dn = D6-D0

2. n = 0-2

② 拡張コード

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-Dn	ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-D0	$\overline{ACK}$	SP
				▲1				▲2			△3

▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 0110X010B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

ソフトウエアでIICCn.LRELnビット = 1を設定

△3：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

X　任意

Dn = D6-D0

2. n = 0-2

(5) データ転送時にストップ・コンディションで負けた場合

ST	AD6-AD0	R/$\overline{W}$	$\overline{ACK}$	D7-Dn	SP
			▲1		△2

▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

△2：IICSnレジスタ = 01000001B

備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

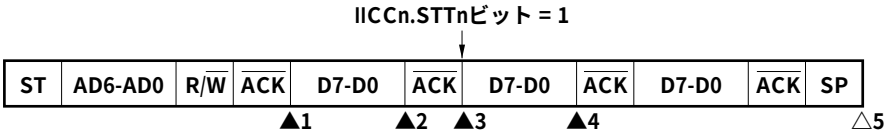
X 任意

2. Dn = D6-D0

n = 0-2

(6) リスタート・コンディションを発生しようとしたが，SDA0n端子がロウ・レベルでアービトレーションに負けた場合

① WTIMnビット = 0のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000X000B（WTIMnビット = 1）

▲3：IICSnレジスタ = 1000XX00B（WTIMnビット = 0）

▲4：IICSnレジスタ = 01000000B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

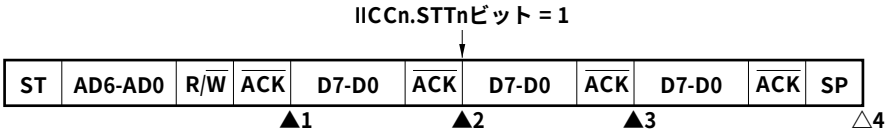
備考1. ▲　必ず発生

△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

X　任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000XX00B

▲3：IICSnレジスタ = 01000100B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

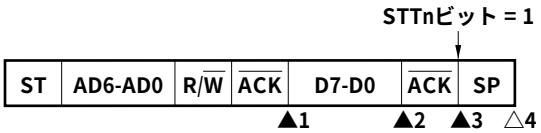
△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

X　任意

2. n = 0-2

(7) リスタート・コンディションを発生しようとして，ストップ・コンディションでアービトレーションに負けた場合

① WTIMnビット = 0のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000X000B（WTIMnビット = 1）

▲3：IICSnレジスタ = 1000XX00B

△4：IICSnレジスタ = 01000001B

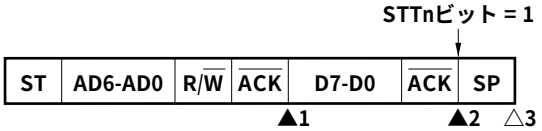
備考1. ▲ 必ず発生

△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000XX00B

△3：IICSnレジスタ = 01000001B

備考1. ▲ 必ず発生

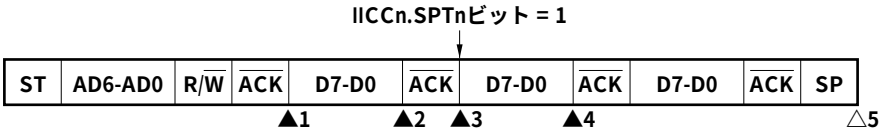
△ SPIEnビット = 1のときだけ発生

X 任意

2. n = 0-2

(8) ストップ・コンディションを発生しようとしたが，SDA0n端子がロウ・レベルでアービトレーションに負けた場合

① WTIMnビット = 0のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000X000B（WTIMnビット = 1）

▲3：IICSnレジスタ = 1000XX00B（WTIMnビット = 0）

▲4：IICSnレジスタ = 01000000B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

△5：IICSnレジスタ = 00000001B

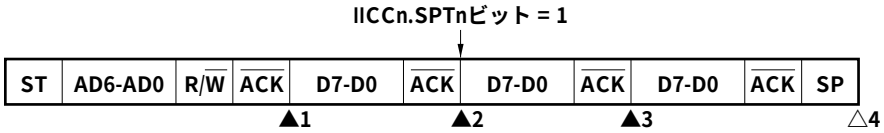
備考1. ▲　必ず発生

△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

X　任意

2. n = 0-2

② WTIMnビット = 1のとき



▲1：IICSnレジスタ = 1000X110B

▲2：IICSnレジスタ = 1000XX00B

▲3：IICSnレジスタ = 01000000B（例　割り込み処理中にALDnビットをリード）

△4：IICSnレジスタ = 00000001B

備考1. ▲　必ず発生

△　SPIEnビット = 1のときだけ発生

X　任意

2. n = 0-2

17. 8 割り込み要求信号（INTIICn）発生タイミングおよびウエイト制御

IICCn.WTIMnビットの設定で，次に示すタイミングでINTIICn信号が発生して，ウエイト制御を行います（n = 0-2）。

表17－3 INTIICn信号発生タイミングおよびウエイト制御

WTIMnビット	スレーブ動作時			マスタ動作時		
	アドレス	データ受信	データ送信	アドレス	データ受信	データ送信
0	9注1, 2	8注2	8注2	9	8	8
1	9注1, 2	9注2	9注2	9	9	9

注1. スレーブのINTIICn信号およびウエイトは，SVAnレジスタに設定しているアドレスと一致したときにのみ，9クロック目の立ち下がりで発生します。
また，このとき，IICCn.ACKEnビットの設定にかかわらず，アクノリッジが生成されます。拡張コードを受信したスレーブは8クロック目の立ち下がりでINTIICn信号を発生します。
ただし，リスタート後にアドレス不一致になった場合には，9クロック目の立ち下がりでINTIICn信号を発生しますが，ウエイトは発生しません。

2. SVAnレジスタと受信したアドレスが一致せず，かつ拡張コードを受信していない場合は，INTIICn信号もウエイトも発生しません。

備考1. 表中の数字は，シリアル・クロックのクロック数を示しています。また，割り込み要求，ウエイト制御ともにシリアル・クロックの立ち下がりに同期します。

2. n = 0-2

(1) アドレス送受信時

・スレーブ動作時：WTIMnビットにかかわらず，上記の注1，注2の条件により，割り込みおよびウエイト・タイミングが決まります。

・マスタ動作時　：WTIMnビットにかかわらず，割り込みおよびウエイト・タイミングは，9クロック目の立ち下がりで発生します。

(2) データ受信時

マスタ／スレーブ動作時：WTIMnビットにより，割り込みおよびウエイト・タイミングが決まります。

(3) データ送信時

マスタ／スレーブ動作時：WTIMnビットにより，割り込みおよびウエイト･タイミングが決まります。

(4) ウエイト解除方法

ウエイトの解除方法には次の4つがあります。

- IICCn.WRELnビット = 1
- IICnレジスタのライト動作
- スタート・コンディションのセット（IICCn.STTnビット = 1）注
- ストップ・コンディションのセット（IICCn.SPTnビット = 1）注

注 マスタのみ

8クロック・ウエイト選択（WTIMnビット = 0）時は，ウエイト解除前にアクノリッジの生成の有無を決定する必要があります。

備考 n = 0-2

(5) ストップ・コンディション検出

ストップ・コンディションを検出すると，INTIICn信号を発生します。

備考 n = 0-2

17. 9 アドレスの一致検出方法

I²Cバス・モードでは，マスタがスレーブ・アドレスを送信することにより，特定のスレーブ・デバイスを選択できます。

アドレス一致の検出は，ハードウエアで自動的に行えます。SVAnレジスタに自局アドレスを設定した場合，マスタから送信されたスレーブ・アドレスとSVAnレジスタに設定したアドレスが一致したとき，または拡張コードを受信した場合だけ，INTIICn信号が発生します（n = 0-2）。

17. 10 エラーの検出

I²Cバス・モードでは，送信中のシリアル・バス端子（SDA0n）の状態が，送信しているデバイスのIICnレジスタにも取り込まれるため，送信開始前と送信終了後のIICnレジスタのデータを比較することにより，送信エラーを検出できます。この場合，2つのデータが異なっていれば送信エラーが発生したものと判断します（n = 0-2）。

17. 11 拡張コード

(1) 受信アドレスの上位4ビットが“0000”と“1111”のときを拡張コード受信として，拡張コード受信フラグ（IICSn.EXCnビット）をセットし，8クロック目の立ち下がりで割り込み要求信号（INTIICn）を発生します（n = 0-2）。
SVAnレジスタに格納された自局アドレスは影響しません。

(2) 10ビット・アドレス転送で，SVAnレジスタに“11110xx0”を設定し，マスタから“11110xx0”が転送されてきた場合は，次のようになります。ただしINTIICn信号は，8クロック目の立ち下がりで発生します（n = 0-2）。

上位4ビット・データの一致：EXCnビット = 1
7ビット・データの一致　　：IICSn.COInビット = 1

(3) 割り込み要求信号発生後の処理は，拡張コードに続くデータによって異なるため，ソフトウエアが行います。
たとえば拡張コード受信後，スレーブとして動作したくない場合は，IICCn.LRELnビット = 1に設定し，次の通信待機状態となります。

表17－4 拡張コードのビットの定義

スレーブ・アドレス	R/$\overline{W}$ビット	説　明
0000 000	0	ジェネラル・コール・アドレス
0000 000	1	スタート・バイト
0000 001	×	CBUSアドレス
0000 010	×	異なるバス・フォーマット用に予約されているアドレス
1111 0xx	×	10ビット・スレーブ・アドレス指定

17. 12 アービトレーション

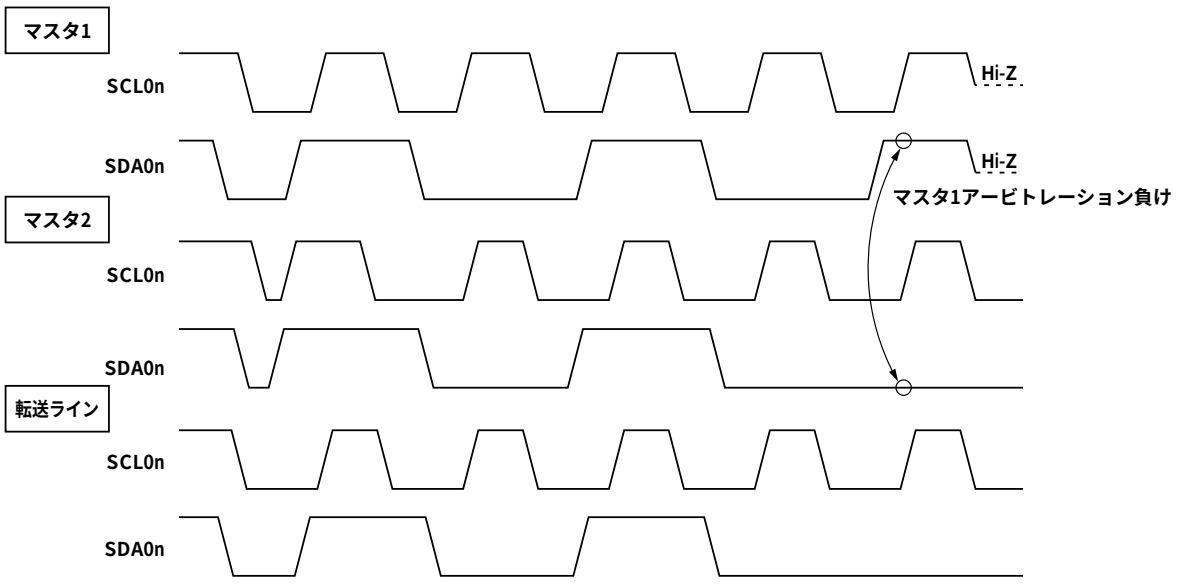
複数のマスタがスタート・コンディションを同時に生成した場合（IICSn.STDnビット = 1になる前にIICCn.STTnビット = 1にしたとき），データが異なるまでクロックの調整をしながら，マスタ通信を行います。この動作をアービトレーションと呼びます（n = 0-2）。

アービトレーションに負けたマスタは，アービトレーションに負けたタイミングで，アービトレーション負けフラグ（IICSn.ALDnビット）をセット（1）し，SCL0n, SDA0nラインともハイ・インピーダンス状態にしてバスを解放します（n = 0-2）。

アービトレーションに負けたことは，次の割り込み要求信号（INTIICn）発生タイミング（8または9クロック目，ストップ・コンディション検出など）で，ソフトウエアでALDnビット = 1になっていることで検出します（n = 0-2）。

割り込み発生タイミングについては，17. 7 I²C割り込み要求信号（INTIICn）を参照してください。

図17－14 アービトレーション・タイミング例



備考 n = 0-2

表17－5 アービトレーション発生時の状態と割り込み要求信号発生タイミング

アービトレーション発生時の状態	割り込み要求発生タイミング
アドレス送信中	バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり注1
アドレス送信後のリード／ライト情報	
拡張コード送信中	
拡張コード送信後のリード／ライト情報	
データ送信中	
データ受信後のアクノリッジ転送期間中	
データ転送中，リスタート・コンディション検出	
データ転送中，ストップ・コンディション検出	ストップ・コンディション生成時（IICCn.SPIEnビット = 1時）注2
リスタート・コンディションを生成しようとしたがSDA0n端子がロウ・レベル	バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり注1
リスタート・コンディションを生成しようとしたがストップ・コンディション検出	ストップ・コンディション生成時（SPIEnビット = 1時）注2
ストップ・コンディションを生成しようとしたがSDA0n端子がロウ・レベル	バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり注1
リスタート・コンディションを生成しようとしたがSCL0n端子がロウ・レベル	

注1. IICCn.WTIMnビット = 1の場合には，9クロック目の立ち下がりタイミングでINTIICn信号を発生します。WTIMnビット = 0および拡張コードのスレーブ・アドレス受信時には，8クロック目の立ち下がりタイミングでINTIICn信号を発生します（n = 0-2）。

2. アービトレーションが起こる可能性がある場合，マスタ動作ではSPIEnビット = 1にしてください（n = 0-2）。

17. 13 ウエイク・アップ機能

I²Cバスのスレーブ機能で，自局アドレスまたは拡張コードを受信したときに割り込み要求信号（INTIICn）が発生する機能です。アドレスが一致しないときは不要なINTIICn信号を発生せず，効率よく処理できます。

スタート・コンディションを検出すると，ウエイク・アップ待機状態となります。マスタ（スタート・コンディションを生成した場合）でも，アービトレーション負けでスレーブになる可能性があるため，アドレスを送信しながらウエイク・アップ待機状態になります。

ただしストップ・コンディションを検出すると，ウエイク・アップ機能に関係なく，IICCn.SPIEnビットの設定によって，INTIICn信号の発生許可／禁止が決定します（n = 0-2）。

17. 14 通信予約

17. 14. 1 通信予約機能許可の場合（IICFn.IICRSVnビット = 0）

バスに不参加の状態で，次にマスタ通信を行いたい場合は，通信予約を行うことにより，バス解放時にスタート・コンディションを送信できます。この場合のバスの不参加とは次の2つの状態を含みます。

- アービトレーションでマスタにもスレーブにもなれなかった場合
- 拡張コードを受信してスレーブとして動作しない（アクノリッジを返さず，IICCn.LRELnビット = 1でバスを解放した）とき（n = 0-2）

バスに不参加の状態で，IICCn.STTnビットをセット（1）すると，バスが解放されたあと（ストップ・コンディション検出後）に，自動的にスタート・コンディションを生成し，ウエイト状態になります。

バスの解放を検出（ストップ・コンディション検出）すると，IICnレジスタ・ライト操作により，マスタとしてのアドレス転送を開始します。このとき，IICCn.SPIEnビットをセット（1）しておいてください（n = 0-2）。

STTnビットをセット（1）したとき，スタート・コンディションとして動作するか通信予約として動作するかはバスの状態により決定されます（n = 0-2）。

バスが解放されているとき …… スタート・コンディション生成
バスが解放されていないとき（待機状態） ‥ 通信予約

通信予約として動作するのかどうかを確認するには，STTnビットをセット（1）し，ウエイト時間をとったあと，IICSn.MSTSnビットを確認することで行います（n = 0-2）。

ウエイト時間は，表17－6に示す時間をソフトウエアにより確保してください。なお，ウエイト時間はIICCLn.SMCn, CLn1, CLn0ビットと，IICXn.CLXnビットにより設定できます（n = 0-2）。

表17－6 ウエイト時間

選択クロック	CLXn	SMCn	CLn1	CLn0	ウエイト時間
fxx（OCKSm = 18H設定時）	0	0	0	0	26クロック
fxx/2（OCKSm = 10H設定時）	0	0	0	0	52クロック
fxx/3（OCKSm = 11H設定時）	0	0	0	0	78クロック
fxx/4（OCKSm = 12H設定時）	0	0	0	0	104クロック
fxx/5（OCKSm = 13H設定時）	0	0	0	0	130クロック
fxx（OCKSm = 18H設定時）	0	0	0	1	47クロック
fxx/2（OCKSm = 10H設定時）	0	0	0	1	94クロック
fxx/3（OCKSm = 11H設定時）	0	0	0	1	141クロック
fxx/4（OCKSm = 12H設定時）	0	0	0	1	188クロック
fxx/5（OCKSm = 13H設定時）	0	0	0	1	235クロック
fxx	0	0	1	0	47クロック
fxx（OCKSm = 18H設定時）	0	0	1	1	37クロック
fxx/2（OCKSm = 10H設定時）	0	0	1	1	74クロック
fxx/3（OCKSm = 11H設定時）	0	0	1	1	111クロック
fxx/4（OCKSm = 12H設定時）	0	0	1	1	148クロック
fxx/5（OCKSm = 13H設定時）	0	0	1	1	185クロック
fxx（OCKSm = 18H設定時）	0	1	0	×	16クロック
fxx/2（OCKSm = 10H設定時）	0	1	0	×	32クロック
fxx/3（OCKSm = 11H設定時）	0	1	0	×	48クロック
fxx/4（OCKSm = 12H設定時）	0	1	0	×	64クロック
fxx/5（OCKSm = 13H設定時）	0	1	0	×	80クロック
fxx	0	1	1	0	16クロック
fxx（OCKSm = 18H設定時）	0	1	1	1	13クロック
fxx/2（OCKSm = 10H設定時）	0	1	1	1	26クロック
fxx/3（OCKSm = 11H設定時）	0	1	1	1	39クロック
fxx/4（OCKSm = 12H設定時）	0	1	1	1	52クロック
fxx/5（OCKSm = 13H設定時）	0	1	1	1	65クロック
fxx（OCKSm = 18H設定時）	1	1	0	×	10クロック
fxx/2（OCKSm = 10H設定時）	1	1	0	×	20クロック
fxx/3（OCKSm = 11H設定時）	1	1	0	×	30クロック
fxx/4（OCKSm = 12H設定時）	1	1	0	×	40クロック
fxx/5（OCKSm = 13H設定時）	1	1	0	×	50クロック
fxx	1	1	1	0	10クロック

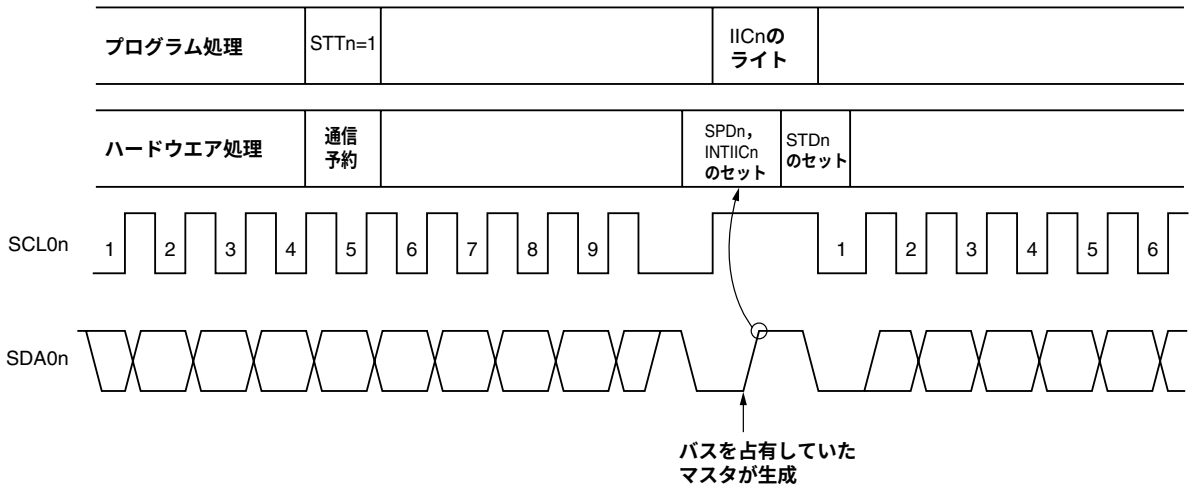
備考1. n = 0-2

m = 0, 1

2. × = Don’t care

通信予約のタイミングを次に示します。

図17ー15 通信予約のタイミング



備考 n = 0-2

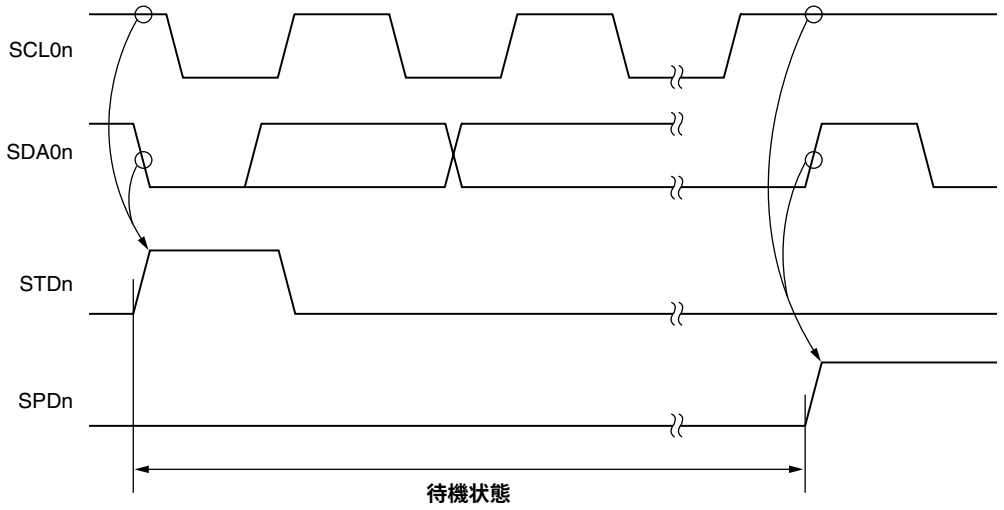
STTn ：IICCnレジスタのビット

STDn ：IICSnレジスタのビット

SPDn ： 〃 のビット

通信予約は次のタイミングで受け付けられます。IICSn.STDnビット = 1になったあと，ストップ・コンディション検出までにIICCn.STTnビット = 1で通信予約をします（n = 0-2）。

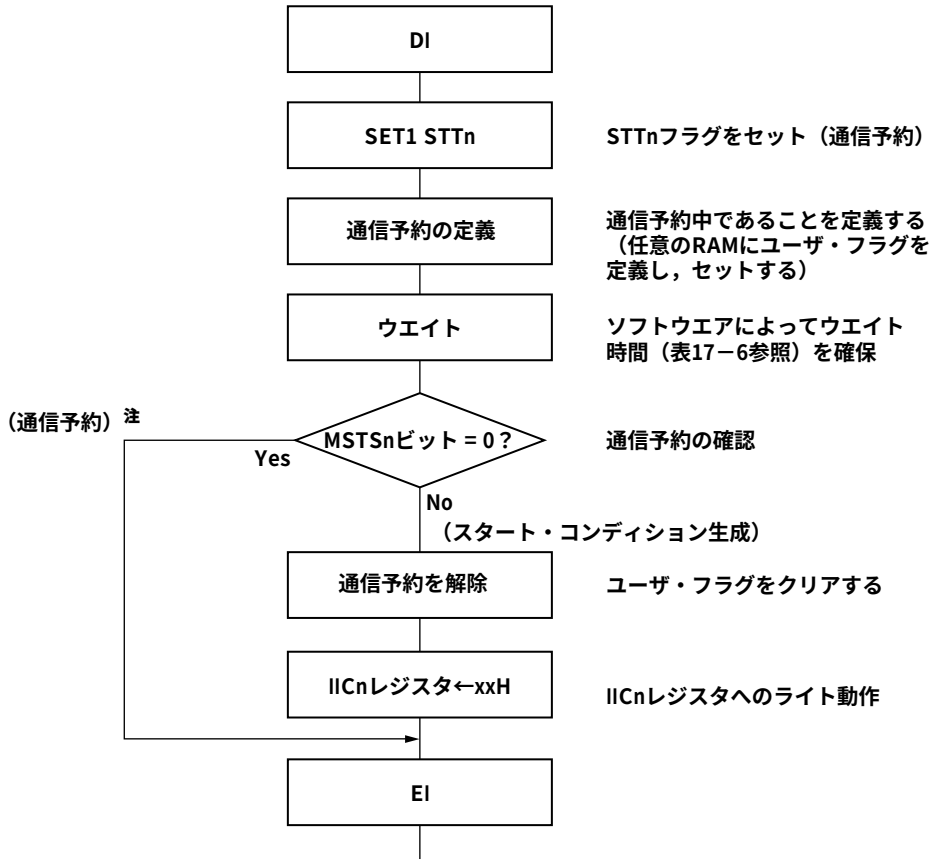
図17ー16 通信予約受け付けタイミング



備考 n = 0-2

次に通信予約の手順を示します。

図17－17 通信予約の手順



注 通信予約動作時は，ストップ・コンディション割り込みでIICnレジスタへの書き込みを実行します。

備考 n = 0-2

17. 14. 2 通信予約機能禁止の場合（IICFn.IICRSVnビット = 1）

バスが通信中で，この通信に不参加の状態でIICCn.STTnビットをセットすると，この要求を拒絶しスタート・コンディションを生成しません。この場合のバスの不参加とは次の2つの状態を含みます。

- アービトレーションでマスタにもスレーブにもなれなかった場合
- 拡張コードを受信してスレーブとして動作しない（アクノリッジを返さず，IICCn.LRELnビット = 1でバスを解放した）とき（n = 0-2）。

スタート・コンディションが生成されたか拒絶されたを確認するには，IICFn.STCFnフラグを確認することにより行います。STTnビット = 1としてからSTCFnフラグがセットされるまで表17－7に示す時間がかかりますので，ソフトウエアによりこの時間を確保してください。

表17－7 ウエイト時間

OCKSENm	OCKSm1	OCKSm0	CLn1	CLn0	ウエイト時間
1	0	0	0	X	10クロック
1	0	1	0	X	15クロック
1	1	0	0	X	20クロック
1	1	1	0	X	25クロック
0	0	0	1	0	5クロック

備考1. X：Don't care

2. n = 0-2

m = 0, 1

17. 15 注意事項

(1) IICFn.STCENnビット = 0の場合

I²C0n動作許可直後，実際のバス状態にかかわらず通信状態（IICFn.IICBSYnビット = 1）と認識します。ストップ・コンディションを検出していない状態からマスタ通信を行おうとする場合は，まずストップ・コンディションを生成し，バスを解放してからマスタ通信を行ってください。

ストップ・コンディションの生成は次の順番で行ってください。

① IICCLnレジスタの設定
② IICCn.IICEnビットのセット
③ IICCn.SPTnビットのセット

(2) IICFn.STCENnビット = 1の場合

I²C0n動作許可直後，実際のバス状態にかかわらず解放状態（IICBSYnビット = 0）と認識しますので，1回目のスタート・コンディションを生成（IICCn.STTnビット = 1）する場合は，ほかの通信を破壊しないようにバスが解放されていることを確認する必要があります。

(3) ほかのデバイス同士の通信中にV850ES/JJ3のIICCn.IICEnビットをセット（1）した場合，通信ラインの状態によってスタート・コンディションを検出することがあります。IICCn.IICEnビットのセット（1）は，必ずSCL0n, SDA0nラインがハイ・レベルの状態で行ってください。

(4) 動作許可（IICCn.IICEnビット = 1）する前にIICCLn, IICXn, OCKSmレジスタで動作クロック周波数を決定してください。動作クロック周波数を変更する場合は，一度IICCn.IICEnビットをクリア（0）してください。

(5) IICCn.STTn, SPTnビットをセット（1）したあと，クリア（0）される前の再セットは禁止します。

(6) 送信予約をした場合には，IICCn.SPIEnビットをセット（1）してストップ・コンディション検出で割り込み要求が発生するようにしてください。割り込み要求発生後にI²Cnに通信データをライトすることによってウエイトが解除され転送が開始します。ストップ・コンディション検出で割り込みを発生させないと，スタート時には割り込み要求が発生しないため，ウエイト状態で停止します。ただし，ソフトウエアでIICSn.MSTSnビットを検出する場合には，SPIEnビットをセット（1）する必要はありません。

備考 n = 0-2
m = 0, 1

17. 16 通信動作

ここでは，次の 3 つの動作手順をフローとして示します。

(1) シングルマスタ・システムでのマスタ動作

シングルマスタ・システムで，マスタとして使用する場合のフローを示します。

このフローは大きく「初期設定」と「通信処理」に分かれています。起動時に「初期設定」部分を実行し，スレーブとの通信が必要になったら通信に必要な準備を行って「通信処理」部分を実行します。

(2) マルチマスタ・システムでのマスタ動作

I²C0n バスのマルチマスタ・システムでは，通信に参加した段階ではバスが解放状態にあるか使用状態にあるかが I²C バスの仕様だけでは判断できません。ここでは，一定（1 フレーム）期間，データとクロックがハイ・レベルであれば，バスが解放状態としてバスに参加するようにしています。

このフローは大きく「初期設定」，「通信待ち」，「通信処理」に分かれています。ここでは，アービトレーションで負けてスレーブに指定された場合の処理は省略し，マスタとしての処理だけを示しています。起動時に「初期設定」部分を実行してバスに参加します。そのあとは「通信待ち」で，マスタとしての通信要求，またはスレーブとしての指定を待ちます。実際に通信を行うのは「通信処理」部分で，スレーブとのデータ送受信以外に，ほかのマスタとのアービトレーションにも対応しています。

(3) スレーブ動作

I²C0n バスのスレーブとして使用する場合の例を示します。

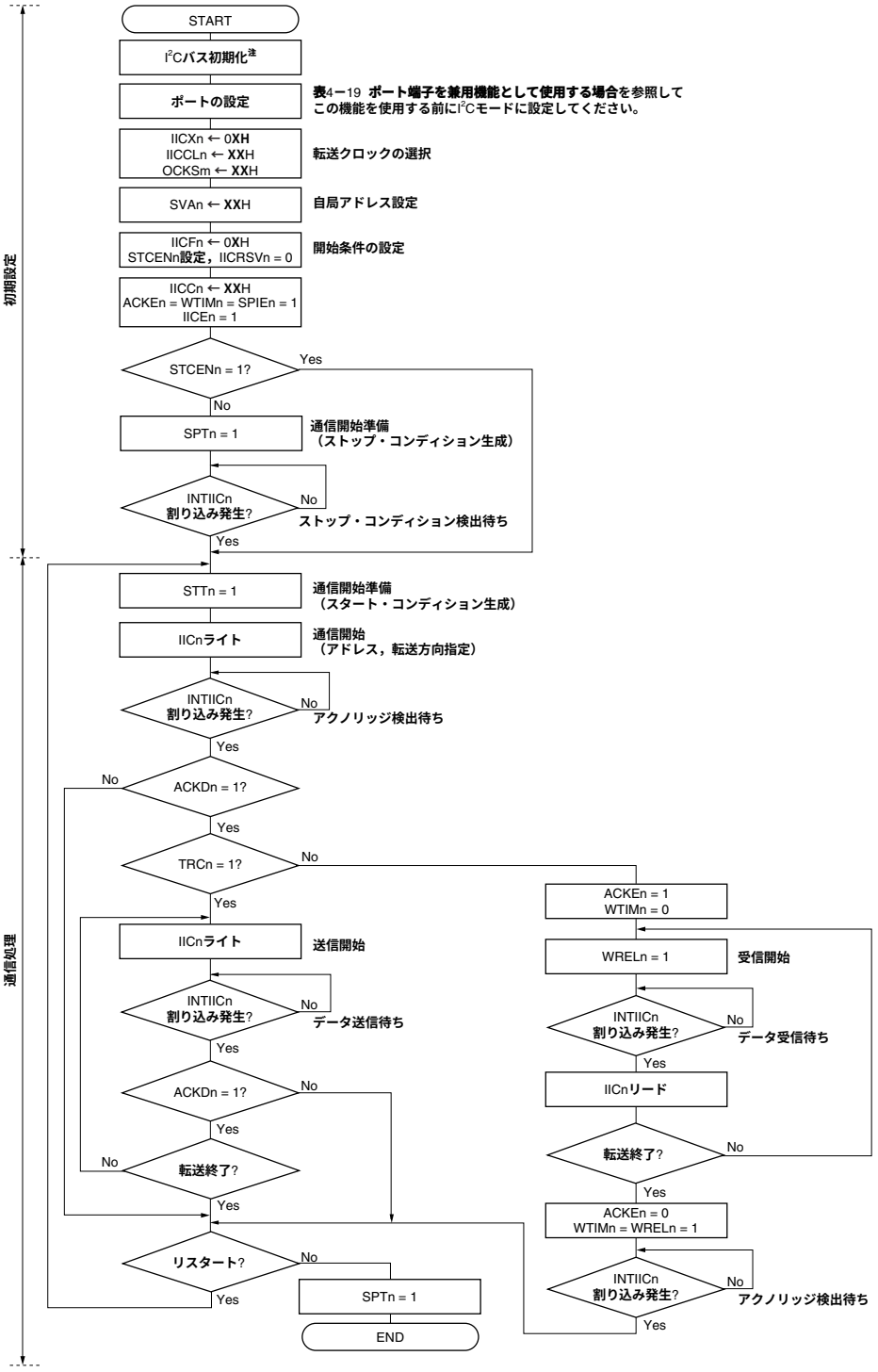
スレーブの場合には，割り込みによって動作を開始します。起動時に「初期設定」部分を実行し，そのあとは通信待ちで INTIICn 割り込みの発生を待ちます。INTIICn 割り込みが発生すると，通信状態を判定し，フラグとしてメイン処理に引き渡します。

各フラグをチェックすることにより，必要な「通信処理」を行います。

備考 n = 0-2

17. 16. 1 シングルマスタ・システムでのマスタ動作

図17－18 シングルマスタ・システムでのマスタ動作



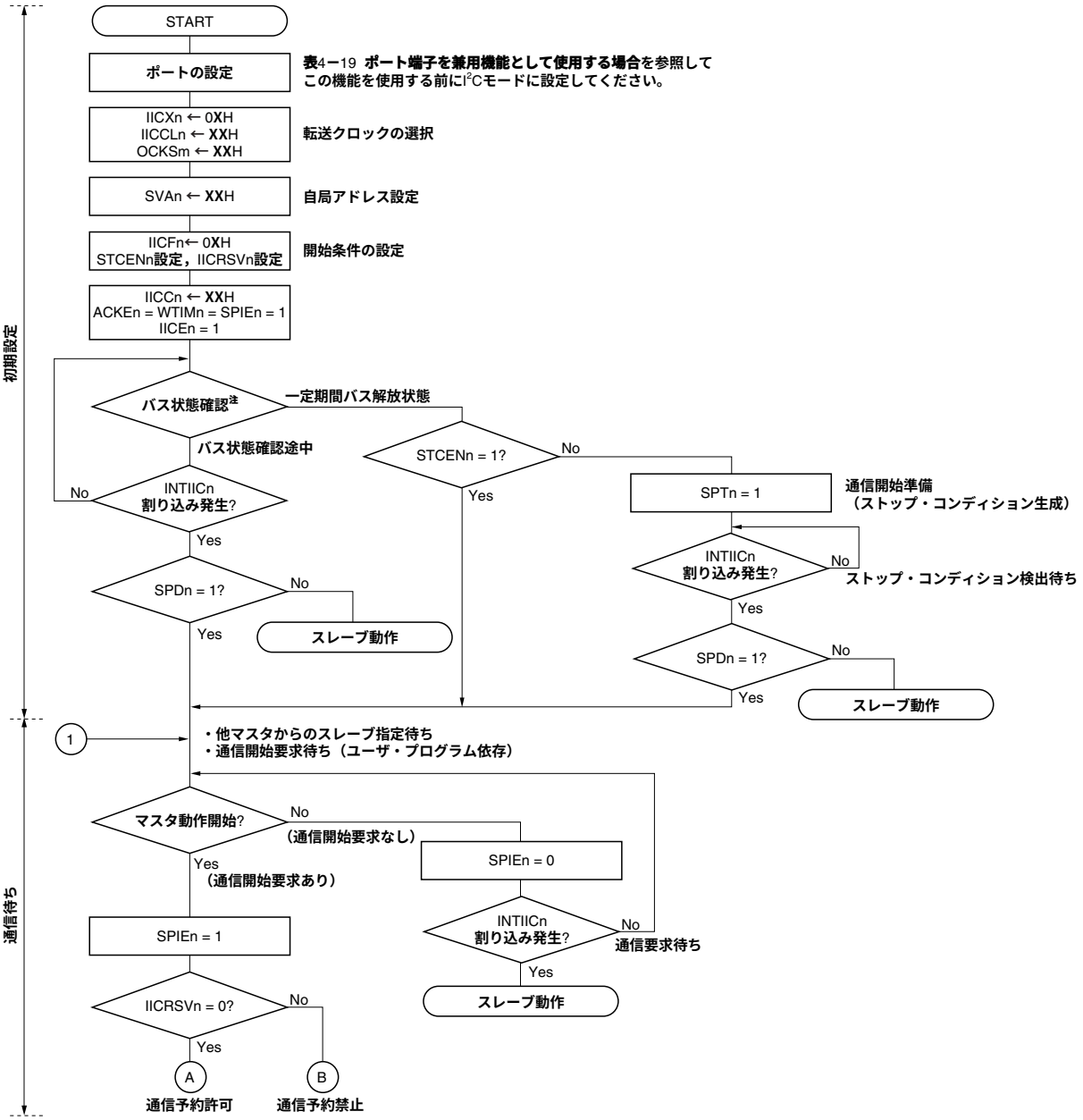
注 通信している製品の仕様に準拠し，I²C0nバスを解放（SCL0n，SDA0n端子 = ハイ・レベル）してください。たとえば，EEPROM®がSDA0n端子にロウ・レベルを出力した状態であれば，SCL0n端子を出力ポートに設定し，SDA0n端子が定常的にハイ・レベルになるまで，出力ポートからクロック・パルスを出力してください。

備考1. 送信および受信フォーマットは通信している製品の仕様に準拠してください。

2. n = 0-2, m = 0, 1

17. 16. 2 マルチマスタ・システムでのマスタ動作

図17－19 マルチマスタ・システムでのマスタ動作（1/3）

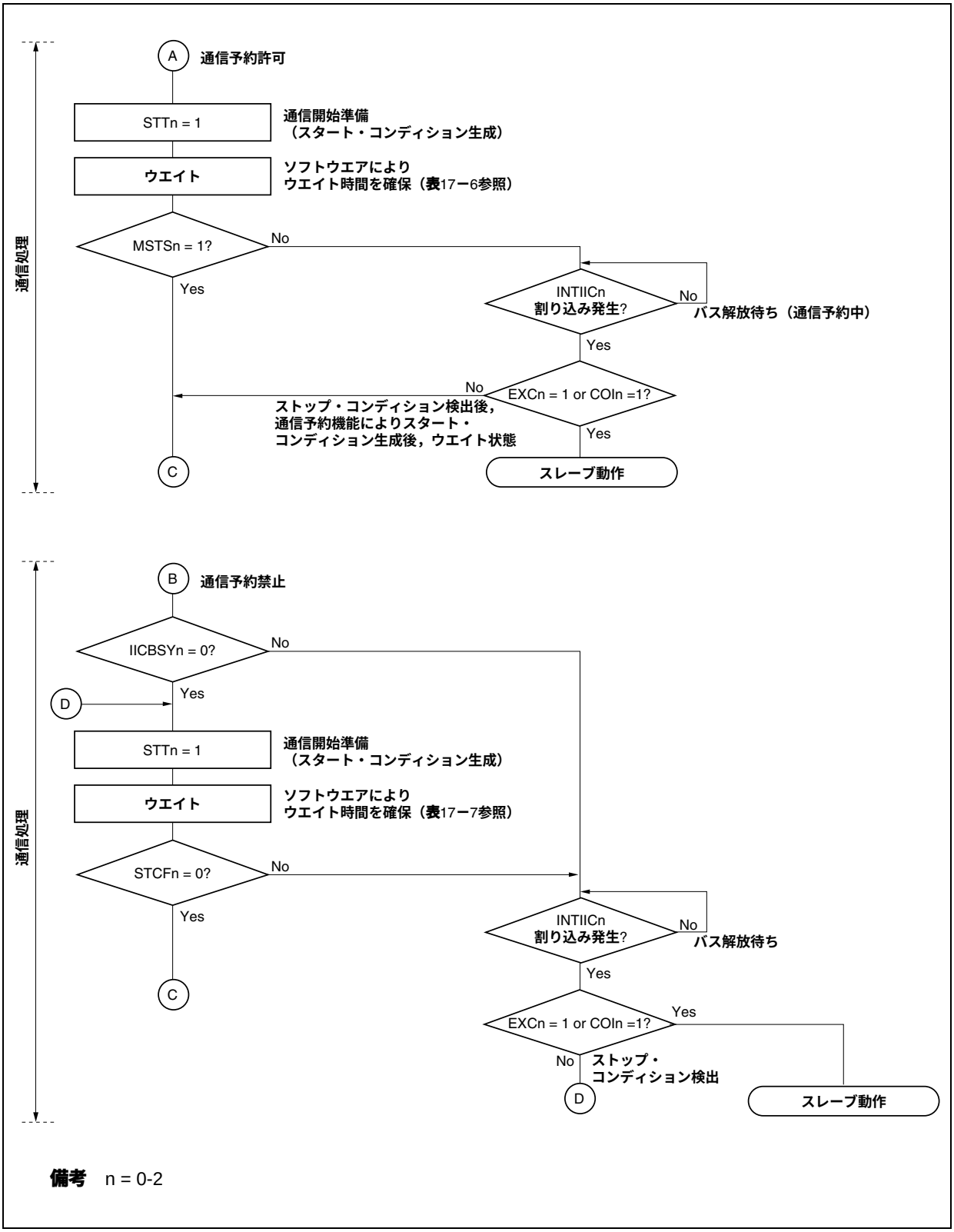


注 一定期間（たとえば1フレーム分），バス解放状態（IICCLn.CLDnビット = 1, IICCLn.DADnビット = 1）であることを確認してください。定常的にSDA0n端子がロウ・レベルの場合は，通信している製品の仕様に準拠し，I²C0nバスを解放（SCL0n, SDA0n端子 = ハイ・レベル）するか判断してください。

備考 n = 0-2

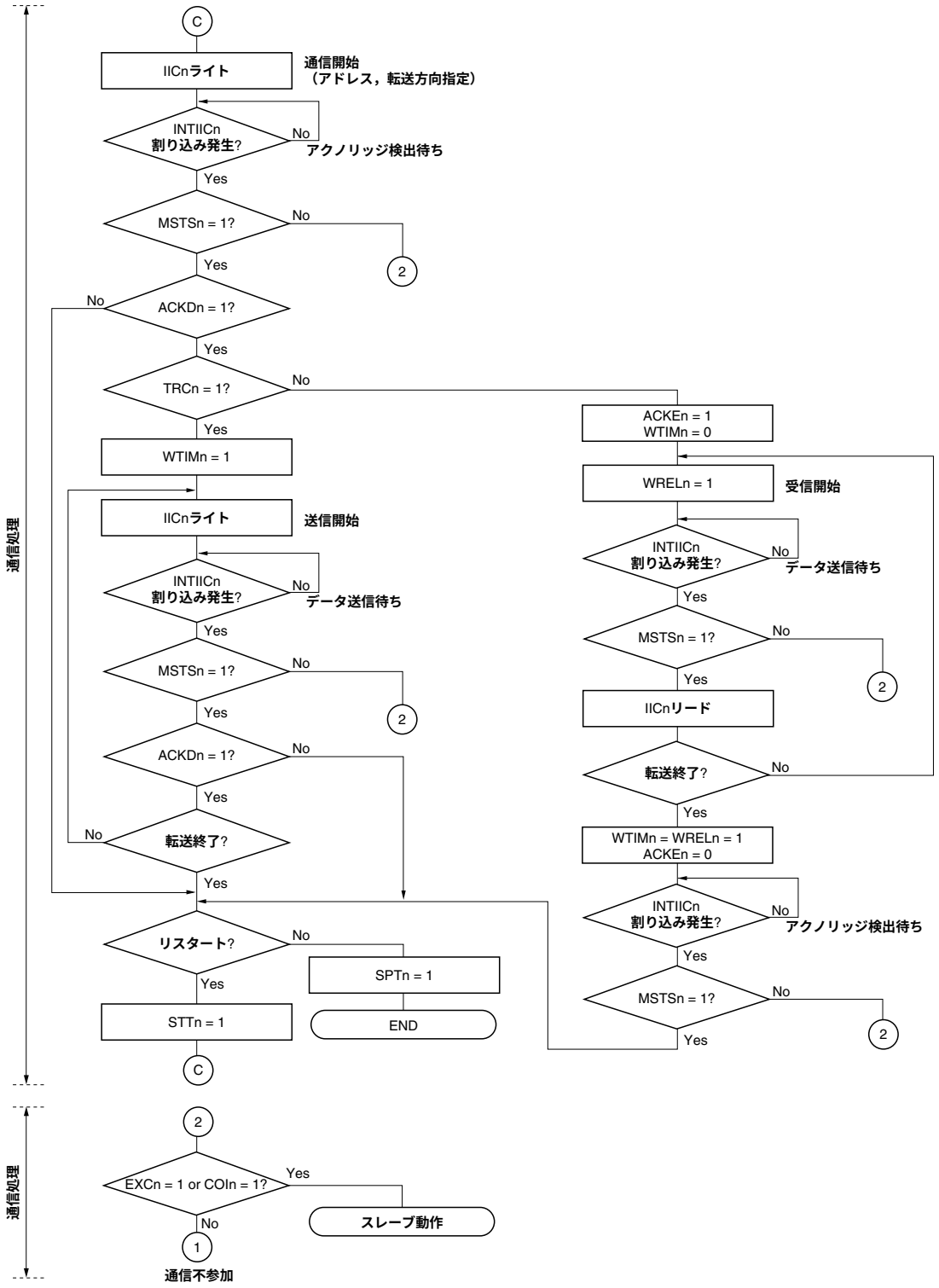
m = 0, 1

図17－19 マルチマスタ・システムでのマスタ動作（2/3）



備考 n = 0-2

図17－19 マルチマスタ・システムでのマスタ動作（3/3）



備考 1. 送信および受信フォーマットは通信している製品の仕様に準拠してください。

2. マルチマスタ・システムでマスタとして使用する場合は，INTIICn割り込み発生ごとにIICSn.MSTSnビットをリードし，アービトレーション結果を確認してください。

3. マルチマスタ・システムでスレーブとして使用する場合は，INTIICn割り込み発生ごとにIICSn，IICFnレジスタでステータスを確認して次に行う処理を決定してください。

4. n = 0-2

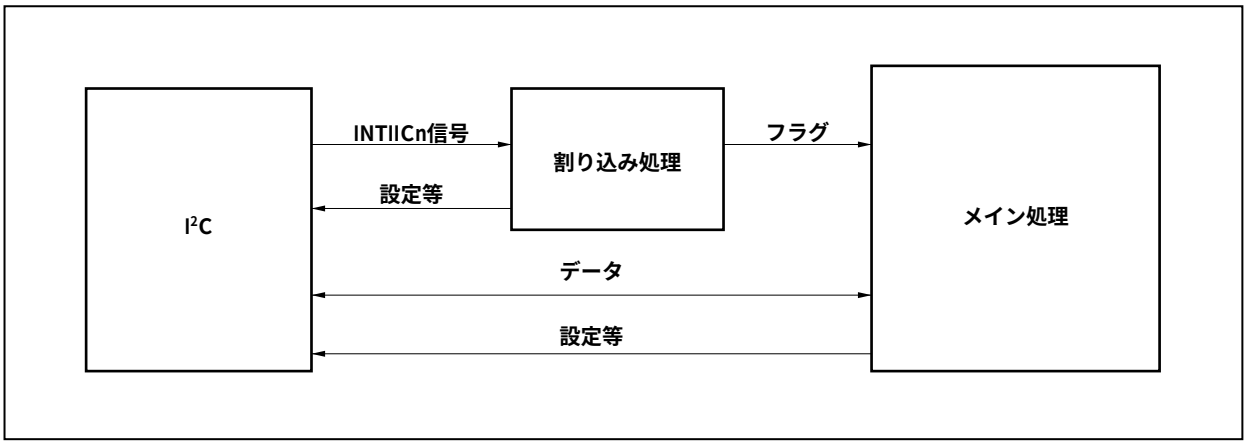
17. 16. 3 スレーブ動作

スレーブ動作の処理手順を次に示します。

基本的にスレーブの場合には，イベント・ドリブンでの動作となります。このためINTIICn割り込みによる処理（通信中のストップ・コンディション検出など，動作状態を大きく変更する必要がある処理）が必要となります。

この説明では，データ通信は拡張コードには対応しないものとします。またINTIICn割り込み処理では状態遷移の処理だけを行い，実際のデータ通信はメイン処理で行うものとします。

図17－20 スレーブ動作時のソフトウエア概要



このため，3つのフラグを準備し，これをINTIICn信号の代わりにメイン処理に渡すことでデータ転送処理を行います。

(1) 通信モード・フラグ

次の2つの通信状態を示します。

クリア・モード ：データ通信を行っていない状態

通信モード ：データの通信を行っている状態（有効アドレス検出～ストップ・コンディション検出，マスタからのアクノリッジ未検出，アドレス不一致）

(2) レディ・フラグ

データ通信が可能になったことを示します。通常のデータ転送ではINTIICn割り込みと同じです。割り込み処理部でセットし，メイン処理部でクリアします。通信の開始時には，割り込み処理部でクリアしておきます。ただし，送信の最初のデータについては，レディ・フラグは割り込み処理部でセットされませんので，クリア処理をしないで最初のデータを送信することになります（アドレス一致自体が次のデータの要求と解釈します）。

(3) 通信方向フラグ

通信の方向を示すフラグで，IICSn.TRCnビットの値と同じです。

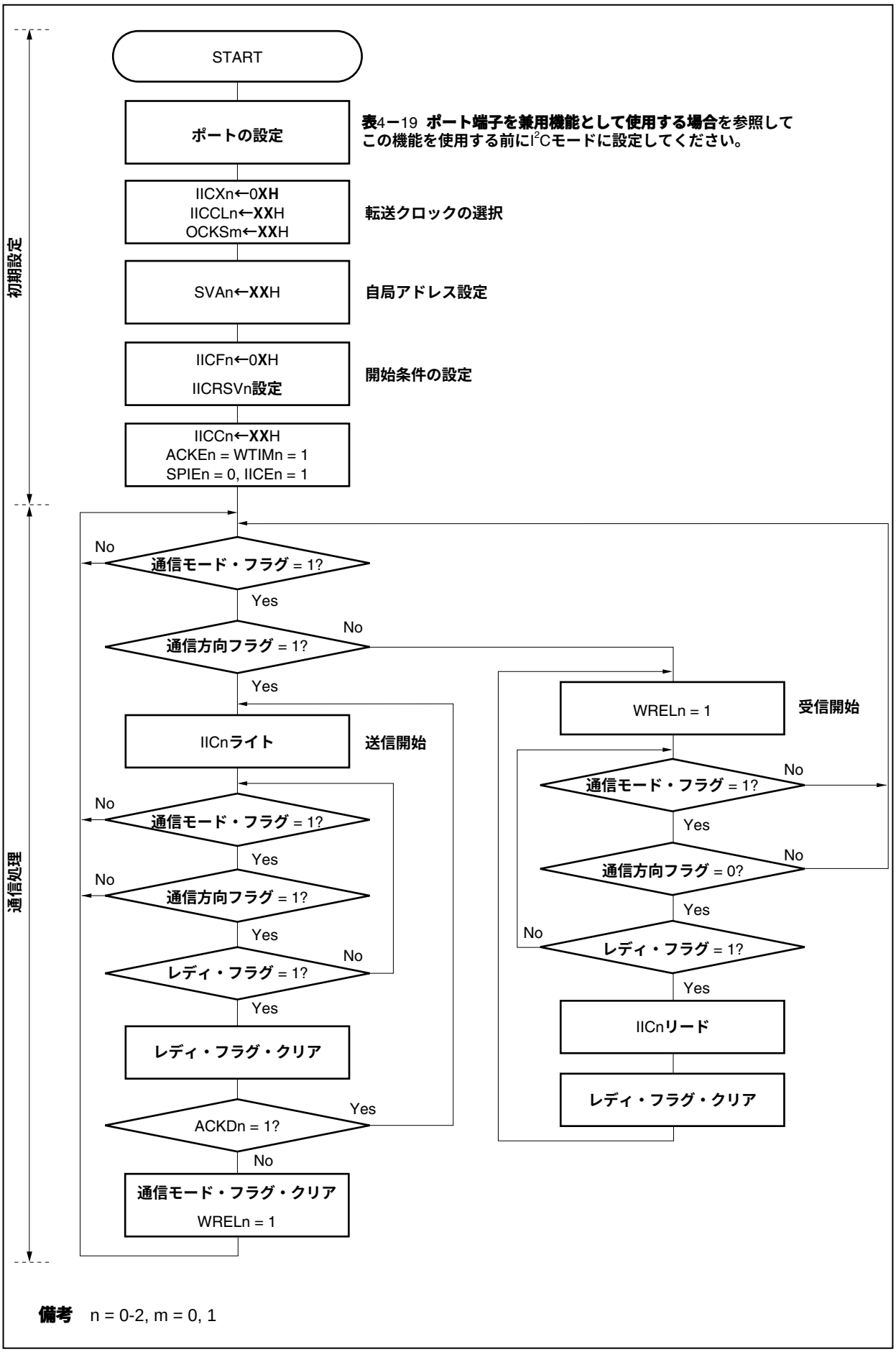
次にスレーブ動作でのメイン処理部の動作を示します。

I²C0nを起動し，通信可能状態になるのを待ちます。通信可能状態になったら，通信モード・フラグとレディ・フラグを使って転送を行います（ストップ・コンディションやスタート・コンディションの処理は割り込みで行いますので，ここではフラグで確認します）。

送信ではマスタからアクノリッジが来なくなるまで送信動作を繰り返します。マスタからアクノリッジが戻らなかったら転送を完了します。

受信では必要な数のデータを受信し，転送完了したら次のデータでアクノリッジを戻さないようにします。その後，マスタはストップ・コンディションまたはリスタート・コンディションを発行します。これにより，通信状態から抜け出します。

図17－21 スレーブ動作手順（1）



備考 n = 0-2, m = 0, 1

スレーブのINTIICn割り込みでの処理手順例を示します（ここでは拡張コードはないものとして処理します）。INTIICn割り込みではステータスを確認して，次のように行います。

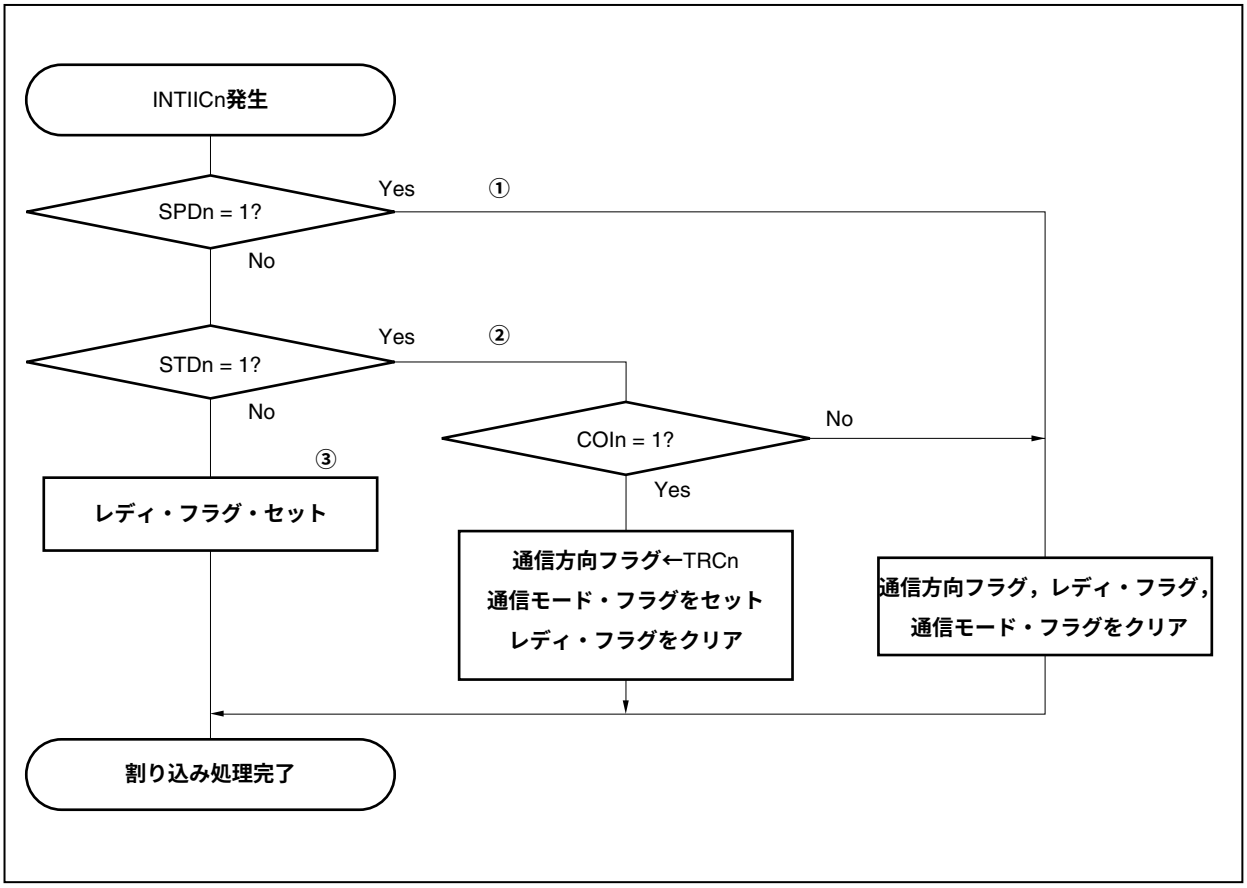
① ストップ・コンディションの場合，通信を終了します。

② スタート・コンディションの場合，アドレスを確認し，一致していなければ通信を終了します。アドレスが一致していれば，モードを通信モードに設定し，ウエイトを解除して，割り込みから戻ります（レディ・フラグはクリアする）。

③ データ送受信の場合，レディ・フラグをセットするだけで，I²C0nバスはウエイト状態のまま，割り込みから戻ります。

備考 上述の①～③は，図17－22 スレーブ動作手順（2）の①～③と対応しています。

図17－22 スレーブ動作手順（2）



17. 17 データ通信のタイミング

I²Cバス・モードでは，マスタがシリアル・バス上にアドレスを出力することで複数のスレーブ・デバイスの中から通信対象となるスレーブ・デバイスを1つ選択します。

マスタは，スレーブ・アドレスの次にデータの転送方向を示すIICSn.TRCnビットを送信し，スレーブとのシリアル通信を開始します。

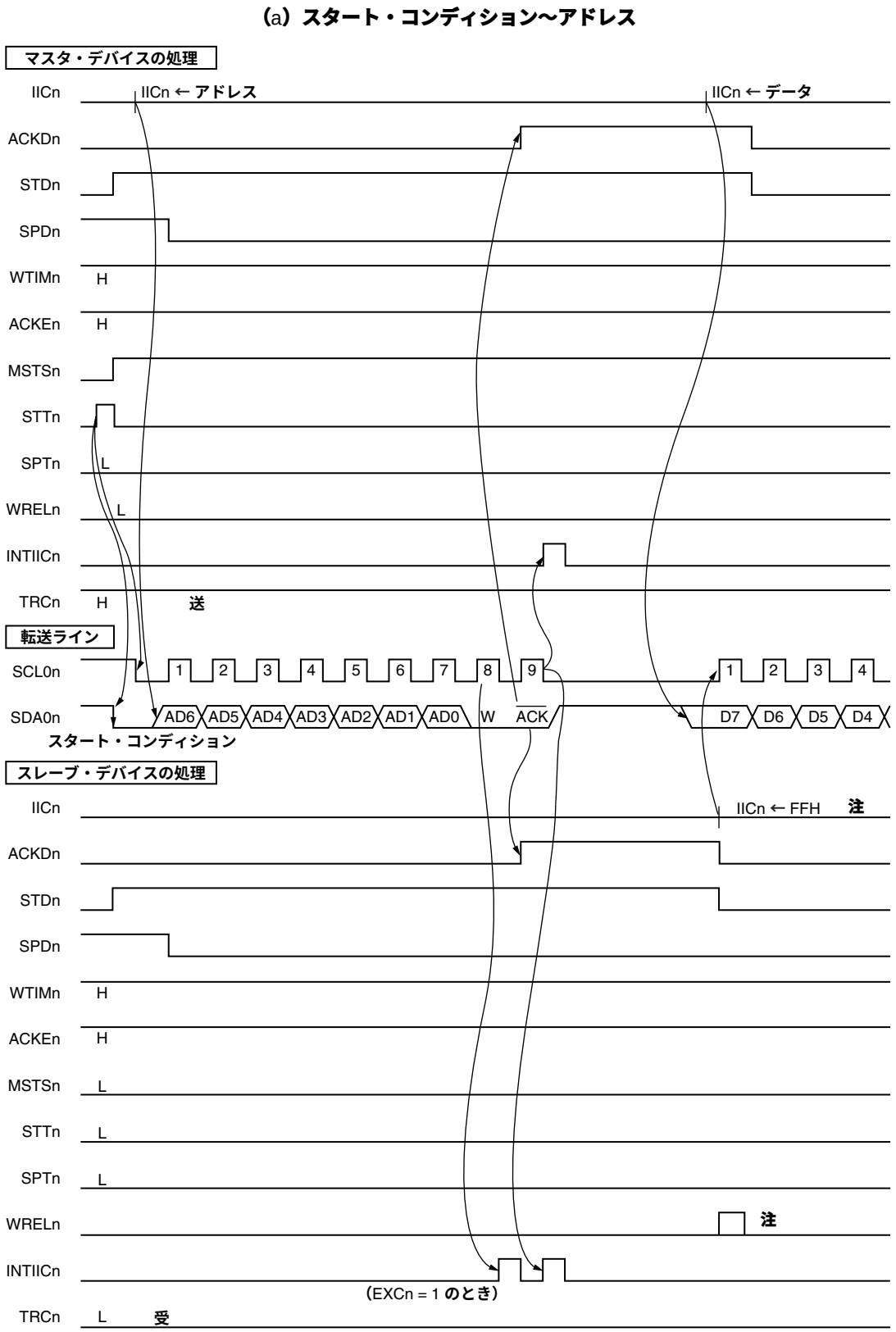
シリアル・クロック端子（SCL0n）の立ち下がりに同期してIICnレジスタのシフト動作が行われ，送信データがSOラッチに転送され，SDA0n端子からMSBファーストで出力されます。

また，SCL0n端子の立ち上がりでSDA0n端子に入力されたデータがIICnレジスタに取り込まれます。

データ通信のタイミングを次に示します。

備考 n = 0-2

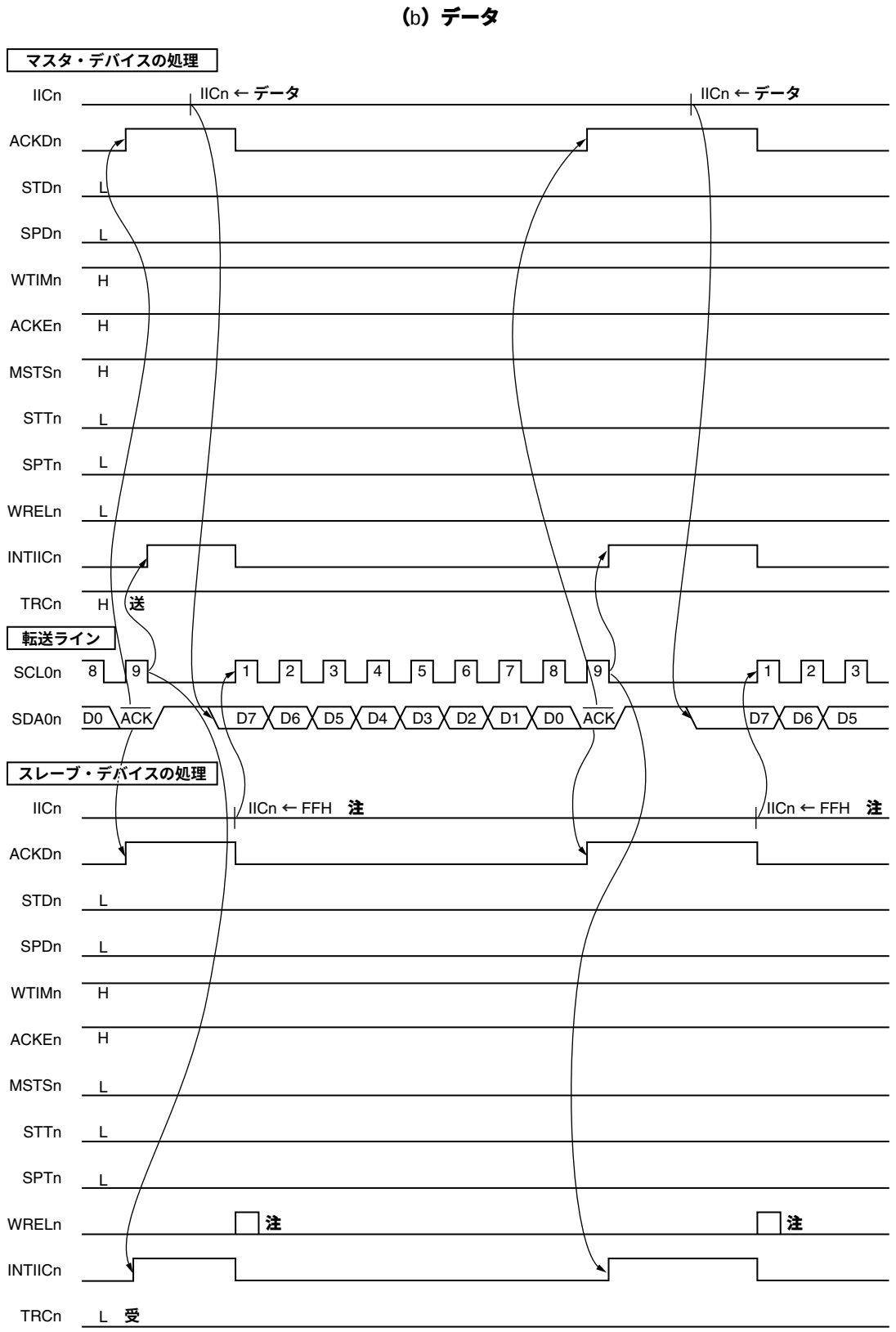
図17－23 マスタ→スレーブ通信例（マスタ，スレーブとも9クロックでウエイト選択時）（1/3）



注 スレーブ・ウエイト解除は，IICn←FFHまたはWRELnのセットのどちらかで行ってください。

備考 n = 0-2

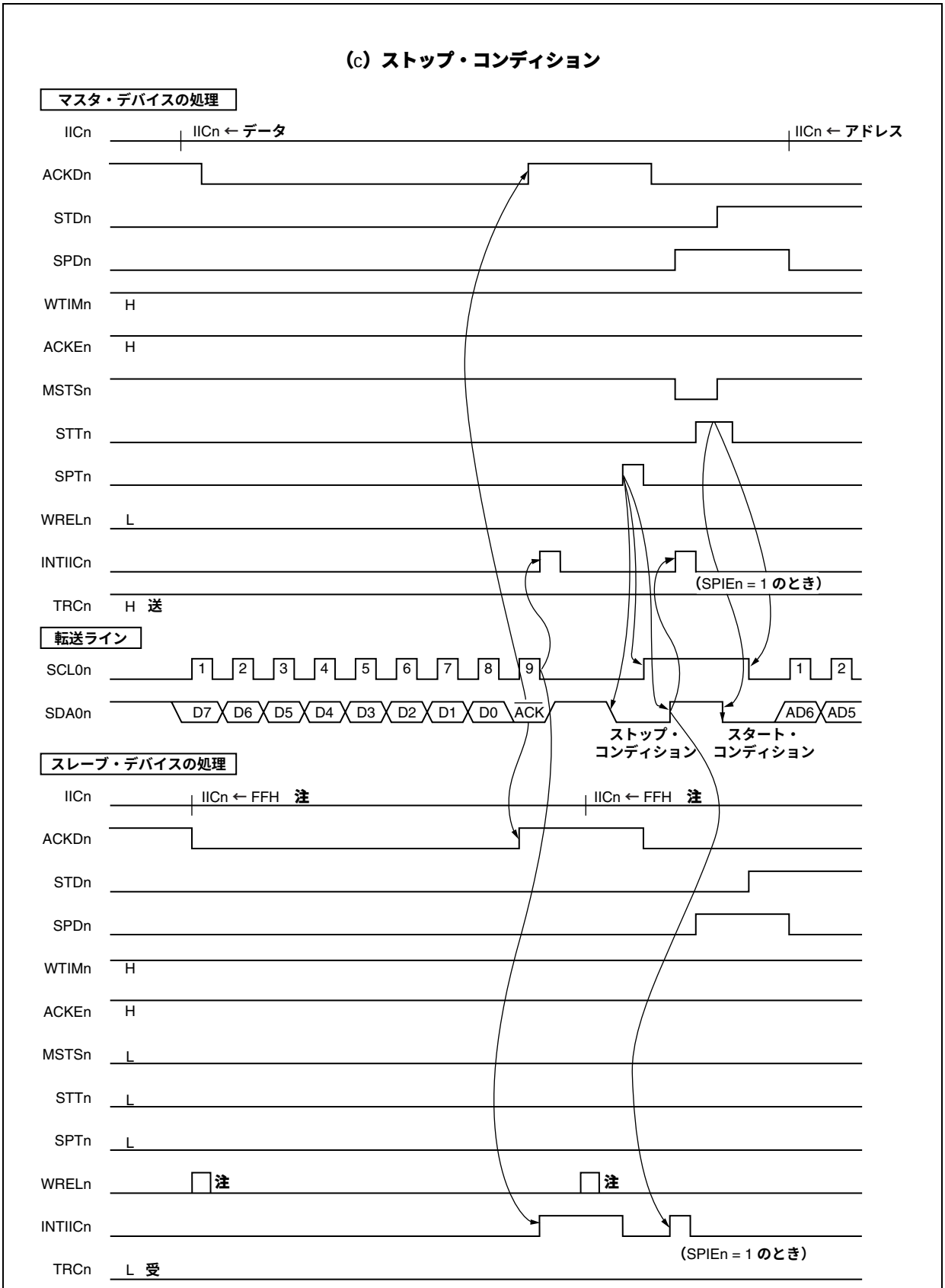
図17－23 マスタ→スレーブ通信例（マスタ，スレーブとも9クロックでウエイト選択時）（2/3）



注 スレーブ・ウエイト解除は，IICn←FFHまたはWRELnのセットのどちらかで行ってください。

備考 n = 0-2

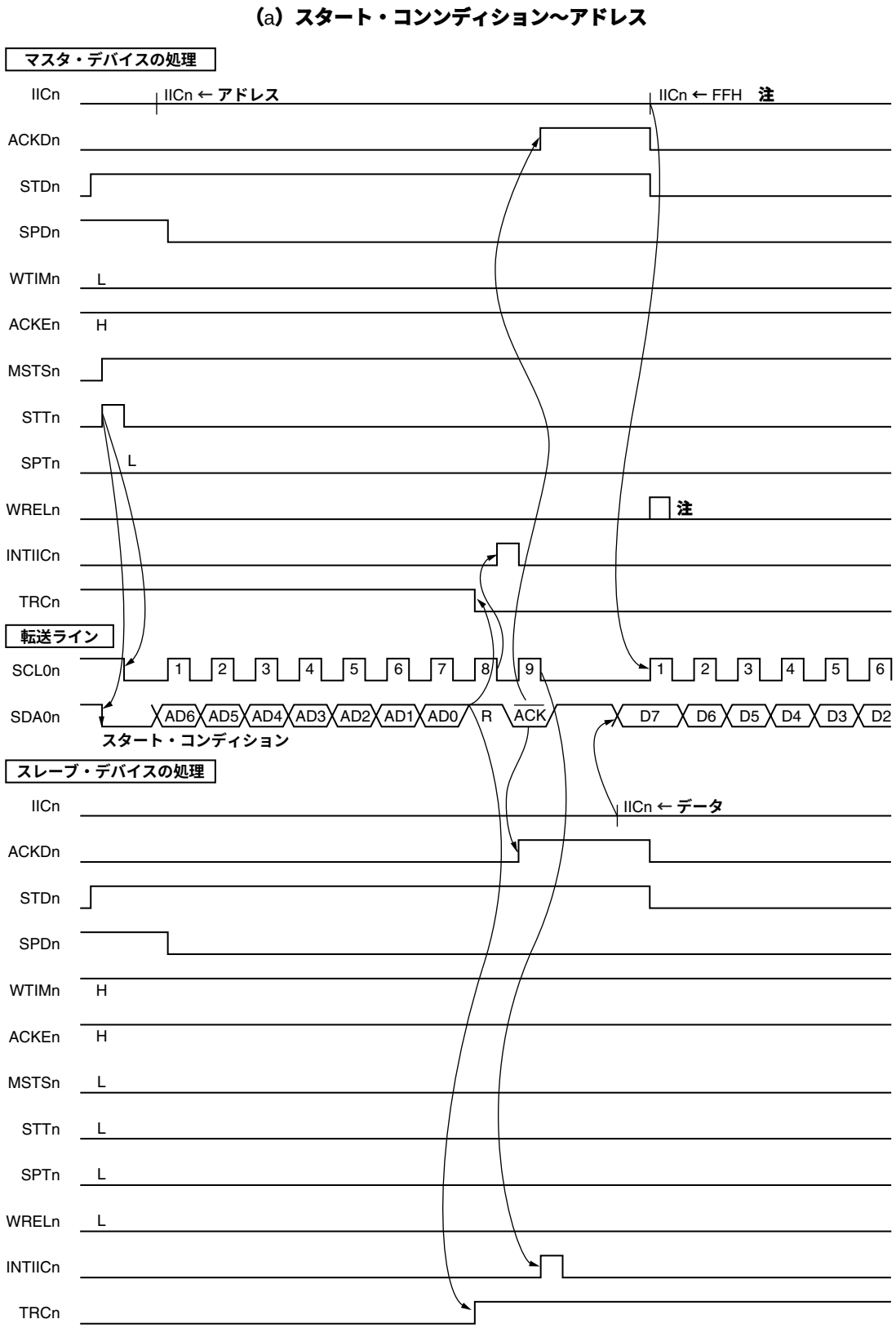
図17－23 マスタ→スレーブ通信例（マスタ，スレーブとも9クロックでウエイト選択時）（3/3）



注 スレーブ・ウエイト解除は，IICn←FFHまたはWRELnのセットのどちらかで行ってください。

備考 n = 0-2

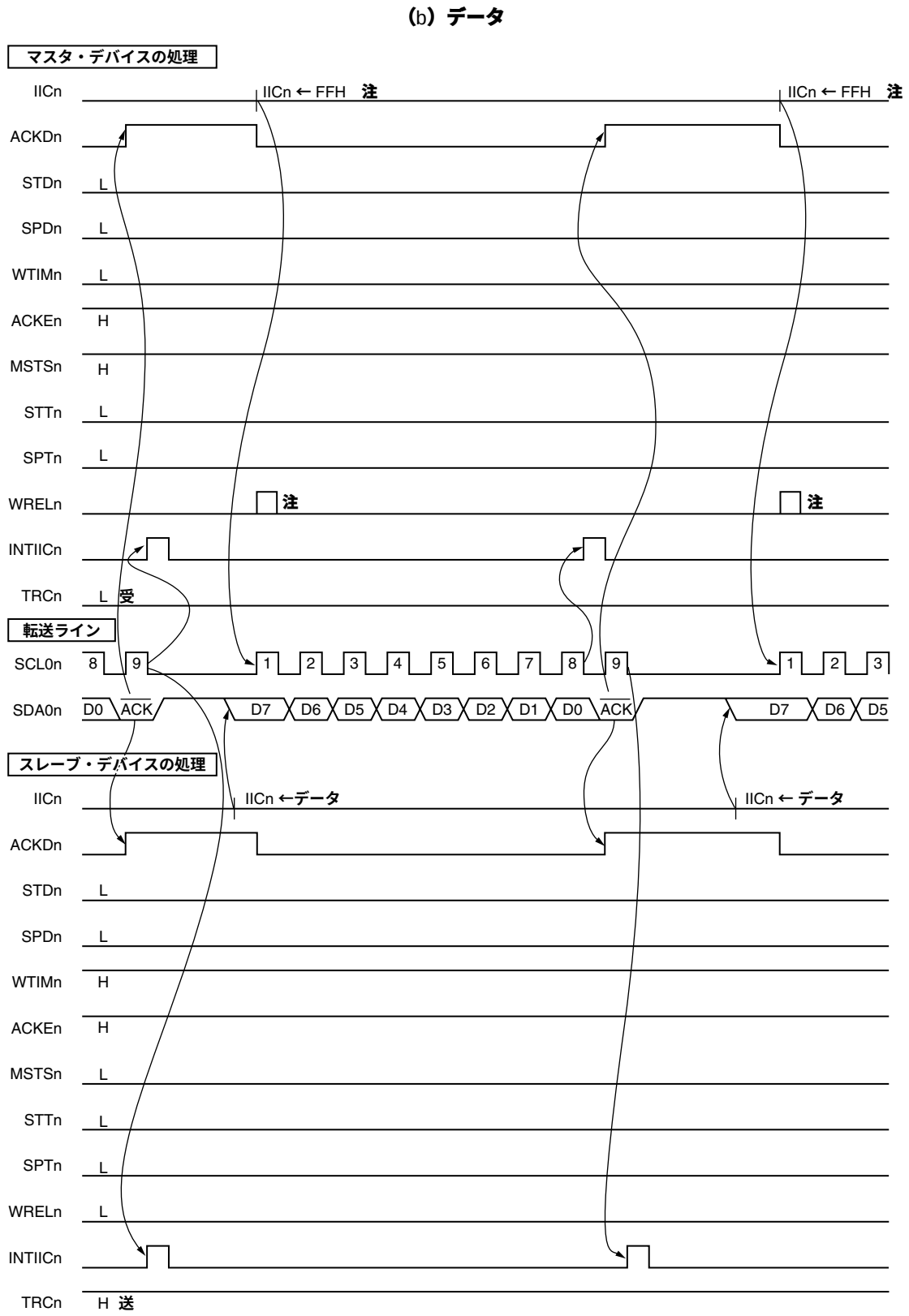
図17－24 スレーブ→マスタ通信例（マスタ：8クロック，スレーブ：9クロックでウエイト選択時）（1/3）



注 マスタ・ウエイト解除は，IICn←FFHまたはWRELnのセットのどちらかで行ってください。

備考 n = 0-2

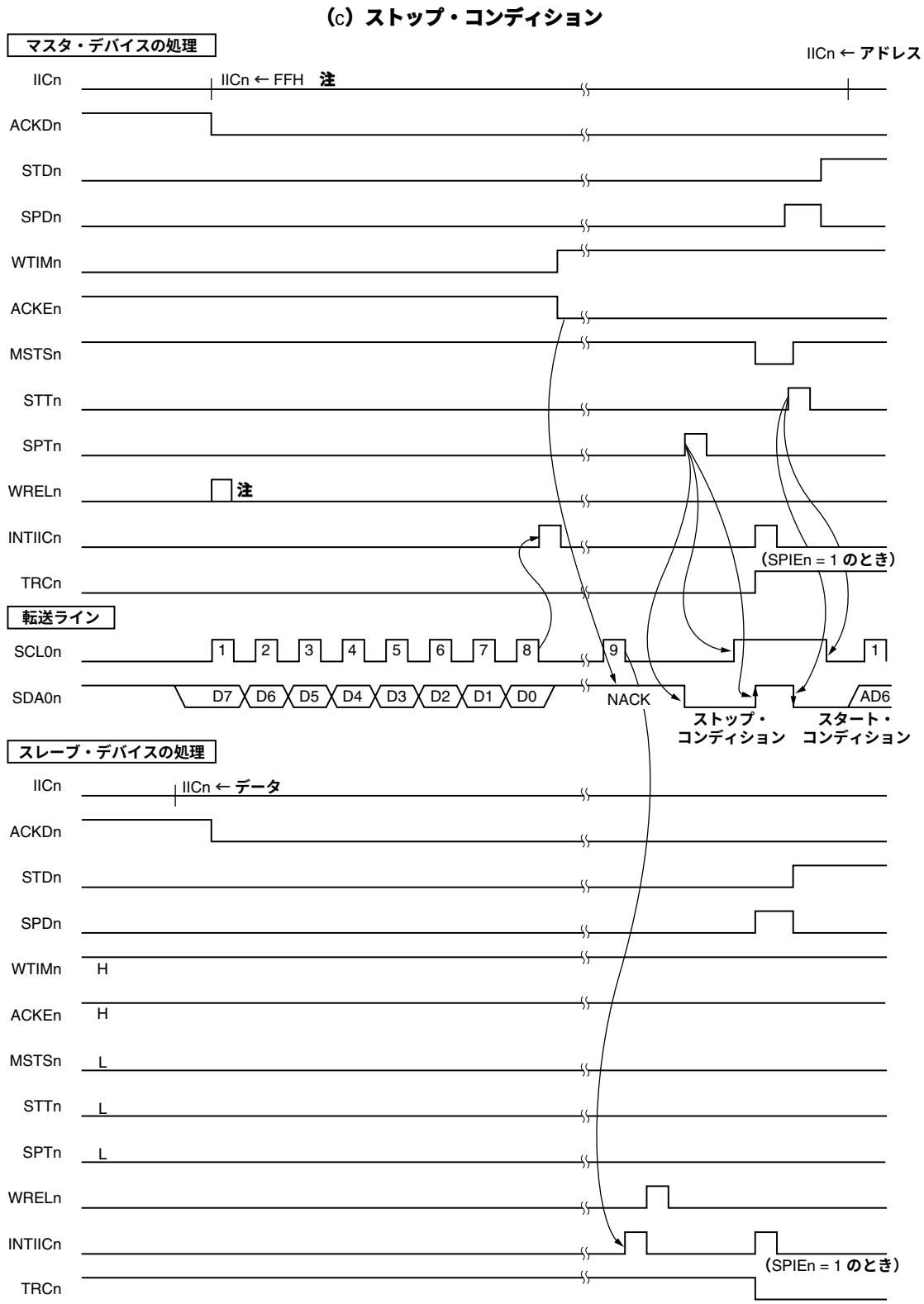
図17－24 スレーブ→マスタ通信例（マスタ：8クロック，スレーブ：9クロックでウエイト選択時）（2/3）



注 マスタ・ウエイト解除は，IICn←FFHまたはWRELnのセットのどちらかで行ってください。

備考 n = 0-2

図17－24 スレーブ→マスタ通信例（マスタ：8→9クロック，スレーブ：9クロックでウエイト選択時）（3/3）



注 マスタ・ウエイト解除は，IICn←FFHまたはWRELnのセットのどちらかで行ってください。

備考 n = 0-2

第18章　DMA機能（DMAコントローラ）

V850ES/JJ3は，DMA転送を実行制御するDMA（Direct Memory Access）コントローラ（DMAC）を備えています。

DMACは，内蔵周辺I/O（シリアル・インタフェース，タイマ／カウンタ，A/Dコンバータ），外部入力端子からの割り込みによる要求，またはソフトウエア・トリガによるDMA要求に基づいて，メモリ⇔I/O間，メモリ⇔メモリ間，I/O⇔I/O間でのデータ転送を制御します（メモリは内蔵RAM，または外部メモリを意味します）。

18. 1　特　　徴

○4つの独立なDMAチャネル

○転送単位：8ビット/16ビット

○最大転送回数：65536（2^{16}）回

○転送タイプ：2サイクル転送

○転送モード：シングル転送モード

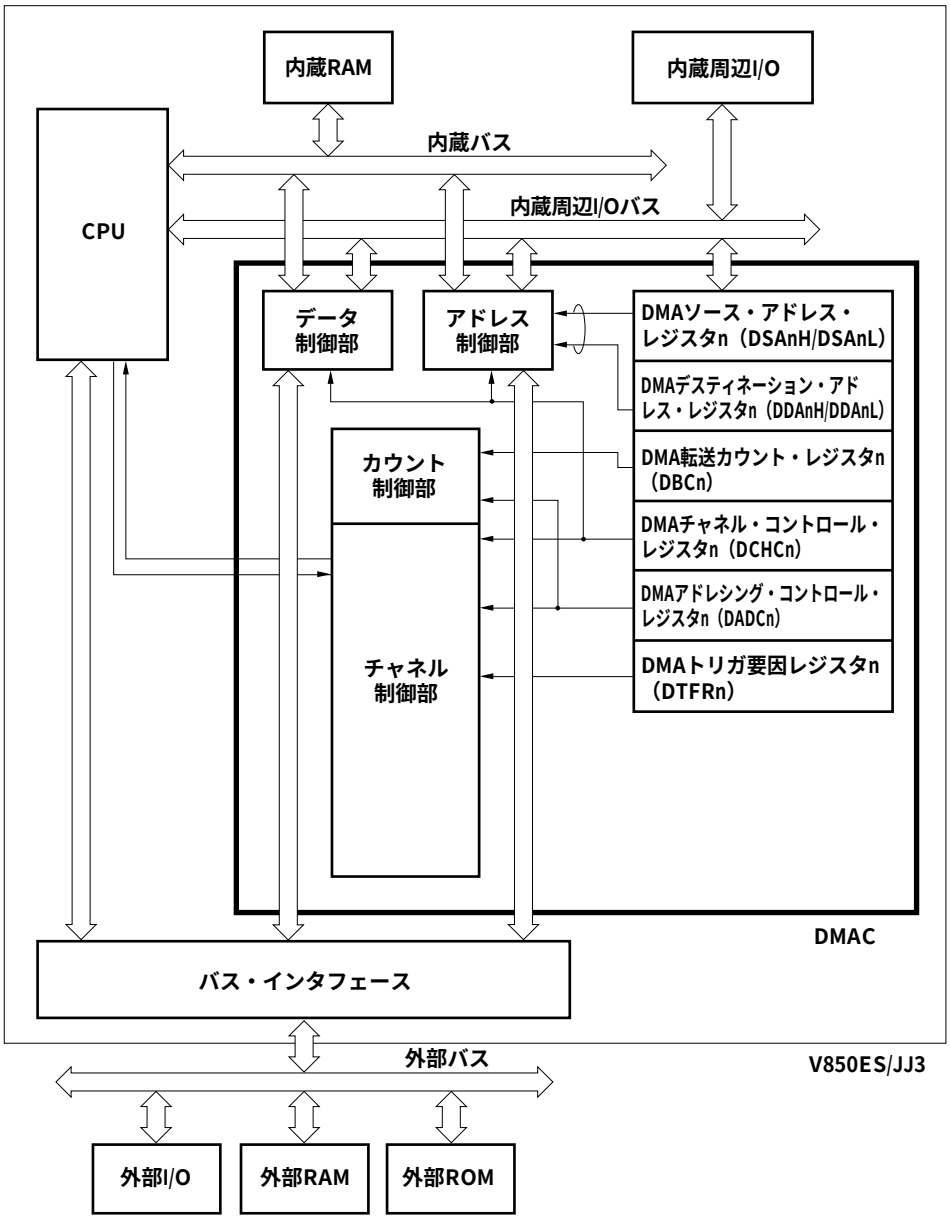
○転送要求

- 内蔵周辺I/O（シリアル・インタフェース，タイマ／カウンタ，A/Dコンバータ），外部入力端子からの割り込みによる要求
- ソフトウエア・トリガによる要求

○転送対象

- 内蔵RAM⇔周辺I/O
- 周辺I/O⇔周辺I/O
- 内蔵RAM⇔外部メモリ
- 外部メモリ⇔周辺I/O
- 外部メモリ⇔外部メモリ

18. 2 構　　成


内蔵RAM
内蔵周辺I/O
内蔵バス
内蔵周辺I/Oバス
CPU
データ
制御部
アドレス
制御部
DMAソース・アドレス・
レジスタn（DSAnH/DSAnL）
DMAデスティネーション・アド
レス・レジスタn（DDAnH/DDAnL）
DMA転送カウント・レジスタn
（DBCn）
DMAチャネル・コントロール・
レジスタn（DCHCn）
DMAアドレシング・コントロール・
レジスタn（DADCn）
DMAトリガ要因レジスタn
（DTFRn）
カウント
制御部
チャネル
制御部
DMAC
バス・インタフェース
外部バス
V850ES/JJ3
外部I/O
外部RAM
外部ROM

備考　n = 0-3

18. 3 レジスタ

（1）DMAソース・アドレス・レジスタ0-3（DSA0-DSA3）

DMAチャネルnのDMA転送元アドレス（26ビット）を設定します（n = 0-3）。

このレジスタは，DSAnH, DSAnLの2つの16ビット・レジスタに分かれます。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセット時：不定　R/W　アドレス：DSA0H FFFFF082H, DSA1H FFFFF08AH,
DSA2H FFFFF092H, DSA3H FFFFF09AH,
DSA0L FFFFF080H, DSA1L FFFFF088H,
DSA2L FFFFF090H, DSA3L FFFFF098H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DSAnH (n = 0-3)	IR	0	0	0	0	0	SA25	SA24	SA23	SA22	SA21	SA20	SA19	SA18	SA17	SA16

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DSAnL (n = 0-3)	SA15	SA14	SA13	SA12	SA11	SA10	SA9	SA8	SA7	SA6	SA5	SA4	SA3	SA2	SA1	SA0

IR	DMA転送元の指定
0	外部メモリ，内蔵周辺I/O
1	内蔵RAM

SA25-SA16	DMA転送元のアドレス（A25-A16）を設定してください（初期値不定）。 DMA転送中は，次のDMA転送元アドレスを保持します。 DMA転送が完了すると，最初に設定されたDMAアドレスが保持されます。

SA15-SA0	DMA転送元のアドレス（A15-A0）を設定してください（初期値不定）。 DMA転送中は，次のDMA転送元アドレスを保持します。 DMA転送が完了すると，最初に設定されたDMAアドレスが保持されます。

注意1. DSAnHレジスタのビット14-10には，必ず“0”を設定してください。

2. DSAnH, DSAnLレジスタの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット = 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。
   - リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
   - DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
   - DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット = 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間

3. DSAnレジスタの値を読み出す際，DSAnHレジスタとDSAnLレジスタの2つの16ビット・レジスタごとに読み出すため，読み出しと更新のタイミングが競合した場合，更新途中の値が読み出されることがあります（18. 13 注意事項参照）。

4. リセット後，DMA転送を開始する前にDSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCnレジスタを設定してください。これらのレジスタを設定しないでDMA転送を開始した場合は，動作を保証しません。

（2）DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0-3（DDA0-DDA3）

DMAチャネルnのDMA転送先アドレス（26ビット）を設定します（n = 0-3）。

このレジスタは，DDAnH, DDAnLの2つの16ビット・レジスタに分かれます。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセット時：不定　R/W　アドレス：DDA0H FFFFF086H, DDA1H FFFFF08EH,
DDA2H FFFFF096H, DDA3H FFFFF09EH,
DDA0L FFFFF084H, DDA1L FFFFF08CH,
DDA2L FFFFF094H, DDA3L FFFFF09CH

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DDAnH (n = 0-3)	IR	0	0	0	0	0	DA25	DA24	DA23	DA22	DA21	DA20	DA19	DA18	DA17	DA16
DDAnL (n = 0-3)	DA15	DA14	DA13	DA12	DA11	DA10	DA9	DA8	DA7	DA6	DA5	DA4	DA3	DA2	DA1	DA0

IR	DMA転送先の指定
0	外部メモリ，内蔵周辺I/O
1	内蔵RAM

DA25-DA16	DMA転送先のアドレス（A25-A16）を設定してください（初期値不定）。 DMA転送中は，次のDMA転送先アドレスを保持します。 DMA転送が終了すると，最初に設定されたDMA転送元アドレスを保持します。

DA15-DA0	DMA転送先のアドレス（A15-A0）を設定してください（初期値不定）。 DMA転送中は，次のDMA転送先アドレスを保持します。 DMA転送が終了すると，最初に設定されたDMA転送元アドレスを保持します。

注意1. DDAnHレジスタのビット14-10には，必ず“0”を設定してください。

2. DDAnH, DDAnLレジスタの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット = 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。
   - リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
   - DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
   - DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット = 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間

3. DDAnレジスタの値を読み出す際，DDAnHレジスタとDDAnLレジスタの2つの16ビット・レジスタごとに読み出すため，読み出しと更新のタイミングが競合した場合，更新途中の値が読み出されることがあります（18. 13　注意事項参照）。

4. リセット後，DMA転送を開始する前にDSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCnレジスタを設定してください。これらのレジスタを設定しないでDMA転送を開始した場合は，動作を保証しません。

（3）DMA転送カウント・レジスタ0-3（DBC0-DBC3）

DMAチャネルnの転送数を設定する16ビット・レジスタです（n = 0-3）。

DMA転送中は，残りの転送数を保持します。

転送データ単位（8/16ビット）にかかわらず，1回の転送につき1ずつデクリメントされ，ボローが発生すると転送を終了します。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセット時：不定　R/W　アドレス：DBC0 FFFFF0C0H, DBC1 FFFFF0C2H,
DBC2 FFFFF0C4H, DBC3 FFFFF0C6H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DBCn (n = 0-3)	BC15	BC14	BC13	BC12	BC11	BC10	BC9	BC8	BC7	BC6	BC5	BC4	BC3	BC2	BC1	BC0

BC15-BC0	転送数の設定，またはDMA転送中の残りの転送数
0000H	1回の転送，または残り転送数
0001H	2回の転送，または残り転送数
:	:
FFFFH	65536（2^{16}）回の転送，または残り転送数
DMA転送が完了すると，最初に設定された転送データ数を保持します。	

注意1. DBCnレジスタの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット = 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。

- リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
- DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
- DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット = 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間

2. リセット後，DMA転送を開始する前にDSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCnレジスタを設定してください。これらのレジスタを設定しないでDMA転送を開始した場合は，動作を保証しません。

（4）DMAアドレシング・コントロール・レジスタ0-3（DADC0-DADC3）

DMAチャネルnのDMA転送モードを制御する16ビット・レジスタです（n = 0-3）。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

リセット時：0000H　R/W　アドレス：DADC0 FFFFF0D0H, DADC1 FFFFF0D2H, DADC2 FFFFF0D4H, DADC3 FFFFF0D6H

DADCn（n = 0-3）

15	14	13	12	11	10	9	8
0	DS0	0	0	0	0	0	0

7	6	5	4	3	2	1	0
SAD1	SAD0	DAD1	DAD0	0	0	0	0

DS0	転送データ・サイズの設定
0	8ビット
1	16ビット

SAD1	SAD0	転送元アドレスのカウント方向の設定
0	0	インクリメント
0	1	デクリメント
1	0	固定
1	1	設定禁止

DAD1	DAD0	転送先アドレスのカウント方向の設定
0	0	インクリメント
0	1	デクリメント
1	0	固定
1	1	設定禁止

注意1. DADCnレジスタのビット15, 13-8, 3-0には，必ず“0”を設定してください。

2. DADCnレジスタの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット = 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。
   - リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
   - DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
   - DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット = 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間

3. DS0ビットは転送データ・サイズを設定するものであり，バス・サイジングを制御するものではありません。したがって，8ビット・データ（DS0ビット = 0）を設定した場合でも，必ずしも下位データ・バスを使用するわけではありません。

4. 転送データ・サイズを16ビットに設定した場合（DS0ビット = 1），奇数アドレスから始まる転送はできません。下位アドレスの1ビットを“0”にアラインしたアドレスから必ず転送を開始します。

5. 内蔵周辺I/Oレジスタを対象（転送元／転送先）とするDMA転送の場合，必ずレジスタ・サイズと同じ転送サイズを指定してください。たとえば，8ビットのレジスタに対するDMA転送の場合は，必ず（8ビット）転送を指定してください。

（5）DMAチャネル・コントロール・レジスタ0-3（DCHC0-DCHC3）

DMAチャネルnのDMA転送動作モードを指定する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です（ただし，ビット7はリードだけ，ビット1, 2はライトだけ可能です。ビット1, 2をリードした場合は0が読み出されます。）。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：DCHC0 FFFFF0E0H, DCHC1 FFFFF0E2H, DCHC2 FFFFF0E4H, DCHC3 FFFFF0E6H

	⑦	6	5	4	3	②	①	⓪
DCHCn	TCn注1	0	0	0	0	INITn注2	STGn注2	Enn

（n = 0-3）

TCn注1	DMAチャネルnのDMA転送の完了／未完了を示すステータス・フラグ
0	DMA転送未完了
1	DMA転送完了
DMA転送の最後の転送時にセット（1）され，読み出しによってクリア（0）されます。	

INITn注2	DMA転送が禁止された状態で（Ennビット = 0），INITnビットをセット（1）するとDMA転送のステータスを初期化できます。 DMA転送が完了する前に（TCnビットがセット（1）される前），DMA転送ステータスの再設定（DDAnH, DDAnL, DSAnH, DSAnL, DBCn, DADCnレジスタの再設定）を行う場合は，必ずDMAチャネルの初期化後に行ってください。 ただし，DMAコントローラの初期化は，必ず18. 13　注意事項に示す手順にしたがって行ってください。

STGn注2	DMA転送のソフトウエア起動トリガです。 DMA転送が許可の状態（TCnビット = 0, Ennビット = 1）でこのビットをセット（1）するとDMA転送を開始します。

Enn	DMAチャネルnのDMA転送の許可／禁止の設定
0	DMA転送の禁止
1	DMA転送の許可
Ennビットをセット（1）するとDMA転送が許可されます。 DMA転送が完了（ターミナル・カウント発生）すると，自動的にクリア（0）されます。 なお，DMA転送を中断するには，ソフトウエアでEnnビットをクリア（0）してください。再開するには，再度Ennビットをセット（1）してください。 ただし，DMA転送の中断／再開は，必ず18. 13　注意事項に示す手順にしたがって行ってください。	

注1.　TCnビットはリードのみ可能です。

2.　INITn, STGnビットはライトのみ可能です。

注意1.　DCHCnレジスタのビット6-3には，必ず“0”を設定してください。

2.　DMA転送完了時（ターミナル・カウント時）は，Ennビットのクリア（0）→TCnビットのセット（1）の順で各ビットの更新が行われます。そのため，DCHCnレジスタの各ビットの更新途中にDCHCnレジスタを読み出した場合，「転送未完了，かつ転送禁止」の状態を示す値（TCnビット = 0，かつEnnビット = 0）が読み出されることがあります。

（6）DMA トリガ要因レジスタ0-3（DTFR0-DTFR3）

内蔵周辺I/Oからの割り込み要求信号によるDMA転送開始トリガを制御する8ビット・レジスタです。

このレジスタで設定した割り込み要求信号が，DMA転送の起動要因になります。

8ビット単位でリード／ライト可能です。ただし，DFnビットのみ1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：DTFR0 FFFFF810H, DTFR1 FFFFF812H,
DTFR2 FFFFF814H, DTFR3 FFFFF816H

	⑦	6	5	4	3	2	1	0
DTFRn	DFn	0	IFCn5	IFCn4	IFCn3	IFCn2	IFCn1	IFCn0

（n = 0-3）

DFn注	DMA転送要求ステータス・フラグ
0	DMA転送要求なし
1	DMA転送要求あり

注　DFnビットはソフトウエアにより“1”を設定しないでください。DMA転送を禁止している間にDMA転送の起動要因に設定している割り込みが発生し，DMA転送要求をクリアする必要がある場合に0をライトしてください。

注意1.　IFCn5-IFCn0ビットの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット = 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。

- リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
- DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
- DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット = 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間

2.　スタンバイ・モード（IDLE1, IDLE2, STOP, サブIDLEモード）中に発生した割り込み要求は，DMA転送サイクルの起動要因にはなりません（DFnビットもセット（1）されません）。

3.　IFCn5-IFCn0ビットで任意のDMA起動要因を選択したあとは，DMA転送の許可／禁止にかかわらず，選択した内蔵周辺I/Oからの割り込みが発生するとDFnビットはセット（1）されます。この状態でDMA許可とした場合，ただちにDMA転送が起動されます。

備考　IFCn5-IFCn0ビットについては表18ー1　DMA起動要因を参照してください。

表18ー1 DMA起動要因（1/2）

IFCn5	IFCn4	IFCn3	IFCn2	IFCn1	IFCn0	割り込み要因
0	0	0	0	0	0	**割り込みによるDMA要求禁止**
0	0	0	0	0	1	INTP0
0	0	0	0	1	0	INTP1
0	0	0	0	1	1	INTP2
0	0	0	1	0	0	INTP3
0	0	0	1	0	1	INTP4
0	0	0	1	1	0	INTP5
0	0	0	1	1	1	INTP6
0	0	1	0	0	0	INTP7
0	0	1	0	0	1	INTTQ0OV
0	0	1	0	1	0	INTTQ0CC0
0	0	1	0	1	1	INTTQ0CC1
0	0	1	1	0	0	INTTQ0CC2
0	0	1	1	0	1	INTTQ0CC3
0	0	1	1	1	0	INTTP0OV
0	0	1	1	1	1	INTTP0CC0
0	1	0	0	0	0	INTTP0CC1
0	1	0	0	0	1	INTTP1OV
0	1	0	0	1	0	INTTP1CC0
0	1	0	0	1	1	INTTP1CC1
0	1	0	1	0	0	INTTP2OV
0	1	0	1	0	1	INTTP2CC0
0	1	0	1	1	0	INTTP2CC1
0	1	0	1	1	1	INTTP3CC0
0	1	1	0	0	0	INTTP3CC1
0	1	1	0	0	1	INTTP4CC0
0	1	1	0	1	0	INTTP4CC1
0	1	1	0	1	1	INTTP5CC0
0	1	1	1	0	0	INTTP5CC1
0	1	1	1	0	1	INTTM0EQ0
0	1	1	1	1	0	INTCB0R/INTIIC1
0	1	1	1	1	1	INTCB0T
1	0	0	0	0	0	INTCB1R
1	0	0	0	0	1	INTCB1T
1	0	0	0	1	0	INTCB2R
1	0	0	0	1	1	INTCB2T
1	0	0	1	0	0	INTCB3R
1	0	0	1	0	1	INTCB3T
1	0	0	1	1	0	INTUA0R/INTCB4R
1	0	0	1	1	1	INTUA0T/INTCB4T
1	0	1	0	0	0	INTUA1R/INTIIC2
1	0	1	0	0	1	INTUA1T
1	0	1	0	1	0	INTUA2R/INTIIC0

備考 n = 0-3

表18ー1 DMA**起動要因**（2/2）

IFCn5	IFCn4	IFCn3	IFCn2	IFCn1	IFCn0	**割り込み要因**
1	0	1	0	1	1	INTUA2T
1	0	1	1	0	0	INTAD
1	0	1	1	0	1	INTKR
1	1	0	0	0	1	INTP8
1	1	0	0	1	0	INTTP6CC0
1	1	0	0	1	1	INTTP6CC1
1	1	0	1	0	0	INTTP7CC0
1	1	0	1	0	1	INTTP7CC1
1	1	0	1	1	0	INTTP8CC0
1	1	0	1	1	1	INTTP8CC1
1	1	1	0	0	0	INTCB5R
1	1	1	0	0	1	INTCB5T
1	1	1	0	1	0	INTUA3R
1	1	1	0	1	1	INTUA3T
上記以外						**設定禁止**

備考 n = 0-3

18. 4　転送対象

転送対象の関係を次に示します（○：転送可，×：転送不可）。

表18－2　転送対象の関係

		転送先			
		内蔵ROM	内蔵周辺I/O	内蔵RAM	外部メモリ
転送元	内蔵周辺I/O	×	○	○	○
	内蔵RAM	×	○	×	○
	外部メモリ	×	○	○	○
	内蔵ROM	×	×	×	×

注意　表18－2に示す転送先と転送元で，「×」が表記されている組み合わせで転送を行った場合の動作は保証できません。

18. 5　転送モード

転送モードとして，シングル転送をサポートしています。

シングル転送では，1回のバイト／ハーフワード転送ごとにバスを解放します。その後，DMA転送要求があると再度1回の転送を行います。この動作をターミナル・カウントが発生するまで続けます。

DMACがバスを解放している間にほかの優先順位が高いDMA転送要求が発生した場合，常に優先順位が高いDMA要求を優先させます。

ただし，転送サイクル中に同一チャネルの新たな転送要求と，他の優先順位が低いチャネルの転送要求が発生した場合，CPUにバスを解放した次の転送は，新たに要求のあった優先順位の低いチャネルのDMA転送となります（転送サイクル中は，同一チャネルの新たな転送要求は無視されます）。

18. 6　転送タイプ

転送タイプとして，2サイクル転送をサポートしています。

2サイクル転送は，リード・サイクル，ライト・サイクルと2回のサイクルでデータを転送します。

リード・サイクルでは，転送元のアドレスを出力し転送元からDMACへのリードを行い，ライト・サイクルでは，転送先のアドレスを出力しDMACから転送先への書き込みを行います。

リード・サイクルとライト・サイクルの間には，必ず1クロック分のアイドル・サイクルが挿入されます。

2サイクルのDMA転送で，転送元と転送先のデータ・バス幅が異なる場合，次のような動作になります。

＜16ビット・データ転送の場合＞

① 32ビット・バス→16ビット・バスへの転送
リード・サイクル（上位16ビットはハイ･インピーダンス）が発生し，そのあとライト・サイクル（16ビット）が発生します。

② 16/32ビット・バス→8ビット・バスへの転送の場合
16ビットのリード・サイクルが1回発生し，その後8ビットのライト・サイクルが2回発生します。

③ 8ビット・バス→16/32ビット・バスへの転送の場合
8ビットのリード・サイクルが2回発生し，その後16ビットのライト・サイクルが1回発生します。

④ 16ビット・バス⇔32ビット・バスへの転送の場合
16ビットのリード・サイクルが1回発生し，その後16ビットのライト・サイクルが1回発生します。

なお，内蔵周辺I/Oレジスタを対象（転送元／転送先）とするDMA転送の場合，必ずレジスタ・サイズと同じ転送サイズを指定してください。たとえば，8ビットのレジスタに対するDMA転送の場合は，必ずバイト（8ビット）転送を指定してください。

備考　各転送対象（転送元／転送先）のバス幅は次のとおりです。

- 内蔵周辺I/O　：16ビット・バス幅
- 内蔵RAM　：32ビット・バス幅
- 外部メモリ　：8もしくは16ビット・バス幅

18. 7　DMAチャネルの優先順位

DMAチャネルの優先順位は固定で，次のようになります。

DMAチャネル0＞DMAチャネル1＞DMAチャネル2＞DMAチャネル3

1回の転送サイクルの度に優先順位がチェックされます。

18. 8　DMA転送に関する各種時間

DMA要求に対する応答時間，DMA転送にかかる最小クロック数を次に示します。

シングル転送：DMA応答時間（①）＋転送元メモリ・アクセス（②）＋1[注1]＋転送先メモリ・アクセス（②）

DMAサイクル		最小実行クロック数
①DMA要求に対する応答時間		4クロック（MIN.）＋ノイズ除去時間[注2]
②メモリ・アクセス	外部メモリ・アクセス	接続するメモリで異なります
	内蔵RAMアクセス	2クロック[注3]
	周辺I/Oレジスタ・アクセス	3クロック＋VSWCレジスタによるウエイト数[注4]

注1. DMA転送のリード・サイクルとライト・サイクルの間には，必ず1クロック挿入されます。

2. 外部割り込み（INTPn）をDMA転送の起動要因に指定した場合，ノイズ除去時間が加算されます（n = 0-8）。

3. DMAサイクルの場合は，2クロックかかります。

4. 特定の周辺I/Oレジスタへのアクセスについては，さらにウエイトが必要となります（詳細は3. 4. 8（2）を参照してください）。

18. 9 DMA転送起動要因

DMA転送の起動要因には，次の2種類があります。

(1) ソフトウエアによる要求

DCHCn.TCnビット = 0，かつEnnビット = 1（DMA転送許可）の状態で，STGnビットをセット（1）すると，DMA転送を起動します。

続けて次のDMA転送サイクルを要求するには，DBCnレジスタにて，先のDMA転送サイクルが完了したことを確認してから，再度STGnビットをセット（1）してください（n = 0-3）。

TCnビット = 0，Ennビット = 1
↓
STGnビット = 1 … 1回目のDMA転送開始
↓
DBCnレジスタの内容が更新されたことを確認
STGnビット = 1 … 2回目のDMA転送開始
↓
：
↓
ターミナル・カウント発生…Ennビット = 0, TCnビット = 1かつINTDMAn信号発生

(2) 内蔵周辺I/Oによる要求

DCHCn.TCnビット = 0，かつEnnビット = 1（DMA転送許可）の状態で，DTFRnレジスタに設定している内蔵周辺I/Oからの割り込み要求が発生すると，DMA転送を起動します。

注意1. 同一のDMAチャネルに対して，2つの起動要因（ソフトウエア・トリガ，ハードウエア・トリガ）を併用できません。1つのDMAチャネルに対して，２つの起動要因が同時に発生した場合，どちらか一方だけが有効となります。有効となった起動要因の特定はできません。

2. 先のDMA転送要求が発生してから，または先のDMA転送サイクル中に新たな転送要求が発生しても，その要求は無視（クリア）されます。

3. 同一のDMAチャネルに対する転送要求間隔は，DMA転送サイクル中のバス・ウエイトの設定やほかのチャネルの起動状況，または外部バス・ホールド要求により変化します。特に注意2のとおり，DMA転送サイクル前，または転送サイクル中に同一チャネルの新たな転送要求が発生しても，その要求は無視されてしまいます。したがって，同一のDMAチャネルに対する転送要求間隔は，システム上で十分な間隔をもつようにしてください。ソフトウエア・トリガ時は，DBCnレジスタの更新により，先に発生したDMA転送サイクルの完了を確認できます。

18. 10　DMAの中断要因

DMA転送は，バス・ホールドが発生すると中断されます。

内部メモリ／内蔵周辺IO⇔内部メモリ／内蔵周辺I/O時も同様です。

バス・ホールドが解除されると，引き続きDMA転送を開始します。

18. 11　DMA転送の終了

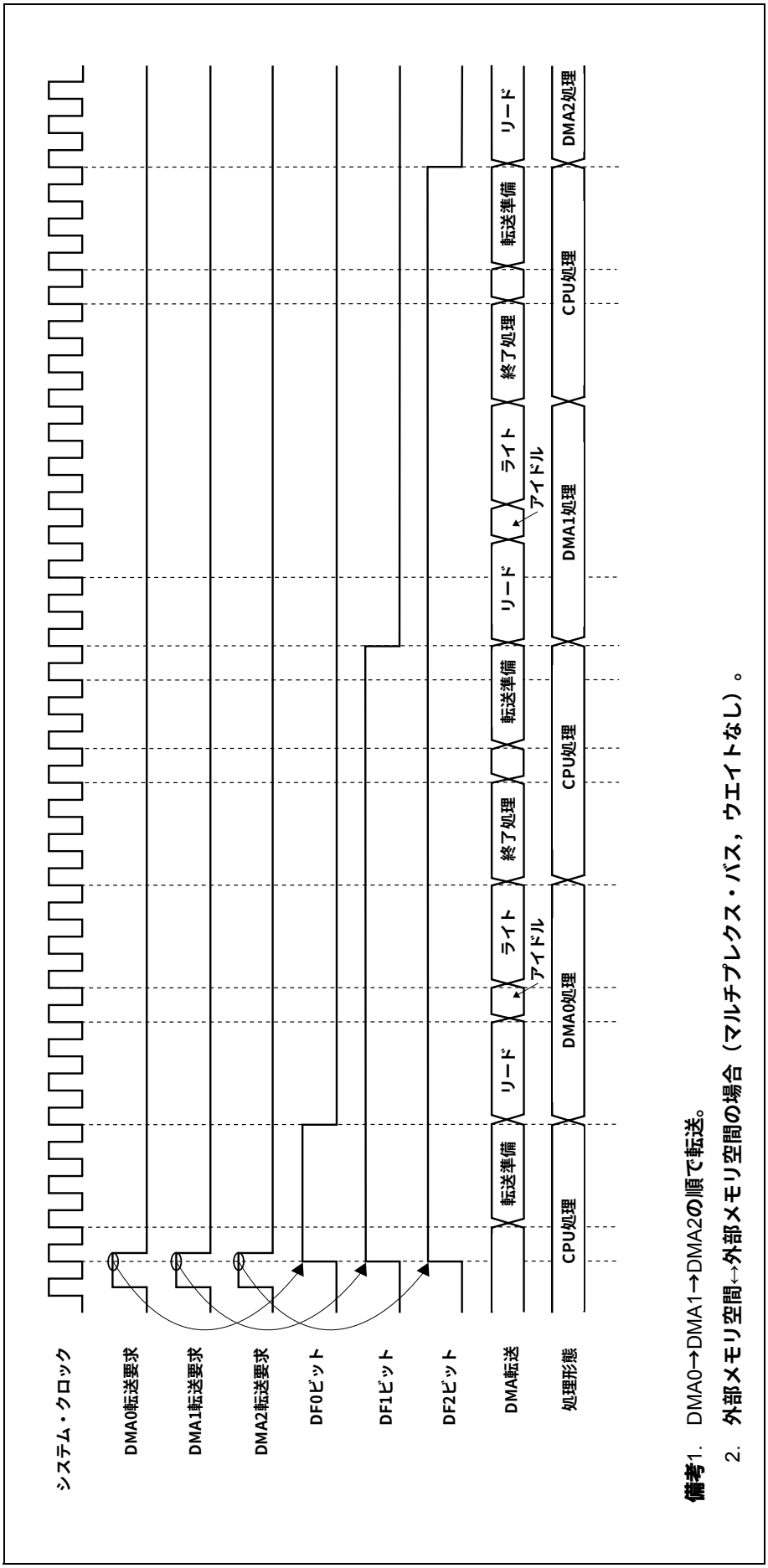
DBCnレジスタに設定した回数分DMA転送が終了し，DCHCn.Ennビットがクリア（0），TCnビットがセット（1）されると，割り込みコントローラ（INTC）に対して，DMA転送終了割り込み要求信号（INTDMAn）を発生します（n = 0-3）。

V850ES/JJ3では，ターミナル・カウント信号を外部に出力していませんので，DMA転送終了割り込み，またはTCnビットのポーリングによりDMA転送の完了を確認してください。

18. 12　動作タイミング

図18－1から図18－4にDMAの動作タイミングを示します。

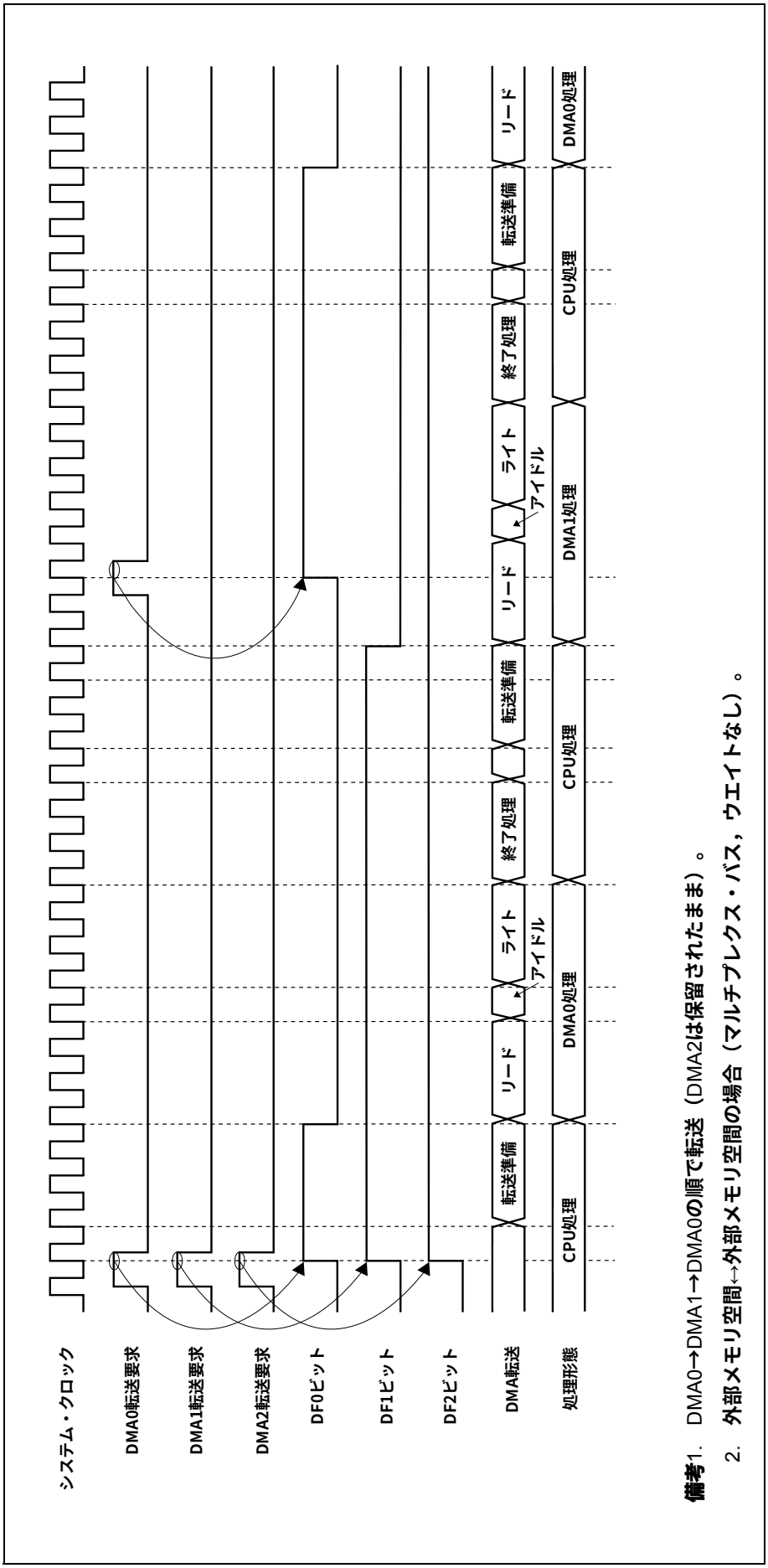
図18－1 DMA**の優先順位**（1）



備考1. DMA0→DMA1→DMA2**の順で転送。**

2. **外部メモリ空間↔外部メモリ空間の場合（マルチプレクス・バス，ウエイトなし）。**

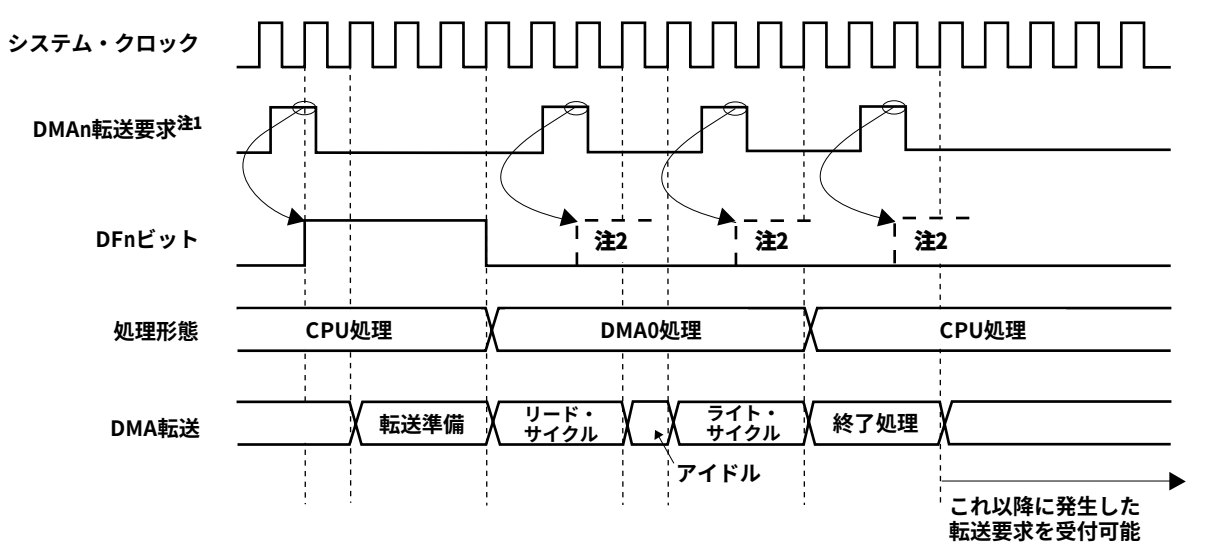
図18－2 DMA**の優先順位**（2）



備考1. DMA0→DMA1→DMA0**の順で転送**（DMA2**は保留されたまま**）。

2. **外部メモリ空間↔外部メモリ空間の場合（マルチプレクス・バス，ウエイトなし）**。

図18ー3　DMA**の転送要求が無視される期間（**1**）**

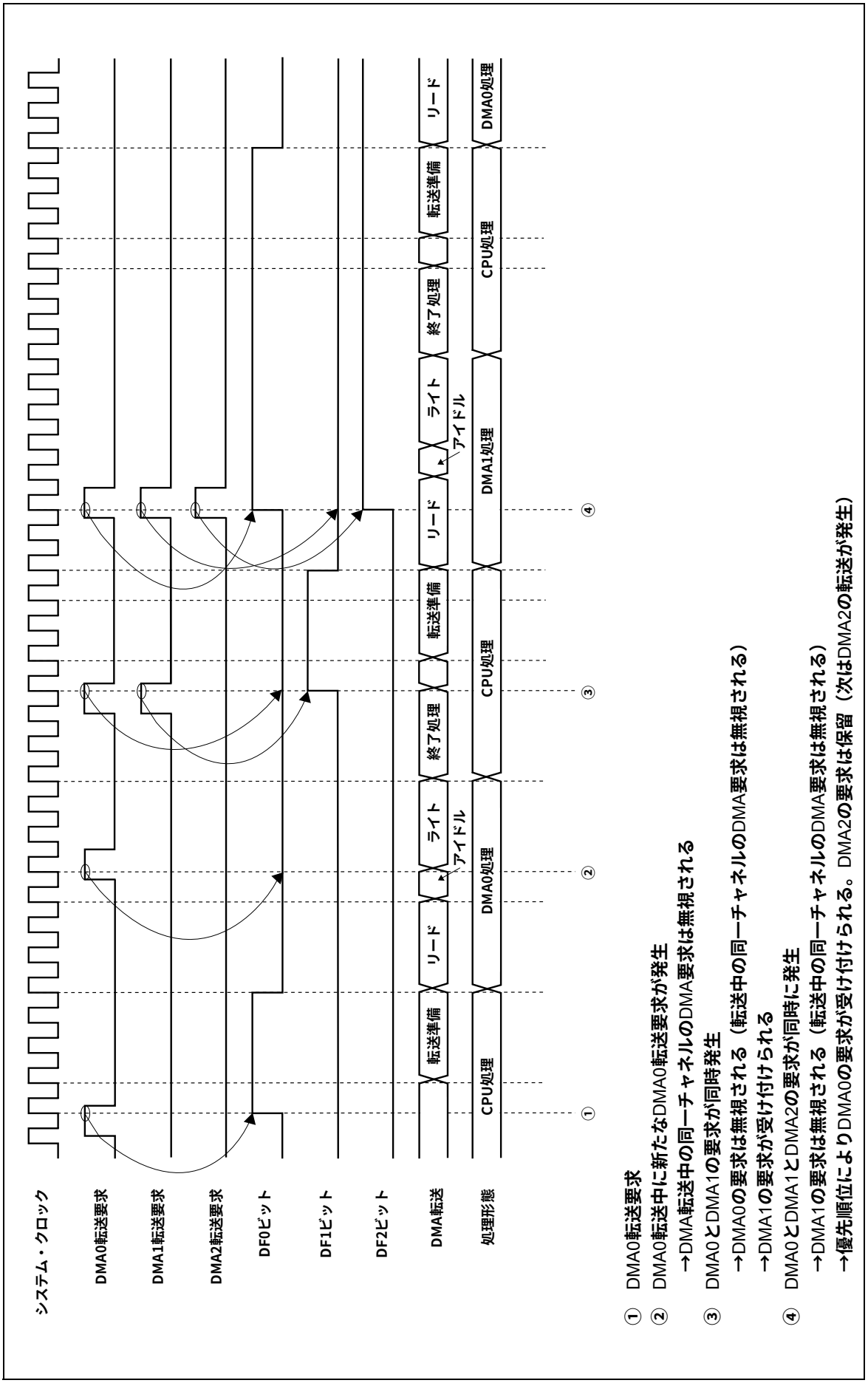


注1.　**内蔵周辺**I/O**からの割り込み，またはソフトウエア・トリガ（**STGn**ビット）**

2.　**転送要求から終了処理までの間，同一チャネルに対する新たな**DMA**要求は無視されます。**

備考　**外部メモリ空間↔外部メモリ空間の場合（マルチプレクス・バス，ウエイトなし）。**

図18−4　DMAの転送要求が無視される期間（2）



① DMA0転送要求

② DMA0転送中に新たなDMA0転送要求が発生
　→DMA転送中の同一チャネルのDMA要求は無視される

③ DMA0とDMA1の要求が同時発生
　→DMA0の要求は無視される（転送中の同一チャネルのDMA要求は無視される）
　→DMA1の要求が受け付けられる

④ DMA0とDMA1とDMA2の要求が同時に発生
　→DMA1の要求は無視される（転送中の同一チャネルのDMA要求は無視される）
　→優先順位によりDMA0の要求が受け付けられる。DMA2の要求は保留（次はDMA2の転送が発生）

18. 13 注意事項

(1) VSWCレジスタに関する注意

DMACを使用する際は，必ずVSWCレジスタに，動作周波数に応じた最適な値を設定してください。

VSWCレジスタの初期値（77H），または最適な値以外で使用した場合は正常に動作できません（VSWCレジスタの詳細については，3. 4. 8（1）（a）システム・ウエイト・コントロール・レジスタ（VSWC）を参照してください）。

(2) 内蔵RAMを転送対象とするDMA転送時の注意

内蔵RAMに配置された次の命令を実行する場合は，内蔵RAMを対象（転送先／転送元）とするDMA転送を行わないでください。その後CPUが正常に動作しない可能性があります。

- 内蔵RAMに配置されたビット操作命令（SET1, CLR1, NOT1）
- 内蔵RAMに配置されたミス・アライン・アドレスに対するデータ・アクセス命令

逆に，内蔵RAMを対象（転送先／転送元）としたDMA転送を行う場合は，上の2つの命令を実行しないでください。

(3) DCHCn.TCnビットのリードに関する注意事項（n = 0-3）

TCnビットは，読み出しによりクリア（0）されますが，ある特定タイミングにおいてTCnビットをリードしても，自動的にクリア（0）されません。TCnビットのクリアを確実に実行するために次の処理を追加してください。

(a) TCnビットをポーリングしてDMA転送完了の待ち合わせを行う場合

TCnビットがセット（1）されたことを確認したあと（TCnビット = 1が読み出されたあと），さらに3回のTCnビットのリードを行ってください。

(b) 割り込み処理ルーチンでTCnビットのリードを行う場合

TCnビットのリードを3回実行してください。

(4) DMA転送の初期化手順について（DCHCn.INITnビットのセット（1））

DMA転送中のチャネルを初期化するときに，INITnビットをセット（1）しても，チャネルの初期化が行われない場合があります。初期化を確実に実行するために，次に示す2つの手順のいずれかを実行させてください。

(a) 一時的にすべてのDMAチャネルの転送を停止させる方法

次に示す①～⑦の手順で初期化を実行してください。

ただし，次の⑤に示す処理の実行により，TCnビットがクリア（0）されてしまいます。ほかの処理において，TCnビット = 1となっていることを期待したプログラムになっていないことを確認してください。

① 割り込み禁止状態（DI）にする。

② 強制終了したいチャネル以外で使用しているDMAチャネルのDCHCn.Ennビットを読み出し，汎用レジスタに転送する。

③ 使用しているDMAチャネル（強制終了するチャネルを含む）のEnnビットをクリア（0）する。最終のDMAチャネルの場合にはEnnビットのクリア命令を2回実行する。このとき，転送対象（転送元／転送先）が内蔵RAMの場合は，3回実行する。

例 チャネル0，1，2を使用している場合には，次の順で命令を実行する（転送対象が内蔵RAMでない場合）。

- DCHC0 = 00Hを書き込む（E00ビットのクリア（0））
- DCHC1 = 00Hを書き込む（E11ビットのクリア（0））
- DCHC2 = 00Hを書き込む（E22ビットのクリア（0））
- 再度，DCHC2 = 00Hを書き込む（E22ビットのクリア（0））

④ 強制終了するチャネルにDCHCn = 04を書き込む（INITnビットのセット（1））

⑤ 強制終了しない各チャネルのTCnビットを読み出し，TCnビットと②で読み出したEnnビットが，ともに1（論理積（AND）が1）の場合は退避していたEnnビットをクリア（0）する。

⑥ ⑤で操作後のEnnビットをDCHCnレジスタに書き込む。

⑦ 割り込み許可状態（EI）にする。

注意1. 上記⑤は，②，③の間に正常終了したチャネルに対して，再度Ennビットを不正にセットすることを防ぐため，必ず行ってください。

2. 上記③のEnnビットのクリア（0），および④のINITnビットのセット（1）はビット操作命令で使用すると，TCnビットがクリア（0）されてしまうので禁止です。

(b) 正常に強制終了するまでINITnビットのセットを繰り返し実行する方法

① 強制終了したいチャネルのDMA要求元からのリクエストが発生しないようにする（内蔵周辺I/Oの動作停止）。

② DTFRn.DFnビットにより，強制終了するチャネルのDMA転送要求が保留されていないかを確認する。保留されている場合は，保留されているDMA転送要求の実行が完了するまで待つ。

③ 強制終了するチャネルのDMA要求が保留されていないことが確認できたら，Ennビットをクリア（0）する。

④ 再度，強制終了するチャネルのEnnビットをクリア（0）する。
ただし，強制終了するチャネルの転送対象（転送元／転送先）が内蔵RAMの場合は，この操作をさらにもう一度実行する。

⑤ 強制終了するチャネルの初期転送回数を汎用レジスタにコピーする。

⑥ 強制終了するチャネルのINITnビットをセット（1）する。

⑦ 強制終了するチャネルのDBCnレジスタの値を読み出し，⑤でコピーした値と比較する。比較した結果，一致しない場合は⑥から⑦の操作を繰り返す。

備考1. ⑦でDBCnレジスタの値を読み出すと，正常に強制終了を完了した場合は初期転送回数が読み出されます。未完了の場合は残りの転送回数が読み出されます。

2. (b) の方法は，強制終了の対象となっているDMAチャネル以外のDMA転送が頻繁に行われるようなアプリケーションの場合，強制終了されるまでに時間を要する可能性があるので注意してください。

(5) DMA転送の一時中断手順について（Ennビットのクリア）

実行中のDMA転送を中断し，再開するには次の手順にしたがってください。

① DMA要求元からの転送要求が発生しないようにする（内蔵周辺I/Oの動作を停止）。

② DFnビットにより，DMA転送要求が保留されていないかを確認する（DFnビット = 0であることを確認）。保留されている場合は，保留されているDMA転送要求の実行が完了するまで待つ。

③ DMA転送要求が保留されていないことを確認できたら，Ennビットをクリア（0）する（この操作により，DMA転送が中断される）。

④ DMA転送を再開させるためにEnnビットをセット（1）する。

⑤ 停止しているDMA要求元の動作を再開する（内蔵周辺I/Oの動作を開始）。

(6) メモリ境界

DMA転送中に，転送元，または転送先のアドレスがDMA対象（外部メモリ，内蔵RAM，内蔵周辺I/O）の領域を越えた場合の動作は保証できません。

(7) ミス・アライン・データの転送

16ビット・バス幅のミス・アライン・データのDMA転送はサポートしていません。

奇数アドレスを転送元，または転送先に指定した場合，アドレスの最下位ビットは強制的に0として扱われます。

（8）CPUへのバス・アービトレーション

バス使用権の優先順位はCPUよりDMAコントローラが高いため，DMA転送中に発生したCPUのアクセスは，DMA転送サイクルが完了しCPUにバスが開放されるまで待たされます。

ただし，CPUはDMA転送を行っていない内蔵ROM，内蔵RAMとのアクセスが可能です。

- 外部メモリ⇔内蔵周辺I/Oとの間でDMA転送が行われているとき，CPUは内蔵ROM，内蔵RAMにアクセスできます。
- 内蔵周辺I/O⇔内蔵RAMでDMA転送が行われているときは，CPUは内蔵ROMにアクセスできます。

（9）DMA動作中の書き換え禁止レジスタ／ビット

次のレジスタの設定は，DMA動作中でない次のいずれかのタイミングで行ってください。

【対象レジスタ】

- DSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCn, DADCnレジスタ
- DTFRn.IFCn5-IFCn0ビット

【設定可能タイミング】

- リセット後から最初のDMA転送開始までの期間
- チャネル初期化後からDMA転送開始までの時間
- DMA転送完了後（TCnビット = 1の状態）から次のDMA転送開始までの期間

（10）次のレジスタの各ビットには，必ず“0”を設定してください。

- DSAnHレジスタのビット14-10
- DDAnHレジスタのビット14-10
- DADCnレジスタのビット15, 13-8, 3-0
- DCHCnレジスタのビット6-3

（11）DMAの起動要因

同じ起動要因で複数のDMAチャネルを起動しないでください。起動した場合，すでに設定済みのチャネルのDMAが起動されたり，優先順位の低いDMAチャネルが優先順位の高いDMAチャネルより先に受け付けられたりする場合があり，動作は保証できません。

（12）DSAn, DDAnレジスタの読み出し値

DMA転送中にDSAn, DDAnレジスタの値を読み出した場合，更新途中の値が読み出されることがあります（n = 0-3）。

たとえば，DMA転送元アドレス（DSAnレジスタ）が0000FFFFH，カウント方向がインクリメント（DADCn.SAD1, SAD0ビット = 00）の場合，DSAnHレジスタ→DSAnLレジスタの順に読み出しを行うと，DSAnHレジスタ読み出し直後のDMA転送の有無によって，DSAnLレジスタの値が次のように異なります。

（a）DSAnレジスタの読み出し中にDMA転送が発生しない場合

① DSAnHレジスタの読み出し：DSAnH = 0000H

② DSAnLレジスタの読み出し：DSAnL = FFFFH

（b）DSAnレジスタの読み出し中にDMA転送が発生する場合

① DSAnHレジスタの読み出し：DSAnH = 0000H

② DMA転送の発生

③ DSAnレジスタのインクリメント：DSAn = 00100000H

④ DSAnLレジスタの読み出し：DSAnL = 0000H

第19章　割り込み／例外処理機能

V850ES/JJ3は，割り込み処理用に専用の割り込みコントローラ（INTC）を内蔵し，合計71要因の割り込み要求を処理できる割り込み機能を実現しています。

なお，割り込みをプログラムの実行とは別に独立して発生する事象とし，例外をプログラムの実行に依存して発生する事象とします。

V850ES/JJ3では，内蔵している周辺ハードウエアおよび外部からの各種割り込み要求信号を処理できます。さらに，TRAP命令による例外処理の起動（ソフトウエア例外）や，例外事象の発生（不正命令コードのフェッチ）による例外処理の起動（例外トラップ）が可能です。

19. 1　特　　徴

○割り込み

- ノンマスカブル割り込み　：2要因
- マスカブル割り込み：外部9本，内部60要因
- 8レベルのプログラマブル優先順位制御（マスカブル割り込み）
- 優先順位に従った割り込み多重処理制御
- 個々のマスカブル割り込み要求に対するマスク指定
- 外部割り込み要求のノイズ除去とエッジ検出および有効エッジ指定

○例外

- ソフトウエア例外 ：32要因
- 例外トラップ　　：2要因（不正命令コード例外，デバッグ・トラップ）

これらの割り込み／例外要因を表19－1に示します。

表19－1 割り込み要因一覧（1/4）

種 類	分 類	ディフォールト・プライオリティ	名 称	トリガ	発生ユニット	例外コード	ハンドラ・アドレス	復帰PC	割り込み制御レジスタ
リセット	割り込み	－	RESET	$\overline{\text{RESET}}$端子入力／内部要因からのリセット入力	RESET	0000H	00000000H	不定	－
ノンマスカブル	割り込み	－	NMI	NMI端子有効エッジ入力	端子	0010H	00000010H	nextPC	－
		－	INTWDT2	WDT2のオーバフロー	WDT2	0020H	00000020H	注1	－
ソフトウエア例外	例外	－	TRAP0n[注2]	TRAP命令	－	004nH[注2]	00000040H	nextPC	－
		－	TRAP1n[注2]	TRAP命令	－	005nH[注2]	00000050H	nextPC	－
例外トラップ	例外	－	ILGOP/DBG0	不正命令コード／DBTRAP命令	－	0060H	00000060H	nextPC	－
マスカブル	割り込み	0	INTLVI	低電圧検出	POCLVI	0080H	00000080H	nextPC	LVIIC
		1	INTP0	外部割り込み端子入力エッジ検出（INTP0）	端子	0090H	00000090H	nextPC	PIC0
		2	INTP1	外部割り込み端子入力エッジ検出（INTP1）	端子	00A0H	000000A0H	nextPC	PIC1
		3	INTP2	外部割り込み端子入力エッジ検出（INTP2）	端子	00B0H	000000B0H	nextPC	PIC2
		4	INTP3	外部割り込み端子入力エッジ検出（INTP3）	端子	00C0H	000000C0H	nextPC	PIC3
		5	INTP4	外部割り込み端子入力エッジ検出（INTP4）	端子	00D0H	000000D0H	nextPC	PIC4
		6	INTP5	外部割り込み端子入力エッジ検出（INTP5）	端子	00E0H	000000E0H	nextPC	PIC5
		7	INTP6	外部割り込み端子入力エッジ検出（INTP6）	端子	00F0H	000000F0H	nextPC	PIC6
		8	INTP7	外部割り込み端子入力エッジ検出（INTP7）	端子	0100H	00000100H	nextPC	PIC7
		9	INTTQ0OV	TMQ0オーバフロー	TMQ0	0110H	00000110H	nextPC	TQ0OVIC
		10	INTTQ0CC0	TMQ0キャプチャ0／コンペア0一致	TMQ0	0120H	00000120H	nextPC	TQ0CCIC0
		11	INTTQ0CC1	TMQ0キャプチャ1／コンペア1一致	TMQ0	0130H	00000130H	nextPC	TQ0CCIC1
		12	INTTQ0CC2	TMQ0キャプチャ2／コンペア2一致	TMQ0	0140H	00000140H	nextPC	TQ0CCIC2
		13	INTTQ0CC3	TMQ0キャプチャ3／コンペア3一致	TMQ0	0150H	00000150H	nextPC	TQ0CCIC3
		14	INTTP0OV	TMP0オーバフロー	TMP0	0160H	00000160H	nextPC	TP0OVIC
		15	INTTP0CC0	TMP0キャプチャ0／コンペア0一致	TMP0	0170H	00000170H	nextPC	TP0CCIC0
		16	INTTP0CC1	TMP0キャプチャ1／コンペア1一致	TMP0	0180H	00000180H	nextPC	TP0CCIC1
		17	INTTP1OV	TMP1オーバフロー	TMP1	0190H	00000190H	nextPC	TP1OVIC

注1. INTWDT2の場合の復帰については19. 2. 2（2）INTWDT2信号の場合を参照してください。

2. nは0-FHの値

表19－1 割り込み要因一覧（2/4）

種 類	分 類	ディフォールト・プライオリティ	名 称	トリガ	発生ユニット	例外コード	ハンドラ・アドレス	復帰PC	割り込み制御レジスタ
マスカブル	割り込み	18	INTTP1CC0	TMP1キャプチャ0／コンペア0一致	TMP1	01A0H	000001A0H	nextPC	TP1CCIC0
		19	INTTP1CC1	TMP1キャプチャ1／コンペア1一致	TMP1	01B0H	000001B0H	nextPC	TP1CCIC1
		20	INTTP2OV	TMP2オーバフロー	TMP2	01C0H	000001C0H	nextPC	TP2OVIC
		21	INTTP2CC0	TMP2キャプチャ0／コンペア0一致	TMP2	01D0H	000001D0H	nextPC	TP2CCIC0
		22	INTTP2CC1	TMP2キャプチャ1／コンペア1一致	TMP2	01E0H	000001E0H	nextPC	TP2CCIC1
		23	INTTP3OV	TMP3オーバフロー	TMP3	01F0H	000001F0H	nextPC	TP3OVIC
		24	INTTP3CC0	TMP3キャプチャ0／コンペア0一致	TMP3	0200H	00000200H	nextPC	TP3CCIC0
		25	INTTP3CC1	TMP3キャプチャ1／コンペア1一致	TMP3	0210H	00000210H	nextPC	TP3CCIC1
		26	INTTP4OV	TMP4オーバフロー	TMP4	0220H	00000220H	nextPC	TP4OVIC
		27	INTTP4CC0	TMP4キャプチャ0／コンペア0一致	TMP4	0230H	00000230H	nextPC	TP4CCIC0
		28	INTTP4CC1	TMP4キャプチャ1／コンペア1一致	TMP4	0240H	00000240H	nextPC	TP4CCIC1
		29	INTTP5OV	TMP5オーバフロー	TMP5	0250H	00000250H	nextPC	TP5OVIC
		30	INTTP5CC0	TMP5キャプチャ0／コンペア0一致	TMP5	0260H	00000260H	nextPC	TP5CCIC0
		31	INTTP5CC1	TMP5キャプチャ1／コンペア1一致	TMP5	0270H	00000270H	nextPC	TP5CCIC1
		32	INTTM0EQ0	TMM0コンペア一致	TMM0	0280H	00000280H	nextPC	TM0EQIC0
		33	INTCB0R/INTIIC1	CSIB0の受信終了／CSIB0の受信エラー／IIC1の転送終了	CSIB0 / IIC1	0290H	00000290H	nextPC	CB0RIC/IICIC1
		34	INTCB0T	CSIB0の連続送信書き込み許可	CSIB0	02A0H	000002A0H	nextPC	CB0TIC
		35	INTCB1R	CSIB1の受信終了／CSIB1の受信エラー	CSIB1	02B0H	000002B0H	nextPC	CB1RIC
		36	INTCB1T	CSIB1の連続送信書き込み許可	CSIB1	02C0H	000002C0H	nextPC	CB1TIC
		37	INTCB2R	CSIB2の受信終了／CSIB2の受信エラー	CSIB2	02D0H	000002D0H	nextPC	CB2RIC
		38	INTCB2T	CSIB2の連続送信書き込み許可	CSIB2	02E0H	000002E0H	nextPC	CB2TIC
		39	INTCB3R	CSIB3の受信終了／CSIB3の受信エラー	CSIB3	02F0H	000002F0H	nextPC	CB3RIC
		40	INTCB3T	CSIB3の連続送信書き込み許可	CSIB3	0300H	00000300H	nextPC	CB3TIC

表19－1 割り込み要因一覧（3/4）

種 類	分 類	ディフォールト・プライオリティ	名 称	トリガ	発生ユニット	例外コード	ハンドラ・アドレス	復帰PC	割り込み制御レジスタ
マスカブル	割り込み	41	INTUA0R/INTCB4R	UARTA0の受信終了／CSIB4の受信終了／CSIB4の受信エラー	UARTA0/CSIB4	0310H	00000310H	nextPC	UA0RIC/CB4RIC
		42	INTUA0T/INTCB4T	UARTA0の連続送信許可／CSIB4の連続送信書き込み許可	UARTA0/CSIB4	0320H	00000320H	nextPC	UA0TIC/CB4TIC
		43	INTUA1R/INTIIC2	UARTA1の受信終了／UARTA1受信エラー／IIC2転送終了	UARTA1/IIC2	0330H	00000330H	nextPC	UA1RIC/IICIC2
		44	INTUA1T	UARTA1の連続送信許可	UARTA1	0340H	00000340H	nextPC	UA1TIC
		45	INTUA2R/INTIIC0	UARTA2の受信終了／IIC0の転送終了	UARTA/IIC0	0350H	00000350H	nextPC	UA2RIC/IICIC0
		46	INTUA2T	UARTA2の連続送信許可	UARTA2	0360H	00000360H	nextPC	UA2TIC
		47	INTAD	A/D変換終了	A/D	0370H	00000370H	nextPC	ADIC
		48	INTDMA0	DMA0転送終了	DMA	0380H	00000380H	nextPC	DMAIC0
		49	INTDMA1	DMA1転送終了	DMA	0390H	00000390H	nextPC	DMAIC1
		50	INTDMA2	DMA2転送終了	DMA	03A0H	000003A0H	nextPC	DMAIC2
		51	INTDMA3	DMA3転送終了	DMA	03B0H	000003B0H	nextPC	DMAIC3
		52	INTKR	キー・リターン割り込み	KR	03C0H	000003C0H	nextPC	KRIC
		53	INTWTI	時計タイマのインターバル	WT	03D0H	000003D0H	nextPC	WTIIC
		54	INTWT	時計タイマの基準時間	WT	03E0H	000003E0H	nextPC	WTIC
		55	INTP8	外部割り込み端子入力エッジ検出（INTP8）	端子	0470H	00000470H	nextPC	PIC8
		56	INTTP6OV	TMP6オーバフロー	TMP6	0480H	00000480H	nextPC	TP6OVIC
		57	INTTP6CC0	TMP6キャプチャ0／コンペア0一致	TMP6	0490H	00000490H	nextPC	TP6CCIC0
		58	INTTP6CC1	TMP6キャプチャ1／コンペア1一致	TMP6	04A0H	000004A0H	nextPC	TP6CCIC1
		59	INTTP7OV	TMP7オーバフロー	TMP7	04B0H	000004B0H	nextPC	TP7OVIC
		60	INTTP7CC0	TMP7キャプチャ0／コンペア0一致	TMP7	04C0H	000004C0H	nextPC	TP7CCIC0
		61	INTTP7CC1	TMP7キャプチャ1／コンペア1一致	TMP7	04D0H	000004D0H	nextPC	TP7CCIC1
		62	INTTP8OV	TMP8オーバフロー	TMP8	04E0H	000004E0H	nextPC	TP8OVIC
		63	INTTP8CC0	TMP8キャプチャ0／コンペア0一致	TMP8	04F0H	000004F0H	nextPC	TP8CCIC0
		64	INTTP8CC1	TMP8キャプチャ1／コンペア1一致	TMP8	0500H	00000500H	nextPC	TP8CCIC1
		65	INTCB5R	CSIB5の受信終了	CSIB5	0510H	00000510H	nextPC	CB5RIC
		66	INTCB5T	CSIB5の連続送信書き込み許可	CSIB5	0520H	00000520H	nextPC	CB5TIC

表19－1　割り込み要因一覧（4/4）

種　類	分　類	ディフォールト・プライオリティ	名　称	トリガ	発生ユニット	例外コード	ハンドラ・アドレス	復帰PC	割り込み制御レジスタ
マスカブル	割り込み	67	INTUA3R	UARTA3の受信終了	UARTA3	0530H	00000530H	nextPC	UA3RIC
		68	INTUA3T	UARTA3の連続送信許可	UARTA3	0540H	00000540H	nextPC	UA3TIC

備考1.　ディフォールト・プライオリティ：複数の同一優先順位レベルのマスカブル割り込み要求信号が同時に発生している場合に優先される順位です。0が最高優先順位です。
ノンマスカブル割り込みの優先順位は，INTWDT2＞NMIとなります。

復帰PC：割り込み処理起動時に，CPUのEIPC，FEPCまたはDBPCにセーブされるプログラム・カウンタ（PC）のことです。なお，次の命令実行中にノンマスカブル／マスカブル割り込みを受け付けた場合の復帰PCはnextPCとはなりません（命令実行中に割り込みを受け付けると実行を中止し，割り込み処理完了後に再実行されます）。

・ロード命令（SLD.B, SLD.BU, SLD.H, SLD.HU, SLD.W）
・除算命令（DIV, DIVH, DIVU, DIVHU）
・PREPARE, DISPOSE命令（スタック・ポインタの更新前に割り込みが発生した場合のみ）

nextPC：割り込み／例外処理後に処理を開始するPC値です。

2.　不正命令コード例外時の不正命令の実行アドレスは，（復帰PC－4）で求められます。

19. 2　ノンマスカブル割り込み

ノンマスカブル割り込み要求信号は，CPUが割り込み禁止（DI）状態でも無条件に受け付けられます。また，割り込み優先順位の対象にならず，すべての割り込み要求信号に対して最優先されます。

この製品のノンマスカブル割り込み要求信号には，次の2つがあります。

- NMI端子入力（NMI）
- ウォッチドッグ・タイマのオーバフローによるノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2）

NMI端子の有効エッジは，“立ち上がりエッジ”，“立ち下がりエッジ”，“両エッジ”，“エッジ検出なし”の4種類から選択できます。

ウォッチドッグ・タイマ2のオーバフローによるノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2）はWDTM2.WDM21, WDM20ビットを“01”と設定することで機能します。

複数のノンマスカブル割り込み要求信号が重なって発生した場合は，次の優先順位に従って順位の高い処理が実行されます（優先順位の低い割り込み要求信号は無視されます）。

INTWDT2＞NMI

なお，NMI処理中に，新たにNMI, INTWDT2要求信号が発生した場合は次のような処理を行います。

（1）NMI処理中に，新たにNMI要求信号が発生した場合

PSW.NPビットの値によらず，新たなNMI要求信号は保留されます。保留されたNMI要求信号は，現在実行中のNMI処理終了後（RETI命令実行後）に受け付けられます。

（2）NMI処理中に，新たにINTWDT2要求信号が発生した場合

NMI処理中にNPビットがセット（1）されたままであれば，新たなINTWDT2要求信号は保留されます。保留されたINTWDT2要求信号は，現在実行中のNMI処理終了後（RETI命令実行後）に受け付けられます。

NMI処理中にNPビットをクリア（0）すれば，新たに発生したINTWDT2要求信号が実行されます（NMI処理は中断されます）。

注意　ノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2）によるノンマスカブル割り込み処理については19. 2. 2（2）INTWDT2信号の場合を参照してください。

図19－1　ノンマスカブル割り込み要求信号の受け付け動作（1/2）

（a）NMI, INTWDT2要求信号が同時に発生する場合

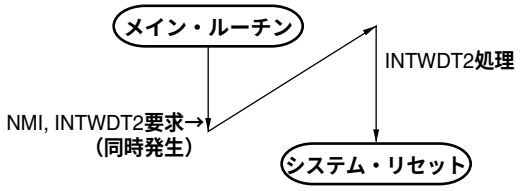
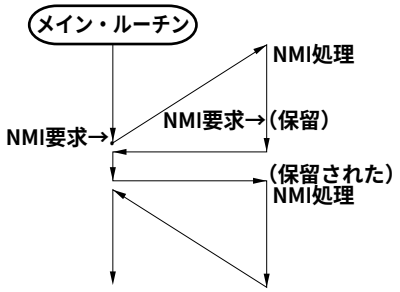
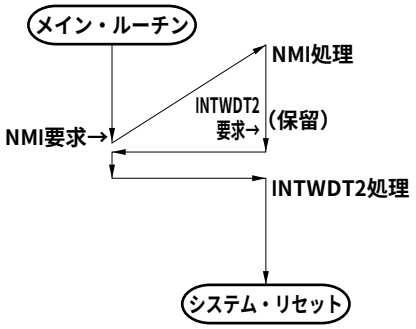
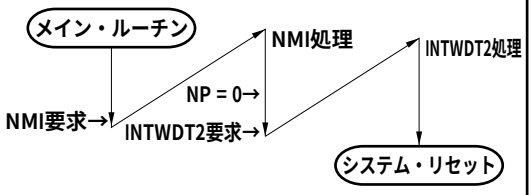
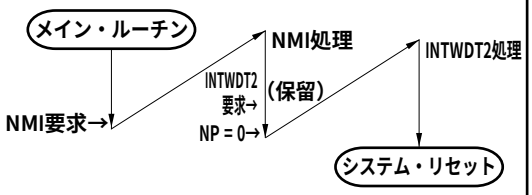
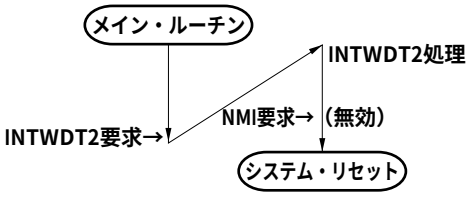
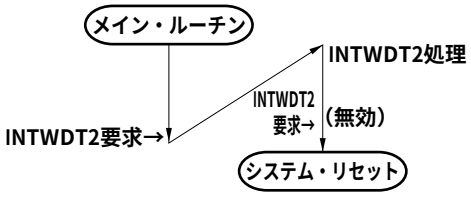


図19－1　ノンマスカブル割り込み要求信号の受け付け動作（2/2）

(b) ノンマスカブル割り込み処理中に新たにノンマスカブル割り込み要求信号が発生する場合

処理中のノンマスカブル割り込み	ノンマスカブル割り込み処理中に新たに発生するノンマスカブル割り込み要求信号	
	NMI	INTWDT2
NMI	・NMI処理中にNMI要求が発生  	・NMI処理中にINTWDT2要求が発生 （INTWDT2要求前にNPビット = 1のまま）  ・NMI処理中にINTWDT2要求が発生 （INTWDT2要求前にNPビット = 0にする）  ・NMI処理中にINTWDT2要求が発生 （INTWDT2要求後にNP = 0にする） 
INTWDT2	・INTWDT2処理中にNMI要求が発生  	・INTWDT2処理中にINTWDT2要求が発生 

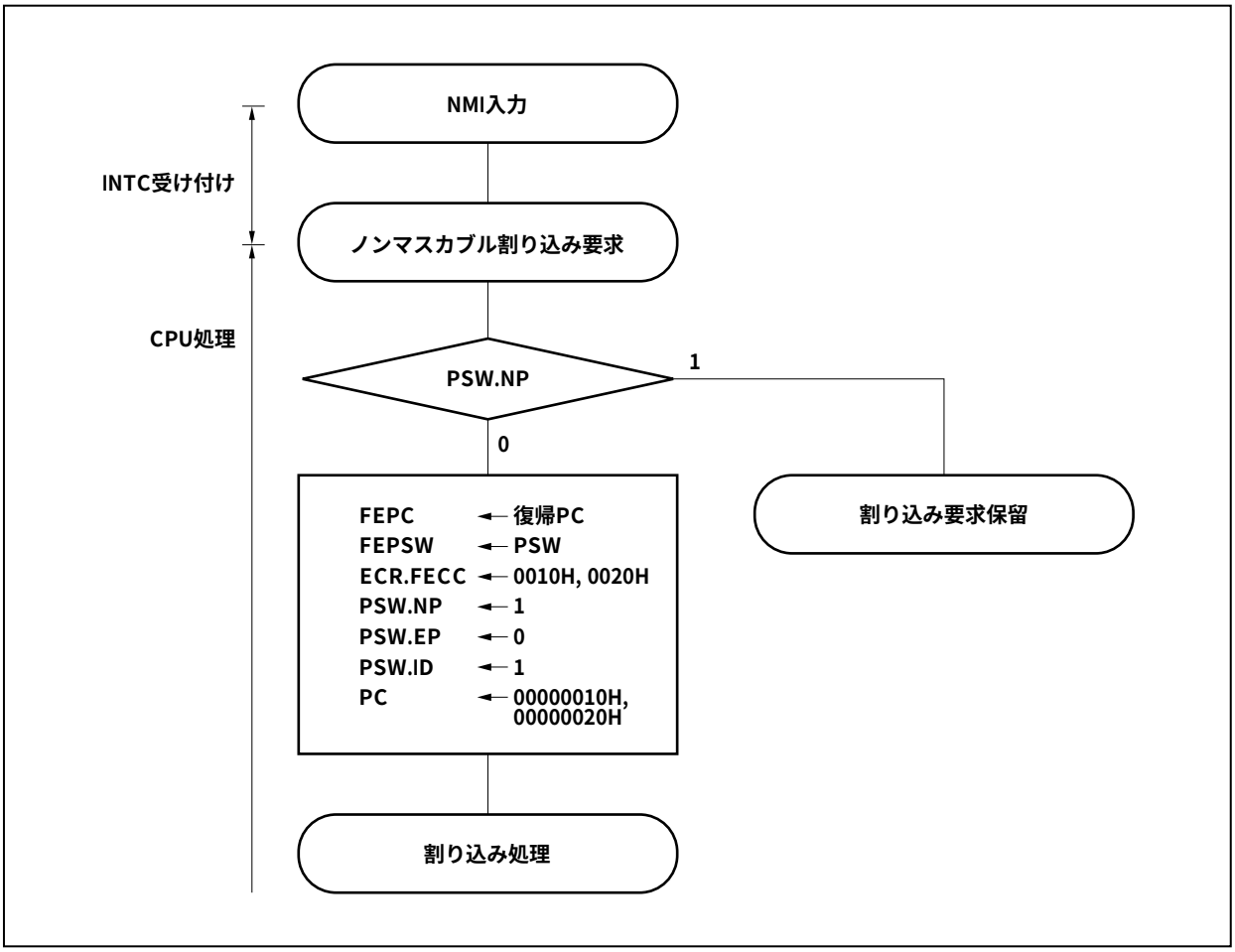
19. 2. 1　動　　作

ノンマスカブル割り込み要求信号が発生した場合，CPUは次の処理を行い，ハンドラ・ルーチンへ制御を移します。

① 復帰PCをFEPCに退避します。
② 現在のPSWをFEPSWに退避します。
③ ECRの上位ハーフワード（FECC）に例外コード（0010H, 0020H）を書き込みます。
④ PSW.NP, IDビットをセット（1）し，PSW.EPビットをクリア（0）します。
⑤ PCにノンマスカブル割り込みに対するハンドラ・アドレス（00000010H, 00000020H）をセットし，制御を移します。

ノンマスカブル割り込みの処理形態を次に示します。

図19－2　ノンマスカブル割り込みの処理形態



19. 2. 2　復　　帰

(1) NMI端子入力の場合

NMI処理からの復帰は，RETI命令により行います。

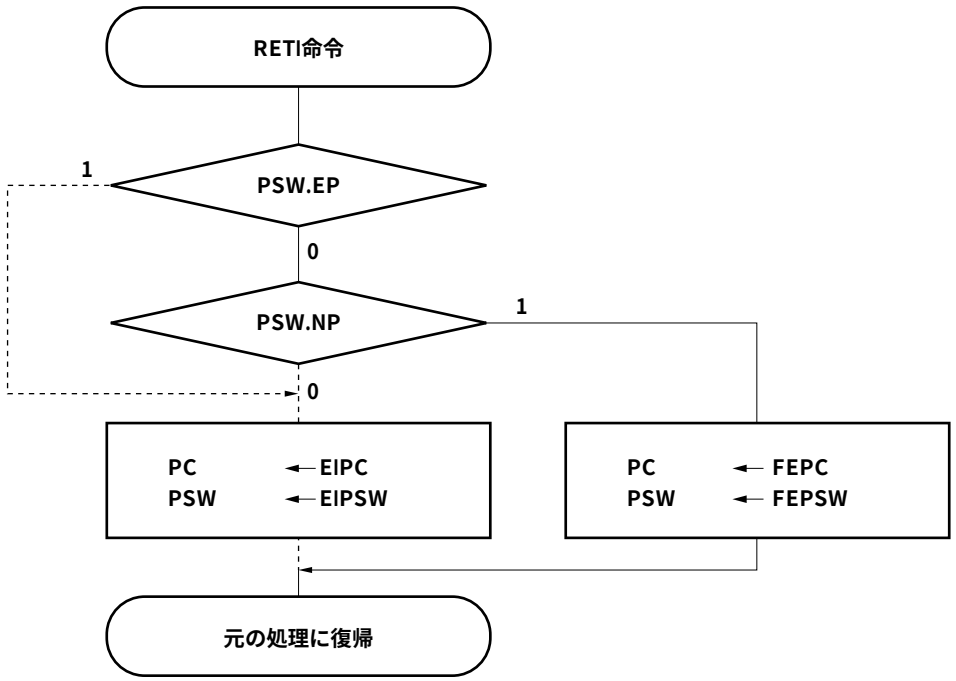
RETI命令の実行により，CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスへの制御を移します。

① PSW.EPビットが0かつPSW.NPビットが1なので，FEPC, FEPSWから復帰PC, PSWを取り出します。

② 取り出した復帰PCのアドレス，PSWの状態に制御を移します。

RETI命令の処理形態を次に示します。

図19－3　RETI命令の処理形態



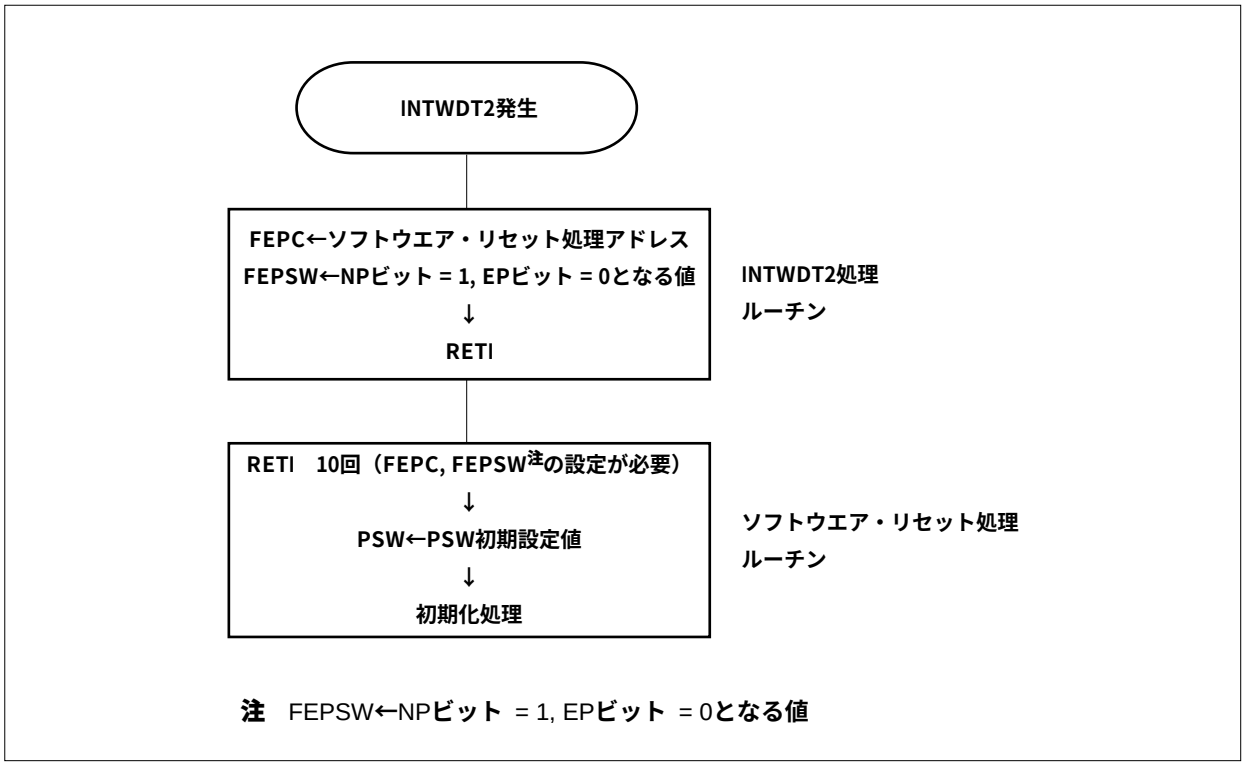
注意　ノンマスカブル割り込み処理中にLDSR命令によりEP, NPビットを変更した場合には，RETI命令による復帰時にPCとPSWを正常にリストアするために，RETI命令の直前で，LDSR命令を使用してEPビット = 0かつNPビット = 1に戻しておく必要があります。

備考　CPUは実線のフローで処理します。

(2) INTWDT2**信号の場合**

ノンマスカブル割り込み要求（INTWDT2）**によるノンマスカブル割り込み処理実行後に，**RETI**命令による復帰はできません。次に示すソフトウエア・リセット処理を実行してください。**

図19－4　**ソフトウエア・リセット処理**



19. 2. 3　NP**フラグ**

NP**フラグは，ノンマスカブル割り込みの処理中であることを示すステータス・フラグです。**

ノンマスカブル割り込み要求信号を受け付けるとセットされ，ノンマスカブル割り込み要求をマスクして多重割り込みを禁止します。

リセット時：00000020H

	31		8	7	6	5	4	3	2	1	0
PSW	0			NP	EP	ID	SAT	CY	OV	S	Z

NP	ノンマスカブル割り込み処理状態
0	ノンマスカブル割り込み処理中でない
1	ノンマスカブル割り込み処理中

19. 3　マスカブル割り込み

マスカブル割り込み要求信号は，割り込み制御レジスタにより，割り込み受け付けをマスクできる割り込み要求信号で，69種類の割り込み要因があります。

複数のマスカブル割り込み要求信号が同時に発生した場合は，ディフォールト優先順位により，その優先順位が決定します。また，ディフォールト優先順位とは別に，割り込み制御レジスタによって，8レベルの割り込み優先順位を設定できます（プログラマブル優先順位制御）。

割り込み要求信号が受け付けられると割り込み禁止（DI）状態になり，以後のマスカブル割り込み要求信号の受け付けを禁止します。

割り込み処理ルーチン内でEI命令を実行すると割り込み許可（EI）状態となり，受け付け中の割り込み要求信号の優先順位レベル（割り込み制御レジスタで指定）よりも高い優先順位の割り込み要求信号の受け付けを許可します。同一レベル同士のネスティングはできません。

ただし，多重割り込みを許可するときは，EI命令を実行する前にEIPC, EIPSWをメモリ，または汎用レジスタに退避し，RETI命令を実行する前にDIを行って，EIPC, EIPSWを元の値に復帰してください。

19. 3. 1　動　　作

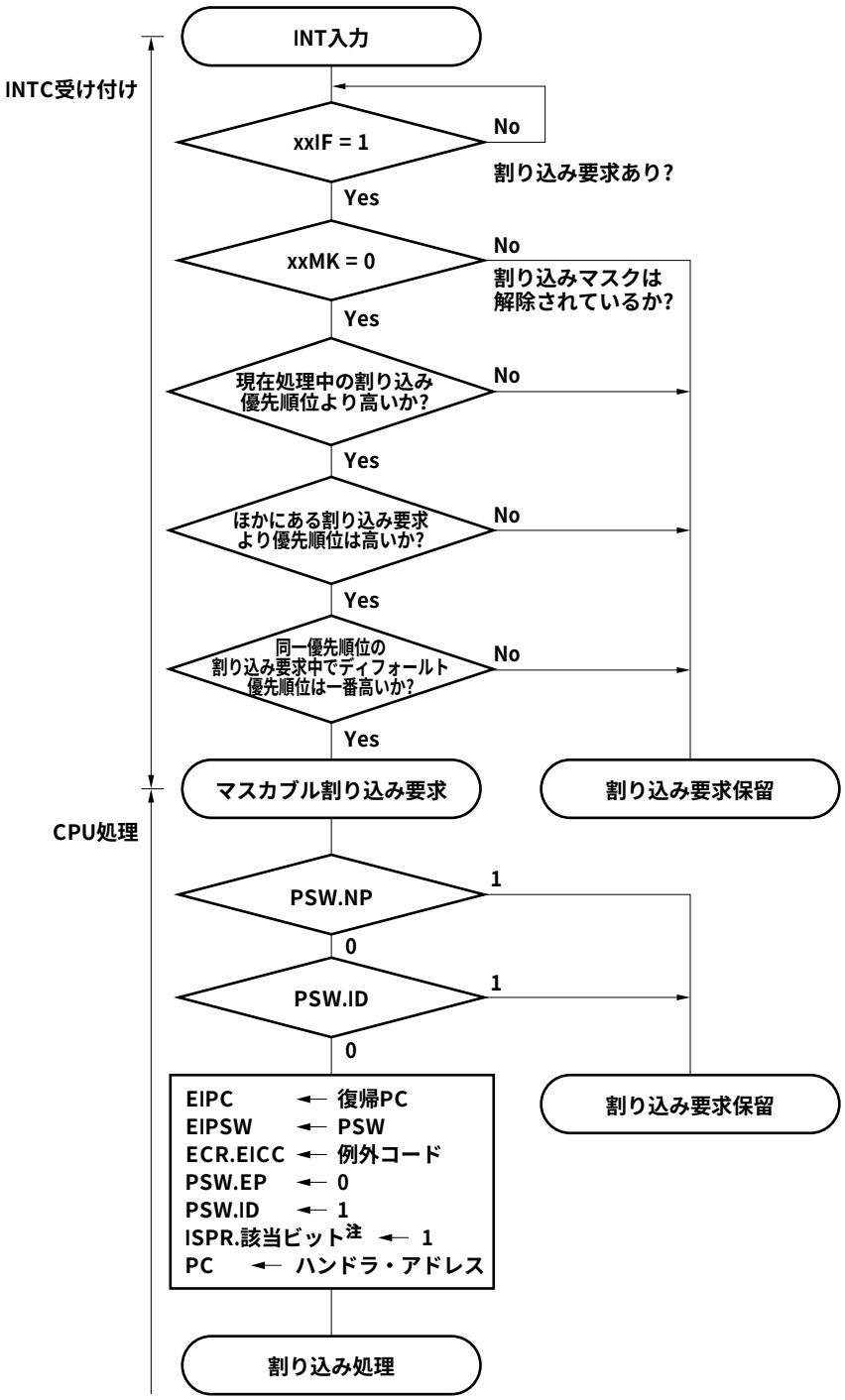
マスカブル割り込みが発生した場合，CPUは次の処理を行い，ハンドラ・ルーチンへ制御を移します。

① 復帰PCをEIPCに退避します。
② 現在のPSWをEIPSWに退避します。
③ ECRの下位ハーフワード（EICC）に例外コードを書き込みます。
④ PSW.IDビットをセット（1）し，PSW.EPビットをクリア（0）します。
⑤ PCに各割り込みに対するハンドラ・アドレスをセットし，制御を移します。

なお，INTCでマスクされているマスカブル割り込み要求信号と，ほかの割り込み処理中（PSW.NPビット = 1またはIDビット = 1）に発生したマスカブル割り込み要求信号は，INTC内部で保留されます。この場合，マスクを解除するか，またはRETI命令，LDSR命令を使用してNPビット = 0かつIDビット = 0にすると，保留していたマスカブル割り込み要求信号の優先順位に従い，新たなマスカブル割り込み処理が開始されます。

マスカブル割り込みの処理形態を次に示します。

図19－5　**マスカブル割り込みの処理形態**



注　ISPR**レジスタについては，**19. 3. 6　**インサービス・プライオリティ・レジスタ（**ISPR**）を参照してください。**

19. 3. 2　復　　帰

マスカブル割り込み処理からの復帰は，RETI命令により行います。

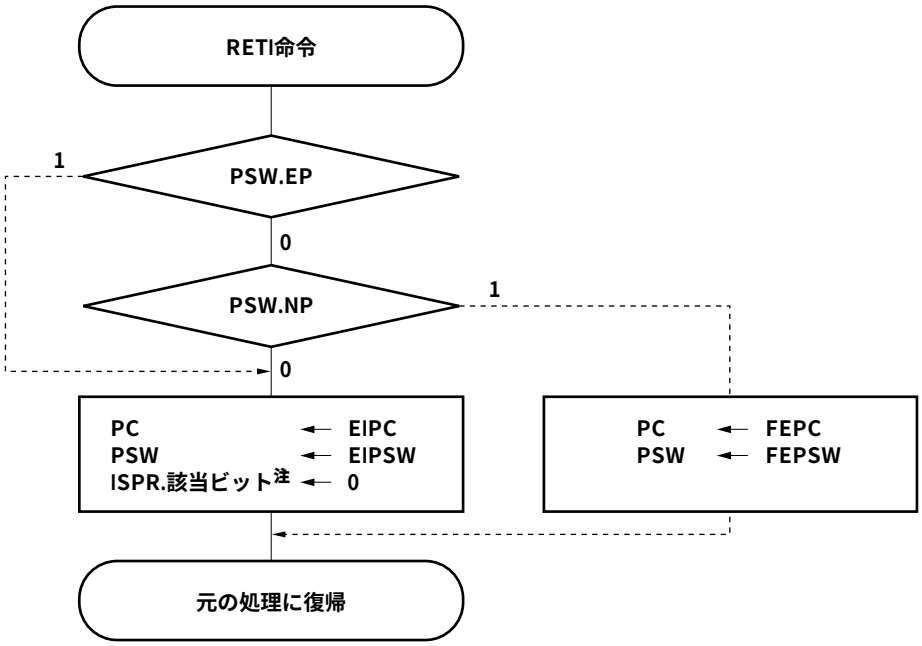
RETI命令の実行により，CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスへ制御を移します。

① PSW.EPビットが0かつPSW.NPビットが0なので，EIPC, EIPSWから復帰PC, PSWを取り出します。

② 取り出した復帰PCのアドレス，PSWの状態に制御を移します。

RETI命令の処理形態を次に示します。

図19－6　RETI命令の処理形態



注　ISPRレジスタについては，19. 3. 6　インサービス・プライオリティ・レジスタ（ISPR）を参照してください。

注意　マスカブル割り込み処理中にLDSR命令によりEP, NPビットを変更した場合は，RETI命令による復帰時にPCとPSWを正常にリストアするために，RETI命令の直前で，LDSR命令を使用してEPビット = 0かつNPビット = 0に戻しておく必要があります。

備考　CPUは実線のフローで処理します。

19. 3. 3　マスカブル割り込みの優先順位

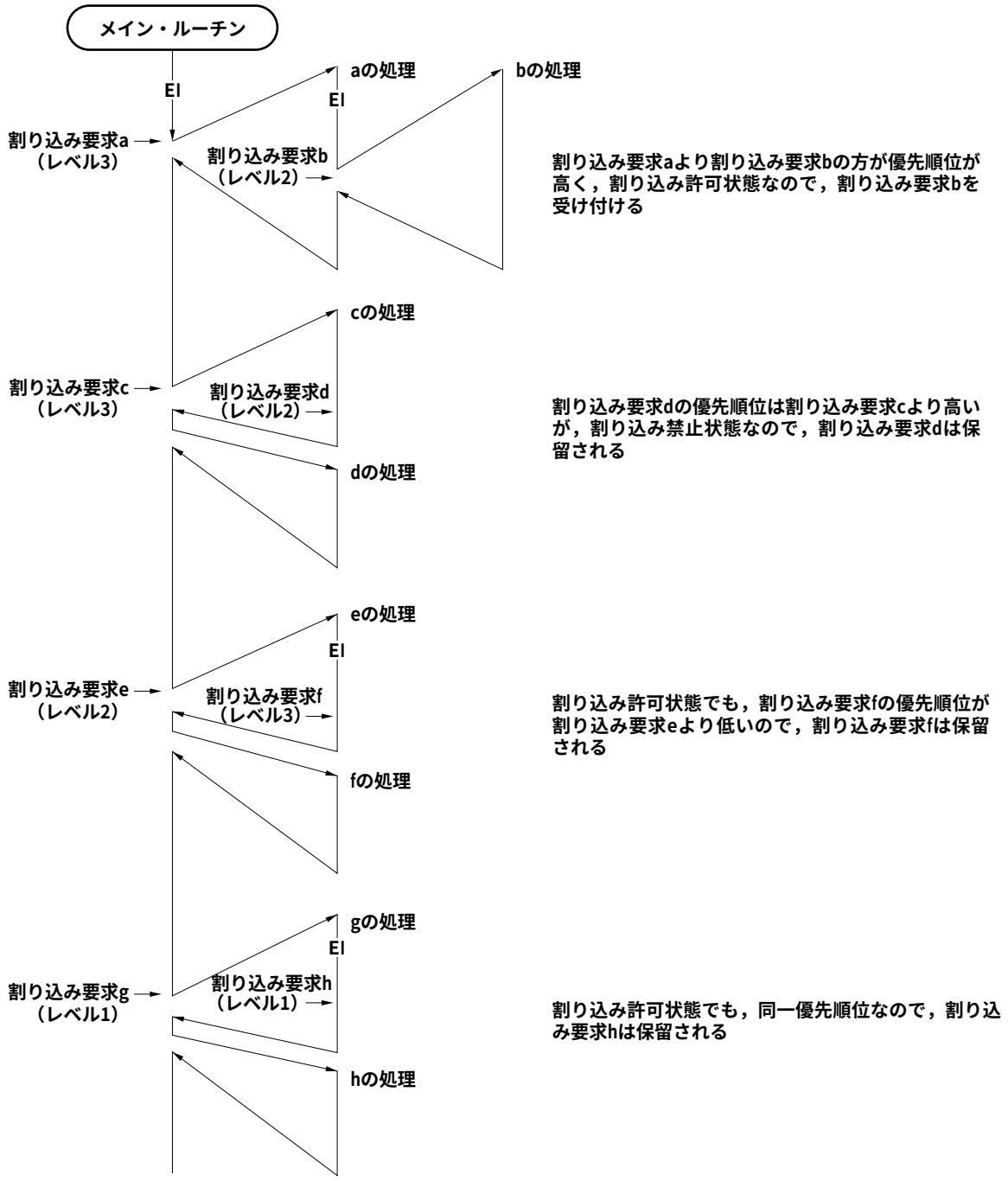
INTCは，割り込み処理中にさらに別の割り込みを受け付ける多重割り込みの処理を行います。多重割り込みは，優先順位によって制御できます。

優先順位制御には，ディフォールト優先順位による制御と，割り込み制御レジスタ（xxICn）の割り込み優先順位指定ビット（xxPRn）によるプログラマブル優先順位制御があります。ディフォールト優先順位制御は，xxPRnビットによる複数の同一優先順位レベルの割り込みが同時に発生している場合，各割り込み要求信号にあらかじめ割り付けてある優先順位（ディフォールト優先順位）に従って割り込みを処理します（表19－1　割り込み要因一覧参照）。プログラマブル優先順位制御は，各割り込み要求信号を優先順位指定フラグの設定によって8レベルに分けます。

なお，割り込み要求信号を受け付けるとPSW.IDフラグが自動的にセット（1）されるので，多重割り込みを使用する場合は，割り込み処理プログラム中でEI命令を実行するなどしてIDフラグをクリア（0）し，割り込み許可状態にしてください。

備考　xx　：各周辺ユニット識別名称（表19－2　割り込み制御レジスタ（xxICn）参照）
　　n　：周辺ユニット番号（表19－2　割り込み制御レジスタ（xxICn）参照）

図19－7　割り込み処理中にほかの割り込み要求信号が発生した場合の処理例（1/2）

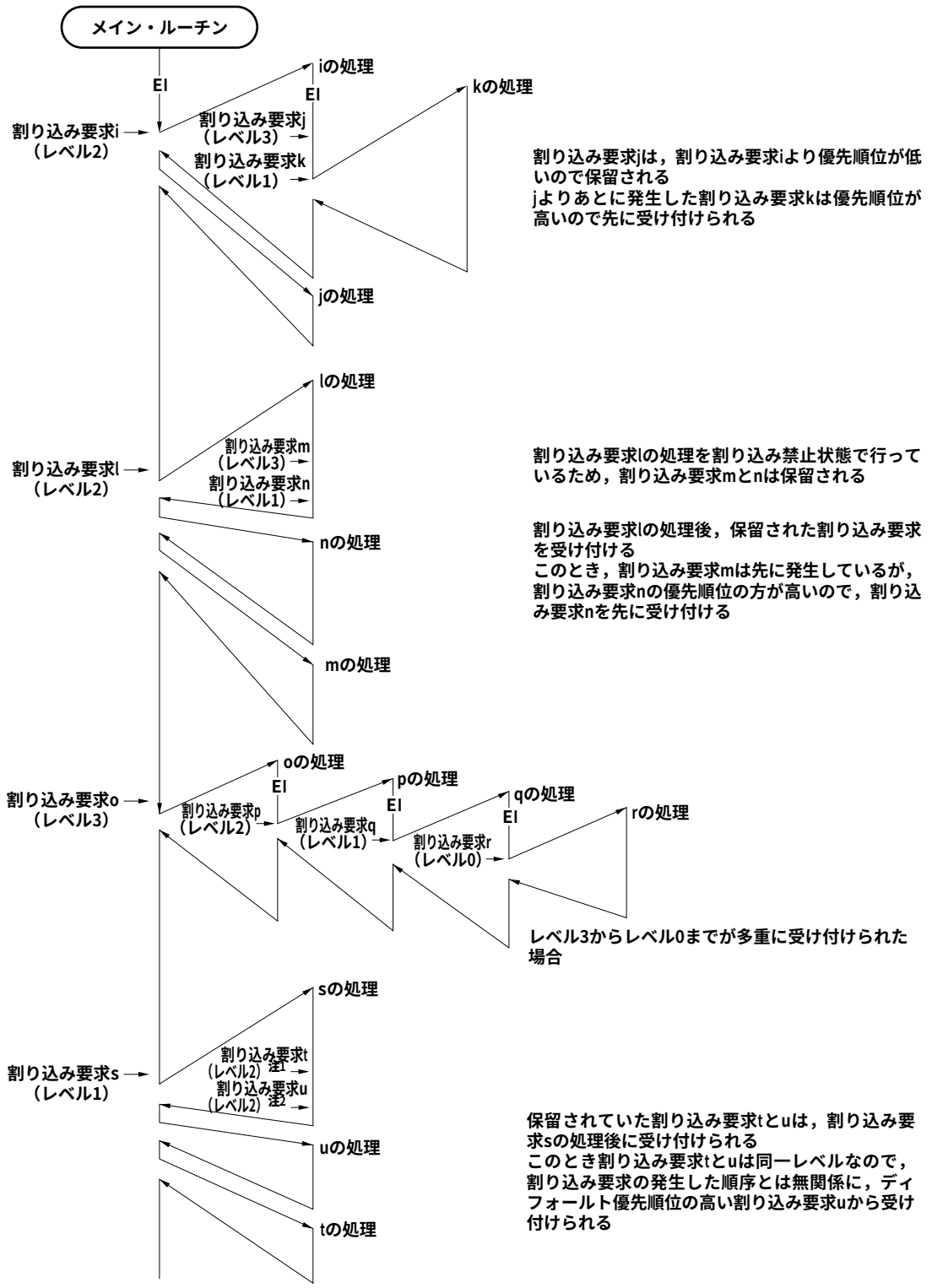


注意　多重割り込みを行うときはEI命令を実行する前に，EIPC，EIPSWの内容を退避する必要があります。また，多重割り込みから復帰する際は，DI命令を実行したあとに，EIPC，EIPSWの内容を復帰してください。

備考1.　図中のa-uは，各割り込み要求信号を区別するために付けた仮の名称です。

2.　図中のディフォールト優先順位の高い／低いは，2つの割り込み要求信号間の相対的な優先順位の高さを示します。

図19－7　割り込み処理中にほかの割り込み要求信号が発生した場合の処理例（2/2）

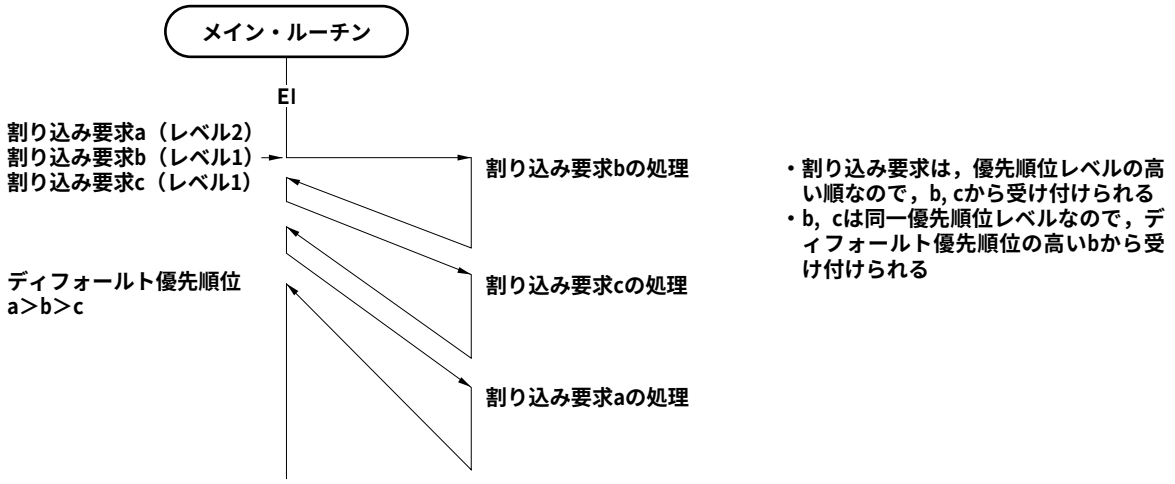


注意　多重割り込みを行うときはEI命令を実行する前に，EIPC，EIPSWの内容を退避する必要があります。また，多重割り込みから復帰する際は，DI命令を実行したあとに，EIPC，EIPSWの内容を復帰してください。

注1.　ディフォールト優先順位が低い

2.　ディフォールト優先順位が高い

図19－8　同時発生した割り込み要求信号の処理例



注意　多重割り込みを行うときはEI命令を実行する前に，EIPC，EIPSWの内容を退避する必要があります。また，多重割り込みから復帰する際は，DI命令を実行したあとに，EIPC，EIPSWの内容を復帰してください。

備考1.　図中のa-cは，各割り込み要求信号を区別するために付けた仮の名称です。

2.　図中のディフォールト優先順位の高い／低いは，2つの割り込み要求信号間の相対的な優先順位の高さを示します。

19. 3. 4　割り込み制御レジスタ（xxICn）

割り込み要求信号（マスカブル割り込み）ごとに割り当てられ，各割り込みに対する制御条件を設定します。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより47Hになります。

注意　xxICn.xxIFnビットを読み出す場合は，割り込み禁止（DI）状態または割り込みをマスクした状態で行ってください。割り込み許可（EI）状態または割り込みマスクを解除した状態でxxIFnビットを読み出すと，割り込みの受け付けとビットの読み出しのタイミングが競合した場合に，正常な値が読み出せないことがあります。

リセット時：47H　R/W　アドレス：FFFFF110H-FFFFF1A8H

	⑦	⑥	5	4	3	2	1	0
xxICn	xxIFn	xxMKn	0	0	0	xxPRn2	xxPRn1	xxPRn0

xxIFn	割り込み要求フラグ注
0	割り込み要求信号なし
1	割り込み要求信号あり

xxMKn	割り込みマスク・フラグ
0	割り込み処理を許可
1	割り込み処理を禁止（保留）

xxPRn2	xxPRn1	xxPRn0	割り込み優先順位指定ビット
0	0	0	レベル0（最高位）を指定
0	0	1	レベル1を指定
0	1	0	レベル2を指定
0	1	1	レベル3を指定
1	0	0	レベル4を指定
1	0	1	レベル5を指定
1	1	0	レベル6を指定
1	1	1	レベル7（最低位）を指定

注　割り込み要求信号が受け付けられるとハードウエアにより自動的にリセットされます。

備考　xx：各周辺ユニット識別名称（表19－2　割り込み制御レジスタ（xxICn）参照）

n　：周辺ユニット番号（表19－2　割り込み制御レジスタ（xxICn）参照）

各割り込み制御レジスタのアドレスとビットを次に示します。

表19ー2 割り込み制御レジスタ（xxICn）（1/2）

アドレス	レジスタ	ビット							
		⑦	⑥	5	4	3	2	1	0
FFFFF110H	LVIIC	LVIIF	LVIMK	0	0	0	LVIPR2	LVIPR1	LVIPR0
FFFFF112H	PIC0	PIF0	PMK0	0	0	0	PPR02	PPR01	PPR00
FFFFF114H	PIC1	PIF1	PMK1	0	0	0	PPR12	PPR11	PPR10
FFFFF116H	PIC2	PIF2	PMK2	0	0	0	PPR22	PPR21	PPR20
FFFFF118H	PIC3	PIF3	PMK3	0	0	0	PPR32	PPR31	PPR30
FFFFF11AH	PIC4	PIF4	PMK4	0	0	0	PPR42	PPR41	PPR40
FFFFF11CH	PIC5	PIF5	PMK5	0	0	0	PPR52	PPR51	PPR50
FFFFF11EH	PIC6	PIF6	PMK6	0	0	0	PPR62	PPR61	PPR60
FFFFF120H	PIC7	PIF7	PMK7	0	0	0	PPR72	PPR71	PPR70
FFFFF122H	TQ0OVIC	TQ0OVIF	TQ0OVMK	0	0	0	TQ0OVPR2	TQ0OVPR1	TQ0OVPR0
FFFFF124H	TQ0CCIC0	TQ0CCIF0	TQ0CCMK0	0	0	0	TQ0CCPR02	TQ0CCPR01	TQ0CCPR00
FFFFF126H	TQ0CCIC1	TQ0CCIF1	TQ0CCMK1	0	0	0	TQ0CCPR12	TQ0CCPR11	TQ0CCPR10
FFFFF128H	TQ0CCIC2	TQ0CCIF2	TQ0CCMK2	0	0	0	TQ0CCPR22	TQ0CCPR21	TQ0CCPR20
FFFFF12AH	TQ0CCIC3	TQ0CCIF3	TQ0CCMK3	0	0	0	TQ0CCPR32	TQ0CCPR31	TQ0CCPR30
FFFFF12CH	TP0OVIC	TP0OVIF	TP0OVMK	0	0	0	TP0OVPR2	TP0OVPR1	TP0OVPR0
FFFFF12EH	TP0CCIC0	TP0CCIF0	TP0CCMK0	0	0	0	TP0CCPR02	TP0CCPR01	TP0CCPR00
FFFFF130H	TP0CCIC1	TP0CCIF1	TP0CCMK1	0	0	0	TP0CCPR12	TP0CCPR11	TP0CCPR10
FFFFF132H	TP1OVIC	TP1OVIF	TP1OVMK	0	0	0	TP1OVPR2	TP1OVPR1	TP1OVPR0
FFFFF134H	TP1CCIC0	TP1CCIF0	TP1CCMK0	0	0	0	TP1CCPR02	TP1CCPR01	TP1CCPR00
FFFFF136H	TP1CCIC1	TP1CCIF1	TP1CCMK1	0	0	0	TP1CCPR12	TP1CCPR11	TP1CCPR10
FFFFF138H	TP2OVIC	TP2OVIF	TP2OVMK	0	0	0	TP2OVPR2	TP2OVPR1	TP2OVPR0
FFFFF13AH	TP2CCIC0	TP2CCIF0	TP2CCMK0	0	0	0	TP2CCPR02	TP2CCPR01	TP2CCPR00
FFFFF13CH	TP2CCIC1	TP2CCIF1	TP2CCMK1	0	0	0	TP2CCPR12	TP2CCPR11	TP2CCPR10
FFFFF13EH	TP3OVIC	TP3OVIF	TP3OVMK	0	0	0	TP3OVPR2	TP3OVPR1	TP3OVPR0
FFFFF140H	TP3CCIC0	TP3CCIF0	TP3CCMK0	0	0	0	TP3CCPR02	TP3CCPR01	TP3CCPR00
FFFFF142H	TP3CCIC1	TP3CCIF1	TP3CCMK1	0	0	0	TP3CCPR12	TP3CCPR11	TP3CCPR10
FFFFF144H	TP4OVIC	TP4OVIF	TP4OVMK	0	0	0	TP4OVPR2	TP4OVPR1	TP4OVPR0
FFFFF146H	TP4CCIC0	TP4CCIF0	TP4CCMK0	0	0	0	TP4CCPR02	TP4CCPR01	TP4CCPR00
FFFFF148H	TP4CCIC1	TP4CCIF1	TP4CCMK1	0	0	0	TP4CCPR12	TP4CCPR11	TP4CCPR10
FFFFF14AH	TP5OVIC	TP5OVIF	TP5OVMK	0	0	0	TP5OVPR2	TP5OVPR1	TP5OVPR0
FFFFF14CH	TP5CCIC0	TP5CCIF0	TP5CCMK0	0	0	0	TP5CCPR02	TP5CCPR01	TP5CCPR00
FFFFF14EH	TP5CCIC1	TP5CCIF1	TP5CCMK1	0	0	0	TP5CCPR12	TP5CCPR11	TP5CCPR10
FFFFF150H	TM0EQIC0	TM0EQIF0	TM0EQMK0	0	0	0	TM0EQPR02	TM0EQPR01	TM0EQPR00
FFFFF152H	CB0RIC/ IICIC1	CB0RIF/ IICIF1	CB0RMK/ IICMK1	0	0	0	CB0RPR2/ IICPR12	CB0RPR1/ IICPR11	CB0RPR0/ IICPR10
FFFFF154H	CB0TIC	CB0TIF	CB0TMK	0	0	0	CB0TPR2	CB0TPR1	CB0TPR0
FFFFF156H	CB1RIC	CB1RIF	CB1RMK	0	0	0	CB1RPR2	CB1RPR1	CB1RPR0
FFFFF158H	CB1TIC	CB1TIF	CB1TMK	0	0	0	CB1TPR2	CB1TPR1	CB1TPR0
FFFFF15AH	CB2RIC	CB2RIF	CB2RMK	0	0	0	CB2RPR2	CB2RPR1	CB2RPR0
FFFFF15CH	CB2TIC	CB2TIF	CB2TMK	0	0	0	CB2TPR2	CB2TPR1	CB2TPR0
FFFFF15EH	CB3RIC	CB3RIF	CB3RMK	0	0	0	CB3RPR2	CB3RPR1	CB3RPR0
FFFFF160H	CB3TIC	CB3TIF	CB3TMK	0	0	0	CB3TPR2	CB3TPR1	CB3TPR0

表19ー2　割り込み制御レジスタ（xxICn）（2/2）

アドレス	レジスタ	ビット							
		⑦	⑥	5	4	3	2	1	0
FFFFF162H	UA0RIC/ CB4RIC	UA0RIF/ CB4RIF	UA0RMK/ CB4RMK	0	0	0	UA0RPR2/ CB4RPR2	UA0RPR1/ CB4RPR1	UA0RPR0/ CB4RPR0
FFFFF164H	UA0TIC/ CB4TIC	UA0TIF/ CB4TIF	UA0TMK/ CB4TMK	0	0	0	UA0TPR2/ CB4TPR2	UA0TPR1/ CB4TPR1	UA0TPR0/ CB4TPR0
FFFFF166H	UA1RIC/ IICIC2	UA1RIF/ IICIF2	UA1RMK/ IICMK2	0	0	0	UA1RPR2/ IICPR22	UA1RPR1/ IICPR21	UA1RPR0/ IICPR20
FFFFF168H	UA1TIC	UA1TIF	UA1TMK	0	0	0	UA1TPR2	UA1TPR1	UA1TPR0
FFFFF16AH	UA2RIC/ IICIC0	UA2RIF/ IICIF0	UA2RMK/ IICMK0	0	0	0	UA2RPR2/ IICPR02	UA2RPR1/ IICPR01	UA2RPR0/ IICPR00
FFFFF16CH	UA2TIC	UA2TIF	UA2TMK	0	0	0	UA2TPR2	UA2TPR1	UA2TPR0
FFFFF16EH	ADIC	ADIF	ADMK	0	0	0	ADPR2	ADPR1	ADPR0
FFFFF170H	DMAIC0	DMAIF0	DMAMK0	0	0	0	DMAPR02	DMAPR01	DMAPR00
FFFFF172H	DMAIC1	DMAIF1	DMAMK1	0	0	0	DMAPR12	DMAPR11	DMAPR10
FFFFF174H	DMAIC2	DMAIF2	DMAMK2	0	0	0	DMAPR22	DMAPR21	DMAPR20
FFFFF176H	DMAIC3	DMAIF3	DMAMK3	0	0	0	DMAPR32	DMAPR31	DMAPR30
FFFFF178H	KRIC	KRIF	KRMK	0	0	0	KRPR2	KRPR1	KRPR0
FFFFF17AH	WTIIC	WTIIF	WTIMK	0	0	0	WTIPR2	WTIPR1	WTIPR0
FFFFF17CH	WTIC	WTIF	WTMK	0	0	0	WTPR2	WTPR1	WTPR0
FFFFF18EH	PIC8	PIF8	PMK8	0	0	0	PPR82	PPR81	PPR80
FFFFF190H	TP6OVIC	TP6OVIF	TP6OVMK	0	0	0	TP6OVPR2	TP6OVPR1	TP6OVPR0
FFFFF192H	TP6CCIC0	TP6CCIF0	TP6CCMK0	0	0	0	TP6CCPR02	TP6CCPR01	TP6CCPR00
FFFFF194H	TP6CCIC1	TP6CCIF1	TP6CCMK1	0	0	0	TP6CCPR12	TP6CCPR11	TP6CCPR10
FFFFF196H	TP7OVIC	TP7OVIF	TP7OVMK	0	0	0	TP7OVPR2	TP7OVPR1	TP7OVPR0
FFFFF198H	TP7CCIC0	TP7CCIF0	TP7CCMK0	0	0	0	TP7CCPR02	TP7CCPR01	TP7CCPR00
FFFFF19AH	TP7CCIC1	TP7CCIF1	TP7CCMK1	0	0	0	TP7CCPR12	TP7CCPR11	TP7CCPR10
FFFFF19CH	TP8OVIC	TP8OVIF	TP8OVMK	0	0	0	TP8OVPR2	TP8OVPR1	TP8OVPR0
FFFFF19EH	TP8CCIC0	TP8CCIF0	TP8CCMK0	0	0	0	TP8CCPR02	TP8CCPR01	TP8CCPR00
FFFFF1A0H	TP8CCIC1	TP8CCIF1	TP8CCMK1	0	0	0	TP8CCPR12	TP8CCPR11	TP8CCPR10
FFFFF1A2H	CB5RIC	CB5RIF	CB5RMK	0	0	0	CB5RPR2	CB5RPR1	CB5RPR0
FFFFF1A4H	CB5TIC	CB5TIF	CB5TMK	0	0	0	CB5TPR2	CB5TPR1	CB5TPR0
FFFFF1A6H	UA3RIC	UA3RIF	UA3RMK	0	0	0	UA3RPR2	UA3RPR1	UA3RPR0
FFFFF1A8H	UA3TIC	UA3TIF	UA3TMK	0	0	0	UA3TPR2	UA3TPR1	UA3TPR0

19. 3. 5　割り込みマスク・レジスタ0-4（IMR0-IMR4）

マスカブル割り込みに対する割り込みマスク状態を設定します。IMR0-IMR4レジスタのxxMKnビットとxxICn.xxMKnビットは，それぞれ連結しています。

IMRmレジスタは，16ビット単位でリード／ライト可能です（m = 0-4）。

IMRmレジスタの上位8ビットをIMRmHレジスタ，下位8ビットをIMRmLレジスタとして使用する場合は，8/1ビット単位でリード／ライト可能です（m = 0-4）。

リセットによりFFFFHになります。

注意　デバイス・ファイルでは，xxICn.xxMKnビットを予約語として定義しています。したがって，xxMKnビットの名称でビット操作を行うと，IMRmレジスタではなくxxICnレジスタを書き換えます（結果としてIMRmレジスタも書き換わります）。

リセット時：FFFFH　R/W　**アドレス：IMR4** FFFFF108H,
IMR4L FFFFF108H, IMR4H FFFFF109H

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR4（**IMR4H注**）	1	1	1	UA3TMK	UA3RMK	CB5TMK	CB5RMK	TP8CCMK1
	7	6	5	4	3	2	1	0
IMR4**L**	TP8CCMK0	TP8OVMK	TP7CCMK1	TP7CCMK0	TP7OVMK	TP6CCMK1	TP6CCMK0	TP6OVMK

リセット時：FFFFH　R/W　**アドレス：IMR3** FFFFF106H,
IMR3L FFFFF106H, IMR3H FFFFF107H

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR3（**IMR3H注**）	PMK8	1	1	1	1	1	1	1
	7	6	5	4	3	2	1	0
IMR3**L**	1	WTMK	WTIMK	KRMK	DMAMK3	DMAMK2	DMAMK1	DMAMK0

リセット時：FFFFH　R/W　**アドレス：IMR2** FFFFF104H,
IMR2L FFFFF104H, IMR2H FFFFF105H

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR2（**IMR2H注**）	ADMK	UA2TMK	UA2RMK/IICMK0	UA1TMK	UA1RMK/IICMK2	UA0TMK/CB4TMK	UA0RMK/CB4RMK	CB3TMK
	7	6	5	4	3	2	1	0
IMR2**L**	CB3RMK	CB2TMK	CB2RMK	CB1TMK	CB1RMK	CB0TMK	CB0RMK/IICMK1	TM0EQMK0

リセット時：FFFFH　R/W　**アドレス：IMR1** FFFFF102H,
IMR1L FFFFF102H, IMR1H FFFFF103H

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR1（**IMR1H注**）	TP5CCMK1	TP5CCMK0	TP5OVMK	TP4CCMK1	TP4CCMK0	TP4OVMK	TP3CCMK1	TP3CCMK0
	7	6	5	4	3	2	1	0
IMR1**L**	TP3OVMK	TP2CCMK1	TP2CCMK0	TP2OVMK	TP1CCMK1	TP1CCMK0	TP1OVMK	TP0CCMK1

リセット時：FFFFH　R/W　**アドレス：IMR0** FFFFF100H,
IMR0L FFFFF100H, IMR0H FFFFF101H

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR0（**IMR0H注**）	TP0CCMK0	TP0OVMK	TQ0CCMK3	TQ0CCMK2	TQ0CCMK1	TQ0CCMK0	TQ0OVMK	PMK7
	7	6	5	4	3	2	1	0
IMR0**L**	PMK6	PMK5	PMK4	PMK3	PMK2	PMK1	PMK0	LVIMK

xxMKn	**割り込みマスク・フラグの設定**
0	**割り込み処理を許可**
1	**割り込み処理を禁止**

注　IMR0-IMR4**レジスタのビット**8-15**を**8/1**ビット単位でリード／ライトする場合は，**
IMR0H-IMR4H**レジスタのビット**0-7**として指定してください。**

注意　IMR4**レジスタのビット**13-15, IMR3**レジスタのビット**7-14**には**1**を設定してください。**
変更した場合の動作は保証できません。

備考　xx：**各周辺ユニット識別名称（表**19**ー**2　**割り込み制御レジスタ（**xxICn**）参照）**
n　：**周辺ユニット番号（表**19**ー**2　**割り込み制御レジスタ（**xxICn**）参照）**

19. 3. 6　インサービス・プライオリティ・レジスタ（ISPR）

受け付け中のマスカブル割り込みの優先順位レベルを保持します。割り込み要求信号が受け付けられると，その割り込み要求信号の優先順位レベルに対応するビットがセット（1）され，サービス中保持されます。

RETI命令の実行時，ISPRレジスタ内でセット（1）されているビットのうち，最も優先順位の高い割り込み要求信号に対応するビットがハードウエアにより自動的にリセット（0）されます。ただし，ノンマスカブルの割り込み処理や例外処理からの復帰の場合はリセット（0）されません。

8/1ビット単位でリードのみ可能です。

リセットにより00Hになります。

注意　割り込み許可（EI）状態において，ISPRレジスタをリード中に割り込みを受け付けた場合，その割り込み受け付けによるビットがセット（1）されたあとのISPRレジスタ値がリードされることがあります。割り込み受け付け前のISPRレジスタの値を確実にリードしたい場合は，割り込み禁止（DI）状態でリードしてください。

リセット時：00H　R　アドレス：FFFFF1FAH

	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	⓪
ISPR	ISPR7	ISPR6	ISPR5	ISPR4	ISPR3	ISPR2	ISPR1	ISPR0

ISPRn	受け付け中の割り込みの優先順位
0	優先順位nの割り込み要求信号を受け付けていない
1	優先順位nの割り込み要求信号を受け付け中

備考　n：0-7（優先順位のレベル）

19. 3. 7　IDフラグ

マスカブル割り込みの動作状態を制御し，割り込み要求信号受け付けの許可／禁止制御情報を記憶します。割り込み禁止フラグ（ID）は，PSWに割り付けられています。

リセットにより00000020Hになります。

リセット時：00000020H

	31							8	7	6	5	4	3	2	1	0
PSW	0								NP	EP	ID	SAT	CY	OV	S	Z

ID	マスカブル割り込み処理の指定注
0	マスカブル割り込み要求信号の受け付けを許可
1	マスカブル割り込み要求信号の受け付けを禁止

注　割り込み禁止フラグ（ID）の機能

DI命令でセット（1），EI命令でクリア（0）されます。また，RETI命令およびPSWへのLDSR命令により値が書き換えられます。

ノンマスカブル割り込み要求信号および例外は，このフラグの状態に関係なく受け付けられます。

また，マスカブル割り込み要求信号を受け付けると，IDフラグはハードウエアで自動的にセット（1）されます。

受け付け禁止期間中（IDフラグ = 1）に発生した割り込み要求信号は，xxICn.xxIFnビットがセット（1）され，IDフラグがクリア（0）されると受け付けられます。

19. 3. 8　ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2（WDTM2）

8ビット単位でリード／ライト可能です（詳細は第11章　ウォッチドッグ・タイマ2機能参照）。

リセットにより67Hになります。

リセット時：67H　R/W　アドレス：FFFFF6D0H

	7	6	5	4	3	2	1	0
WDTM2	0	WDM21	WDM20	0	0	0	0	0

WDM21	WDM20	ウォッチドッグ・タイマの動作モードの選択
0	0	動作停止
0	1	ノンマスカブル割り込み要求モード
1	×	リセット・モード（初期値）

19. 4　ソフトウエア例外

ソフトウエア例外は，CPUのTRAP命令の実行により発生する例外で，常に受け付け可能です。

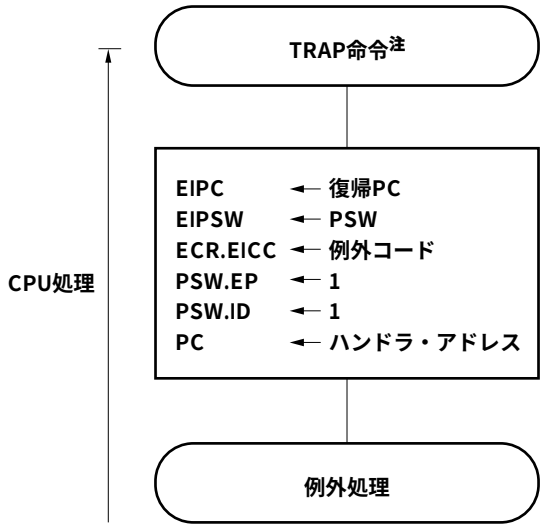
19. 4. 1　動　　作

ソフトウエア例外が発生した場合，CPUは次の処理を行い，ハンドラ・ルーチンへ制御を移します。

① 復帰PCをEIPCに退避します。
② 現在のPSWをEIPSWに退避します。
③ ECR（割り込み要因）の下位16ビット（EICC）に例外コードを書き込みます。
④ PSW.EP, IDビットをセット（1）します。
⑤ PCにソフトウエア例外に対するハンドラ・アドレス（00000040Hまたは00000050H）をセットし，制御を移します。

ソフトウエア例外の処理形態を次に示します。

図19－9　ソフトウエア例外の処理形態



注　TRAP命令フォーマット：TRAP vector（ただし，vectorは00H-1FHの値）

ハンドラ・アドレスは，TRAP命令のオペランド（vector）によって決まります。vectorが00H-0FHの場合は00000040Hとなり，10H-1FHの場合は00000050Hとなります。

19. 4. 2　復　　帰

ソフトウエア例外処理からの復帰は，RETI命令により行います。

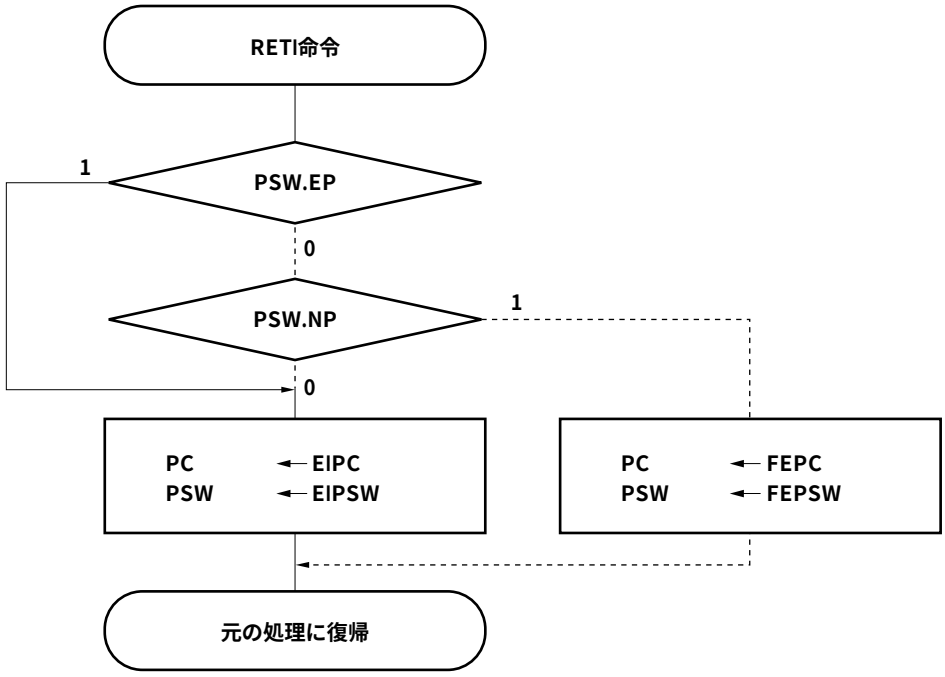
RETI命令の実行により，CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスへ制御を移します。

① PSW.EPビットは1なので，EIPC, EIPSWから復帰PC, PSWを取り出します。

② 取り出した復帰PCのアドレス，PSWの状態に制御を移します。

RETI命令の処理形態を次に示します。

図19－10　RETI命令の処理形態



注意　ソフトウエア例外処理中にLDSR命令によりEP, NPビットを変更した場合には，RETI命令による復帰時にPCとPSWを正常にリストアするために，RETI命令の直前で，LDSR命令を使用してEPビット = 1かつNPビット = 0に戻しておく必要があります。

備考　CPUは実線のフローで処理します。

19. 4. 3　EP**フラグ**

EP**フラグは例外処理中であることを示すステータス・フラグです。例外の発生でセットされます。**

リセット時：00000020H

	31		8	7	6	5	4	3	2	1	0
PSW	**0**			**NP**	**EP**	**ID**	**SAT**	**CY**	**OV**	**S**	**Z**

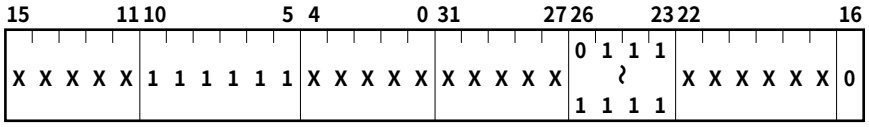
EP	例外処理状態
0	例外処理中でない
1	例外処理中

19. 5　例外トラップ

例外トラップは，命令の不正実行が発生した場合に要求される割り込みです。V850ES/JJ3では，不正命令コード・トラップ（ILGOP：Illegal Opcode Trap）が例外トラップに当たります。

19. 5. 1　不正命令コード

不正命令は，命令のオペコード（ビット10-5）が111111Bで，サブオペコード（ビット26-23）が0111B-1111B，サブオペコード（ビット16）が0Bであるものです。この不正命令に当てはまる命令を実行したときに，例外トラップが発生します。



X：任意

注意　不正命令コードには，将来，新規に命令を割り当てる可能性があるため，使用しないことを推奨します。

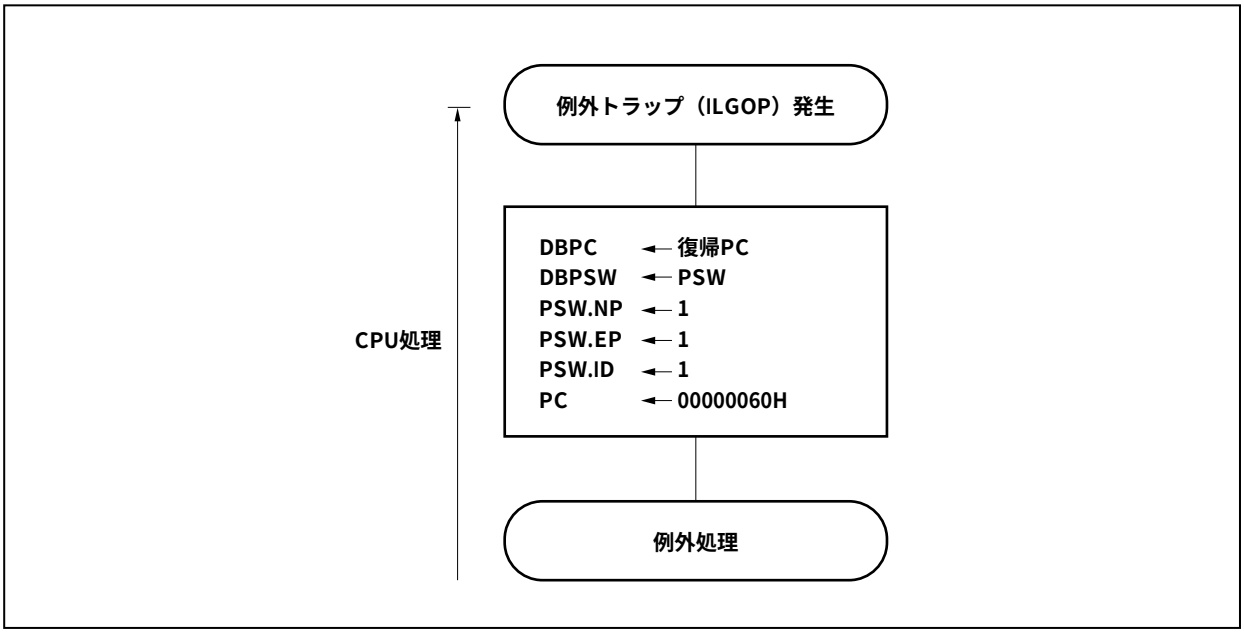
（1）動　　作

例外トラップが発生した場合，CPUは次の処理を行い，ハンドラ・ルーチンへ制御を移します。

① 復帰PCをDBPCに退避します。
② 現在のPSWをDBPSWに退避します。
③ PSW.NP, EP, IDビットをセット（1）します。
④ PCに例外トラップに対するハンドラ・アドレス（00000060H）をセットし，制御を移します。

例外トラップの処理形態を次に示します。

図19－11　例外トラップの処理形態



(2) 復　　帰

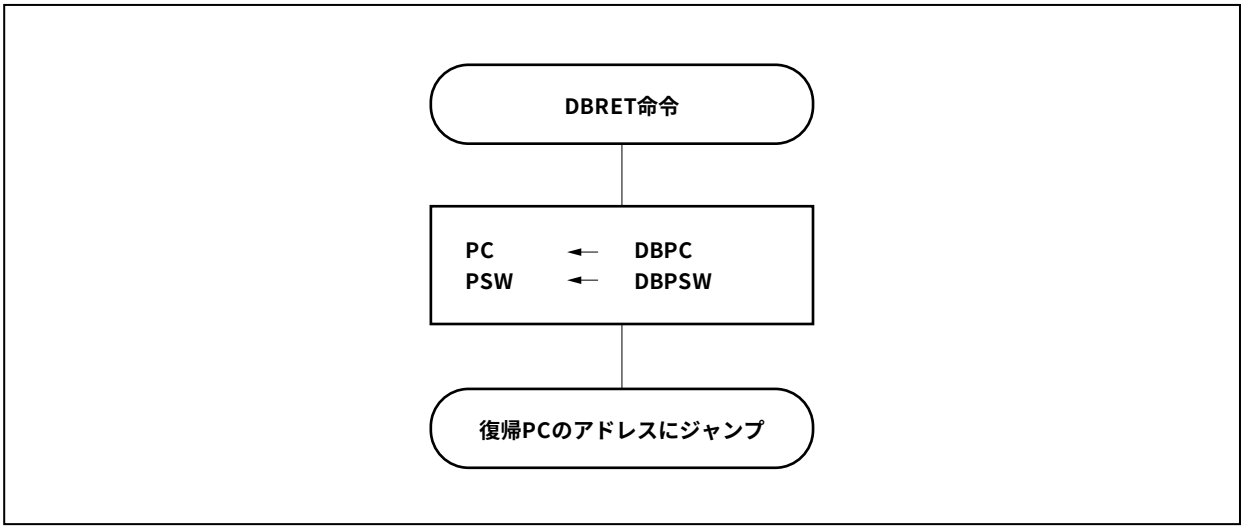
例外トラップからの復帰は，DBRET命令により行われます。DBRET命令の実行により，CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスを制御します。

① DBPC, DBPSWから復帰PC, PSWを取り出します。
② 取り出した復帰PC, PSWのアドレスに制御を移します。

注意 DBPC, DBPSWには，不正命令コードを実行してからDBRET命令を実行するまでの期間だけアクセス可能です。

例外トラップからの復帰の処理形態を次に示します。

図19－12　例外トラップからの復帰の処理形態



19. 5. 2　デバッグ・トラップ

デバッグ・トラップは，DBTRAP命令の実行により発生する常時受け付けが可能な例外です。

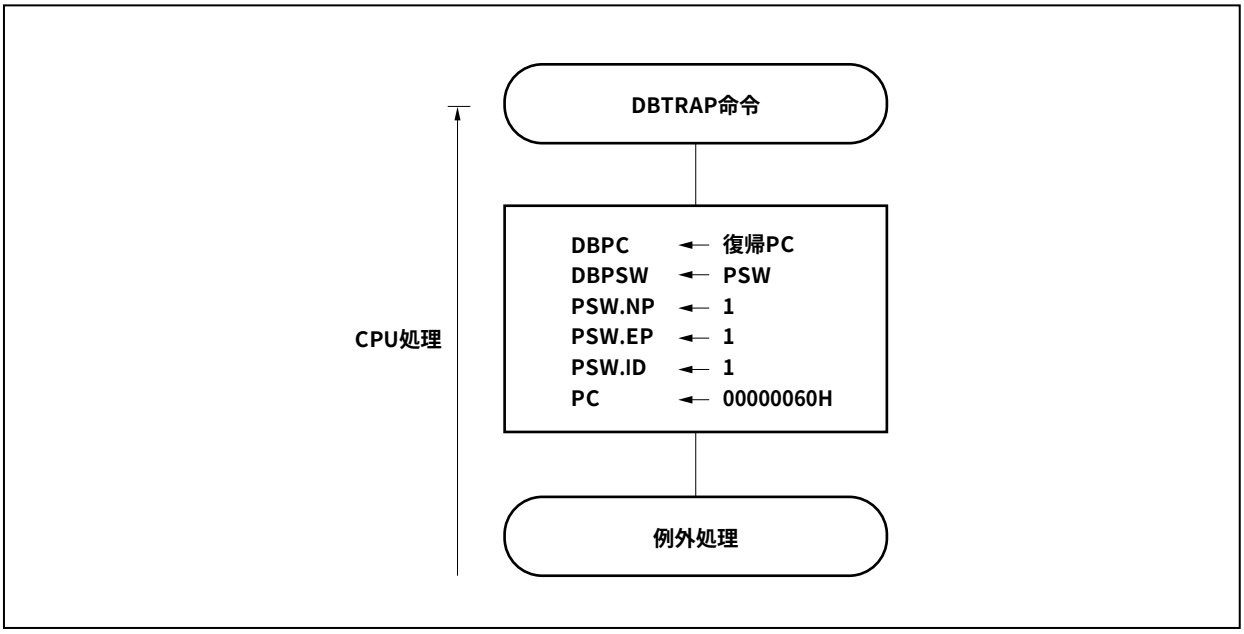
(1) 動　　作

デバッグ・トラップが発生した場合，CPU は次の処理を行います。

① 復帰PCをDBPCに退避します。
② 現在のPSWをDBPSWに退避します。
③ PSW.NP, EP, IDビットをセット（1）します。
④ PCにデバッグ・トラップに対するハンドラ・アドレス（00000060H）をセットし，制御を移します。

デバッグ・トラップの処理形態を次に示します。

図19－13　デバッグ・トラップの処理形態



(2) 復　　帰

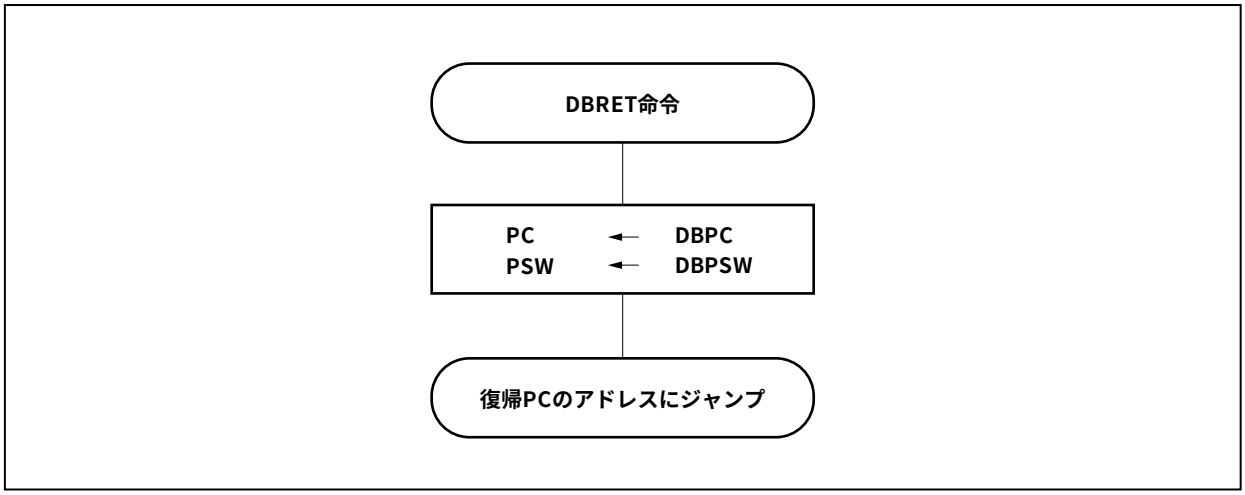
デバッグ・トラップからの復帰は，DBRET命令により行われます。DBRET命令の実行により，CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスを制御します。

① DBPC, DBPSWから復帰PC, PSWを取り出します。
② 取り出した復帰PC, PSWのアドレスに制御を移します。

注意　DBPCとDBPSWには，DBTRAP命令を実行してからDBRET命令を実行するまでの期間だけアクセス可能です。

デバッグ・トラップからの復帰の処理形態を次に示します。

図19－14　デバッグ・トラップからの復帰の処理形態



19. 6　外部割り込み要求入力端子（NMI, INTP0-INTP8）

19. 6. 1　ノイズ除去

（1）NMI端子のノイズ除去

NMI端子はアナログ・ディレイによるノイズ除去回路を内蔵しています。したがって，NMI端子への入力レベルを一定時間以上維持しなければ，エッジとして検出できません。また，エッジの検出は一定時間後になります。

なお，NMI端子はSTOPモードの解除に使用できます。STOPモードでは，内部システム・クロックは停止しているため，システム・クロックを使用したノイズ除去を行っていません。

（2）INTP0-INTP8端子のノイズ除去

INTP0-INTP8端子はアナログ・ディレイによるノイズ除去回路を内蔵しています。したがって，各端子への入力レベルを一定時間以上維持しなければ，エッジとして検出できません。また，エッジの検出は一定時間後になります。

19. 6. 2　エッジ検出

NMI, INTP0-INTP8端子の有効エッジは，次の4種類から端子ごとに選択できます。

- 立ち上がりエッジ
- 立ち下がりエッジ
- 両エッジ
- エッジ検出なし

リセット後のNMI端子は“エッジ検出なし”になっていますので，INTF0, INTR0レジスタで有効エッジを許可しないと，割り込み要求信号を受け付けません（通常ポートとして機能します）。

(1) 外部割り込み立ち下がり，立ち上がりエッジ指定レジスタ0（INTF0, INTR0）

ビット2でNMI端子，ビット3-6で外部割り込み端子（INTP0-INTP3）の立ち下がり，立ち上がりエッジ検出を指定する8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

注意　外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に切り替える際，エッジ検出を行う可能性があるため，INTF0n, INTR0nビット = 00に設定したあとにポート・モードに設定してください。

リセット時：00H　R/W　アドレス：INTF0 FFFFFC00H, INTR0 FFFFFC20H

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTF0	0	INTF06	INTF05	INTF04	INTF03	INTF02	0	0
		INTP3	INTP2	INTP1	INTP0	NMI		

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTR0	0	INTR06	INTR05	INTR04	INTR03	INTR02	0	0
		INTP3	INTP2	INTP1	INTP0	NMI		

備考　有効エッジの指定については表19ー3を参照してください。

表19ー3　有効エッジの指定

INTF0n	INTR0n	有効エッジの指定（n = 2-6）
0	0	エッジ検出なし
0	1	立ち上がりエッジ
1	0	立ち下がりエッジ
1	1	両エッジ

注意　NMI, INTP0-INTP3端子として使用しない場合，必ずINTF0n, INTR0nビット = 00に設定してください。

備考　n = 2　：NMI端子の制御

n = 3-6：INTP0-INTP3端子の制御

(2) 外部割り込み立ち下がり，立ち上がりエッジ指定レジスタ3（INTF3, INTR3）

外部割り込み端子（INTP7）の立ち下がり，立ち上がりエッジ検出を指定する8ビットのレジスタです。
8/1ビット単位でリード／ライト可能です。
リセットにより00Hになります。

注意1. 外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に切り替える際，エッジ検出を行う可能性があるため，INTF31, INTR31ビット = 00に設定したあとにポート・モードに設定してください。

2. INTP7端子とRXDA0端子は兼用となっています。RXDA0端子として使用する場合は兼用しているINTP7端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF3.INTF31ビット = 0, INTR3.INTR31ビット = 0に設定）。またINTP7端子として使用する場合はUARTA0を受信動作停止としてください（UA0CTL0.UA0RXEビット = 0）。

リセット時：00H　R/W　アドレス：INTF3 FFFFFC06H, INTR3 FFFFFC26H

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTF3	0	0	0	0	0	0	INTF31	0
							INTP7	

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTR3	0	0	0	0	0	0	INTR31	0
							INTP7	

備考　有効エッジの指定については表19－4を参照してください。

表19－4　有効エッジの指定

INTF31	INTR31	有効エッジの指定
0	0	エッジ検出なし
0	1	立ち上がりエッジ
1	0	立ち下がりエッジ
1	1	両エッジ

注意　INTP7端子として使用しない場合，必ずINTF31, INTR31ビット = 00に設定してください。

(3) 外部割り込み立ち下がり，立ち上がりエッジ指定レジスタ8（INTF8, INTR8）

外部割り込み端子（INTP8）の立ち下がり，立ち上がりエッジ検出を指定する8ビットのレジスタです。
8/1ビット単位でリード／ライト可能です。
リセットにより00Hになります。

注意1. 外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に切り替える際，エッジ検出を行う可能性があるため，INTF80, INTR80ビット = 00に設定したあとにポート・モードに設定してください。

2. INTP8端子とRXDA3端子は兼用となっています。RXDA3端子として使用する場合は兼用しているINTP8端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF8.INTF80ビット = 0, INTR8.INTR80ビット = 0に設定）。またINTP8端子として使用する場合はUARTA3を受信動作停止としてください（UA3CTL0.UA3RXEビット = 0）。

リセット時：00H　R/W　アドレス：INTF8 FFFFFC10H, INTR8 FFFFFC30H

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTF8	0	0	0	0	0	0	0	INTF80
								INTP8

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTR8	0	0	0	0	0	0	0	INTR80
								INTP8

備考　有効エッジの指定については表19－5を参照してください。

表19－5　有効エッジの指定

INTF80	INTR80	有効エッジの指定
0	0	エッジ検出なし
0	1	立ち上がりエッジ
1	0	立ち下がりエッジ
1	1	両エッジ

注意　INTP8端子として使用しない場合，必ずINTF80, INTR80ビット = 00に設定してください。

(4) 外部割り込み立ち下がり，立ち上がりエッジ指定レジスタ9H（INTF9H, INTR9H）

外部割り込み端子（INTP4-INTP6）の立ち下がり，立ち上がりエッジ検出を指定する8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

注意　外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に切り替える際，エッジ検出を行う可能性があるため，INTF9n, INTR9nビット = 0に設定したあとにポート・モードに設定してください。

リセット時：00H　　R/W　　アドレス：INTF9H FFFFFC13H, INTR9H FFFFFC33H

	15	14	13	12	11	10	9	8
INTF9H	INTF915	INTF914	INTF913	0	0	0	0	0
	INTP6	INTP5	INTP4					

	15	14	13	12	11	10	9	8
INTR9H	INTR915	INTR914	INTR913	0	0	0	0	0
	INTP6	INTP5	INTP4					

備考　有効エッジの指定については表19－6を参照してください。

表19－6　有効エッジの指定

INTF9n	INTR9n	有効エッジの指定（n = 13-15）
0	0	エッジ検出なし
0	1	立ち上がりエッジ
1	0	立ち下がりエッジ
1	1	両エッジ

注意　INTP4-INTP6端子として使用しない場合，必ずINTF9n, INTR9nビット = 00に設定してください。

備考　n = 13-15：INTP4-INTP6端子の制御

(5) ノイズ除去制御レジスタ（NFC）

INTP3端子はディジタル・ノイズ除去を選択することが可能で，NFCレジスタにてノイズ除去の設定を選択します。

ディジタル・ノイズ除去を選択した場合，ディジタル・サンプリングを行うサンプリング・クロックを，f_{XX}/64, f_{XX}/128, f_{XX}/256, f_{XX}/512, f_{XX}/1024, f_{XT}の中から選択できます。なおサンプリングの回数は3回です。

ディジタル・ノイズ除去を選択した場合でも，サンプリング・クロックにf_{XT}を使用すると，IDLE1/IDLE2/STOPモードの解除にINTP3の割り込み要求信号を使用できます。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

注意　サンプリング・クロック変更後，ディジタル・ノイズ除去回路が初期化されるのに，サンプリング・クロックx3クロックの時間かかります。そのため，サンプリング・クロックを変更してからサンプリング・クロックx3クロックの間に，INTP3の有効エッジが入力されると割り込み要求信号が発生する可能性があります。したがって，割り込み機能，DMA機能を使用する場合は，次の点を注意してください。

- 割り込み機能使用時は，サンプリング・クロックx3クロック経過後，割り込み要求フラグ（PIC3.PIF3ビット）をクリアしてから割り込みを許可してください。
- DMA機能使用時（INTP3で起動）は，サンプリング・クロックx3クロック経過後，DMAを許可してください。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF318H

	7	6	5	4	3	2	1	0
NFC	NFEN	0	0	0	0	NFC2	NFC1	NFC0

NFEN	INTP3端子のノイズ除去の設定
0	アナログ・ノイズ除去を行う（60 ns（TYP.））
1	ディジタル・ノイズ除去を行う

NFC2	NFC1	NFC0	ディジタル・サンプリングを行うクロック
0	0	0	f_{XX}/64
0	0	1	f_{XX}/128
0	1	0	f_{XX}/256
0	1	1	f_{XX}/512
1	0	0	f_{XX}/1024
1	0	1	f_{XT}（サブクロック）
その他			設定禁止

備考1. 3回サンプリングするため，確実に除去するノイズ幅はサンプリング・クロックx2となります。

2. サンプリング・クロックx2より短いノイズがあっても，サンプリング・クロックに同期したノイズが入力された場合には，割り込み要求信号が発生します。

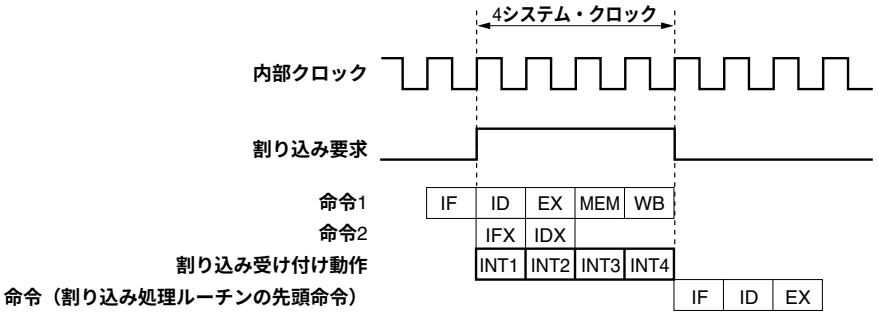
19. 7　CPUの割り込み応答時間

次の場合を除き，CPUの割り込み応答時間は，最小4クロックとなります。連続して割り込み要求信号を入力する場合には，最低でも4クロック以上間をあけて次の割り込み要求信号を入力する必要があります。

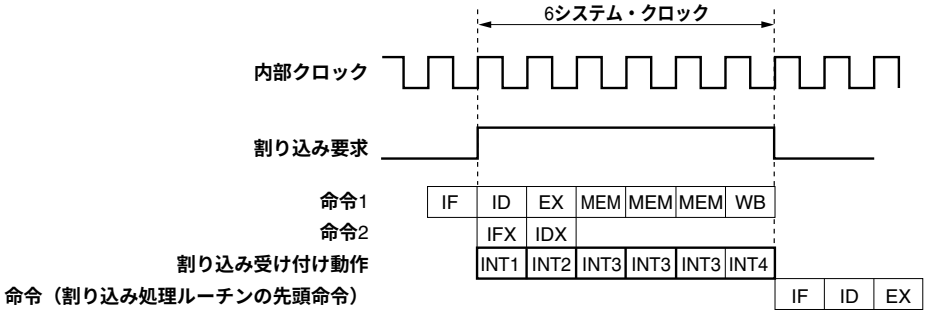
- IDLE1/IDLE2/STOPモード時
- 外部バス・アクセス時
- 割り込み要求非サンプル命令（19. 8　CPUが割り込みを受け付けない期間参照）が連続しているとき
- 割り込み制御レジスタへのアクセス時

図19－15　割り込み要求信号受け付け時のパイプライン動作例（概略）

（1）最小割り込み応答時間



（2）最大割り込み応答時間



備考　INT1-INT4：割り込み受け付け処理
IFX：無効となる命令フェッチ
IDX：無効となる命令デコード

割り込み応答時間（内部システム・クロック）			条　件
	内部割り込み	外部割り込み	
最小	4	4＋アナログ・ディレイ時間	次の場合は除きます。 ・IDLE1, IDLE2, STOPモード時 ・外部バス・アクセス時 ・割り込み要求非サンプル命令が連続しているとき ・周辺I/Oレジスタへのアクセス時
最大	6	6＋アナログ・ディレイ時間	

19. 8　CPUが割り込みを受け付けない期間

CPUの割り込み受け付けは，命令の実行中に行います。ただし，割り込み要求非サンプル命令とその次の命令の間では，割り込みを受け付けません（割り込みは保留されます）。

割り込み要求非サンプル命令は次のとおりです。

- EI命令
- DI命令
- LDSR　reg2, 0x5命令（対PSW）
- PRCMDレジスタに対するストア命令
- 次のレジスタに対するストア命令およびSET1, NOT1, CLR1命令
  - 割り込み関連のレジスタ：
    割り込み制御レジスタ（xxICn），割り込みマスク・レジスタ0-4（IMR0-IMR4）
  - パワー・セーブ・コントロール・レジスタ（PSC）
  - オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ（OCDM）

備考　xx：各周辺ユニット識別名称（表19－2　割り込み制御レジスタ（xxICn）参照）
　　n　：周辺ユニット番号（表19－2　割り込み制御レジスタ（xxICn）参照）

19. 9　注意事項

NMI端子はP02と兼用しており，リセット後は通常ポートとして機能します。NMI端子を使用する場合には，PMC0レジスタでNMI端子を有効にしてください。また，NMI端子の初期設定は“エッジ検出なし”になっていますので，INTF0, INTR0レジスタで有効エッジを選択してください。

第20章　キー割り込み機能

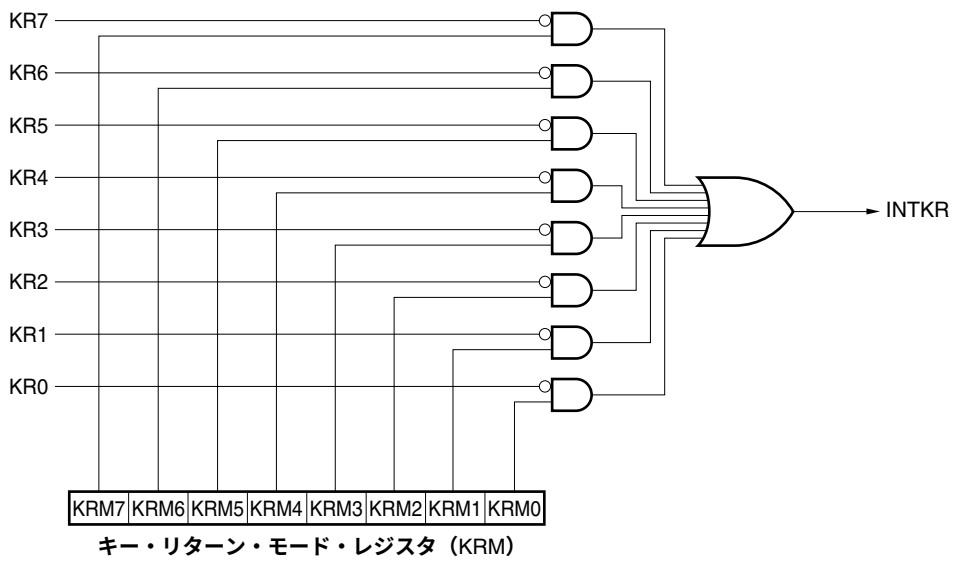
20. 1　機　　能

KRMレジスタの設定により，キー入力端子（KR0-KR7）に立ち下がりエッジを入力することによって，キー割り込み要求信号（INTKR）を発生させることができます。

表20－1　キー・リターン検出端子の割り当て

フラグ	設定される端子
KRM0	KR0信号を1ビット単位で制御
KRM1	KR1信号を1ビット単位で制御
KRM2	KR2信号を1ビット単位で制御
KRM3	KR3信号を1ビット単位で制御
KRM4	KR4信号を1ビット単位で制御
KRM5	KR5信号を1ビット単位で制御
KRM6	KR6信号を1ビット単位で制御
KRM7	KR7信号を1ビット単位で制御

図20－1　キー・リターンのブロック図



20. 2　レジスタ

(1) キー・リターン・モード・レジスタ（KRM）

KRMレジスタは，KRM0-KRM7ビットでそれぞれKR0-KR7信号を制御するレジスタです。
8/1ビット単位でリード／ライト可能です。
リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF300H

	7	6	5	4	3	2	1	0
KRM	KRM7	KRM6	KRM5	KRM4	KRM3	KRM2	KRM1	KRM0

KRMn	キー・リターン・モードの制御
0	キー・リターン信号を検出しない
1	キー・リターン信号を検出する

注意　KRMレジスタを書き換える場合は，一度00Hとしてから書き換えてください。

備考　兼用端子の設定は表4－19　ポート端子を兼用端子として使用する場合を参照してください。

20. 3　注意事項

(1) KR0-KR7端子のうち1つでもロウ・レベルが入力されていると，別の端子の立ち下がりエッジを入力してもINTKR信号が発生しません。

(2) RXDA1端子とKR7端子は同時に使用することはできません。RXDA1端子を使用する場合は，KR7端子を使用しないでください。また，KR7端子を使用する場合は，RXDA1端子を使用しないでください（PFC91ビット = 1, PFCE91ビット = 0に設定することを推奨します）。

(3) KRMレジスタを変更すると，割り込み要求信号（INTKR）が発生する場合があります。したがって，あらかじめ割り込みを禁止（DI）またはマスクしてからKRMレジスタを変更し，割り込み要求フラグ（KRIC.KRIFビット）をクリア（0）してから，割り込みを許可（EI）またはマスク解除してください。

(4) キー割り込み機能を使用する場合は，必ずポート端子をキー・リターン用端子に設定してからKRMレジスタで動作を許可してください。また，逆にキー・リターン用端子からポート端子に切り替える場合は，KRMレジスタで動作を禁止してからポート端子の設定を行ってください。

第21章　スタンバイ機能

21. 1　概　　要

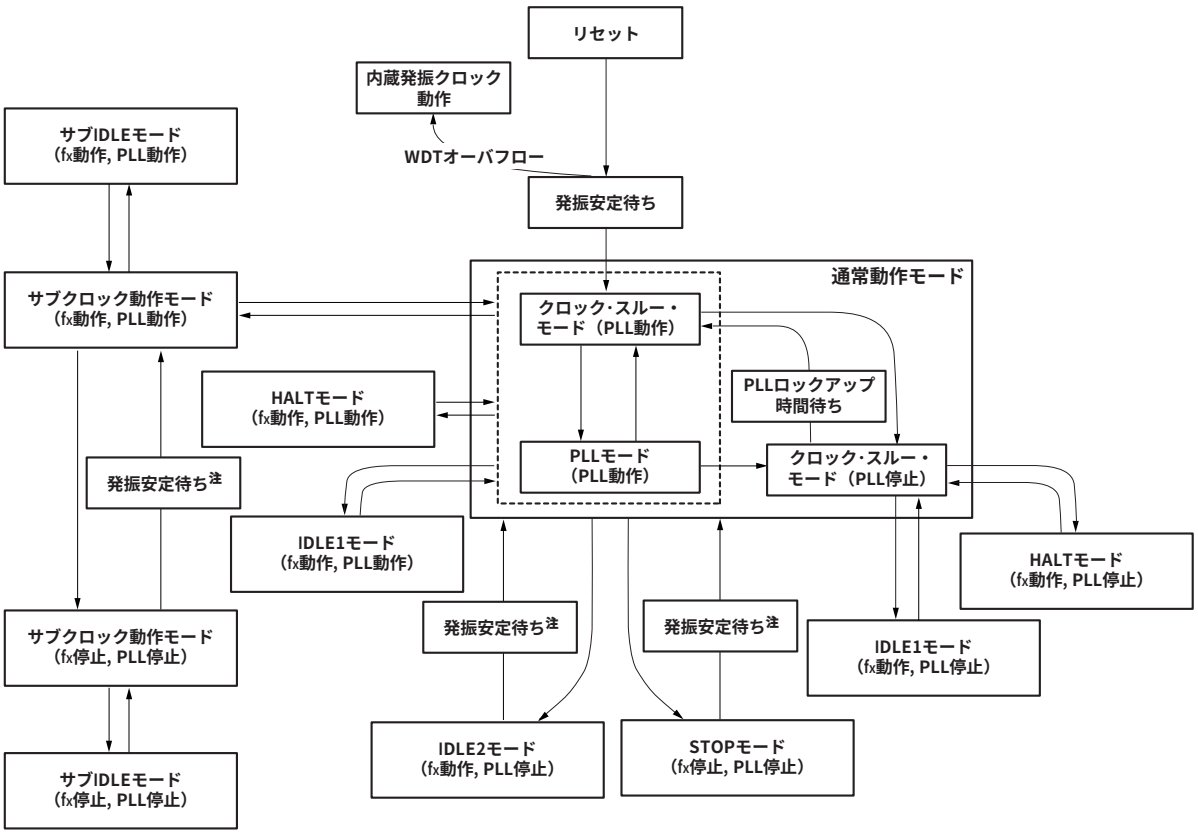
各モードを組み合わせ，用途によって切り替えて使用すると，効果的な低消費電力システムを実現できます。スタンバイ機能には，次に示すものがあります。

表21－1　スタンバイ機能のモード一覧

モード	機能概要
HALTモード	CPUの動作クロックのみを停止させるモード
IDLE1モード	発振回路，PLL動作[注]，フラッシュ・メモリ以外の内部回路の動作をすべて停止させるモード
IDLE2モード	発振回路以外の内部回路の動作をすべて停止させるモード
STOPモード	サブクロック発振回路以外の内部回路の動作をすべて停止させるモード
サブクロック動作モード	内部システム・クロックをサブクロックで動作させるモード
サブIDLEモード	サブクロック動作モード時，発振回路以外の内部回路の動作をすべて停止させるモード

注　PLLは前の動作状態を保持します。

図21ー1　状態遷移図



注　発振安定時間中にWDTオーバフローが発生すると，CPUは内蔵発振クロック動作になります。

備考　fx：**メイン・クロック発振周波数**

21. 2　レジスタ

(1) パワー・セーブ・コントロール・レジスタ（PSC）

スタンバイ機能を制御する8ビットのレジスタです。STPビットの設定によりSTOPモードを指定します。PSCレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスの組み合わせによってだけ書き込みができます（3. 4. 7　特定レジスタ参照）。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF1FEH

	7	⑥	⑤	④	3	2	①	0
PSC	0	NMI1M	NMI0M	INTM	0	0	STP	0

NMI1M	INTWDT2信号発生によるスタンバイ・モード解除制御
0	INTWDT2信号によるスタンバイ・モード解除許可
1	INTWDT2信号によるスタンバイ・モード解除禁止

NMI0M	NMI端子入力によるスタンバイ・モード解除制御
0	NMI端子入力によるスタンバイ・モード解除許可
1	NMI端子入力によるスタンバイ・モード解除禁止

INTM	マスカブル割り込み要求信号によるスタンバイ・モード解除制御
0	マスカブル割り込み要求信号によるスタンバイ・モード解除許可
1	マスカブル割り込み要求信号によるスタンバイ・モード解除禁止

STP	スタンバイ・モード注の設定
0	通常モード
1	スタンバイ・モード

注　STPビットにおけるスタンバイ・モード：IDLE1, IDLE2, STOP，サブIDLEモード

注意1.　IDLE1, IDLE2, STOP，サブIDLEモードに設定するときは，PSMR.PSM1, PSM0ビットを設定してから，STPビットを設定してください。

2.　NMI1M, NMI0M, INTMビットの設定は，HALTモード解除時は無効です。

3.　NMI1M, NMI0M, INTMビットと，STPビットを同時にセット（1）した場合，NMI1M, NMI0M, INTMビットの設定は無効になります。したがって，IDLE1/IDLE2/STOPモードに移行する際にマスクされていない保留中の割り込み要求信号がある場合は，その割り込み要求信号に対するビット（NMI1M, NMI0M, INTM）をセット（1）したあとにSTPビットをセット（1）してください。

(2) パワー・セーブ・モード・レジスタ（PSMR）

パワー・セーブ・モードの動作状態やクロックの動作を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF820H

	7	6	5	4	3	2	①	⓪
PSMR	0	0	0	0	0	0	PSM1	PSM0

PSM1	PSM0	ソフトウエア・スタンバイ・モード時の動作指定
0	0	IDLE1，サブIDLEモード
0	1	STOPモード
1	0	IDLE2，サブIDLEモード
1	1	STOPモード

注意1.　ビット2-7には，必ず0を設定してください。

2.　PSM0, PSM1ビットは，PSC.STPビット = 1のときのみ有効です。

備考　IDLE1　：発振回路と一部の回路（フラッシュ・メモリ，PLL）以外の動作を停止するモードです。
IDLE1モード解除後，HALTモードと同様に発振安定時間を確保する必要なく，通常モードに復帰します。

IDLE2　：発振回路以外の動作を停止するモードです。
IDLE2モード解除後，OSTSレジスタで指定したセットアップ時間（フラッシュ・メモリ，PLL）を確保したあと，通常モードに復帰します。

STOP　：サブクロック発振回路以外の動作を停止するモードです。
STOPモード解除後，OSTSレジスタで指定した発振安定時間を確保したあと，通常モードに復帰します。

サブIDLE　：サブクロック動作モード時，発振回路以外の動作を停止するモードです。
割り込み要求信号によるサブIDLEモードの解除後，サブクロックの12周期分の時間を確保したあと，サブクロック動作モードに復帰します。

(3) 発振安定時間選択レジスタ（OSTS）

STOPモードを解除してから発振が安定するまでのウエイト時間や，IDLE2モードを解除してから内蔵フラッシュ・メモリが安定するまでのウエイト時間は，OSTSレジスタで制御します。

OSTSレジスタは，8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより06Hになります。

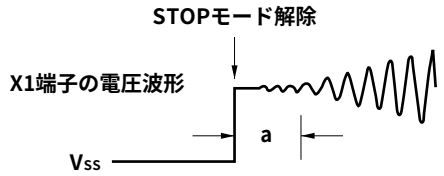
リセット時：06H　R/W　アドレス：FFFFF6C0H

	7	6	5	4	3	2	1	0
OSTS	0	0	0	0	0	OSTS2	OSTS1	OSTS0

OSTS2	OSTS1	OSTS0	発振安定時間／セットアップ時間の選択注		
				fx	
				4 MHz	5 MHz
0	0	0	2^{10}/fx	0.256 ms	0.205 ms
0	0	1	2^{11}/fx	0.512 ms	0.410 ms
0	1	0	2^{12}/fx	1.024 ms	0.819 ms
0	1	1	2^{13}/fx	2.048 ms	1.638 ms
1	0	0	2^{14}/fx	4.096 ms	3.277 ms
1	0	1	2^{15}/fx	8.192 ms	6.554 ms
1	1	0	2^{16}/fx	16.38 ms	13.107 ms
1	1	1	設定禁止		

注　発振安定時間はSTOPモードの解除時に，セットアップ時間はIDLE2モード解除時に必要になります。

注意1.　STOPモード解除時のウエイト時間は，リセットによる場合も，割り込み要求信号発生による場合も，STOPモード解除後クロック発振を開始するまでの時間（下図 a）は含みません。



2.　ビット7-3には必ず“0”を設定してください。

3.　リセット解除後の発振安定時間は，2^{16}/fx（OSTSレジスタの初期値 = 06Hのため）となります

備考　fx = メイン・クロック発振周波数

21. 3　HALTモード

21. 3. 1　設定および動作状態

通常動作モード時，専用命令（HALT命令）を実行することにより，HALTモードに設定されます。

HALTモードに設定すると，クロック発振回路は動作を継続しますが，CPUへのクロック供給のみが停止し，そのほかの内蔵周辺機能へのクロック供給は継続されます。

これにより，プログラムの実行が停止し，内蔵RAMの内容は，HALTモード設定前の状態を保持します。また，CPUの命令処理に依存しない内蔵周辺機能は動作を継続します。

表21－3にHALTモード時の動作状態を示します。

HALTモードは，通常動作モードとの間欠動作により，システム全体の平均消費電力を低減することができます。

注意1.　HALT命令の後には，NOP命令を5命令以上挿入してください。

2.　マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でHALT命令を実行した場合，HALTモードに移行するが，保留されている割り込み要求によりHALTモードはすぐに解除されます。

21. 3. 2　HALTモードの解除

HALTモードは，ノンマスカブル割り込み要求信号（NMI端子入力，INTWDT2信号），マスクされていない外部割り込み要求信号（INTP0-INTP8端子入力），HALTモード中に動作可能な周辺機能のマスクさていない内部割り込み要求信号，リセット信号（$\overline{\text{RESET}}$端子入力，WDT2RES信号，低電圧検出回路（LVI），クロック・モニタ（CLM）によるリセット）により解除されます。

HALTモードの解除により，通常動作モードに移行します。

(1) ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号

ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号により，優先順位とは無関係に解除されます。ただし，割り込み処理ルーチン内でHALTモードに設定した場合は次のようになります。

(a) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位の低い割り込み要求信号が発生するとHALTモードの解除だけ行い，この割り込み要求信号は受け付けません。割り込み要求信号そのものは保持します。

(b) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位が高い割り込み要求信号（ノンマスカブル割り込み要求信号を含む）が発生すると，HALTモードの解除とともにこの割り込み要求信号を受け付けます。

表21－2　割り込み要求信号によるHALTモード解除後の動作

解除ソース	割り込み許可（EI）状態	割り込み禁止（DI）状態
ノンマスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐	
マスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐， または次の命令を実行	次の命令を実行

(2) リセットによる解除

通常のリセット動作と同じです。

表21ー3　HALTモード時の動作状態

項　目 ＼ HALTモードの設定		動作状態	
		サブクロックがない場合	サブクロックがある場合
メイン・クロック発振回路		発振可能	
サブクロック発振回路		ー	発振可能
内蔵発振器		発振可能	
PLL		動作可能	
CPU		動作停止	
DMA		動作可能	
割り込みコントローラ		動作可能	
タイマP（TMP0-TMP8）		動作可能	
タイマQ（TMQ0）		動作可能	
タイマM（TMM0）		カウント・クロックにf_{XT}以外を選択時に動作可能	動作可能
時計用タイマ		カウント・クロックにf_X（BRG分周）を選択時に動作可能	動作可能
ウォッチドッグ・タイマ2		カウント・クロックにf_{XT}以外を選択時に動作可能	動作可能
シリアル・インタフェース	CSIB0-CSIB5	動作可能	
	I^2C00-I^2C02	動作可能	
	UARTA0-UARTA3	動作可能	
A/Dコンバータ		動作可能	
D/Aコンバータ		動作可能	
リアルタイム出力機能（RTO）		動作可能	
キー割り込み機能（KR）		動作可能	
CRC演算回路		動作可能（ただしCPU停止のためCRCINレジスタへのデータ入力がない状態）	
外部バス・インタフェース		2. 2　端子状態参照	
ポート機能		HALTモード設定前の状態を保持	
内部データ		CPUのレジスタ，ステータス，データ，内蔵RAMなどの内部データはすべてHALTモード設定前の状態を保持	

21. 4　IDLE1モード

21. 4. 1　設定および動作状態

通常動作モード時，PSMR.PSM1, PSM0ビットを“00”に設定し，PSC.STPビットを“1”に設定することにより，IDLE1モードに設定されます。

IDLE1モードに設定すると，クロック発振回路，PLL動作，フラッシュ・メモリは動作を継続しますが，CPUやそのほかの内蔵周辺機能へのクロック供給が停止します。

これにより，プログラムの実行が停止し，内蔵RAMの内容はIDLE1モード設定前の状態を保持します。また，CPUや，そのほかの内蔵周辺機能は動作を停止します。ただし，サブクロックあるいは外部クロックで動作可能な内蔵周辺機能に関しては，動作を継続します。

表21－5にIDLE1モード時の動作状態を示します。

IDLE1モードは，内蔵周辺機能の動作が停止するので，HALTモードよりさらに低消費電力を実現できます。また，メイン・クロック発振回路は停止しないので，IDLE1モード解除時，HALTモードと同様に発振安定時間を確保することなく，通常動作モードに復帰できます。

注意1. IDLE1モードに設定するためのPSCレジスタに対するストア命令のあとには，NOP命令を5命令以上挿入してください。

2. マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でIDLE1モードに設定した場合，保留されている割り込み要求によりIDLE1モードはすぐに解除されます。

21. 4. 2　IDLE1モードの解除

IDLE1モードは，ノンマスカブル割り込み要求信号（NMI端子入力，INTWDT2信号），マスクされていない外部割り込み要求信号（INTP0-INTP8端子入力），IDLE1モード中に動作可能な周辺機能のマスクされていない内部割り込み要求信号，リセット信号（$\overline{\text{RESET}}$端子入力，WDT2RES信号，低電圧検出回路（LVI），クロック・モニタ（CLM）によるリセット）により解除されます。

IDLE1モードの解除により，通常動作モードに移行します。

(1) ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号

ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号により，優先順位とは無関係に解除されます。ただし，割り込み処理ルーチン内でIDLE1モードに設定した場合は次のようになります。

(a) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位の低い割り込み要求信号が発生するとIDLE1モードの解除だけ行い，この割り込み要求信号は受け付けません。割り込み要求信号そのものは保持します。

(b) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位が高い割り込み要求信号（ノンマスカブル割り込み要求信号を含む）が発生すると，IDLE1モードの解除とともにこの割り込み要求信号を受け付けます。

注意　PSC.NMI1M，NMI0M，INTMビットで1に設定（割り込み禁止）されている割り込み要求信号は無効になり，IDLE1モードは解除されません。

表21－4　割り込み要求信号によるIDLE1モード解除後の動作

解除ソース	割り込み許可（EI）状態	割り込み禁止（DI）状態
ノンマスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐	
マスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐，または次の命令を実行	次の命令を実行

（2）リセットによる解除

通常のリセット動作と同じです。

表21－5　IDLE1モード時の動作状態

項　目 ＼ IDLE1モードの設定		動作状態	
		サブクロックがない場合	サブクロックがある場合
メイン・クロック発振回路		発振可能	
サブクロック発振回路		－	発振可能
内蔵発振器		発振可能	
PLL		動作可能	
CPU		動作停止	
DMA		動作停止	
割り込みコントローラ		動作停止（ただしスタンバイ・モードの解除は可能）	
タイマP（TMP0-TMP8）		動作停止	
タイマQ（TMQ0）		動作停止	
タイマM（TMM0）		カウント・クロックにf_R/8を選択時に動作可能	カウント・クロックにf_R/8またはf_{XT}選択時に動作可能
時計用タイマ		カウント・クロックにf_X（BRG分周）を選択時に動作可能	動作可能
ウォッチドッグ・タイマ2		カウント・クロックにf_Rを選択時に動作可能	カウント・クロックにf_Rまたはf_{XT}を選択時に動作可能
シリアル・インタフェース	CSIB0-CSIB5	カウント・クロックに$\overline{\text{SCKBn}}$入力クロック選択時に動作可能（n = 0-5）	
	I^2C00-I^2C02	動作停止	
	UARTA0-UARTA3	動作停止（ただしUARTA0はASCKA0入力クロック選択時に動作可能）	
A/Dコンバータ		動作保持（変換結果も保持）注	
D/Aコンバータ		動作保持（出力保持注）	
リアルタイム出力機能（RTO）		動作停止（出力保持）	
キー割り込み機能（KR）		動作可能	
CRC演算回路		動作停止	
外部バス・インタフェース		2. 2　端子状態参照	
ポート機能		IDLE1モード設定前の状態を保持	
内部データ		CPUのレジスタ，ステータス，データ，内蔵RAMなどの内部データはすべてIDLE1モード設定前の状態を保持	

注　低消費電力を実現するためには，IDLE1モードに遷移する前にA/Dコンバータ，D/Aコンバータを停止してください。

21. 5　IDLE2モード

21. 5. 1　設定および動作状態

通常動作モード時，PSMR.PSM1，PSM0ビットを“10”に設定し，PSC.STPビットを“1”に設定することにより，IDLE2モードに設定されます。

IDLE2モードに設定すると，クロック発振回路は動作を継続しますが，CPU，PLL，フラッシュ・メモリやそのほかの内蔵周辺機能へのクロック供給が停止します。

これにより，プログラムの実行が停止し，内蔵RAMの内容はIDLE2モード設定前の状態を保持します。また，CPU，PLLや，そのほかの内蔵周辺機能は動作を停止します。ただし，サブクロックあるいは外部クロックで動作可能な内蔵周辺機能に関しては，動作を継続します。

表21－7にIDLE2モード時の動作状態を示します。

IDLE2モードは，内蔵周辺機能，PLL，フラッシュ・メモリの動作が停止するので，IDLE1モードよりさらに低消費電力を実現できます。ただし，PLL，フラッシュ・メモリは停止するため，IDLE2モード解除時，必ずPLL，フラッシュ・メモリのセットアップ時間が必要となります。

注意1.　IDLE2モードに設定するためのPSCレジスタに対するストア命令のあとには，NOP命令を5命令以上挿入してください。

2.　マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でIDLE2モードに設定した場合，保留されている割り込み要求によりIDLE2モードはすぐに解除されます。

21. 5. 2　IDLE2モードの解除

IDLE2モードは，ノンマスカブル割り込み要求信号（NMI端子入力，INTWDT2信号），マスクされていない外部割り込み要求信号（INTP0-INTP8端子入力），IDLE2モード中に動作可能な周辺機能のマスクされていない内部割り込み要求信号，リセット信号（$\overline{\text{RESET}}$端子入力，WDT2RES信号，低電圧検出回路（LVI），クロック・モニタ（CLM）によるリセット）により解除されます。また，PLLはIDLE2モード設定前の動作状態に復帰します。

IDLE2モードの解除により，通常動作モードに移行します。

(1) ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号

ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号により，優先順位とは無関係に解除されます。ただし，割り込み処理ルーチン内でIDLE2モードに設定した場合は次のようになります。

(a) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位の低い割り込み要求信号が発生するとIDLE2モードの解除だけ行い，この割り込み要求信号は受け付けません。割り込み要求信号そのものは保持します。

(b) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位が高い割り込み要求信号（ノンマスカブル割り込み要求信号を含む）が発生すると，IDLE2モードの解除とともにこの割り込み要求信号を受け付けます。

注意　PSC.NMI1M，NMI0M，INTMビットで1に設定（割り込み禁止）されている割り込み要求信号は無効になり，IDLE2モードは解除されません。

表21－6　割り込み要求信号によるIDLE2モード解除後の動作

解除ソース	割り込み許可（EI）状態	割り込み禁止（DI）状態
ノンマスカブル割り込み要求信号	所定のセットアップ時間確保後，ハンドラ・アドレスに分岐	
マスカブル割り込み要求信号	所定のセットアップ時間確保後，ハンドラ・アドレスに分岐，または次の命令を実行	所定のセットアップ時間確保後，次の命令を実行

（2）リセットによる解除

通常のリセット動作と同じです。

表21－7　IDLE2モード時の動作状態

項　目 ＼ IDLE2モードの設定		動作状態	
		サブクロックがない場合	サブクロックがある場合
メイン・クロック発振回路		発振可能	
サブクロック発振回路		－	発振可能
内蔵発振器		発振可能	
PLL		動作停止	
CPU		動作停止	
DMA		動作停止	
割り込みコントローラ		動作停止（ただしスタンバイ・モードの解除は可能）	
タイマP（TMP0-TMP8）		動作停止	
タイマQ（TMQ0）		動作停止	
タイマM（TMM0）		カウント・クロックにf_R/8を選択時に動作可能	カウント・クロックにf_R/8またはf_{XT}選択時に動作可能
時計用タイマ		カウント・クロックにf_X（BRG分周）を選択時に動作可能	動作可能
ウォッチドッグ・タイマ2		カウント・クロックにf_Rを選択時に動作可能	カウント・クロックにf_Rまたはf_{XT}を選択時に動作可能
シリアル・インタフェース	CSIB0-CSIB5	カウント・クロックに$\overline{\text{SCKBn}}$入力クロック選択時に動作可能（n = 0-5）	
	I^2C00-I^2C02	動作停止	
	UARTA0-UARTA3	動作停止（ただしUARTA0はASCKA0入力クロック選択時に動作可能）	
A/Dコンバータ		動作保持（変換結果も保持）注	
D/Aコンバータ		動作保持（出力保持注）	
リアルタイム出力機能（RTO）		動作停止（出力保持）	
キー割り込み機能（KR）		動作可能	
CRC演算回路		動作停止	
外部バス・インタフェース		2. 2　端子状態参照	
ポート機能		IDLE2モード設定前の状態を保持	
内部データ		CPUのレジスタ，ステータス，データ，内蔵RAMなどの内部データはすべてIDLE2モード設定前の状態を保持	

注　低消費電力を実現するためには，IDLE2モードに遷移する前にA/Dコンバータ，D/Aコンバータを停止してください。

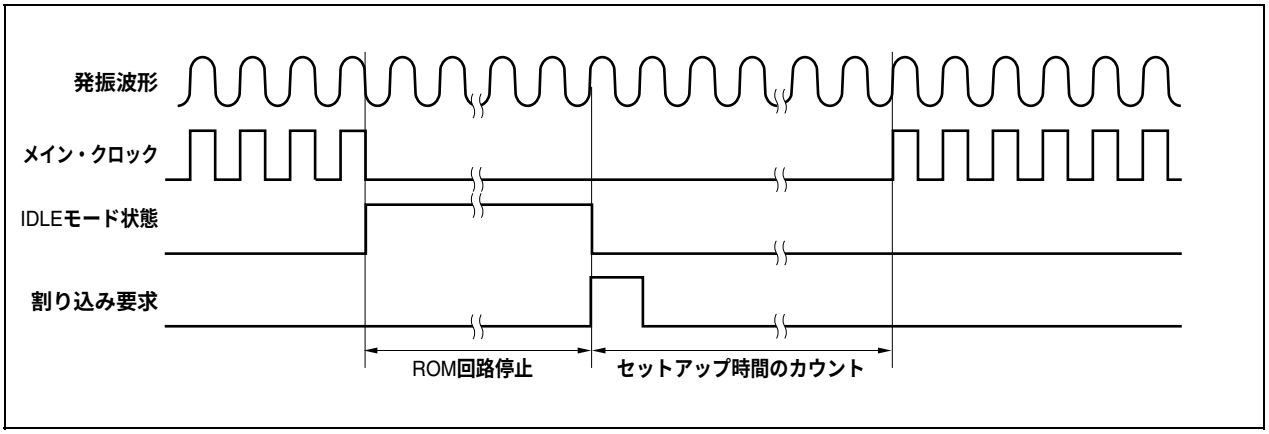
21. 5. 3　IDLE2モード解除時のセットアップ時間の確保

IDLE2モードに設定されることにより，メイン・クロック発振回路以外は動作を停止するので，IDLE2モード解除後，フラッシュ・メモリのセットアップ時間を確保してください。

(1) ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号による解除

所定のセットアップ時間は，OSTSレジスタの設定により確保します。

IDLE2モードの解除要因が発生すると，OSTSレジスタの設定に従い内部専用タイマはカウント動作を開始し，オーバフローすると通常動作モードに移行します。



(2) リセット（$\overline{\text{RESET}}$端子入力，WDT2RES発生）による解除

通常のリセット動作と同じです。

なお，発振安定時間はOSTSレジスタの初期値：$2^{16}/f_X$になります。

21. 6　STOPモード

21. 6. 1　設定および動作状態

通常動作モード時，PSMR.PSM1, PSM0ビットを“01”または“11”に設定し，PSC.STPビットを“1”に設定することにより，STOPモードに設定されます。

STOPモードに設定するとサブクロック発振回路は動作を継続しますが，メイン・クロック発振回路は動作を停止します。また，CPUやそのほかの内蔵周辺機能へのクロック供給が停止します。

これにより，プログラムの実行が停止し，内蔵RAMの内容はSTOPモード設定前の状態を保持します。また，CPUやそのほかの内蔵周辺機能は動作を停止します。ただし，サブクロック発振回路，あるいは外部クロックで動作可能な内蔵周辺機能に関しては，動作を継続します。

表21－9にSTOPモード時の動作状態を示します。

STOPモードは，メイン・クロック発振回路の動作が停止するので，IDLE2モードよりさらに低消費電力を実現できます。また，サブクロック発振回路，内蔵発振器，外部クロックを使用しない場合は，リーク電流のみの超低消費電力を実現できます

注意1. STOPモードに設定するためのPSCレジスタに対するストア命令のあとには，NOP命令を5命令以上挿入してください。

2. マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でSTOPモードに設定した場合，保留されている割り込み要求によりSTOPモードはすぐに解除されます。

21. 6. 2　STOPモードの解除

STOPモードは，ノンマスカブル割り込み要求信号（NMI端子入力, INTWDT2信号），マスクされていない外部割り込み要求信号（INTP0-INTP8端子入力），STOPモード中に動作可能な周辺機能のマスクされていない内部割り込み要求信号，リセット信号（$\overline{\text{RESET}}$端子入力，WDT2RES信号，低電圧検出回路（LVI）によるリセット）により解除されます。

STOPモードの解除により，発振安定時間を確保したあと，通常動作モードに移行します。

(1) ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号

ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号により，優先順位とは無関係に解除されます。ただし，割り込み処理ルーチン内でSTOPモードに設定した場合は次のようになります。

(a) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位の低い割り込み要求信号が発生するとSTOPモードの解除だけ行い，この割り込み要求信号は受け付けません。割り込み要求信号そのものは保持します。

(b) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位が高い割り込み要求信号（ノンマスカブル割り込み要求信号を含む）が発生すると，STOPモードの解除とともにこの割り込み要求信号を受け付けます。

注意　PSC.NMI1M, NMI0M, INTMビットで1に設定（割り込み禁止）されている割り込み要求は無効になり，STOPモードは解除されません。

表21－8　割り込み要求信号によるSTOPモード解除後の動作

解除ソース	割り込み許可（EI）状態	割り込み禁止（DI）状態
ノンマスカブル割り込み要求信号	発振安定時間確保後，ハンドラ･アドレスに分岐	
マスカブル割り込み要求信号	発振安定時間確保後，ハンドラ･アドレスに分岐，または次の命令を実行	発振安定時間確保後，次の命令を実行

(2) リセットによる解除

通常のリセット動作と同じです。

表21－9　STOPモード時の動作状態

項　目 ＼ STOPモードの設定		動作状態	
		サブクロックがない場合	サブクロックがある場合
メイン・クロック発振回路		発振停止	
サブクロック発振回路		－	発振可能
内蔵発振器		発振可能	
PLL		動作停止	
CPU		動作停止	
DMA		動作停止	
割り込みコントローラ		動作停止（ただしスタンバイ・モードの解除は可能）	
タイマP（TMP0-TMP8）		動作停止	
タイマQ（TMQ0）		動作停止	
タイマM（TMM0）		カウント・クロックにf_R/8を選択時に動作可能	カウント・クロックにf_R/8またはf_{XT}選択時に動作可能
時計用タイマ		動作停止	カウント・クロックにf_{XT}を選択時に動作可能
ウォッチドッグ・タイマ2		カウント・クロックにf_Rを選択時に動作可能	カウント・クロックにf_Rまたはf_{XT}を選択時に動作可能
シリアル・インタフェース	CSIB0-CSIB5	カウント・クロックに$\overline{\text{SCKBn}}$入力クロック選択時に動作可能（n = 0-5）	
	I^2C00-I^2C02	動作停止	
	UARTA0-UARTA3	動作停止（ただしUARTA0はASCKA0入力クロック選択時に動作可能）	
A/Dコンバータ		動作停止（変換結果も不定）注1, 2	
D/Aコンバータ		動作停止注3, 4（出力はハイ・インピーダンス）	
リアルタイム出力機能（RTO）		動作停止（出力保持）	
キー割り込み機能（KR）		動作可能	
CRC演算回路		動作停止	
外部バス・インタフェース		2. 2　端子状態参照	
ポート機能		STOPモード設定前の状態を保持	
内部データ		CPUのレジスタ，ステータス，データ，内蔵RAMなどの内部データはすべてSTOPモード設定前の状態を保持	

注1. A/Dコンバータを動作したままSTOPモードに遷移した場合，STOPモード期間中A/Dコンバータは自動的に停止しますが，STOPモード解除後，再び動作を開始します。ただし，その場合STOPモード解除後のA/D変換結果は無効です。また，STOPモード遷移前のA/D変換結果はすべて無効です。

2. A/Dコンバータを動作したままSTOPモードに遷移した場合でも，STOPモード遷移前にA/Dコンバータを停止した場合と同等に消費電力を低減できます。

3. D/Aコンバータを動作したままSTOPモードに遷移した場合，STOPモード期間中D/Aコンバータは自動的に停止し，端子状態はハイ・インピーダンスになります。STOPモード解除後，再び動作を開始しセトリング時間を経て，STOPモード遷移前の出力レベルにもどります。

4. D/Aコンバータを動作したままSTOPモードに遷移した場合でも，STOPモード遷移前にD/Aコンバータを停止した場合と同等に消費電力を低減できます。

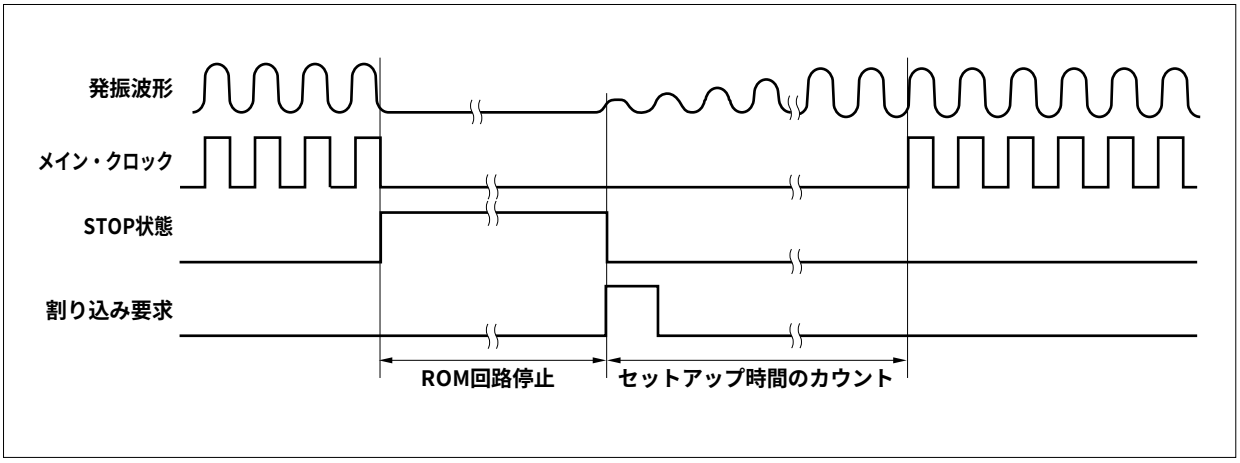
21. 6. 3　STOPモード解除時の発振安定時間の確保

STOPモードに設定されることにより，メイン・クロック発振回路は動作を停止するので，STOPモード解除後，メイン・クロック発振回路の発振安定時間を確保してください。

(1) ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号による解除

発振安定時間は，OSTSレジスタの設定により確保します。

STOPモードの解除要因が発生すると，OSTSレジスタの設定に従い内部専用タイマはカウント動作を開始し，オーバフローすると通常動作モードに移行します。



(2) リセットによる解除

通常のリセット動作と同じです。

なお，発振安定時間はOSTSレジスタの初期値：$2^{16}/f_X$になります。

21. 7　サブクロック動作モード

21. 7. 1　設定および動作状態

通常動作モード時， PCC.CK3ビットを“1”に設定することにより，サブクロック動作モードに設定されます。

サブクロック動作モードに設定すると，内部システム・クロックがメイン・クロック→サブクロックに切り替わります。切り替わりは，PCC.CLSビットを確認してください。

さらに，PCC.MCKビットを“1”に設定することにより，メイン・クロック発振回路の動作を停止します。これにより，システム全体がサブクロックでのみ動作します。

サブクロック動作モードは，内部システム・クロックがサブクロックとなるので，通常動作モードよりも消費電力を低減できます。さらに，メイン・クロック発振回路の動作を停止させることにより，STOPモードに近い低消費電力を実現できます。

サブクロック動作モード時の動作状態を表21－10に示します。

注意1. CK3ビットを操作する場合，PCC.CK2-CK0ビットの設定値の変更は禁止です（ビット操作命令を推奨）。PCCレジスタの詳細は，6. 3（1）プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ（PCC）を参照してください。

2. 次の条件を満たしていない場合は，条件を満たすようにCK2-CK0ビットを変更後，サブクロック動作モードに移行してください。

内部システム・クロック（f_{CLK}）＞サブクロック（f_{XT} = 32.768 kHz）×4

備考　内部システム・クロック（f_{CLK}）：CK2-CK0ビットの設定によってメイン・クロック（f_{XX}）から生成するクロック

21. 7. 2　サブクロック動作モードの解除

サブクロック動作モードは，CK3ビットを“0”に設定するか，リセット信号（$\overline{\text{RESET}}$端子入力，WDT2RES信号，低電圧検出回路（LVI），クロック・モニタ（CLM）によるリセット）により解除します。

なお，メイン・クロックを停止（MCKビット = 1）していた場合は，MCKビットを“1”に設定し，メイン・クロックの発振安定時間をソフトウエアにより確保してから，CK3ビットを“0”に設定します。

サブクロック動作モードの解除により，通常動作モードに移行します。

注意　CK3ビットを操作する場合，CK2-CK0ビットの設定値の変更は禁止です（ビット操作命令を推奨）。PCCレジスタの詳細は，6. 3（1）プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ（PCC）を参照してください。

表21－10　サブクロック動作モード時の動作状態

項　目 ＼ サブクロック動作モードの設定		動作状態	
		メイン・クロック発振時	メイン・クロック停止時
サブクロック発振回路		発振可能	
内蔵発振器		発振可能	
PLL		動作可能	動作停止[注]
CPU		動作可能	
DMA		動作可能	
割り込みコントローラ		動作可能	
タイマP（TMP0-TMP8）		動作可能	動作停止
タイマQ（TMQ0）		動作可能	動作停止
タイマM（TMM0）		動作可能	カウント・クロックにf_R/8またはf_{XT}選択時に動作可能
時計用タイマ		動作可能	カウント・クロックにf_{XT}を選択時に動作可能
ウォッチドッグ・タイマ2		動作可能	カウント・クロックにf_Rまたはf_{XT}選択時に動作可能
シリアル・インタフェース	CSIB0-CSIB5	動作可能	カウント・クロックに$\overline{\text{SCKBn}}$入力クロック選択時に動作可能（n = 0-5）
	I^2C00-I^2C02	動作可能	動作停止
	UARTA0-UARTA3	動作可能	動作停止（ただしUARTA0はASCKA0入力クロック選択時に動作可能）
A/Dコンバータ		動作可能	動作停止
D/Aコンバータ		動作可能	
リアルタイム出力機能（RTO）		動作可能	動作停止（出力保持）
キー割り込み機能（KR）		動作可能	
CRC演算回路		動作可能	
外部バス・インタフェース		2. 2　端子状態参照	
ポート機能		設定可能	
内部データ		設定可能	

注　メイン・クロックを停止するときは，必ずPLL停止（PLLCTL.PLLONビット = 0）に設定してください。

注意　CPUがサブクロックで動作し，かつメイン発振を停止している場合，ウエイトが発生するレジスタへのアクセスは禁止です。ウエイトが発生した場合，解除する方法はリセットのみです（3. 4. 8（2）参照）。

21. 8　サブIDLEモード

21. 8. 1　設定および動作状態

サブクロック動作モード時，PSMR.PSM1, PSM0ビットを“00”または“10”に設定し，PSC.STPビットを“1”に設定することにより，サブIDLEモードに設定されます。

サブIDLEモードに設定すると，クロック発振回路は動作を継続しますが，CPU，フラッシュ・メモリやそのほかの内蔵周辺機能へのクロック供給が停止します。

これにより，プログラムの実行が停止し，内蔵RAMの内容はサブIDLEモード設定前の状態を保持します。また，CPUやそのほかの内蔵周辺機能は動作を停止します。ただし，サブクロック，あるいは外部クロックで動作可能な内蔵周辺機能に関しては，動作を継続します。

サブIDLEモードは，CPU，フラッシュ・メモリやそのほかの内蔵周辺機能の動作が停止するので，サブクロック動作モードよりさらに低消費電力を実現できます。

また，メイン・クロックを停止してからサブIDLEモードに設定した場合は，STOPモードに近い低消費電力を実現できます。

サブIDLEモード時の動作状態を，表21－12に示します。

注意1. サブIDLEモードに設定するためのPSCレジスタに対するストア命令のあとには，NOP命令を5命令以上挿入してください。

2. マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でサブIDLEモードに設定した場合，保留されている割り込み要求によりサブIDLEモードはすぐに解除されます。

21. 8. 2　サブIDLEモードの解除

サブIDLEモードは，ノンマスカブル割り込み要求信号（NMI端子入力，INTWDT2信号），マスクされていない外部割り込み要求信号（INTP0-INTP8端子入力），サブIDLEモード中に動作可能な周辺機能のマスクされていない内部割り込み要求信号，リセット信号（$\overline{\text{RESET}}$端子入力，WDT2RES信号，低電圧検出回路（LVI），クロック・モニタ（CLM）によるリセット）により解除されます。また，PLLはサブIDLEモード設定前の動作状態と同じ状態に復帰します。

割り込み要求信号によるサブIDLEモードの解除により，サブクロック動作モードに移行します。

(1) ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号

ノンマスカブル割り込み要求信号，マスクされていないマスカブル割り込み要求信号が発生すると，優先順位とは無関係に解除されます。

ただし，割り込み処理ルーチン内でサブIDLEモードに設定した場合，次のようになります。

(a) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位の低い割り込み要求信号が発生すると，サブIDLEモードの解除だけ行い，この割り込み要求信号は受けません。割り込み要求信号そのものは保留されます。

(b) 現在処理中の割り込み要求よりも優先順位の高い割り込み要求信号（ノンマスカブル割り込み要求信号も含む）が発生すると，サブIDLEモードの解除とともにこの割り込み要求信号を受け付けます。

注意1. PSC.NMI1M, NMI0M, INTMビットで1に設定（割り込み禁止）されている割り込み要求信号は無効になり，サブIDLEモードは解除されません。

2. サブIDLEモードからの復帰時は，割り込み要求信号による解除要因が発生してから解除されるまでに，サブクロックの12周期分の時間（約366 μs）が挿入されます。

表21－11　割り込み要求信号によるサブIDLEモード解除後の動作

解除ソース	割り込み許可（EI）状態	割り込み禁止（DI）状態
ノンマスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐	
マスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐， または次の命令を実行	次の命令を実行

（2）リセットによる解除

通常のリセット動作と同じです。

表21－12　サブIDLEモード時の動作状態

項　目 ＼ サブIDLEモードの設定		動作状態	
		メイン・クロック発振時	メイン・クロック停止時
サブクロック発振回路		発振可能	
内蔵発振器		発振可能	
PLL		動作可能	動作停止[注1]
CPU		動作停止	
DMA		動作停止	
割り込みコントローラ		動作停止（ただしスタンバイ・モードの解除は可能）	
タイマP（TMP0-TMP8）		動作停止	
タイマQ（TMQ0）		動作停止	
タイマM（TMM0）		カウント・クロックにf_R/8またはf_{XT}選択時に動作可能	
時計用タイマ		動作可能	カウント・クロックにf_{XT}を選択時に動作可能
ウォッチドッグ・タイマ2		カウント・クロックにf_Rまたはf_{XT}選択時に動作可能	
シリアル・インタフェース	CSIB0-CSIB5	カウント・クロックに$\overline{\text{SCKBn}}$入力クロック選択時に動作可能（n = 0-5）	
	I^2C00-I^2C02	動作停止	
	UARTA0-UARTA3	動作停止（ただしUARTA0はASCKA0入力クロック選択時に動作可能）	
A/Dコンバータ		動作保持（変換結果も保持）[注2]	
D/Aコンバータ		動作保持（出力保持[注2]）	
リアルタイム出力機能（RTO）		動作停止（出力保持）	
キー割り込み機能（KR）		動作可能	
CRC演算回路		動作停止	
外部バス・インタフェース		2. 2　端子状態参照（IDLE1, IDLE2モードと同じ動作状態）	
ポート機能		サブIDLEモード設定前の状態を保持	
内部データ		CPUのレジスタ，ステータス，データ，内蔵RAMなどの内部データはすべてサブIDLEモード設定前の状態を保持	

注1.　メイン・クロックを停止するときは，必ずPLL停止（PLLCTL.PLLONビット = 0）に設定してください。

2.　低消費電力を実現するためには，サブIDLEモードに遷移する前にA/Dコンバータ，D/Aコンバータを停止してください。

第22章　リセット機能

22. 1　概　　要

リセット機能の概要を次に示します。

(1) 4種類のリセット要因

- $\overline{\text{RESET}}$端子による外部リセット入力
- ウォッチドッグ・タイマ2（WDT2）のオーバフローによるリセット機能（WDT2RES）
- 低電圧検出回路（LVI）の電源電圧と検出電圧との比較によるシステム・リセット
- クロック・モニタ（CLM）の発振停止検出によるシステム・リセット

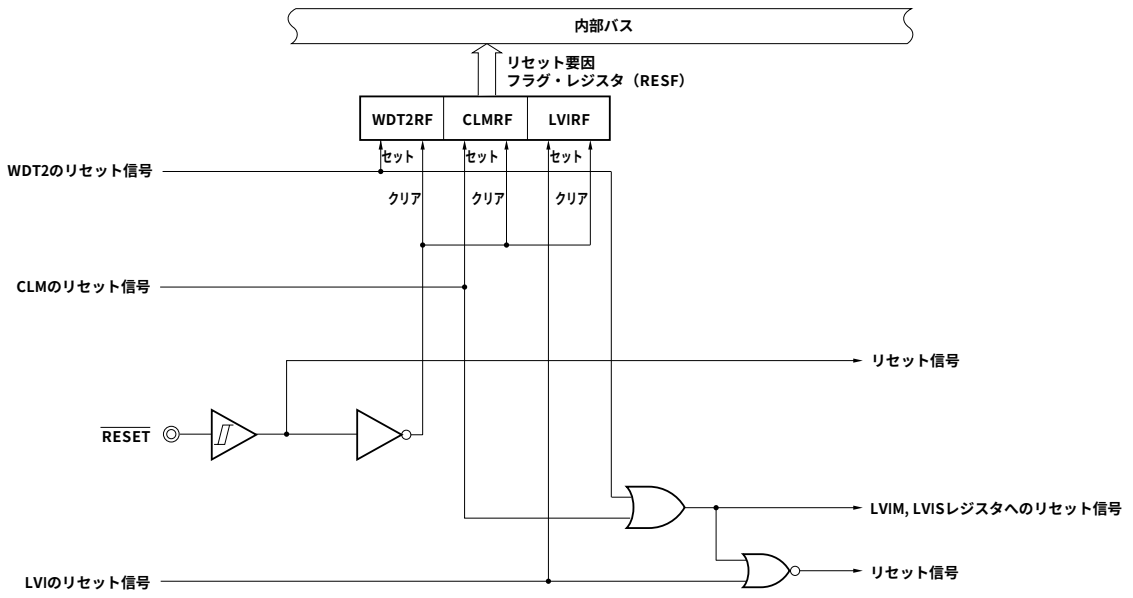
リセット解除後，リセット要因フラグ・レジスタ（RESF）によりリセット要因を確認できます。

(2) 緊急動作モード

リセット後に挿入されるメイン・クロック発振安定期間内でWDT2がオーバフローした場合，メイン・クロックの発振異常と判断し，内蔵発振クロックでCPUの動作を開始します。

注意　緊急動作モード時は，内蔵発振クロックで動作が可能な“割り込み機能，ポート機能，WDT2，タイマM”用レジスタ以外の内蔵周辺I/Oレジスタにアクセスしないでください。また，外部クロック入力を使用したCSIB0-CSIB5, UARTA0の動作も禁止します。

図22－1　リセット機能のブロック図



注意　LVI回路の内部リセットの場合，LVI回路はリセットされません。

備考1.　LVIM：低電圧検出レジスタ

2.　LVIS：低電圧検出レベル選択レジスタ

22. 2　リセット要因を確認するレジスタ

V850ES/JJ3には4つのリセット要因が存在します。リセット解除後，リセット要因フラグ・レジスタ（RESF）により発生したリセット要因を確認できます。

(1) リセット要因フラグ・レジスタ（RESF）

RESFレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスの組み合わせによってだけ書き込みができます（3. 4. 7　特定レジスタ参照）。

RESFレジスタは，どの要因から発生したリセット信号かを格納するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

$\overline{\text{RESET}}$端子入力により00Hになります。$\overline{\text{RESET}}$端子以外の要因のリセットにより初期値は異なります。

リセット時：00H注　R/W　アドレス：FFFFF888H

	7	6	5	4	3	2	1	0
RESF	0	0	0	WDT2RF	0	0	CLMRF	LVIRF

WDT2RF	WDT2からのリセット信号発生有無
0	発生なし
1	発生あり

CLMRF	CLMからのリセット信号発生有無
0	発生なし
1	発生あり

LVIRF	LVIからのリセット信号発生有無
0	発生なし
1	発生あり

注　$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット時はRESFレジスタは00H。
ウォッチドッグ・タイマ2（WDT2），低電圧検出回路（LVI），クロック・モニタ（CLM）によるリセット時は，自身のリセット・フラグ（WDT2RF, CLMRF, LVIRFビット）をセットします。ただし，ほかの要因は保持します。

注意　各ビットへの書き込みは“0”ライトのみ可能で，“0”ライト書き込みとフラグ・セット（リセットの発生）が競合した場合，フラグ・セットが優先されます。

22. 3　動　　作

22. 3. 1　$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット動作

$\overline{\text{RESET}}$端子にロウ・レベルを入力すると，システム・リセットがかかり，各ハードウエアを初期化します。

$\overline{\text{RESET}}$端子入力をロウ・レベルからハイ・レベルに変化させると，リセット状態を解除します。

表22－1　$\overline{\text{RESET}}$端子入力時の各ハードウエアの状態

項　　目	リセット中	リセット後
メイン・クロック発振回路（f_X）	発振停止	発振開始
サブクロック発振回路（f_{XT}）	発振継続	
内蔵発振器	発振停止	発振開始
周辺クロック（f_X-f_X/1024）	動作停止	発振安定時間確保後，動作開始
内部システム・クロック（f_{CLK}），CPUクロック（f_{CPU}）	動作停止	発振安定時間確保後，動作開始（f_{XX}/8に初期化）
CPU	初期化	発振安定時間確保後，プログラムの実行開始
ウォッチドッグ・タイマ2	動作停止（カウントは0に初期化）	内蔵発振クロックをソース・クロックとして0からカウント・アップ
内蔵RAM	パワーオン時のリセット，またはCPUアクセスとリセット入力が競合（データ破壊）した場合，不定。 それ以外は，リセット入力直前の値を保持。	
I/Oライン（ポート／兼用端子）	ハイ・インピーダンス注	
内蔵周辺I/Oレジスタ	所定の状態に初期化，OCDMレジスタはセット（01H）	
上記以外の内蔵周辺機能	動作停止	発振安定時間確保後，動作開始可能

注　次に示す端子は，電源投入時にはリセット中でも一時的に不定レベルを出力する可能性があります。

・P53/SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO端子

注意　OCDMレジスタは$\overline{\text{RESET}}$端子入力によって初期化されます。そのため，リセット解除後，再度OCDM.OCDM0ビットをクリアするまでの間に$\overline{\text{P05/DRST}}$端子にハイ・レベルが入力されると，オンチップ・デバッグ・モードに入るため注意してください。詳細は，第4章　ポート機能を参照してください。

図22－2　$\overline{\text{RESET}}$端子入力によるリセット動作のタイミング

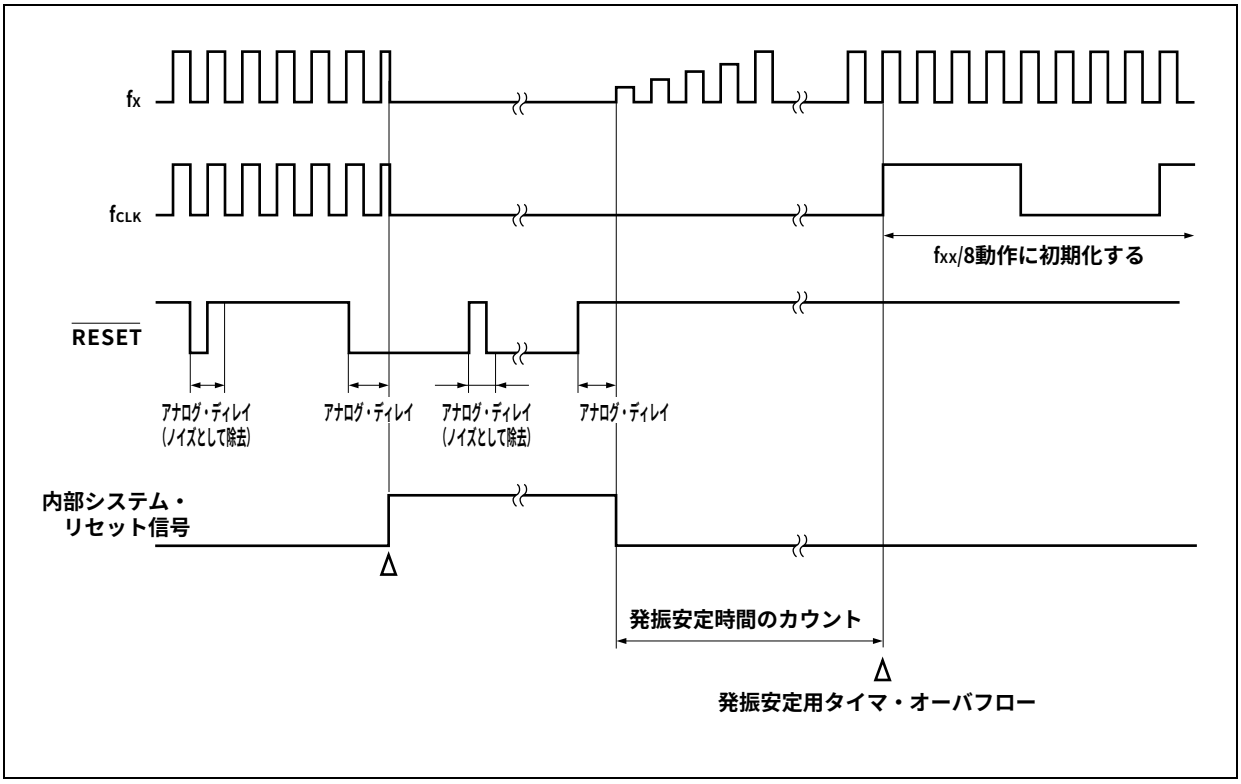
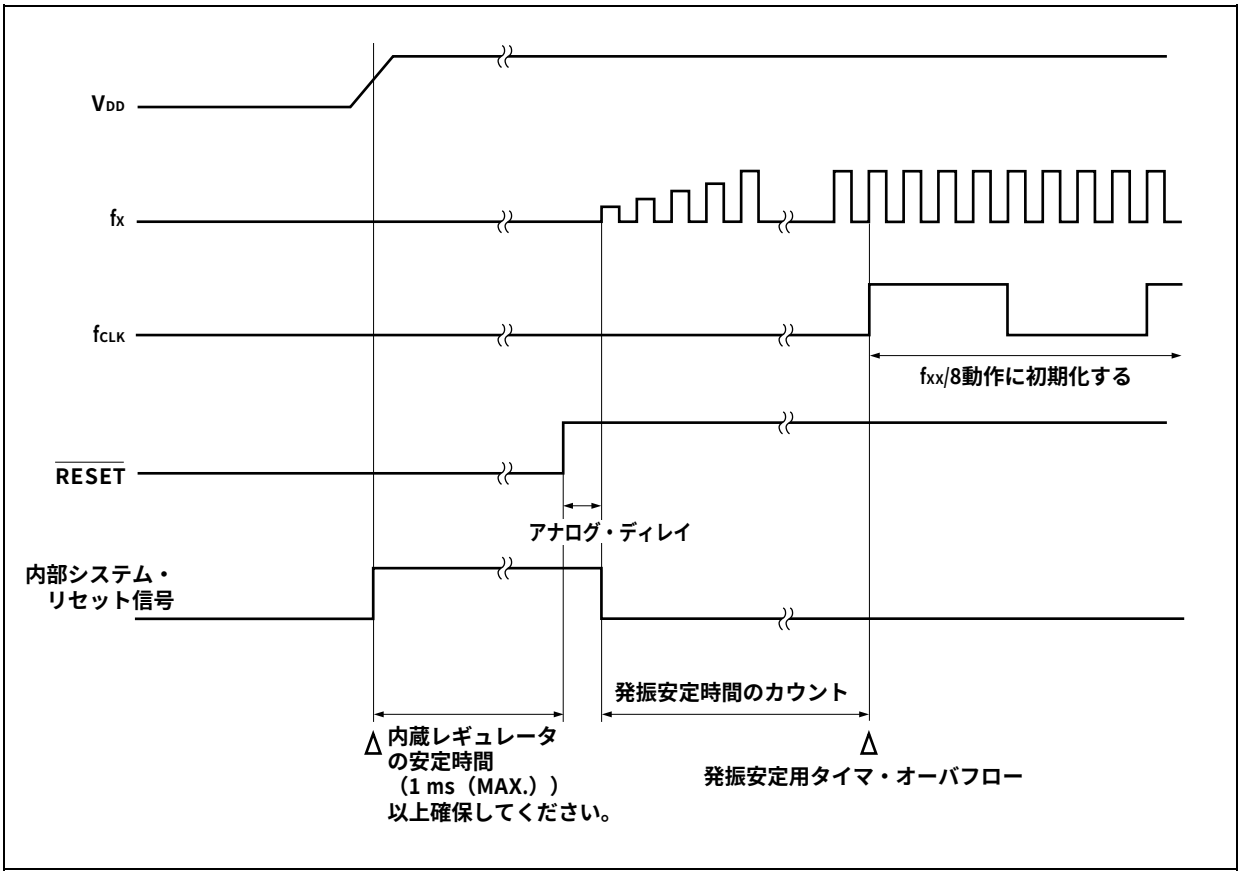


図22－3　パワーオン時のリセット動作のタイミング



22. 3. 2　ウォッチドッグ・タイマ2によるリセット動作

ウォッチドッグ・タイマ2をオーバフローによるリセット動作モードに設定時，ウォッチドッグ・タイマ2がオーバフロー（WDT2RES信号発生）すると，システム･リセットがかかり各ハードウエアを所定の状態に初期化します。

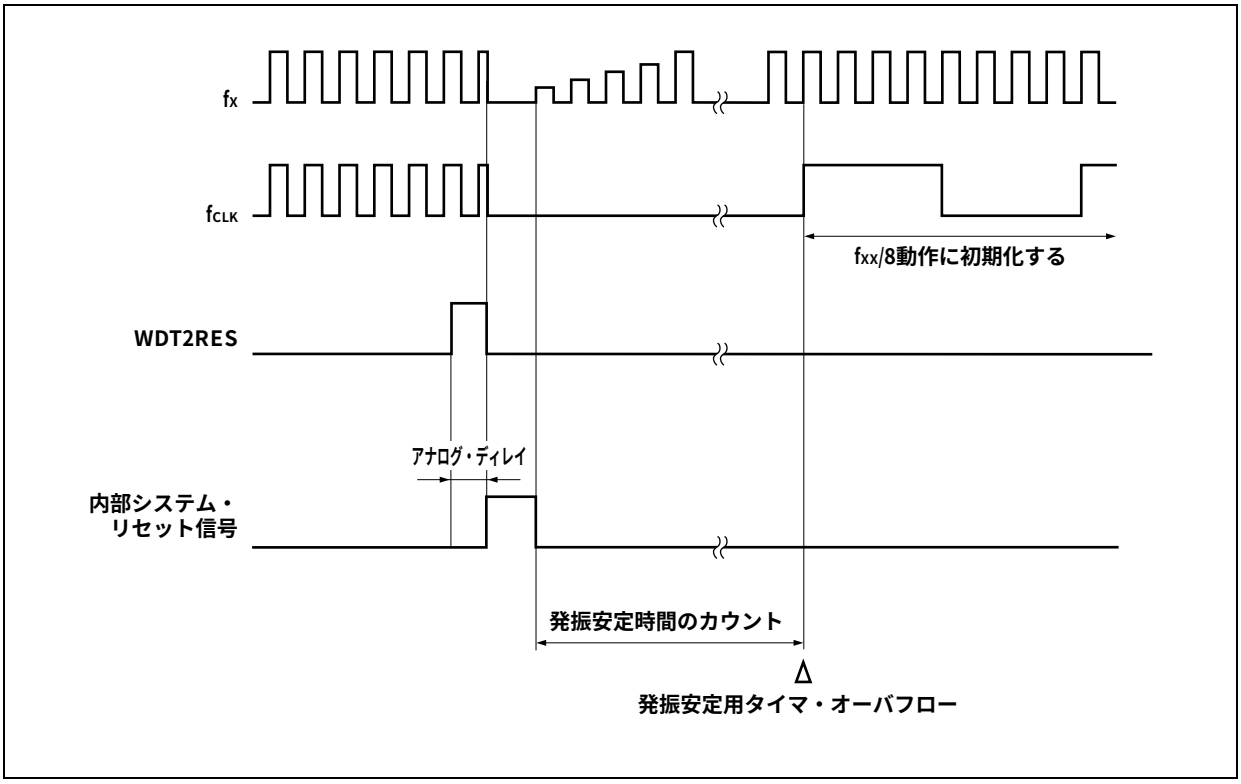
ウォッチドッグ・タイマ2のオーバフロー後，所定の時間（アナログ･ディレイ分）リセット状態となり，その後リセット状態を自動的に解除します。

なお，リセット期間中はメイン･クロック発振回路は停止します。

表22－2　ウォッチドッグ・タイマ2によるリセット動作時の各ハードウエアの状態

項　　目	リセット中	リセット後
メイン・クロック発振回路（f_X）	発振停止	発振開始
サブクロック発振回路（f_{XT}）	発振継続	
内蔵発振器	発振停止	発振開始
周辺クロック（f_{XX}-f_{XX}/1024）	動作停止	発振安定時間確保後，動作開始
内部システム・クロック（f_{XX}）， CPUクロック（f_{CPU}）	動作停止	発振安定時間確保後，動作開始 （f_{XX}/8に初期化）
CPU	初期化	発振安定時間確保後，プログラムの実行開始
WDT2	動作停止（カウントは0に初期化）	内蔵発振クロックをソース・クロックとして0からカウント・アップ
内蔵RAM	パワーオン時のリセット，またはCPUアクセスとリセット入力が競合（データ破壊）した場合，不定。 それ以外は，リセット入力直前の値を保持。	
I/Oライン（ポート／兼用端子）	ハイ・インピーダンス	
内蔵周辺I/Oレジスタ	所定の状態に初期化，OCDMレジスタは値を保持。	
上記以外の内蔵周辺機能	動作停止	発振安定時間確保後，動作開始可能

図22ー4　WDT2RES信号発生によるリセット動作のタイミング



22. 3. 3　低電圧検出回路によるリセット動作

LVIの動作許可時，電源電圧と検出電圧を比較し，電源電圧が検出電圧を下回った場合，システム・リセットがかかり（LVIM.LVIMDビット = 1設定時），各ハードウエアを所定の状態に初期化します。

電圧低下検出から電源電圧が検出電圧を上回るまでリセット状態となります。

なお，リセット期間中はメイン･クロック発振回路は停止します。

LVIMDビット = 0設定時は，低電圧を検出すると割り込み要求信号（INTLVI）を発生します。

表22－3　低電圧検出回路によるリセット動作時の各ハードウエアの状態

項　　目	リセット中	リセット後
メイン・クロック発振回路（f_X）	発振停止	発振開始
サブクロック発振回路（f_{XT}）	発振継続	
内蔵発振器	発振停止	発振開始
周辺クロック（f_X-f_X/1024）	動作停止	発振安定時間確保後，動作開始
内部システム・クロック（f_{XX}）， CPUクロック（f_{CPU}）	動作停止	発振安定時間確保後，動作開始 （f_{XX}/8に初期化）
CPU	初期化	発振安定時間確保後，プログラムの実行開始
WDT2	動作停止（カウントは0に初期化）	内蔵発振クロックをソース・クロックとして0からカウント・アップ
内蔵RAM	パワーオン時のリセット，またはCPUアクセスとリセット入力が競合（データ破壊）した場合，不定。 それ以外は，リセット入力直前の値を保持。	
I/Oライン（ポート／兼用端子）	ハイ・インピーダンス	
内蔵周辺I/Oレジスタ	所定の状態に初期化，OCDMレジスタは値を保持。	
LVI	動作停止	
上記以外の内蔵周辺機能	動作停止	発振安定時間確保後，動作開始可能

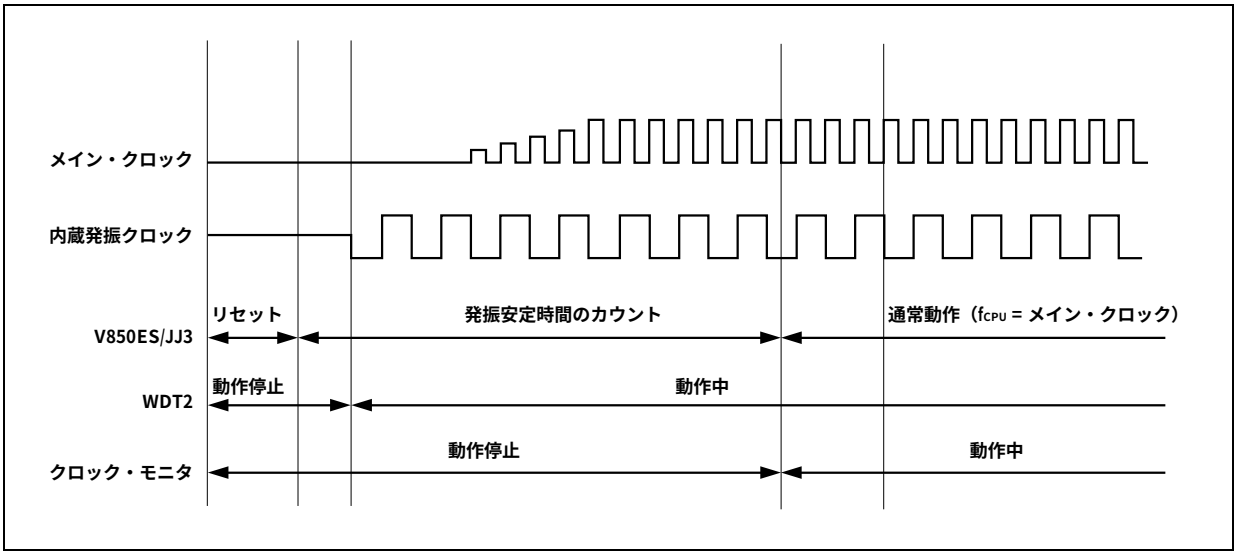
備考　低電圧検出回路のリセット・タイミングは，第24章　低電圧検出回路（LVI）を参照してください。

22. 3. 4　リセット解除後の動作

リセット解除後，メイン･クロックは発振を開始し，発振安定時間（OSTSレジスタの初期値：2^{16}/fx）を確保したあと，CPUはプログラムの実行を開始します。

また，WDT2はリセット解除後，内蔵発振クロックをソース・クロックとして，すぐに動作を開始します。

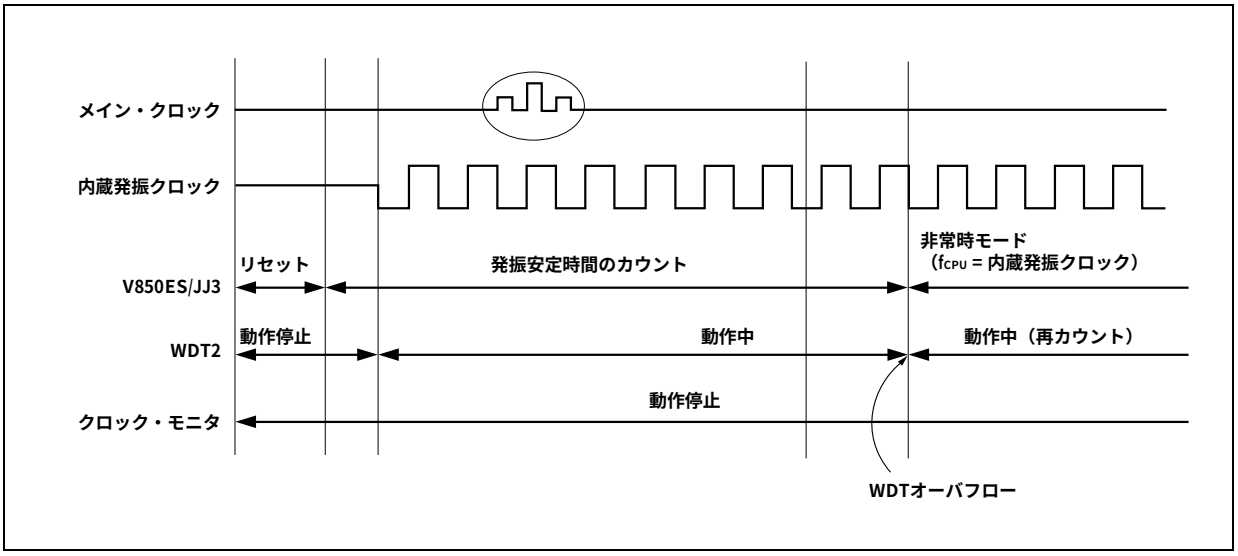
図22－5　リセット解除後の動作



(1) 緊急動作モード

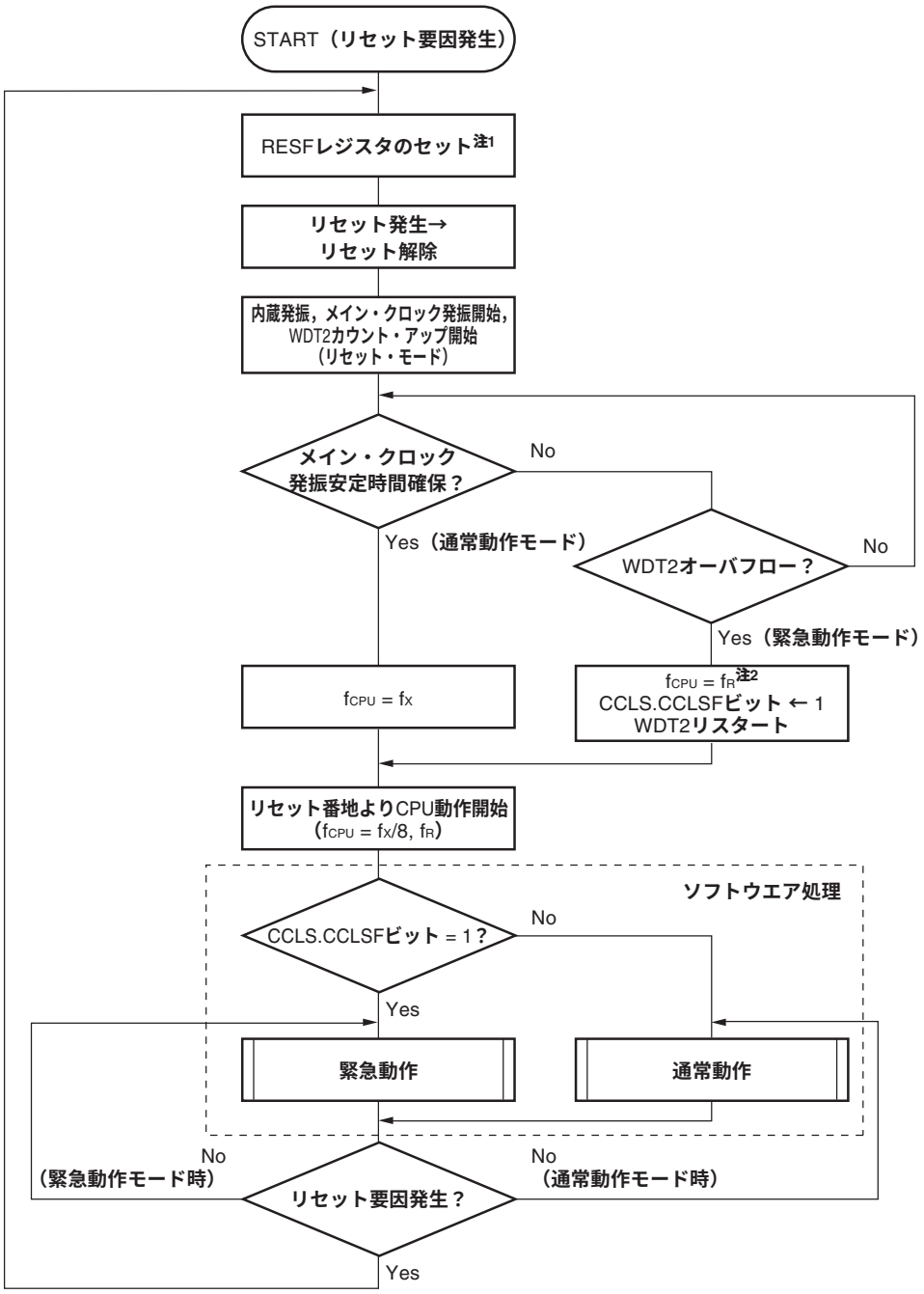
発振安定時間が確保される前にメイン・クロックに異常が発生した場合，CPUがプログラムの実行を開始する前にWDT2がオーバフローします。このとき，CPUは内蔵発振クロックをソース・クロックとして，プログラムの実行を開始します。

図22－6　リセット解除後の動作



CPU動作クロックの状態は，CPU動作クロック・ステータス・レジスタ（CCLS）で確認してください。

22. 3. 5　リセット機能の動作フロー



注1. **リセット要因によって，セットされるビットが変わります。**

リセット要因	WDT2RFビット	CRMRFビット	LVIRFビット
$\overline{\text{RESET}}$端子	0	0	0
WDT2	1	リセット前の値を保持	リセット前の値を保持
CLM	リセット前の値を保持	1	リセット前の値を保持
LVI	リセット前の値を保持	リセット前の値を保持	1

2. **内蔵発振器は停止できません。**

第23章　クロック・モニタ

23. 1　機　　能

クロック・モニタは，内蔵発振クロックで，メイン・クロックのサンプリングを行い，メイン・クロックの発振停止時に，リセット要求信号を発生します。

動作許可フラグにより一度動作許可にすると，リセット以外ではクリア（0）できません。

クロック・モニタによるリセットが発生した場合，RESF.CLMRFビットがセットされます。RESFレジスタの詳細については，22. 2　**リセット要因を確認するレジスタ**を参照してください。

次の条件のとき，クロック・モニタは自動的に停止します。

- STOPモード～発振安定時間時
- メイン・クロック停止時
  （サブクロック動作時にPCC.MCKビット= 1としてから，メイン・クロック動作時にPCC.CLSビット = 0とするまで）
- サンプリング・クロック（内蔵発振クロック）停止時
- CPUが内蔵発振クロック動作時

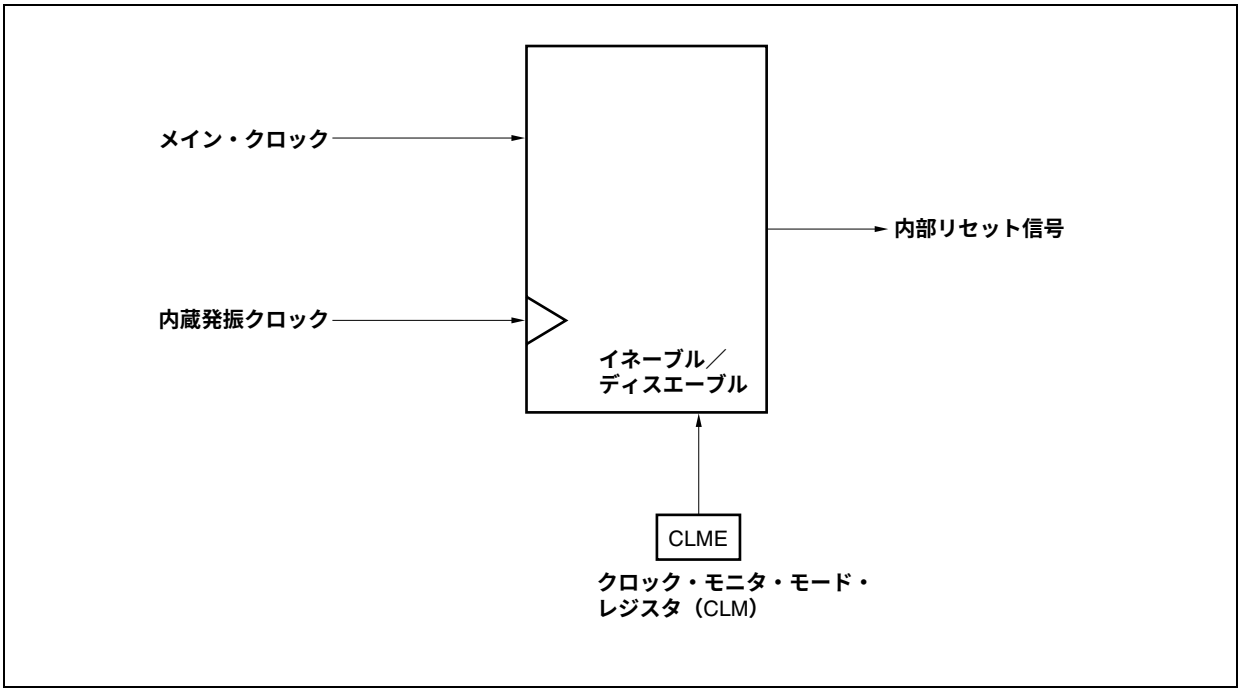
23. 2 構　　成

クロック・モニタは，次のハードウエアで構成しています。

表23－1　クロック・モニタの構成

項　　目	構　　成
制御レジスタ	クロック・モニタ・モード・レジスタ（CLM）

図23－1　$\overline{\text{RESET}}$端子入力によるリセット動作のタイミング



23. 3　レジスタ

クロック・モニタは，クロック・モニタ・モード・レジスタ（CLM）で制御します。

(1) クロック・モニタ・モード・レジスタ（CLM）

CLMレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスの組み合わせによってだけ書き込みができます（3. 4. 7　特定レジスタ参照）。

クロック・モニタの動作モードの設定を行うレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF870H

	7	6	5	4	3	2	1	⓪
CLM	0	0	0	0	0	0	0	CLME

CLME	クロック・モニタの動作許可／禁止
0	クロック・モニタの動作禁止
1	クロック・モニタの動作許可

注意1.　一度CLMEビット = 1に設定した場合，リセット以外ではクリア（0）できません。

2.　クロック・モニタによるリセットが発生した場合，CLMEビットはクリア（0）され，RESF.CLMRFビットがセット（1）されます。

23. 4 動　　作

クロック・モニタの持つ機能について説明します。スタート条件，ストップ条件は次のようになります。

＜スタート条件＞

CLM.CLMEビットを動作許可（1）に設定

＜ストップ条件＞

- STOPモード～発振安定時間カウント時
- メイン・クロック停止時
  （サブクロック動作時にPCC.MCKビット= 1としてから，メイン・クロック動作時にPCC.CLSビット = 0とするまで）
- サンプリング・クロック（内蔵発振クロック）停止時
- CPUが内蔵発振クロック動作時

表23ー2　クロック・モニタの動作状態（CLM.CLMEビット = 1設定時，内蔵発振クロック動作時）

CPU動作クロック	動作モード	メイン・クロックの状態	内蔵発振クロックの状態	クロック・モニタの状態
メイン・クロック	HALTモード	発振	発振注1	動作注2
	IDLE1, IDLE2モード	発振	発振注1	動作注2
	STOPモード	停止	発振注1	停止
サブクロック（PCCレジスタのMCKビット = 0）	サブIDLEモード	発振	発振注1	動作注2
サブクロック（PCCレジスタのMCKビット = 1）	サブIDLEモード	停止	発振注1	停止
内蔵発振クロック	―	停止	発振注3	停止
リセット中	―	停止	停止	停止

注1. RCM.RSTOPビットをセット（1）することで内蔵発振器を停止できます。

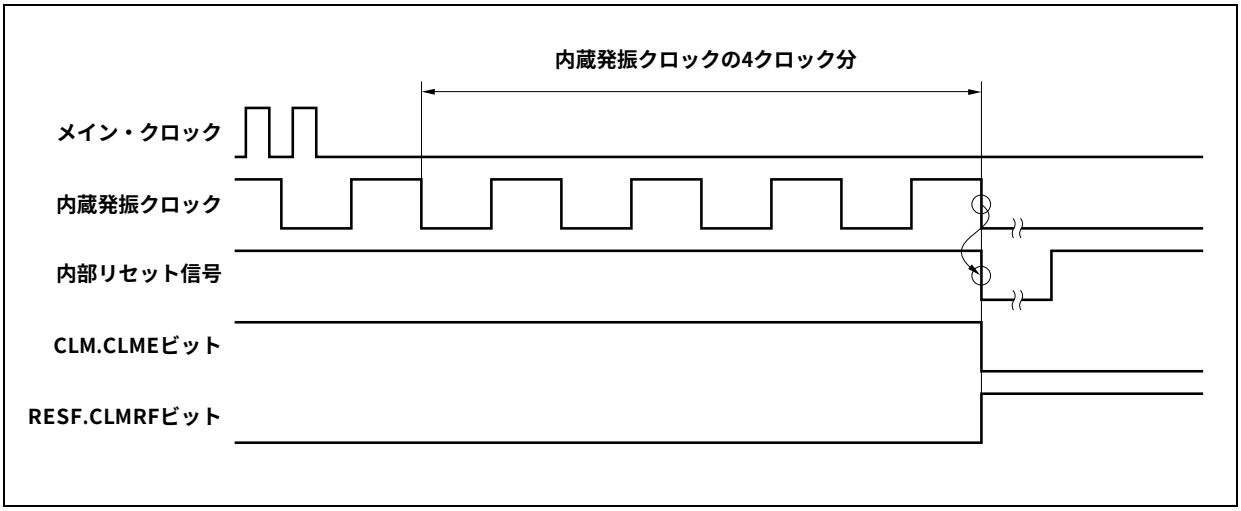
2. 内蔵発振器が停止している場合，クロック・モニタは停止します。

3. 内蔵発振器をソフトウエアで停止することはできません。

(1) メイン・クロック発振停止時の動作（CLMEビット = 1）

CLMEビット = 1のとき，メイン・クロックの発振が停止した場合，図23－2のタイミングで内部リセット信号が発生します。

図23－2　メイン・クロックの発振停止によってリセットがかかる時間

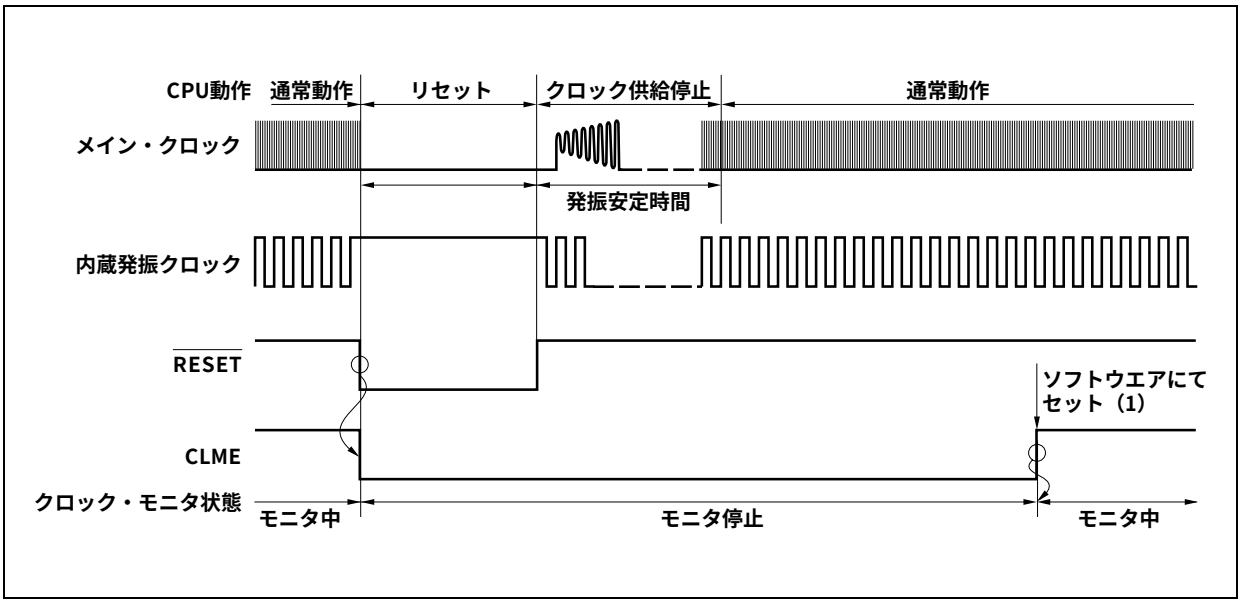


(2) $\overline{\text{RESET}}$入力後のクロック・モニタの状態

$\overline{\text{RESET}}$入力により，CLM.CLMEビットはクリア（0）されて，クロック・モニタは動作停止します。メイン・クロックの発振安定時間後にソフトウエアでCLMEビットをセット（1）すると，モニタ動作を開始します。

図23－3　$\overline{\text{RESET}}$入力後のクロック・モニタの状態

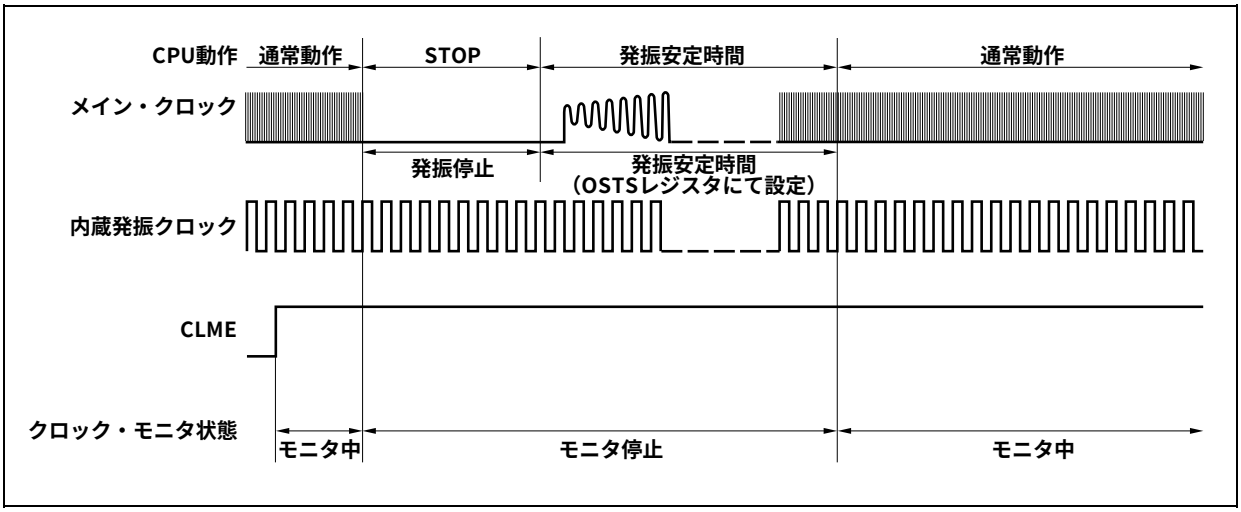
（$\overline{\text{RESET}}$入力後，メイン・クロックの発振安定時間終了後に，CLM.CLMEビット = 1を設定）



(3) STOPモード中およびSTOPモード解除後の動作

CLM.CLMEビット = 1の状態でソフトウエアSTOPモードに移行した場合，STOPモード中および発振安定時間カウント中はモニタ動作を停止します。発振安定時間カウント終了後に自動的にモニタ動作を開始します。

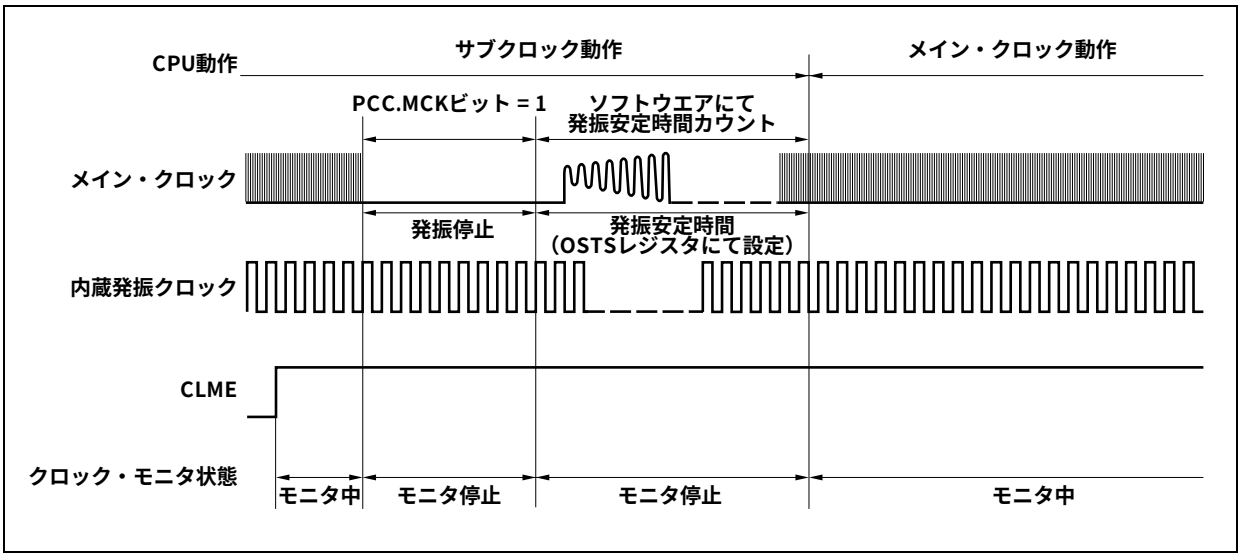
図23－4　STOPモード中およびSTOPモード解除後の動作



(4) メイン・クロック停止時（任意）の動作

サブクロック動作時（PCC.CLSビット = 1），PCC.MCKビット = 1に設定することによりメイン・クロックを停止した場合，メイン・クロック動作（PCC.CLSビット = 0）に移行するまでモニタ動作を停止し，メイン・クロック動作移行後に自動的にモニタ動作を開始します。

図23－5　メイン・クロック停止時（任意）の動作



(5) CPUが内蔵発振クロックで動作時（CCLS.CCLSFビット = 1）の動作

CCLSFビット = 1のとき，CLMEビット = 1に設定してもモニタ動作を開始しません。

第24章　低電圧検出回路（LVI）

24. 1　機　　能

低電圧検出回路（LVI）は次のような機能を持ちます。

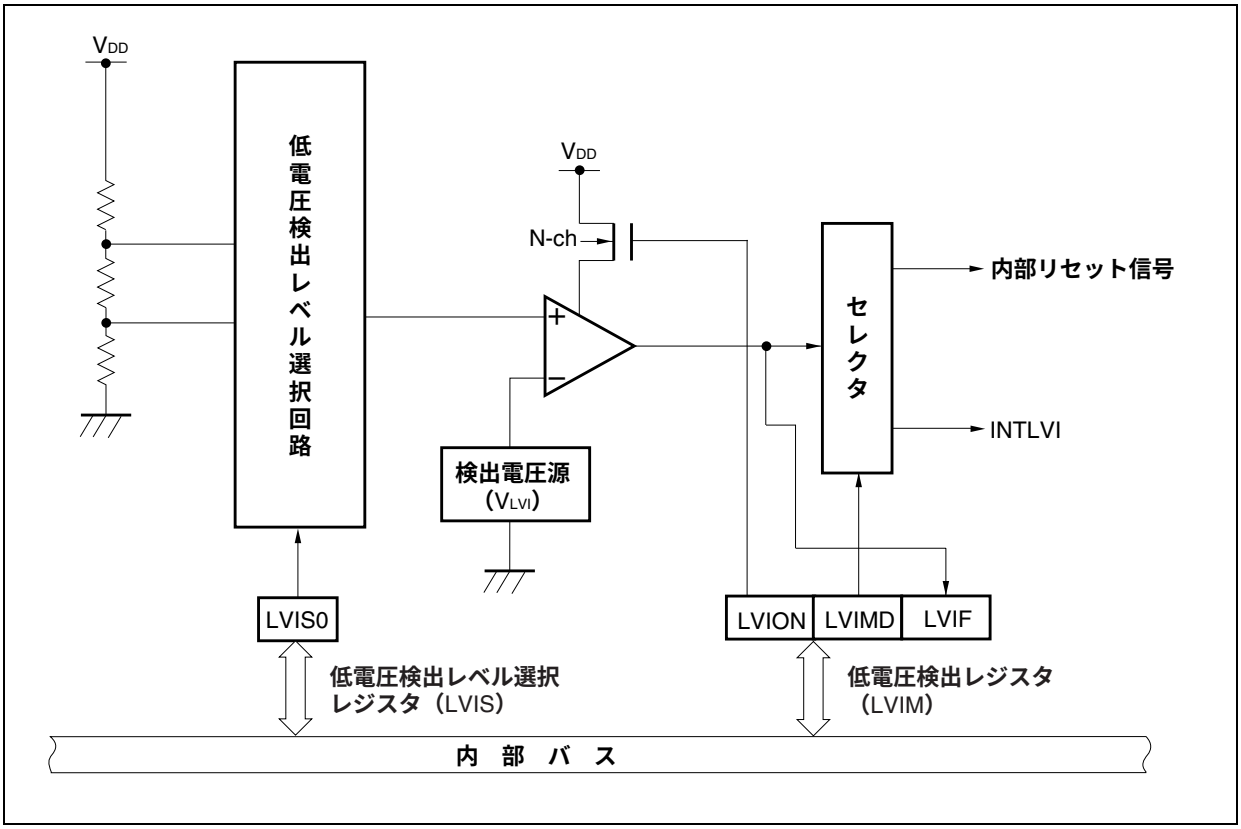
- 低電圧検出時に割り込み発生を選択している場合，電源電圧（V_{DD}）と検出電圧（V_{LVI}）を比較し，電源電圧が検出電圧を下回ったとき，および上回ったときに，内部割り込み信号を発生します。
- 低電圧検出時にリセット発生を選択している場合，電源電圧（V_{DD}）が検出電圧（V_{LVI}）を下回ったときに内部リセット信号を発生します。
- 割り込み／リセットをソフトウエアにて選択できます。
- STOPモードにおいて動作可能です。

低電圧検出回路をリセットとして使用した場合に，リセットが発生するとRESF.LVIRFビットがセット（1）されます。RESFレジスタについての詳細は，22. 2　**リセット要因を確認するレジスタ**を参照してください。

24. 2　構　　成

低電圧検出回路のブロック図を次に示します。

図24－1　低電圧検出回路のブロック図



24. 3　レジスタ

低電圧検出回路は次のレジスタで制御します。

・低電圧検出レジスタ（LVIM）
・低電圧検出レベル選択レジスタ（LVIS）
・内蔵RAMデータ・ステータス・レジスタ（RAMS）

(1) 低電圧検出レジスタ（LVIM）

LVIMレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスの組み合わせによってだけ書き込みができます（3. 4. 7　特定レジスタ参照）。

LVIMレジスタは，低電圧検出，動作モードを設定するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。ただし，LVIFビットはリードのみ可能です。

リセット時：注1　　R/W　　アドレス：FFFFF890H

	⑦	6	5	4	3	2	①	⓪
LVIM	LVION	0	0	0	0	0	LVIMD	LVIF

LVION	低電圧検出動作の許可／禁止
0	動作禁止
1	動作許可

LVIMD	低電圧検出の動作モード選択
0	電源電圧値が検出電圧値を下回ったとき，または上回ったときに割り込み要求信号INTLVIを発生
1	電源電圧＜検出電圧時に内部リセット信号LVIRESを発生

LVIF注2	低電圧検出フラグ
0	電源電圧＞検出電圧，または動作禁止時
1	接続する電源電圧＜検出電圧

注1.　低電圧検出によるリセット　　：82H
　　そのほかの要因によるリセット　　：00H
　2.　LVI動作開始（LVIONビット ＝ 1）後，またはINTLVI発生時には，LVIFビットで電源電圧の状態を確認してください。

注意1.　LVIONビット ＝ 1かつLVIMDビット ＝ 1に設定した場合，低電圧検出によるリセット以外のリセット要求が発生するまで低電圧検出回路を停止できません。
　2.　LVIONビットをセット（1）すると，LVI回路内のコンパレータの動作が開始します。LVIONビットをセットしてからLVIFビットで電圧を確認するまでに，ソフトウエアで0.2 ms以上ウエイトしてください。
　3.　ビット6-2には必ず0を設定してください。

(2) 低電圧検出レベル選択レジスタ（LVIS）

LVISレジスタは，低電圧検出レベルを選択するレジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセット時：注　R/W　アドレス：FFFFF891H

	7	6	5	4	3	2	1	0
LVIS	0	0	0	0	0	0	0	LVIS0

LVIS0	検出レベル
0	2.95 V（TYP.）±0.10 V
1	予約（設定禁止）

注　低電圧検出によるリセット　：保持

そのほかの要因によるリセット　：00H

注意1.　LVIM.LVIONビット = 1かつLVIM.LVIMDビット = 1に設定したあと，低電圧検出によるリセット以外のリセット要求が発生するまで，このレジスタへの書き込みは行えません。

2.　ビット7-1には必ず0を設定してください。

(3) 内蔵RAMデータ・ステータス・レジスタ（RAMS）

RAMSレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスの組み合わせによってだけ書き込みができます（3. 4. 7　特定レジスタ参照）。

内蔵RAMデータの有効／無効を示すフラグ・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

次にRAMFビットのセット／クリア条件を示します。

・セット条件　：検出レベル以下の電圧検出

：命令によるセット

・クリア条件　：特定シーケンスによる0書き込み

リセット時：01H注　R/W　アドレス：FFFFF892H

	7	6	5	4	3	2	1	⓪
RAMS	0	0	0	0	0	0	0	RAMF

RAMF	内蔵RAM電圧検出
0	RAM保持電圧以下を非検出
1	RAM保持電圧以下を検出

注　RAM保持電圧を下回ったときにだけリセットされます。

24. 4　動　　作

LVIM.LVIMDビットの設定により，割り込み信号（INTLVI）もしくは内部リセット信号を発生します。
次に動作設定方法とタイミング図を示します。

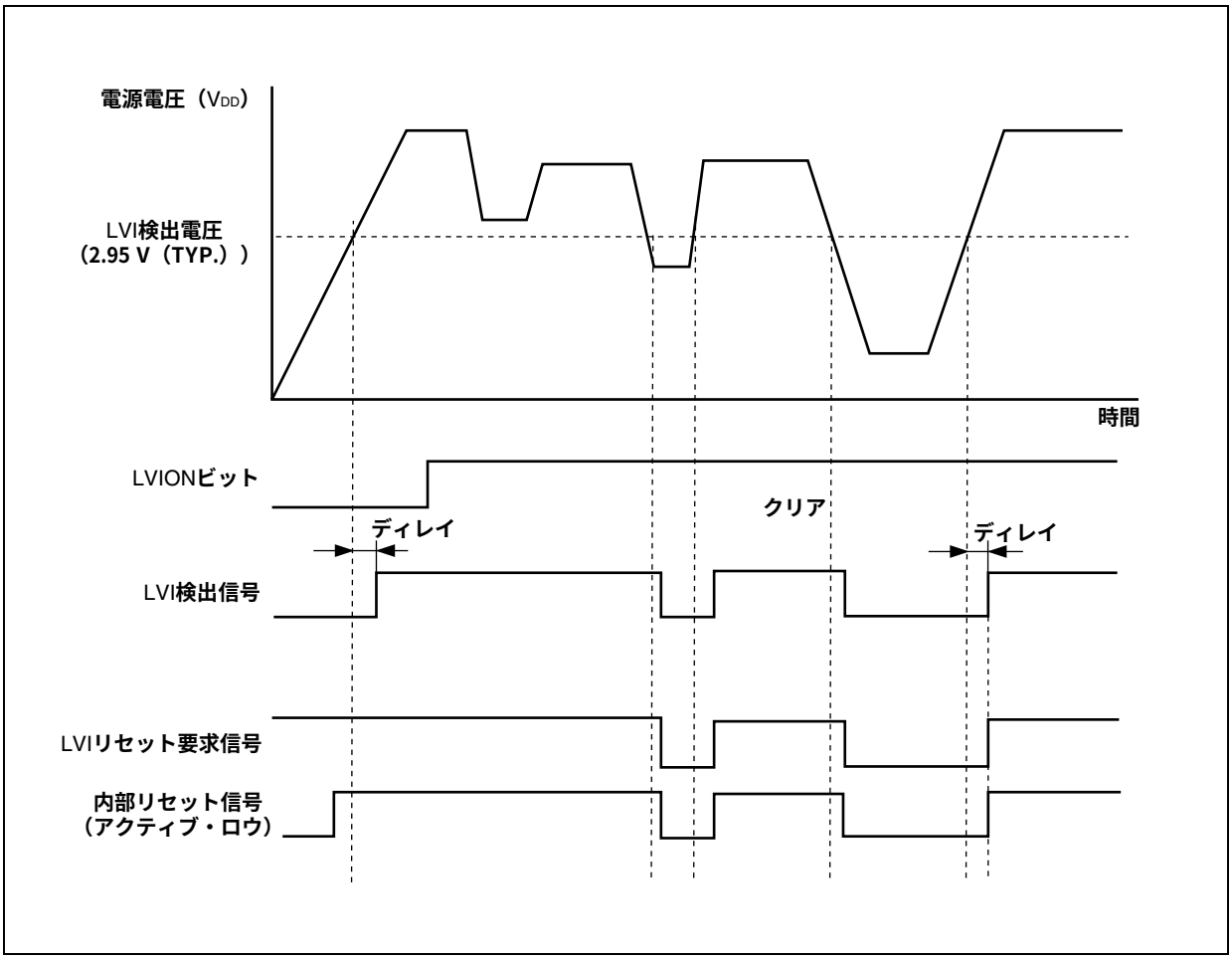
24. 4. 1　内部リセット信号として使用する場合

＜動作開始時＞

① LVIの割り込みをマスクします。
② LVIS.LVIS0ビットにて検出電圧を設定します。
③ LVIM.LVIONビット = 1に設定（動作許可）します。
④ 0.2 ms（MAX.）以上ソフトウエアにてウエイトを挿入します。
⑤ LVIM.LVIFビットで電源電圧＞検出電圧であることを確認します。
⑥ LVIMDビット = 1（内部リセット発生）を設定します。

注意　LVIMDビット = 1に設定した場合，LVI以外のリセット要求が発生するまで，LVIM, LVISレジスタの変更はできません。

図24－2　低電圧検出回路の動作タイミング（LVIMDビット = 1）



24. 4. 2　割り込みとして使用する場合

＜動作開始時＞

① LVIの割り込みをマスクします。

② LVIS.LVIS0ビットにて検出電圧を設定します。

③ LVIM.LVIONビット = 1に設定（動作許可）します。

④ 0.2 ms（MAX.）以上ソフトウエアにてウエイトを挿入します。

⑤ LVIM.LVIFビットで電源電圧 ＞ 検出電圧であることを確認します。

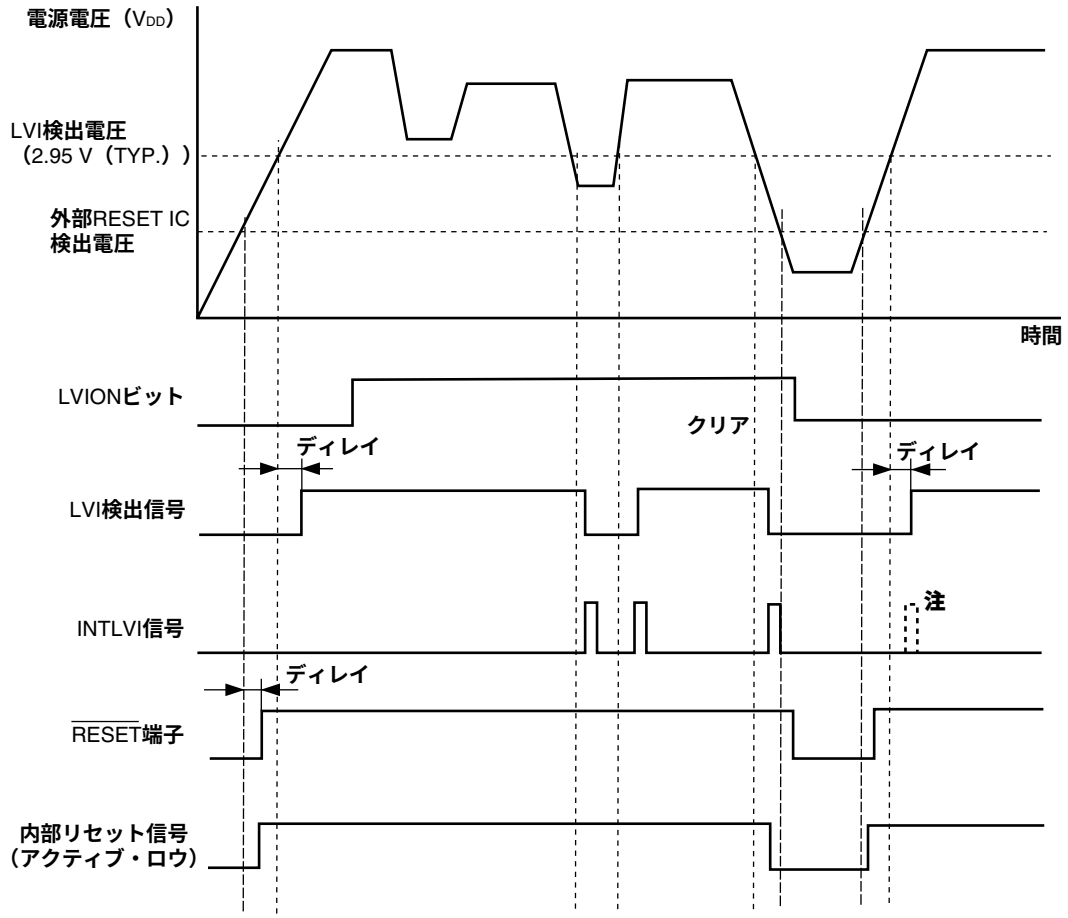
⑥ LVIの割り込み要求フラグをクリアします。

⑦ LVIの割り込みマスクを解除します。

＜動作停止時＞

LVIONビット = 0に設定します。

図24－3　低電圧検出回路の動作タイミング（LVIMDビット = 0）



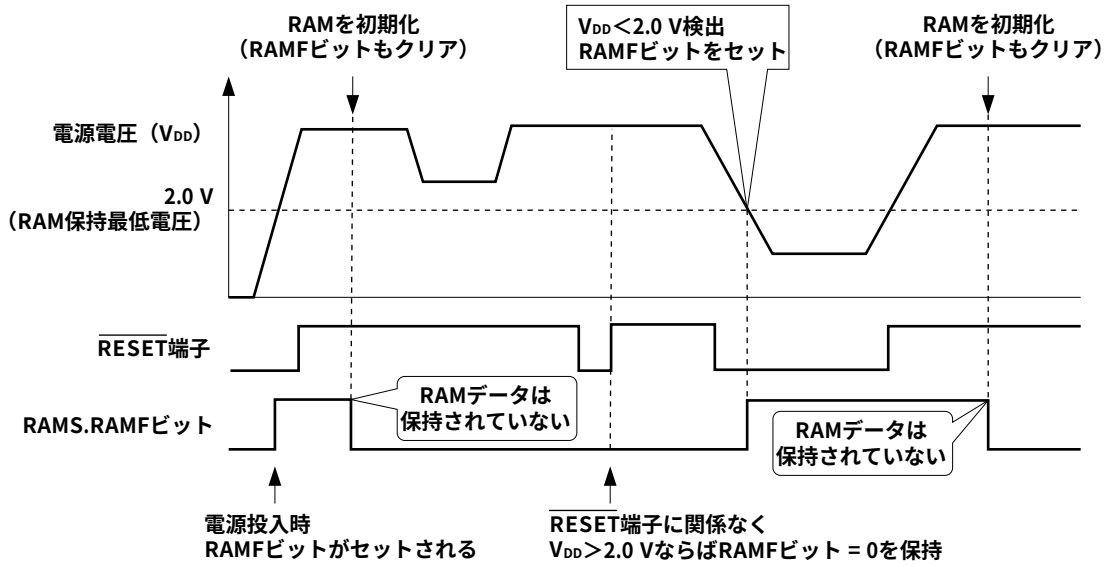
注　外部リセット入力によりLVIONビットが初期値（動作禁止）になるため，INTLVI割り込みは発生しません。

注意　INTLVI信号発生時は，その割り込みが検出電圧を下回ったことにより発生したか，上回ったことにより発生したかをLVIM.LVIFビットで確認してください。

24. 5　RAM保持電圧検出動作

電源電圧と検出電圧を比較し，電源電圧が検出電圧を下回った場合（電源投入時も含みます），RAMS.RAMFビットをセット（1）します。

図24－4　RAM保持電圧検出機能の動作タイミング



備考1.　RAMFビットは，電源電圧がRAM保持最低電圧（2.0 V（TYP.））より降下した場合にセット（1）されます。

2.　RAMFビットは，RESET端子の状態に関係なく動作します。

24. 6　エミュレーション機能

インサーキット・エミュレータ使用時，デバッガ上で，PEMU1レジスタを操作することにより，疑似的にRAM保持フラグ（RAMS.RAMFビット）動作を制御し，エミュレーションを実現することが可能です。

なお，このレジスタは，エミュレーション・モード時のみ有効で，通常モードでは無効になります。

(1) 周辺エミュレーション・レジスタ1（PEMU1）

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF9FEH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PEMU1	0	0	0	0	0	EVARAMIN	0	0

EVARAMIN	RAM保持電圧検出信号疑似指定
0	RAM保持電圧以下を非検出
1	RAM保持電圧以下を検出（RAMFフラグをセット）

注意　このビットは，自動的にクリアされません。

[使用方法]

インサーキット・エミュレータ使用時，デバッガ上でこのレジスタの書き換えを行うことにより，RAMFの疑似エミュレーションを実現します。

①CPUブレーク（CPU動作停止）

②レジスタ書き込みコマンドにより，EVARAMINビットを“1”にします。
EVARAMINビットを“1”にすることにより，ハード上でRAMFビットが“1”（内蔵RAMデータが無効）になります。

③再度，レジスタ書き込みコマンドにより，EVARAMINビットを“0”にします。
この動作を行わない（EVARAMINビットを“1→0”）場合は，CPU動作命令にてRAMFビットをクリア（0）することができなくなります。

④CPUをRUNし，エミュレーションを再開。

第25章　CRC機能

25. 1　機　　能

- データ・ブロックの誤り検出用のCRC演算回路です。
- 8ビット単位の任意のデータ長ブロックに対し，CRC-CCITT（$X^{16}+X^{12}+X^{5}+1$）の生成多項式を使用し，16ビットCRCコードを生成します。
- CRCコードは，CRCDレジスタに初期値を設定したあと，1バイトのデータをCRCINレジスタに転送するごとに，CRCDレジスタに設定されます。

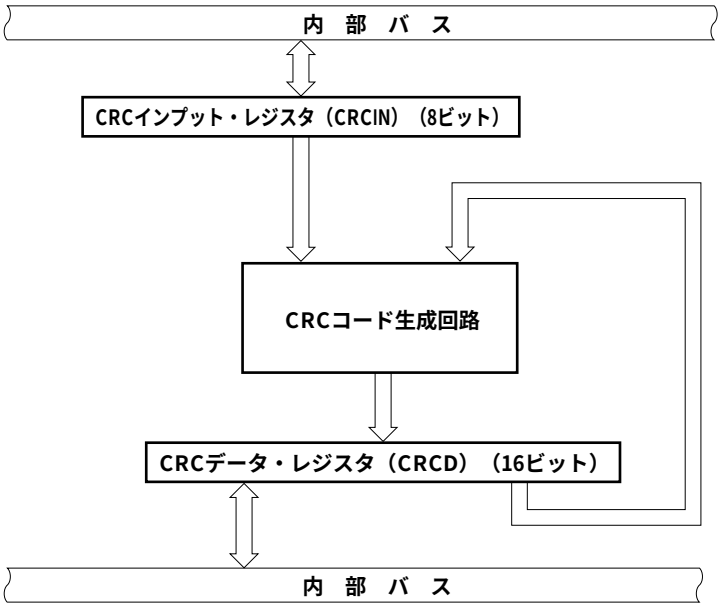
25. 2　構　　成

CRC機能は，次のハードウエアで構成されています。

表25－1　CRCの構成

項　　目	構　　成
制御レジスタ	CRCインプット・レジスタ（CRCIN） CRCデータ・レジスタ（CRCD）

図25－1　CRCレジスタのブロック図



25. 3　レジスタ

(1) CRCインプット・レジスタ（CRCIN）

CRCINレジスタは，データ設定用の8ビット・レジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時：00H　R/W　アドレス：FFFFF310H

	7	6	5	4	3	2	1	0
CRCIN								

(2) CRCデータ・レジスタ（CRCD）

CRCDレジスタは，CRC-CCITT演算結果格納の16ビット・レジスタです。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意　次に示す状態において，CRCDレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 9（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。

- CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合
- CPUが内蔵発振クロックで動作している場合

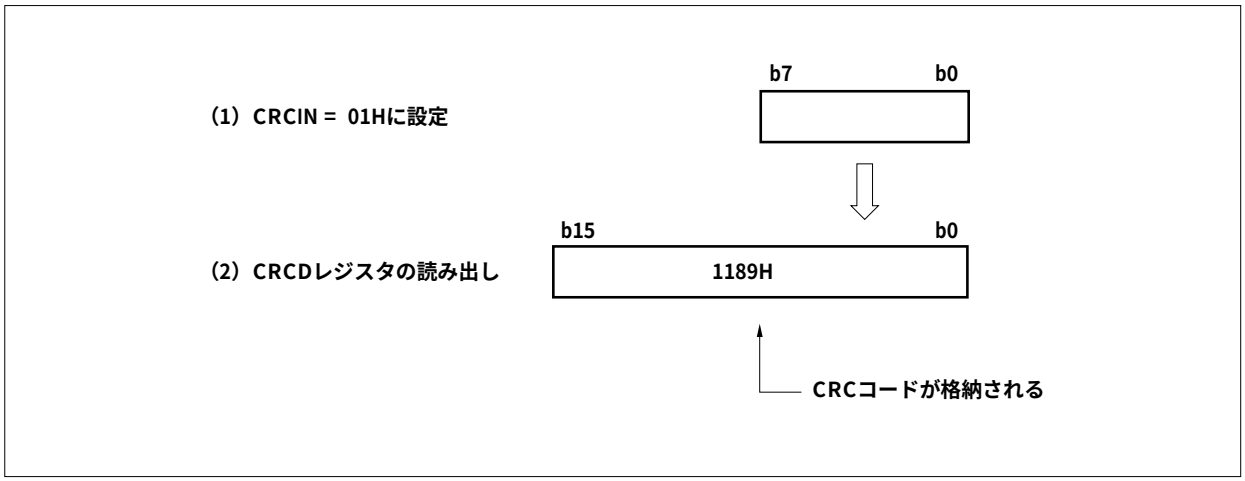
リセット時：0000H　R/W　アドレス：FFFFF312H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
CRCD																

25. 4 動　　作

CRC演算回路の演算例を次に示します。

図25－2　CRC演算回路の演算例（LSBファースト）



01HをLSBファーストで送信した場合のコードは（1000 0000）です。したがって，生成多項式$X^{16}+X^{12}+X^{5}+1$でのCRCコードは，モジュロ2の演算法則を用いて（1000 0000）X^{16}を（1 0001 0000 0010 0001）で除算をした場合の剰余となります。

モジュロ2の演算とは次の法則に基づいた演算です。

0＋0 = 0

0＋1 = 1

1＋0 = 1

1＋1 = 0

－1 = 1

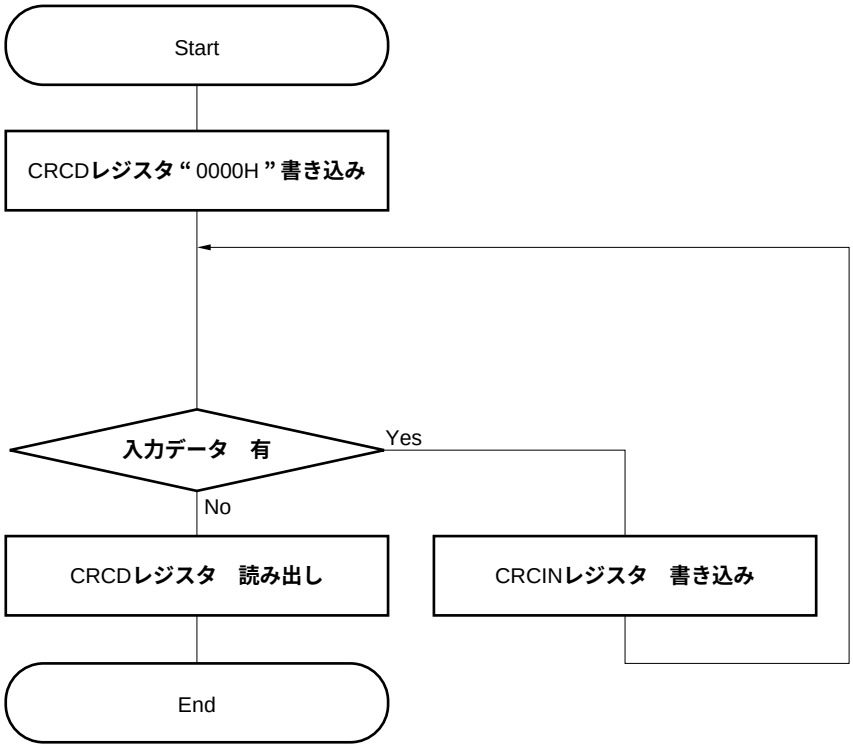
```
                                   LSB
                                                          1000  1000   MSB
1  0001  0000  0010  0001 / 1000  0000  0000  0000  0000  0000
                           1000  1000  0001  0000  1
                                 1000  0001  0000  1000  0
                                 1000  1000  0001  0000  1
                                       1001  0001  1000  1000
                                 LSB                           MSB
```

したがって，CRC符号は $\overbrace{1001}^{9}\ \overbrace{0001}^{8}\ \overbrace{1000}^{1}\ \overbrace{1000}^{1}$ となります。LSBファーストなので16進数表記では，1189Hに相当します。

25. 5　使用方法

次にCRC論理回路の使用方法について説明します。

図25ー3　CRC動作フロー



〔基本使用方法〕

① CRCDレジスタに0000Hを書き込み

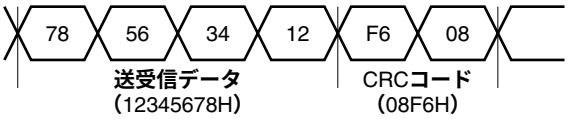
② CRCINレジスタに必要な分のデータを順に書き込み

③ CRCDレジスタ読み出し

複数バイトのデータを送受信する際，送受信データとともに，CRCコードを送受信すると，通信エラーを容易に検出できます。

次に12345678H（0001 0010 0011 0100 0101 0110 0111 1000B）をLSBファーストで送信する場合の例について示します。

図25ー4　CRC送信例



送信側の設定手順

① CRCDレジスタに，初期値“0000H”を書き込む

② 最初に送信する1バイト・データを，送信バッファ・レジスタに書き込む（このとき，CRCINレジスタにも同じデータを書き込む）

③ 複数バイトのデータを送信する場合は，送信データを送信バッファ・レジスタに書き込むたびに，同じデータをCRCINレジスタに書き込む

④ すべてのデータを送信したあと，CRCDレジスタの内容（CRCコード）を送信バッファ・レジスタに書き込み，送信する（LSBファーストなので，下位バイト，上位バイトの順に送信する）

受信側の設定手順

① CRCDレジスタに，初期値“0000H”を書き込む

② 最初の1バイト・データの受信完了後，その受信データを，CRCINレジスタに書き込む

③ 複数バイトのデータを受信する場合は，受信完了のたびに，その受信データをCRCINレジスタに書き込む（正常に受信している場合，すべての受信データをCRCINレジスタに書き込んだ時点で，受信側のCRCDレジスタの内容と送信側のCRCDレジスタの内容は同一になる）

④ このあと，送信側からはCRCコードが送信されるので，受信データと同様に，CRCINレジスタに書き込む

⑤ CRCコードを含めて，すべての受信が完了した時点で，CRCDレジスタの内容が“0000H”であれば，正常受信。CRCDレジスタの内容は“0000H”以外の値の場合は，通信エラーであるため，送信側へ再送要求を行う

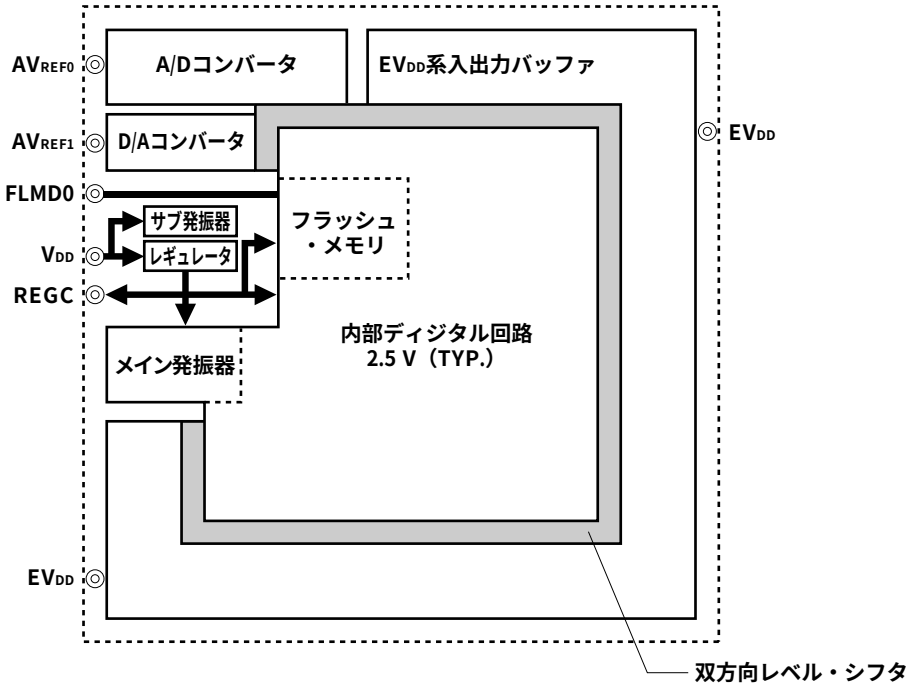
第26章　レギュレータ

26. 1　概　　要

V850ES/JJ3は，低消費電力／低ノイズを実現するために，レギュレータを内蔵しています。

このレギュレータは，発振器ブロックと内部ロジック回路（A/Dコンバータ，D/Aコンバータ，出力バッファは除く）に，V_{DD}電源電圧を降圧した電圧を供給します。レギュレータ出力電圧は，2.5 V（TYP.）に設定しています。

図26－1　レギュレータ



注意　V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}で使用してください。

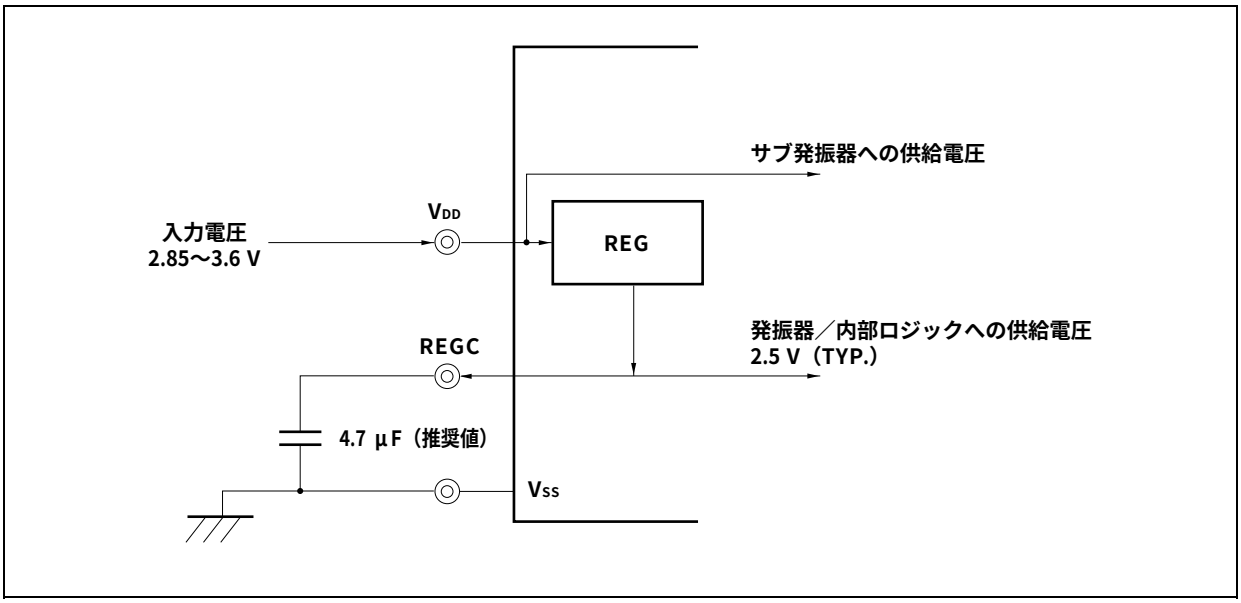
26. 2 動　　作

この製品のレギュレータは，いかなるモード（通常動作モード／HALTモード／IDLE1モード／IDLE2モード／STOPモード／リセット中）でも常に動作します。

また，レギュレータの出力を安定させるためにREGC端子にコンデンサ（4.7 μF（推奨値））を接続してください。

次に端子の接続の方法を示します。

図26－2　REGC端子の接続



第27章　フラッシュ・メモリ

V850ES/JJ3は，フラッシュ・メモリを内蔵しています。

- μPD70F3743：384 Kバイトのフラッシュ・メモリ内蔵
- μPD70F3744：512 Kバイトのフラッシュ・メモリ内蔵
- μPD70F3745：768 Kバイトのフラッシュ・メモリ内蔵
- μPD70F3746：1024 Kバイトのフラッシュ・メモリ内蔵

フラッシュ・メモリ内蔵品は，開発用途および量産用途として次のような利点があります。

○ターゲット・システムにV850ES/JJ3を半田実装後，ソフトウエアの変更可能
○量産立ち上げ時のデータ調整が容易
○規格ごとにソフトウエアを区別することで少量多品種生産が容易
○在庫管理が容易
○出荷後のソフトウエアのアップデートが容易

27. 1　特　　徴

○4バイト/1クロック・アクセス（命令フェッチ時）
○容量：1024 Kバイト／768 Kバイト／512 Kバイト／384 Kバイト
○書き換え電圧：単一電源による消去／書き込みが可能
○書き換え方式
- 専用フラッシュ・ライタとのシリアル・インタフェースを介しての通信による書き換え（オンボード／オフボード・プログラミング）
- ユーザ・プログラムによるフラッシュ・メモリの書き換え（セルフ・プログラミング）

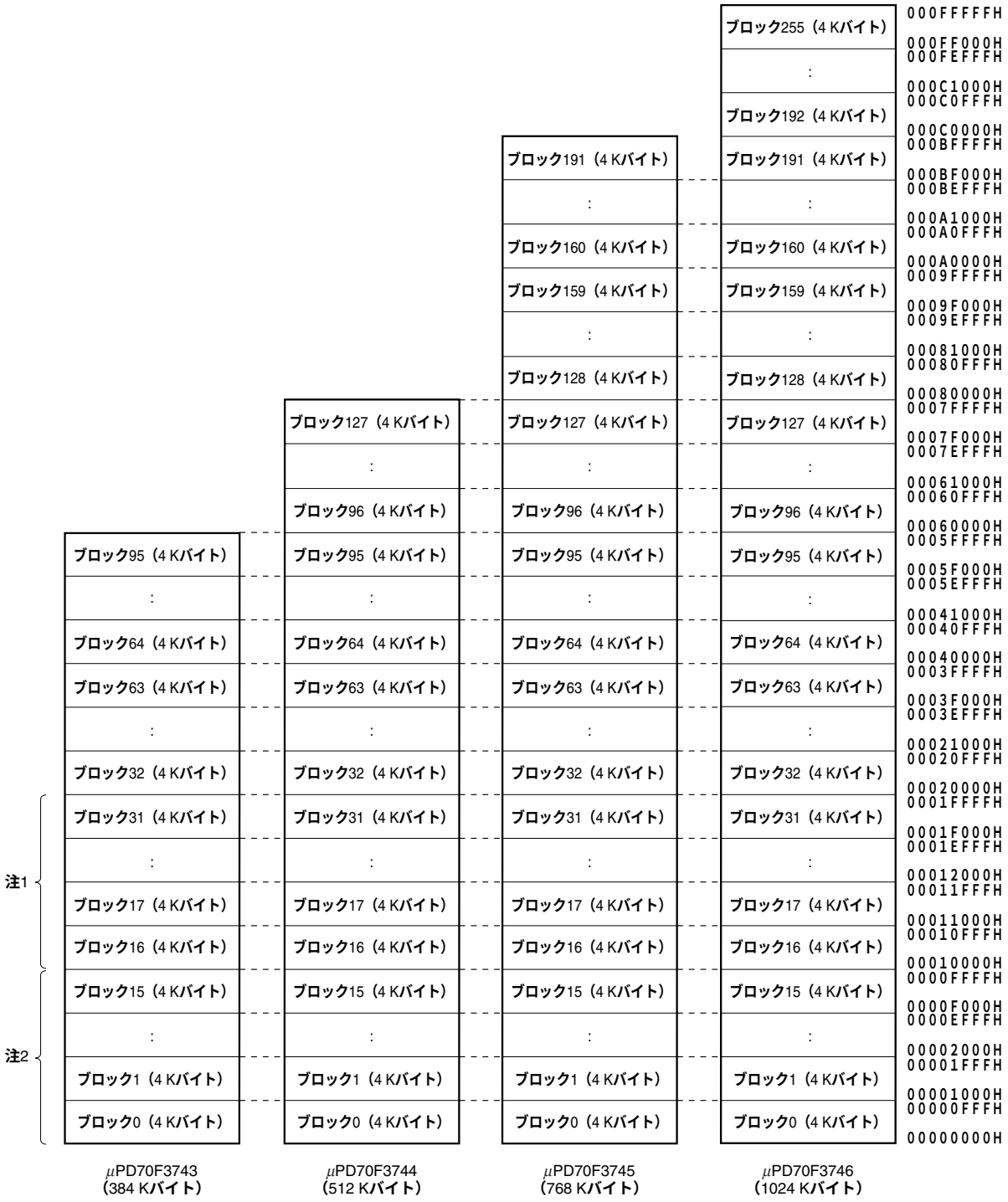
○フラッシュ・メモリの書き換え禁止機能をサポート（セキュリティ機能）
○ブート・スワップ機能により，セルフ・プログラミングによる全フラッシュ・メモリ領域のセキュアな書き換えが可能
○セルフ・プログラミング中の割り込み受け付け可能

27. 2　メモリ構成

V850ES/JJ3の内蔵フラッシュ・メモリの領域は，すべて4 Kバイトごとのブロックに分割されており，各ブロック単位でプログラム／消去可能となっています。また，全ブロックおよび複数ブロックの一括消去も可能です。

また，ブート・スワップ機能を用いた場合，ブロック0-15のアドレスに配置された物理メモリと，ブロック16-31のアドレスに配置された物理メモリが入れ替わります。ブート・スワップ機能詳細については，27. 5　**セルフ・プログラミングによる書き換え**を参照してください。

図27－1　フラッシュ・メモリ・マッピング



注1.　**ブート・スワップによりブート領域と入れ替わる領域**

2.　**ブート領域**

27. 3　機能概要

V850ES/JJ3の内蔵フラッシュ・メモリは，専用フラッシュ・ライタによる書き換え機能により，ターゲット・システムへの実装前，実装後にかかわらず書き換えが可能です（オフボート／オンボード・プログラミング）。

また，内蔵フラッシュ・メモリに書かれたユーザ・プログラムの書き換えを禁止するセキュリティ機能をサポートしており，第三者によるプログラムの改ざん防止などに対応可能となっています。

ユーザ・プログラムによる書き換え機能（セルフ・プログラミング）は，ターゲット・システムの製造／出荷後のプログラム変更を想定したアプリケーションに適した書き換え方法です。全フラッシュ・メモリ領域を安全に書き換えるためのブート・スワップ機能もサポートしています。また，セルフ・プログラミング中の割り込み処理のサポートにより，外部との通信処理を行いながら書き換えを行うなど，さまざまな条件での書き換えが可能です。

表27－1　書き換え方法

書き換え方法	機能概要	動作モード
オンボード・プログラミング	専用フラッシュ・ライタを用いてターゲット・システム上に実装後にフラッシュ・メモリの書き換えが可能です。	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード
オフボード・プログラミング	専用フラッシュ・ライタと専用プログラム・アダプタ・ボード（FAシリーズ）を用いることにより，ターゲット・システムに実装する前に，フラッシュ・メモリの書き換えが可能です。	
セルフ・プログラミング	オフボード／オンボード・プログラミングによりフラッシュ・メモリへあらかじめ書き込まれたユーザ・プログラムの実行により，フラッシュ・メモリの書き換えが可能です。（セルフ・プログラミング中は内蔵フラッシュ・メモリ領域からの命令フェッチおよびデータ・アクセスはできませんので，内蔵RAMもしくは外部メモリへ書き換え用のプログラムをあらかじめ転送して実行する必要があります。）	通常動作モード

備考　FAシリーズは，（株）内藤電誠町田製作所の製品です。

表27－2　基本機能一覧

機　能	機能概要	サポートの有無 （○：サポート，×：未サポート）	
		オンボード／オフボード・プログラミング	セルフ・プログラミング
ブランク・チェック	全メモリの消去状態の確認を行います。	○	○
チップ消去	全メモリの内容の一括消去を行います。	○	×注
ブロック消去	指定したブロックのメモリの内容の消去を行います。	○	○
プログラム	指定したアドレスの書き込みおよび書き込みレベルが確保されているかどうかのベリファイ・チェックを行います。	○	○
ベリファイ／チェック・サム	フラッシュ・メモリから読み出したデータと，フラッシュ・メモリ・プログラマから転送されたデータの比較を行います。	○	× （ユーザ・プログラムにて読み出しは可能）
リード	フラッシュ・メモリに書き込まれたデータの読み出しを行います。	○	×
セキュリティ設定	チップ消去コマンド／ブロック消去コマンド／プログラム・コマンド／リード・コマンドの使用禁止設定およびブート・ブロック・クラスタの書き換え禁止設定を行います。	○	× （設定を許可から禁止にする場合のみ可能）

注　ブロック消去関数において全メモリ領域を指定することにより可能です。

次にセキュリティ機能の一覧を示します。チップ消去コマンド禁止／ブロック消去コマンド禁止／プログラム・コマンド禁止／リード・コマンド禁止／ブート・ブロック・クラスタの書き換え禁止設定機能は，出荷後の初期状態はすべて許可になっており，オンボード／オフボート・プログラミングによる書き換えでのみセキュリティ設定が可能です。各セキュリティ設定に関しては，同時に組み合わせて使用できます。

表27－3　セキュリティ機能一覧

機　能	機能概要
チップ消去コマンド禁止	全ブロックに対してのブロック消去，およびチップ消去コマンドの実行を禁止します。一度禁止設定するとチップ消去コマンドが実行できないため，すべての禁止設定の初期化ができなくなります。
ブロック消去コマンド禁止	全ブロックに対してのブロック消去コマンドの実行を禁止します。チップ消去コマンドの実行によって，禁止設定の初期化が可能です。
プログラム・コマンド禁止	全ブロックに対してのプログラム・コマンドとブロック消去コマンドの実行を禁止します。チップ消去コマンドの実行によって，禁止設定の初期化が可能です。
リード・コマンド禁止	全ブロックに対してのリード・コマンドの実行を禁止します。チップ消去コマンドの実行によって，禁止設定の初期化が可能です。
ブート・ブロック・クラスタの書き換え禁止設定	ブロック0から指定したブロックまで，ブート・ブロック・クラスタを保護することが可能です。ブート・ブロック・クラスタを保護すると，それ以降保護されたブート・ブロック・クラスタの書き換え（消去および書き込み）はできません。チップ消去コマンドを実行しても，禁止設定の初期化はできません。 指定可能な最大ブロックは次のとおりです。 384 Kバイト搭載品　：ブロック95 512 K/768 K/1024 Kバイト搭載品　：ブロック127

表27ー4　セキュリティ設定

機　　能	各セキュリティ設定時の消去／書き込み／読み出し動作（○：実行可能，×：実行不可，ー：未サポート）		セキュリティ設定注意事項	
	オンボード／オフボード・プログラミング	セルフ・プログラミング	オンボード／オフボード・プログラミング	セルフ・プログラミング
チップ消去コマンド禁止	チップ消去コマンド：× ブロック消去コマンド：× プログラム・コマンド：○[注1] リード・コマンド：○	チップ消去：ー ブロック消去（FlashBlockErase）：○ 書き込み（FlashWordWrite）：○ 読み出し（FlashWordRead）：○	禁止設定の初期化が不可能	設定を許可から禁止にする場合のみ可能
ブロック消去コマンド禁止	チップ消去コマンド：○ ブロック消去コマンド：× プログラム・コマンド：○ リード・コマンド：○	チップ消去：ー ブロック消去（FlashBlockErase）：○ 書き込み（FlashWordWrite）：○ 読み出し（FlashWordRead）：○	チップ消去コマンドによる禁止設定の初期化が可能	
プログラム・コマンド禁止	チップ消去コマンド：○ ブロック消去コマンド：× プログラム・コマンド：× リード・コマンド：○	チップ消去：ー ブロック消去（FlashBlockErase）：○ 書き込み（FlashWordWrite）：○ 読み出し（FlashWordRead）：○	チップ消去コマンドによる禁止設定の初期化が可能	
リード・コマンド禁止	チップ消去コマンド：○ ブロック消去コマンド：○ プログラム・コマンド：○ リード・コマンド：×	チップ消去：ー ブロック消去（FlashBlockErase）：○ 書き込み（FlashWordWrite）：○ 読み出し（FlashWordRead）：○	チップ消去コマンドによる禁止設定の初期化が可能	
ブート・ブロック・クラスタの書き換え禁止	チップ消去コマンド：× ブロック消去コマンド：×[注2] プログラム・コマンド：×[注2] リード・コマンド：○	チップ消去：ー ブロック消去（FlashBlockErase）：×[注2] 書き込み（FlashWordWrite）：×[注2] 読み出し（FlashWordRead）：○	禁止設定の初期化が不可能	設定を許可から禁止にする場合のみ可能[注3]

注1. 消去コマンドは無効となるため，すでにフラッシュ・メモリに書き込まれているデータと異なるデータを書き込むことはできません。

2. ブート・ブロック・クラスタ以外は実行可能です。

3. リセット入力後からブート・ブロック・クラスタの書き換え禁止機能は有効になります。

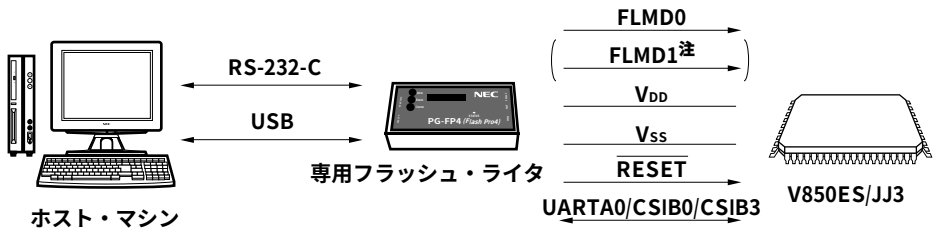
27. 4　専用フラッシュ・ライタでの書き換え

専用フラッシュ・ライタにて，ターゲット・システム上にV850ES/JJ3を実装後のフラッシュ・メモリの書き換えが可能です（オンボード・プログラミング）。また，専用プログラム・アダプタ（FAシリーズ）を使用すれば，ターゲット・システムに実装する前でのフラッシュ・メモリの書き換えが可能です（オフボード・プログラミング）。

27. 4. 1　プログラミング環境

V850ES/JJ3のフラッシュ・メモリにプログラムを書き込むために必要な環境を示します。

図27－2　フラッシュ・メモリにプログラムを書き込むための環境



注　FLMD1端子は，フラッシュ・ライタと接続するか，ボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。

専用フラッシュ・ライタには，これを制御するホスト・マシンが必要です。

また，専用フラッシュ・ライタとV850ES/JJ3とのインタフェースはUARTA0, CSIB0またはCSIB3を使用して，書き込み，消去等の操作を行います。オフボードで書き込む場合は，専用プログラム・アダプタ（FAシリーズ）が必要です。

- FA-70F3368GJ-UEN-RX（配線済み）
- FA-144GJ-UEN-A（未配線：配線が必要です。）

備考　FAシリーズは，㈱内藤電誠町田製作所の製品です。

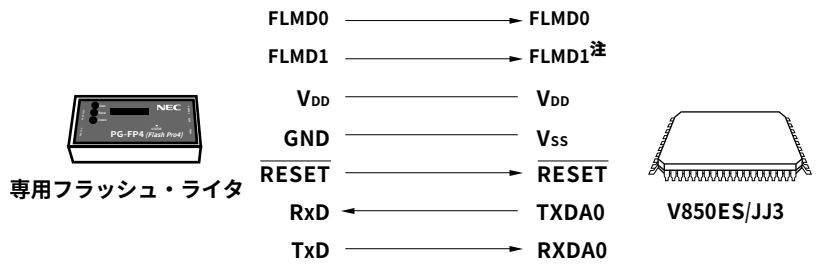
27. 4. 2　通信方式

専用フラッシュ・ライタとV850ES/JJ3との通信は，V850ES/JJ3のUARTA0, CSIB0またはCSIB3によるシリアル通信で行います。

(1) UARTA0

転送レート：9600～153600 bps

図27－3　専用フラッシュ・ライタとの通信（UARTA0）

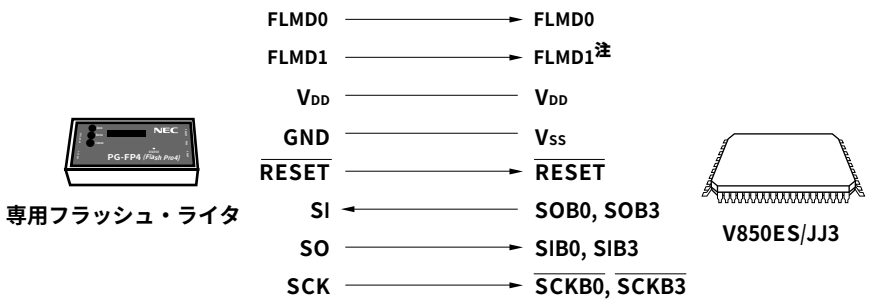


注　FLMD1端子は，フラッシュ・ライタと接続するか，ボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。

(2) CSIB0, CSIB3

シリアル・クロック：2.4 kHz～2.5 MHz（MSBファースト）

図27－4　専用フラッシュ・ライタとの通信（CSIB0, CSIB3）

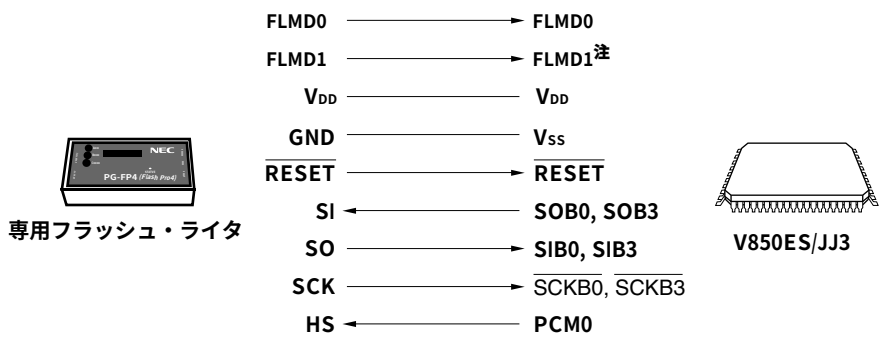


注　FLMD1端子は，フラッシュ・ライタと接続するか，ボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。

(3) CSIB0＋HS, CSIB3＋HS

シリアル・クロック：2.4 kHz～2.5 MHz（MSB**ファースト**）

図27－5　**専用フラッシュ・ライタとの通信**（CSIB0＋HS, CSIB3＋HS）



注　FLMD1**端子は，フラッシュ・ライタと接続するか，ボード上でプルダウン抵抗を介して**GND**に接続してください。**

専用フラッシュ・ライタが転送クロックを出力し，V850ES/JJ3**はスレーブとして動作します。**

専用フラッシュ・ライタとしてPG-FP4**を使用した場合，**PG-FP4**は**V850ES/JJ3**に対して次の信号を生成します。詳細は**PG-FP4　**ユーザーズ・マニュアル**（U15260J）**を参照してください。**

表27－5　**専用フラッシュ・ライタ**（PG-FP4）**の信号接続一覧**

PG-FP4			V850ES/JJ3	接続時の処置		
信号名	**入出力**	**端子機能**	**端子名**	UARTA0	CSIB0, CSIB3	CSIB0＋HS, CSIB3＋HS
FLMD0	**出力**	**書き込み許可／禁止**	FLMD0	◎	◎	◎
FLMD1	**出力**	**書き込み許可／禁止**	FLMD1	◎注1	◎注1	◎注1
VDD	－	VDD**電圧生成/電圧監視**	VDD	◎	◎	◎
GND	－	**グランド**	VSS	◎	◎	◎
CLK	**出力**	V850ES/JJ3**へのクロック出力**	X1, X2	×注2	×注2	×注2
$\overline{\text{RESET}}$	**出力**	**リセット信号**	$\overline{\text{RESET}}$	◎	◎	◎
SI/RxD	**入力**	**受信信号**	SOB0, SOB3/ TXDA0	◎	◎	◎
SO/TxD	**出力**	**送信信号**	SIB0, SIB3/ RXDA0	◎	◎	◎
SCK	**出力**	**転送クロック**	$\overline{\text{SCKB0}}$, $\overline{\text{SCKB3}}$	×	◎	◎
HS	**入力**	CSIB0＋HS，CSIB3＋HS**通信のハンドシェーク信号**	PCM0	×	×	◎

注1.　**図**27－6**のように配線するか，もしくはボード上でプルダウン抵抗を介して**GND**に接続してください。**

2.　**フラッシュ・ライタの**CLK**端子からのクロック供給はできません。ボード上に発振回路を作成してクロックを供給してください。**

備考　◎**：必ず接続してください。**

×**：接続の必要はありません。**

表27ー6　V850ES/JJ3フラッシュ書き込み用アダプタ（FA-144GJ-UEN-A）の配線表（1/2）

フラッシュ・ライタ（PG-FP4）接続端子			FAボードの端子名	CSIB0＋HS使用時		CSIB0使用時		UARTA0使用時	
信号名	入出力	端子機能		端子名	ピン番号	端子名	ピン番号	端子名	ピン番号
SI/RxD	入力	受信信号	SI	P41/SOB0/SCL01	23	P41/SOB0/SCL01	23	P30/TXDA0/SOB4	25
SO/TxD	出力	送信信号	SO	P40/SIB0/SDA01	22	P40/SIB0/SDA01	22	P31/RXDA0/INTP7/SIB4	26
SCK	出力	転送クロック	SCK	P42/$\overline{\text{SCKB0}}$	24	P42/$\overline{\text{SCKB0}}$	24	必要なし	ー
CLK	出力	V850ES/JJ3へのクロック	X1	必要なし	ー	必要なし	ー	必要なし	ー
			X2	必要なし	ー	必要なし	ー	必要なし	ー
/RESET	出力	リセット信号	/RESET	$\overline{\text{RESET}}$	14	$\overline{\text{RESET}}$	14	$\overline{\text{RESET}}$	14
FLMD0	出力	書き込み電圧	FLMD0	FLMD0	8	FLMD0	8	FLMD0	8
FLMD1	出力	書き込み電圧	FLMD1	PDL5/AD5/FLMD1	110	PDL5/AD5/FLMD1	110	PDL5/AD5/FLMD1	110
HS	入力	CSI0＋HS通信のハンドシェーク信号	RESERVE/HS	PCM0/$\overline{\text{WAIT}}$	85	必要なし	ー	必要なし	ー
VDD	ー	VDD電圧生成／電圧監視	VDD	V_{DD}	9	V_{DD}	9	V_{DD}	9
				EV_{DD}	34, 104	EV_{DD}	34, 104	EV_{DD}	34, 104
				AV_{REF0}	1	AV_{REF0}	1	AV_{REF0}	1
				AV_{REF1}	5	AV_{REF1}	5	AV_{REF1}	5
GND	ー	グランド	GND	V_{SS}	11	V_{SS}	11	V_{SS}	11
				AV_{SS}	2	AV_{SS}	2	AV_{SS}	2
				EV_{SS}	33, 103	EV_{SS}	33, 103	EV_{SS}	33, 103

注意1.　REGC**端子は，必ず**4.7 μF**（推奨値）のコンデンサを介して**GND**に接続してください。**

2.　**フラッシュ・ライタの**CLK**端子からのクロック供給はできません。**
ボード上に発振回路を作成してクロックを供給してください。

表27－6　V850ES/JJ3フラッシュ書き込み用アダプタ（FA-144GJ-UEN-A）の配線表（2/2）

フラッシュ・ライタ（PG-FP4）接続端子			FAボードの端子名	CSIB3＋HS使用時		CSIB3使用時	
信号名	入出力	端子機能		端子名	ピン番号	端子名	ピン番号
SI/RxD	入力	受信信号	SI	P911/A11/SOB3	72	P911/A11/SOB3	72
SO/TxD	出力	送信信号	SO	P910/A10/SIB3	71	P910/A10/SIB3	71
SCK	出力	転送クロック	SCK	P912/A12/$\overline{\text{SCKB3}}$	73	P912/A12/$\overline{\text{SCKB3}}$	73
CLK	出力	V850ES/JJ3へのクロック	X1	必要なし	－	必要なし	－
			X2	必要なし	－	必要なし	－
/RESET	出力	リセット信号	/RESET	$\overline{\text{RESET}}$	14	$\overline{\text{RESET}}$	14
FLMD0	出力	書き込み電圧	FLMD0	FLMD0	8	FLMD0	8
FLMD1	出力	書き込み電圧	FLMD1	PDL5/AD5/FLMD1	110	PDL5/AD5/FLMD1	110
HS	入力	CSI0＋HS通信のハンドシェーク信号	RESERVE/HS	PCM0/$\overline{\text{WAIT}}$	85	必要なし	－
VDD	－	VDD電圧生成／電圧監視	VDD	V_{DD}	9	V_{DD}	9
				EV_{DD}	34, 104	EV_{DD}	34, 104
				AV_{REF0}	1	AV_{REF0}	1
				AV_{REF1}	5	AV_{REF1}	5
GND	－	グランド	GND	V_{SS}	11	V_{SS}	11
				AV_{SS}	2	AV_{SS}	2
				EV_{SS}	33, 103	EV_{SS}	33, 103

注意1.　REGC**端子は，必ず**4.7 μF**（推奨値）のコンデンサを介して**GND**に接続してください。**

2.　**フラッシュ・ライタの**CLK**端子からのクロック供給はできません。**
ボード上に発振回路を作成してクロックを供給してください。

図27ー6　V850ES/JJ3**フラッシュ書き込み用アダプタ（**FA-144GJ-UEN-A**）の配線例（**CSIB0＋HS**モード時）（**1/2**）

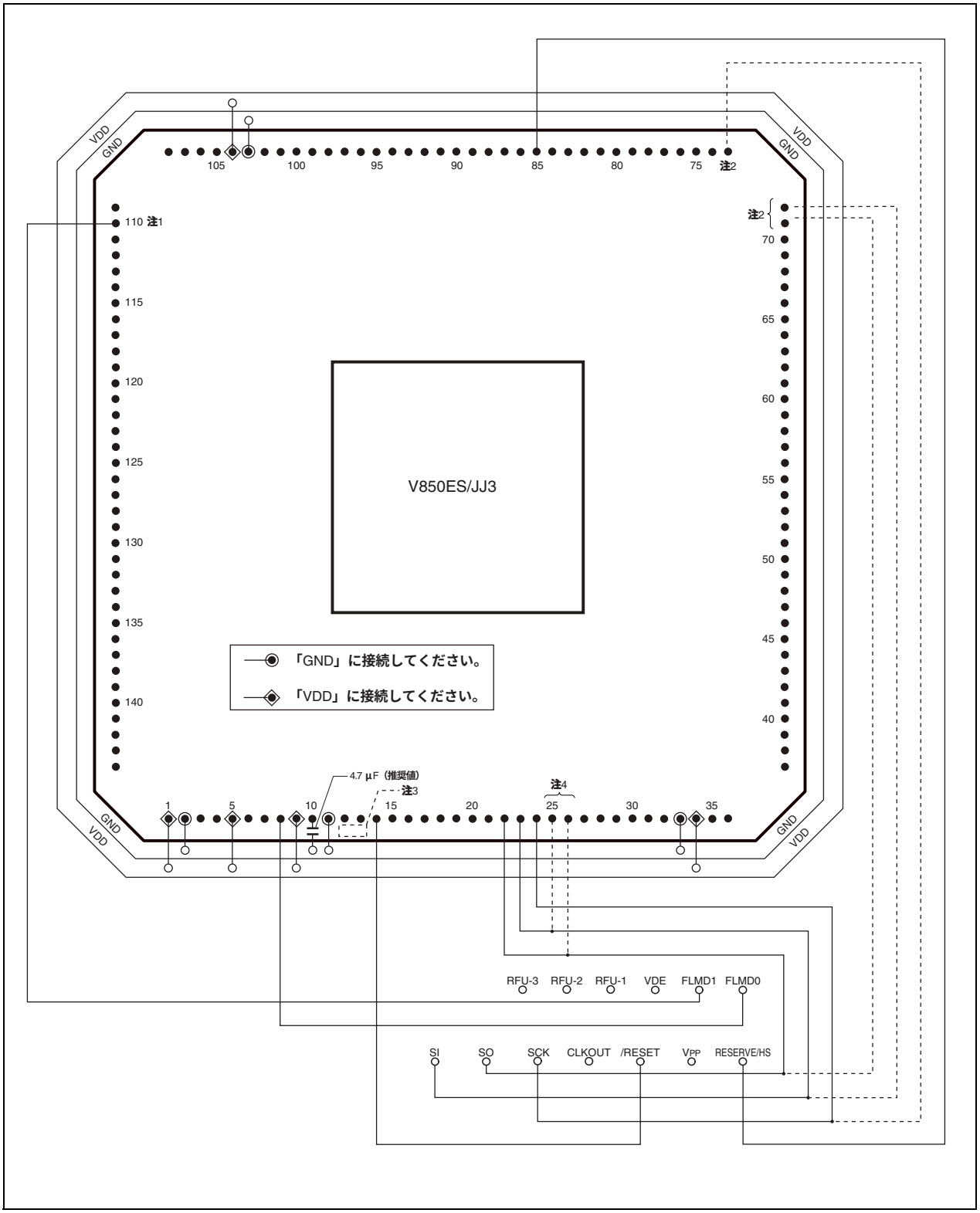


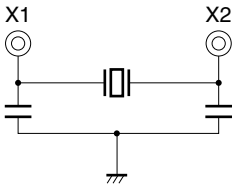
図27ー6　V850ES/JJ3**フラッシュ書き込み用アダプタ（**FA-144GJ-UEN-A**）の配線例（**CSIB0＋HS**モード時）（**2/2**）

注1.　FLMD1**端子は図のように配線するか，もしくはボード上でプルダウン抵抗を介して**GND**に接続してください。**

2.　CSIB3**使用時の該当端子**

3.　**フラッシュ書き込みアダプタ上（破線部）に発振回路を作成してクロックを供給してください。次に発振回路例を示します。**

例



4.　UARTA0**使用時の該当端子**

注意　$\overline{\text{DRST}}$**端子には，ハイ・レベルを入力しないでください。**

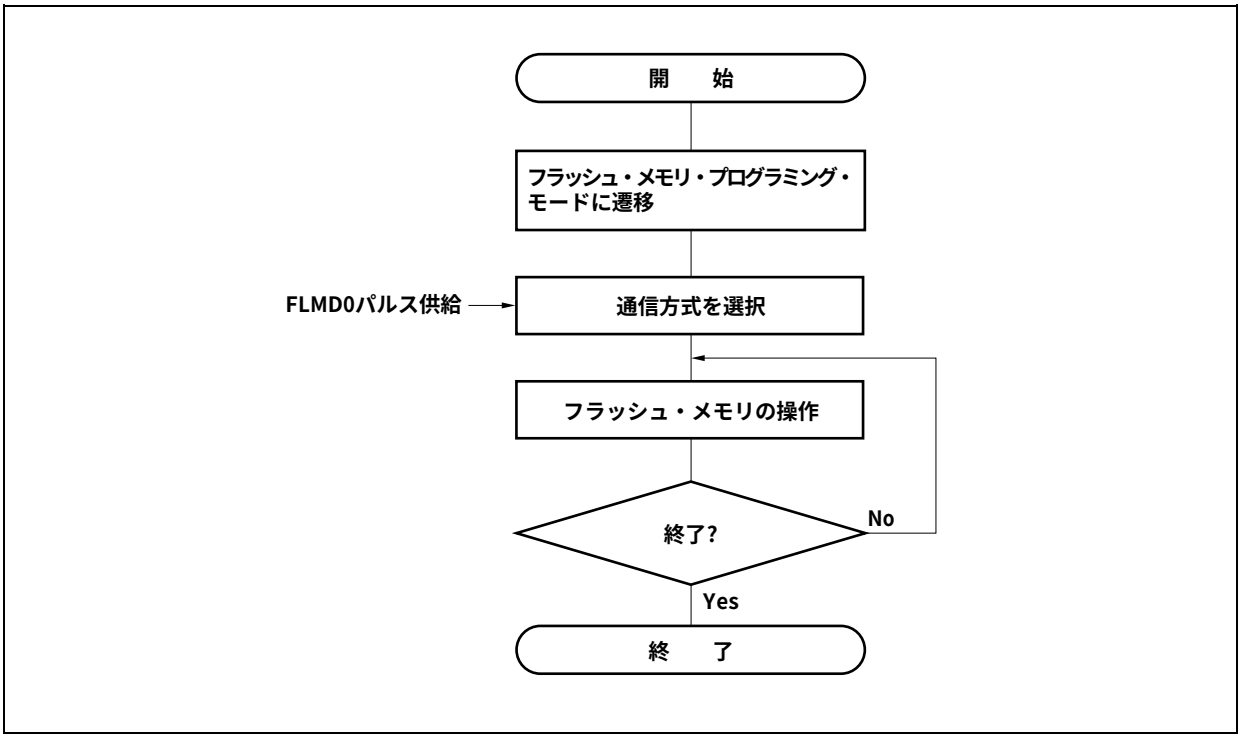
備考1.　**記述していない端子は，未使用時の端子処理に従って処理してください（**2. 3　**端子の入出力回路タイプ，入出力バッファ電源と未使用時の処理**参照**）。**

2.　**このアダプタは**144**ピン・プラスチック**LQFP**パッケージ用です。**

27. 4. 3　フラッシュ・メモリ制御

フラッシュ・メモリを操作する手順を次に示します。

図27－7　フラッシュ・メモリの操作手順

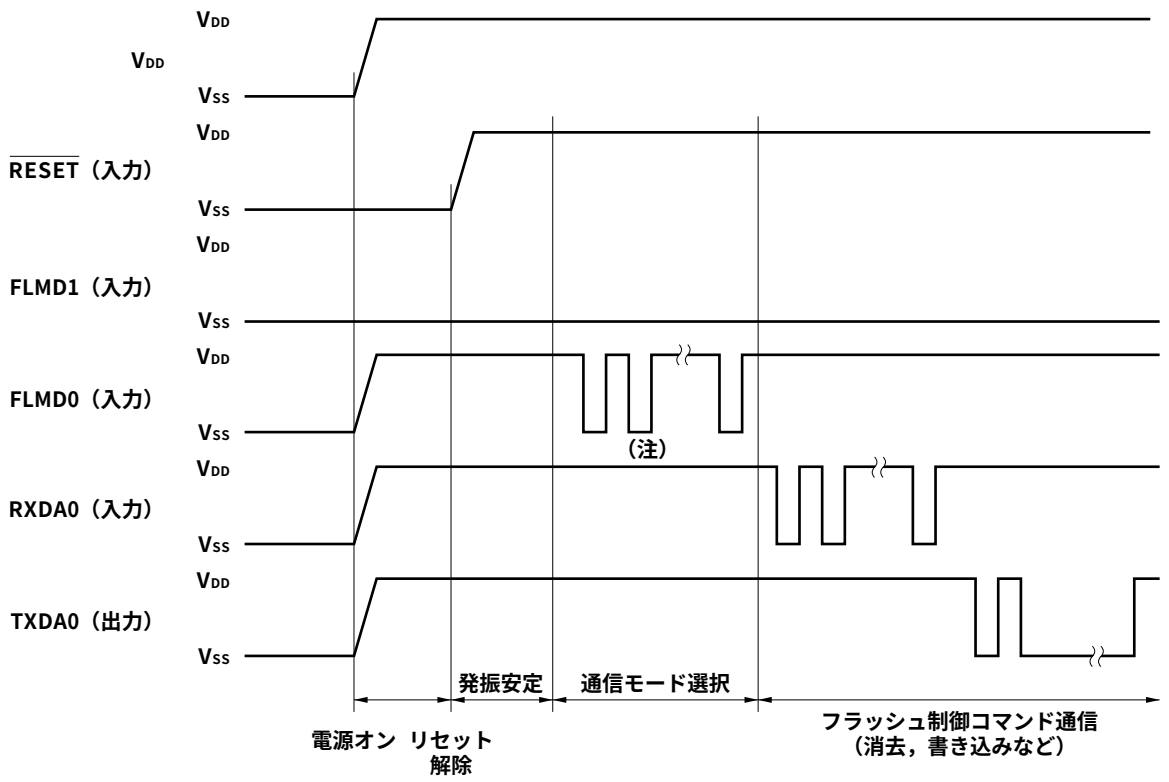


27. 4. 4　通信方式の選択

V850ES/JJ3では，フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに遷移後，FLMD0端子にパルス（最大12パルス）を入力することで通信方式を選択します。このFLMD0パルスは専用フラッシュ・ライタが生成します。

パルス数と通信方式の関係を次に示します。

図27－8　通信方式の選択



注　挿入されるクロック数は通信方式によって，次のようになります。

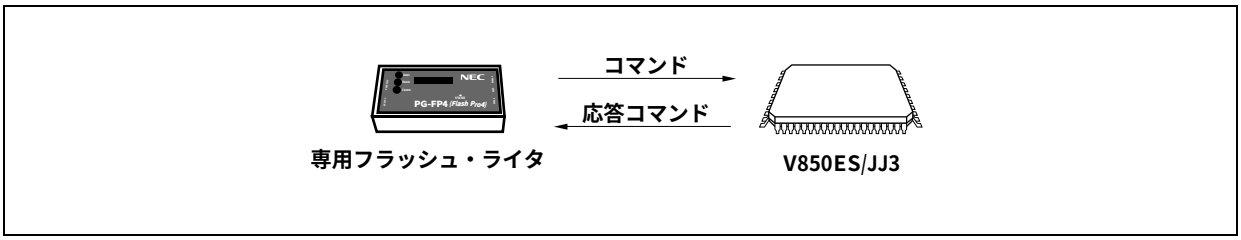
FLMD0パルス	通信方式	備　　考
0	UARTA0	通信レート：9600 bps（リセット時），LSBファースト
8	CSIB0	V850ES/JJ3はスレーブ動作，MSBファースト
9	CSIB3	V850ES/JJ3はスレーブ動作，MSBファースト
11	CSIB0＋HS	V850ES/JJ3はスレーブ動作，MSBファースト
12	CSIB3＋HS	V850ES/JJ3はスレーブ動作，MSBファースト
その他	RFU	設定禁止

注意　UARTA0選択時，受信クロックは，FLMD0パルス受信後に専用フラッシュ・ライタから送られてくるリセット・コマンドを基準に計算します。

27. 4. 5　通信コマンド

V850ES/JJ3と専用フラッシュ・ライタは，コマンドを介して通信します。専用フラッシュ・ライタからV850ES/JJ3へ送られる信号を「コマンド」と呼び，V850ES/JJ3から専用フラッシュ・ライタへ送られる応答信号を「応答コマンド」と呼びます。

図27－9　通信コマンド



V850ES/JJ3のフラッシュ・メモリ制御用コマンドを次に示します。これらのコマンドはすべてライタから発行され，V850ES/JJ3がコマンドに対応した各処理を行います。

表27－7　フラッシュ・メモリ制御用コマンド

分　類	コマンド名称	対応			機　　能
		CSIB0, CSIB3	CSIB0+HS, CSIB3+HS	UARTA0	
ブランク・チェック	ブロック・ブランク・チェック・コマンド	○	○	○	指定したブロックのメモリの消去状態を確認
消去	チップ消去コマンド	○	○	○	全メモリの内容を消去
	ブロック消去コマンド	○	○	○	指定したブロックのメモリの内容を消去
書き込み	プログラム・コマンド	○	○	○	指定したアドレス範囲の書き込み，内容ベリファイ・チェックを実行
ベリファイ	ベリファイ・コマンド	○	○	○	指定したアドレス範囲のメモリの内容と，フラッシュ・ライタから転送されたデータを比較
	チェック・サム・コマンド	○	○	○	指定したアドレス範囲のチェック・サムを読み出す
リード	リード・コマンド	○	○	○	フラッシュ・メモリに書き込まれたデータを読み出す
システム設定，制御	シリコン・シグネチャ・コマンド	○	○	○	シリコン・シグネチャ情報を読み出す
	セキュリティ設定コマンド	○	○	○	チップ消去コマンド，ブロック消去コマンド，プログラム・コマンド，リード・コマンドの禁止設定，およびブート領域の書き換え禁止設定

27. 4. 6　端子処理

オンボード書き込みを行う場合は，ターゲット・システム上に専用フラッシュ・ライタと接続するためのコネクタを設けます。また，オンボード上に通常動作モードからフラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへの切り替え機能を設けてください。

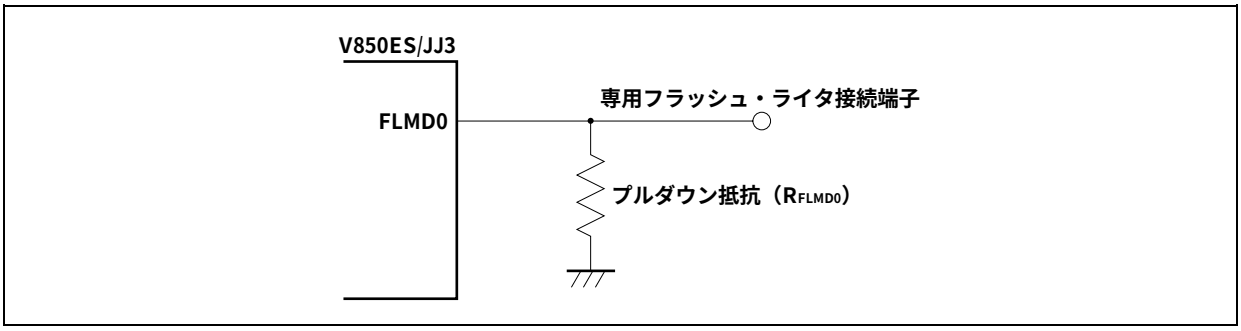
フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに遷移すると，フラッシュ・メモリ・プログラミングに使用しない端子は，すべてリセット直後と同じ状態になります。したがって，外部デバイスがリセット直後の状態を認めない場合は端子処理が必要です。

(1) FLMD0端子

通常動作モード時は，FLMD0端子にV_{SS}レベルの電圧を入力します。また，フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時は，FLMD0端子にV_{DD}レベルの書き込み電圧を供給します。

また，FLMD0端子はセルフ・プログラミング・モード時には書き換え保護用の端子となるため，書き換え前にポート制御などによって，FLMD0端子にV_{DD}レベルの電圧を供給する必要があります。詳細は，27. 5. 5 (1) FLMD0端子を参照してください。

図27－10　FLMD0端子の接続例



(2) FLMD1端子

FLMD0端子に0 Vを入力された場合，FLMD1端子は機能しません。FLMD0端子にV_{DD}が供給された場合，フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに引き込むため，FLMD1端子に0 Vを入力する必要があります。FLMD1端子の接続例を次に示します。

図27－11　FLMD1端子の接続例

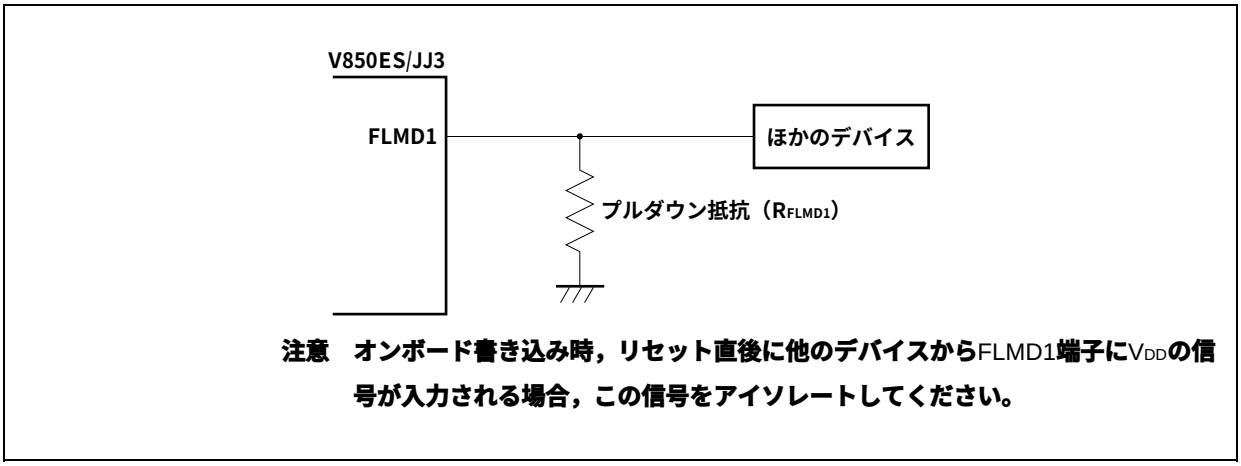


表27－8　リセット解除時のFLMD0, FLMD1端子の動作モードとの関係

FLMD0	FLMD1	動作モード
0	任意	通常動作モード
V_{DD}	0	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード
V_{DD}	V_{DD}	設定禁止

(3) シリアル・インタフェース端子

各シリアル・インタフェースが使用する端子を次に示します。

表27－9　各シリアル・インタフェースが使用する端子

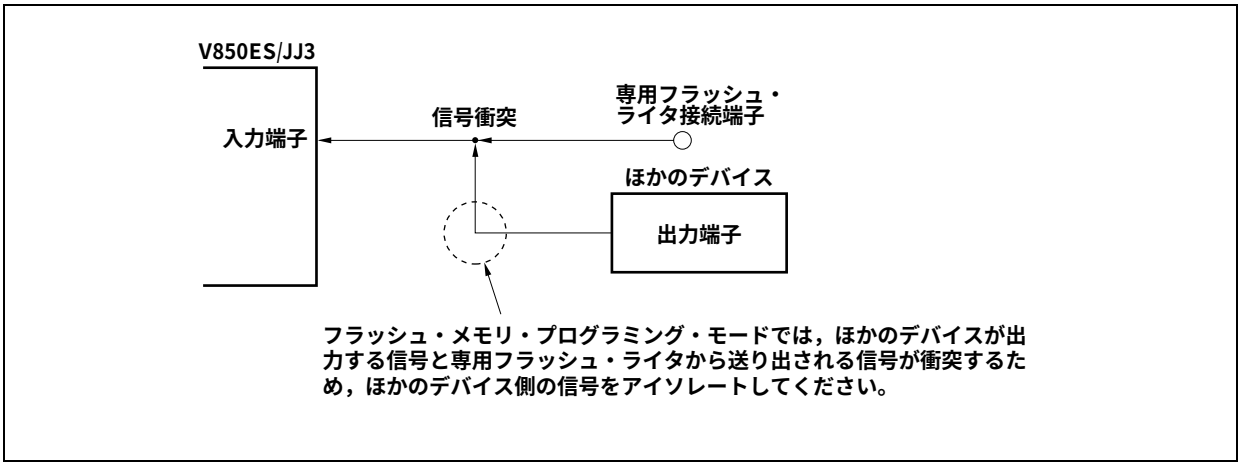
シリアル・インタフェース	使用端子
UARTA0	TXDA0, RXDA0
CSIB0	SOB0, SIB0, $\overline{\text{SCKB0}}$
CSIB3	SOB3, SIB3, $\overline{\text{SCKB3}}$
CSIB0＋HS	SOB0, SIB0, $\overline{\text{SCKB0}}$, PCM0
CSIB3＋HS	SOB3, SIB3, $\overline{\text{SCKB3}}$, PCM0

オンボード上でほかのデバイスと接続しているシリアル・インタフェース用の端子に，専用フラッシュ・ライタを接続する場合，信号の衝突，ほかのデバイスの異常動作などに注意してください。

(a) 信号の衝突

ほかのデバイス（出力）と接続しているシリアル・インタフェース用の端子（入力）に，専用フラッシュ・ライタ（出力）を接続すると，信号の衝突が発生します。この信号の衝突を避けるため，ほかのデバイスとの接続をアイソレートするか，またはほかのデバイスを出力ハイ・インピーダンス状態にしてください。

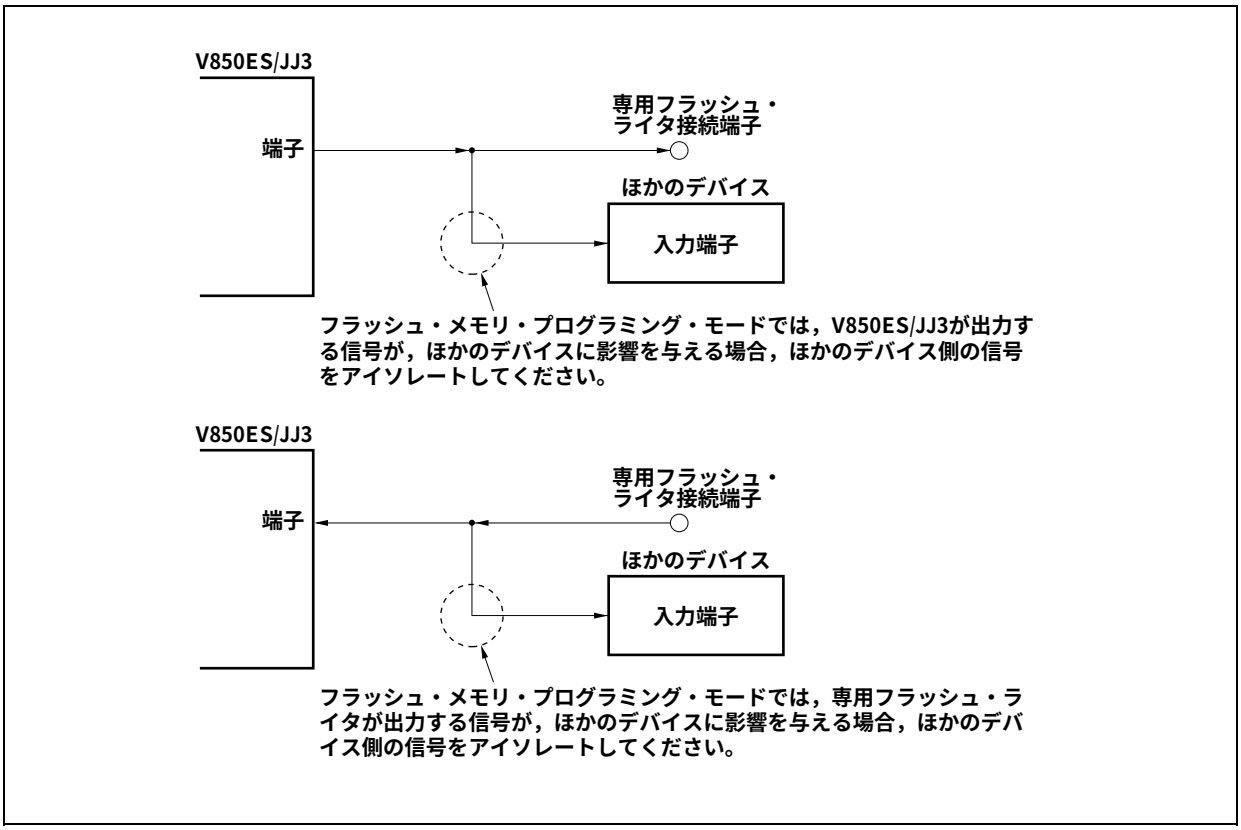
図27－12　信号の衝突（シリアル・インタフェースの入力端子）



(b) ほかのデバイスの異常動作

ほかのデバイス（入力）と接続しているシリアル・インタフェース用の端子（入力または出力）に，専用フラッシュ・ライタ（出力または入力）を接続する場合，ほかのデバイスに信号が出力され，異常動作を起こす可能性があります。この異常動作を避けるため，ほかのデバイスとの接続をアイソレートしてください。

図27－13　ほかのデバイスの異常動作

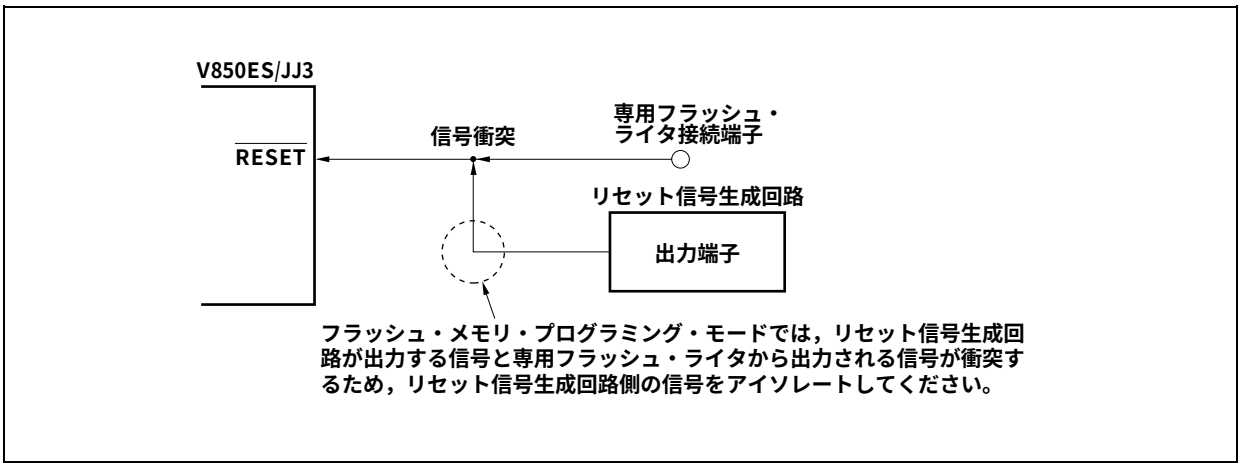


(4) $\overline{\text{RESET}}$端子

オンボード上で，リセット信号生成回路と接続している$\overline{\text{RESET}}$端子に，専用フラッシュ・ライタのリセット信号を接続する場合，信号の衝突が発生します。この信号の衝突を避けるため，リセット信号生成回路との接続をアイソレートしてください。

また，フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード期間中に，ユーザ・システムからリセット信号を入力した場合，正常なプログラミング動作が行われなくなるので，専用フラッシュ・ライタからのリセット信号以外は入力しないでください。

図27－14　信号の衝突（$\overline{\text{RESET}}$端子）



(5) ポート端子（NMIを含む）

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに設定すると，フラッシュ・メモリ・プログラミングに使用しない端子は，すべてリセット直後と同じ状態になります。したがって，各ポートに接続された外部デバイスが，リセット直後のポート状態を認めない場合は，抵抗を介してV_{DD}に接続するか，または抵抗を介してV_{SS}に接続するなどの端子処理が必要です。

(6) その他の信号端子

X1, X2, XT1, XT2, REGCは，通常動作モード時と同じ状態に接続してください。

また，フラッシュ・メモリ・プログラミング中，$\overline{\text{DRST}}$端子はロウ・レベル入力またはオープンにし，ハイ・レベル入力しないようにしてください。

(7) 電　源

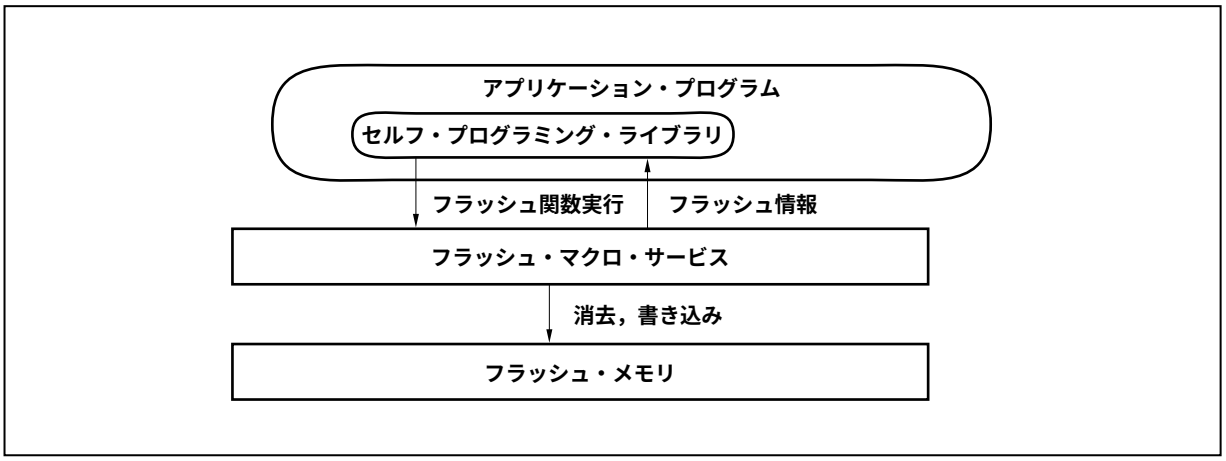
電源（V_{DD}, V_{SS}, EV_{DD}, EV_{SS}, AV_{REF0}, AV_{REF1}, AV_{SS}）は，通常動作モード時と同じ電源を供給してください。

27. 5　セルフ・プログラミングによる書き換え

27. 5. 1　概　　要

V850ES/JJ3は，ユーザ・プログラム自身で内蔵フラッシュ・メモリの書き換えを行うための，フラッシュ・マクロ・サービスをサポートしています。このインタフェースおよび，フラッシュ・メモリの書き換えをユーザのアプリケーション・プログラムで行うためのセルフ・プログラミング・ライブラリを利用することにより，内蔵RAMもしくは，外部メモリへあらかじめ転送しておいたユーザ・アプリケーションから，フラッシュ・メモリの書き換えが可能になり，フィールドでのユーザ・プログラムのアップグレードや，定数データ書き換えを行うことができます。

図27ー15　セルフ・プログラミングの概念図

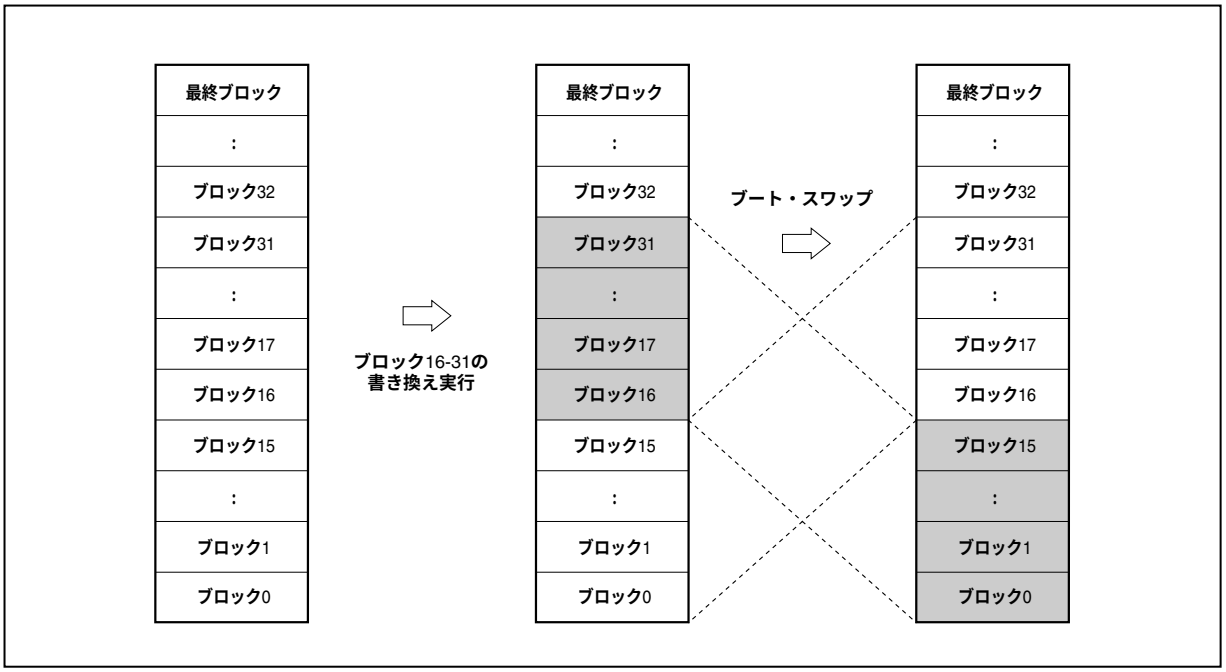


27. 5. 2 特　　徴

(1) セキュア・セルフ・プログラミング（ブート・スワップ機能）

V850ES/JJ3は，ブロック0-15の物理メモリと，ブロック16-31の物理メモリを入れ替えることができるブート・スワップ機能をサポートしているため，あらかじめ書き換えたい起動用のプログラムをブロック16-31に書いておき，物理メモリをスワップさせることにより，書き換え中に電源遮断が発生しても常にブロック0-15には正常なユーザ・プログラムが存在する状態となるため，全領域の書き換えが安全に実行可能となります。

図27－16　全メモリ領域の書き換え（ブート・スワップ対応）



(2) 割り込み対応

セルフ・プログラミング中は，フラッシュ・メモリからの命令フェッチが不可能であるため，割り込みが発生してもフラッシュ・メモリに書き込まれているユーザ・ハンドラは使用できません。

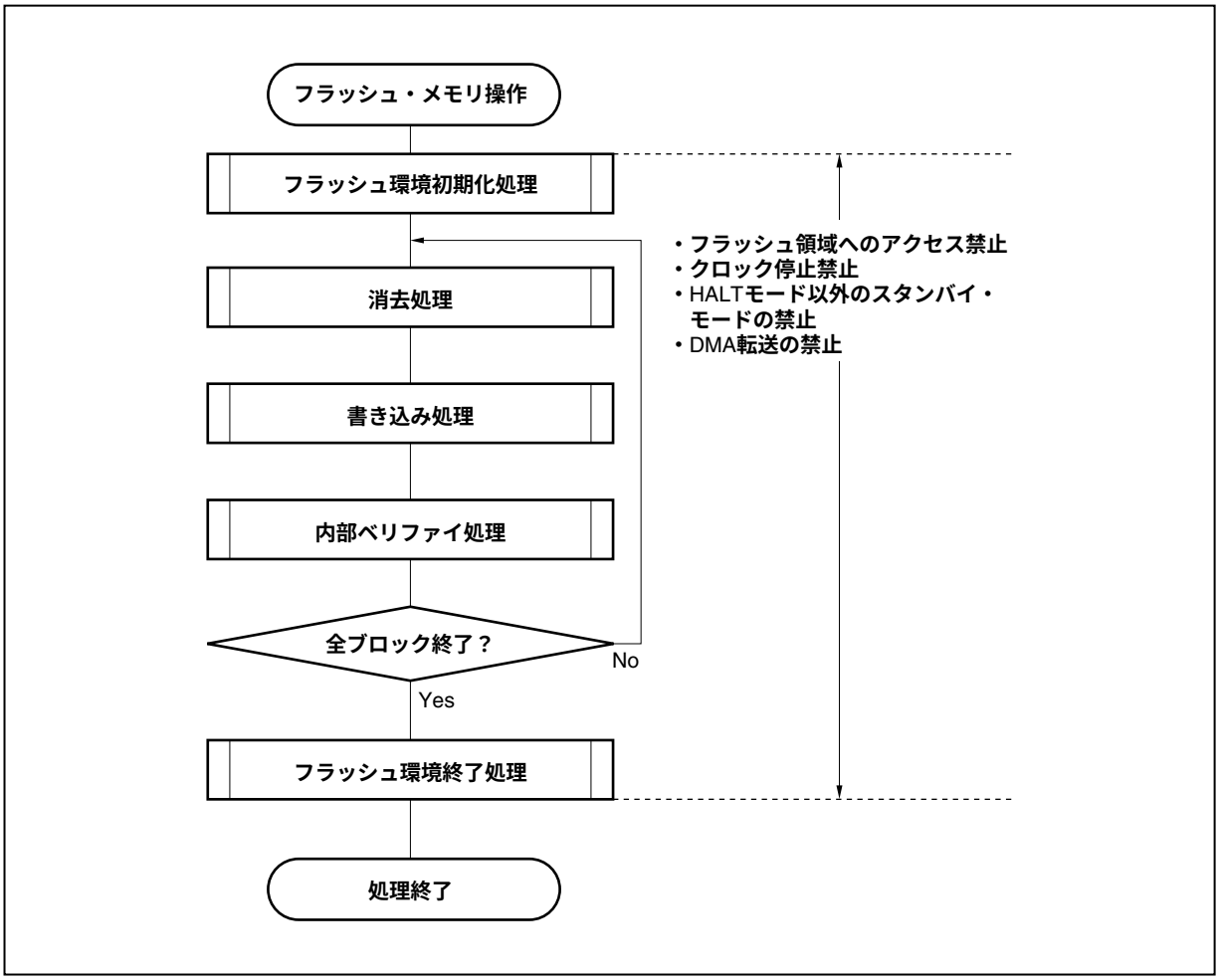
そのため，V850ES/JJ3では，セルフ・プログラミング中に割り込みを利用する場合，内蔵RAMの特定番地[注]に処理が移ります。したがって，あらかじめ内蔵RAMの特定番地[注]にユーザ割り込み処理へ遷移するjump命令を用意してください。

注　NMI割り込み　　：内蔵RAMの先頭番地
　　マスカブル割り込み　：内蔵RAMの先頭＋4番地

27. 5. 3　標準セルフ・プログラミング・フロー

フラッシュ・セルフ・プログラミングにて，フラッシュ・メモリへの書き換えを行う際の全体処理を次に示します。

図27－17　標準セルフ・プログラミング・フロー



27. 5. 4　フラッシュ関数一覧

表27－10　フラッシュ関数一覧

関数名	概　要	対応
FlashInit	セルフ・ライブラリの初期化	○
FlashEnv	フラッシュ環境の開始／終了	○
FlashFLMDCheck	FLMD端子のチェック	○
FlashStatusCheck	ハードウエア処理の実況チェック	○
FlashBlockErase	ブロックの消去	○
FlashWordWrite	データの書き込み	○
FlashBlockIVerify	ブロックの内部ベリファイ	○
FlashBlockBlankCheck	ブロックのブランク・チェック	○
FlashSetInfo	フラッシュ情報の設定	○
FlashGetInfo	フラッシュ情報の獲得	○
FlashBootSwap	ブート・スワップの実行	○

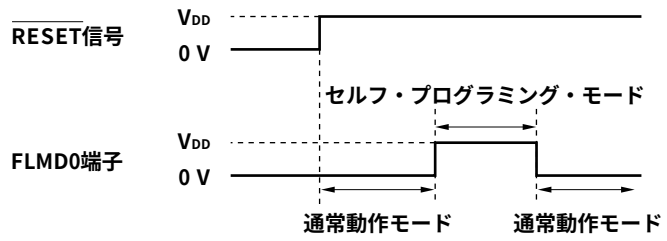
27. 5. 5　端子処理

(1) FLMD0端子

FLMD0端子は，リセット解除時の動作モード設定と，セルフ書き換え時の書き換え保護機能の兼用端子となっているため，リセット解除～通常動作実行時は，FLMD0端子へ印加される電圧を0 Vに保持し，セルフ・プログラミング・モードの期間は，書き換え前にポート制御などによって，FLMD0端子にV_{DD}レベルの電圧を印加する必要があります。

また，セルフ・プログラミングが終了したあとは，FLMD0端子の電圧を0 Vに戻す必要があります。

図27－18　モード切り替わりタイミング



注意　リセット解除には，必ずFLMD0端子を0 Vにしてください。

27. 5. 6　使用する内部資源

セルフ・プログラミングにて使用する内部資源を次に示します。なお，セルフ・プログラミング以外では，次の内部資源については自由に使用できます。

表27－11　使用する内部資源

リソース名	説　明
スタック領域[注]	ユーザの使用しているスタックの延長をライブラリが使用。 （内部RAM／外部RAMのどちらでも使用可）
ライブラリ・コード[注]	ライブラリのプログラム本体。 （操作対象のフラッシュ・メモリ・ブロック以外ならどこでも使用可）
アプリケーション・プログラム	ユーザ・アプリケーションとしての実行 フラッシュ関数の呼び出し
マスカブル割り込み	ユーザ・アプリケーションの実行状態，セルフ・プログラミング状態で利用可能。 セルフ・プログラミング状態で利用した場合，内蔵RAMの先頭＋4番地に処理が移るため，あらかじめ内蔵RAMの先頭＋4番地にユーザ割り込み処理へ遷移するjump命令を用意してください。
NMI割り込み	ユーザ・アプリケーションの実行状態，セルフ・プログラミング状態で利用可能。 セルフ・プログラミング状態で利用した場合，内蔵RAMの先頭番地に処理が移るため，あらかじめ内蔵RAMの先頭番地にユーザ割り込み処理へ遷移するjump命令を用意してください。

注　使用リソースについては，**フラッシュ・メモリ・セルフ・プログラミング・ライブラリ　ユーザーズ・マニュアル**を参照してください。

第28章　オンチップ・デバッグ機能

V850ES/JJ3のオンチップ・デバッグ機能を実現するには次の2つの方法があります。

- DCU（デバッグ・コントロール・ユニット）を使用する方法
  $\overline{\text{DRST}}$, DCK, DMS, DDI, DDO端子をデバッグ･インタフェース端子としてV850ES/JJ3に内蔵されているDCUによってオンチップ・デバッグを実現します。
- DCUを使用しない方法
  DCUを使用せず，ユーザ資源を使用してMINICUBE2などによってオンチップ・デバッグを実現します。

2つのオンチップ・デバッグ機能の特徴を次に示します。

表28－1　オンチップ･デバッグ機能の特徴

		DCUを使用する方法	DCUを使用しない方法
デバッグ・インタフェース端子		$\overline{\text{DRST}}$, DCK, DMS, DDI, DDO	・UARTA0使用時 RXDA0, TXDA0 ・CSIB0使用時 SIB0, SOB0, $\overline{\text{SCKB0}}$, HS（PCM0） ・CSIB3使用時 SIB3, SOB3, $\overline{\text{SCKB3}}$, HS（PCM0）
ユーザ資源の確保		不要	必要
ハードウエア・ブレーク機能		2ポイント	2ポイント
ソフトウエア・ブレーク機能	内蔵ROM領域	4ポイント	4ポイント
	内蔵RAM領域	2000ポイント	2000ポイント
リアルタイムRAMモニタ機能注1		可能	可能
ダイナミック・メモリ・モディフィケーション（DMM）機能注2		可能	可能
マスク機能		リセット, NMI, INTWDT2, $\overline{\text{HLDRQ}}$, $\overline{\text{WAIT}}$	$\overline{\text{RESET}}$端子
ROMセキュリティ機能		10バイトIDコード認証	10バイトIDコード認証
使用するハードウエア		MINICUBE®など	MINICUBE2など
トレース機能		サポートしていません	サポートしていません
デバッグ割り込みインタフェース機能（DBINT）		サポートしていません	サポートしていません

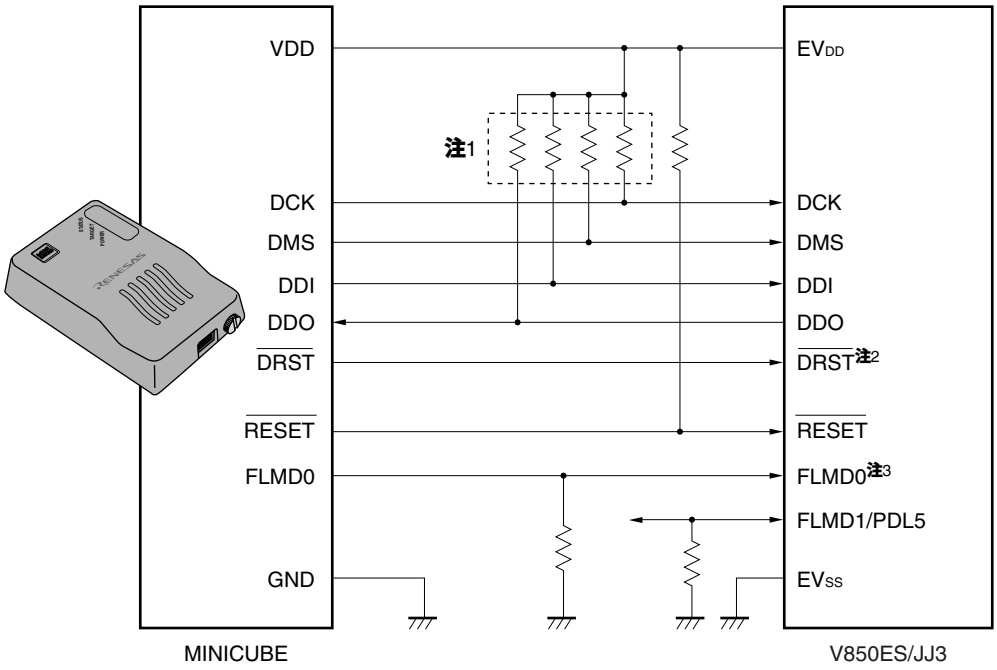
注1.　プログラム実行中にメモリの内容の読み出しを行う機能です。
　2.　プログラム実行中にRAMの内容の書き換えを行う機能です。

28. 1　DCUを使用する方法

デバッグ・インタフェース端子（$\overline{\text{DRST}}$, DCK, DMS, DDI, DDO端子）を利用して，オンチップ・デバッグ・エミュレータ（MINICUBE）を接続することで，プログラムのデバッグが可能です。

28. 1. 1　接続回路例

図28－1　デバッグ・インタフェース端子を通信インタフェースとして使用する場合の回路接続例



注1. MINICUBE未接続時の端子処理例
2. プルダウン抵抗内蔵
3. フラッシュ・メモリ書き換え用

28. 1. 2　インタフェース信号

インタフェース信号について説明します。

(1) $\overline{\text{DRST}}$

オンチップ・デバッグ・ユニット用のリセット入力信号です。デバッグ・コントロール・ユニットを非同期に初期化するための負論理の信号です。

MINICUBEは，統合デバッガの起動後にターゲット・システムのV_{DD}を検出すると，$\overline{\text{DRST}}$信号をロウ・レベルからハイ・レベルに立ち上げて，対象デバイス内のオンチップ・デバッグ・ユニットを起動させます。

また，$\overline{\text{DRST}}$信号がロウ・レベルからハイ・レベルに立ち上がることにより，CPUにもリセットが発生します。

統合デバッガを起動してデバッグを開始する際には，必ずCPUリセットが発生します。

(2) DCK

クロック入力信号です。MINICUBEから20 MHz，あるいは10 MHzのクロックを供給します。オンチップ・デバッグ・ユニット内で，DCK信号の立ち上がりに同期してDMS, DDI信号をサンプリングし，DCK信号の立ち下がりに同期してデータDDOを出力します。

(3) DMS

転送モード選択信号です。DMS信号のレベルによりデバッグ・ユニット内の転送状態が遷移します。

(4) DDI

データ入力信号です。オンチップ・デバッグ・ユニット内でDCKの立ち上がりに同期してサンプリングします。

(5) DDO

データ出力信号です。オンチップ・デバッグ・ユニットからDCK信号の立ち下がりに同期して出力されます。

(6) EV_{DD}

ターゲット・システムのVDD検出用です。ターゲット・システムからのVDDが未検出の場合は，MINICUBEからの出力信号（$\overline{\text{DRST}}$, DCK, DMS, DDI, FLMD0, $\overline{\text{RESET}}$端子）はハイ・インピーダンスになります。

(7) FLMD0

統合デバッガによるフラッシュ・メモリへのダウンロード機能は，フラッシュ・セルフ・プログラミング機能を利用しています。フラッシュ・セルフ・プログラミング中はFLMD0端子をハイ・レベルにする必要があります。また，FLMD0端子にはプルダウン抵抗を接続してください。

FLMD0端子の制御方法として，次の2種類のうち，どちらかの方法を選択してください。

① MINICUBEから制御する場合

MINICUBEからのFLMD0信号をデバイスのFLMD0端子に接続します。

通常モード時はMINICUBEからは何もドライブしません（ハイ・インピーダンス）。

ブレーク中，統合デバッガのダウンロード機能を実行した際にMINICUBEはFLMD0端子をハイ・レベルに制御します。

② ポートから制御する場合

デバイスの任意のポートをFLMD0端子に接続します。

ユーザ・プログラムにおいてフラッシュ・セルフ・プログラミング機能を実現する場合と同じポート端子で問題ありません。

統合デバッガのコンソールによって，ダウンロード機能実行前にポート端子をハイ・レベルにする，または，ダウンロード機能実行後にポート端子をロウ・レベルにする設定を行ってください。

詳細はID850QB　Ver.3.10　**統合デバッガ　ユーザーズ・マニュアル　操作編**（U17435J）を参照してください。

(8) $\overline{\text{RESET}}$

システム・リセット入力信号です。ユーザ・プログラムにおいてOCDM.OCDM0ビットの値によって，$\overline{\text{DRST}}$端子を無効としたあとは，オンチップ・デバッグは行えません。そのため，MINICUBEから$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセットを与えて，$\overline{\text{DRST}}$端子を有効（初期化）にします。

28. 1. 3　マスク機能

リセット, NMI, INTWDT2, $\overline{\text{WAIT}}$, $\overline{\text{HLDRQ}}$信号のマスクが可能です。

次にデバッガ（ID850QB）のマスク機能および対応する機能を示します。

表28－2　マスク機能

デバッガ（ID850QB）のマスク機能	対応するV850ES/JJ3の機能
NMI0	NMI端子入力
NMI2	ノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2）発生
STOP	×
HOLD	$\overline{\text{HLDRQ}}$端子入力
RESET	$\overline{\text{RESET}}$端子入力，低電圧検出回路，クロック・モニタまたはウォッチドッグ・タイマ（WDT2）のオーバフローによるリセット信号発生
WAIT	$\overline{\text{WAIT}}$端子入力

28. 1. 4　レジスタ

(1) オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ（OCDM）

通常動作モードとオンチップ・デバッグ・モードを切り替えるレジスタです。OCDMレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスの組み合わせによってだけ書き込みができます（3. 4. 7　**特定レジスタ**参照）。

通常動作モードとオンチップ・デバッグ・モードを切り替えるレジスタで，オンチップ・デバッグ機能が割り付けられている兼用端子をオンチップ・デバッグ用端子として使用するか，通常のポート／周辺機能兼用端子として使用するかを指定します。また同時に，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子の内蔵プルダウン抵抗の切断を制御します。

OCDMレジスタへの書き込みは，$\overline{\text{DRST}}$端子にロウ・レベルが入力されているときのみ有効です。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセット時：01H[注]　R/W　**アドレス：**FFFFF9FCH

	7	6	5	4	3	2	1	⓪
OCDM	0	0	0	0	0	0	0	OCDM0

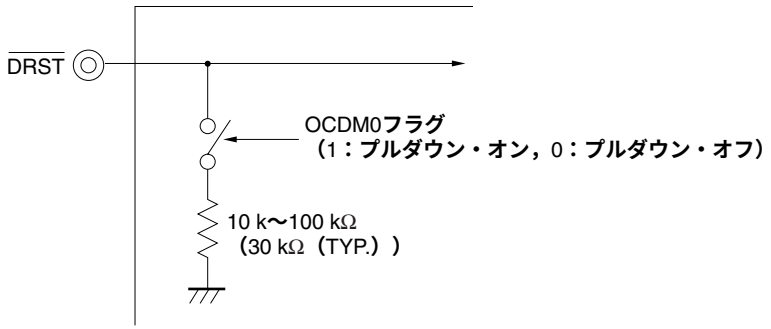
OCDM0	動作モード
0	通常動作モード（オンチップ・デバッグ兼用端子をポート／周辺機能端子として使用）かつ，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子の内蔵プルダウン抵抗を切断
1	$\overline{\text{DRST}}$端子がロウ・レベルの場合： 通常動作モード（オンチップ・デバッグ兼用端子をポート／周辺機能端子として使用） $\overline{\text{DRST}}$端子がハイ・レベルの場合： オンチップ・デバッグ・モード（オンチップ・デバッグ・モード用端子として使用）

注　$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット時は01Hになります。ただし，WDT2RES信号，クロック・モニタ（CLM），低電圧検出回路（LVI）によるリセット時は，OCDMレジスタの値を保持します。

注意1.　**外部リセット後，**DDI，DDO，DCK，DMS**端子をオンチップ・デバッグ用端子として使用せず，ポートとして使用する場合は，次のいずれかの処置が必要です。**

- P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$**端子にロウ・レベルを入力します。**
- OCDM0**ビットを設定します。この場合の処置は次のとおりです。**
  - ①　OCDM0**ビットをクリア（**0**）します。**
  - ②　**①の処理を終えるまで，**P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$**端子入力をロウ・レベル固定にしておきます。**

2.　$\overline{\text{DRST}}$**端子はプルダウン抵抗を内蔵しています。**OCDM0**フラグを“**0**”に設定すると切断されます。**



28. 1. 5　動　　作

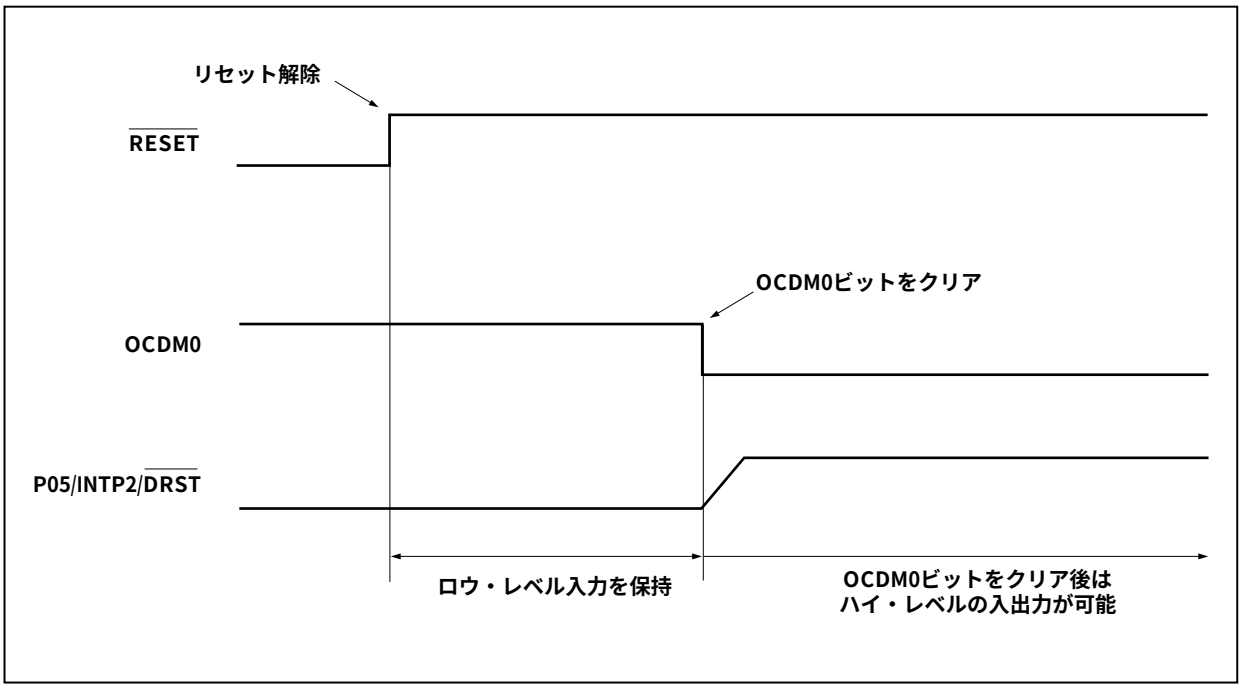
オンチップ・デバッグ機能は次の表に示す条件で有効になります。

未使用時はOCDM.OCDM0フラグをクリア（0）するまで，$\overline{\text{DRST}}$端子はロウ・レベル入力の状態を保持してください。

OCDM0フラグ / $\overline{\text{DRST}}$端子	0	1
L	無効	無効
H	無効	有効

備考　L：ロウ・レベル入力
　　H：ハイ・レベル入力

図28－2　オンチップ・デバッグ機能未使用時のタイミング



28. 1. 6　注意事項

(1) RUN中（プログラム実行中）にリセット入力（ターゲット・システムからのリセット入力や内部リセット要因によるリセット）があった場合，ブレーク機能が誤動作することがあります。

(2) リセットをマスク機能でマスクしていても，端子からのリセットが入力された際に入出力バッファ（ポート端子）がリセット状態になる場合があります。

(3) ブレーク中の端子リセットはマスクされ，CPUや周辺I/Oはリセットされません。また，ユーザ・プログラム実行中に，DMMで書き換える瞬間やRAMモニタ機能で読み出す瞬間に，端子リセットや内部リセットが発生した場合，CPUや周辺I/Oが正しくリセットされない場合があります。

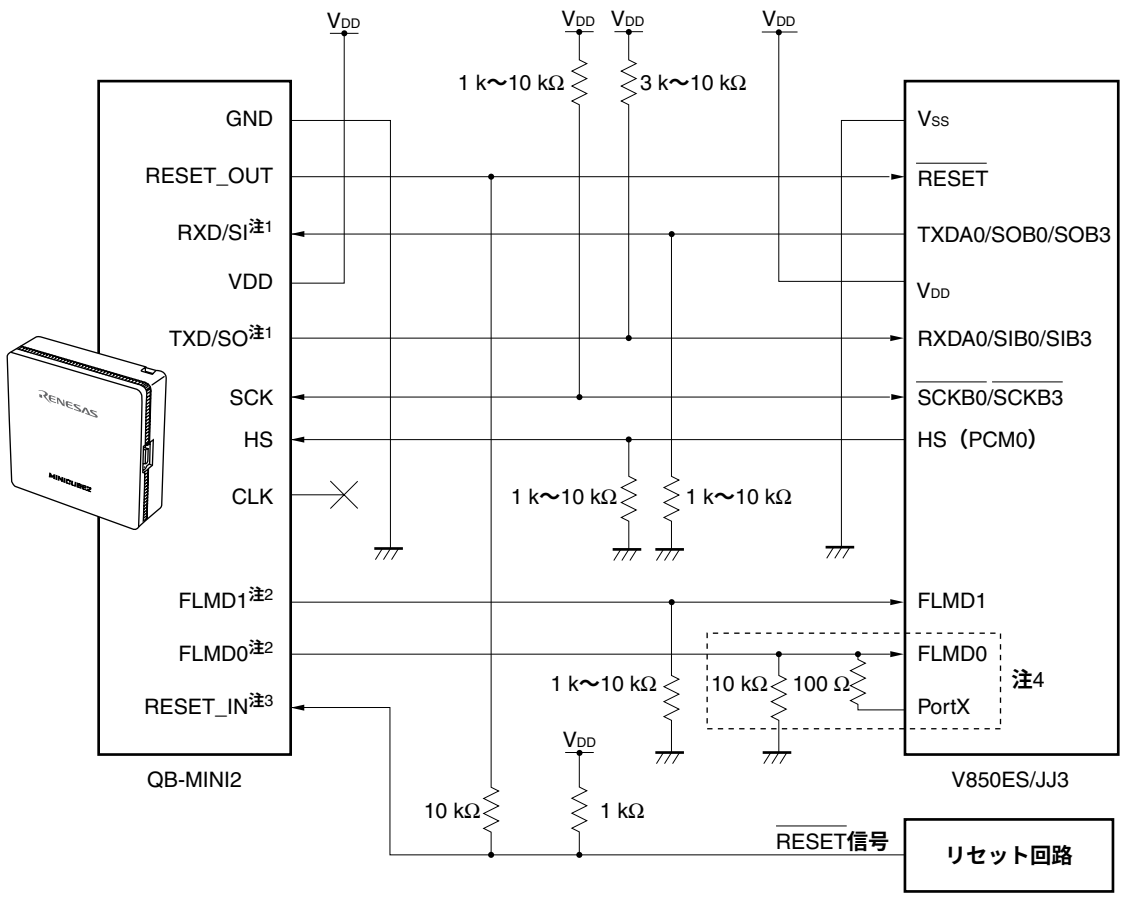
(4) オンチップ・デバッグ・モード時，DDO端子は強制的にハイ・レベル出力に設定されます。

28. 2　DCUを使用しない方法

DCUを使用せず，UARTA0用端子（RXDA0, TXDA0），CSIB0用端子（SIB0, SOB0, $\overline{\text{SCKB0}}$, HS（PCM0））またはCSIB3用端子（SIB3, SOB3, $\overline{\text{SCKB3}}$, HS（PCM0））をデバッグ・インタフェースとしてMINICUBE2を使用してオンチップ・デバッグ機能を実現する方法を次に示します。

28. 2. 1　接続回路例

図28－3　UARTA0/CSIB0/CSIB3を通信インタフェースとして使用する場合の回路接続例



注1.　V850ES/JJ3のTXDA0/SOB0/SOB3（送信側）はターゲット・コネクタのRXD/SI（受信側）に，ターゲット・コネクタのTXD/SO（送信側）はV850ES/JJ3のRXDA0/SIB0/SIB3（受信側）に接続してください。

2.　デバッグ時ブレーク中のメモリ書き換え以外は，Hi-Zになるため兼用機能としての使用は可能です。

3.　$\overline{\text{RESET}}$信号の出力がN-chオープン・ドレーンのバッファ（出力抵抗100 Ω以下）によるものを想定した回路接続です。

4.　点線内の回路はフラッシュ･セルフ･プログラミング用にFLMD0端子をポートで制御する場合の回路です。ポートは，ハイ・レベル出力か入力で使用してください。フラッシュ・セルフ・プログラミングを使用しない場合，FLMD0端子のプルダウン抵抗は1 kΩ～10 kΩで構いません。

備考　UARTA0/CSIB0/CSIB3を通信インタフェースとして使用する場合に使用する端子については表28－3を参照してください。

表28－3　V850ES/JJ3とMINICUBE2の配線表

MINICUBE2（QB-MINI2）接続端子			CSIB0-HS使用時		CSIB3-HS使用時		UARTA0使用時	
信号名	入出力	端子機能	端子名	ピン番号	端子名	ピン番号	端子名	ピン番号
SI/RxD	入力	V850ES/JJ3からのコマンド，データ受信端子	P41/SOB0	23	P911/SOB3	72	P30/TXDA0	25
SO/TxD	出力	V850ES/JJ3へのコマンド，データ送信端子	P40/SIB0	22	P910/SIB3	71	P31/RXDA0	26
SCK	出力	3線式シリアル通信用クロック出力端子	P42/$\overline{\text{SCKB0}}$	24	P912/$\overline{\text{SCKB3}}$	73	必要なし	－
CLK	出力	クロック出力端子	必要なし	－	必要なし	－	必要なし	－
RESET_OUT	出力	V850ES/JJ3へのリセット出力端子	$\overline{\text{RESET}}$	14	$\overline{\text{RESET}}$	14	$\overline{\text{RESET}}$	14
FLMD0	出力	V850ES/JJ3をデバッグ・モード，またはプログラミング・モードにするための出力端子	FLMD0	8	FLMD0	8	FLMD0	8
FLMD1	出力	プログラミング・モードにするための出力端子	PDL5/FLMD1	110	PDL5/FLMD1	110	PDL5/FLMD1	110
HS	入力	CSI0＋HS通信のハンドシェーク信号	PCM0/$\overline{\text{WAIT}}$	85	PCM0/$\overline{\text{WAIT}}$	85	必要なし	－
GND	－	グランド	V_{SS}	11	V_{SS}	11	V_{SS}	11
			AV_{SS}	2	AV_{SS}	2	AV_{SS}	2
			EV_{SS}	33, 103	EV_{SS}	33, 103	EV_{SS}	33, 103
RESET_IN	入力	ターゲット・システム上のリセット入力端子						

28. 2. 2　マスク機能

リセット信号のみマスクが可能です。

次にデバッガ（ID850QB）のマスク機能および対応する機能を示します。

表28－4　マスク機能

デバッガ（ID850QB）のマスク機能	対応するV850ES/JJ3の機能
NMI0	×
NMI1	×
NMI2	×
STOP	×
HOLD	×
RESET	$\overline{\text{RESET}}$端子入力によるリセット信号発生
WAIT	×

28. 2. 3　ユーザ資源の確保

MINICUBE2は対象デバイスとの通信，または各デバッグ機能を実現するために次に示す準備を行う必要があります。これらは，ユーザ・プログラムやコンパイラ・オプションで設定する必要があります。

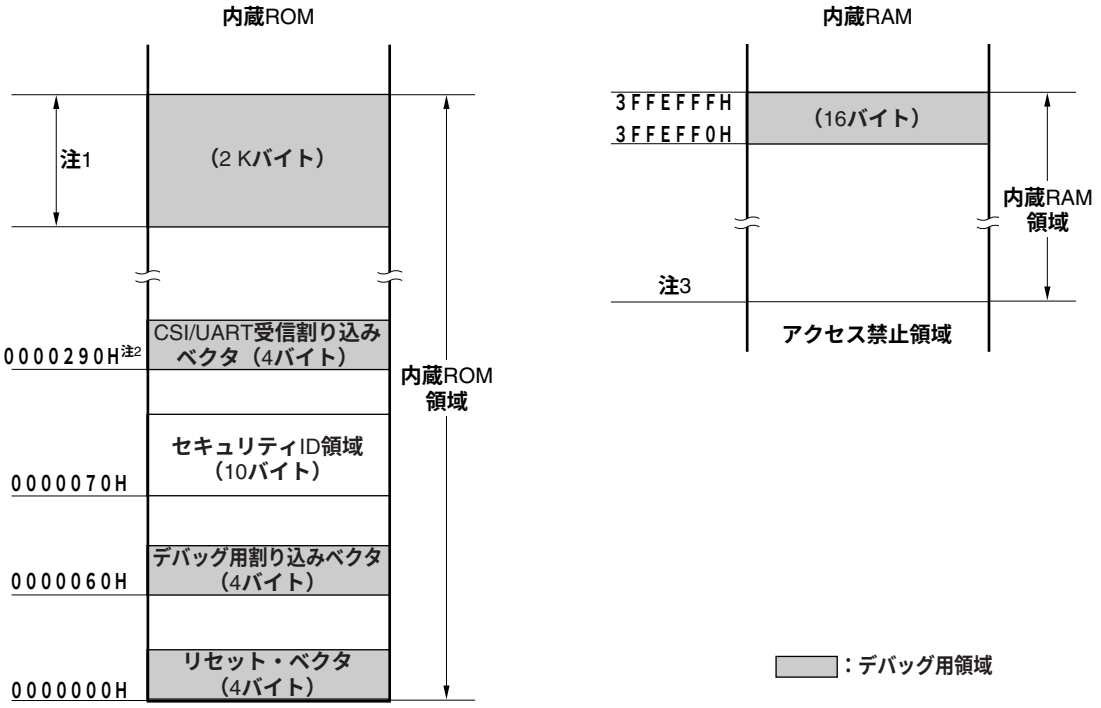
(1) メモリ空間の確保

図28－4で示すデバッグ領域はデバッグ用のモニタ・プログラムを組み込むために，ユーザ・プログラムやデータを配置できない空間です。この空間を使用しないように，領域を確保する必要があります。

(2) セキュリティIDの設定

図28－4で示す0000070H-0000079H領域は第3者からメモリの内容を読み取られないようにするために，IDコードを埋め込む必要があります。詳細は28. 3　ROMセキュリティ機能を参照してください。

図28－4　デバッグ用モニタ・プログラムが配置されるメモリ空間



注1.　**製品によって次のようにアドレス値が異なります。**

	内蔵ROMサイズ	アドレス値
μPD70F3743	384 Kバイト	005F800H-005FFFFH
μPD70F3744	512 Kバイト	007F800H-007FFFFH
μPD70F3745	768 Kバイト	00BF800H-00BFFFFH
μPD70F3746	1024 Kバイト	00FF800H-00FFFFFH

2.　CSIB0使用時のアドレスです。CSIB3使用時は“00002F0H”，UARTA0使用時は“0000310H”から始まります。

3.　**製品によって次のようにアドレス値が異なります。**

	内蔵RAMサイズ	アドレス値
μPD70F3743	32 Kバイト	3FF7000H
μPD70F3744	40 Kバイト	3FF5000H
μPD70F3745	60 Kバイト	3FF0000H
μPD70F3746		

(3) リセット・ベクタ

リセット・ベクタにはデバッグ用モニタ・プログラムへのジャンプ命令が組み込まれます。

【領域確保の方法】

この領域は意図的に確保する必要はありません。ただし，プログラムのダウンロード時に，次のケースに応じてデバッガがリセット・ベクタの書き換えを行います。書き換えパターンが次に示すケースに一致しない場合，デバッガがエラーを発生します（ID850QBの場合F0C34番）。

(a) 0番地からnopが2個連続している場合

書き換え前		書き換え後
0x0 nop	→	0x0 デバッグ用モニタ・プログラムへジャンプ
0x2 nop		0x4 xxxx
0x4 xxxx		

(b) 0番地から0xFFFFが2個連続している場合（消去済みデバイスが該当します）

書き換え前		書き換え後
0x0 0xFFFF	→	0x0 デバッグ用モニタ・プログラムへジャンプ
0x2 0xFFFF		0x4 xxxx
0x4 xxxx		

(c) 0番地がjr命令の場合（CA850では通常このケースに該当）

書き換え前		書き換え後
0x0 jr disp22	→	0x0 デバッグ用モニタ・プログラムへジャンプ
		0x4 jr disp22 - 4

(d) 0番地からmov32とjmpが連続している（IAR社製コンパイラ ICCV850では通常このケースに該当）

書き換え前		書き換え後
0x0 mov imm32,reg1	→	0x0 デバッグ用モニタ・プログラムへジャンプ
0x6 jmp [reg1]		0x4 mov imm32,reg1
		0xa jmp [reg1]

(e) 0番地が既にデバッグ用モニタ・プログラムへのジャンプ命令の場合

書き換え前		書き換え後
0x0 デバッグ用モニタ・プログラムへジャンプ	→	変更なし

(4) デバッグ用モニタ・プログラム領域の確保

図28－4の示すデバック用領域は，デバッグ用モニタ・プログラムが配置される空間です。モニタ・プログラムはデバッグ用通信インタフェースの初期化処理や，CPUのRUN／ブレーク処理などを行うものです。内蔵ROM領域については0xFFでフィルする必要があります。また，この領域をユーザ･プログラム内で書き換えないようにすることが必要です。

【領域確保の方法】

この空間をユーザ・プログラムで使用しない場合は，必ずしも領域を確保する必要はありません。

しかし，デバッガ起動時のトラブルを回避するために，あらかじめコンパイラなどで領域確保しておくことを推奨いたします。

次に，ルネサス エレクトロニクス社製コンパイラCA850を使用している場合に領域の確保を行う例を示します。次に示すように，アセンブル・ソースとリンクディレクティブ・コードを追加してください。

・アセンブル・ソース（次の内容をアセンブル・ソース・ファイルとして追加してください）

```
-- MonitorROMセクションとして2Kバイトの空間を確保
.section  "MonitorROM", const
.space    0x800, 0xff

-- デバッグ用割り込みベクタの確保
.section  "DBG0"
.space    4, 0xff

-- シリアル通信用割り込みベクタの確保
-- セクション名は使用するシリアル通信に応じて変更してください
.section  "INTCB0R"
.space    4, 0xff

-- MonitorRAMセクションとして16バイトの空間を確保
.section  "MonitorRAM", bss
.lcomm    monitorramsym, 16, 4 ;   -- monitorramsymシンボルを定義
```

•リンク・ディレクティブ（以下をリンク・ディレクティブ・ファイルの内容に追加してください）

次の例は，内蔵ROMが1024 Kバイト（最終アドレス00FFFFFH），内蔵RAMが60 Kバイト（最終アドレス：3FFEFFFH）の場合です。

```
MROMSEG   : !LOAD ?R V0x0ff800{
          MonitorROM  = $PROGBITS  ?A MonitorROM;
};
MRAMSEG   : !LOAD ?RW V0x03ffeff0{
          MonitorRAM  = $NOBITS    ?AW MonitorRAM;
};
```

(5) 通信用シリアル・インタフェースの確保

MINICUBE2は対象デバイスと通信するためにUARTA0，CSIB0もしくはCSIB3のいずれかを使用します。これらのシリアル・インタフェースに関する設定は，デバッグ用モニタ・プログラムで行っていますが，ユーザ･プログラム上で，この設定を変更した場合，通信異常となりエラーが発生する可能性があります。

このようなトラブルが発生しないよう，ユーザ・プログラムで通信用シリアル・インタフェースの確保を行う必要があります。

【通信用シリアル・インタフェース確保の方法】

●オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ（OCDM）

UARTA0，CSIB0，CSIB3を使用するオンチップ・デバッグ機能の場合，OCDMレジスタの機能を通常モードにする必要があります。必ず次の設定をしてください。

- P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子にロウ・レベルを入力します。
- OCDM0ビットを設定します。この場合の処置は次のとおりです。
  - ① OCDM0ビットをクリア（0）します。
  - ② ①の処理を終えるまで，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子入力をロウ・レベル固定にしておきます。

●シリアル・インタフェースのレジスタ

通信用に使用するCSIB0, CSIB3やUARTA0のレジスタ設定は，ユーザ・プログラムで行わないようにしてください。

●割り込みマスク・レジスタ

通信用にCSIB0を使用する場合，転送終了割り込み（INTCB0R）をマスクしないようにしてください。CSIB3の場合，転送終了割り込み（INTCB3R）をマスクしないようにしてください。UARTA0の場合，受信完了割り込み（INTUA0R）をマスクしないようにしてください。

(a) CSIB0の場合

	7	6	5	4	3	2	1	0
CB0RIC	×	0	×	×	×	×	×	×

(b) CSIB3の場合

	7	6	5	4	3	2	1	0
CB3RIC	×	0	×	×	×	×	×	×

(c) UARTA0の場合

	7	6	5	4	3	2	1	0
UA0RIC	×	0	×	×	×	×	×	×

備考　×：任意

●UARTA0使用時のポートに関するレジスタ

通信用にUARTA0を使用する場合，TXDA0, RXDA0端子を有効になるように，デバッグ用モニタ・プログラムで行っています。デバッグ中に次のレジスタの設定をユーザ・プログラムで変更しないでください（同値書き込みは可能です）。

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFC3	×	×	×	×	×	×	0	0

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC3L	×	×	×	×	×	×	1	1

備考　×：任意

●CSIB0使用時のポートに関するレジスタ

通信用にCSIB0を使用する場合，SIB0，SOB0，$\overline{\text{SCKB0}}$およびHS（PMC0）端子が有効になるように，デバッグ用モニタ・プログラムで行っています。デバッグ中に次のレジスタの設定をユーザ・プログラムで変更しないでください（同値書き込みは可能です）。

(a) SIB0, SOB0, $\overline{\text{SCKB0}}$の設定

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC4	×	×	×	×	×	1	1	1

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFC4	×	×	×	×	×	×	0	0

(b) HS（PMC0端子）の設定

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCM	×	×	×	×	×	×	×	0

	7	6	5	4	3	2	1	0
PCM	×	×	×	×	×	×	×	注

注　ライト禁止です。

HS端子の値はモニタ・プログラムがデバッガの状態に応じて変更を行っています。ポート・レジスタの設定を8ビット単位で操作したい場合，ユーザ・プログラム上でリード・モディファイ・ライトを行えば，ほとんど問題ありませんが，ライト前にデバッグ用の割り込みが入った場合，意図しない動作になる可能性があります。

備考　×：任意

●CSIB3使用時のポートに関するレジスタ

通信用にCSIB3を使用する場合，SIB3，SOB3，$\overline{\text{SCKB3}}$およびHS（PMC0）端子が有効になるように，デバッグ用モニタ・プログラムで行っています。デバッグ中に次のレジスタの設定をユーザ・プログラムで変更しないでください（同値書き込みは可能です）。

(a) SIB3, SOB3, $\overline{\text{SCKB3}}$の設定

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMC9H	×	×	×	1	1	1	×	×

	7	6	5	4	3	2	1	0
PFC9H	×	×	×	1	1	1	×	×

(b) HS（PMC0端子）の設定

	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCM	×	×	×	×	×	×	×	0

	7	6	5	4	3	2	1	0
PCM	×	×	×	×	×	×	×	注

注　ライト禁止です。

HS端子の値はモニタ・プログラムがデバッガの状態に応じて変更を行っています。ポート・レジスタの設定を8ビット単位で操作したい場合，ユーザ・プログラム上でリード・モディファイ・ライトを行えば，ほとんど問題ありませんが，ライト前にデバッグ用の割り込みが入った場合，意図しない動作になる可能性があります。

備考　×：任意

28. 2. 4　注意事項

(1) デバッグに使用したデバイスの取り扱いについて

デバッグに使用したデバイスを，量産製品に搭載しないでください（デバッグ中にフラッシュ・メモリの書き換えをしており，フラッシュ・メモリの書き換え回数を保証することができないためです）。また，デバッグ用モニタ・プログラムは量産製品には組み込まないでください。

(2) ブレークができない場合について

次の状態が継続している場合は，強制ブレークすることができません。

- 割り込み禁止中（DI）の場合
- MINICUBE2と対象デバイスの通信に使用するシリアル・インタフェースの割り込みがマスクされている場合
- マスカブル割り込みによるスタンバイ解除を禁止している状態で，スタンバイ・モードに入っている場合
- MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがUARTA0の場合に，メイン・クロックを停止している場合

(3) 疑似リアルタイムRAMモニタ（RRM）機能やDMM機能が動作しない場合について

次の状態の場合，疑似RRM機能，DMM機能が動作しません。

- 割り込み禁止中（DI）の場合
- MINICUBE2と対象デバイスの通信に使用するシリアル・インタフェースの割り込みがマスクされている場合
- マスカブル割り込みによるスタンバイ解除を禁止している状態で，スタンバイ・モードに入っている場合
- MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがUARTA0の場合に，メイン・クロックを停止している場合
- MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがUARTA0の場合に，デバッガで指定する動作クロックと異なるクロックで動作している場合

(4) 疑似RRMやDMM機能を有効にしている場合のスタンバイ解除について

次の状態の場合，疑似RRM機能，DMM機能によりスタンバイ・モードが解除されます。

- MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがCSIB0, CSIB3の場合
- MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがUARTA0の場合に，メイン・クロックが停止していない場合

(5) 特定シーケンスを必要とする周辺I/Oレジスタへの DMM機能による書き換えについて

特定シーケンスを必要とする周辺I/Oレジスタは，DMM機能により書き換えることができません。

(6) フラッシュ・セルフ・プログラミングについて

デバッグ用モニタ・プログラムが配置された空間を，フラッシュ・セルフ・プログラミングで書き換えた場合，デバッガが正常に動作しなくなります。

28. 3　ROMセキュリティ機能

28. 3. 1　セキュリティID

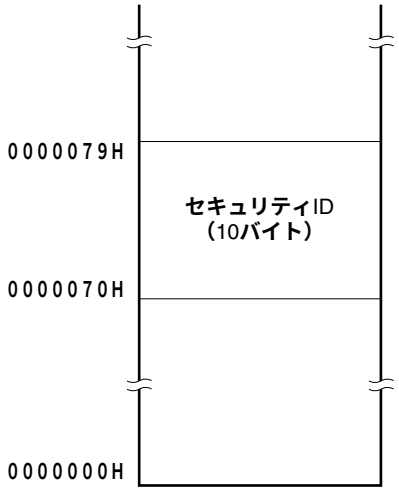
オンチップ・デバッグ・エミュレータによるオンチップ・デバッグ時，フラッシュ・メモリの内容を第三者に読み出されることを防ぐために，10バイトのIDコードによる認証を行います。

IDコードは，あらかじめ内蔵フラッシュ・メモリ領域の0000070H-0000079Hの10バイト分に設定し，デバッガがID認証を行います。

このID照合が一致していれば，セキュリティが解除されフラッシュ・メモリ読み出し許可，オンチップ・デバッグ・エミュレータ使用許可となります。

- 10バイトのIDコードは，0000070H-0000079Hに設定します。
- 0000079Hのビット7はオンチップ・デバッグ・エミュレータ使用許可フラグです。
  （0：使用禁止，1：使用許可）
- オンチップ・デバッグ・エミュレータを起動すると，デバッガがID入力を要求します。デバッガ上で入力したIDコードと，0000070H-0000079Hに埋め込んだIDコードが一致すればデバッガが起動します。
- IDコードが一致しても，オンチップ・デバッグ・エミュレータ使用許可フラグが“0”である場合は，デバッグを行うことはできません。

図28－5　セキュリティID領域



注意　フラッシュ・メモリのデータは消去状態では，すべて“1”となります。

28. 3. 2　設定方法

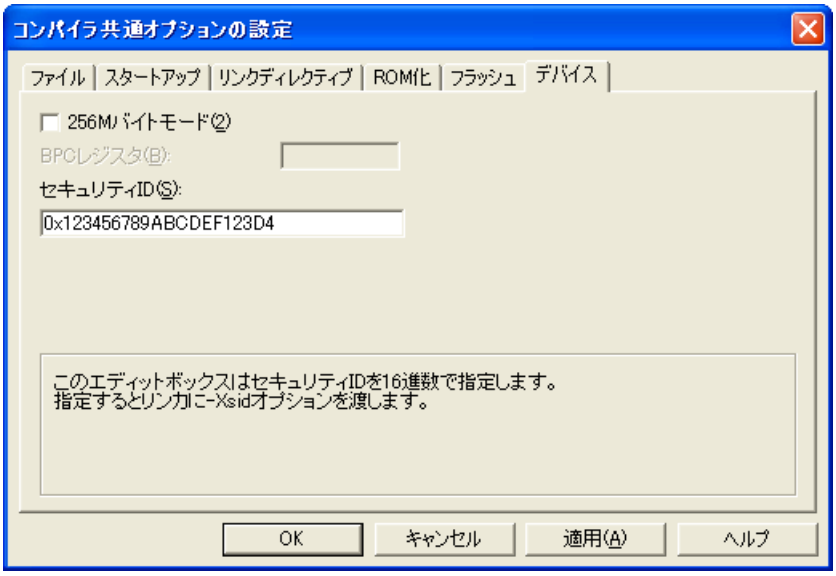
IDコードを表28－5のように設定する方法を次に示します。

表28－5のようにIDコードを設定した場合，ID850QBのコンフィギュレーション・ダイアログ上で入力するIDコードは「123456789ABCDEF123D4」となります（英数字は大文字でも小文字でも同じIDコードとして認識します）。

表28－5　IDコード

番地	値
0x70	0x12
0x71	0x34
0x72	0x56
0x73	0x78
0x74	0x9A
0x75	0xBC
0x76	0xDE
0x77	0xF1
0x78	0x23
0x79	0xD4

CA850　Ver. 3.10以上とセキュリティIDに対応したデバイス・ファイルであれば，PM+のコンパイラ共通オプション設定でIDコードを指定することができます。



［プログラム例（CA850 V3.10以上　使用時）］

```
#-----------------------------------------------------------------------------
#    SECURITYID
#-----------------------------------------------------------------------------
    .section    "SECURITY_ID"    -- Interrupt handler address 0x70
    .word       0x78563412       -- 0 - 3 byte code
    .word       0xF1DEBC9A       -- 4 - 7 byte code
    .hword      0xD423           -- 8 - 9 byte code
```

備考　上記プログラム例はスタートアップ・ファイルに追加してください。

第29章　電気的特性

絶対最大定格（T_A = 25 ℃）（1/2）

項　　目	略　号	条　　件	定　　格	単　位
電源電圧	V_{DD}	V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}	−0.5～+4.6	V
	EV_{DD}	V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}	−0.5～+4.6	V
	AV_{REF0}	V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}	−0.5～+4.6	V
	AV_{REF1}	V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}	−0.5～+4.6	V
	V_{SS}	V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS}	−0.5～+0.5	V
	AV_{SS}	V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS}	−0.5～+0.5	V
	EV_{SS}	V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS}	−0.5～+0.5	V
入力電圧	V_{I1}	$\overline{\text{RESET}}$, FLMD0, PCD0-PCD3, PCM0-PCM5, PCS0-PCS7, PCT0-PCT7, PDH0-PDH7, PDL0-PDL15	−0.5～EV_{DD}+0.5 注1	V
	V_{I2}	P10, P11	−0.5～AV_{REF1}+0.5 注1	V
	V_{I3}	X1, X2	−0.5～V_{RO} 注2 +0.5 注1	V
	V_{I4}	P00-P06, P30-P39, P40-P42, P50-P55, P60-P615, P80, P81, P90-P915	−0.5～+6.0	V
	V_{I5}	XT1, XT2	−0.5～V_{DD}+0.5 注1	V
アナログ入力電圧	V_{IAN}	P70-P715	−0.5～AV_{REF0}+0.5 注1	V

注1.　それぞれの電源電圧の絶対最大定格（MAX.値）を越えないようにしてください。

2.　内蔵レギュレータ出力電圧（2.5 V（TYP.））

備考　特に指定のないかぎり兼用端子の特性は，ポート端子以外の機能として使用しても同じです。

絶対最大定格（T_A = 25 ℃）（2/2）

項　目	略　号	条　件		定　格	単　位
ロウ・レベル出力電流	I_{OL}	P00-P06, P30-P39, P40-P42, P50-P55, P60-P615, P80, P81, P90-P915	1端子	4	mA
			全端子合計	50	mA
		PCD0-PCD3, PCM0-PCM5, PCS0-PCS7, PCT0-PCT7, PDH0-PDH7, PDL0-PDL15	1端子	4	mA
			全端子合計	50	mA
		P10, P11	1端子	4	mA
			全端子合計	8	mA
		P70-P715	1端子	4	mA
			全端子合計	20	mA
ハイ・レベル出力電流	I_{OH}	P00-P06, P30-P39, P40-P42, P50-P55, P60-P615, P80, P81, P90-P915	1端子	−4	mA
			全端子合計	−50	mA
		PCD0-PCD3, PCM0-PCM5, PCS0-PCS7, PCT0-PCT7, PDH0-PDH7, PDL0-PDL15	1端子	−4	mA
			全端子合計	−50	mA
		P10, P11	1端子	−4	mA
			全端子合計	−8	mA
		P70-P715	1端子	−4	mA
			全端子合計	−20	mA
動作周囲温度	T_A			−40～＋85	℃
保存温度	T_{stg}			−40～＋125	℃

注意1. IC製品の出力（または入出力）端子同士を直結したり，V_{DD}またはV_{CC}やGNDに直結したりしないでください。ただし，オープン・ドレーン端子やオープン・コレクタ端子同士は直結できます。また，ハイ・インピーダンスとなる端子で出力の衝突を避けるタイミング設計をした外部回路でも直結可能です。

2. 各項目のうち1項目でも，また一瞬でも絶対最大定格を越えると，製品の品質を損なう恐れがあります。つまり絶対最大定格とは，製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。できるだけこの定格値に近づけない状態で，製品をご使用ください。
DC特性とAC特性に示す規格や条件が，製品の正常動作，品質保証の範囲です。

備考　特に指定のないかぎり兼用端子の特性は，ポート端子以外の機能として使用しても同じです。

容量（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V）

項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
入出力容量	C_{IO}	f_X = 1 MHz 被測定ピン以外は0 V			10	pF

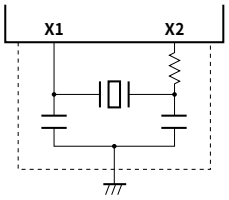
動作条件

（T_A = －40～＋85 ℃，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V）

内部システム・クロック周波数	条　件	電源電圧			単　位
		V_{DD}	EV_{DD}	AV_{REF0}, AV_{REF1}	
f_{XX} = 2.5～32 MHz	C = 4.7 μF（推奨値）， A/Dコンバータ停止， D/Aコンバータ停止	2.85～3.6	2.85～3.6	2.85～3.6	V
	C = 4.7 μF（推奨値）， A/Dコンバータ動作， D/Aコンバータ動作	3.0～3.6	3.0～3.6	3.0～3.6	V
f_{XT} = 32.768 kHz	C = 4.7 μF（推奨値）， A/Dコンバータ停止， D/Aコンバータ停止	2.85～3.6	2.85～3.6	2.85～3.6	V

メイン・クロック発振回路特性

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V）

発振子	回路例	項　目	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
セラミック発振子／水晶振動子		発振周波数（fx）注1		2.5		10	MHz
		発振安定時間注2	リセット解除後		2^{16}/fx		s
			STOPモード解除後	1注4	注3		ms
			IDLE2モード解除後	350注4	注3		μs

注1. 発振周波数はあくまで発振回路の特性を示すものであり，内部動作条件については，AC特性，DC特性の規格内で使用してください。

2. 発振を開始してから発振子が安定するまでの時間です。

3. OSTSレジスタの設定によって値が異なります。

4. フラッシュ・メモリのセットアップに必要な時間です。OSTSレジスタによって確実にセットアップ時間を確保してください。

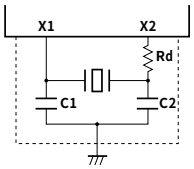
注意1. メイン・クロック発振回路を使用する場合は，配線容量などの影響を避けるために，図中の破線の部分を次のように配線してください。

- 配線は極力短くする。
- 他の信号線と交差させない。
- 変化する大電流が流れる線に接近させない。
- 発振回路のコンデンサの接地点は，常にV_{SS}と同電位になるようにする。
- 大電流が流れるグランド・パターンに接地しない。
- 発振回路から信号を取り出さない。

2. メイン・クロックを停止させサブクロックで動作させているときに，再度メイン・クロックに切り替える場合には，プログラムで発振安定時間を確保したあとに切り替えてください。

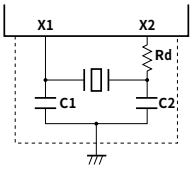
3. 発振子の選択および発振回路定数については，お客様において発振評価していただくか，発振子メーカーに評価を依頼してください。

(i) 京セラキンセキ株式会社：水晶振動子（T_A = −10～+70 ℃）

タイプ	回路例	品 名	発振周波数	推奨回路定数			発振電圧範囲	
			f_X（MHz）	C1（pF）	C2（pF）	Rd（Ω）	MIN.（V）	MAX.（V）
表面実装		CX49GFWB04000D0PESZZ	4.000	8	8	0	2.2	3.6
		CX49GFWB05000D0PESZZ	5.000	8	8	0	2.2	3.6
		CX49GFWB06000D0PESZZ	6.000	8	8	0	2.2	3.6
		CX49GFWB08000D0PESZZ	8.000	8	8	0	2.2	3.6
		CX49GFWB10000D0PESZZ	10.000	8	8	0	2.2	3.6

注意 発振回路定数は発振子メーカによる特定の環境下での評価に基づく参考値です。実アプリケーションにおいて発振回路特性の最適化が必要な場合は，実装回路上での評価を発振子メーカに依頼してください。
また，発振電圧，発振周波数はあくまで発振回路特性を示すものであり，V850ES/JJ3の内部動作条件についてはAC, DC特性の規格内で使用してください。

(ii) 株式会社村田製作所：セラミック発振子（T_A = −20～+80 ℃）

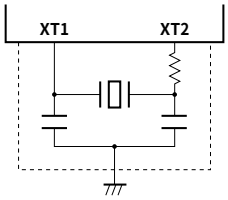
タイプ	回路例	品名	発振周波数	推奨回路定数			発振電圧範囲	
			f_X（MHz）	C1（pF）	C2（pF）	Rd（Ω）	MIN.（V）	MAX.（V）
表面実装		CSTCC2M50G56-R0	2.500	(47)	(47)	3300	2.85	3.6
		CSTCR4M00G55-R0	4.000	(39)	(39)	1500	2.85	3.6
		CSTCR5M00G53-R0	5.000	(15)	(15)	1500	2.85	3.6
		CSTCR6M00G53-R0	6.000	(15)	(15)	1500	2.85	3.6
		CSTCE8M00G55-R0	8.000	(33)	(33)	330	2.85	3.6
		CSTCE10M0G52-R0	10.000	(10)	(10)	470	2.85	3.6
リード		CSTLS4M00G56-B0	4.000	(47)	(47)	1500	2.85	3.6
		CSTLS5M00G53-B0	5.000	(15)	(15)	1500	2.85	3.6
		CSTLS6M00G53-B0	6.000	(15)	(15)	1500	2.85	3.6
		CSTLS8M00G53-B0	8.000	(15)	(15)	680	2.85	3.6
		CSTLS10M0G53-B0	10.000	(15)	(15)	680	2.85	3.6

注意 発振回路定数は発振子メーカによる特定の環境下での評価に基づく参考値です。実アプリケーションにおいて発振回路特性の最適化が必要な場合は，実装回路上での評価を発振子メーカに依頼してください。
また，発振電圧，発振周波数はあくまで発振回路特性を示すものであり，V850ES/JJ3の内部動作条件についてはAC, DC特性の規格内で使用してください。

備考 C1, C2の（ ）内の数値は発振子に内蔵されている容量を表しています。

サブクロック発振回路特性

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V）

発振子	回路例	項　目	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
水晶振動子		発振周波数（f_{XT}）注1		32	32.768	35	kHz
		発振安定時間注2				10	s

注1.　発振周波数はあくまで発振回路の特性を示すものであり，内部動作条件については，AC特性，DC特性の規格内で使用してください。

2.　V_{DD}が発振電圧範囲（2.85 V（MIN.））に達してから水晶発振子が安定するまでの時間です。

注意1.　サブクロック発振回路を使用する場合は，配線容量などの影響を避けるために，図中の破線の部分を次のように配線してください。

- 配線は極力短くする。
- 他の信号線と交差させない。
- 変化する大電流が流れる線に接近させない。
- 発振回路のコンデンサの接地点は，常にV_{SS}と同電位になるようにする。
- 大電流が流れるグランド・パターンに接地しない。
- 発振回路から信号を取り出さない。

2.　サブクロック発振回路は，低消費電力にするため増幅度の低い回路になっており，ノイズによる誤動作がメイン・クロックよりも起こりやすくなっています。したがって，サブクロックを使用する場合は，配線方法について特に注意してください。

3.　発振子の選択および発振回路定数については，お客様において発振評価していただくか，発振子メーカに評価を依頼してください。

PLL特性

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V）

項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
入力周波数	f_X	4逓倍モード	2.5		5	MHz
		8逓倍モード	2.5		4	MHz
出力周波数	f_{XX}	4逓倍モード	10		20	MHz
		8逓倍モード	20		32	MHz
ロック時間	t_{PLL}	V_{DD}が2.85 V（MIN.）に達したあと			800	μs

内蔵発振器特性

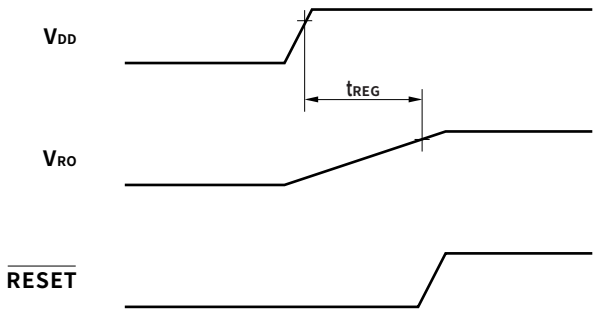
（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V）

項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
出力周波数	f_R		100	220	400	kHz

レギュレータ特性

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V）

項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
入力電圧	V_{DD}	f_{XX} = 32 MHz（MAX.）	2.85		3.6	V
出力電圧	V_{RO}			2.5		V
レギュレータ出力安定時間	t_{REG}	V_{DD}が2.85 V（MIN.）に達したあと REGC端子に安定化容量 C = 4.7 μF（推奨値）を接続時			1	ms



DC特性

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V）（1/3）

項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
ハイ・レベル入力電圧	V_{IH1}	$\overline{RESET}$, FLMD0	0.8 EV_{DD}		EV_{DD}	V
	V_{IH2}	P00-P06, P30-P37, P42, P50-P55, P60-P615, P80, P81, P92-P915	0.8 EV_{DD}		5.5	V
	V_{IH3}	P38, P39, P40, P41, P90, P91	0.7 EV_{DD}		5.5	V
	V_{IH4}	PCD0-PCD3, PCM0-PCM5, PCS0-PCS7, PCT0-PCT7, PDH0-PDH7, PDL0-PDL15	0.7 EV_{DD}		EV_{DD}	V
	V_{IH5}	P70-P715	0.7 AV_{REF0}		AV_{REF0}	V
	V_{IH6}	P10, P11	0.7 AV_{REF1}		AV_{REF1}	V
ロウ・レベル入力電圧	V_{IL1}	$\overline{RESET}$, FLMD0	EV_{SS}		0.2 EV_{DD}	V
	V_{IL2}	P00-P06, P30-P37, P42, P50-P55, P60-P615, P80, P81, P92-P915	EV_{SS}		0.2 EV_{DD}	V
	V_{IL3}	P38, P39, P40, P41, P90, P91	EV_{SS}		0.3 EV_{DD}	V
	V_{IL4}	PCD0-PCD3, PCM0-PCM5, PCS0-PCS7, PCT0-PCT7, PDH0-PDH7, PDL0-PDL15	EV_{SS}		0.3 EV_{DD}	V
	V_{IL5}	P70-P715	AV_{SS}		0.3 AV_{REF0}	V
	V_{IL6}	P10, P11	AV_{SS}		0.3 AV_{REF1}	V
ハイ・レベル入力リーク電流	I_{LIH}	V_I = V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}			5	μA
ロウ・レベル入力リーク電流	I_{LIL}	V_I = 0 V			－5	μA
ハイ・レベル出力リーク電流	I_{LOH}	V_O = V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}			5	μA
ロウ・レベル出力リーク電流	I_{LOL}	V_O = 0 V			－5	μA

備考　兼用端子の特性は，ポート端子として使用する場合の特性と同じです。

DC特性

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V） （2/3）

項　目	略　号	条　件			MIN.	TYP.	MAX.	単　位
ハイ・レベル出力電圧	V_{OH1}	P00-P06, P30-P39, P40-P42, P50-P55, P60-P615, P80, P81, P90-P915	1端子 I_{OH} = －1.0 mA	端子合計 －20 mA	EV_{DD}－1.0		EV_{DD}	V
			1端子 I_{OH} = －100 μA	端子合計 －6.0 mA	EV_{DD}－0.5		EV_{DD}	V
	V_{OH2}	PCD0-PCD3, PCM0-PCM5, PCS0-PCS7, PCT0-PCT7, PDH0-PDH7, PDL0-PDL15	1端子 I_{OH} = －1.0 mA	端子合計 －20 mA	EV_{DD}－1.0		EV_{DD}	V
			1端子 I_{OH} = －100 μA	端子合計 －5.0 mA	EV_{DD}－0.5		EV_{DD}	V
	V_{OH3}	P70-P715	1端子 I_{OH} = －0.4 mA	端子合計 －6.4 mA	AV_{REF0}－1.0		AV_{REF0}	V
			1端子 I_{OH} = －100 μA	端子合計 －1.6 mA	AV_{REF0}－0.5		AV_{REF0}	V
	V_{OH4}	P10, P11	1端子 I_{OH} = －0.4 mA	端子合計 －0.8 mA	AV_{REF1}－1.0		AV_{REF1}	V
			1端子 I_{OH} = －100 μA	端子合計 －0.2 mA	AV_{REF1}－0.5		AV_{REF1}	V
ロウ・レベル出力電圧	V_{OL1}	P00-P06, P30-P37, P42, P50-P55, P60-P615, P80, P81, P92-P915	1端子 I_{OL} = 1.0 mA	端子合計 20 mA	0		0.4	V
	V_{OL2}	P38, P39, P40, P41, P90, P91	1端子 I_{OL} = 3.0 mA		0		0.4	V
	V_{OL3}	PCD0-PCD3, PCM0-PCM5, PCS0-PCS7, PCT0-PCT7, PDH0-PDH7, PDL0-PDL15	1端子 I_{OL} = 1.0 mA	端子合計 20 mA	0		0.4	V
	V_{OL4}	P10, P11, P70-P715	1端子 I_{OL} = 0.4 mA	端子合計 7.2 mA	0		0.4	V
ソフトウエア・プルダウン抵抗	R_1	P05	V_I = V_{DD}		10	20	100	kΩ

備考1. 兼用端子の特性は，ポート端子として使用する場合の特性と同じです。

2. I_{OH}, I_{OL}の条件を1端子のみ満たさず合計値は条件を満たしている場合，DC特性も満たさなくなるのは，その端子のみです。

DC特性

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V） （3/3）

項　目	略　号	条　件		MIN.	TYP.	MAX.	単　位
電源電流[注]	I_{DD1}	通常動作	f_{XX} = 32 MHz（f_X = 4 MHz）		40	64	mA
			f_{XX} = 20 MHz（f_X = 5 MHz）		30	50	mA
	I_{DD2}	HALTモード	f_{XX} = 32 MHz（f_X = 4 MHz）		27	45	mA
			f_{XX} = 20 MHz（f_X = 5 MHz）		19	30	mA
	I_{DD3}	IDLE1モード	f_{XX} = 5 MHz（f_X = 5 MHz），PLLオフ時		0.9	2.4	mA
	I_{DD4}	IDLE2モード	f_{XX} = 5 MHz（f_X = 5 MHz），PLLオフ時		0.3	0.8	mA
	I_{DD5}	サブクロック動作モード	f_{XT} = 32.768 kHz，メイン・クロック，内蔵発振器停止		80	600	μA
	I_{DD6}	サブIDLEモード	f_{XT} = 32.768 kHz，メイン・クロック，内蔵発振器停止		11	100	μA
	I_{DD7}	STOPモード	サブクロック停止，内蔵発振器停止		8	80	μA
			サブクロック動作，内蔵発振器停止		11	90	μA
			サブクロック停止，内蔵発振器動作		13	90	μA
	I_{DD8}	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード	f_{XX} = 32 MHz（f_X = 4 MHz）		45	74	mA
			f_{XX} = 20 MHz（f_X = 5 MHz）		34	60	mA

注 V_{DD}, EV_{DD}電流の合計です。出力バッファ，A/Dコンバータ，D/Aコンバータ，内蔵プルダウン抵抗で流れる電流は含みません。

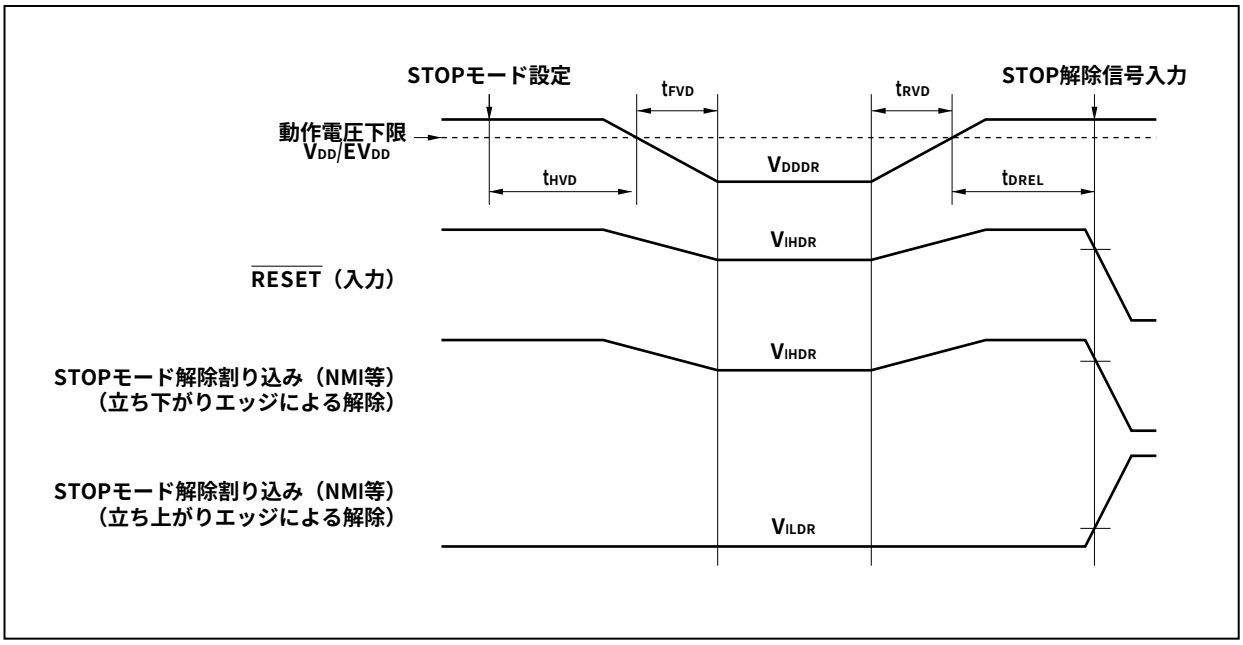
データ保持特性

STOPモード時

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V）

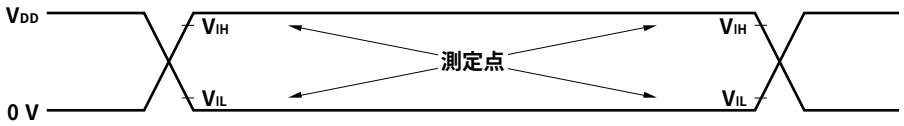
項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
データ保持電圧	V_{DDDR}	STOPモード（全機能停止）	1.9		3.6	V
データ保持電流	I_{DDDR}	STOPモード（全機能停止），V_{DDDR} = 2.0 V		8	80	μA
電源電圧立ち上がり時間	t_{RVD}		200			μs
電源電圧立ち下がり時間	t_{FVD}		200			μs
電源電圧保持時間	t_{HVD}	STOPモード設定後	0			ms
STOP解除信号入力時間	t_{DREL}	V_{DD}が2.85 V（MIN.）に達したあと	0			ms
データ保持ハイ・レベル入力電圧	V_{IHDR}	V_{DD} = EV_{DD} = V_{DDDR}	0.9V_{DDDR}		V_{DDDR}	V
データ保持ロウ・レベル入力電圧	V_{ILDR}	V_{DD} = EV_{DD} = V_{DDDR}	0		0.1V_{DDDR}	V

注意　STOPモードへの移行，およびSTOPモードからの復帰は，動作範囲内で行ってください。

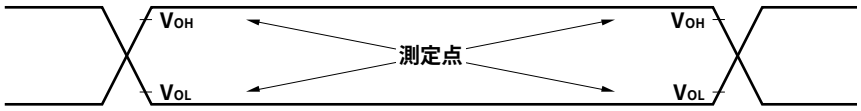


AC特性

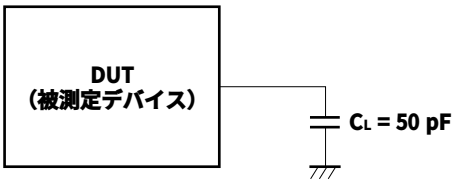
ACテスト入力測定点（V_{DD}, AV_{REF0}, AV_{REF1}, EV_{DD}）



ACテスト出力測定点



負荷条件



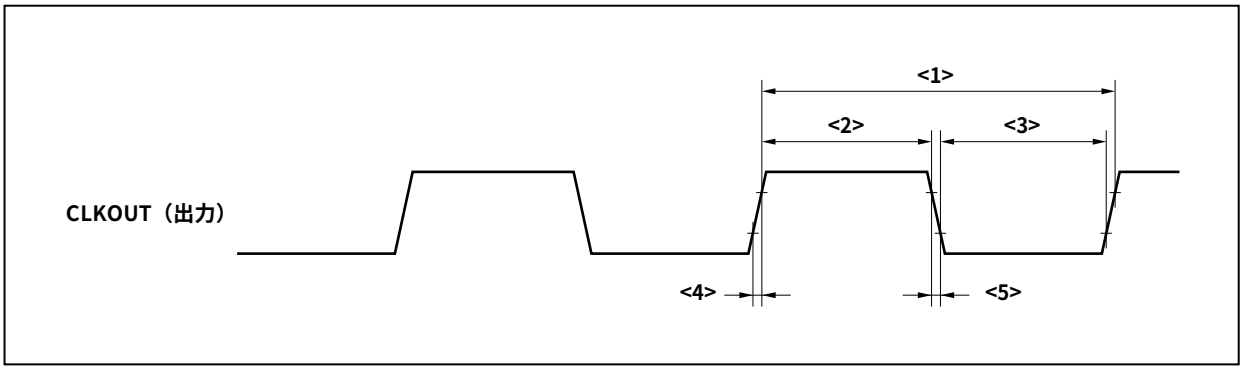
注意　回路構成により負荷容量が50 pFを越える場合は，バッファを入れるなどして，このデバイスの負荷容量を50 pF以下にしてください。

CLKOUT**出力タイミング**

(T_A = **－**40**～＋**85 °C**,** V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V**)**

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
出力周期	t_{CYK}	<1>		31.25 ns	31.25 μs	
ハイ・レベル幅	t_{WKH}	<2>		t_{CYK}/2－6		ns
ロウ・レベル幅	t_{WKL}	<3>		t_{CYK}/2－6		ns
立ち上がり時間	t_{KR}	<4>			6	ns
立ち下がり時間	t_{KF}	<5>			6	ns

クロック・タイミング



バス・タイミング

(1) マルチプレクス・バス・モード時

注意 f_{XX}＞20 MHz**で動作させる場合，必ずアドレス・ホールド・ウエイトとアドレス・セットアップ・ウエイトを挿入してください。**

(a) リード／ライト・サイクル（CLKOUT非同期）

（T_A = －40～＋85 ℃，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
アドレス設定時間（対ASTB↓）	t_{SAST}	<6>		(0.5＋t_{ASW}) T－20		ns
アドレス保持時間（対ASTB↓）	t_{HSTA}	<7>		(0.5＋t_{AHW}) T－15		ns
$\overline{RD}$↓ → アドレス・フロート遅延時間	t_{FRDA}	<8>			16	ns
アドレス → データ入力設定時間	t_{SAID}	<9>			(2＋n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－35	ns
$\overline{RD}$↓ → データ入力設定時間	t_{SRID}	<10>			(1＋n) T－25	ns
ASTB↓ → $\overline{RD}$, $\overline{WRm}$↓遅延時間	$t_{DSTRDWR}$	<11>		(0.5＋t_{AHW}) T－15		ns
データ入力保持時間（対$\overline{RD}$↑）	t_{HRDID}	<12>		0		ns
$\overline{RD}$↑→ アドレス出力時間	t_{DRDA}	<13>		(1＋i) T－15		ns
$\overline{RD}$, $\overline{WRm}$↑→ ASTB↑遅延時間	$t_{DRDWRST}$	<14>		0.5T－15		ns
$\overline{RD}$↑→ ASTB↓遅延時間	t_{DRDST}	<15>		(1.5＋i＋t_{ASW}) T－15		ns
$\overline{RD}$, $\overline{WRm}$ロウ・レベル幅	t_{WRDWRL}	<16>		(1＋n) T－15		ns
ASTB ハイ・レベル幅	t_{WSTH}	<17>		(1＋i＋t_{ASW}) T－15		ns
$\overline{WRm}$↓→ データ出力時間	t_{DWROD}	<18>			15	ns
データ出力設定時間（対$\overline{WRm}$↑）	t_{SODWR}	<19>		(1＋n) T－20		ns
データ出力保持時間（対$\overline{WRm}$↑）	t_{HWROD}	<20>		T－15		ns
$\overline{WAIT}$設定時間（対アドレス）	t_{SAWT1}	<21>	n≧1		(1.5＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－35	ns
	t_{SAWT2}	<22>			(1.5+n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－35	ns
$\overline{WAIT}$保持時間（対アドレス）	t_{HAWT1}	<23>	n≧1	(0.5+n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T		ns
	t_{HAWT2}	<24>		(1.5+n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T		ns
$\overline{WAIT}$設定時間（対ASTB↓）	t_{SSTWT1}	<25>	n≧1		(1＋t_{AHW}) T－25	ns
	t_{SSTWT2}	<26>			(1＋n＋t_{AHW}) T－25	ns
$\overline{WAIT}$保持時間（対ASTB↓）	t_{HSTWT1}	<27>	n≧1	(n＋t_{AHW}) T		ns
	t_{HSTWT2}	<28>		(1＋n＋t_{AHW}) T		ns

備考1. t_{ASW}：**アドレス・セットアップ・ウエイト・クロック数**

t_{AHW}：**アドレス・ホールド・ウエイト・クロック数**

2. T = 1/f_{CPU}（f_{CPU}：CPU動作クロック周波数）

3. n：バス・サイクルに挿入されるウエイト・クロック数

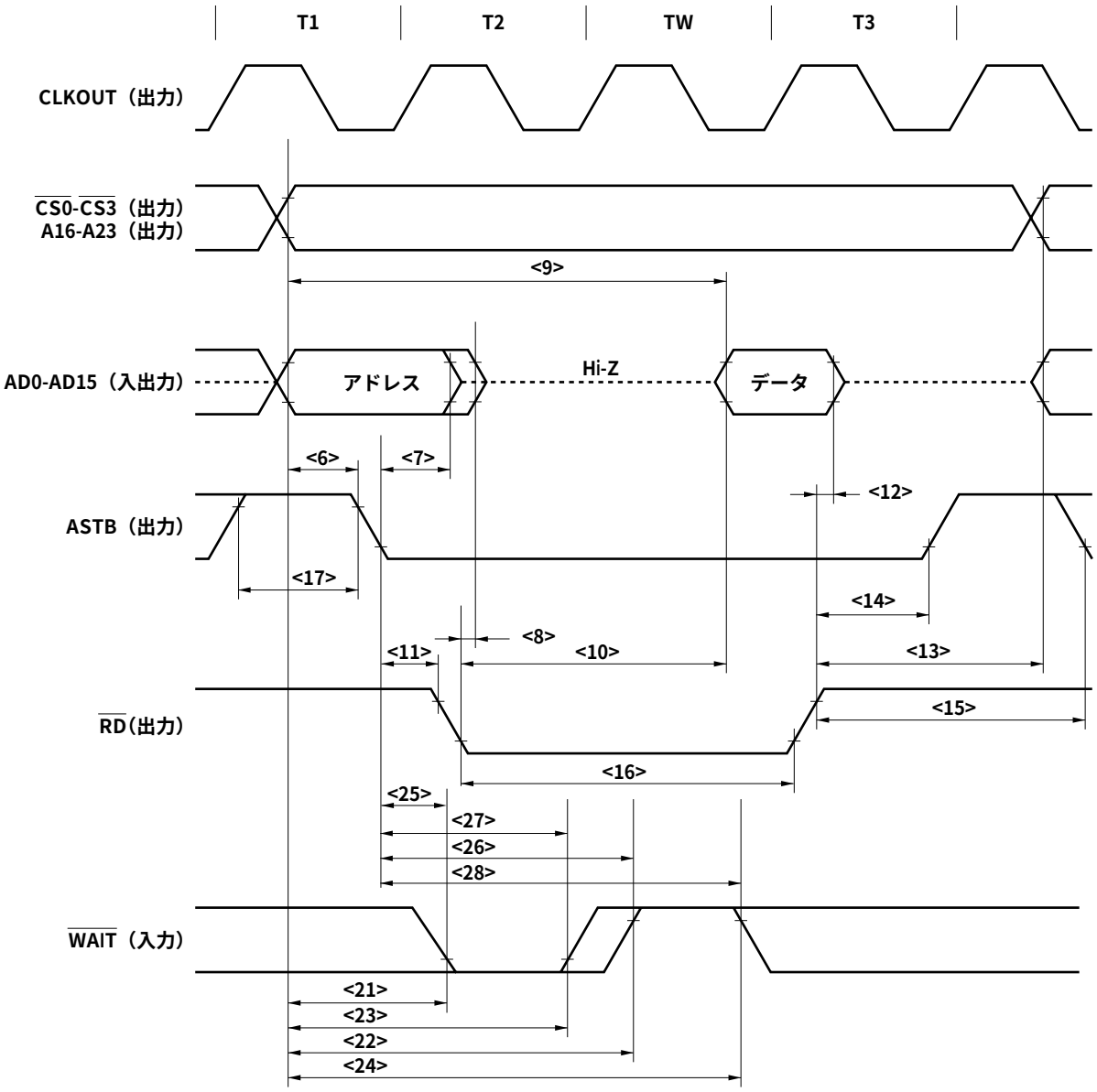
プログラマブル・ウエイト挿入時は，サンプル・タイミングが変わります。

4. m = 0, 1

5. i：リード・サイクル後に挿入されるアイドル・ステート数（0または1）

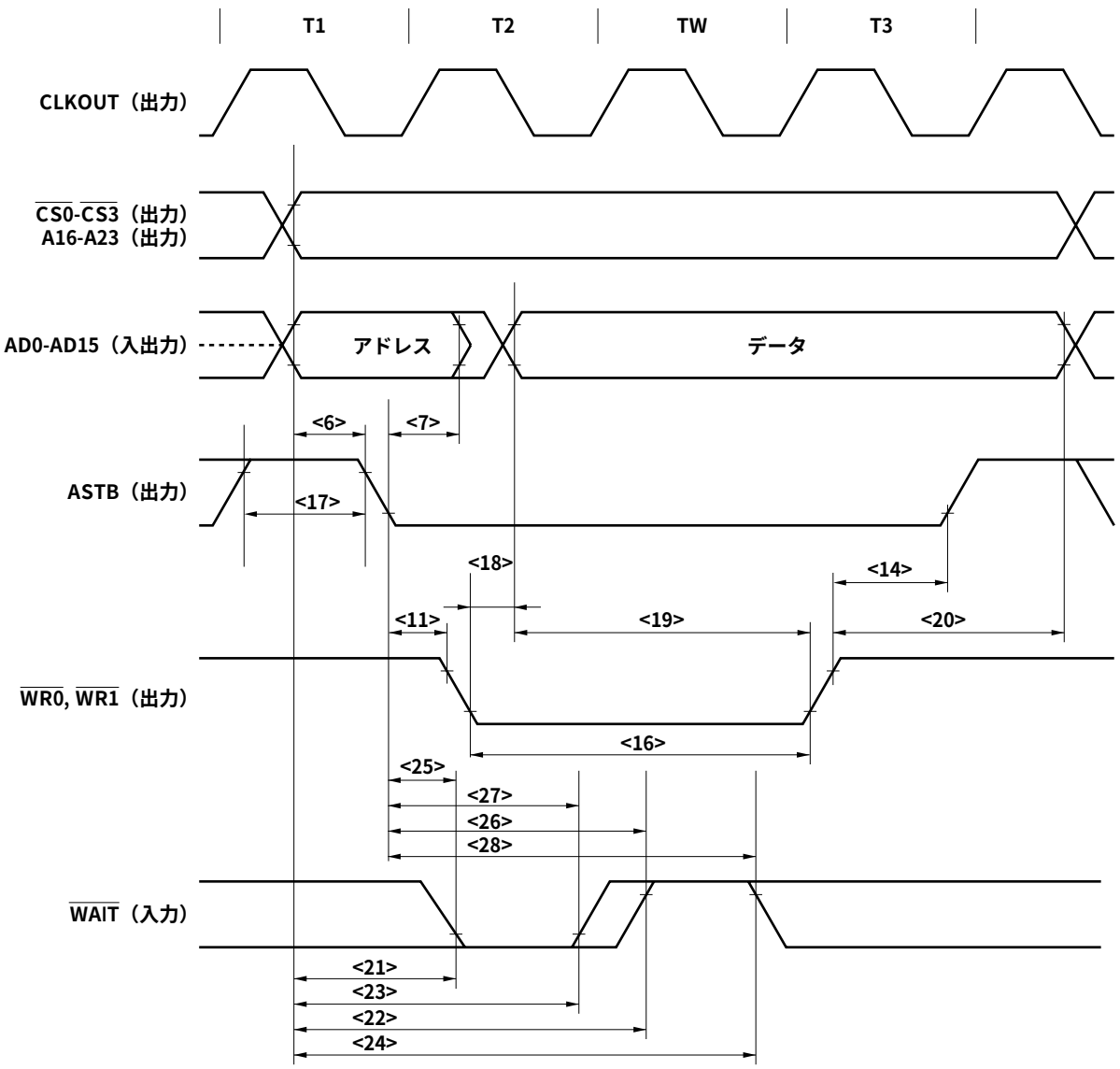
6. 上記スペックは，X1からデューティ比1：1のクロックを入力した場合の値です。

リード・サイクル（CLKOUT非同期）：マルチプレクス・バス・モード時



備考 $\overline{\text{WR0}}$, $\overline{\text{WR1}}$**はハイ・レベル**

ライト・サイクル（CLKOUT非同期）：マルチプレクス・バス・モード時



備考　RDはハイ・レベル

(b) リード／ライト・サイクル（CLKOUT同期）：マルチプレクス・バス・モード時

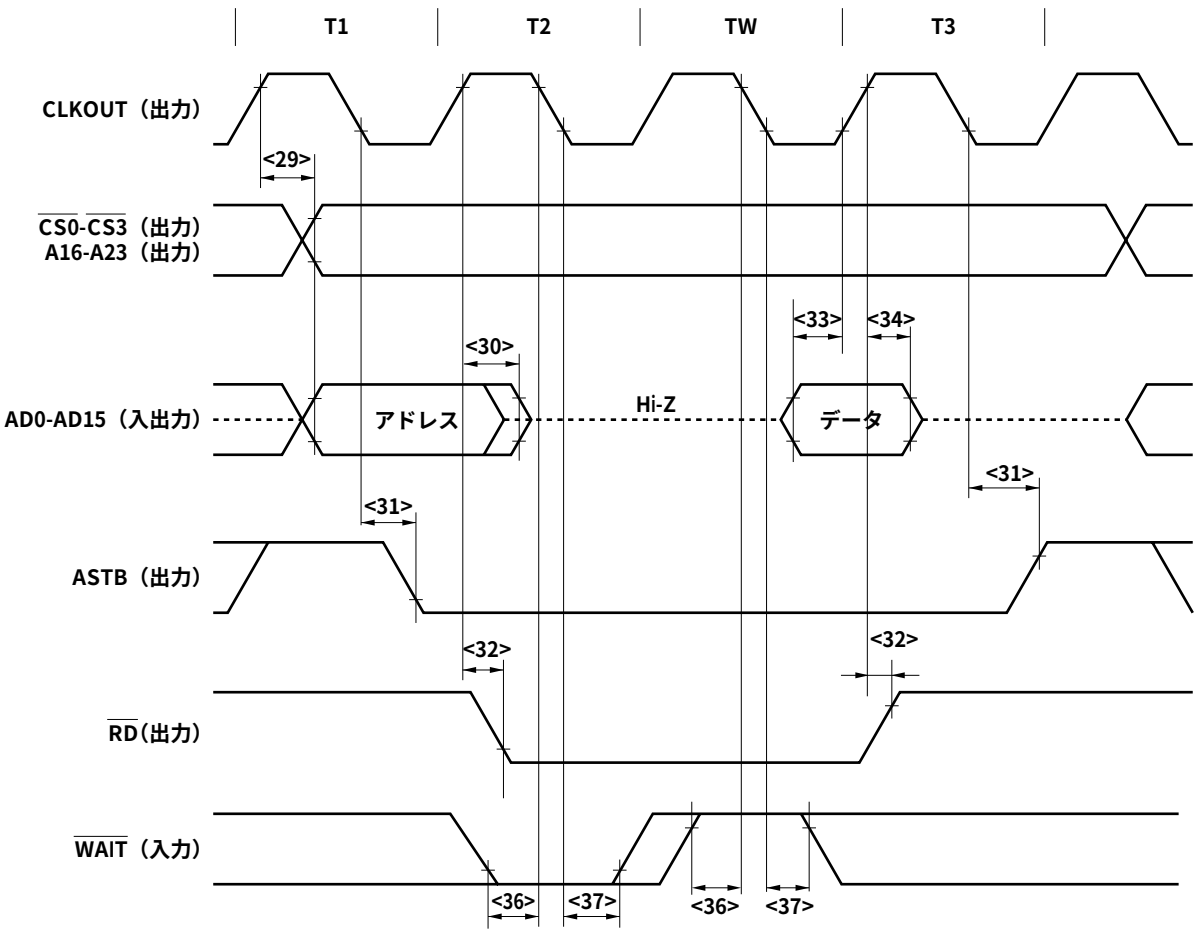
(T_A = **－**40**～＋**85 **℃,** V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF**)**

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
CLKOUT↑→ **アドレス遅延時間**	t_{DKA}	<29>		0	25	ns
CLKOUT↑→ アドレス･フロート遅延時間	t_{FKA}	<30>		0	19	ns
CLKOUT↓→ ASTB**遅延時間**	t_{DKST}	<31>		－12	7	ns
CLKOUT↑→ $\overline{RD}$, $\overline{WRm}$**遅延時間**	t_{DKRDWR}	<32>		－5	14	ns
データ入力設定時間（対CLKOUT↑**）**	t_{SIDK}	<33>		15		ns
データ入力保持時間（対CLKOUT↑**）**	t_{HKID}	<34>		5		ns
CLKOUT↑→ **データ出力遅延時間**	t_{DKOD}	<35>			19	ns
$\overline{WAIT}$**設定時間（対**CLKOUT↓**）**	t_{SWTK}	<36>		20		ns
$\overline{WAIT}$**保持時間（対**CLKOUT↓**）**	t_{HKWT}	<37>		5		ns

備考1. m = 0, 1

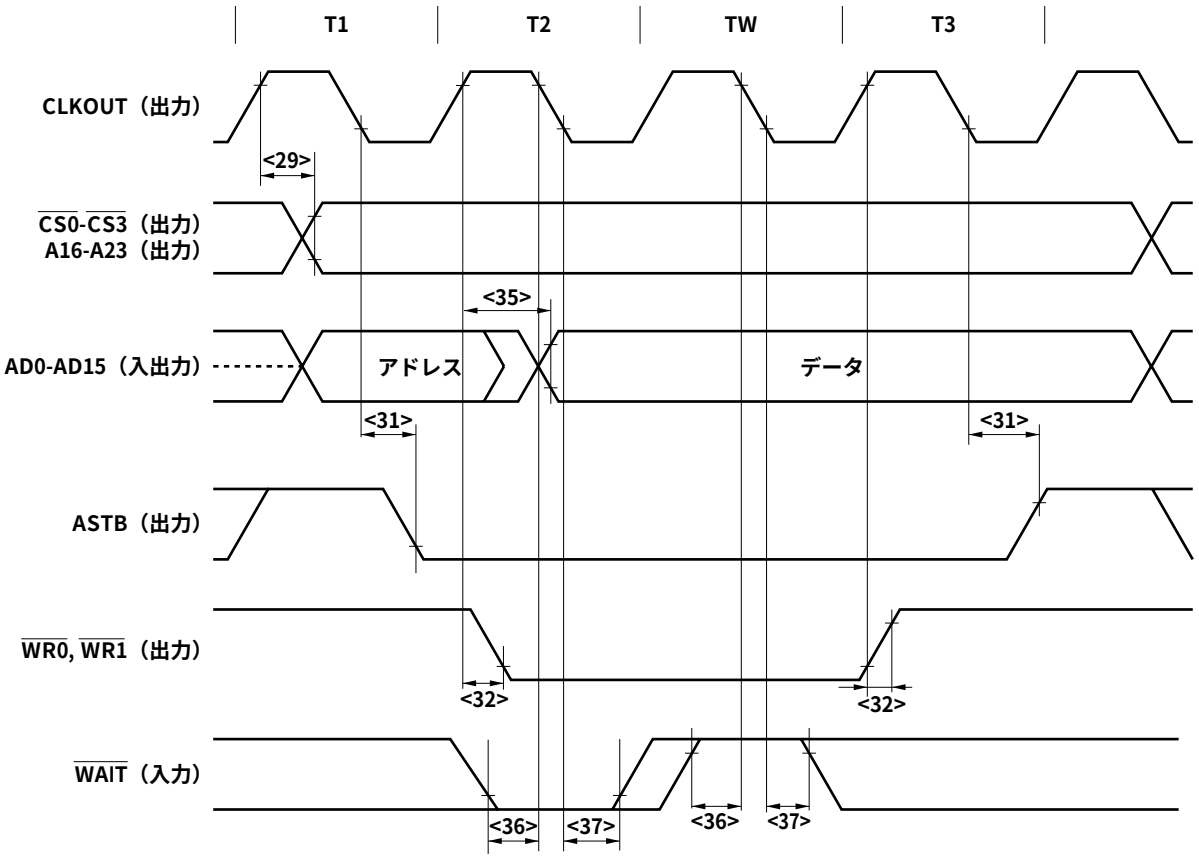
2. **上記スペックは,** X1**からデューティ比**1**：**1**のクロックを入力した場合の値です。**

リード・サイクル（CLKOUT**同期）：マルチプレクス・バス・モード時**



備考 $\overline{WR1}$, $\overline{WR0}$**はハイ・レベル**

ライト・サイクル（CLKOUT同期）：マルチプレクス・バス・モード時



備考　RDはハイ・レベル

(2) セパレート・バス・モード時

注意　f_{XX}＞20 MHz**で動作させる場合，必ずアドレス・ホールド・ウエイトとアドレス・セットアップ・ウエイトとデータ・ウエイトを挿入してください。**

(a) リード・サイクル（CLKOUT非同期）：セパレート・バス・モード時

(T_A = －40～＋85 **℃，**V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF**)**

項　目	略　号		条件	MIN.	MAX.	単　位
アドレス設定時間（対$\overline{RD}$↓）	t_{SARD}	<38>		(0.5＋t_{ASW}) T－27		ns
アドレス保持時間（対$\overline{RD}$↑）	t_{HARD}	<39>		iT－3.5		ns
$\overline{RD}$ロウ・レベル幅	t_{WRDL}	<40>		(1.5＋n＋t_{AHW}) T－10		ns
データ設定時間（対$\overline{RD}$↑）	t_{SISD}	<41>		23		ns
データ保持時間（対$\overline{RD}$↑）	t_{HISD}	<42>		－3.5		ns
データ設定時間（対アドレス）	t_{SAID}	<43>			(2＋n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－40	ns
$\overline{WAIT}$設定時間（対$\overline{RD}$↓）	t_{SRDWT1}	<44>			(0.5＋t_{AHW}) T－25	ns
	t_{SRDWT2}	<45>			(0.5＋n＋t_{AHW}) T－25	ns
$\overline{WAIT}$保持時間（対$\overline{RD}$↓）	t_{HRDWT1}	<46>		(n－0.5＋t_{AHW}) T		ns
	t_{HRDWT2}	<47>		(n＋0.5＋t_{AHW}) T		ns
$\overline{WAIT}$設定時間（対アドレス）	t_{SAWT1}	<48>			(1＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－45	ns
	t_{SAWT2}	<49>			(1＋n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－45	ns
$\overline{WAIT}$保持時間（対アドレス）	t_{HAWT1}	<50>		(n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T		ns
	t_{HAWT2}	<51>		(1＋n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T		ns

備考1.　t_{ASW}**：アドレス・セットアップ・ウエイト・クロック数**

t_{AHW}**：アドレス・ホールド・ウエイト・クロック数**

2.　T = 1/f_{CPU}（f_{CPU}**：CPU動作クロック周波数）**

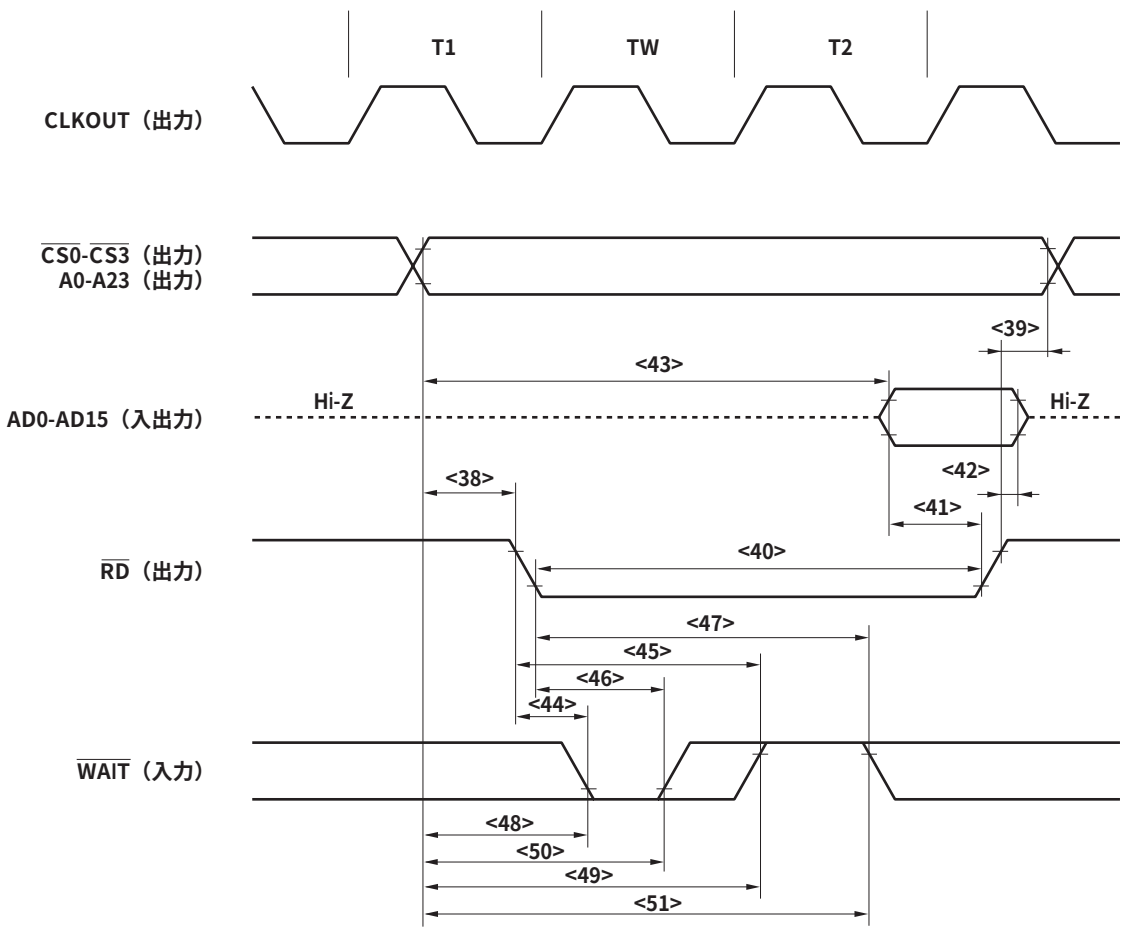
3.　n**：バス・サイクルに挿入されるウエイト・クロック数**

プログラマブル・ウエイト挿入時は，サンプリング・タイミングが変わります。

4.　i**：リード・サイクル後に挿入されるアイドル・ステート数（**0**または**1**）**

5.　**上記のスペックは，**X1**からデューティ比**1**：**1**のクロックを入力した場合の値です。**

リード・サイクル（CLKOUT非同期）：セパレート・バス・モード時



備考 WR0, WR1**はハイ・レベル**

(b) ライト・サイクル（CLKOUT非同期）：セパレート・バス・モード時

（T_A = －40～＋85 ℃，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目	略　号		条件	MIN.	MAX.	単　位
アドレス設定時間（対$\overline{WRm}$↓）	t_{SAWR}	<52>		(1＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－27		ns
アドレス保持時間（対$\overline{WRm}$↑）	t_{HAWR}	<53>		0.5T－6		ns
$\overline{WRm}$ロウ・レベル幅	t_{WWRL}	<54>		(0.5＋n) T－10		ns
$\overline{WRm}$↓→データ出力時間	t_{DOSDW}	<55>		－5		ns
データ設定時間（対$\overline{WRm}$↑）	t_{SOSDW}	<56>		(0.5＋n) T－20		ns
データ保持時間（対$\overline{WRm}$↑）	t_{HOSDW}	<57>		0.5T－7		ns
データ設定時間（対アドレス）	t_{SAOD}	<58>		(1＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－25		ns
$\overline{WAIT}$設定時間（対$\overline{WRm}$↓）	t_{SWRWT1}	<59>		22		ns
	t_{SWRWT2}	<60>			nT－22	ns
$\overline{WAIT}$保持時間（対$\overline{WRm}$↓）	t_{HWRWT1}	<61>		0		ns
	t_{HWRWT2}	<62>		nT		ns
$\overline{WAIT}$設定時間（対アドレス）	t_{SAWT1}	<63>			(1＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－45	ns
	t_{SAWT2}	<64>			(1＋n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T－45	ns
$\overline{WAIT}$保持時間（対アドレス）	t_{HAWT1}	<65>		(n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T		ns
	t_{HAWT2}	<66>		(1＋n＋t_{ASW}＋t_{AHW}) T		ns

備考1. m = 0, 1

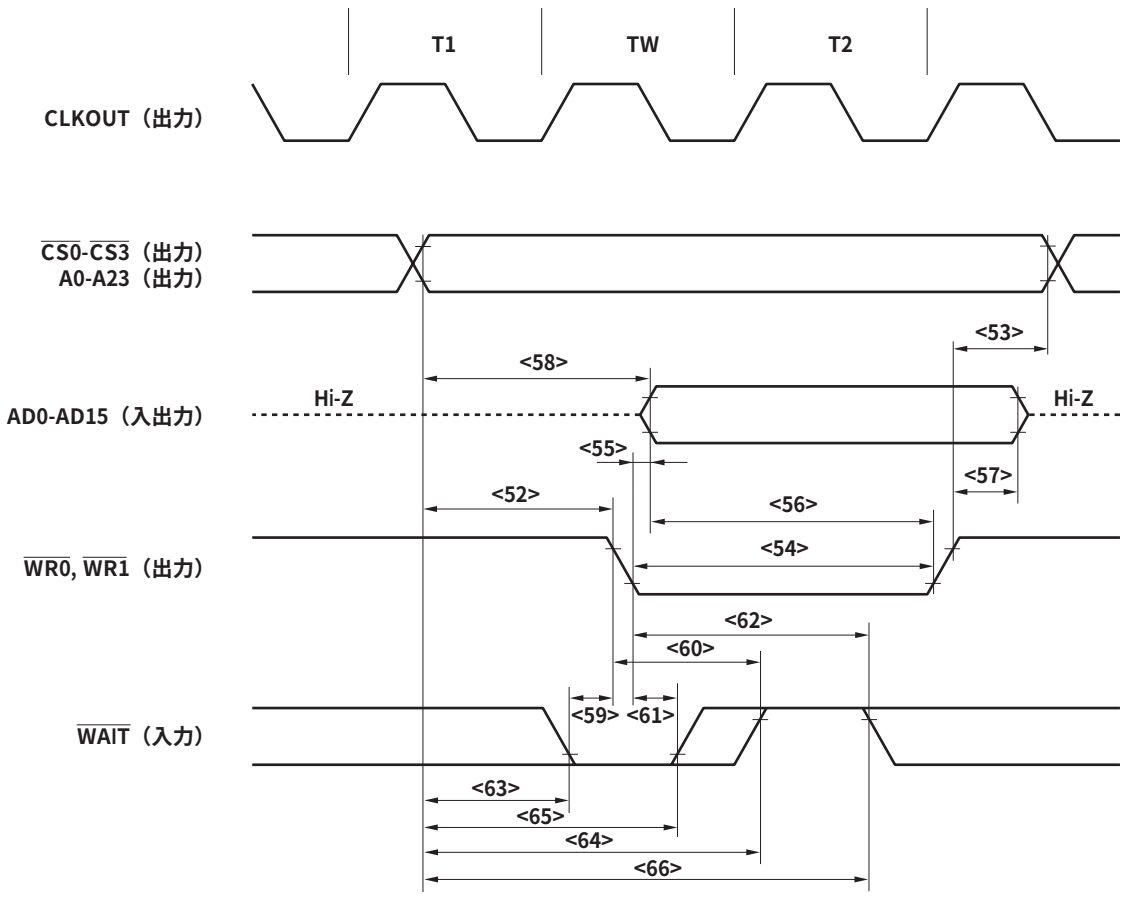
2. t_{ASW}：アドレス・セットアップ・ウエイト・クロック数
   t_{AHW}：アドレス・ホールド・ウエイト・クロック数

3. T = 1/f_{CPU}（f_{CPU}：CPU動作クロック周波数）

4. n：バス・サイクルに挿入されるウエイト・クロック数
   プログラマブル・ウエイト挿入時は，サンプリング・タイミングが変わります。

5. 上記のスペックは，X1からデューティ比1：1のクロックを入力した場合の値です。

ライト・サイクル（CLKOUT非同期）：セパレート・バス・モード時



備考 $\overline{\text{RD}}$はハイ・レベル

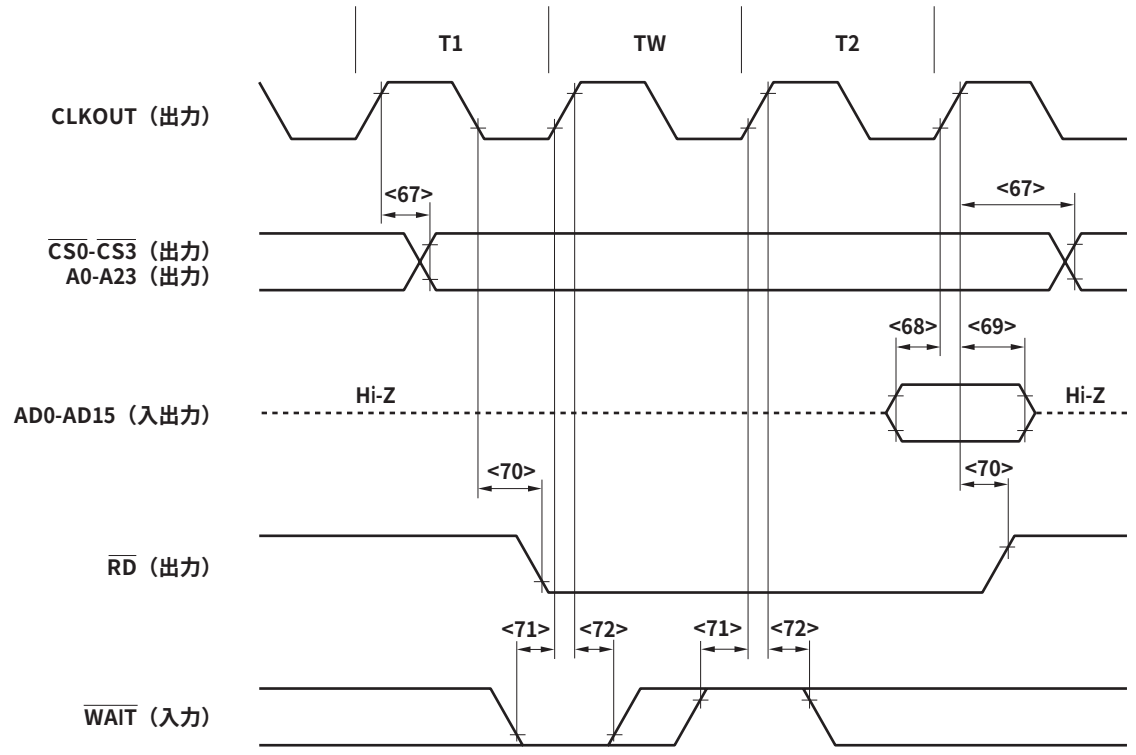
(c) リード・サイクル（CLKOUT同期）：セパレート・バス・モード時

(T_A = **－40～＋85 ℃，**V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF**)**

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
CLKOUT↑→アドレス，CS遅延時間	t_{DKSA}	<67>		0	27	ns
データ入力設定時間（対CLKOUT↑）	t_{SISDK}	<68>		20		ns
データ入力保持時間（対CLKOUT↑）	t_{HKISD}	<69>		0		ns
CLKOUT↓↑→$\overline{RD}$遅延時間	t_{DKSR}	<70>		－2	12	ns
$\overline{WAIT}$設定時間（対CLKOUT↑）	t_{SWTK}	<71>		20		ns
$\overline{WAIT}$保持時間（対CLKOUT↑）	t_{HKWT}	<72>		0		ns

備考　上記のスペックは，X1からデューティ比1：1のクロックを入力した場合の値です。

リード・サイクル（CLKOUT同期，1ウエイト）：セパレート・バス・モード時



備考　$\overline{WR0}$, $\overline{WR1}$はハイ・レベル

(d) ライト・サイクル（CLKOUT同期）：セパレート・バス・モード時

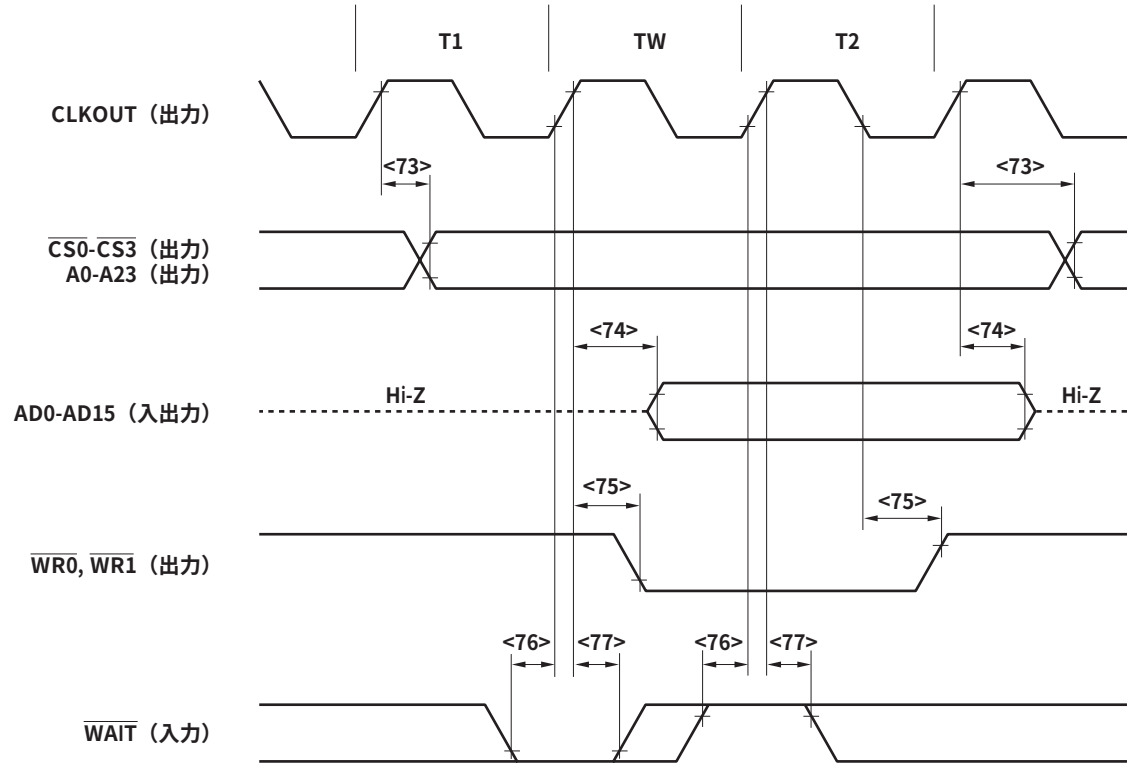
(T_A = **－40～＋85 ℃，**V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF**)**

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
CLKOUT↑→アドレス，CS遅延時間	t_{DKSA}	<73>		0	27	ns
CLKOUT↑→データ出力遅延時間	t_{DKSD}	<74>		0	18	ns
CLKOUT↑↓→$\overline{WRm}$遅延時間	t_{DKSW}	<75>		－2	12	ns
$\overline{WAIT}$設定時間（対CLKOUT↑）	t_{SWTK}	<76>		20		ns
$\overline{WAIT}$保持時間（対CLKOUT↑）	t_{HKWT}	<77>		0		ns

備考1. m = 0, 1

2. **上記のスペックは，**X1**からデューティ比**1**：**1**のクロックを入力した場合の値です。**

ライト・サイクル（CLKOUT**同期）：セパレート・バス・モード時**



備考　$\overline{RD}$**はハイ・レベル**

(3) バス・ホールド時

(a) CLKOUT非同期

(TA = －40～＋85 ℃，VDD = EVDD = AVREF0 = AVREF1, VSS = EVSS = AVSS = 0 V, CL = 50 pF)

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
$\overline{\text{HLDRQ}}$ハイ・レベル幅	t_{WHQH}	<78>		T＋10		ns
$\overline{\text{HLDAK}}$ロウ・レベル幅	t_{WHAL}	<79>		T－15		ns
$\overline{\text{HLDAK}}$↑→バス出力遅延時間	t_{DHAC}	<80>		－3		ns
$\overline{\text{HLDRQ}}$↓→$\overline{\text{HLDAK}}$↓遅延時間	t_{DHQHA1}	<81>			(2n＋7.5) T＋26	ns
$\overline{\text{HLDRQ}}$↑→$\overline{\text{HLDAK}}$↑遅延時間	t_{DHQHA2}	<82>		0.5T	1.5T＋26	ns

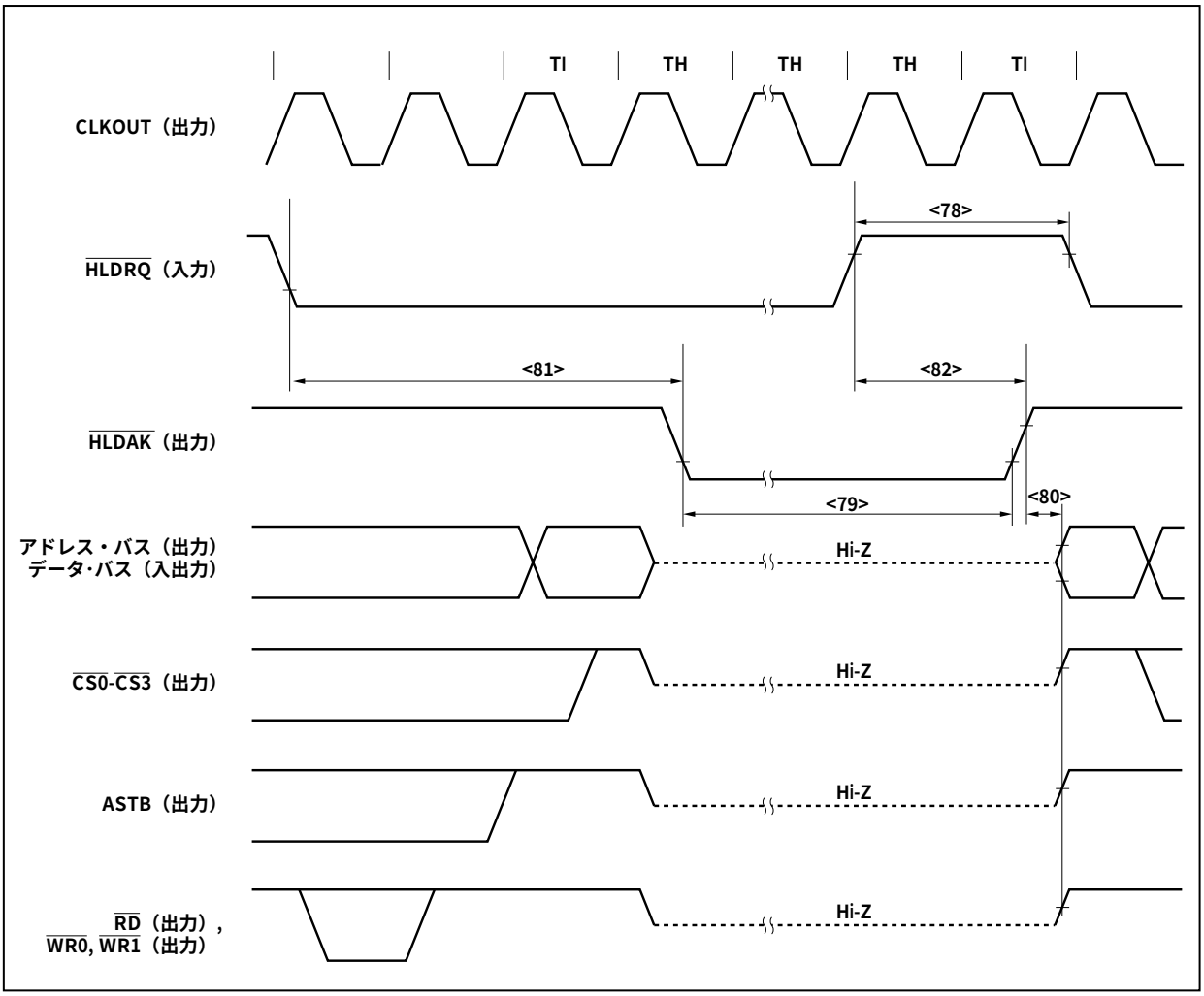
備考1.　T = 1/fCPU（fCPU：CPU動作クロック周波数）

2.　n：バス・サイクルに挿入されるウエイト・クロック数

プログラマブル・ウエイト挿入時は，サンプル・タイミングが変わります。

3.　**上記のスペックは，**X1**からデューティ比**1：1**のクロックを入力した場合の値です。**

バス・ホールド（CLKOUT**非同期）**



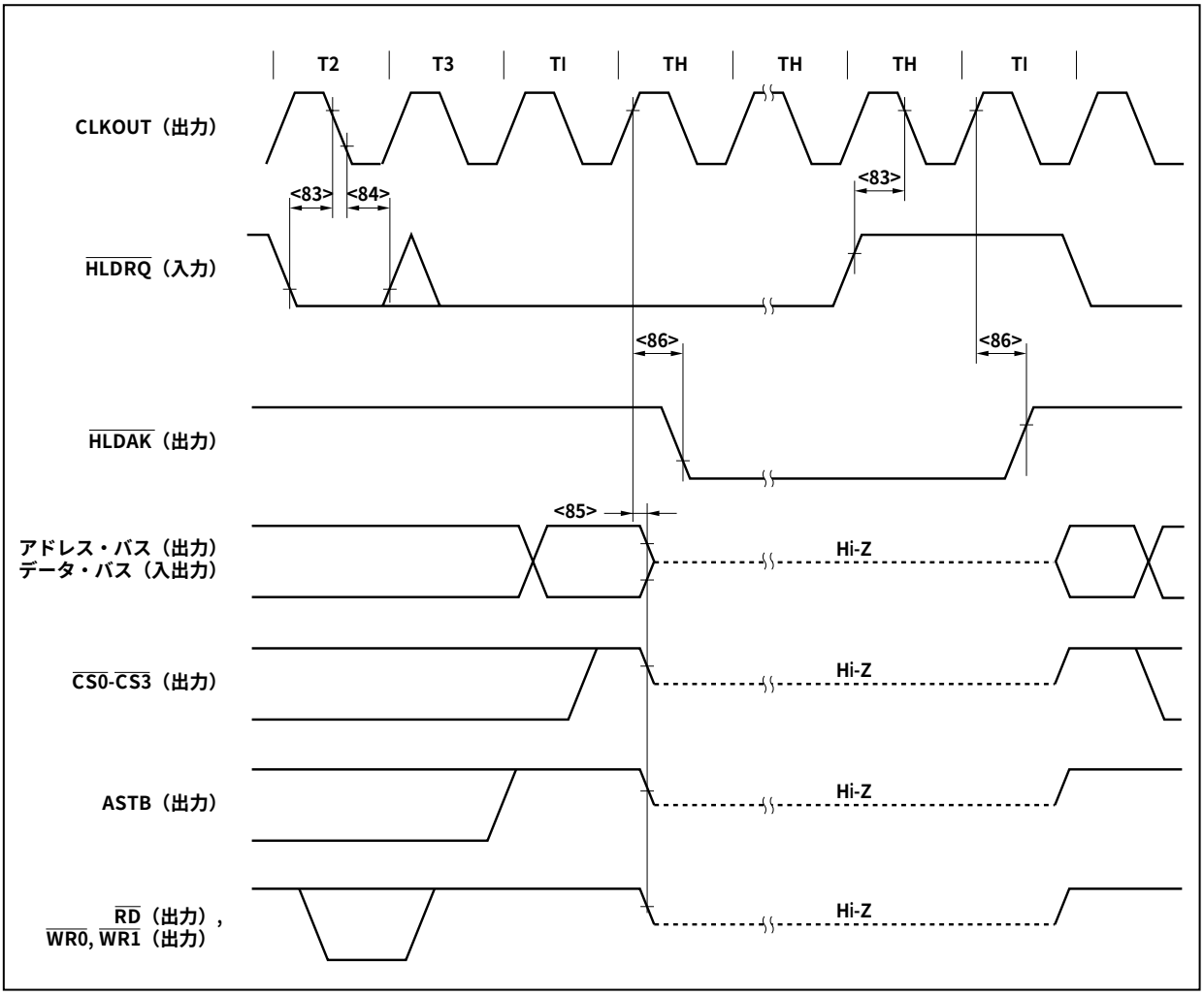
(b) CLKOUT同期

(T_A = **－**40**～＋**85 **℃,** V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF**)**

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
$\overline{\text{HLDRQ}}$設定時間（対CLKOUT↓）	t_{SHQK}	<83>		20		ns
$\overline{\text{HLDRQ}}$保持時間（対CLKOUT↓）	t_{HKHQ}	<84>		5		ns
CLKOUT↑→バス・フロート遅延時間	t_{DKF}	<85>			19	ns
CLKOUT↑→$\overline{\text{HLDAK}}$遅延時間	t_{DKHA}	<86>			19	ns

備考　上記のスペックは，X1**からデューティ比**1**：**1**のクロックを入力した場合の値です。**

バス・ホールド（CLKOUT**同期）**

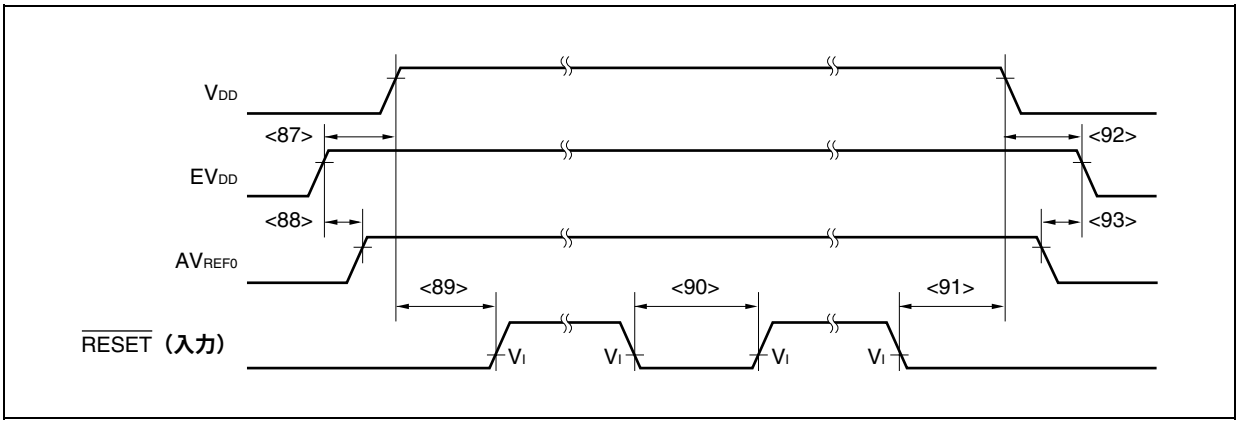


パワー・オン／パワー・オフ／リセット・タイミング

（T_A = －40～＋85 °C，V_{SS} = AV_{SS} = EV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
EV_{DD}↑→V_{DD}↑	t_{REL}	<87>		0		ns
EV_{DD}↑→AV_{REF0}, AV_{REF1}↑	t_{REA}	<88>		0	t_{REL}	ns
V_{DD}↑→$\overline{RESET}$↑	t_{RER}	<89>		500＋t_{REG} 注		ns
$\overline{RESET}$ロウ・レベル幅	t_{WRSL}	<90>	アナログ・ノイズ除去（フラッシュ消去／書き込み間）	500		ns
			アナログ・ノイズ除去	500		ns
$\overline{RESET}$↓→V_{DD}↓	t_{FRE}	<91>		500		ns
V_{DD}↓→EV_{DD}↓	t_{FEL}	<92>		0		ns
AV_{REF0}↓→EV_{DD}↓	t_{FEA}	<93>		0	t_{FEL}	ns

注　内蔵レギュレータの特性に依存します。



割り込みタイミング

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目	略　号	条　件	MIN.	MAX.	単　位
NMIハイ・レベル幅	t_{WNIH}	アナログ・ノイズ除去	500		ns
NMIロウ・レベル幅	t_{WNIL}	アナログ・ノイズ除去	500		ns
INTPnハイ・レベル幅	t_{WITH}	n = 0-8（アナログ・ノイズ除去）	500		ns
		n = 3（ディジタル・ノイズ除去）	3T_{SMP}＋20		ns
INTPnロウ・レベル幅	t_{WITL}	n = 0-8（アナログ・ノイズ除去）	500		ns
		n = 3（ディジタル・ノイズ除去）	3T_{SMP}＋20		ns

備考　T_{SMP}：ノイズ除去サンプリング・クロック周期

キー・リターン・タイミング

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目	略　号	条　件	MIN.	MAX.	単　位
KRnハイ・レベル幅	t_{WKRH}	アナログ・ノイズ除去	500		ns
KRnロウ・レベル幅	t_{WKRL}	アナログ・ノイズ除去	500		ns

備考　n = 0-7

タイマ・タイミング

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目	略　号	条　件	MIN.	MAX.	単　位
TIハイ・レベル幅	t_{TIH}	TIP00, TIP01, TIP10, TIP11, TIP20, TIP21, TIP30, TIP31, TIP40, TIP41, TIP50, TIP51, TIP60, TIP61, TIP70, TIP71, TIP80, TIP81, TIQ00-TIQ03	2T＋20		ns
TIロウ・レベル幅	t_{TIL}		2T＋20		ns

備考　T = 1/f_{XX}

UARTタイミング

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目	略　号	条　件	MIN.	MAX.	単　位
送信レート				625	kbps
ASCK0サイクル・タイム				10	MHz

CSIBタイミング

(1) マスタ・モード

(T_A = −40〜+85 °C, V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF)

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
$\overline{\text{SCKBn}}$サイクル・タイム	t_{KCY1}	<94>		125		ns
$\overline{\text{SCKBn}}$ハイ／ロウ・レベル幅	t_{KH1}, t_{KL1}	<95>		t_{KCY1}/2−8		ns
SIBnセットアップ時間（対$\overline{\text{SCKBn}}$↑）	t_{SIK1}	<96>		27		ns
SIBnホールド時間（対$\overline{\text{SCKBn}}$↑）	t_{KSI1}	<97>		27		ns
$\overline{\text{SCKBn}}$↓→ SOBn出力遅延時間	t_{KSO1}	<98>			27	ns

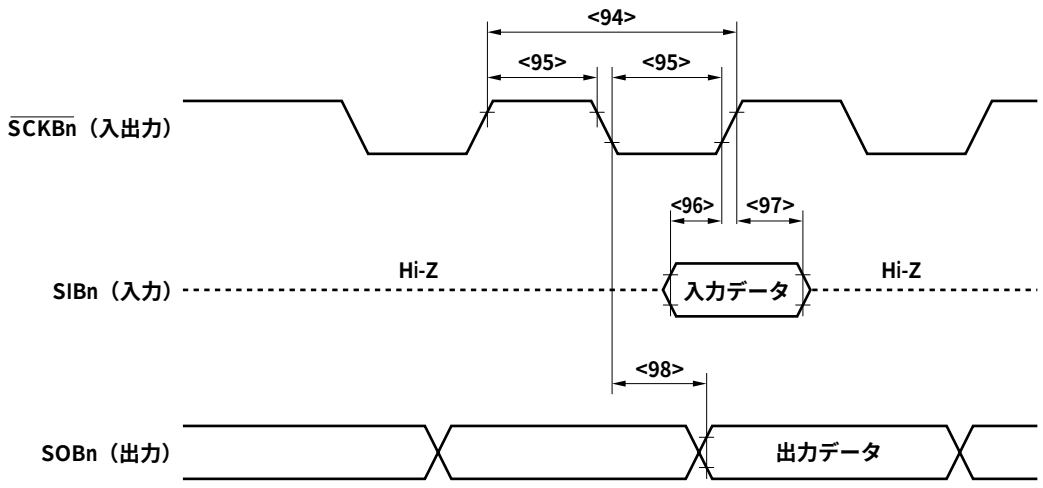
備考　n = 0-5

(2) スレーブ・モード

(T_A = −40〜+85 °C, V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF)

項　目	略　号		条　件	MIN.	MAX.	単　位
$\overline{\text{SCKBn}}$サイクル・タイム	t_{KCY2}	<94>		125		ns
$\overline{\text{SCKBn}}$ハイ／ロウ・レベル幅	t_{KH2}, t_{KL2}	<95>		54.5		ns
SIBnセットアップ時間（対$\overline{\text{SCKBn}}$↑）	t_{SIK2}	<96>		27		ns
SIBnホールド時間（対$\overline{\text{SCKBn}}$↑）	t_{KSI2}	<97>		27		ns
$\overline{\text{SCKBn}}$↓→ SOBn出力遅延時間	t_{KSO2}	<98>			27	ns

備考　n = 0-5



備考　n = 0-5

I²Cバス・モード

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目		略　号		標準モード		高速モード		単　位
				MIN.	MAX.	MIN.	MAX.	
SCL0nクロック周波数		f_{CLK}		0	100	0	400	kHz
バス・フリー・タイム（ストップ-スタート・コンディション間）		t_{BUF}	<99>	4.7	－	1.3	－	μs
ホールド時間[注1]		$t_{HD:STA}$	<100>	4.0	－	0.6	－	μs
SCL0nクロックのロウ・レベル幅		t_{LOW}	<101>	4.7	－	1.3	－	μs
SCL0nクロックのハイ・レベル幅		t_{HIGH}	<102>	4.0	－	0.6	－	μs
スタート／リスタート・コンディションのセットアップ時間		$t_{SU:STA}$	<103>	4.7	－	0.6	－	μs
データ・ホールド時間	CBUS互換マスタの場合	$t_{HD:DAT}$	<104>	5.0	－	－	－	μs
	I²Cモードの場合			0[注2]	－	0[注2]	0.9[注3]	μs
データ・セットアップ時間		$t_{SU:DAT}$	<105>	250	－	100[注4]	－	ns
SDA0nおよびSCL0n信号の立ち上がり時間		t_R	<106>	－	1000	20＋0.1Cb[注5]	300	ns
SDA0nおよびSCL0n信号の立ち下がり時間		t_F	<107>	－	300	20＋0.1Cb[注5]	300	ns
ストップ・コンディションのセットアップ時間		$t_{SU:STO}$	<108>	4.0	－	0.6	－	μs
入力フィルタによって抑制されるスパイクのパルス幅		t_{SP}	<109>	－	－	0	50	ns
各バス・ラインの容量性負荷		Cb		－	400	－	400	pF

注1. スタート・コンディション時に，最初のクロック・パルスは，ホールド時間のあとに生成されます。

2. 装置は，SCL0nの立ち下がり端の未定義領域を埋めるために（SCL0n信号の$V_{IHmin.}$での）SDA0n信号用に最低300 nsのホールド時間を内部的に提供する必要があります。

3. 装置がSCL0n信号のロウ・ホールド時間（t_{LOW}）を延長しない場合は，最大データ・ホールド時間（$t_{HD:DAT}$）のみ満たすことが必要です。

4. 高速モードI²Cバスは，標準モードI²Cバス・システム内で利用できます。この場合，次の条件を満たすようにしてください。

   - 装置がSCL0n信号のロウ状態ホールド時間を延長しない場合

     $t_{SU:DAT}$≧250 ns

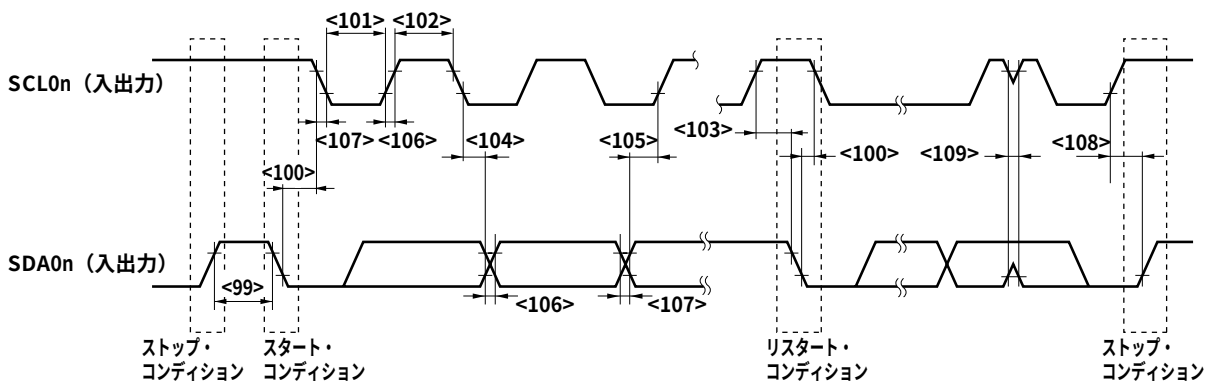
   - 装置がSCL0n信号のロウ状態ホールド時間を延長する場合

     SCL0nラインが解放される（$t_{Rmax.}$＋$t_{SU:DAT}$ = 1000＋250 = 1250 ns：標準モードI²Cバス仕様）前に，次のデータ・ビットをSDA0nラインに送出してください。

5. Cb：1つのバス・ラインの合計キャパシタンス（単位：pF）

備考 n = 0-2

I²C**バス・モード**



備考　n = 0-2

A/D**コンバータ**

（T_A = **－**40**～＋**85 °C**，**V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, 3.0 V≦AV_{REF0}≦3.6 V, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF**）**

項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
分解能					10	bit
総合誤差[注]		3.0≦AV_{REF0}≦3.6 V			±0.6	%FSR
変換時間	t_{CONV}		2.6		24	μs
ゼロスケール誤差					±0.5	%FSR
フルスケール誤差					±0.5	%FSR
非直線性誤差					±4.0	LSB
微分直線性誤差					±4.0	LSB
アナログ入力電圧	V_{IAN}		AV_{SS}		AV_{REF0}	V
基準電圧	AV_{REF0}		3.0		3.6	V
AV_{REF0}**電流**	AI_{REF0}	**通常変換モード**		3	6.5	mA
		高速変換モード		4	10	mA
		A/D**コンバータ未使用時**			5	μA

注　量子化誤差（±0.05 %FSR**）は含みません。**

注意　A/D**変換中に兼用ポートの設定（リード／ライト）を行わないでください。変換分解能が低下することがあります。**

備考　LSB：Least Significant Bit

FSR：Full Scale Range

D/Aコンバータ

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, 3.0 V≦AV_{REF1}≦3.6 V, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
分解能					8	bit
総合誤差[注1]		R = 2 MΩ			±1.2	%FSR
セトリング・タイム		C = 20 pF			3	μs
出力抵抗	R_O	出力データ55H		6.42		kΩ
基準電圧	AV_{REF1}		3.0		3.6	V
AV_{REF1}電流[注2]	AI_{REF1}	D/A変換動作時		1	2.5	mA
		D/A変換停止時			5	μA

注1. 量子化誤差（±0.5 LSB）は含みません。

2. D/Aコンバータ1チャネル分の値

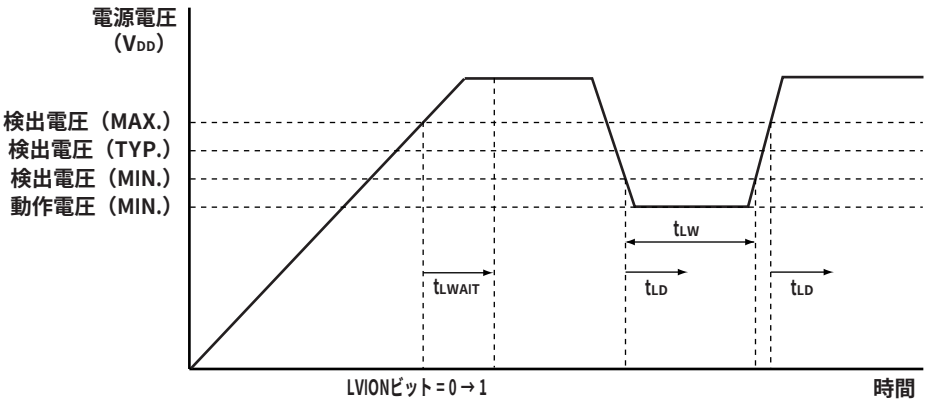
備考 Rは出力端子の負荷抵抗，Cは出力端子の負荷容量です。

LVI回路特性

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
検出電圧	V_{LVI0}		2.85	2.95	3.05	V
応答時間[注]	t_{LD}	V_{DD}がV_{LVI0}（MAX.）に達したあと，またはV_{DD}がV_{LVI0}（MAX.）まで下がったあと。		0.2	2.0	ms
最小パルス幅	t_{LW}		0.2			ms
基準電圧安定待ち時間	t_{LWAIT}	V_{DD}が2.85 V（MIN.）に達したあと。		0.1	0.2	ms

注 検出電圧を検出して割り込みまたはリセット信号を出力するまでの時間です。

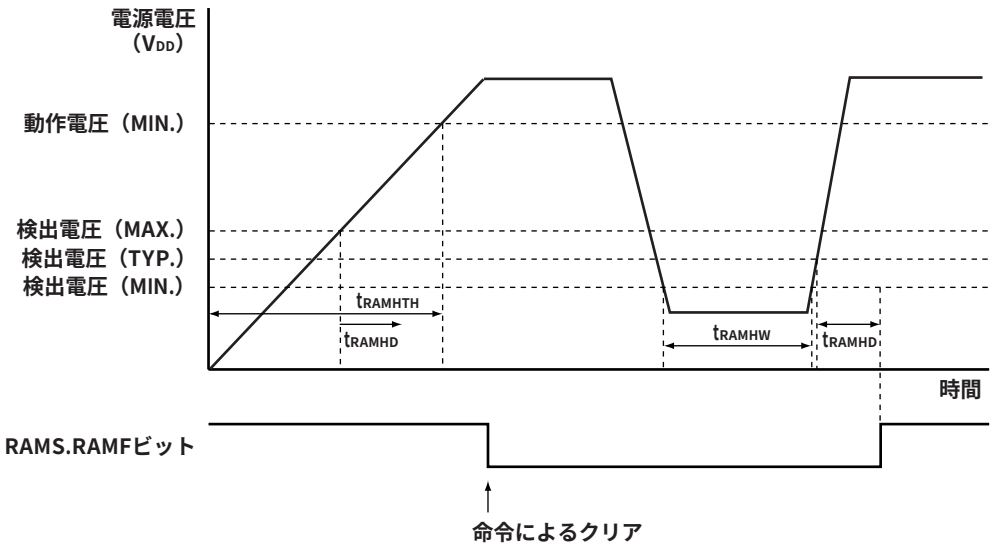


RAM**保持検出**

（T_A = **－**40**～＋**85 °C**，**V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF**）**

項　　目	略　号	条　　件	MIN.	TYP.	MAX.	単位
検出電圧	V_{RAMH}		1.9	2.0	2.1	V
電源電圧立ち上がり時間	t_{RAMHTH}	V_{DD} = 0～2.85 V	0.002			ms
応答時間注	t_{RAMHD}	V_{DD}が2.1 Vに達したあと		0.2	3.0	ms
最小パルス幅	t_{RAMHW}		0.2			ms

注　検出電圧を検出してRAMS.RAMF**ビットを設定するまでの時間です。**



フラッシュ・メモリ・プログラミング特性

（T_A = －40～＋85 °C，V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}, V_{SS} = EV_{SS} = AV_{SS} = 0 V, C_L = 50 pF）

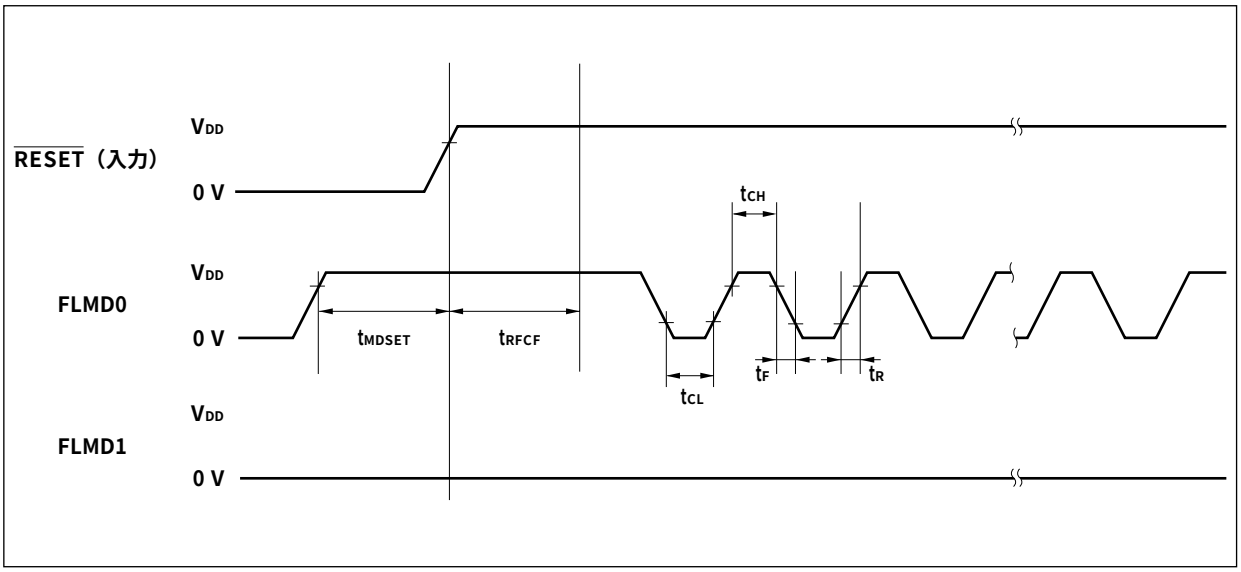
(1) 基本特性

項　目	略　号	条　件		MIN.	TYP.	MAX.	単　位
動作周波数	f_{CPU}			2.5		32	MHz
電源電圧	V_{DD}			2.85		3.6	V
★ 書き換え回数	C_{WRT}	プログラム更新用途 フラッシュ・メモリ・プログラマ使用時および当社提供のセルフ・プログラミング・ライブラリ使用時	保持15年	1,000			回
★		データ更新用途 当社提供のEEPROMエミュレーション・ライブラリ使用時 使用可能ROMサイズ：連続した3ブロックの12Kバイト	保持5年	10,000			回
プログラミング温度	t_{PRG}			－40		＋85	℃

(2) シリアル書き込みオペレーション特性

項　目	略　号	条　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
FLMD0, FLMD1設定時間	t_{MDSET}		2		3000	ms
$\overline{\text{RESET}}$↑→FLMD0カウント開始時間	t_{RFCF}	f_X = 2.5～10 MHz	800			μs
FLMD0カウンタ・ハイ・レベル幅／ロウ・レベル幅	t_{CH}/t_{CL}		10		100	μs
FLMD0カウンタ立ち上がり時間／立ち下がり時間	t_R/t_F				1	μs

フラッシュ書き込みモード設定タイミング



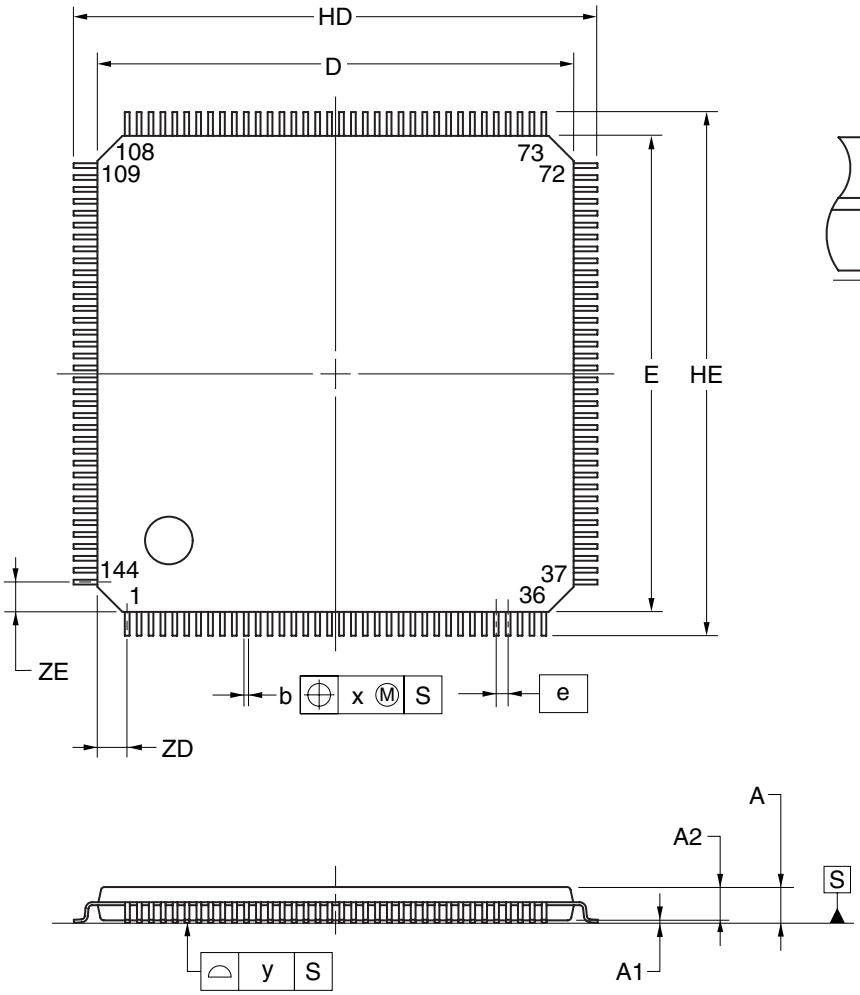
(3) プログラミング特性

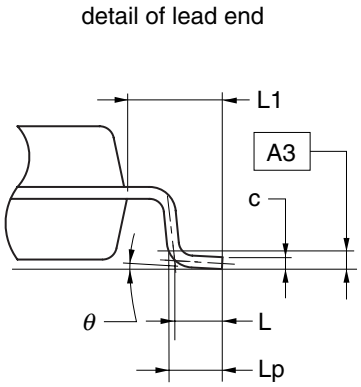
項　　目	略　号	条　　件	MIN.	TYP.	MAX.	単　位
チップ消去時間		f_{XX} = 32 MHz，一括消去		105		ms
256バイトあたりの書き込み時間		f_{XX} = 32 MHz		2.0		ms
ブロック内部ベリファイ時間		f_{XX} = 32 MHz		10		ms
ブロック・ブランク・チェック時間		f_{XX} = 32 MHz		0.5		ms
フラッシュ情報設定時間		f_{XX} = 32 MHz		30		ms

★ **備考**　ブロック・サイズ = 4 Kバイト

第30章 外 形 図

144-PIN PLASTIC LQFP (FINE PITCH) (20x20)





(UNIT:mm)

ITEM	DIMENSIONS
D	20.00±0.20
E	20.00±0.20
HD	22.00±0.20
HE	22.00±0.20
A	1.60 MAX.
A1	0.10±0.05
A2	1.40±0.05
A3	0.25
b	$0.20^{+0.07}_{-0.03}$
c	$0.125^{+0.075}_{-0.025}$
L	0.50
Lp	0.60±0.15
L1	1.00±0.20
θ	$3^{\circ}{}^{+5^{\circ}}_{-3^{\circ}}$
e	0.50
x	0.08
y	0.08
ZD	1.25
ZE	1.25

P144GJ-50-GAE-1

第31章　半田付け推奨条件

この製品の半田付け実装は，次の推奨条件で実施してください。
半田付け推奨条件の技術的内容については下記を参照してください。

「半導体デバイス実装マニュアル」（http://www2.renesas.com/pkg/ja/jissou/index.html）

表31－1　表面実装タイプの半田付け条件

μPD70F3743GJ-GAE-AX　：144ピン・プラスチックLQFP（ファインピッチ）（20×20）
μPD70F3744GJ-GAE-AX　：　〃
μPD70F3745GJ-GAE-AX　：　〃
μPD70F3746GJ-GAE-AX　：　〃

半田付け方式	半田付け条件	推奨条件記号
赤外線リフロ	パッケージ・ピーク温度：260 ℃，時間：60秒以内（220 ℃以上），回数：3回以内 制限日数：7日間[注]（以降は125 ℃プリベーク20～72時間必要） ＜留意事項＞ 耐熱トレイ以外（マガジン，テーピング，非耐熱トレイ）は，包装状態でのベーキングができません。	IR60-207-3
端子部分加熱	端子温度：350 ℃以下，時間：3秒以内（デバイスの一辺当たり）	－

注　ドライパック開封後の保管日数で，保管条件は25 ℃，65 %RH以下。

注意　半田付け方式の併用はお避けください（ただし，端子部分加熱は除く）。

備考1.　オーダ名称末尾「-AX」の製品は，鉛フリー製品です。
2.　推奨条件以外の半田付け方式および半田付け条件については，当社販売員にお問い合わせください。

付録A　開発ツール

V850ES/JJ3を使用するシステム開発のために，次のような開発ツールを用意しています。

図A－1に開発ツール構成を示します。

●PC98-NXシリーズへの対応について

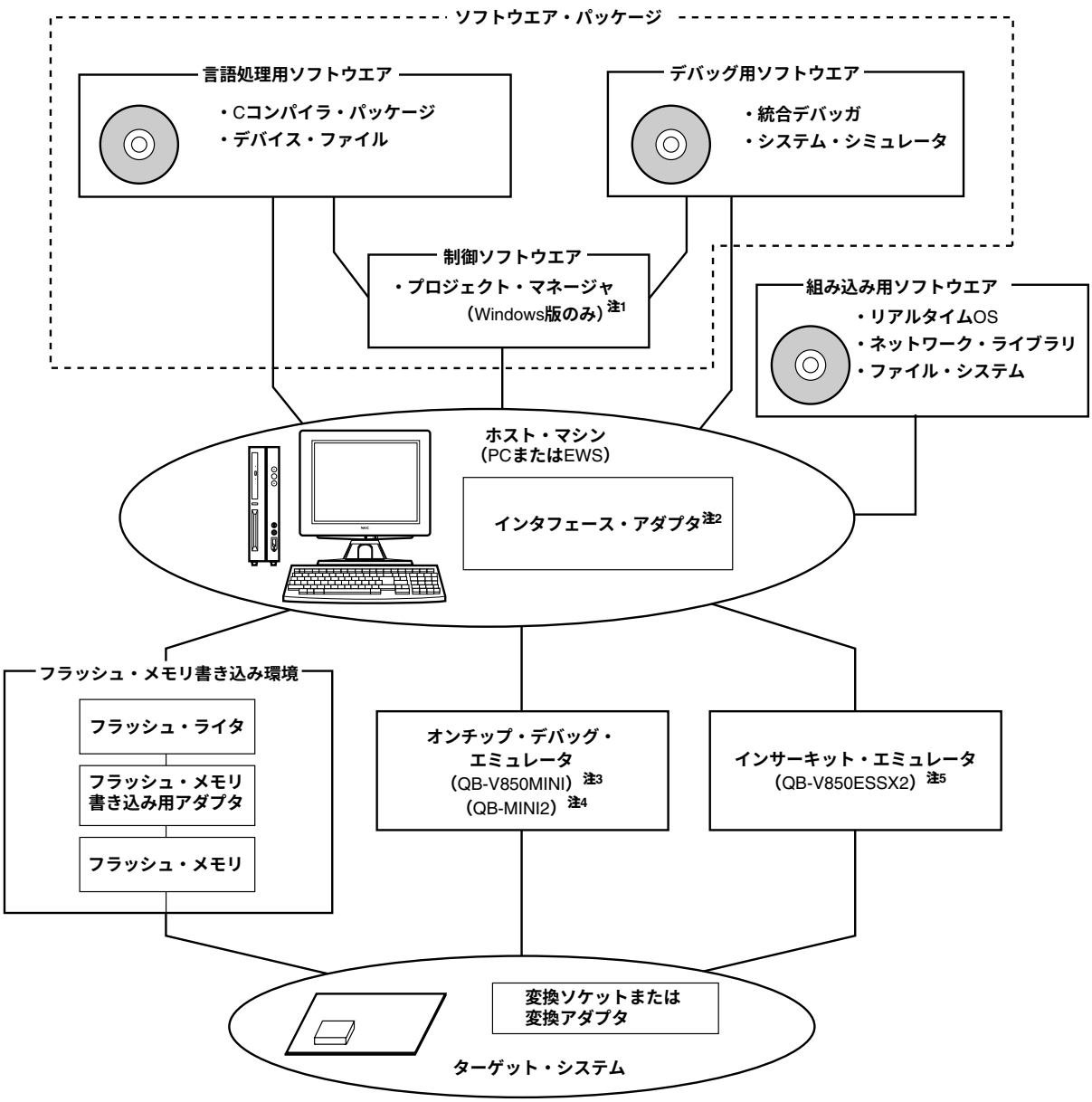
特に断りのないかぎり，IBM PC/AT™互換機でサポートされている製品については，PC98-NXシリーズでも使用できます。PC98-NXシリーズを使用する場合は，IBM PC/AT互換機の説明を参照してください。

●Windows®について

特に断りのないかぎり，「Windows」は次のOSを示しています。

- Windows 98, 2000
- Windows Me
- Windows XP®
- Windows NT® Ver. 4.0

図A－1　開発ツール構成



注1．プロジェクト・マネージャ PM+は，Cコンパイラ・パッケージに入っています。
また，Windows以外ではPM+は使用できません。

2．QB-V850MINI, QB-MINI2, QB-V850ESSX2はUSBのみ対応です。

3．QB-V850MINIは，ID850QB, USBインタフェース・ケーブル，OCDケーブル，セルフチェック・ボード，KELアダプタ，KELコネクタを添付しています。それ以外の製品は，すべてオプションです。

4．QB-MINI2は，USBインタフェース・ケーブル，16pinターゲット・ケーブル，10pinターゲット・ケーブル，78K0-OCDボードを添付しています（統合デバッガは添付されていません）。それ以外の製品は，すべてオプションです。

5．QB-V850ESSX2は，ID850QB，簡易フラッシュ・メモリ・プログラマ，電源ユニットとUSBインタフェース・アダプタを添付しています。それ以外の製品は，すべてオプションです。

A. 1　ソフトウエア・パッケージ

SP850 V850シリーズ・ソフトウエア・パッケージ	V850シリーズ共通の開発ツール（ソフトウエア）を1つのパッケージにした製品です。
	オーダ名称：μS××××SP850

備考　オーダ名称の××××は，使用するホスト・マシン，OSにより異なります。

μS××××SP850

××××	ホスト・マシン	OS	供給媒体
AB17	PC-9800シリーズ，IBM PC/AT互換機	日本語Windows	CD-ROM
BB17		英語Windows	

A. 2　言語処理用ソフトウエア

CA850 Cコンパイラ・パッケージ	C言語で書かれたプログラムを，マイコンの実行可能なオブジェクト・コードに変換するプログラムです。プロジェクト・マネージャ PM+から起動されます。
	オーダ名称：μS××××CA703000
DF703746 デバイス・ファイル	デバイス固有の情報が入ったファイルです。 各ツール（CA850, SM850, ID850QB）と組み合わせて使用します。 対応OS，ホスト・マシンは組み合わされる各ツールに依存します。

備考　オーダ名称の××××は，使用するホスト・マシン，OSにより異なります。

μS××××CA703000

××××	ホスト・マシン	OS	供給媒体
AB17	PC-9800シリーズ，IBM PC/AT互換機	日本語Windows	CD-ROM
BB17		英語Windows	
3K17	SPARCstation™	SunOS™（Rel. 4.1.4），Solaris™（Rel. 2.5.1）	

A. 3　制御ソフトウエア

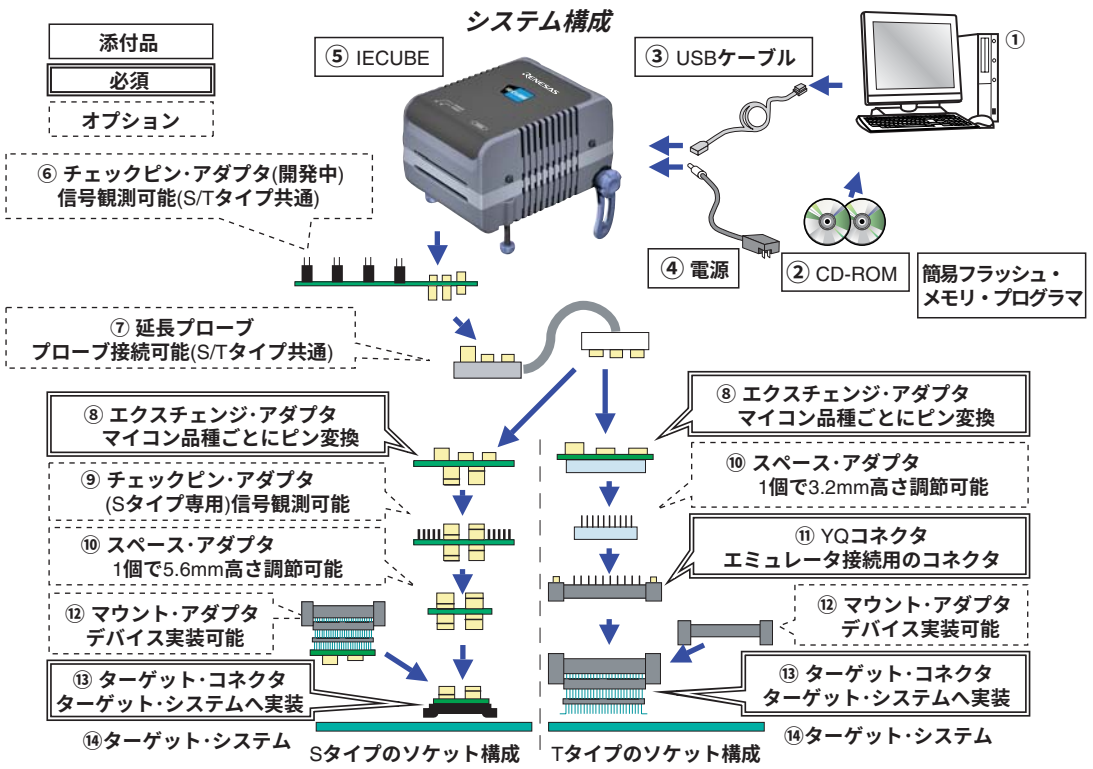
PM+ プロジェクト・マネージャ	Windows環境で効率よくユーザ・プログラム開発できるように作られた制御ソフトウエアです。PM+上から，エディタの起動，ビルド，デバッガの起動など，ユーザ・プログラム開発の一連の作業を行うことができます。 ＜注意＞ PM+は，Cコンパイラ・パッケージ CA850の中に入っています。 Windows以外の環境では使用できません。

A. 4　デバッグ用ツール（ハードウエア）

A. 4. 1　IECUBE　QB-V850ESSX2を使用する場合

QB-V850ESSX2とホスト・マシン（PC-9821シリーズ，PC/AT互換機）を接続して使用する場合のシステム構成を次に示します。オプション製品がない場合でも接続は可能です。

図A－2　システム構成（QB-V850ESSX2を使用する場合）（1/2）



① ホスト・マシン（PC-9821シリーズ，IBM-PC/AT互換機）

② デバッガ，USBドライバ，マニュアルなど（ID850QB Disk, Accessory Disk[注1]）

③ USBインタフェース・ケーブル

④ ACアダプタ

⑤ インサーキット・エミュレータ（QB-V850ESSX2）

⑥ チェックピン・アダプタ（S/Tタイプ共通）（QB-144-CA-01[注2]）（オプション）

⑦ 延長プローブ（S/Tタイプ共通）（QB-144-EP-01S）（オプション）

⑧ エクスチェンジ・アダプタ[注3]（Sタイプ：QB-144GJ-EA-01S, Tタイプ：QB-144GJ-EA-01T）

⑨ チェックピン・アダプタ[注4]（Sタイプのみ）（QB-144-CA-01S）（オプション）

⑩ スペース・アダプタ[注4]（Sタイプ：QB-144-SA-01S, Tタイプ：QB-144GJ-YS-01T）（オプション）

⑪ YQコネクタ[注3]（Tタイプのみ）（QB-144GJ-YQ-01T）

⑫ マウント・アダプタ（Sタイプ：QB-144GJ-MA-01S, Tタイプ：QB-144GJ-HQ-01T）（オプション）

⑬ ターゲット・コネクタ[注3]（Sタイプ：QB-144GJ-TC-01S, Tタイプ：QB-144GJ-NQ-01T）

⑭ ターゲット・システム

図A－2　**システム構成**（QB-V850ESSX2**を使用する場合**）（2/2）

注1. **デバイス・ファイルはルネサス エレクトロニクスのホームページから入手してください。**

http://www2.renesas.com/micro/ja/ods/index.html

2. **開発中**
3. **オーダ品名によっては，添付品となります。**
   - QB-V850ESSX2-ZZZ**でオーダした場合**
     エクスチェンジ・アダプタ，ターゲット・コネクタは添付されていません。
   - QB-V850ESSX2-S144GJ**でオーダした場合**
     QB-144GJ-EA-01S, QB-144GJ-TC-01S**が添付されています。**
   - QB-V850ESSX2-T144GJ**でオーダした場合**
     QB-144GJ-EA-01T, QB-144GJ-YQ-01T, QB-144GJ-NQ-01T**が添付されています。**
4. **⑨と⑩の両方を使用する場合，⑨と⑩の接続順序が逆でも接続できます。**

⑤	QB-V850ESSX2[注] **インサーキット・エミュレータ**	V850ES/JJ3**を使用する応用システムを開発する際に，ハードウエア，ソフトウエアをデバッグするためのインサーキット・エミュレータです。統合デバッガ** ID850QB**に対応しています。電源ユニット，エミュレーション・プローブと組み合わせて使用します。ホスト・マシンとの接続は，**USB**を使用します。**
③	USB**インタフェース・ケーブル**	**ホスト・マシンと**QB-V850ESSX2**を接続するケーブルです。**
④	AC**アダプタ**	AC**プラグ差し替えで**100～240 V**に対応可能です。**
⑧	QB-144GJ-EA-01S QB-144GJ-EA-01T **エクスチェンジ・アダプタ**	**ピン変換を行うアダプタです。**
⑨	QB-144-CA-01S **チェックピン・アダプタ**	**オシロスコープなどで波形観測を行うときに使用するアダプタです。**
⑩	QB-144-SA-01S QB-144GJ-YS-01T **スペース・アダプタ**	**高さ調節用アダプタです。**
⑪	QB-144GJ-YQ-01T YQ**コネクタ**	**ターゲット・コネクタとエクスチェンジ・アダプタを接続する変換アダプタです。**
⑫	QB-144GJ-MA-01S QB-144GJ-HQ-01T **マウント・アダプタ**	V850ES/JJ3**をソケット実装するためのアダプタです。**
⑬	QB-144GJ-TC-01S QB-144GJ-NQ-01T **ターゲット・コネクタ**	**ターゲット・システム上へ半田付けするコネクタです。**

注　QB-V850ESSX2**は，電源ユニット，**USB**インタフェース・ケーブルとフラッシュ・メモリ・プログラマを添付しています。また，コントロール・ソフトウエアとして，統合デバッガ** ID850QB**を添付しています。**

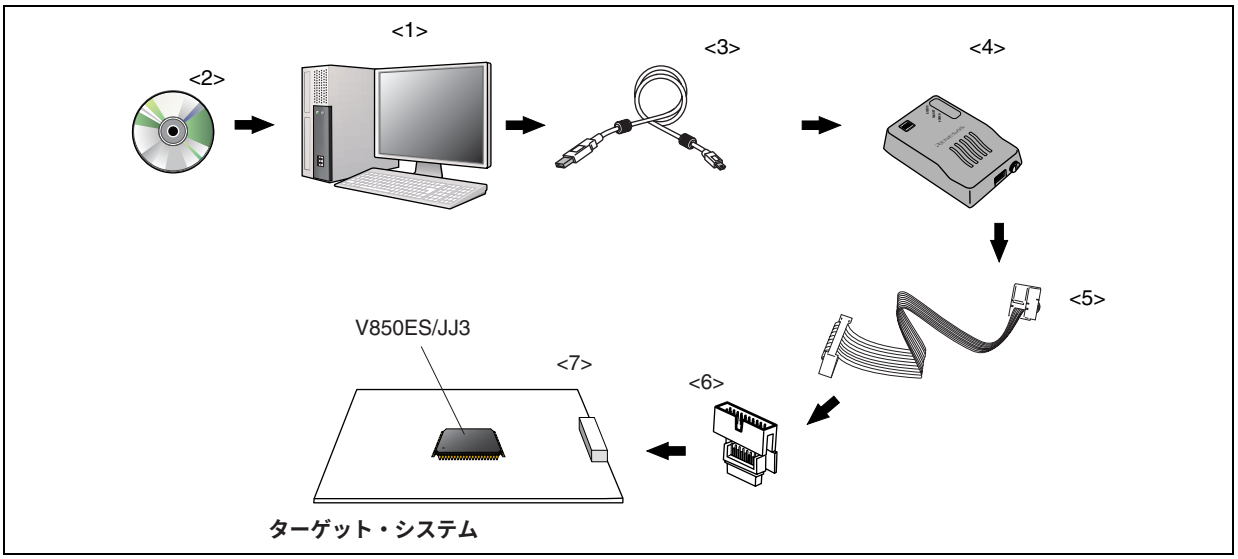
備考　**表内の番号は図**A－2**の番号に対応しています。**

A. 4. 2　MINICUBE　QB-V850MINIを使用する場合

（1）MINICUBEを使用してのオンチップ・エミュレーション

MINICUBEとホスト・マシン（PC-9821シリーズ，PC/AT互換機）を接続して使用する場合のシステム構成を次に示します。

図A－3　オンチップ・エミュレーション・システム構成例



<1> ホスト・マシン	USBポート搭載品。
<2> CD-ROM[注1]	CD-ROM形式で統合デバッガ ID850QB, N-Wire Checker，デバイス・ドライバ，ドキュメントなどが含まれています。MINICUBEに添付されています。
<3>USBインタフェース・ケーブル	ホスト・マシンとMINICUBEを接続するUSB対応のケーブルです。MINICUBEに添付しています。ケーブルの長さは約2 mです。
<4> MINICUBE オンチップ・デバッグ・エミュレータ	V850ES/JJ3を使用する応用システムを開発する際に，ハードウエア，ソフトウエアをデバッグするためのオンチップ・エミュレータです。統合デバッガ ID850QBに対応しています。
<5> OCDケーブル	MINICUBEとターゲット・システムを接続するケーブルです。 MINICUBEに添付されています。ケーブルの長さは約20 cmです。
<6>コネクタ変換ボード KEL Adaptor	MINICUBEに添付されています。
<7> MINICUBE接続コネクタ KELコネクタ[注2]	8830E-026-170S（MINICUBEに添付されています） 8830E-026-170L（別売品）

注1．デバイス・ファイルはルネサス エレクトロニクスのホームページから入手してください。

http://www2.renesas.com/micro/ja/ods/index.html

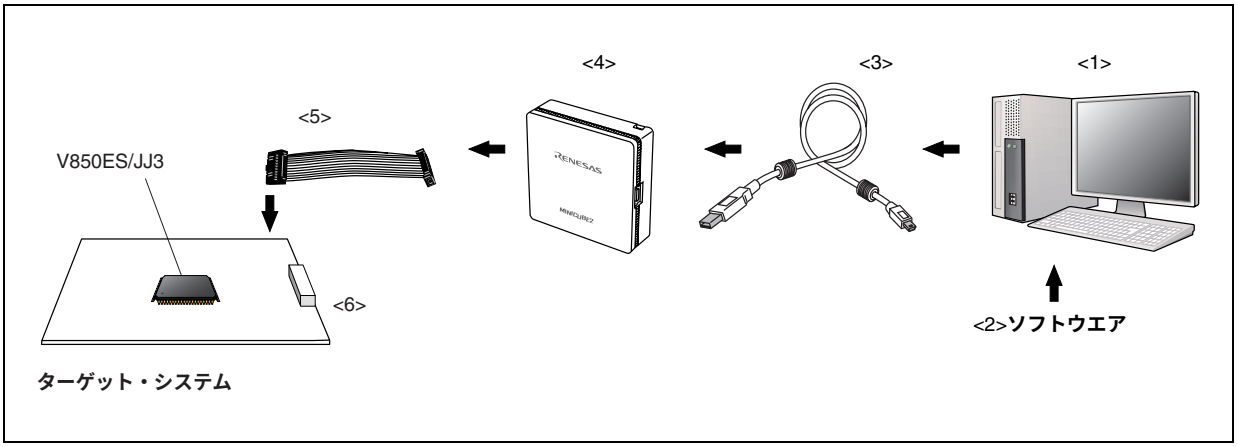
2．ケル株式会社の製品です。

備考　表内の番号は図A－3の番号に対応しています。

A. 4. 3　MINICUBE2　QB-MINI2を使用する場合

MINICUBE2とホスト・マシン（PC-9821シリーズ，PC/AT互換機）を接続して使用する場合のシステム構成を次に示します。

図A－4　オンチップ・エミュレーション・システム構成例



<1> ホスト・マシン	USBポート搭載品。
<2> ソフトウエア	統合デバッガ ID850QB，デバイス・ファイルなどです。 ルネサス エレクトロニクスのホームページから入手してください http://www2.renesas.com/micro/ja/ods/index.html
<3>USBインタフェース・ケーブル	ホスト・マシンとMINICUBEを接続するUSB対応のケーブルです。MINICUBEに添付しています。ケーブルの長さは約2 mです。
<4> MINICUBE2 オンチップ・デバッグ・エミュレータ	V850ES/JJ3を使用する応用システムを開発する際に，ハードウエア，ソフトウエアをデバッグするためのオンチップ・エミュレータです。統合デバッガ ID850QBに対応しています。
<5> 16pinターゲット・ケーブル	MINICUBE2とターゲット・システムを接続するケーブルです。 MINICUBEに添付されています。ケーブルの長さは約15 cmです。
<6>ターゲット・コネクタ（別売品）	2.54 mmピッチの16ピン汎用コネクタを使用してください。

備考　表内の番号は図A－4の番号に対応しています。

A. 5　デバッグ用ツール（ソフトウエア）

SM850（開発中） システム・シミュレータ	V850シリーズ用のシステム・シミュレータです。SM850は，Windowsベースのソフトウエアです。 ホスト・マシン上でターゲット・システムの動作をシミュレーションしながら，Cソース・レベルまたはアセンブラ・レベルでのデバッグが可能です。 SM850を使用することにより，アプリケーションの論理検証，性能検証をハードウエア開発から独立して行えます。したがって，開発効率やソフトウエア品質の向上が図れます。デバイス・ファイルと組み合わせて使用します。
	オーダ名称：μS××××SM703000
ID850QB 統合デバッガ	V850シリーズ用のインサーキット・エミュレータに対応したデバッガです。ID850QBは，Windowsベースのソフトウエアです。 C言語対応のデバッグ機能を強化しており，ソース・プログラムや逆アセンブル表示，メモリ表示をトレース結果に連動させるウインドウ統合機能を使用することにより，トレース結果をソース・プログラムと対応させて表示することもできます。 デバイス・ファイルと組み合わせて使用します。
	オーダ名称：μS××××ID703000-QB（ID850QB）

備考　オーダ名称の××××は，使用するホスト・マシン，OSにより異なります。

μS××××SM703000

μS××××ID703000-QB

××××	ホスト・マシン	OS	供給媒体
AB17	PC-9800シリーズ， IBM PC/AT互換機	日本語Windows	CD-ROM
BB17		英語Windows	

A. 6　組み込み用ソフトウエア

RX850, RX850 Pro リアルタイムOS	μITRON3.0仕様に準拠したリアルタイムOSです。 複数の情報テーブルを作成するためのツール（コンフィギュレータ）を添付しています。 RX850よりRX850 Proの方が多機能になっています。
	オーダ名称：μS××××RX703000-△△△△（RX850） μS××××RX703100-△△△△（RX850 Pro）
RX-FS850 （ファイル・システム）	FATファイル・システム機能です。 CD-ROMファイル・システム機能をサポートしたファイル・システムです。 リアルタイムOS RX850 Proと共に使用します。

注意　RX850, RX850 Proを購入する際，事前に購入申込書にご記入のうえ，使用許諾契約書を締結してください。

備考　オーダ名称の××××および△△△△は，使用するホスト・マシン，OSなどにより異なります。

μS×××× RX703000-△△△△

μS×××× RX703100-△△△△

△△△△	製品概要	量産時使用数量の上限
001	評価用オブジェクト	量産品には使用しないでください。
100K	量産用オブジェクト	10万個
001M		100万個
010M		1000万個
S01	ソース・プログラム	量産用オブジェクトのソース・プログラム

××××	ホスト・マシン	OS	供給媒体
AB17	PC-9800シリーズ， IBM PC/AT互換機	日本語Windows	CD-ROM
BB17		英語Windows	
3K17	SPARCstation	Solaris（Rel. 2.5.1）	

A. 7　フラッシュ・メモリ書き込み用ツール

Flashpro IV（型番　PG-FP4） フラッシュ・ライタ	フラッシュ・メモリ内蔵マイコン専用のフラッシュ・ライタです。
QB-MINI2（MINICUBE2）	プログラミング機能付きオンチップ・デバッグ・エミュレータです。
FA-144GJ-UEN-A フラッシュ・メモリ書き込み用アダプタ	フラッシュ・メモリ書き込み用アダプタです（未配線）。Flashpro IVなどに接続して使用します。
FA-70F3368GJ-UEN-RX フラッシュ・メモリ書き込み用アダプタ	フラッシュ・メモリ書き込み用アダプタです（配線済み）。Flashpro IVなどに接続して使用します。

備考　FA-144GJ-UEN-A, FA-70F3368GJ-UEN-RXは，株式会社内藤電誠町田製作所の製品です。

問い合わせ先：株式会社内藤電誠町田製作所（TEL（042）750-4172）

付録B　V850ES/JJ3とV850ES/JJ2との主な違い

ここでは，V850ES/JJ3とV850ES/JJ2との主な違いを示します。詳細は，各該当箇所を参照してください。

表B－1　V850ES/JJ3とV850ES/JJ2との主な違い（1/2）

主な差異点		V850ES/JJ3	V850ES/JJ2	このマニュアルの参照箇所
BV_{DD}, BV_{SS}端子		EV_{DD}, EV_{SS}端子に変更	あり	全般
イントロダクション：最小命令実行時間		31.25 ns	50 ns	1. 2
端子機能：P10/ANO0, P11/ANO1の端子状態（電源投入時）		Hi-Z	不定	2. 2
CPU機能	内蔵フラッシュ・メモリ	384K/512 K/768 K/1024 Kバイト	128 K/256 K/384 K/512 K/640 Kバイト	3. 4. 4（1）
	内蔵RAM	32 K/40 K/60 Kバイト	12 K/24 K/32 K/40 K/48 Kバイト	3. 4. 4（2）
A/Dコンバータ：変換時間中のサンプリング時間の割合		8/26クロック	4/26クロック	13. 5. 2
リセット機能：内部システム・リセット解除後のファームウエア動作		なし	あり（ユーザーズ・マニュアル（U17714J）22. 3. 4（2）参照）	－
低電圧検出回路（LVI）	低電圧検出割り込み（INTLVI）の発生要因	電源電圧値が検出電圧値を下回ったとき，または上回ったとき	電源電圧値が検出電圧値を下回ったとき	24. 3（1）
	LVI回路特性（検出電圧）	2.85～3.05 V（2.95 V（TYP.））	2.85～3.15 V（3.0 V（TYP.））	24. 3（2）
	RAMS.RAMFビットのセット条件	・検出レベル以下の電圧検出 ・命令によるセット	・検出レベル以下の電圧検出 ・命令によるセット ・WDT2, CLMによるリセット発生 ・内蔵RAMアクセス中に$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセットが発生	24. 3（3）
CRC機能		あり	なし	第25章
レギュレータ：サブ発振器への供給クロック		電源電圧（V_{DD}）	レギュレータ出力電圧	26. 1
フラッシュ・メモリ	ブロック構成	ブロック0～最終ブロック：各4 Kバイト	ブロック0～3：各28 Kバイト ブロック4～7：各4 Kバイト ブロック8～最終ブロック：各64 Kバイト	27. 2
	ブート領域	64 Kバイト	56 Kバイト	
オンチップ・デバッグ機能	ソフトウエア・ブレークポイントに関するリセット時の注意事項	なし	あり（ユーザーズ・マニュアル（U17714J）27. 1. 6（3）参照）	－

表B－1　V850ES/JJ3とV850ES/JJ2との主な違い（2/2）

主な差異点		V850ES/JJ3	V850ES/JJ2	このマニュアルの参照箇所
電気的特性	動作条件（内部システム・クロック周波数）	f_{XX} = 2.5～32 MHz	f_{XX} = 2.5～20 MHz	第29章
	内蔵発振器特性（出力周波数）	220 kHz（TYP.） （MIN., MAX.はV850ES/JJ2と同じ）	200 kHz（TYP.）	
	DC特性（電源電流）	増加項目あり	—	
	バス・タイミング	変更項目あり	—	
	CSIBタイミング	変更項目あり	—	
	D/Aコンバータ（出力抵抗）	6.42 kΩ	3.5 kΩ	
	LVI回路特性（検出電圧）	2.85～3.05 V（2.95 V（TYP.））	2.85～3.15 V（3.0 V（TYP.））	
	RAM保持検出（応答時間）	3.0 ms（MAX.）	2.0 ms（MAX.）	
外形図		P144GJ-50-GAE	S144GJ-50-UEN	第30章
半田付け推奨条件		T.B.D	あり	—

付録C　レジスタ索引

(1/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
ADA0CR0	A/D変換結果レジスタ0	ADC	438
ADA0CR0H	A/D変換結果レジスタ0H	ADC	438
ADA0CR1	A/D変換結果レジスタ1	ADC	438
ADA0CR1H	A/D変換結果レジスタ1H	ADC	438
ADA0CR2	A/D変換結果レジスタ2	ADC	438
ADA0CR2H	A/D変換結果レジスタ2H	ADC	438
ADA0CR3	A/D変換結果レジスタ3	ADC	438
ADA0CR3H	A/D変換結果レジスタ3H	ADC	438
ADA0CR4	A/D変換結果レジスタ4	ADC	438
ADA0CR4H	A/D変換結果レジスタ4H	ADC	438
ADA0CR5	A/D変換結果レジスタ5	ADC	438
ADA0CR5H	A/D変換結果レジスタ5H	ADC	438
ADA0CR6	A/D変換結果レジスタ6	ADC	438
ADA0CR6H	A/D変換結果レジスタ6H	ADC	438
ADA0CR7	A/D変換結果レジスタ7	ADC	438
ADA0CR7H	A/D変換結果レジスタ7H	ADC	438
ADA0CR8	A/D変換結果レジスタ8	ADC	438
ADA0CR8H	A/D変換結果レジスタ8H	ADC	438
ADA0CR9	A/D変換結果レジスタ9	ADC	438
ADA0CR9H	A/D変換結果レジスタ9H	ADC	438
ADA0CR10	A/D変換結果レジスタ10	ADC	438
ADA0CR10H	A/D変換結果レジスタ10H	ADC	438
ADA0CR11	A/D変換結果レジスタ11	ADC	438
ADA0CR11H	A/D変換結果レジスタ11H	ADC	438
ADA0CR12	A/D変換結果レジスタ12	ADC	438
ADA0CR12H	A/D変換結果レジスタ12H	ADC	438
ADA0CR13	A/D変換結果レジスタ13	ADC	438
ADA0CR13H	A/D変換結果レジスタ13H	ADC	438
ADA0CR14	A/D変換結果レジスタ14	ADC	438
ADA0CR14H	A/D変換結果レジスタ14H	ADC	438
ADA0CR15	A/D変換結果レジスタ15	ADC	438
ADA0CR15H	A/D変換結果レジスタ15H	ADC	438
ADA0M0	A/Dコンバータ・モード・レジスタ0	ADC	431
ADA0M1	A/Dコンバータ・モード・レジスタ1	ADC	433
ADA0M2	A/Dコンバータ・モード・レジスタ2	ADC	436
ADA0PFM	パワー・フェイル比較モード・レジスタ	ADC	440
ADA0PFT	パワー・フェイル比較しきい値レジスタ	ADC	441
ADA0S	A/Dコンバータ・チャネル指定レジスタ	ADC	437
ADIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679

(2/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
AWC	アドレス・ウエイト・コントロール・レジスタ	BCU	182
BCC	バス・サイクル・コントロール・レジスタ	BCU	183
BSC	バス・サイズ・コンフィギュレーション・レジスタ	BCU	171
CB0CTL0	CSIB0制御レジスタ0	CSI	510
CB0CTL2	CSIB0制御レジスタ2	CSI	514
CB0RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB0RX	CSIB0受信データ・レジスタ	CSI	509
CB0RXL	CSIB0受信データ・レジスタL	CSI	509
CB0STR	CSIB0状態レジスタ	CSI	516
CB0TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB0TX	CSIB0送信データ・レジスタ	CSI	509
CB0TXL	CSIB0送信データ・レジスタL	CSI	509
CB1CTL0	CSIB1制御レジスタ0	CSI	510
CB1CTL1	CSIB1制御レジスタ1	CSI	513
CB1CTL2	CSIB1制御レジスタ2	CSI	514
CB1RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB1RX	CSIB1受信データ・レジスタ	CSI	509
CB1RXL	CSIB1受信データ・レジスタL	CSI	509
CB1STR	CSIB1状態レジスタ	CSI	516
CB1TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB1TX	CSIB1送信データ・レジスタ	CSI	509
CB1TXL	CSIB1送信データ・レジスタL	CSI	509
CB2CTL0	CSIB2制御レジスタ0	CSI	510
CB2CTL1	CSIB2制御レジスタ1	CSI	513
CB2CTL2	CSIB2制御レジスタ2	CSI	514
CB2RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB2RX	CSIB2受信データ・レジスタ	CSI	509
CB2RXL	CSIB2受信データ・レジスタL	CSI	509
CB2STR	CSIB2状態レジスタ	CSI	516
CB2TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB2TX	CSIB2送信データ・レジスタ	CSI	509
CB2TXL	CSIB2送信データ・レジスタL	CSI	509
CB3CTL0	CSIB3制御レジスタ0	CSI	510
CB3CTL1	CSIB3制御レジスタ1	CSI	513
CB3CTL2	CSIB3制御レジスタ2	CSI	514
CB3RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB3RX	CSIB3受信データ・レジスタ	CSI	509
CB3RXL	CSIB3受信データ・レジスタL	CSI	509
CB3STR	CSIB3状態レジスタ	CSI	516
CB3TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB3TX	CSIB3送信データ・レジスタ	CSI	509
CB3TXL	CSIB3送信データ・レジスタL	CSI	509

(3/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
CB4CTL0	CSIB4制御レジスタ0	CSI	510
CB4CTL1	CSIB4制御レジスタ1	CSI	513
CB4CTL2	CSIB4制御レジスタ2	CSI	514
CB4RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB4RX	CSIB4受信データ・レジスタ	CSI	509
CB4RXL	CSIB4受信データ・レジスタL	CSI	509
CB4STR	CSIB4状態レジスタ	CSI	516
CB4TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB4TX	CSIB4送信データ・レジスタ	CSI	509
CB4TXL	CSIB4送信データ・レジスタL	CSI	509
CB5CTL0	CSIB5制御レジスタ0	CSI	510
CB5CTL1	CSIB5制御レジスタ1	CSI	513
CB5CTL2	CSIB5制御レジスタ2	CSI	514
CB5RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB5RX	CSIB5受信データ・レジスタ	CSI	509
CB5RXL	CSIB5受信データ・レジスタL	CSI	509
CB5STR	CSIB5状態レジスタ	CSI	516
CB5TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
CB5TX	CSIB5送信データ・レジスタ	CSI	509
CB5TXL	CSIB5送信データ・レジスタL	CSI	509
CCLS	CPU動作クロック・ステータス・レジスタ	CG	200
CKC	クロック・コントロール・レジスタ	CG	203
CLM	クロック・モニタ・モード・レジスタ	CLM	734
CRCD	CRCデータ・レジスタ	CRC	746
CRCIN	CRCインプット・レジスタ	CRC	746
CTBP	CALLTベース・ポインタ	CPU	36
CTPC	CALLT実行時状態退避レジスタ	CPU	35
CTPSW	CALLT実行時状態退避レジスタ	CPU	35
DA0CS0	D/A変換値設定レジスタ0	DAC	465
DA0CS1	D/A変換値設定レジスタ1	DAC	465
DA0M	D/Aコンバータ・モード・レジスタ	DAC	464
DADC0	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ0	DMA	642
DADC1	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ1	DMA	642
DADC2	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ2	DMA	642
DADC3	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ3	DMA	642
DBC0	DMA転送カウント・レジスタ0	DMA	641
DBC1	DMA転送カウント・レジスタ1	DMA	641
DBC2	DMA転送カウント・レジスタ2	DMA	641
DBC3	DMA転送カウント・レジスタ3	DMA	641
DBPC	例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ	CPU	36
DBPSW	例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ	CPU	36
DCHC0	DMAチャネル・コントロール・レジスタ0	DMA	643
DCHC1	DMAチャネル・コントロール・レジスタ1	DMA	643
DCHC2	DMAチャネル・コントロール・レジスタ2	DMA	643

(4/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
DCHC3	DMAチャネル・コントロール・レジスタ3	DMA	643
DDA0H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0H	DMA	640
DDA0L	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0L	DMA	640
DDA1H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ1H	DMA	640
DDA1L	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ1L	DMA	640
DDA2H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ2H	DMA	640
DDA2L	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ2L	DMA	640
DDA3H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ3H	DMA	640
DDA3L	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ3L	DMA	640
DMAIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
DMAIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
DMAIC2	割り込み制御レジスタ	INTC	679
DMAIC3	割り込み制御レジスタ	INTC	679
DSA0H	DMAソース・アドレス・レジスタ0H	DMA	639
DSA0L	DMAソース・アドレス・レジスタ0L	DMA	639
DSA1H	DMAソース・アドレス・レジスタ1H	DMA	639
DSA1L	DMAソース・アドレス・レジスタ1L	DMA	639
DSA2H	DMAソース・アドレス・レジスタ2H	DMA	639
DSA2L	DMAソース・アドレス・レジスタ2L	DMA	639
DSA3H	DMAソース・アドレス・レジスタ3H	DMA	639
DSA3L	DMAソース・アドレス・レジスタ3L	DMA	639
DTFR0	DMAトリガ要因レジスタ0	DMA	644
DTFR1	DMAトリガ要因レジスタ1	DMA	644
DTFR2	DMAトリガ要因レジスタ2	DMA	644
DTFR3	DMAトリガ要因レジスタ3	DMA	644
DWC0	データ・ウエイト・コントロール・レジスタ0	BCU	179
ECR	割り込み要因レジスタ	CPU	33
EIPC	割り込み時状態退避レジスタ	CPU	32
EIPSW	割り込み時状態退避レジスタ	CPU	32
EXIMC	外部バス・インタフェース・モード・コントロール・レジスタ	BCU	170
FEPC	NMI時状態退避レジスタ	CPU	33
FEPSW	NMI時状態退避レジスタ	CPU	33
IIC0	IICシフト・レジスタ0	I^2C	577
IIC1	IICシフト・レジスタ1	I^2C	577
IIC2	IICシフト・レジスタ2	I^2C	577
IICC0	IICコントロール・レジスタ0	I^2C	563
IICC1	IICコントロール・レジスタ1	I^2C	563
IICC2	IICコントロール・レジスタ2	I^2C	563
IICCL0	IICクロック選択レジスタ0	I^2C	573
IICCL1	IICクロック選択レジスタ1	I^2C	573
IICCL2	IICクロック選択レジスタ2	I^2C	573
IICF0	IICフラグ・レジスタ0	I^2C	571
IICF1	IICフラグ・レジスタ1	I^2C	571
IICF2	IICフラグ・レジスタ2	I^2C	571

(5/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
IICIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
IICIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
IICIC2	割り込み制御レジスタ	INTC	679
IICS0	IIC状態レジスタ0	I^2C	568
IICS1	IIC状態レジスタ1	I^2C	568
IICS2	IIC状態レジスタ2	I^2C	568
IICX0	IIC機能拡張レジスタ0	I^2C	574
IICX1	IIC機能拡張レジスタ1	I^2C	574
IICX2	IIC機能拡張レジスタ2	I^2C	574
IMR0	割り込みマスク・レジスタ0	INTC	682
IMR0H	割り込みマスク・レジスタ0H	INTC	682
IMR0L	割り込みマスク・レジスタ0L	INTC	682
IMR1	割り込みマスク・レジスタ1	INTC	682
IMR1H	割り込みマスク・レジスタ1H	INTC	682
IMR1L	割り込みマスク・レジスタ1L	INTC	682
IMR2	割り込みマスク・レジスタ2	INTC	682
IMR2H	割り込みマスク・レジスタ2H	INTC	682
IMR2L	割り込みマスク・レジスタ2L	INTC	682
IMR3	割り込みマスク・レジスタ3	INTC	682
IMR3H	割り込みマスク・レジスタ3H	INTC	682
IMR3L	割り込みマスク・レジスタ3L	INTC	682
IMR4	割り込みマスク・レジスタ4	INTC	682
IMR4H	割り込みマスク・レジスタ4H	INTC	682
IMR4L	割り込みマスク・レジスタ4L	INTC	682
INTF0	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ0	INTC	694
INTF3	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ3	INTC	695
INTF8	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ8	INTC	696
INTF9H	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ9H	INTC	697
INTR0	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ0	INTC	694
INTR3	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ3	INTC	695
INTR8	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ8	INTC	696
INTR9H	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ9H	INTC	697
ISPR	インサービス・プライオリティ・レジスタ	INTC	684
KRIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
KRM	キー・リターン・モード・レジスタ	KR	702
LOCKR	ロック・レジスタ	CG	204
LVIIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
LVIM	低電圧検出レジスタ	LVI	739
LVIS	低電圧検出レベル選択レジスタ	LVI	740
NFC	ノイズ除去制御レジスタ	INTC	698
OCDM	オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ	DCU	782
OCKS0	IIC分周クロック選択レジスタ0	I^2C	577
OCKS1	IIC分周クロック選択レジスタ1	I^2C	577
OSTS	発振安定時間選択レジスタ	WDT	707

(6/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
P0	ポート0レジスタ	ポート	76
P1	ポート1レジスタ	ポート	79
P3	ポート3レジスタ	ポート	81
P3H	ポート3レジスタH	ポート	81
P3L	ポート3レジスタL	ポート	81
P4	ポート4レジスタ	ポート	87
P5	ポート5レジスタ	ポート	89
P6	ポート6レジスタ	ポート	95
P6H	ポート6レジスタH	ポート	95
P6L	ポート6レジスタL	ポート	95
P7H	ポート7レジスタH	ポート	99
P7L	ポート7レジスタL	ポート	99
P8	ポート8レジスタ	ポート	100
P9	ポート9レジスタ	ポート	103
P9H	ポート9レジスタH	ポート	103
P9L	ポート9レジスタL	ポート	103
PC	プログラム・カウンタ	CPU	30
PCC	プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ	CG	196
PCD	ポートCDレジスタ	ポート	110
PCM	ポートCMレジスタ	ポート	111
PCS	ポートCSレジスタ	ポート	113
PCT	ポートCTレジスタ	ポート	115
PDH	ポートDHレジスタ	ポート	118
PDL	ポートDLレジスタ	ポート	120
PDLH	ポートDLレジスタH	ポート	120
PDLL	ポートDLレジスタL	ポート	120
PEMU1	周辺エミュレーション・レジスタ1	CPU	744
PF0	ポート0ファンクション・レジスタ	ポート	78
PF3	ポート3ファンクション・レジスタ	ポート	85
PF3H	ポート3ファンクション・レジスタH	ポート	85
PF3L	ポート3ファンクション・レジスタL	ポート	85
PF4	ポート4ファンクション・レジスタ	ポート	88
PF5	ポート5ファンクション・レジスタ	ポート	93
PF6	ポート6ファンクション・レジスタ	ポート	97
PF6H	ポート6ファンクション・レジスタH	ポート	97
PF6L	ポート6ファンクション・レジスタL	ポート	97
PF8	ポート8ファンクション・レジスタ	ポート	101
PF9	ポート9ファンクション・レジスタ	ポート	109
PF9H	ポート9ファンクション・レジスタH	ポート	109
PF9L	ポート9ファンクション・レジスタL	ポート	109
PFC0	ポート0ファンクション・コントロール・レジスタ	ポート	78
PFC3	ポート3ファンクション・コントロール・レジスタ	ポート	83
PFC3H	ポート3ファンクション・コントロール・レジスタH	ポート	83
PFC3L	ポート3ファンクション・コントロール・レジスタL	ポート	83

(7/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
PFC4	ポート4ファンクション・コントロール・レジスタ	ポート	88
PFC5	ポート5ファンクション・コントロール・レジスタ	ポート	91
PFC6H	ポート6ファンクション・コントロール・レジスタH	ポート	97
PFC9	ポート9ファンクション・コントロール・レジスタ	ポート	106
PFC9H	ポート9ファンクション・コントロール・レジスタH	ポート	106
PFC9L	ポート9ファンクション・コントロール・レジスタL	ポート	106
PFCE3L	ポート3ファンクション・コントロール拡張レジスタL	ポート	83
PFCE5	ポート5ファンクション・コントロール拡張レジスタ	ポート	91
PFCE9	ポート9ファンクション・コントロール拡張レジスタ	ポート	106
PFCE9H	ポート9ファンクション・コントロール拡張レジスタH	ポート	106
PFCE9L	ポート9ファンクション・コントロール拡張レジスタL	ポート	106
PIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
PIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
PIC2	割り込み制御レジスタ	INTC	679
PIC3	割り込み制御レジスタ	INTC	679
PIC4	割り込み制御レジスタ	INTC	679
PIC5	割り込み制御レジスタ	INTC	679
PIC6	割り込み制御レジスタ	INTC	679
PIC7	割り込み制御レジスタ	INTC	679
PIC8	割り込み制御レジスタ	INTC	679
PLLCTL	PLLコントロール・レジスタ	CG	202
PLLS	PLLロック・アップ時間指定レジスタ	CG	205
PM0	ポート0モード・レジスタ	ポート	76
PM1	ポート1モード・レジスタ	ポート	79
PM3	ポート3モード・レジスタ	ポート	81
PM3H	ポート3モード・レジスタH	ポート	81
PM3L	ポート3モード・レジスタL	ポート	81
PM4	ポート4モード・レジスタ	ポート	87
PM5	ポート5モード・レジスタ	ポート	90
PM6	ポート6モード・レジスタ	ポート	95
PM6H	ポート6モード・レジスタH	ポート	95
PM6L	ポート6モード・レジスタL	ポート	95
PM7H	ポート7モード・レジスタH	ポート	99
PM7L	ポート7モード・レジスタL	ポート	99
PM8	ポート8モード・レジスタ	ポート	100
PM9	ポート9モード・レジスタ	ポート	103
PM9H	ポート9モード・レジスタH	ポート	103
PM9L	ポート9モード・レジスタL	ポート	103
PMC0	ポート0モード・コントロール・レジスタ	ポート	77
PMC3	ポート3モード・コントロール・レジスタ	ポート	82
PMC3H	ポート3モード・コントロール・レジスタH	ポート	82
PMC3L	ポート3モード・コントロール・レジスタL	ポート	82
PMC4	ポート4モード・コントロール・レジスタ	ポート	87
PMC5	ポート5モード・コントロール・レジスタ	ポート	90

(8/12)

略　号	名　称	ユニット	ページ
PMC6	ポート6モード・コントロール・レジスタ	ポート	96
PMC6H	ポート6モード・コントロール・レジスタH	ポート	96
PMC6L	ポート6モード・コントロール・レジスタL	ポート	96
PMC8	ポート8モード・コントロール・レジスタ	ポート	101
PMC9	ポート9モード・コントロール・レジスタ	ポート	104
PMC9H	ポート9モード・コントロール・レジスタH	ポート	104
PMC9L	ポート9モード・コントロール・レジスタL	ポート	104
PMCCM	ポートCMモード・コントロール・レジスタ	ポート	112
PMCCS	ポートCSモード・コントロール・レジスタ	ポート	114
PMCCT	ポートCTモード・コントロール・レジスタ	ポート	116
PMCD	ポートCDモード・レジスタ	ポート	110
PMCDH	ポートDHモード・コントロール・レジスタ	ポート	118
PMCDL	ポートDLモード・コントロール・レジスタ	ポート	121
PMCDLH	ポートDLモード・コントロール・レジスタH	ポート	121
PMCDLL	ポートDLモード・コントロール・レジスタL	ポート	121
PMCM	ポートCMモード・レジスタ	ポート	111
PMCS	ポートCSモード・レジスタ	ポート	113
PMCT	ポートCTモード・レジスタ	ポート	115
PMDH	ポートDHモード・レジスタ	ポート	118
PMDL	ポートDLモード・レジスタ	ポート	120
PMDLH	ポートDLモード・レジスタH	ポート	120
PMDLL	ポートDLモード・レジスタL	ポート	120
PRCMD	コマンド・レジスタ	CPU	64
PRSCM0	プリスケーラ・コンペア・レジスタ0	WT	409
PRSCM1	プリスケーラ・コンペア・レジスタ1	CSI	553
PRSCM2	プリスケーラ・コンペア・レジスタ2	CSI	553
PRSCM3	プリスケーラ・コンペア・レジスタ3	CSI	553
PRSM0	プリスケーラ・モード・レジスタ0	WT	408
PRSM1	プリスケーラ・モード・レジスタ1	CSI	552
PRSM2	プリスケーラ・モード・レジスタ2	CSI	552
PRSM3	プリスケーラ・モード・レジスタ3	CSI	552
PSC	パワー・セーブ・コントロール・レジスタ	CG	705
PSMR	パワー・セーブ・モード・レジスタ	CG	706
PSW	プログラム・ステータス・ワード	CPU	34
r0-r31	汎用レジスタ	CPU	30
RAMS	内蔵RAMデータ・ステータス・レジスタ	CG	740
RCM	内蔵発振モード・レジスタ	CG	200
RESF	リセット要因フラグ・レジスタ	リセット	724
RTBH0	リアルタイム出力バッファ・レジスタ0H	RTP	422
RTBH1	リアルタイム出力バッファ・レジスタ1H	RTP	422
RTBL0	リアルタイム出力バッファ・レジスタ0L	RTP	422
RTBL1	リアルタイム出力バッファ・レジスタ1L	RTP	422
RTPC0	リアルタイム出力ポート・コントロール・レジスタ0	RTP	424
RTPC1	リアルタイム出力ポート・コントロール・レジスタ1	RTP	424

(9/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
RTPM0	リアルタイム出力ポート・モード・レジスタ0	RTP	423
RTPM1	リアルタイム出力ポート・モード・レジスタ1	RTP	423
SELCNT0	セレクタ動作制御レジスタ0	タイマ	294
SVA0	スレーブ・アドレス・レジスタ0	I^2C	578
SVA1	スレーブ・アドレス・レジスタ1	I^2C	578
SVA2	スレーブ・アドレス・レジスタ2	I^2C	578
SYS	システム・ステータス・レジスタ	CPU	65
TM0CMP0	TMM0コンペア・レジスタ0	タイマ	398
TM0CTL0	TMM0制御レジスタ0	タイマ	399
TM0EQIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP0CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP0CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP0CCR0	TMP0キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	217
TP0CCR1	TMP0キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	219
TP0CNT	TMP0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	221
TP0CTL0	TMP0制御レジスタ0	タイマ	211
TP0CTL1	TMP0制御レジスタ1	タイマ	211
TP0IOC0	TMP0I/O制御レジスタ0	タイマ	213
TP0IOC1	TMP0I/O制御レジスタ1	タイマ	214
TP0IOC2	TMP0I/O制御レジスタ2	タイマ	215
TP0OPT0	TMP0オプション・レジスタ0	タイマ	216
TP0OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP1CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP1CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP1CCR0	TMP1キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	217
TP1CCR1	TMP1キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	219
TP1CNT	TMP1カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	221
TP1CTL0	TMP1制御レジスタ0	タイマ	211
TP1CTL1	TMP1制御レジスタ1	タイマ	211
TP1IOC0	TMP1I/O制御レジスタ0	タイマ	213
TP1IOC1	TMP1I/O制御レジスタ1	タイマ	214
TP1IOC2	TMP1I/O制御レジスタ2	タイマ	215
TP1OPT0	TMP1オプション・レジスタ0	タイマ	216
TP1OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP2CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP2CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP2CCR0	TMP2キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	217
TP2CCR1	TMP2キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	219
TP2CNT	TMP2カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	221
TP2CTL0	TMP2制御レジスタ0	タイマ	211
TP2CTL1	TMP2制御レジスタ1	タイマ	211
TP2IOC0	TMP2I/O制御レジスタ0	タイマ	213
TP2IOC1	TMP2I/O制御レジスタ1	タイマ	214
TP2IOC2	TMP2I/O制御レジスタ2	タイマ	215

(10/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
TP2OPT0	TMP2オプション・レジスタ0	タイマ	216
TP2OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP3CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP3CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP3CCR0	TMP3キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	217
TP3CCR1	TMP3キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	219
TP3CNT	TMP3カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	221
TP3CTL0	TMP3制御レジスタ0	タイマ	211
TP3CTL1	TMP3制御レジスタ1	タイマ	211
TP3IOC0	TMP3I/O制御レジスタ0	タイマ	213
TP3IOC1	TMP3I/O制御レジスタ1	タイマ	214
TP3IOC2	TMP3I/O制御レジスタ2	タイマ	215
TP3OPT0	TMP3オプション・レジスタ0	タイマ	216
TP3OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP4CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP4CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP4CCR0	TMP4キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	217
TP4CCR1	TMP4キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	219
TP4CNT	TMP4カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	221
TP4CTL0	TMP4制御レジスタ0	タイマ	211
TP4CTL1	TMP4制御レジスタ1	タイマ	211
TP4IOC0	TMP4I/O制御レジスタ0	タイマ	213
TP4IOC1	TMP4I/O制御レジスタ1	タイマ	214
TP4IOC2	TMP4I/O制御レジスタ2	タイマ	215
TP4OPT0	TMP4オプション・レジスタ0	タイマ	216
TP4OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP5CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP5CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP5CCR0	TMP5キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	217
TP5CCR1	TMP5キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	219
TP5CNT	TMP5カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	221
TP5CTL0	TMP5制御レジスタ0	タイマ	211
TP5CTL1	TMP5制御レジスタ1	タイマ	211
TP5IOC0	TMP5I/O制御レジスタ0	タイマ	213
TP5IOC1	TMP5I/O制御レジスタ1	タイマ	214
TP5IOC2	TMP5I/O制御レジスタ2	タイマ	215
TP5OPT0	TMP5オプション・レジスタ0	タイマ	216
TP5OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP6CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP6CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP6CCR0	TMP6キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	217
TP6CCR1	TMP6キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	219
TP6CNT	TMP6カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	221
TP6CTL0	TMP6制御レジスタ0	タイマ	211

(11/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
TP6CTL1	TMP6制御レジスタ1	タイマ	211
TP6IOC0	TMP6I/O制御レジスタ0	タイマ	213
TP6IOC1	TMP6I/O制御レジスタ1	タイマ	214
TP6IOC2	TMP6I/O制御レジスタ2	タイマ	215
TP6OPT0	TMP6オプション・レジスタ0	タイマ	216
TP6OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP7CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP7CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP7CCR0	TMP7キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	217
TP7CCR1	TMP7キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	219
TP7CNT	TMP7カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	221
TP7CTL0	TMP7制御レジスタ0	タイマ	211
TP7CTL1	TMP7制御レジスタ1	タイマ	211
TP7IOC0	TMP7I/O制御レジスタ0	タイマ	213
TP7IOC1	TMP7I/O制御レジスタ1	タイマ	214
TP7IOC2	TMP7I/O制御レジスタ2	タイマ	215
TP7OPT0	TMP7オプション・レジスタ0	タイマ	216
TP7OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP8CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP8CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TP8CCR0	TMP8キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	217
TP8CCR1	TMP8キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	219
TP8CNT	TMP8カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	221
TP8CTL0	TMP8制御レジスタ0	タイマ	211
TP8CTL1	TMP8制御レジスタ1	タイマ	211
TP8IOC0	TMP8I/O制御レジスタ0	タイマ	213
TP8IOC1	TMP8I/O制御レジスタ1	タイマ	214
TP8IOC2	TMP8I/O制御レジスタ2	タイマ	215
TP8OPT0	TMP8オプション・レジスタ0	タイマ	216
TP8OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TQ0CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TQ0CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TQ0CCIC2	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TQ0CCIC3	割り込み制御レジスタ	INTC	679
TQ0CCR0	TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ0	タイマ	307
TQ0CCR1	TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ1	タイマ	309
TQ0CCR2	TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ2	タイマ	311
TQ0CCR3	TMQ0キャプチャ／コンペア・レジスタ3	タイマ	313
TQ0CNT	TMQ0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	315
TQ0CTL0	TMQ0制御レジスタ0	タイマ	301
TQ0CTL1	TMQ0制御レジスタ1	タイマ	302
TQ0IOC0	TMQ0I/O制御レジスタ0	タイマ	303
TQ0IOC1	TMQ0I/O制御レジスタ1	タイマ	304
TQ0IOC2	TMQ0I/O制御レジスタ2	タイマ	305

(12/12)

略　　号	名　　称	ユニット	ページ
TQ0OPT0	TMQ0オプション・レジスタ0	タイマ	306
TQ0OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
UA0CTL0	UARTA0制御レジスタ0	UART	474
UA0CTL1	UARTA0制御レジスタ1	UART	497
UA0CTL2	UARTA0制御レジスタ2	UART	498
UA0OPT0	UARTA0オプション制御レジスタ0	UART	476
UA0RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
UA0RX	UARTA0受信データ・レジスタ	UART	479
UA0STR	UARTA0状態レジスタ	UART	477
UA0TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
UA0TX	UARTA0送信データ・レジスタ	UART	479
UA1CTL0	UARTA1制御レジスタ0	UART	474
UA1CTL1	UARTA1制御レジスタ1	UART	497
UA1CTL2	UARTA1制御レジスタ2	UART	498
UA1OPT0	UARTA1オプション制御レジスタ0	UART	476
UA1RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
UA1RX	UARTA1受信データ・レジスタ	UART	479
UA1STR	UARTA1状態レジスタ	UART	477
UA1TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
UA1TX	UARTA1送信データ・レジスタ	UART	479
UA2CTL0	UARTA2制御レジスタ0	UART	474
UA2CTL1	UARTA2制御レジスタ1	UART	497
UA2CTL2	UARTA2制御レジスタ2	UART	498
UA2OPT0	UARTA2オプション制御レジスタ0	UART	476
UA2RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
UA2RX	UARTA2受信データ・レジスタ	UART	479
UA2STR	UARTA2状態レジスタ	UART	477
UA2TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
UA2TX	UARTA2送信データ・レジスタ	UART	479
UA3CTL0	UARTA3制御レジスタ0	UART	474
UA3CTL1	UARTA3制御レジスタ1	UART	497
UA3CTL2	UARTA3制御レジスタ2	UART	498
UA3OPT0	UARTA3オプション制御レジスタ0	UART	476
UA3RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
UA3RX	UARTA3受信データ・レジスタ	UART	479
UA3STR	UARTA3状態レジスタ	UART	477
UA3TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
UA3TX	UARTA3送信データ・レジスタ	UART	479
VSWC	システム・ウエイト・コントロール・レジスタ	CPU	66
WDTE	ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ	WDT	419
WDTM2	ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2	WDT	417
WTIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
WTIIC	割り込み制御レジスタ	INTC	679
WTM	時計タイマ動作モード・レジスタ	WT	410

付録D　命令セット一覧

D. 1　凡　　例

(1) オペランド記述に使われる略号

略　号	説　　明
reg1	汎用レジスタ（ソース・レジスタとして使用）
reg2	汎用レジスタ（おもにデスティネーション・レジスタとして使用。一部の命令で，ソース・レジスタとしても使用。）
reg3	汎用レジスタ（おもに除算結果の余り，乗算結果の上位32ビットを格納）
bit#3	ビット・ナンバ指定用3ビット・データ
imm×	×ビット・イミーディエト・データ
disp×	×ビット・ディスプレースメント・データ
regID	システム・レジスタ番号
vector	トラップ・ベクタ（00H-1FH）を指定する5ビット・データ
cccc	条件コードを示す4ビット・データ
sp	スタック・ポインタ（r3）
ep	エレメント・ポインタ（r30）
list×	×個のレジスタ・リスト

(2) オペランドに使われる略号

略　号	説　　明
R	reg1またはregIDを指定するコードの1ビット分データ
r	reg2を指定するコードの1ビット分データ
w	reg3を指定するコードの1ビット分データ
d	ディスプレースメントの1ビット分データ
I	イミーディエトの1ビット分データ（イミーディエトの上位ビットを示す）
i	イミーディエトの1ビット分データ
cccc	条件コードを示す4ビット・データ
CCCC	Bcond命令の条件コードを示す4ビット・データ
bbb	ビット・ナンバ指定用3ビット・データ
L	レジスタ・リスト中のプログラム・レジスタを指定する1ビット分データ

(3) オペレーションに使われる略号

略　号	説　　明
←	代入
GR [　]	汎用レジスタ
SR [　]	システム・レジスタ
zero-extend（n）	nをワード長までゼロ拡張する。
sign-extend（n）	nをワード長まで符号拡張する。
load-memory（a, b）	アドレス「a」からサイズ「b」のデータを読み出す。
store-memory（a, b, c）	アドレス「a」に，データ「b」をサイズ「c」で書き込む。
load-memory-bit（a, b）	アドレス「a」のビット「b」を読み出す。
store-memory-bit（a, b, c）	アドレス「a」のビット「b」に「c」を書き込む。
saturated（n）	nの飽和処理を行う（nは2の補数）。 nが計算の結果，n≧7FFFFFFFHとなった場合，n = 7FFFFFFFHとする。 nが計算の結果，n≦80000000Hとなった場合，n = 80000000Hとする。
result	結果をフラグに反映する。
Byte	バイト（8ビット）
Half-word	ハーフワード（16ビット）
Word	ワード（32ビット）
＋	加算
－	減算
‖	ビット連結
×	乗算
÷	除算
%	除算結果の余り
AND	論理積
OR	論理和
XOR	排他的論理和
NOT	論理否定
logically shift left by	論理左シフト
logically shift right by	論理右シフト
arithmetically shift right by	算術右シフト

(4) 実行クロックに使われる略号

略　号	説　　明
i	命令実行直後にほかの命令を実行する場合（issue）
r	命令実行直後に同一命令を繰り返す場合（repeat）
l	命令実行結果を命令実行直後の命令で利用する場合（latency）

(5) フラグの動作に使われる略号

略　号	説　明
（ブランク）	変化なし
0	0にクリア
×	結果に従ってセットまたはクリアされる。
R	以前に退避した値がリストアされる。

(6) 条件コード

条件コード (cccc)	条件式	説　　明
0000	OV = 1	Overflow
1000	OV = 0	No overflow
0001	CY = 1	Carry Lower（Less than）
1001	CY = 0	No carry No lower（Greater than or equal）
0010	Z = 1	Zero
1010	Z = 0	Not zero
0011	（CY or Z）= 1	Not higher（Less than or equal）
1011	（CY or Z）= 0	Higher（Greater than）
0100	S = 1	Negative
1100	S = 0	Positive
0101	－	Always（無条件）
1101	SAT = 1	Saturated
0110	（S xor OV）= 1	Less than signed
1110	（S xor OV）= 0	Greater than or equal signed
0111	（（S xor OV）or Z）= 1	Less than or equal signed
1111	（（S xor OV）or Z）= 0	Greater than signed

D. 2　インストラクション・セット（アルファベット順）

(1/5)

ニモニック	オペランド	オペコード	オペレーション		実行クロック			フラグ				
					i	r	l	CY	OV	S	Z	SAT
ADD	reg1, reg2	rrrrr001110RRRRR	GR[reg2]←GR[reg2]＋GR[reg1]		1	1	1	×	×	×	×	
	imm5, reg2	rrrrr010010iiiii	GR[reg2]←GR[reg2]＋sign-extend (imm5)		1	1	1	×	×	×	×	
ADDI	imm16, reg1, reg2	rrrrr110000RRRRR iiiiiiiiiiiiiiii	GR[reg2]←GR[reg1]＋sign-extend (imm16)		1	1	1	×	×	×	×	
AND	reg1, reg2	rrrrr001010RRRRR	GR[reg2]←GR[reg2] AND GR[reg1]		1	1	1		0	×	×	
ANDI	imm16, reg1, reg2	rrrrr110110RRRRR iiiiiiiiiiiiiiii	GR[reg2]←GR[reg1] AND zero-extend (imm16)		1	1	1		0	×	×	
Bcond	disp9	ddddd1011dddcccc 注1	if conditions are satisfied then PC←PC＋sign-extend (disp9)	条件成立時	2 注2	2 注2	2 注2					
				条件不成立時	1	1	1					
BSH	reg2, reg3	rrrrr11111100000 WWWWW01101000010	GR[reg3]←GR[reg2] (23:16)‖GR[reg2] (31:24)‖GR[reg2] (7:0)‖GR[reg2] (15:8)		1	1	1	×	0	×	×	
BSW	reg2, reg3	rrrrr11111100000 WWWWW01101000000	GR[reg3]←GR[reg2] (7:0)‖GR[reg2] (15:8)‖GR[reg2] (23:16)‖GR[reg2] (31:24)		1	1	1	×	0	×	×	
CALLT	imm6	0000001000iiiiii	CTPC←PC＋2 (return PC) CTPSW←PSW adr←CTBP＋zero-extend (imm6 logically shift left by 1) PC←CTBP＋zero-extend(Load-memory (adr,Half-word))		4	4	4					
CLR1	bit#3,disp16[reg1]	10bbb111110RRRRR ddddddddddddddd	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) Zフラグ←Not (Load-memory-bit (adr, bit#3)) Store-memory-bit (adr, bit#3, 0)		3 注3	3 注3	3 注3				×	
	reg2, [reg1]	rrrrr111111RRRRR 0000000011100100	adr←GR[reg1] Zフラグ←Not (Load-memory-bit (adr, reg2)) Store-memory-bit (adr, reg2, 0)		3 注3	3 注3	3 注3				×	
CMOV	cccc, imm5, reg2, reg3	rrrrr111111iiiii WWWWW011000cccc0	if conditions are satisfied then GR[reg3]←sign-extend (imm5) else GR[reg3]←GR[reg2]		1	1	1					
	cccc, reg1, reg2, reg3	rrrrr111111RRRRR WWWWW011001cccc0	if conditions are satisfied then GR[reg3]←GR[reg1] else GR[reg3]←GR[reg2]		1	1	1					
CMP	reg1, reg2	rrrrr001111RRRRR	result←GR[reg2]－GR[reg1]		1	1	1	×	×	×	×	
	imm5, reg2	rrrrr010011iiiii	result←GR[reg2]－sign-extend (imm5)		1	1	1	×	×	×	×	
CTRET		0000011111100000 0000000101000100	PC←CTPC PSW←CTPSW		3	3	3	R	R	R	R	R
DBRET		0000011111100000 0000000101000110	PC←DBPC PSW←DBPSW		3	3	3	R	R	R	R	R
DBTRAP		1111100001000000	DBPC ← PC＋2 (復帰PC) DBPSW ← PSW PSW.NP← 1 PSW.EP← 1 PSW.ID ← 1 PC ← 00000060H		3	3	3					
DI		0000011111100000 0000000101100000	PSW.ID←1		1	1	1					

(2/5)

ニモニック	オペランド	オペコード	オペレーション	実行クロック			フラグ				
				i	r	l	CY	OV	S	Z	SAT
DISPOSE	imm5, list12	0000011001iiiiiL LLLLLLLLLLL00000	sp←sp＋zero-extend (imm5 logically shift left by 2) GR[reg in list12]←Load-memory (sp, Word) sp←sp＋4 repeat 2 steps above until all regs in list12 is loaded	n＋1 注4	n＋1 注4	n＋1 注4					
	imm5, list12 [reg1]	0000011001iiiiiL LLLLLLLLLLLRRRRR 注5	sp←sp＋zero-extend (imm5 logically shift left by 2) GR[reg in list12]←Load-memory (sp, Word) sp←sp＋4 repeat 2 steps above until all regs in list12 is loaded PC←GR[reg1]	n＋3 注4	n＋3 注4	n＋3 注4					
DIV	reg1, reg2, reg3	rrrrr111111RRRRR WWWWW01011000000	GR[reg2]←GR[reg2]÷GR[reg1] GR[reg3]←GR[reg2]%GR[reg1]	35	35	35		×	×	×	
DIVH	reg1, reg2	rrrrr000010RRRRR	GR[reg2]←GR[reg2]÷GR[reg1]注6	35	35	35		×	×	×	
	reg1, reg2, reg3	rrrrr111111RRRRR WWWWW01010000000	GR[reg2]←GR[reg2]÷GR[reg1]注6 GR[reg3]←GR[reg2]%GR[reg1]	35	35	35		×	×	×	
DIVHU	reg1, reg2, reg3	rrrrr111111RRRRR WWWWW01010000010	GR[reg2]←GR[reg2]÷GR[reg1]注6 GR[reg3]←GR[reg2]%GR[reg1]	34	34	34		×	×	×	
DIVU	reg1, reg2, reg3	rrrrr111111RRRRR WWWWW01011000010	GR[reg2]←GR[reg2]÷GR[reg1] GR[reg3]←GR[reg2]%GR[reg1]	34	34	34		×	×	×	
EI		1000011111100000 0000000101100000	PSW.ID←0	1	1	1					
HALT		0000011111100000 0000000100100000	停止する	1	1	1					
HSW	reg2, reg3	rrrrr11111100000 WWWWW01101000100	GR[reg3]←GR[reg2] (15:0) ‖ GR[reg2] (31:16)	1	1	1	×	0	×	×	
JARL	disp22, reg2	rrrrr11110ddddd ddddddddddddddd0 注7	GR[reg2]←PC＋4 PC←PC＋sign-extend(disp22)	2	2	2					
JMP	[reg1]	00000000011RRRRR	PC←GR[reg1]	3	3	3					
JR	disp22	0000011110ddddd ddddddddddddddd0 注7	PC←PC＋sign-extend(disp22)	2	2	2					
LD.B	disp16[reg1], reg2	rrrrr111000RRRRR dddddddddddddddd	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) GR[reg2]←sign-extend (Load-memory (adr, Byte))	1	1	注11					
LD.BU	disp16[reg1], reg2	rrrrr11110bRRRRR dddddddddddddddd1 注8, 10	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) GR[reg2]←zero-extend (Load-memory (adr, Byte))	1	1	注11					
LD.H	disp16[reg1], reg2	rrrrr111001RRRRR dddddddddddddddd0 注8	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) GR[reg2]←sign-extend (Load-memory (adr, Halfword))	1	1	注11					
LDSR	reg2, regID	rrrrr111111RRRRR 0000000000100000 注12	SR[regID]←GR[reg2] regID = PSW以外	1	1	1					
			regID = PSW	1	1	1	×	×	×	×	×
LD.HU	disp16[reg1], reg2	rrrrr111111RRRRR dddddddddddddddd1 注8	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) GR[reg2]←zero-extend (Load-memory (adr, Halfword))	1	1	注11					

(3/5)

ニモニック	オペランド	オペコード	オペレーション	実行クロック			フラグ				
				i	r	l	CY	OV	S	Z	SAT
LD.W	disp16[reg1], reg2	rrrrr111001RRRRR ddddddddddddddd1 注8	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) GR[reg2]←Load-memory (adr, Word)	1	1	注11					
MOV	reg1, reg2	rrrrr000000RRRRR	GR[reg2]←GR[reg1]	1	1	1					
	imm5, reg2	rrrrr010000iiiii	GR[reg2]←sign-extend (imm5)	1	1	1					
	imm32, reg1	00000110001RRRRR iiiiiiiiiiiiiiii IIIIIIIIIIIIIIII	GR[reg1]←imm32	2	2	2					
MOVEA	imm16, reg1, reg2	rrrrr110001RRRRR iiiiiiiiiiiiiiii	GR[reg2]←GR[reg1]＋sign-extend (imm16)	1	1	1					
MOVHI	imm16, reg1, reg2	rrrrr110010RRRRR iiiiiiiiiiiiiiii	GR[reg2]←GR[reg1]＋(imm16 ‖ 0^{16})	1	1	1					
MUL	reg1, reg2, reg3	rrrrr111111RRRRR WWWWW01000100000	GR[reg3] ‖ GR[reg2]←GR[reg2]×GR[reg1] 注14	1	4	5					
	imm9, reg2, reg3	rrrrr111111iiiii WWWWW01001IIII00 注13	GR[reg3] ‖ GR[reg2]←GR[reg2]×sign-extend (imm9)	1	4	5					
MULH	reg1, reg2	rrrrr000111RRRRR	GR[reg2]←GR[reg2]注6×GR[reg1]注6	1	1	2					
	imm5, reg2	rrrrr010111iiiii	GR[reg2]←GR[reg2]注6×sign-extend (imm5)	1	1	2					
MULHI	imm16, reg1, reg2	rrrrr110111RRRRR iiiiiiiiiiiiiiii	GR[reg2]←GR[reg1]注6×imm16	1	1	2					
MULU	reg1, reg2, reg3	rrrrr111111RRRRR WWWWW01000100010	GR[reg3] ‖ GR[reg2]←GR[reg2]×GR[reg1] 注14	1	4	5					
	imm9, reg2, reg3	rrrrr111111iiiii WWWWW01001IIII10 注13	GR[reg3] ‖ GR[reg2]←GR[reg2]×zero-extend (imm9)	1	4	5					
NOP		0000000000000000	何もせず最低1クロック費やします	1	1	1					
NOT	reg1, reg2	rrrrr000001RRRRR	GR[reg2]←NOT (GR[reg1])	1	1	1		0	×	×	
NOT1	bit#3, disp16[reg1]	01bbb111110RRRRR ddddddddddddddd	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) Zフラグ←Not (Load-memory-bit (adr, bit#3)) Store-memory-bit (adr, bit#3, Zフラグ)	3 注3	3 注3	3 注3				×	
	reg2, [reg1]	rrrrr111111RRRRR 0000000011100010	adr←GR[reg1] Zフラグ←Not (Load-memory-bit (adr, reg2)) Store-memory-bit (adr, reg2, Zフラグ)	3 注3	3 注3	3 注3				×	
OR	reg1, reg2	rrrrr001000RRRRR	GR[reg2]←GR[reg2] OR GR[reg1]	1	1	1		0	×	×	
ORI	imm16, reg1, reg2	rrrrr110100RRRRR iiiiiiiiiiiiiiii	GR[reg2]←GR[reg1] OR zero-extend (imm16)	1	1	1		0	×	×	
PREPARE	list12, imm5	0000011110iiiiiL LLLLLLLLLLL00001	Store-memory (sp－4, GR[reg in list12], Word) sp←sp－4 repeat 1 steps above until all regs in list12 is stored sp←sp-zero-extend (imm5)	n＋1 注4	n＋1 注4	n＋1 注4					
	list12, imm5, sp/imm注15	0000011110iiiiiL LLLLLLLLLLLff011 imm16/imm32 注16	Store-memory (sp－4, GR[reg in list12], Word) sp←sp－4 repeat 1 steps above until all regs in list12 is stored sp←sp－zero-extend (imm5) ep←sp/imm	n＋2 注4 注17	n＋2 注4 注17	n＋2 注4 注17					

(4/5)

ニモニック	オペランド	オペコード	オペレーション	実行クロック			フラグ				
				i	r	l	CY	OV	S	Z	SAT
RETI		0000011111100000 0000000101000000	if PSW.EP = 1 then PC ← EIPC PSW ← EIPSW else if PSW.NP = 1 then PC ← FEPC PSW ← FEPSW else PC ← EIPC PSW ← EIPSW	3	3	3	R	R	R	R	R
SAR	reg1, reg2	rrrrr111111RRRRR 0000000010100000	GR[reg2]←GR[reg2] arithmetically shift right by GR[reg1]	1	1	1	×	0	×	×	
	imm5, reg2	rrrrr010101iiiii	GR[reg2]←GR[reg2] arithmetically shift right by zero-extend (imm5)	1	1	1	×	0	×	×	
SASF	cccc, reg2	rrrrr1111110cccc 0000001000000000	if conditions are satisfied then GR[reg2]←(GR[reg2] Logically shift left by 1) OR 00000001H else GR[reg2]←(GR[reg2] Logically shift left by 1) OR 00000000H	1	1	1					
SATADD	reg1, reg2	rrrrr000110RRRRR	GR[reg2]←saturated (GR[reg2]＋GR[reg1])	1	1	1	×	×	×	×	×
	imm5, reg2	rrrrr010001iiiii	GR[reg2]←saturated (GR[reg2]＋sign-extend (imm5))	1	1	1	×	×	×	×	×
SATSUB	reg1, reg2	rrrrr000101RRRRR	GR[reg2]←saturated (GR[reg2]－GR[reg1])	1	1	1	×	×	×	×	×
SATSUBI	imm16, reg1, reg2	rrrrr110011RRRRR iiiiiiiiiiiiiiii	GR[reg2]←saturated (GR[reg1]－sign-extend (imm16))	1	1	1	×	×	×	×	×
SATSUBR	reg1, reg2	rrrrr000100RRRRR	GR[reg2]←saturated (GR[reg1]－GR[reg2])	1	1	1	×	×	×	×	×
SETF	cccc, reg2	rrrrr1111110cccc 0000000000000000	if conditions are satisfied then GR[reg2]← 00000001H else GR[reg2]← 00000000H	1	1	1					
SET1	bit#3, disp16 [reg1]	00bbb111110RRRRR ddddddddddddddd	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) Zフラグ←Not (Load-memory-bit (adr, bit#3)) Store-memory-bit (adr, bit#3, 1)	3 注3	3 注3	3 注3				×	
	reg2, [reg1]	rrrrr111111RRRRR 0000000011100000	adr←GR[reg1] Zフラグ←Not (Load-memory-bit (adr, reg2)) Store-memory-bit (adr, reg2, 1)	3 注3	3 注3	3 注3				×	
SHL	reg1, reg2	rrrrr111111RRRRR 0000000011000000	GR[reg2]←GR[reg2] logically shift left by GR[reg1]	1	1	1	×	0	×	×	
	imm5, reg2	rrrrr010110iiiii	GR[reg2]←GR[reg2] logically shift left by zero-extend (imm5)	1	1	1	×	0	×	×	
SHR	reg1, reg2	rrrrr111111RRRRR 0000000010000000	GR[reg2]←GR[reg2] logically shift right by GR[reg1]	1	1	1	×	0	×	×	
	imm5, reg2	rrrrr010100iiiii	GR[reg2]←GR[reg2] logically shift right by zero-extend (imm5)	1	1	1	×	0	×	×	
SLD.B	disp7 [ep] , reg2	rrrrr0110ddddddd	adr←ep＋zero-extend (disp7) GR[reg2]←sign-extend (Load-memory (adr, Byte))	1	1	注9					
SLD.BU	disp4 [ep] , reg2	rrrrr0000110dddd 注18	adr←ep＋zero-extend (disp4) GR[reg2]←zero-extend (Load-memory (adr, Byte))	1	1	注9					
SLD.H	disp8 [ep] , reg2	rrrrr1000ddddddd 注19	adr←ep＋zero-extend (disp8) GR[reg2]←sign-extend (Load-memory (adr, Halfword))	1	1	注9					

(5/5)

ニモニック	オペランド	オペコード	オペレーション	実行クロック			フラグ				
				i	r	l	CY	OV	S	Z	SAT
SLD.HU	disp5 [ep] , reg2	rrrrr0000111dddd 注18, 20	adr←ep＋zero-extend (disp5) GR[reg2]←zero-extend (Load-memory (adr, Halfword))	1	1	注9					
SLD.W	disp8 [ep] , reg2	rrrrr1010dddddd0 注21	adr←ep＋zero-extend (disp8) GR[reg2]←Load-memory (adr, Word)	1	1	注9					
SST.B	reg2, disp7 [ep]	rrrrr0111ddddddd	adr←ep＋zero-extend (disp7) Store-memory (adr, GR[reg2], Byte)	1	1	1					
SST.H	reg2, disp8 [ep]	rrrrr1001ddddddd 注19	adr←ep＋zero-extend(disp8) Store-memory (adr, GR[reg2], Halfword)	1	1	1					
SST.W	reg2, disp8 [ep]	rrrrr1010dddddd1 注21	adr←ep＋zero-extend(disp8) Store-memory (adr, GR[reg2], Word)	1	1	1					
ST.B	reg2, disp16 [reg1]	rrrrr111010RRRRR ddddddddddddddd	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) Store-memory (adr, GR[reg2], Byte)	1	1	1					
ST.H	reg2, disp16 [reg1]	rrrrr111011RRRRR dddddddddddddd0 注8	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) Store-memory (adr, GR[reg2], Halfword)	1	1	1					
ST.W	reg2, disp16 [reg1]	rrrrr111011RRRRR dddddddddddddd1 注8	adr←GR[reg1]＋sign-extend(disp16) Store-memory (adr, GR[reg2], Word)	1	1	1					
STSR	regID, reg2	rrrrr111111RRRRR 0000000001000000	GR[reg2]←SR[regID]	1	1	1					
SUB	reg1, reg2	rrrrr001101RRRRR	GR[reg2]←GR[reg2]－GR[reg1]	1	1	1	×	×	×	×	
SUBR	reg1, reg2	rrrrr001100RRRRR	GR[reg2]←GR[reg1]－GR[reg2]	1	1	1	×	×	×	×	
SWITCH	reg1	00000000010RRRRR	adr←(PC＋2)＋(GR[reg1] logically shift left by 1) PC←(PC＋2)＋(sign-extend (Load-memory (adr, Halfward))) logically shift left by 1	5	5	5					
SXB	reg1	00000000101RRRRR	GR[reg1]←sign-extend (GR[reg1] (7：0))	1	1	1					
SXH	reg1	00000000111RRRRR	GR[reg1]←sign-extend (GR[reg1] (15：0))	1	1	1					
TRAP	vector	00000111111iiiii 0000000100000000	EIPC ← PC＋4 (復帰PC) EIPSW ← PSW ECR.EICC ← 割り込みコード PSW.EP ← 1 PSW.ID ← 1 PC ← 00000040H (vectorが00H-0FHのとき) 00000050H (vectorが10H-1FHのとき)	3	3	3					
TST	reg1, reg2	rrrrr001011RRRRR	result←GR[reg2] AND GR[reg1]	1	1	1		0	×	×	
TST1	bit#3, disp16 [reg1]	11bbb111110RRRRR ddddddddddddddd	adr←GR[reg1]＋sign-extend (disp16) Zフラグ←Not (Load-memory-bit (adr, bit#3))	3 注3	3 注3	3 注3				×	
	reg2, [reg1]	rrrrr111111RRRRR 0000000011100110	adr←GR[reg1] Zフラグ←Not (Load-memory-bit (adr, reg2))	3 注3	3 注3	3 注3				×	
XOR	reg1, reg2	rrrrr001001RRRRR	GR[reg2]←GR[reg2] XOR GR[reg1]	1	1	1		0	×	×	
XORI	imm16, reg1, reg2	rrrrr110101RRRRR iiiiiiiiiiiiiiii	GR[reg2]←GR[reg1] XOR zero-extend (imm16)	1	1	1		0	×	×	
ZXB	reg1	00000000100RRRRR	GR[reg1]←zero-extend (GR[reg1] (7：0))	1	1	1					
ZXH	reg1	00000000110RRRRR	GR[reg1]←zero-extend (GR[reg1] (15：0))	1	1	1					

注1. ddddddddはdisp9の上位8ビットです。

2. 直前にPSWの内容を書き換える命令がある場合は3。

3. ウエイト・ステートがない場合（3＋リード・アクセス・ウエイト・ステート数）

4. nはlist12のロード・レジスタの合計数（ウエイト・ステート数による。ウエイト・ステートがない場合，nはlist12のレジスタ数。n = 0の場合，n = 1と同じ動作）

5. RRRRR：00000以外

6. 下位ハーフワード・データだけ有効

7. dddddddddddddddddddddddはdisp22の上位21ビットです。

8. ddddddddddddddddはdisp16の上位15ビットです。

9. ウエイト・ステート数による（ウエイト・ステートがない場合は1）

10. b：disp16のビット0

11. ウエイト・ステート数による（ウエイト・ステートがない場合は2）

12. この命令ではニモニックの記述の都合上，ソース・レジスタをreg2としていますが，オペコード上はreg1のフィールドを使用しています。したがって，ニモニック記述とオペコードにおいてレジスタ指定の意味付けがほかの命令と異なります。

    rrrrr = regID指定

    RRRRR = reg2指定

13. iiiii：imm9の下位5ビット

    IIII：imm9の上位4ビット

14. 汎用レジスタreg1と汎用レジスタreg3に，同じレジスタを指定しないでください。

15. sp/imm：サブオペコードのビット19, 20で指定

16. ff = 00：spをepにロード

    01：符号拡張した16ビット・イミーディエト・データ（ビット47-32）をepにロード

    10：16ビット論理左シフトした16ビット・イミーディエト・データ（ビット47-32）をepにロード

    11：32ビット・イミーディエト・データ（ビット63-32）をepにロード

17. imm = imm32の場合はn＋3クロック

18. rrrrr：00000以外

19. ddddddはdisp8の上位7ビットです。

20. ddddはdisp5の上位4ビットです。

21. dddddはdisp8の上位6ビットです。

付録E　注意事項一覧

本書に記載されている注意事項の一覧です。

なお，表内の「分類（ハード／ソフト）」の区別は，次のとおりです。

ハード　：マイコン内部／外部のハードウエアについての注意事項

ソフト　：レジスタの設定やプログラムなどソフトウエアについての注意事項

(1/31)

章	分類	機　能	機能の詳細	注意事項	ページ
第1章	ハード	イントロダクション	FLMD0	通常モード時はVssに接続してください。	p.5 □
			REGC	REGC端子は4.7 μF（推奨値）のコンデンサを介し，Vssに接続してください。	p.5 □
第2章	ソフト	端子機能	P05	プルダウン抵抗を内蔵しています。OCDM.OCDM0ビットをクリアすることでプルダウン抵抗を切断できます。	p.12 □
	ハード		DDO	オンチップ・デバッグ・モード時，強制的にハイ・レベル出力に設定されます。	p.17 □
	ソフト		KR0-KR7	外部でプルアップ処理を行ってください。	p.18 □
			NMI	NMI端子はP02端子と兼用しており，リセット後はP02端子として機能します。NMI端子を有効にする場合は，PMC0.PMC02ビットをセット（1）してください。また，NMI端子の初期設定は“エッジ検出なし”になっています。INTF0, INTR0レジスタでNMI端子の有効エッジを選択してください。	p.18 □
	ハード		電源投入時	次に示す端子は，電源投入時にはリセット中でも一時的に不定レベルを出力する可能性があります。 ・P53/SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO端子	p.27 □
第3章	ソフト	CPU機能	EIPCレジスタ EIPSWレジスタ FEPCレジスタ FEPSWレジスタ	これらのレジスタは1組しかないため，多重割り込みを許す場合はプログラムでこのレジスタを退避する必要があります。	p.31 □
			EIPC, FEPC, CTPCレジスタ	LDSR命令によりEIPCかFEPC，またはCTPCのビット0をセット（1）しても，割り込み処理後のRETI命令で復帰するときにビット0は無視されます（PCのビット0を0固定してあるため）。EIPC, FEPC, CTPCに値を設定する場合は，偶数値（ビット0 = 0）を設定してください。	p.31 □
			プログラム空間	03FFF000H-03FFFFFFHの4 Kバイトの領域は，内蔵周辺I/O領域のため，命令フェッチすることができません。したがって，分岐アドレス計算の結果がこの領域にかかるような操作はしないようにしてください。	p.37 □
			内蔵周辺I/O領域	レジスタにワード・アクセスを行うと，アドレスの下位2ビットを無視したワード領域に対し下位，上位の順番でハーフワード・アクセスを2回行います。	p.46 □
				バイト・アクセス可能なレジスタにハーフワード・アクセスした場合，リード時は上位8ビットが不定になり，ライト時は下位8ビット・データがレジスタに書き込まれます。	p.46 □
				レジスタとして定義されていないアドレスは，将来の拡張用に予約されており，アクセスした場合の動作は不定であり，保証しません。	p.46 □
			内蔵RAM領域	内蔵RAM領域の上限に分岐命令がある場合，内蔵周辺I/O領域にまたがるプリフェッチ動作（無効フェッチ）は発生しません。	p.47 □
			特定レジスタへのデータ設定	IDLE1, IDLE2, STOPモードに移行する場合（PSC.STPビット= 1）には，直後にNOP命令を5命令以上挿入する必要があります。	p.63 □
				コマンド･レジスタに対するストア命令では，割り込みを受け付けません。これはプログラムで上記③，④を連続したストア命令で行うことを前提としているためです。③，④の間にほかの命令が置かれていると，その命令で割り込みを受け付けた際，上記シーケンスが成立しなくなる場合があり，誤動作の要因となります。	p.63 □

(2/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第3章	ソフト	CPU機能	特定レジスタへのデータ設定	PRCMDレジスタへ書き込むデータはダミーですが，特定レジスタへの設定（例④）で使用する汎用レジスタと同じレジスタをPRCMDレジスタ書き込み（例③）でも使用してください。 アドレシングに汎用レジスタを使用する場合も同様です。	p.63 □
			SYSレジスタ	PRCMDレジスタへの書き込み動作直後に，特定レジスタではないSYSレジスタのPRERRビットに“0”を書き込んだ場合，PRERRビットは“0”になります（ライト優先）。	p.65 □
				PRCMDレジスタへの書き込み動作直後に，特定レジスタではないPRCMDレジスタへの書き込み動作を行った場合，PRERRビットは“1”になります。	p.65 □
			最初に設定するレジスタ	V850ES/JJ3を使用する際には，必ず最初に次のレジスタを設定してください。 ・システム・ウエイト・コントロール・レジスタ（VSWC） ・オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ（OCDM） ・ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2（WDTM2）	p.66 □
			VSWCレジスタ	内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスは3クロック（ノー・ウエイト時）ですが，V850ES/JJ3では動作周波数によりウエイトが必要です。使用する動作周波数に応じて，VSWCレジスタには次に示す値を設定してください。	p.66 □
			特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについて	次に示す状態において，上記レジスタへのアクセスは禁止です。ウエイトが発生した場合，解除する方法はリセットだけです。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.67 □
第4章	ハード	ポート機能	ポートの基本構成	ポート0, 3-6, 8, 9は，5 Vトレラント対応	p.70 □
	ソフト		PFnレジスタ	ポート・モード時（PMCnmビット= 0），PFnレジスタのPFnmビットは，PMnレジスタのPMnmビット= 0（出力モード時）のときのみ有効です。PMnmビット= 1（入力モード時）のときは，PFnレジスタの設定値は無効です。	p.74 □
	ハード・ソフト		ポート0	$\overline{\text{DRST}}$端子はオンチップ・デバッグ用の端子です。 オンチップ・デバッグを使用しない場合，$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット解除後から，OCDM.OCDM0ビットをクリア（0）するまで，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子状態をロウ・レベルに固定してください。 詳細は，4. 6. 3 オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項を参照してください。	p.76 □
	ハード			P00-P06端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。	p.76 □
	ソフト		PMC0レジスタ	P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子は，OCDM.OCDM0ビット= 1のときは，PMC05ビットの値に関係なく$\overline{\text{DRST}}$端子となります。	p.77 □
			PF0レジスタ	出力端子に対してEV_{DD}以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF0nビットを1に設定してください。	p.78 □
			P1レジスタ	D/A変換中にP1レジスタをリード／ライトしないでください（14. 4. 3 使用上の注意点参照）。	p.79 □
			PM1レジスタ	P1nを兼用機能（ANOn端子出力）として使用する場合，PM1nビットを1に設定してください。	p.79 □
				1本を入出力ポート，1本をD/A出力端子として使用する場合，D/A出力中は，ポートの入出力レベルが変化しないようなアプリケーションで使用してください。	p.79 □
	ハード		ポート3	P31-P35, P38, P39端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。	p.80 □
	ソフト		P3レジスタ	P3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，P3Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.81 □
			PM3レジスタ	PM3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PM3Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.81 □

(3/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第4章	ソフト	ポート機能	PMC3レジスタ	ビット15-10, 7, 6には必ず“0”を設定してください。	p.82 □
				PMC3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PMC3Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.82 □
			PFC3レジスタ	PFC3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PFC3Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.83 □
			PFCE3Lレジスタ	ビット7-3, 1, 0には必ず“0”を設定してください。	p.83 □
			PFC31/RXDA0入力/INTP7入力	INTP7端子とRXDA0端子は兼用となっています。RXDA0端子として使用する場合は，兼用しているINTP7端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF3.INTF31ビット= 0, INTR3.INTR31ビット = 0に設定）。また，INTP7端子として使用する場合は，UARTA0を受信動作停止としてください（UA0CTL0.UA0RXEビット = 0）。	p.84 □
			PF3レジスタ	出力端子に対してEV$_{DD}$以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF3nビットを1に設定してください。	p.85 □
				PF3レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PF3Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.85 □
	ハード		ポート4	P40-P42端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。	p.86 □
	ソフト		PF4レジスタ	出力端子に対してEV$_{DD}$以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF4nビットを1に設定してください。	p.88 □
	ハード・ソフト		ポート5	DDI, DDO, DCK, DMS端子はオンチップ・デバッグ用の端子です。 オンチップ・デバッグを使用しない場合，$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット解除後から，OCDM.OCDM0ビットをクリア（0）するまで，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子状態をロウ・レベルに固定してください。 詳細は，4. 6. 3 オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項を参照してください。	p.89 □
	ハード			P53端子は，電源投入時にはリセット中でも一時的に不定レベルを出力する可能性があります。	p.89 □
				P50-P55端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。	p.89 □
	ソフト		ポート5の兼用機能の指定	KRn端子とTIQ0m端子は兼用となっています。端子をTIQ0m端子として使用する場合は，兼用しているKRn端子のキー・リターン検出を無効にしてください（KRM.KRMnビットに0を設定）。また，KRn端子として使用する場合は，兼用しているTIQ0m端子のエッジ検出を無効にしてください。	p.92 □
			PF5レジスタ	出力端子に対してEV$_{DD}$以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF5nビットを1に設定してください。	p.93 □
	ハード		ポート6	P66, P68-P610, P612, P613端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。	p.94 □
	ソフト		P6レジスタ	P6レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，P6Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.95 □
			PM6レジスタ	PM6レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PM6Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.95 □
			PMC6レジスタ	PMC6レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PMC6Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.96 □
			PF6レジスタ	出力端子に対してEV$_{DD}$以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF6nビットを1に設定してください。	p.97 □
				PF6レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PF6Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.97 □
			P7Hレジスタ, P7Lレジスタ	A/D変換中にP7H, P7Lレジスタをリード／ライトしないでください（13. 6（4）兼用入出力について参照）。	p.99 □
			PM7Hレジスタ, PM7Lレジスタ	P7n端子を兼用機能（ANIn端子）として使用する場合は，PM7nビット= 1に設定してください。	p.99 □
	ハード		ポート8	P80端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。	p.100 □
	ソフト		PMC8レジスタ	INTP8端子とRXDA3端子は兼用となっています。RXDA3端子として使用する場合は，兼用しているINTP8端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF8.INTF80ビット= 0, INTR8.INTR80ビット= 0に設定）。また，INTP8端子として使用する場合は，UARTA3を受信動作停止としてください（UA3CTL0.UA3RXEビット= 0）。	p.101 □

(4/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第4章	ソフト	ポート機能	PF8レジスタ	出力端子に対してEV$_{DD}$以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF8nビットを1に設定してください。	p.101 □
	ハード		ポート9	P90-P97, P99, P910, P912-P915端子は，兼用機能の入力時にはヒステリシス特性を持ちますが，ポート・モード時にはヒステリシス特性を持ちません。	p.102 □
	ソフト		P9レジスタ	P9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，P9Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.103 □
			PM9レジスタ	PM9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PM9Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.103 □
			PMC9レジスタ	PMC9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PMC9Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.104 □
				P90-P915端子の兼用機能としてA0-A15端子を使用する場合は，必ずPMC9レジスタを16ビット一括してFFFFHとしてください。	p.105 □
			PFC9レジスタ	セパレート・アドレス・バス出力（A0-A15）を行う場合，PFC9, PFCE9レジスタを0000Hに設定後，PMC9レジスタをFFFFHに16ビット一括で設定してください。	p.106 □
				PFC9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PFC9Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.106 □
			PFCE9レジスタ	セパレート・アドレス・バス出力（A0-A15）を行う場合，PFC9, PFCE9レジスタを0000Hに設定後，PMC9レジスタをFFFFHに16ビット一括で設定して下さい。	p.106 □
				PFCE9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PFCE9Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.106 □
			ポート9の兼用機能の指定	RXDA1端子とKR7端子は同時に使用することはできません。RXDA1端子を使用する場合は，KR7端子を使用しないでください。また，KR7端子を使用する場合は，RXDA1端子を使用しないでください。 （PFC91ビット= 1, PFCE91ビット= 0に設定することを推奨します）。	p.108 □
			PF9レジスタ	出力端子に対してEV$_{DD}$以上の電圧でプルアップする場合は，必ず該当するPF9nビットを1に設定してください。	p.109 □
				PF9レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PF9Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.109 □
			PDLレジスタ	PDLレジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PDLHレジスタのビット0-7として指定してください。	p.120 □
			PMDLレジスタ	PMDLレジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PMDLHレジスタのビット0-7として指定してください。	p.120 □
			PMCDLレジスタ	EXIMCレジスタのSMSELビット= 1（セパレート・モード）かつBSCレジスタのBS30-BS00ビット= 0（8ビット・バス幅）のとき，AD8-AD15端子を指定しないでください。	p.121 □
				PMCDLレジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，PMCDLHレジスタのビット0-7として指定してください。	p.121 □
			ポート端子を兼用端子として使用する場合	INTP7端子とRXDA0端子は兼用となっています。RXDA0端子として使用する場合は兼用しているINTP7端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF3.INTF31ビット= 0, INTR3.INTR31ビット= 0に設定）。またINTP7端子として使用する場合はUARTA0を受信動作停止としてください（UA0CTL0.UA0RXEビット= 0）。	p.154 □
				P10, P11端子を，1本を入出力ポート，1本をD/A出力端子（ANO0, ANO1）として使用する場合，D/A出力中は，ポートの入出力レベルが変化しないようにしてください。	p.154 □
				INTP8端子とRXDA3端子は兼用となっています。RXDA3端子として使用する場合は兼用しているINTP8端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF8.INTF80ビット= 0, INTR8.INTR80ビット= 0に設定）。またINTP8端子として使用する場合はUARTA3を受信動作停止としてください（UA0CTL3.UA3RXEビット= 0）。	p.158 □
				A0-A15端子に設定する際は，一括してPMC9レジスタ= FFFFHに16ビット設定してください。	p.158 □
				RXDA1端子とKR7端子は同時に使用することはできません。RXDA1端子を使用する場合は，KR7端子を使用しないでください。また，KR7端子を使用する場合は，RXDA1端子を使用しないでください。（PFC91ビット= 1, PFCE91ビット= 0に設定することを推奨します）。	p.158 □
				A0-A15端子に設定する際は，一括してPMC9レジスタ= FFFFHに16ビット設定してください。	p.159, 160 □

(5/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第4章	ソフト	ポート機能	ポート・モードから兼用機能モードへ切り替え時	ポート・モードから兼用機能モードへ切り替える場合は，次の順序で行ってください。 ① PFnレジスタを設定 ：N-chオープン・ドレーン設定 ② PFCn, PFCEnレジスタを設定 ：兼用端子機能選択 ③ PMCnレジスタの該当ビットに1を設定：兼用機能モードへ切り替え PMCnレジスタを先に設定すると，その瞬間，またそのあとのPFn, PFCn, PFCEnレジスタの設定に伴う端子状態の変化によっては，意図しない動作に陥る可能性があるので注意してください。	p.162 □
				ポート・モード／兼用機能モードに関係なく，Pnレジスタのリード／ライトは次のようになります。 ・Pnレジスタのリード：ポート出力ラッチの値（PMn.PMnmビット= 0時），または端子状態（PMn.PMnmビット= 1時）の読み出し ・Pnレジスタへのライト：ポート出力ラッチへの書き込み	p.162 □
			兼用機能モード（入力）に関する注意事項	兼用機能ブロックへの入力信号は，PMCnレジスタの設定値と端子レベルのAND出力のため，PMCn.PMCnmビット= 0のときはロウ・レベルとなります。そのため，ポート設定と兼用機能動作許可のタイミングによっては，意図しない動作に陥る可能性があります。したがって，PMCnレジスタによるポート・モードと兼用機能モードの切り替えは，次に示す順序で実行してください。 ・ポート・モードから兼用機能モード（入力）へ切り替える場合 PMCnレジスタで端子を兼用機能モードにしてから，兼用機能の動作を許可してください。 ・兼用機能モード（入力）からポート・モードへ切り替える場合 兼用機能の動作を停止してから，端子をポート・モードへ切り替えてください。	p.163 □
			ポート・モードにおいてのPFn.PFnmビット	ポート・モードにおいてPFn.PFnmビットは，出力モード（PMn.PMnmビット= 0）時のみ有効となります。入力モード（PMnmビット= 1）のとき，PFnmビットの値はバッファに反映されません。	p.164 □
			ポートnレジスタ（Pn）に対するビット操作命令に関する注意事項	入力／出力が混在しているポートに対して1ビット操作命令を行った場合，操作対象のビットだけでなく，操作対象ではない入力ポートの出力ラッチの値も書き換わる可能性があります。 そのため，任意のポートを入力モードから出力モードに切り替える前には，出力ラッチの値を書き直すことを推奨します。	p.165 □
	ハード・ソフト		オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項	オンチップ・デバッグを使用しない場合は，次の処置が必要です。 ・OCDMレジスタ（特定レジスタ）のOCDM0ビットをクリア（0） このとき，$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット解除時から，上記の処理を終えるまで，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子をロウ・レベル固定にしてください。 上記処置を行う前に$\overline{\text{DRST}}$端子にハイ・レベルを入力すると，誤動作（CPUデッド・ロック）の原因となるため，P05端子の取り扱いには十分注意してください。	p.166 □
	ハード			WDT2RES信号，クロック・モニタ（CLM），低電圧検出回路（LVI）によるリセット時は，P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子はオンチップ・デバッグ用端子（$\overline{\text{DRST}}$）に初期化されません。また，OCDMレジスタも値を保持します。	p.166 □
			P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子に関する注意事項	P05/INTP2/$\overline{\text{DRST}}$端子はプルダウン抵抗（30 kΩ（TYP.））を内蔵しています。$\overline{\text{RESET}}$端子によるリセット後は，プルダウン抵抗が接続されています。OCDM0ビットをクリア（0）することにより，プルダウン抵抗は切断されます。	p.166 □
			P53端子に関する電源投入時の注意事項	次に示す端子は，電源投入時にはリセット中でも一時的に不定レベルを出力する可能性があります。 ・P53/SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO端子	p.166 □
			ヒステリシス特性について	ポート・モードでは，次のポートはヒステリシス特性を持ちません。 P00-P06 P31-P35, P38, P39 P40-P42 P50-P55 P66, P68-P610, P612, P613 P80 P90-P97, P99, P910, P912-P915	p.166 □

(6/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第5章	ソフト	バス制御機能	内蔵ROMアクセス時の端子状態	内蔵ROM領域へライト・アクセスしたときには，外部メモリ領域へのアクセスと同じく，アドレス，データ，制御信号ともに活性化されます。	p.168 □
			EXIMCレジスタ	EXIMCレジスタの設定は，外部アクセスを行う前に，内蔵ROMまたは内蔵RAM領域から行ってください。 また，EXIMCレジスタ設定後には，必ずNOP命令を1つ挿入してください。	p.170 □
			BSCレジスタ	BSCレジスタへの書き込みはリセット後に行い，そのあとは値を変更しないでください。また，BSCレジスタの初期設定が終わるまでは，外部メモリ領域をアクセスしないでください。	p.171 □
				ビット14, 12, 10, 8には必ず1を設定し，ビット15, 13, 11, 9, 7, 5, 3, 1には必ず0を設定してください。	p.171 □
			DWC0レジスタ	内蔵ROM領域，内蔵RAM領域は，プログラマブル・ウエイトの対象外で，常にノー・ウエイト・アクセスを行います。また，内蔵周辺I/O領域も，プログラマブル・ウエイトの対象外で，各周辺機能からのウエイト制御だけ行われます。	p.179 □
				DWC0レジスタへの書き込みはリセット後に行い，そのあとは値を変更しないでください。また，DWC0レジスタの初期設定が終わるまでは，外部メモリ領域をアクセスしないでください。	p.179 □
				セパレート・バスで使用し，かつf_{XX}＞20 MHzで動作させる場合，必ずウエイトを1つ以上挿入してください。	p.179 □
				ビット15, 11, 7, 3には必ず0を設定してください。	p.179 □
			AWCレジスタ	内蔵ROM領域，内蔵RAM領域，内蔵周辺I/O領域は，アドレス・セットアップ・ウエイト／アドレス・ホールド・ウエイト挿入の対象外になります。	p.182 □
				AWCレジスタへの書き込みはリセット後に行い，そのあとは値を変更しないでください。また，AWCレジスタの初期設定が終わるまでは，外部メモリ領域をアクセスしないでください。	p.182 □
				f_{XX}＞20 MHzで動作させる場合，必ずアドレス・ホールド・ウエイトとアドレス・セットアップ・ウエイトを挿入してください。	p.182 □
				ビット15-8には必ず1を設定してください。	p.182 □
			BCCレジスタ	内蔵ROM領域，内蔵RAM領域，内蔵周辺I/O領域は，アイドル・ステート挿入の対象外になります。	p.183 □
				BCCレジスタへの書き込みはリセット後に行い，そのあとは値を変更しないでください。また，BCCレジスタの初期設定が終わるまでは，外部メモリ領域をアクセスしないでください。	p.183 □
				ビット15, 13, 11, 9には必ず1を設定し，ビット14, 12, 10, 8, 6, 4, 2, 0には必ず0を設定してください。	p.183 □
第6章	ソフト	クロック発生機能	PCCレジスタ	CLKOUTを出力している間は，CPUクロック（CK3-CK0ビット）を変更しないでください。	p.197 □
				CK3ビットを操作する際は，ビット操作命令で行ってください。8ビット操作命令で行う場合は，CK2-CK0ビットの設定値を変更しないでください。	p.197 □
				メイン・クロックを停止する場合は，PLLを停止してください。また，メイン・クロックで動作している内蔵周辺機能を動作停止にしてください。	p.198 □
				次の条件を満たしていない場合は，条件を満たすようにCK2-CK0ビットを変更後，サブクロック動作モードに移行してください。 内部システム・クロック（f_{CLK}）＞サブクロック（f_{XT}：32.768 kHz）×4	p.198 □
				メイン・クロックで動作する内蔵周辺機能は，メイン・クロックの発振が安定してから動作を許可してください。発振安定時間が経過する前に動作許可すると，誤動作する可能性があります。	p.199 □
			RCMレジスタ	CPUが内蔵発振クロックで動作している間（CCLS.CCLSFビット= 1）は内蔵発振器を停止できません。RSTOPビットをセット（1）しないでください。	p.200 □
				RSTOPビットがセット（1）されている場合でも，CCLS.CCLSFビットがセット（1）されると（発振安定時間中にWDTオーバフローが発生），内蔵発振器は発振します。このときRSTOPビットはセット（1）されたままです。	p.200 □

(7/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第6章	ソフト	クロック発生機能	PLLCTLレジスタ	PLLONビット= 0に設定すると，自動的にSELPLLビット= 0（クロック・スルー・モード）になります。	p.202 □
				SELPLLビット= 1の設定は，PLLクロック周波数が安定した状態のときのみ可能です。安定していないとき（アンロック中）にSELPLLビットをライトすると“0”がライトされます。	p.202 □
			CKCレジスタ	fx = 5.0～10.0 MHzではPLLモードは使用できません。	p.203 □
				CKCレジスタで4逓倍／8逓倍を切り替える場合は，クロック・スルー・モードに設定し，PLLを停止してから逓倍率を変更してください。	p.203 □
				ビット3, 1には必ず1を設定し，ビット7- 4, 2には必ず0を設定してください。	p.203 □
			LOCKRレジスタ	LOCKビットはPLLのロック状態をリアルタイムに反映するものではありません。	p.204 □
			PLLSレジスタ	ロックアップ時間は，800 μs以上になるように設定してください。	p.205 □
				ロックアップ期間中は，PLLSレジスタの設定を変更しないでください。	p.205 □
第7章	ソフト	16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP）	TPnCTL0レジスタ	TPnCKS2-TPnCKS0ビットは，TPnCEビット= 0のときに設定してください。TPnCEビットを“0”から“1”に設定するときに，同時にTPnCKS2-TPnCKS0ビットを設定できます。	p.211 □
				ビット3-6には必ず“0”を設定してください。	p.211 □
			TPnCTL1レジスタ	TPnESTビットは，外部トリガ・パルス出力モードまたはワンショット・パルス出力モード時のみ有効です。それ以外のモードでは，“1”をライトしても無視されます。	p.212 □
				外部イベント・カウント・モードのときは，TPnEEEビットの値にかかわらず外部イベント・カウント入力が選択されます。	p.212 □
				TPnEEE, TPnMD2-TPnMD0ビットは，TPnCTL0.TPnCEビット= 0のときに設定してください（TPnCEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。TPnCEビット= 1のときに書き換えた場合，動作を保証できません。誤って書き換えた場合は，TPnCEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.212 □
				ビット3, 4, 7には必ず“0”を設定してください。	p.212 □
			TPnIOC0レジスタ	TPnOL1, TPnOE1, TPnOL0, TPnOE0ビットは，TPnCTL0.TPnCEビット= 0のときに書き換えてください（TPnCEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TPnCEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.213 □
				TPnCEビット= 0, TPnOEmビット= 0の状態において，TPnOLmビットを操作した場合でも，TOPnm端子の出力レベルは変化します。	p.213 □
			TPnIOC1レジスタ	TPnIS3-TPnIS0ビットは，TPnCTL0.TPnCEビット= 0のときに書き換えてください（TPnCEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TPnCEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.214 □
				TPnIS3-TPnIS0ビットは，フリー・ランニング・タイマ・モードと，パルス幅測定モードのときのみ有効です。それ以外のモードではキャプチャ動作は行われません。	p.214 □
			TPnIOC2レジスタ	TPnEES1, TPnEES0, TPnETS1, TPnETS0ビットは，TPnCTL0.TPnCEビット= 0のときに書き換えてください（TPnCEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TPnCEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.215 □
				TPnEES1, TPnEES0ビットは，TPnCTL1.TPnEEEビット= 1，または外部イベント・カウント・モード（TPnCTL1.TPnMD2-TPnMD0ビット= 001）に設定したときのみ有効です。	p.215 □
				TPnETS1, TPnETS0ビットは，外部トリガ・パルス出力モード（TPnCTL1.TPnMD2-TPnMD2-TPnMD0ビット= 010），ワンショット・パルス出力モー（TPnCTL1.TPnMD2-TPnMD0 = 011）に設定したときのみ有効です。	p.215 □
			TPnOPT0レジスタ	TPnCCS1, TPnCCS0ビットは，TPnCEビット= 0のときに書き換えてください（TPnCEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。 誤って書き換えた場合は，TPnCEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.216 □
				ビット1-3, 6, 7には必ず“0”を設定してください。	p.216 □
			TPnCCR0レジスタ	次に示す状態において，TPnCCR0レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.217 □

(8/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第7章	ソフト	16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP）	TPnCCR1レジスタ	次に示す状態において，TPnCCR1レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.219 □
			TPnCNTレジスタ	次に示す状態において，TPnCNTレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.221 □
			動作	外部イベント・カウント・モードを使用する場合，TIPn0端子のキャプチャ・トリガ入力の有効エッジの設定を，エッジを検出しない（TPnIOC1.TPnIS1，TPnIS0ビットを“00”）に設定してください。	p.222 □
				外部トリガ・パルス出力モード，ワンショット・パルス出力モード，パルス幅測定モードを使用する場合，カウント・クロックは内部クロックを選択（TPnCTL1.TPnEEEビット= 0に設定）してください。	p.222 □
			インターバル・タイマ・モード（TPnMD2-TPnMD0ビット= 000）	割り込み要求信号（INTTPnCC0, INTTPnCC1）を割り込みマスク・フラグ（TPnCCMK0, TPnCCMK1）でマスク設定し，タイマ出力（TOPn1）する場合だけ，1に設定することを許可します。ただし，TPnCCR0,TPnCCR1レジスタの設定値は同値にしてください（7. 5. 1（2）（d）TPnCCR1レジスタの動作参照）。	p.224 □
			TPnCCR0レジスタの書き換えに関する注意事項	TPnCCR0レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。 カウント動作中にTPnCCR0レジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。	p.229 □
			外部イベント・カウント・モード動作時のレジスタ設定内容	カウント・クロックとして外部クロックを使用するときは，外部クロックはTIPn0端子からのみ入力できます。このとき，TPnIOC1.TPnIS1, TPnIS0ビット = 00（キャプチャ・トリガ入力（TIPn0端子）：エッジ検出なし）に設定してください。	p.235 □
			外部イベント・カウント・モード（TPnMD2-TPnMD0ビット= 001）	外部イベント・カウント・モード時，TPnCCR0レジスタには，0000Hを設定しないでください。	p.237 □
				外部イベント・カウント・モード時，タイマ出力は使用禁止です。外部イベント・カウント入力でタイマ出力を行う場合は，インターバル・タイマ・モードに設定してカウント・クロックを外部イベント・カウント入力での動作許可に選択してください（TPnCTL1.TPnMD2-TPnMD0ビット= 000, TPnCTL1.TPnEEEビット= 1）。	p.237 □
			TPnCCR0レジスタの書き換えに関する注意事項	TPnCCR0レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。 カウント動作中にTPnCCR0レジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。	p.238 □
			TPnIOC0. TPnOE0, TPnOL0ビット	外部トリガ・パルス出力モードでTOPn0端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。	p.243 □
			動作中のパルス幅変更の注意事項	動作中にPWM波形を変更する場合には，最後にTPnCCR1レジスタにライトしてください。TPnCCR1レジスタにライト後，再度TPnCCRmレジスタの書き換えを行う場合には，INTTPnCC0信号を検出後に書き換えてください。	p.247 □
			TPnIOC0. TPnOE0, TPnOL0ビット	ワンショット・パルス出力モードでTOPn0端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。	p.255 □
			ワンショット・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容	ワンショット・パルス出力モードにおいて，TPnCCR1レジスタの設定値がTPnCCR0レジスタより大きい場合，ワンショット・パルスは出力しません。	p.256 □
			TPnCCRmレジスタの書き換えに関する注意事項	TPnCCRmレジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。 カウント動作中にTPnCCRmレジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。	p.258 □
			TPnIOC0. TPnOE0, TPnOL0ビット	PWM出力モードでTOPn0端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。	p.262 □
			セレクタ機能	セレクタ機能を使用する場合は，接続されるTMPをキャプチャ・トリガ入力に設定してください。	p.293 □
				セレクタ機能を設定する場合は，接続される周辺I/O（TMP，UARTA）を動作禁止にしてから設定してください。	p.293 □

(9/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第7章	ソフト	16ビット・タイマ／イベント・カウンタP (TMP)	SELCNT0レジスタ	ISEL3, ISEL4, ISEL6の各ビットを“1”に設定する場合は，対応する機能端子をキャプチャ入力に設定してください。	p.294 □
				ビット7, 5, 2-0には必ず“0”を設定してください。	p.294 □
			キャプチャ動作	キャプチャ動作を使用し，かつカウント・クロックとして遅いクロックを選択した場合，TPnCEビットをセット（1）したすぐあとに，キャプチャ・トリガが入力されると，TPnCCR0, TPnCCR1レジスタに0000Hではなく FFFFHがキャプチャされる場合があります。	p.295 □
第8章	ソフト	16ビット・タイマ／イベント・カウンタQ (TMQ)	TQ0CTL0レジスタ	TQ0CKS2-TQ0CKS0ビットは，TQ0CEビット= 0のときに設定してください。TQ0CEビットを“0”から“1”に設定するときに，同時にTQ0CKS2-TQ0CKS0ビットを設定できます。	p.301 □
				ビット3-6には必ず“0”を設定してください。	p.301 □
			TQ0CTL1レジスタ	TQ0ESTビットは，外部トリガ・パルス出力モードまたはワンショット・パルス出力モード時のみ有効です。それ以外のモードでは，“1”をライトしても無視されます。	p.302 □
				外部イベント・カウント・モードのときは，TQ0EEEビットの値にかかわらず外部イベント・カウント入力が選択されます。	p.302 □
				TQ0EEE, TQ0MD2-TQ0MD0ビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット= 0のときに設定してください（TQ0CEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。TQ0CEビット= 1のときに書き換えた場合，動作を保証できません。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.302 □
				ビット3, 4, 7は必ず“0”を設定してください。	p.302 □
			TQ0IOC0レジスタ	TQ0OLm, TQ0OEmビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット= 0のときに書き換えてください（TQ0CEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.303 □
				TQ0CEビット= 0, TQ0OEmビット= 0の状態において，TQ0OLmビットを操作した場合でも，TOQ0m端子の出力レベルは変化します。	p.303 □
			TQ0IOC1レジスタ	TQ0IS7-TQ0IS0ビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット= 0のときに書き換えてください（TQ0CEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.304 □
				TQ0IS7-TQ0IS0ビットは，フリー・ランニング・タイマ・モードと，パルス幅測定モードのときのみ有効です。それ以外のモードではキャプチャ動作は行われません。	p.304 □
			TQ0IOC2レジスタ	TQ0EES1, TQ0EES0, TQ0ETS1, TQ0ETS0ビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット= 0のときに書き換えてください（TQ0CEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.305 □
				TQ0EES1, TQ0EES0ビットは，TQ0CTL1.TQ0EEEビット= 1，または外部イベント・カウント・モード（TQ0CTL1.TQ0MD2-TQ0MD0ビット= 001）に設定したときのみ有効です。	p.305 □
				TQ0ETS1, TQ0ETS0ビットは，外部トリガ・パルス出力モード（TQ0CTL1.TQ0MD2-TQ0MD0ビット= 010），ワンショット・パルス出力モード（TQ0CTL1.TQ0MD2-TQ0MD0ビット= 011）に設定したときのみ有効です。	p.305 □
			TQ0OPT0レジスタ	TQ0CCS3-TQ0CCS0ビットは，TQ0CTL0.TQ0CEビット= 0のときに書き換えてください（TQ0CEビット= 1のときの同値書き込みは可能）。誤って書き換えた場合は，TQ0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.306 □
				ビット1-3には必ず“0”を設定してください。	p.306 □
			TQ0CCR0レジスタ	次に示す状態において，TQ0CCR0レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8 (2) 特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.307 □
			TQ0CCR1レジスタ	次に示す状態において，TQ0CCR1レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8 (2) 特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブク・ロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.309 □
			TQ0CCR2レジスタ	次に示す状態において，TQ0CCR2レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8 (2) 特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.311 □

(10/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第8章	ソフト	16ビット・タイマ／イベント・カウンタQ (TMQ)	TQ0CCR3レジスタ	次に示す状態において，TQ0CCR3レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8 (2) 特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.313 □
			TQ0CNTレジスタ	次に示す状態において，TQ0CNTレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8 (2) 特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.315 □
			外部イベント・カウント・モード	外部イベント・カウント・モードを使用する場合，TIQ00端子のキャプチャ・トリガ入力の有効エッジの設定を，エッジを検出しない（TQ0IOC1.TQ0IS1, TQ0IS0ビットを“00”）に設定してください。	p.316 □
			外部トリガ・パルス出力モード，ワンショト・パルス出力モード，パルス幅測定モード	外部トリガ・パルス出力モード，ワンショト・パルス出力モード，パルス幅測定モードを使用する場合，カウント・クロックは内部クロックを選択（TQ0CTL1.TQ0EEEビット= 0に設定）してください。	p.316 □
			TQ0CTL1. TQ0EEEビット	割り込み要求信号（INTTQ0CC0, INTTQ0CCk）を割り込みマスク・フラグ（TQ0CCMK0, TQ0CCMKk）でマスク設定し，タイマ出力（TOQ0k）する場合だけ，1に設定することを許可します。ただし，TQ0CCR0,TQ0CCRkレジスタの設定値は，同値にしてください（8. 5. 1（2）（d）TQ0CCR1-TQ0CCR3レジスタの動作参照）。	p.318 □
			TQ0CCR0 レジスタの書き換えに関する注意事項	TQ0CCR0レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。 カウント動作中にTQ0CCR0レジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。	p.322, 331 □
			外部イベント・カウント・モード動作時のレジスタ設定内容	カウント・クロックとして外部クロックを使用するときは，外部クロックはTIQ00端子からのみ入力できます。このとき，TQ0IOC1.TQ0IS1, TQ0IS0ビット = 00（キャプチャ・トリガ入力（TIQ00端子）：エッジ検出なし）に設定してください。	p.328 □
			外部イベント・カウント・モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット= 001）	外部イベント・カウント・モード時，TQ0CCR0レジスタには，0000Hを設定しないでください。	p.330 □
				外部イベント・カウント・モード時，タイマ出力は使用禁止です。外部イベント・カウント入力でタイマ出力を行う場合は，インターバル・タイマ・モードに設定してカウント・クロックを外部イベント・カウント入力での動作許可に選択してください（TQ0CTL1.TQ0MD2-TQ0MD0ビット= 000, TQ0CTL1.TQ0EEEビット= 1）。	p.330 □
			TQ0IOC0. TQ0OE0, TQ0OL0ビット	外部トリガ・パルス出力モードでTOQ00端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。	p.338 □
			動作中のパルス幅変更の注意事項	動作中にPWM波形を変更する場合には，最後にTQ0CCR1レジスタにライトしてください。TQ0CCR1レジスタにライト後，再度TQ0CCRkレジスタの書き換えを行う場合には，INTTQ0CC0信号を検出後に書き換えてください。	p.342 □
			TQ0IOC0. TQ0OE0, TQ0OL0ビット	ワンショット・パルス出力モードでTOQ00端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。	p.351 □
			ワンショット・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容	ワンショット・パルス出力モードにおいて，TQ0CCRkレジスタの設定値が，TQ0CCR0レジスタより大きい場合，ワンショット・パルスは出力しません。	p.352 □
			TQ0CCRm レジスタの書き換えに関する注意事項	TQ0CCRmレジスタの設定値を小さい値に変更する場合には，一度カウント動作を停止させ，その後，設定値を変更してください。 カウント動作中にTQ0CCR0レジスタの値を小さい値に書き換えると，16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。	p.355 □
			TQ0IOC0. TQ0OE0, TQ0OL0ビット	PWM出力モードでTOQ00端子を使用しない場合は，“0”に設定してください。	p.360 □
			キャプチャ動作	キャプチャ動作を使用し，かつカウント・クロックとして遅いクロックを選択した場合，TQ0CEビットをセット（1）したすぐあとに，キャプチャ・トリガが入力されると，TQ0CCR0, TQ0CCR1, TQ0CCR2,TQ0CCR3レジスタに0000HではなくFFFFHがキャプチャされる場合があります。	p.395 □

(11/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第9章	ソフト	16ビット・インターバル・タイマM（TMM）	TM0CTL0レジスタ	TM0CKS2-TM0CKS0ビットはTM0CEビット= 0のときに設定してください。 TM0CEビットを“0”から“1”に設定するときに，同時にTM0CKS2-TM0CKS0ビットを設定できません。	p.399 □
				ビット3-6には必ず“0”を設定してください。	p.399 □
			インターバル・タイマ・モード動作	TM0CMP0レジスタには，FFFFHを設定しないでください。	p.400, 403 □
			カウント開始	TM0CTL0.TM0CEビット= 1としてからカウント開始するまで，選択したカウント・クロックによって時間が異なります。	p.404 □
			TM0CMP0, TM0CTL0レジスタ	TM0CMP0, TM0CTL0レジスタはTMM0動作中の書き換えは禁止です。 TM0CEビット= 1のときに書き換えた場合，動作を保証できません。誤って書き換えた場合は，TM0CTL0.TM0CEビットをクリア（0）してから再設定してください。	p.404 □
第10章	ソフト	時計タイマ機能	PRSM0レジスタ	時計タイマ動作中に，BGCS01, BGCS00ビットの値を変更しないでください。	p.408 □
				PRSM0レジスタの設定はBGCE0ビットをセット（1）する前に行ってください。	p.408 □
				f_{BRG}の周波数が32.768 kHzとなるよう，使用するメイン・クロック周波数にあわせて，PRSM0, PRSCM0レジスタの設定を行ってください。	p.408 □
			PRSCM0レジスタ	時計タイマ動作中にPRSCM0レジスタを書き換えないでください。	p.409 □
				PRSM0.BGCE0ビットをセット（1）する前にPRSCM0レジスタの設定を行ってください。	p.409 □
				f_{BRG}の周波数が32.768 kHzとなるよう，使用するメイン・クロック周波数にあわせて，PRSM0, PRSCM0レジスタの設定を行ってください。	p.409 □
			WTMレジスタ	WTM2-WTM7ビットを書き換える場合は，WTM0, WTM1ビットがともに0の状態で行ってください。	p.411 □
			注意事項	動作許可（WTM.WTM1, WTM0ビット= 1）してから，最初の1回目の時計タイマ割り込み要求信号（INTWT）が発生するまで多少時間がかかります。	p.414 □
	ハード			1回目のINTWT信号が発生するまでに，最大0.515625 sかかります（最大2^9×1/32768 = 0.015625 s長くかかります）。 そのあとは0.5 sごとにINTWT信号が発生します。	p.414 □
第11章	ソフト	ウォッチドッグ・タイマ2機能	ディフォールト・スタート・ウォッチドッグ・タイマ	ウォッチドッグ・タイマ2は，リセット解除後に自動的にリセット・モードでスタートします。 ウォッチドッグ・タイマ2を使用しない場合は，この機能によるリセットが発生する前に停止するか，一度ウォッチドッグ・タイマ2をクリアし，次のインターバル時間内で停止してください。 また，ディフォールトの設定（リセット・モード，インターバル時間：$f_R/2^{19}$）で変更する必要がない場合も，動作を確定するために，1回だけWDTM2レジスタへの書き込みを行ってください。	p.415 □
				ノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2）によるノンマスカブル割り込み処理については19. 2. 2（2）INTWDT2信号の場合を参照してください。	p.415 □
			WDTM2レジスタ	次に示す状態において，WDTM2レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.417 □
				WDCS24-WDCS20ビットについては表11－2 ウォッチドッグ・タイマ2のクロック選択を参照してください。	p.417 □
				内蔵発振器の停止のみでウォッチドッグ・タイマ2は停止しますが，動作を確定するため（誤書き込みで，メイン・クロックやサブクロックが選択されないようにする），WDTM2レジスタに00Hを設定してください。	p.417 □
				リセット後，WDTM2レジスタに2回書き込んだ場合，強制的にオーバフロー信号を発生し，カウンタをリセットします。	p.417 □
				意図的にオーバフロー信号を発生させたい場合は，WDTM2レジスタに2回だけ書き込むか，WDTEレジスタに“ACH”以外の値を1回だけ書き込んでください。 ただし，ウォッチドッグ・タイマ2を動作停止に設定した場合は，WDTM2レジスタに2回だけ書き込む，またはWDTEレジスタに“ACH”以外の値を1回だけ書き込んでもオーバフロー信号は発生しません。	p.417 □

(12/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第11章	ソフト	ウォッチドッグ・タイマ2機能	WDTM2レジスタ	ウォッチドッグ・タイマ2の動作を停止する場合は，RCM.RSTOPビット= 1に設定（内蔵発振器の停止）するとともに，WDTM2レジスタに00Hを書き込んでください。RCM.RSTOPビット= 1に設定できない場合は，WDCS23ビット= 1に設定してください（2^n/fxxが選択され，IDLE1, IDLE2，サブIDLE，サブクロック動作モードでクロックを停めることができます）。	p.417 □
			WDTEレジスタ	WDTEレジスタに“ ACH ”以外の値を書き込んだ場合，強制的にオーバフロー信号を発生します。	p.419 □
				WDTEレジスタに1ビット・メモリ操作命令を実行した場合，強制的にオーバフロー信号を発生します。	p.419 □
				意図的にオーバフロー信号を発生させたい場合は，WDTEレジスタに“ ACH ”以外の値を1回だけ書き込むか，WDTM2レジスタに2回だけ書き込んでください。 ただし，ウォッチドッグ・タイマ2を動作停止に設定した場合は，WDTEレジスタに“ ACH ”以外の値を1回だけ書き込む，またはWDTM2レジスタに2回だけ書き込んでもオーバフロー信号は発生しません。	p.419 □
				WDTEレジスタのリード値は，“ 9AH ”（書き込んだ値（“ ACH ”）とは異なる値）になります。	p.419 □
第12章	ソフト	リアルタイム出力機能（RTO）	RTBLn, RTBHnレジスタ	RTBHnレジスタのビット6, 7への書き込み時は，必ず“ 0 ”を書き込んでください。	p.422 □
				次に示す状態において，RTBLn, RTBHnレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.422 □
				リアルタイム出力ポートに設定後，リアルタイム出力トリガが発生されるまでにRTBLn, RTBHnレジスタに出力データを設定してください。	p.422 □
			RTPMnレジスタ	リアルタイム出力動作を許可（RTPCn.RTPOEnビット= 1）することにより，RTPn0-RTPn5信号のうちリアルタイム出力許可されたビットはリアルタイム出力を行い，リアルタイム出力動作禁止に指定されたビットは“ 0 ”を出力します。	p.423 □
				リアルタイム出力動作を禁止（RTPOEnビット= 0）した場合は，RTPMnレジスタの設定にかかわらず，リアルタイム出力端子（RTPn0-RTPn5）は全ビット“ 0 ”を出力します。	p.423 □
				リアルタイム出力端子（RTPn0-RTPn5）として使用するには，PMC, PFCレジスタでリアルタイム出力ポートに設定してください。	p.423 □
			RTPCnレジスタ	RTPEGn, BYTEn, EXTRnビットの設定は，必ずRTPOEnビット= 0のときに行ってください。	p.424 □
			リアルタイム出力動作	ソフトウエアにより，次の競合を回避してください。 ・リアルタイム出力動作の禁止／許可の切り替え（RTPOEnビット）と選択したリアルタイム出力トリガとの競合 ・リアルタイム出力動作許可状態におけるRTBHn, RTBLnレジスタのライトと選択したリアルタイム出力トリガとの競合	p.426 □
			初期設定	初期設定は，リアルタイム出力動作を禁止（RTPOEnビット= 0）にしてから行ってください。	p.426 □
			RTBHn, RTBLnレジスタ	一度リアルタイム出力動作を禁止（RTPOEnビット= 0）した場合は，リアルタイム出力動作を許可（RTPOEnビット= 0→1）する前に，必ずRTBHn, RTBLnレジスタに初期値を設定してください。	p.426 □
第13章	ハード	A/Dコンバータ	ANI0-ANI15端子	ANI0-ANI15端子入力電圧は規格の範囲内で使用してください。特にAVREF0以上の電圧が入力されると，そのチャネルの変換値が不定となり，またほかのチャネルの変換値にも影響を与えることがあります。	p.430 □
	ソフト		ADA0M0レジスタ	次に示す状態において，ADA0M0レジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.432 □
				ビット0に書き込みを行った場合，書き込みは無視されます。	p.432 □
				A/D変換動作許可中（ADA0CEビット= 1）は，ADA0M1.ADA0FR2-ADA0FR0ビットの変更は禁止です。	p.432 □

(13/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第13章	ソフト	A/Dコンバータ	ADA0M0レジスタ	次のモードでは，ADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0CEビット= 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット= 1）してください。 ・通常変換モード ・高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード また，そのほかのモードでA/D変換動作中（ADA0EFビット= 1）にADA0M0,ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタに書き込みを行った場合には各モードにより次のようになります。 ・ソフトウエア・トリガ・モード時 A/D変換動作は中断され，再度，最初から変換動作を行います。 ・ハードウエア・トリガ・モード時 A/D変換動作は中断され，再度，トリガ待機状態になります。	p.432 □
				外部トリガ・モード／タイマ・トリガ・モードを選択する場合（ADA0TMDビット= 1）は，高速変換モード（ADA0M1.ADA0HS1ビット= 1）に設定してください。 また，A/D変換動作許可（ADA0CEビット= 1）したあとに一度だけ挿入される安定時間中にトリガを入力しないでください。	p.432 □
				A/Dコンバータを使用しない場合は，消費電力を小さくするために，ADA0CEビット= 0として動作を停止させてください。	p.432 □
			ADA0M1レジスタ	A/D変換動作許可中（ADA0M0.ADA0CEビット= 1）は，ADA0M1レジスタの変更は禁止です。	p.433 □
				外部トリガ・モード／タイマ・トリガ・モードを選択する場合（ADA0M0.ADA0TMDビット= 1）は，高速変換モード（ADA0HS1ビット= 1）に設定してください。 また，A/D変換動作許可（ADA0CEビット= 1）したあとに一度だけ挿入される安定時間中にトリガを入力しないでください。	p.433 □
				ビット6-4には必ず“0”を設定してください。	p.433 □
			通常変換モード時の変換時間の選択（ADA0HS1ビット= 0）	2.6 μs≦変換時間≦10.4 μsになるように設定してください。	p.434 □
				A/D変換中に，ADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みまたはトリガが入力されると再変換が行われますが，安定時間終了タイミングとADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みが競合した場合，または安定時間終了タイミングとトリガの入力が競合した場合は，安定時間が64クロック再挿入されます。 また，再挿入の安定時間終了タイミングと再び競合すると，再度，安定時間が挿入されますので，トリガの入力間隔と制御レジスタ書き込みの間隔は64クロック以下にしないでください。	p.434 □
			高速変換モード時の変換時間の選択（ADA0HS1ビット= 1）	2.6 μs≦変換時間≦10.4 μsになるように設定してください。	p.435 □
				高速変換モードでは，安定時間中のADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタの書き換え，およびトリガ入力を禁止します。	p.435 □
			ADA0M2レジスタ	次のモードでは，ADA0M2レジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0M0.ADA0CEビット= 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット= 1）してください。 ・通常変換モード ・高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード	p.436 □
				ビット7-2には必ず“0”を設定してください。	p.436 □
			ADA0Sレジスタ	次のモードでは，ADA0Sレジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0M0.ADA0CEビット= 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット= 1）してください。 ・通常変換モード ・高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード	p.437 □
				ビット7-4には必ず“0”を設定してください。	p.437 □
			ADA0CRn, ADA0CRnHレジスタ	次に示す状態において，ADA0CRn, ADA0CRnHレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8 (2) 特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.438 □

(14/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第13章	ソフト	A/Dコンバータ	ADA0CRn, ADA0CRnH レジスタ	ADA0M0, ADA0Sレジスタに対して書き込み動作を行ったとき，ADA0CRnレジスタの内容は不定になることがあります。変換結果は，変換動作終了後，ADA0M0, ADA0Sレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。上記以外のタイミングでは，正しい変換結果が読み出されないことがあります。	p.438 □
			ADA0PFMレジスタ	セレクト・モードではADA0PFTレジスタに設定した8ビット・データとADA0Sレジスタで指定したADA0CRnHレジスタの値を比較し，結果がADA0PFCビットで設定された条件に一致した場合はADA0CRnレジスタに変換結果を格納しINTAD信号が発生しますが，一致しない場合は割り込みを発生しません。	p.440 □
				スキャン・モードではADA0PFTレジスタに設定した8ビット・データとADA0CR0Hレジスタを比較し，結果がADA0PFCビットで設定された条件に一致した場合はADA0CR0レジスタに変換結果を格納しINTAD信号を発生させますが，一致しない場合はINTAD信号を発生させません。また比較結果にかかわらず，比較後はスキャン動作を継続しスキャン終了までADA0CRnレジスタに変換結果は格納しますが，スキャン終了後のINTAD信号は発生しません。	p.440 □
				次のモードでは，ADA0PFMレジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0M0.ADA0CEビット= 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット= 1）してください。 ・通常変換モード ・高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード	p.440 □
			ADA0PFTレジスタ	次のモードでは，ADA0PFTレジスタへの書き込みはA/D変換動作停止（ADA0M0.ADA0CEビット= 0）の状態で行い，そのあとでA/D変換動作許可（ADA0CEビット= 1）してください。 ・通常変換モード ・高速変換モードのワンショット・セレクト・モード／ワンショット・スキャン・モード	p.441 □
			外部トリガ・モード	外部トリガ・モードを選択する場合は，高速変換モードに設定してください。また，A/D変換動作許可（ADA0M0.ADA0CEビット= 1）したあとに一度だけ挿入される安定時間中にトリガを入力しないでください。	p.444 □
			タイマ・トリガ・モード	タイマ・トリガ・モードを選択する場合は，高速変換モードに設定してください。また，A/D変換動作許可（ADA0M0.ADA0CEビット= 1）したあとに一度だけ挿入される安定時間中にトリガを入力しないでください。	p.445 □
			A/Dコンバータ未使用時	未使用時は，ADA0M0.ADA0CEビット= 0とすることにより消費電力を低減できます。	p.455 □
			ANI0-ANI15端子入力範囲	ANI0-ANI15端子の入力電圧は規格の範囲内で使用してください。ただし，絶対最大定格の範囲内であってもAV$_{REF0}$以上，AV$_{SS}$以下の電圧が入力されると，そのチャネルの変換値が不定となります。また，ほかのチャネルの変換値にも影響を与えることがあります。	p.455 □
			ノイズ対策	10ビット分解能を保つためには，ANI0-ANI15端子へのノイズに注意する必要があります。アナログ入力源の出力インピーダンスが高いほど影響が大きくなりますので，ノイズを低減するためにコンデンサを外付けすることを推奨します。	p.455 □
			兼用入出力	アナログ入力（ANI0-ANI15）端子はポート端子と兼用になっています。ANI0-ANI15端子のいずれかを選択してA/D変換をする場合，変換中に入力ポートへの読み出し命令，または出力ポートへの書き込み命令を実行しないでください。変換分解能が低下することがあります。 また，A/D変換中に出力ポートに設定している端子で，ポート端子に接続される外部回路の影響で出力電流が変動する場合も変換分解能が低下することがあります。 A/D変換中の端子に隣接する端子へディジタル・パルスを印加したりディジタル・パルスを出力したりすると，カップリング・ノイズによってA/D変換値が期待どおりに得られないこともあります。したがって，A/D変換中の端子に隣接する端子へのパルス印加またはパルス出力はしないでください。	p.455 □
			割り込み要求フラグ（ADIF）	ADA0Sレジスタを変更しても，割り込み要求フラグ（ADIF）はクリアされません。したがって，A/D変換中にアナログ入力端子の変更を行った場合，ADA0Sレジスタ書き換え直前に変更前のアナログ入力に対するA/D変換結果および変換終了割り込み要求フラグがセットされる場合があり，ADA0Sレジスタ書き換え直後にADIFフラグを読み出すと，変更後のアナログ入力に対するA/D変換が終了していないにもかかわらずADIFフラグがセットされている場合がありますので注意してください。また，A/D変換を一度停止させて再開する場合は，再開する前にADIFフラグをクリアしてください。	p.456 □

(15/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第13章	ハード	A/Dコンバータ	AV_{REF0}端子	(a) AV_{REF0}端子はA/Dコンバータの電源端子を兼用しており，また兼用ポートにも電源を供給しています。したがって，バックアップ電源に切り替えるようなアプリケーションにおいても必ずV_{DD}と同じ電位を印加してください。 (b) AV_{REF0}端子はA/Dコンバータ用の基準電圧端子を兼用しています。したがって，AV_{REF0}端子への供給部のインピーダンス値が高い場合や，電源の電流供給能力が低い場合，変換時に流れる電流（特に変換動作許可ADA0CEビット= 1とした直後）により基準電圧が変動し，変換精度が悪くなるおそれがあります。これを避けるためにAV$_{REF0}$端子とAV$_{SS}$端子間にコンデンサを接続し変動を抑えるようにすることを推奨します。 (c) AV_{REF0}端子への供給部に直流抵抗値（ダイオード挿入など）が高いと，A/D変換電流による電圧降下により，変換動作停止時より動作許可時のほうが電圧が低くなる可能性があります。	p.457 □
	ソフト		ADA0CRnレジスタの読み出し	ADA0M0-ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタに対して書き込み動作を行ったとき，ADA0CRnレジスタの内容は不定になることがあります。変換結果は，変換動作終了後，ADA0M0-ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。また，外部／タイマ・トリガを受け付けたときも，ADA0CRnレジスタの内容は不安定になることがあります。変換結果は，変換動作終了後，次の外部／タイマ・トリガを受け付ける前に読み出してください。上記以外のタイミングでは，正しい変換結果が読み出されないことがあります。	p.457 □
			スタンバイ・モード	A/Dコンバータは，STOPモード時に動作が停止するため，変換結果は無効になり消費電力を低減できます。STOPモード解除後，再び動作を開始しますが，STOPモード解除後のA/D変換結果は無効です。STOPモード解除後にA/Dコンバータを使用する場合は，STOPモード設定前またはSTOPモード解除後にADA0M0.ADA0CEビット= 0に設定してからSTOPモード解除後にADA0CEビット= 1に設定してください。 IDLE1, IDLE2モード，サブクロック動作モードでは動作が保持されるため，消費電力を低減する場合にはADA0M0.ADA0CEビット= 0にしてください。ただし，IDLE1, IDLE2モード期間中は，アナログ入力電圧値が保持できなくなるため，IDLE1, IDLE2モード解除後のA/D変換結果は無効です。また，IDLE1, IDLE2モード設定前のA/D変換結果は有効です。	p.457 □
			高速変換モード	高速変換モードでは，安定時間中のADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTのレジスタの書き換え，およびトリガ入力を禁止します。	p.458 □
			A/D変換時間	A/D変換時間は，安定時間，変換時間，ウエイト時間，およびトリガ応答時間の合計時間になります（それぞれの時間については，表13－2 通常変換モード時の変換時間の選択（ADA0HS1ビット= 0），表13－3 高速変換モード時の変換時間の選択（ADA0HS1ビット= 1）を参照してください）。 通常変換モードでは，A/D変換中に，ADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みまたはトリガが入力されると再変換が行われますが，安定時間終了タイミングとADA0M0, ADA0M2, ADA0S, ADA0PFM, ADA0PFTレジスタへの書き込みが競合した場合，または安定時間終了タイミングとトリガの入力が競合した場合は，安定時間が64クロック再挿入されます。 また，再挿入の安定時間終了タイミングと再び競合すると，再度，安定時間が挿入されますので，トリガの入力間隔と制御レジスタ書き込みの間隔は64クロック以下にしないでください。	p.458 □
			A/D変換結果のばらつき	電源電圧の変動やノイズなどの影響によりA/D変換結果がばらつくことがあります。ばらつきを軽減する必要がある場合は，A/D変換結果の平均値をとるなど，プログラムで対策してください。	p.458 □
	ハード		A/D変換のヒステリシス特性	逐次比較型A/Dコンバータは，内部のサンプル＆ホールド用コンデンサにアナログ入力電圧を保持し，そのあと，A/D変換を行います。A/D変換が終了したあとも，内部のサンプル＆ホールド用コンデンサには，アナログ入力電圧が残っています。このため次のような現象が起きることがあります。 ・同一チャネルでA/D変換を実行する場合，以前のA/D変換時よりも高い電圧，または低い電圧に変化していると，変換結果が以前の値に影響されるヒステリシス特性が現れ，同じ電位でも変換結果が異なる場合があります。 ・アナログ入力チャネルを切り替える場合，1つのA/Dコンバータを用いてA/D変換を行っているため，変換結果が以前のチャネルの値に影響されるヒステリシス特性が現れ，同じ電位でも変換結果が異なる場合があります。	p.458 □

(16/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第14章	ハード	D/Aコンバータ	D/Aコンバータ	DAC0, DAC1は，AV_{REF1}端子を共用しています。	p.463 □
				DAC0, DAC1は，AV_{SS}端子を共用しています。また，AV_{SS}端子はA/Dコンバータとも共用しています。	p.463 □
			DA0Mレジスタ	リアルタイム出力モード（DA0MDnビット = 1）時の出力トリガは，次のとおりです。 •n = 0のとき：INTTP2CC0信号（第7章 16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP）参照） •n = 1のとき：INTTP3CC0信号（第7章 16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP）参照）	p.464 □
	ソフト		DA0CS0, DA0CS1レジスタ	リアルタイム出力モード（DA0M.DA0MDnビット= 1）のとき，INTTP2CC0/INTTP3CC0信号が発生する前に，DA0CSnレジスタを設定してください。INTTP2CC0/INTTP3CC0信号発生でD/A変換を開始します。	p.465 □
			注意事項	リアルタイム出力モード時，トリガ信号が出ている間にDA0CSnレジスタの設定値を変更しないでください。	p.467 □
				動作モードを切り替える場合は，必ずDA0M.DA0CEnビット= 0にしたあとに行ってください。	p.467 □
				P10/ANO0, P11/ANO1端子を，1本を入出力ポート，1本をD/A出力端子として使用する場合，D/A出力中は，ポートの入出力レベルが変化しないようなアプリケーションで使用してください。	p.467 □
	ハード			AV_{REF0} = V_{DD} = AV_{REF1} = 3.0～3.6 Vの範囲で使用してください。それ以外の場合の動作は保証できません。	p.467 □
				AV_{REF1}の電源投入および電源切断は，AV_{REF0}と同じタイミングで行ってください。	p.467 □
				D/Aコンバータの出力インピーダンスが高いため，ANOn端子（n = 0, 1）から電流を取り出すことはできません。2 MΩ以下の抵抗を接続する場合には，抵抗とANOn端子の間にJFET入力型オペアンプを挿入してください。	p.467 □
	ソフト			D/Aコンバータは，STOPモード時に動作が停止するため，ANO0, ANO1端子は，ハイ・インピーダンスになり消費電力を低減できます。 ただし，IDLE1, IDLE2モード，サブクロック動作モードでは端子は保持されるため，消費電力を低減する場合にはDA0M.DA0CEnビット = 0 にしてください。	p.467 □
第15章	ソフト	アシンクロナス・シリアル・インタフェースA（UARTA）	CSIB4とUARTA0のモード切り替え	CSIB4またはUARTA0において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。	p.468 □
			UARTA2とI^2C00のモード切り替え	UARTA2またはI^2C00において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。	p.469 □
			UARTA1とI^2C02のモード切り替え	UARTA1とI^2C02において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。	p.470 □
			UAnOPT0レジスタ	UAnSRT, UAnSTTビットは，SBF受信中（UAnSRFビット= 1）にセット（1）しないでください。	p.476 □
			SBF受信	データ受信中に，SBFが送信されてきた場合には，フレーミング・エラーとなります。	p.486 □
				SBF受信トリガ・ビット（UAnSRT），SBF送信トリガ・ビット（UAnSTT）はSBF受信中（UAnSRF = 1）にセット（1）しないでください。	p.486 □
			連続送信	送信の初期化を行う場合，連続送信実行中は，UAnSTR.UAnTSFビットが“0”であることを確認してから初期化を実行してください。UAnTSFビットが“1”のときに初期化を実行した場合の送信データの保証できません。	p.488 □
			UART受信	受信エラー発生時にも，UAnRXレジスタは必ず読み出してください。UAnRXレジスタを読み出さないと，次のデータ受信にオーバラン・エラーが発生し，いつまでも受信エラーの状態が続くことになります。	p.491 □
				受信時は，常に「ストップ・ビット数 = 1」として動作します。2ビット目のストップ・ビットは，無視されます。	p.491 □
				受信終了時は，受信完了割り込み要求信号（INTUAnR）発生後，UAnRXレジスタを読み出してからUAnPWRビット= 0またはUAnRXEビット = 0としてください。INTUAnR信号が発生する前にUAnPWRビット = 0またはUAnRXEビット= 0とした場合，UAnRXレジスタのリード値は保証できません。	p.491 □

(17/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第15章	ソフト	アシンクロナス・シリアル・インタフェースA（UARTA）	UART受信	UARTAnの受信完了処理（INTUAnR信号の発生）と，UAnPWRビット = 0またはUAnRXEビット = 0が競合した場合，UAnRXレジスタにデータを格納していないにもかかわらず，INTUAnR信号が発生することがあります。INTUAnR信号の発生を待たずに受信終了を行うときには，必ず割り込み制御レジスタ（UAnRIC）の割り込みマスク・フラグ（UAnRMK）をセット（1）してから，UAnPWRビット = 0またはUAnRXEビット = 0とし，さらにUAnRICレジスタの割り込み要求フラグ（UAnRIF）をクリア（0）してください。	p.491 □
			受信エラー	INTUAnR信号が発生したら，必ずUAnSTRレジスタを読み出してエラーの有無を確認してください。	p.492 □
				連続受信時に受信エラー割り込みが発生した場合は，次の受信が完了する前にUAnSTRレジスタの内容を読み出してエラー処理を実施してください。	p.493 □
			LIN機能	LIN機能を使用する場合，UAnCTL0.UAnPS1, UAnPS0ビットを“00”に固定してください。	p.494 □
			UAnCTL1レジスタ	UAnCTL1レジスタを書き換える場合は，UAnCTL0.UAnPWRビット = 0にしてから行ってください。	p.497 □
			UAnCTL2レジスタ	UAnCTL2レジスタを書き換える場合は，UAnCTL0.UAnPWRビット = 0，またはUAnTXE,UAnRXEビット = 00にしてから行ってください。	p.498 □
			ボー・レート誤差	送信時のボー・レート誤差は，受信先の許容誤差以内にしてください。	p.499 □
				受信時のボー・レート誤差は，（5）受信時の許容ボー・レート範囲で示す範囲を満たすようにしてください。	p.499 □
			受信時の許容ボー・レート範囲	受信時のボー・レート誤差は，下記に示す算出式を使用して，必ず許容誤差範囲内になるように設定してください。	p.501 □
			UARTAnへの供給クロックが停止する場合	UARTAnへの供給クロックが停止する場合（例：IDLE1, IDLE2, STOPモード）は，各レジスタはクロック停止直前の値を保持したまま動作を停止します。TXDAn端子出力も停止直前の値を保持，出力します。ただし，クロック供給の再開後の動作は保証しません。したがって，再開後はUAnCTL0.UAnPWR, UAnRXEn,UAnTXEnビット = 000とし，回路を初期化してください。	p.504 □
			RXDA1端子 KR7端子	RXDA1端子とKR7端子は同時に使用することはできません。RXDA1端子を使用する場合は，KR7端子を使用しないでください。また，KR7端子を使用する場合は，RXDA1端子を使用しないでください（PFC91ビット = 1, PFCE91ビット = 0に設定することを推奨します）。	p.504 □
			DMA転送で送信データ，受信データの転送	UARTAnでは，通信エラーによる割り込みを発生しません。そのため，DMA転送で送信データ，受信データの転送を行う場合，転送中にエラー（パリティ／オーバラン／フレーミング）が発生しても，エラー処理を行えません。DMA転送終了後にUAnSTRレジスタを読み出してエラーがなかったことを確認するか，通信中に適宜UAnSTRレジスタを読み出してエラーの有無を確認してください。	p.504 □
			UARTAnの起動	UARTAnの起動は次の順序で行ってください。 ① UAnCTL0.UAnPWRビット = 1 ② ポートの設定 ③ UAnCTL0.UAnTXEビット = 1, UAnCTL0.UAnRXEビット = 1	p.504 □
			UARTAnの停止	UARTAnの停止は次の順序で行ってください。 ① UAnCTL0.UAnTXEビット = 0, UAnCTL0.UAnRXEビット = 0 ② ポートの設定，UAnCTL0.UAnPWRビット = 0（ポートの設定は変更しなくても問題ありません）	p.504 □
			送信モード	送信モード中（UAnCTL0.UAnPWRビット = 1，かつUAnCTL0.UAnTXEビット = 1）に，ソフトウエアでUAnTXレジスタの同値書き込みをしないでください。このレジスタへの書き込みにより送信が開始するためです。同値を連続送信する場合は問題ありません。	p.504 □
			連続送信	連続送信の場合，ストップ・ビットから次のスタート・ビットまでの通信レートが，通常より基本クロックの2クロック分延びます。ただし，受信側はスタート・ビットの検出でタイミングの初期化を行うため，受信結果には影響しません。	p.504 □
第16章	ソフト	3線式可変長シリアルI/O（CSIB）	CSIB4とUARTA0のモード切り替え	CSIB4またはUARTA0において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。	p.505 □

(18/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第16章	ソフト	3線式可変長シリアルI/O（CSIB）	CSIB0とI²C01のモード切り替え	CSIB0またはI²C01において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。	p.506 □
			CBnCTL0レジスタ	送受信を強制中断する場合は，CBnRXEビット，CBnTXEビットではなく，CBnPWRビットをクリア（0）してください。このとき，クロック出力も停止します。	p.510 □
				ビット3, 2には必ず0を設定してください。	p.512 □
			CBnCTL1レジスタ	CBnCTL1レジスタは，CBnCTL0.CBnPWRビット= 0の場合のみ書き換えが可能です。	p.513 □
				通信クロック（f_{CCLK}）は，8 MHz以下になるように設定してください。	p.513 □
			CBnCTL2レジスタ	CBnCTL2レジスタは，CBnCTL0.CBnPWRビット= 0，またはCBnTXE, CBnRXEビット = 0の場合のみ書き換えが可能です。	p.514 □
			連続転送モード（マスタ・モード，送信モード）	連続送信モードでは，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）は発生しません。	p.531 □
			連続転送モード（スレーブ・モード，送信モード）	連続送信モードでは，受信完了割り込み要求信号（INTCBnR）は発生しません。	p.540 □
			クロック・タイミング	シングル転送モードでは，CBnTSFビット = 1の状態でCBnTXレジスタに書き込みを行っても無視されます。なお，転送中の動作には影響はありません。 たとえば，INTCBnR信号発生によりDMAを起動し，CBnTXレジスタに次のデータを書き込んでも，CBnTSFビット = 1のため書き込んだデータの転送は行われません。 このようなアプリケーションは，シングル転送モードではなく連続転送モードを使用してください。	p.549, 550 □
			PRSM1-PRSM3レジスタ	動作中に，PRSMmレジスタを書き換えないでください。	p.552 □
				PRSMmレジスタの設定はBGCEmビットに“1”を設定する前に行ってください。	p.552 □
			PRSCM1-PRSCM3レジスタ	動作中にPRSCMmレジスタを書き換えないでください。	p.553 □
				PRSMm.BGCEmビットに“1”を設定する前にPRSCMmレジスタの設定を行ってください。	p.553 □
			ボー・レートの生成	f_{BRGm}は，8 MHz以下になるように設定してください。	p.553 □
			DMA転送により，送信データ，受信データの転送を行う場合	DMA転送により，送信データ，受信データの転送を行う場合，シリアル転送中にオーバラン・エラーが発生してもエラー処理を行えません。DMA転送終了後にCBnSTR.CBnOVEビットを読み出してオーバラン・エラーがなかったことを確認してください。	p.554 □
			CBnCTL0レジスタ CBnCTL1レジスタ CBnCTL2レジスタ	動作中（CBnCTL0.CBnPWRビット = 1）の書き換えを禁止しているレジスタに対して，動作中に誤って書き換えを行ってしまった場合は，一度CBnCTL0.CBnPWRビット= 0に設定してCSIBnを初期化してください。 動作中の書き換えが禁止されているレジスタを次に示します。 ・CBnCTL0レジスタ：CBnTXE, CBnRXE, CBnDIR, CBnTMSビット ・CBnCTL1レジスタ：CBnCKP, CBnDAP, CBnCKS2-CBnCKS0ビット ・CBnCTL2レジスタ：CBnCL3-CBnCL0ビット	p.554 □
			通信タイプ2，4	通信タイプ2, 4（CBnCTL1.CBnDAPビット = 1）では，受信完了割り込み（INTCBnR）発生後，$\overline{\text{SCKBn}}$半クロック後にCBnSTR.CBnTSFビットがクリアされます。 一方，シングル転送モードでは，通信中（CBnTSFビット = 1）に次の送信データをライトしても無視され，次の通信は起動しません。また，受信のみの通信に設定したとき（CBnCTL0.CBnTXEビット = 0,CBnCTL0.CBnRXEビット = 1）も，通信中（CBnTSFビット = 1）に受信データをリードしても次の通信は起動しません。 そのため，通信タイプ2, 4（CBnDAPビット = 1）でシングル転送モードを使用する場合，次の点に注意してください。 ・次の送信を起動する場合は，CBnTSFビット = 0であることを確認したあと，CBnTXレジスタに送信データを書き込む ・受信のみの通信に設定したとき（CBnTXEビット = 0, CBnRXEビット= 1）に続けて次の受信を行う場合は，CBnTSFビット = 0であることを確認したあと，CBnRXレジスタをリードする または，シングル転送モードではなく，連続転送モードを使用してください。特にDMAを使用する場合は連続転送モードの使用を推奨します。	p.554 □

(19/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第17章	ソフト	I²Cバス	I²Cバス	この機能を使用する場合は，P38/SDA00，P39/SCL00，P40/SDA01，P41/SCL01，P90/SDA02, P91/SCL02端子を兼用端子として使用し，N-chオープン・ドレーン出力に設定してください。	p.555 □
			UARTA2とI²C00のモード切り替え	UARTA2またはI²C00において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。	p.555 □
			CSIB0とI²C01のモード切り替え	CSIB0またはI²C01において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。	p.556 □
			UARTA1とI²C02のモード切り替え	UARTA1とI²C02において，送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。	p.557 □
			IICC0-IICC2レジスタ	SCL0nラインがハイ・レベル，SDA0nラインがロウ・レベルの状態で，I²Cnを動作許可（IICEnビット = 1）した場合，直後にスタート・コンディションを検出してしまいます。I²Cnを動作許可（IICEnビット = 1）したあと，連続してビット操作命令によりLRELnビットをセット（1）してください。	p.564 □
				SPTnビットのセット（1）は，マスタのときのみ行ってください。ただし，IICRSVnビットが0の場合，動作許可後最初のストップ・コンディションを検出する前にマスタ動作を行うには，一度SPTnビットをセット（1）してストップ・コンディションを生成する必要があります。詳細は，17. 15 注意事項を参照してください。	p.567 □
				TRCnビット = 1のとき，9クロック目にWRELnビットをセット（1）してウエイトを解除すると，TRCnビットをクリア（0）してSDA0nラインをハイ・インピーダンスにします。	p.567 □
			IICS0-IICS2レジスタ	次に示す状態において，IICSnレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.568 □
				TRCnビット = 1のとき，9クロック目にWRELnビットをセット（1）してウエイトを解除すると，TRCnビットをクリア（0）してSDA0nラインをハイ・インピーダンスにします。	p.569 □
			IICF0-IICF2レジスタ	STCENnビットへの書き込みは，動作停止（IICEnビット= 0）時のみ行ってください。	p.572 □
				STCENnビット= 1とした場合，I²C動作許可直後は実際のバス状態にかかわらずバス解放状態（IICBSYnビット= 0）と認識しますので，1回目のスタート・コンディションを発行（STTnビット= 1）する場合は他の通信を破壊しないようにバスが解放されていることを確認する必要があります。	p.572 □
				IICRSVnビットへの書き込みは，動作停止（IICEnビット= 0）時のみ行ってください。	p.572 □
			IICCL0-IICCL2レジスタ	ビット7, 6には必ず“0”を設定してください。	p.573 □
			I²C0nの転送クロックの設定方法	OCKS0レジスタの設定値によらずfxxになるので，OCKS0レジスタ= 00H（I²C分周クロックは停止状態）を設定してください。	p.575 □
				OCKS1レジスタの設定値によらずfxxになるので，OCKS1レジスタ= 00H（I²C分周クロックは停止状態）を設定してください。	p.576 □
			スタート・コンディション	ほかのデバイス同士の通信中にV850ES/JJ3のIICCn.IICEnビットをセット（1）した場合，通信ラインの状態によってスタート・コンディションを検出することがあります。IICCn.IICEnビットのセット（1）は，必ずSCL0n, SDA0nラインがハイ・レベルの状態で行ってください。	p.581 □
			アービトレーション発生時の状態と割り込み要求信号発生タイミング	IICCn.WTIMnビット= 1の場合には，9クロック目の立ち下がりタイミングでINTIICn信号を発生します。 WTIMnビット= 0および拡張コードのスレーブ・アドレス受信時には，8クロック目の立ち下がりタイミングでINTIICn信号を発生します。	p.614 □
				アービトレーションが起こる可能性がある場合，マスタ動作ではSPIEnビット= 1にしてください。	p.614 □

(20/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第17章	ソフト	I²Cバス	IICFn.STCENnビット= 0の場合	I²C0n動作許可直後，実際のバス状態にかかわらず通信状態（IICFn.IICBSYnビット= 1）と認識します。 ストップ・コンディションを検出していない状態からマスタ通信を行おうとする場合は，まずストップ・コンディションを生成し，バスを解放してからマスタ通信を行ってください。 ストップ・コンディションの生成は次の順番で行ってください。 ① IICCLnレジスタの設定 ② IICCn.IICEnビットのセット ③ IICCn.SPTnビットのセット	p.620 □
			IICFn.STCENnビット= 1の場合	I²C0n動作許可直後，実際のバス状態にかかわらず解放状態（IICBSYnビット= 0）と認識しますので，1回目のスタート・コンディションを生成（IICCn.STTnビット= 1）する場合は，ほかの通信を破壊しないようにバスが解放されていることを確認する必要があります。	p.620 □
			ほかのデバイス同士の通信時	ほかのデバイス同士の通信中にV850ES/JJ3のIICCn.IICEnビットをセット（1）した場合，通信ラインの状態によってスタート・コンディションを検出することがあります。IICCn.IICEnビットのセット（1）は，必ずSCL0n, SDA0nラインがハイ・レベルの状態で行ってください。	p.620 □
			動作許可	動作許可（IICCn.IICEnビット= 1）する前にIICCLn, IICXn, OCKSmレジスタで動作クロック周波数を決定してください。動作クロック周波数を変更する場合は，一度IICCn.IICEnビットをクリア（0）してください。	p.620 □
			IICCn.STTn, SPTnビット	IICCn.STTn, SPTnビットをセット（1）したあと，クリア（0）される前の再セットは禁止します。	p.620 □
			送信予約	送信予約をした場合には，IICCn.SPIEnビットをセット（1）してストップ・コンディション検出で割り込み要求が発生するようにしてください。割り込み要求発生後にI²Cnに通信データをライトすることによってウエイトが解除され転送が開始します。ストップ・コンディション検出で割り込みを発生させないと，スタート時には割り込み要求が発生しないため，ウエイト状態で停止します。ただし，ソフトウエアでIICSn.MSTSnビットを検出する場合には，SPIEnビットをセット（1）する必要はありません。	p.620 □
			シングルマスタ・システムでのマスタ動作	通信している製品の仕様に準拠し，I²C0nバスを解放（SCL0n, SDA0n端子 = ハイ・レベル）してください。 たとえば，EEPROMがSDA0n端子にロウ・レベルを出力した状態であれば，SCL0n端子を出力ポートに設定し，SDA0n端子が定常的にハイ・レベルになるまで，出力ポートからクロック・パルスを出力してください。	p.622 □
			マルチマスタ・システムでのマスタ動作	一定期間（たとえば1フレーム分），バス解放状態（IICCLn.CLDnビット = 1, IICCLn.DADnビット = 1）であることを確認してください。定常的にSDA0n端子がロウ・レベルの場合は，通信している製品の仕様に準拠し，I²C0nバスを解放（SCL0n, SDA0n端子 = ハイ・レベル）するか判断してください。	p.623 □
				送信および受信フォーマットは通信している製品の仕様に準拠してください。	p.625 □
				マルチマスタ・システムでマスタとして使用する場合は，INTIICn割り込み発生ごとにIICSn.MSTSnビットをリードし，アービトレーション結果を確認してください。	p.625 □
				マルチマスタ・システムでスレーブとして使用する場合は，INTIICn割り込み発生ごとにIICSn, IICFnレジスタでステータスを確認して次に行う処理を決定してください。	p.625 □
			スレーブ・ウエイト解除	スレーブ・ウエイト解除は，IICn←FFHまたはWRELnのセットのどちらかで行ってください。	p.631, 633 □
			マスタ・ウエイト解除	マスタ・ウエイト解除は，IICn←FFHまたはWRELnのセットのどちらかで行ってください。	p.634, 636 □
第18章	ソフト	DMA機能（DMAコントローラ）	DSA0-DSA3レジスタ	DSAnHレジスタのビット14-10には，必ず“0”を設定してください。	p.639 □
				DSAnH, DSAnLレジスタの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット= 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。 ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間 ・DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間 ・DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット= 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間	p.639 □
				DSAnレジスタの値を読み出す際，DSAnHレジスタとDSAnLレジスタの2つの16ビット・レジスタごとに読み出すため，読み出しと更新のタイミングが競合した場合，更新途中の値が読み出されることがあります（18. 13 注意事項参照）。	p.639 □

(21/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第18章	ソフト	DMA機能（DMAコントローラ）	DSA0-DSA3レジスタ	リセット後，DMA転送を開始する前にDSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCnレジスタを設定してください。これらのレジスタを設定しないでDMA転送を開始した場合は，動作を保証しません。	p.639 □
			DDA0-DDA3レジスタ	DDAnHレジスタのビット14-10には，必ず“0”を設定してください。	p.640 □
				DDAnH, DDAnLレジスタの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット= 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。 ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間 ・DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間 ・DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット= 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間	p.640 □
				DDAnレジスタの値を読み出す際，DDAnHレジスタとDDAnLレジスタの2つの16ビット・レジスタごとに読み出すため，読み出しと更新のタイミングが競合した場合，更新途中の値が読み出されることがあります（18. 13 注意事項参照）。	p.640 □
				リセット後，DMA転送を開始する前にDSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCnレジスタを設定してください。これらのレジスタを設定しないでDMA転送を開始した場合は，動作を保証しません。	p.640 □
			DBC0-DBC3レジスタ	DBCnレジスタの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット= 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。 ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間 ・DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間 ・DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット= 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間	p.641 □
				リセット後，DMA転送を開始する前にDSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCnレジスタを設定してください。これらのレジスタを設定しないでDMA転送を開始した場合は，動作を保証しません。	p.641 □
			DADC0-DADC3レジスタ	DADCnレジスタのビット15, 13-8, 3-0には，必ず“0”を設定してください。	p.642 □
				DADCnレジスタの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット= 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。 ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間 ・DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間 ・DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット= 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間	p.642 □
				DS0ビットは転送データ・サイズを設定するものであり，バス・サイジングを制御するものではありません。したがって，8ビット・データ（DS0ビット= 0）を設定した場合でも，必ずしも下位データ・バスを使用するわけではありません。	p.642 □
				転送データ・サイズを16ビットに設定した場合（DS0ビット= 1），奇数アドレスから始まる転送はできません。下位アドレスの1ビットを“0”にアラインしたアドレスから必ず転送を開始します。	p.642 □
				内蔵周辺I/Oレジスタを対象（転送元／転送先）とするDMA転送の場合，必ずレジスタ・サイズと同じ転送サイズを指定してください。たとえば，8ビットのレジスタに対するDMA転送の場合は，必ず（8ビット）転送を指定してください。	p.642 □
			DCHC0-DCHC3レジスタ	TCnビットはリードのみ可能です。	p.643 □
				INITn, STGnビットはライトのみ可能です。	p.643 □
				DCHCnレジスタのビット6-3には，必ず“0”を設定してください。	p.643 □
				DMA転送完了時（ターミナル・カウント時）は，Ennビットのクリア（0）→TCnビットのセット（1）の順で各ビットの更新が行われます。そのため，DCHCnレジスタの各ビットの更新途中にDCHCnレジスタを読み出した場合，「転送未完了，かつ転送禁止」の状態を示す値（TCnビット= 0，かつEnnビット= 0）が読み出されることがあります。	p.643 □
			DTFR0-DTFR3レジスタ	DFnビットはソフトウエアにより“1”を設定しないでください。DMA転送を禁止している間にDMA転送の起動要因に設定している割り込みが発生し，DMA転送要求をクリアする必要がある場合に0をライトしてください。	p.644 □
				IFCn5-IFCn0ビットの設定は，DMA転送禁止状態（DCHCn.Ennビット= 0）である次のいずれかのタイミングで行ってください。 ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間 ・DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間 ・DMA転送完了後（DCHCn.TCnビット= 1の状態）から次のDMA転送起動までの期間	p.644 □
				スタンバイ・モード（IDLE1, IDLE2, STOP, サブIDLEモード）中に発生した割り込み要求は，DMA転送サイクルの起動要因にはなりません（DFnビットもセット（1）されません）。	p.644 □

(22/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第18章	ソフト	DMA機能（DMAコントローラ）	DTFR0-DTFR3レジスタ	IFCn5-IFCn0ビットで任意のDMA起動要因を選択したあとは，DMA転送の許可／禁止にかかわらず，選択した内蔵周辺I/Oからの割り込みが発生するとDFnビットはセット（1）されます。この状態でDMA許可とした場合，ただちにDMA転送が起動されます。	p.644 □
			転送対象の関係	表18－2に示す転送先と転送元で，「×」が表記されている組み合わせで転送を行った場合の動作は保証できません。	p.647 □
			内蔵周辺I/Oによる要求	同一のDMAチャネルに対して，2つの起動要因（ソフトウエア・トリガ，ハードウエア・トリガ）を併用できません。1つのDMAチャネルに対して，2つの起動要因が同時に発生した場合，どちらか一方だけが有効となります。有効となった起動要因の特定はできません。	p.650 □
				先のDMA転送要求が発生してから，または先のDMA転送サイクル中に新たな転送要求が発生しても，その要求は無視（クリア）されます。	p.650 □
				同一のDMAチャネルに対する転送要求間隔は，DMA転送サイクル中のバス・ウエイトの設定やほかのチャネルの起動状況，または外部バス・ホールド要求により変化します。特に注意2のとおり，DMA転送サイクル前，または転送サイクル中に同一チャネルの新たな転送要求が発生しても，その要求は無視されてしまいます。したがって，同一のDMAチャネルに対する転送要求間隔は，システム上で十分な間隔をもつようにしてください。ソフトウエア・トリガ時は，DBCnレジスタの更新により，先に発生したDMA転送サイクルの完了を確認できます。	p.650 □
			VSWCレジスタに関する注意	DMACを使用する際は，必ずVSWCレジスタに，動作周波数に応じた最適な値を設定してください。 VSWCレジスタの初期値（77H），または最適な値以外で使用した場合は正常に動作できません（VSWCレジスタの詳細については，3. 4. 8（1）（a）システム・ウエイト・コントロール・レジスタ（VSWC）を参照してください）。	p.656 □
			内蔵RAMを転送対象とするDMA転送時の注意	内蔵RAMに配置された次の命令を実行する場合は，内蔵RAMを対象（転送先／転送元）とするDMA転送を行わないでください。その後CPUが正常に動作しない可能性があります。 ・内蔵RAMに配置されたビット操作命令（SET1, CLR1, NOT1） ・内蔵RAMに配置されたミス・アライン・アドレスに対するデータ・アクセス命令 逆に，内蔵RAMを対象（転送先／転送元）としたDMA転送を行う場合は，上の2つの命令を実行しないでください。	p.656 □
			DCHCn.TCnビットのリードに関する注意事項	TCnビットは，読み出しによりクリア（0）されますが，ある特定タイミングにおいてTCnビットをリードしても，自動的にクリア（0）されません。TCnビットのクリアを確実に実行するために次の処理を追加してください。 (a) TCnビットをポーリングしてDMA転送完了の待ち合わせを行う場合 TCnビットがセット（1）されたことを確認したあと（TCnビット= 1が読み出されたあと），さらに3回のTCnビットのリードを行ってください。 (b) 割り込み処理ルーチンでTCnビットのリードを行う場合 TCnビットのリードを3回実行してください。	p.656 □

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第18章	ソフト	DMA機能（DMAコントローラ）	DMA転送の初期化手順（DCHCn.INITnビットのセット（1）） (DMA転送中のチャネルを初期化するときに，INITnビットをセット（1）しても，チャネルの初期化が行われない場合があります。初期化を確実に実行するために，次に示す2つの手順のいずれかを実行させてください。 (a) 一時的にすべてのDMAチャネルの転送を停止させる方法 次に示す①～⑦の手順で初期化を実行してください。 ただし，次の⑤に示す処理の実行により，TCnビットがクリア（0）されてしまいます。ほかの処理において，TCnビット= 1となっていることを期待したプログラムになっていないことを確認してください。 ① 割り込み禁止状態（DI）にする。 ② 強制終了したいチャネル以外に使用しているDMAチャネルのDCHCn.Ennビットを読み出し，汎用レジスタに転送する。 ③ 使用しているDMAチャネル（強制終了するチャネルを含む）のEnnビットをクリア（0）する。 最終のDMAチャネルの場合にはEnnビットのクリア命令を2回実行する。このとき，転送対象（転送元／転送先）が内蔵RAMの場合は，3回実行する。 例 チャネル0，1，2を使用している場合には，次の順で命令を実行する（転送対象が内蔵RAMでない場合）。 ・DCHC0.E00ビットをクリア（0） ・DCHC1.E11ビットをクリア（0） ・DCHC2.E22ビットをクリア（0） ・再度，DCHC2.E22ビットをクリア（0） ④ 強制終了するチャネルのINITnビットをセット（1）する。 ⑤ 強制終了しない各チャネルのTCnビットを読み出し，TCnビットと②で読み出したEnnビットが，ともに1（論理積（AND）が1）の場合は退避していたEnnビットをクリア（0）する。 ⑥ ⑤で操作後のEnnビットをDCHCnレジスタに書き込む。 ⑦ 割り込み許可状態（EI）にする。	p.657 □
				上記⑤は，②，③の間に正常終了したチャネルに対して，再度Ennビットを不正にセットすることを防ぐため，必ず行ってください。	p.657 □
				(b) 正常に強制終了するまでINITnビットのセットを繰り返し実行する方法 ① 強制終了したいチャネルのDMA要求元からのリクエストが発生しないようにする（内蔵周辺I/Oの動作停止）。 ② DTFRn.DFnビットにより，強制終了するチャネルのDMA転送要求が保留されていないかを確認する。保留されている場合は，保留されているDMA転送要求の実行が完了するまで待つ。 ③ 強制終了するチャネルのDMA要求が保留されていないことが確認できたら，Ennビットをクリア（0）する。 ④ 再度，強制終了するチャネルのEnnビットをクリア（0）する。 ただし，強制終了するチャネルの転送対象（転送元／転送先）が内蔵RAMの場合は，この操作をさらにもう一度実行する。 ⑤ 強制終了するチャネルの初期転送回数を汎用レジスタにコピーする。 ⑥ 強制終了するチャネルのINITnビットをセット（1）する。 ⑦ 強制終了するチャネルのDBCnレジスタの値を読み出し，⑤でコピーした値と比較する。比較した結果，一致しない場合は⑥から⑦の操作を繰り返す。	p.658 □
			DMA転送の一時中断手順ついて（Ennビットのクリア）	実行中のDMA転送を中断し，再開するには次の手順にしたがってください。 ① DMA要求元からの転送要求が発生しないようにする（内蔵周辺I/Oの動作を停止）。 ② DFnビットにより，DMA転送要求が保留されていないかを確認する（DFnビット= 0であることを確認）。 保留されている場合は，保留されているDMA転送要求の実行が完了するまで待つ。 ③ DMA転送要求が保留されていないことを確認できたら，Ennビットをクリア（0）する（この操作により，DMA転送が中断される）。 ④ DMA転送を再開させるためにEnnビットをセット（1）する。 ⑤ 停止しているDMA要求元の動作を再開する（内蔵周辺I/Oの動作を開始）。	p.658 □
			メモリ境界	DMA転送中に，転送元，または転送先のアドレスがDMA対象（外部メモリ，内蔵RAM，内蔵周辺I/O）の領域を越えた場合の動作は保証できません。	p.658 □

（24/31）

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第18章	ソフト	DMA機能（DMAコントローラ）	ミス・アライン・データの転送	16ビット・バス幅のミス・アライン・データのDMA転送はサポートしていません。 奇数アドレスを転送元，または転送先に指定した場合，アドレスの最下位ビットは強制的に0として扱われます。	p.658 □
			CPUへのバス・アービトレーション	バス使用権の優先順位はCPUよりDMAコントローラが高いため，DMA転送中に発生したCPUのアクセスは，DMA転送サイクルが完了しCPUにバスが開放されるまで待たされます。 ただし，CPUはDMA転送を行っていない外部メモリ，内蔵周辺I/O，内蔵RAMとのアクセスが可能です。 ・外部メモリ⇔内蔵周辺I/Oとの間でDMA転送が行われているとき，CPUは内蔵RAMにアクセスできます。 ・外部メモリ⇔外部メモリでDMA転送が行われているときは，CPUは内蔵RAM，内蔵周辺I/Oにアクセスできます。	p.659 □
			DMA動作中の書き換え禁止レジスタ／ビット	次のレジスタの設定は，DMA動作中でない次のいずれかのタイミングで行ってください。 【対象レジスタ】 ・DSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCn, DADCnレジスタ ・DTFRn.IFCn5-IFCn0ビット 【設定可能タイミング】 ・リセット後から最初のDMA転送開始までの期間 ・チャネル初期化後からDMA転送開始までの時間 ・DMA転送完了後（TCnビット= 1の状態）から次のDMA転送開始までの期間	p.659 □
			DSAnHレジスタ DDAnHレジスタ DADCnレジスタ DCHCnレジスタ	次のレジスタの各ビットには，必ず“0”を設定してください。 ・DSAnHレジスタのビット14-10 ・DDAnHレジスタのビット14-10 ・DADCnレジスタのビット15, 13-8, 3-0 ・DCHCnレジスタのビット6-3	p.659 □
			DMAの起動要因	同じ起動要因で複数のDMAチャネルを起動しないでください。起動した場合，すでに設定済みのチャネルのDMAが起動されたり，優先順位の低いDMAチャネルが優先順位の高いDMAチャネルより先に受け付けられたりする場合があり，動作は保証できません。	p.659 □
			DSAn，DDAn レジスタの読み出し値	DMA転送中にDSAn, DDAnレジスタの値を読み出した場合，更新途中の値が読み出されることがあります。 たとえば，DMA転送元アドレス（DSAnレジスタ）が0000FFFFH，カウント方向がインクリメント（DADCn.SAD1, SAD0ビット= 00）の場合，DSAnHレジスタ→DSAnLレジスタの順に読み出しを行うと，DSAnHレジスタ読み出し直後のDMA転送の有無によって，DSAnLレジスタの値が次のように異なります。 (a) DSAnレジスタの読み出し中にDMA転送が発生しない場合 ① DSAnHレジスタの読み出し：DSAnH = 0000H ② DSAnLレジスタの読み出し：DSAnL = FFFFH (b) DSAnレジスタの読み出し中にDMA転送が発生する場合 ① DSAnHレジスタの読み出し：DSAnH = 0000H ② DMA転送の発生 ③ DSAnレジスタのインクリメント：DSAn = 00100000H ④ DSAnLレジスタの読み出し：DSAnL = 0000H	p.660 □
第19章	ソフト	割り込み／例外処理機能	ノンマスカブル割り込み	ノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2）によるノンマスカブル割り込み処理については19. 2. 2（2）INTWDT2信号の場合を参照してください。	p.666 □
				ノンマスカブル割り込み処理中にLDSR命令によりEP，NPビットを変更した場合には，RETI命令による復帰時にPCとPSWを正常にリストアするために，RETI命令の直前で，LDSR命令を使用してEPビット= 0かつNPビット = 1に戻しておく必要があります。	p.670 □
			マスカブル割り込み	マスカブル割り込み処理中にLDSR命令によりEP，NPビットを変更した場合は，RETI命令による復帰時にPCとPSWを正常にリストアするために，RETI命令の直前で，LDSR命令を使用してEPビット = 0かつNPビット = 0に戻しておく必要があります。	p.674 □
			多重割り込み	多重割り込みを行うときはEI命令を実行する前に，EIPC, EIPSWの内容を退避する必要があります。また，多重割り込みから復帰する際は，DI命令を実行したあとに，EIPC, EIPSWの内容を復帰してください。	p.676, 678 □

(25/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第19章	ソフト	割り込み／例外処理機能	割り込み制御レジスタ	xxICn.xxIFnビットを読み出す場合は，割り込み禁止（DI）状態または割り込みをマスクした状態で行ってください。割り込み許可（EI）状態または割り込みマスクを解除した状態でxxIFnビットを読み出すと，割り込みの受け付けとビットの読み出しのタイミングが競合した場合に，正常な値が読み出せないことがあります。	p.679 □
				割り込み要求信号が受け付けられるとハードウエアにより自動的にリセットされます。	p.679 □
			IMR0-IMR4レジスタ	デバイス・ファイルでは，xxICn.xxMKnビットを予約語として定義しています。したがって，xxMKnビットの名称でビット操作を行うと，IMRmレジスタではなくxxICnレジスタを書き換えます（結果としてIMRmレジスタも書き換わります）。	p.682 □
				IMR0-IMR4レジスタのビット8-15を8/1ビット単位でリード／ライトする場合は，IMR0H-IMR4Hレジスタのビット0-7として指定してください。	p.683 □
				IMR4レジスタのビット13-15，IMR3レジスタのビット7-14には1を設定してください。変更した場合の動作は保証できません。	p.683 □
			ISPRレジスタ	割り込み許可（EI）状態において，ISPRレジスタをリード中に割り込みを受け付けた場合，その割り込み受け付けによるビットがセット（1）されたあとのISPRレジスタ値がリードされることがあります。割り込み受け付け前のISPRレジスタの値を確実にリードしたい場合は，割り込み禁止（DI）状態でリードしてください。	p.684 □
			ソフトウエア例外処理からの復帰	ソフトウエア例外処理中にLDSR命令によりEP，NPビットを変更した場合には，RETI命令による復帰時にPCとPSWを正常にリストアするために，RETI命令の直前で，LDSR命令を使用してEPビット= 1かつNPビット= 0に戻しておく必要があります。	p.687 □
			不正命令コード	不正命令コードには，将来，新規に命令を割り当てる可能性があるため，使用しないことを推奨します。	p.689 □
			例外トラップからの復帰	DBPC，DBPSWには，不正命令コードを実行してからDBRET命令を実行するまでの期間だけアクセス可能です。	p.690 □
			デバッグ・トラップからの復帰	DBPCとDBPSWには，DBTRAP命令を実行してからDBRET命令を実行するまでの期間だけアクセス可能です。	p.692 □
			INTF0, INTR0レジスタ	外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に切り替える際，エッジ検出を行う可能性があるため，INTF0n，INTR0nビット= 00に設定したあとにポート・モードに設定してください。	p.694 □
				NMI, INTP0-INTP3端子として使用しない場合，必ずINTF0n, INTR0nビット= 00に設定してください。	p.694 □
			INTF3, INTR3レジスタ	外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に切り替える際，エッジ検出を行う可能性があるため，INTF31，INTR31ビット= 00に設定したあとにポート・モードに設定してください。	p.695 □
				INTP7端子とRXDA0端子は兼用となっています。RXDA0端子として使用する場合は兼用しているINTP7端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF3.INTF31ビット= 0，INTR3.INTR31ビット= 0に設定）。またINTP7端子として使用する場合はUARTA0を受信動作停止としてください（UA0CTL0.UA0RXEビット= 0）。	p.695 □
				INTP7端子として使用しない場合，必ずINTF31，INTR31ビット= 00に設定してください。	p.695 □
			INTF8, INTR8レジスタ	外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に切り替える際，エッジ検出を行う可能性があるため，INTF80, INTR80ビット= 00に設定したあとにポート・モードに設定してください。	p.696 □
				INTP8端子とRXDA3端子は兼用となっています。RXDA3端子として使用する場合は兼用しているINTP8端子のエッジ検出を無効にしてください（INTF8.INTF80ビット= 0，INTR8.INTR80ビット= 0に設定）。またINTP8端子として使用する場合はUARTA3を受信動作停止としてください（UA3CTL0.UA3RXEビット= 0）。	p.696 □
				INTP8端子として使用しない場合，必ずINTF80，INTR80ビット= 00に設定してください。	p.696 □
			INTF9H，INTR9Hレジスタ	外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に切り替える際，エッジ検出を行う可能性があるため，INTF9n, INTR9nビット= 0に設定したあとにポート・モードに設定してください。	p.697 □
				INTP4-INTP6端子として使用しない場合，必ずINTF9n，INTR9nビット= 00に設定してください。	p.697 □

(26/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第19章	ソフト	割り込み／例外処理機能	NFCレジスタ	サンプリング・クロック変更後，ディジタル・ノイズ除去回路が初期化されるのに，サンプリング・クロックx3クロックの時間かかります。そのため，サンプリング・クロックを変更してからサンプリング・クロックx3クロックの間に，INTP3の有効エッジが入力されると割り込み要求信号が発生する可能性があります。したがって，割り込み機能，DMA機能を使用する場合は，次の点を注意してください。 ・割り込み機能使用時は，サンプリング・クロックx3クロック経過後，割り込み要求フラグ（PIC3.PIF3ビット）をクリアしてから割り込みを許可してください。 ・DMA機能使用時（INTP3で起動）は，サンプリング・クロックx3クロック経過後，DMAを許可してください。	p.698 □
			NMI端子	NMI端子はP02と兼用しており，リセット後は通常ポートとして機能します。NMI端子を使用する場合には，PMC0レジスタでNMI端子を有効にしてください。また，NMI端子の初期設定は“エッジ検出なし”になっていますので，INTF0, INTR0レジスタで有効エッジを選択してください。	p.700 □
第20章	ソフト	キー割り込み機能	KRMレジスタ	KRMレジスタを書き換える場合は，一度00Hとしてから書き換えてください。	p.702 □
				KRMレジスタを変更すると，割り込み要求信号（INTKR）が発生する場合があります。したがって，あらかじめ割り込みを禁止（DI）またはマスクしてからKRMレジスタを変更し，割り込み要求フラグ（KRIC.KRIFビット）をクリア（0）してから，割り込みを許可（EI）またはマスク解除してください。	p.702 □
			KR0-KR7端子	KR0-KR7端子のうち1つでもロウ・レベルが入力されていると，別の端子の立ち下がりエッジを入力してもINTKR信号が発生しません。	p.702 □
			RXDA1端子 KR7端子	RXDA1端子とKR7端子は同時に使用することはできません。RXDA1端子を使用する場合は，KR7端子を使用しないでください。また，KR7端子を使用する場合は，RXDA1端子を使用しないでください（PFC91ビット= 1, PFCE91ビット= 0に設定することを推奨します）。	p.702 □
			キー割り込み機能の使用時	キー割り込み機能を使用する場合は，必ずポート端子をキー・リターン用端子に設定してからKRMレジスタで動作を許可してください。また，逆にキー・リターン用端子からポート端子に切り替える場合は，KRMレジスタで動作を禁止してからポート端子の設定を行ってください。	p.702 □
第21章	ソフト	スタンバイ機能	PSCレジスタ	IDLE1, IDLE2, STOP，サブIDLEモードに設定するときは，PSMR.PSM1, PSM0ビットを設定してから，STPビットを設定してください。	p.705 □
				NMI1M, NMI0M, INTMビットの設定は，HALTモード解除時は無効です。	p.705 □
				NMI1M, NMI0M, INTMビットと，STPビットを同時にセット（1）した場合，NMI1M,NMI0M, INTMビットの設定は無効になります。したがって，IDLE1/IDLE2/STOPモードに移行する際にマスクされていない保留中の割り込み要求信号がある場合は，その割り込み要求信号に対するビット（NMI1M, NMI0M, INTM）をセット（1）したあとにSTPビットをセット（1）してください。	p.705 □
			PSMRレジスタ	ビット2-7には，必ず0を設定してください。	p.706 □
				PSM0, PSM1ビットは，PSC.STPビット= 1のときのみ有効です。	p.706 □
			OSTSレジスタ	STOPモード解除時のウエイト時間は，リセットによる場合も，割り込み要求信号発生による場合も，STOPモード解除後クロック発振を開始するまでの時間は含みません。	p.707 □
				ビット7-3には必ず“0”を設定してください。	p.707 □
				リセット解除後の発振安定時間は，$2^{16}/f_X$（OSTSレジスタの初期値 = 06Hのため）となります。	p.707 □
			HALTモード	HALT命令の後には，NOP命令を5命令以上挿入してください。	p.708 □
				マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でHALT命令を実行した場合，HALTモードに移行するが，保留されている割り込み要求によりHALTモードはすぐに解除されます。	p.708 □
			IDLE1モード	IDLE1モードに設定するためのPSCレジスタに対するストア命令のあとには，NOP命令を5命令以上挿入してください。	p.710 □
				マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でIDLE1モードに設定した場合，保留されている割り込み要求によりIDLE1モードはすぐに解除されます。	p.710 □
			IDLE1モード解除	PSC.NMI1M, NMI0M, INTMビットで1に設定（割り込み禁止）されている割り込み要求信号は無効になり，IDLE1モードは解除されません。	p.710 □

(27/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第21章	ソフト	スタンバイ機能	IDLE2モード	IDLE2モードに設定するためのPSCレジスタに対するストア命令のあとには，NOP命令を5命令以上挿入してください。	p.712 □
				マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でIDLE2モードに設定した場合，保留されている割り込み要求によりIDLE2モードはすぐに解除されます。	p.712 □
			IDLE2モード解除	PSC.NMI1M, NMI0M, INTMビットで1に設定（割り込み禁止）されている割り込み要求信号は無効になり，IDLE2モードは解除されません。	p.712 □
			STOPモード	STOPモードに設定するためのPSCレジスタに対するストア命令のあとには，NOP命令を5命令以上挿入してください。	p.715 □
				マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でSTOPモードに設定した場合，保留されている割り込み要求によりSTOPモードはすぐに解除されます。	p.715 □
			STOPモード解除	PSC.NMI1M, NMI0M, INTMビットで1に設定（割り込み禁止）されている割り込み要求は無効になり，STOPモードは解除されません。	p.715 □
			サブクロック動作モード	CK3ビットを操作する場合，PCC.CK2-CK0ビットの設定値の変更は禁止です（ビット操作命令を推奨）。PCCレジスタの詳細は，6. 3（1）プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ（PCC）を参照してください。	p.719 □
				次の条件を満たしていない場合は，条件を満たすようにCK2-CK0ビットを変更後，サブクロック動作モードに移行してください。 内部システム・クロック（f_{CLK}）＞サブクロック（f_{XT} = 32.768 kHz）×4	p.719 □
			サブクロック動作モードの解除	CK3ビットを操作する場合，CK2-CK0ビットの設定値の変更は禁止です（ビット操作命令を推奨）。PCCレジスタの詳細は，6. 3（1）プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ（PCC）を参照してください。	p.719 □
				メイン・クロックを停止するときは，必ずPLL停止（PLLCTL.PLLONビット= 0）に設定してください。	p.720 □
				CPUがサブクロックで動作し，かつメイン発振を停止している場合，ウエイトが発生するレジスタへのアクセスは禁止です。ウエイトが発生した場合，解除する方法はリセットのみです（3. 4. 8（2）参照）。	p.720 □
			サブIDLEモード	サブIDLEモードに設定するためのPSCレジスタに対するストア命令のあとには，NOP命令を5命令以上挿入してください。	p.721 □
				マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でサブIDLEモードに設定した場合，保留されている割り込み要求によりサブIDLEモードはすぐに解除されます。	p.721 □
			サブIDLEモードの解除	PSC.NMI1M, NMI0M, INTMビットで1に設定（割り込み禁止）されている割り込み要求信号は無効になり，サブIDLEモードは解除されません。	p.721 □
				サブIDLEモードからの復帰時は，割り込み要求信号による解除要因が発生してから解除されるまでに，サブクロックの12周期分の時間（約366 μs）が挿入されます。	p.721 □
			サブIDLEモード時の動作状態	メイン・クロックを停止するときは，必ずPLL停止（PLLCTL.PLLONビット= 0）に設定してください。	p.722 □
				低消費電力を実現するためには，サブIDLEモードに遷移する前にA/Dコンバータ，D/Aコンバータを停止してください。	p.722 □
第22章	ソフト	リセット機能	緊急動作モード	緊急動作モード時は，内蔵発振クロックで動作が可能な“割り込み機能，ポート機能，WDT2，タイマM”用レジスタ以外の内蔵周辺I/Oレジスタにアクセスしないでください。また，外部クロック入力を使用したCSIB0-CSIB5，UARTA0の動作も禁止します。	p.723 □
			リセット機能	LVI回路の内部リセットの場合，LVI回路はリセットされません。	p.723 □
			RESFレジスタ	各ビットへの書き込みは“0”ライトのみ可能で，“0”ライト書き込みとフラグ・セット（リセットの発生）が競合した場合，フラグ・セットが優先されます。	p.724 □
	ハード		$\overline{\text{RESET}}$端子入力時の各ハードウエアの状態	次に示す端子は，電源投入時にはリセット中でも一時的に不定レベルを出力する可能性があります。 ・P53/SIB2/KR3/TIQ00/TOQ00/RTP03/DDO端子	p.725 □
	ハード・ソフト			OCDMレジスタは$\overline{\text{RESET}}$端子入力によって初期化されます。そのため，リセット解除後，再度OCDM.OCDM0ビットをクリアするまでの間にP05/$\overline{\text{DRST}}$端子にハイ・レベルが入力されると，オンチップ・デバッグ・モードに入るため注意してください。詳細は，第4章ポート機能を参照してください。	p.725 □
第23章	ソフト	クロック・モニタ	CLMレジスタ	一度CLMEビット= 1に設定した場合，リセット以外ではクリア（0）できません。	p.734 □
				クロック・モニタによるリセットが発生した場合，CLMEビットはクリア（0）され，RESF.CLMRFビットがセット（1）されます。	p.734 □

(28/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第23章	ソフト	クロック・モニタ	内蔵発振器	RCM.RSTOPビットをセット（1）することで内蔵発振器を停止できます。	p.735 □
				内蔵発振器が停止している場合，クロック・モニタは停止します。	p.735 □
				CPUが内蔵発振クロックで動作している場合，内蔵発振器をソフトウエアで停止することはできません。	p.735 □
第24章	ソフト	低電圧検出回路（LVI）	LVIMレジスタ	LVIONビット= 1かつLVIMDビット= 1に設定した場合，低電圧検出によるリセット以外のリセット要求が発生するまで低電圧検出回路を停止できません。	p.739 □
				LVIONビットをセット（1）すると，LVI回路内のコンパレータの動作が開始します。LVIONビットをセットしてからLVIFビットで電圧を確認するまでに，ソフトウエアで0.2 ms以上ウエイトしてください。	p.739 □
				ビット6-2には必ず0を設定してください。	p.739 □
			LVISレジスタ	LVIM.LVIONビット= 1かつLVIM.LVIMDビット= 1に設定したあと，低電圧検出によるリセット以外のリセット要求が発生するまで，このレジスタへの書き込みは行えません。	p.740 □
				ビット7-1には必ず0を設定してください。	p.740 □
			内部リセット信号として使用する場合	LVIMDビット= 1に設定した場合，LVI以外のリセット要求が発生するまで，LVIM, LVISレジスタの変更はできません。	p.741 □
			割り込みとして使用する場合	INTLVI信号発生時は，その割り込みが検出電圧を下回ったことにより発生したか，上回ったことにより発生したかをLVIM.LVIFビットで確認してください。	p.742 □
			PEMU1レジスタ	EVARAMINビットは，自動的にクリアされません。	p.744 □
第25章	ソフト	CRC機能	CRCDレジスタ	次に示す状態において，CRCDレジスタへのアクセスは禁止です。詳細は3. 4. 8（2）特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについてを参照してください。 ・CPUがサブクロックで動作し，かつメイン・クロック発振を停止している場合 ・CPUが内蔵発振クロックで動作している場合	p.746 □
第26章	ハード	レギュレータ	レギュレータ	V_{DD} = EV_{DD} = AV_{REF0} = AV_{REF1}で使用してください。	p.750 □
第27章	ハード	フラッシュ・メモリ	FLMD1端子	FLMD1端子は，フラッシュ・ライタと接続するか，ボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。	p.759-761 □
			PG-FP4	図27－6のように配線するか，もしくはボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。	p.761 □
				フラッシュ・ライタのCLK端子からのクロック供給はできません。ボード上に発振回路を作成してクロックを供給してください。	p.761 □
			FA-144GJ-UEN-A	REGC端子は，必ず4.7 μF（推奨値）のコンデンサを介してGNDに接続してください。	p.762, 763 □
				フラッシュ・ライタのCLK端子からのクロック供給はできません。 ボード上に発振回路を作成してクロックを供給してください。	p.762, 763 □
				FLMD1端子は図のように配線するか，もしくはボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。	p.765 □
				フラッシュ書き込みアダプタ上（破線部）に発振回路を作成してクロックを供給してください。	p.765 □
				$\overline{DRST}$端子には，ハイ・レベルを入力しないでください。	p.765 □
			通信方式の選択	UART0選択時，受信クロックは，FLMD0パルス受信後に専用フラッシュ・ライタから送られてくるリセット・コマンドを基準に計算します。	p.767 □
			FLMD1端子処理	オンボード書き込み時，リセット直後に他のデバイスからFLMD1端子にV_{DD}の信号が入力される場合，この信号をアイソレートしてください。	p.769 □
			FLMD0端子処理	リセット解除には，必ずFLMD0端子を0 Vにしてください。	p.776 □
第28章	ハード・ソフト	オンチップ・デバッグ機能	OCDMレジスタ	外部リセット後，DDI, DDO, DCK, DMS端子をオンチップ・デバッグ用端子として使用せず，ポートとして使用する場合は，次のいずれかの処置が必要です。 ・P05/INTP2/$\overline{DRST}$端子にロウ・レベルを入力します。 ・OCDM0ビットを設定します。この場合の処置は次のとおりです。 ① OCDM0ビットをクリア（0）します。 ② ①の処理を終えるまで，P05/INTP2/$\overline{DRST}$端子入力をロウ・レベル固定にしておきます。	p.783 □
				$\overline{DRST}$端子はプルダウン抵抗を内蔵しています。OCDM0フラグを“0”に設定すると切断されます。	p.783 □

(29/31)

章	分類	機 能	機能の詳細	注意事項	ページ
第28章	ソフト	オンチップ・デバッグ機能	注意事項（DUC使用時）	RUN中（プログラム実行中）にリセット入力（ターゲット・システムからのリセット入力や内部リセット要因によるリセット）があった場合，ブレーク機能が誤動作することがあります。	p.785 □
				リセットをマスク機能でマスクしていても，端子からのリセットが入力された際に入出力バッファ（ポート端子）がリセット状態になる場合があります。	p.785 □
				ブレーク中の端子リセットはマスクされ，CPUや周辺I/Oはリセットされません。また，ユーザ・プログラム実行中に，DMAで書き換える瞬間やRAMモニタ機能で読み出す瞬間に，端子リセットや内部リセットが発生した場合，CPUや周辺I/Oが正しくリセットされない場合があります。	p.785 □
	ハード			オンチップ・デバッグ・モード時，DDO端子は強制的にハイ・レベル出力に設定されます。	p.785 □
			注意事項（DUC使用時以外）	デバッグに使用したデバイスを，量産製品に搭載しないでください（デバッグ中にフラッシュ・メモリの書き換えをしており，フラッシュ・メモリの書き換え回数を保証することができないためです）。また，デバッグ用モニタ・プログラムは量産製品には組み込まないでください。	p.795 □
	ソフト			次の状態が継続している場合は，強制ブレークすることができません。 ・割り込み禁止中（DI）の場合 ・MINICUBE2と対象デバイスの通信に使用するシリアル・インタフェースの割り込みがマスクされている場合 ・マスカブル割り込みによるスタンバイ解除を禁止している状態で，スタンバイ・モードに入っている場合 ・MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがUARTA0の場合に，メイン・クロックを停止している場合	p.795 □
				次の状態の場合，疑似RRM機能，DMM機能が動作しません。 ・割り込み禁止中（DI）の場合 ・MINICUBE2と対象デバイスの通信に使用するシリアル・インタフェースの割り込みがマスクされている場合 ・マスカブル割り込みによるスタンバイ解除を禁止している状態で，スタンバイ・モードに入っている場合 ・MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがUARTA0の場合に，メイン・クロックを停止している場合 ・MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがUARTA0の場合に，デバッガで指定する動作クロックと異なるクロックで動作している場合	p.795 □
				次の状態の場合，疑似RRM機能，DMM機能によりスタンバイ・モードが解除されます。 ・MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがCSIB0, CSIB3の場合 ・MINICUBE2と対象デバイスの通信インタフェースがUARTA0の場合に，メイン・クロックが停止していない場合	p.795 □
				特定シーケンスを必要とする周辺I/Oレジスタは，DMM機能により書き換えることができません。	p.795 □
				デバッグ用モニタ・プログラムが配置された空間を，フラッシュ・セルフ・プログラミングで書き換えた場合，デバッガが正常に動作しなくなります。	p.795 □
			セキュリティID	フラッシュ・メモリのデータは消去状態では，すべて“1”となります。	p.796 □
第29章	ハード	電気的特性	絶対最大定格	それぞれの電源電圧の絶対最大定格（MAX.値）を越えないようにしてください。	p.799 □
				IC製品の出力（または入出力）端子同士を直結したり，V_{DD}またはV_{CC}やGNDに直結したりしないでください。ただし，オープン・ドレーン端子やオープン・コレクタ端子同士は直結できます。また，ハイ・インピーダンスとなる端子で出力の衝突を避けるタイミング設計をした外部回路でも直結可能です。	p.800 □
				各項目のうち1項目でも，また一瞬でも絶対最大定格を越えると，製品の品質を損なう恐れがあります。 つまり絶対最大定格とは，製品に物理的な損傷を与えかねない定格値です。できるだけこの定格値に近づけない状態で，製品をご使用ください。 DC特性とAC特性に示す規格や条件が，製品の正常動作，品質保証の範囲です。	p.800 □

(30/31)

章	分類	機能	機能の詳細	注意事項	ページ
第29章	ハード	電気的特性	メイン・クロック発振回路特性	発振周波数はあくまで発振回路の特性を示すものであり，内部動作条件については，AC特性，DC特性の規格内で使用してください。	p.802 □
				フラッシュ・メモリのセットアップに必要な時間です。OSTSレジスタによって確実にセットアップ時間を確保してください。	p.802 □
				メイン・クロック発振回路を使用する場合は，配線容量などの影響を避けるために，図中の破線の部分を次のように配線してください。 ・配線は極力短くする。 ・他の信号線と交差させない。 ・変化する大電流が流れる線に接近させない。 ・発振回路のコンデンサの接地点は，常にV_{SS}と同電位になるようにする。 ・大電流が流れるグランド・パターンに接地しない。 ・発振回路から信号を取り出さない。	p.802 □
	ソフト			メイン・クロックを停止させサブクロックで動作させているときに，再度メイン・クロックに切り替える場合には，プログラムで発振安定時間を確保したあとに切り替えてください。	p.802 □
	ハード			発振子の選択および発振回路定数については，お客様において発振評価していただくか，発振子メーカに評価を依頼してください。	p.802 □
				発振周波数はあくまで発振回路の特性を示すものであり，内部動作条件については，AC特性，DC特性の規格内で使用してください。	p.803 □
				サブクロック発振回路を使用する場合は，配線容量などの影響を避けるために，図中の破線の部分を次のように配線してください。 ・配線は極力短くする。 ・他の信号線と交差させない。 ・変化する大電流が流れる線に接近させない。 ・発振回路のコンデンサの接地点は，常にV_{SS}と同電位になるようにする。 ・大電流が流れるグランド・パターンに接地しない。 ・発振回路から信号を取り出さない。	p.803 □
				サブクロック発振回路は，低消費電力にするため増幅度の低い回路になっており，ノイズによる誤動作がメイン・クロックよりも起こりやすくなっています。したがって，サブクロックを使用する場合は，配線方法について特に注意してください。	p.804 □
				発振子の選択および発振回路定数については，お客様において発振評価していただくか，発振子メーカに評価を依頼してください。	p.804 □
			データ保持特性	STOPモードへの移行，およびSTOPモードからの復帰は，動作範囲内で行ってください。	p.809 □
			AC特性	回路構成により負荷容量が50 pFを越える場合は，バッファを入れるなどして，このデバイスの負荷容量を50 pF以下にしてください。	p.810 □
	ソフト		バス・タイミング（マルチプレクス・バス・モード）	f_{XX}＞20 MHzで動作させる場合，必ずアドレス・ホールド・ウエイトとアドレス・セットアップ・ウエイトを挿入してください。	p.812 □
			バス・タイミング（セパレート・バス・モード）	f_{XX}＞20 MHzで動作させる場合，必ずアドレス・ホールド・ウエイトとアドレス・セットアップ・ウエイトとデータ・ウエイトを挿入してください。	p.817 □
			I^2Cバス・モード	スタート・コンディション時に，最初のクロック・パルスは，ホールド時間のあとに生成されます。	p.828 □
				装置は，SCL0nの立ち下がり端の未定義領域を埋めるために（SCL0n信号のVIHmin.での）SDA0n信号用に最低300 nsのホールド時間を内部的に提供する必要があります。	p.828 □
				装置がSCL0n信号のロウ・ホールド時間（t_{LOW}）を延長しない場合は，最大データ・ホールド時間（$t_{HD:DAT}$）のみ満たすことが必要です。	p.828 □
				高速モードI^2Cバスは，標準モードI^2Cバス・システム内で利用できます。この場合，次の条件を満たすようにしてください。 ・装置がSCL0n信号のロウ状態ホールド時間を延長しない場合 $t_{SU:DAT}$≧250 ns ・装置がSCL0n信号のロウ状態ホールド時間を延長する場合 SCL0nラインが解放される（$t_{Rmax.}$＋$t_{SU:DAT}$ = 1000＋250 = 1250 ns：標準モードI^2Cバス仕様）前に，次のデータ・ビットをSDA0nラインに送出してください。	p.828 □

（31/31）

章	分類	機　能	機能の詳細	注意事項	ページ
第29章	ソフト	電気的特性	A/Dコンバータ	A/D変換中に兼用ポートの設定（リード／ライト）を行わないでください。変換分解能が低下することがあります。	p.829 □
付録A	ソフト	開発ツール	RX850, RX850 Pro	RX850, RX850 Proを購入する際，事前に購入申込書にご記入のうえ，使用許諾契約書を締結してください。	p.844 □
付録D	ソフト	命令セット一覧	インストラクション・セット	汎用レジスタreg1と汎用レジスタreg3に，同じレジスタを指定しないでください。	p.867 □

改版履歴

本版で改訂された主な箇所

箇　所	内　　容
p.286	7.5.7　パルス幅測定モード（TPnMD2-TPnMD0ビット = 110）　記述一部削除
p.388	8.5.7　パルス幅測定モード（TQ0MD2-TQ0MD0ビット = 110）　記述一部削除
p.404	9.4.2　注意事項　記述一部削除
p.495	15.6.10　受信データのノイズ・フィルタ　記述変更
p.495	図15－15 ノイズとして判断されるRXDAn信号のタイミング　変更
p.832	第29章　電気的特性　フラッシュ・メモリ・プログラミング特性（1）基本特性　変更
p.833	第29章　電気的特性　フラッシュ・メモリ・プログラミング特性（3）プログラミング特性 注意削除。備考追加。

前版までの改版履歴

前版までの改版履歴を次に示します。なお，適用箇所は各版での章を示します。

(1/2)

版　数	内　　容	適応箇所
第2版	次の製品を追加 μPD70F3743, 70F3744	全般
	3. 4. 4（1）（a）内蔵ROM（384 Kバイト）追加	第3章　CPU機能
	3. 4. 4（1）（b）内蔵ROM（512 Kバイト）追加	
	3. 4. 4（2）（a）内蔵RAM（32 Kバイト）追加	
	3. 4. 4（2）（b）内蔵RAM（40 Kバイト）追加	
	図4－8　タイプD－2のブロック図　変更	第4章　ポート機能
	図4－11　タイプE－2のブロック図　変更	
	図4－12　タイプE－3のブロック図　変更	
	図4－13　タイプG－1のブロック図　変更	
	図4－14　タイプG－2のブロック図　変更	
	図4－15　タイプG－3のブロック図　変更	
	図4－16　タイプG－5のブロック図　変更	
	図4－17　タイプG－6のブロック図　変更	
	図4－18　タイプG－12のブロック図　変更	
	図4－20　タイプL－2のブロック図　変更	
	図4－22　タイプN－2のブロック図　変更	
	図4－24　タイプU－1のブロック図　変更	
	図4－25　タイプU－5のブロック図　変更	
	図4－26　タイプU－6のブロック図　変更	
	図4－27　タイプU－7のブロック図　変更	
	図4－28　タイプU－8のブロック図　変更	
	図4－29　タイプU－9のブロック図　変更	
	図4－30　タイプU－10のブロック図　変更	
	図4－31　タイプU－11のブロック図　変更	
	図4－32　タイプU－12のブロック図　変更	
	図4－33　タイプU－13のブロック図　変更	
	図4－34　タイプU－14のブロック図　変更	
	図4－35　タイプU－15のブロック図　変更	
	図4－36　タイプAA－1のブロック図　変更	
	15. 3（5）UARTAn状態レジスタ（UAnSTR）　記述変更	第15章　アシンクロナス・シリアル・インタフェースA（UARTA）
	27. 1　特　　徴　記述変更	第27章　フラッシュ・メモリ
	図27－1　フラッシュ・メモリ・マッピング　変更	
	図28－4　デバッグ用モニタ・プログラムが配置されるメモリ空間　変更	第28章　オンチップ・デバッグ機能
	表B－1　V850ES/JJ3とV850ES/JJ2との主な違い　変更	付録B　V850ES/JJ3とV850ES/JJ2とのおもな違い
	付録F　改版履歴　追加	付録F　改版履歴

版　数	内　　容	適応箇所
第3版	・開発中→量産 μPD70F3743GJ-GAE-AX, 70F3744GJ-GAE-AX, 70F3745GJ-GAE-AX, 70F3746GJ-GAE-AX,	全般
	図7－18　外部トリガ・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容　変更	第7章　16ビット・タイマ／イベント・カウンタP（TMP）
	図7－22　ワンショット・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容　変更	
	図7－36　パルス幅測定モード動作時のレジスタ設定内容　変更	
	図8－18　外部トリガ・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容　変更	第8章　16ビット・タイマ／イベント・カウンタQ（TMQ）
	図8－22　ワンショット・パルス出力モード動作時のレジスタ設定内容　変更	
	図8－36　パルス幅測定モード動作時のレジスタ設定内容　変更	
	表13－2　通常変換モード時の選択時間の選択（ADA0HS1ビット = 0）　変更	第13章　A/Dコンバータ
	表13－3　高速変換モード時の選択時間の選択（ADA0HS0ビット = 0）　変更	
	図13－3　変換動作タイミング（連続変換）　変更	
	図15－4　アシンクロナス・シリアル・インタフェースAnのブロック図　変更	第15章　アシンクロナス・シリアル・インタフェースA（UARTA）
	18. 13 (4) (a) 一時的にすべてのDMAチャネルの転送を停止させる方法　変更	第18章　DMA機能（DMAコントローラ）
	18. 13（8）CPUへのバス・アービトレーション　変更	
	表27－2　基本仕様一覧　変更	第27章　フラッシュ・メモリ
	表27－3　セキュリティ機能一覧　変更	
	表27－4　セキュリティ設定　変更	
	図27－7　フラッシュ･メモリの操作手順　変更	
	表27－7　フラッシュ･メモリ制御用コマンド　変更	
	図27－17　標準セルフ・プログラミング・フロー　変更	
	表27－10　フラッシュ関数一覧　変更	
	表27－11　使用する内部資源　変更	
	(i) 京セラキンセキ株式会社：水晶振動子（T_A = －10～＋70 ℃）　追加	第29章　電気的特性
	(ii) 株式会社村田製作所：セラミック発振子（T_A = －20～＋80 ℃）　追加	
	第31章　半田付け推奨条件　追加	第31章　半田付け推奨条件

V850ES/JJ3　ユーザーズマニュアル
ハードウエア編

発行年月日　　2010 年 7 月 23 日　Rev.4.00

発行　　ルネサス エレクトロニクス株式会社
　　〒211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部 1753

ルネサス エレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

http://www.renesas.com

※営業お問合せ窓口の住所・電話番号は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス販売株式会社　〒100-0004　千代田区大手町2-6-2（日本ビル）　(03)5201-5307

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。
総合お問合せ窓口：http://japan.renesas.com/inquiry

© 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.
Colophon 1.0

V850ES/JJ3

RENESAS

ルネサス エレクトロニクス株式会社

R01UH0016JJ0400